洗足学園音楽大学

音楽学部
音楽専攻科
2018年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
DTV演習[月3]Aクラス	永岡　宏昭	1
DTV演習[火4]Bクラス	前田　康徳	4
DTV演習[水5]Cクラス	冨永　憲治	7
DTV演習[金4]Dクラス	舘田　ゆり	10
DTP演習[月4]Aクラス	永岡　宏昭	13
DTP演習[火3]Bクラス	冨永　憲治	16
DTP演習[水4]Cクラス	冨永　憲治	19
DTP演習[金3]Dクラス	舘田　ゆり	22
日本伝統芸能研究１～４[木5]	花柳　輔瑞佳	25
日本の伝統的歌唱（民謡）（集）1,2限　Aクラス	柿﨑　竹美	28
日本の伝統的歌唱（民謡）（集）3,4限　Bクラス	柿﨑　竹美	31
日本の伝統的歌唱（謡曲）（集）1,2限　Aクラス	鵜澤　光	34
日本の伝統的歌唱（謡曲）（集）3,4限　Bクラス	鵜澤　光	37
日本の伝統的歌唱（長唄）（集）1,2限　Aクラス	今藤　政貴	40
日本の伝統的歌唱（長唄）（集）3,4限　Bクラス	今藤　政貴	43
吹奏楽演奏理論１～４[木3]	伊藤　康英	46
邦楽サウンド論１[土3]	山口　賢治	49
邦楽サウンド論２[土3]	山口　賢治	52
声楽（教職）[火1]クラシック（辻志朗先生）クラス	辻　志朗	55
声楽（教職）[火1]ポピュラー（江原陽子先生）クラス	江原　陽子	58
学内リサイタル講座[金3]	渡部　亨	61
即興演奏講座（初級）[金3]Aクラス	平野　公崇	64
即興演奏講座（初級）[金4]Bクラス	平野　公崇	67
即興演奏講座（初級）[金5]Cクラス	平野　公崇	70
即興演奏講座（中級）[金3]Aクラス	平野　公崇	73
即興演奏講座（中級）[金4]Bクラス	平野　公崇	76
即興演奏講座（中級）[金5]Cクラス	平野　公崇	79
作曲法・編曲法I（前）[金2]P1クラス	大江　千佳子	82
作曲法・編曲法I（前）[金2]P2クラス	木下　淳雄	85
作曲法・編曲法I（前）[金2]P3クラス	齋藤　圭子	88
作曲法・編曲法I（前）[金2]P4クラス	佐藤　昌弘	91
作曲法・編曲法I（前）[金2]P5クラス	清水　昭夫	94
作曲法・編曲法I（前）[金2]P6クラス	増田　達斗	97
作曲法・編曲法I（後）[金2]Q1クラス	齋藤　圭子	100
作曲法・編曲法I（後）[金2]Q2クラス	増田　達斗	103
作曲法・編曲法II（後）[金2]Aクラス	大江　千佳子	106
作曲法・編曲法II（後）[金2]Bクラス	木下　淳雄	109
作曲法・編曲法II（後）[金2]Cクラス	佐藤　昌弘	112

作曲法・編曲法Ⅱ(後)[金2]Dクラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	115
音楽分析基礎講座(前)[月2]Aクラス	秋本　康子	・・・・・・・・	118
音楽分析基礎講座(前)[月2]Bクラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	121
音楽分析基礎講座(前)[月2]Cクラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	124
音楽分析基礎講座(前)[月2]Dクラス	川崎　真由子	・・・・・・・・	127
音楽分析基礎講座(前)[月2]Eクラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	130
音楽分析基礎講座(前)[月2]Fクラス	小林　弘人	・・・・・・・・	133
音楽分析基礎講座(前)[月2]Gクラス	篠原　真	・・・・・・・・	136
音楽分析基礎講座(前)[月2]Hクラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	139
音楽分析基礎講座(後)[水3](AS専用)	相馬　健太	・・・・・・・・	142
音楽分析基礎講座(前)[月2]Kクラス	生野　裕久	・・・・・・・・	145
音楽分析基礎講座(前)[月2]Mクラス	二宮　玲子	・・・・・・・・	148
音楽分析基礎講座(前)[月2]Nクラス	井上　渚	・・・・・・・・	151
音楽分析基礎講座(前)[月2]Rクラス	原田　愛	・・・・・・・・	154
音楽分析基礎講座(前)[月2]Sクラス	久行　敏彦	・・・・・・・・	157
音楽分析基礎講座(前)[月2]Tクラス	松浦　真沙	・・・・・・・・	160
音楽分析基礎講座(前)[月2]Uクラス	松下　倫士	・・・・・・・・	163
音楽分析基礎講座(前)[月2]Vクラス	松本　望	・・・・・・・・	166
音楽分析基礎講座(後)[水3](BL専用)	古澤　壮樹	・・・・・・・・	169
音楽分析基礎講座(後)[水3](DC専用)	瀬田　創太	・・・・・・・・	172
対位法[金3]Bクラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	175
対位法[金3]Cクラス	川崎　真由子	・・・・・・・・	178
対位法[金3]Dクラス	久行　敏彦	・・・・・・・・	181
ポリフォニー研究[金3]	大江　千佳子	・・・・・・・・	184
フォルマシオン・ミュジカル[水1]	照屋　正樹	・・・・・・・・	187
キーボードハーモニー[木3]Aクラス	秋本　康子	・・・・・・・・	190
キーボードハーモニー[木3]Bクラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	193
教職伴奏法(前)[火1]P1クラス	谷川　マユコ	・・・・・・・・	196
教職伴奏法(前)[火1]P2クラス	谷川　明	・・・・・・・・	199
教職伴奏法(前)[火3]P3クラス	皆川　純一	・・・・・・・・	202
教職伴奏法(前)[火3]P4クラス	小松　祥子	・・・・・・・・	205
教職伴奏法(後)[火1]Q1クラス	谷川　マユコ	・・・・・・・・	208
教職伴奏法(後)[火1]Q2クラス	谷川　明	・・・・・・・・	211
教職伴奏法(後)[火3]Q3クラス	皆川　純一	・・・・・・・・	214
教職伴奏法(後)[火3]Q4クラス	小松　祥子	・・・・・・・・	217
合奏実習(前)[木2]Aクラス	柿原　順子	・・・・・・・・	220
合奏実習(後)[木2]Bクラス	柿原　順子	・・・・・・・・	223
合奏実習(前)[木4]Cクラス	柿原　順子	・・・・・・・・	226
スコアリーディング[木3]	森　佳子	・・・・・・・・	229

スコアリーディング［木3］	原田　愛	・・・・・・・・	232
指揮法I（前）［金1］P1クラス	松元　宏康	・・・・・・・・	235
指揮法I（前）［金1］P2クラス	川本　統脩	・・・・・・・・	238
指揮法I（前）［金2］P3クラス	松元　宏康	・・・・・・・・	241
指揮法I（前）［金2］P4クラス	川本　統脩	・・・・・・・・	244
指揮法I（後）［金1］Q1クラス	松元　宏康	・・・・・・・・	247
指揮法I（後）［金1］Q2クラス	担当教員	・・・・・・・・	250
指揮法I（後）［金2］Q3クラス	川本　統脩	・・・・・・・・	253
ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1-1/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1（前）［金2］	スティーブ　サックス	・・・・・・・・	256
ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1-2/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語2（後）［金2］	スティーブ　サックス	・・・・・・・・	259
浄書と音源の制作［月5］	清水　昭夫	・・・・・・・・	262
対位法研究I［金4］	清水　昭夫	・・・・・・・・	265
歌曲作曲研究I（前）［木4］	馬場　由香	・・・・・・・・	268
歌曲作曲研究II（後）［木4］	馬場　由香	・・・・・・・・	271
合唱曲作曲研究（前）［木4］	増井　哲太郎	・・・・・・・・	274
音階研究（後）［木4］	久行　敏彦	・・・・・・・・	277
DAW演習I［月5］Aクラス	和田　洋平	・・・・・・・・	280
DAW演習I［水5］Bクラス	仲井　朋子	・・・・・・・・	283
DAW演習I［木4］Cクラス	森　威功	・・・・・・・・	286
DAW演習I［金5］Dクラス	相馬　健太	・・・・・・・・	289
DAW演習I［火5］Eクラス	前田　康徳	・・・・・・・・	292
DAW演習II［水4］Aクラス	三上　直子	・・・・・・・・	295
DAW演習II［火4］Bクラス	古澤　壮樹	・・・・・・・・	298
DAW演習II［月4］Cクラス	久木山　直	・・・・・・・・	301
Pro　Tools　入門／Pro　Tools　演習［火5］	永岡　宏昭	・・・・・・・・	304
リズムセクション・ライティング［月4］Aクラス	和田　洋平	・・・・・・・・	307
リズムセクション・ライティング［水4］Bクラス	菅原　サトル	・・・・・・・・	310
リズムセクション・ライティング［木3］Cクラス	永岡　宏昭	・・・・・・・・	313
リズムセクション・ライティング［金4］Dクラス	郡司　崇	・・・・・・・・	316
リズムセクション・ライティング［火4］Eクラス	和田　洋平	・・・・・・・・	319
ストリングス＆ブラスセクション・ライティング［木3］Bクラス	菅原　サトル	・・・・・・・・	322
ストリングス＆ブラスセクション・ライティング［火3］Cクラス	奥　慶一	・・・・・・・・	325
オーケストラ・ライティング［月3］	山下　康介	・・・・・・・・	328
映像実習／WEBデザイン実習［金5］	舘田　ゆり	・・・・・・・・	331
Max／MSP演習［火3］	仲井　朋子	・・・・・・・・	334
コンピュータ音楽表現［月4］	森　威功	・・・・・・・・	337
作編曲入門（前）［火3］	前田　康徳	・・・・・・・・	340
アドバンスト・アレンジングテクニックA［火3］	奥　慶一	・・・・・・・・	343
アドバンスト・アレンジングテクニックB［木3］	菅原　サトル	・・・・・・・・	346

テクノパフォーマンス研究2[金5]	前田　康徳	・・・・・・・・	349
テクノパフォーマンス研究3[金5]	前田　康徳	・・・・・・・・	352
テクノパフォーマンス研究4[金5]	前田　康徳	・・・・・・・・	355
DAW演習IIA[水4]	三上　直子	・・・・・・・・	358
DAW演習IIB[火4]	古澤　壮樹	・・・・・・・・	361
DAW演習IIC[月4]	久木山　直	・・・・・・・・	364
音楽プログラミング入門[木3]	森　威功	・・・・・・・・	367
器楽曲伴奏法I-1(前)[水4]Aクラス	山本　佳世子	・・・・・・・・	370
器楽曲伴奏法I-1(前)[水4]Bクラス	長谷　正一	・・・・・・・・	373
器楽曲伴奏法I-1(前)[水4]Cクラス	吉永　恵	・・・・・・・・	376
器楽曲伴奏法I-2(後)[水4]Aクラス	平沢　由美子	・・・・・・・・	379
器楽曲伴奏法I-2(後)[水4]Bクラス	秦　江里奈	・・・・・・・・	382
器楽曲伴奏法I-2(後)[水4]Cクラス	蓼沼　恵美子	・・・・・・・・	385
器楽曲伴奏法II-1(前)[火4]	皆川　純一	・・・・・・・・	388
器楽曲伴奏法II-2(後)[火4]	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	391
歌曲伴奏法I-1／歌曲伴奏法Ⅰ(前)[月3]Aクラス	押川　涼子	・・・・・・・・	394
歌曲伴奏法I-1／歌曲伴奏法Ⅰ(前)[月3]Bクラス	小市　香澄	・・・・・・・・	397
歌曲伴奏法I-1／歌曲伴奏法Ⅰ(前)[月3]Cクラス	小助川　眞美	・・・・・・・・	400
歌曲伴奏法I-2／歌曲伴奏法Ⅱ(後)[月3]Aクラス	松川　儒	・・・・・・・・	403
歌曲伴奏法I-2／歌曲伴奏法Ⅱ(後)[月3]Bクラス	立石　智子	・・・・・・・・	406
歌曲伴奏法I-2／歌曲伴奏法Ⅱ(後)[月3]Cクラス	吉武　雅子	・・・・・・・・	409
二重奏I／二重奏[金3]Aクラス	白澤　暁子	・・・・・・・・	412
二重奏I／二重奏[金3]Bクラス	松浦　健	・・・・・・・・	415
二重奏I／二重奏[金3]Cクラス	三宅　麻美	・・・・・・・・	418
初見視奏I(前)[火4]Aクラス	松浦　真沙	・・・・・・・・	421
初見視奏I(前)[火4]Bクラス	辻田　由利子	・・・・・・・・	424
初見視奏I(前)[火4]Cクラス	石田　多紀乃	・・・・・・・・	427
初見視奏II(後)[火4]Aクラス	飯野　明日香	・・・・・・・・	430
初見視奏II(後)[火4]Bクラス	竹原　暁子	・・・・・・・・	433
初見視奏II(後)[火4]Cクラス	林　直美	・・・・・・・・	436
初見視奏III(前)[木3]	西脇　千花	・・・・・・・・	439
初見視奏IV(後)[木3]	奥平　純子	・・・・・・・・	442
音楽教室グレード対策講座I[月4]	久行　敏彦	・・・・・・・・	445
音楽教室グレード対策講座II[火3]	久行　敏彦	・・・・・・・・	448
ピアノ指導法I[金4]	木幡　律子	・・・・・・・・	451
ピアノ指導法II[金4]	岡本　有子	・・・・・・・・	454
管弦楽内ピアノ奏法研究1～4[木4]Aクラス	山内　のり子	・・・・・・・・	457
管弦楽内ピアノ奏法研究1～4[木4]Bクラス	小林　裕子	・・・・・・・・	460
アコースティックミュージカルスタディ1～4[金2]	鵜木　絵里	・・・・・・・・	463

コーラスアンサンブル実習１～４[木2]	相澤　直人	・・・・・・・・	466
アンサンブルヴォイストレーニング１～４[水2]	髙田　正人	・・・・・・・・	469
サックスオーケストラ１～４[水4-5]	岩本　伸一	・・・・・・・・	472
打楽器アンサンブル１～４[水4-5]	神谷　百子	・・・・・・・・	475
フルートオーケストラ１～４[水4-5]	岩花　秀文	・・・・・・・・	478
ブリティッシュブラス１～４[水4-5]	福田　昌範	・・・・・・・・	481
オーケストラ演習１[金3]	三宅　康弘	・・・・・・・・	484
オーケストラ演習２～４[水4-5]	赤塚　博美	・・・・・・・・	487
ポピュラー奏法研究１[水4]	小川　真澄	・・・・・・・・	490
オーケストレーション[火2]	大竹　くみ	・・・・・・・・	493
ポピュラー奏法研究２[水2]	上野山　英里	・・・・・・・・	496
創作演習[月4]	大竹　くみ	・・・・・・・・	499
編曲演習[木4]	赤塚　博美	・・・・・・・・	502
電子オルガン・スタジオエレクトロニクス（１）[木3]	上原　直	・・・・・・・・	505
電子オルガン演奏法２[火3]	赤塚　博美	・・・・・・・・	508
指導グレードマスター講座１～４[火4]	大竹　くみ	・・・・・・・・	511
演奏グレードマスター講座１～４[水2]	岡田　久常	・・・・・・・・	514
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅡ(5Saxes)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ4（前）[木4]	松本　治	・・・・・・・・	517
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅢ(6~8Brass)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ5（後）[木3]	松本　治	・・・・・・・・	520
シアターダンス１-１（前）[金4]	井口　美穂	・・・・・・・・	523
シアターダンス１-１（前）[金1]（AS専用）Aクラス	井口　美穂	・・・・・・・・	526
シアターダンス１-１（前）[金1]（AS専用）Bクラス	草間　華奈	・・・・・・・・	529
シアターダンス１-１（前）[月4]フラメンコ（DC専用）	やの　ちえみ	・・・・・・・・	532
シアターダンス１-２（後）[水4]	花柳　珂穂月	・・・・・・・・	535
シアターダンス１-２（後）[金1]（AS専用）Aクラス	井口　美穂	・・・・・・・・	538
シアターダンス１-２（後）[金1]（AS専用）Bクラス	草間　華奈	・・・・・・・・	541
シアターダンス１-２（後）[月4]タップダンス（DC専用）	三寺　郷美	・・・・・・・・	544
シアターダンス２-１（前）[月3]	打越　麗子	・・・・・・・・	547
シアターダンス２-２（後）[木2]	池村　太郎	・・・・・・・・	550
シアターダンス２-２（後）[火2]フラメンコ（BL専用）	アントニオ　アロンソ	・・・・・・・・	553
声楽基礎演習I-１[月3]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	556
声楽基礎演習I-２[金3]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	559
声楽基礎演習II-１[火3]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	562
声楽基礎演習II-２[火4]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	565
詩の解釈[月4]	馬場　由香	・・・・・・・・	568
イタリア歌曲研究１[火5]	中鉢　聡	・・・・・・・・	571
イタリア歌曲研究２[火5]	日比野　幸	・・・・・・・・	574
ドイツ歌曲研究１[水4]	飯田　千夏	・・・・・・・・	577
ドイツ歌曲研究２[火4]	馬場　由香	・・・・・・・・	580

フランス歌曲研究1[水4]	寺島　夕紗子	・・・・・・・・	583
フランス歌曲研究2[水4]	神谷　明美	・・・・・・・・	586
日本歌曲研究1[水2]	二見　忍	・・・・・・・・	589
日本歌曲研究2[火3]	沢崎　恵美	・・・・・・・・	592
ミュージカルI-1(前)[金1]	三橋　千鶴	・・・・・・・・	595
ミュージカルI-2(後)[金1]	三橋　千鶴	・・・・・・・・	598
専門合唱1～4[木3-4]	相澤　直人	・・・・・・・・	601
合唱指導法(含指揮法)[火4]	辻　志朗	・・・・・・・・	604
オペラ実習I／オペラ実習1[月1]	境　信博	・・・・・・・・	607
オペラ実習II／オペラ実習2[月2-3]	境　信博	・・・・・・・・	610
オペラ実習III／オペラ実習3[月3-4]	境　信博	・・・・・・・・	613
アンサンブル実習I[金3-4]	田中　良一	・・・・・・・・	616
アンサンブル実習II[金3-4]	田中　良一	・・・・・・・・	619
アンサンブル実習III[金3-4]	田中　良一	・・・・・・・・	622
合唱活動指導法1[火5]	田中　良一	・・・・・・・・	625
合唱活動指導法2[火5]	田中　良一	・・・・・・・・	628
リコーダーアンサンブル1[木3]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	631
リコーダーアンサンブル2[木3]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	634
リコーダーアンサンブル3[木3]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	637
邦楽実習(民謡)1～4[金5]	柿崎　竹美	・・・・・・・・	640
言語表現演習I(前)[火3]	重本　正明	・・・・・・・・	643
言語表現演習II(後)[火3]	牛頭　真也	・・・・・・・・	646
身体表現演習I(前)[水5]	野火　杏子	・・・・・・・・	649
身体表現演習I(前)[木1]AS専用(日舞)	花柳　輔瑞佳	・・・・・・・・	652
身体表現演習I(前)[木1]AS専用(狂言)	金田　弘明	・・・・・・・・	655
身体表現演習II(後)[水5]	うえだ　ななこ	・・・・・・・・	658
身体表現演習II(後)[木1]AS専用(狂言)	金田　弘明	・・・・・・・・	661
身体表現演習II(後)[木1]AS専用(日舞)	花柳　輔瑞佳	・・・・・・・・	664
合唱実習1[火5]	田中　良一	・・・・・・・・	667
合唱実習2[火5]	田中　良一	・・・・・・・・	670
音楽創作ワークショップ1[木5]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	673
音楽創作ワークショップ2[木5]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	676
音楽創作ワークショップ3[木5]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	679
邦楽実習(箏)1～4[月5]	吉原　佐知子	・・・・・・・・	682
即興伴奏法[月5]	谷川　マユコ	・・・・・・・・	685
音楽教育演習II[火4]	牛頭　真也	・・・・・・・・	688
音楽教育演習III[火4]	金井　公美子	・・・・・・・・	691
邦楽実習(笛)1～4[木4]	西川　浩平	・・・・・・・・	694
教育ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ1～4[月4]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	697

ヴォイストレーニング(ジャズ)1/ヴォーカルパフォーマンス1(前)[金3]	三橋　千鶴	・・・・・・・・	700
ヴォイストレーニング(ジャズ)2/ヴォーカルパフォーマンス2(後)[金3]	三橋　千鶴	・・・・・・・・	703
ミュージックインリリックス1-1(前)[月2]	CHAKA	・・・・・・・・	706
ミュージックインリリックス1-2(後)[月2]	CHAKA	・・・・・・・・	709
吹奏楽指導法1～4[月4]	宍倉　晃	・・・・・・・・	712
マーチングディレクター概論1～4[火4]	田中　久仁明	・・・・・・・・	715
管打合奏1～4[火5]	大和田　雅洋	・・・・・・・・	718
吹奏楽研究1[金4-5]フレッシュマン	大和田　雅洋	・・・・・・・・	721
吹奏楽研究2～4[火4-5]ブルー・タイ	渡邉　功	・・・・・・・・	724
吹奏楽研究2～4[火4-5]グリーン・タイ	伊藤　康英	・・・・・・・・	727
吹奏楽研究2～4[火4-5]洗足ウインド・シンフォニー	池上　政人	・・・・・・・・	730
オーケストラ研究1-1～1-4[月4-5]ベーシック	渡部　亨	・・・・・・・・	733
オーケストラ研究1-1～1-4[月4-5]マスター	辻　功	・・・・・・・・	736
オーケストラ研究1-1～1-4[月4-5]レパートリー	菅原　潤	・・・・・・・・	739
オーケストラ研究2-1～2-4[木4-5]ベーシック	渡部　亨	・・・・・・・・	742
オーケストラ研究2-1～2-4[木4-5]マスター	辻　功	・・・・・・・・	745
オーケストラ研究2-1～2-4[木4-5]レパートリー	菅原　潤	・・・・・・・・	748
ファンファーレオルケスト1～4[金4-5]	露木　薫	・・・・・・・・	751
室内楽研究1[金2]打楽器	中村　祐子	・・・・・・・・	754
室内楽研究1[金2]弦楽器	安藤　裕子	・・・・・・・・	757
室内楽研究1[金2]金管	古田　賢司	・・・・・・・・	760
室内楽研究1[金2]木管	渡部　亨	・・・・・・・・	763
室内楽研究1[金2]サックス	江川　良子	・・・・・・・・	766
ギター合奏1～4[水4-5]	小林　徹	・・・・・・・・	769
邦楽合奏演習1[土4]	山口　賢治	・・・・・・・・	772
邦楽合奏演習2～4[土4]	山口　賢治	・・・・・・・・	775
シーンスタディI[水3-4]	篠原　真	・・・・・・・・	778
シーンスタディII[水3-4]	篠原　真	・・・・・・・・	781
シーンスタディIII[木3-4]	篠原　真	・・・・・・・・	784
シーンスタディIV[木3-4]	篠原　真	・・・・・・・・	787
MSアンサンブル実習I[月3]	篠原　真	・・・・・・・・	790
MSアンサンブル実習II[金4]	篠原　真	・・・・・・・・	793
MSアンサンブル実習III[水2]	篠原　真	・・・・・・・・	796
MSアンサンブル実習IV[月4]	篠原　真	・・・・・・・・	799
狂言実習1[木2]Aクラス	花柳　輔瑞佳	・・・・・・・・	802
狂言実習1[木2]Bクラス	金田　弘明	・・・・・・・・	805
舞台芸術概論[木2]	横山　仁一	・・・・・・・・	808
舞台音楽論／舞台音楽論Ⅰ(前)[月4]	篠原　真	・・・・・・・・	811
舞台音楽論II(後)[月4]	篠原　真	・・・・・・・・	814

MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[水1]バレエ	飛沢　由衣	・・・・・・・・	817
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[水2]バレエ	林　麻衣子	・・・・・・・・	820
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木1]バレエ	林　麻衣子	・・・・・・・・	823
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木2]バレエ	新井　望	・・・・・・・・	826
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]バレエ	丸山　まどか	・・・・・・・・	829
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金3]バレエ	井口　美穂	・・・・・・・・	832
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火5]ヒップホ	GOTO	・・・・・・・・	835
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]ジャズ	関　与志雄	・・・・・・・・	838
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金3]ジャズ	関　与志雄	・・・・・・・・	841
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金4]ジャズ	関　与志雄	・・・・・・・・	844
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]ジャズ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ(BL専用	河内　達弥	・・・・・・・・	847
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]ｼﾞｬｽﾞ/谷ｸﾗｽ/牧ｸﾗｽ(BL専用	舘形　比呂一	・・・・・・・・	850
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火2]ジャズ(BL専用)	舘形　比呂一	・・・・・・・・	853
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]ジャズ(DC専用)	舘形　比呂一	・・・・・・・・	856
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木2]ストリート(DC専用)	TOMOMI	・・・・・・・・	859
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]タップ	篠原　真	・・・・・・・・	862
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月3]タップ	篠原　真	・・・・・・・・	865
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月4]タップ	篠原　真	・・・・・・・・	868
MSシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木2]タップ	篠原　真	・・・・・・・・	871
ダンスパフォーマンス3-1[金1]ジャズ(AS専用)	舘形　比呂一	・・・・・・・・	874
アクティング1[火4]	篠原　真	・・・・・・・・	877
アクティング2[火3]	篠原　真	・・・・・・・・	880
アクティング3[火4]	篠原　真	・・・・・・・・	883
アクティング4[火3]	篠原　真	・・・・・・・・	886
ヴォーカルミュージック1[火3]	篠原　真	・・・・・・・・	889
ヴォーカルミュージック1[金3](DC専用)	江原　陽子	・・・・・・・・	892
ヴォーカルミュージック2[火4]	篠原　真	・・・・・・・・	895
ヴォーカルミュージック3[火3]	篠原　真	・・・・・・・・	898
ヴォーカルミュージック4[火4]	篠原　真	・・・・・・・・	901
卒業研究[火6][音楽・音響デザイン]	前田　康徳	・・・・・・・・	904
卒業研究[ピアノ]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	907
卒業研究[電子オルガン]	赤塚　博美	・・・・・・・・	910
卒業研究[管楽器]	池上　政人	・・・・・・・・	913
卒業研究[弦楽器]	水野　佐知香	・・・・・・・・	916
卒業研究[打楽器]	山澤　洋之	・・・・・・・・	919
卒業研究[ジャズ]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	922
卒業研究[現代邦楽]	松尾　祐孝	・・・・・・・・	925
卒業研究[ロック＆ポップス]	前野　知常	・・・・・・・・	928
卒業研究[声楽]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	931

卒業研究[ミュージカル]	篠原　真	・・・・・・・・	934
卒業研究[バレエ]	安達　悦子	・・・・・・・・	937
卒業研究[火3][音楽教育]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	940
ピアノ作曲基礎演習１～４[火5]Aクラス	浦壁　信二	・・・・・・・・	943
ピアノ作曲基礎演習１～４[火5]Bクラス	担当教員	・・・・・・・・	946
キーボードレアリゼーション１～４[木3]Aクラス	松本　望	・・・・・・・・	949
キーボードレアリゼーション１～４[木3]Bクラス	齋藤　圭子	・・・・・・・・	952
ピアノ作品分析演奏法１～４[金4]	山田　武彦	・・・・・・・・	955
録音技術研究１～４[水1]	深田　晃	・・・・・・・・	958
メディアコンテンツ制作実習１～４[木5]	森　威功	・・・・・・・・	961
スタジオレコーディング演習１～４[水2]	深田　晃	・・・・・・・・	964
ワイヤリング実習[水2]	齋藤　粋生	・・・・・・・・	967
ヴォイスアーティスト基礎研究/ヴォイスアーティスト基礎演習[木2]Bクラス	亀井　芳子	・・・・・・・・	970
ヴォイスアーティスト基礎研究/ヴォイスアーティスト基礎演習[金2]Cクラス	園田　恵子	・・・・・・・・	973
ASスタジオワーク[木2]Bクラス	逢坂　力	・・・・・・・・	976
ASスタジオワーク[金2]Cクラス	田口　宏子	・・・・・・・・	979
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[月3]Aクラス	森田　順平	・・・・・・・・	982
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[月3]Bクラス	鈴木　勝美	・・・・・・・・	985
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[火3]Cクラス	堀江　美都子	・・・・・・・・	988
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[火3]Dクラス	尾田木　美衣	・・・・・・・・	991
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[水3]Eクラス	水島　裕	・・・・・・・・	994
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[水3]Fクラス	石原　慎一	・・・・・・・・	997
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[木3]Gクラス	篠原　恵美	・・・・・・・・	1000
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[木3]Hクラス	宇治川　まさなり	・・・・・・・・	1003
音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２[金3]Jクラス	石川　光太郎	・・・・・・・・	1006
ASアンサンブル実習 I[木3]	江原　陽子	・・・・・・・・	1009
ASアンサンブル実習Ⅱ[金2]	江原　陽子	・・・・・・・・	1012
ASアンサンブル実習Ⅲ[月2]	山下　順子	・・・・・・・・	1015
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月4]Aクラス	森田　順平	・・・・・・・・	1018
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月5]Bクラス	森田　順平	・・・・・・・・	1021
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月4]Cクラス	鈴木　勝美	・・・・・・・・	1024
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月5]Dクラス	鈴木　勝美	・・・・・・・・	1027
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火4]Eクラス	堀江　美都子	・・・・・・・・	1030
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火5]Fクラス	堀江　美都子	・・・・・・・・	1033
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火4]Gクラス	尾田木　美衣	・・・・・・・・	1036
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火5]Hクラス	尾田木　美衣	・・・・・・・・	1039
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水4]Jクラス	水島　裕	・・・・・・・・	1042
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水5]Kクラス	水島　裕	・・・・・・・・	1045
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水4]Lクラス	石原　慎一	・・・・・・・・	1048

ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水5]Mクラス	石原　慎一	・・・・・・・・	1051
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木4]Nクラス	篠原　恵美	・・・・・・・・	1054
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木5]Rクラス	篠原　恵美	・・・・・・・・	1057
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木4]Sクラス	宇治川　まさなり	・・・・・・・・	1060
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木5]Tクラス	宇治川　まさなり	・・・・・・・・	1063
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金4]Uクラス	石川　光太郎	・・・・・・・・	1066
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金5]Vクラス	石川　光太郎	・・・・・・・・	1069
アニメソング総合演習１[火3]Aクラス	速水　けんたろう	・・・・・・・・	1072
アニメソング総合演習１[火4]Bクラス	速水　けんたろう	・・・・・・・・	1075
アニメソング総合演習２[月2]Aクラス	江原　陽子	・・・・・・・・	1078
アニメソング総合演習２[火1]Bクラス	安士　百合野	・・・・・・・・	1081
アニメソング総合演習２[火2]Cクラス	安士　百合野	・・・・・・・・	1084
アニメソング総合演習３[火1]Aクラス	Salia	・・・・・・・・	1087
アニメソング総合演習３[火2]Bクラス	Salia	・・・・・・・・	1090
ASダンス演習１[月1]Aクラス	TOMOMI	・・・・・・・・	1093
ASダンス演習１[月2]Bクラス	TOMOMI	・・・・・・・・	1096
ASダンス演習２[月1]Aクラス	河内　達弥	・・・・・・・・	1099
ASダンス演習２[月1]Bクラス	舘形　比呂一	・・・・・・・・	1102
ASダンス演習３[月1]	河内　知子	・・・・・・・・	1105
ナレーション基礎演習[火3]Aクラス	江原　陽子	・・・・・・・・	1108
ナレーション基礎演習[火4]Bクラス	金野　恵子	・・・・・・・・	1111
弦楽合奏１～４[金4-5]	水野　佐知香	・・・・・・・・	1114
リズミックトレーニングI(前)[月4]	松山　修	・・・・・・・・	1117
リズミックトレーニングII(後)[月4]	松山　修	・・・・・・・・	1120
スタジオ・アレンジング(後)[木3]	香取　良彦	・・・・・・・・	1123
ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄﾞ･ｱﾚﾝｼﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ6(前)[木2]	松本　治	・・・・・・・・	1126
ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1(後	谷口　英治	・・・・・・・・	1129
ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1(前	谷口　英治	・・・・・・・・	1132
スタイルスタディA(前)[木3]	香取　良彦	・・・・・・・・	1135
ジャズフレージング入門(後)[水4]	布川　俊樹	・・・・・・・・	1138
ハウトゥインプロヴァイズ(前)[月2]	道下　和彦	・・・・・・・・	1141
ハウトゥコンポーズ(後)[月2]	道下　和彦	・・・・・・・・	1144
インプロビゼーションテクニック(後)[金2]	多田　誠司	・・・・・・・・	1147
サーヴェイ・オブ・ジャズ１(前)[月2]	蟻正　行義	・・・・・・・・	1150
サーヴェイ・オブ・ジャズ２(後)[火4]	蟻正　行義	・・・・・・・・	1153
楽曲研究／和声学研究[月3]	生野　裕久	・・・・・・・・	1156
パイプオルガン実習(集)	荻野　由美子	・・・・・・・・	1159
ギター奏法演習[火4]	中根　康美	・・・・・・・・	1162
和楽器演習(箏)[月5]	吉原　佐知子	・・・・・・・・	1165

和楽器演習（三味線）[火5]	野澤　徹也	・・・・・・・・	1168
尺八奏法（集）1,2限　Dクラス	山口　賢治	・・・・・・・・	1171
尺八奏法（集）3,4限　Eクラス	担当教員	・・・・・・・・	1174
篠笛奏法（集）1,2限　Fクラス	西川　浩平	・・・・・・・・	1177
篠笛奏法（集）3,4限　Gクラス	西川　浩平	・・・・・・・・	1180
箏奏法（集）1,2限　Hクラス	吉原　佐知子	・・・・・・・・	1183
箏奏法（集）3,4限　Jクラス	吉原　佐知子	・・・・・・・・	1186
三味線奏法（集）1,2限　Kクラス	野澤　徹也	・・・・・・・・	1189
三味線奏法（集）3,4限　Lクラス	野澤　徹也	・・・・・・・・	1192
ジャズ実習（前）[木3]Pクラス	谷口　英治	・・・・・・・・	1195
ジャズ実習（後）[木3]Qクラス	谷口　英治	・・・・・・・・	1198
コンピュータ楽譜浄書演習／記譜法概論[月5]	郡司　崇	・・・・・・・・	1201
ポピュラー奏法特別研究１～４（集）金4-5	三原　善隆	・・・・・・・・	1204
ポピュラー奏法特別研究１～４（集）金4-5	三原　善隆	・・・・・・・・	1207
DTM基礎演習（前）[月3]Aクラス	和田　洋平	・・・・・・・・	1210
DTM基礎演習（後）[金3]Bクラス	郡司　崇	・・・・・・・・	1213
DTMプログラミング演習[水5]	三上　直子	・・・・・・・・	1216
邦楽ワークショップ２～４[水5]	山口　賢治	・・・・・・・・	1219
コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎（前）[金4]Pクラス	古澤　壮樹	・・・・・・・・	1222
コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎（後）[金4]Qクラス	相馬　健太	・・・・・・・・	1225
楽式論I（前）[木3]Aクラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	1228
楽式論I（前）[木3]Bクラス	市川　景之	・・・・・・・・	1231
楽式論II（後）[木3]Aクラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	1234
楽式論II（後）[木3]Bクラス	市川　景之	・・・・・・・・	1237
邦楽実習（謡曲）１～４[金3]	鵜澤　光	・・・・・・・・	1240
シンガーソングライター講座１～４[水5]	郡司　崇	・・・・・・・・	1243
現代邦楽作品研究１／現代作品研究１[木4]	森重　行敏	・・・・・・・・	1246
現代邦楽作品研究２／現代作品研究２[木4]	森重　行敏	・・・・・・・・	1249
ヴォイスアンサンブル１～４[水2]（AS専用）	速水　けんたろう	・・・・・・・・	1252
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](コンテンポラリー)	小林　洋壱	・・・・・・・・	1255
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ジャズ)	前田　清実	・・・・・・・・	1258
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ストリート)	ERIKA	・・・・・・・・	1261
舞踊創作研究1-1[コンテンポラリーダンスクラス]	前田　清実	・・・・・・・・	1264
舞踊創作研究1-1[ジャズダンスクラス]	前田　清実	・・・・・・・・	1267
舞踊創作研究1-1[ストリートダンスクラス]	ERIKA	・・・・・・・・	1270
舞踊創作研究1-2[ジャズダンスクラス]	前田　清実	・・・・・・・・	1273
舞踊創作研究1-2[ストリートダンスクラス]	ERIKA	・・・・・・・・	1276
舞踊創作研究1-3[ジャズダンスクラス]	前田　清実	・・・・・・・・	1279
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	1282

教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Bクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	1285
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Cクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	1288
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Dクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	1291
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Eクラス	三戸　誠	・・・・・・・・	1294
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Fクラス	和田　崇	・・・・・・・・	1297
教育実習Ⅰ	吉田　真理子	・・・・・・・・	1300
教育実習Ⅱ	吉田　真理子	・・・・・・・・	1303
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	1306
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Bクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	1309
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Cクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	1312
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Dクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	1315
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Eクラス	三戸　誠	・・・・・・・・	1318
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Fクラス	和田　崇	・・・・・・・・	1321
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2.3] [木2.3] [金2.3]（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	安達　悦子	・・・・・・・・	1324
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2] [木2] [金2]（牧クラス）	奥田　さやか	・・・・・・・・	1327
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2.3] [木2.3] [金2.3]（谷クラス）	井口　美穂	・・・・・・・・	1330
バレエ実習１－１[水2]（DC専用）	井口　美穂	・・・・・・・・	1333
バレエ実習１－１～４－１[月1]（グローバルクラス）	安達　悦子	・・・・・・・・	1336
バレエ実習１－１～４－１[月2]（グローバルクラス）	安達　悦子	・・・・・・・・	1339
バレエ実習１－１～４－１[月3]（グローバルクラス）	安達　悦子	・・・・・・・・	1342
バレエ実習１－１～４－１[月3]（牧クラス）	鈴木　理奈	・・・・・・・・	1345
バレエ実習１－１～４－１[月1]（谷クラス）	永橋　あゆみ	・・・・・・・・	1348
バレエ実習１－１～４－１[月3]（谷クラス）	日原　永美子	・・・・・・・・	1351
バレエ実習１－１～４－１[月2]（谷クラス）	永橋　あゆみ	・・・・・・・・	1354
バレエ実習１－２[火3]（DC専用）	井口　美穂	・・・・・・・・	1357
バレエ実習１－２～４－２[火1]（グローバルクラス）	木村　規予香	・・・・・・・・	1360
バレエ実習１－２～４－２[火2]（グローバルクラス）	木村　規予香	・・・・・・・・	1363
バレエ実習１－２～４－２[火3]（グローバルクラス）	金田　あゆ子	・・・・・・・・	1366
バレエ実習１－２～４－２[火3]（グローバルクラス）	アレッシオ　シルヴェストリン	・・・・・・・・	1369
バレエ実習１－２～４－２[火3]（牧クラス）	吉岡　まな美	・・・・・・・・	1372
バレエ実習１－２～４－２[火2]（谷クラス）	高岸　直樹	・・・・・・・・	1375
バレエ実習１－２～４－２[火3]（谷クラス）	植田　理恵子	・・・・・・・・	1378
身体表現実習 １－１[月3]ジャイロ（DC専用）	宮内　真理子	・・・・・・・・	1381
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（安達悦子クラス）	安達　悦子	・・・・・・・・	1384
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	・・・・・・・・	1387
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（草間華奈クラス）	草間　華奈	・・・・・・・・	1390
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（奥田さやかクラス）	奥田　さやか	・・・・・・・・	1393
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（齊藤拓クラス）	齊藤　拓	・・・・・・・・	1396
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（佐藤麻利香クラス）	佐藤　麻利香	・・・・・・・・	1399

身体表現実習 １－２[火4]コンテンポラリー（DC専用）	アレッシオ　シルヴェストリン	・・・・・・・・	1402
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（信田洋子クラス）	信田　洋子	・・・・・・・・	1405
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	・・・・・・・・	1408
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（加藤浩子クラス）	加藤　浩子	・・・・・・・・	1411
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（竹下陽子クラス）	竹下　陽子	・・・・・・・・	1414
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（髙部尚子クラス）	髙部　尚子	・・・・・・・・	1417
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（三木雄馬クラス）	三木　雄馬	・・・・・・・・	1420
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（安達悦子クラス）	安達　悦子	・・・・・・・・	1423
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	・・・・・・・・	1426
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（沖田貴士クラス）	沖田　貴士	・・・・・・・・	1429
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（鈴木理奈クラス）	鈴木　理奈	・・・・・・・・	1432
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（佐藤麻利香クラス）	佐藤　麻利香	・・・・・・・・	1435
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（日原永美子クラス）	日原　永美子	・・・・・・・・	1438
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	小林　洋壱	・・・・・・・・	1441
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレッシオ　シルヴェストリン	・・・・・・・・	1444
身体表現実習 １－４～４－４[月4]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレッシオ　シルヴェストリン	・・・・・・・・	1447
身体表現実習 １－５～４－５[月4]（ジャイロ）	宮内　真理子	・・・・・・・・	1450
身体表現実習 １－４～４－４[月5]（コンテンポラリー/牧クラス）	アレッシオ　シルヴェストリン	・・・・・・・・	1453
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（コンテンポラリー/谷クラス）	大岩　ピレス　淑子	・・・・・・・・	1456
身体表現実習 １－４～４－４[月4]（コンテンポラリー/谷クラス）	大岩　ピレス　淑子	・・・・・・・・	1459
身体表現実習 １－５～４－５[火2]（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレクサンドル　ミシューチン	・・・・・・・・	1462
身体表現実習 １－５～４－５[火3]（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレクサンドル　ミシューチン	・・・・・・・・	1465
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレクサンドル　ミシューチン	・・・・・・・・	1468
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（キャラクターダンス/牧クラス）	イルギス　ガリムーリン	・・・・・・・・	1471
身体表現実習 １－５～４－５[火3]（キャラクターダンス/谷クラス）	星野　絢香	・・・・・・・・	1474
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（キャラクターダンス/谷クラス）	星野　絢香	・・・・・・・・	1477
バンド・ワークショップ１-１（前）[月5]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1480
バンド・ワークショップ１-１（前）[火5]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	・・・・・・・・	1483
バンド・ワークショップ１-１（前）[水5]Cクラス	北島　健二	・・・・・・・・	1486
バンド・ワークショップ１-１（前）[木5]Dクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1489
バンド・ワークショップ１-１（前）[金5]Eクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1492
バンド・ワークショップ１-１（前）[月5]Fクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1495
バンド・ワークショップ１-１（前）[火5]Gクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1498
バンド・ワークショップ１-１（前）[木5]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1501
バンド・ワークショップ１-２（後）[月5]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1504
バンド・ワークショップ１-２（後）[火5]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	・・・・・・・・	1507
バンド・ワークショップ１-２（後）[水5]Cクラス	北島　健二	・・・・・・・・	1510
バンド・ワークショップ１-２（後）[木5]Dクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1513
バンド・ワークショップ１-２（後）[金5]Eクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1516

バンド・ワークショップ1-2(後)[月5]Fクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1519
バンド・ワークショップ1-2(後)[火5]Gクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1522
バンド・ワークショップ1-2(後)[木5]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1525
バンド・ワークショップ2-1(前)[月4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1528
バンド・ワークショップ2-1(前)[火5]Bクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1531
バンド・ワークショップ2-1(前)[水5]Cクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1534
バンド・ワークショップ2-1(前)[木5]Dクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1537
バンド・ワークショップ2-1(前)[金5]Eクラス	西平　彰	・・・・・・・・	1540
バンド・ワークショップ2-1(前)[月4]Fクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1543
バンド・ワークショップ2-1(前)[金4]Gクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1546
バンド・ワークショップ2-1(前)[金5]Sクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1549
バンド・ワークショップ2-2(後)[月4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1552
バンド・ワークショップ2-2(後)[火5]Bクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1555
バンド・ワークショップ2-2(後)[水5]Cクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1558
バンド・ワークショップ2-2(後)[木5]Dクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1561
バンド・ワークショップ2-2(後)[金5]Eクラス	西平　彰	・・・・・・・・	1564
バンド・ワークショップ2-2(後)[月4]Fクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1567
バンド・ワークショップ2-2(後)[金4]Gクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1570
バンド・ワークショップ2-2(後)[金5]Sクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1573
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[月5]Aクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1576
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Bクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1579
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[水5]Cクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1582
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Dクラス	JAH－RAH	・・・・・・・・	1585
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金4]Eクラス	川村　ケン	・・・・・・・・	1588
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[月4]Fクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1591
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Gクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1594
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Hクラス	小柳”Cherry”昌法	・・・・・・・・	1597
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金4]Jクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1600
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Kクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1603
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Lクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1606
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木5]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1609
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金5]Wクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1612
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[月5]Aクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1615
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Bクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1618
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[水5]Cクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1621
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Dクラス	JAH－RAH	・・・・・・・・	1624
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金4]Eクラス	西平　彰	・・・・・・・・	1627
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[月4]Fクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1630
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Gクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1633

アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Hクラス	小柳"Cherry"昌法	・・・・・・・・	1636
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金4]Jクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1639
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Kクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1642
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Lクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1645
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木5]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1648
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金5]Wクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1651
レコーディング・セッション1-1(前)[月5-6]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1654
レコーディング・セッション1-1(前)[火5-6]Bクラス	小柳"Cherry"昌法	・・・・・・・・	1657
レコーディング・セッション1-1(前)[水5-6]Cクラス	北島　健二	・・・・・・・・	1660
レコーディング・セッション1-1(前)[木5-6]Dクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1663
レコーディング・セッション1-1(前)[金5-6]Eクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1666
レコーディング・セッション1-1(前)[月5-6]Fクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1669
レコーディング・セッション1-1(前)[火5-6]Gクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1672
レコーディング・セッション1-1(前)[木5-6]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1675
レコーディング・セッション1-2(後)[月5-6]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1678
レコーディング・セッション1-2(後)[火5-6]Bクラス	小柳"Cherry"昌法	・・・・・・・・	1681
レコーディング・セッション1-2(後)[水5-6]Cクラス	北島　健二	・・・・・・・・	1684
レコーディング・セッション1-2(後)[木5-6]Dクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1687
レコーディング・セッション1-2(後)[金5-6]Eクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1690
レコーディング・セッション1-2(後)[月5-6]Fクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1693
レコーディング・セッション1-2(後)[火5-6]Gクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1696
レコーディング・セッション1-2(後)[木5-6]Sクラス	前野　知常	・・・・・・・・	1699
レコーディング・セッション2-1(前)[月3-4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1702
レコーディング・セッション2-1(前)[火5-6]Bクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1705
レコーディング・セッション2-1(前)[水5-6]Cクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1708
レコーディング・セッション2-1(前)[木5-6]Dクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1711
レコーディング・セッション2-1(前)[金5-6]Eクラス	西平　彰	・・・・・・・・	1714
レコーディング・セッション2-1(前)[月3-4]Fクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1717
レコーディング・セッション2-1(前)[金3-4]Gクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1720
レコーディング・セッション2-1(前)[金5-6]Sクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1723
レコーディング・セッション2-2(後)[月3-4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1726
レコーディング・セッション2-2(後)[火5-6]Bクラス	須貝　幸生	・・・・・・・・	1729
レコーディング・セッション2-2(後)[水5-6]Cクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	1732
レコーディング・セッション2-2(後)[木5-6]Dクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1735
レコーディング・セッション2-2(後)[金5-6]Eクラス	西平　彰	・・・・・・・・	1738
レコーディング・セッション2-2(後)[月3-4]Fクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1741
レコーディング・セッション2-2(後)[金3-4]Gクラス	田中　一郎	・・・・・・・・	1744
レコーディング・セッション2-2(後)[金5-6]Sクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1747
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[月5-6]Aク	明石　昌夫	・・・・・・・・	1750

アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[火3-4]Bク	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1753
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[水5-6]Cク	葉山　たけし	・・・・・・・・	1756
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[木3-4]Dク	JAH － RAH	・・・・・・・・	1759
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[金3-4]Eク	川村　ケン	・・・・・・・・	1762
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[月3-4]Fク	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1765
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[火3-4]Gク	須貝　幸生	・・・・・・・・	1768
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[木3-4]Hク	小柳”Cherry”昌法	・・・・・・・・	1771
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[金3-4]Jク	明石　昌夫	・・・・・・・・	1774
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[火3-4]Kク	田中　一郎	・・・・・・・・	1777
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[木3-4]Lク	葉山　たけし	・・・・・・・・	1780
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[木5-6]Sク	前野　知常	・・・・・・・・	1783
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1（前）[金5-6]Wク	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1786
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[月5-6]Aク	明石　昌夫	・・・・・・・・	1789
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[火3-4]Bク	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1792
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[水5-6]Cク	葉山　たけし	・・・・・・・・	1795
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[木3-4]Dク	JAH － RAH	・・・・・・・・	1798
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[金3-4]Eク	西平　彰	・・・・・・・・	1801
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[月3-4]Fク	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1804
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[火3-4]Gク	須貝　幸生	・・・・・・・・	1807
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[木3-4]Hク	小柳”Cherry”昌法	・・・・・・・・	1810
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[金3-4]Jク	明石　昌夫	・・・・・・・・	1813
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[火3-4]Kク	田中　一郎	・・・・・・・・	1816
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[木3-4]Lク	葉山　たけし	・・・・・・・・	1819
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[木5-6]Sク	前野　知常	・・・・・・・・	1822
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）[金5-6]Wク	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1825
インストゥルメンツ研究[木4]	明石　昌夫	・・・・・・・・	1828
マスタークラス・セッション１～４（集）	前野　知常	・・・・・・・・	1831
ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2（前）[水2]Bクラス	松本　治	・・・・・・・・	1834
ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2（前）[火3]Cクラス	谷口　英治	・・・・・・・・	1837
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3（後）[月3]Aク	松本　治	・・・・・・・・	1840
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3（後）[火3]Cク	谷口　英治	・・・・・・・・	1843
Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング[集中]	佐々木　久美	・・・・・・・・	1846
Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング[集中]	佐々木　久美	・・・・・・・・	1849
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ（後）[水4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1852
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ（後）[水4]Bクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1855
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ（前）[水4]Aクラス	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1858
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ（前）[水4]Bクラス	明石　昌夫	・・・・・・・・	1861
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ（後）[金3]	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1864
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ（前）[金3]	坂井　紀雄	・・・・・・・・	1867

作詞／作曲Ⅰ(前)[金3]Aクラス	丸山　圭子	・・・・・・・・	1870
作詞／作曲Ⅰ(前)[金3]Bクラス	松藤　英男	・・・・・・・・	1873
作詞／作曲Ⅱ(後)[金3]Aクラス	丸山　圭子	・・・・・・・・	1876
作詞／作曲Ⅱ(後)[金3]Bクラス	松藤　英男	・・・・・・・・	1879
作詞／作曲Ⅲ(前)[木3]	丸山　圭子	・・・・・・・・	1882
楽曲分析(後)[木3]	丸山　圭子	・・・・・・・・	1885
バーチャル・プロダクション(前)[火5]Aクラス	岡本　健志	・・・・・・・・	1888
バーチャル・プロダクション(後)[火5]Bクラス	岡本　健志	・・・・・・・・	1891
DTM実習1(前)[金2]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1894
DTM実習1(前)[金2]Bクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1897
DTM実習1(前)[金2]Cクラス	川村　ケン	・・・・・・・・	1900
DTM実習2(後)[金2]Aクラス	斉藤　光浩	・・・・・・・・	1903
DTM実習2(後)[金2]Bクラス	葉山　たけし	・・・・・・・・	1906
DTM実習2(後)[金2]Cクラス	川村　ケン	・・・・・・・・	1909
キャリアデザイン講座1(前)[月2]	キャリアデザイン講座	・・・・・・・・	1912
キャリアデザイン講座2(後)[月2]	キャリアデザイン講座	・・・・・・・・	1915
英語1-I(前)[水1]Aクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1918
英語1-I(前)[水1]Bクラス	マーティン　宏美	・・・・・・・・	1921
英語1-I(前)[水2]Cクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1924
英語1-I(前)[水2]Dクラス	マーティン　宏美	・・・・・・・・	1927
英語1-I(前)[水4]Eクラス	伊藤　満里	・・・・・・・・	1930
英語1-I(前)[水4]Fクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1933
英語1-I(前)[水5]Gクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1936
英語1-I(前)[金3]Hクラス	伊藤　満里	・・・・・・・・	1939
英語1-I(前)[金3]Jクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1942
英語1-Ⅱ(後)[水1]Aクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1945
英語1-Ⅱ(後)[水1]Bクラス	マーティン　宏美	・・・・・・・・	1948
英語1-Ⅱ(後)[水2]Cクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1951
英語1-Ⅱ(後)[水2]Dクラス	マーティン　宏美	・・・・・・・・	1954
英語1-Ⅱ(後)[水4]Eクラス	伊藤　満里	・・・・・・・・	1957
英語1-Ⅱ(後)[水4]Fクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1960
英語1-Ⅱ(後)[水5]Gクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1963
英語1-Ⅱ(後)[金3]Hクラス	伊藤　満里	・・・・・・・・	1966
英語1-Ⅱ(後)[金3]Jクラス	永井　崇	・・・・・・・・	1969
英語2-I(前)[水5]	伊藤　満里	・・・・・・・・	1972
英語2-Ⅱ(後)[水5]	伊藤　満里	・・・・・・・・	1975
独語1-I(前)[水1]Aクラス	大村　幸太	・・・・・・・・	1978
独語1-I(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	大村　幸太	・・・・・・・・	1981
独語1-I(前)[水4]Cクラス	武藤　陽子	・・・・・・・・	1984

独語1-Ⅱ(後)[水1]Aクラス	大村　幸太	・・・・・・・・	1987
独語1-Ⅱ(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	大村　幸太	・・・・・・・・	1990
独語1-Ⅱ(後)[水4]Cクラス	武藤　陽子	・・・・・・・・	1993
独語2-Ⅰ(前)[水5]	武藤　陽子	・・・・・・・・	1996
独語2-Ⅱ(後)[水5]	武藤　陽子	・・・・・・・・	1999
仏語1-Ⅰ(前)[水1]Aクラス	岡本　尚子	・・・・・・・・	2002
仏語1-Ⅰ(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡本　尚子	・・・・・・・・	2005
仏語1-Ⅰ(前)[水4]Cクラス	スポーレ　マーシャ	・・・・・・・・	2008
仏語1-Ⅱ(後)[水1]Aクラス	岡本　尚子	・・・・・・・・	2011
仏語1-Ⅱ(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡本　尚子	・・・・・・・・	2014
仏語1-Ⅱ(後)[水4]Cクラス	スポーレ　マーシャ	・・・・・・・・	2017
仏語2-Ⅰ(前)[水5]	スポーレ　マーシャ	・・・・・・・・	2020
仏語2-Ⅱ(後)[水5]	スポーレ　マーシャ	・・・・・・・・	2023
伊語1-Ⅰ(前)[水1]Aクラス	岡田　由美子	・・・・・・・・	2026
伊語1-Ⅰ(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡田　由美子	・・・・・・・・	2029
伊語1-Ⅰ(前)[水4]Cクラス	フィオーレ　リエート	・・・・・・・・	2032
伊語1-Ⅰ(前)[水5]Dクラス	フィオーレ　リエート	・・・・・・・・	2035
伊語1-Ⅱ(後)[水1]Aクラス	岡田　由美子	・・・・・・・・	2038
伊語1-Ⅱ(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡田　由美子	・・・・・・・・	2041
伊語1-Ⅱ(後)[水4]Cクラス	フィオーレ　リエート	・・・・・・・・	2044
伊語1-Ⅱ(後)[水5]Dクラス	フィオーレ　リエート	・・・・・・・・	2047
伊語2-Ⅰ(前)[水5]	岡田　由美子	・・・・・・・・	2050
伊語2-Ⅱ(後)[水5]	岡田　由美子	・・・・・・・・	2053
プロエンジニアスタジオセッション1～4(集)	前田　康徳	・・・・・・・・	2056
リズムパフォーマンス[金5]	高谷　あゆみ	・・・・・・・・	2059
体育実技(集中)[タップダンス]入門1,2限　Aクラス	風真　弘子	・・・・・・・・	2062
体育実技(集中)[タップダンス]中級3,4限　Bクラス	風真　弘子	・・・・・・・・	2065
体育実技(集中)[バトミントン]1,2限　Cクラス	加藤　義人	・・・・・・・・	2068
体育実技(集中)[バトミントン]3,4限　Dクラス	加藤　義人	・・・・・・・・	2071
体育実技(集中)[ミュージカルダンス]1,2限　Eクラス	関　与志雄	・・・・・・・・	2074
体育実技(集中)[ミュージカルダンス]3,4限　Fクラス	関　与志雄	・・・・・・・・	2077
体育実技(集中)[ジャズダンス]入門1,2限　Lクラス	林　七重	・・・・・・・・	2080
体育実技(集中)[ジャズダンス]中級3,4限　Mクラス	林　七重	・・・・・・・・	2083
体育実技(集中)[フラメンコ]1,2限　Nクラス	アントニオ　アロンソ	・・・・・・・・	2086
体育実技(集中)[フラメンコ]3,4限　Rクラス	アントニオ　アロンソ	・・・・・・・・	2089
映像と音楽[水2]	前田　康徳	・・・・・・・・	2092
音楽と宗教(前)[月5]Pクラス	藤原　一弘	・・・・・・・・	2095
音楽と宗教(後)[月5]Qクラス	藤原　一弘	・・・・・・・・	2098
楽器学(前)[水2]Pクラス	小日向　英俊	・・・・・・・・	2101

楽器学(後)[水2]Qクラス	小日向　英俊	・・・・・・・・	2104
発達心理学[火5]	後藤　進吾	・・・・・・・・	2107
管弦楽概論[月3]Aクラス	小林　弘人	・・・・・・・・	2110
管弦楽概論[月3]Bクラス	久行　敏彦	・・・・・・・・	2113
管弦楽概論[月3]Cクラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2116
音楽史[火2]クラシック(佐藤昌弘先生)クラス	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	2119
音楽史[火2]ポピュラー(香取良彦先生)クラス	香取　良彦	・・・・・・・・	2122
ジャズの歴史1(前)[水4]Aクラス	中川　ヨウ	・・・・・・・・	2125
ジャズの歴史1(前)[木5]Bクラス	中川　ヨウ	・・・・・・・・	2128
ジャズの歴史2(後)[水4]Aクラス	中川　ヨウ	・・・・・・・・	2131
ジャズの歴史2(後)[木5]Bクラス	中川　ヨウ	・・・・・・・・	2134
ピアノ演奏史[木4]Aクラス	武田　一彦	・・・・・・・・	2137
ピアノ演奏史[木5]Bクラス	武田　一彦	・・・・・・・・	2140
幼児音楽指導法(含リトミック)[火5]Aクラス	曲尾　雅子	・・・・・・・・	2143
幼児音楽指導法(含リトミック)[金5]Bクラス	大澤　美紀	・・・・・・・・	2146
管弦楽史(前)[水2]Aクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	2149
管弦楽史(前)[金5]Bクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	2152
オペラ史(後)[火2]	青島　広志	・・・・・・・・	2155
音楽美学(後)[火5]	大宅　緒	・・・・・・・・	2158
現代音楽(前)[火4]Pクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	2161
現代音楽(後)[火4]Qクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	2164
諸民族の音楽(前)[月4]Aクラス	浦本　裕子	・・・・・・・・	2167
諸民族の音楽(前)[火2]Bクラス	浦本　裕子	・・・・・・・・	2170
日本の伝統芸能と音楽[木3]Aクラス	森重　行敏	・・・・・・・・	2173
日本の伝統芸能と音楽[月5]Bクラス	山本　華子	・・・・・・・・	2176
ソルフェージュI(前)[木1]Aクラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2179
ソルフェージュI(前)[木1]Bクラス	井上　渚	・・・・・・・・	2182
ソルフェージュI(前)[木1]Cクラス	大原　裕子	・・・・・・・・	2185
ソルフェージュI(前)[木1]Dクラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2188
ソルフェージュI(前)[木1]Eクラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2191
ソルフェージュI(前)[木1]Fクラス	白澤　暁子	・・・・・・・・	2194
ソルフェージュI(前)[木1]Gクラス	鈴木　しのぶ	・・・・・・・・	2197
ソルフェージュI(前)[木1]Hクラス	原田　愛	・・・・・・・・	2200
ソルフェージュI(前)[金3]Aクラス(JZ専用)	蟻正　行義	・・・・・・・・	2203
ソルフェージュI(前)[金4]Bクラス(JZ専用)	松本　治	・・・・・・・・	2206
ソルフェージュI(前)[金1](MS専用)	篠原　真	・・・・・・・・	2209
ソルフェージュI(前)[木1]Lクラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2212
ソルフェージュI(前)[木1]Mクラス	宮澤　幸子	・・・・・・・・	2215
ソルフェージュI(前)[木1]Nクラス	松本　望	・・・・・・・・	2218

ソルフェージュI(前)[木1]Rクラス	森　佳子	・・・・・・・・	2221
ソルフェージュI(前)[木4]Aクラス(RP専用)	川村　ケン	・・・・・・・・	2224
ソルフェージュI(前)[木4]Bクラス(RP専用)	前野　知常	・・・・・・・・	2227
ソルフェージュI(前)[木1]Sクラス	柳川　瑞季	・・・・・・・・	2230
ソルフェージュI(前)[木1]Tクラス	和田　さやか	・・・・・・・・	2233
ソルフェージュI(後)[木2]Uクラス	井上　渚	・・・・・・・・	2236
ソルフェージュI(後)[木2]Vクラス	鈴木　しのぶ	・・・・・・・・	2239
ソルフェージュI(前)[木4]Aクラス(AS専用)	郡司　崇	・・・・・・・・	2242
ソルフェージュI(前)[金3]Bクラス(AS専用)	古澤　壮樹	・・・・・・・・	2245
ソルフェージュI(前)[木3](DC専用)	白仁“KOTETSU”賢哉	・・・・・・・・	2248
ソルフェージュI(前)[金3](BL専用)	篠原　真	・・・・・・・・	2251
ソルフェージュII(後)[木1]Aクラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2254
ソルフェージュII(後)[木1]Bクラス	井上　渚	・・・・・・・・	2257
ソルフェージュII(後)[木1]Cクラス	大原　裕子	・・・・・・・・	2260
ソルフェージュII(後)[木1]Dクラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2263
ソルフェージュII(後)[木1]Eクラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2266
ソルフェージュII(後)[木1]Fクラス	白澤　暁子	・・・・・・・・	2269
ソルフェージュII(後)[木1]Gクラス	鈴木　しのぶ	・・・・・・・・	2272
ソルフェージュII(後)[木1]Hクラス	原田　愛	・・・・・・・・	2275
ソルフェージュII(後)[金3]Aクラス(JZ専用)	蟻正　行義	・・・・・・・・	2278
ソルフェージュII(後)[金4]Bクラス(JZ専用)	松本　治	・・・・・・・・	2281
ソルフェージュII(後)[金1](MS専用)	篠原　真	・・・・・・・・	2284
ソルフェージュII(後)[木1]Lクラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2287
ソルフェージュII(後)[木1]Mクラス	宮澤　幸子	・・・・・・・・	2290
ソルフェージュII(後)[木1]Nクラス	松本　望	・・・・・・・・	2293
ソルフェージュII(後)[木1]Rクラス	森　佳子	・・・・・・・・	2296
ソルフェージュII(後)[木4]Aクラス(RP専用)	川村　ケン	・・・・・・・・	2299
ソルフェージュII(後)[木4]Bクラス(RP専用)	前野　知常	・・・・・・・・	2302
ソルフェージュII(後)[木1]Sクラス	柳川　瑞季	・・・・・・・・	2305
ソルフェージュII(後)[木1]Tクラス	和田　さやか	・・・・・・・・	2308
ソルフェージュII(前)[木2]Uクラス	井上　渚	・・・・・・・・	2311
ソルフェージュII(前)[木2]Vクラス	鈴木　しのぶ	・・・・・・・・	2314
ソルフェージュII(後)[木4]Aクラス(AS専用)	郡司　崇	・・・・・・・・	2317
ソルフェージュII(後)[金3]Bクラス(AS専用)	古澤　壮樹	・・・・・・・・	2320
ソルフェージュII(後)[木3](DC専用)	白仁“KOTETSU”賢哉	・・・・・・・・	2323
ソルフェージュII(後)[金3](BL専用)	篠原　真	・・・・・・・・	2326
ソルフェージュIII(前)[木2]秋本クラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2329
ソルフェージュIII(前)[木2]大原クラス	大原　裕子	・・・・・・・・	2332
ソルフェージュIII(後)[木2]生野クラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2335

ソルフェージュIII(前)[木2]神坂クラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2338
ソルフェージュIII(前)[木2]白澤クラス	白澤　暁子	・・・・・・・・	2341
ソルフェージュIII(前)[木2]原田クラス	原田　愛	・・・・・・・・	2344
ソルフェージュIII(前)[木2]松下クラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2347
ソルフェージュIII(前)[木2]宮澤クラス	宮澤　幸子	・・・・・・・・	2350
ソルフェージュIII(前)[木2]森クラス	森　佳子	・・・・・・・・	2353
ソルフェージュIII(前)[木2]柳川クラス	柳川　瑞季	・・・・・・・・	2356
ソルフェージュIII(前)[木2]和田クラス	和田　さやか	・・・・・・・・	2359
ソルフェージュIV(後)[木2]秋本クラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2362
ソルフェージュIV(後)[木2]大原クラス	大原　裕子	・・・・・・・・	2365
ソルフェージュIV(前)[木2]生野クラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2368
ソルフェージュIV(後)[木2]神坂クラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2371
ソルフェージュIV(後)[木2]白澤クラス	白澤　暁子	・・・・・・・・	2374
ソルフェージュIV(後)[木2]原田クラス	原田　愛	・・・・・・・・	2377
ソルフェージュIV(後)[木2]松下クラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2380
ソルフェージュIV(後)[木2]宮澤クラス	宮澤　幸子	・・・・・・・・	2383
ソルフェージュIV(後)[木2]森クラス	森　佳子	・・・・・・・・	2386
ソルフェージュIV(後)[木2]柳川クラス	柳川　瑞季	・・・・・・・・	2389
ソルフェージュIV(後)[木2]和田クラス	和田　さやか	・・・・・・・・	2392
音楽理論入門(前)[月6]	小林　直哉	・・・・・・・・	2395
音楽理論入門(前)[水3](AS専用)	相馬　健太	・・・・・・・・	2398
音楽理論入門(前)[水3](BL専用)	古澤　壮樹	・・・・・・・・	2401
音楽理論入門(前)[水3](DC専用)	瀬田　創太	・・・・・・・・	2404
音楽理論入門(前)[月5](MS専用)	篠原　真	・・・・・・・・	2407
音楽理論入門(前)[月5](RP専用)	相馬　健太	・・・・・・・・	2410
和声学I(後)[月2]Aクラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2413
和声学I(後)[月2]Bクラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	2416
和声学I(後)[月2]Cクラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2419
和声学I(後)[月2]Dクラス	川崎　真由子	・・・・・・・・	2422
和声学I(後)[月2]Eクラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	2425
和声学I(後)[月2]Fクラス	小林　弘人	・・・・・・・・	2428
和声学I(後)[月2]Gクラス	篠原　真	・・・・・・・・	2431
和声学I(後)[月2]Hクラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	2434
和声学I(前)[木1]木下クラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	2437
和声学I(後)[月2]Kクラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2440
和声学I(後)[月2]Mクラス	二宮　玲子	・・・・・・・・	2443
和声学I(後)[月2]Nクラス	井上　渚	・・・・・・・・	2446
和声学I(後)[月2]Rクラス	原田　愛	・・・・・・・・	2449
和声学I(後)[月2]Sクラス	久行　敏彦	・・・・・・・・	2452

和声学I(後)[月2]Tクラス	松浦　真沙	・・・・・・・・	2455
和声学I(後)[月2]Uクラス	松下　倫士	・・・・・・・・	2458
和声学I(後)[月2]Vクラス	松本　望	・・・・・・・・	2461
和声学II(前)[月1]秋本クラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2464
和声学II(前)[月1]大江クラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	2467
和声学II(前)[月1]神坂クラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2470
和声学II(前)[月1]川崎クラス	川崎　真由子	・・・・・・・・	2473
和声学II(前)[月1]木下クラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	2476
和声学II(前)[月1]小林弘人クラス	小林　弘人	・・・・・・・・	2479
和声学II(前)[月1]清水クラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	2482
和声学II(後)[木1]木下クラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	2485
和声学II(前)[月1]二宮クラス	二宮　玲子	・・・・・・・・	2488
和声学II(前)[月1]井上クラス	井上　渚	・・・・・・・・	2491
和声学II(前)[月1]松本クラス	松本　望	・・・・・・・・	2494
和声学III(後)[月1]秋本クラス	秋本　康子	・・・・・・・・	2497
和声学III(後)[月1]大江クラス	大江　千佳子	・・・・・・・・	2500
和声学III(後)[月1]神坂クラス	神坂　真理子	・・・・・・・・	2503
和声学III(後)[月1]川崎クラス	川崎　真由子	・・・・・・・・	2506
和声学III(後)[月1]木下クラス	木下　淳雄	・・・・・・・・	2509
和声学III(後)[月1]小林弘人クラス	小林　弘人	・・・・・・・・	2512
和声学III(後)[月1]清水クラス	清水　昭夫	・・・・・・・・	2515
和声学III(後)[月1]二宮クラス	二宮　玲子	・・・・・・・・	2518
和声学III(後)[月1]井上クラス	井上　渚	・・・・・・・・	2521
和声学III(後)[月1]松本クラス	松本　望	・・・・・・・・	2524
和声学III(前)[木2]小林直哉クラス	小林　直哉	・・・・・・・・	2527
和声学IV(前)[月1]生野クラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2530
和声学IV(前)[月1]原田クラス	原田　愛	・・・・・・・・	2533
和声学IV(前)[月1]松浦クラス	松浦　真沙	・・・・・・・・	2536
和声学IV(前)[月1]増田クラス	増田　達斗	・・・・・・・・	2539
和声学IV(後)[木2]小林直哉クラス	小林　直哉	・・・・・・・・	2542
和声学V(後)[月1]生野クラス	生野　裕久	・・・・・・・・	2545
和声学V(後)[月1]原田クラス	原田　愛	・・・・・・・・	2548
和声学V(後)[月1]松浦クラス	松浦　真沙	・・・・・・・・	2551
和声学V(後)[月1]増田クラス	増田　達斗	・・・・・・・・	2554
和声学V(前)[木3]小林直哉クラス	小林　直哉	・・・・・・・・	2557
和声学IV(認定)(前)[水2]	照屋　正樹	・・・・・・・・	2560
和声学V(認定)(後)[水2]	照屋　正樹	・・・・・・・・	2563
古代、中世、ルネッサンスの音楽史(前)[水2]Aクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2566
古代、中世、ルネッサンスの音楽史(前)[水4]Bクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2569

バロックの音楽史（後）[水2]Aクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2572
バロックの音楽史（後）[水4]Bクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2575
バロックの音楽史（後）[水2]Cクラス	担当教員	・・・・・・・・	2578
古典派の音楽史（前）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	2581
古典派の音楽史（前）[水4]Bクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	2584
古典派の音楽史（前）[金4]Cクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	2587
古典派の音楽史（前）[木3]Dクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2590
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	2593
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[水4]Bクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	2596
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[金4]Cクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	2599
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Dクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	2602
管弦楽法[木3]	久行　敏彦	・・・・・・・・	2605
楽曲分析研究２[火4]	久行　敏彦	・・・・・・・・	2608
アドバンスト・ハーモニー[木3]	渡辺　俊幸	・・・・・・・・	2611
コンテンポラリー・ハーモニー[木5]	宮木　朝子	・・・・・・・・	2614
ポピュラーミュージック・ハーモニーI（前）[木5]	菅原　サトル	・・・・・・・・	2617
ポピュラーミュージック・ハーモニーII（後）[木5]	相馬　健太	・・・・・・・・	2620
アニメーション・ミュージック研究（後）[月5]	山下　康介	・・・・・・・・	2623
ピアノ音楽講座I／ピアノ音楽講座[金3]	那須田　務	・・・・・・・・	2626
ピアノ音楽鑑賞研究[火3]	諫山　隆美	・・・・・・・・	2629
ジャズソルフェージュI-１（前）[金3]Aクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	2632
ジャズソルフェージュI-１（前）[金4]Bクラス	松本　治	・・・・・・・・	2635
ジャズソルフェージュI-２（後）[金3]Aクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	2638
ジャズソルフェージュI-２（後）[金4]Bクラス	松本　治	・・・・・・・・	2641
ジャズソルフェージュII-１（前）[月3]Aクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	2644
ジャズソルフェージュII-１（前）[月4]Bクラス	松本　治	・・・・・・・・	2647
ジャズソルフェージュII-２（後）[月3]Aクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	2650
ジャズソルフェージュII-２（後）[月4]Bクラス	松本　治	・・・・・・・・	2653
音声学[木5]	竹田　数章	・・・・・・・・	2656
音楽教育研究I[月3]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	2659
音楽教育研究II[火4]	牛頭　真也	・・・・・・・・	2662
アートマネジメント研究１[水5]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	2665
アートマネジメント研究２[水5]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	2668
ワールドミュージック概論１（半期）	大江　千佳子	・・・・・・・・	2671
ワールドミュージック演奏論１（半期）	大江　千佳子	・・・・・・・・	2674
英会話講座１[水5]	ダイアナ　ボール　石山	・・・・・・・・	2677
英会話講座１[木5]	ダイアナ　ボール　石山	・・・・・・・・	2680
英会話講座１[月1]（BL専用）	ダイアナ　ボール　石山	・・・・・・・・	2683
英会話講座２[火1]	ダイアナ　ボール　石山	・・・・・・・・	2686

英会話講座2[月2](BL専用)	ダイアナ ボール 石山	・・・・・・・・	2689
ミュージカル概論[火2]	ダイアナ ボール 石山	・・・・・・・・	2692
演技論1(前)[水3]	兵藤 公美	・・・・・・・・	2695
演技論1(前)[木2](AS専用)	宇治川 まさなり	・・・・・・・・	2698
演技論2(後)[水3]	大倉 マヤ	・・・・・・・・	2701
演技論2(後)[木2](AS専用)	宇治川 まさなり	・・・・・・・・	2704
演出論1(前)[月2]	横山 仁一	・・・・・・・・	2707
演出論1(前)[金2](AS専用)	山下 順子	・・・・・・・・	2710
演出論2(後)[月2]	倉迫 康史	・・・・・・・・	2713
演出論2(後)[金2](AS専用)	山下 順子	・・・・・・・・	2716
戯曲論[木2]	倉迫 康史	・・・・・・・・	2719
ワークショップリーダー養成講座1(前)[火2]	田野 邦彦	・・・・・・・・	2722
ワークショップリーダー養成講座2(後)[火2]	横山 仁一	・・・・・・・・	2725
オーディション実習(集)	篠原 真	・・・・・・・・	2728
スタッフワーク概論(後)[月5]	篠原 真	・・・・・・・・	2731
応用キーボードソルフェージュ[月3]	門倉 聡	・・・・・・・・	2734
コミュニケーション＆セルフマネージメント・スタディ[水4]	小嶋 貴文	・・・・・・・・	2737
身体向上メソッド[金4]	長井 芽乃	・・・・・・・・	2740
サウンドエンジニアリング基礎理論[月3]	富 正和	・・・・・・・・	2743
サウンドエンジニアリング応用理論[木2]	伊藤 圭一	・・・・・・・・	2746
映画音楽作曲技法[木4]	栗山 和樹	・・・・・・・・	2749
スタジオエレクトロニクス[水4]	深田 晃	・・・・・・・・	2752
音響空間エレクトロニクス1～4[木4]	宮木 朝子	・・・・・・・・	2755
ASコンテンツ制作A I[月2]Aクラス	齋藤 粋生	・・・・・・・・	2758
ASコンテンツ制作A I[月3]Bクラス	齋藤 粋生	・・・・・・・・	2761
ASコンテンツ制作AII[水1]	齋藤 粋生	・・・・・・・・	2764
コンテンツ制作1[月2]Aクラス(AS専用)	齋藤 粋生	・・・・・・・・	2767
コンテンツ制作1[月3]Bクラス(AS専用)	齋藤 粋生	・・・・・・・・	2770
コンテンツ制作1[月2]Cクラス(DC専用)	和田 洋平	・・・・・・・・	2773
ﾁｯｸ･ｺﾘｱとﾊｰﾋﾞｰ･ﾊﾝｺｯｸの研究/ｼﾞｬｽﾞ作品研究2(前)[木4]	香取 良彦	・・・・・・・・	2776
マイルス・デイビスの研究／ジャズ作品研究1(前)[金3]	原 朋直	・・・・・・・・	2779
ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ･ｺｰﾄﾞ/ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ5(前)[火3]	香取 良彦	・・・・・・・・	2782
ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ﾓｰﾀﾞﾙ･ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ6(後)[火3]	香取 良彦	・・・・・・・・	2785
最新ジャズ事情I(前)[水3]	中川 ヨウ	・・・・・・・・	2788
楽器と演奏論[月2]	森 威功	・・・・・・・・	2791
音楽分析総合講座[月5]	松下 倫士	・・・・・・・・	2794
音楽鑑賞論[金4]	那須田 務	・・・・・・・・	2797
日本音楽史(後)[金2]	森重 行敏	・・・・・・・・	2800
東洋音楽史(後)[月4]	山本 華子	・・・・・・・・	2803

教職論(前)[月1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2806
教職論(前)[月1]Bクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2809
教職論(前)[月1]Cクラス	根岸　久明	・・・・・・・・	2812
教職論(前)[月1]Dクラス	伊藤　民子	・・・・・・・・	2815
教職論(前)[月1]Eクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2818
教育原理(後)[月1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2821
教育原理(後)[月1]Bクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2824
教育原理(後)[月1]Cクラス	根岸　久明	・・・・・・・・	2827
教育原理(後)[月1]Dクラス	伊藤　民子	・・・・・・・・	2830
教育原理(後)[月1]Eクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2833
教育心理学(前)[月2]Aクラス	尾曽　亮彦	・・・・・・・・	2836
教育心理学(後)[月2]Bクラス	尾曽　亮彦	・・・・・・・・	2839
教育の制度と経営(前)[木1]Aクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	2842
教育の制度と経営(前)[木1]Bクラス	髙橋　基之	・・・・・・・・	2845
教育の制度と経営(後)[木1]Cクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	2848
教育の制度と経営(後)[木1]Dクラス	髙橋　基之	・・・・・・・・	2851
教育課程の研究／教育課程論(前)[月2]Aクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2854
教育課程の研究／教育課程論(前)[月2]Bクラス	伊藤　民子	・・・・・・・・	2857
教育課程の研究／教育課程論(後)[月2]Cクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2860
教育課程の研究／教育課程論(後)[月2]Dクラス	伊藤　民子	・・・・・・・・	2863
道徳指導法(前)[水1]Aクラス	担当教員	・・・・・・・・	2866
道徳指導法(前)[水1]Bクラス	石川　勉	・・・・・・・・	2869
道徳指導法(前)[水1]Cクラス	野中　隆	・・・・・・・・	2872
道徳指導法(前)[水1]Dクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2875
道徳指導法(前)[水1]Eクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2878
音楽科教育法I(前)[火2]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2881
音楽科教育法I(前)[火2]Bクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2884
音楽科教育法I(前)[火2]Cクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2887
音楽科教育法I(前)[火2]Dクラス	秋元　みさ子	・・・・・・・・	2890
音楽科教育法I(前)[火2]Eクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2893
音楽科教育法I(前)[火2]Fクラス	和田　崇	・・・・・・・・	2896
音楽科教育法II(後)[火2]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2899
音楽科教育法II(後)[火2]Bクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2902
音楽科教育法II(後)[火2]Cクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2905
音楽科教育法II(後)[火2]Dクラス	秋元　みさ子	・・・・・・・・	2908
音楽科教育法II(後)[火2]Eクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2911
音楽科教育法II(後)[火2]Fクラス	和田　崇	・・・・・・・・	2914
音楽科教育法III(前)[金1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2917
音楽科教育法III(前)[金1]Bクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2920

音楽科教育法Ⅲ(前)[金1]Cクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2923
音楽科教育法Ⅲ(前)[金1]Dクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2926
音楽科教育法Ⅲ(前)[金1]Eクラス	三戸　誠	・・・・・・・・	2929
音楽科教育法Ⅲ(前)[金2]Fクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2932
音楽科教育法Ⅲ(前)[金2]Gクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2935
音楽科教育法Ⅲ(前)[金2]Hクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2938
音楽科教育法Ⅲ(前)[金2]Jクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2941
音楽科教育法Ⅲ(前)[金2]Kクラス	西田　豊	・・・・・・・・	2944
音楽科教育法Ⅳ(後)[金1]Aクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2947
音楽科教育法Ⅳ(後)[金1]Bクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2950
音楽科教育法Ⅳ(後)[金1]Cクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2953
音楽科教育法Ⅳ(後)[金1]Dクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2956
音楽科教育法Ⅳ(後)[金1]Eクラス	三戸　誠	・・・・・・・・	2959
音楽科教育法Ⅳ(後)[金2]Fクラス	吉田　真理子	・・・・・・・・	2962
音楽科教育法Ⅳ(後)[金2]Gクラス	尾形　敏幸	・・・・・・・・	2965
音楽科教育法Ⅳ(後)[金2]Hクラス	高橋　辰也	・・・・・・・・	2968
音楽科教育法Ⅳ(後)[金2]Jクラス	金井　公美子	・・・・・・・・	2971
音楽科教育法Ⅳ(後)[金2]Kクラス	西田　豊	・・・・・・・・	2974
特別活動指導法(前)[金1]Aクラス	並木　正	・・・・・・・・	2977
特別活動指導法(前)[金1]Bクラス	根岸　久明	・・・・・・・・	2980
特別活動指導法(前)[金1]Cクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2983
特別活動指導法(後)[金1]Dクラス	並木　正	・・・・・・・・	2986
特別活動指導法(後)[金1]Eクラス	根岸　久明	・・・・・・・・	2989
特別活動指導法(後)[金1]Fクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2992
教育方法・技術論(前)[火2]Aクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	2995
教育方法・技術論(前)[火2]Bクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	2998
教育方法・技術論(後)[火2]Cクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	3001
教育方法・技術論(後)[火2]Dクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	3004
生徒指導の研究(進路指導を含む)(前)[木1]Aクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	3007
生徒指導の研究(進路指導を含む)(前)[木1]Bクラス	田神　仁	・・・・・・・・	3010
生徒指導の研究(進路指導を含む)(後)[木1]Cクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	3013
生徒指導の研究(進路指導を含む)(後)[木1]Dクラス	田神　仁	・・・・・・・・	3016
教育相談の方法論(後)[水1]Aクラス	担当教員	・・・・・・・・	3019
教育相談の方法論(後)[水1]Bクラス	石川　勉	・・・・・・・・	3022
教育相談の方法論(後)[水1]Cクラス	野中　隆	・・・・・・・・	3025
教育相談の方法論(後)[水1]Dクラス	中村　一哉	・・・・・・・・	3028
教育相談の方法論(後)[水1]Eクラス	齋藤　孝	・・・・・・・・	3031
R＆P・ヒストリー[木3]	前野　知常	・・・・・・・・	3034
ミュージック・ビジネス[火4]	岡本　健志	・・・・・・・・	3037

ジャズハーモニーI-1／ジャズハーモニー1（前）[水2]Aクラス	香取　良彦	・・・・・・・・	3040
ジャズハーモニーI-1／ジャズハーモニー1（前）[水4]Bクラス	今泉　正明	・・・・・・・・	3043
ジャズハーモニーI-1／ジャズハーモニー1（前）[月5]Cクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	3046
ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー2（後）[水2]Aクラス	香取　良彦	・・・・・・・・	3049
ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー2（後）[水4]Bクラス	今泉　正明	・・・・・・・・	3052
ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー2（後）[月5]Cクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	3055
ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー3（前）[水3]Aクラス	香取　良彦	・・・・・・・・	3058
ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー3（前）[木2]Bクラス	今泉　正明	・・・・・・・・	3061
ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー3（前）[火4]Cクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	3064
ジャズハーモニーII-2／ジャズハーモニー4（後）[水3]Aクラス	香取　良彦	・・・・・・・・	3067
ジャズハーモニーII-2／ジャズハーモニー4（後）[木2]Bクラス	今泉　正明	・・・・・・・・	3070
ジャズハーモニーII-2／ジャズハーモニー4（後）[火4]Cクラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	3073
R＆P・ベーシックス（前）[火3]	前野　知常	・・・・・・・・	3076
R＆P・セオリー（後）[火3]	前野　知常	・・・・・・・・	3079
R＆P・ソルフェージュⅠ（前）[木4]Aクラス	川村　ケン	・・・・・・・・	3082
R＆P・ソルフェージュⅠ（前）[木4]Bクラス	前野　知常	・・・・・・・・	3085
R＆P・ソルフェージュⅡ（後）[木4]Aクラス	川村　ケン	・・・・・・・・	3088
R＆P・ソルフェージュⅡ（後）[木4]Bクラス	前野　知常	・・・・・・・・	3091
R＆P・ソルフェージュⅢ（前）[火3]Aクラス	高橋　利光	・・・・・・・・	3094
R＆P・ソルフェージュⅢ（前）[火3]Bクラス	西平　彰	・・・・・・・・	3097
芸術史[火5]	瀧本　みわ	・・・・・・・・	3100
法学（日本国憲法）（前）[水1]P1クラス	伊東　明子	・・・・・・・・	3103
法学（日本国憲法）（前）[水1]P2クラス	大久保　悠貴	・・・・・・・・	3106
法学（日本国憲法）（後）[水1]Q1クラス	伊東　明子	・・・・・・・・	3109
法学（日本国憲法）（後）[水1]Q2クラス	大久保　悠貴	・・・・・・・・	3112
法学（日本国憲法）（後）[水1]Q3クラス	田上　雄大	・・・・・・・・	3115
社会福祉論（前）[木1]Pクラス	高橋　幸裕	・・・・・・・・	3118
社会福祉論（後）[木1]Qクラス	高橋　幸裕	・・・・・・・・	3121
ビジネス講座（秘書検定対策）（前）[金3]P1クラス	稲又　可奈	・・・・・・・・	3124
ビジネス講座（秘書検定対策）（後）[金2]Q1クラス	稲又　可奈	・・・・・・・・	3127
ビジネス講座（秘書検定対策）（後）[金3]Q2クラス	稲又　可奈	・・・・・・・・	3130
音響学1[金5]	桐生　昭吾	・・・・・・・・	3133
情報機器の操作（前）[月4]P1クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3136
情報機器の操作（前）[火2]P2クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3139
情報機器の操作（前）[火3]P3クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3142
情報機器の操作（前）[水2]P4クラス	林　洋子	・・・・・・・・	3145
情報機器の操作（前）[金2]P5クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3148
情報機器の操作（後）[月4]Q1クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3151
情報機器の操作（後）[火3]Q3クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3154

情報機器の操作(後)[水2]Q5クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3157
情報機器の操作(後)[金2]Q6クラス	金内　真紀	・・・・・・・・	3160
情報機器の操作(後)[金3]Q7クラス	相馬　健太	・・・・・・・・	3163
保健体育(前)[水1]P1クラス	田中　良	・・・・・・・・	3166
保健体育(前)[水1]P2クラス	片瀬　文雄	・・・・・・・・	3169
保健体育(前)[水1]P3クラス	髙尾　尚平	・・・・・・・・	3172
保健体育(前)[水2]P4クラス	田中　良	・・・・・・・・	3175
保健体育(後)[水1]Q1クラス	田中　良	・・・・・・・・	3178
保健体育(後)[水1]Q2クラス	片瀬　文雄	・・・・・・・・	3181
保健体育(後)[水1]Q3クラス	髙尾　尚平	・・・・・・・・	3184
保健体育(後)[水2]Q4クラス	田中　良	・・・・・・・・	3187
経済学[火1]Aクラス	斎藤　英明	・・・・・・・・	3190
経済学[火1]Bクラス	小林　和馬	・・・・・・・・	3193
著作権法(前)[金1]P1クラス	宮下　義樹	・・・・・・・・	3196
著作権法(前)[金1]P2クラス	齋藤　崇	・・・・・・・・	3199
著作権法(後)[金1]Q1クラス	宮下　義樹	・・・・・・・・	3202
著作権法(後)[金1]Q2クラス	齋藤　崇	・・・・・・・・	3205
ジェンダー[金5]	大森　美佐	・・・・・・・・	3208
読解力養成講座1(前)[火3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3211
読解力養成講座1(前)[火4]Bクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3214
読解力養成講座2(後)[火3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3217
読解力養成講座2(後)[火4]Bクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3220
文章力養成講座1(前)[月5]Aクラス	山口　壽郎	・・・・・・・・	3223
文章力養成講座1(前)[水5]Bクラス	山口　壽郎	・・・・・・・・	3226
文章力養成講座2(後)[月5]Aクラス	山口　壽郎	・・・・・・・・	3229
文章力養成講座2(後)[水5]Bクラス	山口　壽郎	・・・・・・・・	3232
分析力養成講座1(前)[木3]Aクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	3235
分析力養成講座1(前)[木4]Bクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	3238
分析力養成講座2(後)[木3]Aクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	3241
分析力養成講座2(後)[木4]Bクラス	原田　晴夫	・・・・・・・・	3244
外国文学(後)[金5]	遠藤　紀明	・・・・・・・・	3247
西洋文化史(前)[火2]Pクラス	長谷川　美子	・・・・・・・・	3250
西洋文化史(後)[火2]Qクラス	長谷川　美子	・・・・・・・・	3253
テクノロジーと芸術(前)[月5]Pクラス	森　威功	・・・・・・・・	3256
テクノロジーと芸術(後)[月5]Qクラス	森　威功	・・・・・・・・	3259
芸術と社会(前)[水2]Pクラス	姫田　大	・・・・・・・・	3262
芸術と社会(後)[水2]Qクラス	姫田　大	・・・・・・・・	3265
音響工学芸術論(前)[火1]クラシック系	富　正和	・・・・・・・・	3268
音響工学芸術論(後)[火1]コンテンポラリー系	富　正和	・・・・・・・・	3271

プロデュース論／プロデュース学(前)[火1]コンテンポラリー系	徳永　宏	・・・・・・・・	3274
プロデュース論／プロデュース学(後)[火1]クラッシク系	徳永　宏	・・・・・・・・	3277
舞踊史１(前)[火1]	市瀬　陽子	・・・・・・・・	3280
舞踊史２(後)[火1]	市瀬　陽子	・・・・・・・・	3283
運動生理学(前)[火1]	吉沢　剛	・・・・・・・・	3286
解剖学(前)[火4]	杉本　亮子	・・・・・・・・	3289
動作学(後)[火4]	杉本　亮子	・・・・・・・・	3292
芸術史I(前)[火5]	瀧本　みわ	・・・・・・・・	3295
芸術史II(後)[火5]	瀧本　みわ	・・・・・・・・	3298
音響学I(前)[金5]	桐生　昭吾	・・・・・・・・	3301
音響学II(後)[金5]	桐生　昭吾	・・・・・・・・	3304
経済学I(前)[火1]Aクラス	斎藤　英明	・・・・・・・・	3307
経済学I(前)[火1]Bクラス	小林　和馬	・・・・・・・・	3310
経済学II(後)[火1]Aクラス	斎藤　英明	・・・・・・・・	3313
経済学II(後)[火1]Bクラス	小林　和馬	・・・・・・・・	3316
ジェンダーI(前)[金5]	大森　美佐	・・・・・・・・	3319
ジェンダーII(後)[金5]	青木　由香	・・・・・・・・	3322
心理学I(前)[火5]	後藤　進吾	・・・・・・・・	3325
心理学II(後)[火5]	後藤　進吾	・・・・・・・・	3328
栄養学(後)[火1]	岸　昌代	・・・・・・・・	3331
演奏会実習[火3]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	3334
専攻科特殊研究１	担当教員	・・・・・・・・	3337
専攻科特殊研究２	担当教員	・・・・・・・・	3340
専攻科特殊研究３	担当教員	・・・・・・・・	3343
専攻科特殊研究４	担当教員	・・・・・・・・	3346
専攻科特殊研究５	担当教員	・・・・・・・・	3349
コンチェルト[水4]	赤塚　博美	・・・・・・・・	3352
アンサンブル(後)[金3]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	3355
修了研究	柳澤　涼子	・・・・・・・・	3358
海外研修	柳澤　涼子	・・・・・・・・	3361
邦楽サウンド論[土3]	山口　賢治	・・・・・・・・	3364
ピアノ演奏史[木4]Aクラス	武田　一彦	・・・・・・・・	3367
ピアノ演奏史[木5]Bクラス	武田　一彦	・・・・・・・・	3370
オペラ史(後)[火2]	青島　広志	・・・・・・・・	3373
日本の伝統芸能と音楽[木3]Aクラス	森重　行敏	・・・・・・・・	3376
日本の伝統芸能と音楽[月5]Bクラス	山本　華子	・・・・・・・・	3379
諸民族の音楽(前)[月4]Aクラス	浦本　裕子	・・・・・・・・	3382
諸民族の音楽(前)[火2]Bクラス	浦本　裕子	・・・・・・・・	3385
古代、中世、ルネッサンスの音楽史(前)[水2]Aクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3388

古代、中世、ルネッサンスの音楽史（前）[水4]Bクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3391
バロックの音楽史（後）[水2]Aクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3394
バロックの音楽史（後）[水4]Bクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3397
バロックの音楽史（後）[水2]Cクラス	担当教員	・・・・・・・・	3400
古典派の音楽史（前）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3403
古典派の音楽史（前）[水4]Bクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	3406
古典派の音楽史（前）[金4]Cクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	3409
古典派の音楽史（前）[木3]Dクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3412
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	・・・・・・・・	3415
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[水4]Bクラス	大宅　緒	・・・・・・・・	3418
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[金4]Cクラス	西釋　英里香	・・・・・・・・	3421
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Dクラス	尾山　真弓	・・・・・・・・	3424
日本音楽史（後）[金2]	森重　行敏	・・・・・・・・	3427
東洋音楽史（後）[月4]	山本　華子	・・・・・・・・	3430
音楽史[火2]クラシック（佐藤昌弘先生）クラス	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	3433
音楽史[火2]ポピュラー（香取良彦先生）クラス	香取　良彦	・・・・・・・・	3436
実用音楽講座（前）[月4]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	3439
作曲法・編曲法I【仮登録】（前）[金2]	未定	・・・・・・・・	3442
作曲法・編曲法I【仮登録】（後）[金2]	未定	・・・・・・・・	3445
作曲法・編曲法II【仮登録】（後）[金2]	未定	・・・・・・・・	3448
音楽分析基礎講座[仮登録/シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	3451
対位法【仮登録】[金3]	未定	・・・・・・・・	3454
キーボードハーモニー[仮登録/シラバス用]	秋本　康子	・・・・・・・・	3457
教職伴奏法【仮登録】（前）[火1]	谷川　明	・・・・・・・・	3460
教職伴奏法【仮登録】（後）[火1]	谷川　明	・・・・・・・・	3463
教職伴奏法【仮登録】（前）[火3]	皆川　純一	・・・・・・・・	3466
教職伴奏法【仮登録】（後）[火3]	皆川　純一	・・・・・・・・	3469
スコアリーディング[仮登録/シラバス用]	森　佳子	・・・・・・・・	3472
器楽曲伴奏法I-１[仮登録/シラバス用]	山本　佳世子	・・・・・・・・	3475
器楽曲伴奏法I-２[仮登録/シラバス用]	平沢　由美子	・・・・・・・・	3478
歌曲伴奏法I-１／歌曲伴奏法Ⅰ[仮登録/シラバス用]	押川　涼子	・・・・・・・・	3481
歌曲伴奏法I-２／歌曲伴奏法Ⅱ[仮登録/シラバス用]	吉武　雅子	・・・・・・・・	3484
二重奏I／二重奏[仮登録/シラバス用]	白澤　暁子	・・・・・・・・	3487
初見視奏I[仮登録/シラバス用]	石田　多紀乃	・・・・・・・・	3490
初見視奏II[仮登録/シラバス用]	竹原　暁子	・・・・・・・・	3493
管弦楽内ピアノ奏法研究１～４[仮登録/シラバス用][木4]	小林　裕子	・・・・・・・・	3496
ポピュラー奏法特別研究１～４【仮登録】	三原　善隆	・・・・・・・・	3499
楽式論I[仮登録/シラバス用]	大江　千佳子	・・・・・・・・	3502
楽式論II[仮登録/シラバス用]	大江　千佳子	・・・・・・・・	3505

R＆P・ヴォイストレーニング[仮登録/シラバス用]	佐々木　久美	・・・・・・・・	3508
R＆P・アレンジⅠ【仮登録】(後)[水4]	坂井　紀雄	・・・・・・・・	3511
R＆P・アレンジⅡ【仮登録】(前)[水4]	坂井　紀雄	・・・・・・・・	3514
作詞／作曲Ⅰ【仮登録】(前)[金3]	丸山　圭子	・・・・・・・・	3517
作詞／作曲Ⅱ【仮登録】(後)[金3]	丸山　圭子	・・・・・・・・	3520
DTM実習1【仮登録】(前)[金2]	斉藤　光浩	・・・・・・・・	3523
DTM実習2【仮登録】(後)[金2]	斉藤　光浩	・・・・・・・・	3526
英語1-I【仮登録】(前)[水1]	永井　崇	・・・・・・・・	3529
英語1-I【仮登録】1年生クラス(前)[水2]	永井　崇	・・・・・・・・	3532
英語1-I【仮登録】(前)[水4]	伊藤　満里	・・・・・・・・	3535
英語1-I【仮登録】(前)[金3]	伊藤　満里	・・・・・・・・	3538
英語1-II【仮登録】(後)[水1]	永井　崇	・・・・・・・・	3541
英語1-II【仮登録】1年生クラス(後)[水2]	永井　崇	・・・・・・・・	3544
英語1-II【仮登録】(後)[水4]	伊藤　満里	・・・・・・・・	3547
英語1-II【仮登録】(後)[金3]	伊藤　満里	・・・・・・・・	3550
管弦楽概論[仮登録/シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	3553
ソルフェージュI【仮登録】(前)[木1]	未定	・・・・・・・・	3556
ソルフェージュII【仮登録】(前)[木2]	未定	・・・・・・・・	3559
和声学I【仮登録】(後)[月2]	未定	・・・・・・・・	3562
古典派の音楽史【仮登録】(前)[木3]	尾山　真弓	・・・・・・・・	3565
ロマン派、近・現代の音楽史【仮登録】(後)[木3]	尾山　真弓	・・・・・・・・	3568
R＆P・ソルフェージュⅠ【仮登録】(前)[木4]	前野　知常	・・・・・・・・	3571
R＆P・ソルフェージュⅡ【仮登録】(後)[木4]	前野　知常	・・・・・・・・	3574
R＆P・ソルフェージュⅢ【仮登録】(前)[火3]	高橋　利光	・・・・・・・・	3577
法学(日本国憲法)【仮登録】(前)[水1]	伊東　明子	・・・・・・・・	3580
法学(日本国憲法)【仮登録】(後)[水1]	伊東　明子	・・・・・・・・	3583
保健体育【仮登録】(前)[水1]	片瀬　文雄	・・・・・・・・	3586
保健体育【仮登録】(後)[水1]	片瀬　文雄	・・・・・・・・	3589
経済学【仮登録】[火1]	斎藤　英明	・・・・・・・・	3592
著作権法【仮登録】(前)[金1]	宮下　義樹	・・・・・・・・	3595
著作権法【仮登録】(後)[金1]	宮下　義樹	・・・・・・・・	3598
経済学I【仮登録】(前)[火1]	斎藤　英明	・・・・・・・・	3601
経済学II【仮登録】(後)[火1]	斎藤　英明	・・・・・・・・	3604
応用演奏会実習1-1～4-4応用演奏会実習[シラバス用]	複数指導教員	・・・・・・・・	3607
室内楽研究2～4[シラバス用](電子オルガン)	赤塚　博美	・・・・・・・・	3610
室内楽研究2～4[シラバス用](ピアノ)	清水　将仁	・・・・・・・・	3613
室内楽研究1～4[シラバス用](打)	石井　喜久子	・・・・・・・・	3616
室内楽研究1～4[シラバス用](弦)	水野　佐知香	・・・・・・・・	3619
室内楽研究1～4[シラバス用](管)	渡部　亨	・・・・・・・・	3622

ヴァイオリンとピアノによるデュオ（ソナタ）２～４[シラバス用]	市野　あゆみ	・・・・・・・・	3625
教育実習法（事前事後の指導を含む）	滝口　亮介	・・・・・・・・	3628

科目名	ＤＴＶ演習　［月3］Aクラス						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE0121A0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

デジタル技術を駆使した映像制作環境を体験しながら知識と技術を身につけ、各々が表現したいテーマに沿って映像作品を制作する。
既存の映像表現を考察しながら作品制作のヒントやアイディアを探り、授業内実習課題のなかで実際に形にする術を学ぶ。
学習成果を踏まえて年２回以上映像作品の自主制作を行う。

２．授業概要

自ら撮影した映像・画像データをコンピュータに取り込み、ソフトウェア上で加工・編集作業を行う。
映像自主制作に必要な素材をどのように準備するのか、また付随する音声・音楽とのかかわりにも着目する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作品制作で使用する様々な機器の取り扱いを把握し、実習課題や自主制作に役立てること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の25%）
授業内課題（評価の25%）
前期末課題作品（評価の25%）
後期自主制作作品（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で必要な私製PDFファイル/プリントを適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

機材やPCの台数に限りがあるので履修人数制限を行う場合がある。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本編集：トランジション
3	基本編集：クリップの拡大・移動・回転、テキストの入力
4	基本編集：キーフレーム
5	カメラワークの基本知識
6	カット/シーン/シークエンス、シーンをつなぐアイディア
7	映画のタイトルバックデザイン１　礎を築いたデザイナー達
8	映画のタイトルバックデザイン２　テーマ別スタイル考察
9	音声トラックの役割、絵コンテについて
10	前期課題作品制作　構成・絵コンテ
11	前期課題作品制作　撮影スケジュール
12	前期課題作品制作　撮影
13	前期課題作品制作　編集
14	前期課題作品制作　編集　仕上げ
15	前期課題作品鑑賞／講評

授業計画	
	［後期］
1	映像加工の手法1 色調補正、描画モードの活用
2	映像加工の手法２ テキスト表現、トラッキング
3	マスク合成について
4	カメラワークの技法
5	ミュージック・クリップ考察1 楽曲からの発想とアイディア
6	ミュージック・クリップ考察２ テーマ別スタイル考察
7	ショートフィルム作品考察
8	カット割りと音声編集　実習
9	後期自主制作　企画・構成
10	後期自主制作　絵コンテ
11	後期自主制作　撮影スケジュール
12	後期自主制作　撮影
13	後期自主制作　編集
14	後期自主制作　編集　仕上げ
15	後期自主制作作品鑑賞／講評

科目名	ＤＴＶ演習　[火4] Bクラス						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE0121B0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	冨永　憲治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際に映像作品を制作し、映像を自己表現のツールとして活用することを目指す。故にカメラの使い方や、アプリケーションの操作の習得に終始するのではない。テーマを明確にし、的確な映像表現を模索しながら制作にあたる。また、映像と音楽の関係にも着目していく。共同作業を進めるにあたって、自分のイメージを的確に他者に伝える事ができるように努力する。

２．授業概要

本講座は複数開講されている。したがってクラスにより方針や内容、進度が異なるので初回の講義により各自判断して欲しい。
基礎的な映像制作のプロセス（企画・構成・シナリオ・コンテ・準備）を学習し、「3分間ムービー」及び、「自己PR-CM」を制作。又はチュートリアルを中心とした編集技術の向上を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

企画構成、シナリオといった作業は、授業外でも積極的に取り組んで欲しい。また、グループ制作の学生は、授業外でのディスカッションも必要となる。特に、授業を休んだ場合には、必ず遅れを取り戻す努力をすること。

４．成績評価の方法及び基準

完成作品の評価だけではなく、制作過程を重視する。前期授業評価25%、後期授業評価25%、作品25%､提出物10%､最終作品15%である。グループ作品の場合でも、個々に評価が違うことがある。他作品への参加や支援、も評価の対象となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

映像と音楽の基礎知識を得るために、「映像と音楽」の講義を履修することが望ましい。カメラ機材、PC並びに周辺機器は大学の機材を使用するが、SDカードは各人で購入すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

カメラ機材やPCに限りがあるので、履修制限をお願いすることがある。必ず初回授業に出席すること。欠席の場合履修不可となります。本年度より、一年のみの履修となりますので、積極的に取り組む意欲が必要です。グループ制作を希望しても、教員の判断で認めない場合もある。*特に留意する点：作品制作中は進度がそれぞれ異なります。特にグループ制作では、他のメンバーに迷惑をかけないよう節度をわきまえて参加すること。

授業計画	
	［前期］ 映像の基礎、カメラやアプリケーションの基礎を習得する。企画構成、脚本、コンテ、スケジュール構築、撮影準備、撮影を実施する。
1	ガイダンス
2	機材の取り扱いについて カメラ・三脚・マイクなどの借用について
3	カメラの使い方 取り扱い、操作方法、zooming
4	PCへの取り込み方法
5	作品企画立案
6	企画・構成作成
7	構成・シナリオ作成
8	構成・コンテ作成
9	コンテ作成１
10	コンテ作成２
11	撮影計画立案
12	撮影準備・ロケハン
13	撮影準備 美術、小道具などの準備、検証
14	撮影・音楽イメージ打ち合わせ
15	撮影

授業計画	
	［後期］ PCによる編集・ダビングなどポスプロ作業を行い、映像作品を完成させる。
1	撮影２
2	ラッシュ試写 確認後リテイク・撮り足し撮影を決定
3	編集１ PCに素材を取り込み編集
4	編集２
5	編集ラッシュ試写・ダビング打ち合わせ
6	ダビング１ 音響効果、音楽、ナレーション、アフレコなど作業
7	ダビング２
8	完成試写
9	「自己PR-CM」作品企画構成
10	構成・コンテ作成
11	撮影１
12	撮影２
13	撮影・編集
14	編集・ダビング
15	最終提出・上映・講評

科目名	ＤＴＶ演習　[水5] Cクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0121C0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際に映像作品を制作し、映像を自己表現のツールとして活用することを目指す。故にカメラの使い方や、アプリケーションの操作の習得に終始するのではない。テーマを明確にし、的確な映像表現を模索しながら制作にあたる。また、映像と音楽の関係にも着目していく。共同作業を進めるにあたって、自分のイメージを的確に他者に伝える事ができるように努力する。

２．授業概要

本講座は複数開講されている。したがってクラスにより方針や内容、進度が異なるので初回の講義により各自判断して欲しい。
基礎的な映像制作のプロセス（企画・構成・シナリオ・コンテ・準備）を学習し、「3分間ムービー」及び、「自己PR-CM」を制作。又はチュートリアルを中心とした編集技術の向上を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

企画構成、シナリオといった作業は、授業外でも積極的に取り組んで欲しい。また、グループ制作の学生は、授業外でのディスカッションも必要となる。特に、授業を休んだ場合には、必ず遅れを取り戻す努力をすること。

４．成績評価の方法及び基準

完成作品の評価だけではなく、制作過程を重視する。前期授業評価25%、後期授業評価25%、作品25%､提出物10%､最終作品15%である。グループ作品の場合でも、個々に評価が違うことがある。他作品への参加や支援も評価の対象となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

映像と音楽の基礎知識を得るために、「映像と音楽」の講義を履修することが望ましい。カメラ機材、PC並びに周辺機器は大学の機材を使用するが、SDカードは各人で購入すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

カメラ機材やPCに限りがあるので、履修制限をお願いすることがある。必ず初回授業に出席すること。欠席の場合履修不可となります。本年度より、一年のみの履修となりますので、積極的に取り組む意欲が必要です。グループ制作を希望しても、教員の判断で認めない場合もある。*特に留意する点：作品制作中は進度がそれぞれ異なります。特にグループ制作では、他のメンバーに迷惑をかけないよう節度をわきまえて参加すること。

授業計画	
	［前期］ 映像の基礎、カメラやアプリケーションの基礎を習得する。企画構成、脚本、コンテ、スケジュール構築、撮影準備、撮影を実施する。
1	ガイダンス
2	機材の取り扱いについて カメラ・三脚・マイクなどの借用について
3	カメラの使い方 取り扱い、操作方法、zooming
4	PCへの取り込み方法
5	作品企画立案
6	企画・構成作成
7	構成・シナリオ作成
8	シナリオ・コンテ作成
9	コンテ１
10	コンテ２
11	撮影計画立案
12	撮影準備・ロケハン
13	撮影準備 美術、小道具などの準備、検証
14	撮影・音楽イメージ打ち合わせ
15	撮影１

授業計画	
	［後期］ PCによる編集・ダビングなどポスプロ作業を行い、映像作品を完成させる。
1	撮影２
2	ラッシュ試写 確認後リテイク・撮り足し撮影を決定
3	編集１ PCに素材を取り込み編集
4	編集２
5	編集ラッシュ試写・ダビング打ち合わせ
6	ダビング１ 音響効果、音楽、ナレーション、アフレコなど作業
7	ダビング２
8	完成試写
9	「自己PR-CM」作品企画構成
10	構成・コンテ作成
11	撮影１
12	撮影２
13	撮影・編集
14	編集・ダビング
15	最終提出・上映・講評

科目名	ＤＴＶ演習　［金4］Dクラス						
代表教員	舘田　ゆり	授業コード	GE0121D0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

PCを使った音楽制作＝ＤＴＭ（デスクトップミュージック）が一般化しただけでなく、ＤＴＶ（デスクトップビデオ）も浸透してきたことにより、音楽だけでなく映像も1人の手によって制作することが可能になっているこの時代に合わせ、
小さな映像作品を作り上げる。

２．授業概要

デジタルビデオカメラやデジタルスチルカメラで撮影した映像・画像、さらには手描きの絵をスキャンしたデータを
ＰＣに取り込んで、編集し作品に仕上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習授業なので、繰り返しの練習が必須。
機器の取り扱いにも習熟すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加が重要。
課題の提出は必須条件。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

PCの基本操作に習熟していること。
PCの台数により人数制限もあり得る。
映像・音楽などを扱うので著作物に注意のこと。

授業計画	
	［前期］ ごく短い映像作品を作り、カメラの使い方、 初歩の編集を学ぶ。
1	ガイダンス 概要説明 　作品の視聴 　各自用のメディアを確認
2	カメラと三脚の使い方 　メニューの設定 画角（望遠と広角）の選択 ピント、手ぶれなどの注意
3	撮影の練習
4	ＰＣへの取り込み
5	作品の企画台本 コンテなどの検討
6	コンテ制作、提出
7	素材の撮影　１ 　　カメラ・三脚・ライトなど機材の確認とチェック
8	素材の撮影　２
9	素材の撮影　３ 　　音楽などの確認、創作、演奏
10	素材の撮影　４ 　　撮影済み素材の確認
11	取り込み 編集作業　１
12	編集作業　２ 　　ラフ編集
13	編集作業　３ 　　途中経過の確認
14	編集作業　４ 　途中経過の報告
15	この時点での編集を確認 　残りの作業の確認と日程調整

授業計画	
	［後期］ ２つめの作品として、課題に沿った映像作品を作る。 公開することもあるので、著作権に注意のこと。 原則として、オリジナルの素材を使うこと。
1	提出日までの日程確認 編集作業　５
2	編集作業　６
3	編集作業　７ 音の確認など
4	編集作業　８ 文字入れなど
5	編集作業　９
6	編集作業　10 時間調整
7	仕上げ 書き出しの確認
8	上映準備
9	第２作への企画
10	構成、コンテ
11	撮影作業　１
12	撮影作業　２
13	撮影作業　３ 編集作業
14	編集作業 最終チェック
15	課題提出

科目名	ＤＴＰ演習　［月4］Aクラス						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE0122A0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。またコンピューターの台数が限られているため履修制限する場合がある。
また、この講座の内容は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。 また後半では、外注に必要な描画モードの設定など、Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	写真加工の基礎（デジカメ撮影の注意点、印刷解像度など）
3	PhotoShopによる写真の修正１（大きさ、切り抜き）
4	PhotoShopによる写真の修正２（キズ、ゴミなどの修正）
5	PhotoShopによる写真の修正３（明るさなど色あいの変更）
6	PhotoShopによる写真の修正４（画像の合成と加工１）
7	PhotoShopによる写真の修正５（画像の合成と加工２）
8	PhotoShopによる写真の修正６（写真の描画のモード変更、RGBからCMYKへの変換出力など）
9	PhotoShopによる写真加工の課題
10	Illustratorの操作１（Illustrator概要と役割及び、入稿条件に合わせてプロジェクトの設定他）
11	Illustratorの操作２（オブジェクト、線の描き方、色の設定、図形の大きさの変更）
12	Illustratorの操作３（文字の入力、整列、文字の流し込み、文字の装飾）
13	Illustratorの操作４（写真の配置、図形で型抜き、配置のポイント）
14	Illustratorの操作５（文字のアウトライン化、レイヤーの統合、塗り足しなど、入稿チェックのポイント）
15	Illustratorの操作６（Illustratorによるレイアウト課題）

授業計画	
	［後期］ 演奏会のフライヤーやプログラム、あるいはCDのパッケージなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	演奏会フライヤー制作１（企画、素材準備）
2	演奏会フライヤー制作２（素材準備と加工）
3	演奏会フライヤー制作３（レイアウト）
4	演奏会フライヤー制作４（仕上げ）
5	演奏会プログラムの制作１（企画、素材準備）
6	演奏会プログラムの制作２（素材準備と加工）
7	演奏会プログラムの制作３（レイアウト）
8	演奏会プログラムの制作４（仕上げ）
9	CDジャケットの制作１（企画、素材準備）
10	CDジャケットの制作２（素材準備と加工）
11	CDジャケットの制作３（レイアウト、仕上げ）
12	CDライナーノーツの制作１（企画、素材準備）
13	CDライナーノーツの制作２（素材準備と加工）
14	CDライナーノーツの制作３（レイアウト、仕上げ）
15	各課題の発表

科目名	ＤＴＰ演習　［火3］Bクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0122B0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	林　洋子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、かつてのグラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
課題提出（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

PDFファイルを適宜配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。またコンピューターの台数が限られているため履修制限する場合がある。
その他、講座の内容は初心者が履修できるレベルを想定したものとなっている。

授業計画	
	［前期］
1	講座の目的と概要の説明
2	写真加工の基礎（デジカメ撮影の注意点、印刷解像度など）
3	PhotoShopによる写真の修正１（大きさ、切り抜き）
4	PhotoShopによる写真の修正２（キズ、ゴミなどの修正）
5	PhotoShopによる写真の修正３（明るさなど色あいの変更）
6	PhotoShopによる写真の修正４（画像の合成と加工１）
7	PhotoShopによる写真の修正５（画像の合成と加工２）
8	PhotoShopによる写真の修正６（写真の描画のモード変更、RGBからCMYKへの変換出力など）
9	PhotoShopによる写真加工の課題
10	Illustratorの操作１（Illustrator概要と役割及び、入稿条件に合わせてプロジェクトの設定他）
11	Illustratorの操作２（オブジェクト、線の描き方、色の設定、図形の大きさの変更）
12	Illustratorの操作３（文字の入力、整列、文字の流し込み、文字の装飾）
13	Illustratorの操作４（写真の配置、図形で型抜き、配置のポイント）
14	Illustratorの操作５（文字のアウトライン化、レイヤーの統合、塗り足しなど、入稿チェックのポイント）
15	Illustratorの操作６（Illustratorによるレイアウト課題）

授業計画	
	［後期］
1	演奏会フライヤー制作１（企画、素材準備）
2	演奏会フライヤー制作２（素材準備と加工）
3	演奏会フライヤー制作３（レイアウト）
4	演奏会フライヤー制作４（仕上げ）
5	演奏会プログラムの制作１（企画、素材準備）
6	演奏会プログラムの制作２（素材準備と加工）
7	演奏会プログラムの制作３（レイアウト）
8	演奏会プログラムの制作４（仕上げ）
9	CDジャケットの制作１（企画、素材準備）
10	CDジャケットの制作２（素材準備と加工）
11	CDジャケットの制作３（レイアウト、仕上げ）
12	CDライナーノーツの制作１（企画、素材準備）
13	CDライナーノーツの制作２（素材準備と加工）
14	CDライナーノーツの制作３（レイアウト、仕上げ）
15	各課題の発表

科目名	ＤＴＰ演習　[水4] Cクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0122C0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、かつてのグラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
課題提出（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

PDFファイルを適宜配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。またコンピューターの台数が限られているため履修制限する場合がある。
その他、講座の内容は初心者が履修できるレベルを想定したものとなっている。

授業計画	
	［前期］
1	講座の目的と概要の説明
2	写真加工の基礎（デジカメ撮影の注意点、印刷解像度など）
3	PhotoShopによる写真の修正１（大きさ、切り抜き）
4	PhotoShopによる写真の修正２（キズ、ゴミなどの修正）
5	PhotoShopによる写真の修正３（明るさなど色あいの変更）
6	PhotoShopによる写真の修正４（画像の合成と加工１）
7	PhotoShopによる写真の修正５（画像の合成と加工２）
8	PhotoShopによる写真の修正６（写真の描画のモード変更、RGBからCMYKへの変換出力など）
9	PhotoShopによる写真加工の課題
10	Illustratorの操作１（Illustrator概要と役割及び、入稿条件に合わせてプロジェクトの設定他）
11	Illustratorの操作２（オブジェクト、線の描き方、色の設定、図形の大きさの変更）
12	Illustratorの操作３（文字の入力、整列、文字の流し込み、文字の装飾）
13	Illustratorの操作４（写真の配置、図形で型抜き、配置のポイント）
14	Illustratorの操作５（文字のアウトライン化、レイヤーの統合、塗り足しなど、入稿チェックのポイント）
15	Illustratorの操作６（Illustratorによるレイアウト課題）

授業計画	
	［後期］
1	演奏会フライヤー制作１（企画、素材準備）
2	演奏会フライヤー制作２（素材準備と加工）
3	演奏会フライヤー制作３（レイアウト）
4	演奏会フライヤー制作４（仕上げ）
5	演奏会プログラムの制作１（企画、素材準備）
6	演奏会プログラムの制作２（素材準備と加工）
7	演奏会プログラムの制作３（レイアウト）
8	演奏会プログラムの制作４（仕上げ）
9	CDジャケットの制作１（企画、素材準備）
10	CDジャケットの制作２（素材準備と加工）
11	CDジャケットの制作３（レイアウト、仕上げ）
12	CDライナーノーツの制作１（企画、素材準備）
13	CDライナーノーツの制作２（素材準備と加工）
14	CDライナーノーツの制作３（レイアウト、仕上げ）
15	各課題の発表

科目名	ＤＴＰ演習　［金3］Dクラス						
代表教員	舘田　ゆり	授業コード	GE0122D0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。またコンピューターの台数が限られているため履修制限する場合がある。
また、この講座の内容は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。 また後半では、外注に必要な描画モードの設定など、Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	写真加工の基礎（デジカメ撮影の注意点、印刷解像度など）
3	PhotoShopによる写真の修正１（大きさ、切り抜き）
4	PhotoShopによる写真の修正２（キズ、ゴミなどの修正）
5	PhotoShopによる写真の修正３（明るさなど色あいの変更）
6	PhotoShopによる写真の修正４（画像の合成と加工１）
7	PhotoShopによる写真の修正５（画像の合成と加工２）
8	PhotoShopによる写真の修正６（写真の描画のモード変更、RGBからCMYKへの変換出力など）
9	PhotoShopによる写真加工の課題
10	Illustratorの操作１（Illustrator概要と役割及び、入稿条件に合わせてプロジェクトの設定他）
11	Illustratorの操作２（オブジェクト、線の描き方、色の設定、図形の大きさの変更）
12	Illustratorの操作３（文字の入力、整列、文字の流し込み、文字の装飾）
13	Illustratorの操作４（写真の配置、図形で型抜き、配置のポイント）
14	Illustratorの操作５（文字のアウトライン化、レイヤーの統合、塗り足しなど、入稿チェックのポイント）
15	Illustratorの操作６（Illustratorによるレイアウト課題）

授業計画	
	［後期］ 演奏会のフライヤーやプログラム、あるいはCDのパッケージなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	演奏会フライヤー制作１（企画、素材準備）
2	演奏会フライヤー制作２（素材準備と加工）
3	演奏会フライヤー制作３（レイアウト）
4	演奏会フライヤー制作４（仕上げ）
5	演奏会プログラムの制作１（企画、素材準備）
6	演奏会プログラムの制作２（素材準備と加工）
7	演奏会プログラムの制作３（レイアウト）
8	演奏会プログラムの制作４（仕上げ）
9	CDジャケットの制作１（企画、素材準備）
10	CDジャケットの制作２（素材準備と加工）
11	CDジャケットの制作３（レイアウト、仕上げ）
12	CDライナーノーツの制作１（企画、素材準備）
13	CDライナーノーツの制作２（素材準備と加工）
14	CDライナーノーツの制作３（レイアウト、仕上げ）
15	各課題の発表

科目名	日本伝統芸能研究１～４　［木5］						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE033100	科目コード	GE0331d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし音楽に携わる者としては、日本には世界からも注目されている様々な伝統芸能が息づいていることを忘れてはならない。本講座では、日本舞踊を核とした日本の伝統芸能の一端を実際に研究し、体験する。身体を動かす、動きを音に合わせる、また、地方（じかた）として演奏も含めて、総合的に作品を捉えるなど体験する。具体的な目標な目標は下記の通り。
(1) 着物の着方を習得する。
(2) 基本的な所作を習得する。
(3) 和用小道具の使い方を習得する。
(4) 演目の中での表現力を習得する。
(5) 日本の伝統芸能の神髄を味わう。

２．授業概要

日本の伝統芸能の概要について映像や音源を通じて知るとともに、自分たちが取り組む分野への理解を深めていく。その上で、演じるための基礎を学んだのち、実際に演じる経験を積んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の伝統芸能には独特な用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後の復習の役立てることが望ましい。所作等の実習については、授業時間外にも自主的に反芻することで、習得の効果が高くなることを認識しておくこと。また、街中やTVなどで和服の人を見た時に着こなし等を注目するなど、普段の生活から自分の姿勢を意識することも重要。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）　実習への参加姿勢と成果（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講義内容に応じて必要があれば適宜プリント類を配布する。また、日本の伝統芸能や伝統音楽についての予備知識を得ておくに越したことはないので、下記の参考文献に少しでも目を通しておくことを推奨する。
参考文献：『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)　『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）　『日本の音』小泉文夫（青土社）
『はじめての世界音楽-諸民族の伝統音楽からポップスまで』柘植元一 塚田健一（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

(1) 浴衣一式（足袋、浴衣、帯、ひも）が用意できることが望ましい。
(2) 自国の文化を理解することは、専攻の分野を問わず大切なことです。好奇心や向上心を持って日本の文化を頭と身体で覚えましょう。

授業計画	
	【前期】日本の伝統芸能の概要を知るとともに、その基礎を経験しながら、研究を進める。
1	ガイダンス
2	着物（浴衣）の着方、日常的な所作、着物のたたみ方
3	簡単な所作、扇子の使い方
4	さまざまな日本舞踊を知る（映像資料も活用）
5	基礎的な踊り１～手踊りを知る
6	基礎的な踊り１～手踊りを経験する
7	基礎的な踊り２～扇子を使った踊りを知り経験する
8	日本の伝統芸能とは何か
9	日本の伝統芸能～音曲（雅楽、邦楽）
10	日本の伝統芸能～音曲（浄瑠璃節、唄）
11	日本の伝統芸能～演劇
12	日本の伝統芸能～舞踊
13	基礎的な踊り３～型と音の徹底を知る
14	基礎的な踊り３～型と音の徹底を経験する
15	前期統括

授業計画	
	【後期】前期の学修内容を基盤として、日本の伝統芸能をより深く研究していく。
1	男踊りの型・女踊りの型
2	長唄「寿」前半の把握
3	長唄「寿」後半の把握
4	長唄「寿」全体を覚える
5	長唄「寿」総括（手本なしで踊る）
6	長唄「京の四季」前半の把握
7	長唄「京の四季」後半の把握
8	長唄「京の四季」全体を覚える
9	長唄「京の四季」総括（手本なしで踊る）
10	長唄「京の四季」歌いながら踊る
11	生演奏と合わせる～リズムに合わせて踊る
12	生演奏と合わせる～踊りに演奏を合わせる
13	扇子を使った踊り総合研究～型と音の徹底の総括
14	扇子を使った踊り総合研究～型と音の徹底の総括を踏まえた実践
15	後期統括

科目名	日本の伝統的歌唱（民謡）　（集）１，２限　Ａクラス						
代表教員	柿﨑　竹美	授業コード	GE0335A0	科目コード	GE0335	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち民謡を取り上げる。民衆が日々の営みの中でうたい、伝えてきた民謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）民謡の声の音色や響き、言葉の特性（方言などを含む）および呼吸法・発声法の理解と技能
（２）《ソーラン節》《斎太郎節》などの民謡の理解と歌唱の技能
（３）音頭と掛声・囃子詞（はやしことば）の役割分担の理解と体験
（４）《秋田音頭》《花笠音頭》など舞踊を伴う民謡、および民謡の成立（労働・祭礼など）の背景の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業では、（１）の基本的な理解のもとに、（２）の《ソーラン節》《斎太郎節》など教材として取り上げられる民謡の歌唱を中心とする。その上で、（３）音頭（主唱）と掛声・囃子詞を分担して体験し、さらに民謡は労働の動きや舞踊の動きとも深くかかわっていることから、（４）では舞踊のある《秋田音頭》《花笠音頭》、労働の動きと深く結び付いた《ソーラン節》のもつ身体的文化的な側面を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．2回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】日本民謡協会編『民謡指導マニュアル』
【参考文献】講義中随時資料配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語・飲食物の持ち込み及び携帯電話使用は厳禁する。「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	[集中] 「民謡って何だろう？」呼吸法、発声法、こぶしなどの技法、民謡曲3曲の実唱。
1	民謡に関する基礎知識～唄の特性。民謡の呼吸法、基本的な発声（地声の出し方）、技法（こぶしなど）。課題曲《ソーラン節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。
2	《ソーラン節》こぶしを学ぶ。みんなでで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
3	《ソーラン節》復習。課題曲《斉太郎節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。こぶしを学ぶ。
4	《斉太郎節》みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる 。復習。
5	《秋田音頭》訛り・方言を学ぶ。みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
6	《秋田音頭》オリジナル歌詞をつくってみる。オリジナル歌詞を唄ってみる。
7	《秋田音頭》手踊りもあることを知る。
8	《ソーラン節》《斉太郎節》《秋田音頭》の復習。実技試験とまとめ。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（民謡）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	柿﨑　竹美	授業コード	GE0335B0	科目コード	GE0335	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち民謡を取り上げる。民衆が日々の営みの中でうたい、伝えてきた民謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）民謡の声の音色や響き、言葉の特性（方言などを含む）および呼吸法・発声法の理解と技能
（２）《ソーラン節》《斎太郎節》などの民謡の理解と歌唱の技能
（３）音頭と掛声・囃子詞（はやしことば）の役割分担の理解と体験
（４）《秋田音頭》《花笠音頭》など舞踊を伴う民謡、および民謡の成立（労働・祭礼など）の背景の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業では、（１）の基本的な理解のもとに、（２）の《ソーラン節》《斎太郎節》など教材として取り上げられる民謡の歌唱を中心とする。その上で、（３）音頭（主唱）と掛声・囃子詞を分担して体験し、さらに民謡は労働の動きや舞踊の動きとも深くかかわっていることから、（４）では舞踊のある《秋田音頭》《花笠音頭》、労働の動きと深く結び付いた《ソーラン節》のもつ身体的文化的な側面を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．2回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】日本民謡協会編『民謡指導マニュアル』
【参考文献】講義中随時資料配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語・飲食物の持ち込み及び携帯電話使用は厳禁する。「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	[集中] 「民謡って何だろう？」呼吸法、発声法、こぶしなどの技法、民謡曲3曲の実唱。
1	民謡に関する基礎知識～唄の特性。民謡の呼吸法、基本的な発声（地声の出し方）、技法（こぶしなど）。課題曲《ソーラン節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。
2	《ソーラン節》こぶしを学ぶ。みんなでで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
3	《ソーラン節》復習。課題曲《斉太郎節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。こぶしを学ぶ。
4	《斉太郎節》みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる 。復習。
5	《秋田音頭》訛り・方言を学ぶ。みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
6	《秋田音頭》オリジナル歌詞をつくってみる。オリジナル歌詞を唄ってみる。
7	《秋田音頭》手踊りもあることを知る。
8	《ソーラン節》《斉太郎節》《秋田音頭》の復習。実技試験とまとめ。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（謡曲）　（集）１，２限　Ａクラス						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE0336A0	科目コード	GE0336	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱の理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち謡曲、すなわち能の謡（うたい）を取り上げる。700年ほど前、室町時代に成立した能は現存する世界最古の舞台芸術とされ、その中で培われてきた謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）謡の声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法、および身体の使い方の理解と技能
（２）《羽衣》など代表的な能の謡の理解と歌唱表現の技能
（３）謡の間（ま）やリズムの理解と表現の技能
（４）能の舞踊的側面としての仕舞（しまい）の理解と体験、および総合芸術としての能の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業は、（２）教材でよく取り上げられる《羽衣》の謡の歌唱を中心とし、その活動を通して、（１）謡の声の使い方、適切な呼吸法・発声法、身体の使い方を謡の歌唱の中で学び取る。その上で、（３）能独特の間やリズムを囃子とかかわらせて理解して表現し、さらに（４）能の舞踊的側面である仕舞（しまい）を体験し、総合芸術としての能（面、装束、舞台など）についての理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものである。又謡や型の暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：観世流謡曲本『羽衣』他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

あくまで実技中心、謡い、舞う授業である。遅刻・私語は禁ずる。
また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。

授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、坐りやすい服装を、また仕舞の際は動きやすい服装をすること。

授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
	［集中］
1	日本の伝統演劇である能とは何か。DVD鑑賞。 能《羽衣》の説明。実技実習の導入。
2	実技実習（１）羽衣の謡、カマエ、ハコビの習得。
3	実技実習（２）羽衣の謡、基本の型の習得。
4	実技実習（３）羽衣の謡、羽衣の仕舞。
5	実技実習（４）羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
6	実技実習（５）羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
7	実技実習（６）試験に向けての仕上げ。羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
8	実技、筆記試験とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（謡曲）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE0336B0	科目コード	GE0336	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱の理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち謡曲、すなわち能の謡（うたい）を取り上げる。700年ほど前、室町時代に成立した能は現存する世界最古の舞台芸術とされ、その中で培われてきた謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）謡の声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法、および身体の使い方の理解と技能
（２）《羽衣》など代表的な能の謡の理解と歌唱表現の技能
（３）謡の間（ま）やリズムの理解と表現の技能
（４）能の舞踊的側面としての仕舞（しまい）の理解と体験、および総合芸術としての能の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業は、（２）教材でよく取り上げられる《羽衣》の謡の歌唱を中心とし、その活動を通して、（１）謡の声の使い方、適切な呼吸法・発声法、身体の使い方を謡の歌唱の中で学び取る。その上で、（３）能独特の間やリズムを囃子とかかわらせて理解して表現し、さらに（４）能の舞踊的側面である仕舞（しまい）を体験し、総合芸術としての能（面、装束、舞台など）についての理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものである。又謡や型の暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：観世流謡曲本『羽衣』他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

あくまで実技中心、謡い、舞う授業である。遅刻・私語は禁ずる。
また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。

授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、坐りやすい服装を、また仕舞の際は動きやすい服装をすること。

授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
	［集中］
1	日本の伝統演劇である能とは何か。DVD鑑賞。 能《羽衣》の説明。実技実習の導入。
2	実技実習（１）羽衣の謡、カマエ、ハコビの習得。
3	実技実習（２）羽衣の謡、基本の型の習得。
4	実技実習（３）羽衣の謡、羽衣の仕舞。
5	実技実習（４）羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
6	実技実習（５）羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
7	実技実習（６）試験に向けての仕上げ。羽衣の謡、拍子と間について、羽衣の仕舞。
8	実技、筆記試験とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（長唄） （集） 1，2限 Aクラス						
代表教員	今藤 政貴	授業コード	GE0337A0	科目コード	GE0337	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	GH:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち長唄を取り上げる。
長唄は江戸時代に成立した三味線音楽の一分野であり、歌舞伎の音楽として発達し、そののち歌舞伎から独立した鑑賞用音楽としても大いに発展を遂げている。
【到達目標】
この長唄について、以下の内容を理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（1） 三味線音楽としての長唄の、歴史的、芸術的な位置づけ(歌舞伎音楽としての歴史や役割、鑑賞用音楽としての歴史など)および音楽的な特徴(基本的な音階や、編成など)の理解。
（2）長唄の、長唄らしい声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法などの理解と技能の習得。
（3）《勧進帳》《越後獅子》など代表的な長唄の内容的および音楽的理解、歌唱表現の技能の習得。

2．授業概要

上記の到達目標に沿って、授業はまず、（1）長唄の歴史や、音楽的な特徴、また長唄には欠くことのできない三味線の構造などを概説し、（2）中学、高校の教科書にもしばしば取り上げられ、歌舞伎音楽としても鑑賞用音楽としてもポピュラーな長唄《勧進帳》と《越後獅子》を教材とし、歌唱の練習を通して、歌詞の内容と音楽的な理解を深めるとともに（3）長唄らしい声を感じとりつつ、長唄らしく唄うための呼吸法・発声法等を学び取り、さらに、曲をいかに表現すべきか、という意識を高める。また、（4）長唄の伝統的な伝承のありかたや、三味線など伴奏楽器の理解を深めるため、唱歌（口三味線、囃子の口唱歌)を体験、習得する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）長唄や歌舞伎について、どんなイメージを持っているか、文章にまとめておいてください。短い文章で構いません。（復習）その日に学んだことを定着させるためにおさらいを行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】《勧進帳》および《越後獅子》の歌詞を配布する予定
【参考文献】『すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門』長唄協会編

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（履修者への要望）唄の授業は、まずよく聴くこと。そして なにより声を出すことです。恥ずかしがったり、しらけたりして声を出さないと、結局なにも得ないまま時間が過ぎてしまいます。声をしっかり出していれば、唄を覚えるにつれ、気持ち良くなってくるはず。みなさん、声をしっかり出す覚悟で受講してください。

授業計画	
1	長唄の概説、《勧進帳》①：長唄《勧進帳》の概説。《勧進帳》冒頭（旅の衣～しおるらん）部分の歌唱練習。《勧進帳》 ヨセの合方の唱歌の練習。
2	《勧進帳》②：《勧進帳》 （これやこの～海津の浦に着きにけり）部分の歌唱練習。《勧進帳》冒頭部の歌唱、ヨセの合方の唱歌、これやこの～部分を通しての合奏（合唱）
3	《越後獅子》①： 長唄《越後獅子》の概説。《越後獅子》冒頭部分（打つや太鼓～囃すのも）歌唱練習。
4	《越後獅子》②：《越後獅子》浜唄の歌唱練習。
5	《越後獅子》③：《越後獅子》晒し（見渡せば～花の顔）部分、歌唱練習。《越後獅子》チラシ（晒す細布～いざや帰らん己が住み家へ）部分、歌唱練習。
6	《越後獅子》④：《越後獅子》の第３回から第５回までで学んだ部分の通し練習。
7	合奏（歌唱を中心とし、一部 口三味線、囃子の口唱歌なども演奏する）：《勧進帳（抜粋）》の合奏。《越後獅子（抜粋）》の合奏。
8	実技試験とまとめ：《勧進帳》あるいは《越後獅子》を選択する。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（長唄）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	今藤　政貴	授業コード	GE0337B0	科目コード	GE0337	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち長唄を取り上げる。
長唄は江戸時代に成立した三味線音楽の一分野であり、歌舞伎の音楽として発達し、そののち歌舞伎から独立した鑑賞用音楽としても大いに発展を遂げている。
【到達目標】
この長唄について、以下の内容を理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）　三味線音楽としての長唄の、歴史的、芸術的な位置づけ(歌舞伎音楽としての歴史や役割、鑑賞用音楽としての歴史など)および音楽的な特徴(基本的な音階や、編成など)の理解。
（２）長唄の、長唄らしい声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法などの理解と技能の習得。
（３）《勧進帳》《越後獅子》など代表的な長唄の内容的および音楽的理解、歌唱表現の技能の習得。

２．授業概要

上記の到達目標に沿って、授業はまず、（１）長唄の歴史や、音楽的な特徴、また長唄には欠くことのできない三味線の構造などを概説し、（２）中学、高校の教科書にもしばしば取り上げられ、歌舞伎音楽としても鑑賞用音楽としてもポピュラーな長唄《勧進帳》と《越後獅子》を教材とし、歌唱の練習を通して、歌詞の内容と音楽的な理解を深めるとともに（３）長唄らしい声を感じとりつつ、長唄らしく唄うための呼吸法・発声法等を学び取り、さらに、曲をいかに表現すべきか、という意識を高める。また、（４）長唄の伝統的な伝承のありかたや、三味線など伴奏楽器の理解を深めるため、唱歌（口三味線、囃子の口唱歌)を体験、習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）長唄や歌舞伎について、どんなイメージを持っているか、文章にまとめておいてください。短い文章で構いません。（復習）その日に学んだことを定着させるためにおさらいを行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】《勧進帳》および《越後獅子》の歌詞を配布する予定
【参考文献】『すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門』長唄協会編

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（履修者への要望）唄の授業は、まずよく聴くこと。そして なにより声を出すことです。恥ずかしがったり、しらけたりして声を出さないと、結局なにも得ないまま時間が過ぎてしまいます。声をしっかり出していれば、唄を覚えるにつれ、気持ち良くなってくるはず。みなさん、声をしっかり出す覚悟で受講してください。

授業計画	
1	長唄の概説、《勧進帳》①：長唄《勧進帳》の概説。《勧進帳》冒頭（旅の衣～しおるらん）部分の歌唱練習。《勧進帳》 ヨセの合方の唱歌の練習。
2	《勧進帳》②：《勧進帳》 （これやこの～海津の浦に着きにけり）部分の歌唱練習。《勧進帳》冒頭部の歌唱、ヨセの合方の唱歌、これやこの～部分を通しての合奏（合唱）
3	《越後獅子》①： 長唄《越後獅子》の概説。《越後獅子》冒頭部分（打つや太鼓～囃すのも）歌唱練習。
4	《越後獅子》②：《越後獅子》浜唄の歌唱練習。
5	《越後獅子》③：《越後獅子》晒し（見渡せば～花の顔）部分、歌唱練習。《越後獅子》チラシ（晒す細布～いざや帰らん己が住み家へ）部分、歌唱練習。
6	《越後獅子》④：《越後獅子》の第３回から第５回までで学んだ部分の通し練習。
7	合奏（歌唱を中心とし、一部 口三味線、囃子の口唱歌なども演奏する）：《勧進帳（抜粋）》の合奏。《越後獅子（抜粋）》の合奏。
8	実技試験とまとめ：《勧進帳》あるいは《越後獅子》を選択する。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	吹奏楽演奏理論１～４　[木3]							
代表教員	伊藤　康英	授業コード	GE053700	科目コード	GE0537d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

吹奏楽に携わる人にとって不可欠と思われる音楽的素養を、吹奏楽の古典的名曲の分析を通じて身につける。
また、例年通り、吹奏楽に役立つソルフェージュにも重点をおき、読譜、リズム、視唱の３点を通して、吹奏楽の演奏法を学ぶ。

２．授業概要

スコア・リーディングのための「読譜」、吹奏楽のアンサンブルのための「リズム」、ハーモニーやメロディーの歌い方のための「視唱」、といった３つの観点からのソルフェージュ。

「合奏の基本」により、吹奏楽の表現法を学ぶ。

「吹奏楽の古典名曲」「管楽合奏の古典名曲」により、歴史的な作品や吹奏楽の歴史を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ポータル上にすべての資料をアップすることとしている。受講者は各自、資料をダウンロードするなりしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

講義内容の理解度のチェックのために行う年数回の小テストの結果により評価する。
また、授業への参加姿勢を重視する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

メトード・ソルフェージュ（音楽之友社）
{http://www.ongakunotomo.co.jp/catalog/detail.php?code=502250}

ほかに必要なスコアは授業時に紹介する。
また、ポータル上にアップすることもある。

なお、前期に行うHolstのスコアは、以下のものを薦める。

ホルスト作曲　吹奏楽のための第１組曲[原典版]
{http://nihongakufu.com/score/archives/1_26.php}

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎年、多数の学生が履修しており、大教室での授業のため、授業中の私語等の問題がみられる。
吹奏楽について学問するのも大学の役目と考え、吹奏楽に関する様々な知識を授業に織り込んでいる。今すぐに役に立たない知識かもしれないが、必ずや諸君の糧となるだろう。その心構えでの受講を望む。

授業計画	
	［前期］ 「メトード・ソルフェージュ」の「読譜」を実習し、各種音部記号に慣れ、移調楽器による楽譜を読めるようにする。 「合奏の基本」（ティモシー・レイニッシュ／伊藤康英）の解説を通して、合奏の基本の考え方を身につける。
1	ガイダンス ソルフェージュとは ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜１ 　高音部譜表
2	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜２ 　低音部譜表 「合奏の基本」２ バランス
3	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜３ 　Eb管移調楽器 「合奏の基本」３ テッシトゥーラ
4	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜４ 　テノール譜表 旋法を使ってメロディーを書いてみよう 「吹奏楽の古典的名曲」１
5	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜５ 　Bb管移調楽器 「吹奏楽の古典的名曲」２ G.Holst / First Suite for Military Band in Eb
6	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜６ 　実音、Bb管移調楽器、Eb管移調楽器の混合による読譜１（クラリネット・アンサンブルを中心として） 「吹奏楽の古典的名曲」３ G.Holst / First Suite for Military Band in Eb
7	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜７ 　実音、Bbの移調楽器、Ebの移調楽器の混合による読譜２（サクソフォーン・アンサンブルを中心として） 「吹奏楽の古典的名曲」４ G.Holst / Second Suite for Military Band in F
8	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜８ 　メッゾ・ソプラノ譜表 「吹奏楽の古典的名曲」５ G.Holst / Second Suite for Military Band in F
9	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜９ 　F管移調楽器 「吹奏楽の古典的名曲」６ G.Holst / Second Suite for Military Band in F
10	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜10 　木管五重奏の読譜 「吹奏楽の古典的名曲」７ G.Holst / Second Suite for Military Band in F
11	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜11 　金管五重奏の読譜 「吹奏楽の古典的名曲」８ G.Holst / Hammersmith
12	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜12 　木管セクションの読譜 「吹奏楽の古典的名曲」９ R. Vaughan Williams / English Folksong Suite
13	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜13 　金管セクションの読譜 「吹奏楽の古典的名曲」10 R.Vaughan Williams / English Folksong Suite
14	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜14 　吹奏楽の読譜 「吹奏楽の古典的名曲」11 R.Vaughan Williams / Sea Songs
15	「吹奏楽を考える」 小テスト

授業計画	
	［後期］ 「メトード・ソルフェージュ」の「リズム」「視唱」を実習し、リズムの本質や、イントネーションの感じ方を学ぶ。 「管楽合奏の古典名曲」を通して、19世紀までの吹奏楽の歴史を学ぶ。
1	ソルフェージュ　リズム１ 　リズムの本質に迫る３つのキーワード 「吹奏楽の古典的名曲」12 R.Vaughan Williams / Toccata Marziale
2	ソルフェージュ　リズム２ 　４分音符を基本の拍とする拍子（単純拍子） 「吹奏楽の古典的名曲」13 R.Vaughan Williams / Toccata Marziale
3	ソルフェージュ　リズム３ 　付点４分音符を基本の拍とする拍子（複合拍子） 　その他の音符を基本の拍とする拍子 「管楽合奏の古典的名曲」1
4	ソルフェージュ　リズム４ 　拍の統合、拍の分割 　２分割と３分割 「管楽合奏の古典的名曲」2
5	ソルフェージュ　リズム５ 　拍子の変化 　混合拍子 「管楽合奏の古典的名曲」3
6	ソルフェージュ　リズム６ 　複数の拍に対する連符 「管楽合奏の古典的名曲」4 C.S.Catel / Overture in C
7	ソルフェージュ　視唱１ 　音程に留意した歌い方のアドヴァイス 　完全音程・その１（同度とオクターヴ） 「管楽合奏の古典的名曲」5
8	ソルフェージュ　視唱２ 　全音と半音で音階を歌う 　全音と半音を歌いわける 「管楽合奏の古典的名曲」6
9	ソルフェージュ　視唱３ 　メロディーの歌い方（アナクルーズ、アルシスとテーシス） 「管楽合奏の古典的名曲」7 G.Meyerbeer / Fackeltanz
10	ソルフェージュ　視唱４ 　３和音を歌おう 　完全音程・その２（４度と５度） 「管楽合奏の古典的名曲」8
11	ソルフェージュ　視唱５ 　和音のピッチの取り方 　音律（純正音律、平均律、各種古典調律） 「管楽合奏の古典的名曲」9
12	ソルフェージュ　視唱６ 　６度 　７の和音を歌おう 「管楽合奏の古典的名曲」10
13	ソルフェージュ　視唱７ 　さまざまな音程 　掛留音 「管楽合奏の古典的名曲」11
14	ソルフェージュ 　楽典よもやま話 「管楽合奏の古典的名曲」12 Rimsky-Korsakov / Trombone Concerto
15	「その先の吹奏楽へ」 小テスト

科目名	邦楽サウンド論１　[土3]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE058000	科目コード	GE0580	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）
後期レポート提出（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	日本音楽史総論　森重行敏
2	邦楽理論　総論　森重行敏
3	邦楽理論　楽譜論　森重行敏
4	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
5	古代の音楽　澤田篤子
6	邦楽理論4　絃楽器論導入　森重行敏
7	三味線の音楽　野澤徹也
8	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
10	箏の音楽　野澤佐保子
11	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	歌舞伎の音楽　西川浩平
14	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
15	鑑賞講座「和のいろは」

授業計画	
	［後期］
1	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
2	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
3	尺八の音楽　青木彰時
4	日本の民謡　柿崎竹美
5	アジアの音楽3　モンゴル インド　森重行敏
6	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
7	現代音楽と邦楽器　山口賢治
8	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
10	和太鼓の魅力　山部泰嗣
11	鑑賞講座「冬の音楽祭　邦楽コンサート」
12	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
13	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
14	邦楽と未来　松尾祐孝
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	邦楽サウンド論２　［土3］						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE058100	科目コード	GE0581	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	邦楽サウンド論1を履修していること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）
後期レポート提出（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	日本音楽史総論　森重行敏
2	邦楽理論　総論　森重行敏
3	邦楽理論　楽譜論　森重行敏
4	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
5	古代の音楽　澤田篤子
6	邦楽理論4　絃楽器論導入　森重行敏
7	三味線の音楽　野澤徹也
8	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
10	箏の音楽　野澤佐保子
11	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	歌舞伎の音楽　西川浩平
14	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
15	鑑賞講座「和のいろは」

授業計画	
	［後期］
1	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
2	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
3	尺八の音楽　青木彰時
4	日本の民謡　柿崎竹美
5	アジアの音楽3　モンゴル インド　森重行敏
6	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
7	現代音楽と邦楽器　山口賢治
8	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
10	和太鼓の魅力　山部泰嗣
11	鑑賞講座「冬の音楽祭　邦楽コンサート」
12	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
13	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
14	邦楽と未来　松尾祐孝
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	声楽（教職）　［火1］クラシック（辻志朗先生）クラス						
代表教員	辻　志朗	授業コード	GE0582A0	科目コード	GE0582	期間	通年
担当教員	宇野　徹哉						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教職免許取得希望学生全員が合唱の基礎的な歌唱力、アンサンブル能力を習得することを目標とする。
学校教育の現場から美術・音楽の芸術分野のコマ数削減が進む中、中高一貫校などでも今大いに注目され、積極的に採用されているのが「校内合唱コンクール」である。この講義では、将来教壇に立った際に、如何にして生徒達に合唱への導入をすれば良いかを、その合唱を実体験することから学ぶ。前期にはＮＨＫ全国学校音楽コンクールの課題曲を教材として取り入れ、コンクール参加校に赴任した際に、その生徒達に対応出来る能力を身につける。後期は中学生、高校生が授業内で学ぶクラス合唱の名曲を取り上げ、歌いながらその指導を学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。前期は発声の基礎から始める。その歌唱技術をNHK全国学校音楽コンクール課題曲の小学校、中学校、高等学校の部の課題曲を歌う中でいかに反映させるか、また人に伝えるかを考える。前期最終日までに学習した全曲を完成させることを目指す。後期は将来教員になった際に授業で指導するであろうクラス合唱の名曲を取り上げ、後期最終授業までの完成を目指す。
前期、後期共に最終授業で授業内成果発表演奏を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音大生としてのプライドと自覚を持って音の確認は必ずしてから講義に臨む事。敢えてこの講義が早朝第１限目に置かれている意味合いを各自良く理解し、将来教員に成るための心と身体の自己管理に自覚を持ち、講義に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の80%）
最終授業での発表演奏への参加（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期はNHK全国学校音楽コンクールの課題曲（女声：小中高、男声：中高）を各自校内のカワイの販売店「ドミナント」で購入し講義に備える。それ以外は適宜講義中に指示する。後期の作品については前期の授業内容により検討する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職免許取得のための必修科目であるこの講義が、敢えて火曜日の早朝に設定されている事を理解し、遅刻欠席には十分に留意する事。
講義への出席（評価の８０%）
最終授業での発表演奏への参加状況（評価の２０%）
講義の性格上出席には厳しく対応するので、実習などの日程調整、各人の体調管理も含めて、単位取得に必要な授業日数を割り込まぬ様、予め計画を立てて講義に臨んで欲しい。
またここ数年講義中にスマートフォンなどの通信機器を講義と無関係に使用し講義受講資格を失う学生が多々見られる。この様な受講態度への取り締まりは今後も教員・スタッフ一同続けるのでその様な行為は絶対に慎むように心掛けて欲しい。
出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ NHK全国学校音楽コンクールの課題曲（女声：小中高、男声：中高）を各自校内のカワイの販売店「ドミナント」で購入し講義に備える。それ以外の作品については状況をみて指示する。
1	ガイダンス 前期は基本的な発声法の取得とＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲を中心に授業をすすめて行くこと。15回の授業数の中で作品を完成させ、成果発表演奏を行うことを確認する。
2	ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）を中心に音・リズムを確認し、詩人へのアプローチを試みる。①
3	ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）を中心に音・リズムを確認し、詩人へのアプローチを試みる。②
4	ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）を中心に音・リズムを確認し、詩人へのアプローチを試みる。③
5	ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）を中心に音・リズムを確認し、詩人へのアプローチを試みる。④
6	NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)を中心に音・リズムを確認し、詩人へのアプローチを試みる。⑤
7	NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)を中心に和声やリズムの精度を高める。詩に付けられた和音について考えてみる。①
8	NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)を中心に和声やリズムの精度を高める。詩に付けられた和音について考えてみる。②
9	NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)を中心に和声やリズムの精度を高める。詩に付けられた和音について考えてみる。③
10	NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)を中心に和声やリズムの精度を高める。詩に付けられた和音について考えてみる。④
11	授業で学んだ作品を題材に、発声、歌唱力、音程、リズム、和声感、発語等の基本的な技術について復習しながら授業をすすめ、いかに指導するかを各自考える。①
12	授業で学んだ作品を題材に、発声、歌唱力、音程、リズム、和声感、発語等の基本的な技術について復習しながら授業をすすめ、いかに指導するかを各自考える。②
13	授業で学んだ作品を題材に、発声、歌唱力、音程、リズム、和声感、発語等の基本的な技術について復習しながら授業をすすめ、いかに指導するかを各自考える。③
14	前期に学んだ作品を総復習し、自らが授業から学んだ技術、意識で、より作品の精度を高める。 音楽的な技術のみならず、パートの一員として個々が担う責任感、協調性を考える。
15	前期授業の成果発表演奏。 発声、リハーサル、本番の順ですすめ、ステージでの演奏をイメージした発表を行う。

授業計画	
	［後期］ 前期の授業の成果発表演奏により、訂正な作品を指示する。 中学校、高等学校で歌われる合唱作品から選曲をする予定。
1	中学校、高等学校のクラス合唱で使われる作品の中から数曲を選曲する。 発声の確認から授業を開始し、前期に学んだ技術、意識を再確認する。 新しい楽曲の譜読み、リズム確認、テキストの読み込みを順次すすめて行く。
2	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
3	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
4	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
5	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
6	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
7	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
8	楽曲の音楽的分析、音・リズムの確認。
9	テキストと旋律、和声との関係を考える。音楽的な表現をする為の自然な歌唱、より美しい発語についてを探る。
10	テキストと旋律、和声との関係を考える。音楽的な表現をする為の自然な歌唱、より美しい発語についてを探る。
11	テキストと旋律、和声との関係を考える。音楽的な表現をする為の自然な歌唱、より美しい発語についてを探る。
12	テキストと旋律、和声との関係を考える。音楽的な表現をする為の自然な歌唱、より美しい発語についてを探る。
13	前期、後期に学んだ作品を通して、発声や合唱指導上のポイントを各自思い出し、整理してみる。その上で、そのポイントを教壇に立った時にいかに言葉にして他人に伝えて行くかを考える。
14	授業成果発表演奏に向けて最終の確認。
15	後期授業の成果発表演奏。 発声、リハーサル、本番の順にすすめ、ステージでの演奏をイメージした発表を行う。

科目名	声楽（教職）　［火1］ポピュラー（江原陽子先生）クラス						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE0582B0	科目コード	GE0582	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・気持ちよく、楽しく演習することを第一に、音楽の担い手としての喜びを体感する。
・思いと声は直結していることを理解し、将来教壇に立った際に信頼される声と指導法を習得する。
・幅広いスタイルの教材に対応する技術を身につけ、実践につなげる。
・最近盛んであるクラス合唱に採用されているポップス合唱の教材を取り上げ、共に歌い、作り上げる喜びを実感する。
・日本の伝統的な歌唱（民謡）を実習することで、日本人の心と身体の在り方を学ぶ。

2．授業概要

この授業では演奏会の本番はありません。
取り組む題材はポップス合唱中心です。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を習得する上でも、次回の授業へ向けての準備は必要となるので、授業の前後で楽譜を読み込んでおくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み姿勢などから総合的に判断する（100%）。
レポートを提出する必要はありません。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布します。
教材を購入する必要はありません。

参考文献：「中学・高等学校の音楽の教科書」「学習指導要領」

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は自由。
アンサンブルが基本となるので、協調性やリードしていく積極性も必要と心得てほしい。

授業計画	
	前期は、基本的に個々の声作りと楽曲の理解を目標にする。
1	ガイダンス 前期の内容の説明と確認
2	発声の基礎と身体の使い方
3	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の導入
4	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の演習
5	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の仕上げ
6	頭声・胸声発声での歌唱のポイントと習得
7	独唱「かえるのうた」
8	歌詞の理解　１　～歌詞とリズムの関係について～
9	歌詞の理解　２　～歌詞とメロディの関係について～
10	ポップス合唱②「たしかなこと(小田和正)」の導入
11	ポップス合唱②「たしかなこと(小田和正)」の演習
12	リズムトレーニング(ボディパーカッション)1導入
13	リズムトレーニング(ボディパーカッション)2演習
14	リズムトレーニング(ボディパーカッション)3仕上げ
15	前期の復習と統括

授業計画	
	後期は前期を踏まえた上で、さらにポップス合唱に取り組みその指導法を習得する。
1	ガイダンス 前期の復習と確認
2	発声指導のポイントと実践
3	合唱指導実習　１～ポイントと実践～
4	合唱指導実習　２～合唱におけるリズムの重要性～
5	合唱指導実習　３～指導法と実践～
6	独唱「ぶん ぶん ぶん」
7	ポップス合唱③「Seasons of Love」（RENTより）の導入
8	ポップス合唱③「Seasons of Love」（RENTより）の演習
9	ポップス合唱③「Seasons of Love」（RENTより）の仕上げ
10	少人数ボイスアンサンブル　１～導入～
11	少人数ボイスアンサンブル　２～仕上げ～
12	ポップス合唱④「We Are The World」（外国曲）の導入
13	ポップス合唱④「We Are The World」（外国曲）の演習
14	ポップス合唱④「We Are The World」（外国曲）の仕上げ
15	後期の復習と統括

科目名	学内リサイタル講座　[金3]						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE058300	科目コード	GE0583	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

最終学年のまとめとなる演奏会（リサイタル）講座としての意義と目的を明確にして、個々のレッスンや専門講座を基に演奏会計画を立て、それを実行することを目標とする。

2．授業概要

３年間にわたって専門レッスン指導を受けた成果発表演奏会として自己研鑽、楽曲研究に励み、他の履修生の演奏講評も行う。前期シルバーマウンテン2F（10～15分程度）で独奏を行う。前期演奏会は授業日以外の18時30分以降に行うこともある（教育実習に伴う日程調整）。
後期前田ホールで独奏演奏（15分程度）をジョイント形式で行い審査教員から評価講評を受ける。
授業計画と演奏会日程は初回授業時に掲示しアンケート調査後配当する。
ＡＣ教員の指示に従い、演奏計画・プログラム及びチラシ作成、前田ホールとの打ち合わせを行う

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前後期とも自分が演奏する作品の楽曲分析と十分な練習を必ず行い、演奏会に向かう。

4．成績評価の方法及び基準

平常点としてインスペクター・ステージマネージャーなど演奏以外の活動も評価対象とする。
後期ジョイント・リサイタルにおける演奏評価と平常点をもとに成績をつける。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

前年度プログラム・教員などのリサイタルチラシ、プログラム、ＣＤ、名曲解説全集、音楽辞典など。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４年生のみ履修可とする。授業は金曜日Ⅲ時限とする（後期 前田ホール演奏会は補講扱いとし通常授業日を休講とする事がある）。
履修希望が多数の場合、前田ホール（1日あたり6～7名）の予定上、コース別に３年時の成績とコース別人数を基に履修制限をすることがある。
成績優秀者はこれを表彰し、外部ホールで特別ジョイント・リサイタルを行う。
ジャズ、作曲、ミュージカル、音楽・音響デザインコースの履修は音響設備等の関係上、担当部会の推薦を必要とする。
前田ホールでの設備、備品、楽器以外の使用はホール、担当部署とも相談して決定する。（使用許可が出ない場合出演できない）

授業計画	
	前期
1	ガイダンス(年間スケジュール用紙配布)
2	年間スケジュール用紙提出 ピアノコース生によるジョイント演奏会
3	グループ発表、役職など決定、AC教員との顔合わせと提出物チェック
4	日程調整と過去の学内リサイタル演奏会DVD鑑賞
5	グループ毎のテーマと副題決定、写真作成など準備
6	本学教員による「私のリサイタル」演奏と講演
7	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会1
8	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会2
9	調整練習日(教育実習など)チラシ最終校正日
10	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会3
11	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会4
12	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会5
13	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会6
14	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会予備日　演奏練習日
15	反省会と後期日程確認 集客目標設定日

授業計画	
	後期(夜間曜日変更の可能性あり)
1	前田ホール ジョイント・リサイタル①リハーサル
2	前田ホール ジョイント・リサイタル① 18時開場　18:20開演
3	前田ホール ジョイント・リサイタル②リハーサル
4	前田ホール ジョイント・リサイタル②
5	前田ホール ジョイント・リサイタル③リハーサル
6	前田ホール ジョイント・リサイタル③
7	前田ホール ジョイント・リサイタル④リハーサル
8	前田ホール ジョイント・リサイタル④
9	前田ホール ジョイント・リサイタル⑤リハーサル
10	前田ホール ジョイント・リサイタル⑤
11	前田ホール ジョイント・リサイタル⑥リハーサル
12	前田ホール ジョイント・リサイタル⑥
13	反省会
14	表彰式(各賞発表)
15	3月開催予定の選抜者による特別ジョイントリサイタル出演者リハーサル

科目名	即興演奏講座（初級）　［金3］Aクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621A0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０%、ピアノ・鍵盤２０%、弦楽器２０%を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（初級）　[金4] Bクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621B0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０%、ピアノ・鍵盤２０%、弦楽器２０%を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（初級）　[金5] Cクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621C0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０%、ピアノ・鍵盤２０%、弦楽器２０%を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　[金3] Aクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626A0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　[金4] Bクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626B0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　[金5] Cクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626C0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備。
14	発表会の準備。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。
3	実践。
4	実践。
5	実践。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。
8	前回の継続。
9	前回の継続。
10	前回の継続。
11	試験の準備開始。
12	試験の準備開始。
13	試験の準備開始。
14	試験の準備開始。
15	試験・まとめ

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P1クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0826P1	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P2クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0826P2	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P3クラス						
代表教員	齋藤　圭子	授業コード	GE0826P3	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P4クラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE0826P4	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P5クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0826P5	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P6クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GE0826P6	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （後） ［金2］Q1クラス						
代表教員	齋藤　圭子	授業コード	GE0826Q1	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （後） ［金2］Q2クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GE0826Q2	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Aクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0827A0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	作曲実習２　歌曲（ピアノ伴奏の書法）
12	二重奏について
13	作曲実習３　二重奏（器楽の書法）
14	作曲実習４　二重奏（ピアノの書法）
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Bクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0827B0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	作曲実習２　歌曲（ピアノ伴奏の書法）
12	二重奏について
13	作曲実習３　二重奏（器楽の書法）
14	作曲実習４　二重奏（ピアノの書法）
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Cクラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE0827C0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	作曲実習２　歌曲（ピアノ伴奏の書法）
12	二重奏について
13	作曲実習３　二重奏（器楽の書法）
14	作曲実習４　二重奏（ピアノの書法）
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Dクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0827D0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	作曲実習２　歌曲（ピアノ伴奏の書法）
12	二重奏について
13	作曲実習３　二重奏（器楽の書法）
14	作曲実習４　二重奏（ピアノの書法）
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Aクラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GE0831A0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0831B0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Cクラス							
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GE0831C0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Dクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0831D0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Eクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0831E0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Fクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GE0831F0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Gクラス						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE0831G0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Hクラス							
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0831H0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（後）　[水3]　（AS専用）							
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE0831J0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

2．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。

参考文献
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。

授業計画	
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Kクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GE0831K0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Mクラス						
代表教員	二宮　玲子	授業コード	GE0831MO	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Nクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GE0831N0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Rクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GE0831R0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Sクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE0831S0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Tクラス							
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GE0831T0	科目コード	GE0831	期間	半期	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Uクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GE0831U0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Vクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GE0831V0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（後）［水3］（BL専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE0831Y0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。
また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

２．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）
平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト・参考文献＞
授業時に適宜プリントを配布する。

＜参考文献＞
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。
BLコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座　（後）　[水3]　（DC専用）						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE0831Z0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。
また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

2．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）
平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト・参考文献＞
授業時に適宜プリントを配布する。

＜参考文献＞
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。
ダンスコース学生は専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	対位法 ［金3］Bクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0846B0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。

本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
学期末試験（５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
「対位法」（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
「二声対位法」（池内友次郎著／音楽之友社）
「厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による」（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	対位法 ［金3］Cクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0846C0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。
対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。
本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
学期末試験（５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
「対位法」（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
「二声対位法」（池内友次郎著／音楽之友社）
「厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による」（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	対位法 ［金3］Dクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE0846D0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。
対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。
本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
学期末試験（５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
「対位法」（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
「二声対位法」（池内友次郎著／音楽之友社）
「厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による」（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	ポリフォニー研究　[金3]						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE084700	科目コード	GE0847	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

複数の旋律の積み重ねによって生まれる響きの美しさがポリフォニー（多声音楽）の醍醐味である。
その美しさを求め、ここでは二声、三声の厳格対位法を中心に様々な対位法の技法を修得していく。

到達目標
・3声の華麗対位法を書く。
・長調、短調のみならず、教会旋法が醸し出す独特な響きの感覚を養う。
・フーガに関する知識を修得する。
・対位法的書法による2声および3声の楽曲の作成に必要な感覚、テクニックを身につける。

２．授業概要

二声、三声の厳格対位法、各旋法での実施、転回可能対位法、カノンなどの対位法技法を学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で終えられなかった課題、宿題をやってくること。（1時間程度）
対位法的な作品をＣＤ、ＤＶＤ等で鑑賞しておくこと。(1時間程度)

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢：評価の４０％
課題レポート提出、試験：評価の６０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・資料等は必要に応じてプリントで配布する。

参考文献
ギャロン,N、ビッチュ,M /矢代秋雄訳　『対位法』　音楽之友社
ビッチ,M、 ボンフィス,J / 池内友次郎監修、余田安広訳　『フーガ』　白水社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「対位法」の単位修得済み、もしくは二声対位法の学習経験があるほうが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	二声対位法の復習
2	二声対位法　教会旋法での実施 （ドリア、フリギア、エオリア）
3	二声対位法　教会旋法での実施 （リディア、ミクソリディア）
4	転回可能対位法（二声）　長調
5	転回可能対位法（二声）　短調
6	J.S.Bach の作品の分析を中心として
7	カノンの実施(二声）　オクターブのカノン、反行形によるカノン
8	カノンの実施（二声）　５度、４度のカノン、逆行形によるカノン
9	ルネサンス期の対位法（１） 厳格対位法との違い
10	ルネサンス期の対位法（２） 2声のカノン
11	ルネサンス期の対位法（３） 歌詞の意味内容を表現する（2声）
12	三声対位法　第一類　全音符
13	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.低声部
14	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.上声部および中声部
15	前期のまとめ、小テスト

授業計画	
	［後期］
1	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.低声部
2	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.上声部、中声部
3	三声対位法　第四類　移勢　C.F.下声部
4	三声対位法　第四類　移勢　C.F.上声部
5	三声対位法　第五類　華麗 C.F.下声部(長調)
6	三声対位法　第五類　華麗　C.F.下声部（短調）
7	三声対位法　第五類　華麗　C.F.上声部および中声部
8	三声対位法　混合類
9	フーガについて（１）模倣の概念
10	フーガについて（２） J.S.Bachのフーガの分析を中心に
11	ルネサンス期の対位法（４） 3声のミサ曲などの分析を中心に
12	ルネサンス期の対位法（５） 音型の考察
13	対位法的な編曲実習（１）全体のプラン
14	対位法的な編曲実習（２）歌詞の扱い方
15	後期のまとめ

科目名	フォルマシオン・ミュジカル ［水1］						
代表教員	照屋　正樹	授業コード	GE084800	科目コード	GE0848	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在、音楽の基礎教育として行われている、楽典、聴音、視唱、視奏、リズム読み、リズム打ち、読譜等、それぞれの分野を独立して扱っている形態から発展、融合させた授業を行い、その結果、総合的な視野で音楽を捉える力を養い、更に表出能力の向上を目指す。

２．授業概要

学習者が質の高い解釈を行い、また演奏との一体化のため、基礎的な音楽教育個々の分野を統合した形態で授業を行う。従って、各種音楽理論、楽曲分析、音楽史、楽器法、スコアリーディングその他あらゆる分野の音楽における基礎教育が含まれることになる。具体的には、実作品を教材として授業を行うことを基本とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の能力に応じた譜表とリズムに関する課題を与える。授業の際、毎回実施させるのでよく練習しておくこと。
また、教材に用いた実作品を授業後全曲を通して聴取し、全体像について把握する様、努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
レポート提出（評価の40％・講義内容の視点から深く考察しているかどうかを評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、その都度プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

直近のソルフェージュの成績が「SまたはA」である２年生以上の学生。１５名程度を限度とし 、学年、専攻楽器などを勘案しつつ選抜する場合がある。また、和声学は既習であることが望ましい。遅刻３回を欠席１回にカウントし、30分以上の遅刻は出席とは認めない。
なお、譜表とリズムに関する課題を授業の際、毎回実施するため、宿題を怠らないこと。
良い演奏のためには楽曲への深い理解が必要である。意欲的かつ積極的な学生の参加を望む。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス
2	不定声部の聴音、及びサンサーンス「動物の謝肉祭」より欠如部分のある聴音
3	欠如部分のある聴音、及び間違い探しの聴音（ショパン作曲「前奏曲」より）
4	管楽器の特性とその聴音1（フルート）
5	管楽器の特性とその聴音2（オーボエ）
6	管楽器の特性とその聴音3（ファゴット）
7	弦楽器の特性とその聴音1（ヴァイオリン）
8	弦楽器の特性とその聴音2（チェロ）
9	ピアノによる欠如部分のある聴音1（バルトーク作曲「子供のために」より第23番）
10	ピアノによる欠如部分のある聴音2（バルトーク作曲「ミクロコスモス」より第115番）
11	複数の管楽器による欠如部分のある聴音
12	複数の管、弦楽器による欠如部分のある聴音
13	多様なリズム、拍子を含む視唱1（2拍3連、3拍4連）
14	多様なリズム、拍子を含む視唱2（変拍子）
15	多様なリズム、拍子を含む視唱3（規則的な拍の欠如と規則的な拍子の欠如）

授業計画	
	後期
1	バッハ作曲「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ」より「ガヴォット」による分析的聴取
2	グリーグ作曲「ピアノ協奏曲第2楽章」による視唱
3	ショパン作曲「子犬のワルツ」による欠如部分のある聴音、及び間違い探しの聴音
4	グラナドス作曲「ゴィエスカス」第5曲からの視唱・スクリャービン作曲「ピアノソナタ第2番第1楽章」からの読譜
5	モーツァルト作曲歌劇「後宮からの逃走」より小編成のオーケストラの聴音
6	フーガ用語の解説、及び解析
7	バッハ作曲「平均律」よりフーガ主要提示部の欠如部分のある聴音
8	モーツァルト作曲弦楽四重奏曲「不協和音」より欠如部分のある聴音
9	シューマン作曲「詩人の恋」より欠如部分のある聴音
10	ブラームス作曲「2つの歌曲」より欠如部分のある聴音
11	ソナタとソナタ形式の解析
12	シューベルト作曲交響曲「未完成」より主題聴取と移調唱
13	ブラームス作曲「ヴァイオリンソナタ第1番」よりソナタ形式の分析的聴取
14	バッハ作曲「マニフィカト」より欠如部分のある聴音と分析的聴取
15	ベルリオーズ作曲交響曲「幻想」冒頭の欠如部分のある聴音、および総括

科目名	キーボードハーモニー　[木3] Aクラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GE0863A0	科目コード	GE0863	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（ＥＯ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上で行われ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴きわける」ことが重要な意義を持つ。授業は鍵盤を使いながら和音感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、伴奏付け、初見視奏能力を身につけることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見視奏などを実習する。また、楽曲に和音数字を付したり、変奏曲の作成、伴奏譜の作成などの筆記作業によって音楽を分析する能力を身につける。上級クラスは、実際にバロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業のはじめに、前回授業の内容に関する小テストを行うので復習しておくこと。実践能力を身につけるために、筆記のみでなく実施した課題を必ずピアノで演奏すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。第１５回目の授業時間中に試験を実施し、その後試験の解説と復習を行う。平常点は、毎回の授業の理解度の確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
『鍵盤による数字付き和声』　R.O.モリス　（音楽之友社）
『鍵盤和声の練習』　バラム・ジョンソン　（音楽之友社）
『通奏低音奏法』　ヘルマン・ケラー　（全音楽譜出版社）　他
授業中に適宜資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェルニー３０番」程度の演奏能力が必要。
２０分以上の遅刻は欠席とみなし、２／３以上の出席がない場合は学年末試験を受けることができない。
初回の授業でクラス分け試験を行うので、掲示された教室へ集合すること。（履修希望者は必ず出席すること。試験を受けないと履修できない）

授業計画	
	[前期] カデンツ奏と三和音基本形の通奏低音奏法の実習
1	クラス分け試験
2	カデンツ奏の実習①（カデンツⅠ） 移調奏①（単旋律）
3	カデンツ奏の実習②　（カデンツⅡ） 移調奏②（簡単な二声）
4	カデンツ奏の実習③（カデンツⅢ） 移調奏③（やや複雑な二声）
5	数字付き低音奏法①（Ⅰ度、Ⅳ度、Ⅴ度基本形C:） 移調奏④（簡単な三声）
6	数字付き低音奏法②（Ⅱ度、Ⅵ度を含む基本形C:） 移調奏⑤（やや複雑な三声）
7	数字付き低音奏法③（Ⅲ度、Ⅶ度を含む基本形C:） 移調奏⑥（C:の四声） コードネーム①（概説）
8	数字付き低音奏法④（借用和音を含む基本形C:） 移調奏⑦（各種の調の四声） コードネーム②（コードネームの構造）
9	数字付き低音奏法⑤（基本形C:a） 移調奏⑧（C:a:のピアノ曲） コードネーム③（コードネームの書き方）
10	数字付き低音奏法⑥（基本形G:e:） 移調奏⑨（G:e:のピアノ曲） コードネーム④（長調のスケール上の三和音）
11	数字付き低音奏法⑦（基本形F:d:） 移調奏⑩（F:d:のピアノ曲） コードネーム⑤（短調のスケール上の三和音）
12	数字付き低音奏法⑧（基本形D:h:） 移調奏⑪（D:h:のピアノ曲） コードネーム⑥（長調のスケール上の四和音）
13	数字付き低音奏法⑨（基本形B:g:） 移調奏⑫（B:g:のピアノ曲） コードネーム⑦（短調のスケール上の四和音）
14	数字付き低音奏法⑩（各種の調） 移調奏⑬（各種の調のピアノ曲） コードネーム⑧（掛留音について）
15	試験とまとめ

授業計画	
	[後期] 三和音第一・第二転回形を含む通奏低音奏法の実習 上級クラスは、属七の和音を中心とした七の和音、非和声音の入った課題の実習
1	前期の復習①（三和音基本形通奏低音奏法）
2	前期の復習②（コードネームと和音記号）
3	数字付き低音奏法①（主要三和音第一転回形C:） 伴奏付け①（コードネーム付き[長三和音]）
4	数字付き低音奏法②（副三和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け②（コードネーム付き[長三和音、属七和音]）
5	数字付き低音奏法③（借用和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け③（コードネーム付き[短三和音]）
6	数字付き低音奏法④（第一転回形c:） 伴奏付け④（コードネーム付き[減三和音、増三和音を含む]）
7	数字付き低音奏法⑤（借用和音を含む第一転回形c:） 伴奏付け⑤（コードネーム付きバス音指示課題）
8	字付き低音奏法⑥（主要三和音第二転回形C:） 伴奏付け⑥（コードネーム付き[掛留音]）
9	数字付き低音奏法⑦（第二転回形c:a:） 伴奏付け⑦（和音記号付き[長調]）
10	数字付き低音奏法⑧（第二転回形G:e:） 伴奏付け⑧（和音記号付き[短調]）
11	数字付き低音奏法⑨（第二転回形F:d:） 伴奏付け⑨（コードネーム無し[長調]）
12	数字付き低音奏法⑩（第二転回形D:h:） 伴奏付け⑩（コードネーム無し[短調]）
13	数字付き低音奏法⑪（第二転回形B:g:） 伴奏付け⑪（変奏について）
14	試験に向けた復習と実践（各種の調）
15	試験とまとめ

科目名	キーボードハーモニー　[木3] Bクラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GE0863B0	科目コード	GE0863	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（ＥＯ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上で行われ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴きわける」ことが重要な意義を持つ。授業は鍵盤を使いながら和音感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、伴奏付け、初見視奏能力を身につけることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見視奏などを実習する。また、楽曲に和音数字を付したり、変奏曲の作成、伴奏譜の作成などの筆記作業によって音楽を分析する能力を身につける。上級クラスは、実際にバロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業のはじめに、前回授業の内容に関する小テストを行うので復習しておくこと。実践能力を身につけるために、筆記のみでなく実施した課題を必ずピアノで演奏すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。第１５回目の授業時間中に試験を実施し、その後試験の解説と復習を行う。平常点は、毎回の授業の理解度の確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
『鍵盤による数字付き和声』　R.O.モリス　（音楽之友社）
『鍵盤和声の練習』　バラム・ジョンソン　（音楽之友社）
『通奏低音奏法』　ヘルマン・ケラー　（全音楽譜出版社）　他
授業中に適宜資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェルニー３０番」程度の演奏能力が必要。
２０分以上の遅刻は欠席とみなし、２／３以上の出席がない場合は学年末試験を受けることができない。
初回の授業でクラス分け試験を行うので、掲示された教室へ集合すること。（履修希望者は必ず出席すること。試験を受けないと履修できない）

授業計画	
	[前期] カデンツ奏と三和音基本形の通奏低音奏法の実習
1	クラス分け試験
2	カデンツ奏の実習①（カデンツⅠ） 移調奏①（単旋律）
3	カデンツ奏の実習②　（カデンツⅡ） 移調奏②（簡単な二声）
4	カデンツ奏の実習③（カデンツⅢ） 移調奏③（やや複雑な二声）
5	数字付き低音奏法①（Ⅰ度、Ⅳ度、Ⅴ度基本形C:） 移調奏④（簡単な三声）
6	数字付き低音奏法②（Ⅱ度、Ⅵ度を含む基本形C:） 移調奏⑤（やや複雑な三声）
7	数字付き低音奏法③（Ⅲ度、Ⅶ度を含む基本形C:） 移調奏⑥（C:の四声） コードネーム①（概説）
8	数字付き低音奏法④（借用和音を含む基本形C:） 移調奏⑦（各種の調の四声） コードネーム②（コードネームの構造）
9	数字付き低音奏法⑤（基本形C:a） 移調奏⑧（C:a:のピアノ曲） コードネーム③（コードネームの書き方）
10	数字付き低音奏法⑥（基本形G:e:） 移調奏⑨（G:e:のピアノ曲） コードネーム④（長調のスケール上の三和音）
11	数字付き低音奏法⑦（基本形F:d:） 移調奏⑩（F:d:のピアノ曲） コードネーム⑤（短調のスケール上の三和音）
12	数字付き低音奏法⑧（基本形D:h:） 移調奏⑪（D:h:のピアノ曲） コードネーム⑥（長調のスケール上の四和音）
13	数字付き低音奏法⑨（基本形B:g:） 移調奏⑫（B:g:のピアノ曲） コードネーム⑦（短調のスケール上の四和音）
14	数字付き低音奏法⑩（各種の調） 移調奏⑬（各種の調のピアノ曲） コードネーム⑧（掛留音について）
15	試験とまとめ

授業計画	
	[後期] 三和音第一・第二転回形を含む通奏低音奏法の実習 上級クラスは、属七の和音を中心とした七の和音、非和声音の入った課題の実習
1	前期の復習①（三和音基本形通奏低音奏法）
2	前期の復習②（コードネームと和音記号）
3	数字付き低音奏法①（主要三和音第一転回形C:） 伴奏付け①（コードネーム付き[長三和音]）
4	数字付き低音奏法②（副三和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け②（コードネーム付き[長三和音、属七和音]）
5	数字付き低音奏法③（借用和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け③（コードネーム付き[短三和音]）
6	数字付き低音奏法④（第一転回形c:） 伴奏付け④（コードネーム付き[減三和音、増三和音を含む]）
7	数字付き低音奏法⑤（借用和音を含む第一転回形c:） 伴奏付け⑤（コードネーム付きバス音指示課題）
8	字付き低音奏法⑥（主要三和音第二転回形C:） 伴奏付け⑥（コードネーム付き[掛留音]）
9	数字付き低音奏法⑦（第二転回形c:a:） 伴奏付け⑦（和音記号付き[長調]）
10	数字付き低音奏法⑧（第二転回形G:e:） 伴奏付け⑧（和音記号付き[短調]）
11	数字付き低音奏法⑨（第二転回形F:d:） 伴奏付け⑨（コードネーム無し[長調]）
12	数字付き低音奏法⑩（第二転回形D:h:） 伴奏付け⑩（コードネーム無し[短調]）
13	数字付き低音奏法⑪（第二転回形B:g:） 伴奏付け⑪（変奏について）
14	試験に向けた復習と実践（各種の調）
15	試験とまとめ

科目名	教職伴奏法 （前） ［火1］P1クラス						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE0881P1	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （前） ［火1］P2クラス						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0881P2	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （前） ［火3］P3クラス						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE0881P3	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （前） ［火3］P4クラス						
代表教員	小松　祥子	授業コード	GE0881P4	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （後） ［火1］Q1クラス						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE0881Q1	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （後） ［火1］Q2クラス						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0881Q2	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （後） ［火3］Q3クラス						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE0881Q3	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 （後） ［火3］Q4クラス						
代表教員	小松　祥子	授業コード	GE0881Q4	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏実習 （前） ［木2］Aクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890A0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）最終回の授業では、演奏する曲目の解説をレポートにまとめたものを提出する。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の５０%）
授業への参加姿勢（評価の４０%）
レポート（評価の１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『アルト・リコーダーの世界』河西保郎編著（kmp）
参考文献：『リコーダー四重奏曲集』北御門文雄著（全音）
その他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器、教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏実習　（後）［木2］Bクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890B0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）最終回の授業では、演奏する曲目の解説をレポートにまとめたものを提出する。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の５０%）
授業への参加姿勢（評価の４０%）
レポート（評価の１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『アルト・リコーダーの世界』河西保郎編著（kmp）
参考文献：『リコーダー四重奏曲集』北御門文雄著（全音）
その他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器、教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏実習 （前） ［木4］Cクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890C0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）最終回の授業では、演奏する曲目の解説をレポートにまとめたものを提出する。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の５０%）
授業への参加姿勢（評価の４０%）
レポート（評価の１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『アルト・リコーダーの世界』河西保郎編著（kmp）
参考文献：『リコーダー四重奏曲集』北御門文雄著（全音）
その他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器、教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スコアリーディング　[木3]						
代表教員	森　佳子	授業コード	GE0895A0	科目コード	GE0895	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「スコアリーディング」は本来、ソルフェージュの頂点にある科目であり、読譜力と演奏力の双方がそれぞれ影響しあって、的確な音楽表現を行うことが要求される。ここではその第一段階として、スコアに慣れる、スコアに親しむということをコンセプトとし、様々なスコアに接し、スコアを通して作品を読み取っていくことで、幅広い視野と聴覚、表現力を養う。その手段として、ほぼ毎回宿題を課し、スコアをピアノで弾くということを軸に、実習を進める。

２．授業概要

スコアについての知識を身につけ、視唱やピアノソロ、連弾などを通して、ハ音記号や移調楽器を含むスコアに慣れていく。スコアでの様々な要素を捉え、積極的に読む力を培うことを目指し、指揮を行う。オーケストラスコアをコンデンススコアに書き換え、細部にも注目する。鑑賞を通じて、様々な音色に耳を傾け、それぞれの役割や曲の構成なども考察し、作品を読んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ほぼ毎回、授業で弾くための課題が宿題として与えられる。
スコアに慣れる為、自分なりに真摯に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点　７０%、　学期末試験　３０%
平常点は、毎回の授業への参加姿勢及び課題への取り組み姿勢を評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

リムスキー・コルサコフ『スペイン奇想曲』（全音楽譜出版社）
ブラームス『交響曲第３番』（音楽之友社）
※その他、必要に応じて指示またはプリントを配布する。
〈入門書として〉『スコアリーディング スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修には　「チェルニー30番」程度の演奏能力があることが望ましい。
初回にクラス分け試験を行うので、必ず出席すること。
スコアを読むことに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢が履修者に望まれる。

授業計画	
	［前期］ クレ読み、及び移調楽譜読み、小編成スコアやパートごとに分かれての弾奏など
1	クラス分け試験、及びガイダンス
2	スコアについての基礎知識
3	アルト譜表に慣れる
4	弦楽合奏を中心に弾奏
5	A管に慣れる
6	スペイン奇想曲Ⅰ　弾奏及び指揮
7	モーツアルト Cl.五重奏曲　第1主題部
8	モーツアルト Cl.五重奏曲　第２主題部
9	F管に慣れる
10	スペイン奇想曲Ⅱ
11	複数の移調楽譜に慣れる
12	チャイコフスキー 交響曲第５番Ⅱ
13	スペイン奇想曲Ⅳ　前半の書き換え
14	スペイン奇想曲Ⅳ　後半の考察
15	小試験　スコアでの弾奏

授業計画	
	［後期］ オーケストラスコアの弾奏、指揮、及び鑑賞など
1	スペイン奇想曲Ｖ　主題の考察
2	スペイン奇想曲Ｖ　前半の弾奏
3	スペイン奇想曲Ｖ　後半の弾奏
4	チャイコフスキー 弦楽セレナーデⅠ
5	ベートーヴェン 交響曲第６番Ⅰ
6	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　前半の弾奏及び指揮
7	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　後半の書き換え
8	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第１主題部
9	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第２主題部
10	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　展開部
11	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　再現部
12	ブラームス 交響曲第3番Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
13	その他のロマン派の作品
14	２０世紀の作品の読譜
15	試験と総括

科目名	スコアリーディング　[木3]						
代表教員	原田　愛	授業コード	GE0895B0	科目コード	GE0895	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「スコアリーディング」は本来、ソルフェージュの頂点にある科目であり、読譜力と演奏力の双方がそれぞれ影響しあって、的確な音楽表現を行うことが要求される。ここではその第一段階として、スコアに慣れる、スコアに親しむということをコンセプトとし、様々なスコアに接し、スコアを通して作品を読み取っていくことで、幅広い視野と聴覚、表現力を養う。その手段として、ほぼ毎回宿題を課し、スコアをピアノで弾くということを軸に、実習を進める。

２．授業概要

スコアについての知識を身につけ、視唱やピアノソロ、連弾などを通して、ハ音記号や移調楽器を含むスコアに慣れていく。スコアでの様々な要素を捉え、積極的に読む力を培うことを目指し、指揮を行う。オーケストラスコアをコンデンススコアに書き換え、細部にも注目する。鑑賞を通じて、様々な音色に耳を傾け、それぞれの役割や曲の構成なども考察し、作品を読んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ほぼ毎回、授業で弾くための課題が宿題として与えられる。
スコアに慣れる為、自分なりに真摯に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点　７０%、　学期末試験　３０%
平常点は、毎回の授業への参加姿勢及び課題への取り組み姿勢を評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

リムスキー・コルサコフ『スペイン奇想曲』（全音楽譜出版社）
ブラームス『交響曲第３番』（音楽之友社）
※その他、必要に応じて指示またはプリントを配布する。
〈入門書として〉『スコアリーディング スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修には　「チェルニー30番」程度の演奏能力があることが望ましい。
初回にクラス分け試験を行うので、必ず出席すること。
スコアを読むことに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢が履修者に望まれる。

授業計画	
	［前期］ クレ読み、及び移調楽譜読み、小編成スコアやパートごとに分かれての弾奏など
1	クラス分け試験、及びガイダンス
2	スコアについての基礎知識
3	アルト譜表に慣れる
4	弦楽合奏を中心に弾奏
5	A管に慣れる
6	スペイン奇想曲Ⅰ　弾奏及び指揮
7	モーツアルト Cl.五重奏曲　第1主題部
8	モーツアルト Cl.五重奏曲　第２主題部
9	F管に慣れる
10	スペイン奇想曲Ⅱ
11	複数の移調楽譜に慣れる
12	チャイコフスキー 交響曲第５番Ⅱ
13	スペイン奇想曲Ⅳ　前半の書き換え
14	スペイン奇想曲Ⅳ　後半の考察
15	小試験　スコアでの弾奏

授業計画	
	［後期］ オーケストラスコアの弾奏、指揮、及び鑑賞など
1	スペイン奇想曲Ｖ　主題の考察
2	スペイン奇想曲Ｖ　前半の弾奏
3	スペイン奇想曲Ｖ　後半の弾奏
4	チャイコフスキー 弦楽セレナーデⅠ
5	ベートーヴェン 交響曲第６番Ⅰ
6	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　前半の弾奏及び指揮
7	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　後半の書き換え
8	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第１主題部
9	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第２主題部
10	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　展開部
11	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　再現部
12	ブラームス 交響曲第3番Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
13	その他のロマン派の作品
14	２０世紀の作品の読譜
15	試験と総括

科目名	指揮法I （前） ［金1］P1クラス						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0900P1	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業の出席回数と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法I （前） ［金1］P2クラス						
代表教員	川本　統脩	授業コード	GE0900P2	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

指揮は身体を使った音楽表現であると言えます。主に利き手を使い空中で拍子を描きながら、楽曲のテンポや強弱を演奏者に伝えます。自分の演奏解釈を的確に奏者に伝えるには、まず手や腕の動かし方と運動に対する理解が不可欠です。合理的で簡潔な運動理論である斉藤メソッドを学び、表現手段としての指揮技法を身に付けましょう。アンサンブルを取りまとめるためには相当な覚悟が必要です。リーダーシップが取れるよう、コミュニュケーション力も養ってください。

2．授業概要

改訂新版『指揮法教程』斎藤秀雄著（音楽之友社）に書かれた内容を分かり易く解説し、交代で指揮台に立ち、指揮の実習します。授業時間の多くはレッスン形式で行われ、個々の指揮に対するアドバイスから、斉藤メソッドの技法への気づきがある様に論点をまとめます。指揮をしていないときは、指揮に合わせてメロディーを歌い、時にはピアノ伴奏をして演奏者の視点から指揮を分析します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「指揮法教程」の練習題や副教材は前もってソルフェージュし、ピアノで弾き、曲の全体をよく理解をして授業に臨んで下さい。また授業中に学んだ技法については、個々の楽器と同様に反復練習が必要です。しっかりと練習して下さい。学内外で行われる管弦楽や吹奏楽の演奏会を聴いて、指揮者の存在感や表現方法についても考えるようにしましょう。

4．成績評価の方法及び基準

成績は下記の目安で評価します。
・平常点（発言内容、授業態度）40%
・前に出て行う指揮と伴奏の実習状況（理解度、習熟度の評価）40%、
・最終授業日に行う試験（達成度）20%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは授業中に、適宜資料を配布します。また教職ピアノ実習4・5［2015年改訂版］の教科書を副教材として使用するので持参して下さい。持っていない人には最初の授業で貸出をします。 最終授業日に返却して下さい。
参考文献は下記のとおりです。
・「はじめての指揮法」斉田好男著（音楽之友社）
・改定新版「指揮法教程」斉藤秀雄著（音楽之友社）
・完本「指揮法入門」高階正光著（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に受講者が集中する傾向にあります。講義とレッスンの併用で授業を進行するので、レッスンの実習を多く希望する者は、出来るだけ後期に受講するようにして下さい。また教室には簡易ピアノが所定の位置に収納してあるので、教員の指示に従って移動をして下さい。
また出席に関しては次のことに注意して下さい。
・2/3以上の出席がない場合は、授業最終日に行う試験を受けることができない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］
1	皆で指揮し歌ってみよう―① 教職ピアノ実習4・5より「サンタ・ルチア」 指揮者の役割 立ち方・構え方
2	皆で指揮し歌ってみよう―② 教職ピアノ実習4・5より「Lascia ch'io pianga」 「点」について テンポとリズムの指示について
3	皆で指揮し歌ってみよう―③ 教職ピアノ実習4・5より「カリブ夢の旅」 図形の意味と描き方
4	皆で指揮し歌ってみよう―④ 教職ピアノ実習4・5より「Caro mio ben」 指揮法と呼吸法の関連
5	練習題１番の実習―① 予備運動と中間予備運動について 手の止め方について
6	練習題１番の実習―② rit（リット）の仕方 分割について
7	練習題２番の実習―① 平均運動としゃくいについて 指揮棒の使用について
8	練習題２番の実習―② 先入法について 引っ掛けについて
9	練習題４番の実習―① 打法というテクニックの解説 ２拍子の打法及び練習法 打法についての綜合注意
10	練習題４番の実習―② 弱起の予備運動について 跳ね上げ運動について ２拍子の一つ振り
11	練習題７番の実習―① 図形の省略について カデンツの処理について
12	練習題７番の実習―② 複合拍子の図形について
13	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―① 指揮法全般に置ける表現また意図の伝達法について
14	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―② 表情と左手の使い方について
15	試演会と総まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法I （前） ［金2］P3クラス						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0900P3	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業の出席回数と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法I （前） ［金2］P4クラス						
代表教員	川本　統脩	授業コード	GE0900P4	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

指揮は身体を使った音楽表現であると言えます。主に利き手を使い空中で拍子を描きながら、楽曲のテンポや強弱を演奏者に伝えます。自分の演奏解釈を的確に奏者に伝えるには、まず手や腕の動かし方と運動に対する理解が不可欠です。合理的で簡潔な運動理論である斉藤メソッドを学び、表現手段としての指揮技法を身に付けましょう。アンサンブルを取りまとめるためには相当な覚悟が必要です。リーダーシップが取れるよう、コミュニュケーション力も養ってください。

2．授業概要

改訂新版『指揮法教程』斎藤秀雄著（音楽之友社）に書かれた内容を分かり易く解説し、交代で指揮台に立ち、指揮の実習します。授業時間の多くはレッスン形式で行われ、個々の指揮に対するアドバイスから、斉藤メソッドの技法への気づきがある様に論点をまとめます。指揮をしていないときは、指揮に合わせてメロディーを歌い、時にはピアノ伴奏をして演奏者の視点から指揮を分析します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「指揮法教程」の練習題や副教材は前もってソルフェージュし、ピアノで弾き、曲の全体をよく理解をして授業に臨んで下さい。また授業中に学んだ技法については、個々の楽器と同様に反復練習が必要です。しっかりと練習して下さい。学内外で行われる管弦楽や吹奏楽の演奏会を聴いて、指揮者の存在感や表現方法についても考えるようにしましょう。

4．成績評価の方法及び基準

成績は下記の目安で評価します。
・平常点（発言内容、授業態度）40%
・前に出て行う指揮と伴奏の実習状況（理解度、習熟度の評価）40%、
・最終授業日に行う試験（達成度）20%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは授業中に、適宜資料を配布します。また教職ピアノ実習4・5［2015年改訂版］の教科書を副教材として使用するので持参して下さい。持っていない人には最初の授業で貸出をします。 最終授業日に返却して下さい。
参考文献は下記のとおりです。
・「はじめての指揮法」斉田好男著（音楽之友社）
・改定新版「指揮法教程」斉藤秀雄著（音楽之友社）
・完本「指揮法入門」高階正光著（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に受講者が集中する傾向にあります。講義とレッスンの併用で授業を進行するので、レッスンの実習を多く希望する者は、出来るだけ後期に受講するようにして下さい。また教室には簡易ピアノが所定の位置に収納してあるので、教員の指示に従って移動をして下さい。
また出席に関しては次のことに注意して下さい。
・2/3以上の出席がない場合は、授業最終日に行う試験を受けることができない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］
1	皆で指揮し歌ってみよう―① 教職ピアノ実習4・5より「サンタ・ルチア」 指揮者の役割 立ち方・構え方
2	皆で指揮し歌ってみよう―② 教職ピアノ実習4・5より「Lascia ch'io pianga」 「点」について テンポとリズムの指示について
3	皆で指揮し歌ってみよう―③ 教職ピアノ実習4・5より「カリブ夢の旅」 図形の意味と描き方
4	皆で指揮し歌ってみよう―④ 教職ピアノ実習4・5より「Caro mio ben」 指揮法と呼吸法の関連
5	練習題１番の実習―① 予備運動と中間予備運動について 手の止め方について
6	練習題１番の実習―② rit（リット）の仕方 分割について
7	練習題２番の実習―① 平均運動としゃくいについて 指揮棒の使用について
8	練習題２番の実習―② 先入法について 引っ掛けについて
9	練習題４番の実習―① 打法というテクニックの解説 ２拍子の打法及び練習法 打法についての綜合注意
10	練習題４番の実習―② 弱起の予備運動について 跳ね上げ運動について ２拍子の一つ振り
11	練習題７番の実習―① 図形の省略について カデンツの処理について
12	練習題７番の実習―② 複合拍子の図形について
13	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―① 指揮法全般に置ける表現また意図の伝達法について
14	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―② 表情と左手の使い方について
15	試演会と総まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法Ⅰ （後） ［金1］Q1クラス						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0900Q1	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業の出席回数と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法I （後） ［金1］Q2クラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GE0900Q2	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

指揮は身体を使った音楽表現であると言えます。主に利き手を使い空中で拍子を描きながら、楽曲のテンポや強弱を演奏者に伝えます。自分の演奏解釈を的確に奏者に伝えるには、まず手や腕の動かし方と運動に対する理解が不可欠です。合理的で簡潔な運動理論である斉藤メソッドを学び、表現手段としての指揮技法を身に付けましょう。アンサンブルを取りまとめるためには相当な覚悟が必要です。リーダーシップが取れるよう、コミュニュケーション力も養ってください。

2．授業概要

改訂新版『指揮法教程』斎藤秀雄著（音楽之友社）に書かれた内容を分かり易く解説し、交代で指揮台に立ち、指揮の実習します。授業時間の多くはレッスン形式で行われ、個々の指揮に対するアドバイスから、斉藤メソッドの技法への気づきがある様に論点をまとめます。指揮をしていないときは、指揮に合わせてメロディーを歌い、時にはピアノ伴奏をして演奏者の視点から指揮を分析します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「指揮法教程」の練習題や副教材は前もってソルフェージュし、ピアノで弾き、曲の全体をよく理解をして授業に臨んで下さい。また授業中に学んだ技法については、個々の楽器と同様に反復練習が必要です。しっかりと練習して下さい。学内外で行われる管弦楽や吹奏楽の演奏会を聴いて、指揮者の存在感や表現方法についても考えるようにしましょう。

4．成績評価の方法及び基準

成績は下記の目安で評価します。
・平常点（発言内容、授業態度）40%
・前に出て行う指揮と伴奏の実習状況（理解度、習熟度の評価）40%、
・最終授業日に行う試験（達成度）20%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは授業中に、適宜資料を配布します。また教職ピアノ実習4・5［2015年改訂版］の教科書を副教材として使用するので持参して下さい。持っていない人には最初の授業で貸出をします。 最終授業日に返却して下さい。
参考文献は下記のとおりです。
・「はじめての指揮法」斉田好男著（音楽之友社）
・改定新版「指揮法教程」斉藤秀雄著（音楽之友社）
・完本「指揮法入門」高階正光著（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に受講者が集中する傾向にあります。講義とレッスンの併用で授業を進行するので、レッスンの実習を多く希望する者は、出来るだけ後期に受講するようにして下さい。また教室には簡易ピアノが所定の位置に収納してあるので、教員の指示に従って移動をして下さい。
また出席に関しては次のことに注意して下さい。
・2/3以上の出席がない場合は、授業最終日に行う試験を受けることができない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］
1	皆で指揮し歌ってみよう―① 教職ピアノ実習4・5より「サンタ・ルチア」 指揮者の役割 立ち方・構え方
2	皆で指揮し歌ってみよう―② 教職ピアノ実習4・5より「Lascia ch'io pianga」 「点」について テンポとリズムの指示について
3	皆で指揮し歌ってみよう―③ 教職ピアノ実習4・5より「カリブ夢の旅」 図形の意味と描き方
4	皆で指揮し歌ってみよう―④ 教職ピアノ実習4・5より「Caro mio ben」 指揮法と呼吸法の関連
5	練習題１番の実習―① 予備運動と中間予備運動について 手の止め方について
6	練習題１番の実習―② rit（リット）の仕方 分割について
7	練習題２番の実習―① 平均運動としゃくいについて 指揮棒の使用について
8	練習題２番の実習―② 先入法について 引っ掛けについて
9	練習題４番の実習―① 打法というテクニックの解説 ２拍子の打法及び練習法 打法についての綜合注意
10	練習題４番の実習―② 弱起の予備運動について 跳ね上げ運動について ２拍子の一つ振り
11	練習題７番の実習―① 図形の省略について カデンツの処理について
12	練習題７番の実習―② 複合拍子の図形について
13	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―① 指揮法全般に置ける表現また意図の伝達法について
14	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―② 表情と左手の使い方について
15	試演会と総まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指揮法I （後） ［金2］Q3クラス						
代表教員	川本　統脩	授業コード	GE0900Q3	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

指揮は身体を使った音楽表現であると言えます。主に利き手を使い空中で拍子を描きながら、楽曲のテンポや強弱を演奏者に伝えます。自分の演奏解釈を的確に奏者に伝えるには、まず手や腕の動かし方と運動に対する理解が不可欠です。合理的で簡潔な運動理論である斉藤メソッドを学び、表現手段としての指揮技法を身に付けましょう。アンサンブルを取りまとめるためには相当な覚悟が必要です。リーダーシップが取れるよう、コミュニュケーション力も養ってください。

2．授業概要

改訂新版『指揮法教程』斎藤秀雄著（音楽之友社）に書かれた内容を分かり易く解説し、交代で指揮台に立ち、指揮の実習します。授業時間の多くはレッスン形式で行われ、個々の指揮に対するアドバイスから、斉藤メソッドの技法への気づきがある様に論点をまとめます。指揮をしていないときは、指揮に合わせてメロディーを歌い、時にはピアノ伴奏をして演奏者の視点から指揮を分析します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「指揮法教程」の練習題や副教材は前もってソルフェージュし、ピアノで弾き、曲の全体をよく理解をして授業に臨むよ　「指揮法教程」の練習題や副教材は前もってソルフェージュし、ピアノで弾き、曲の全体をよく理解をして授業に臨んで下さい。また授業中に学んだ技法については、個々の楽器と同様に反復練習が必要です。しっかりと練習して下さい。学内外で行われる管弦楽や吹奏楽の演奏会を聴いて、指揮者の存在感や表現方法についても考えるようにしましょう。

4．成績評価の方法及び基準

成績は下記の目安で評価します。
・平常点（発言内容、授業態度）40%
・前に出て行う指揮と伴奏の実習状況（理解度、習熟度の評価）40%、
・最終授業日に行う試験（達成度）20%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは授業中に、適宜資料を配布します。また教職ピアノ実習4・5［2015年改訂版］の教科書を副教材として使用するので持参して下さい。持っていない人には最初の授業で貸出をします。 最終授業日に返却して下さい。
参考文献は下記のとおりです。
・「はじめての指揮法」斉田好男著（音楽之友社）
・改定新版「指揮法教程」斉藤秀雄著（音楽之友社）
・完本「指揮法入門」高階正光著（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に受講者が集中する傾向にあります。講義とレッスンの併用で授業を進行するので、レッスンの実習を多く希望する者は、出来るだけ後期に受講するようにして下さい。また教室には簡易ピアノが所定の位置に収納してあるので、教員の指示に従って移動をして下さい。
また出席に関しては次のことに注意して下さい。
・2/3以上の出席がない場合は、授業最終日に行う試験を受けることができない。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］
1	皆で指揮し歌ってみよう―① 教職ピアノ実習4・5より「サンタ・ルチア」 指揮者の役割 立ち方・構え方
2	皆で指揮し歌ってみよう―② 教職ピアノ実習4・5より「Lascia ch'io pianga」 「点」について テンポとリズムの指示について
3	皆で指揮し歌ってみよう―③ 教職ピアノ実習4・5より「カリブ夢の旅」 図形の意味と描き方
4	皆で指揮し歌ってみよう―④ 教職ピアノ実習4・5より「Caro mio ben」 指揮法と呼吸法の関連
5	練習題１番の実習―① 予備運動と中間予備運動について 手の止め方について
6	練習題１番の実習―② rit（リット）の仕方 分割について
7	練習題２番の実習―① 平均運動としゃくいについて 指揮棒の使用について
8	練習題２番の実習―② 先入法について 引っ掛けについて
9	練習題４番の実習―① 打法というテクニックの解説 ２拍子の打法及び練習法 打法についての綜合注意
10	練習題４番の実習―② 弱起の予備運動について 跳ね上げ運動について ２拍子の一つ振り
11	練習題７番の実習―① 図形の省略について カデンツの処理について
12	練習題７番の実習―② 複合拍子の図形について
13	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―① 指揮法全般に置ける表現また意図の伝達法について
14	練習題１，２，４，７と履修曲の総合練習―② 表情と左手の使い方について
15	試演会と総まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 - 1/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 （前） ［金2］						
代表教員	スティーブ　サックス	授業コード	GE104500	科目コード	GE1045	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インターナショナルな音楽活動を行う際に、最低限必要な英語表現を習得する。

２．授業概要

実際に英語を使用する機会を想定した、ケース・スタディを通じて、実践的な英語力をトレーニングする。まず外国人講師（スティーブ・サックス）によるアンサンブルやレッスンなどのケース・スタディを行い、その後ケース・スタディで使用した英語表現を復習・解説する講義を行う。前期はリスニング、後期はスピーキングを重視する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習：授業で配布するプリント資料をもとにして、重要な英語表現や単語を暗記する。英語で簡単な自己紹介、また楽曲紹介を用意する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）　前期・後期に行うクイズ、プレゼンテーション、また各期末試験（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリント資料を配付。
電子辞書を所持していることが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の上限人数は２０人。
応募者多数の場合は、ペーパーテストで選抜する。
後期の授業では、アンサンブルを組むこともあるので、楽器編成により履修者数を制限することもある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・グループ分け
2	英語による自己紹介（先生）
3	英語による自己紹介（学生４年＆３年生）
4	英語による自己紹介（学生２年＆１年生）
5	音楽専門用語
6	ケース・スタディー：ジャズについて20 Questions学び
7	音楽理論書の読解　（音階）
8	音楽理論書の読解　（音程）
9	音楽理論書の読解　（和音）
10	ジャズ名曲に基づいた英語による音楽理論の講義（イントロ）
11	ジャズ名曲に基づいた英語による音楽理論の講義（テーマ）
12	ジャズ名曲に基づいた英語による音楽理論の講義　（アドリブ）
13	ジャズ名曲に基づいた英語による音楽理論の講義　（後テーマ）
14	ジャズ名曲に基づいた英語による音楽理論の講義　（まとめ）
15	ファイナル・テスト、まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 - 2/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語2 （後） ［金2］						
代表教員	スティーブ　サックス	授業コード	GE104600	科目コード	GE1046	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インターナショナルな音楽活動を行う際に、最低限必要な英語表現を習得する。

２．授業概要

実際に英語を使用する機会を想定した、ケース・スタディを通じて、実践的な英語力をトレーニングする。まず外国人講師（スティーブ・サックス）によるアンサンブルやレッスンなどのケース・スタディを行い、その後ケース・スタディで使用した英語表現を復習・解説する講義を行う。前期はリスニング、後期はスピーキングを重視する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習：授業で配布するプリント資料をもとにして、重要な英語表現や単語を暗記する。英語で簡単な自己紹介、また楽曲紹介を用意する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）　前期・後期に行うクイズ、プレゼンテーション、また各期末試験（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリント資料を配付。
電子辞書を所持していることが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の上限人数は２０人。
応募者多数の場合は、ペーパーテストで選抜する。
後期の授業では、アンサンブルを組むこともあるので、楽器編成により履修者数を制限することもある。

授業計画	
	［半期］１−２
1	コース内容紹介＆楽曲紹介
2	英語による楽曲紹介（４年生）
3	英語による楽曲紹介（３年生）
4	英語による楽曲紹介（２年生）
5	英語による楽曲紹介（１年生）
6	英語による楽曲紹介（まとめ）
7	ジャズ専門用語紹介
8	ジャズ専門文書
9	音楽理論書の読解　（和音）
10	バンドリーダー実習（先生参考用）
11	バンドリーダー実習（４年生）
12	バンドリーダー実習（３年生）
13	バンドリーダー実習（２年生）
14	バンドリーダー実習（１年生）
15	ファイナル・テスト、まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	浄書と音源の制作　[月5]						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE111600	科目コード	GE1116	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・ME・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年コンピュータを使用して楽譜を制作する機会が増えたが、作曲や編曲、さらには教育分野においては楽譜を手書きで行わなければならない場面が多い。
また、作曲コンクールや仕事においては浄書楽譜に加えて参考音源を要求されることも多くなり、総合的な制作力が不可欠な時代となっている。
これらに対応する力を養うため手書きで制作された楽譜をコンピュータに入力し浄書を完成させ、それをもとにシーケンスソフトを用いた音源制作を行う。
受講者が手書きの楽譜制作からコンピュータ浄書、そして参考音源制作までの一連の流れを体得することを目標とする。

２．授業概要

手書きの楽譜を書く基礎を学び総譜を完成、併せて手書きによるパート譜の作成を行う。続いて完成された手書きの総譜をコンピュータに入力して浄書を完成させる。続いてコンピュータ浄書のデータを活用してシーケンスソフトを用いた音源制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱うソフトを日常的に使用すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
学年末提出作品（評価の５０％）
楽譜作成や音源制作などの課題への取り組み姿勢を平常点とする。完成したコンピュータ浄書、及び音源を学年末提出作品とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『楽譜の書き方』（平石博一著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータおよび浄書ソフト、シーケンスソフトを所有していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 記譜に関するルールを学び、正しく記譜する力を養う。
1	授業の概要、目標の提示
2	浄書の基礎１（音部記号、音符、休符など）
3	浄書の基礎２（大譜表、拍子、連桁など）
4	４声体の浄書１（J.S.Bach コラール作品より）
5	４声体の浄書２（自作品）
6	ピアノ曲の浄書１（F.Chopin作品より）
7	ピアノ曲の浄書２（自作品）
8	弦楽合奏曲の浄書１（P.I.Tchaikovsky作品より）
9	弦楽合奏曲の浄書２（自作品）
10	歌曲、合唱曲の書き方
11	歌曲の浄書（G.Faure作品より）
12	合唱曲の浄書（R.Schumann作品より）
13	新しい記譜法（２０世紀の記譜法）
14	パート譜制作について
15	パート譜制作演習

授業計画	
	［後期］ コンピュータを用いた楽譜制作、音源制作を修得する。
1	コンピュータ浄書の基礎１（基本操作を中心）
2	コンピュータ浄書の基礎２（音符入力を中心）
3	浄書演習１（単純拍子のリズム表記を中心）
4	浄書演習２（複合拍子のリズム表記を中心）
5	浄書演習３（混合拍子のリズム表記を中心）
6	浄書演習４（拍子の変化を中心）
7	浄書演習５（２０世紀の記譜法を中心）
8	シーケンスソフトの基礎１（基本操作を中心）
9	シーケンスソフトの基礎２（音楽表現を中心）
10	音源制作演習１（４声体）
11	音源制作演習２（ピアノ曲）
12	音源制作演習３（弦楽合奏曲）
13	音源制作演習４（歌曲、合唱曲）
14	メディア制作の基礎
15	メディアの公開

科目名	対位法研究Ⅰ ［金4］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE116600	科目コード	GE1166	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法は１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）から長い時間をかけて発展を遂げ、後にフーガが確立していった。J.S.バッハにおけるフーガは対位法音楽の頂点の一つと言える。

本授業では２声、及び３声のフーガの書法を修得し、作品として完成させることにより、履修者はフーガを書く基礎的な技術を獲得することができる。

２．授業概要

授業計画の通り、書法を学びながら作曲演習を通じてテクニックを磨いていく。担当教員が添削指導を行いながら授業が進められる。
また、必要に応じてJ.S.バッハのフーガなどの楽曲分析を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「フーガ書法 パリ音楽院の方式による」（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
1	授業概要 予備知識（主唱、答唱、対唱）
2	主唱の分析、および書法研究
3	真答唱の書き方（長調・短調）
4	変答唱の書き方（長調）
5	変答唱の書き方（短調）
6	作曲演習１　真答唱・変答唱
7	対唱の分析、及び書法研究
8	真答唱に対する対唱の書き方
9	変答唱に対する対唱の書き方
10	追拍の分析、及び書法研究
11	２声フーガの様式について
12	提示部の書き方（２声）
13	作曲演習２　提示部（２声）
14	喜遊部の書き方（２声）
15	作曲演習３　喜遊部（２声） 提示部と喜遊部の総括と講評

授業計画	
1	追拍部の書き方（２声）
2	作曲演習４　追拍部（２声）
3	結尾部の書き方（２声）
4	作曲演習５　結尾部（２声）
5	２声フーガの完成と講評
6	３声フーガの様式について
7	提示部の書き方（３声）
8	作曲演習６　提示部（３声）
9	喜遊部の書き方（３声）
10	作曲演習７　喜遊部（３声）
11	追拍部の書き方（３声）
12	作曲演習８　追拍部（３声）
13	結尾部の書き方（３声）
14	作曲演習９　結尾部（３声）
15	３声フーガの完成と講評

科目名	歌曲作曲研究Ⅰ （前） ［木4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE116800	科目コード	GE1168	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロックから１９世紀における歌曲について、その和声法や形式などの様式感、そして歌詞と旋律の関係について研究する。また、伴奏を通じて歌曲における旋律の特徴や工夫について研究する。
歌曲作曲研究Ⅰでは、イタリアとドイツの歌曲様式を扱い、最終的に受講者がそれらの様式を取り入れた歌曲を作曲することを目標とする。

２．授業概要

授業では、多くのイタリア歌曲、ドイツ歌曲を聴き、楽譜を詳細に分析する。また歌曲の伴奏を行うことにより伴奏の書法を体得するとともに、歌としての旋律の作曲法を修得する。
作曲演習では教員がアドバイスを行いながら作品の完成度を高め、最終的に完成された作品を音にすることで、一層の学習成果を得る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。
事前に与えられた歌曲の伴奏を練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
作品提出（評価の５０％）
平常点は授業における創作への取り組み姿勢に加え、伴奏への取り組み姿勢も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

イタリア歌曲集１　中声用（全音楽譜出版社）
ドイツ歌曲集１　中声用（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
ピアノコースの場合はピアノ＆作曲マスタークラスに所属のこと。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 イタリアにおける歌曲の発展
2	C.G.A.Monteverdiの様式研究
3	A.Scarlattiの様式研究
4	G.F.Händelの様式研究
5	J.P.E.Martiniの様式研究
6	イタリアの様式に基づく作曲１（歌を中心）
7	イタリアの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
8	イタリアの様式による歌曲の演奏
9	ドイツ歌曲における歌詞について ドイツにおける歌曲の発展
10	有節歌曲と通作歌曲の様式について
11	F.Schubertの様式研究１（作品の形式）
12	F.Schubertの様式研究２（歌詞との関係）
13	ドイツの様式に基づく作曲１（歌を中心）
14	ドイツの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
15	これまでに作曲した作品の発表と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲作曲研究II （後） ［木4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE116900	科目コード	GE1169	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲作曲研究I」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロックから１９世紀における歌曲について、その和声法や形式などの様式感、そして歌詞と旋律の関係について研究する。また、伴奏を通じて歌曲における旋律の特徴や工夫について研究する。
歌曲作曲研究Ⅱでは、ドイツとフランスの歌曲様式を扱い、最終的に受講者がそれらの様式を取り入れた歌曲を作曲することを目標とする。

２．授業概要

授業では、多くのドイツ歌曲、フランス歌曲を聴き、楽譜を詳細に分析する。また歌曲の伴奏を行うことにより伴奏の書法を体得するとともに、歌としての旋律の作曲法を修得する。
作曲演習では教員がアドバイスを行いながら作品の完成度を高め、最終的に完成された作品を音にすることで、一層の学習成果を得る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。
事前に与えられた歌曲の伴奏を練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
作品提出（評価の５０％）
平常点は授業における創作への取り組み姿勢に加え、伴奏への取り組み姿勢も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ドイツ歌曲集１　中声用（全音楽譜出版社）
フォーレ歌曲全集１（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
ピアノコースの場合はピアノ＆作曲マスタークラスに所属のこと。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 AriaとRecitativoについて
2	W.A.Mozartの様式研究
3	L.v.Beethovenの様式研究
4	R.Schumannの様式研究１（詩人の恋など）
5	R.Schumannの様式研究２（女の愛と生涯など）
6	ドイツの様式に基づく作曲１（歌を中心）
7	ドイツの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
8	ドイツの様式による歌曲の演奏
9	フランス歌曲における歌詞について フランスにおける歌曲の発展
10	C.F.Gounodの様式研究
11	G.Fauréの様式研究１（作品の形式）
12	G.Fauréの様式研究２（歌詞との関係）
13	フランスの様式に基づく作曲１（歌を中心）
14	フランスの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
15	これまでに作曲した作品の発表と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合唱曲作曲研究　（前）　[木4]						
代表教員	増井　哲太郎	授業コード	GE117900	科目コード	GE1179	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲作曲研究II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合唱は教会において発展してきた歴史があるが、まずそれらの西洋における合唱の様式を学び取る。また日本において合唱は独自の発展を遂げ、今日なお多くの作品が創作されており、名作も数多い。
そのような歴史的な合唱や日本の合唱を研究すると同時に、混声四部合唱（ア・カペラ、およびピアノ伴奏付き）、女性三部合唱（ピアノ伴奏付き）の書法を作曲、編曲を通じて修得する。最終的に受講者が合唱曲作品を完成させることを目標とする。

２．授業概要

ア・カペラ、混声四部合唱、女性三部合唱の作品の研究を通じて、それぞれの様式における声部の書法やピアノ伴奏の書法を体得する。作曲演習を通じて、ア・カペラ、および混声四部合唱の作品を完成させ、それをもとに女性三部合唱への編曲を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ミサ曲や受難曲など、宗教音楽を含む多くの合唱作品を聴き、楽譜を熟読すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
1	授業概要 合唱の歴史の概要（西洋および東洋）
2	作品研究１　宗教音楽における合唱の用例
3	作品研究２　１８世紀の合唱（西洋）
4	作曲演習１　ア・カペラ様式での作曲
5	作品研究３　１９世紀の合唱（西洋）
6	作品研究４　２０世紀の合唱（西洋）
7	日本における合唱の発展について
8	作品研究５　２０世紀の合唱（日本）
9	作品研究６　２１世紀の合唱（日本）
10	歌詞の扱いについて（日本語）
11	作曲演習２　合唱における声部書法について
12	作曲演習３　混声四部合唱の作曲
13	作曲演習４　混声四部合唱の伴奏について
14	女性三部合唱について 編曲演習　混声四部から女性三部への編曲
15	完成作品に対する講評と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音階研究　（後）　[木4]						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE118000	科目コード	GE1180	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO・ME・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロックから１９世紀の西洋音楽における長旋法と短旋法については、和声法という形で機能和声の論理が確立し、学習は容易となった。一方、教会旋法などへの和声連結に関する論理は確立されていない。

１９世紀末から２０世紀にかけては芸術音楽の分野で様々な音階が試みられ、多くの色彩感を生んだが、それらの新しい旋法に対しての論理は教会旋法以上に確立していない。さらに２０世紀にはジャズをはじめとしてさまざまな音楽ジャンルが生まれ、それとともに多くの音階が生まれた。

本講座では、まず教会旋法での旋律の作例を研究し、和声連結の可能性を模索する。続いて２０世紀の音階における和声連結を研究し、作品を創作する。

本講座は音階を学ぶと同時に新しい旋律の可能性を研究し、また旋律に対して和声の可能性を模索するが、いわば論理が確立されていない分野を研究するということであり、新しい芸術の領域に踏み込むものである。

受講者が新しい可能性に気づき、自らの語法を探求する工夫を見出すことを目標とする。

２．授業概要

各種旋法について、実作品より旋律の用例を研究し和声の連結について分析を試みる。そこで得た手法を用いていくつかの楽節の創作を行い、教員がアドバイスを行いながら完成度を高めつつ、最終的には小品として完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

旋法を用いた作品を多く聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
1	授業概要 教会旋法についての総論
2	エオリア旋法、ドリア旋法における旋律の例
3	エオリア旋法、ドリア旋法における和声連結
4	教会旋法を用いた楽節の創作（ピアノ小品）
5	２０世紀の音階総論 全音音階と移調の限られた旋法について
6	MTL１番（全音音階）における旋律の例
7	MTL１番（全音音階）における和声連結
8	MTL２番～３番における旋律の例
9	MTL２番～３番における和声連結
10	MTL４番～７番における旋律の例
11	MTL４番～７番における和声連結
12	ブルー・ノート・スケールについて
13	ハンガリーとジプシーのスケールについて
14	MTLを用いた作品の創作
15	講評と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［月5］Aクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1225AO	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。
クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。
本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。
後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。
履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
課題への取り組とその評価（評価の25%）
前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１−波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２−オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１−モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２−空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１−exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2−トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１−プランニング
13	後期課題の実習2−効果音制作
14	後期課題の実習3−音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［水5］Bクラス						
代表教員	仲井　朋子	授業コード	GE1225B0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。
クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。
本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。
後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。
履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
課題への取り組とその評価（評価の25%）
前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１−波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２−オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１−モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２−空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１−exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2−トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１−プランニング
13	後期課題の実習2−効果音制作
14	後期課題の実習3−音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［木4］Cクラス						
代表教員	森　威功	授業コード	GE1225CO	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。
クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。
本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。
後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。
履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
課題への取り組とその評価（評価の25%）
前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［金5］Dクラス						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE1225DO	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。
クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。
本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。
後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。
履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
課題への取り組とその評価（評価の25%）
前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１−波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２−オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１−モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２−空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１−exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2−トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１−プランニング
13	後期課題の実習2−効果音制作
14	後期課題の実習3−音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ⅰ ［火5］Eクラス						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE1225EO	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。　クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎として以下の項目の修得が可能である。

【MIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、オーディオ波形編集、ミックス、その他スタジオ機器類の取り扱い】

以上はクオリティーの高い音源を制作するために必要不可欠な項目であり、これらすべての修得を目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。
後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

DAWの操作に関しては、授業で実施した内容を繰り返し復習すること。
特に用語に関して難しいと感じる場合には、予めDTMに関する用語を調べておくことが望ましい。
エフェクターなどは種類が多いので、関連書籍により情報を整理しておくことが望ましい。。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への取り組姿勢（評価の25%）
前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献
Sound & Recording Magazine　（リットーミュージック）
新・エフェクターの全知識　　安斎 直宗（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DAW演習Ⅰ は予めクラス分けがあるのでその指示に従うこと。

授業計画	
	［前期］ 演奏データの入力方法と減算方式のシンセサイザーの原理を中心に学ぶ。
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎的なテクニックを複合的に使った演習を実施する。
14	総合実習２-これまでのテクニックを拡張的に活用し、音楽制作に必用な総合的なスキルを身につける。
15	前期のポイントのまとめと前期課題の説明

授業計画	
	［後期］ オーディオの周辺機器と波形編集を中心に学ぶ。
1	制作課題の提出と各課題内容について個別にチェックを行う。
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	ミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表と総評

科目名	ＤＡＷ演習II ［水4］Aクラス						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE1226AO	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。後期には、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。そうして学んだ技法を用いて、映像データに対する音楽付けの実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各担当教官によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教官によって異なる。授業内ガイダンスにて説明。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画の詳細は各クラスによって異なるため、授業内にて指示をする。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	実際のMIDIデータ作品の実習。設定された課題曲に対し、テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ作成。
4	データ制作-２
5	データ制作-３
6	データ制作-４
7	作品発表
8	DigitalAudioの理論について。サンプリングレート、ビットデプスなど。
9	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析
10	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
11	作品制作実習-２
12	作品制作実習-３
13	作品制作実習-４
14	作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。 CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対するBGM制作の実習-１
8	映像作品に対するBGM制作の実習-２
9	映像作品に対するBGM制作の実習-３
10	作品発表
11	ムービーのスコア制作実習２。CM音楽の実習-１
12	CM音楽の実習-２
13	CM音楽の実習-３
14	CM音楽の実習 - ４
15	作品発表

科目名	ＤＡＷ演習II ［火4］Bクラス						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE1226B0	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DAWの進化に伴い、プロデューサーは全てのサウンドプロダクション工程を容易に行き来することが可能になった。
この講座では、DAW演習Ｉで学んだ基礎的な技術を発展させ、サウンドデザイン・アレンジ・打ち込み・ミックスの
工程が綿密に絡み合うサウンドプロダクションの理解を深めることを目的とする。
またその過程において、鋭敏な音楽的・音響的な耳（感覚）を養うことを目標にする。

２．授業概要

前期は、生楽器のMIDIの打ち込み、オーディオ素材の取り扱いまたヴォーカルの編集を行う。
後期は、各ジャンル（主にエレクトロニックミュージック）のプロダクション手法の解説や短い楽曲制作を行う。
その過程において、Logic付属プラグインとともにサードパーティー製のプラグインの使用法と紹介を行う。
詳細は授業内での指示に従うこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内に仕上げられない課題は自習が必要な場合がある。詳細は授業内での指示に従うこと。
また各自授業内で理解できなかった項目に関して必ず復習をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

各期末課題提出必須(評価の30%)
平常点・(評価の70%)
平常点は授業への参加姿勢と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
提出課題では、課題を取り組んでいる姿勢や内容、また授業への理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

平常点、出席・授業への参加姿勢（私語）を重視します。
また、2/3 以上の出席がない場合は、試験を受けることができない
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［前期］ MIDIの打ち込み・その後オーディオ編集・ボーカル編集処理を学ぶ。 またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	ガイダンス
2	鍵盤楽器 ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
3	ギター ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
4	ストリングス ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
5	ドラム ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
6	オーディオ編集 解説 ・Logicオーディオ編集機能 ・Flex・オーディオチョップ
7	オーディオ編集 演習 ・Logicオーディオ編集機能
8	オーディオ編集 演習 ・Flex・オーディオチョップ
9	ミキシングテクニック解説と演習 ・ボリュームと定位
10	ボーカル編集 解説 ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション ・タイミング・ピッチ（Flex）
11	ボーカル編集 演習 ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション
12	ボーカル編集 演習 ・タイミング・ピッチ（Flex）
13	ミキシングテクニック解説と演習 ・コンプレッサー・EQ
14	ミキシングテクニック解説と演習 ・リバーブ/ディレイ・モジュレーション系(空間処理)
15	期末課題提出・アドバイスとディスカッション

授業計画	
	［後期］ 様々ジャンルのプロダクションを学び、その過程においてドラム音源やサンプラー、シンセサイザーについて解説する。またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	後期のガイダンス ミュージックコンクレート～サンプリングミュージックの歴史と変遷
2	サンプリング・サンプラー 解説 ・Exs24・Kontakt
3	ヒップホップのプロダクション解説 参考プロデューサー　LA Beats/Prefuse73 ets.
4	ヒップホップのプロダクション演習
5	ドラム音源の解説と操作方法 ・Ultrabeat・Battery
6	プラグインシンセサイザーの解説と操作方法 ・Alchemy・RetroSynth・Massive
7	ハウス・テクノのプロダクション解説 （サイドチェイン/フィルター） 参考プロデューサー Akufen/Theo Parrish ets.
8	ハウス・テクノのプロダクション演習
9	エレクトロニカ・アンビエント・ドローンのプロダクション解説 （グリッチ/グラニュラー） 参考プロデューサー　Four tet/Fennesz ets.
10	エレクトロニカ・アンビエント・ドローンのプロダクション演習
11	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション解説 参考プロデューサー Burial/James Blake ets.
12	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習
13	ミキシングテクニック解説と演習 ・歪み系・パラレルプロセッシング・MS処理
14	期末課題制作とアドバイス
15	期末課題提出・アドバイスとディスカッション

科目名	ＤＡＷ演習II ［月4］Cクラス						
代表教員	久木山　直	授業コード	GE1226C0	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。後期には、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。そうして学んだ技法を用いて、映像データに対する音楽付けの実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教官によって異なる。授業内ガイダンスにて説明。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画の詳細は各クラスによって異なるため、授業内にて指示をする。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	実際のMIDIデータ作品の実習。設定された課題曲に対し、テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ作成。
4	データ制作-２
5	データ制作-３
6	データ制作-４
7	作品発表
8	DigitalAudioの理論について。サンプリングレート、ビットデプスなど。
9	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析
10	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
11	作品制作実習-２
12	作品制作実習-３
13	作品制作実習-４
14	作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。 CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対するBGM制作の実習-１
8	映像作品に対するBGM制作の実習-２
9	映像作品に対するBGM制作の実習-３
10	作品発表
11	ムービーのスコア制作実習２。CM音楽の実習-１
12	CM音楽の実習-２
13	CM音楽の実習-３
14	CM音楽の実習 - ４
15	作品発表

科目名	Ｐｒｏ　Ｔｏｏｌｓ　入門／Ｐｒｏ　Ｔｏｏｌｓ　演習　[火5]							
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE122700	科目コード	GE1227	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

音楽制作におけるデジタル技術の発展は録音と編集のみならず制作手法や表現手法の可能性も広げてきた。
この授業では近年スタジオワークにおける代表的なソフトウェアとなっているPro Toolsを取り上げ、その概要と実際の操作を学ぶ。
DAWとしての特長を把握した上で、音楽制作に有効な音響知識や実践的な応用技術の習得を目標とする。

２．授業概要

デジタルオーディオの知識に始まり、Pro Tools上における実際の操作に関する講義を行う。
また、テーマ別に実習を設けオペレーションに有効な音響知識のほか実践的な応用技術を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間外においても積極的にDAWに触れることで、授業内トピックへの関心を深めて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業内課題（評価の３０％）
前期末課題、後期末実習課題（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で必要な私製PDFファイル/プリントを適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

個人または共同作業における様々な音楽制作環境の中で、どのようにDAWの技術を活用していくのかを思い描きながら参加することが望まれる。なお、履修希望者数によっては履修制限を行うことがある。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	デジタルオーディオについて
3	マルチトラック・レコーディングについて
4	Pro Tools 概要
5	ユーザインターフェイスと基本操作、初期設定
6	レコーディングとプレイバック：セッションとファイルの管理
7	レコーディングとプレイバック：基本編集
8	ミキシング基礎：デシベル表示、周波数分布
9	ミキシング基礎： トラック管理、ルーティング
10	オーディオ編集1 分割、結合、フェード作成
11	オーディオ編集2　時間軸に沿ったアプローチ
12	ポスト・プロダクションについて
13	ポスト・プロダクション実習１ ADR、様々な音声要素の扱い
14	ポスト・プロダクション実習2 編集
15	復習、前期末課題

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習
2	MIDI機能について1 機能概要、操作、音源
3	MIDI機能について2 応用編集
4	プロセッシング：Audio Suite、プラグイン・エフェクト
5	プロセッシング：シグナル処理、レイテンシーとその補正
6	実践ミキシング序章：音圧の話、録音用マイクについて
7	実践ミキシング1　空間系エフェクターの用法
8	実践ミキシング2　ダイナミクス系エフェクターの考察
9	実践ミキシング3　応用ルーティング
10	実践ミキシング4　各種メーター
11	同期について
12	オペレーション実習１　オートメーション機能の活用
13	オペレーション実習２　歪みの考察
14	後期末実習課題の解説、トピック別編集方法の確認
15	後期末実習課題及びまとめ

科目名	リズムセクション・ライティング ［月4］Aクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1228AO	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽のクリエイターたちは、常に新しいスタイルを追求してきました。ある新しいムーブメントが起こると、フォロワー達が次々とそれに続き、そのスタイルが一般化するとその語法は徐々に新鮮味を失い、さらに発展した形が現れたり、また正反対の要素を持つ別のものが注目されたりといったことが繰り返されてきました。

新しいスタイルといっても、広い視点から観察すると、それまでのスタイルの延長上にある場合も多くあるでしょう。既存のスタイルをオマージュ的な文脈で焼き直したり、ある要素を拡大して先鋭化させたり、異文化圏の要素を素材として取り入れたり、全く別のスタイルを組み合わせたりといった手法で、作品に新しい要素を導入していこうという試みが常に行われてきました。このような既存の様々なスタイルを素材として使い分けたり組み合わせていく手法は、とくにDJ的な手法が一般化した現代のクリエイターにとっては常識と言っていいでしょう。このような一つのスタイルにとらわれない客観的な視点を獲得し、それぞれのスタイルの語法だけでなく、時代背景や文化的背景までの理解を深めることによって、斬新なアイデアを得る近道となります。

この講義の主題は、楽曲のスタイルを決定する基本的な要素としてのリズムセクションに焦点を絞り、日本のマーケットで比較的よく使われるスタイルを俯瞰して分析、模倣することです。現代のクリエイターに必要と思われる、さまざまなジャンルのグルーヴについての知

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期試験（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムスとリズムマシン 楽器の成り立ち､奏法と記譜法
3	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
4	パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	リズムセクションのプログラミング
6	ビート概論（8ビート、16ビート、シャッフル、フィルイン、ブレイク、キメ等）
7	20's～50's スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップスとサーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップスとその応用 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス ドラムマシンとシンセサイザーの登場によるリズム体の進化 トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、打ち込みの登場ほか 解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ 解析とプログラミング
3	レゲエとジャマイカ関連 スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、ダンスホール、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダブ／ドラムンベース 解析とプログラミング
5	ダブステップ関連 解析とプログラミング
6	テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワークほか　解析とプログラミング
7	チップチューン 8bitのプラグインを使ってリズム体を組む 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ハウス・ミュージックの台頭から四つ打ちテクノ～EDMへ 解析とプログラミング
9	ヒップホップと様々なラップ・ミュージック　ターンテーブル、ブレイクビーツからテクノ系まで 解析とプログラミング
10	R&B 解析とプログラミング
11	変拍子 解析とプログラミング
12	アコースティック編成時のパーカッションによるリズム体　解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体 解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	ハリウッド・サウンドトラック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　［水4］Bクラス						
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GE1228B0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽のクリエイターたちは、常に新しいスタイルを追求してきました。ある新しいムーブメントが起こると、フォロワー達が次々とそれに続き、そのスタイルが一般化するとその語法は徐々に新鮮味を失い、さらに発展した形が現れたり、また正反対の要素を持つ別のものが注目されたりといったことが繰り返されてきました。

新しいスタイルといっても、広い視点から観察すると、それまでのスタイルの延長上にある場合も多くあるでしょう。既存のスタイルをオマージュ的な文脈で焼き直したり、ある要素を拡大して先鋭化させたり、異文化圏の要素を素材として取り入れたり、全く別のスタイルを組み合わせたりといった手法で、作品に新しい要素を導入していこうという試みが常に行われてきました。このような既存の様々なスタイルを素材として使い分けたり組み合わせていく手法は、とくにDJ的な手法が一般化した現代のクリエイターにとっては常識と言っていいでしょう。このような一つのスタイルにとらわれない客観的な視点を獲得し、それぞれのスタイルの語法だけでなく、時代背景や文化的背景までの理解を深めることによって、斬新なアイデアを得る近道となります。

この講義の主題は、楽曲のスタイルを決定する基本的な要素としてのリズムセクションに焦点を絞り、日本のマーケットで比較的よく使われるスタイルを俯瞰して分析、模倣することです。現代のクリエイターに必要と思われる、さまざまなジャンルのグルーヴについての知

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期試験（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムスとリズムマシン 楽器の成り立ち､奏法と記譜法
3	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
4	パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	リズムセクションのプログラミング
6	ビート概論（8ビート、16ビート、シャッフル、フィルイン、ブレイク、キメ等）
7	20's～50's スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップスとサーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップスとその応用 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス ドラムマシンとシンセサイザーの登場によるリズム体の進化 トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、打ち込みの登場ほか 解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ 解析とプログラミング
3	レゲエとジャマイカ関連 スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、ダンスホール、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダブ／ドラムンベース 解析とプログラミング
5	ダブステップ関連 解析とプログラミング
6	テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワークほか　解析とプログラミング
7	チップチューン 8bitのプラグインを使ってリズム体を組む 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ハウス・ミュージックの台頭から四つ打ちテクノ～EDMへ 解析とプログラミング
9	ヒップホップと様々なラップ・ミュージック　ターンテーブル、ブレイクビーツからテクノ系まで 解析とプログラミング
10	R&B 解析とプログラミング
11	変拍子 解析とプログラミング
12	アコースティック編成時のパーカッションによるリズム体　解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体 解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	ハリウッド・サウンドトラック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　[木3] Cクラス						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE1228C0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽のクリエイターたちは、常に新しいスタイルを追求してきました。ある新しいムーブメントが起こると、フォロワー達が次々とそれに続き、そのスタイルが一般化するとその語法は徐々に新鮮味を失い、さらに発展した形が現れたり、また正反対の要素を持つ別のものが注目されたりといったことが繰り返されてきました。

新しいスタイルといっても、広い視点から観察すると、それまでのスタイルの延長上にある場合も多くあるでしょう。既存のスタイルをオマージュ的な文脈で焼き直したり、ある要素を拡大して先鋭化させたり、異文化圏の要素を素材として取り入れたり、全く別のスタイルを組み合わせたりといった手法で、作品に新しい要素を導入していこうという試みが常に行われてきました。このような既存の様々なスタイルを素材として使い分けたり組み合わせていく手法は、とくにDJ的な手法が一般化した現代のクリエイターにとっては常識と言っていいでしょう。このような一つのスタイルにとらわれない客観的な視点を獲得し、それぞれのスタイルの語法だけでなく、時代背景や文化的背景までの理解を深めることによって、斬新なアイデアを得る近道となります。

この講義の主題は、楽曲のスタイルを決定する基本的な要素としてのリズムセクションに焦点を絞り、日本のマーケットで比較的よく使われるスタイルを俯瞰して分析、模倣することです。現代のクリエイターに必要と思われる、さまざまなジャンルのグルーヴについての知

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期試験（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムスとリズムマシン 楽器の成り立ち､奏法と記譜法
3	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
4	パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	リズムセクションのプログラミング
6	ビート概論（8ビート、16ビート、シャッフル、フィルイン、ブレイク、キメ等）
7	20's～50's スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップスとサーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップスとその応用 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス ドラムマシンとシンセサイザーの登場によるリズム体の進化 トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、打ち込みの登場ほか 解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ 解析とプログラミング
3	レゲエとジャマイカ関連 スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、ダンスホール、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダブ／ドラムンベース 解析とプログラミング
5	ダブステップ関連 解析とプログラミング
6	テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワークほか　解析とプログラミング
7	チップチューン 8bitのプラグインを使ってリズム体を組む 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ハウス・ミュージックの台頭から四つ打ちテクノ～EDMへ 解析とプログラミング
9	ヒップホップと様々なラップ・ミュージック　ターンテーブル、ブレイクビーツからテクノ系まで 解析とプログラミング
10	R&B 解析とプログラミング
11	変拍子 解析とプログラミング
12	アコースティック編成時のパーカッションによるリズム体　解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体 解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	ハリウッド・サウンドトラック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング ［金4］Dクラス						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE1228DO	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽のクリエイターたちは、常に新しいスタイルを追求してきました。ある新しいムーブメントが起こると、フォロワー達が次々とそれに続き、そのスタイルが一般化するとその語法は徐々に新鮮味を失い、さらに発展した形が現れたり、また正反対の要素を持つ別のものが注目されたりといったことが繰り返されてきました。

新しいスタイルといっても、広い視点から観察すると、それまでのスタイルの延長上にある場合も多くあるでしょう。既存のスタイルをオマージュ的な文脈で焼き直したり、ある要素を拡大して先鋭化させたり、異文化圏の要素を素材として取り入れたり、全く別のスタイルを組み合わせたりといった手法で、作品に新しい要素を導入していこうという試みが常に行われてきました。このような既存の様々なスタイルを素材として使い分けたり組み合わせていく手法は、とくにDJ的な手法が一般化した現代のクリエイターにとっては常識と言っていいでしょう。このような一つのスタイルにとらわれない客観的な視点を獲得し、それぞれのスタイルの語法だけでなく、時代背景や文化的背景までの理解を深めることによって、斬新なアイデアを得る近道となります。

この講義の主題は、楽曲のスタイルを決定する基本的な要素としてのリズムセクションに焦点を絞り、日本のマーケットで比較的よく使われるスタイルを俯瞰して分析、模倣することです。現代のクリエイターに必要と思われる、さまざまなジャンルのグルーヴについての知

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期試験（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムスとリズムマシン 楽器の成り立ち､奏法と記譜法
3	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
4	パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	リズムセクションのプログラミング
6	ビート概論（8ビート、16ビート、シャッフル、フィルイン、ブレイク、キメ等）
7	20's～50's スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップスとサーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップスとその応用 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス ドラムマシンとシンセサイザーの登場によるリズム体の進化 トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、打ち込みの登場ほか 解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ 解析とプログラミング
3	レゲエとジャマイカ関連 スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、ダンスホール、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダブ／ドラムンベース 解析とプログラミング
5	ダブステップ関連 解析とプログラミング
6	テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワークほか　解析とプログラミング
7	チップチューン 8bitのプラグインを使ってリズム体を組む 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ハウス・ミュージックの台頭から四つ打ちテクノ～EDMへ 解析とプログラミング
9	ヒップホップと様々なラップ・ミュージック　ターンテーブル、ブレイクビーツからテクノ系まで 解析とプログラミング
10	R&B 解析とプログラミング
11	変拍子 解析とプログラミング
12	アコースティック編成時のパーカッションによるリズム体　解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体 解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	ハリウッド・サウンドトラック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング ［火4］Eクラス							
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1228E0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽のクリエイターたちは、常に新しいスタイルを追求してきました。ある新しいムーブメントが起こると、フォロワー達が次々とそれに続き、そのスタイルが一般化するとその語法は徐々に新鮮味を失い、さらに発展した形が現れたり、また正反対の要素を持つ別のものが注目されたりといったことが繰り返されてきました。

新しいスタイルといっても、広い視点から観察すると、それまでのスタイルの延長上にある場合も多くあるでしょう。既存のスタイルをオマージュ的な文脈で焼き直したり、ある要素を拡大して先鋭化させたり、異文化圏の要素を素材として取り入れたり、全く別のスタイルを組み合わせたりといった手法で、作品に新しい要素を導入していこうという試みが常に行われてきました。このような既存の様々なスタイルを素材として使い分けたり組み合わせていく手法は、とくにDJ的な手法が一般化した現代のクリエイターにとっては常識と言っていいでしょう。このような一つのスタイルにとらわれない客観的な視点を獲得し、それぞれのスタイルの語法だけでなく、時代背景や文化的背景までの理解を深めることによって、斬新なアイデアを得る近道となります。

この講義の主題は、楽曲のスタイルを決定する基本的な要素としてのリズムセクションに焦点を絞り、日本のマーケットで比較的よく使われるスタイルを俯瞰して分析、模倣することです。現代のクリエイターに必要と思われる、さまざまなジャンルのグルーヴについての知

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期試験（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムスとリズムマシン 楽器の成り立ち､奏法と記譜法
3	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
4	パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	リズムセクションのプログラミング
6	ビート概論（8ビート、16ビート、シャッフル、フィルイン、ブレイク、キメ等）
7	20's～50's スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップスとサーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップスとその応用 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス ドラムマシンとシンセサイザーの登場によるリズム体の進化 トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、打ち込みの登場ほか 解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ 解析とプログラミング
3	レゲエとジャマイカ関連 スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、ダンスホール、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダブ／ドラムンベース 解析とプログラミング
5	ダブステップ関連 解析とプログラミング
6	テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワークほか　解析とプログラミング
7	チップチューン 8bitのプラグインを使ってリズム体を組む 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ハウス・ミュージックの台頭から四つ打ちテクノ～EDMへ 解析とプログラミング
9	ヒップホップと様々なラップ・ミュージック　ターンテーブル、ブレイクビーツからテクノ系まで 解析とプログラミング
10	R&B 解析とプログラミング
11	変拍子 解析とプログラミング
12	アコースティック編成時のパーカッションによるリズム体　解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体 解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	ハリウッド・サウンドトラック 解析とプログラミング

科目名	ストリングス＆ブラスセクション・ライティング　[木3] Bクラス						
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GE1229B0	科目コード	GE1229	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

管楽器と弦楽器の編曲は、ジャズやクラシックに留まらず、デジタルオーディオやプログラミングが一般化した現代のポピュラー音楽においても重要な要素です。この講座は、これまで管や弦を本格的に使ったことがなく知識もない、打ち込みにはある程度慣れたので、クラシックの本格的な管弦楽書法の勉強なしに、ロック／ポップス的な感覚で手っ取り早く自分の音楽に管弦を導入したい、という学生向けのものです。知識がほとんど無い状態から、四声体での書法を理解し、さまざまなジャンルにおける管弦の使われ方を分析し模倣することを通して理解を深め、実習を通じて自分の作品に管弦を導入するための知識を得ることが目標です。

2．授業概要

楽器のしくみ、演奏法、プログラミングの面から、編曲のための基礎を学びます。ポピュラー音楽で管弦が使われている典型的な例を分析し、模倣していきます。また、トランスクライビング（既成のデータを管弦の編成に置きかえていく作業）に重点を置いて実習を重ね、理解を深めます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

終了後は学習したノウハウを使って自分の作品で管弦を積極的に使っていきましょう。

4．成績評価の方法及び基準

・前期、後期課題（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をデータで配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

打ち込みを前提としていますので、この授業で楽譜を書くことは一切ありません。参考資料として課題の楽譜がPDFで提供されるだけです。作業はすべてDAW上のデータ編集だけで行います。テンションコードを理解していることと、DAWのプログラミングに慣れていることが必要です。

授業計画	
	［前期］ 編曲の前提となる基礎的な知識と、ストリングス・セクションについて学び、実習します。
1	ガイダンス　＊人数によっては選抜テストを行う場合もあります
2	四声体とボイシング
3	弦楽器の基礎知識／弦セクションのプログラミング
4	弦セクションへのトランスクライビング シンプルなもの
5	弦セクションへのトランスクライビング ワルツ
6	＜2声＞パスパートの書法
7	＜4声＞内声の書法
8	ブロックコード書法
9	歌もの書法
10	さまざまな書法：駆け上がり、駆け下がり、カッティング、オブリ、オクターブユニゾン、トレモロ+ヘアー、ピチカート
11	さまざまな書法の実習
12	ディスコ・ストリングスの書法、フォール、ベンド、四度積み、ペンタトニックに重心を置いたライン
13	ディスコ・ストリングスの実習
14	弦セクション(またはカルテット）+エレクトリックなリズム体による現代的な編成　Bjork、菅野よう子、ヒップホップのメインリフとしての弦
15	夏期課題の説明と最新ストリングス音源事情

授業計画	
	［後期］ 　サウンドトラック制作時に役立つコード理論と、木管、金管楽器の基礎知識、オーケストレーションの実習、最後に簡易的なオーケストレーションの実習を行います。
1	サウンドトラックで役に立つ近現代的なハーモニー　4度積み、並行移動、ポリコード（バイトーナル）
2	サウンドトラックで役に立つモーダルな書法
3	木管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての木管
4	木管のオーケストレーション　ユニゾン／オクターブユニゾンによる色彩
5	木管アンサンブルのトランスクライビング　「プロムナード」
6	木管アンサンブルのトランスクライビング　「バラード」
7	金管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての金管
8	ファンク・ブラスの書法　ブロック・コードとユニゾン、ブルース・ペンタトニックに重心をおいたライン
9	ファンク・ブラスの実習
10	ソロ楽器としての金管 Tp、Tb、Hr、ホルン五度
11	金管アンサンブルのトランスクライビング　「カンタベリー・コラール」
12	金管アンサンブルのトランスクライビング　「亡き王女のためのパヴァーヌ」
13	コピペとミュートで作るオーケストレーション　「ノヴェレッテ」
14	コピペとミュートで作るオーケストレーション　バルトークより
15	さらに自由なオーケストレーション　後期課題の説明

科目名	ストリングス＆ブラスセクション・ライティング　[火3] Cクラス						
代表教員	奥　慶一	授業コード	GE1229C0	科目コード	GE1229	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックを基本に、ジャズ、ロック、ポップスまで含めた編曲の実際に必要な知識と技術を身につける。

２．授業概要

前期：総譜読み書きの習熟，ハ音記号の読み書き実習，移調楽器の概念を理解，バロック～古典派の書法。
後期：クラシック，ロマン派，後期ロマン派から，Jazz，ポピュラー音楽，映画音楽の様々なスタイルを知りテクニックを吸収する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間中に取り上げた楽曲、参考楽曲をくり返し聴き、採譜やスタイルを応用した実作をするなど、自発的な学習が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

前期，後期，各1曲の提出課題による評価。(前期 40%，後期 60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

A. Danhauser & L. Lemoine: Solfège des Solfèges - Vol. 3A (Henry Lemoine)
伊福部昭：管弦楽法（音楽之友社）
Don Sebesky: The Contemporary Arranger（日音）
Fred Sturm: Changes Over Time ((株) ATN)
授業には Web Textbook，印刷物を用意するので，上記の書籍を購入する必要はありません。
Web 上の資料を閲覧するためのパソコン，パッド型端末が必要です。(スマートフォン不可)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声1巻（赤）修了、2巻（黄）第4章準固有和音、V度V度諸和音までは理解できているものとして授業を進める。後期の授業内容、課題には3巻修了が望ましい。
出席が極端に悪い場合は上記の点数から減点することがある。

授業計画	
	［前期］ 一般によく知られているクラシック楽曲を素材に古典的スタイルの書法を学ぶ。
1	Overview (概要): 作曲･編曲とは何か、楽器法とは何か、歌曲と器楽曲の書法の違い、編曲をする際の心構えとは。
2	C-clef ハ音記号のソルフェージュ。アルト記号, テノール記号 Danhauser: Solfège des solfèges
3	Strings Ensemble アイネクライネ･ナハトムジーク - 基本的な弦楽合奏 W. A. Mozart: Serenade No. 13 for strings in G major K. 525 (Eine kleine Nachtmuzik)
4	Basso continuo and Baroque music- 1 (通奏低音とバロック音楽 - 1) パッヘルベルのカノン: 通奏低音について, 数字の基礎知識。 J. Pachelbel: Canon in D major for 3 violins & basso continuo; A. Vivaldi: The Four Seasons - Concerto No. 2 in G minor[Op. 8 RV 315 "L'estate" (Summer)
5	Basso continuo and Baroque music- 2 (通奏低音とバロック音楽 - 2) アルビノーニのオーボエ協奏曲: バロック時代の協奏曲 Albinoni: Concerto for oboe in D minor, Op. 9, No. 2
6	Basso continuo and Baroque music- 3 (通奏低音とバロック音楽 - 3) J. S. バッハのブランデンブルク協奏曲 J. S. Bach: Brandenburg Concerto No. 5 in D major BWV 1050
7	Clarinet and orchestra クラリネットとオーケストラ W. A. Mozart: Clarinet concerto in A major, KV 622
8	Flute, Harp and small orchestra フルート, ハープと小オーケストラ W. A. Mozart: Concerto for Flute, Harp, and Orchestra, KV 299
9	Trumpet and orchestra トランペット, ホルンとオーケストラ Haydn: Trumpet Concerto in E flat major Hob. VIIe W. A. Mozart: Horn concerto No.4 KV 495
10	Woodwind instruments and classical program music 管楽器群と古典派の情景描写 L. v. Beethoven: Symphony No. 6 in F major Op. 68 (Pastral) G. Rossini: William Tell (Guillaume Tell) - overture
11	Classical Symphony 「ジュピター」古典派の交響曲 W. A. Mozart: Symphony in C, KV 551
12	Vienna-style music: Waltz and March 実用音楽 ワルツとマーチ - ヴィエンナ･スタイル Johann Strauss (Vater): Radetzky Marsch Op. 228 Johann Strauss II: Die Fledermaus - overture
13	Solo voice or chorus and orchestra -1 独唱または合唱とオーケストラ -1 G. F. Handel: Messiah, HWV 56
14	Solo voice or chorus and orchestra - 2 独唱または合唱とオーケストラ -2 Berlioz: Grande Messe des morts (or Requiem), Op. 5 Gabriel Fauré: Requiem
15	Opera - 1 オペラ - 1 「魔笛」 W. A. Mozart: Die Zauberflöte, KV 620

授業計画	
	［後期］ ロマン派～近代のクラシック音楽のオーケストレーション，Jazz，Rock，映画音楽
1	Opera -2 オペラ -2 「カルメン」 G. Bizet: Carmen
2	Simple Brass section style シンプルなブラスセクション･スタイル シカゴ，スティーヴィー･ワンダー，アース･ウィンド･アンド･ファイア Chicago，Stevie Wonder，Earth Wind and Fire
3	Era of Easy Listening and French pops イージーリスニングとフレンチ･ポップスの時代 ポール･モーリア，ヘンリー･マンチーニ，マントヴァーニ Paul Mauriat，Henry Mancini，Mantovani
4	Jazz big band style - 1 (ジャズ･ビッグ･バンド - 1) ベニー･グッドマン，デューク･エリントン，カウント･ベイシー Benny Goodman，Duke Ellington (Billy Strayhorn)，Count Basie
5	Jazz big band style - 2 (ジャズ･ビッグ･バンド - 2) クインシー･ジョーンズ，ギル･エヴァンス， Quincy Jones: Walkin' (This is how I feel about Jazz)，etc. Gil Evans
6	Fusion of Classical music and Jazz -1 (クラシックと Jazz の融合 -1) ガーシュインのラプソディー･イン･ブルー George Gershwin: Rhapsody in Blue (orchestra version)
7	Fusion of Classical music and Jazz -2 (クラシックと Jazz の融合 -２) ビル･エヴァンスが弾いた前衛ジャズ，日本の前衛ジャズ Claus Ogerman: Symbiosis (Piano: Bill Evans) Shuko Mizuno (水野修孝): Jazz Orchestra '75
8	Fusion of Classical music and Jazz -3 (クラシックと Jazz の融合 -3) ジョリヴェのトランペット協奏曲 (第2番) Andre Jolivet: Concerto for trumpet No. 2
9	Orchestration of the Impressionist school 「ダフニスとクロエ」印象派の管弦楽 Maurice Ravel: Daphnis et Chloé，ballet
10	Modern Ballet music ストラヴィンスキーのバレエ音楽 「火の鳥」 Igor Stravinsky: L'Oiseau de feu (The Firebird)
11	Spectacular Music 壮大な管弦楽の世界 - ヴァーグナー，レスピーギ，ホルスト Wagner，Respighi and Holst
12	Film music - 1 (映画音楽 -1) イタリアン･コネクション - ニーノ･ロータとエンニオ･モリコーネの映画音楽 Nino Rota and Ennio Moricone
13	Film music - 2 (映画音楽 -2) ジョン･ウィリアムズの映画音楽 John Williams: E. T. etc.
14	Film music - 3 (映画音楽 - 3) 講師作曲のドラマ、アニメーション音楽より おジャ魔女どれみ、明日のナージャ etc.
15	Annual summary (年間のまとめ) Don Sebesky: The contemporary arranger より，編曲において大事なポイントの復習と年間のまとめ

科目名	オーケストラ・ライティング ［月3］						
代表教員	山下　康介	授業コード	GE123300	科目コード	GE1233	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎的なオーケストレーションを学び、シンフォニックな作編曲技術を習得する。

２．授業概要

ジャンルを問わず、シンフォニックな作品の分析と作編曲実習を、DAW上でのシミュレーションを含めて行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習課題において、スコアとシミュレーションによるdemo音源の作成。

４．成績評価の方法及び基準

任意の提出作品（評価の50%）
出席率（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で管弦楽法の本を入手すること（指定は特になし）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業においては、なるべく段数の多い五線紙を持参するように。
また、普段から各自でオーケストラスコアを読む習慣をつけるように。

授業計画	
	［前期］ オーケストラ概論と、弦楽器を中心としたオーケストレーション
1	オーケストラ概論
2	弦楽器（１）ヴァイオリン
3	弦楽器（２）ヴィオラ
4	弦楽器（3）チェロ
5	弦楽器（4）コントラバス
6	ユニゾンとディヴィジについて
7	旋律におけるオーケストレーション（弦楽器）
8	ハーモニーにおけるオーケストレーション（弦楽器）
9	弦楽器における伴奏スタイルの研究 「クラシカルなアプローチによるもの」
10	弦楽器における伴奏スタイルの研究 「ポップなスタイルによるもの」
11	スタジオレコーディングにおける編成について （弦楽セクション）
12	弦楽器のライティング実習 （ピアノ曲から弦楽アンサンブルへの編曲）
13	弦楽器のライティング実習 （ロックバンド曲から弦楽アンサンブルへの編曲）
14	弦楽器のライティング実習 （弦楽四重奏への編曲）
15	作品提出と添削 （弦楽アンサンブルを用いたオリジナル、あるいは編曲作品）

授業計画	
	［後期］ 木管、金管、打楽器、ハープの用法と、フル編成のオーケストレーション。
1	木管楽器（１）フルート属とクラリネット属
2	木管楽器（２）ダブル・リード属
3	木管楽器のオーケストレーション
4	金管楽器（１）トランペット
5	金管楽器（２）ホルン
6	金管楽器（３）トロンボーン・テューバ
7	金管楽器のオーケストレーション
8	吹奏楽について（管楽器によるアンサンブル）
9	ハープとティンパニ、パーカッション
10	旋律におけるオーケストレーション （２管編成オーケストラ）
11	ハーモニーにおけるオーケストレーション （２管編成オーケストラ）
12	フルオーケストラのライティング実習 （ピアノ曲から２管編成への編曲）
13	フルオーケストラのライティング実習 （ロックバンド曲から２管編成への編曲）
14	フルオーケストラにおけるライティング実習 （ボーカル＆４リズムを含む２管編成）
15	作品提出と添削 （２管編成を用いたオリジナル、あるいは編曲作品）

科目名	映像実習／ＷＥＢデザイン実習　［金5］						
代表教員	舘田　ゆり	授業コード	GE123400	科目コード	GE1234	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・誰に、何を、どう伝えたいか、を明確にし、Webサイトを通じて伝えられるようになる。

・Webサイトを一人で制作できる基本的な知識、技術、考え方を学ぶ。

・Webサイト制作に使用するソフトウェアの操作方法を学ぶ。

・自ら発信する力（プロデュース、アピールの方法）を身につける。

２．授業概要

・一年間の授業を通じて、自らが決めたテーマで、Webサイトを制作します。前期と後期の授業最終回に、制作したWebサイトを発表することで、課題提出とします。

・Web業界は、変化のスピードが早い業界です。時代の流れに左右されない基本的な技術、考え方を身につけます。

・毎回、授業の前半に、新しい知識・技術を学び、授業の後半は、実際に手を動かして制作します。
＜使用ソフト＞ Adobe Dreamweaver / Photoshop / illustrator 他

・随時Web業界の最新情報、トレンドを紹介します。また、事例を元に、グループディスカッションを実施し、理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で提示する課題の完成と反復。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の20%）
課題提出（評価の60%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は特に使用せず、授業中に、資料をプリントまたはPDFで配布します。
参考図書は、随時授業内で紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ（Mac）基本操作に習熟していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	[Webサイト概論] ・インターネットの基礎（歴史と変遷、仕組み） ・Webサイトとは ・Webに関わる職種 ・ドメインとは
3	[Webサイトの設計-1] ・制作工程 ・Webサイトにおける「戦略」とは ・コンセプトシート（戦略シート）について ・Webデザインの基礎知識
4	[Webサイトの設計-2] ・キーワードの書き出し,サイト名 ・Webサイトの構成 ・Webサイトのレイアウト ・マルチデバイス対応(レスポンシブ・ウェブデザイン)
5	[HTML] ・HTML言語の基礎 ・HTML演習
6	[CSS-1] ・Webを彩るCSS言語の基礎 ・CSS演習
7	[CSS-2 / 配色の基礎] ・テンプレートファイルの構造を理解する ・Webサイトの配色
8	[コーディング-1] ・テンプレートファイルのカスタマイズ ・フォント、カラー設定 ・ページ制作の工夫(読みやすさ、内容)
9	[コーディング-2] ・テンプレートファイルのカスタマイズ ・Webサイトの装飾 ・画像素材の選定
10	[HTML/CSS 制作演習-1] ・コンセプトシートを元にした、Web制作の実践 ・テンプレートのカスタマイズ（配色 / レイアウト） ・コンテンツ制作の基礎
11	[illustrator] ・illustratorの基礎 ・illustratorで図形を描く（パスとベジェ曲線） ・Webサイトのロゴ制作演習
12	[画像制作-1] ・画像ファイル形式(GIF、PNG、JPEG) ・Photoshopの基礎（基本動作、レイヤー） ・オンラインサービス / ジェネレーターの紹介 ・画像ファイルの書き出し
13	[画像制作-2] ・illustratorとPhotoshopの作業連携 ・バナー制作演習
14	[HTML/CSS 制作演習-2] ・素材の配置（画像 / 動画 / SNS）
15	・制作物発表 ・前期の振り返り

授業計画	
	［後期］
1	・後期ガイダンス ・Webデザインと著作権
2	[コンテンツの企画] ・コンセプト / ターゲットの決定 ・表現の一貫性を保つための表現スタイルとルール作り（トーン＆マナー） ・Webサイトの構成（原稿、レイアウト設計）
3	[Webサイトの表現とCMS-1] ・CMS (Content Management System) ・Word Press, 無料ツール(Jindo、Wixなど)
4	[コンテンツ制作] ・コンテンツ制作演習 ・閲覧者に配慮したデザインとは（UI / UX） ・HTML / CSS の復習
5	[JavaScript-1] ・Javascript / jQueryの基礎 ・JavaScript演習
6	[JavaScript-2] ・Javascript / jQueryの導入方法 ・JavaScript演習
7	[アニメーション表現] ・Webデザインにおける”動き”の変遷 ・アニメーションの基本
8	[HTML5 と動画] ・Flashに代わる技術（HTML5, 動画） ・GIF動画 / HTML5動画の制作演習
9	[制作演習-1] ・コンセプトシートを意識したWebデザイン制作
10	[Webサイトの表現とCMS-1] ・ECサイト, LPページ（ランディングページ） ・ブログ, SNS, ・お問い合わせページ
11	[制作演習-2] ・コンテンツの作り込み ・Webデザイン演習
12	[Webサイト公開] ・サーバの選定 ・FTPソフト操作（ファイルアップロード / 表示確認）
13	[Webサイト公開後の活用] ・運用 / 更新 / 検証 / 効果測定 ・アクセス解析(Google Analytics)
14	[SNSの活用] ・Twitter / Instagram / Facebook などの特徴 ・SNSの特徴を生かした、効果的な伝え方
15	・制作物発表 ・作品講評 / 総括

科目名	Ｍａｘ／ＭＳＰ演習　[火3]						
代表教員	仲井　朋子	授業コード	GE123500	科目コード	GE1235	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コンピュータを使用した様々なスタイルの音楽作品について理解を深め、実際に作品制作をすることで音楽表現の可能性を広げる。作品制作には音楽／映像／マルチメディア用の統合開発環境である Max 7を使用し、公開形式で成果発表を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って主にオーディオ・プログラミングの基礎を習得し、インタラクティヴなシステム構築とそれを使用したライブまたはインスタレーションなどの作品制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に演習内容を消化しきれなかった場合は、次回の授業までに消化しておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
課題の提出と、前・後期の成果発表（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を提供する。
『Maxの教科書』ノイマンピアノ著（Rittor Music）
『2061 : Maxオデッセイ』ノイマンピアノ著（Rittor Music）
『コンピュータ音楽 - 歴史・テクノロジー・アート』Curtis Roads 著（東京電機大学出版局）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生も、DAWを使用した作品制作が一通り出来るスキルを要します。
出席（前・後期共に1/2以上）を重視します。

授業計画	
	［前期］
1	〔Maxプログラミング基礎１〕 基本的な操作方法とオブジェクト群の理解
2	〔Maxプログラミング基礎２〕 MIDI、演算、コントロール系プログラミングの習得
3	〔オーディオ プロセッシング１〕 オシレーターを使用したオーディオプログラミングの習得
4	〔オーディオ プロセッシング２〕 オシレーターの応用と、AM、FM、RMなどの変調方法の習得
5	〔オーディオ プロセッシング３〕 フィルターの制作
6	〔Maxプログラミングの応用〕 パッチャー、サブ・パッチ、それに伴うパッチコードを使用せず信号を送受信する方法の習得
7	〔オーディオプログラミング４〕 FM音源のポリフォニック化
8	〔オーディオプログラミング５〕 オシレータを使用した基本的な等距離パンニングの制作
9	〔エフェクター制作１〕 ディレイの基礎と応用
10	〔エフェクター制作２〕 ディレイを応用したフランジャー、コーラスの制作
11	〔パフォーマンスシステムの構築〕 サブパッチ化されたプログラムを組み合わせたパフォーマンス用システムの構築
12	〔課題制作１〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー複数のシステムを組み合わせる方法
13	〔課題制作２〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー時間的な変化を制御する方法
14	〔課題制作３〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー仕上げ
15	〔作品発表〕作品発表

授業計画	
	［後期］
1	〔外部入力〕 マイクロフォンなど、外部からのオーディオ信号を扱う方法の習得
2	〔サンプリング１-①〕 ハードディスク・ベースでのサンプリングとプレイバック方法の基礎
3	〔サンプリング１-②〕 ハードディスク・ベースでのサンプリングとプレイバック方法の応用
4	〔サンプリング２-①〕 メモリー・ベースでのサンプリングと様々なプレイバック方法の基礎
5	〔サンプリング２-②〕 メモリー・ベースでのサンプリングと様々なプレイバック方法の応用
6	〔インタラクティヴシステム１〕 画像処理ライブラリ（Jitter, CV）とオーディオプログラムを相互に組み合わせたインタラクティヴシステムの制作
7	〔インタラクティヴシステム２〕 ネットワークプロトコル（Open Sound Control）を 介したインタラクティヴシステムの制作
8	〔DAWとの連携〕 Logic Pro X からの制御方法
9	〔パフォーマンスシステムの構築１〕 これまで作成したプログラムを組み合わせ、オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムの構築 ―先行作品の紹介
10	〔パフォーマンスシステムの構築２〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムの構築 ―プログラムのプランニング
11	〔パフォーマンスシステムの構築３〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムの構築 ―プログラムの統合
12	〔作品制作１〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムを使用した作品制作　―作品コンセプトの考え方
13	〔作品制作２〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムを使用した作品制作　―時間的な変化を制御する方法
14	〔作品制作３〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムを使用した作品制作 ―仕上げ
15	〔作品発表〕作品発表

科目名	コンピュータ音楽表現　[月4]						
代表教員	森　威功	授業コード	GE123600	科目コード	GE1236	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM・JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

メディア系プログラミングツールであるCycling'74 Max7を学び、コンピュータを用いた音楽表現の拡張手法や映像プログラミングを研究、実践する。

２．授業概要

前期：Maxの基本的なプログラミングを学び、音合成や音響処理のための様々なモジュールを制作する。
後期：各々の方向性に基づいてライブ・パフォーマンス・システム、作曲支援ツール、インタラクティブ・アートなどを制作して授業内で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Maxに限らずプログラミング言語の習得には繰り返し学習が不可欠なので、授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。また下記の参考文献や各ソフトウェアのサイトに掲載されているチュートリアルにもぜひ挑戦してほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の５０％）　平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版
『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リットｰミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

下記の条件を満たした学生の履修を勧めます。自分で判断できない場合は、まず初回のガイダンスに参加してください。
●「DAW演習I」の単位修得済の学生、または同等のスキルを有すると認定された者
●ジャズコースの学生はMacOSとDAWの基本的な操作ができることを履修条件とします。（必要に応じて「Max/MSP演習」や他の授業の聴講を勧めることがあります。）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／作品例紹介
2	イベントのスケジューリングについて（ステップ・シーケンサー制作）
3	イベントのスケジューリングについて（リアルタイム入力）
4	作曲アルゴリズムによるイベントの生成手法
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析１−ピッチ検出
12	音声入力分析２−トリガーの生成
13	プログラミング実習１−プランニング
14	プログラミング実習２−実装
15	作品発表と夏休みの課題について

授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用１-スペクトルEQ
4	FFT応用２-フェイズ・ヴォコーダー
5	Jitter objectを用いた映像処理１-マトリクスとプレーンの説明
6	Jitter objectを用いた映像処理２-動画再生とエフェクト処理
7	Jitter objectを用いた映像処理3-映像入力とサンプリング
8	Jitter objectを用いた映像処理4-3DCGの生成
9	Jitter objectを用いた映像処理5-テクスチャやパーティクル
10	企画発表-プランニング
11	制作実習１-各モジュールの制作
12	制作実習２-モジュール接続とGUI制作
13	制作実習３-コントローラーの関連付け
14	制作実習４-バグ修正
15	作品発表と総括

科目名	作編曲入門 （前） ［火3］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE123900	科目コード	GE1239	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の基礎を学びながら、DTMベースの作編曲に必要な感覚と基礎技能を習得する。
学生は音楽制作の土台を作ることができる。

２．授業概要

楽典、ソルフェージュ、コード理論の基礎、フレーズの作り方など、それぞれの要素をアクティブラーニングで複合的に学び音楽制作の基盤を築く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習、復習には以下サイトを利用してください。
http://www.音楽理論.site/theory/

４．成績評価の方法及び基準

平常点70%
授業内な課題30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布するが、以下のサイトを活用する。
http://www.音楽理論.site/theory/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は入試の成績に応じて予め履修が制限される。

授業計画	
1	基本ビートとジャンルのリズム
2	音程について
3	調号と主音の関係
4	音階の仕組み
5	和音の種類とコードネーム
6	和音の機能と代表的なコード進行
7	リズムの要素について
8	和音と旋律の関係について
9	２小節のフレーズ制作実習
10	４小節のフレーズ制作実習(前半部)
11	４小節のフレーズ制作実習(後半部の終止)
12	ブリッジの制作と簡単な転調方法
13	サビ制作実習（前半部）
14	サビ制作実習（後半部と終止）
15	アレンジの構成について

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・アレンジングテクニックＡ　[火3]							
代表教員	奥　慶一	授業コード	GE124300	科目コード	GE1243	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックを基本に、ジャズ、ロック、ポップスまで含めた編曲の実際に必要な知識と技術を身につける。

２．授業概要

前期：総譜読み書きの習熟，ハ音記号の読み書き実習，移調楽器の概念を理解，バロック～古典派の書法。
後期：クラシック，ロマン派，後期ロマン派から，Jazz，ポピュラー音楽，映画音楽の様々なスタイルを知りテクニックを吸収する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間中に取り上げた楽曲、参考楽曲をくり返し聴き、採譜やスタイルを応用した実作をするなど、自発的な学習が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

前期，後期，各1曲の提出課題による評価。(前期 40%，後期 60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

A. Danhauser & L. Lemoine: Solfège des Solfèges - Vol. 3A (Henry Lemoine)
伊福部昭：管弦楽法（音楽之友社）
Don Sebesky: The Contemporary Arranger（日音）
Fred Sturm: Changes Over Time ((株) ATN)
授業には Web Textbook，印刷物を用意するので，上記の書籍を購入する必要はありません。
Web 上の資料を閲覧するためのパソコン，パッド型端末が必要です。(スマートフォン不可)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声1巻（赤）修了、2巻（黄）第4章準固有和音、V度V度諸和音までは理解できているものとして授業を進める。後期の授業内容、課題には3巻修了が望ましい。
出席が極端に悪い場合は上記の点数から減点することがある。

授業計画	
	［前期］ 一般によく知られているクラシック楽曲を素材に古典的スタイルの書法を学ぶ。
1	Overview (概要): 作曲･編曲とは何か、楽器法とは何か、歌曲と器楽曲の書法の違い、編曲をする際の心構えとは。
2	C-clef ハ音記号のソルフェージュ。アルト記号, テノール記号 Danhauser: Solfège des solfèges
3	Strings Ensemble アイネクライネ･ナハトムジーク - 基本的な弦楽合奏 W. A. Mozart: Serenade No. 13 for strings in G major K. 525 (Eine kleine Nachtmuzik)
4	Basso continuo and Baroque music- 1 (通奏低音とバロック音楽 - 1) パッヘルベルのカノン: 通奏低音について, 数字の基礎知識。 J. Pachelbel: Canon in D major for 3 violins & basso continuo; A. Vivaldi: The Four Seasons - Concerto No. 2 in G minor[Op. 8 RV 315 "L'estate" (Summer)
5	Basso continuo and Baroque music- 2 (通奏低音とバロック音楽 - 2) アルビノーニのオーボエ協奏曲: バロック時代の協奏曲 Albinoni: Concerto for oboe in D minor, Op. 9, No. 2
6	Basso continuo and Baroque music- 3 (通奏低音とバロック音楽 - 3) J. S. バッハのブランデンブルク協奏曲 J. S. Bach: Brandenburg Concerto No. 5 in D major BWV 1050
7	Clarinet and orchestra クラリネットとオーケストラ W. A. Mozart: Clarinet concerto in A major, KV 622
8	Flute, Harp and small orchestra フルート, ハープと小オーケストラ W. A. Mozart: Concerto for Flute, Harp, and Orchestra, KV 299
9	Trumpet and orchestra トランペット, ホルンとオーケストラ Haydn: Trumpet Concerto in E flat major Hob. VIIe W. A. Mozart: Horn concerto No.4 KV 495
10	Woodwind instruments and classical program music 管楽器群と古典派の情景描写 L. v. Beethoven: Symphony No. 6 in F major Op. 68 (Pastral) G. Rossini: William Tell (Guillaume Tell) - overture
11	Classical Symphony 「ジュピター」古典派の交響曲 W. A. Mozart: Symphony in C, KV 551
12	Vienna-style music: Waltz and March 実用音楽 ワルツとマーチ - ヴィエンナ･スタイル Johann Strauss (Vater): Radetzky Marsch Op. 228 Johann Strauss II: Die Fledermaus - overture
13	Solo voice or chorus and orchestra -1 独唱または合唱とオーケストラ -1 G. F. Handel: Messiah, HWV 56
14	Solo voice or chorus and orchestra - 2 独唱または合唱とオーケストラ -2 Berlioz: Grande Messe des morts (or Requiem), Op. 5 Gabriel Fauré: Requiem
15	Opera - 1 オペラ - 1 「魔笛」 W. A. Mozart: Die Zauberflöte, KV 620

授業計画	
	［後期］ ロマン派～近代のクラシック音楽のオーケストレーション，Jazz，Rock，映画音楽
1	Opera -2 オペラ -2 「カルメン」 G. Bizet: Carmen
2	Simple Brass section style シンプルなブラスセクション･スタイル シカゴ，スティーヴィー･ワンダー，アース･ウィンド･アンド･ファイア Chicago，Stevie Wonder，Earth Wind and Fire
3	Era of Easy Listening and French pops イージーリスニングとフレンチ･ポップスの時代 ポール･モーリア，ヘンリー･マンチーニ，マントヴァーニ Paul Mauriat，Henry Mancini，Mantovani
4	Jazz big band style - 1 (ジャズ･ビッグ･バンド - 1) ベニー･グッドマン，デューク･エリントン，カウント･ベイシー Benny Goodman，Duke Ellington (Billy Strayhorn)，Count Basie
5	Jazz big band style - 2 (ジャズ･ビッグ･バンド - 2) クインシー･ジョーンズ，ギル･エヴァンス， Quincy Jones: Walkin' (This is how I feel about Jazz)，etc. Gil Evans
6	Fusion of Classical music and Jazz -1 (クラシックと Jazz の融合 -1) ガーシュインのラプソディー･イン･ブルー George Gershwin: Rhapsody in Blue (orchestra version)
7	Fusion of Classical music and Jazz -2 (クラシックと Jazz の融合 -２) ビル･エヴァンスが弾いた前衛ジャズ，日本の前衛ジャズ Claus Ogerman: Symbiosis (Piano: Bill Evans) Shuko Mizuno (水野修孝): Jazz Orchestra '75
8	Fusion of Classical music and Jazz -3 (クラシックと Jazz の融合 -3) ジョリヴェのトランペット協奏曲 (第2番) Andre Jolivet: Concerto for trumpet No. 2
9	Orchestration of the Impressionist school 「ダフニスとクロエ」印象派の管弦楽 Maurice Ravel: Daphnis et Chloé，ballet
10	Modern Ballet music ストラヴィンスキーのバレエ音楽 「火の鳥」 Igor Stravinsky: L'Oiseau de feu (The Firebird)
11	Spectacular Music 壮大な管弦楽の世界 - ヴァーグナー，レスピーギ，ホルスト Wagner，Respighi and Holst
12	Film music - 1 (映画音楽 -1) イタリアン･コネクション - ニーノ･ロータとエンニオ･モリコーネの映画音楽 Nino Rota and Ennio Moricone
13	Film music - 2 (映画音楽 -2) ジョン･ウィリアムズの映画音楽 John Williams: E. T. etc.
14	Film music - 3 (映画音楽 - 3) 講師作曲のドラマ、アニメーション音楽より おジャ魔女どれみ、明日のナージャ etc.
15	Annual summary (年間のまとめ) Don Sebesky: The contemporary arranger より，編曲において大事なポイントの復習と年間のまとめ

科目名	アドバンスト・アレンジングテクニックＢ ［木3］							
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GE124400	科目コード	GE1244	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

管楽器と弦楽器の編曲は、ジャズやクラシックに留まらず、デジタルオーディオやプログラミングが一般化した現代のポピュラー音楽においても重要な要素です。この講座は、これまで管や弦を本格的に使ったことがなく知識もない、打ち込みにはある程度慣れたので、クラシックの本格的な管弦楽書法の勉強なしに、ロック／ポップス的な感覚で手っ取り早く自分の音楽に管弦を導入したい、という学生向けのものです。知識がほとんど無い状態から、四声体での書法を理解し、さまざまなジャンルにおける管弦の使われ方を分析し模倣することを通して理解を深め、実習を通じて自分の作品に管弦を導入するための知識を得ることが目標です。

２．授業概要

楽器のしくみ、演奏法、プログラミングの面から、編曲のための基礎を学びます。ポピュラー音楽で管弦が使われている典型的な例を分析し、模倣していきます。また、トランスクライビング（既成のデータを管弦の編成に置きかえていく作業）に重点を置いて実習を重ね、理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

終了後は学習したノウハウを使って自分の作品で管弦を積極的に使っていきましょう。

４．成績評価の方法及び基準

・前期、後期課題（評価の50%）
・授業への参加姿勢、とくに、毎回提出する課題の作業内容を重視します（評価の50%）。出席数そのものは評価の対象ではありません。課題が提出されないか、提出されたとしても、指示した内容が反映されていない、あるいは内容のない課題が提出された場合は、システム上出席だったとしても、欠席と見なしますので注意してください。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要な資料をデータで配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

打ち込みを前提としていますので、この授業で楽譜を書くことは一切ありません。参考資料として課題の楽譜がPDFで提供されるだけです。作業はすべてDAW上のデータ編集だけで行います。テンションコードを理解していることと、DAWのプログラミングに慣れていることが必要です。

授業計画	
	［前期］ 編曲の前提となる基礎的な知識と、ストリングス・セクションについて学び、実習します。
1	ガイダンス　＊人数によっては選抜テストを行う場合もあります
2	四声体とボイシング
3	弦楽器の基礎知識／弦セクションのプログラミング
4	弦セクションへのトランスクライビング シンプルなもの
5	弦セクションへのトランスクライビング ワルツ
6	＜2声＞パスパートの書法
7	＜4声＞内声の書法
8	ブロックコード書法
9	歌もの書法
10	さまざまな書法：駆け上がり、駆け下がり、カッティング、オブリ、オクターブユニゾン、トレモロ+ヘアー、ピチカート
11	さまざまな書法の実習
12	ディスコ・ストリングスの書法、フォール、ベンド、四度積み、ペンタトニックに重心を置いたライン
13	ディスコ・ストリングスの実習
14	弦セクション(またはカルテット）+エレクトリックなリズム体による現代的な編成　Bjork、管野よう子、ヒップホップのメインリフとしての弦
15	夏期課題の説明と最新ストリングス音源事情

授業計画	
	［後期］ 　サウンドトラック制作時に役立つコード理論と、木管、金管楽器の基礎知識、オーケストレーションの実習、最後に簡易的なオーケストレーションの実習を行います。
1	サウンドトラックで役に立つ近現代的なハーモニー　4度積み、並行移動、ポリコード（バイトーナル）
2	サウンドトラックで役に立つモーダルな書法
3	木管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての木管
4	木管のオーケストレーション　ユニゾン／オクターブユニゾンによる色彩
5	木管アンサンブルのトランスクライビング　「プロムナード」
6	木管アンサンブルのトランスクライビング　「バラード」
7	金管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての金管
8	ファンク・ブラスの書法　ブロック・コードとユニゾン、ブルース・ペンタトニックに重心をおいたライン
9	ファンク・ブラスの実習
10	ソロ楽器としての金管 Tp、Tb、Hr、ホルン五度
11	金管アンサンブルのトランスクライビング　「カンタベリー・コラール」
12	金管アンサンブルのトランスクライビング　「亡き王女のためのパヴァーヌ」
13	コピペとミュートで作るオーケストレーション　「ノヴェレッテ」
14	コピペとミュートで作るオーケストレーション　バルトークより
15	さらに自由なオーケストレーション　後期課題の説明

科目名	テクノパフォーマンス研究２　[金5]						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125200	科目コード	GE1252	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーを通して音作りのプロセスを学習し、その成果はパフォーマンスへと昇華する。
その他関連内容として、VJやDMX規格（照明）にも触れる。広範囲の分野を取り扱うため、授業では積極的な参加が求められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業概要に記載されている内容に興味があり、授業内で設定した課題やイベント運営に積極的に参加可能な学生の履修を望む。また、自分のディバイスの持参は歓迎する。
その他、授業への参加姿勢が悪い学生は単位を与えないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知ります。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーのパッチングを中心に学習し、 Techno performance Live に向けた制作を行う。
1	モジュラーシンセとは何か？（算方式の復習）
2	モジュラーシンセの基本（CVとAudioのパッチングについて&基本パッチ）
3	モジュラーシンセの基本（基本的なモジュレーションについて）
4	モジュラーシンセの基本（発展的なモジュレーション）
5	モジュラーシンセの基本（シーケンサーと演奏ディバイス）
6	モジュラーシンセの基本（リズムマシン、コンピューターとの同期）
7	モジュラーシンセの応用例（CVとDMX）
8	モジュラーシンセ作品制作
9	モジュラーシンセ作品発表
10	DMX規格によるライティングについて（規格と実際の接続とコントロールソフト）
11	Techno performance Live に向けた各セクションの制作　（構成の確認）
12	Techno performance Live 各準備と練習（照明プランなど）
13	Techno performance Live テクニカルリハーサル
14	Techno performance Live テクニカルリハーサル（VJ、照明プラン付き）
15	Techno performance Live!

科目名	テクノパフォーマンス研究３　[金5]						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125300	科目コード	GE1253	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーを通して音作りのプロセスを学習し、その成果はパフォーマンスへと昇華する。
その他関連内容として、VJやDMX規格（照明）にも触れる。広範囲の分野を取り扱うため、授業では積極的な参加が求められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業概要に記載されている内容に興味があり、授業内で設定した課題やイベント運営に積極的に参加可能な学生の履修を望む。また、自分のディバイスの持参は歓迎する。
その他、授業への参加姿勢が悪い学生は単位を与えないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知ります。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーのパッチングを中心に学習し、 Techno performance Live に向けた制作を行う。
1	モジュラーシンセとは何か？（算方式の復習）
2	モジュラーシンセの基本（CVとAudioのパッチングについて&基本パッチ）
3	モジュラーシンセの基本（基本的なモジュレーションについて）
4	モジュラーシンセの基本（発展的なモジュレーション）
5	モジュラーシンセの基本（シーケンサーと演奏ディバイス）
6	モジュラーシンセの基本（リズムマシン、コンピューターとの同期）
7	モジュラーシンセの応用例（CVとDMX）
8	モジュラーシンセ作品制作
9	モジュラーシンセ作品発表
10	DMX規格によるライティングについて（規格と実際の接続とコントロールソフト）
11	Techno performance Live に向けた各セクションの制作　（構成の確認）
12	Techno performance Live 各準備と練習（照明プランなど）
13	Techno performance Live テクニカルリハーサル
14	Techno performance Live テクニカルリハーサル（VJ、照明プラン付き）
15	Techno performance Live!

科目名	テクノパフォーマンス研究４　[金5]						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125400	科目コード	GE1254	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーを通して音作りのプロセスを学習し、その成果はパフォーマンスへと昇華する。
その他関連内容として、VJやDMX規格（照明）にも触れる。広範囲の分野を取り扱うため、授業では積極的な参加が求められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業概要に記載されている内容に興味があり、授業内で設定した課題やイベント運営に積極的に参加可能な学生の履修を望む。また、自分のディバイスの持参は歓迎する。
その他、授業への参加姿勢が悪い学生は単位を与えないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知ります。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーのパッチングを中心に学習し、 Techno performance Live に向けた制作を行う。
1	モジュラーシンセとは何か？（算方式の復習）
2	モジュラーシンセの基本（CVとAudioのパッチングについて&基本パッチ）
3	モジュラーシンセの基本（基本的なモジュレーションについて）
4	モジュラーシンセの基本（発展的なモジュレーション）
5	モジュラーシンセの基本（シーケンサーと演奏ディバイス）
6	モジュラーシンセの基本（リズムマシン、コンピューターとの同期）
7	モジュラーシンセの応用例（CVとDMX）
8	モジュラーシンセ作品制作
9	モジュラーシンセ作品発表
10	DMX規格によるライティングについて（規格と実際の接続とコントロールソフト）
11	Techno performance Live に向けた各セクションの制作　（構成の確認）
12	Techno performance Live 各準備と練習（照明プランなど）
13	Techno performance Live テクニカルリハーサル
14	Techno performance Live テクニカルリハーサル（VJ、照明プラン付き）
15	Techno performance Live!

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＡ　［水4］						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE125600	科目コード	GE1256	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。後期には、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。そうして学んだ技法を用いて、映像データに対する音楽付けの実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各担当教官によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教官によって異なる。授業内ガイダンスにて説明。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画の詳細は各クラスによって異なるため、授業内にて指示をする。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	実際のMIDIデータ作品の実習。設定された課題曲に対し、テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ作成。
4	データ制作-２
5	データ制作-３
6	データ制作-４
7	作品発表
8	DigitalAudioの理論について。サンプリングレート、ビットデプスなど。
9	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析
10	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
11	作品制作実習-２
12	作品制作実習-３
13	作品制作実習-４
14	作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。 CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対するBGM制作の実習-１
8	映像作品に対するBGM制作の実習-２
9	映像作品に対するBGM制作の実習-３
10	作品発表
11	ムービーのスコア制作実習２。CM音楽の実習-１
12	CM音楽の実習-２
13	CM音楽の実習-３
14	CM音楽の実習 - ４
15	作品発表

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＢ　[火4]						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE125700	科目コード	GE1257	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DAWの進化に伴い、プロデューサーは全てのサウンドプロダクション工程を容易に行き来することが可能になった。
この講座では、DAW演習Ｉで学んだ基礎的な技術を発展させ、サウンドデザイン・アレンジ・打ち込み・ミックスの
工程が綿密に絡み合うサウンドプロダクションの理解を深めることを目的とする。
またその過程において、鋭敏な音楽的・音響的な耳（感覚）を養うことを目標にする。

２．授業概要

前期は、生楽器のMIDIの打ち込み、オーディオ素材の取り扱いまたヴォーカルの編集を行う。
後期は、各ジャンル（主にエレクトロニックミュージック）のプロダクション手法の解説や短い楽曲制作を行う。
その過程において、Logic付属プラグインとともにサードパーティー製のプラグインの使用法と紹介を行う。
詳細は授業内での指示に従うこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内に仕上げられない課題は自習が必要な場合がある。詳細は授業内での指示に従うこと。
また各自授業内で理解できなかった項目に関して必ず復習をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

各期末課題提出必須(評価の30%)
平常点・(評価の70%)
平常点は授業への参加姿勢と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
提出課題では、課題を取り組んでいる姿勢や内容、また授業への理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

平常点、出席・授業への参加姿勢（私語）を重視します。
また、2/3 以上の出席がない場合は、試験を受けることができない
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［前期］ MIDIの打ち込み・その後オーディオ編集・ボーカル編集処理を学ぶ。 またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	ガイダンス
2	鍵盤楽器 ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
3	ギター ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
4	ストリングス ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
5	ドラム ・音源の操作方法と打ち込み 解説と演習
6	オーディオ編集 解説 ・Logicオーディオ編集機能 ・Flex・オーディオチョップ
7	オーディオ編集 演習 ・Logicオーディオ編集機能
8	オーディオ編集 演習 ・Flex・オーディオチョップ
9	ミキシングテクニック解説と演習 ・ボリュームと定位
10	ボーカル編集 解説 ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション ・タイミング・ピッチ（Flex）
11	ボーカル編集 演習 ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション
12	ボーカル編集 演習 ・タイミング・ピッチ（Flex）
13	ミキシングテクニック解説と演習 ・コンプレッサー・EQ
14	ミキシングテクニック解説と演習 ・リバーブ/ディレイ・モジュレーション系(空間処理)
15	期末課題提出・アドバイスとディスカッション

授業計画	
	［後期］ 様々ジャンルのプロダクションを学び、その過程においてドラム音源やサンプラー、シンセサイザーについて解説する。またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	後期のガイダンス ミュージックコンクレート～サンプリングミュージックの歴史と変遷
2	サンプリング・サンプラー 解説 ・Exs24・Kontakt
3	ヒップホップのプロダクション解説 参考プロデューサー　LA Beats/Prefuse73 ets.
4	ヒップホップのプロダクション演習
5	ドラム音源の解説と操作方法 ・Ultrabeat・Battery
6	プラグインシンセサイザーの解説と操作方法 ・Alchemy・RetroSynth・Massive
7	ハウス・テクノのプロダクション解説 （サイドチェイン/フィルター） 参考プロデューサー Akufen/Theo Parrish ets.
8	ハウス・テクノのプロダクション演習
9	エレクトロニカ・アンビエント・ドローンのプロダクション解説 （グリッチ/グラニュラー） 参考プロデューサー　Four tet/Fennesz ets.
10	エレクトロニカ・アンビエント・ドローンのプロダクション演習
11	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション解説 参考プロデューサー Burial/James Blake ets.
12	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習
13	ミキシングテクニック解説と演習 ・歪み系・パラレルプロセッシング・MS処理
14	期末課題制作とアドバイス
15	期末課題提出・アドバイスとディスカッション

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＣ　[月4]						
代表教員	久木山　直	授業コード	GE125800	科目コード	GE1258	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。後期には、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。そうして学んだ技法を用いて、映像データに対する音楽付けの実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各担当教員によって異なるため、授業内での指示に従うこと。（下記、一例）
課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教官によって異なる。授業内ガイダンスにて説明。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画の詳細は各クラスによって異なるため、授業内にて指示をする。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	実際のMIDIデータ作品の実習。設定された課題曲に対し、テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ作成。
4	データ制作-２
5	データ制作-３
6	データ制作-４
7	作品発表
8	DigitalAudioの理論について。サンプリングレート、ビットデプスなど。
9	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析
10	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
11	作品制作実習-２
12	作品制作実習-３
13	作品制作実習-４
14	作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。 CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対するBGM制作の実習-１
8	映像作品に対するBGM制作の実習-２
9	映像作品に対するBGM制作の実習-３
10	作品発表
11	ムービーのスコア制作実習２。CM音楽の実習-１
12	CM音楽の実習-２
13	CM音楽の実習-３
14	CM音楽の実習 - ４
15	作品発表

科目名	音楽プログラミング入門 ［木3］						
代表教員	森　威功	授業コード	GE125900	科目コード	GE1259	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年注目されているメディア系プログラミングとは、音・音楽の制作に加えてインタラクティブアート制作やプロジェクションマッピング、照明を駆使した舞台演出など様々な分野に応用可能な技術である。本講座では初心者を対象に、2年次から本格的な作品制作へスムーズに移行できるよう基礎レベルから丁寧に指導していく。

２．授業概要

主にCycling74 Max7とProcessingを用いて、MIDI、オーディオ、画像処理の各プログラミングを学ぶ。必要に応じてシンセサイザーや音響機器の使用方法等も指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に紹介するwebサイトや配布プリントなどで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の５０％）　平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版
『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プログラミング未経験者向けの授業である。メディア系の創作や実験的な表現に興味がある学生に履修してほしい。

プログラミングの学習経験がある者は「Max/MSP実習」、「コンピュータ音楽表現」、「メディコンテンツ制作実習」の履修を勧める。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス
2	シンセサイザーとMIDI規格
3	サウンドプログラミング基礎
4	Max7プログラミング　MIDI-オブジェクトの説明
5	Max7プログラミング　MIDI-乱数生成
6	Max7プログラミング MIDI-確率テーブル
7	自動作曲プログラム演習
8	Max7プログラミング MSP-オシレーター
9	Max7プログラミング MSP-フィルター
10	Max7プログラミング MSP-LFOとEG
11	様々なコントローラーとの接続
12	シグナルルーティングとインターフェイス制作
13	作品制作-プランニング
14	作品制作-実装
15	作品発表

授業計画	
	後期
1	映像プログラミング基礎
2	Processing プログラミング基礎-スケッチの説明と実行
3	Processing プログラミング基礎-色指定と変数
4	Processing　プログラミング基礎-繰り返しの処理
5	Processing　プログラミング基礎-条件分岐
6	Processing　プログラミング基礎-アニメーション処理
7	Processing　作品発表
8	3DCG　制作-OpenGL
9	3DCG　制作-３次元座標処理と移動
10	3DCG　制作-コントローラーとの関連付け
11	3DCG　制作-Maxとの相互接続(OSC)
12	作品制作-プランニング
13	作品制作-実装
14	作品制作-実装とバグ修正
15	作品発表

科目名	器楽曲伴奏法I - 1 （前） ［水4］Aクラス						
代表教員	山本　佳世子	授業コード	GE1376A0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法I-１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

2．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法I - 1 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	長谷　正一	授業コード	GE1376B0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法I−１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

2．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－１　（前）　[水4] Cクラス						
代表教員	吉永　恵	授業コード	GE1376C0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）　［水4］Aクラス						
代表教員	平沢　由美子	授業コード	GE1377A0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学び、発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ-ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける。
3	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）に呼吸や音量を合わせ伴奏付けを定着させる。
4	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）のソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける。
5	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）のソナタ等を課題に、表現工夫をした伴奏を付けて仕上げの演奏をする。
6	この回よりソロ楽器を入れ替え、ピアノパート譜のみで基本的な奏法を学ぶ
7	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける。
8	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）に呼吸や音量を合わせ伴奏付けを定着させる。
9	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）のソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける。
10	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）のソナタ等を課題に、表現工夫をした伴奏を付けて仕上げの演奏をする。
11	この回よりソロ楽器を入れ替え、ピアノパート譜のみので基本的な奏法を学ぶ。
12	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける。
13	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）に呼吸や音量を合わせ伴奏付けを定着させる。
14	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）のソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける。
15	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）のソナタ等を課題に、表現工夫した伴奏を付けて仕上げの演奏をする。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）　[水4] Bクラス						
代表教員	秦　江里奈	授業コード	GE1377B0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学び、発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ-ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
3	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
4	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
5	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
7	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
8	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
9	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
10	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
12	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
13	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
14	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
15	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）　[水4] Cクラス						
代表教員	蓼沼　恵美子	授業コード	GE1377C0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学び、発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ-ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
3	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
4	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
5	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
7	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
8	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
9	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
10	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
12	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
13	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
14	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
15	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法II - １ （前） ［火4］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE137800	科目コード	GE1378	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソロ楽器として高い芸術性をもつピアノ音楽も一面では他のソロ楽器の伴奏として音楽的に非常に重要な役割をもっている。「器楽曲伴奏法II」は他の楽器とのアンサンブルによって、お互いの音楽性を高め、さらに深く芸術性を追求し、伴奏としてのピアノ演奏スタイルを深く勉強する。

２．授業概要

器楽アンサンブルにおけるピアノパートの研究、チェロ、オーボエとのアンサンブル演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　アンサンブルが成立するようにピアノパートの正確な読譜と練習をすること。
知らない楽曲については、ソロパートや全体の流れを知るために事前にCD等の音源を聴いておくことが望ましい。

復習　授業内で体得したアンサンブルにおける呼吸法、ピアノの音色や音量に留意しながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み方、演習の完成度によって判定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

〈チェロ〉
バッハ「 G線上のアリア」　サンサーンス 「白鳥」　ラフマニノフ 「ヴォカリーズ」　フォーレ 「夢のあとに」
シューベルト 「アルペジョーネソナタ」　カタロニア民謡 「鳥の唄」等

〈オーボエ〉シューマン 「３つのロマンス」　プーランク「オーボエソナタ」等の小品

上記楽曲より各自 １～２曲を選択し演習します。

参考：授業内オリエンテーションでCDを聴いて選曲します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演習授業なのである程度の予習と練習が必要となります。
積極的な授業参加を心がけて下さい。
上記楽曲の他に演習してみたい希望曲があれば事前に申し出て下さい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（楽譜配布、CD鑑賞等）
2	ピアノパートのみでの演習
3	チェロとのアンサンブル
4	チェロとのアンサンブル
5	チェロとのアンサンブル
6	チェロとのアンサンブル
7	チェロとのアンサンブル
8	チェロとのアンサンブルのまとめ
9	ピアノパートのみでの演習
10	オーボエとのアンサンブル
11	オーボエとのアンサンブル
12	オーボエとのアンサンブル
13	オーボエとのアンサンブル
14	オーボエとのアンサンブル
15	オーボエとのアンサンブル まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法II - 2 （後） ［火4］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	GE137900	科目コード	GE1379	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法II-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソロ楽器として高い芸術性をもつピアノも、一面では他の楽器とのアンサンブルや伴奏として音楽的に重要な役割を持っている。それにはピアノ曲のみの知識では不充分であるため、他の様々な楽器や様式に触れ、幅広く楽しみながら伴奏としての演奏スタイル、伴奏者としての勉強法や心構えを身につけてほしい。

２．授業概要

「器楽曲伴奏法II-２」ではヴァイオリン・トランペットとのアンサンブルを演習します。
それぞれの楽器の特性を生かした伴奏法、選曲方法等楽器の先生の貴重な体験なども伺いながら演習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　アンサンブルが成立するようにピアノパートの正確な読譜と練習をすること。
　　知らない楽曲についてはソロパートや全体の流れを知るために事前にCD等の音源を聴いておくことが望ましい。
復習　アンサンブルにおける呼吸法、ピアノの音色や音量に留意しながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視し、また取り組み方などを評価の基準とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

〈ヴァイオリンとのアンサンブル〉
クライスラー「愛の喜び・愛の悲しみ」
サラサーテ「ツィゴイネルワイゼン」
モーツアルト「ソナタ」等
〈トランペットとのアンサンブル〉
ハイドン「トランペット協奏曲」
ポピュラー小品集 等
（曲目は変更される場合もあります。）
授業に必要な楽譜は配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器とのアンサンブル、伴奏に興味のある人。
演習の授業であるため、ただ出席しているだけでは単位は修得できません。
授業が円滑に行われるには、ある程度の練習を必要とします。積極的な授業参加を心掛けて下さい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（楽譜配布など）と次週から学習する曲の説明
2	前半はヴァイオリンとのアンサンブル この回はピアノパート譜のみの授業
3	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器との合わせに慣れ親しむ
4	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器の音色や響きに慣れ親しむ①
5	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器の音色や響きに慣れ親しむ②
6	ヴァイオリンとのアンサンブル 課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせなどに重点を置き伴奏を付ける
7	ヴァイオリンとのアンサンブル ソロ楽器との音量バランス、テクニック的な事に重点を置き伴奏を付ける
8	ヴァイオリンとのアンサンブル 音楽面での合わせについて総合的に研究する
9	後半はトランペットとのアンサンブル この回はピアノパート譜のみの授業
10	トランペットとのアンサンブル 管楽器との合わせに慣れ親しむ
11	トランペットとのアンサンブル 管楽器の音色や響きに慣れ親しむ①
12	トランペットとのアンサンブル 管楽器の音色や響きに慣れ親しむ②
13	トランペットとのアンサンブル 弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、伴奏を付ける
14	トランペットとのアンサンブル ソロ楽器との音量バランス、テクニック的な事に重点を置き伴奏を付ける
15	トランペットとのアンサンブル 音楽面での合わせについて総合的に研究する

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－１／歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Aクラス						
代表教員	押川　涼子	授業コード	GE1382AO	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業　（イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
3	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
4	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
5	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
6	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
7	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
8	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
9	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
10	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
11	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
12	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
13	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－１／歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Bクラス						
代表教員	小市　香澄	授業コード	GE1382B0	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを
再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』
ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』
ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』
ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業　（イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
3	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
4	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
5	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
6	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
7	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
8	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
9	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
10	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
11	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
12	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
13	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－１／歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Cクラス						
代表教員	小助川　眞美	授業コード	GE1382C0	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを
再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』
ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』
ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』
ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業　（イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
3	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
4	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
5	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
6	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
7	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
8	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
9	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
10	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
11	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
12	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
13	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－２／歌曲伴奏法Ⅱ （後） ［月3］Aクラス						
代表教員	松川　儒	授業コード	GE1383AO	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法Ⅰ－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法Ⅰ－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－２／歌曲伴奏法Ⅱ （後） ［月3］Bクラス						
代表教員	立石　智子	授業コード	GE1383B0	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法Ⅰ－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法Ⅰ－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－２／歌曲伴奏法Ⅱ （後） ［月3］Cクラス						
代表教員	吉武　雅子	授業コード	GE1383C0	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法Ⅰ－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法Ⅰ－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	二重奏I／二重奏　［金3］Aクラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GE1401A0	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。特に一つの楽器で行う連弾は、その特性により、相手をよく聴く耳が養え、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力がつきます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏曲はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われること（作曲者のこと、国や時代のこと、楽譜に書かれている分からない楽語など）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲⊡ベルテイーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品⊡モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品⊡シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品⊡フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ 　バロック、古典、ロマン、近現代のすべての時代を、各組それぞれのレヴェルに合った選曲で学習していけるような計画を立てる。 　前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは連弾から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員３名によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、実演を交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点、など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら授業を進めていく。
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 前期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

授業計画	
	［後期］ 各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 後期末の試演会を、１年間の学習の成果発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	各クラスのローテーションに従った演習授業
3	各クラスのローテーションに従った演習授業
4	各クラスのローテーションに従った演習授業
5	各クラスのローテーションに従った演習授業
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 後期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

科目名	二重奏I／二重奏　［金3］Bクラス						
代表教員	松浦　健	授業コード	GE1401B0	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。特に一つの楽器で行う連弾は、その特性により、相手をよく聴く耳が養え、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力がつきます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏曲はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われること（作曲者のこと、国や時代のこと、楽譜に書かれている分からない楽語など）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲⊡ベルテイーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品⊡モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品⊡シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品⊡フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ 　バロック、古典、ロマン、近現代のすべての時代を、各組それぞれのレヴェルに合った選曲で学習していけるような計画を立てる。 　前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは連弾から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員３名によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、実演を交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点、など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら授業を進めていく。
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 前期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

授業計画	
	［後期］ 各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 後期末の試演会を、１年間の学習の成果発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	各クラスのローテーションに従った演習授業
3	各クラスのローテーションに従った演習授業
4	各クラスのローテーションに従った演習授業
5	各クラスのローテーションに従った演習授業
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 後期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

科目名	二重奏I／二重奏　［金3］Cクラス						
代表教員	三宅　麻美	授業コード	GE1401C0	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。特に一つの楽器で行う連弾は、その特性により、相手をよく聴く耳が養え、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力がつきます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏曲はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われること（作曲者のこと、国や時代のこと、楽譜に書かれている分からない楽語など）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲⊡ベルテイーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品⊡モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品⊡シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品⊡フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ 　バロック、古典、ロマン、近現代のすべての時代を、各組それぞれのレヴェルに合った選曲で学習していけるような計画を立てる。 　前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは連弾から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員３名によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、実演を交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点、など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら授業を進めていく。
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 前期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

授業計画	
	［後期］ 各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 後期末の試演会を、１年間の学習の成果発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	各クラスのローテーションに従った演習授業
3	各クラスのローテーションに従った演習授業
4	各クラスのローテーションに従った演習授業
5	各クラスのローテーションに従った演習授業
6	各クラスのローテーションに従った演習授業
7	各クラスのローテーションに従った演習授業
8	各クラスのローテーションに従った演習授業
9	各クラスのローテーションに従った演習授業
10	各クラスのローテーションに従った演習授業 後期終わりに行う試演会も考慮していく。
11	各クラスのローテーションに従った演習授業
12	各クラスのローテーションに従った演習授業
13	各クラスのローテーションに従った演習授業
14	各クラスのローテーションに従った演習授業
15	３クラス合同の試演会

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Aクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GE1416AO	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Bクラス						
代表教員	辻田　由利子	授業コード	GE1416B0	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Cクラス						
代表教員	石田　多紀乃	授業コード	GE1416CO	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Aクラス						
代表教員	飯野　明日香	授業コード	GE1417AO	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
4	第一印象から錯覚する楽譜のトリック
5	楽語の意味を理解し表現力に繋げる
6	曲の様式、意味を考える
7	全体像をつかむ①
8	全体像をつかむ②
9	まとめと小テスト（予定）
10	黙読して、心の中で演奏
11	アンサンブル(連弾・２台ピアノなど)
12	アンサンブル
13	アンサンブル
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Bクラス						
代表教員	竹原　暁子	授業コード	GE1417B0	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
4	第一印象から錯覚する楽譜のトリック
5	楽語の意味を理解し表現力に繋げる
6	曲の様式、意味を考える
7	全体像をつかむ①
8	全体像をつかむ②
9	まとめと小テスト（予定）
10	黙読して、心の中で演奏
11	アンサンブル(連弾・２台ピアノなど)
12	アンサンブル
13	アンサンブル
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Cクラス						
代表教員	林　直美	授業コード	GE1417C0	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
4	第一印象から錯覚する楽譜のトリック
5	楽語の意味を理解し表現力に繋げる
6	曲の様式、意味を考える
7	全体像をつかむ①
8	全体像をつかむ②
9	まとめと小テスト（予定）
10	黙読して、心の中で演奏
11	アンサンブル(連弾・２台ピアノなど)
12	アンサンブル
13	アンサンブル
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏III （前） ［木3］						
代表教員	西脇　千花	授業コード	GE141800	科目コード	GE1418	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

読譜の基礎を見直し、更に広範囲の曲を理解して表現することを学びます。

2．授業概要

様々な時代の異ったスタイルの楽曲を、初見で演習し学習します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布したプリントを練習してください。それ以外にも、簡単な楽曲を、予見してから初見で練習してください。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配付します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習の授業のため、出席を重視します。

授業計画	
	［半期］ 調性・拍子・曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。リズム打ち・和音の把握などのトレーニングを交え、また、アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに、初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。
1	調性、拍子、テンポ、曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。①
2	調性、拍子、テンポ、曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。②
3	調性、拍子、テンポ、曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。③
4	調性、拍子、テンポ、曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。④
5	調性、拍子、テンポ、曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。⑤
6	リズム打ち、和音の把握などのトレーニングも交えます。①
7	リズム打ち、和音の把握などのトレーニングも交えます。②
8	リズム打ち、和音の把握などのトレーニングも交えます。③
9	リズム打ち、和音の把握などのトレーニングも交えます。④
10	アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。①
11	アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。②
12	アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。③
13	アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。④
14	アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。⑤
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏IV （後） ［木3］						
代表教員	奥平　純子	授業コード	GE141900	科目コード	GE1419	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏III」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

読譜の基礎を見直し、更に広範囲の曲を理解して表現することを学びます。

２．授業概要

様々な時代の異ったスタイルの楽曲を、初見で演習し学習します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布したプリントを練習してください。それ以外にも、簡単な楽曲を、予見してから初見で練習してください。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の７０%）
授業への参加姿勢評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習の授業のため、出席を重視します。

授業計画	
	［半期］ 「初見視奏III」をさらに進めて様々な時代、様式の楽曲の構成を理解し、テンポ・リズム・ダイナミクス・フレージング・タッチ・バランス・ペダリングなどにも気を配り、表現できるように目指します。
1	バロック、古典派の楽曲を中心に学習します。①
2	バロック、古典派の楽曲を中心に学習します。②
3	バロック、古典派の楽曲を中心に学習します。③
4	バロック、古典派の楽曲を中心に学習します。④
5	ロマン派の楽曲を中心に学習します。①
6	ロマン派の楽曲を中心に学習します。②
7	ロマン派の楽曲を中心に学習します。③
8	ロマン派の楽曲を中心に学習します。④
9	近・現代の楽曲にも取り組みます。①
10	近・現代の楽曲にも取り組みます。②
11	近・現代の楽曲にも取り組みます。③
12	近・現代の楽曲にも取り組みます。④
13	近・現代の楽曲にも取り組みます。⑤
14	近・現代の楽曲にも取り組みます。⑥
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽教室グレード対策講座Ⅰ　［月4］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE145500	科目コード	GE1455	期間	通年
担当教員	齊藤　香織						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期：カワイグレードテスト演奏・指導それぞれ4級に合格できるためのスキル、知識を会得する。
後期：「ヤマハ音楽能力検定」のピアノ演奏グレード、指導グレード５級の取得を目指す学生を対象に行う授業。

２．授業概要

前期：演奏グレード、指導グレードに含まれる試験科目を毎回演習とリポート交換の形で行います。また、筆記試験に対応できるよう、さらには音楽教師として教育の現場に立った時に、「このくらいは身につけていてほしい」というような音楽についての「常識」についてもケアをしていきます。
後期：ヤマハグレード試験（５級）に必要な即興演奏を主体として、各学生が弾きながら授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期：和声課題についてはリポート交換の形で行います。個別添削は必要とあらば授業時間最後に質問として受け付けますが基本はリポート交換ですので課題の実施は各自宅で行ってください。また、あらかじめ楽譜の予習が必要な場合はその都度授業で指示します。
後期：グレード取得を目的とするので練習を確実に行うこと。コードネームでの和音の練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

前期：学期末試験（評価の１０%）平常点（評価の４０%）参加姿勢（評価の５０%）
後期：平常点（評価の５０%）テスト（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期：特にはありません。
後期：参考文献については、必要に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期：カワイ講師グレードを取得したいと考えている学生。今年度、カワイ委託講師採用試験を受験予定の者。及び、企業にかかわらず音楽教室にて指導を希望している者。
４年生で採用試験を受験予定の者は専門選択科目の「ソルフェージュⅠ～Ⅲ」、「和声学Ⅰ～Ⅲ」、「キーボードハーモニー」の履修できていることが望ましい。
後期：特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび和声学、伴奏付の実力チェック。ガイダンスでは１３、14回目の授業で行う研究発表について、各自の研究テーマを決めていただきます。ある一つのことを深く研究することはその研究対象の周りに存在する事象についても研究することになり、それらが広がって幅広い知識となるからです。
2	メロディにふさわしい和音による伴奏をつけるために、基本的な和音の配置と連結・和音記号を正しく認識して演奏する能力をつける
3	調性感や和声感を備え基本的な力をつけて、音楽的な演奏に結びつける
4	コードネームの基本知識を身に付ける ♯３つ、♭３つの長調
5	コードネームの基本知識を身に付ける ♯３つ、♭３つの短調
6	コードネームを正しく認識し、コードネームから、右手でコードを、左手でベースを演奏出来るように例題を基に実習を重ねトレーニングする
7	右手のコードの音をどのように並べるか、自然なラインになるように１つの和音につき適宜音を選べるようにトレーニングする
8	カデンツ、完全終止・半終止の方法を勉強し、転回形を使えるようにしてメロディーから適切な和音を導き出し、伴奏づけをする
9	音楽に彩りをそえる副Ｖの和音を勉強する♯１つ♭１つの長調・短調
10	♯３つ、♭３つまでの調性で和音記号を正確に読んで演奏出来るようにする
11	響きの良い伴奏形にするために転調を認識して、借用和音をスムーズに用いる事が出来るようにする
12	伴奏音形を工夫し、美しいバスライン、流れを実習を通して身に付ける
13	与えられた課題を正確に弾き、限られた時間で音楽的に演奏出来るように仕上げる
14	副Ｖの復習と演奏試験
15	筆記試験とまとめ

授業計画	
	［半期］
1	即興演奏（変奏）１ C dur
2	即興演奏（変奏）２ a moll
3	即興演奏（変奏）３ 調号1個の長調
4	即興演奏（変奏）４ 調号1個の短調
5	即興演奏（変奏）５ 調号2個の長調
6	即興演奏（変奏）６ 調号2個の短調
7	即興演奏（変奏）７ 調号3個の長調
8	即興演奏（変奏）８ 調号3個の短調 即興演奏（モティーフ）１　C dur
9	即興演奏（変奏）９ 調号4個の長調 即興演奏（モティーフ）２ a moll
10	即興演奏（変奏）１０ 調号4個の短調 即興演奏（モティーフ）３　調号1個の長調
11	即興演奏（変奏）１１ 調号5個の長調 即興演奏（モティーフ）４ 調号1個の短調
12	即興演奏（変奏）１２ あらゆる調での実習 即興演奏（モティーフ）５ 調号2個の長調
13	ひきうたい 長調
14	ひきうたい 短調
15	試験とまとめ

科目名	音楽教室グレード対策講座II ［火3］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE145600	科目コード	GE1456	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「音楽教室グレード対策講座Ｉ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヤマハグレード指導3・4級及び演奏4級、カワイグレード6級を取得できる能力を会得する。
幼児～中学生への演奏指導・グループ指導において必要とされる条項を理解し、それを会得する。

２．授業概要

（１）視唱・弾き歌い・伴奏付け、移調奏等の音楽的に応用力を必要とするソルフェージュ演習。
（２）変奏曲形式による即興演奏、形式自由な即興演奏。
（３）平易な歌曲の合唱編作。
（４）指揮法の基礎とアンサンブル指導法

以上4つを柱として演習形式、講座形式で授業を展開していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

グレード試験の課題曲は出版されているので日常の練習の中で常にレパートリーとして暗譜での演奏ができるようにしておくこと。また、授業内で配布した初見試奏、移調奏の課題以外にも類似した課題を自分で探し、日常の練習の中に組み込んでおくこと。あくまでも授業はグレード試験に対する準備の方法を学ぶ場で、授業に勤勉に出席しているだけではグレート取得はできない、日々の修練にかかっていると認識しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
リポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度授業内で指示または配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として和声学Ⅰ～Ⅱを履修済みであること。

授業計画	
	演奏グレード対策（前期）
1	ガイダンス ～演奏グレードで求められるもの～
2	伴奏づけ１（コードネームつき・長調の8小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演（課題曲の試演は毎回必ず1人～2人に行ってもらいます）
3	伴奏づけ2（コードネームつき・短調の8小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
4	伴奏づけ3（コードネームつき・長調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
5	伴奏づけ4（コードネームつき・短調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
6	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏１（長調・4拍子） 課題曲試演
7	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏2（長調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
8	伴奏づけ5（コードネームなし・長調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
9	伴奏づけ6（コードネームなし・短調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
10	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏3（短調・4拍子） 課題曲試演
11	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏4（短調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
12	A-B-Aの三部形式による即興演奏１（長調・4拍子） 課題曲試演
13	A-B-Aの三部形式による即興演奏2（短調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
14	A-B-Aの三部形式による即興演奏3（短調・4拍子） 課題曲試演
15	A-B-Aの三部形式による即興演奏4（長調・3拍子・6拍子） 課題曲試演

授業計画	
	指導グレード対策（後期）
1	ガイダンス ～指導グレードに求められるもの～
2	弾き歌い１（12～16小節程度の長調　Major、Minor、 Dominant　7thを含むもの） 移調奏１（4小節程度・2度上または2度下の移調）
3	弾き歌い2（12～16小節程度の短調　Major、Minor、 Dominant　7thを含むもの） 移調奏2（4小節程度・2度上または2度下の移調）
4	弾き歌い3（12～16小節程度の長調　Major、Minor、 Dominant　7th、dim、augを含むもの） 移調奏3（8小節程度・2度上または2度下の移調）
5	弾き歌い4（12～16小節程度の短調　Major、Minor、 Dominant　7th、dim、augを含むもの） 移調奏4（8小節程度・2度上または2度下の移調）
6	弾き歌い5（12～16小節程度の長調　全てのコードを含むもの） 移調奏5（8小節程度・2度上または2度下の移調）
7	弾き歌い6（12～16小節程度の短調　全てのコードを含むもの） 移調奏6（8小節程度・2度上または2度下の移調）
8	移調奏7（8小節程度・3度～4度上または下の移調） 初見試奏１（8小節程度）
9	移調奏8（8小節程度・3度～4度上または下の移調） 初見試奏2（16小節程度）
10	移調奏9（12小節程度・2度上または2度下の移調） 初見試奏3（16小節程度）
11	移調奏10（16小節程度・2度上または2度下の移調） 初見試奏4（16小節程度）
12	初見試奏5（20小節程度） 合唱編作（ヴェルナー作曲　のばら）
13	初見試奏6（20小節程度） 合唱編作（フォスター作曲　夢路より）
14	合唱編作（自選の歌曲による） アンサンブル指揮演習１
15	アンサンブル指揮演習2 まとめ

科目名	ピアノ指導法Ⅰ ［金4］						
代表教員	木幡　律子	授業コード	GE145700	科目コード	GE1457	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導法Ⅰ」は、初歩のピアノ導入を指導する方法を考察して実践する授業です。 そのために必要な様々な教材に精通し、ピアノ演奏を将来楽しむための大切な基礎を築く教育理念や指導方法について研究することを目標とします。

２．授業概要

前期は様々な導入教材を取り上げ、その特徴、用い方などを考察します。
後期は応用として、時代の異なる様式を持つ併用曲、また発表会に適した曲等を、先生役、生徒役のペアを組み、模擬レッスン形式で実践体験します。実技テストも同様の形で行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期は、最後に、授業で取り上げた教材について、特徴などをまとめるレポートを提出してもらいます。
配布資料は大切に保管し、復習を心がけてください。
後期は、先生役と生徒役にペアを組み、模擬レッスン形式での発表が中心となります。
前期から学んで来た事の実践になりますから、二人でよく相談し、予行練習を十分行ってください。
課題曲は１～２週間前に指定します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の30%）
授業内の課題発表、及びレポート提出（評価の40%）
授業への参加姿勢（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教本・楽曲は、必要に応じて提示します。
主な参考書：
『夢がふくらむレッスンのハンドブック』中村菊子著（ヤマハミュージックメディア出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来子供達にピアノを教える事に、興味、関心があることが望ましいです。
授業では、順番に指導曲を演奏したり、模擬レッスン形式で発表してもらうなどの割り当てがあります。
経験を積み、お互いの発表から益を得るためにも、積極的態度での参加を期待します。

授業計画	
	［前期］（教材研究基礎） 現在多くの指導者に使われている導入教材を検証します。
1	ガイダンス
2	導入教材の変遷 ミュージック・ツリー
3	バーナム ピアノ テクニック（ミニ ブック、導入、1巻・・・）
4	バーナム ピアノ 教本 バーナム ピアノ テクニック （全調）
5	ラーニング　トゥ　プレイ リラ　フレッチャー
6	バスティン・ピアノベーシックス ベース・メソッド
7	クルターク 三善メソッド
8	ピアノランド…他
9	バロック期小品の様式、特徴、奏法
10	バロック小品(アンナマグダレーナ)
11	バロック小品(テレマン、ヘンデル、他)
12	古典期小品の様式、特徴、奏法
13	古典派小品（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン 、他）
14	古典期ソナチネ
15	前期導入教材まとめレポート作成

授業計画	
	［後期］（教材研究応用） 発表会、コンクールでもよく弾かれる重要な小品を、模擬レッスン形式で実践しながら考察します。
1	模擬レッスン(生徒とのコミュニュケーション)
2	練習曲（ＡＢＣ、ツェルニー、ブルグミュラー・・・）
3	ロマン派の様式、特徴、奏法
4	ロマン派小品　（シューマン ユーゲントアルバム）
5	ロマン派小品（チャイコフスキー、ギロック、他）
6	近現代小品の様式、特徴、奏法
7	近・現代小品（カバレフスキー）
8	近・現代小品（バルトーク，ショスターコビッチ、プロコフィエフ、他）
9	法人作品(湯山昭、他)
10	発表会用作品
11	実技試験（模擬レッスン形式）・・・復習まとめ
12	実技試験（模擬レッスン形式）・・・復習まとめ
13	実技試験（模擬レッスン形式）・・・復習まとめ
14	実技試験（模擬レッスン形式）・・・復習まとめ
15	まとめ

科目名	ピアノ指導法II ［金4］						
代表教員	岡本　有子	授業コード	GE145800	科目コード	GE1458	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ピアノ指導法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期はピアノのレッスンで使用する楽曲の指導のポイントと,その曲に必要なテクニックをどのように指導するべきなのかを知る。
実践を通して考える力を身につけ、教える際のヒントを得る。
後期はピアノと楽器の特性をより深く知り、演奏の際に必要な体の使い方や、音楽教室の現場の話を聞き将来ピアノ指導者として活動するための知識を深める。

２．授業概要

前期は導入期を終えた子どもに適した教材を選び、レッスン形式で、生徒と先生の両方の立場を経験しながら実践していく。
模擬レッスンを通して教材研究をすることにより曲について深く知る。それと同時に様々な方法で生徒が上達するためのヒントを得ることを目的とし、考える力、ひらめきを大切にし、生徒とのコミュニケーションの取り方を研究する。
後期は各界で活躍している講師からオムニバス形式で講義をしていただき、将来に役立つ幅広い知識を修得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期は毎回課題を提示しますので、授業での模擬レッスンができるように予習をしてください。
後期は授業後に授業内容をまとめておくこと

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
授業内の課題発表、及びレポート提出（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期は授業計画に掲載したテキストから抜粋します。
後期は必要に応じてプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

質疑応答を含め授業への積極的な参加を希望します。
前期は課題の予習をして積極的に授業に参加してください。
後期は出席を重視します。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	平吉毅州「虹のリズム」より一演奏到達目標について考える
3	カイエ ドゥ ルモワンヌより一曲の構成と音色について研究する
4	ギロック「叙情小曲集」より一ペダルの使い方の工夫を学ぶ
5	バッハ 「インヴェンション」より一曲の構成を研究する
6	三善晃「音の森」「海の日記帳」より一音の響きと音楽の流れを理解する
7	「ソナチネアルバム」より一速いパッセージの奏法、練習法を考える
8	野平一郎「音の旅」より一音のバランスに注意して曲をまとめる
9	カバレフスキー「ロシア民謡による舞曲風変奏曲」他一変奏曲のまとめ方を学ぶ
10	湯山昭「こどもの国」「お菓子の世界」より一表現に合わせた手の使い方を考える
11	ハチャトゥリアン「少年時代の画集」より一作曲家の特徴をつかむ
12	池辺晋一郎「雲の散歩／リズムの小箱」より一曲の雰囲気を理解し表現方法を考える。
13	ドビュッシー「小さな黒人」他一作曲家の特徴を生かした曲のまとめ方を研究する
14	まとめ（1）前期の曲集を使用したレッスン形式の発表及び考察
15	まとめ（2）前期の曲集を使用したレッスン形式の発表及び考察

授業計画	
	［後期］
1	電子オルガン奏法（1）　奏法を学ぶ
2	電子オルガン奏法（2）　曲想に合った音色の選択、表現テクニックを学ぶ。
3	パイプオルガン奏法（1）　奏法の基礎を知る
4	パイプオルガン奏法（2）実践による演奏法の確認
5	パイプオルガン奏法（3）音をよく聞き、曲にあった表現方法を学ぶ。
6	御木本フィンガートレーニング（1）手指、腕の構造および自分の手の特徴を知る。
7	御木本フィンガートレーニング　（2）トレーニングを体験し、合理的で自然なテクニックの習得方法を学ぶ。
8	こんにゃく体操(1) 体の脱力の方法を学ぶ
9	こんにゃく体操（2）　体の柔軟な動きを学ぶ
10	音楽教室の現場（1）　音楽教室の教育内容を学ぶ
11	音楽教室の現場（2）　子供にレッスンする際の工夫について学ぶ
12	ピアノの話（1）　ピアノの歴史を学ぶ
13	ピアノの話（2）　ピアノの構造を学び楽器の特性を知る
14	呼吸法ー呼吸と演奏の関係について考える
15	まとめ

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４　［木4］Aクラス						
代表教員	山内　のり子	授業コード	GE1495AO	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシック ・ オーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ： 〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ： 「エグモント」、ブラームス ： 「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ： バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシック・オーケストラ演奏会見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験①以下5回にわたり指揮者の指導に従いアンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等適宜加味される
11	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験②
12	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験③
13	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験④
14	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験⑤
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４　［木4］Bクラス						
代表教員	小林　裕子	授業コード	GE1495BO	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシック ・ オーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ： 〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ： 「エグモント」、ブラームス ： 「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ： バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシック・オーケストラ演奏会見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験①管打楽器の響きを体感する。
11	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験②それぞれの楽器のタイミングを理解する。
12	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験③指揮者の要求を理解する。
13	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験④指揮を見ながらアンサンブルを考える。
14	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験⑤以上5回にわたり指揮者の指導に従いアンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等を考える。
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	アコースティックミュージカルスタディ１～４　［金2］							
代表教員	鵜木　絵里	授業コード	GE153100	科目コード	GE1531d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカルやクロスオーヴァーと言った作品に関して、マイクなどを使用せずに体に響せる発声で歌唱する。
演奏会などでも積極的に自らの演出で歌唱できる状態をめざす。

２．授業概要

毎回３～４名程度ずつ、配布した作品の中から学生自ら選んだ曲を演習。ミュージカルのみならずその前進でもあるオペレッタの作品（日本語訳歌唱）や近年のクラシック歌手によって歌われているクロスオーヴァーポップス作品なども取り上げる。その為にも基礎として声楽の要素を重要視する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歌唱する作品は前もって映像など資料を見ておく事。作品が外国語であった場合は前もって発音などを丁寧にしらべる事。クラッシックコンサート以外の舞台にも積極的に足を運び、より豊かな表現を体験する事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点４０%、演習発表会６０%
平常点は普段の授業への取り組み、演習発表会とは前期・後期それぞれ最後の授業にするもの。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講師側から前期・後期の授業開始時に譜面を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

地声を用いた歌唱は無いため、あくまで声楽の授業であることを理解する事が望ましい。
２/３以上の出席が無い場合は、試験を受ける事ができない。
２０分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

授業計画	
	１９６０年代のミュージカル作品やオペレッタ（日本語訳）、クロスオーヴァー作品を中心にソロ演習
1	ガイダンス、譜面についての説明、銘々選曲計画を立てる
2	約１３曲ほどの中から課題曲を学ぶ　（１）背景について発表すること
3	選択曲を学ぶ　（２）　言葉と作品への理解
4	選択曲を学ぶ　（３）　発音と歌唱確認を中心に
5	選択曲を学ぶ　（４）　アコースティックによる奏法を理解する　＃１確認
6	選択曲を学ぶ　（５）　アコースティックによる奏法を理解する　＃２定着
7	選択曲を学ぶ　（６）　アコースティックによる奏法を理解する　＃３工夫
8	選択曲を学ぶ　（７）　言葉から表現へ
9	選択曲を学ぶ　（８）　音色を掘り下げる　＃１確認
10	選択曲を学ぶ　（９）　音色を掘り下げる　＃２定着
11	選択曲を学ぶ　（１０）　音色を掘り下げる　＃３工夫してこだわる
12	選択曲を学ぶ　（１１）　簡単な演出プランを自分で表現する　＃１確認
13	選択曲を学ぶ　（１２）　簡単な演出プランを自分で表現する　＃２定着と工夫
14	選択曲を学ぶ　（１３）　演習発表会に向けて同じ状態で歌唱と表現が出来るかを自分で見極める
15	演習発表会　自分の音楽を表現として発表できたのかについて話し合いも含む

授業計画	
	２重唱、アンサンブルも取り入れ引き続き前期と同じ作品群の演習
1	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１）背景について発表すること
2	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（２）言葉と作品への理解
3	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（３）奏法について　＃１前期で学んだ奏法を用いての歌唱確認
4	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（４）奏法について　＃２定着
5	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（５）奏法について　＃３音域による奏法の理解
6	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（６）言葉から表現へ
7	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（７）音色を掘り下げる　＃１確認
8	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（８）音色を掘り下げる　＃２定着
9	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（９）音色を掘り下げる　＃３工夫
10	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１０）簡単な演出プランを付ける　＃１確認
11	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１１）簡単な演出プランを付ける　＃２定着
12	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１２）演出と歌唱のバランスを中心に　＃１確認
13	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１３）演出と歌唱のバランスを中心に　＃２定着と工夫
14	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１４）演習発表会に向けて同じ状態で歌唱と表現が出来るかを自分で見極める
15	演習発表会　自分の音楽を表現として発表できたのかについて話し合いも含む

科目名	コーラスアンサンブル実習１～４　［木2］						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GE155100	科目コード	GE1551d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0(コーラスアンサンブルクラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

・主に少人数のクラシックスタイルでのアンサンブルに必要なテクニックを習得する。
・合唱、アンサンブルに必要である４つのニュアンス（旋律、リズム、和声、ことば）についての理解を深め、表現できるようになる。
・合唱指導のシーンで必要なスキル（指揮法、楽曲分析、リハーサルテクニック、業界についての知識や将来の展望など）を総合的に学ぶ。

２．授業概要

　　アンサンブル・合唱の演奏者としてはもちろんのこと、将来的に指導者として携わるための技術、心構えや知識までを、主に現代の合唱曲を用いながら総合的に指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業時に扱う曲の音取りは必ず事前にしてくること。
・また、自分のパートだけではなく「指揮を振れる」「指導ができる」程度の準備をしてくることが望ましい。
・技術は一朝一夕で身につくものではないので、日頃から定着を心がけ、反復練習や復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

出席状況、積極的な姿勢、個人の技能、レポートなどの課題提出、授業内での発表など、「平常点を総合的に判断」する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・相澤直人著 合唱エクササイズ アンサンブル編１，２巻（カワイ出版）
・相澤直人・名島啓太著 合唱エクササイズ　指揮編1巻（カワイ出版）

{PanaMusica,https://www.panamusica.co.jp/ja/product/multi_list.php?pd_search=%C1%EA%DF%B7%C4%BE%BF%CD&Submit=%B8%A1%BA%F7}などから購入可能。（各1,000円/税別）

※上記３冊は授業内テキストとして使用するので、初回授業までに準備すること。
※授業内で取り扱う楽曲に関しては、都度、授業内に指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルは役割はそれぞれ違えど、全員が主役である。自分はもちろん、は他人も主役である。他人の立場で物事を考え、共に悩み、喜ぶ。アンサンブルとは思いやりの芸術であることを心得て参加すること。

授業計画	
	主にアンサンブルの演奏者（歌い手）としての技術の習得、ソルフェージュ能力の向上を目指す。
1	ガイダンス
2	音楽のニュアンス（１）リズムの演奏法
3	音楽のニュアンス（２）旋律の演奏法
4	音楽のニュアンス（３）和声やExpressive accentの演奏法
5	言葉のニュアンス（１）息と響き
6	言葉のニュアンス（2）音色座標と母音調整
7	アンサンブルテクニック（１）合唱エクササイズを用いて　日本語の扱い
8	アンサンブルテクニック（２）合唱エクササイズを用いて　アンサンブルの基礎練習法
9	アンサンブルテクニック（３）合唱エクササイズを用いて　カノンを用いてのアンサンブル実習
10	楽曲を用いての実践（１）　フレーズ分析
11	楽曲を用いての実践（２）　リュシーのリズム理論の解説
12	楽曲を用いての実践（３）　リュシーのリズム理論の実践と実際の楽曲での活用法
13	楽曲を用いての実践（４）　楽曲のトータルコーディネートについて
14	課題曲を用いての自主的なアンサンブル実践
15	簡易な発表会形式による前記の総括とニュアンスについてのまとめ

授業計画	
	前期に引き続き、楽曲を通じて奏者としての技術向上を大きな目的とするのはもちろんのこと、楽曲分析や、和声学、それらを演奏に生かすアプローチなど、指導者、もしくはコーラスマスター（リーダー）としての能力を養う。また、指揮法やリハーサルビルディングなど、実際の現場で指導者として必要なスキルも身につける。
1	詩の解釈・曲の解釈
2	アンサンブルのための和声学（１）固有和音と機能
3	アンサンブルのための和声学（２）和音の機能とカデンツ
4	アンサンブルのための和声学（３）非和声音の分析と演奏法
5	合唱指導に必要な能力と心構え
6	合唱指揮法（１）アクティブな拍点、パッシブな拍点
7	合唱指揮法（２）図形と予備拍、開始と終了
8	合唱指揮法（３）フェルマータの解釈、ほか
9	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（１）　ニュアンス全般の表現
10	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（２）　特にアウフタクト、イメージの前取りについての解説と実践
11	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（３）　楽器と歌の表現、体の使い方、指揮法の違い
12	合唱文化の現在（日本の合唱曲のアイデンティティ、課題など）
13	アーティスト、トレーナーとしての立場
14	課題曲を用いての自主的なアンサンブル実践
15	発表会形式による総括と、１年間のまとめ講義「アンサンブルに大切な要素」

科目名	アンサンブルヴォイストレーニング１～４　［水2］						
代表教員	高田　正人	授業コード	GE156100	科目コード	GE1561d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0（コーラスアンサンブルクラスの	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブルの基本となる声の技術を身につける。
大人数での合唱ではなく、4人からの小編成のアンサンブルを習得する。
古今東西の様々なスタイルのアンサンブル曲を高いレベルで演奏できるようになる。
様々な言語で書かれたアンサンブル曲を演奏できるよう、それぞれの言語での歌唱法・スタイルを習得する。
履修後はすぐにプロの現場で仕事として通用するレベルを目指す。

２．授業概要

前半はアンサンブルの素となる発声・リズム・ハモリ・身体表現などのエクササイズを行い、アンサンブルの素地を作る。
中盤以降では実際にクラシカルクロスオーヴァーからポップス、ミュージカル、日本や海外の様々な楽曲を演奏することを通して、アンサンブルの表現力とスキルを養う。ディクション・マイクの使い方・スタジオ録音など専門的な分野においてはその分野のスペシャリストをゲスト講師に招き、現場での即戦力を育てる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目について授業で扱える時間が限られているので、授業はなるべく録音するなどして十分にその内容を復習し、
次回以降に繋げること。
授業で使う楽譜は1週間以上前に渡すので、必ず自分のパートを譜読みしてから授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(授業準備も含む)75%、演奏発表25%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

コールユーブンゲン(出版社不問)
その他資料や楽譜は授業時に適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルという性格上、欠席や遅刻は可能な限り少なくすること。特に最終の発表会には必ず出席できること。
また、他者との関わりが大切になるので、人との協調性が持てること。

授業計画	
	前期はアンサンブルの基礎となる声・リズム・フレージングなどを学ぶ。また、実際に日本の唱歌・歌謡曲・ポップスなどをアンサンブルにしたものを歌い、学んだ基礎を実践し体得する。
1	ガイダンス
2	発声のエクササイズ(1) 呼吸・支え・姿勢
3	発声のエクササイズ(2) 課題の曲を使って実践
4	音程・和声のエクササイズ
5	フレージング・リズムのエクササイズ
6	ジャズミサを歌う(1) Kirie
7	ジャズミサを歌う(2) Gloria
8	身体表現のエクササイズ
9	日本の唱歌をアレンジアンサンブルで歌う (1) 季節の歌(春・夏)
10	日本の唱歌をアレンジアンサンブルで歌う(2) 季節の歌(秋・冬)
11	日本の唱歌・ポップスをアレンジアンサンブルで歌う(3) はなみずき・桜(森山直太朗)
12	日本の唱歌・ポップスをアレンジアンサンブルで歌う(4) Over Drive (JUDY AND MARY) 他
13	クラシカル・クロスオーヴァーの曲を歌う(1) Time to say Goodbye
14	クラシカル・クロスオーヴァーの曲を歌う(2) Nella fantasia 他
15	前期のまとめ グループに分かれてアンサンブル発表

授業計画	
	後期はより複雑なアレンジのアンサンブルや、英語の曲などに挑戦する。ゲスト講師によるマイクの効果的な使い方や、ＣＤ録音の時の歌唱技術などプロの現場を意識した授業となる。
1	英語のディクション(ゲスト講師)
2	英語の名曲・ポップスをアンサンブルで歌う(1) You raise me up, The rose 他
3	英語の名曲・ポップスをアンサンブルで歌う(2) Yesterday
4	ジャズミサを歌う(3) Sanctus
5	ジャズミサを歌う(4) Benedictus, Agnus Dei
6	ジャズミサを歌う(5) 全曲の総括
7	これまでの曲の復習とまとめ(1) 前期の曲を中心に
8	曲やシチュエーションによる声の使い分け
9	マイクを使って歌ってみよう(ゲスト講師)
10	ミュージカルの曲をアンサンブルで歌う(1) Seasons of love (レ・ミゼラブル)　他
11	ミュージカルの曲をアンサンブルで歌う(2) 美女と野獣、すべての山に登れ(サウンドオブミュージック)
12	自分たちの曲をスタジオ録音してCDにしてみよう(ゲスト講師)
13	これまでの曲の復習とまとめ(2) 後期の曲を中心に
14	これまでの曲の復習とまとめ(3) グループごとに精度を高める
15	演奏会形式での発表会(後期試験を兼ねる)

科目名	サックスオーケストラ１～４　［水4-5］						
代表教員	岩本　伸一	授業コード	GE163100	科目コード	GE1631d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソプリロからコントラバスまで ８種のサクソフォーンと打楽器から成る、同族楽器のオーケストラ。サクソフォーは、アドルフサックスにより19世紀半ばに特許が取得されて以来、今日まで飛躍的な発展を成している。しかしながら吹奏楽ではとても必要な楽器であるが、管弦楽ではロマン派以降、限られた作品にしか起用されていない。そのリスクを逆転の発想により、更には同族楽器としてとても恵まれている点から、サクソフォーンと打楽器により、音楽歴史上優れた作品の数々を、演奏して学んで行く。本番にプロの指揮者を招聘することで、より質の高い音楽表現を目標とする。

２．授業概要

主題で述べた学習曲はすべて編曲となる。客演指揮者と相談し、夏と冬の年間２回の成果発表演奏会のプログラムを決め、本番に向け合奏中心に授業を進める。指導教員が合奏＆各セクションを担当し、細かい指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏曲の事前勉強は必須。オリジナルスコアと共にCD(本学図書館活用）やYouTubeを視聴し、理解を深める。
必要に応じパート練習をする場合がある。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の６０％）
その他 総合点 （評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業概要で述べた、当団のために編曲された楽譜を使用。
参考資料として、オリジナルスコア（管弦楽、吹奏楽など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期に４回以上欠席した場合、演奏会に参加できない場合がある

授業計画	
	［前期］ 客演指揮に保科 洋先生をお迎えし、7月24日(火)本学前田ホールにて、前期授業成果発表演奏会を行う。 曲目:保科洋・アルビレオ / 兼田敏・パッサカリア / ムソルグスキー・展覧会の絵 他
1	ガイダンス 顔合わせ 係り、パート決め
2	アルビレオ、パッサカリア、展覧会の絵より(前半)、初合奏
3	第2回目の曲目合奏、課題点の確認
4	第2回目の曲目合奏、表現の工夫
5	第一部メイン曲、展覧会の絵より(中間)、初合奏
6	第5回曲目の合奏、課題点の確認
7	第5回曲目合奏、表現の工夫
8	展覧会の絵より、後半初合奏
9	展覧会の絵、全曲合奏
10	プログラム全曲合奏、表現の工夫
11	プログラム全曲合奏その2、表現の工夫（必用に応じセクション練習）
12	保科先生による全曲合奏
13	保科先生による合奏(プログラム前半)
14	保科先生による合奏(後半)
15	ゲネプロ＆演奏会

授業計画	
	［後期］ 　客演指揮に大井剛史先生（東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者）をお迎えし、12月15日本学前田ホールにて、後期授業成果発表演奏会を行う。 プログラム未定
1	ガイダンス パート調整等 音出し
2	プログラム前半、初合奏
3	前半曲目の合奏、課題点の確認
4	前半曲目の合奏(または分奏)、表現の工夫
5	プログラム後半、初合奏
6	後半曲目の合奏、課題点の確認
7	後半曲目の合奏(または分奏)、表現の工夫
8	プログラム全曲の合奏
9	プログラム全曲の合奏(または分奏)、質の向上
10	全曲合奏、総仕上げ
11	大井先生による全曲合奏
12	大井先生による合奏(プログラム前半)
13	大井先生による合奏(後半)
14	ゲネプロ＆演奏会
15	年間の総括、反省会

科目名	打楽器アンサンブル１～４　[水4-5]						
代表教員	神谷　百子	授業コード	GE163400	科目コード	GE1634d	期間	通年
担当教員	山澤　洋之、古川　玄一郎、野本　洋介、村瀬　秀美、井手上　達						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多種多様の打楽器を演奏するためには音楽的・技術的に十分な理解が必要となる。打楽器アンサンブルでは様々な楽曲を用いながら楽器奏法をマスターし、それと共に教材として取りあげる作品に関連する歴史や、作品の楽曲構造も学習していく。また、それぞれの担当教員の専門分野のアンサンブルを研究することによってより深く演奏・研究し、その成果を前期では演奏会形式の発表会（会場・シルバーマウンテン）、後期では本格的な演奏会（会場・前田ホール）として発表する。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、授業までに各自で練習・研究しておくこと。また、各授業後、その授業で学んだことの復習と、次回に向けての練習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を考慮。また、後期では授業成果発表演奏会のプログラムに取り上げる作品の出演メンバーをオーディションにより決定するが、そのオーディション結果をはじめとする授業内での演奏レベルについても成績決定の判断基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業。アンサンブルクラス分けは、原則として授業担当教員が、受講生の状況を見ながら決定する。ただし、後期については成果発表演奏会で取り上げる作品の内一部の出演者を、出演希望者が自主的に組んだアンサンブルメンバーを対象としたオーディションによって決定する。その他授業進行にともなう諸注意については初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、前期授業についての説明
2	基礎打楽器奏法１（膜質打楽器等）
3	基礎打楽器奏法２（金属打楽器等）
4	基礎打楽器奏法３（鍵盤打楽器等）
5	基礎打楽器奏法４（特殊打楽器等）
6	アンサンブルクラス分け、およびガイダンス
7	クラス別内容１ 基本的なレパートリーを教材とし、リハーサル開始. 教材曲の楽曲分析を交えながら進める
8	クラス別内容２ ７で行ったリハーサルの復習と、細部の確認
9	クラス別内容３ リハーサル最終確認。アンサンブルとしての完成度を高めることを強く意識する。
10	クラス別内容４ 基本的レパートリーとして取り上げた教材曲のアンサンブル完成
11	クラス別内容５ より高度なアンサンブルレパートリーを教材として取り上げ、リハーサル開始
12	クラス別内容６ １１のリハーサルの復習、細部確認
13	クラス別内容７ リハーサル最終確認。各自の担当するパートを理解した上でのアンサンブルの完成度を高める
14	総合演習に向けてのクラス別各教材曲最終リハーサル　（試演を含む）
15	前期内容の総合演習と総括。 （演奏会形式, シルバーマウンテン）

授業計画	
	［後期］
1	学年総合演習演奏会プログラム決定・楽譜配布
2	教材曲について、作曲家について、また、それらに関連する事等についての講義
3	演奏会楽曲リハーサル１ リハーサル開始、教材曲の楽曲分析を交えながら進める
4	演奏会楽曲リハーサル２ 楽曲に現れるビート、リズム、メロディー、フレーズ感、ハーモニーなどの確認
5	演奏会楽曲リハーサル３ 更に細部を確認しながらリハーサルを進める
6	演奏会楽曲リハーサル４ 教材曲のアンサンブル最終確認
7	演奏会楽曲リハーサル５ ２～６と同様に別のレパートリーを教材として講義、その後リハーサルを進める
8	演奏会楽曲リハーサル７ 楽曲の中の各パートの細部確認
9	演奏会楽曲リハーサル８ 楽曲に出てくるビート、リズムに焦点を置いたリハーサル
10	演奏会楽曲リハーサル９ 楽曲に現れるメロディー、フレーズ感、ハーモニー感に焦点をあてたリハーサル
11	演奏会楽曲リハーサル１０ アンサンブルの確認。複数のパートが一つの音楽を作るという意識を高めるリハーサル
12	演奏会楽曲リハーサル１１ 学年総合演習演奏会に向けて、各教材曲アンサンブルの完成度を高めていく
13	演奏会楽曲リハーサル１２ 演奏会進行等の確認
14	学年総合演習演奏会最終リハーサル
15	学年総合演習演奏会（前田ホール）

科目名	フルートオーケストラ１～４　［水4-5］						
代表教員	岩花　秀文	授業コード	GE163700	科目コード	GE1637d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フルート族のみ（ピッコロ・フルート・アルトフルート・バスフルート・F-バスフルート・コントラバスフルート・F管ダブルコントラバスフルート）のアンサンブル授業です。フルート独特の爽やかなサウンドで重要な作曲家の名曲を、洗足音大のオリジナルの編曲で、フルーティストにとって、最も大切な合奏技術を学びます。

本年度前期は、7月14日(土)に前田ホールで、昨年の前期コンサート同様、瀬尾宗則氏を指揮者に迎え、授業成果発表会を行ないます。プログラムは、アルビノーニの「アダージョ」、Ａ.ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」、カール・ライネッケの「フルート協奏曲D-dur op.283］,マルコム･アーノルドの交響曲「第六の幸福の宿」を予定しています。またアジアフルート連盟主催のコングレス（韓国・釜山）に参加希望者を募り8月22日～24日まで参加する予定です。

後期は、一昨年度より本校の客員教授に就任した、フィリップ・ベルノルド客員教授を指揮者に迎えて様々な曲を演奏します。彼は、現パリ国立音楽院（コンセルバトワール）のフルート科教授であり、ヨーロッパで指揮者としても活躍しています。彼のソロでモーツァルトの

２．授業概要

7月14日(土)に前田ホールで、昨年の前期演奏会同様、瀬尾宗則氏を指揮者に迎え、授業成果発表会を行ないます。
プログラムは、アルビノーニの「アダージョ」、Ａ.ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」、カール・ライネッケの「フルート協奏曲D-dur op.283］,マルコム･アーノルドの交響曲「第六の幸福の宿」を予定しています。

11月25日(日)に前田ホールでフィリップ・ベルノルド客員教授を指揮者に迎えて様々な曲を演奏します。
彼のソロでモーツァルトの「フルート協奏曲Ｇ-ｄｕｒＫ．３１３.」を、そして彼の指揮で、シャブリエの「エスパーナ」、リムスキー・コルサコフの「スペイン奇想曲」等のプログラムをで企画しております。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習
必要に応じてパート分奏

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と　その他演奏技術及び音楽性、合奏力の総合点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 授業計画に沿って授業を進める。
1	ガイダンス 係り、パート決め, 譜面配布,音だし
2	Piccolo講座 アルビノーニ「アダージョ」譜読み
3	アルト・バス講座 斉藤和志講師 ピアソラ「ブエノスアイレスの四季」譜読み
4	ライネッケ「フルート･コンチェルト」譜読み
5	アーノルド「第六の幸福をもたらす宿」の楽曲の構成やオーケストレーションの確認。(客演指揮者、瀬尾氏と共に)五回後は全て。
6	７月前期演奏会の為の合奏　アーノルドの表現の工夫 アルビノーニ「アダージョ』の楽曲の構成やオーケストレーションの確認
7	７月前期演奏会の為の合奏 アーノルドの表現の定着。 アルビノーニ「アダージョ』の表現の工夫と定着。
8	ライネッケ「フルート協奏曲」ソリスト・オーデション ７月前期演奏会の為の合奏　アルビノーニ「アダージョ」 の仕上げ。
9	７月前期演奏会の為の合奏　ライネッケ「フルート協奏曲」の構成やオーケストレーションの確認
10	７月前期演奏会の為の合奏 ライネッケ「フルート協奏曲」のソリストを交えた合奏、表現と工夫。 ピアソラ「ブエノスアイレスの四季･夏」の楽曲の校正やオーケストレーションの確認。
11	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者） ライネッケ「フルート協奏曲」の表現の定着。 ピアソラ「ブエノスアイレスの四季　春･夏」の表現の工夫。
12	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者） ピアソラ「ブエノスアイレスの四季　春・夏』表現の定着。 アーノルドの仕上げ演奏。
13	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者）演奏会に向けたまとめの演奏。
14	７月前期演奏会本番
15	本番前の臨時練習（１３回目授業の後の時間帯に） 演奏会に向けたまとめの演奏。

授業計画	
	［後期］
1	後期冬の音楽祭参加の為のパート調整、譜面配布、音出し
2	特種管講座～導入～
3	特種管講座～実践～
4	後期プログラム　シャブリエ「エスパーナ」の合奏 楽曲の構成やオーケストレーションの確認
5	冬の音楽祭プログラム　シャブリエ「エスパーナ」の合奏 表現の工夫と定着
6	冬の音楽祭プログラム リムスキー・コルサコフ「スペイン』奇想曲」の合奏 楽曲の構成やオーケストレーションの確認
7	冬の音楽祭プログラム　リムスキー･コルサコフ「スペイン奇想曲」の合奏 表現の工夫と定着
8	冬の音楽祭プログラム モーツアルト「フルート協奏曲ト長調」のオーケストラ伴奏の合奏
9	冬の音楽祭プログラム　シャブリエとコルサコフの合奏
10	冬の音楽祭プログラム モーツアルトとコルサコフの合奏
11	冬の音楽祭 全てのプログラムの合奏（客演指揮者）
12	冬の音楽祭プログラム　ソリストを入れての合奏（客演指揮者）
13	冬の音楽祭 全てのプログラムの合奏（客演指揮者） 最終確認
14	冬の音楽祭本番当日
15	１年間の反省会

科目名	ブリティッシュブラス１～４　［水4-5］						
代表教員	福田　昌範	授業コード	GE164000	科目コード	GE1640d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ブリティッシュブラスはコルネット、フリューゲルホーン、テナーホーン、バリトン、ユーフォニアム、バスなどのサクソルン属の楽器にトロンボーン、打楽器を加えた英国スタイルの金管バンドです。
授業ではレパートリーの演奏・研究だけでなく、美しいハーモニー、サウンド、合奏に必要なトレーニングをコラールやシンプルな曲を通じて学習、実践していきます。

２．授業概要

授業の形態としては、基本編成、中編成、大編成の３つの形態で合奏を行ないます。今年度は前期、後期と年2回の演奏会を予定しています。
演奏会では第１部（基本編成）に、イギリスやヨーロッパのブラスバンド選手権の課題曲を、第２部（中編成）ではイギリスの作曲者によるオリジナル作品を、第３部では大編成のマスバンドでオーケストラのアレンジ作品,映画音楽等を演奏します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考音源を元に、担当のパートの練習に励むとともに、楽曲全体の研究を行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業や演奏会への参加姿勢、ブリティッシュブラス演奏会への寄与を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のための各コース別の諸注意は、初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］ 　指揮者に、本学客員教授でありロイヤルウエリッシュ音楽大学教授（イギリス）のロバートチャイルズ氏、名誉教授の山本武雄氏をお迎えし、ブラスバンドの基礎から、本場であるイギリスの演奏法を学びます。
1	ガイダンス
2	オリジナル作品①
3	オーケストラのアレンジ作品①
4	全英チャンピオンシップコンテストピース①
5	オリジナル作品②
6	オーケストラのアレンジ作品②
7	全英チャンピオンシップコンテストピース②
8	オリジナル作品③
9	オーケストラのアレンジ作品③
10	全英チャンピオンシップコンテストピース③
11	オリジナル作品④
12	オーケストラのアレンジ作品④
13	全英チャンピオンシップコンテストピース④
14	まとめ①（通し練習）
15	まとめ②（演奏会）

授業計画	
	［後期］ 　指揮者に、本学客員教授でありロイヤルノーザン音楽大学教授（イギリス）/ブラックダイクバンド指揮者のニコラスチャイルズ氏、名誉教授の山本武雄氏をお招きし、ブラスバンドの基礎から、本場であるイギリスの演奏法を学びます。
1	全英チャンピオンシップコンテストピース①
2	オーケストラのアレンジ作品①
3	映画音楽①
4	全英チャンピオンシップコンテストピース②
5	オーケストラのアレンジ作品②
6	映画音楽②
7	全英チャンピオンシップコンテストピース③
8	オーケストラのアレンジ作品③
9	映画音楽③
10	全英チャンピオンシップコンテストピース④
11	オーケストラのアレンジ作品④
12	映画音楽④
13	まとめ①（通し練習）
14	まとめ②（通し練習）
15	まとめ③（演奏会）

科目名	オーケストラ演習１　[金3]						
代表教員	三宅　康弘	授業コード	GE194100	科目コード	GE1941	期間	通年
担当教員	松元　宏康						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	EO・ME・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮を伴った、スコアリーディングによる電子オルガンアンサンブルができるようになる。
そのために、古典派を中心とした様々な室内楽作品および管弦楽作品を用い、電子オルガンにおけるオーケストラ奏法を基礎から学んでいく。

２．授業概要

電子オルガンア4台によるアンサンブルが基本である。まずオーケストラの譜面からレジストを作っておく。そしてハ音記号や移調楽器を含むスコアリーディングをしながら、曲の中における自分の受け持つ役割を認識し、拍を数え、バランスを常に留意しながら、息を合わせて演奏する。その上で指揮を見て、反応し、音楽的なコミュニケーションをとりながら曲を仕上げていく。
以上のような内容のため、この授業は電子オルガンと指揮の両教員によって行われる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた楽譜の自分のパートを弾けるようにし、レジストも準備しておくこと。特に後期は曲の難易度が上がるため、各グループの自主的なアンサンブル練習も期待される。また、図書館で自分が演奏する作品の背景や作曲家について調べておくことや、CDやDVDを視聴しておくことも大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%、試演会50%。
平常点は、個人の演奏の準備状況、およびグループワークにおける貢献度を評価する。
試演会は年に3回行い、「指揮を伴った、スコアリーディングによる電子オルガンアンサンブル」に対する理解力や表現力を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のため、遅刻・欠席は極力しないこと。
本授業履修後は、他楽器と共演する「オーケストラ演習２～４」を受講することが望まれる。

授業計画	
	［前期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	ガイダンス
2	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎① （ハ音記号）
3	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎② （ヴァイオリン１・２）
4	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎③ （ヴィオラ、チェロ）
5	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎④ （木管・金管の移調楽器）
6	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎⑤ （木管楽器群をまとめて弾く）
7	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎⑥ （金管・打楽器群をまとめて弾く）
8	室内楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
9	室内楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
10	室内楽曲③ （仕上げとまとめ）
11	小規模の管弦楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
12	小規模の管弦楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
13	小規模の管弦楽曲③ （音色を中心に）
14	小規模の管弦楽曲④ （仕上げとまとめ）
15	試演会

授業計画	
	［後期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	室内楽曲④ （指揮体験）
2	中規模の管弦楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
3	中規模の管弦楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
4	中規模の管弦楽曲③ （奏法を中心に）
5	中規模の管弦楽曲④ （和声を中心に）
6	中規模の管弦楽曲⑤ （形式を中心に）
7	中規模の管弦楽曲⑥ （仕上げとまとめ）
8	試演会
9	大規模の管弦楽曲① （ヴァイオリン体験）
10	大規模の管弦楽曲② （電子オルガンアンサンブルを中心に）
11	大規模の管弦楽曲③ （指揮に合わせることを中心に）
12	大規模の管弦楽曲④ （様式を中心に）
13	大規模の管弦楽曲⑤ （表現法を中心に）
14	大規模の管弦楽曲⑥ （仕上げとまとめ）
15	試演会

科目名	オーケストラ演習２～４　［水4-5］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE194700	科目コード	GE1947d	期間	通年
担当教員	川本　統脩						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラ曲、協奏曲、オペラを研究し、演奏会で発表することを主題とする。電子オルガン２台から３台でオーケストレーションを担当し、音色豊かな合奏として曲を表現していく。

２．授業概要

指揮者、ソリストとのアンサンブルを練習計画に沿って行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会の曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について下調べを行っておくこと。
演奏会本番に向けて、十分練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況）（評価の５０％）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当講師と協議の上、曲目を選定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

オーケストラ演習１を受講していることが望ましい。授業時間以外での個人練習が必要など、努力と熱心さが求められる。また、演奏の発表を目的とした講座のため、ソリストとの合わせの都合により、授業時間以外にも臨時練習が必要になる。このため授業時間を振り替えるような処置を講ずることもある。
全員が音楽性の統一を図って演奏会に臨むこと。

授業計画	
	［前期］ 7月に行われる演奏会に照準を合わせて、譜読み、音楽作りを行う。各自の演奏力向上とともにアンサンブルを学ぶ。
1	ガイダンス
2	電子オルガンアンサンブル、コンチェルト（曲選定、パート分け）
3	電子オルガンアンサンブル、コンチェルト（曲選定、パート分け）時代背景や様式を学ぶ
4	アンサンブル演習（１）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。形式や和声を研究する。
5	アンサンブル演習（2）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。各パートの役目を確認
6	アンサンブル演習（3）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。読譜を確認
7	電子オルガン合わせ(1)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学ぶ
8	電子オルガン合わせ(2)（音楽解釈）アンサンブルのバランスを確認
9	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。
10	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行い、表現を工夫
11	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。表現の掘り下げ
12	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。
13	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認。指揮者とともに演奏の表現
14	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。専攻科演奏会曲パート分け
15	コンチェルト・アリアのタベ演奏会とまとめの演奏

授業計画	
	［後期］ 専攻科の演奏会に照準を合わせ、授業を進めていく。前期で学んだこと活かしながら、レヴェルアップを目指す。
1	アンサンブル演習（１）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。ソロ楽器の研究
2	アンサンブル演習（2）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。ソロ楽器の奏法研究
3	アンサンブル演習（3）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。
4	アンサンブル演習（4）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。形式や和声を研究
5	電子オルガン合わせ(1)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。読譜の確認
6	電子オルガン合わせ(2)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。各パートの役目を確認
7	電子オルガン合わせ(3)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。
8	電子オルガン合わせ(4)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。表現の工夫
9	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。表現の掘り下げ
10	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。指揮者からの音楽表現を学ぶ
11	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。コンチェルトの形態について学ぶ
12	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。
13	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。アンサンブルを聴講することにより、バランスなどを確認
14	専攻科演奏会　演奏の確認
15	専攻科演奏会とまとめの演奏

科目名	ポピュラー奏法研究１　［水4］						
代表教員	小川　真澄	授業コード	GE195300	科目コード	GE1953	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々なスタイルのコードバッキングを通してリズムに対しての意識を高めていきます。
一度、一段鍵盤のシンプルな形に戻って他楽器とアンサンブルすることにより各パートの本来の役割を学び、全体の音をきちんと聴きながら楽しんでアンサンブルできるようなトレーニングを積んでいきます。
そしてそれが即興的なアプローチでも発揮できるようになり、最終的には電子オルガンでのソロ演奏にも繋がることを目標とします。

２．授業概要

コードプログレッションやスケール等のポピュラー理論にも触れながら進めていきます。毎回渡す課題をソロまたはアンサンブルで演奏し、数回後にはギター、ベース、ドラムとのアンサンブルを通じて自分の演奏や他の人の演奏も聴きながらリズムの感覚を磨いていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配る課題をしっかり譜読みしてきてください。

４．成績評価の方法及び基準

確認テスト、授業への参加姿勢、平常点等から総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中にプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画はある程度の履修人数を想定して作ってあります。実際の履修者人数によっては、計画を変更することもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、課題-他のパートを聴きながら弾く
2	課題-シンコペーション
3	コードポジショニング、様々なスタイルのバッキング、8分音符・16分音符ウラのリズムの取り方
4	コード進行について、8分音符・16分音符ウラのリズムの取り方応用
5	テンション・ノートについて、リズムトレーニング
6	テンションを含むボイシング実践、アドリブについて
7	テンションを含むボイシング、アドリブ、シャッフルのリズムについて
8	シャッフル課題、音価
9	3連符の様々なリズム、タイミング
10	ベースの音価について、ベースラインの作り方
11	両足ベース、ウォーキングベース
12	《ここからGt、Ba、Drサポートありの予定》 8beat1-シンコペーション、音価の作り方
13	8beat2-指づかいを考える、タイミング
14	8beat3-両手のタテの線をそろえる
15	8beatまとめ

授業計画	
	［後期］
1	シャッフル1-休符の感じ方
2	シャッフル2-フレーズのアーティキュレーション
3	シャッフル3-オープン・ボイシング
4	シャッフル4-応用
5	オルガンの仕組み、奏法
6	16Beat1-リズムの取り方
7	オルガン課題まとめ
8	１６beatハネ1-リズムの取り方
9	１６beatハネ2-パラディドル
10	コンサート演習1-Cメロ譜からのアレンジ
11	コンサート演習2-合わせ
12	コンサート演習3-演奏表現
13	コンサート演習4-仕上げ
14	試験曲合わせ
15	確認テスト・まとめ

科目名	オーケストレーション ［火2］						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE197000	科目コード	GE1970	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特性を活かして、オーケストラ作品を演奏するには、アコースティック楽器の扱い方や特性を知る必要がある。多くの楽器の知識を広めながら、オーケストレーションにつなげていく。そして、最終的には自ら二管編成のスコアを書くことを目標とする。

２．授業概要

スコアを読む力をつけながら、管弦楽曲で使われる楽器について学ぶ。ピアノ曲（ソナチネ）などを弦楽四重奏にアレンジすることから、編曲の意味を考え、徐々に二管編成を理解できるように充実させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：常に、演奏する立場、書く立場からの両方で作品に向き合う様に心掛けること。
復習：実習しながら進める授業です。読書するようにスコアを読むことが習慣になるのが理想です。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題制作を含む）（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
いずれも絶対評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

個々の実力に応じ、　随時授業内にて紹介、配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでオーケストラのスコアを読むことが得意でないと感じていても全く問題ありません。
授業中、課題に真剣に取り組むことを積み重ねれば、必ずスコアを読み、書けるようになります。
調べものなどにも熱心に取り組むこと。

授業計画	
	［前期］ 二管編成の作品を見ながら、学生自らオーケストラ作品についての思考を深めていく。
1	ガイダンス。オーケストラで扱う楽器の名前、音色等をCDを聞きながら確認。
2	段数の少ないスコアを読み取る訓練も兼ねた、古典派の弦楽四重奏曲のピアノリダクション。
3	古典派の弦楽四重奏曲のピアノリダクションを各自で確認しながら演奏する。
4	ロマン派の弦楽合奏作品のピアノリダクション。
5	移調楽器の読み取り方。主にB管、A管をスコアリーディングする。
6	ソルフェージュの要素も加え、移調楽器（主にF管）を読み取る実習。
7	ホルンの音の重ね方を学びながらの、スコアリーディング。
8	ディアベリやクーラウのソナチネを弦楽四重奏に編曲する。
9	ディアベリやクーラウのソナチネを弦楽四重奏に編曲（ その２）
10	モーツァルト等の弦楽四重奏曲をピアノリダクションし、また原曲への復元。
11	弦楽器の扱い方を復習。
12	ピアノの作品を弦楽四重奏に編曲する。
13	それぞれのアイディアについてのディスカッション。
14	既存の弦楽四重奏曲のスコアを見ながら、弦楽器の扱い方や奏法を学ぶ。
15	これまでに習得した知識（音域、奏法等）の総復習。

授業計画	
	［後期］ 更に、オーケストレーションへの興味を深めながら、各自が二管編成のスコアを書く実習へと繋げていく。
1	シューマンのピアノ作品（こどもの情景等）を弦楽四重奏に編曲。ピアノのダンパーペダルの扱い方をみて、低音の持続音の必要性等を考える。
2	各自が書いた楽音の定着性について考える。
3	ドビュッシーのピアノ作品を用いて、オーケストラの音色を考える。ピアノ曲をオーケストレーションされた実作品も見る。
4	スコアの読み取り方を復習しながら、楽器の扱い方を学ぶ。挿入楽器についても触れる。
5	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に木管楽器群）。
6	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に金管楽器群）。
7	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に弦楽器群）。
8	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に打楽器、ハープ）。ハープのペダリングについて理解する。
9	前期に取り上げたソナチネ（クーラウやディアベリ等のピアノ曲）を二管編成の音色で考える。
10	ソナチネを二管編成にする準備。大まかな骨組みを考える。ラヴェル編の「展覧会の絵」等を写譜しながら楽器の扱い方やバランスを学ぶ。
11	ソナチネを二管編成にする準備。３つの楽器郡に分け、自由な発想を練る。ブリテンのオーケストラ作品に触れて、楽器の特性を認識する。
12	ソナチネを二管編成にする（スコアを書く）。プロコフィエフのオーケストラ作品を聞き、各自の作品を充実させる。
13	ソナチネの二管編成版を進める。サンサーンスのオーケストラ作品等を見ながら楽器の扱い方等を振り返る。
14	ソナチネの二管編成版を完成させる。
15	完成した作品を学生それぞれで、閲覧し合う。 これまでに習得した技術の見直し、確認。総まとめ。

科目名	ポピュラー奏法研究２　［水2］						
代表教員	上野山　英里	授業コード	GE197300	科目コード	GE1973	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンは１人で完結してしまえることが特徴のひとつでもあるため、アンサンブルを体験する機会が少ないのが現状。複数の人と一緒に音楽を創っていくことを通して、人とのコミュニケーションや自己表現の大切さ、楽しさを知る。
また、楽器の特性上、ひとりで沢山の音を同時に操ることが多いため、音数を減らしたシンプルな状態で、一音一音を大切にすること、鍵盤楽器の基礎的な演奏能力を身につけることを目標とする。

実際に他の楽器と共演することによって、電子オルガンのソロ演奏に還元していくことと、キーボーディストとしてセッションに参加できる力を身につけること、両方を到達目標とする。

２．授業概要

・ギター、ベース、ドラムのサポートのもと、アンサンブルを通じて様々なことを学んでいく。
・前期は主にこちらで用意した譜面を演奏しながら練習、後期は履修生自身で譜面を作って、イメージする音を形にしていくことも学習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アンサンブルを楽しむためには、ひとりひとりが個人練習・準備をしっかりしてくることが重要なので、提出した課題はもちろんのこと、積極的な予習・復習をして授業に臨んでほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、平常点、学期末試験、すべてを重要視します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中にプリントを配布。教材は随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「ポピュラー奏法研究１」を履修していることが望ましい。
・授業計画はある程度の履修人数を想定して作ってあります。実際の履修者人数によっては、計画を変更することもあります。
・使用楽器…STEGIA-01C、ピアノ（必要に応じて他楽器）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス コードプログレッション、リズム、etc..基本事項の確認（１）
2	コードプログレッション、リズム、etc..基本事項の確認（２）
3	コードプログレッション、リズム、etc..基本事項の確認（３）
4	コードプログレッション、リズム、etc..基本事項の確認（4）
5	アンサンブル実習（１）
6	アンサンブル実習（２）
7	アンサンブル実習（３）
8	アンサンブル実習（４）
9	アンサンブル実習（５）
10	アンサンブル実習（６）
11	アンサンブル実習（７）
12	アンサンブル実習（８）
13	アンサンブル実習（９）
14	アンサンブル実習（１０）
15	試験（授業内発表会）

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習等 オリジナルアレンジに挑戦するために譜面の書き方などガイド
2	作品例を演奏＆分析（1）
3	作品例を分析＆演奏（２）
4	作品例を分析＆演奏（３）
5	アンサンブル実習（１1）
6	アンサンブル実習（12）
7	アンサンブル実習（13）
8	アンサンブル実習（14）
9	アンサンブル実習（15）
10	アンサンブル実習（16）
11	アンサンブル実習（17）
12	アンサンブル実習（18）
13	アンサンブル実習（19）
14	アンサンブル実習（20）
15	試験（授業内発表会）

科目名	創作演習　[月4]						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE197600	科目コード	GE1976	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

いろいろな実作品を見ながら曲の構成、動機の展開方法等を学び、電子オルガンソロのためのオリジナル作品を仕上げる作業に役立つことを実習します。
自作自演する意味や、電子オルガンについても考える。

2．授業概要

作曲経験の有無を問わず、習作を繰り返し作ることで曲作りのプロセスを体験する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

作曲は即興演奏と全く異なるものです。要領よく短時間で作品を仕上げることは不可能です。思うように進まなくても、地道に自分の作品と向き合ってください。
時間を経て残っている作品は、ジャンルを問わず興味を持って勉強してください。必ず、創作活動の役に立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作品（音楽に限らず）から何かを感じ取ること、何かしら吸収しようとする姿勢は重要です。耳に入ってくる音楽のハーモニーを追いかけたり、何故流行っているのか？、構成を分析してみる等、五感をしっかり使うことを心掛けて下さい。

授業計画	
	［前期］ 　変奏曲を書く。 楽譜の記譜についても緻密に学ぶ。
1	ガイダンス
2	変奏曲の構造を見る
3	変奏の模倣1（倚音に注目）
4	変奏の模倣２（刺繍音に注目）
5	変奏の模倣３（経過音に注目）
6	変奏の模倣４（反行形に注目）
7	変奏の模倣５（拡大、縮小形に注目）
8	変奏曲制作１（簡単な単旋律を主題にする）
9	変奏曲制作２（非和声音を意識する）
10	変奏曲制作３（伴奏形の変化を意識する）
11	変奏曲制作4（Adagioについて考える）
12	変奏曲制作５（三連符などのリズムの変容について考える）
13	変奏曲制作6（変奏の種類、曲数、全体の流れ、バランス等の見直し
14	変奏曲制作７（音出し、記譜等の見直し）
15	作品についての考察（シャコンヌ、パッサカリアなども参考にする）

授業計画	
	［後期］ オリジナル曲を書き、自作自演につなげる。
1	自作品曲に向けての準備
2	ソナチネなどの構造を見る（簡単な分析）
3	ソナタ形式の確認
4	作品制作と添削指導1（提示部の主題について考える）
5	作品制作と添削指導2（２つの主題の特徴を考える）
6	作品制作と添削指導3（展開部の調の変遷を考える）
7	作品制作と添削指導4（再現部前の処理について）
8	作品制作と添削指導5（コーダについて）
9	作品制作の中間チェックと主に古典派のピアノソナタの考察
10	既存のソナチネの主題を用いて提示部を制作（２つの主題の調性と特徴の見直し）
11	既存のソナチネを用いて提示部を制作（移行部の処理）
12	展開部の制作（効果的な賞の変遷を試みる）
13	展開部のまとめと再現部の制作
14	形式にこだわらない自由な発想の作品制作
15	自作自演による作品発表

科目名	編曲演習　[木4]						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE197700	科目コード	GE1977	期間	通年
担当教員	岩崎　孝昭、高田　和泉、加曽利　康之						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性に、積極的に向き合う。個々の演奏者により、音楽のジャンルやスタイルも違い、それぞれ個性豊かなアレンジ法がある。クラシック、ポピュラーの分野で、現在活躍している4名のプレーヤーから、アレンジのノウハウを学ぶことにより、受講者が自由にアレンジを行えるようになることを目標とする。

2．授業概要

クラシックのアレンジ法①、②、ポピュラーのアレンジ法①、②・・・4名の教員が、それぞれのアレンジ法について、講義並びに実習を行う。
＊やむを得ず、授業計画に変更がある場合がある。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

担当の教員により、課題については異なるが、授業で学んだことは、自分の作品で試してみること。
授業を聞くだけでなく、積極的に幅広い音楽を聴くことも、同時進行すること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
平常点（課題、発表など・・・評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で随時配布。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件はないが、授業内で出される課題には、積極的に取り組んでほしい。様々なアレンジ法を習得して下さい。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス。様々な編曲法についての授業内容、進め方について。
2	編曲概論　クラシック並びにポピュラーアレンジ例を分析する。
3	編曲概論　編曲のスタイル研究　スコアの読み方
4	ポピュラー編曲法①講義（ポピュラーアレンジの基礎概論）
5	ポピュラー編曲法①講義（ポピュラーアレンジの基礎概論）
6	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングの実習
7	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングについて（2管編成）
8	ポピュラー編曲法①講義並びに実習　コードについて
9	ポピュラー編曲法①講義並びに実習　コードプログレッションについて
10	クラシック編曲法①講義と実習　弦楽合奏のアレンジ
11	クラシック編曲法①講義と実習　フルオーケストラのリダクションについて
12	ポピュラー編曲法①講義と実習　バッキングについて
13	ポピュラー編曲法①講義と実習　ベースラインについて
14	クラシック編曲法①講義と実習　フルオーケストラのリダクションについて
15	クラシック編曲法①講義と実習　授業内発表

授業計画	
	[後期]
1	ポピュラー編曲法②（ガイダンス）
2	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なポピュラーのスタイルについて
3	クラシック編曲法（ガイダンス）ピアノ譜から、弦楽合奏のスタイルにアレンジ実習。
4	クラシック編曲法②電子オルガンアレンジのアナリーゼ オーケストレーションを作曲家ごとに研究する。
5	クラシック編曲法②電子オルガンアレンジのアナリーゼ 様式やスタイルからの研究。
6	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なスタイルのアレンジについて
7	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　ポピュラーアレンジの構成について
8	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）弦楽器とソロ楽器編成のアレンジについて
9	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）オーケストレーションを考えたアレンジについて
10	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジしたものへのクリニック　形式の確認
11	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジを行ったものへのクリニック　楽譜を仕上げる。
12	クラシック編曲法②実習（ピアノの作品より）電子音を使ったアレンジ
13	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習 全体のスタイルを決め、楽譜を書く。
14	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習　仕上げの演奏。
15	まとめ並びに成果発表

科目名	電子オルガン・スタジオエレクトロニクス（１）　[木3]							
代表教員	上原　直	授業コード	GE197800	科目コード	GE1978	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

①電子オルガン・ソロ演奏の可能性を探る
YAMAHA STAGEAのさまざまな機能を音楽的に有効活用する方法を学びます。
（New STAGEA ELS-02Cの新機能、演奏表現法についても解説 / 実習します。）
②様々な音楽ジャンル(クラシック/ジャズ/ポップス等)の代表的な曲のテーマ部分の音色をSTAGEAで創り、その再現法と演奏表現法を学びます。
③電子オルガンと周辺機器
（１）YAMAHA STAGEAとコンピュータを接続し、様々な音楽シーンに対応する能力を身に付ける
（２）音楽系アプリケーション（Digital Audio Workstation、波形編集 & 楽譜浄書）の操作法を習得します。
④電子オルガン関連の学内演奏会音響スタッフを経験し、ライブでの音響設定や演奏会の進行等を学びます。

２．授業概要

授業の課題は、授業内または数日前にインターネット経由で配布されます。
（個人用コンピュータを所有していない学生は図書館のコンピュータを使用可）
学生はその課題をプリントアウトし、木曜日の授業までに実施します。
授業内で全員で課題を試聴及び演奏します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

STAGEAの取扱説明書を熟読しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）
授業内の小テスト及びレポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキストを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

電子オルガン1年生は学内での演奏会及び試験会場でのスタッフ業務が義務づけられていますので、必ず履修してください。

授業計画	
	［前期］ 電子オルガン STAGEAの様々な機能を音楽的に有効活用する方法を学びます。
1	基本的なレジストレーション ① クラシック音楽編
2	基本的なレジストレーション ② ポピュラー音楽編
3	基本的なレジストレーション ③ エレクトロミュージック編
4	STAGEA用拡張スピーカーYAMAHA MSR400+80Wとの接続 ① ソロ編
5	STAGEA用拡張スピーカーYAMAHA MSR400+80Wとの接続 ② アンサンブル編
6	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ① リバーブ・ディレイ系
7	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ② モジュレーション系
8	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ③ 複合エフェクト系
9	ELS-01C & ELS-02C ボイスエディット ① 基本編
10	ボイスエディット ②
11	ボイスエディット ③ Filterの活用法
12	ボイスエディット ④ L.F.Oやエフェクトを使ったSFX音色
13	ELS-01C & ELS-02C リズムプログラミング（基本編）
14	リズムプログラミング（様々なジャンルのリズムパターン）
15	リズムプログラミング（変拍子 & 高度なプログラミング）

授業計画	
	［後期］ 電子オルガン STAGEAと周辺機器を使用し、様々な音楽シーンに対応する能力を身に付ける
1	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ①
2	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ②
3	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ③
4	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ④
5	STAGEAとコンピュータを繋ぐ ①
6	STAGEAとコンピュータを繋ぐ ②
7	STAGEAのXG音源の有効活用法 ①
8	STAGEAのXG音源の有効活用法 ②
9	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ①
10	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ②
11	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ③
12	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ④
13	映像とシンクロした作品制作法 ①
14	映像とシンクロした作品制作法 ②
15	作品発表

科目名	電子オルガン演奏法２　［火3］							
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE198100	科目コード	GE1981	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な音楽を表現するために、電子オルガン奏法を深く研究し、音楽の表現を豊かにすることを目標とする。
演奏法１で学んだ基本的な奏法に加え、更に電子オルガンの持つ色彩豊かな音色を生かすように、それに合った奏法を掘り下げる。
演奏テクニックを学びつつ、音楽の解釈にも深く追求していく。

２．授業概要

音色（楽器）を特徴を知り、それに合った奏法を学ぶ。また、それらの楽器を様々なジャンルの音楽の中では、どのように演奏するのか、スタイルと共に学ぶ。基本的なアーティキュレーションやタッチコントロールなどについても、一層レベルの高いテクニックに導いていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で演習を行っていくことが多いが、必要に応じ、課題を与える。
授業で学んだことは、普段の個々のレパートリーで試していってほしい。

４．成績評価の方法及び基準

前期・・小テスト、後期・・授業成果コンサートで、実技の評価をする。（80%）
授業への取り組み（10%）
授業への参加姿勢（10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に随時、配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

条件などはないが、積極的な授業への参加を望む。

授業計画	
	［前期］楽器研究から学ぶ奏法
1	ガイダンス。演奏法に関する考え方、目標について。
2	アーティキュレーションの復習①課題と共にアーティキュレーションの確認。
3	アーティキュレーションの復習②（PCを使った奏法確認）
4	アーティキュレーションの復習③（PCを使った奏法確認）
5	楽器研究と奏法（パイプオルガン）レガート奏法とペダル奏法について
6	楽器研究と奏法(パイプオルガン）指使い、指かえ、同音の弾き方など、独特の奏法を学ぶ。
7	楽器研究と奏法（弦楽器）ヴァイオリンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
8	楽器研究と奏法（弦楽器）チェロの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
9	楽器研究と奏法（木管楽器）フルートの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
10	楽器研究と奏法（木管楽器）クラリネットの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
11	楽器研究と奏法（金管楽器）ホルンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
12	楽器研究と奏法（金管楽器）トランペットの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
13	楽器研究と奏法（金管楽器）トロンボーンの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
14	楽器研究と奏法（金管楽器）サックスの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
15	小テストとまとめ

授業計画	
	［後期］様々なスタイルから学ぶ奏法
1	楽器研究と奏法（打楽器）打楽器（鍵盤打楽器）の実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
2	楽器研究と奏法（ギター・ベースなど）エレキギターの実際の奏法を見て、鍵盤楽器での表現を学ぶ。
3	演奏スタイルから学ぶ奏法（クラシック）アンサンブル課題を通して学ぶ。
4	演奏スタイルから学ぶ奏法（コンボスタイル）アンサンブル課題を通して学ぶ。
5	演奏スタイルから学ぶ奏法（ロックバンドスタイル）アンサンブル課題を通して、学ぶ。
6	演奏スタイルから学ぶ奏法（カントリーバンドスタイル）アンサンブル課題を通して学ぶ。
7	演奏スタイルから学ぶ奏法（タンゴオーケストラスタイル）アンサンブル課題を通して学ぶ。
8	演奏スタイルから学ぶ奏法（ラテンビッグバンドスタイル）アンサンブル課題を通して学ぶ。
9	演奏スタイルから学ぶ奏法（ポップスオーケストラスタイル）アンサンブル課題を通して学ぶ。
10	まとめ。様々な演奏スタイルから、相違点を明確にして、まとめる。
11	成果発表コンサート企画。1年間で学んだ奏法、演奏スタイルなどから選択し、選曲をする。
12	成果発表コンサートのためのリハーサル。各自の研究テーマに合わせた楽曲を演奏をし、チェックを行う。
13	成果発表コンサートのためのリハーサル。各自の研究テーマに合わせた楽曲を演奏をし、チェックを行う。
14	成果発表コンサートゲネプロ
15	演奏会形式での発表。

科目名	指導グレードマスター講座１～４　［火4］						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE198200	科目コード	GE1982d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	EO・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を色々な角度から理解し、指導するための実力を実習を通して身につけることを目標とする。

２．授業概要

初見視唱、視奏を軸とした基礎的な読譜力のトレーニング、指導グレード取得に役立つキーボードハーモニー及び移調奏の実践、合唱編作など、指導するために必要な実力を身につけられるような内容で授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：課題を実践することに加え、より多くの時間、ピアノに触れることを心掛けて下さい。
復習：一度弾いた課題も、くり返し弾いて、自分の物にして下さい。必ず上達します。旋律を声に出して歌う事も習慣にして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

上達度、授業内のテスト（評価の６０%）
授業への参加姿勢（評価の４０%）
いずれも絶対評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：実力に応じて授業内に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習をしながら進めていく授業のため、人数が多い場合に限って、上級生及びグレード試験を受ける予定が具体的にある学生の履修を優先することがあります。
必ず「出来るようになるまで諦めずに」復習すること。
継続が力となります。
熱心に取り組むこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスとクラス分けの実力診断。
2	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート1）。 各自に合う移調方法を見つける（パート1）。
3	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート2）。 各自に合う移調方法を見つける（パート2）。アルト記号に置き換える等。
4	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート3）。 各自に合う移調方法を見つける（パート3）。テノール記号に置き換える等。
5	旋律から非和声音を除き、適切な和音を感じられる様にする。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート1）。
6	旋律から非和声音を除き、和音の連結(主に度数）を意識しながらコード付けをする（パート1）。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート2）。
7	旋律から非和声音を除き、和音の連結（主に指の配置）を意識しながらコード付けをする（パート2）。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート3）。
8	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート1）。 重音の移調奏。
9	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート2）。 簡単な3声の移調奏。
10	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート3）。 簡単な4声の移調奏。
11	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏を付ける（パート1）。 離れた調への移調奏。
12	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏をつける（パート2）。 各自の移調方法の確認、見直し。
13	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏を付ける（パート3）。 移調楽器を読みながら、移調方法を確認する。
14	ピアノ連弾の楽曲を用いて、初見視奏の練習をする。 同時に和音の進行も学ぶ。
15	これまでに、習得したテクニックの見直し。 総復習。

授業計画	
	［後期］
1	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート１）。 各自の移調方法の確認と見直し。
2	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート２）。 移調方法の定着（パート１）。
3	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート３）。 移調方法の定着（パート２）。
4	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート１）。 重音の移調を確実にする。
5	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート２）。 3声体の移調を確実にする。
6	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート３）。 ４声体の移調。
7	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート１）。 特に拍子を意識する。 移調楽器の読み替えを参考にして、移調する。
8	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート２）。 ハ音記号等の読み方を反映させた移調奏（パート１）。 主にアルト記号とテノール記号を用いる。
9	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート３）。 ハ音記号等の読み方を反映させた移調奏（パート２）。 主にソプラノ記号、メゾソプラノ記号を用いる。
10	ピアノのペダリングに注意しながら、適切な和音と、旋律の持つ性格を活かす伴奏型をつける（パート１）。 離れた調への移調（パート１）。アルト譜表で旋律聴音を試みる。
11	ピアノのペダリングに注意しながら、適切な和音と、旋律の持つ性格を活かす伴奏型をつける（パート２）。 離れた調への移調（パート２）。テノール譜表で旋律聴音を試みる。
12	多声作品を用いての弾き歌い（パート１）。 和音度を意識した移調奏（パート１）。
13	コードネームを意識しながら多声作品を用いての弾き歌い（パート２）。 和音度を意識した移調奏（パート２）。
14	ピアノ連弾作品を用いて、初見力を強化する。 移調方法の完全な定着。
15	習得したテクニックの総復習。

科目名	演奏グレードマスター講座１～４　［水2］						
代表教員	岡田　久常	授業コード	GE198600	科目コード	GE1986d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏グレード5級・4級を取得するために必要な即興演奏能力を獲得することを目標とする。

２．授業概要

コード進行トレーニングと即興演奏課題実習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

16小節のコード進行表（長調・短調）をもとに伴奏付け、メロディーのせを全調で行うトレーニングを継続的に練習すること。
グレード即興課題を熟考してまとめること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
実力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示をする

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来的にグレード取得の必要性を感じている者の履修を希望する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	コードトレーニング 長調①
3	コードトレーニング 長調②
4	コードトレーニング 短調①
5	コードトレーニング 短調②
6	コードトレーニング 全調
7	5級 B即興①
8	5級 B即興②
9	5級 B即興③
10	5級 A即興①
11	5級 A即興②
12	5級 A即興③
13	模擬テスト①
14	模擬テスト②
15	まとめ

授業計画	
	［後期］
1	コードトレーニング 長調①
2	コードトレーニング 長調②
3	コードトレーニング 短調①
4	コードトレーニング 短調②
5	コードトレーニング 全調①
6	コードトレーニング 全調②
7	4級 B即興①
8	4級 B即興②
9	4級 B即興③
10	4級 A即興①
11	4級 A即興②
12	4級 A即興③
13	模擬テスト①
14	模擬テスト②
15	まとめ

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞ Ⅱ (5Saxes)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ4 （前） ［木4］						
代表教員	松本　治	授業コード	GE204300	科目コード	GE2043	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的な５パート・ライティング、ソリ・ライティングについて学ぶ（５サックス）

２．授業概要

「ホーン・アレンジI（２～４Ｖｏｉｃｅｓ）」で学んだ４パート・ライティングから発展し５パート・ライティングについて学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題提出とファイナル・プロジェクトの制作

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）
ファイナル・プロジェクト（評価の５０%）
＊規定数の出席と全課題の提出が必須条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて随時提供

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スーパーサックス等の中編成による作品を聴きましょう

授業計画	
	［半期］ 「ホーン・アレンジI（２～４Ｖｏｉｃｅｓ）」で学んだ４パート・ライティングの復習から５パート・スプレッド・ヴォイシングまでを、アプローチ・テクニックを含むソリ・ライティングに応用する方法を学んでいく
1	４パート・ライティングの復習
2	ダブルリードを使った５パート・ライティング
3	異なる５声による５パート・ヴォイシング
4	異なる５声による５パート・ヴォイシング、課題のチェック
5	アプローチ・ノートのリハモナイゼーション
6	アプローチ・ノートのリハモナイゼーション、課題のチェック
7	５声のスプレッド・ヴォイシング
8	５声のスプレッド・ヴォイシング、課題のチェック
9	ドロップ２を使った５パート・サックス・ソリのアナライズ
10	ソリ・メロディーの作成
11	メロディーのアナライズ
12	メロディーをドロップ２、スプレッド・ヴォイシング等の方法を使ってヴォイシング
13	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
14	スコアチェック
15	ファイナル・プロジェクトの音出しと解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞ Ⅲ(6~8Brass)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ5 （後） ［木3］						
代表教員	松本　治	授業コード	GE204400	科目コード	GE2044	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードスケール・ヴォイシング等を使って大編成に対応するライティング・テクニックを身につける

２．授業概要

４ｔｈ・ヴォイシング、クラスター・ヴォイシング、アッパーストラクチャー・ヴォイシング等を使った６－８パート・ライティングを学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題提出、６パート・ライティングのスコア作成、ファイナル・プロジェクトのスコア作成

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
課題提出（評価の30%）
ファイナル・プロジェクトの音出し（評価の４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時提供

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 今まで勉強したヴォイシング法に加えてコードスケール・ヴォイシングを学び、様々なヴォイシング法によるライティングを学ぶ
1	コードスケールを考える（キーボードを使って）
2	コードスケールを考える（論理的考察）
3	フォース・インターバル・ビルド（4way）
4	フォース・インターバル・ビルド（5way）
5	フォース・インターバル・ビルド（3way）
6	クラスター・ヴォイシング（4way）
7	クラスター・ヴォイシング（5way）
8	クラスター・ヴォイシング（3way）
9	アッパー・ストラクチャー・トライアドヴォイシング（5way）
10	様々な方法を使ってメロディーをヴォイシングしてみる
11	６パート・ライティングの方法
12	６パート・ライティングを様々なヴォイシング法で試してみる
13	８パートライティングの方法
14	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
15	スコアチェック

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－１　（前）［金4］						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE231500	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員	小林　瑶子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて前期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業での説明後に購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
1	ガイダンス（受講する際の服装・バレエレッスンの流れ・バレエ基礎の説明など）
2	ストレッチ バレエの基礎　正しい姿勢
3	ストレッチ バレエの基礎　柔軟性
4	ストレッチ バレエの基礎　呼吸
5	ストレッチ バレエの基礎　足のポジション
6	ストレッチ バレエの基礎　手のポジション
7	ストレッチ バレエの基礎 バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
8	ストレッチ バレエの基礎 バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
9	ストレッチ バレエの基礎と応用
10	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習①　首・顔の位置
11	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習②　目線
12	ストレッチ バレエの基礎と応用 マイム 音楽に合わせた振り付けの練習③　表現力
13	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習④　音楽性
14	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習⑤　空間の使い方
15	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習⑥　まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－１　（前）［金1］（AS専用）Aクラス						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE2315A0	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］前期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－１　（前）　[金1]　（AS専用）Bクラス						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE2315B0	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員	安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］前期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－１　（前）［月4］フラメンコ（DC専用）						
代表教員	やの　ちえみ	授業コード	GE2315CO	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体の動きや振付の復習、資料映像の視聴

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%　授業への参加態度(自ら積極的に踊ろうという意欲があるか、疑問点については質問をし解決する努力が感じられるか等)を評価の対象とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は必要に応じて適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

体のラインがわかりやすいウェア着用のこと(レオタード、スパッツなど。Tシャツ、ジャージ等は体にフィットしているもの)、靴(女性はヒールのあるパンプス状のもの、男性はできればかかとのある靴。フラメンコ靴でなくてよい。フラメンコ靴であれば釘なしもしくは釘の部分を覆う)、タオル、飲み物、筆記用具等。

授業計画	
1	オリエンテーション、フラメンコの概要説明
2	正しい立ち方、足の打ち方、上半身(腕、手のひら)の使い方、ジャマーダ(合図)とマルカールの理解
3	上半身の使い方、足の打ち方、タンゴ①振付、レマーテ(合図)の理解
4	上半身の使い方、足の打ち方、タンゴ①振付
5	上半身の使い方、足の打ち方(タンゴのリズムバリエーション)、タンゴ②振付
6	足の打ち方(タンゴのリズムバリエーション)、腰の動かし方、タンゴ①②まとめ
7	足の打ち方(ブレリアのリズムバリエーション)、ジャマーダとマルカールの理解
8	足の打ち方(ブレリアのリズムバリエーション)、ブレリア①振付、レマーテの理解
9	上半身の使い方、ブレリア①、②振付
10	ブレリア②振付
11	セビジャーナス①振付
12	タンゴ①、②復習
13	ブレリア①、②復習
14	タンゴ①、②、ブレリア①、②、セビジャーナス①復習
15	タンゴ、ブレリア、セビジャーナスのまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－２　（後）［水4］							
代表教員	花柳　珂穂月	授業コード	GE231600	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・MS・BL・AS・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
着物を着ての立ち居振舞いを通じて日本古来の文化に親しむ。古典舞踊一演目を習得する。
【目標】
（１）着物の着方を習得する。
（２）基本的な所作を習得する。
（３）和用小道具の使い方を習得する。
（４）舞台上での表現力を習得する。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
着付が出来たら、あいさつの後、前回の授業で学習した歩き方など基本の動作、課題の演目を復習し、新しい振りの説明・実践をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

街の中や、TVなどで和服の人を見たら、着こなし等を注意する。普段の生活から自分の姿勢を意識する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
平常点（授業内のテスト）（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業形態が主として実技であるから、テキストまたはそれに準じるものは原則として使用しない。ただし、講義内容に応じて必要があれば適宜プリント類を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）浴衣一式（足袋、浴衣、帯、ひも）が用意できることが望ましい。
（２）自国の文化を理解することは、活躍せんとする分野を問わず大切なことです。日本人であることが自分の武器であると思えるように、好奇心や向上心を持って日本の文化を体で覚えて下さい。

授業計画	
	［半期］
1	着物の着方①（説明・実践） 立ち方・坐り方・歩き方・あいさつ①(基礎、練習)
2	着物の着方②(実践、定着) 立ち方・坐り方・歩き方・あいさつ②(実践、定着) 課題曲の練習①(導入部、実践)
3	着物の着方③(まとめ) 課題曲の練習②(リズム部分、実践)
4	基本の動き①(女性の歩き方) 課題曲の練習③(目線の基本、実践)
5	基本の動き②(役ごとの歩き方) 課題曲の練習④(パントマイム的な要素、実践)
6	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）①(歌詞の説明、扇の使い方基本) 課題曲の練習⑤(冬の情景導入部、実践)
7	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）②(扇の使い方応用) 課題曲の練習⑥(冬の情景、実践)
8	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）③(歌いながら踊る 前半) 課題曲の練習⑦(リズム部分②、実践)
9	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）④(歌いながら踊る 後半) 課題曲の練習⑧(終焉部前半、実践)
10	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）⑤(まとめ) 課題曲の練習⑨(終焉部後半)
11	扇以外の小道具(説明) 課題曲の練習⑩(基本の動きから表現のための動きへ)
12	課題曲の練習⑪(日本舞踊らしい動き 基礎)
13	課題曲発表のためのまとめ①(日本舞踊らしい動き 応用)
14	課題曲発表のためのまとめ②(単独で踊る練習)
15	課題曲の発表（試験）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－２　（後）［金1］（AS専用）Aクラス						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE2316A0	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］後期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－２　（後）［金1］（AS専用）Bクラス						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE2316BO	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員	安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］後期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス１－２　（後）［月4］タップダンス（DC専用）						
代表教員	三寺　郷美	授業コード	GE2316CO	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎ステップ習得。タップダンスを通じて重心移動、タイミング、リズム、音色を追求することにより、自身の身体を細部までコントロールする意識と力を養う。視覚、聴覚ともに楽しめる踊りであることを自覚しタップダンスへの理解を深める。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
ウォームアップ（5分）
基礎ステップ（30分）
リズムトレーニング（15分）
振り付け（35分）
クールダウン（5分）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、ステップ、リズムトレーニングの復習
イメージトレーニング
課題曲を聴きステップの流れをつかむ

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（タップダンスの理解度、課題曲の完成度等で総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ミュージカル映画、その他舞台、世界大会DVDなど

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装（スカート、ジーンズ不可）、ヒールの太い革靴またはスニーカー（すでにタップシューズを所持者は申し出ること）、タオル、飲み物、筆記用具を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
1	・ガイダンス ・基本ポジションの確認（姿勢づくり、筋力づくり） ・タップダンスとは？～視覚、聴覚両方からのアプローチ～
2	・響く音を出すには？足の裏、膝、腰、体幹、全身を一体化するトレーニング ・リズムトレーニング（マーチ）
3	・次の動作へつなげるためには？円をイメージして身体を動かすトレーニング①（音の形） ・リズムトレーニング（マーチ）
4	・次の動作へつなげるためには？円をイメージして身体を動かすトレーニング②（音の方向） ・リズムトレーニング（ワルツ）
5	・次の動作へつなげるためには？円をイメージして身体を動かすトレーニング③（全身を使った音作り） ・リズムトレーニング（ワルツ）
6	・素早く動くために必要なこととは？①（体幹引き上げと重心移動） ・リズムトレーニング（スウィング）
7	・素早く動くために必要なこととは？②（「間」を考える。「止まる」があるから「動く」が生きる） ・リズムトレーニング（スウィング）
8	・基礎ステップ応用①（同じリズムで違うステップ） ・リズムトレーニング（ロック）
9	・基礎ステップ応用②（同じステップで違うリズム） ・リズムトレーニング（ロック） ・課題曲振り付け①～曲の構成を知る～
10	・基礎ステップ応用③（即興） ・課題曲振り付け②～ゆっくり丁寧にステップを踏む～
11	・課題曲振り付け③～インテンポで踏む～
12	・課題曲振り付け④～ステップの複雑化～
13	・課題曲振り付け⑤～上半身の動きと方向転換～
14	・課題曲振り付け⑥～総合力と表現力～
15	・課題曲発表、まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス２ - １ （前） ［月3］						
代表教員	打越　麗子	授業コード	GE231700	科目コード	GE2317	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・BL・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストレッチを通してしなやかな体作り、基本姿勢の認識。
ダンスの基本的なルーティンから、筋肉の柔軟性や持久・瞬発性の両面からトレーニングし、関節の可動範囲を広げ、体の開発、開放を行う。ダンスコンビネーションでは、４ビート系のオーソドックスなスタイルから、ヴォードビルやミュージカルなどのシアター・ダンスでリズム感や、バランス感覚、またグループの中で動くフォーメーション感覚を養います。
ジャズ・ダンス、シアター・ダンスの歴史や培われてきたスタイルについても考察を加えながら、舞台人としての姿勢（心身両面）と表現力（舞台の歩き方や効果的な顔や体の見せ方等）の向上を目指した実践的でわかりやすいレッスンを展開します。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
ウォームアップ インナーマッスルトレーニング（３０分）
クロスフロア（１５分）
振り付け（４５分）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、体の動きの復習
イメージトレーニング

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、体のラインがわかり易いウェア（例:レオタード、スパッツ等。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（ジャズ・シューズ、ダンスヒール）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［半期］
1	・オリエンテーション ・クラス紹介
2	・呼吸法からストレッチ ・自分の姿勢を認識・修正 ・姿勢づくりのトレーニング
3	・ストレッチ ・筋力トレーニング ・基本姿勢からの正しいウォーキング
4	・ストレッチからクロスフロア ・筋力トレーニング ・クロスフロアなどで基本的なステップを使い、音と体をなじませる
5	・ストレッチからクロスフロア ・簡単なダンスのステップ（キックや上半身のダイナミックな動き）
6	・ストレッチからクロスフロア ・音楽に合わせた振付を覚える。またそれを通して多様な体づかいの認識
7	・ストレッチからクロスフロア ・振付に加えフォーメーションを作り舞台上での感覚を養う
8	・ストレッチからクロスフロア ・ペアダンスを学ぶ
9	・ストレッチからクロスフロア ・ペアダンスを学ぶ
10	・ストレッチからクロスフロア ・ラインダンス等で他人との距離やラインの感覚を学ぶ
11	・ストレッチからクロスフロア ・歌いながらダンスをする
12	・ストレッチからクロスフロア ・試験のための振り付け
13	・ストレッチからクロスフロア ・つけられた振りを習得
14	・ストレッチからクロスフロア ・まとめ
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス２－２　（後）［木2］						
代表教員	池村　太郎	授業コード	GE231800	科目コード	GE2318	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・MS・BL・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

舞台でも社交としても、ダンスは姿勢と歩き方が最も重要であります。
以前、外国では子どもたちに辞書のような重い本を頭上に乗せて良い姿勢で歩かせていたそうですが、現在は殆どの学校でマナーやエチケットと共に楽しみながらダンスで自然に身に付けさせている所が多いのです。
易しく楽しいダンスを学ぶことによって優雅で活動的な動き、リズミカルな音楽に合った身体の動作が自然と身に付きます。また、将来外国に行った時などでも、自信を持って舞踏会やパーティに出席することが出来ましょう。ダンスも世界の共通語です。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。生徒の進捗状況に応じて多少の変更あり。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習ったウォーキングを日頃から気をつけて歩いてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）
但し、授業への参加姿勢についても評価に含む。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修人数の制限（３０名以内）があります。
服装はなるべく動きやすいものが良いでしょう。
ダンスシューズ（女子はヒールが５～７センチ程度のパンプス）が必要です。
購入方法が分からない方は、第１回目の授業でご紹介いたします。

授業計画	
	［半期］
1	マンボ：ソシアルダンスの導入としてペアと踊る事を目的としてます。
2	スクエアルンバ：揃えた足の中での体重の乗換えを目的。
3	ジルバI：パーティダンスで必ず踊る種目、シンプルなリズムの習得。
4	ジルバII：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
5	ワルツI：ベースとなるステップの習得。
6	ワルツII：前回の続きを合わせて、複雑なステップの習得。
7	ワルツIII：ステップ習得と合わせて、体≪スウェイ≫、足≪フットワーク≫、脚≪ライズアンドフォール≫の説明
8	ルンバI：ベースとなるステップの習得。
9	ルンバII：前回の続きと合わせて、複雑なステップの習得。
10	ルンバIII：ステップ習得と合わせて、体≪クカラチャ≫、足≪フットワーク≫の説明。
11	タンゴI：ベースとなるステップの習得。
12	タンゴII：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
13	チャチャチャI：ベースとなるステップの習得。
14	チャチャチャII：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
15	まとめ：全種目の復習。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	シアターダンス２ - ２ （後） ［火2］ フラメンコ（BL専用）						
代表教員	アントニオ　アロンソ	授業コード	GE2318A0	科目コード	GE2318	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指すすと共に、学んだすべての素材をクラシックバレエのドン・キホーテ、カルメンなどで応用出来ることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)の使い方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体の動きや振付の復習
資料映像の視聴

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は必要に応じて適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装 靴はキャラクターシューズを使用する。
ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)を使用の折には事前に指示する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション、フラメンコの概要説明 。最初の手と腕の動き
2	正しい立ち方、上半身(腕、手のひら)の技法
3	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)の習得
4	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きのコンビネーション
5	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)の使い方
6	マントン(三角形のショール)のテクニック、使い方
7	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動き
8	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーション
9	セビジャーナス ①振付
10	セビジャーナス ②振付(習熟度によりパリージョとのコンビネーション)
11	セビジャーナス・ボレロとの対比 振付
12	タンゴス 振付
13	ブレリアス 振付
14	セビジャーナス、タンゴス、ブレリアス 復習
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	声楽基礎演習I - 1 ［月3］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235100	科目コード	GE2351	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

声楽家として必要な基礎科目全般にわたって演習をするため、毎回の授業に必ず出席すること。
この授業は、自分の将来を見つめて、声楽を専門とする分野、進路を決定するための重要な授業である。
「声楽基礎演習I - 2」も必ず履修すること。
2年次に開講される「声楽基礎演習II - 1」および「声楽基礎演習II - 2」に継続していくこと。

2．授業概要

「声楽基礎演習I - 2」とあわせて、年間60コマの授業を、リズムソルフェージュ、舞台表現基礎、ボディ・マッピング、アクティング、ディクション（伊・独）、歌曲演習（伊・独）、レパートリー声楽史、シアトリカルリーディング、アンサンブル演習、等をそれぞれの専門の教員の指導により演習してする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、それぞれの内容での習熟度を成績評価の目安とするが、
必要な場合は授業内での発表、小試験を行う場合もある。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

ディクション(イタリア語)、イタリア歌曲演習では全音楽譜出版社のイタリア歌曲集1を持参する事。
授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「声楽基礎演習I - 2」も必ず履修すること。
ボディマッピング、舞台表現基礎、アクティング等は動きやすい服装、靴で参加すること。
授業担当講師より指示がある。
ボディ・マッピングでは「ひめトレ」という道具を使用するので、ドミナントで購入すること。

授業計画	
	［前期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	オリエンテーション　&イントロダクション(塩田美奈子)
2	リズムソルフェージュ２ 音符と休符 （石井喜久子）
3	リズムソルフェージュ４ ボディパーカッションを用いて (石井喜久子)
4	舞台表現基礎１ 舞台上の立ち居振る舞い～舞台の決まり （境　信博）
5	ボディ・マッピング１ ボディ・マッピングの活用法 (長井芽乃)
6	舞台表現基礎４ 舞台上の立ち居振る舞い～ダンス （境 信博）
7	ボディ・マッピング２ 良い姿勢・悪い姿勢 （身体上の6つのバランスポイント） (長井芽乃)
8	舞台表現基礎７ 舞台メイク講習 （塩田美奈子）
9	ボディ・マッピング3 身体のリセット法 (長井芽乃)
10	ディクション（イタリア語)1 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 イタリア語の発音を学ぶ （Flavio Parisi、柳澤涼子）
11	ボディ・マッピング４ 発声・発音・顎関節 (長井芽乃)
12	ディクション（イタリア語)2 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 歌唱におけるイタリア語の発音 （Flavio Parisi、柳澤涼子）
13	ボディ・マッピング５ 呼吸の真実 (長井芽乃)
14	レパートリー声楽史１ オペラの誕生～バロックオペラ （高田正人）
15	レパートリー声楽史３ ベルカントオペラ (高田正人)

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	イントロダクション （甲斐栄次郎）
2	レパートリー声楽史4 ロマン派のオペラ イタリア①(ヴェルディ) （高田正人）
3	シアトリカルリーディング１ 朗読の基礎表現 （塩田美奈子）
4	シアトリカルリーディング２ オペラのリブレットを読む （塩田美奈子）
5	レパートリー声楽史5 ロマン派のオペラ イタリア②(プッチーニ) （高田正人）
6	ボディ・マッピング６ コアコンディショニング① 呼吸の支えコアを整える （長井芽乃）
7	ボディマッピング７ 日常生活での意識改革 （長井芽乃）
8	アンサンブル演習４ 猫の2重唱 （増田のり子）
9	ボディ・マッピング８ コアコンディショニング② 動きの安定はコアと体軸 （長井芽乃）
10	アクティング２ 戯曲の構造と読解法 （北澤秀人）
11	アクティング３ QUESTION & ANSWERS （北澤秀人）
12	レパートリー声楽史６ ロマン派のオペラ ドイツ(ワーグナー) （高田正人）
13	レパートリー声楽史７ ヴェリズモオペラ （高田正人）
14	ディクション（イタリア語)3 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 まとめ （Flavio Parisi、柳澤涼子）
15	レパートリー声楽史８ ロマン派のオペラ フランス （高田正人）

科目名	声楽基礎演習Ⅰ－２　［金3］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235200	科目コード	GE2352	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習Ⅰ-1」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽家として必要な科目全般にわたっての基礎演習をするため、毎回の授業には必ず出席すること。
自分の将来を見つめて、声楽の専門分野、進路を決定するための重要な授業である。
　「声楽基礎演習Ⅰ－１」も必ず履修すること。
　２年次に開講される「声楽基礎演習ⅠⅠ－１」および「声楽基礎演習ⅠⅠ－２」に継続していくこと。

２．授業概要

「声楽基礎演習Ⅰ－１」とあわせて、年間６０コマの授業を、リズムソルフェージュ、舞台表現基礎、ボディ・マッピング、アクティング、ディクション（伊・独）、歌曲演習（伊・独）、レパートリー声楽史、シアトリカルリーディング、アンサンブル演習をそれぞれの専門の教員が担当して、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習の内容習熟度を基準とするが、
各科目内で必要に応じて小テストを実施する場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ディクション(イタリア語)、イタリア歌曲演習では全音楽譜出版社のイタリア歌曲集1を持参する事。
授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
リズムソルフェージュ、舞台表現基礎は動きやすい服装、靴など担当教員より指示がある。

授業計画	
	［前期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	リズムソルフェージュ１ 拍子・リズムの基礎 （石井喜久子）
2	リズムソルフェージュ３ 様々なリズムの考察 （石井喜久子）
3	リズムソルフェージュ５ 発表・まとめ （石井喜久子）
4	舞台表現基礎２ 舞台上の立ち居振る舞い～ウォーキング （塩田美奈子）
5	舞台表現基礎３ 舞台上の立ち居振る舞い～表現するという事 （境　信博）
6	舞台表現基礎５ 音楽と動きの表現の融合 （境　信博）
7	舞台表現基礎６ 音楽と動きの表現の実践 （境　信博）
8	舞台表現基礎８ まとめ （境　信博）
9	イタリア歌曲演習１ Caro mio benを課題として歌唱発語を学ぶ （柳澤涼子）
10	イタリア歌曲演習２ Caro mio benを課題として 歌唱発語とレガート唱法を学ぶ （柳澤涼子）
11	イタリア歌曲演習３ Sento nel core / Sebben crudeleを課題として 歌唱発語を学ぶ （柳澤涼子）
12	イタリア歌曲演習４ Vittoria,mio core / Vergin,tutto amorを課題として歌唱発語を学ぶ （柳澤涼子）
13	イタリア歌曲演習５ 5曲の復習 （柳澤涼子）
14	イタリア歌曲演習６ まとめ （柳澤涼子）
15	レパートリー声楽史２ 古典派のオペラ(モーツァルト) （高田正人）

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	ドイツ歌曲演習＆ディクション１ 詩と音楽が融合した歌曲の魅力を学ぶと共に、詩と音楽が融合した歌曲の魅力とその演奏法を学ぶ （飯田千夏、Klaus Rüger）
2	ドイツ歌曲演習&ディクション２ 有節歌曲:Heidenröslein(H.Werner) （飯田千夏、Klaus Rüger）
3	ドイツ歌曲演習&ディクション３ 有節歌曲:Heidenröslein(F.Schubert) （飯田千夏、Klaus Rüger）
4	ドイツ歌曲演習&ディクション４ 通作歌曲:Das Veilchen(W.A.Mozart) （飯田千夏、Klaus Rüger）
5	ドイツ歌曲演習&ディクション５ まとめ （飯田千夏、Klaus Rüger）
6	シアトリカルリーディング３ まとめ （塩田美奈子）
7	アンサンブル演習１ 日本語の作品:早春賦、花、ほか （増田のり子）
8	アンサンブル演習２ 讃美歌：312 、430ほか、クリスマス曲 （増田のり子）
9	アンサンブル演習３ ラテン語の作品：Ave verum corpus （紙谷弘子）
10	アンサンブル演習５ 英語の作品　：ハレルヤ （紙谷弘子）
11	アクティング１ 俳優の5つの道具 「人間楽器」に関する基本概念 （北澤秀人）
12	アクティング４ I DO テクニックの実践 （北澤秀人）
13	イタリア歌曲演習 7 自選のイタリア歌曲を課題として 歌唱イタリア語の母音と子音について （柳澤涼子）
14	イタリア歌曲演習 8 自選のイタリア歌曲を課題として 歌唱イタリア語の呼吸と母音の関係について （柳澤涼子）
15	イタリア歌曲演習 9 自選のイタリア歌曲を課題として 歌唱イタリア語の母音と響きについて （柳澤涼子）

科目名	声楽基礎演習II - １　[火3]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235300	科目コード	GE2353	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習I - ２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次での「声楽基礎演習I - １・I - ２」で履修したことを基に、更に声楽コース必須科目全般にわたっての基礎演習をし、
自分の将来、目標を見つめて、専門分野のスキル向上のための授業である。
「声楽基礎演習II - ２」も必ず履修すること。

２．授業概要

「声楽基礎演習II - ２」とあわせて、年間６０コマの授業を、舞台表現基礎、作品分析演奏法研究、第九を学ぶ、ボディ・マッピング、アクティング、ディクション、歌曲演習、シアトリカルリーディング、レパートリー演習等を、それぞれの専門の教員が担当する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習内容習熟度を基準に評価をするが、
それぞれの科目の中で必要に応じて、発表会・小テストなどを行う場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
舞台表現基礎、ボディ・マッピング、アクティングは動きやすい服装、靴など講師より指示がある。
ボディ・マッピングでは「ひめトレ」という道具を使用するため、ドミナントで購入すること。

授業計画	
	前期 授業の進み方により曲目などの変更有
1	第九を学ぶ① Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125 作曲家について （冨平恭平）
2	舞台表現基礎① 舞台上の立ち居振る舞い～舞台の決まり （境　信博）
3	舞台表現基礎③ 舞台上の立ち居振る舞い～ウォーキング （塩田美奈子）
4	作品分析演奏法研究１（歌曲作品） R.シューマン：女の愛と生涯（抜粋） 中田喜直：さくら横ちょう (山田武彦)
5	第九を学ぶ⑤ Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125 まとめ （冨平恭平）
6	舞台表現基礎④ 舞台上の立ち居振る舞い～ダンス （境　信博）
7	舞台表現基礎⑤ 音楽と動きの表現の融合 （境　信博）
8	舞台表現基礎⑥ 音楽と動きの表現の実践 （境　信博）
9	舞台表現基礎⑦ 舞台メイク講習 （塩田美奈子）
10	舞台表現基礎⑧ まとめ （境　信博）
11	作品研究１ イタリアの作曲家・作品を知る (蔵野蘭子)
12	ドイツ歌曲演習１口 ドイツ歌曲の魅力を学ぶ Erlkönig (馬場由香)
13	ドイツ歌曲演習２口 Erlkönig / Sprecher (馬場由香)
14	ドイツ歌曲演習３ Erlkönig / Vater (馬場由香)
15	ドイツ歌曲演習４ Erlkönig / Kind (馬場由香)

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	日本歌曲演習１ 日本歌曲を味わい、演奏と研究への導入とする。 愛唱歌を歌う 夏の思い出（中田喜直）他 （二見忍）
2	アクティング１ 演技の“間” （北澤秀人）
3	アクティング２ 聞くことと話すこと （北澤秀人）
4	アクティング３ 俳優の創造的選択 （北澤秀人）
5	アクティング４ 俳優のリソースとトレーニング （北澤秀人）
6	アクティング５ 脚本分析 （北澤秀人）
7	シアトリカルリーディング① 朗読の基礎表現 （塩田美奈子）
8	ボディ・マッピング１ 発声のためのボディ・マッピング （長井芽乃）
9	ボディ・マッピング２口 発声のためのコアコンディショニング （長井芽乃）
10	シアトリカルリーディング④ 台本を読む （塩田美奈子）
11	ボディ・マッピング3 実際に歌唱に活かせるボディ・マッピング （長井芽乃）
12	レパートリー演習① モーツァルトのオペラについて （服部容子）
13	ボディ・マッピング４ 実践と応用 （長井芽乃）
14	レパートリー演習④ イタリア語歌唱のドラマと音楽の融合の実践１ （服部容子）
15	ディクション3（フランス語） フランス歌曲の詩を読む まとめ （Catherine Sublime）

科目名	声楽基礎演習II - ２　[火4]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235400	科目コード	GE2354	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習II - １」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次の「声楽基礎演習I - １・I - ２」で履修したことを基に、更に声楽全般にわたっての基礎演習をし、
自分の将来、目標を見つめて専門分野のスキルアップのための授業である。
「声楽基礎演習II - １」も必ず履修すること。

２．授業概要

「声楽基礎演習II - １」とあわせて、年間６０コマの授業を、舞台表現基礎、作品分析演奏法研究、第九を学ぶ、ボディ・マッピング、アクティング、ディクション、歌曲演習、シアトリカルリーディング、レパートリー演習等を、それぞれの専門の教員が担当する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習内容の習熟度を基準とするが、
各科目内で必要に応じて小テストを行う場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
舞台表現基礎、ボディマッピング、アクティングは動きやすい服装、靴など担当教員より指示がある。
ボディマッピングでは「ひめトレ」という道具を使用するので、ドミナントで購入すること。

授業計画	
	前期 授業の進み方のより曲目など変更有
1	第九を学ぶ② Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125 合唱部分の考察 （冨平恭平）
2	舞台表現基礎② 舞台上の動きを学ぶ （境　信博）
3	第九を学ぶ③ Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125 パート別音楽稽古 （冨平恭平）
4	第九を学ぶ④ Beethoven Sinfonie Nr.9 d-moll op.125 全体稽古 （冨平恭平）
5	イタリア歌曲演習＆ディクション1 Belliniを課題として① 発語と歌唱 (柳澤涼子、Flavio Parisi)
6	作品分析演奏法研究2 （オペラ作品） W.A.モーツァルト：ドン・ジョバンニ（第１幕抜粋） G.ヴェルディ：椿姫（第２幕抜粋） (山田武彦)
7	イタリア歌曲演習＆ディクション2 Belliniを課題として② レガートについて (柳澤涼子、Flavio Parisi)
8	イタリア歌曲演習＆ディクション3 Rossiniを課題として 発語と歌唱 (柳澤涼子、Flavio Parisi)
9	イタリア歌曲演習＆ディクション4 Donizettiを課題として 発語と歌唱 (柳澤涼子、Flavio Parisi)
10	イタリア歌曲演習＆ディクション5 ロマン初期におけるイタリア歌曲の成り立ちを考える まとめ (柳澤涼子、Flavio Parisi)
11	作品研究２ ドイツの作曲家・作品を知る (蔵野蘭子)
12	ディクション１（ドイツ語）□ ドイツ歌曲の発音・発語を学ぶ Erlkönig (Klaus Rüger)
13	ディクション２（ドイツ語）□ Erlkönig / Sprecher (Klaus Rüger)
14	ディクション３（ドイツ語）□ Erlkönig / Vater (Klaus Rüger)
15	ディクション４（ドイツ語）□ Erlkönig / Kind (Klaus Rüger)

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目など変更有
1	日本歌曲演習２□ 日本歌曲の成り立ちと唱歌 ふるさと他 (二見忍)
2	日本歌曲演習3 詩を味わう 荒城の月 他 (二見忍)
3	フランス歌曲演習１□ Ah vous dirai-je, maman / Les Champs-élysées (神谷明美)
4	フランス歌曲演習２□ J' ai perdu le do de ma Clarinett / Viens, les gazons sont verts(Ch. Gounod) (神谷明美)
5	フランス歌曲演習３□ Après un rêve (G. Fauré) / Le réveil de la mariée(M. Ravel)□ (神谷明美)
6	フランス歌曲演習４□ Cantique de Jean Racine(G. Fauré) (神谷明美)
7	フランス歌曲演習５□ まとめ (神谷明美)
8	シアトリカルリーディング2 オペラのリブレットを読む①モーツァルト (塩田美奈子)
9	シアトリカルリーディング3 オペラのリブレットを読む②原語との比較 (塩田美奈子)
10	日本歌曲演習4 日本歌曲の特徴 この道 他 (二見忍)
11	ディクション(フランス)1 フランス語の発音 (Catherine Sublime)
12	レパートリー演習２ モーツァルトのオペラのレチテティーヴォ・セッコを学ぶ （服部容子）
13	レパートリー演習３ モーツァルトのオペラの考察 （服部容子）
14	レパートリー演習5 イタリア語歌唱のドラマと音楽の融合の実践２ (服部容子)
15	ディクション(フランス)2 フランス歌曲における発音 (Catherine Sublime)

科目名	詩の解釈　[月4]						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE235500	科目コード	GE2355	期間	通年
担当教員	パリージ　フラビオ、塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

前期：イタリア歌曲の詩を理解することにより、歌唱表現の向上を目指す。
後期：ドイツ歌曲の歌唱表現を深めるために、詩に含まれる音楽的諸要素（リズム・フレーズ・テンポ等）と詩人の想いとの関連を意識しながら詩を朗読することが主たる目標である。そのために、ゲーテ・ハイネの詩を中心とした楽曲を教材とし、ドイツ歌曲を芸術的に表現できるよう基盤をつくる。

2．授業概要

前期：Dante Alighieri、Francesco Petrarca、Lodovico Ariosto、Lorenzo Da ponte、などの詩から作品を選び、イタリア語のディクションの発音指導と共に詩のつくり、歴史と背景を深く考察する。
後期：授業は以下３点に重点を置いて進める。
①ドイツ語の発音に注意し、詩の朗読をする。
②ゲーテ・ハイネの作品の背景を調べる。
③これらを踏まえ、芸術的に朗読し歌唱に繋がるようにする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前期：伊和辞書を使って、あらかじめ単語と対訳の意味を調べる。
後期：ゲーテ・ハイネに関する楽曲・文献資料の調査。

4．成績評価の方法及び基準

平常点 50%、レポート・試験 50%。平常点は、授業への参加姿勢。レポート・試験は、レポート提出状況など含め総合的に判断する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜、資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽曲と詩の対話をよく理解し、演奏に反映できるよう授業に積極的に参加をすること。

授業計画	
	担当教員:パリージ　フラビオ
1	イントロダクション
2	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Dante Alighieriダンテの詩による作品　１
3	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Dante Alighieriダンテの詩による作品　２
4	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Dante Alighieriダンテの詩による作品　３
5	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Francesco Petrarcaペトラルカの詩による作品１
6	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Francesco Petrarcaペトラルカの詩による作品２
7	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Francesco Petrarcaペトラルカの詩による作品３
8	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lodovico Ariostoアリオストの詩による作品１
9	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lodovico Ariostoアリオストの詩による作品２
10	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lodovico Ariostoアリオストの詩による作品３
11	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lorenzo Da Ponteダ ポンテの詩による作品１
12	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lorenzo Da Ponteダ ポンテの詩による作品２
13	イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽との融合 Lorenzo Da Ponteダ ポンテの詩による作品３
14	まとめ
15	詩の朗読の発表

授業計画	
	担当教員:馬場由香 授業の進度により変更あり。
1	ガイダンス
2	ゲーテの詩による作品　Heidenröslеinの朗読
3	ゲーテの詩による作品　Heidenröslеinの朗読の確認・背景を考察
4	ゲーテの詩による作品 Das Veilchenの朗読
5	ゲーテの詩による作品　Das Veilchenの朗読の確認・背景の考察
6	ゲーテの詩による作品　Mailiedの朗読
7	ゲーテの詩による作品　Mailiedの朗読の確認・背景の考察
8	ゲーテの作品 Mit einem gemalten Bandの朗読
9	ゲーテの作品 Mit einem gemalten Bandの朗読の確認・背景の考察
10	ハイネの作品 Die Lotosblumeの朗読
11	ハイネの作品 Die Lotosblumeの朗読の確認・背景の考察
12	ハイネの作品 Die Loreleiの朗読
13	ハイネの作品 Die Loreleiの朗読の確認・背景の考察
14	まとめ
15	演奏会形式での詩の朗読と歌唱

科目名	イタリア歌曲研究１　[火5]						
代表教員	中鉢　聡	授業コード	GE235600	科目コード	GE2356	期間	通年
担当教員	湧口　さくら						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

イタリア歌曲を演奏する際、外国語であるイタリア語の歌詞を理解し、正しい発音で歌唱が出来る事はまず必要不可欠。
また、それぞれの時代の作曲家のスタイル、その曲の生まれた背景など実演に至るまでの課題を明示し、どう勉強を進めて行けばよいか、実際に各学生が課題に取り組む中で指導していきます。

声楽家を志す学生の多くが最初に取り組むであろうイタリア歌曲を、ただ歌うのでなく、その曲に親しみを持ち、作曲家、作詞家が書き残した事を、学生各々が、個性豊かにのびのびと理解して歌えるようになることを目標とします。

２．授業概要

歌曲内容の理解（学生各自、担当する歌曲の対訳、逐語訳　等）　をしたうえで、その曲を演奏する際の背景、どんな人物がどんな状況で、何を伝えようと、どんな感情を持って歌っているかなど、自分なりの演出をしたうえで歌えるようにする。こうすることで、生き生きとした歌唱が出来ると思います。
イタリア歌曲を歌うための、発音（イタリア語特有の発音、舞台語としての母音、子音）、またベル・カント(Bel Canto)の基礎となるライン(linea)，音節(sillaba)の学習。
授業では、全ての学生が、演奏の準備をし、作品について研究した事について発表、演奏をし、それに対してコメントすることで授業を展開します。
参考まで、各授業のスケジュールの所に　曲目を入れてありますが、授業で取り上げる　曲目については　１回目の授業で　学生と話し合いの上決定いたします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で各自が担当する曲について、対訳、逐語訳、その他授業概要に記した内容を参考に、準備を進めて授業に参加して下さい。
前期・後期の試験の事も踏まえ、各自授業で学んだ事を含めて作品研究、演奏向上に努めてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点及び授業への参加姿勢。（評価の７５％）
学期末試験（評価の２５％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる曲の楽譜は、担当学生が授業開始前にコピーをして全員に配布。
イタリア語辞書は、毎回持参する事が好ましい。

以下、授業で取り上げる事の予想される楽譜リスト
イタリア古典歌曲集
Bellini Ricordi
Donizetti Ricordi
Rossini Ricordi
Verdi Ricordi 他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 授業の進め方等を説明
2	イタリア古典歌曲(基本となる読み方、発音を確認) Caro mio ben Amalill
3	Caccini Amor ch'attendi? Tu ch'ai le penne, Amor
4	Scarlatti Se florindo è fedele Sento nel core
5	Scarlatti Già il sole dal Gange Le violette
6	Händel Lascia ch'io pianga Ombra maai fu (largo)
7	Vivaldi Io son quel gelsomino Sposa son disprezzata
8	G.Rossini La promessa Il rimprovero
9	G.Rossini L'invito La gita in gondola
10	G.Rossini La pastrella della alpi
11	G.Rossini Mi lagnerò tacendo
12	G.Rossini La danza
13	前期実習のまとめ
14	試験の為の伴奏合わせ
15	前期 実技試験・まとめ

授業計画	
	［後期］
1	V.Bellini TRE ARIETTI Il fervido desiderio Dolente immagine di fille mia
2	V.Bellini TRE ARIETTI Vaga luna che inargenti Tre Alietti まとめ
3	V.Bellini SEI ARIETTI Marinconia, ninfa gentile Vanne, o rosa fortunata
4	V.Bellini SEI ARIETTI Bella Nice, che d'amore Almen se non poss'io
5	V.Bellini SEI ARIETTI Per pietà, bell'idol mio Ma rendi pur contento
6	V.Bellini まとめ
7	G.Donizetti Il sospira
8	G.Donizetti È morta
9	G.donizetti Ah! rmmenta, o bella Irene
10	G.Donizetti Una lacrima Me voglio fà 'na casa
11	G.Donizetti La zingara Il barcaiolo
12	G.Verdi Il poveretto Stornello
13	G.Verdi Ad una stella Brindisi
14	試験の為の伴奏合わせ
15	後期 実技試験・まとめ

科目名	イタリア歌曲研究２　［火5］						
代表教員	日比野　幸	授業コード	GE235700	科目コード	GE2357	期間	通年
担当教員	立石　智子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多くの作曲家の作品を通して、正しいイタリア語の発語による歌唱を習得する。発音、アクセントやイタリア語の持つリズムに慣れ親しみ、イタリア語の歌曲はもちろんオペラに通じる舞台語に発展できる発語法について学ぶことを目標とする。
またイタリアの文化にも触れ表現豊かに歌えることを目的とする。

２．授業概要

公開レッスン形式で授業を進める。
イタリア語の発語、詩の理解、解釈を通して作品への研究を深める。
主にロマン派の作品を通してイタリア音楽の特徴を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌う曲について予習は必須。音取り、意味調べは、各自で行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
授業内の歌唱発表（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Bellini
Rossini
Donizetti
Tosti
Verdi

Ciara
Mascagni
Puccini
Respighi

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 授業の進め方等を説明
2	ディクションの講師による朗読やお話から詩の持つリズムや規則性を学ぶ ロマン派前期作曲家の楽曲を幾つか例に挙げて研究
3	ディクションの講師による朗読やお話から詩の持つリズムや規則性を学ぶ ベッリーニ、ドニゼッティ、ロッシーニそれぞれの作曲家から自薦の曲を選定
4	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ベッリーニ）
5	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ベッリーニ）
6	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ベッリーニ）
7	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ドニゼッティ）
8	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ドニゼッティ）
9	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ロッシーニ）
10	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ロッシーニ） トスティ、ドナウディそれぞれの作曲家から自薦の曲を選定
11	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（トスティ）
12	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（トスティ）
13	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（トスティ、ドナウディ）
14	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ドナウディ）
15	ロマン派前期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究（ドナウディ） ロマン派後期の作曲家を中心に課題曲を選定

授業計画	
	［後期］
1	ディクションの講師による朗読やお話から詩の持つリズムや規則性を学ぶ ロマン派後期の作曲家による楽曲を幾つか例に挙げて研究
2	ロマン派後期の自薦の曲。 ディクションの講師による朗読、解釈、発語のチェック
3	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
4	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
5	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
6	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
7	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
8	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
9	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
10	ロマン派後期の自薦の曲。 公開レッスン形式で詩の朗読、発語のチェック、解釈、歌唱法の研究
11	ロマン派の中の自薦の曲 歌曲の祭典に向けての課題を選定
12	ロマン派の中の自薦の曲 歌曲の祭典に向けての課題を研究
13	ロマン派の中の自薦の曲 歌曲の祭典に向けての課題を研究
14	ロマン派の中の自薦の曲 歌曲の祭典に向けての課題を研究
15	ロマン派の中の自薦の曲 歌曲の祭典に向けての課題を研究

科目名	ドイツ歌曲研究１　［水4］						
代表教員	飯田　千夏	授業コード	GE235800	科目コード	GE2358	期間	通年
担当教員	石田　多紀乃						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツ語の発音技法を習得し、詩と音楽が融合された美しい芸術歌曲を学ぶ。
ドイツ歌曲を通して、表現をより確かなものにするために必要なメソッドや技術を身につけていく。また、演奏と経験の積み重ねを通して、歌の技術の向上と演奏に対する意識も高めていく。

２．授業概要

■前期：モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲を演習。歌唱におけるドイツ語の発音に慣れるとともに、詩の内容を理解し、その詩の解釈をどのように演奏すべきかを研究していく。また、ドイツ歌曲が、歌とピアノのアンサンブルであるということを、演奏を通して体験していく。
■後期：前期演習曲以外のモーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲に加え、歌曲重唱（シューマン、ブラームス、メンデルスゾーン）を演習。尚、演習する曲については、履修者の趣向と声質、進度に応じて適宜与えていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として、授業で取り組む曲の譜読み、テキストの内容、対訳等を調べておくこと。また、授業内に習得した発音や歌唱法等を繰り返し練習し、試演会で充実した演奏ができるよう復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業への参加姿勢（評価の７０％）
授業内の発表および試演会の演奏（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜：授業内で指示、または配布。
参考文献：ドイツ・リート名詩百選（佐々木庸一訳編・音楽之友社）／ドイツの詩と音楽（荒井秀直著・音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ドイツ歌曲に興味がある学生はもちろんのこと、ドイツ語、ドイツ歌曲がはじめてという学生の方も、授業を通して発音および、詩の解釈、表現法を学んで、自身の演奏に役立ててください。

授業計画	
	W.A.モーツァルト/F.シューベルト/R.シューマン/J.ブラームス
1	春を歌う・ヨーロッパの春 W.A.モーツァルト：Sehnsucht nach dem Frühlinge（オーヴァーベック）
2	F.シューベルト初期作品 An die Musik（ショーバー）　他
3	F.シューベルト中期作品 Frühlingsglaube（ウーラント）　他
4	F.シューベルト中期作品 Du bist die Ruh（リュッケルト）　他
5	F.シューベルト後期作品 Lied der Mignon(ゲーテ)　他
6	歌とピアノのアンサンブル F.シューベルト：Die Forelle（シューバルト） W.A.モーツァルト：Das Veilchen（ゲーテ）
7	R.シューマン 歌曲集「ミルテの花」より Widmung（リュッケルト）　他
8	R.シューマン 歌曲集「ミルテの花」より Die Lotosblume(ハイネ)　他
9	R.シューマン・歌曲集「子供のための歌のアルバム」より Schneeglöckchen（リュッケルト）　他
10	前期の復習① W.A.モーツァルト・F.シューベルト
11	前期の復習② F.シューベルト・R.シューマン
12	前期の復習③ W.A.モーツァルト・F.シューベルト・R.シューマン
13	前期のまとめ 試演会
14	Wiegenlied・子守唄を歌う J.ブラームス：Wiegenlied（アルニム/シェラー）　他
15	Volkslied・ドイツ民謡を歌う J.ブラームス：Da unten im Tale 他

授業計画	
	W.A.モーツァルト/F.シューベルト/R.シューマン J.ブラームス/ F.メンデルスゾーン
1	W.A.モーツァルト An Chloe（ヤコービ） 他
2	F.シューベルト Lachen und Weinen（リュッケルト） Waderers Nachtlied（ゲーテ） 他
3	R.シューマン 「愛と女の生涯」（シャミッソー）より
4	R.シューマン 「詩人の恋」（ハイネ）より
5	R.シューマン 「子供のための歌のアルバム」より
6	J.ブラームス Sonntag（ウーラント） 他
7	J.ブラームスによる歌曲重唱演習
8	F.メンデルスゾーンによる歌曲重唱演習
9	R.シューマンによる歌曲重唱演習
10	後期の復習① W.A.モーツァルト・F.シューベルト
11	後期の復習② R.シューマン・J.ブラームス
12	後期の復習③ F.メンデルスゾーン
13	後期の復習④ W.A.モーツァルト・F.シューベルト・R.シューマン・ J.ブラームス・F.メンデルスゾーン
14	後期のまとめ 試演会
15	合わせ（歌曲の祭典）

科目名	ドイツ歌曲研究２　［火4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE235900	科目コード	GE2359	期間	通年
担当教員	西川　麻里子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツ歌曲の主要作品における詩と音楽とのかかわりを楽譜の解釈等を踏まえ、実際に歌いながらコミュニケーションを図ることで表現を向上させる。

２．授業概要

授業は以下の３点に重点を置いて進める。
①ドイツ語の発音を再確認し、詩の朗読をする。
②詩に含まれる音楽的諸要素を鑑み歌唱する。
③個人及びグループで歌唱発表し合いコミュニケーションを図る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での楽曲を個人練習(発音・音楽的表現など)

４．成績評価の方法及び基準

平常点 70%、試演会30%。平常点は、授業への参加姿勢など含め総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示、また配布する。
参考文献 ：「ドイツの詩と音楽 」荒井秀直著 音楽之友社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽曲と詩の対話をよく理解し歌唱表現を研究する。

授業計画	
	［前期］ 　モーツァルト、シューマン、歌曲作品を中心に演奏研究をする。 授業の進度により変更あり。
1	ガイダンス。ドイツ語の発音の再確認。
2	モーツァルトの歌曲 Das Veilchenの発音と演習 モーツァルトの歌曲 Der Zauberの発音
3	モーツァルトの歌曲 Der Zauberの発音の確認・演習
4	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より In der Fremde 発音・演習
5	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Intermezzo 発音・演習
6	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Waldesgespräch 発音・演習
7	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Die Stille 発音・演習
8	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Mondnacht 発音・演習
9	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Schöne Fremde 発音・演習
10	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より In der Fremde 発音・演習
11	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Wehmut 発音・演習
12	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Im Walde 発音・演習
13	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Frühlingsnacht 発音・演習
14	前期のまとめ
15	研究発表(試演会)

授業計画	
	［後期］ 　ブラームス、マーラー、シュトラウスの歌曲作品を中心に演奏研究をする。 授業の進度により変更あり。
1	ブラームスの歌曲 Vergebliches Ständchen 発音
2	ブラームスの歌曲 Vergebliches Ständchen 発音の確認・演習
3	ブラームスの歌曲 Die Mainacht 発音
4	ブラームスの歌曲 Die Mainacht 発音の確認・演習
5	マーラーの歌曲 Ablösung im Sommer 発音・演習
6	マーラーの歌曲 Frühlingsmorgen 発音・演習
7	マーラーの歌曲 Wer hat dies Liedlein erdacht ? 発音・演習
8	マーラーの歌曲 Starke Einbildungskraft 発音・演習
9	シュトラウスの歌曲 Nacht 発音・演習
10	シュトラウスの歌曲 Allerseelen 発音・演習
11	シュトラウスの歌曲 Das Rosenband 発音・演習
12	シュトラウスの歌曲 Zueignung 発音・演習
13	後期のまとめ
14	全体のまとめ
15	研究発表(試演会)

科目名	フランス歌曲研究１　［水4］						
代表教員	寺島　夕紗子	授業コード	GE236000	科目コード	GE2360	期間	通年
担当教員	服部　真由子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フランス語は読みにくいというイメージが強く、近寄りがたいと思われやすいフランス歌曲（メロディー）ですが、“難しい”という先入観で敬遠せず、実際のメロディーや詩の美しさを実感して、フランス歌曲を身近に感じられるように、その上で必要な基本的な発音や読み方、フレージングなどを研究し、一人一人が自主的に気楽に、自主的にフランス歌曲と向かい合えるようになることを目指しましょう。

２．授業概要

入門クラスとして発音記号を使わずにフランス語を読みながら、フランス歌曲独特の美しいメロディーにふれていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

円滑に授業を進めるため、教材で取り上げる歌曲についての譜読みを各授業後に予習・復習すること。
（授業内ではできるだけ細かく発音や、フランス語のニュアンスについて実習したいため）

４．成績評価の方法及び基準

平常点、授業への参加姿勢（評価の70%）
年度末の授業内発表会（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『フォーレ』『ドビュッシー』などの歌曲集
必要な際は指示、あるいは配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

フランス語が読めなくても問題ありません。
むしろ、読めないからこそ履修してください。
この講座の一番の目的は、１月までに、フランス歌曲を自分から歌いたいと思えるようになることです。
フランス歌曲入門編として開設していますから、フランス歌曲を知らない学生がどんどん履修してくれるのを待っています！！

授業計画	
	［前期］
1	はじめましてフランス歌曲～フランス語は怖くない！
2	歌曲演習　フォーレ
3	歌曲演習　フォーレ続き～大切なのは繰り返し！
4	フランス語の発音～美しい詩にふれてみよう
5	歌曲演習　ドビュッシー
6	フランス語の発音～リエゾンの妙
7	歌曲演習　アーン
8	これまでの発音復習　規則を少しずつ覚えよう
9	フランス語の発音～身近なところにフランス語
10	歌曲演習　グノー
11	フランス語の発音～5拍子の中のフランス語
12	歌曲演習　ショーソン
13	フランス語の発音～フランス語でハモりましょう！
14	歌曲演習　二重唱
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	フランス語の発音～有名なあの歌もフランス語！
2	歌曲演習　サティ
3	フランス語の発音～サロンの音楽って？
4	歌曲演習　プーランク
5	フランス語の発音～行間までおしゃれな詩
6	歌曲演習　シャブリエ
7	これまでの発音復習　そろそろふりがなは卒業！
8	フランス語の発音～チクルスに挑戦！
9	歌曲演習　ラヴェル前半
10	歌曲演習　ラヴェル後半
11	フランス語の発音～無音のeにもすっかり慣れました
12	歌曲演習　ひと足早いクリスマスを歌おう！
13	後期のまとめ 歌曲の祭典および授業内発表会の選曲
14	授業内発表会準備 歌曲の祭典準備
15	授業内発表会 1年のまとめ～Au revoir!

科目名	フランス歌曲研究２　[水4]						
代表教員	神谷　明美	授業コード	GE236100	科目コード	GE2361	期間	通年
担当教員	林　順子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フランス歌曲を演奏するための基本的な発音を再確認し、演奏の向上を目指す。
多くのフランス歌曲の作品に触れ、音楽と詩の観点から作品を研究する。
履修学生の声や感性に合う作品を見出し、プログラムを考え演奏できるようにしましょう。

２．授業概要

フランス語特有の発音を学び、繰り返し練習をして習得する。
ロマン派から印象派、そして近現代の時代により作風が違う面など様々な作品に触れ、演奏できるように探求する。
フランス語文法の初歩に触れ、詩の解釈につながる学習を行う。
作曲者や詩人について、人物像や時代背景など探求する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

まずは、予習として持ち曲の読譜は各自が行って下さい。
復習は、授業内で発音練習した事や、歌唱方法を繰り返し練習して下さい。
授業の始めに、前回の曲の発音復習を行います。
楽譜は授業時に配りますが対訳は用意しませんので、各自調べて下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
前期末と後期末の演奏・試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示します。
参考図書
『フランス歌曲の演奏と解釈』　ピエール・ベルナック著／林田きみ子訳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

フランス語の知識がなくても、履修は可能です。
授業内で発音練習と同時に言葉(詩)について精読します。
必要なフランス語文法は、授業内で学習します。

授業計画	
	［前期］ 主にビゼー、ベルリオーズ、デュパルク、ショーソン、フォーレなどのロマン派の作品の演奏と研究
1	フランス語の発音を再確認し、発音練習する（発音記号表を配布） フランス語特有の母音を中心に、歌唱時の発音・発声について演習を行う。 (鼻母音を中心に実施)
2	フランス語の綴り、読み方を学習する (鼻母音、複合母音) フランス語文法の初歩を学習する (冠詞、êtreとavoirの動詞) フォーレ「五月」の発音練習と歌唱演習
3	フォーレ「五月」を復習、歌唱演習 フォーレ「僧院の廃墟にて」の発音練習 フランス語文法、動詞の活用の基本形を学習する
4	フォーレ「僧院の廃墟にて」の発音を復習し、歌唱演習 ベルリオーズ「ヴィラネル」の発音練習 フランス語の形容詞について (beauとbelleなど、形を変える単語)
5	ベルリオーズ「ヴィラネル」の発音の復習、歌唱演習。 ショーソン「蝶々」の発音練習。
6	ショーソン「蝶々」の歌唱演習 デュパルク「悲しき歌」の発音練習
7	デュパルク「悲しき歌」の歌唱演習 フォーレ「水のほとりで」の発音練習
8	フォーレ「水のほとりで」の歌唱演習 ビゼー「四月」の発音練習
9	ビゼー「四月」の発音を復習、歌唱演習 ドリーブ「カディスの娘たち」の発音練習
10	ドリーブ「カディスの娘たち」の発音を復習、歌唱演習 マスネ「青い目を開け」の発音練習
11	マスネ「青い目を開け」の発音を復習、歌唱演習 前期の復習(フォーレの作品)
12	前期の復習(ベルリオーズ、デュパルクの作品) 個人の歌唱チェック
13	前期の復習(ショーソン、ビゼーの作品) 個人の歌唱チェック
14	前期のまとめ 個人の歌唱チェック
15	前期総まとめ（前期に勉強した曲の演奏）

授業計画	
	［後期］ フォーレ、アーン、ドビュッシー、ラヴェル、プーランクなどの印象派や近代歌曲の作品の演奏と研究
1	フランス語の発音復習(発音記号を用いて) フォーレ「ネル」の発音練習と歌唱演習
2	フォーレ「ネル」の発音を復習、歌唱演習 フォーレ「イスパアンの薔薇」の発音練習
3	フォーレ「イスパアンの薔薇」の発音の復習、歌唱演習 フォーレ「月の光」の発音練習
4	フォーレ「月の光」の発音の復習、歌唱演習 ドビュッシー「月の光」と比較研究
5	アーン「牢獄にて」の発音練習、歌唱演習 フォーレ「牢獄」との比較研究 アーン「クロリスへ」の発音練習
6	アーン「クロリスへ」の発音の復習、歌唱演習 ドビュッシー「星の夜」の発音練習
7	ドビュッシー「星の夜」歌唱演習 ドビュッシー「家のない子のクリスマス」の発音練習
8	ドビュッシー「家のない子のクリスマス」の歌唱演習 プーランク「愛の小径」の発音練習
9	プーランク「愛の小径」の発音練習と歌唱演習
10	プーランク「パリへの旅」の発音練習と歌唱演習
11	ラヴェルの作品研究(曲目未定)
12	後期の復習(フォーレ、ドビュッシーの作品) 個人の歌唱チェック
13	後期の復習（アーン、ラヴェル、プーランクの作品） 個人の歌唱チェック
14	後期のまとめ 個人の歌唱チェック
15	後期の総まとめ（後期に勉強した曲の演奏）

科目名	日本歌曲研究１　［水2］						
代表教員	二見　忍	授業コード	GE236200	科目コード	GE2362	期間	通年
担当教員	皆川　純一						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

伝統的なクラシックの声楽唱法をもって日本語で創り上げられた歌曲を、日本人としていかに捉え、演奏してゆくかを考え、実践に結びつける事を学ぶ。日本語を美しく歌い、日本語の詩のもつ情緒をいかに表現するかを実践を通して体得する。

２．授業概要

美しく、はっきりした日本語の発音の技術と日本歌曲の情緒の表現法を身につけるべく初期の作品から勉強する。授業のテーマとして扱う作品と、個人の自由な選曲による作品と平行して演習できたら良いと考えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、指示された各回授業テーマの作曲家の作品を演奏出来る様に準備して授業に臨む事。作曲家について及びその曲の成り立ち、背景まで調べ授業に臨む事を希望する。
復習として授業内容を考え演奏をくり返し自分で納得のゆく所まで歌う事が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業での探求的態度（評価の５０%）
演奏試験（評価の２５%）
平常授業内での演奏（評価の２５%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

日本歌曲作品を授業の際、指定する。
参考文献：授業の中で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本人の声楽家として、日本の言葉で創り上げられた作品を、自信と愛着をもって演奏する様（できる様）になって欲しいと願います。

授業計画	
	［前期］ （注）下記曲目は変更する場合がある。
1	ガイダンス。各回、詩（時代背景等含む）音楽解釈、譜の発音、表現法、発声について実習しながら理解を深めてゆく。 第一回は履修者全員にそれぞれ好きな歌を演奏してもらう
2	日本歌曲の成り立ち。瀧廉太郎作品を実習する。
3	瀧廉太郎の歌曲。春の歌。
4	小松耕輔の歌曲
5	中山新平の歌曲
6	山田耕筰の歌曲
7	山田耕筰の歌曲
8	山田耕筰の歌曲
9	山田耕筰の歌曲
10	山田耕筰の歌曲
11	成田為三の歌曲
12	大中寅二の歌曲
13	夏の歌
14	唱歌
15	日本歌曲創成期のまとめ

授業計画	
	［後期］ （注）下記曲目は変更する場合がある。
1	前期の復習と秋の歌
2	信時潔の歌曲
3	信時潔の歌曲
4	信時潔の歌曲
5	信時潔の歌曲
6	團伊玖磨の歌曲
7	團伊玖磨の歌曲
8	團伊玖磨の歌曲
9	團伊玖磨の歌曲と冬の歌
10	平井康三郎の歌曲
11	平井康三郎の歌曲
12	平井康三郎の歌曲
13	唱歌
14	演奏試験・まとめ
15	１年間のまとめ

科目名	日本歌曲研究２　［火3］						
代表教員	沢崎　恵美	授業コード	GE236300	科目コード	GE2363	期間	通年
担当教員	齊藤　香織						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在まで、数多くの作曲家が、日本の音楽芸術の一側面をなす日本歌曲を作り続け、その作品は日本の詩人による詩に作曲されたものが大部分であり、詩と音楽の芸術性の高さが相俟って、その数は厖大な数に上る。
そこで、演奏する側も、言葉の意味、詩の解釈、演奏法（唱法）等を確立していく必要が求められている。

２．授業概要

この授業では、学生各自の演奏を通して、日本語唱法の研究をしていく。
また、声楽コース主催の「歌曲の祭典」に出演すべく準備をしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

初回授業で決定した、各自演奏研究する曲、チクルス（歌曲集）の作曲家、作詞家、作品の内容等を調べ、発表（提出）、また演奏できるように準備すること。

演奏曲の楽譜は用意してくること。
（こちらで配布するものもあります。）

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の40%）
授業への参加姿勢・態度（評価の60%）課題や提出物等も含む。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『解説付き 日本歌曲選集』第１巻、第２巻
大賀寛 監修（全音出版社）

購入でなくても構いません。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席が3分の2以下の場合、単位取得資格を失います。

母語である日本語を美しく表現できる演奏家となるため、授業には積極的に参加し、演奏、発表、発言、研究。

★初回授業で歌唱する曲を一曲用意してくる。
（教師、伴奏者用の楽譜を用意してきてください。）

授業計画	
	［前期］ 各回の順番の入れ替わり（内容が変更）の場合がある
1	ガイダンス 日本語の概要 各自、年間を通して演奏研究していく曲の選定
2	日本語の特色 歌唱時に注意すべき日本語の特徴
3	歌唱時における日本語の扱い方 各自の演奏を通して、歌唱法の研究
4	明治、大正、昭和の作品を中心に
5	瀧廉太郎　荒城の月など
6	山田耕筰　からたちの花　赤とんぼなど
7	山田耕筰　砂山　曼珠沙華 など
8	信時潔　北秋の　行々子　中山晋平　砂山など
9	橋本國彦　お菓子と娘　城ケ島の雨　など
10	成田為三　浜辺の歌 弘田瀧太郎　叱られてなど
11	各自の演奏を通して、歌唱法の研究
12	團 伊玖磨　「わがうた」より
13	高田三郎　「パリ旅情」より
14	前期のまとめ
15	各自の演奏研究の発表

授業計画	
	［後期］ 各回の順番の入れ替わり（内容が変更）の場合がある
1	前期の復習 歌唱時における日本語の特徴
2	近代・現代作品を中心に各自の演奏を通して、歌唱法の研究
3	別宮貞雄　　さくら横ちょうなど
4	平井康三郎　　うぬぼれ鏡越谷達之助　初恋　　諸井三郎 少年など
5	林光の作品より
6	中田喜直の作品より
7	中田喜直 「ほしとたんぽぽ」より 歌曲の祭典に向けて、または試験に向けての選曲
8	大中恩　小林秀雄の作品より
9	湯山 昭 の作品より
10	木下牧子の作品より
11	歌曲の祭典と試験、発表に向け各自準備、演奏
12	各自の演奏を通して歌唱法の研究
13	各自の演奏を通して歌唱法の研究
14	日本歌曲唱法のまとめ1
15	日本歌曲唱法のまとめ2 発表 。歌曲の祭典準備。

科目名	ミュージカルI - 1 （前） ［金1］						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE240600	科目コード	GE2406	期間	半期
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、星野　苗緒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【概論・演技・ダンス】担当：ダイアナ・ボール・マリー・石山
　ミュージカルは、オペラ、オペレッタ、バレエなどと同様日本でも一般的になりつつある舞台芸術です。とてもわかり易く、良質の作品はアーティスティックな部分とエンターテイメントの部分のバランスが程よく取れている。授業で取り上げるブロードウェイやロンドン産のミュージカル作品群も、その要素を満たしているものが多いと言えよう。
　学生は「演じる側」に立ちたいと考えている者が多いと思うがこの授業は誰でも参加自由である。しかしながらわたしは、舞台に立つ人が忘れてはならないこととして、エナジーとメッセージを持つことと共に「上品さ」を挙げる。授業では先ず体をほぐし、姿勢の矯正、無駄やブレのない合理的な動き、筋肉や関節の使い方を身につけて欲しい。動きに慣れたら少しずつダンスのテクニックを入れ、ミュージカルの音楽に合わせて優雅に表現していく。ここで得るものはそれぞれの学業分野で、また日常生活において、そして将来に渡り役立つものと思う。もちろんプロの舞台人を目指す方も歓迎する。ちなみにわたしは日本語をある程度喋ることができるので、怖がらずに受講して欲しい。Let's study and enjoy Musical Theater！
【ヴォーカル】担当；三橋千鶴

２．授業概要

【概論・演技・ダンス】
　授業計画に沿って授業を進め、ダンステクニックを習得する。演技の基礎を勉強します。
　ダンスと歌と隔週で受講。
【ヴォーカル】
　授業計画に沿って授業を進め、歌による表現力を習得し演技につなげる過程を学ぶ。
　ダンスと歌と隔週で受講。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【概論・演技・ダンス】ミュージカルステージ、映画など観て各自勉強すること。ストレッチエクササイズを日々欠かさない。（このことが踊りの基礎となる）振付やインプローの練習準備をすること。
【ヴォーカル】自分が歌うミュージカルソングの内容（作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面）等を予習。内容に沿った歌唱ができたかどうかを見極め次のステップアップにつなげること。2回目受講まで2週間空くので暗譜をして臨むこと。後期受講者で複数で歌唱するデュエット、トリオ等を希望する場合は、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこ

４．成績評価の方法及び基準

　平常点（評価の７０％）
　授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【概論・演技・ダンス】
　参考文献については、授業でリストを配付する。
【ヴォーカル】
　参考文献については、授業でリストを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　履修人数の制限（３０名）あり。履修希望学生多数の場合は抽選を行う。初回の授業でクラス分けを行う。集合教室B225。
隔週でダンスと歌を履修します。
【概論・演技・ダンス】歌はミュージカルⅠ－１，Ⅰ－２（ヴォーカル）を参照のこと。動きやすい服装（できれば体のラインがわかり易いものが好ましい。例：レオタード、スパッツ。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（最初は上履きのような運動靴でも可）、各自タオル、飲み物、筆記用具などを用意すること。また、最初のウォーミングアップは全体でそろって行いたいので、休み時間中に着替えを済ませて、授業の開始時刻に遅れないように入室すること。興味のある学生は、上演されているミュージカルや演劇を観劇、またビデオ、CDなどで有名なミュージカル作品を鑑賞しておくと良いと思う。
【ヴォーカル】服装は動きやすいものを着用。ミニスカートや足が上がらないジーンズまたはパンツは禁止。各自筆記用具・飲料水等を用意。遅刻厳禁歌の場合は20分以上の遅刻は見学とし、原則として個人指導は受けられない。

授業計画	
	［半期］概論・演技・ダンス
1	ガイダンス、自己紹介、クラス分け(履修者全員合同授業) テキスト配布
2	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
3	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
4	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
5	Aクラス ストレッチとダンスの基礎運動 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
6	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
7	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
8	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
9	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
10	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
11	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
12	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
13	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
14	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現） クラス発表 。
15	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現） クラス発表 。

授業計画	
	［半期］ヴォーカル
1	ガイダンス、自己紹介、クラス分(履修者全員合同授業) テキスト配布
2	Aクラス 身体の仕組み（ボディーマッピング）について、ウォーミングアップ、発声、声部分け
3	Bクラス 身体の仕組み（ボディーマッピング）について、ウォーミングアップ、発声、声部分け
4	Aクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱1
5	Bクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱1
6	Aクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱(暗譜）ステージング１
7	Bクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱(暗譜）ステージング1
8	Aクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱発表
9	Bクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式によるテキスト1歌唱発表
10	Aクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式による自由曲歌唱
11	Bクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式による自由曲歌唱
12	Aクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式による自由曲歌唱(暗譜)
13	Bクラス ウォーミングアップ、発声、公開レッスン形式による自由曲歌唱(暗譜)
14	Aクラス 自由曲発表、まとめ
15	Bクラス 自由曲発表、まとめ

科目名	ミュージカルI - ２ （後） ［金1］						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE240700	科目コード	GE2407	期間	半期
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、星野　苗緒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ミュージカルⅠ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【概論・演技・ダンス】担当：ダイアナ・ボール・マリー・石山
　ミュージカルは、オペラ、オペレッタ、バレエなどと同様日本でも一般的になりつつある舞台芸術です。とてもわかり易く、良質の作品はアーティスティックな部分とエンターテイメントの部分のバランスが程よく取れている。授業で取り上げるブロードウェイやロンドン産のミュージカル作品群も、その要素を満たしているものが多いと言えよう。学生は「演じる側」に立ちたいと考えている者が多いと思うがこの授業は誰でも参加自由である。しかしながらわたしは、舞台に立つ人が忘れてはならないこととして、エナジーとメッセージを持つことと共に「上品さ」を挙げる。授業では先ず体をほぐし、姿勢の矯正、無駄やブレのない合理的な動き、筋肉や関節の使い方を身につけて欲しい。動きに慣れたら少しずつダンスのテクニックを入れ、ミュージカルの音楽に合わせて優雅に表現していく。ここで得るものはそれぞれの学業分野で、また日常生活において、そして将来に渡り役立つものと思う。もちろんプロの舞台人を目指す方も歓迎する。ちなみにわたしは日本語をある程度喋ることができるので、怖がらずに受講して欲しい。Let's study and enjoy Musical Theater！
【ヴォーカル】担当：三橋千鶴
より美しく響きのある音色を求めて、基本的な発声法・呼吸法を楽しく勉強する。また有名なミュージカルナンバーをソロ・デュオ・等い

２．授業概要

【概論・演技・ダンス】
　授業計画に沿って授業を進め、ダンステクニックを習得する。演技の基礎を勉強します。
　ダンスと歌と隔週で受講。
【ヴォーカル】
　授業計画に沿って授業を進め、歌による表現方法を習得し演技に結びつける過程を学ぶ。
　ダンスと歌と隔週で受講。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【概論・演技・ダンス】
　ミュージカルステージ、映画など観て各自勉強すること。ストレッチエクササイズを日々欠かさない。（このことが踊りの基礎となる）
　振付やインプローの練習準備をすること。
【ヴォーカル】自分が歌うミュージカルソングの内容（作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面）等を予習。内容に沿った歌唱ができたかどうかを見極め次のステップアップにつなげること。2回目受講まで2週間空くので暗譜をし

４．成績評価の方法及び基準

　平常点（評価の７０％）
　授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【概論・演技・ダンス】
　参考文献については、授業でリストを配付する。
【ヴォーカル】
　参考文献については、授業でリストを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　履修人数の制限（３０名）あり。履修希望学生多数の場合は抽選を行う。初回の授業でクラス分けを行う。集合教室はB225。隔週でダンスと歌を履修します。
【概論・演技・ダンス】歌はミュージカルⅠ－１，Ⅰ－２（ヴォーカル）を参照のこと。動きやすい服装（できれば体のラインがわかり易いものが好ましい。例：レオタード、スパッツ。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（最初は上履きのような運動靴でも可）、各自タオル、飲み物、筆記用具などを用意すること。また、最初のウォーミングアップは全体でそろって行いたいので、休み時間中に着替えを済ませて、授業の開始時刻に遅れないように入室すること。興味のある学生は、上演されているミュージカルや演劇を観劇、またビデオ、CDなどで有名なミュージカル作品を鑑賞しておくと良いと思う。
【ヴォーカル】服装は動きやすいものを着用。ミニスカートや足が上がらないジーンズまたはパンツは禁止。2回目の歌唱時には暗譜で臨むこと。各自筆記用具・飲料水等を用意。遅刻厳禁歌の場合は20分以上の遅刻は見学とし、原則として個人指導は受けられない。

授業計画	
	［半期］概論・演技・ダンス
1	ガイダンス、クラス分け(受講者全員合同授業) Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
2	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
3	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
4	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
5	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
6	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
7	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
8	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
9	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
10	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
11	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
12	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
13	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現）
14	Bクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現） ダンスクラス発表。
15	Aクラス ストレッチ、ダンス基礎運動。 ダンスコンビネーション（ミュージカルナンバー、ジャズダンス、ヒップホップ）とインプロヴィゼイション（即興演技表現） ダンスクラス発表。

授業計画	
	［半期］ヴォーカル
1	ガイダンス、クラス分け（受講者全員合同授業） Bクラス 曲目選定、公開レッスン形式による自由曲歌唱、
2	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱１
3	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱１
4	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱2
5	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱2
6	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱3
7	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱3
8	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱4
9	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱4
10	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱5
11	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱5
12	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱6
13	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱6
14	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の発表、まとめ
15	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の発表、まとめ

科目名	専門合唱１～４　[木3-4]						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GE243100	科目コード	GE2431d	期間	通年
担当教員	永易　理恵						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱独自の要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場で必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

前期は現在、日本の合唱界で最も注目されている作曲家の一人、信長貴富氏の組曲「新しい歌」を取り上げ、演奏する。POPSや、ブルース、クラシカルなスタイル、と様々な書法で書かれた５曲を、それぞれ「良い声で歌う」だけでなく、「曲が喜ぶ演奏」を目指したい。また恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲を、今年度も前期講義期間中に取り上げる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の小中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様にすることを最終の目標とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。
また、　声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（80%）、　発表会参加（20%）を総合して評価をする。
※但し、上述した前期、後期の「合唱の祭典」に欠席した者の単位は認められない。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

学内カワイの売店「ドミナント」に於いて、以下の楽譜を事前に購入し、備えること。

・混声合唱とピアノのための「新しい歌」[改訂版]
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 小学校の部課題曲（女声のみ購入のこと）
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 中学校の部課題曲 混声
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 高等学校の部課題曲 混声

注意
・「新しい歌」は初版から１０年、第23刷刊行の際に、テンポや強弱が全曲に渡って見直された。[改訂版]であることを確認の上、購入すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繰り返しになるが、上述した前期、後期の「合唱の祭典」に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。

また、前期及び後期の講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。

授業計画	
	「新しい歌」の各曲のスタイルは様々だが、どの曲も旋律主体で比較的シンプルに作曲されている。どこまでも「うた」を求め、表現したい。 また、NHK全国学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する。
1	ガイダンス。また、「新しい歌」及び、NHK全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、全曲練習予定。
2	「新しい歌」全曲通し及び音楽稽古
3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の作品の流れの展開を把握する
5	新しい歌　音楽稽古（１）　リーディング
6	新しい歌　音楽稽古（２）　曲全体のフォルムを構築する
7	新しい歌　音楽稽古（３）　楽譜に書かれないニュアンスなど
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の完成と、女声（女子学生）は小学校の部の課題曲の音楽稽古も行う。
9	新しい歌　音楽稽古（４）　詩と音楽の解釈について
10	演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
11	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古・ピアニストとのトータルアンサンブル
12	演奏会に向けての総合練習（３）　G.P.
13	演奏会当日リハーサル
14	演奏会本番（於：シルバーマウンテン）
15	後期に扱う楽曲の事前練習

授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（１） リズムのニュアンス
2	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（２） メロディー及びフレーズにニュアンス
3	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（３） ハーモニーのニュアンス
4	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（４） ことばのニュアンス
5	１２月４日の演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	１２月４日の演奏会に向けての練習（１） 音取りや詩（発音）などの確認
7	１２月４日の演奏会に向けての練習（２） ハーモニーを確認しながらのリーディング
8	１２月４日の演奏会に向けての練習（３） 全体の流れを把握
9	１２月４日の演奏会に向けての練習（４） これまでに学んだ各種ニュアンスの確認
10	１２月４日の演奏会に向けての練習（５） ピアノ及び伴奏楽器とのアンサンブルを考える
11	１２月４日の演奏会に向けての総合練習（１） これまでのポイントの再確認
12	１２月４日の演奏会に向けての総合練習（２） 通し稽古とアンサンブルの精度を整えるための練習
13	１２月４日の演奏会に向けての総合練習（３） 一年間の総まとめ
14	演奏会前リハーサル
15	演奏会本番（於：前田ホール）

科目名	合唱指導法（含指揮法）　[火4]						
代表教員	辻　志朗	授業コード	GE244600	科目コード	GE2446	期間	通年
担当教員	希代　智子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合唱の講義と連動し、卒業後に中学校や高校の授業で、あるいは地域のサークル等で合唱団の指導者として合唱に携わる際に必要となる、基本的なバトンテクニックや所作を実践を通して身に付けます。

２．授業概要

「どうアクションをすれば相手に伝わるのか？」を基礎技術から学びます。
楽譜をどう理解し、どう伝えるかを共に考え、指摘し合います。
誰からも理解される合唱指揮の基本スタイルを身につけていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

学内の合唱の講義の他、一般の合唱団演奏会、学内外のオーケストラ、吹奏楽等々、様々な演奏会に可能な限り参加し、指導法の講義で学んだ知識や技術をプロの指揮者の所作や表現技術と比較検討することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

前期末、後期末試験（評価の５０%）
講義への出席が３分の２以下の学生は試験の受験資格は無いものとする。
平常点（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

指揮棒、五線ノート、筆記用具の持参
講義内容の知識的、技術的な復習を要する

授業計画	
	［前期］ 図形、強弱の表示等、指揮の基本的なテクニックを学び、やさしい合唱作品を使って合唱指揮を体験する。
1	指揮をする際の基本姿勢　ポイントの表し方 図形の描き方（２，３，４拍子）
2	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方 やさしい合唱曲を振ってみる。
3	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 やさしい合唱作品を振ってみる。
4	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 やさしい合唱作品を振ってみる。
5	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 左手を使った強弱の表し方の練習
6	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 左手を使った強弱、合図の表し方の練習 ５拍子、６拍子の合唱作品に触れてみる。
7	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 左手を使った強弱、合図の表し方を練習曲を使って練習 ５拍子、６拍子の合唱作品を振ってみる。
8	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図の表し方を練習曲を使って練習 ５拍子、６拍子の作品を振ってみる。 実際に前に立って、模擬レッスンを体験する。
9	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方 様々な表現の振り方を練習曲を使って練習 実際に前に立ち、模擬レッスンを体験する。
10	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方 様々な表現の振り方を練習曲を使って練習 実際に前に立ち、模擬レッスン体験をする。
11	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方 実際に前に立ち、模擬レッスン体験をする。
12	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 実際に前に立ち、模擬レッスン体験をする。
13	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 模擬レッスンをお互いに評価し合い、よりよいレッスンを考える。
14	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 模擬レッスンをお互いに評価し合い、よりよいレッスンを考える。
15	前期のまとめ（試験形式） 前期に学んだテクニックを使って、練習曲の中から作品を指揮してみる。 課題曲と当日指定曲の2曲。

授業計画	
	［後期］ 変拍子の振り方、テキストに合わせた振りかえ他、実際の現場に必要な様々な所作を学び、現場対応力を養う。
1	前期に学んだテクニックの復習
2	前期に学んだテクニックの復習
3	前期に学んだテクニックの復習 やや難しい拍子の振り方を練習曲を使って練習
4	前期に学んだテクニックの復習 やや難しい拍子の振り方を練習曲を使って練習 変拍子の中での左手の使い方
5	前期に学んだテクニックの復習 やや難しい拍子の振り方を練習曲を使って練習 変拍子の中での左手の使い方
6	模擬レッスン 実際に前に立ち、順番に合唱指導を体験し、指摘し合う。
7	模擬レッスン 実際に前に立ち、順番に合唱指導を体験し、指摘し合う。
8	模擬レッスン 実際に前に立ち、順番に合唱指導を体験し、指摘し合う。 テキストの内容、音楽の解釈を共に考える。
9	模擬レッスン 実際に前に立ち、順番に合唱指導を体験し、指摘し合う。 テキストの内容、音楽の解釈を共に考える。
10	作品の解釈 その表現方法を考え、それを指揮者として伝える練習。 難しいEinsatzを、練習課題を用いて集中的に練習
11	作品の解釈 その表現方法を考え、それを指揮者として伝える練習。 難しいEinsatzを、練習課題を用いて集中的に練習
12	１年間の復習をする。 疑問点、難しいかった点を共に出し合い、考え合う。
13	１年間の復習をする。 疑問点、難しいかった点を共に出し合い、考え合う。
14	試験課題曲の実践練習
15	後期のまとめ 後期試験 後期に学んだ作品の中から指定する。。 課題曲と当日指定曲の2曲。

科目名	オペラ実習I／オペラ実習１　[月1]						
代表教員	境　信博	授業コード	GE245300	科目コード	GE2453	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

総合芸術であるオペラは、劇場という広い空間でのパフォーマンスが必要になります。
この授業では　オペラの役柄を通して、声での表現、体の動かし方等の所作を研究し、習得していきます。
以上の学習により卒業後、一般のオペラ公演等での対応能力を学生に付けさせる。

２．授業概要

前期授業
「ドン・ジョヴァンニ」のNo.7、「ヘンゼルとグレーテル」の踊りの2重唱、「魔笛」の重唱,
【オルフェオとエウリディチェ」の２重唱などを日本語訳で歌唱演技し、オペラでの学習法や、歌唱法、演技法を習得していきます。

後期授業
『フィガロの結婚』を教材として、イタリア語で講師陣と共にレチタティーヴォ、二重唱、三重唱等アンサンブルを含め、その歌唱法と演技の表現法を研究していきます。
12月に前田ホールで試演会。
また、年度末に行われる大学オペラ合唱も並行して研究していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期初回の授業で、適切な配役を決めるための声聴き会を行います。
重唱の音取り等をしっかり準備してください。

毎回の授業で、音楽、芝居等の問題点が指摘されると思われます、次回の授業までに解決できるように努めること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の80%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

W.A.モーツァルト作曲：
“Le nozze di Figaro”（フィガロの結婚）
(授業で学習する箇所は数か所で全幕を演奏するわけではありません)
＜ベーレンライター版＞

前期学習教材の日本語訳楽譜は授業サイドで配布致します。（１月中）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽稽古では譜読み等、準備を確実にして積極的に授業に臨むこと。
立ち稽古では各自、役柄に適した、動きやすい靴や服装を用意していただきます。

相手役のある授業ですので基本全出席。

本年度の試演会は12月
（火曜もしくは水曜が本番となるため、その日の授業はしっかり出席しておいてください。公欠にはなりません）

授業計画	
	［前期］
1	キャスト決定のための声聴き会と音楽稽古 事前に配布された曲で自分に合ったものを歌っていただきます。
2	音楽稽古と曲目オペラ研究
3	音楽稽古と曲目オペラ研究
4	音楽稽古と曲目オペラ研究
5	音楽稽古と曲目オペラ研究
6	音楽稽古と曲目オペラ研究
7	音楽稽古と曲目オペラ研究
8	音楽暗譜稽古
9	立ち稽古（基本の動き方の学習）
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	立ち稽古
13	立ち稽古
14	立ち稽古
15	試演会

授業計画	
	［後期］ 大学院オペラ特別練習 音楽稽古
1	音楽稽古とフィガロの結婚についての研究
2	音楽稽古とディクション
3	音楽稽古とディクション
4	音楽稽古とディクション
5	音楽稽古とディクション
6	音楽稽古
7	立ち稽古
8	立ち稽古
9	立ち稽古
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	立ち稽古
13	立ち稽古
14	ホールでの場当たり稽古
15	ホールでの試演会

科目名	オペラ実習II／オペラ実習２　[月2-3]						
代表教員	境　信博	授業コード	GE245400	科目コード	GE2454	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「オペラ実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

総合芸術であるオペラは、劇場という広い空間でのパフォーマンスが必要になる。オペラの役柄を通して、声での表現、体の動かし方等所作を研究し、習得していく。

２．授業概要

「オペラ実習I」で習学したことを基礎に、更に展開する。
前期は「魔笛」日本語訳を使い、小劇場での演奏法や身体表現を学習する。
また、日本語でのオペラ演奏法を学ぶ。

後期は　『コジ ファン トゥッテ』を教材として二重唱の他、レチタティーヴォ、人数の多い大アンサンブルを主に歌唱法と演技の表現法を研究する。また、大学オペラの合唱も練習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期、後期とも　授業で決定された役の研究、イタリア語のディクション、音取り、作品に関しての研究等をしっかり準備すること。
毎回の授業で、音楽的にも、芝居に関しても注意されたことを次回にはしっかり出来るように予習復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の80%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期　W.A.モーツァルト作曲：
「魔笛」日本語訳
この楽譜は授業側より配布　１月

後期　W.A.モーツァルト作曲：
“Cosi fan tutte”（コジ ファン トゥッテ）
(試演会では数か所となります、実習1より少し演奏範囲が広がります)
＜ベーレンライター版＞

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽稽古では譜読み等準備をしっかりして、積極的に授業に 臨むこと。
立ち稽古では各自、役柄に適した、動きやすい洋服、靴等を準備すること。

相手役がいる授業ですので基本全出席

本年度の前田ホール試演会は１２月で全員出席
昨年と同じく授業外の曜日が本番となるため、他の授業も，
しっかり出席してください。

８月に多摩美術大学とのコラボ公演。
年度末に大学オペラの合唱参加。

授業計画	
	［前期］
1	音楽稽古とセリフ稽古
2	音楽稽古とセリフ稽古
3	音楽稽古とセリフ稽古
4	音楽稽古とセリフ稽古
5	暗譜テスト
6	立ち稽古
7	立ち稽古
8	立ち稽古
9	立ち稽古
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	立ち稽古
13	通し稽古
14	通し稽古(学内公演ゲネプロ)
15	通し稽古（小劇場公演学内ゲネプロ）

授業計画	
	［後期］
1	音楽稽古と曲目研究
2	音楽稽古とディクション
3	音楽稽古とディクション
4	音楽稽古とディクション
5	音楽稽古とディクション
6	音楽稽古と暗譜テスト
7	立ち稽古
8	立ち稽古
9	立ち稽古
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	通し稽古
13	通し稽古
14	ホールでの場当たり稽古
15	ホールでのゲネプロと本番

科目名	オペラ実習III／オペラ実習３　[月3-4]						
代表教員	境　信博	授業コード	GE245500	科目コード	GE2455	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「オペラ実習Ⅱ」の単位取得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

総合芸術であるオペラは、劇場という広い空間でのパフォーマンスが必要となる。オペラの役柄を通して、声の表現、体の表現を研究し習得していく。

２．授業概要

「オペラ実習Ⅰ・Ⅱ」で学習した基礎を更に発展する。
前期は「魔笛」日本語訳を使い、小劇場での演奏法や身体表現を学習する。
また、日本語でのオペラ歌唱法を学ぶ

後期は、一般的に演奏されている演目を主に、歌唱法や表現法を研究。
セヴィリアの理髪師、愛の妙薬、ドン・パスクアーレ、オルフェオ等が現時点で候補
並行して大学オペラの合唱も学習する

小劇場公演は8月
本年度の試演会は12月

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期後期とも、オペラ内容、曲(配役)の研究、ディクション、音取り、等をしっかり準備すること。
毎回の授業で、音楽的にも芝居に関して、注意点はしっかりと改善し、発展して次回演奏できるように予習復習を必ずすること。

４．成績評価の方法及び基準

試演会(評価の20%)
授業への参加姿勢(評価の80%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

小劇場公演用の楽譜は配布
後期授業で演奏する楽譜は各自持参のこと
（ピアニスト等に必要な分、5部をコピーで用意）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽稽古では譜読み等をしっかりと準備して、積極的に授業参加してください。
立ち稽古では各自、役に適した服装や靴をを用意すること。
相手役のいる授業ですので全出席を目指してください。
本年度の前田ホール試演会は12月
例年と同じく授業日以外が公演日となりますので、他の授業もしっかり出席してください。
年度末の大学オペラに合唱参加

授業計画	
	［前期］
1	音楽稽古とセリフ稽古
2	音楽稽古とセリフ稽古
3	音楽稽古とセリフ稽古
4	音楽稽古とセリフ稽古
5	暗譜テスト
6	立ち稽古
7	立ち稽古
8	立ち稽古
9	立ち稽古
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	立ち稽古
13	通し稽古
14	通し稽古（学内公演ゲネプロ）
15	通し稽古（小劇場公演ゲネプロ）

授業計画	
	［後期］
1	音楽稽古と曲目研究
2	音楽稽古とディクション
3	音楽稽古とディクション
4	音楽稽古とディクション
5	音楽稽古とディクション
6	立ち稽古
7	立ち稽古
8	立ち稽古
9	立ち稽古
10	立ち稽古
11	立ち稽古
12	通し稽古
13	通し稽古
14	ホールでの場当たり稽古
15	ホールでのゲネプロと本番

科目名	アンサンブル実習Ⅰ ［金3-4］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE245600	科目コード	GE2456	期間	通年
担当教員	紙谷　弘子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

アンサンブルの素晴らしさや楽しさを味わい、技術的向上と高度の演奏を目指し、定期演奏会、授業成果発表会で演奏することを目標とする。

2．授業概要

オラトリオ（宗教音楽）にとらわれず、バロック、古典派、ロマン派時代等の色々なジャンルのアンサンブルを研修する。
定期演奏会や授業成果発表の演目が授業の中心となる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習や復習を怠らず、原語の反復練習も必ずする事。

4．成績評価の方法及び基準

授業、演奏会への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材、楽譜は適宜準備すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●アンサンブルに興味があり、常に復習や予習をする学生が望ましい。
●10月の「定期演奏会」（霊南坂教会）、1月の「授業成果発表コンサート」に出演すること。

授業計画	
	［前期］ ●定期演奏会の演目を中心に演習していく。 ●２０１９年１月にコンサートを予定している。 ★下記曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある
1	ガイダンス
2	モーツァルト / アヴェ・ヴェルム・コルプス Laudate Dominum 履修者全員で音取り。 これから合わせていく仲間とのハーモニーの確認。
3	モーツァルト / アヴェ・ヴェルム・コルプス Laudate Dominum 各パート毎の音の確認。
4	モーツァルト / アヴェ・ヴェルム・コルプス Laudate Dominum 曲想を感じながら作品の仕上げ
5	モーツァルト：戴冠ミサ 楽譜を確認後、パート別に分かれて練習
6	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習
7	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習後、全体で合わせてみる
8	モーツァルト：戴冠ミサ 曲の全体像を感じながら練習
9	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながらリズム、音程、歌唱法指導
10	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら、発音、歌詞について指導
11	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら練習、ソロ練習
12	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表
13	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表 作品の全体での合わせ、ソロ曲のオーディション箇所を確認。
14	ソリストオーディション
15	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ ソリスト決定後、通し練習。

授業計画	
	［後期］ ●　前半は定期演奏会の演目を演習し、後半は授業成果発表会の演目を演習する。 ★　下記曲目は、履修人数、声種により変更する場合がある。
1	定期演奏会　練習 コンサート　練習
2	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との1回目の練習（予定）
3	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらの練習。
4	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 全体の響きを大切にしながら、指揮者からの指示を確認
5	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との第2回目の練習（予定）
6	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらアンサンブルの確認
7	定期演奏会オーケストラ合わせ
8	声楽アンサンブル第23回定期演奏会
9	ヴィヴァルディ：グローリアミサ パート別練習
10	ヴィヴァルディ：グローリアミサ パート別、全体練習
11	ヴィヴァルディ：グローリアミサ 全体合わせ
12	ヴィヴァルディ：グローリアミサ 全体合わせ。アンサンブルの響きを確認し合う
13	ヴィヴァルディ：グローリアミサ 全体合わせ、ソロ合わせ。ソロの作品を互いに聞き合う
14	コンサートリハーサル
15	コンサート（授業成果発表会）

科目名	アンサンブル実習II ［金3-4］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE245700	科目コード	GE2457	期間	通年
担当教員	紙谷　弘子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「アンサンブル実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「アンサンブル実習I」で学んだ事を基礎として、アンサンブルの素晴らしさや楽しさを味わい、更なる技術的向上と高度の演奏を目指し、定期演奏会、授業成果発表会を目標とする。

2．授業概要

オラトリオ（宗教音楽）にとらわれず、バロック、古典派、ロマン派時代等の色々なジャンルのアンサンブルを研修する。
定期演奏会や授業成果発表の演目が授業の中心となる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習や復習は怠らず、原語の反復練習を必ずする事。

4．成績評価の方法及び基準

授業、演奏会への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材、楽譜は適宜準備すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●　アンサンブルに興味があり、常に復習、予習をする学生が望ましい。
●10月の「定期演奏会」、2018年1月に予定されている「授業成果発表コンサート」に出演すること。

授業計画	
	［前期］ ●定期演奏会の演目を演習する。 ●２０１９年１月にコンサートを予定している。 ★下記曲目は履修者の人数、声種により変更の可能性がある。
1	ガイダンス
2	フォーレ：小ミサ パート別の音取り
3	フォーレ：小ミサ 1曲ずつ音取り後、ハーモニーの確認
4	フォーレ：小ミサ　他 1曲ずつ音取り後、ハーモニーの確認、歌唱法指導
5	モーツァルト：戴冠ミサ 楽譜を確認後、パート別に分かれて練習
6	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習
7	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習後、全体合わせ
8	モーツァルト：戴冠ミサ 曲の全体像を感じながら練習
9	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながらリズム、音程、歌唱法指導
10	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら、発音、歌詞について指導
11	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら練習、ソロ練習
12	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表
13	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表 作品の全体での合わせ、ソロ曲のオーディション箇所を確認。
14	ソリストオーディション
15	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ ソリスト決定後、通し練習。

授業計画	
	［後期］ ●　前半は定期演奏会の演目を演習し、後半は授業成果発表会の演目を演習する。 ★　下記曲目は、履修人数、声種により変更する場合がある。
1	定期演奏会　練習 コンサート　練習
2	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との1回目の練習（予定）
3	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらの練習。
4	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 全体の響きを大切にしながら、指揮者からの指示を確認
5	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との第2回目の練習（予定）
6	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらアンサンブルの確認
7	定期演奏会オーケストラ合わせ
8	声楽アンサンブル第23回定期演奏会
9	フォーレ：小ミサ　他 1曲ずつ音を再確認、音楽表現を工夫
10	フォーレ：小ミサ　他 アンサンブル実践
11	フォーレ：小ミサ　他 個々に課題を決めアンサンブル実践
12	フォーレ：小ミサ　他 少人数でのアンサンブルを組み互いに聞き合う
13	フォーレ：小ミサ　他 少人数でのアンサンブルを組み互いに聞き合う 合同練習
14	コンサートリハーサル
15	コンサート（授業成果発表会）

科目名	アンサンブル実習III ［金3-4］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE245800	科目コード	GE2458	期間	通年
担当教員	紙谷　弘子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「アンサンブル実習Ⅱ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「アンサンブル実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基礎として、技術的向上と高度な演奏を目指し、定期演奏会、授業成果発表会で演奏することを目標とする

2．授業概要

カンタータやミサ曲の重唱作品を中心に、様々な時代の色々なジャンルのアンサンブルを研修する。
定期演奏会や、授業成果発表会の演目が授業の中心となる

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習復習を怠らず、原語の反復練習も必ずやること。

4．成績評価の方法及び基準

授業、演奏会への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材、楽譜は適宜準備すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- アンサンブルに興味を持ち、予習復習をする学生が望ましい。
- 10月の「定期演奏会」、1月に予定されている「授業成果発表コンサート」に出演すること。

授業計画	
	［前期］ ●定期演奏会の演目を中心に演習していく。 ●２０１９年１月にコンサートを予定している。 ★下記曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある
1	ガイダンス
2	カンタータ、ミサ曲の楽譜を確認。各自学びたい作品を選ぶ
3	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。各パートの音確認
4	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。各パートの音、歌詞の確認
5	モーツァルト：戴冠ミサ 楽譜を確認後、パート別に分かれて練習
6	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習
7	モーツァルト：戴冠ミサ パート練習後、全体で合わせてみる
8	モーツァルト：戴冠ミサ 曲の全体像を感じながら練習
9	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながらリズム、音程、歌唱法指導
10	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら、発音、歌詞について指導
11	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 曲の全体像を感じながら練習、ソロ練習
12	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表
13	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指定組み合わせでの発表 作品の全体での合わせ、ソロ曲のオーディション箇所を確認。
14	ソリストオーディション
15	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ ソリスト決定後、通し練習。

授業計画	
	［後期］ ●　前半は定期演奏会の演目を演習し、後半は授業成果発表会の演目を演習する。 ★　下記曲目は、履修人数、声種により変更する場合がある。
1	定期演奏会　練習 コンサート　練習
2	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との1回目の練習（予定）
3	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらの練習。歌唱法指導
4	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 全体の響きを大切にしながら、指揮者からの指示を確認
5	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者との第2回目の練習（予定）
6	モーツァルト：戴冠ミサ モーツァルト：雀のミサ 指揮者からの指示を確認しながらアンサンブルの確認
7	定期演奏会オーケストラ合わせ
8	声楽アンサンブル第23回定期演奏会
9	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。発音指導、各パートの復習
10	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。各パートの確認、歌唱指導
11	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。各パートの確認。歌詞の内容を理解し適した表現を実践する
12	カンタータ、ミサ曲のアンサンブル。各パートの確認。歌詞の内容を理解し表現しながら演奏する
13	コンサートでの曲の流れを確認、互いの演奏を聞き合う
14	コンサート　リハーサル
15	コンサート（授業成果発表会）

科目名	合唱活動指導法１　[火5]						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE271100	科目コード	GE2711	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う４年生
3	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う３年生
4	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う２年生
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる。
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括。

科目名	合唱活動指導法２　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE271200	科目コード	GE2712	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う４年生
3	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う３年生
4	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う２年生
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括。

科目名	リコーダーアンサンブル１　［木3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271600	科目コード	GE2716	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME, GT	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	レパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	レパートリー選び(2)試演
4	レパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括

科目名	リコーダーアンサンブル２　［木3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271700	科目コード	GE2717	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	ME, GT	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	演奏会のレパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	演奏会のレパートリー選び(2)試演
4	演奏会のレパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括

科目名	リコーダーアンサンブル３　［木3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271800	科目コード	GE2718	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME, GT	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	演奏会のレパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	演奏会のレパートリー選び(2)試演
4	演奏会のレパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括

科目名	邦楽実習（民謡）１～４　［金5］						
代表教員	柿﨑　竹美	授業コード	GE272100	科目コード	GE2721d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本の民謡について、特徴的な発声（地声）や技法（こぶし・間・訛りや方言等）を体験的に学ぶ。
「民謡って何だろう・・」を学び、また唄い継ぐ人々の想いについて理解を深め、現代の音楽を通して民謡のあり方や可能性について学ぶ。到達目標としては学年末に課題曲3～4曲程の民謡を唄えるようにしたい。

２．授業概要

民謡の発声・技法等を学び課題曲を唄う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．前期3回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（特に実際の歌唱に積極的に参加する姿勢、評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講義中随時配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語・飲食物の持ち込み及び携帯電話使用は厳禁する。「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	［前期］ 「民謡って何だろう？」を学ぶ。呼吸法～技法、民謡曲3曲の唄の実演
1	民謡に関する基礎知識～唄の種類～唄の特性
2	民謡の呼吸法・基本的な発声（地声の出し方） 民謡の技法～こぶし
3	民謡課題曲《ソーラン節》解説～①声を出して唄ってみる（発声の仕方）
4	民謡課題曲《ソーラン節》②こぶしを学ぶ 民謡課題曲《ソーラン節》③みんなで唄ってみる
5	民謡課題曲《ソーラン節》④一人ずつ唄ってみる
6	民謡課題曲《斉太郎節》解説～①声を出して唄ってみる
7	民謡課題曲《斉太郎節》②こぶしを学ぶ 民謡課題曲《斉太郎節》③みんなで唄ってみる
8	民謡課題曲《斉太郎節》④一人ずつ唄ってみる
9	民謡課題曲《花笠音頭》解説～①声を出して唄ってみる～この曲には花笠を使った花笠踊りもあることを知る
10	民謡課題曲《花笠音頭》花笠作成①
11	民謡課題曲《花笠音頭》花笠作成②
12	民謡課題曲《花笠音頭》踊り指導Ⅰ
13	民謡課題曲《花笠音頭》踊り指導Ⅱ
14	民謡課題曲《ソーラン節》《斉太郎節》《花笠音頭》復習
15	民謡課題曲《ソーラン節》《斉太郎節》《花笠音頭》復習～独唱 民謡の踊り：手踊りもあることを知る

授業計画	
	［後期］ 前期のソーラン節・斉太郎節・花笠音頭3曲の復習、新曲1曲の課題曲～まとめ
1	前期 《ソーラン節》 《斉太郎節》 《花笠音頭》の復習
2	民謡課題曲《秋田音頭》①訛り・方言を学ぶ 民謡課題曲《秋田音頭》②唄ってみる
3	民謡課題曲《秋田音頭》③オリジナルの歌詞を作ってもらう
4	民謡課題曲《秋田音頭》④この曲には手踊りがある～踊り指導Ⅰ
5	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅱ
6	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅲ
7	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅳ
8	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅴ
9	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅵ
10	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅶ
11	民謡課題曲《秋田音頭》⑤唄～踊り指導Ⅷ
12	民謡課題曲～前期後期曲の復習①
13	民謡課題曲～前期後期曲の復習②
14	実技試験・まとめ等
15	実技試験・まとめ等

科目名	言語表現演習I （前） ［火3］						
代表教員	重本　正明	授業コード	GE272500	科目コード	GE2725	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

相手に伝えたい内容を最適な形にまとめ、相手やその場の状況に応じて言葉を微調整しながら、インパクト重視の個性溢れる表現方法で伝えることができるようにしましょう。

２．授業概要

毎回、与えられた課題を実践的に表現することで、言葉の広く深い世界の中から最大限の楽しさを引き出す訓練をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

言語表現能力を向上させるためには、常に実践を繰り返すことが一番効果的です。各段階の演習内容を、研究発表の場や日常生活のコミュニケーション時に試し効果を確認するように心掛けてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（４０%）
授業内容の理解と表現意欲（３０%）
達成度試験の成績（３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト・課題はその都度配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テーマは言葉を使って楽しさを表現することです。どのような状況においても常に楽しさを見出すことを心掛けて欲しいし、それを実践する授業でありたいと思います。

授業計画	
	［半期］
1	台本を元にした言語表現（1）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（1）
2	台本を元にした言語表現（2）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（2）
3	台本を元にした言語表現（3）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（3）
4	台本を元にした言語表現（4）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（4）
5	台本を元にした言語表現（5）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（5）
6	台本を元にした言語表現（6）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（6）
7	子音変換による言葉のイメージ化（1）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（7）
8	子音変換による言葉のイメージ化（2）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（8）
9	子音変換による言葉のイメージ化（3）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（9）
10	リズムとテンポと間の実践（1）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（10）
11	リズムとテンポと間の実践（2）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（11）
12	リズムとテンポと間の実践（3）　童謡唱歌によるコミュニケーション法（12）
13	音楽劇を用いて楽しく表現をするための技術を実践的に確認し向上させる（1）
14	音楽劇を用いて楽しく表現をするための技術を実践的に確認し向上させる（2）
15	楽しさを目的とした個性的言語表現の実践

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	言語表現演習II （後） ［火3］						
代表教員	牛頭　真也	授業コード	GE272600	科目コード	GE2726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義・演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「言語表現演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽」は、私たちの生活の中での大事なコミュニケーション・ツールの一つであり、同じコミュニケーション・ツールである「言語」と重なり合うことで、さらに豊かな表現の世界へ発展させることができる。そうした可能性に向け、この授業では音楽について書かれた文章を正確に読み解き、かつ音楽に関して自らの文章表現をする基礎能力を養うことを目標とする。

２．授業概要

(1)音楽関連書籍・雑誌の文章を読解し、その中でポイントとなる情報をおさえる練習（要約文作成）、(2)曲目解説の執筆、(3)教員採用試験での論作文練習、の三つを柱として、文章表現の訓練を行う。本授業を通して「音楽の教員として必要とされる基礎知識を身に付ける」「音楽作品のさまざまな構造と曲想との関わりを考えながら、それを言葉で説明する」「自らの意見や考えを適切に表現する」ための訓練を行い、教育現場のみならず様々な場で役立つ理解力・表現力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習に関しては、日頃よりなるべく多くの活字に触れ、内容を整理するトレーニングを重ねることを勧める。復習に関しては、課題の添削箇所を必ず確認したうえで、修正版を提出すること。疑問点があれば積極的に質問をしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題提出、授業態度 等）　70%
学期末レポート　30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回資料配付。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日頃より様々な文章を読む習慣、自発的に文章を書く習慣を身に付けることがそのまま文章力上達へとつながるので、積極的な態度で臨んでほしい。

授業計画	
	［半期］
1	導入：音楽と言葉
2	文体と書式について
3	文法について
4	要約文の作成（1)ポイントをどう読み取るか?
5	要約文の作成（2)ポイントをどうまとめるか?
6	曲目解説：参考文献について
7	曲目解説：楽曲構造の表現
8	曲目解説：歌詞や台本の説明
9	意見・主張の書き方
10	曲目解説文の作成（1）基本データ(作曲年等)について
11	曲目解説文の作成（2)楽曲の内容について
12	演奏批評の作成
13	論作文課題（1）論理的叙述と全体の構成をポイントに
14	論作文課題（2)表記や細かな言い回し等の推敲を中心に
15	総括と自己評価

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	身体表現演習I （前） ［水5］						
代表教員	野火　杏子	授業コード	GE272700	科目コード	GE2727	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・MS・BL	科目分類	必修科目				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

南インド古典舞踊、インドミュージカルダンス(ボリウッドダンス)の基礎に触れ、簡単な演目を覚える。（進行は学生の到達状況に合わせます。）

2．授業概要

南インド古典舞踊バラタナティヤムの基本ステップの初歩や理論を実践し、発表する。
ボリウッドダンスの曲を習得し、発表する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

基本ステップ、ハスタ、演目を覚える。

4．成績評価の方法及び基準

教場で実技試験を行う。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

その度にコピーし配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

インド舞踊に興味があり、ハードな運動について来られる者。
少なくとも、身体を動かすことが好きであること。

授業計画	
	前期演目「Ganesha Kautvam」 ボリウッドダンス 演目 未定
1	インド舞踊の解説
2	Tattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
3	Tattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
4	Nattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
5	Nattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
6	Nattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
7	Nattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
8	Nattu Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
9	Paraval Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
10	Paraval Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
11	Paraval Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
12	Paraval Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
13	Paraval Adavus,Asamyuta Hastas,演目 GK
14	演目のまとめ
15	演目の評価

授業計画	
1	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
2	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
3	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
4	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
5	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
6	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
7	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
8	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
9	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
10	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
11	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
12	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
13	古典舞踊の基本ステップ、理論を習得。 ボリウッドダンスの習得。
14	演目のまとめ
15	演目の評価

科目名	身体表現演習Ⅰ （前） ［木1］AS専用(日舞)						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE2727A0	科目コード	GE2727	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本舞踊特有の動きを学ぶと同時に着物を着ての美しい所作や邦楽曲の独特な音の間の取り方を学ぶなど様々な日本の伝統に触れ、自然と日常にも取り入れられるようしっかりと身に付ける。

２．授業概要

日本舞踊特有の動きを学ぶ。邦楽（主に長唄）の曲で踊る。所作を学ぶことにより仕草を美しくする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後必ず復習を反復して行う。また、日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０%、授業内テスト３０%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子も用意することが望ましい。

授業計画	
1	着物の着方、簡単な所作
2	着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
4	基礎的な踊り（まとめ）
5	課題曲１（導入）
6	課題曲１（役による体の使い方）
7	課題曲１（曲全体の把握）
8	課題曲１（振りと音の確認）
9	課題曲１（まとめ）
10	男の踊りの身体の使い方、課題曲２（導入）
11	課題曲２（振りと所作）
12	課題曲２（曲全体の把握）
13	課題曲２（振りと音の確認）
14	課題曲２（まとめ）
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	身体表現演習Ⅰ （前） ［木1］AS専用(狂言)						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE2727B0	科目コード	GE2727	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。小舞「宇治の晒し」謡。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。小舞「暁」後半部の謡
11	小舞「暁」（後半部）の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	身体表現演習II （後） ［水5］						
代表教員	うえだ　ななこ	授業コード	GE272800	科目コード	GE2728	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・MS・BL・AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「身体表現演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

身体を使って踊る・動く・試す・遊ぶ・クリイトしていく。
その中で身体を使って表現する楽しさや難しさを知り、新しい経験を増やし、自分を発見していく。

柔軟な発想力をもてるようにする。

受講生の発表の機会を設ける。

将来的に健康で長く使える体作りを知る。

２．授業概要

体やイメージを使って、時間・空間・質感・量感等にアプローチしていく。

解剖学や運動感覚の生理学にのっとった、踊る為の基礎身体づくり。 基礎体力づくり。

生徒達で短い作品をクリエイションする。

振り付けを覚える。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習・成果発表への自主的な練習

４．成績評価の方法及び基準

自分に対して真摯に取り組んでいるか。
授業に対して意欲的であるか。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使う音楽、作品クリエイションの為の音楽・内容などは、受講生と意見を出し合い、決定。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

やる気・積極性のある人。
色々な状況に興味をもち、未経験の事に対しても意欲を持って積極的に楽しもうと出来る人。

授業計画	
	[半期]後期
1	ガイダンス＆意見交換。ウォームアップ。
2	基礎練習（初級）
3	基礎練習（初級）
4	基礎練習（初・中級）
5	基礎練習（初・中級）
6	応用編（振付練習など）
7	応用編（振付練習など）
8	クリエイション
9	クリエイション
10	クリエイション
11	クリエイション
12	クリエイション
13	クリエイション
14	リハーサル
15	作品発表

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	身体表現演習II （後） ［木1］AS専用（狂言）						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE2728A0	科目コード	GE2728	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。小舞「宇治の晒し」謡。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。小舞「暁」後半部の謡
11	小舞「暁」（後半部）の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	身体表現演習II （後） ［木1］AS専用（日舞）						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE2728BO	科目コード	GE2728	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本舞踊特有の動きを学ぶと同時に着物を着ての美しい所作や邦楽曲の独特な音の間の取り方を学ぶなど様々な日本の伝統に触れ、自然と日常にも取り入れられるようしっかりと身に付ける。

２．授業概要

日本舞踊特有の動きを学ぶ。邦楽（主に長唄）の曲で踊る。所作を学ぶことにより仕草を美しくする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後必ず復習を反復して行う。また、日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０%、授業内テスト３０%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子も用意することが望ましい。

授業計画	
1	着物の着方、簡単な所作
2	着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
4	基礎的な踊り（まとめ）
5	課題曲１（導入）
6	課題曲１（役による体の使い方）
7	課題曲１（曲全体の把握）
8	課題曲１（振りと音の確認）
9	課題曲１（まとめ）
10	男の踊りの身体の使い方、課題曲２（導入）
11	課題曲２（振りと所作）
12	課題曲２（曲全体の把握）
13	課題曲２（振りと音の確認）
14	課題曲２（まとめ）
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合唱実習１　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE272900	科目コード	GE2729	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う４年生
3	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う３年生
4	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う２年生
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括

科目名	合唱実習２　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE273000	科目コード	GE2730	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う４年生
3	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う３年生
4	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う２年生
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括

科目名	音楽創作ワークショップ１　[木5]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273500	科目コード	GE2735	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・CO	科目分類	ME/CO専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を、つくるための手がかりとし、それを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究ための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の50%)と各期末のレポート提出または実技試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年（文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸)編」 平成22年（文部科学省）
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］担当　金井公美子 『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	ドットによる創作演習
3	学習指導要領：創作
4	音楽素材の教材化について
5	ヴォイスアンサンブルを通じて①ガイダンス
6	ヴォイスアンサンブルを通じて②研究
7	ヴォイスアンサンブルを通じて③実践
8	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作①ガイダンス
9	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作②研究
10	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作③実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	ブルースの歌唱を通して①ガイダンス
13	ブルースの歌唱を通して②研究
14	ブルースの歌唱を通して③実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］担当　佐藤昌弘 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J. S. バッハの作品を例に
3	変奏の手法について
4	反復の手法について
5	反復、変奏に基づく創作の実践
6	ペンタトニック、全音音階について
7	教会旋法、移調の限られた旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	音楽創作ワークショップ２　［木5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273600	科目コード	GE2736	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を、つくるための手がかりとし、それを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究ための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の50%)と各期末のレポート提出または実技試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年（文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸)編」 平成22年（文部科学省）
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］担当　金井公美子 『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	ドットによる創作演習
3	学習指導要領：創作
4	音楽素材の教材化について
5	ヴォイスアンサンブルを通じて①ガイダンス
6	ヴォイスアンサンブルを通じて②研究
7	ヴォイスアンサンブルを通じて③実践
8	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作①ガイダンス
9	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作②研究
10	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作③実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	ブルースの歌唱を通して①ガイダンス
13	ブルースの歌唱を通して②研究
14	ブルースの歌唱を通して③実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］担当　佐藤昌弘 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J. S. バッハの作品を例に
3	反復の手法について
4	変奏の手法について
5	反復、変奏に基づく創作の実践
6	ペンタトニック、全音音階について
7	教会旋法、移調の限られた旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	音楽創作ワークショップ３　[木5]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273700	科目コード	GE2737	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を、つくるための手がかりとし、それを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究ための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の50%)と各期末のレポート提出または実技試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年（文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸)編」 平成22年（文部科学省）
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］担当　金井公美子 『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	ドットによる創作演習
3	学主指導要領：創作
4	音楽素材の教材化について
5	ヴォイスアンサンブルを通じて①ガイダンス
6	ヴォイスアンサンブルを通じて②研究
7	ヴォイスアンサンブルを通じて③実践
8	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作①ガイダンス
9	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作②研究
10	リコーダーを通して、音楽の特徴をふまえた創作③実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	ブルースの歌唱を通して①ガイダンス
13	ブルースの歌唱を通して②研究
14	ブルースの歌唱を通して③実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］担当　佐藤昌弘 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J. S. バッハの作品を例に
3	反復の手法について
4	変奏の手法について
5	反復と変奏に基づく創作の実践
6	ペンタトニック、全音音階について
7	教会旋法、移調の限られた旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	邦楽実習（箏）１～４　[月5]						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE274100	科目コード	GE2741d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年学校教育現場や社会の様々な場で日本音楽が重視されて来ています。
本授業はそれに対応できることを目標とし、基本奏法から小中学生が演奏できる曲や、「さくら」「六段」などの教科書収載曲の演奏法を身につけます。さらには、楽器の扱いや、流派の相違など基礎的な知識を身につけ、古典や現代の箏曲の知見を深めることを目指しています。

２．授業概要

前期は基本奏法を中心に「さくら」や「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、後期は「六段」や「合奏曲」をしながら色々な奏法を身に付け、アンサンブルも楽しみたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む復習をする。希望者は楽器の購入も可能。楽器での奏法予習、復習が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の８０％）
学年末実技テスト（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜：
プリントを配布します。
必要に応じて、楽譜を購入すること。
テキスト：
『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著
現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３ 箏をひいてみよう』
現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は初回の授業で爪を購入すること。
〈１組 6,480円税込。各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本奏法１
3	基本奏法２
4	基本奏法３
5	基本奏法４
6	応用練習１
7	応用練習２
8	応用練習３
9	応用練習４
10	「六段」奏法説明
11	「六段」演奏練習１
12	「六段」演奏練習２
13	「簡単な合奏曲」練習１
14	「簡単な合奏曲」練習２
15	「簡単な合奏曲」練習３

授業計画	
	［後期］
1	「六段」復習１
2	「六段」復習２
3	「六段」復習３
4	「六段」復習４
5	「六段」復習５ 「合奏曲」奏法説明１
6	「合奏曲」奏法説明２
7	「合奏曲」奏法練習１
8	「合奏曲」奏法練習２
9	「合奏曲」奏法練習３
10	「合奏曲」奏法練習４
11	「合奏曲」合奏練習１
12	「合奏曲」合奏練習２
13	「合奏曲」合奏練習３
14	「合奏曲」合奏練習４
15	「合奏曲」合奏練習５

科目名	即興伴奏法　[月5]						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE276100	科目コード	GE2761	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・小学校　中学校　高等学校における音楽の授業及び、生涯音楽教育に役立つ即興伴奏の技術を身につける。
・コードネームが書かれた楽譜に基づき、ピアノで即興伴奏ができるようになる。
・旋律を弾かない伴奏（両手伴奏）及び、旋律を弾く伴奏（メロディ奏）の基礎的な技術を身につける。
・メロディに合う和音を付け、ベースラインを考慮に入れながら伴奏を作成する。

2．授業概要

・コード（和音）そのものと、和音進行（和声感）を理解し、簡単なメロディにコードをつけて伴奏できるようにする。
・いろいろなリズムパターンを習得し、コードのみの譜面で伴奏する。
・いろいろな音階（モード）を使って即興伴奏をする。
・伴奏しながら歌う（弾き歌い）ことを習得する。
・一人一台のピアノで授業を行うのを理想としているので、授業全体を通し複数でのセッションを積極的に取り入れる。積極的に参加することにより、教育現場等の様々な場面をシュミレートすることができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を学ぶ学生は大学の外でも音楽に触れる機会があるだろう。例えば個人入会しているピアノ等の教室、
ボランティアの活動中、もちろん自宅での練習等。そんな時は積極的にピアノ伴奏をして欲しい。
授業で学習したことは、実地で生かすよう、日頃から意識して伴奏する機会を自分自身で作るよう努力する。

4．成績評価の方法及び基準

実技試験（授業内発表を含む）評価の30%
授業への参加姿勢　評価の70%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・プリントによる自主テキストを用いる
・中・高音楽教科書
・『ポピュラーリズムの弾き方』ジョン・プリムホール著（ATM.inc.）1968
・『歌謡曲のすべて』上・下（全音楽譜出版社）2004

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

欠席する際は事前連絡をすること。
楽典や和声の知識が必要になるので、復習すること。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーション
2	コードの成り立ちⅠ　三和音
3	コードの成り立ちⅡ　セブンス
4	コードの成り立ちⅢ 複雑な和音
5	ベース及びベースライン
6	簡単なコード伴奏実践Ⅰ　抜粋して練習
7	簡単なコード伴奏実践Ⅱ 一曲弾く
8	コード伴奏応用Ⅰ（両手伴奏）
9	コード伴奏応用Ⅱ ポジションを変えて
10	いろいろな伴奏型Ⅰ3拍子・4拍子の主なリズム系
11	いろいろな伴奏型Ⅱ ラテンリズム
12	いろいろな伴奏型Ⅲ　弾き歌いⅠ
13	両手伴奏まとめ　　弾き歌いⅡ
14	両手伴奏まとめ（移調含）　　弾き歌いⅢ
15	前期到達発表

授業計画	
	［後期］
1	旋律を弾く伴奏Ⅰ　コードの開離配置
2	旋律を弾く伴奏Ⅱ　ベースラインの確認
3	旋律を弾く伴奏Ⅲ　内声の響き
4	コード設定Ⅰ　簡単なコード付け
5	コード設定Ⅱ　付加音　代理コード
6	前奏と後奏Ⅰ　前奏
7	前奏と後奏Ⅱ　後奏
8	モードを使った伴奏Ⅰ　日本音階
9	モードを使った伴奏Ⅱ　ブルース
10	モードを使った伴奏Ⅲ　実践
11	コードの拡張（テンション）
12	複数の声部を弾く・移調
13	４声帯を弾く　弾き歌いⅣ
14	4声帯を弾く・移調　　弾き歌いⅤ
15	まとめ　コード伴奏・弾き歌い　発表

科目名	音楽教育演習II ［火4］						
代表教員	牛頭　真也	授業コード	GE277400	科目コード	GE2774	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	講義および演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「音楽教育演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

［主題］音楽教育とは何か―その現代と歴史を知る
［到達目標］音楽教育に関わる基本的な内容について、講義により得た知識･知見に基づき、受講生各自の研究テーマを追求する力を養う。

２．授業概要

次年度以降の「音楽教育演習Ⅲ」および「卒業研究」の礎となる科目であり、「音楽教育演習Ｉ」での学びを踏まえ、音楽教育の基本的な内容・課題について、現代と歴史の幅広い視野から、実習を交えつつ理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各時の授業の配付資料等をファイルし、必ず復習しておくこと。受講生の発表の際には、教員と綿密に連絡を準備すること。その他、平素、さまざまな音楽教育の場面に常に関心を持ち、また自分にとっての音楽とは何かを振り返り、周囲の人々の音楽の楽しみ方にも注意を向けておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の30%）　受講態度（評価の35%）　実習・発表を含む授業への参加姿勢（評価の35%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『中等科音楽教育法』（音楽之友社）
その他は資料を作成し、配布する。
参考文献はテーマに応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コースの学生にとって要ともいえる授業科目であり、平素から受講生自身の研究の関心を少しずつ焦点化していくよう心がけて欲しい。

授業計画	
	［前期］現代の音楽教育
1	導入：「音楽教育」とは
2	(1)音楽の原点1－音を聴く・探す・記録する
3	(1)音楽の原点2―音楽を協働する
4	(2)特色ある音楽教育法1―カール･オルフ
5	(2)特色ある音楽教育法2―カール・オルフ(続)
6	(2)特色ある音楽教育法3―コダーイ･ゾルターン
7	(2)特色ある音楽教育法4－コダーイ・ゾルターン(続)
8	(2)特色ある音楽教育法5－エミール・ジャック＝ダルクローズ
9	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育1－アメリカ
10	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育2―イギリス
11	(4)日本の音楽教育の現代的課題1―学習指導要領
12	(4)日本の音楽教育の現代的課題2―伝統音楽
13	(4)日本の音楽教育の現代的課題3―伝統音楽(続)
14	(4)日本の音楽教育の現代的課題4―生涯学習と地域
15	総括

授業計画	
	［後期］音楽教育の歴史
1	(1)西洋の音楽教育1―音楽教育の起源
2	(1)西洋の音楽教育2―古代ギリシャの音楽教育
3	(1)西洋の音楽教育3―プラトンとアリストテレス
4	(1)西洋の音楽教育4―古代ローマの音楽教育
5	(1)西洋の音楽教育5―中世の音楽教育
6	(1)西洋の音楽教育6―ネウマ譜と階名唱法
7	(1)西洋の音楽教育7―教育自然主義と音楽教育
8	(1)西洋の音楽教育8―まとめ
9	(2)日本の音楽教育1―古代・中世
10	(2)日本の音楽教育2―近世
11	(2)日本の音楽教育3―伊沢修二の功績
12	(2)日本の音楽教育4―文部省唱歌
13	(2)日本の音楽教育5―童謡と軍歌
14	(2)日本の音楽教育6―学習指導要領の変遷
15	総括

科目名	音楽教育演習III ［火4］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GE277500	科目コード	GE2775	期間	通年
担当教員	塚原　健太						
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「音楽教育演習Ⅱ」の単位取得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「主題」音楽教育における今日的課題
「到達目標」音楽教育に関わる基本的な内容について、講義・演習により得た知識・知見に基づき、受講生各自の研究テーマを焦点化していく力を養う。

2．授業概要

昨年度の「音楽科教育法Ⅱ」から得た知識・知見を礎に、各自の卒業論文作成を視野に入れた受講生の研究テーマを探求する。各自の研究テーマに即し、演習を主体として進めていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の授業の配付資料などをファイルし、必ず復習しておくこと。受講生の発表の際には、教員と綿密に連絡を取り準備すること。その他、平素、さまざまな音楽教育の場面に常に関心を持ち、また自分にとっての音楽とは何かを振り返り、周囲の人々の音楽の楽しみ方にも興味・関心を持つこと。

4．成績評価の方法及び基準

受講状況・個人発表(評価の50%)
学期末レポート(評価の50%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『中等科音楽教育法』(音楽之友社)
その他は資料を作成し、配布する。
参考文献はテーマに応じて指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コースの学生にとって要ともいえる授業科目であり、平素から受講生自身の研究の関心を少しずつ焦点化していくように心がけて欲しい。

授業計画	
	[前期] 研究課題の探求
1	導入：卒業論文に向けて
2	小学校授業実践の内容と方法①
3	小学校授業実践①の分析と改善
4	小学校授業実践の内容と方法②
5	小学校授業実践②の分析と改善
6	小学校授業実践の内容と方法③
7	小学校授業実践③の分析と改善
8	調査研究の方法
9	調査研究の分析
10	研究テーマの探索
11	研究テーマ選択の方法
12	研究テーマに沿った中間プレゼンテーション(1)
13	研究テーマに沿った中間プレゼンテーション(2)
14	研究テーマに沿った中間プレゼンテーション(3)
15	総括

授業計画	
	[後期] 卒業論文準備
1	導入：音楽教育の研究を始めるために（関心の言語化）
2	音楽教育研究の領域・方法
3	文献検索・管理の方法
4	文献収集・先行研究リビューの方法
5	各自のテーマに関わる先行研究の探索
6	先行研究のリビュー(1)
7	先行研究のリビュー(2)
8	先行研究のリビュー(3)
9	先行研究のリビュー(4)
10	先行研究のリビュー(5)
11	研究テーマの焦点化
12	研究方法の吟味
13	研究計画の作成方法
14	卒業研究計画の作成
15	卒業研究計画の発表

科目名	邦楽実習（笛） １～４　［木4］						
代表教員	西川　浩平	授業コード	GE279100	科目コード	GE2791d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本の「横笛」という楽器からどのような音を連想するだろうか。「ピーヒャララ」と聞こえる昔懐かしい祭囃子の音かもしれない。それでは何故、日本の横笛は「ピーヒャララ」と聞こえるのだろう。

本授業の主題は、実際に横笛を体験学習していく中で、日本の音楽とはどのようなものなのか、また他国の音楽との違いを考えるところにある。

現在、音楽の教育環境は、クラシック音楽を中心としながらも、邦楽を始め、他の地域の音楽をグローバルな視点で捉えようとする流れとなっている。日本音楽のみならず、自分の専門以外の音楽への理解、視野を広げることが一年を通しての到達目標となる。

二年目以降の受講生には、一年目とは異なる実践、また教える立場としての視点で課題を提示する。

２．授業概要

前期：篠笛の基礎的な奏法を学ぶとともに、楽器の持つ特徴、歴史、他の地域の音楽とを比較し概説する。
後期：引き続き奏法を学びながら、クラスの中でどのようなアンサンブルを組めるか、実際のステージを想定し、音創りを実践する。
学生の専攻コースにより、クラスはどのようなメンバー構成になるか分からないが、クラスを多ジャンルの集まった一つのアンサンブルと見立てて、独自の音楽創りを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

どのような楽器であっても、週一回の授業時間内だけでは楽器の習得は望めない。各自の練習は必須である。また発表のステージを想定したアンサンブル練習には、自主練習なども想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
クラスでの発表などの成果（評価の５０％）〃

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プラスチック篠笛〔七本調子〕（￥1,800程度）をドミナントにて購入。篠笛は個人持ち。
必要な資料は、授業の中でそのつど配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

週一回（９０分）の「グループ・レッスン」となるので、積極参加が望まれる。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。篠笛の構え、音の出し方
2	篠笛実習。日本の横笛の特徴を考える。
3	篠笛実習、太鼓、その特徴と横笛との関係。
4	篠笛実習。能楽と能管の概説。
5	篠笛実習。能楽と能管の概説②
6	篠笛実習。唄を伴う楽器を概説 三味線（またはその他の楽器）を予定
7	篠笛実習。唄を伴う楽器を概説② 三味線（またはその他の楽器）を予定
8	篠笛実習。唄を伴う楽器を概説③ 三味線（またはその他の楽器）を予定
9	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる①
10	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる②
11	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる③
12	本授業のまとめ
13	本番を想定した模擬練習
14	発表 クラスの中での発表
15	（発表予備日） 発表結果の反省、資料をまとめる

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス。篠笛復習
2	篠笛実習 歌舞伎に使われる音楽をテキストとして
3	篠笛実習 歌舞伎に使われる音楽をテキストとして②
4	能楽と能管の概説。能楽のアンサンブル実習
5	能楽と能管の概説。能楽のアンサンブル実習②
6	唄を伴う楽器を学習① 箏（またはその他の楽器）を予定
7	唄を伴う楽器を学習② 箏（またはその他の楽器）を予定
8	唄を伴う楽器を学習③ 箏（またはその他の楽器）を予定
9	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる①
10	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる②
11	横笛を含めた合奏練習。本クラスの特徴を最大限生かした発表の機会を立案し、具体的な練習計画を立てる③
12	本授業のまとめ
13	本番を想定した模擬練習
14	発表
15	（発表予備日） 発表結果の反省、資料をまとめる

科目名	教育ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ1～4　[月4]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE279600	科目コード	GE2796d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

この授業では、音楽教育の分野で極めて重要な役割を果たすアンサンブル（合奏）について、一から考察し、学習をしていきながら、演習を重ねていく。実際の教育の現場では、十分に楽器が揃っていなかったり、生徒たちの演奏能力がまちまちであったり、編成に見合った編曲譜がなかったりすることが実にしばしばであり、そのような環境においても、楽しく実り大きな指導というものが求められている昨今である。このような現場での多様なニーズに応えられるように、授業を通じて自らも実際の合奏に参加し、知識や経験を積んでいくことが当講座の主眼となる。この授業で習得したことが、将来の教育現場での指導法、教材の開発へとつながっていくことを望む。

2．授業概要

前期は、履修者の音楽スキルに見合った合奏形態の検討と確立を核として授業を進めていく。後期は、「音楽教育コース定期演奏会」出演に向けての合奏練習と、合奏指導のシミュレーションを核として授業を進めていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏楽曲のアンサンブルを仕上げていくために、各自が準備、練習等、積極的に取り組む必要がある。それは履修者各自が個人で行うものと、履修者同士が互いに力を合わせてみんなでつくりあげていくものの両面にわたり積極的な姿勢が望まれる。そして「音楽教育コース定期演奏会」での出演という機会が、この講座での学習の成果発表の場となる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲等）を評価の100%とする。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介をしていく。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習 【基礎編】
1	ガイダンス～合奏で音楽を作り上げていくといことは、どういうことか？
2	概論1：合奏形態についての考察～デュオからオーケストラまで
3	概論2：楽譜から何を読み取り、何を指導するか？
4	概論3：合奏レパートリーについて
5	演奏スキルを含めた履修者の自己プレゼンテーション
6	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリーの検討
7	合奏編曲法の基礎知識
8	合奏編曲法の基礎理論
9	簡単な合奏編曲の実践
10	初めての合奏～ベーシックハーモニー
11	合奏試演1～精確な譜読みと音出し
12	合奏試演2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
13	合奏試演3～適切な奏法と表現に留意して
14	合奏試演4～合奏の仕上げを目標に
15	「音楽教育コース定期演奏会」準備計画立案

授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習 【応用編】
1	「音楽教育コース定期演奏会」準備計画始動
2	編曲と合奏の実践1～精確な譜読みと音出し
3	編曲と合奏の実践2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
4	編曲と合奏の実践3～あらためて楽曲のスタイル、形式を見つめ直して
5	編曲と合奏の実践4～適切な奏法と表現に留意して
6	編曲と合奏の実践5～一段階上の合奏を目指し音色に注目
7	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル1～演奏の基本の見直し
8	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル2～楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
9	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル3～訴求力の高い合奏を目指す
10	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル4～本番を意識して合奏を仕上げる
11	「音楽教育コース定期演奏会」最終リハーサル
12	「音楽教育コース定期演奏会」の反省会
13	合奏指導案のプレゼンテーション
14	合奏指導法についてのディスカッション
15	総括

科目名	ヴォイストレーニング（ジャズ）1/ヴォーカルパフォーマンス1　（前）　[金3]							
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE291500	科目コード	GE2915	期間	半期
担当教員	蟻正　行義、瀬田　創太						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

2．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

3．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

4．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

ヴォイストレーニングの授業では、服装はなるべく動きやすいものを着用すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	三橋千鶴：２回目ー８回目　ヴォイストレーニング１概要
3	ヴォイストレーニング２身体の構造
4	ヴォイストレーニング３発声
5	ヴォイストレーニング４実習
6	ヴォイストレーニング５実習
7	ヴォイストレーニング６実習
8	ヴォイストレーニング７実習
9	瀬田創太：９回目ー１５回目　楽曲の基礎知識
10	楽曲のハーモニーについて
11	イントロやエンディングなどのアレンジ
12	他楽器とのコミュニケーション：ピアノ
13	他楽器とのコミュニケーション：ベース
14	他楽器とのコミュニケーション：ドラム
15	グルーブとリズムスタイル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ヴォイストレーニング（ジャズ）2/ヴォーカルパフォーマンス2　（後）　[金3]						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE291600	科目コード	GE2916	期間	半期
担当教員	蟻正　行義、ＣＨＡＫＡ						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

２．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

４．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

またヴォイストレーニングの授業では、　動きやすい服装で受講のこと（ミニスカート、足の開かないきついジーンズ等は不可）
履物はかかとの高いハイヒール、ミュール等は不可

授業計画	
	［半期］ 様々な発声練習方法や、体の使い方、ボディーマッピングをしながら声を出すことのメカニズムを知ることにより歌うことへ結びつくトレーニングを習得する。歌唱は公開レッスン形式で行う。
1	ガイダンス
2	三橋千鶴：２回目ー８回目　ヴォイストレーニング１概要
3	ヴォイストレーニング２実習
4	ヴォイストレーニング３実習
5	ヴォイストレーニング４実習
6	ヴォイストレーニング５実習
7	ヴォイストレーニング６実習
8	ヴォイストレーニング７実習
9	Chaka：９回目ー１５回目　レパートリーについて
10	曲の構成、譜面の書き方と曲構成の柔軟な捉え方
11	歌唱以外の体の使い方
12	マイクの特性とその使い方
13	曲中の歌っていない時間をどうするか
14	バンドメンバーとのコミュニケーション
15	ステージング

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ミュージックインリリックス１ - １　（前）［月2］						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE294900	科目コード	GE2949	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌には演奏と違って歌詞があります。楽器だけの演奏より内容を説明しやすくはなりますが、その分、イメージは制限されます。だからこそ、歌手は自分が歌う曲の歌詞を正しく理解し、同時にその歌詞の中に自分のイメージを持って歌うことが、とても大事です。これは説得力のある歌を歌う歌手の絶対条件です。

また、アドリブスキャットが出来る様になりたいと希望する歌手も多くいますが、ジャズフレーバーのあるスキャットをするには、米語のリズムを体得することなしには、ほとんど不可能です。　そして、歌と共演する機会の多い楽器プレーヤーにとっても、歌詞の意味やイメージをつかめないまま演奏することは、良いことではありませんね。この授業は外国語の歌詞について語学／発音を学びながら、歌詞についての自分のイメージを含めさまざまな観点から学びます。

２．授業概要

日本のシンガーがジャズを歌う時に、まずは英語の発音という大きな課題があると指摘されます。英語の発音やリズムやイントネーションを、少しでも良くし、自分のものにできれば、それだけで、その歌は立体感を増し、素敵なものになります。　これはnativeの人と全く同じにするという意味ではなく、英語を「自分のもの」にするということです。
この授業では英語、ポルトガル語、日本語の歌詞を扱います。

外国語に関してはnative speakerのゲスト講師と言葉の意味や発音を学び、また毎週の授業で曲を憶え、実際に歌いながら、その歌詞をどのように自分のもにしていくかを考えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌いたい曲の歌詞カードを用意して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業態度（評価の60%）
実技（評価の20%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学生の学びたい曲・歌いたい曲を取り上げていきますので、積極的に参加してください。

授業計画	
	［半期］
1	スタンダードナンバーの歌詞の解釈
2	スタンダードナンバーの歌詞の解釈
3	ゲスト講師を迎えて（英語）①
4	ゲスト講師を迎えて（英語）②
5	ゲスト講師を迎えて（英語）③
6	CD聞き比べ
7	キャラクターを決めて歌う①
8	キャラクターを決めて歌う②
9	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）①
10	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）②
11	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）③
12	日本語の曲の歌詞の解釈
13	スタンダードナンバーの歌詞の解釈
14	スタンダードナンバーの歌詞の解釈
15	聴覚以外を使う

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ミュージックインリリックス１－２　（後）［月2］						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE295000	科目コード	GE2950	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	１−１を履修していない者も履修可能						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌には演奏と違って歌詞があります。楽器だけの演奏より内容を説明しやすくはなりますが、その分、イメージは制限されます。だからこそ、歌手は自分が歌う曲の歌詞を正しく理解し、同時にその歌詞の中に自分のイメージを持って歌うことが、とても大事です。これは説得力のある歌を歌う歌手の絶対条件です。

また、アドリブスキャットが出来る様になりたいと希望する歌手も多くいますが、ジャズフレーバーのあるスキャットをするには、米語のリズムを体得することなしには、ほとんど不可能です。　そして、歌と共演する機会の多い楽器プレーヤーにとっても、歌詞の意味やイメージをつかめないまま演奏することは、良いことではありませんね。この授業は外国語の歌詞について語学／発音を学びながら、歌詞についての自分のイメージを含めさまざまな観点から学びます。

２．授業概要

日本のシンガーがジャズを歌う時に、まずは英語の発音という大きな課題があると指摘されます。英語の発音やリズムやイントネーションを、少しでも良くし、自分のものにできれば、それだけで、その歌は立体感を増し、素敵なものになります。　これはnativeの人と全く同じにするという意味ではなく、英語を「自分のもの」にするということです。

この授業では英語、ポルトガル語、日本語の歌詞を扱います。

外国語に関してはnative speakerのゲスト講師と言葉の意味や発音を学び、また毎週の授業で曲を憶え、実際に歌いながら、その歌詞をどのように自分のもにしていくかを考えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌いたい曲の歌詞カードを用意して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業態度（評価の60%）
実技（評価の20%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学生の学びたい曲・歌いたい曲を取り上げていきますので、積極的に参加してください。

授業計画	
	［半期］
1	Be A Teacher
2	Be A Teacher
3	スタンダードナンバーの歌詞についての解釈
4	スタンダードナンバーの歌詞についての解釈
5	ゲスト講師を迎えて（英語）①
6	ゲスト講師を迎えて（英語）②
7	ゲスト講師を迎えて（英語）③
8	CD聞き比べ
9	英語の発音レッスン、言葉のイメージ①
10	英語の発音レッスン、言葉のイメージ②
11	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）①
12	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）②
13	ゲスト講師を迎えて（ポルトガル語）③
14	英語以外のジャズ
15	日本語の可能性

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	吹奏楽指導法１～４　[月4]						
代表教員	宍倉　晃	授業コード	GE317100	科目コード	GE3171d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラス	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アマチュアの普及率の高い吹奏楽という分野において、「教育のための吹奏楽」という考え方を原点に持ち、音楽のみならず
「人としての心を育てる事を重要視する指導者」になるために必要な事を学んでいく。

２．授業概要

「基礎」というものをあらゆる角度から見ていき、基礎と音楽表現がイコールで結ばれていく事を学んでいく。
知識を豊富にし、指導に役立てるために吹奏楽の歴史を学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

学生の母校である中学校や高校の部活動の指導の機会があった場合には、率先して引き受けていく。
楽曲を使った合奏指導で使用する楽譜を事前に読み、音源を聴いて予習してくる事。
毎回の授業でノート等に細かく記入し、次の授業に生かせるように復習してくる事。

４．成績評価の方法及び基準

授業においての実習的な事項の成果、提出物等の出来映え、「教育のための吹奏楽」の考え方への理解度を見て判断していく。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用する楽曲のスコア、編曲に使用するピアノ譜やオーケストラスコア。CD,DVD等。参考文献はなし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまで学んできた管、打楽器（弦楽器はコントラバス）の経験を生かし、学生間で知識を共有しあっていく事。
クラス分けに関しては、2018年度から始まる授業のため全員が同クラスとなる。

授業計画	
	[前期] ・各楽器の初歩的な奏法についての指導法 ・サウンドトレーニングの指導法 ・サウンドトレーニングの楽曲での応用
1	各楽器の初歩的な奏法とチューニングについて フルート(頭部管での奏法) オーボエ(リードでの奏法) バスーン(リードでの奏法)
2	各楽器の初歩的な奏法とチューニングについて クラリネット(マウスピースとバレルでの奏法) バスクラリネット(マウスピースとネックでの奏法) サキソフォン(マウスピースとネックでの奏法)
3	各楽器の初歩的な奏法とチューニングについて トランペット(マウスピースでの奏法) ホルン(マウスピースでの奏法)
4	各楽器の初歩的な奏法とチューニングについて トロンボーン(マウスピースでの奏法) ユーフォニューム(マウスピースでの奏法) チューバ(マウスピースでの奏法)
5	各楽器の初歩的な奏法とチューニングについて 全楽器の総復習
6	サウンドトレーニング サウンドトレーニングの必要性について ブレスについて 音の出だしと切り方の統一
7	サウンドトレーニング スケールを使ったユニゾントレーニング 各楽器の音量の揃え方について
8	サウンドトレーニング スケールを使ったユニゾントレーニング 音程の合わせ方について
9	サウンドトレーニング スケールを使ったユニゾントレーニング 歌唱と楽器演奏の結びつきについて
10	サウンドトレーニング スケールを使ったユニゾントレーニング 総復習及び定着させる事の重要性について
11	簡単な旋律を使ったユニゾントレーニング フルート オーボエ クラリネット群でのユニゾンの 作り方について
12	簡単な旋律を使ったユニゾントレーニング クラリネット サキソフォン群でのユニゾンの作り方について
13	簡単な旋律を使ったユニゾントレーニング クラリネット トランペット群でのユニゾンの作り方について
14	簡単な旋律を使ったユニゾントレーニング 中低音群でのユニゾンの作り方について
15	簡単な旋律を使ったユニゾントレーニング 全体合奏でのユニゾンの作り方について

授業計画	
	[後期] ・各楽器の初歩的な奏法についての総復習 ・サウンドトレーニングの指導法 （ユニゾントレーニングとハーモニートレーニング） ・マーチを使った合奏指導法
1	各楽器の初歩的な奏法について 前期授業での木管楽器群の総復習
2	各楽器の初歩的な奏法について 前期授業での金管楽器群の総復習
3	サウンドトレーニング 前期授業での木管楽器群でのユニゾントレーニングの総復習 及び木管楽器群でのハーモニートレーニングについて
4	サウンドトレーニング 前期授業での金管楽器群でのユニゾントレーニングの総復習 及び金管楽器群でのハーモニートレーニングについて
5	サウンドトレーニング 前期授業での全体合奏でのユニゾントレーニングの総復習 及び全体合奏でのハーモニートレーニングについて
6	簡単なコラールを使ったハーモニートレーニング 木管楽器群 金管楽器群 全体合奏のそれぞれの響きの作り方について
7	簡単なコラールを使ったハーモニートレーニング 歌唱を交えながら楽器演奏での響きの作り方について
8	マーチを使った合奏指導法 ユニゾンを中心にしたサウンドの作り方について
9	マーチを使った合奏指導法 ハーモニーをを中心にしたサウンドの作り方について
10	マーチを使った合奏指導法 テンポとリズムの重要性について
11	マーチを使った合奏指導法 マーチのスタイルについて （前奏～第1マーチ～第2マーチを中心に）
12	マーチを使った合奏指導法 マーチのスタイルについて （Trio～グランドマーチを中心に）
13	マーチを使った合奏指導法 行進するためのマーチの表現方法について
14	マーチを使った合奏指導法 コンサートマーチの表現方法について
15	吹奏楽史（マーチの歴史） アメリカとヨーロッパのマーチを中心とした歴史 特徴や様式感について

科目名	マーチングディレクター概論１～４　[火4]						
代表教員	田中　久仁明	授業コード	GE317500	科目コード	GE3175d	期間	通年
担当教員	大川　勝己、中村　裕治						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラス	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

卒業後は現場で即実践出来るプロのマーチングバンド指導者という視点で、あらゆる角度から演習を行います。第１に一般社団法人　日本マーチングバンド協会の指導者ライセンス検定、３級、２級、１級を４年間で取得し、マーチングバンド指導者の概論的スキルを習得、第２に専門的内容として、ドリルデザイン、マーチング管楽器アレンジ、マーチングパーカッションアレンジ、以上３つの専門的スキルを習得することで、将来学生が指導の現場に赴いた時、確実に現場のスキルアップに寄与できることを目指す。そしてそのスキルアップの実績を世に問う為に前期、後期それぞれに演奏会を企画し、その作品の構成演出を自主制作し、発表する演奏演技内容についての「成功」を目指す。

２．授業概要

習講座であり、一般社団法人　日本マーチングバンド協会の指導者ライセンス検定カリキュラムの実施及びライセンス取得、ドリルデザイン、マーチング管楽器アレンジ、マーチングパーカッションアレンジのスキルを習得、以上４つの内容を基に、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は課題楽曲の細部に渡るアナリーゼを行い、楽曲の理解を深め、ドリルデザイン、管、打楽器アレンジが行える準備をする。マーチング指導者は同時に教育者としてのスキルが要求される為、教育論に関する知識を備える。復習は授業で指摘された内容をさらに掘り下げ、自分のものに出来る様に反復実習を行なう。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢は勿論、マーチング指導ライセンスの取得、ドリルデザイン、管、打楽器アレンジの達成度を見極める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏会で使用する楽曲のポケットスコア、
一般社団法人　日本マーチングバンド協会発行の指導書上下巻

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

マーチングバンド指導者としての能力を高めるべく、強い自覚と責任感を持ち、学習すること、授業及び臨時練習に出席し、年間の演奏会の成功に貢献して欲しい。

授業計画	
1	マーチング指導者３級ライセンス実習１
2	ドリルデザイン
3	管楽器アレンジ
4	打楽器アレンジ
5	マーチング指導者３級ライセンス実習２
6	ドリルデザイン
7	管楽器アレンジ
8	打楽器アレンジ
9	マーチング指導者３級ライセンス実習３
10	ドリルデザイン
11	管楽器アレンジ
12	打楽器アレンジ
13	ドリルデザイン
14	管楽器アレンジ
15	打楽器アレンジ

授業計画	
1	マーチング指導者３級ライセンス実習４
2	ドリルデザイン
3	管楽器アレンジ
4	楽器アレンジ
5	マーチング指導者３級ライセンス実習５
6	ドリルデザイン
7	管楽器アレンジ
8	打楽器アレンジ
9	マーチング指導者３級ライセンス実習６
10	ドリルデザイン
11	管楽器アレンジ
12	打楽器アレンジ
13	ドリルデザイン
14	管楽器アレンジ
15	打楽器アレンジ

科目名	管打合奏１～４　［火5］						
代表教員	大和田　雅洋	授業コード	GE317900	科目コード	GE3179d	期間	通年
担当教員	オリタ　ノボッタ						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラス	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座の中で、将来の「吹奏楽指導」に必要な要件、指標などを、合奏を通して各自が掴み取ることが主題となる。
講座の課程で指導を受けるケースでは、そのことこそが「実践的」であり将来の「吹奏楽指導」の糧となるよう繋げていきたい。

２．授業概要

本年度は人数の少ない小編成アンサンブルが主体となるが、基礎トレーニング、勉強すべき古典名曲を中心に合奏練習をおこなう。
現代吹奏楽においては、クラシックのみならず、ポップスも将来指導において大切なものとなるため、織田講師による
「ポップス講座」を開設する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

配布された譜面の予習は必須とし、オーケストラアレンジを取り上げるときは各自ポケットスコアを用意し取り組んでいただきたい。
とりあげた、楽曲の視聴も必須とする。

４．成績評価の方法及び基準

出席、平常点を主とするが、「将来の実践の場としての指導法」を身につけているか、に基づいて評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布されたパート譜を主とする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

選択授業ではあるが、新しく開設マスタークラス特設の講座であるため、多くの履修者を望みたい。

授業計画	
	前期授業
1	オリエンテーション、インスペクター選出
2	基礎合奏、初合わせ
3	基礎合奏（音程練習をもとに）
4	基礎合奏（セクションごとの音作り）
5	基礎合奏（テンポ、リズムを中心に）
6	基礎合奏（フレージング）
7	基礎合奏（指揮者の見かたなど）
8	ポップス講座を中心にジャズやラテンなど様々なジャンルを学ぶ
9	コードについて
10	アドリブについて
11	ポップスアレンジ曲のアナリーゼ
12	ポップスアレンジ曲の実践
13	楽曲練習（マーチング実践曲のアナリーゼ）
14	楽曲練習（マーチング実践曲の合奏練習）
15	前期反省会

授業計画	
	後期授業
1	後期練習曲の考察
2	吹奏楽古典名曲の列挙と考察
3	吹奏楽古典名曲の合奏演習
4	小編成吹奏楽曲の考察
5	小編成吹奏楽曲のアナリーゼ
6	小編成吹奏楽の実践演習
7	現編成での可能実践曲の列挙
8	近現代小編成楽曲の考察と実践
9	ポップス曲の合奏演習
10	ポップス曲のコード分析や演奏方法
11	吹奏楽ポップス曲の実践
12	吹奏楽ポップス曲の指導法
13	年間を通じてのまとめ（リハーサル）
14	全体を通じての研究発表
15	後期反省会

科目名	吹奏楽研究１　［金4-5］フレッシュマン						
代表教員	大和田　雅洋	授業コード	GE320100	科目コード	GE3201	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・SI・PI・ME・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「フレッシュマン」の名に相応しく、合奏の基本に重点を置きながら、一年生のみでのアンサンブルを行うことにより、連帯感や向上心をより高め、意欲的な音楽表現へと結び付けて行く。

２．授業概要

・国内外の著名指揮者をコンサートへ招聘し、本番へ向けてのリハーサルが授業の中心となる。
・代表的な吹奏楽オリジナル作品（古典的名曲から新しいレパートリー）を主に、合奏、分奏練習を行う。
・基礎合奏を取り入れ、サウンドの基盤を作り上げていく。
・以上の事項を学ぶことにより、将来の吹奏楽指導へも結び付けていくものとしたい。
・前期コンサート　7/6（金）　前田ホール　指揮：増井信貴
・後期コンサート　11/24（土）前田ホール　指揮：ティモシー・マー

３．授業時間外の学習（予習復習について）

事前に配布されたパート譜の各自での譜読みを必須とする。
各個人での個人練習は当然のことながら、演奏楽曲の視聴をあらかじめ行って頂きたい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を評価の１００％とするが、各solo奏者等必要に応じて加点あり。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・配布されたコンサート使用楽譜
・閲覧用スコアを用意するので各自参考のこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・コンサートに向けての楽曲練習が中心となるが、履修者には個人練習での授業準備など、意欲的な参加姿勢を望みたい。
・履修者が多いパートについては、全員がコンサートに出演出来るように、演奏曲のローテーションを行うが、その点を理解のうえ、協力していただく事を条件とする。

授業計画	
	［前期］ 前期コンサートへ向けてのリハーサル
1	授業ガイダンス、インスペクター、パートリーダー等選出。 初合奏を行う。
2	各本番へのリハーサル開始（セクション分奏を中心に）
3	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
4	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
5	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
6	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
7	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
8	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
9	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで分奏練習を主として行う。必要に応じて合奏も取り入れる。）
10	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
11	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
12	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
13	全曲練習（本番前最終チェック）
14	全曲練習（本番前最終チェック）
15	コンサート本番当日のゲネプロへ充当

授業計画	
	［後期］ 後期コンサートへ向けてのリハーサル
1	各本番へのリハーサル開始（セクション分奏）
2	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
3	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
4	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
5	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
6	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
7	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
8	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
9	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
10	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
11	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
12	コンサートに向けての楽曲練習。（１回の授業につき、２～３曲をローテーションで合奏練習を主として行う。必要に応じて分奏も取り入れる。）
13	全曲練習（本番前最終チェック）
14	全曲練習（本番前最終チェック）
15	コンサート本番当日のゲネプロへ充当

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］ブルー・タイ						
代表教員	渡邉　功	授業コード	GE3202B0	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「吹奏楽」の理想的なサウンドとは何か？を追求する。よりプロフェッショナルな「演奏」の為、どのような経過が必要なのかを経験する。学生個々は将来プレイヤーは勿論、吹奏楽指導者として活躍出来る為に必要不可欠な「技術と知識」を習得する。

２．授業概要

前期、後期に、2回の演奏会を持ち、「成果発表」の機会とする。
選曲は、クラシックの大曲に取り組む他、新旧のオリジナル曲について深く掘り下げる。
前期客演指揮：山下一史
後期客演指揮：汐澤安彦

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パート譜の個人練習
スコアの把握
各パート内グループ練習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視し、合奏への取り組み方と演奏能力を加味する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期曲　エルガー：エニグマ、プッチーニ：蝶々夫人より　他
後期　未定。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のための各コース別の諸注意は、初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］ 5/3の課題曲クリニック 指導は中村睦生先生 6/26の演奏会 指揮者は山下一史先生 のための練習
1	メンバー顔合わせ パート・ローテーション決め パート譜配布 インスペクター・パートリーダー決定 音出し、合奏、譜読み
2	課題曲クリニックのための譜読み
3	課題曲クリニックのため 曲の理解を深める練習
4	課題曲クリニックの指揮者による練習
5	課題曲クリニックのための最終調整
6	6/26の曲目の理解を深める練習
7	ハーモニーを身につける練習 合奏 or 分奏
8	リズムを表現する練習 合奏
9	曲の雰囲気及び表現を統一する練習 合奏 or 分奏
10	本番指揮者の音楽性を確認する練習
11	本番指揮者の音楽を表現するための練習
12	本番指揮者の音楽を完全に把握するための練習
13	本番指揮者との本番に向けての最終調整
14	ゲネプロ・本番
15	反省会

授業計画	
	［後期］ 12/9の演奏会 指揮者は汐澤安彦先生 のための練習
1	パート・ローテーション決め パート譜配布
2	曲を理解するための練習 分奏
3	曲を理解するための練習 合奏
4	曲のハーモニーを理解するための分奏練習
5	曲のハーモニーを理解するための練習 合奏
6	リズム感を養う練習
7	曲の歌い方やフレージングの練習
8	音楽の表現とフレージングの練習
9	本番指揮者の音楽性を確認するための練習
10	本番指揮者による分奏
11	本番指揮者の音楽性を表現するための練習
12	本番指揮者の音楽性を確実に表現するための練習
13	本番指揮者との本番に向けての最終調整
14	ゲネプロ・本番
15	反省会

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］グリーン・タイ						
代表教員	伊藤　康英	授業コード	GE3202GO	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・CG・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

吹奏楽のために書かれた優れた作品を取り上げ、作曲家からの視点も加えた学習を行うことで、吹奏楽の芸術的価値を考える。これは音楽大学の吹奏楽にとっての一つの使命である。
本年度も、前期、後期ともイギリスの指揮者を招いた。イギリスから世界を見たレパートリーを通して、これからの吹奏楽を考えたい。
また、ACを中心としたマネジメント関連の活動にも積極的に取り組み、成果をあげる。

２．授業概要

前期、後期のコンサート等に向けてのリハーサルを通して、吹奏楽のサウンド作り、アンサンブルのテクニック、楽曲の理解と表現法を学ぶ。
トレーナーとして、近藤久敦先生、仲田守先生の協力を得、吹奏楽指導に役立つノウハウも学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自予めしっかりと練習して、合奏授業に臨みましょう。
また、ACを中心としたコンサート作りのための準備やマネジメント活動にも力を入れましょう。

４．成績評価の方法及び基準

授業、コンサート、マネジメント関連の活動への積極的な参加姿勢で評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

取り上げる作品のパート譜のみならず、スコアに接する機会を多くすること。スコアは、その音楽全てが見渡せる地図である。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

予めクラス分けがされているので、とくにここに記載すべき事項はありません。

授業計画	
	［前期］ 5月3日（木・祝）全日本吹奏楽コンクール課題曲クリニックにモデルバンドとして出演 7月1日（日）前期コンサート（指揮：ティモシー・レイニッシュ）
1	4月10日 ガイダンス 前期曲目音出し 吹奏楽コンクール課題曲音出し（５曲） 前期レパートリー音出し（時間の許す限りなるべく多くの作品を予定）
2	4月17日 課題曲クリニックのリハーサル（１曲予定） 前期レパートリーのリハーサル
3	4月24日 課題曲クリニックのリハーサル（１曲予定） 前期レパートリーのリハーサル プログラム資料の蒐集。
4	5月1日 課題曲クリニックのリハーサル（2曲予定） 前期レパートリー ※ここまでの授業において、前期コンサートのレパートリーを一通りリハーサル。作品の分析を通じ、音楽全体をつかむ。
5	5月8日 前期コンサートのリハーサル ここからの３回で、全プログラムを詳細にリハーサルする。 より詳細なアンサンブルのために、分奏練習も随時織り込む。 取り上げる曲目は都度発表。
6	5月15日 前期コンサートのリハーサル 詳細なリハーサルの第２回。 プログラム解説執筆。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
7	5月22日 前期コンサートのリハーサル 詳細なリハーサルの第３回。 ここまでの段階で、前期コンサートのレパートリーをおおまかに仕上げる。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
8	5月29日 前期コンサートのリハーサル この第８回と、第９回で、難易度の高い作品を中心に、より綿密なアンサンブル作りを行う。随時分奏練習も取り入れる。
9	6月5日 前期コンサートのリハーサル 第８回に引き続いてのリハーサル。
10	6月12日 前期コンサートのリハーサル この第10回、第11回でレパートリーの総仕上げを行う。
11	6月19日（延長練習あり） 前期コンサートのリハーサル 総仕上げ第２回
12	6月25日（月）18:30- 前期指揮者とのリハーサル
13	6月26日 前期指揮者とのリハーサル第２回
14	7月1日 コンサート当日
15	7月10日 後期レパートリーの音出し

授業計画	
	［後期］ 12月12日（火）後期コンサート 吹奏楽の古典的名曲を名匠ボストックと vol.9（指揮：ダグラス・ボストック） なお、臨時練習として以下の中から調整予定。
1	9月4日 後期コンサートのリハーサル（全曲） ※7月にも一度、音出しをしているので、しっかりと譜読みを済ませてリハーサルに臨むこと。
2	9月11日 後期コンサートのリハーサル 作品の分析を通して音楽全体をつかむ。
3	9月18日 後期コンサートのリハーサル 作品の分析を通して音楽全体をつかむ。
4	9月25日 後期コンサートのリハーサル サウンドやピッチ、リズムに留意したリハーサル。
5	10月2日 後期コンサートのリハーサル サウンドやピッチ、リズムに留意したリハーサル。
6	10月9日 後期コンサートのリハーサル サウンドやピッチ、リズムに留意したリハーサル。
7	10月16日 後期コンサートのリハーサル 作品の時代背景なども調べつつリハーサルに臨む。 プログラム執筆資料等も各自蒐集。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
8	10月23日 後期コンサートのリハーサル 作品の時代背景なども調べつつリハーサルに臨む。 プログラム執筆資料等も各自蒐集。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
9	10月30日 後期コンサートのリハーサル 作品の時代背景なども調べつつリハーサルに臨む。 プログラム執筆資料等も各自蒐集。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
10	11月6日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ
11	11月13日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ
12	11月20日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ
13	11月27日（延長あり） 後期指揮者とのリハーサル第１回
14	12月4日（延長あり） 後期指揮者とのリハーサル第2回
15	12月11日 コンサート当日

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］洗足ウインド･シンフォニー						
代表教員	池上　政人	授業コード	GE3202WO	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【仕事としての吹奏楽】という視点で吹奏楽にアプローチする。第1に「レパートリー」演奏会のプログラミングは、即ちその演奏団体の聴衆に対しての見識である。学生が将来、吹奏楽のレパートリーを考える立場に置かれた時、未来の吹奏楽を見据えたプログラムを組めむための「ヒント」となるレパートリーを教材として用いる。第2に「合奏の掟」プロフェッショナルな観点から、指揮の見方、自発的なアンサンブルへの指標を示し、将来学生がプロの団体の中で演奏する機会を想定して、合奏法を伝授する。第3に「指導法」楽曲を完成させる過程において将来、学生が指導する立場に置かれて時を想定し、その指導法を伝授する。
このような視点で吹奏楽に取り組み、その成果を世に問うために前期、後期それぞれに演奏会を企画し、レパートリー、聴衆の動員、勿論演奏内容についての「成功」を目指す。

２．授業概要

演習講座であり、演奏会の練習計画を組み、それに沿って合奏の完成に向けて授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、スコアの細部まで目を通し、楽曲の理解を（CD等で聴き）深め、合奏に対して十分な準備を（指揮者からの、あらゆる要求に応じられる余裕を持つ。）する事。
復習は、合奏での課題はもちろんの事、指摘された場所のみ重点的にではなく、（合奏・分奏時の練習を録音してみるなどの工夫をして）より水準の高い、演奏へ繋げる事を目標とする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢は勿論、主題である【仕事としての吹奏楽】への達成度を見極める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏会に使用する楽譜。特にオーケストラの編曲を実践知る場合、ポケットスコアを各自用意する事。
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業であるのでアンサンブル能力を高めるべく個々の責任を果せるよう、強い自覚のもとで譜読み等の準備が出来る事。
洗足ウインド・シンフォニーは洗足学園音楽大学の顔であり、フラッグシップ・バンドとしての使命を果すため、演奏水準の維持が大きな課題となる。実技試験結果から履修者を決定する。

授業計画	
	［前期］ ・課題曲クリニック（5/3）指揮・講座：宍倉晃 ・自衛隊キャンパスコンサート（6/24）指揮：吉田行地 ・前期演奏会（7/8）指揮：保科洋
1	合奏 課題曲1から5 譜読み
2	合奏 課題曲1から5 分奏とタイミング合わせ
3	合奏 課題曲5を中心に分奏とハーモニー確認
4	合奏 自衛隊譜読み ハーモニーの確認
5	合奏 自衛隊合奏 音程を中心に
6	合奏 自衛隊合奏 縦の線、タイミングについて
7	合奏 譜読み ハーモニーの確認
8	分奏 セクションの音作りについて
9	合奏 自衛隊 本番直前練習
10	合奏　フレージングを中心に
11	分奏 タイミング、音色のスピードについて
12	合奏 楽曲の構築について
13	合奏 保科先生 直前練習
14	合奏 保科先生 直前練習
15	前期演奏会 指揮 保科洋

授業計画	
	［後期］ ・FUYUON（12/8）指揮：ジェリー・ジャンキン 曲目：ジャンキン氏と折衝中 アメリカの新作が中心となる。
1	合奏 FUYUON 譜読み タイミングの対処法
2	合奏 FUYUON 譜読み ハーモニーの確認
3	合奏 FUYUON テクニカルな問題についての対処法
4	分奏 FUYUON バランスについて
5	分奏 FUYUON テンポ、リズムについて
6	合奏 FUYUON フレージングについて
7	合奏 FUYUON 楽曲の和声感について
8	合奏 指揮の見方について
9	合奏 FUYUON 音程を中心に
10	合奏 FUYUON テンポ、リズムを中心に
11	合奏 FUYUON 楽曲の構築について
12	合奏 FUYUON リズム、タイミングについての対処法
13	合奏 FUYUON ジェリー・ジャンキン　直前練習
14	合奏 FUYUON ジェリー・ジャンキン 直前練習
15	FUYUON 演奏会 指揮 ジェリー・ジャンキン

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　[月4-5] ベーシック						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3211BO	科目コード	GE3211d	期間	通年
担当教員	神谷　百子、佛坂　咲千生						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析:作曲コース教員によるオーケストラ曲の分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
4	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番 「英雄」第1楽章
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番 「英雄」
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
9	合奏・管打合奏 スッペ:軽騎兵 序曲 他
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
11	合奏・管打合奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ブラームス:ハンガリー舞曲
13	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
14	合奏・管打合奏 研究演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホールでの研究発表演奏会 （ピアノ2台を含む） 後期楽譜配布

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）グループ変更が有る場合は提示する
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」2、3、4楽章
3	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」1.2楽章
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
5	合奏・管打合奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
8	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」全楽章
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
10	合奏・管打合奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 エルガー:行進曲「威風堂々第1番」
12	合奏・管打合奏 後期演奏会全てのプログラム
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 後期演奏会全てのプログラム
14	合奏・管打合奏 後期演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホール後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　[月4-5] マスター							
代表教員	辻　功	授業コード	GE3211MO	科目コード	GE3211d	期間	通年	
担当教員	中　一乃、神谷　百子、佛坂　咲千生							
授業形態	演習	配当学年						
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
3	合奏・管打合奏①
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
5	合奏・管打合奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
8	合奏・管打合奏③
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
10	合奏・管打合奏④
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
12	合奏・管打合奏⑤
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑦
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　[月4-5] レパートリー						
代表教員	菅原　潤	授業コード	GE3211RO	科目コード	GE3211d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子、佛坂　咲千生						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２ - １～２ - ４ ［木4-5］ベーシック							
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3215BO	科目コード	GE3215d	期間	通年
担当教員	神谷　百子、佛坂　咲千生						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	クラス毎に顔合わせとパート決定
2	楽曲分析:作曲コース教員によるオーケストラ曲の分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
4	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番 「英雄」第1楽章
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番 「英雄」
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
9	合奏・管打合奏 スッペ:軽騎兵 序曲 他
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
11	合奏・管打合奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ブラームス:ハンガリー舞曲
13	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
14	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
15	前田ホールでの研究発表演奏会 反省会と後期授業説明

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）グループ変更が有る場合は提示する
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」2、3、4楽章
3	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」全楽章
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
5	合奏・管打合奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
8	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」全楽章
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
10	合奏・管打合奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 エルガー:行進曲「威風堂々第1番」
12	合奏・管打合奏 後期演奏会全てのプログラム
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 後期演奏会全てのプログラム
14	合奏・管打合奏 後期演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホール後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２ - １～２ - ４ ［木4-5］マスター							
代表教員	辻　功	授業コード	GE3215MO	科目コード	GE3215d	期間	通年	
担当教員	中　一乃、神谷　百子、佛坂　咲千生							
授業形態	演習	配当学年						
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
3	合奏・管打合奏①
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
5	合奏・管打合奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
8	合奏・管打合奏③
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
10	合奏・管打合奏④
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
12	合奏・管打合奏⑤
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑦
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２ - １～２ - ４ ［木4-5］ レパートリー						
代表教員	菅原　潤	授業コード	GE3215RO	科目コード	GE3215d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子、佛坂　咲千生						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
　管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
　管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
　1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

　授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
　合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
　管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
　管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
　弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
　授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

　オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
　演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	楽曲分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏①
4	合奏・管打合奏①
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏②
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏③
7	合奏・管打合奏②
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏④
9	合奏・管打合奏③
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑤
11	合奏・管打合奏④
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏⑥
13	合奏・管打合奏⑤
14	合奏・管打合奏⑥
15	研究発表演奏会

科目名	ファンファーレオルケスト１～４　［金4-5］						
代表教員	露木　薫	授業コード	GE331500	科目コード	GE3315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ファンファーレオルケスト」とはアドルフ・サックスが考案した演奏形態で、オランダ・ベルギー・ルクセンブルグを中心に発展した長い歴史をもつ。オーケストラのヴァイオリンの役割をフリューゲルホルンやサキソフォーンが担い、円錐形金管楽器（トランペット・ホルン・トロンボーン）、円筒形金管楽器（フリューゲルホルン・バリトン・ユーフォニアム・バス等）、サキソフォーン族と打楽器群の合奏で創り出す豊かなサウンドは独特な美しさが魅力である。オリジナル作品も豊富であり、その魅力あるサウンドを追求する他、管弦楽の編曲作品にも積極的に取り組み、音楽性の高い表現力を修得したい。

２．授業概要

合奏を中心に作品研究を行う。
各パートには指導教員が付き添い実践的な演奏指導も行われる。
前期・後期に一回ずつ、授業の成果発表として定期演奏会を開催する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会で担当する楽器や個々のパートについて譜読み、予備練習、復習や楽曲・作曲家に対する見識を深める事前準備等を十分に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び演奏内容を総合的にに評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし.
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のための各コース別の諸注意は、初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］ ファンファーレオルケストについての知識や理解を深め、前期定期演奏会に向け授業を進める。 第25回定期演奏会 本番日時：6月23日㈯14：30 開演　前田ホール 客演指揮：マニュ・メラーツ先生
1	授業ガイダンス及びパートの割り振り
2	合奏（前期プログラムの概要を掴む）
3	合奏（各曲目の構造を知り、各々の役割を確認する）
4	合奏（各曲目のハーモニーについての理解を深める）
5	分奏を行い、より緻密なアンサンブルを目指す
6	合奏（各曲目の場面に応じた音色を探究する）
7	合奏（各曲目のリズムや音楽の流れを再確認する）
8	合奏（各曲目における表現について更に研究する）
9	合奏（各曲目における表現を一つにまとめて行く）
10	合奏（全曲目の通し練習）
11	マニュ・メラーツ先生合奏
12	マニュ・メラーツ先生合奏
13	マニュ・メラーツ先生合奏
14	マニュ・メラーツ先生合奏
15	前期定期演奏会

授業計画	
	［後期］ 後期定期演奏会に向けて取り組む。 第26回定期演奏会 本番日時：11月17日(土)　開演時間未定　　前田ホール 客演指揮：ヤン・ヴァンデル・ロースト先生
1	合奏(後期プログラムの概要を掴む)
2	合奏(各曲目の構造を知り、各々の役割を確認する)
3	合奏(各曲目のハーモニーについての理解を深める)
4	分奏を行い、より緻密なアンサンブルを目指す
5	合奏(各曲目の場面に応じた音色を探究する)
6	合奏(各曲目のリズムや音楽の流れを再確認する)
7	合奏(各曲目における表現について更に研究する)
8	分奏を行い、より緻密なアンサンブルを目指す
9	合奏(各曲目における表現を一つにまとめて行く)
10	合奏(全曲目の通し練習)
11	ヤン・ヴァンデル・ロースト先生合奏
12	ヤン・ヴァンデル・ロースト先生合奏
13	ヤン・ヴァンデル・ロースト先生合奏
14	ヤン・ヴァデル・ロースト先生合奏
15	後期定期演奏会

科目名	室内楽研究１　［金2］打楽器						
代表教員	中村　祐子	授業コード	GE3401D0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

打楽器を通して室内楽の基礎を学び、今後の他楽器との合奏への足掛かりを作る。
前期は、膜質楽器、鍵盤楽器の基礎から同楽器の二重奏を勉強し、そこから三重奏以上の知識を深め、前期最終回には、それらを踏まえながら45分のコンサートを行う。担当教員と話し合いながら、自分達の実力に合った選曲をし、室内楽の基礎は勿論、コンサートを作り上げる基礎も学ぶ。
後期は、前期で学んだ事を生かしながら自分達でグループを組み、個人の技量を上げながら一曲の完成度を高め、上級生の試演会と同じステージに立ち、発表をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。
弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。
コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画発表。前半グループ、インスペクター決め。楽譜探し。
2	膜質楽器の基礎、楽器の選び方、セッティング他の講義、レッスン
3	２の発表・ディスカッション
4	鍵盤楽器の基礎、セッティング、バッハの演奏法の講義・レッスン
5	４の発表・ディスカッション
6	前期研究発表会の曲目、パート、係決め
7	譜読み
8	各曲練習①
9	各曲練習②
10	各曲練習③
11	各曲レッスン①
12	各曲レッスン②
13	各曲レッスン③
14	前期研究発表会ゲネプロ
15	前期研究発表会

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	後期研究発表曲の決定、パート決め
2	各曲練習①
3	各曲練習②
4	各曲練習③
5	各曲練習④
6	各曲練習⑤
7	各曲レッスン・練習①
8	各曲レッスン・練習②
9	各曲レッスン・練習③
10	各曲レッスン・練習④
11	各曲レッスン・練習⑤
12	各曲レッスン・練習⑥
13	後期研究発表会ゲネプロ
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］弦楽器						
代表教員	安藤　裕子	授業コード	GE3401GO	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。
弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。
コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	弦楽器 履修者の専攻をみながら、3重奏から6重奏までの室内楽曲を勉強します。 前期は1つの曲を全員で共有し、合奏練習ののち、その場でグループをくみ、室内楽の技術向上をめさし、個別に指導します。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン
4	演習
5	演習
6	演習
7	演習
8	演習
9	演習
10	演習
11	演習
12	演習
13	演習
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	弦楽器 古典の作品からスタートする前期授業で基礎的な技術を身につけた受講者に、可能な範囲で編成を変え、より発展的な経験を積んでいきます。 事前のリハーサルの重要性、スコアの活用法など、オーケストラ授業につながる指導をおこないます。
1	演習
2	演習
3	演習
4	演習
5	演習
6	演習
7	演習
8	演習
9	演習
10	演習
11	演習
12	演習
13	演習
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］金管						
代表教員	古田　賢司	授業コード	GE3401K0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	橋本　晋哉						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。

弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。

コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン:　コラールを用いて
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン:ルネサンス時代の舞曲を用いて
4	5~10重奏の楽曲研究①（前期の前半はバロック以前～古典の作品が望ましい）
5	楽曲研究②　曲の構成を中心に
6	楽曲研究/展開①　スタイルの研究
7	楽曲研究/展開②　和声の面からの研究
8	楽曲研究/展開③　全体の構成の研究
9	楽曲研究③　編曲作品も含めバロック、ルネサンス時代より新しい作品に取り組む
10	楽曲研究④　構成、和声面からのアナリーゼ
11	楽曲研究/展開④ 編成、作品の年代から演奏スタイルのプランを立てる
12	楽曲研究/展開⑤　和音の進行を重視したアプローチ
13	楽曲研究/展開⑥　ダイナミクス、全体のバランス等の合奏に必要な要素を研究する
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	後期のグループ分け。　後期は同族楽器のアンサンブルも含め編成する。
2	楽曲研究①　ルネサンス時代の舞曲から近代作品まで、広い範囲で選曲する
3	楽曲研究② それぞれの楽曲に対して演奏プランを考える
4	楽曲研究/展開①　演奏スタイルの研究
5	楽曲研究/展開②　和音、リズムの面からの研究、実践
6	楽曲研究/展開③　最も効果的な表現の方法を考える
7	楽曲研究③　現代作品も選曲可能　試験に向けて時間をかけて取り組める楽曲を選ぶ
8	楽曲研究④　それぞれの楽曲の演奏スタイル、練習内容のプランを立てる
9	楽曲研究/展開④　和音の進行、リズムの面から楽曲を研究する
10	楽曲研究/展開⑤　合奏に必要な表現をアップデートさせる
11	楽曲研究/展開⑥　金管アンサンブルの場合、楽器の並び方、奏者の間隔で響きが変わるので最も効果的なセッティングを試行錯誤しながら研究する
12	楽曲研究/展開⑦　改めて楽曲の構成感、スタイルを意識し室内楽と言えるレベルに到達しているか確認する
13	楽曲研究/展開⑧　次週の発表会に向け、楽曲全体を通して演奏し、より高いパフォーマンスがf出来るよう研究する
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］木管						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3401MO	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	秋山　かえで						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。
弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。
コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期9月に４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン 同属楽器
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン 木管四重奏曲
4	演習①2グループに分かれ2～4重奏で同族楽器のアンサンブルを行う。 OBモーツァルト:オーボエ三重奏曲、 FLカステレード:アルカディ CLドンディーネ:コラール など
5	演習②同じく同族楽器　メンバーを交換する。
6	演習③木管4重奏曲を演習する。 ボザ:夜の音楽 1楽章
7	演習④木管4重奏を演習する。メンバーを交換する。 ボザ:夜の音楽 2、3楽章
8	演習⑤同族楽器　メンバーを交換する。
9	演習⑥同族楽器　メンバーを交換する。
10	演習⑦木管4重奏曲を演習する。 ドビュッシー、イベールなど小品
11	演習⑧木管4重奏を演習する。メンバーを交換する。 ダマーズ:木管四重奏曲
12	演習⑨同族楽器　研究発表会のプログラムを演習する。
13	演習⑩木管4重奏曲　研究発表会の演習をする。
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期9月に４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	演習①ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 ハイドン:ディヴェルティメント1、2楽章
2	演習②ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 ハイドン:ディヴェルティメント3、4楽章
3	演習③ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 イベール:3つの小品 1楽章
4	演習④ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 イベール:3つの小品2、3楽章
5	演習⑤同族楽器で後期研究発表会のプログラムを決定する。
6	演習⑥同族楽器の演習をする。
7	演習⑦同族楽器の演習を行う。 アーノルド、ドニゼッティ、ボザ、ベートーヴェンなど
8	演習⑧木管4重奏の研究発表会のプログラム選定。
9	演習⑨木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 ボザ:木管四重奏曲
10	演習⑩木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 フランセ:木管四重奏曲 他
11	演習⑪木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 フランセ:木管四重奏曲 他
12	演習⑫同族楽器・木管4重奏の演習を行う。
13	演習⑬同族楽器・木管4重奏の演習を行う。
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］サックス						
代表教員	江川　良子	授業コード	GE3401SO	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	本堂　誠						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。
弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。
コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン
4	演習
5	演習
6	演習
7	演習
8	演習
9	演習
10	演習
11	演習
12	演習
13	演習
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	演習
2	演習
3	演習
4	演習
5	演習
6	演習
7	演習
8	演習
9	演習
10	演習
11	演習
12	演習
13	演習
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	ギター合奏１～４　[水4-5]						
代表教員	小林　徹	授業コード	GE341100	科目コード	GE3425d	期間	通年
担当教員	泉　真由						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	GT	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(フルート)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年２回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

２．授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、また演奏機会の多いフルートとの二重奏を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、必要ならば自主的な合奏練習をする。

４．成績評価の方法及び基準

成績は演奏会での成果、貢献度を総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	4限　ガイダンス 　　ギター重奏、合奏について 5限　ガイダンス 　　フルートとギターのアンサンブルについて
2	4限　ギター重奏、合奏のための基礎練習 5限　　フルートとギターのアンサンブルのための基礎練習
3	4限　ギターアンサンブルのレパートリー紹介 5限　フルートとギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	4限　ギターアンサンブルによる バロック時代の楽曲紹介 5限　フルートとギターによるバロック時代の楽曲紹介
5	4限　ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習 5限　フルートとギターによるバロック時代の楽曲練習
6	4限　ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習2 5限　フルートとギターによるバロック時代の楽曲練習2
7	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介 5限　古典派時代のフルートとギターによるアンサンブル曲の紹介
8	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の練習 5限　古典派時代のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習
9	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の練習2 5限　古典派時代のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習2
10	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定 5限　前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の選定
11	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 5限　前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習
12	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習2 5限　前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習2
13	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル 5限　前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	4限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省 5限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	4限　後期に向けた夏休み中の課題 5限　後期に向けた夏休み中の課題

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	4限　ガイダンス 　後期のギタアンサンブルの課題と 目標 5限　ガイダンス 　後期のフルートとギターのアンサンブルの課題と目標
2	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介 5限 ロマン派のフルートとギターのアンサンブル曲の紹介
3	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 5限 ロマン派のフルートとギターのアンサンブル曲の練習
4	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習2 5限 ロマン派のフルートとギターのアンサンブル曲の練習2
5	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習3 5限 ロマン派のフルートとギターのアンサンブル曲の練習3
6	4限　近・現代のギターアンサンブル曲の紹介 5限　近・現代のフルートとギターによるアンサンブル曲の紹介
7	4限　近・現代のギターアンサンブル曲の練習 5限　近・現代のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習
8	4限　近・現代のギターアンサンブル曲の練習2 5限　近・現代のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習2
9	4限　近・現代のギターアンサンブル曲の練習3 5限　近・現代のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習3
10	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定 5限　後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の選定
11	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 5限　後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習
12	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習2 5限　後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲の練習2
13	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル 5限　後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	4限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省 5限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	邦楽合奏演習１　［土4］						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE353100	科目コード	GE3531	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GH	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本奏法の習得と五線譜による邦楽アンサンブルの経験を積む。

２．授業概要

楽譜を正確に且つ深く読み取り、他パートを聴きながら演奏し、音楽全体をつくりあげる能力を高める。
講義と実技の組合せによるカリキュラム。担当講師は復習教員。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で指摘された課題を次回の授業までに克服するよう、充分に練習（個人練習、パート練習）することに努めること。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会での演奏実績（評価の３０%）
授業への参加姿勢（評価の７０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布あるいは自身で購入し用意すること。課題曲の音源があれば、入手し予め視聴しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来るだけ多くの邦楽器作品を聴く（CD、コンサートなど）ことを心掛ける。尚、本科目は現代邦楽研究所の実技授業に合流しての授業となる。

授業計画	
	［前期］
1	合奏実習のための準備講義入門　森重行敏
2	合奏実習のための準備講義応用　森重行敏
3	合奏実習のための準備講義まとめ　森重行敏
4	邦楽合奏演習　基礎訓練　譜読み　GHコース講師
5	邦楽合奏演習　基礎訓練　確認　GHコース講師
6	邦楽合奏演習　基礎訓練　定着　GHコース講師
7	邦楽合奏演習　基礎訓練　まとめ　GHコース講師
8	音楽づくりワークショップ　入門　味府美香
9	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習　譜読み GHコース講師
10	音楽づくりワークショップ 応用　味府美香
11	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 定着　GHコース講師
12	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 確認　GHコース講師
13	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 まとめ　GHコース講師
14	邦楽合奏演習　「和のいろは」リハーサル　松尾祐孝
15	「和のいろは」コンサート

授業計画	
	［後期］
1	全国邦楽合奏フェスティバル（8/31～9/2）
2	音律・調律についての講義　森重行敏
3	邦楽合奏演習　応用訓練　譜読み　GHコース講師
4	邦楽合奏演習　応用訓練　定着 GHコース講師
5	邦楽合奏演習　応用訓練 まとめ　GHコース講師
6	アドリブ演奏入門　入門 香取良彦
7	アドリブ演奏入門 まとめ 香取良彦
8	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習 譜読み GHコース講師
9	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習　定着 GHコース講師
10	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習　まとめ GHコース講師
11	冬の音楽祭　邦楽コンサート リハーサル　　松尾祐孝
12	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 譜読み　GHコース講師
13	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 定着　GHコース講師
14	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 まとめ　GHコース講師
15	邦楽合奏演習　修了コンサート　松尾祐孝

科目名	邦楽合奏演習２～４　[土4]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE353200	科目コード	GE3532d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	GH	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	邦楽合奏演習1を履修していること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本奏法の習得と五線譜による邦楽アンサンブルの経験を積む。

２．授業概要

楽譜を正確に且つ深く読み取り、他パートを聴きながら演奏し、音楽全体をつくりあげる能力を高める。
講義と実技の組合せによるカリキュラム。担当講師は復習教員。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で指摘された課題を次回の授業までに克服するよう、充分に練習（個人練習、パート練習）することに努めること。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会での演奏実績（評価の３０%）
授業への参加姿勢（評価の７０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布あるいは自身で購入し用意すること。課題曲の音源があれば、入手し予め視聴しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来るだけ多くの邦楽器作品を聴く（CD、コンサートなど）ことを心掛ける。尚、本科目は現代邦楽研究所の実技授業に合流しての授業となる。

授業計画	
	［前期］
1	合奏実習のための準備講義入門　森重行敏
2	合奏実習のための準備講義応用　森重行敏
3	合奏実習のための準備講義まとめ　森重行敏
4	邦楽合奏演習　基礎訓練　譜読み　GHコース講師
5	邦楽合奏演習　基礎訓練　確認　GHコース講師
6	邦楽合奏演習　基礎訓練　定着　GHコース講師
7	邦楽合奏演習　基礎訓練　まとめ　GHコース講師
8	音楽づくりワークショップ　入門　味府美香
9	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習　譜読み GHコース講師
10	音楽づくりワークショップ 応用　味府美香
11	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 定着　GHコース講師
12	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 確認　GHコース講師
13	邦楽合奏演習　「和のいろは」コンサート練習 まとめ　GHコース講師
14	邦楽合奏演習　「和のいろは」リハーサル　松尾祐孝
15	「和のいろは」コンサート

授業計画	
	［後期］
1	全国邦楽合奏フェスティバル（8/31～9/2）
2	音律・調律についての講義　森重行敏
3	邦楽合奏演習　応用訓練　譜読み　GHコース講師
4	邦楽合奏演習　応用訓練　定着 GHコース講師
5	邦楽合奏演習　応用訓練 まとめ　GHコース講師
6	アドリブ演奏入門　入門 香取良彦
7	アドリブ演奏入門 まとめ 香取良彦
8	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習 譜読み GHコース講師
9	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習　定着 GHコース講師
10	邦楽合奏演習　冬の音楽祭　邦楽コンサート練習　まとめ GHコース講師
11	冬の音楽祭　邦楽コンサート リハーサル　　松尾祐孝
12	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 譜読み　GHコース講師
13	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 定着　GHコース講師
14	邦楽合奏演習　修了コンサート練習 まとめ　GHコース講師
15	邦楽合奏演習　修了コンサート　松尾祐孝

科目名	シーンスタディⅠ ［水3-4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE370500	科目コード	GE3705	期間	通年
担当教員	三橋　千鶴、高谷　あゆみ、山下　順子、山田　宏平、高野　直子、関　与志雄、ｔｅｋｋａｎ、田野　邦彦、小林						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。いろいろなジャンルのミュージカルのーシーンを演出をつけながら勉強し、夏冬の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

声を使った演技「シアトリカル・リーディング」及び　歌、ダンス、芝居の3要素を含む「有名ミュージカルのワンシーン」を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカルについての知識を事前に調べて授業に臨むこと。（作詞作曲者、時代背景、初演、作品名、等）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

チームで取り組む作業が大半を占めるので欠席の内容健康　面での自己管理を怠らないこと。
テキストは常に携帯。常に暗譜を心がける。
服装は稽古着着用のこと。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。
遅刻欠席は必ず届け出ること。

授業計画	
	［前期］ 　前期は7月初旬に行われる授業成果発表でもある「シアトリカルリーディング」公演に向けての授業とする。 リーディング公演終了後の授業は、後期演目のリサーチと課題曲歌唱を夏休みの課題とするため、そのための楽曲指導と7月下旬の授業成果発表「サマー・ミュージカル・ショウケース」の準備にあてる。
1	ガイダンス(年間進行、休補講案内) 教員、学生、自己紹介。 グループエクササイズ（一言自己紹介） シアトリカルリーディングガイダンス
2	シアトリカルリーディング読み合わせ
3	リーディングオーディション
4	キャスティングのための稽古
5	ステージング
6	スケジュールと上演回の発表。ステージング, グループごとに稽古
7	チームごとの稽古
8	チーム毎の稽古
9	チーム毎の稽古
10	チーム毎の稽古
11	チーム毎の稽古
12	サマーショウケース稽古 後期課題についての指導
13	サマーショウケース稽古 後期課題のための指導
14	サマーショウケース稽古 後期課題のための指導
15	後期課題のための指導 夏仮題発表

授業計画	
	［後期 ミュージカルの古典ともいうべきロジャース＆ハマースタインⅡコンビの作品のハイライトを課題として取り上げ、歌、演技、ダンスの三要素を含む作品としてチームごとに取り組み、年度末に発表をする。
1	後期課題のオーディション。使用楽曲視唱。
2	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け
3	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け
4	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け
5	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け
6	ステージング
7	ステージング+演技指導
8	演技指導+歌唱指導
9	ダンス、歌唱、演技指導。 衣装合わせ
10	シーン別稽古
11	衣装付き通し稽古
12	衣装付き通し稽古
13	抜き稽古
14	舞台稽古（ゲネプロ）
15	発表

科目名	シーンスタディII ［水3-4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE370600	科目コード	GE3706	期間	通年
担当教員	家田　淳、ダイアナ　ボール　石山、横山　仁一、牧　華子、山村　愛、マリタ　ストライカー、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

1年次で学習したことを2年次ではさらに発展させる。
歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。いろいろなジャンルのミュージカルのーシーンを演出をつけながら勉強し、夏冬の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのワンシーンを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカルについての知識を事前に調べて授業に臨むこと。（作詞作曲者、時代背景、初演、作品名、等）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）
後期実技試験（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。年間数本の予定で課題を消化していくが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施する。 ※前期は夏の音楽祭に向けた準備も授業にあてられる。 ※後期の演目は年度末試験時にビッグマウスで発表を行なう。
1	前期課題の資料配布とガイダンス （※演目は学年の男女比等鑑みて選定） 音楽稽古／ダンスワークショップ／読み合わせ
2	課題演目キャスティングオーディション
3	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
4	課題演目音楽稽古／振付／立ち稽古
5	音楽稽古／振付／立ち稽古
6	音楽稽古／振付／立ち稽古
7	音楽稽古／振付／立ち稽古
8	発表とフィードバック
9	夏の音楽祭に向けての準備
10	夏の音楽祭に向けての準備
11	夏の音楽祭に向けての準備
12	夏の音楽祭に向けての準備
13	夏の音楽祭に向けての準備
14	夏の音楽祭に向けての準備
15	夏の音楽祭に向けての準備

授業計画	
	［後期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。年間数本の予定で課題を消化していくが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施する。 ※前期は夏の音楽祭に向けた準備も授業にあてられる。 ※後期の演目は年度末試験時にビッグマウスで発表を行なう。
1	後期課題の資料配布とガイダンス （「コーラスライン」等より） 音楽稽古／ダンスワークショップ／読み合わせ
2	課題演目キャスティングオーディション
3	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
4	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
5	音楽稽古／振付／立ち稽古
6	音楽稽古／振付／立ち稽古
7	音楽稽古／振付／立ち稽古
8	音楽稽古／振付／立ち稽古
9	音楽稽古／振付／立ち稽古
10	音楽稽古／振付／立ち稽古
11	通し稽古／修正・調整
12	通し稽古／修正・調整
13	通し稽古／修正・調整
14	通し稽古／修正・調整
15	ゲネプロ／修正・調整

科目名	シーンスタディIII ［木3-4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE370700	科目コード	GE3707	期間	通年
担当教員	横山　仁一、ダイアナ　ボール　石山、清水　菜穂子、ｔｅｋｋａｎ、小林　瑶子、牧　華子、マリタ　ストライ						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

2年次で学習したことを3年次ではさらに発展させる。
歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。いろいろなジャンルのミュージカルのーシーンを演出をつけながら勉強し、夏冬の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのシーンを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカルについての知識を事前に調べて授業に臨むこと。（作詞作曲者、時代背景、初演、作品名、等）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。年間数本の予定で課題を消化していくが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施する。 ※前期は夏の音楽祭に向けた準備も授業にあてられる。 ※後期の演目は年度末試験時にビッグマウスで発表を行なう。
1	前期課題の資料配布とガイダンス （※演目は学年の男女比等鑑みて選定） 音楽稽古／ダンスワークショップ／読み合わせ
2	課題演目キャスティングオーディション
3	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
4	課題演目音楽稽古／振付／立ち稽古
5	音楽稽古／振付／立ち稽古
6	音楽稽古／振付／立ち稽古
7	音楽稽古／振付／立ち稽古
8	発表とフィードバック
9	夏の音楽祭に向けての準備
10	夏の音楽祭に向けての準備
11	夏の音楽祭に向けての準備
12	夏の音楽祭に向けての準備
13	夏の音楽祭に向けての準備
14	夏の音楽祭に向けての準備
15	夏の音楽祭に向けての準備

授業計画	
	［後期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。年間数本の予定で課題を消化していくが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施する。 ※前期は夏の音楽祭に向けた準備も授業にあてられる。 ※後期の演目は年度末試験時にビッグマウスで発表を行なう。
1	後期課題の資料配布とガイダンス （「Wicked」「リーガリーブロンド」等より） 音楽稽古／ダンスワークショップ／読み合わせ
2	課題演目キャスティングオーディション
3	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
4	課題演目音楽稽古／振付／読み合わせ
5	音楽稽古／振付／立ち稽古
6	音楽稽古／振付／立ち稽古
7	音楽稽古／振付／立ち稽古
8	音楽稽古／振付／立ち稽古
9	音楽稽古／振付／立ち稽古
10	音楽稽古／振付／立ち稽古
11	通し稽古／修正・調整
12	通し稽古／修正・調整
13	通し稽古／修正・調整
14	通し稽古／修正・調整
15	ゲネプロ／修正・調整

科目名	シーンスタディIV ［木3-4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE370800	科目コード	GE3708	期間	通年
担当教員	倉迫　康史、瀧本　瞳、青木　さおり、クリス　チャベス、井上　友美、星野　苗緒、平塚　美和子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。いろいろなジャンルのミュージカルの1シーンを演出をつけながら勉強し、夏の音楽祭での「Summer Musical Showcase」や、秋の本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

2．授業概要

歌、ダンス、演技の3要素を含む有名ミュージカルの1シーンを学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカル作品について、各自が事前に調べて授業に臨むこと。（作詞・作曲者、時代背景、初演、作品のテーマなど）

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
授業成果発表(評価の50%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 7月後半に公演予定の「Summer Musical Showcase」に向けて、6月からはそのオーディションや歌稽古、ダンス稽古、ステージングなど公演稽古になるが、それまでは、歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルの1シーンを学んでいく。年間数シーンを予定しているが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施し、そのシーンをていねいに深く創りこんでいく。
1	ガイダンス。教員、学生の自己紹介。 ウォーミングアップ。発声。パート決め。 ダンスウォーミングアップ。テキスト配布。 DVD鑑賞。
2	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ。振り付け。台本本読み 。＃1
3	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ。振り付け。台本本読み 。＃2
4	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ。振り付け。台本本読み 。＃3
5	キャスティングオーディション及び各チーム組み分け発表。 発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。演技稽古。
6	発声、ダンスウォーミングアップの後、通し稽古。 その後、演出、音楽、ダンス、ステージングチェック。＃1
7	発声、ダンスウォーミングアップの後、通し稽古。 その後、演出、音楽、ダンス、ステージングチェック。＃2
8	各チーム授業成果発表。その後、フィードバック。
9	「Summer Musical Showcase」に向けて、音楽稽古、ダンス振り付け、ステージング稽古。＃1
10	「Summer Musical Showcase」に向けて、音楽稽古、ダンス振り付け、ステージング稽古。＃2
11	「Summer Musical Showcase」に向けて、音楽稽古、ダンス振り付け、ステージング稽古。＃3
12	「Summer Musical Showcase」に向けて、音楽稽古、ダンス振り付け、ステージング稽古。＃4
13	「Summer Musical Showcase」に向けて、音楽稽古、ダンス振り付け、ステージング稽古。＃5
14	「Summer Musical Showcase」通し稽古、及び各セクションフィードバック。
15	「Summer Musical Showcase」リハーサル、及び各セクションフィードバック。

授業計画	
	［後期］ 歌、ダンス、演技の3要素を含む有名ミュージカルのワンシーンを学んでいく。後期は2シーンを学ぶ予定だが、演目が変わるごとにキャスティングのオーディションを実施し、そのシーンをていねいに深く創りこんでいく。
1	後期演目の発表。 発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃1
2	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃2
3	キャスティングオーディション及び各チーム組み合わせ発表。 発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃3
4	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃4
5	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。演技稽古。＃1
6	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。演技稽古。＃2
7	発声、ダンスウォーミングアップの後、通し稽古。 その後、演出、音楽、ダンス、ステージングチェック。
8	各チーム授業成果発表。その後、フィードバック。
9	後期後半演目発表。 発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃1
10	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃2
11	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃3
12	キャスティングオーディション及び各チーム組み合わせ発表。 発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。台本本読み。＃4
13	発声及び音楽稽古。ダンスウォーミングアップ、振り付け。演技稽古。
14	発声、ダンスウォーミングアップの後、通し稽古。 その後、演出、音楽、ダンス、ステージングチェック。
15	各チーム授業成果発表。その後、フィードバック。 4年間の総括。

科目名	ＭＳアンサンブル実習Ⅰ ［月3］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE371500	科目コード	GE3715	期間	通年
担当教員	倉迫　康史、ダイアナ　ボール　石山、高野　二郎、山下　順子、星野　苗緒、田野　邦彦、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演技の基礎である、呼吸、コンタクト、解放、相手役とのコミュニケーション等、自分の身体や感覚を自覚することを学び、尚かつ操作する能力を訓練し、アンサンブルにおける、明確なキャラクター付けがされていない人物達を、単にキャラクターを表現するのではなく、自分の中から生まれた感情を行動に反映し、実感を持って演じられるようになることを目指します。

全員で呼吸やタイミング、強弱やニュアンス等を感じ取るトレーニングを通して、アンサンブルで歌うことの楽しさを感じながら、必要な感覚を養います。

様々なトレーニングをしながら、ミュージカルの曲を使い、アンサンブルのシーンを作り上げていきます。

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
実技試験（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス この授業の目的・役割の説明
2	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
3	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
4	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
5	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
6	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
7	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲
8	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
9	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
10	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
11	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「Sister Act」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
12	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「RENT」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
13	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「RENT」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
14	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「RENT」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古
15	発声　エクササイズ 振り付け、および音楽稽古。 ミュージカル「RENT」等より数曲 夏の音楽祭に向けての稽古

授業計画	
	［後期］
1	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
2	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
3	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
4	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
5	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
6	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
7	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
8	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
9	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
10	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
11	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
12	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
13	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
14	発声　エクササイズ ミュージカル「アニー」より
15	発表

科目名	ＭＳアンサンブル実習II ［金4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE371600	科目コード	GE3716	期間	通年
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、清水　菜穂子、星野　苗緒、家田　淳、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「MSアンサンブル実習I」で学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。その役の感情や感覚に合わせて、自分の「歌＝声」と「ダンス＝体」を自在に操り、表現の技術を高めることを目標とする。（歌は声を主とした表現だが、体とことばも重要であり、ダンスは体を主とした表現だが、声にならない声が重要である。）

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
授業成果発表（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス DVD鑑賞
2	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「イーストウイックの魔女達」より音楽稽古＃1
3	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」より音楽稽古＃2
4	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」より音楽稽古＃3
5	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」より音楽稽古＃4
6	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」よりランスルー＃1
7	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」よりランスルー＃2
8	ミュージカル「イーストウイックの魔女達」より授業成果発表
9	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃1
10	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃2
11	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃3
12	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃4
13	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃5
14	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃6
15	「Summer Musical Showcase」音楽稽古・ダンス稽古＃7

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション DVD鑑賞
2	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃1
3	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃2
4	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃3
5	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃4
6	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃5
7	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古＃6
8	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃1
9	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃2
10	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃3
11	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃4
12	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃5
13	ミュージカル「モダン・ミリー」より音楽稽古・ステージング＃6
14	A.Bチーム授業成果発表＃1
15	C.Dチーム授業成果発表＃2

科目名	ＭＳアンサンブル実習III　[水2]						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE371700	科目コード	GE3717	期間	通年
担当教員	星野　苗緒、田野　邦彦、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「MSアンサンブル実習II」で学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。その役の感情や感覚に合わせて、自分の「歌＝声」と「ダンス＝体」を自在に操り、表現の技術を高めることを目標とする。（歌は声を主とした表現だが、体とことばも重要であり、ダンスは体を主とした表現だが、声にならない声が重要である。）

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。なおキャスティング後は役作りにふさわしい稽古着を着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス DVD鑑賞
2	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古
3	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 キャスティング発表、本読み
4	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より暗譜稽古(暗譜できているか確認) 本読み(台詞が身体に入っているか確認)
5	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 振付開始、立ち稽古開始
6	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
7	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
8	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
9	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
10	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
11	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「フロッグとトード」より音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
12	上記ブラッシュアップ
13	上記ブラッシュアップ
14	ミュージカル「フロッグとトード」より前期実技試験に向けてのリハーサル
15	前期実技試験・まとめ

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、 バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古
2	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古 キャスティング発表、本読み
3	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、本読み
4	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、本読み
5	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、本読み
6	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、振付、ステージング
7	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、振付、ステージング
8	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、振付、ステージング
9	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、振付、ステージング
10	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より音楽稽古、振付、ステージング
11	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より立ち稽古ブラッシュアップ
12	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より立ち稽古ブラッシュアップ
13	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション ミュージカル「レ･ミゼラブル」より立ち稽古ブラッシュアップ
14	後期実技試験にむけてのリハーサル
15	後期実技試験にむけてのリハーサル

科目名	ＭＳアンサンブル実習IV ［月4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE371800	科目コード	GE3718	期間	通年
担当教員	梶木　良子、打越　麗子、田野　邦彦、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習III」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「MSアンサンブル実習III」で学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。その役の感情や感覚に合わせて、自分の「歌＝声」と「ダンス＝体」を自在に操り、表現の技術を高めることを目標とする。（歌は声を主とした表現だが、体とことばも重要であり、ダンスは体を主とした表現だが、声にならない声が重要である。）

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス DVD鑑賞
2	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
3	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
4	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
5	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
6	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
7	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開
8	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
9	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
10	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
11	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
12	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
13	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
14	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古
15	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション 他 夏音演目の演習を中心に授業を展開 夏の音楽祭に向けての稽古

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
2	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
3	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
4	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
5	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
6	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
7	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
8	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
9	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
10	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
11	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
12	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
13	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
14	基礎エクササイズ、ウォーキングステップ、ジャズウォーク、ラテンウォーク、バッドマンターンのプレパレーション　他 ミュージカル「ウェストサイド物語」「春の目覚め」「シカゴ」その他　より抜粋シーンを演習
15	発表

科目名	狂言実習１　［木2］Aクラス						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE3771A0	科目コード	GE3771	期間	通年
担当教員	金田　弘明、篠原　真						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。□

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。□

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。□

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０%、授業内テスト３０%□

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。□

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意することが望ましい。□

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
	[日舞]
1	着物の着方、簡単な所作
2	着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）、まとめ
5	扇子を使った女の踊り
6	扇子を使った男の踊り
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（手踊り）
9	課題曲１（振りと音の確認）
10	課題曲１（まとめ）
11	課題曲２（導入）
12	課題曲２（型の徹底）
13	課題曲２（振りと音の確認）
14	課題曲２（まとめ）
15	まとめと試験

授業計画	
	[狂言]
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。小舞「宇治の晒し」謡。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」（後半部）の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

科目名	狂言実習１　［木2］Bクラス						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE3771B0	科目コード	GE3771	期間	通年
担当教員	花柳　輔瑞佳、篠原　真						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。

２．授業概要

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。
＜日舞＞
着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

受講姿勢７０%、授業内テスト３０%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意することが望ましい。

授業計画	
	[狂言]
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。小舞「宇治の晒し」謡。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」（後半部）の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

授業計画	
	[日舞]
1	着物の着方、簡単な所作
2	着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）、まとめ
5	扇子を使った女の踊り
6	扇子を使った男の踊り
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（手踊り）
9	課題曲１（振りと音の確認）
10	課題曲１（まとめ）
11	課題曲２（導入）
12	課題曲２（型の徹底）
13	課題曲２（振りと音の確認）
14	課題曲２（まとめ）
15	まとめと試験

科目名	舞台芸術概論　［木2］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GE378200	科目コード	GE3782	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS・BL・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

舞台芸術（パフォーミングアーツ）とはそもそもなんなのか？という問いかけに始まり、その起源と変遷を西洋と日本の舞台芸術史を通じて、主要ジャンルを網羅しつつ、アートマネージメントの現在を知り、職業俳優や舞台人として必要な見識、教養を習得する。

２．授業概要

明日すぐに役立つ「舞台芸術用語の基礎知識」や、実際のテキストを用いた朗読や、映像資料の鑑賞を交えながら、各論の講義を行い、実践的な見識・教養を身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては、該当項目に関して予め自分なりに調べ、質問をひとつ考えてくる。復習は該当項目講義後、興味の湧いた事項に関して自分で調べて報告、発表する。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢=出席（評価の５０％）
※前後期それぞれ4回を超える欠席については原則単位を認定しない

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『演劇学のキーワーズ』ぺりかん社
『演劇制作マニュアル』財団法人地域創造

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在行われている舞台芸術は全て長い歴史の中で発展してきたものであり、互いに影響を与えながら進化し続けている。「舞台芸術とは何か」に興味を持って、舞台芸術の歴史と現在を学ぶことに意欲をもって取り組んで欲しい。

授業計画	
	［前期］
1	クラスオリエンテーリング 「舞台芸術とは何か？」
2	西洋舞台芸術史概観 舞台芸術用語の基礎知識#1（劇場編#1）
3	舞台芸術用語の基礎知識#2（劇場編#2）
4	古代ギリシア#1 舞台芸術用語の基礎知識#3（舞台機材編#1）
5	古代ギリシア#2 舞台芸術用語の基礎知識#4（舞台機材編#2）
6	古代ローマ 舞台芸術用語の基礎知識#5（道具編）
7	中世 舞台芸術用語の基礎知識#6（芸術賞／フェスティバル編）
8	近世（ルネッサンス期概観） 舞台芸術用語の基礎知識#7（単位編）
9	英国エリザベス朝（シェイクスピア劇） #1 舞台芸術用語の基礎知識#8（照明編#1）
10	英国エリザベス朝（シェイクスピア劇）#2 舞台芸術用語の基礎知識#9（照明編#2）
11	バレエの歴史
12	オペラの歴史
13	近世その他の演劇（フランス・イタリア・スペイン） 舞台芸術用語の基礎知識#10（音響編）
14	前期総括
15	前期試験

授業計画	
	［後期］
1	オペレッタの歴史
2	ミュージカルの歴史
3	レビューの歴史
4	近代現代の舞台芸術概観
5	リアリズム演劇
6	不条理演劇
7	現代その他のジャンル（パフォーマンス・サーカス・大道芸・即興劇）
8	西洋舞台芸術史まとめ
9	日本演劇史・アートマネージメント概観
10	最新動向（伝統芸能編#1：能・狂言・歌舞伎）
11	最新動向（伝統芸能編#2：能・狂言・歌舞伎）
12	最新動向（演劇・コンテンポラリーダンス#1）
13	最新動向（演劇・コンテンポラリーダンス#2）
14	後期総括
15	後期試験

科目名	舞台音楽論／舞台音楽論Ｉ　（前）　[月4]						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE378500	科目コード	GE3785	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

100年以上の歴史を持つミュージカル音楽を中心に、その作曲技法やストーリとの関連性を研究する。また、作品の中でのメロディー・リズム・ハーモニーの役割、重要性を学ぶ。前期は、1950年代から1960年代の作品を研究する。

２．授業概要

授業計画に沿って、作曲技法の習得、および楽曲研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた楽曲を次回の授業で各自歌い、またピアノ伴奏譜を簡単なコードで弾くことを課す。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（1950年代から1970年代の代表的なミュージカル曲の作品解説、および楽曲分析について大まかな内容を説明する。）
2	サウンド・オブ・ミュージックより「サウンド・オブ・ミュージック」を中心に
3	サウンド・オブ・ミュージックより「シックスティーン・ゴーイング・オン・セブンティーン」を中心に
4	サウンド・オブ・ミュージックより「クライム・エブリ・マウンテン」を中心に
5	サウンド・オブ・ミュージックより「私のお気に入り」を中心に
6	南太平洋より「ハッピートーク」を中心に
7	南太平洋より「バリハイ」を中心に
8	王様と私より「シャル・ウィー・ダンス」を中心に
9	オクラホマより「オクラホマ」を中心に
10	ファンタスティックスより「マッチ・モア」を中心に
11	ファンタスティックスより「ゼイ・フェア・ユー」を中心に
12	ウエスト・サイド・ストーリーより「プロローグ」「バルコニーにて」を中心に
13	ウエスト・サイド・ストーリーより「クール」「マンボ」を中心に
14	ウエスト・サイド・ストーリーより「アメリカ」「シンフォニック・ダンス」を中心に
15	ウエスト・サイド・ストーリーより「アイ・フィール・プリティ」「マリア」を中心に

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	舞台音楽論II （後） ［月4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE378600	科目コード	GE3786	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「舞台音楽論Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

100年以上の歴史を持つミュージカル音楽を中心に、その作曲技法やストーリとの関連性を研究する。また、作品の中でのメロディー・リズム・ハーモニーの役割、重要性を学ぶ。後期は、1960年代から現代までの作品を研究する。

２．授業概要

授業計画に沿って、作曲技法の習得、および楽曲研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた楽曲を次回の授業で各自歌い、またピアノ伴奏譜を簡単なコードで弾くことを課す。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	コーラスラインより「愛は消えない」「ダンステン・ルックススリー」を中心に
2	コーラスラインより「ワン」「プロローグ」を中心に
3	イントゥ・ザ・ウッズより「オープニング」を中心に
4	イントゥ・ザ・ウッズより「ジャイアンツ・インザ・スカイ」を中心に
5	イントゥ・ザ・ウッズより「アイ・ノウ・シングス・ナウ」を中心に
6	イントゥ・ザ・ウッズより「フィナーレ」を中心に
7	オペラ座の怪人「シンク・オブ・ミー」を中心に
8	オペラ座の怪人「エンジェル・オブ・ミュージック」を中心に
9	オペラ座の怪人「ファントム・オブ・ザ・オペラ」を中心に
10	リトル・マーメードより「パート・オブ・ユア・ワールド」を中心に
11	ムーランより「リフレクション」を中心に
12	アラジンより「ア・フォール・ニュー・ワールド」を中心に
13	モーツァルト「僕こそミュージック」を中心に
14	エリザベート「私だけに」を中心に
15	日本のミュージカル曲および全体の総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［水1］バレエ						
代表教員	飛沢　由衣	授業コード	GE3801B1	科目コード	GE3801Ad	期間	通年
担当教員	高野　直子、小畑　奈美子、小林　瑶子、牧　華子、佐古　えりな、斉藤　加津代、飛田　美央						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［水2］バレエ						
代表教員	林　麻衣子	授業コード	GE3801B2	科目コード	GE3801Bd	期間	通年
担当教員	新井　望、井上　友美、高野　直子、小畑　奈美子、小林　瑶子、飛沢　由衣、横岡　諒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木1］バレエ							
代表教員	林　麻衣子	授業コード	GE3801B3	科目コード	GE3801Cd	期間	通年	
担当教員	新井　望、井上　友美、高野　直子、日原　永美子、小畑　奈美子、柿崎　俊也、小林　瑶子、飛沢　由衣、佐古							
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木2］バレエ						
代表教員	新井　望	授業コード	GE3801B4	科目コード	GE3801Dd	期間	通年
担当教員	井上　友美、小畑　奈美子、林　麻衣子、小林　瑶子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］バレエ						
代表教員	丸山　まどか	授業コード	GE3801B5	科目コード	GE3801Ed	期間	通年
担当教員	小畑　奈美子、飛沢　由衣、井上　友美、星野　苗緒、高野　直子、中武　啓吾						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金3］バレエ							
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE3801B6	科目コード	GE3801Fd	期間	通年	
担当教員	星野　苗緒、丸山　まどか、高野　直子、小畑　奈美子							
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［火5］ヒップホップ						
代表教員	GOTO	授業コード	GE3801H2	科目コード	GE3801Od	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ミュージカル「ハミルトン」のように、ヒップホップダンスを取り入れる作品が増えている。
この授業ではヒップホップに必要なリズムトレーニングや基礎的な体の使い方などを習得し、ミュージカルやその他の舞台など様々な活動の場でのパフォーマンス力の一つとなるダンス能力の向上を目指す。また、通年授業を通してアフタービートの音楽に慣れ親しみ、表現力と音楽への知識を高めることを目標とする。

２．授業概要

基礎リズム、ステップ、ストレッチや体幹強化など年間を通してトレーニングを行う。必要に応じて、ガールズヒップホップやジャズヒップホップ・フリースタイルも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回必ず復習し、次の授業までに課題をクリアすること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%、試験20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装・靴（スニーカー）を各自用意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ダンス演習（基礎導入） 柔軟性と基礎
3	ダンス演習（リズム基礎） 体幹の強化
4	ダンス演習（リズム基礎） ダウンビート・アップビート
5	ダンス演習（基礎応用） 柔軟性向上のためのダウンビート・アップビート
6	ダンス演習（リズム基礎） エイトビート
7	ダンス演習（リズム基礎） アップビート
8	ダンス演習（リズム基礎） ダウンビート・アップビート
9	ダンス演習（基礎応用） 体幹トレーニング・筋力（腹筋・腕）アップ
10	ダンス演習（基礎応用） ボックスステップ・基礎ステップ
11	ダンス演習（基礎応用） 音楽（ヒップホップミュージック）
12	ダンス演習（基礎応用） ボディーコントロール
13	ダンス演習（基礎応用） 5・6人のグループワーク（創作）
14	前期成果発表
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ダンス演習（基礎） 可動域を広げるリズムトレーニング
2	ダンス演習（リズム基礎） 腹筋・体幹トレーニング
3	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（フロント・バック）
4	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（基礎リズム・胸・首・ヒップロール）
5	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（基礎リズム・胸・腰・ヒップロール）
6	ダンス演習（基礎応用） 重心の意識（胸・手・ウェーブ）
7	ダンス演習（リズム基礎応用） 重心運動（クロスフロア）
8	ダンス演習（リズム基礎応用） 手の動き（８ビート、16ビート）
9	ダンス演習（リズム基礎応用） 基礎ステップ（足の動かし方・下半身の動かし方）・応用ステップ
10	ダンス演習（リズム基礎応用） コンビネーション
11	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク
12	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク
13	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク
14	学年末成果発表
15	後期のまとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］ジャズ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GE3801J2	科目コード	GE3801Hd	期間	通年
担当教員	篠原　真、ダイアナ　ボール　石山、クリス　チャベス						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。

遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
15	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
15	ジャズダンス実技試験・まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金3］ジャズ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GE3801J3	科目コード	GE3801Id	期間	通年
担当教員	篠原　真、ダイアナ　ボール　石山、高谷　あゆみ、クリス　チャベス、打越　麗子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。

遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
15	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
15	ジャズダンス実技試験・まとめ

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金4］ジャズ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GE3801J4	科目コード	GE3801Jd	期間	通年
担当教員	篠原　真、高谷　あゆみ、クリス　チャベス、打越　麗子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。

遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古
15	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション Summer Musical Showcaseに向けての稽古

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
2	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
3	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
4	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
5	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
6	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
7	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
8	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
9	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
10	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
11	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
12	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
13	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
14	ストレッチ、基本エクササイズ、振付コンビネーション
15	ジャズダンス実技試験・まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月2］ジャズ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ（BL専用）							
代表教員	河内　達弥	授業コード	GE3801J5	科目コード	GE3801Qd	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

1．主題・到達目標

ジャズダンスに必要なステップテクニックを習得し、コンビネーションでは様々なスタイルを学ぶことによって自分の個性を発見し育む。最終的には頭ではなくハートで踊れることを目指す。バレエ出身者にありがちな癖をジャズではどのように適応していくかを学ぶ。

2．授業概要

ウォーミングアップ、ストレッチ、ジャズダンスに必要なクロスフロア、コンビネーションの実践。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

コンビネーションの復習、舞踊、映画、美術等の芸術鑑賞。

4．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、シューズはジャズダンスシューズを履く。タオルと水分補給できるものを持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、シアタージャズ（基本）
2	ポップジャズ（基本）
3	モダンジャズ（基本）
4	リリカルジャズ（基本）
5	テーマパーク（基本）
6	シアタージャズ（表現）
7	ポップジャズ（表現）
8	モダンジャズ（表現）
9	リリカルジャズ（表現）
10	テーマパーク（表現）
11	シアタージャズ（テクニック）
12	ポップジャズ（テクニック）
13	モダンジャズ（テクニック）
14	リリカルジャズ（テクニック）
15	テーマパーク（テクニック）

授業計画	
	[後期]
1	シアタージャズ（応用）
2	ポップジャズ（応用）
3	モダンジャズ（応用）
4	リリカルジャズ（応用）
5	テーマパーク（応用）
6	シアターダンス（まとめ）
7	ポップジャズ（まとめ）
8	モダンジャズ（まとめ）
9	リリカルジャズ（まとめ）
10	テーマパーク（まとめ）
11	ステージング、フォーメーション付き演習（基本）
12	ステージング、フォーメーション付き演習（応用）
13	ステージング、フォーメーション付き演習（仕上げ）
14	ステージング、フォーメーション付き演習（まとめ）
15	ステージング、フォーメーション付き演習（発表／統括）

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4　［月2］ｼﾞｬｽﾞ/谷ｸﾗｽ/牧ｸﾗｽ（BL専用）							
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE3801J6	科目コード	GE3801Qd	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	[後期]
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション一年間の総仕上げ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［火2］ジャズ（BL専用）							
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE3801J8	科目コード	GE3801Rd	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	[後期]
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション一年間の総仕上げ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］ジャズ（DC専用）							
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE3801K1	科目コード	GE3801Td	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの魅力と個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台鑑賞（舞踊、演劇）、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスジャズダンスシューズ、もしくは動きやすいシューズを使用。
動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション一年間の総仕上げ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木2］ストリート（DC専用）						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE3801S1	科目コード	GE3801Sd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスに必要な基礎的な身体の使い方・アイソレーション・基礎リズムトレーニングを通し、ステージや舞台など様々な活動の場でのパフォーマンス力の一つとなるダンス基礎の習得を目指す。授業では、身体の柔軟性と筋力アップ、体幹トレーニング、リズムトレーニングを通して身体的表現力向上を目指す。通年授業を通してストリートダンス基礎力・表現力と音楽への知識を高め、ダンス力の向上を目標とする。

２．授業概要

ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、HipHop基礎リズムトレーニング&Stepトレーニング。年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて、振付や振付制作・Freestyle・ 個別指導・グループワークも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での内容を毎回反復練習するなど、自主的なトレーニングを習慣付けることが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(基礎リズム理解度・習得度・表現力・授業態度等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体を動かす授業なので、体調管理に気をつけること。各自水分補給を心がけ、動きやすい服装・靴（スニーカー）で授業に臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	前期ガイダンス及びダンス演習（基礎導入） ⑴柔軟性
2	ダンス演習（基礎導入） ⑵柔軟性とアイソレーション
3	ダンス演習（リズム基礎） ⑶コアの強化
4	ダンス演習（リズム基礎） ⑷リズム基礎（Down）
5	ダンス演習（基礎応用） ⑸柔軟性とアイソレーションの意識
6	ダンス演習（リズム基礎） ⑹リズム感（オンビート）
7	ダンス演習（リズム基礎） ⑺リズム感（UP）
8	ダンス演習（リズム基礎） ⑻リズム基礎の強化（Down&UP）
9	ダンス演習（基礎応用） ⑼筋力アップと基本Step
10	ダンス演習（基礎応用） ⑽基本Stepと軸・ボディバランス
11	ダンス演習（基礎応用） ⑾音楽性
12	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 ⑿リズム感とボディコントロール
13	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 ⒀チームワーク
14	前期末成果発表 ⒁目線と表情
15	前期到達度の確認 ⒂表現力

授業計画	
	【後期】
1	ダンス演習（基礎） (1)16ビート
2	ダンス演習（リズム基礎） (2)腹筋・体幹トレーニング
3	ダンス演習（リズム基礎応用） (3)リズム感（フロント・バック）
4	ダンス演習（リズム基礎応用） (4)リズム感（基礎リズム＆アイソレーション・首）
5	ダンス演習（リズム基礎応用） (5)リズム感（基礎リズム＆アイソレーション・肩）
6	ダンス演習（基礎応用） (6)重心の意識
7	ダンス演習（リズム基礎応用） (7)重心移動（クロスフロア）
8	ダンス演習（リズム基礎応用） (8)手の動き
9	ダンス演習（リズム基礎応用） (9)軸の意識（Step&ターン）
10	ダンス演習（リズム基礎応用） (10)コンビネーション
11	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (11)音楽性と基礎・応用力
12	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (12)フロア
13	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (13)構成力
14	学年末成果発表 (14)表現力
15	後期到達度の確認 (15)リズム基礎＆Step・応用の確認

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月2］ タップ						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE3801T1	科目コード	GE3801Kd	期間	通年
担当教員	平塚　美和子、クリス　チャベス、風真　弘子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

Tap Dance class will teach the basic Tap technique of “AL Golbert” style of Tap.
The class will cansist of a Basic Tap warm up[camma] clear explanations of leg and foot work in order to make clear sounds with your Taps. Also across the floor tap technique which will develope skills in turning and combinations. Followed by choreography in Musical Theatre Tap styles.

２．授業概要

This class will prepare students to be able to go to an audition and be able to do a basic time step. It will also provide Musical Tap numbers to be performed through out the school year. Just as important as ballet and Jazz[camma] this Tapclass will enable the student to be a “well rounded dancer”. Who is able to also Tap as well as Dance Jazz and ballet.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Practice basic steps

４．成績評価の方法及び基準

Class attendance and attitude with in the Classroom.

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Introduction to Tap.
2	Basic explanations and exercises.
3	Basic explanations and exercises.
4	Basic explanations and exercises.
5	Basic explanations and exercises.
6	Basic explanations and exercises.
7	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
8	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
9	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
10	Continue basic steps.
11	Continue basic steps.
12	Choreography "Sing, Sing, Sing"
13	Choreography "Sing, Sing, Sing"
14	Choreography "Sing, Sing, Sing"
15	Class perfromance of one musical tap number

授業計画	
	［後期］
1	Review basic step
2	Traveling steps, variations of timesteps
3	Traveling steps, variations of timesteps
4	Traveling steps, variations of timesteps
5	Traveling steps, variations of timesteps
6	Choreography "42nd Street"
7	Choreography "42nd Street"
8	Choreography "42nd Street"
9	Choreography "42nd Street"
10	Continuation of new steps. Teach basic arm movement within the choreography and also performance techniques, depending on the style of thew music.
11	Continuation of new steps.
12	Continuation of new steps.
13	Continuation of new steps.
14	Continuation of new steps.
15	Last class performance of choreography

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月3］ タップ						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE3801T2	科目コード	GE3801Ld	期間	通年
担当教員	クリス　チャベス、平塚　美和子、風真　弘子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

Tap Dance class will teach the basic Tap technique of “AL Golbert” style of Tap.
The class will cansist of a Basic Tap warm up[camma] clear explanations of leg and foot work in order to make clear sounds with your Taps. Also across the floor tap technique which will develope skills in turning and combinations. Followed by choreography in Musical Theatre Tap styles.

２．授業概要

This class will prepare students to be able to go to an audition and be able to do a basic time step. It will also provide Musical Tap numbers to be performed through out the school year. Just as important as ballet and Jazz[camma] this Tapclass will enable the student to be a “well rounded dancer”. Who is able to also Tap as well as Dance Jazz and ballet.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Practice basic steps

４．成績評価の方法及び基準

Class attendance and attitude with in the Classroom.

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Introduction to Tap.
2	Basic explanations and exercises.
3	Basic explanations and exercises.
4	Basic explanations and exercises.
5	Basic explanations and exercises.
6	Basic explanations and exercises.
7	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
8	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
9	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
10	Continue basic steps.
11	Continue basic steps.
12	Choreography "Sing, Sing, Sing"
13	Choreography "Sing, Sing, Sing"
14	Choreography "Sing, Sing, Sing"
15	Class perfromance of one musical tap number

授業計画	
	［後期］
1	Review basic step
2	Traveling steps, variations of timesteps
3	Traveling steps, variations of timesteps
4	Traveling steps, variations of timesteps
5	Traveling steps, variations of timesteps
6	Choreography "42nd Street"
7	Choreography "42nd Street"
8	Choreography "42nd Street"
9	Choreography "42nd Street"
10	Continuation of new steps. Teach basic arm movement within the choreography and also performance techniques, depending on the style of thew music.
11	Continuation of new steps.
12	Continuation of new steps.
13	Continuation of new steps.
14	Continuation of new steps.
15	Last class performance of choreography

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月4］ タップ						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE3801T3	科目コード	GE3801Md	期間	通年
担当教員	クリス　チャベス、平塚　美和子、風真　弘子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

Tap Dance class will teach the basic Tap technique of “AL Golbert” style of Tap.
The class will cansist of a Basic Tap warm up[camma] clear explanations of leg and foot work in order to make clear sounds with your Taps. Also across the floor tap technique which will develope skills in turning and combinations. Followed by choreography in Musical Theatre Tap styles.

２．授業概要

This class will prepare students to be able to go to an audition and be able to do a basic time step. It will also provide Musical Tap numbers to be performed through out the school year. Just as important as ballet and Jazz[camma] this Tapclass will enable the student to be a “well rounded dancer”. Who is able to also Tap as well as Dance Jazz and ballet.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Practice basic steps

４．成績評価の方法及び基準

Class attendance and attitude with in the Classroom.

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Introduction to Tap.
2	Basic explanations and exercises.
3	Basic explanations and exercises.
4	Basic explanations and exercises.
5	Basic explanations and exercises.
6	Basic explanations and exercises.
7	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
8	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
9	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
10	Continue basic steps.
11	Continue basic steps.
12	Choreography "Sing, Sing, Sing"
13	Choreography "Sing, Sing, Sing"
14	Choreography "Sing, Sing, Sing"
15	Class perfromance of one musical tap number

授業計画	
	［後期］
1	Review basic step
2	Traveling steps, variations of timesteps
3	Traveling steps, variations of timesteps
4	Traveling steps, variations of timesteps
5	Traveling steps, variations of timesteps
6	Choreography "42nd Street"
7	Choreography "42nd Street"
8	Choreography "42nd Street"
9	Choreography "42nd Street"
10	Continuation of new steps. Teach basic arm movement within the choreography and also performance techniques, depending on the style of thew music.
11	Continuation of new steps.
12	Continuation of new steps.
13	Continuation of new steps.
14	Continuation of new steps.
15	Last class performance of choreography

科目名	ＭＳシアターダンス／ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木2］タップ						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE3801T4	科目コード	GE3801Nd	期間	通年
担当教員	クリス　チャベス、平塚　美和子、風真　弘子、畠山　眞葵						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

Tap Dance class will teach the basic Tap technique of “AL Golbert” style of Tap.
The class will cansist of a Basic Tap warm up[camma] clear explanations of leg and foot work in order to make clear sounds with your Taps. Also across the floor tap technique which will develope skills in turning and combinations. Followed by choreography in Musical Theatre Tap styles.

２．授業概要

This class will prepare students to be able to go to an audition and be able to do a basic time step. It will also provide Musical Tap numbers to be performed through out the school year. Just as important as ballet and Jazz[camma] this Tapclass will enable the student to be a “well rounded dancer”. Who is able to also Tap as well as Dance Jazz and ballet.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Practice basic steps

４．成績評価の方法及び基準

Class attendance and attitude with in the Classroom.

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Introduction to Tap.
2	Basic explanations and exercises.
3	Basic explanations and exercises.
4	Basic explanations and exercises.
5	Basic explanations and exercises.
6	Basic explanations and exercises.
7	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
8	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
9	Basic turns, cramp rolls, turns, maxi ford turns.
10	Continue basic steps.
11	Continue basic steps.
12	Choreography "Sing, Sing, Sing"
13	Choreography "Sing, Sing, Sing"
14	Choreography "Sing, Sing, Sing"
15	Class perfromance of one musical tap number

授業計画	
	［後期］
1	Review basic step
2	Traveling steps, variations of timesteps
3	Traveling steps, variations of timesteps
4	Traveling steps, variations of timesteps
5	Traveling steps, variations of timesteps
6	Choreography "42nd Street"
7	Choreography "42nd Street"
8	Choreography "42nd Street"
9	Choreography "42nd Street"
10	Continuation of new steps. Teach basic arm movement within the choreography and also performance techniques, depending on the style of thew music.
11	Continuation of new steps.
12	Continuation of new steps.
13	Continuation of new steps.
14	Continuation of new steps.
15	Last class performance of choreography

科目名	ダンスパフォーマンス３ - １ ［金1］ジャズ（AS専用）							
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE380900	科目コード	GE3809	期間	通年
担当教員	平田　有美						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズ、または動きやすいシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	[後期]
1	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ魅せ方

科目名	アクティング１　［火4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE381700	科目コード	GE3817	期間	通年
担当教員	大倉　マヤ、横山　仁一、兵藤　公美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座では、アクティング＝演技の基礎の習得を中心に授業を進める。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、グループ創作や、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身につけること。授業内の発表でフィードバックを受けたことは必ずそのままにせず、次回の授業までに改善を目指すこと。配布されたプリントは必ず事前に読み込むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の40%）
授業内でのパフォーマンス（評価の40%）
試験（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス：授業の目的、授業へ取り組むべき姿勢を理解する。
2	身体の基礎１：ストップモーション（身体のキレと集中を養うためのトレーニング） ことばの基礎１：発声、滑舌（あ行、か行）
3	身体の基礎２：前回の反復練習＋焦点を意識する。反応スピードのアップを心がける。 ことばの基礎２：発声、滑舌（さ行、た行）
4	身体の基礎３：前回の反復練習＋自分の身体を内側から認識し、エネルギーを高める。 ことばの基礎３：発声、滑舌（な行、は行）＋焦点を意識して話す。
5	身体の基礎４：前回の反復練習＋他の人の身体を観察し、自己の身体を客観化する。 ことばの基礎４：発声、滑舌（ま行、や行、ら行）＋焦点を意識して話す。
6	身体の基礎5：前回の反復練習＋空間を意識して歩く。 ことばの基礎5：発声、滑舌＋劇場の大きさをイメージして伝える。
7	演技基礎反復＋場所や役柄の設定のイメージを加える。 魅力的なキャラクターづくり１：自分の行動を観察し、再現する。
8	演技基礎反復＋共演者や空間と自分の関係を意識する。 魅力的なキャラクターづくり２：他人の行動を観察し、再現する。
9	演技基礎反復 魅力的なキャラクターづくり３：人物観察の精度を高める。
10	演技基礎反復 魅力的なキャラクターづくり４：再現の精度を高める。
11	演技基礎反復 シーン創作１：身近な一言の会話を使ったシーン創作を通じ、セリフを発する際の衝動をとらえる。
12	演技基礎反復 シーン創作２：相手役と呼吸をあわせる。
13	演技基礎反復 シーン創作３：衝動を新鮮に保って反復する。
14	演技基礎反復 シーン創作４：７回-10回で学んだキャラクター作りと衝動の鮮度の両立を試みる。
15	演技基礎反復 シーン創作５：前回までのフィードバックを生かし、ブラッシュアップする。

授業計画	
	［後期］
1	演技基礎反復 グループ創作１：前期で獲得したキャラクター造型を生かして、より人数の多い長めのシーンの創作する。
2	演技基礎反復 グループ創作２：演じる上で、生きた演技の持続を目指す。
3	演技基礎反復 グループ創作３：自分たちが創作したものを客観的に検証し、観客に伝える方法を模索する。
4	演技基礎反復 グループ創作４：他のグループの創作に対し、フィードバックする。
5	演技基礎反復 グループ創作５：前回のフィードバックを生かして、発表する。
6	演技基礎反復 実演１：シーンスタディで使用した戯曲「DOLL」如月小春などを使って、今迄学んだことを実践していく。
7	演技基礎反復 実演２：読み合わせ（個人の衝動、キャラクターを大切に）
8	演技基礎反復 実演３：読み合わせ（相手役との呼吸、フォーカスを意識して）
9	演技基礎反復 実演４：立ち稽古（相手役との関係性を意識して）
10	演技基礎反復 実演５：立ち稽古（ブラッシュアップ）
11	演技基礎反復 実演６：中間発表、フィードバック
12	演技基礎反復 実演７：前回のフィードバックを受けてブラッシュアップ
13	演技基礎反復 実演８：新鮮な衝動を失わないように、反復する。
14	演技基礎反復 実演９：ブラッシュアップ
15	成果発表

科目名	アクティング２　［火3］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE381800	科目コード	GE3818	期間	通年
担当教員	横山　仁一、田野　邦彦						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次で学修したことを２年次ではさらに発展させる。
この講座では、アクティング＝演技の基礎の習得を中心に授業を進める。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、グループ創作や、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身につけること。授業内の発表でフィードバックを受けたことは必ずそのままにせず、次回の授業までに改善を目指すこと。配布されたプリントは必ず事前に読み込むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の40%）
授業内でのパフォーマンス（評価の40%）
試験（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ 「夏の夜の夢」（シェイクスピア）　※テキストは変更の可能性あり
1	ガイダンス：授業の目的、授業へ取り組むべき姿勢を理解する。
2	舞台上での対話１：舞台での対話とは
3	舞台上での対話２：相手にかけるエネルギーを高める
4	舞台上での対話３：エネルギーのキャッチボールを意識した対話
5	舞台上での対話４：言葉のイメージを意識する
6	舞台上での対話５：言葉を渡す、投げる、ぶつける
7	舞台上での対話６：台詞に目的を持たせる
8	舞台上での対話７：相手の言葉を受け止める
9	一人台詞の練習１：体の中心線を意識した演技
10	一人台詞の練習２：台詞に合った体の状態を見つける
11	一人台詞の練習３：長台詞を会話のようにやり取りする
12	一人台詞の練習４：実感を伴った台詞を言う
13	一人台詞の練習５：実感をもとに台詞を組み立てる
14	前期のまとめ１：これまでの成果を発表する
15	前期のまとめ２：これまでの成果を発表し、後期の課題を共有する。

授業計画	
	［後期］ 「十二夜」（シェイクスピア）※テキストは変更の可能性あり
1	演技実践１：相手との距離をつくる
2	演技実践２：対話の言葉と独り言の違い
3	演技実践３：記憶・観察・想像
4	演技実践４：かみあわない会話をどう作るか
5	演技実践５：人間らしさを役の人物に与える
6	演技実践６：相手の心を動かす
7	演技実践７：相手に心を動かされる
8	演技実践８：変化と葛藤
9	演技実践９：言葉と身体に出会いなおす
10	演技実践１０：立ち稽古１
11	演技実践１１：立ち稽古２
12	演技実践１２：立ち稽古３
13	演技実践１３：立ち稽古４
14	学年末試験・解説
15	一年のまとめ

科目名	アクティング３　［火4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE381900	科目コード	GE3819	期間	通年
担当教員	田野　邦彦、山田　宏平						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

2年次で学修したことを3年次ではさらに発展させる。
この講座では、アクティング＝演技の基礎の習得を中心に授業を進める。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、グループ創作や、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身に付けること。授業内の発表でフィードバックを受けたことはそのままにせず、必ず時間の授業までに改善を目指すこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０％）
授業内でのパフォーマンス（評価の４０％）
試験でのパフォーマンス（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特になし。

動きやすく、授業にふさわしい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ A「トシドンの放課後」（池田美和）、B「闇に咲く花」（井上ひさし） ※テキストは変更の可能性あり。
1	ガイダンス：２年間の経験を踏まえ、現時点での各自の俳優としての課題を自覚し、この１年の目標を設定し、共有する。
2	対話基礎１：キャラクターの対立や状況が比較的理解しやすい戯曲を用い、舞台上での生きた対話を実践する。
3	対話基礎２：使用戯曲の読解。台詞の裏に隠れている各キャラクターの動機を見つける。
4	対話基礎３：読み合わせ１ （個人の衝動、キャラクターを大切に）
5	対話基礎４：読み合わせ２ （相手役との呼吸、フォーカスを意識して）
6	対話基礎５:立ち稽古１ （相手役との関係性を意識して）
7	対話基礎６:立ち稽古２ （場所、状況を踏まえ、自分たちでアイデアを出す）
8	対話基礎７:立ち稽古３
9	対話基礎８:立ち稽古４
10	対話基礎９:立ち稽古５
11	対話基礎１０:立ち稽古６
12	発表と合評
13	集団演技基礎１：使用戯曲(B)本読み。他人の言葉に慣れる。
14	集団演技基礎２：使用戯曲本読み。状況を整理する。
15	集団演技基礎３：切実さを演じる。

授業計画	
	［後期］ C「三人姉妹」（チェーホフ） ※テキストは変更の可能性あり。
1	集団演技基礎４：弾む会話の作りかた
2	集団演技基礎５：立ち稽古１
3	集団演技基礎６：立ち稽古２
4	集団演技基礎７：発表と総括
5	対話応用１：前期の学習を踏まえ、より高度な戯曲(C)で舞台上の生きた対話を実践する。
6	対話応用２：戯曲の読解。自分たちと異なる時代背景、状況を持つ登場人物の台詞や行動の意味を理解する。
7	対話応用３：読み合わせ１
8	対話応用４：読み合わせ２
9	対話応用５：立ち稽古１
10	対話応用６：立ち稽古２
11	対話応用７：立ち稽古３
12	対話応用８：立ち稽古４
13	対話応用９：立ち稽古５
14	対話応用１０：立ち稽古６
15	発表とフィードバック

科目名	アクティング４　［火3］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE382000	科目コード	GE3820	期間	通年
担当教員	大倉　マヤ、兵藤　公美、山田　宏平						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

3年次で学修したことを4年次ではさらに発展させる。
この講座では、アクティング＝演技の基礎の習得を中心に授業を進める。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、グループ創作や、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの修得、および実践を行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身に付けること。授業内の発表でフィードバックを受けたことはそのままにせず、必ず時間の授業までに改善を目指すこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０％）
授業内でのパフォーマンス（評価の４０％）
試験でのパフォーマンス（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特になし。

動きやすく、授業にふさわしい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ 「思い出のブライトン・ビーチ」（ニール・サイモン） 「近代能楽集」（三島由紀夫） ※テキストは変更の可能性あり。
1	ガイダンス：年間進行と今年度の到達目標について共有する。
2	演技訓練１：五感をしっかり使った演技とは？
3	演技訓練２：感覚の認知をクリアにする。
4	演技訓練３：解釈を加え、シーンを作りこむ。
5	演技訓練４：明確なヴィジョンを持った演技とは？
6	演技訓練５：刺激的なやり取りをどう作るか。
7	演技訓練６：リアクションの意識を持つ。
8	演技訓練７：役の状態を意識する。
9	演技訓練８：前の時間に何が起こったか？
10	演技実践１：シーンをつくってみる。
11	演技実践２：関係性を明確にする。
12	演技実践３：シーンの変化を意識する。
13	言葉と身体応用１：古典戯曲を用い、最終学年に相応しい強い言葉と身体を獲得する。
14	言葉と身体応用２：戯曲の理解を深める。
15	言葉と身体応用３：読み合わせと夏休みの課題説明

授業計画	
	［後期］ 「見よ、飛行機の高く飛べるを」（永井愛） ※テキストは変更の可能性あり。
1	言葉と身体応用４：立ち稽古１
2	言葉と身体応用５：立ち稽古２
3	言葉と身体応用６：立ち稽古３
4	言葉と身体応用４：立ち稽古４
5	集団演技応用１：使用戯曲本読み。背景を理解する。
6	集団演技応用２：状況を整理し、舞台の空気を作り上げる。
7	集団演技応用３：作品にふさわしいテンポを獲得する。
8	集団演技応用４：他者との関係を整理し、演技に利用する。
9	集団演技応用５：目的と葛藤をハッキリさせる。
10	集団演技応用６：立ち稽古１
11	集団演技応用７：立ち稽古２
12	集団演技応用８：立ち稽古３
13	集団演技応用９：立ち稽古４
14	集団演技応用１０：立ち稽古5
15	発表とフィードバック

科目名	ヴォーカルミュージック１　［火3］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE382100	科目コード	GE3821	期間	通年
担当教員	砂田　恵美、高野　直子、家田　淳、マリタ　ストライカー、加藤　美季						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。
教科書及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。前期は夏の音楽祭を目標に各自の歌の技量を高め、様々な表現方法の獲得を目指す。その舞台経験を生かし、年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（ただし最後の授業で評価に値する発表を行う）（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：公演で使用する曲。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。 楽譜配布等 基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める)
2	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
3	課題曲、コンコーネ
4	課題曲、コンコーネ
5	課題曲、コンコーネ
6	課題曲、コンコーネ
7	課題曲、コンコーネ
8	課題曲、コンコーネ
9	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
10	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
11	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
12	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
13	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
14	上記＋夏の音楽祭・参加曲の実習
15	試演会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、楽譜配布等。 基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
2	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
3	課題曲、コンコーネ
4	課題曲、コンコーネ
5	課題曲、コンコーネ
6	課題曲、コンコーネ
7	課題曲、コンコーネ
8	課題曲、コンコーネ
9	課題曲、コンコーネ
10	課題曲、コンコーネ
11	課題曲、コンコーネ
12	課題曲、コンコーネ
13	課題曲、コンコーネ
14	歌唱発表
15	歌唱発表

科目名	ヴォーカルミュージック１　［金3］（DC専用）						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE3821A0	科目コード	GE3821	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスを踊る上でも呼吸はとても大切です。この授業では、呼吸法、「発声」のための身体の使い方、発語、歌唱を基礎から丁寧に学びます。
そして自分の声の可能性を広げると共に、身体表現の１つとして「声」による表現力を高めることを目標とします。

２．授業概要

全員での演習が基本です。
必要に応じ、グループに分かれてのアンサンブルや個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を習得する上でも、発声の基礎トレーニングなどは毎日積み重ねることが大切です。また、課題曲の楽譜も読み込んで授業に備えてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢などから総合的に判断します(100%)。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、必要に応じて資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は自由。
声を出すことが中心となるので、飲み物など必要と思われるものは各自で準備してください。

授業計画	
	前期は、歌うための身体づくりや発声の基本を重視し取り組む。
1	ガイダンス 前期の内容の説明と個々の音域調査。
2	発声の基礎と身体の使い方1 ～力の抜き方～
3	発声の基礎と身体の使い方2 ～呼吸法(ブレス)と身体の連動～
4	発声課題における基礎トレーニング1 ～母音での歌唱～
5	発声課題における基礎トレーニング2 ～リズムヴァリエーション～
6	発声課題における基礎トレーニング3 ～跳躍音程の身体の使い方～
7	胸声発声(チェストボイス)への導入
8	胸声発声(チェストボイス)の歌唱のポイントと実習
9	胸声発声(チェストボイス)でのヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
10	胸声発声(チェストボイス)でのヴォーカルトレーニング2 ～演習～
11	胸声発声(チェストボイス)でのヴォーカルトレーニング3 ～仕上げ～
12	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
13	歌唱課題①ヴォーカルトレーニング2 ～演習～
14	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング3 ～仕上げ～
15	前期の復習と到達度の確認

授業計画	
	後期は前期で習得したことを更に掘り下げ、ダンスに通じるリズムトレーニングも取り入れながら声と歌唱を磨く。
1	ガイダンス 前期の復習と後期の内容説明
2	ボディパーカッション課題1 ～取り組みについて～
3	ボディパーカッション課題2 ～導入～
4	ボディパーカッション課題3 ～演習～
5	ボディパーカッション課題4 ～仕上げ～
6	喉・声帯のリラックスの習得
7	舌根のリラックスの習得
8	頭声（ファルセット）発声への導入
9	頭声（ファルセット）発声の演習
10	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
11	歌唱課題②ヴォーカルトレーニング2 ～演習～
12	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング3 ～個別歌唱指導～
13	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング4 ～仕上げ～
14	後期の復習と成果発表
15	１年間の統括と到達度の確認

科目名	ヴォーカルミュージック２　［火4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE382200	科目コード	GE3822	期間	通年
担当教員	砂田　恵美、清水　菜穂子、家田　淳、山村　愛、マリタ　ストライカー、加藤　美季						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。
教科書及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。前期は夏の音楽祭を目標に各自の歌の技量を高め、様々な表現方法の獲得を目指す。その舞台経験を生かし、年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（ただし最後の授業で評価に値する発表を行う）（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲としてコンコーネ50番中声用（全音版）を使用。
一年次に購入していない者は、予め各自で購入しておくこと。
その他の楽曲については、必要に応じて配布。
各自で用意する場合は事前に指導する。
参考文献：公演で使用する曲。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。 楽譜配布等。 基本的な発声法、発語法、更に読譜力の向上を目的として、コンコーネ５０番より練習曲を視唱。
2	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
3	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
4	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
5	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
6	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
7	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
8	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。
9	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。 夏の音楽祭参加曲の実習
10	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。 夏の音楽祭参加曲の実習
11	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。 夏の音楽祭参加曲の実習
12	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。 夏の音楽祭参加曲の実習
13	上記（第１回）の内容を継続しつつ、代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習。課題曲を中心に指導。 夏の音楽祭参加曲の実習
14	試演会１
15	試演会２

授業計画	
	［後期］
1	前期の指導内容を踏まえ、コンコーネ５０番より練習曲の視唱を継続。夏期休暇中の課題提出。 本公演オーディション曲の歌唱実習。
2	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
3	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
4	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
5	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
6	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
7	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
8	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
9	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
10	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
11	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
12	上記（第１回）の内容を継続しつつ、本公演オーディション曲の歌唱実習が終わり次第、各自が提出した自由曲を中心に歌唱実習。
13	年度末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習及び試演会
14	年度末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習及び試演会
15	年度末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習及び試演会

科目名	ヴォーカルミュージック３　［火3］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE382300	科目コード	GE3823	期間	通年
担当教員	清水　菜穂子、青木　さおり、井上　友美、山村　愛						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。
教科書及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。前期は夏の音楽祭を目標に各自の歌の技量を高め、様々な表現方法の獲得を目指す。その舞台経験を生かし、年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（ただし最後の授業で評価に値する発表を行う）（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：公演で使用する曲。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。 楽譜配布等 基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める)
2	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
3	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
4	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
5	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
6	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
7	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
8	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習
9	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
10	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
11	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
12	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
13	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
14	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲を中心とした歌唱実習 夏の音楽祭・参加曲の実習
15	試演会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、楽譜配布等。 基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
2	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
3	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
4	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
5	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
6	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
7	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
8	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
9	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
10	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
11	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
12	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
13	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
14	基本的な発声法、発語法の説明と訓練(身体的な機能を含める) 代表的なミュージカルのソロ曲やアンサンブル曲の歌唱実習
15	試演会

科目名	ヴォーカルミュージック４　[火4]						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE382400	科目コード	GE3824	期間	通年
担当教員	三橋　千鶴、青木　さおり、井上　友美、小林　瑶子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

4年間の集大成として前期はアメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品を選択し、授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習、発表を行う。(ガーシュイン、バーンスタイン、ソンドハイム、JRBなど)
テキスト及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。
選択科目ということを意識し、より高度な表現方法の獲得を目指す。
年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０%）
平常点（ただし前期、後期の最後の授業で評価に値する発表とそれに関するレポートを提出すること）（評価の７０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。自由曲歌唱の場合は学生各自がピアニスト分の楽譜を用意する。
参考文献：公演で使用する曲。(ミュージカルコース所蔵楽譜]、図書館内hal leonald社cd付き楽譜等)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

使用楽曲の楽譜は事前にピアニストに提出すること。当日提出厳禁。
クラス分けについてはその都度指示する。
服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
必要に応じて履物持参のこと。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ 4年目を考え、その学年に足りない部分の補てんとなるようなウオーミングアップとアメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の楽曲の知識と歌唱指導
1	ガイダンス。 アメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品の鑑賞。（ソンドハイム、バーンスタイン、ガーシュイン、JRB, コール・ポーター、その他）
2	コンコーネ前期課題の歌唱と講評。
3	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。その1
4	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。その1’
5	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。 発表その1
6	発表その1’
7	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。 発表曲講評
8	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。その2
9	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。その2’
10	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。 発表その2
11	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。 発表その2’
12	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。 発表曲講評
13	公開レッスン形式による各自で選択したソロ曲の歌唱。発表した2曲のうちの一曲を選択し発表その3
14	その3’
15	発表の講評および後期ガイダンス

授業計画	
	［後期］ シニアミュージカルショウケースにむけてのサジェスチョン及び卒業試験にむけた楽曲指導。
1	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 夏の課題提出と発表に向けてのプレゼンテーション
2	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 夏課題発表その1
3	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 発表その1’
4	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 発表曲講評
5	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 シニア、卒試を見越した楽曲歌唱その2
6	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 歌唱その2’
7	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 発表その2
8	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 発表その2’
9	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 歌唱曲講評
10	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 歌唱その3
11	卒業試験で使用する楽曲の研究 歌唱その3’
12	卒業試験で使用する楽曲の研究 発表その3
13	卒業試験で使用する楽曲の研究 発表その3’
14	卒業試験で使用する楽曲の研究 歌唱曲講評
15	卒試候補曲の試聴会とまとめ(時間延長の可能性あり)

科目名	卒業研究　［火6］［音楽・音響デザイン］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE4890B0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響デザインコース在籍中に制作された楽曲をまとめ上げ４年間を総括する。これまで学んだスキルを活用し、卒業後において活用できるデジタルポートフォリオの制作を目標とする。

２．授業概要

卒業研究で制作するデジタルポートフォリオは、iOS又はMacOSのiBooksでの再生を念頭に置き、MacOS 無償提供のiBooks Author を使用する。最初に各自のテーマを設定し、前期はその材料となる音や映像の収集及び制作に集中する。後期は文字情報を整理し、レイアウトなどを経て完成発表を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

データの管理には細心の注意が必要であり、各自の責任で管理すること。また、各アプリケーションの操作は各自予習しておくこと。ファイル変換等は、事前に処理しておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

コンテンツの内容のクオリティ、コンテンツの工夫、アイディアなどが総合評価される。（評価の50%）
授業への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

＜参考文献＞
iBooks Authorレッスンノート 単行本（ソフトカバー）
林 拓也（著）　（現在中古のみ）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

卒業制作に主体的に取り組む意思のない学生、作品を制作、公開する意思のない学生は履修しないこと。また、進捗が良くない場合（前期）、あるいは作品が完成しない場合は単位を付与できないので十分注意すること。
その他、MacBookやiPadなど各自持参できることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 各自テーマを設定し、企画書、計画書を作成。その後、音や映像の編集、ファイルフォーマットの調整をする。
1	卒業研究のコンセプト等の説明
2	各自テーマを設定
3	企画書の作成
4	企画書のチェックと調整
5	企画書の完成
6	計画書の作成
7	計画書のチェックと調整
8	計画書の完成
9	静止画コンテンツ素材の制作（写真データの整理）
10	静止画コンテンツ素材の制作（データの加工）
11	動画コンテンツ 素材の編集
12	動画コンテンツ素材の完成
13	各映像系ファイルフォーマットの確認と調整
14	音声系ファイルフォーマットの確認と調整
15	前期中間報告発表

授業計画	
	［後期］ 文字情報を整理し、レイアウトなどを経て完成発表を目指す。
1	iBooks Author について
2	テキストデータの制作
3	テキストデータの校正
4	外部Webサイトのリンクなど埋め込み情報の整理
5	イラストなど追加コンテンツの制作（Illustrator）
6	特殊文字データの制作（Illustrator）
7	コンテンツ素材の組み上（iBooks Authorで基本レイアウト）
8	コンテンツ素材の組み上（詳細設定）
9	iBooks Authorでの動作チェック
10	iBooksファイルの仮出力と動作チェック
11	プレビュー用PDFとiBooksファイルの出力作業
12	作品発表会（前半）
13	作品発表会（後半）と総評
14	作品の修正作業
15	iBooksファイルの完成とアーカイブ

科目名	卒業研究　［ピアノ］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	GE4890C0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽性、技術、知識など、大学生活を通じて研鑽を積んだ総合的な成果の集約を目標とする。

2．授業概要

ピアノ奏法研究における学習・研究の成果を、レパートリー、作品研究、奏法研究の3項目に分類し、資料及びレポートを提出する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

研究計画の作成については、授業担当教員及びレッスン担当教員と十分に相談し、明確な意図と目標設定を持つ内容に練り上げること。また、作品研究においては、音楽史なども含め様々な文献を調べ、主体的に研究を進めること。

4．成績評価の方法及び基準

ピアノ奏法研究の成績とレポートの成績による。レポートはこちらが用意したフォーマットを利用して作成すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

個々の研究課題によって決定する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究テーマは途中で変更することがないように、十分な予備研究をすること。ガイダンスは必ず出席すること。（ガイダンスの日程はポータルで連絡する。）

授業計画	
	上記授業概要参照
1	卒業研究ガイダンス
2	研究計画作成
3	担当教員との打ち合わせ（１）
4	研究計画修正
5	データ収集／1年次の演奏曲目
6	データ収集／2年次の演奏曲目
7	データ収集／3年次の演奏曲目
8	データ収集／4年次の演奏曲目
9	担当教員との打ち合わせ（２）
10	1年次のデータ整理
11	2年次のデータ整理
12	3年次のデータ整理
13	4年次のデータ整理
14	担当教員との打ち合わせ（３）
15	前期中間報告

授業計画	
1	後期研究スケジュールの確認
2	作品研究１／作品の選択
3	作品研究２／分析
4	作品研究３／作曲家研究
5	作品研究４／時代背景の研究
6	担当教員との打ち合わせ（４）
7	奏法研究１／レッスンでの学習内容の振り返り
8	奏法研究２／学習内容のまとめ
9	奏法研究３／作品研究で取り上げた作品に関連付けた奏法について
10	奏法研究４／まとめ
11	レポート準備１／レパートリーデータまとめ
12	レポート準備２／作品研究まとめ
13	レポート準備３／奏法研究まとめ
14	担当教員との打ち合わせ（５）
15	レポート完成

科目名	卒業研究 ［電子オルガン］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE4890D0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

卒業試験を、演奏面だけでなく学術面も研究して、学部4年間の研鑽の集大成とする。卒業試験の全体のプログラムついてのコンセプト、個々の演奏楽曲ついての作品研究と音楽語法の分析（自作である場合も含め）、演奏表現の意図等を明確に文章化することに取り組む。

2．授業概要

卒業試験のプログラミングおよび演奏楽曲について、2000字程度にまとめた副論文的レポートを作成。学会でのポスターセッションなどへの参加なども目標とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

卒業試験のプログラミングにあたっては、レッスン担当教員とよく相談し、明確な意図と目標設定をもったものにまで練ること。プログラム決定後は演奏楽曲について、さまざまな録音や文献にあたって調べ、主体的に研究を進めていくこと。

4．成績評価の方法及び基準

レポート作成への取り組み姿勢、レポートの完成度、およびレポートの内容と実際の演奏との整合性を主な判断基準として評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏楽曲に関する種々の資料。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4年間の大学生活の最後になる卒業試験に於いて演奏する楽曲を、演奏のみならず、作品としての魅力を研究することにより、一層、説得力の演奏を目指してほしい。

授業計画	
	［集中］（全８回） 　前半は、はじめにレポート執筆に必要な基礎知識を学び、次にレポートの概要を固め、後半はレポート執筆に取り組み、最終回で完成させる。
1	ガイダンス
2	レポート執筆に必要な基礎知識（１）参考資料の分析
3	レポート執筆に必要な基礎知識（２）参考資料の分析とテーマの決定
4	レポート概要、学会発表についての内容決定
5	レポート執筆指導（１）内容、文章のチェック
6	レポート執筆指導（２）学会での演奏、ポスターセッションについてのチェック
7	レポート執筆指導（３）個々のチェック
8	最終チェックと発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［管楽器］						
代表教員	池上　政人	授業コード	GE4890E0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	WI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

4年間、管楽器コースで学んだ学生が、自己の研鑽の集大成として、「演奏」または「論文」と云う形で成果発表する。その過程において、履修者は4年間の研鑽をふり返り、改めて自己と向き合う事によって、今後の更なる自己啓発の一助とされたい。

2．授業概要

後期の時点で、「演奏」か「論文」か決定しているのが望ましい。
◆「演奏」を選択した者
①演奏時間は15分～20分（複数曲可　卒業実技試験の曲と重複は不可）②当該年度内で、卒業実技試験以前に実行する事とする。③履修者は、演奏会場、審査員（最低2名）の確保を授業担当教員と相談の上、自ら手配、確保する。④履修者は「卒業研究」の演奏のための「プログラム」（任意）を作成する。⑤演奏審査実施は平成30年1月31日までに実施する。
◆「論文」を選択した者
①400字原稿20枚（8000字）以上（PC可）②テーマ卒業実技試験で演奏する曲について（作品・作曲家・時代背景等を盛り込む）
③提出期限 平成30年12月21日（金）正午 提出方法はポータルより提出とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏及び論文に関しては実技担当教員から適切なアドバイスを受けること。

4．成績評価の方法及び基準

◆「演奏」を選択した者
単位認定の審査員（本学教員）は2名以上とする。審査員の選定については履修者が担当教員と相談の上担当教員が認定する。
◆「論文」を選択した者
「論文審査」は実技担当教員を含む2名以上の教員が必要。審査員の選定については履修者が担当教員と相談の上担当教員が認定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則的に、履修時に選択した「演奏」「論文」の途中変更は不可とする。
前期、後期に複数回、諸説明、打ち合わせの為集合（18時以降）するので、協力を請う。

授業計画	
	［前期］ 授業計画は設けない。演奏発表の内容・論文の内容を審査する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［弦楽器］						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	GE4890F0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

レッスン・オーケストラ・室内楽等で学んできた４年間の集大成としてのCDを制作する。
アルバム制作に関わることについて学び、知識を得た上で録音にとりかかり、著作権等についても学ぶ。
各自　テーマを決めて演奏だけでなく、１枚のCDとしてライナーノート、ジャケットを含め完成させる。

２．授業概要

前期はアルバム制作に関わることについての講義中心。
学生は必ずしも演奏だけでなく、１枚のCDを作るためのどの分野において参加することも可能で、何等かの役割を担うことによって単位を取得できるものとする。
後期は録音の実践。
ソロ、室内楽等、各自テーマを決めて担当教員と相談の上進めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が準備すること

４．成績評価の方法及び基準

音源だけでなく、全体の仕上がりを100点満点で評価し、その結果により成績が評価されます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて担当教員が指示。
楽譜は各自が用意。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のガイダンスには必ず出席すること。

授業計画	
	［前期』 音楽・音響デザインコースの前田康徳教授による講義を中心にレコーディングの歴史、成り立ちなどを学ぶ。 CD、レコードの歴史、内容について学ぶ。
1	CD制作についての概要・スケジュールの設定 レコーディングの歴史について
2	演奏者として知っておくべき録音に関する知識
3	著作権について
4	ライナーノートの書き方 ジャケット作成について（写真撮影・デザイン・帯のキャッチコピー等を含む）
5	スタジオの見学をし、簡易録音による試演
6	視聴会（自分たちの演奏についてよく聴いて反省をする）
7	視聴会（市販されているCDをよく聴き、自分たちの演奏と比べる
8	簡易録音による試演
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］ 録音された演奏を聴きながら録音後のサウンドイメージを構築
1	録音の実践 演奏時間は５分～30分
2	各スケジュールによる録音の実施及びライナーノートジャケットの製作
3	レコーディング（ソロ）
4	レコーディング（ソロ）
5	レコーディング（室内楽）
6	レコーディング（室内楽）
7	レコーディング（合奏）
8	レコーディング（合奏）
9	視聴会、及び反省 卒業後、将来に向けての計画
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［打楽器］						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	GE4890G0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員	神谷　百子						
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	PI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学で学んだ成果を発表する場である卒業試験の演奏楽曲に対し、学術的研究・音楽理論分野のより高度な理解を求める。

2．授業概要

卒業試験の演奏楽曲に関するレポート。およびレポート内容に関する口頭試問を行う。レポートの規定・締切等は、５月上旬に発表する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

打楽器奏法研究の際に演奏技術だけではなく、普段より理論的内容を研究しておく事が望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

レポート内容、および打楽器科教員による口頭試問（100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

卒業試験楽曲。および、その楽曲に関する資料。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	卒業試験演奏楽曲の選定
2	レポートの主題の選択
3	演奏テーマ及び研究テーマの決定
4	演奏状況の確認
5	前期反省、及び後期への展望
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	研究、及び演奏における進捗確認
2	演奏と研究テーマの整合性の確認
3	レポート試筆
4	演奏研究まとめ
5	レポート清書、及び校正。
6	演奏内容と研究内容の最終確認
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［ジャズ］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	GE4890H0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽器やヴォーカル技術の習得だけではなく、自らの音楽を総合的に表現し、制作することができるようになること。

２．授業概要

“音楽を創り、表現し制作することのできる学生を育てる”という理念に基づき、これを目標として課される最終プロジェクトです。「レコーディング」「ライブイベントの実施」よりいずれか１つを選択し、「卒業研究ガイダンス」に出席、また担当教員からのアドバイスを得ながら制作を進めます。プロジェクトの企画から実施にいたる一連の流れを、レポートに取り纏めるとともに、制作した音源や映像を併せて提出します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

卒業研究の取り組みには、膨大な時間と労力が必要です。しかし、その結果得られるものは、その努力に比例するものであり、学生時代最大のものに成りえます。その覚悟と希望を持って取り組んでください。

４．成績評価の方法及び基準

レポート、音源等をそれぞれ別個に１００点満点で評価し、その結果に基づき成績が評価されます。「卒業研究ガイダンス」の欠席が目立つ場合は減点および単位を修得できない場合があります。各提出期限が守られない場合は原則単位修得不可となります。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、別途指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「卒業研究ガイダンス」には、必ず出席してください。
（日程はポータルでお知らせします。）

卒業研究は、学生の皆さんが“自分で音楽を創る”キャリアの第一歩と言えます。一斉授業の中では表現しきれなかった皆さんの個性とアイデアをふんだんに使って、夢のある作品創りをするよう希望します。

授業計画	
	担当教員の指導のもとに、各自が主体的かつ計画的に制作に取り組む。
1	卒業研究ガイダンス
2	ガイダンスⅠ「レコーディング」
3	ガイダンスⅡ「ライブイベント」
4	企画書作成
5	担当教員との打ち合わせ（１）
6	企画書の修正
7	演奏（制作）グループの設定
8	計画書作成
9	担当教員との打ち合わせ（２）
10	企画書、計画書、演奏（制作）グループの修正
11	演奏プログラムの制作１／曲目について
12	演奏プログラムの制作２／編曲及びオリジナル作品について
13	担当教員との打ち合わせ（３）
14	演奏プログラムの修正
15	前期中間報告

授業計画	
1	後期制作スケジュールの確認
2	プログラム決定
3	作品の制作、編曲１
4	作品の制作、編曲２
5	担当教員との打ち合わせ（４）
6	作品の制作、編曲、修正
7	コンサート／レコーディングの準備１（スケジュール調整）
8	コンサート／レコーディングの準備２（会場選定）
9	コンサート／レコーディングの準備（スタッフ打ち合わせ）
10	教員との打ち合わせ（５）
11	コンサート／レコーディングの準備（最終調整）
12	レコーディング／ライブイベント実施
13	提出音源、映像、レポート準備
14	担当教員との打ち合わせ（6）提出物修正
15	提出音源、映像、レポート完成

科目名	卒業研究　［現代邦楽］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	GE4890J0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ＧＨ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代邦楽コースでの４年間の総括を行い、卒業後に社会で活躍するための基盤を形成する。
参考までに、当コースのディプロマ・ポリシーのを掲げておく。
（１）自らの専門分野である邦楽及び邦楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。
・古典、現代邦楽、現代作品など、広範な様式に関心を持ち、それぞれに相応しい演奏表現を修得している。
・独奏の技術と音楽性を高めると共に、アンサンブルにおいて、協調性を発揮することができる。
・日本の文化における邦楽及び邦楽器の存在意義を認識し、その魅力を国内はもとより世界に発信する気概を身に付けている。
（２）社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感する
ことができる。
（３）自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。
（４）自らの専門分野である音楽を通して、社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。
（５）論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。

２．授業概要

現代邦楽コースは少人数体制で運営しているので、実質的に一人一人の個別指導方式になる。指導教員と連絡を綿密の取りながら、各自が研究を進めて行く。最終的に「卒業研究レポート」を作成して提出する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

研究テーマの策定、邦楽や邦楽器に関する調査・研究、課題克服のための練習等、様々な面での自主的な活動が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

指導教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

卒業に向けての最終研究という性質を持つ科目なので、卒業見込みがしっかりしている学生の履修が優先される。積極的な姿勢で履修されたい。

授業計画	
	実際には個別指導（個人レッスン形式）による随時開講方式を採用するが、半期15回授業を想定する場合は概ね下記のような進行となる。
1	ガイダンス（在学中の今までの自分を振り返る）
2	1年次の学修成果の検証
3	２年次の学修成果の検証
4	3年次の学修成果の検証
5	4年次（最終学年）の研究行動計画を考える
6	4年次（最終学年）の研究行動計画を策定する
7	研究行動計画を基に最終レポートのテーマを検討する。
8	最終レポートの研究テーマを決定する。
9	専攻楽器についてのリサーチ
10	専攻楽器についての再認識の形成
11	専攻楽器が活躍する分野についてのリサーチ（古典領域）
12	専攻楽器が活躍する分野のリサーチ（近代分野）
13	専攻楽器が活躍する分野のリサーチ（現代分野）
14	夏期休業中の研究計画の検討
15	夏期休業中の研究計画の策定

授業計画	
	実際には個別指導（個人レッスン形式）による随時開講方式を採用するが、半期15回授業を想定する場合は概ね下記のような進行となる。
1	夏期休業中の研究の報告
2	夏期休業中の研究の検証
3	最終レポートの研究テーマの最終確認
4	最終レポートの段落構成の検討
5	最終レポートの段落構成の仮決定
6	最終レポート序盤の執筆の進行
7	最終レポート序盤の確認
8	最終レポート中盤の執筆の進行
9	最終レポート中盤の確認
10	最終レポート終盤の執筆の進行
11	最終レポート終盤の確認
12	最終レポート全体の検証
13	最終レポートのブラッシュアップ
14	最終レポート完成版の確認
15	総括

科目名	卒業研究　［ロック＆ポップス］						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE4890K0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員	JAH - RAH						
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

４年間で学んだ音楽制作技術を活かし、「フルアルバム制作」「PV制作」「ソロライヴ制作」の内から１つのプロジェクトを選択し、企画・制作を行う。
プロフェッショナルを目指す以上、自己満足に終わらない「商品になる」作品制作を目指す。
４月中に企画書を作成して提出。その後は各プロジェクト毎に担当プロデューサーの指示に従い制作作業に入る。
９月中に「経過報告書」を提出すること。
最終提出
・「フルアルバム制作」「PV制作」に関しては、年度末までに実施報告書を添えて作品提出を行う。
・「ソロライヴ制作」に関しては、年度末までに実施（学内、学外を問わない）し、担当プロデューサー以外に最低２名のR&P講師が評価のため観覧できるスケジュールを確保すること。

２．授業概要

各プロジェクト毎に担当講師がプロデューサーとして参加する。
プロジェクトは個人でもグループでも履修可能であるが、グループの場合は最後まで協力し合って作品制作に臨むこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

どのプロジェクトも多くの時間とエネルギーが必要となるため、決して人まかせにせず、積極的に取り組むこと。

４．成績評価の方法及び基準

作品自体のクオリティー（評価の７０％）
企画書及び経過報告書の内容に沿った作品であるか（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当プロデューサーが必要に応じて用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４年次の学生であること。プロジェクトグループに１～３年次の学生が参加していてもかまわないが、１～３年次の学生は単位を取得できない。

授業計画	
	［集中］
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［声楽］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE4890L0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

卒業試験で演奏する曲目に関しての研究とレポートの作成。
作曲家、作詩家、台本、時代背景、音楽上の留意点、演奏表現に関すること等を盛り込んだ内容のレポートを作成し提出する。

2．授業概要

通常レッスン内で、各レッスン担当教員のアドヴァイスを受け、レポートを作成する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

通常のレッスンに於いて、レッスン担当教員より指示されたことを基に
図書館などで資料、文献を研究する。

4．成績評価の方法及び基準

レポートの内容や完成度に関しての基準は特に無いが、自分が歌う曲を深く掘り下げるために
資料や文献を研究し、それを自分なりに勉強の成果として、自分の言葉でまとめる。
提出にあたっては必ずレッスン担当教員のチェックを受けたうえ、サインと印鑑を受けての提出とする事。
（レポートは2000字以上、12月20日締切。学務部に提出。）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自、レッスン担当教員からアドヴァイスを受けること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特に無い。

授業計画	
1	学年末に、卒業試験で歌う曲のレポートを提出。 この科目の単位取得のための授業は開講されない。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［ミュージカル］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE4890N0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4年間の学習の総括として、本コースの教育理念である“ミュージカル俳優育成”に基づいた卒業試験（歌・ダンス・演技を含む15分以内のミュージカルパフォーマンス）のレポートを作成することを目的とする。また、並行して試験曲のレコーディングを行い、選曲から実施までのプロセスやスタジオでの一般的な録音技術を学ぶ。

２．授業概要

卒業試験（ミュージカルパフォーマンス）は既成の作品のーシーン、あるいはオリジナル、どちらでも構わない。指導教員のアドヴァイスを受けながら完成度の高い作品になるよう研究し、そのレポート（1600字以内）は、時代背景・曲の構成、台本・キャラクターなど深く探求し、作成する。レコーディングに関しては、音楽音響デザインコースの協力のもと、4年間の学習の集大成として卒業試験曲を録音する。オーディションのプレゼンテーションで使用することも目的の一つである。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で課題を指示する。

４．成績評価の方法及び基準

レポート内容と卒業試験を加味して、成績評価をする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス、卒業試験作品プランニング＃1
2	卒業試験作品プランニング＃2
3	卒業試験作品プランニング　＃3
4	卒業試験作品プランニング＃4
5	全体のおおまかな構成と楽曲の決定
6	レポート作成指導（時代背景、楽曲分析、台本、キャラクター設定、表現の意図など）＃1
7	レポート作成指導（時代背景、楽曲分析、台本、キャラクター設定、表現の意図など）＃2
8	レポート作成指導（時代背景、楽曲分析、台本、キャラクター設定、表現の意図など）＃3
9	卒業試験
10	レコーディング実習の実施
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　［バレエ］						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE4890S0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	BL	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

４年間、クラシック・バレエのダンサーに必要な芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションを向上させるために研鑽を積んだ、総合的な成果を示し総括することを目的とする。

2．授業概要

クラシック・バレエダンサーとして、楽器となる身体を作り、技術を磨き、作品の解釈のために学習、研究してきたことの仕上げ・集大成として卒業試験で発表を行う。
研究発表課題曲（ヴァリエーション）は、年間を通じて準備し、踊り込み、完成度を高めていくように指導する。
研究発表課題曲（ヴァリエーション）に関して、学術面を研究し、レポートを作成するように指導する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ヴァリエーションの動きの練習だけでなく、作品の解釈に結びつくように、図書館などで資料、文献を研究するように指示する。

4．成績評価の方法及び基準

卒業試験のパフォーマンスに関して、芸術性、技術、完成度を基に評価し成績をつける。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

それぞれが選んだヴァリエーションによって、決定する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	卒業研究　[火3]　[音楽教育]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE4894R0	科目コード	GE4894	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

[主題]研究テーマの探究、掘り下げ、その明文化と総括
[到達目標]研究テーマに基づく卒業論文の作成、および卒業研究発表の実施

2．授業概要

音楽教育コースにおけるこれまでの様々な学習を通して、「音楽教育」または「音楽(全般)」のいずれかの分野における研究テーマを自ら設定し、そのテーマに基づき文献研究、実践研究、調査研究等を行い、卒業論文としてまとめ、1月に提出、2月に卒業研究発表を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

1年を通して各自の研究テーマに取り組み、指導教員のアドヴァイスを活かしつつ、論文作成を計画的に進めること。

4．成績評価の方法及び基準

・論文指導時における研究状況(評価の30%)
・提出された卒業論文の評価(評価の70%)　その内訳は①論理性、②独創性、③資料性、④文章表現力、⑤全体の構成、⑥テーマの掘り下げ

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究テーマに応じた文献を、授業の中で指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究テーマは途中で変更することのないよう、十分な予備研究をすること。

授業計画	
	［前期］研究テーマの設定から中間発表の準備まで
1	前期オリエンテーション
2	研究計画立案
3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	各自の研究テーマを焦点化
7	予備研究の始動
8	資料の探索
9	資料の整理
10	資料についての検証
11	研究テーマの確定
12	論文構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討
15	前期総括～中間発表に向けて

授業計画	
	［後期］中間発表から論文完成まで
1	後期オリエンテーション
2	中間発表
3	先行研究の取り扱いについて
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成個別指導1～序論
7	論文作成個別指導2～本論着手
8	論文作成個別指導3～本論の最初の展開
9	論文作成個別指導4～本論の更なる展開
10	論文作成個別指導5～本論のまとめ
11	論文作成個別指導6～結論
12	論文仮提出と全体ディスカッション
13	論文見直し
14	論文仕上げ
15	論文本提出と総括

科目名	ピアノ作曲基礎演習１～４　［火5］Aクラス						
代表教員	浦壁　信二	授業コード	GE5140A0	科目コード	GE5140d	期間	通年
担当教員	松浦　真沙						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多角的な分析を伴う読譜・演奏・編曲などの演習を通じて、取り上げる多様な作品と音楽文化の総合的な理解を深め、演奏表現や作品研究、創作活動および音楽理論の実践的な理解と発展を促す。

２．授業概要

拍節やリズム、調性や音楽語法の把握、および和声・構造分析を前提とする独奏または合奏による（初見）演奏演習や、与えられた課題の変奏や編曲演習を集団授業形態で行う。出来るだけ初見による実施が望ましいため、扱う作品は具体的にシラバスには明記しない。習熟度に応じて2クラス制をとるものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

さまざまな作品の視聴と読譜、および授業で行う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点５０%、発表会５０%（年2回程度行われる発表会で自己の作曲した作品を中心に演奏を行う）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習の必要がある場合など事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生が対象となる。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、前期・後期発表の目標設定
2	譜読みのコツと実践
3	拍節とリズムの把握と分析
4	音階と調性の把握と分析
5	和声と終止の把握と分析
6	楽節構造の把握と分析
7	形式の把握と分析
8	移調楽器とハ音記号
9	楽器法の準備と研究
10	古典派作品の初見視奏と変奏の試み
11	古典派作品のスコアリーディング
12	古典派作品の編曲の試み
13	古典派作品の構成の研究
14	前期発表のための準備
15	前期発表

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期目標の再設定、考察
2	ロマン派作品の初見視奏
3	ロマン派歌曲作品の分析と移調の試み
4	ロマン派室内楽作品の分析の試み
5	ロマン派作品の編曲の試み
6	ロマン派作品のスコアリーディング
7	バロック作品の初見視奏と変奏の試み
8	バロック舞曲の研究
9	ロマン派以降の作品の初見視奏
10	ロマン派以降の作品のスコアリーディング
11	ロマン派以降の作品の編曲の試み
12	20世紀以降の作品の読譜、演奏法の研究
13	分析と演奏の関わりと実践
14	後期発表のための準備
15	後期発表

科目名	ピアノ作曲基礎演習１～４　［火5］Bクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GE5140B0	科目コード	GE5140d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多角的な分析を伴う読譜・演奏・編曲などの演習を通じて、取り上げる多様な作品と音楽文化の総合的な理解を深め、演奏表現や作品研究、創作活動および音楽理論の実践的な理解と発展を促す。

２．授業概要

拍節やリズム、調性や音楽語法の把握、および和声・構造分析を前提とする独奏または合奏による（初見）演奏演習や、与えられた課題の変奏や編曲演習を集団授業形態で行う。出来るだけ初見による実施が望ましいため、扱う作品は具体的にシラバスには明記しない。習熟度に応じて2クラス制をとるものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

さまざまな作品の視聴と読譜、および授業で行う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点５０%、発表会５０%（年2回程度行われる発表会で自己の作曲した作品を中心に演奏を行う）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習の必要がある場合など事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生が対象となる。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、前期・後期発表の目標設定
2	譜読みのコツと実践
3	拍節とリズムの把握と分析
4	音階と調性の把握と分析
5	和声と終止の把握と分析
6	楽節構造の把握と分析
7	形式の把握と分析
8	移調楽器とハ音記号
9	楽器法の準備と研究
10	古典派作品の初見視奏と変奏の試み
11	古典派作品のスコアリーディング
12	古典派作品の編曲の試み
13	古典派作品の構成の研究
14	前期発表のための準備
15	前期発表

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期目標の再設定、考察
2	ロマン派作品の初見視奏
3	ロマン派歌曲作品の分析と移調の試み
4	ロマン派室内楽作品の分析の試み
5	ロマン派作品の編曲の試み
6	ロマン派作品のスコアリーディング
7	バロック作品の初見視奏と変奏の試み
8	バロック舞曲の研究
9	ロマン派以降の作品の初見視奏
10	ロマン派以降の作品のスコアリーディング
11	ロマン派以降の作品の編曲の試み
12	20世紀以降の作品の読譜、演奏法の研究
13	分析と演奏の関わりと実践
14	後期発表のための準備
15	後期発表

科目名	キーボードレアリゼーション１～４　［木3］Aクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GE5144A0	科目コード	GE5144d	期間	通年
担当教員	浦壁　信二						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

鍵盤上および譜面上の和声実習を通して視覚・聴覚・鍵盤上の触覚が連携した鋭敏な和声感覚の獲得を目指す。演奏における表現や理解、創作活動の深化を促す。

２．授業概要

和声理論の鍵盤上での実施と応用（移調奏、変奏などの演習）、コードネームや数字付き通奏低音の基礎学習、伴奏付けや限定的な即興演奏の基礎演習などを集団授業の形態で行う。習熟度に応じて2クラスに分かれて指導が行われる。なお、授業で扱う作品課題はできる限り初見で提示するため授業計画の各回では具体的な作品名は示さない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内小テストを含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習などの必要などに応じて事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生が対象となる。関連科目として「キーボードハーモニー」での学習も大いに活用されたい。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、授業運営の計画設定
2	和声記号の確認と鍵盤上での実施
3	各種終止の確認と鍵盤上での実施
4	基本形と第一転回形
5	和音の連結
6	和音の連結、応用と鍵盤上での実施
7	コードネームの学習
8	数字付き低音の基本学習と実施
9	バス課題と実習
10	属七と第二転回形
11	各種7の和音と掛留、解決
12	数字付き低音の実習
13	バロック作品の和声分析
14	バスと上声の関係と分析
15	与えられた両外声に和声付けを実施する

授業計画	
	［後期］履修者の作曲理論の進度に応じてシャランの和声課題（キーボードハーモニーを基本とする）の指導を行う場合がある。状況に応じて前期にこれを行うこともある。
1	各自の後期の授業計画の設定と考察
2	メロディー課題の和声分析
3	メロディー課題のバス付けの実施
4	メロディ課題の和声付け
5	古典派作品の和声分析
6	属九の和音と伴奏型
7	メロディー課題の伴奏付け
8	和声記号によるバス課題の実施
9	シャラン和声課題の実施
10	コードネームによる伴奏付け
11	メロディー課題の変奏の試み
12	バス課題の変奏の試み
13	バス課題からメロディーを導く試み
14	転調の分析と実践
15	総括

科目名	キーボードレアリゼーション１～４　［木3］Bクラス						
代表教員	齋藤　圭子	授業コード	GE5144B0	科目コード	GE5144d	期間	通年
担当教員	浦壁　信二						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

鍵盤上および譜面上の和声実習を通して視覚・聴覚・鍵盤上の触覚が連携した鋭敏な和声感覚の獲得を目指す。演奏における表現や理解、創作活動の深化を促す。

２．授業概要

和声理論の鍵盤上での実施と応用（移調奏、変奏などの演習）、コードネームや数字付き通奏低音の基礎学習、伴奏付けや限定的な即興演奏の基礎演習などを集団授業の形態で行う。習熟度に応じて2クラスに分かれて指導が行われる。なお、授業で扱う作品課題はできる限り初見で提示するため授業計画の各回では具体的な作品名は示さない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内小テストを含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習などの必要などに応じて事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生が対象となる。関連科目として「キーボードハーモニー」での学習も大いに活用されたい。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、授業運営の計画設定
2	和声記号の確認と鍵盤上での実施
3	各種終止の確認と鍵盤上での実施
4	基本形と第一転回形
5	和音の連結
6	和音の連結、応用と鍵盤上での実施
7	コードネームの学習
8	数字付き低音の基本学習と実施
9	バス課題と実習
10	属七と第二転回形
11	各種7の和音と掛留、解決
12	数字付き低音の実習
13	バロック作品の和声分析
14	バスと上声の関係と分析
15	与えられた両外声に和声付けを実施する

授業計画	
	［後期］履修者の作曲理論の進度に応じてシャランの和声課題（キーボードハーモニーを基本とする）の指導を行う場合がある。状況に応じて前期にこれを行うこともある。
1	各自の後期の授業計画の設定と考察
2	メロディー課題の和声分析
3	メロディー課題のバス付けの実施
4	メロディ課題の和声付け
5	古典派作品の和声分析
6	属九の和音と伴奏型
7	メロディー課題の伴奏付け
8	和声記号によるバス課題の実施
9	シャラン和声課題の実施
10	コードネームによる伴奏付け
11	メロディー課題の変奏の試み
12	バス課題の変奏の試み
13	バス課題からメロディーを導く試み
14	転調の分析と実践
15	総括

科目名	ピアノ作品分析演奏法１～４　［金4］						
代表教員	山田　武彦	授業コード	GE514800	科目コード	GE5148d	期間	通年
担当教員	久行　敏彦、浦壁　信二						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノ作品を中心にさまざまな観点からの分析とそれに関連する演習を行う。音楽的教養と分析力の向上、ひいては自らの演奏に於ける作品の理解と表現の深化を図る。

２．授業概要

選択されたピアノ作品（一部その他の作品も含む）に対しての教員の講義、学生の分析演習発表、学生の演奏演習の３つの形態から授業を構成する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

関連する作品の視聴や作曲家・様式・時代背景などを研究し、授業で扱う課題の予習・復習を行う。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内発表を含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラス（P-Com）及びプロフェッショナルピアノパフォーマンスクラス（ＰＰＰ）対象科目。
ピアノ指導者養成クラス、アンサンブルスタディクラス、アドヴァンスド・ポピュラー・クラスの学生はピアノ作品分析演奏法３・４が対象となる。（それ以外のピアノコース学生も聴講は自由。）

授業計画	
	［前期］年間を通じての計画は以下の通りであるが、学生がその時々に取り組んでいる作品について優先的に採り上げ演習を行う場合がある。
1	授業の概要、前期・後期の目標設定
2	古典期の概略
3	古典期の作品(ソナタ)Mozart
4	古典期の作品(ソナタ)Haydn
5	古典期の作品(ソナタ)Beethoven
6	古典期の作品 室内楽
7	古典期の作品 協奏曲
8	古典期の作品 管弦楽曲と声楽曲
9	ロマン派の概略
10	ロマン派の作品 性格的な小品
11	ロマン派の作品 ソナタ
12	ロマン派の作品 協奏曲
13	ロマン派の室内楽作品
14	ロマン派の作品 管弦楽曲
15	ロマン派の作品 声楽曲

授業計画	
	［後期］
1	古典期以前の概略と主要作品
2	古典期以前の鍵盤作品
3	古典期以前の宗教的作品
4	古典期以前の世俗的作品
5	ロマン派以降の概略と主要作品
6	ロマン派以降のピアノ作品
7	ロマン派以降の室内楽
8	ロマン派以降の協奏曲
9	ロマン派以降の管弦楽曲
10	その他の作品と全般から選択した作品 ピアノ作品
11	その他の作品と全般から選択した作品 協奏曲
12	その他の作品と全般から選択した作品3
13	その他の作品と全般から選択した作品 管弦楽曲
14	その他の作品と全般から選択した作品 声楽曲
15	総括

科目名	録音技術研究１～４　[水1]						
代表教員	深田　晃	授業コード	GE536100	科目コード	GE5361d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音技術を習得するために、録音の基礎から技術的な勉強を行ってゆく。
基本的な録音の考え方、マイキング方法などを学んで行く中で、音楽に対する幅広い見識を備えた人材の育成を目標とする。
到達目標は一人でマイクを立てソロ楽器や室内楽程度のアンサンブルを録音できるようになる事。

２．授業概要

前期は録音の基礎となる録音技術の基礎を学ぶ。後期はシンプルなアコースティクな録音を中心とした録音実習を行い録音の実際を学んで行く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサート、ライブ、CDなどであらゆるジャンルの音楽を数多く聴く。
録音物を聴く場合、漫然と聴くのではなくバランス音色等に注意を払う。

毎週、次週の項目について指示するのでそれについて予習を行う事。授業後は授業内容を復習する事。

４．成績評価の方法及び基準

授業での積極的な発言や実習への関わりの態度と試験及び　レポート点の合計で評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』（日本音楽スタジオ協会編）
『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』（ジョン・アーグル著／ステレオサウンド）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音を基礎から学びたい学生を対象とする。１、２年生を対象とする。
授業に対する積極的な参加と発言をを持つものを求める。

授業計画	
	［前期］ 録音の基本技術、機材の扱い方の習得を目指す
1	ガイダンス、スタジオ機能紹介 スタジオの機能、系統について説明
2	ケーブル類の取り扱い、マイクスタンド ケーブルやスタンドなどのスタジオ什器の使用方法の習得
3	マイクの種類と特性 マイクの基本的な構造と特性、使用用途について
4	コンソール機能１ コンソールの信号の流れ、考え方について学ぶ
5	コンソール機能２ コンソールの機能、使用方法
6	周辺機器１ 外部機器の種類、使用方法等
7	周辺機器２ 外部機器の種類、使用方法等
8	プロツールスの機能、取り扱い１ プロツールスの基本と機能
9	プロツールスの機能、取り扱い２ プロツールスの実践的な使い方
10	マイキング研究１ 各楽器のマイキングについて
11	マイキング研究２ ドラム等のマイキングについて
12	ステレオ録音技術研究１ ステレオ録音の基礎について
13	ステレオ録音技術研究２ 様々なステレオ録音
14	ミキシング技術研究 ミキシングの考え方と方法について
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 前期で習得した基礎を元に様々な素材の録音を通じて実践的な録音手法を学ぶ
1	ステレオ録音技術研究　-1- マイキングの基礎
2	ステレオ録音技術研究 -2- アコースティックギターの録音
3	ステレオ録音技術研究 -3- エレキギターの録音
4	ステレオ録音技術研究 -4- ピアノの録音
5	ステレオ録音技術研究 -5-ストリングスの録音
6	ステレオ録音技術研究 -6- アンサンブルの録音
7	サラウンド録音技術研究 -1- サラウンドの基礎知識
8	サラウンド録音技術研究 -2- サラウンドのベーシック録音手法について
9	サラウンド録音技術研究 -3- サラウンドのマイキングの基礎
10	サラウンド録音技術研究 -4- 様々なサラウンド録音手法
11	ミキシング技術研究 -1- 音楽バランスの基礎
12	ミキシング技術研究 -2- DAWを用いたミキシング
13	ミキシング技術研究 -3-プラグインについて
14	ミキシング技術研究 -4- 音量バランスと周波数バランス
15	後期のまとめ

科目名	メディアコンテンツ制作実習１～４　[木5]						
代表教員	森　威功	授業コード	GE536500	科目コード	GE5365d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座では学園祭期間中に開催する展示型イベント「Music Design Lab.」を企画運営する。また、そこで発表するためのコンテンツをMax7やProcessingなどのメディア系プログラミングツールとセンシングデバイスを用いて制作する。音・音楽に関連したデジタルアートや体験型アトラクションなど作品の方向性は様々である。

履修生はこれらの活動を通して技術面だけではなくイベントのプロデュース方法を学び、自身の活動をアピールするためのセルフ・プロデュース能力を身につけてほしい。

２．授業概要

授業は基本的にゼミ形式で行う。コンテンツ制作、イベントプロデュースについて個人またはグループで企画書を提出し授業内においてプレゼンテーションを実施する。その後、グループ分けを行いそれぞれの目標にむかって作業をすすめていく。また、必要に応じて全体ミーティングの実施やコンテンツ制作に関して技術的な指導をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CG実習やインタラクティブ・コンテンツ制作に関しては、授業内に紹介するwebサイトや配布プリントなどで必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート提出（評価の30%）
課題提出（評価の40%）
平常点（企画書の提出を含む）（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本講座はゼミ形式で実施することに注意。積極的に意見交換し、自発的に行動できる学生の参加を望みます。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	年間スケジュールの作成、グループ決めなど
3	グループ制作 I-プランニング
4	グループ制作 I-各モジュールの制作
5	グループ制作 I-モジュールの相互接続
6	グループ制作 I-映像入力やセンシングデバイスの接続
7	グループ制作 I-発表の準備とバグ修正
8	ゼミ内発表会 I（ベーシック）
9	グループ制作 II-プランニング
10	グループ制作 II-各モジュールの制作
11	グループ制作 II-モジュールの相互接続
12	グループ制作 II-映像入力やセンシングデバイスの接続
13	グループ制作 II-発表の準備とバグ修正
14	ゼミ内発表会 II（アドバンスド）
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	全体ミーティング-夏休み中の活動内容報告
2	各グループの企画プレゼンテーション（前）
3	各グループの企画プレゼンテーション（後）
4	後期イベント内容の決定
5	Music Design Lab. コンテンツ制作-各モジュールの制作
6	Music Design Lab. コンテンツ制作-モジュールの相互接続
7	Music Design Lab. コンテンツ制作-映像入力やセンシングデバイスの接続
8	Music Design Lab. コンテンツ制作-GUI制作
9	Music Design Lab. コンテンツ制作-テクニカルリハーサル
10	Music Design Lab. コンテンツ制作-ゼミ内発表会
11	Music Design Lab. コンテンツ制作-バグ修正
12	Music Design Lab. 本番
13	Music Design Lab. 本番
14	Music Design Lab. 反省会
15	総括と次年度に向けたミーティング

科目名	スタジオレコーディング演習１～４　［水2］						
代表教員	深田　晃	授業コード	GE538100	科目コード	GE5381d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音とは記録ではなく表現である。
しかし、録音には音楽の知識、空間音響の知識、楽器の特性などの多くの知識と共に実際の音がどのようにマイクロフォンに捉えられるのかという経験が必要になる。
この授業はプロとして通用するスタジオエンジニアリング技術を学び。スタジオワークやレコーディングの実際を体験する事で音楽制作の手順を理解することを目的とする。
到達目標は、アシスタントエンジニアとしてProTools のオペレーション及びアシスタント業務が可能になること。
演奏家と対話しながら作品作りに望めるエンジニアとして録音をリードできる人材になること。

２．授業概要

レコーディングの実践の中から学ぶ授業であるのでスタジオなどでの集中講義となる。
スタジオ機材の知識やProToolsのオペレーション、エンジニアとしての技量など要求されるレベルは高い。
積極的な参加と学んだ事の復習は必須である。
自分が何を学びたいのかを明確にして授業に参加してほしい。
スタジオでの作業となるため、３．４年生を中心とした３０名ほどにしたい。録音技術研究を終了していることが望ましい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

技術的な知識は基礎として必要なので、参考文献等で常日頃から学習しておく必要がある。授業で得た新しい知識については必ず記録し復習すること。次の授業に質問すべき項目について予習しておく事。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みと質問等の積極的な参加をベーシックな評価とする。さらに期末に行うレポート及びテストでの授業の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』（日本音楽スタジオ協会編）
『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』（ジョン・アーグル著／ステレオサウンド）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に出席する事が大前提で、出席率が悪いと単位は取得できない。
前向きに参加意識を持って受講することが条件である。
基本的に３、４年生を中心とする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、スタジオ機能紹介
2	スタジオの回線系統の把握、信号の流れ
3	コンソールの機能、周辺機器
4	プロツールスオペレーション
5	レコーディング実習１ スタジオでの楽器配置の実際
6	レコーディング実習２ スタジオでのケーブルルーティング、CUEシステムの使い方
7	レコーディング実習３ ドラムブース、ピアノブースの使用法
8	レコーディング実習４ ピアノの運搬方法（ブースからスタジオへの移動等）
9	レコーディング実習５ アコーステックギターのマイキング実習
10	レコーディング実習６ ギターアンプへのマイキング実習
11	レコーディング実習７ ピアノのレコーディング実習
12	レコーディング実習８ 木管楽器の録音手法について
13	レコーディング実習９ 金管楽器の録音手法
14	レコーディング実習１０ パーカッションの録音手法
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	レコーディング実習１１ ドラムの録音手法
2	レコーディング実習１２ ドラムのマイキング実習
3	レコーディング実習１３ 弾き語りの録音手法
4	レコーディング実習１４ Vocalの録音手法
5	レコーディング実習１５ ロックバンドの録音実習
6	レコーディング実習１６ ジャズバンドの録音手法
7	レコーディング実習１７ 弦楽器アンサンブルの録音手法
8	レコーディング実習１８ 木管アンサンブルの録音手法
9	レコーディング実習１９ 邦楽器の録音手法
10	レコーディング実習２０ クラシックの録音手法
11	ミキシング実習１ コンソールミックスの実習
12	ミキシング実習２ DAW内部ミックスの実習
13	ミキシング実習３ ミックスバスの構成法
14	ミキシング実習４ ファイナルミックスとマスタリング
15	後期まとめ

科目名	ワイヤリング実習 ［水2］						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE538900	科目コード	GE5389	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音響・映像関連の技術スタッフとして活動する場において、機器のトラブルに対処できるような知識、手業を身につける。

2．授業概要

機器の接続を理解する。
可能な範囲で自前の工具を持ち、それらの基礎的な使い方を学ぶ。
様々なｹｰﾌﾞﾙの断面を見て用途を理解し、プラグへ半田付けができ、現場での様々なトラブルに対応する。
音響用小物機器を製作し、エレクトロニクスへの興味を広げる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

希望により、秋葉原電気街などへ部品・工具の調達に出る。
FUYUONなどの現場で起きる結線トラブルへの対処。

4．成績評価の方法及び基準

以下の項目から、総合的に判断する。
・授業への参加姿勢　４０％
・試験・レポート　３０％
・製作物　３０％

出席が少ないと、試験・ﾚﾎﾟｰﾄとも受理しない。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布、紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自前工具をある程度揃えること。最低限必要なものはガイダンスで案内し、まとめ買いを調整する。

授業計画	
	［前期］ プラグ、ジャック、ケーブルなどの概略を知る。 工具の入手状況により、授業順序は変わることがある。
1	ガイダンス。工具の入手準備。
2	プラグの種類と用途
3	電気信号の種類
4	電気の基礎（電圧など）
5	電気の基礎（並列・直列など）
6	安全で確実な作業環境の確保
7	断面から見たケーブルの種類と用途
8	測定器(テスタ、オシロスコープ)の使い方
9	工具の使い方（ニッパ、ラジオペンチ、半田鏝）
10	工具の使い方（ノギス、半田吸い取り、ワイアストリッパ、ピンセット）
11	断線チェックと各種測定
12	ケーブルの皮むき練習
13	プラグへの半田付け（XLR）
14	プラグへの半田付け（TRS）
15	製作

授業計画	
	［後期］ 自主的な製作
1	各自の製作物への立案
2	製作物の情報収集
3	設計、部品の調達
4	製作開始
5	製作 工具の使い方の確認
6	製作 部品の確認 過不足分の調整
7	製作 途中経過の報告
8	製作 レポートのための資料作成ガイダンス
9	製作（基板などのチェック）
10	製作（部品配列の検討）
11	製作（半田付け）
12	製作（シャーシ加工など）
13	製作（半田付け）
14	製作（実装）
15	製作の発表

科目名	ヴォイスアーティスト基礎研究/ヴォイスアーティスト基礎演習　[木2] Bクラス						
代表教員	亀井　芳子	授業コード	GE5441B0	科目コード	GE5441	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。声優という分野で活躍するために必要な最も基本的な基盤となる“発声”と“発音”の基礎を固めながら、演技の勉強につなげていきます。２年次以降の本格的な演技の講座など、様々なゼミ系授業で研鑽を積むための基礎を習得することが、この講座の到達目標となります。台詞や歌唱の基盤となる体幹の形成や腹式呼吸、発声の基礎、正確な日本語の発音、そして身体を使って表現することを身につけていきます。

2．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていきます。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。視聴覚教材も活用し、期末成果発表も行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

“発音”と“発声”そして“演技”は、声優やアニソン歌手として活躍するための基盤の根幹を成します。毎日継続する自主練習が不可欠です。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価します。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示されます。必要に応じてレジュメが配布される場合もあります。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース１年次必修授業であり、２年次以降の様々な講座を履修するための基盤となる授業であることをしっかり認識して、真摯に履修してください。また、人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	基本的な身体作り
3	腹式呼吸の知識と習得
4	発声練習①楽に声を出す
5	発声練習②舌、唇、顔ストレッチ
6	発声練習③母音
7	発声練習④子音（カ～ナ）
8	発声練習⑤子音（ハ～ワ）
9	発声練習⑥鼻濁音、無声音
10	発声練習⑦アクセント
11	発声練習⑧総合演習（早口言葉、滑舌例文）
12	前期末成果発表にむけての企画、練習
13	前期末成果発表にむけての仕上げ
14	前期末成果発表
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	演技の基礎①緊張とリラックス
3	演技の基礎②感情の表現
4	演技の基礎③距離感
5	演技の基礎④エチュード
6	台本を読む①本読み
7	台本を読む②解釈、シチュエーション
8	台本を読む③動いてみよう！
9	台本を読む④仕上げ
10	学年末成果発表にむけての企画策定
11	学年末成果発表にむけての演習～導入編
12	学年末成果発表にむけての演習～展開編
13	学年末成果発表にむけての仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ヴォイスアーティスト基礎研究/ヴォイスアーティスト基礎演習　［金2］Cクラス						
代表教員	園田　恵子	授業コード	GE5441C0	科目コード	GE5441	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。声優という分野で活躍するために必要な最も基本的な基盤となる“発声”と“発音”の基礎を固めながら、演技の勉強につなげていきます。２年次以降の本格的な演技の講座など、様々なゼミ系授業で研鑽を積むための基礎を習得することが、この講座の到達目標となります。台詞や歌唱の基盤となる体幹の形成や腹式呼吸、発声の基礎、正確な日本語の発音、そして身体を使って表現することを身につけていきます。

2．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていきます。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。視聴覚教材も活用し、期末成果発表も行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

“発音”と“発声”そして“演技”は、声優やアニソン歌手として活躍するための基盤の根幹を成します。毎日継続する自主練習が不可欠です。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価します。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示されます。必要に応じてレジュメが配布される場合もあります。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース１年次必修授業であり、２年次以降の様々な講座を履修するための基盤となる授業であることをしっかり認識して、真摯に履修してください。また、人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	基本的な身体作り
3	腹式呼吸の知識と習得
4	発声練習①楽に声を出す
5	発声練習②舌、唇、顔ストレッチ
6	発声練習③母音
7	発声練習④子音（カ～ナ）
8	発声練習⑤子音（ハ～ワ）
9	発声練習⑥鼻濁音、無声音
10	発声練習⑦アクセント
11	発声練習⑧総合演習（早口言葉、滑舌例文）
12	前期末成果発表にむけての企画、練習
13	前期末成果発表にむけての仕上げ
14	前期末成果発表
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	演技の基礎①緊張とリラックス
3	演技の基礎②感情の表現
4	演技の基礎③距離感
5	演技の基礎④エチュード
6	台本を読む①本読み
7	台本を読む②解釈、シチュエーション
8	台本を読む③動いてみよう！
9	台本を読む④仕上げ
10	学年末成果発表にむけての企画策定
11	学年末成果発表にむけての演習～導入編
12	学年末成果発表にむけての演習～展開編
13	学年末成果発表にむけての仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ＡＳスタジオワーク　［木2］Bクラス						
代表教員	逢坂　力	授業コード	GE5442B0	科目コード	GE5442	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。
声優や歌手といった音声表現者の主要な活躍の場はスタジオとなります。特に、動画作品や海外ドラマ･映画作品の吹き替えではアフレコスタジオという特異な環境で演技をする必要があるため、この講座は実際にスタジオを使用しながらの演習に徹します。
到達目標は、今後の学習やプロとして活動するために必要なスタジオワークの基本を習得することにあります。

２．授業概要

原則として毎回の授業はASコース専用スタジオで行われる。
設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。
後期においては視聴覚教材も活用し、スタジオ機材の操作を含めた学習を行う。
またこのクラスでは、個人の目標や課題に対してのモチベーション維持や感受性を鍛錬するために、生徒個々のレベルや状態に合わせて課題を与えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

スタジオワークの基礎は声だけの演技、表現に於いて重要な技術となるためそれぞれの課題に応じ継続して復習することが肝要である。
授業の成果は期末成果発表などで発表の機会がある。また観客を動員することもあるため、各グループごとに自主練習を行い演目の完成度を高めていく。
また、毎週与えられる生徒ひとりひとりに合わせた課題を習得、もしくは達成するなどのための自主練習を行う。

４．成績評価の方法及び基準

課題の達成度合いを重要視しつつ、学習態度や出席状況等を勘案し評価する。
　　課題達成度などの実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から授業内容に応じた台本などが配布される。自ら台本を用意し発表する授業も行われる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオの収容人数に限りがあるため、人数に応じて複数クラスを開講することもある。その場合は各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をし、クラス配分を決定する。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス～スタジオ機材説明
2	スタジオマナーとマイクワーク基礎
3	滑舌練習台本を使用しての発声
4	滑舌練習台本を使用しての録音練習
5	滑舌練習台本を使用しての収録
6	キャラクター表現考察
7	マイク前でのアクション演技技術
8	アドリブ演技実践
9	マイク前での掛け合い演技・読み合わせ
10	マイク前での掛け合い演技・録音練習
11	マイク前での掛け合い演技・収録
12	朗読・ナレーションの表現技法
13	朗読・ナレーション台本を使用しての録音練習
14	朗読・ナレーション台本を使用しての収録
15	収録素材プレイバック・課題確認

授業計画	
	[後期]
1	ボイスドラマ台本での演技・キャスティング
2	ボイスドラマ台本での演技・読み合わせ
3	ボイスドラマ台本での演技・録音練習
4	ボイスドラマ台本での演技・収録
5	映像作品へのアフレコ・キャスティング
6	映像作品へのアフレコ・台本チェック作業と映像確認
7	映像作品へのアフレコ・録音練習
8	映像作品へのアフレコ・完成版収録
9	映像作品プレイバック・課題確認
10	スタジオ演技応用編・別録り（単独収録）
11	音声表現者の自己ＰＲ方法考察
12	ボイスサンプル・素材準備
13	ボイスサンプル・録音練習
14	ボイスサンプル・完成版収録
15	一年の総括と次年度への目標

科目名	ＡＳスタジオワーク　[金2] Cクラス						
代表教員	田口　宏子	授業コード	GE5442C0	科目コード	GE5442	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。
声優や歌手といった音声表現者の主要な活躍の場はスタジオとなります。特に、動画作品や海外ドラマ･映画作品の吹き替えではアフレコスタジオという特異な環境で演技をする必要があるため、この講座は実際にスタジオを使用しながらの演習に徹します。
到達目標は、今後の学習やプロとして活動するために必要なスタジオワークの基本を習得することにあります。

２．授業概要

原則として毎回の授業はASコース専用スタジオで行われる。
設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。
後期においては視聴覚教材も活用し、スタジオ機材の操作を含めた学習を行う。
またこのクラスでは、個人の目標や課題に対してのモチベーション維持や感受性を鍛錬するために、生徒個々のレベルや状態に合わせて課題を与えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

スタジオワークの基礎は声だけの演技、表現に於いて重要な技術となるためそれぞれの課題に応じ継続して復習することが肝要である。
授業の成果は期末成果発表などで発表の機会がある。また観客を動員することもあるため、各グループごとに自主練習を行い演目の完成度を高めていく。
また、毎週与えられる生徒ひとりひとりに合わせた課題を習得、もしくは達成するなどのための自主練習を行う。

４．成績評価の方法及び基準

課題の達成度合いを重要視しつつ、学習態度や出席状況等を勘案し評価する。
　　課題達成度などの実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から授業内容に応じた台本などが配布される。自ら台本を用意し発表する授業も行われる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオの収容人数に限りがあるため、人数に応じて複数クラスを開講することもある。その場合は各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をし、クラス配分を決定する。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス～スタジオ機材説明
2	スタジオマナーとマイクワーク基礎
3	滑舌練習台本を使用しての発声
4	滑舌練習台本を使用しての録音練習
5	滑舌練習台本を使用しての収録
6	キャラクター表現考察
7	マイク前でのアクション演技技術
8	アドリブ演技実践
9	マイク前での掛け合い演技・読み合わせ
10	マイク前での掛け合い演技・録音練習
11	マイク前での掛け合い演技・収録
12	朗読・ナレーションの表現技法
13	朗読・ナレーション台本を使用しての録音練習
14	朗読・ナレーション台本を使用しての収録
15	収録素材プレイバック・課題確認

授業計画	
	[後期]
1	ボイスドラマ台本での演技・キャスティング
2	ボイスドラマ台本での演技・読み合わせ
3	ボイスドラマ台本での演技・録音練習
4	ボイスドラマ台本での演技・収録
5	映像作品へのアフレコ・キャスティング
6	映像作品へのアフレコ・台本チェック作業と映像確認
7	映像作品へのアフレコ・録音練習
8	映像作品へのアフレコ・完成版収録
9	映像作品プレイバック・課題確認
10	スタジオ演技応用編・別録り（単独収録）
11	音声表現者の自己ＰＲ方法考察
12	ボイスサンプル・素材準備
13	ボイスサンプル・録音練習
14	ボイスサンプル・完成版収録
15	一年の総括と次年度への目標

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［月3］Aクラス						
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5443A0	科目コード	GE5443Ad	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

２．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）
推薦図書として、「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［月3］Bクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5443B0	科目コード	GE5443Bd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現ができる声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現から生まれる言語表現を学ぶ
・論理的に考える事と感じる事で台本(戯曲)を読み取る力を習得する
・創造する事の楽しみを知って舞台上で表現する

２．授業概要

・表現は発信力ではあるが、その前提である受信力を学ぶ
・変わる事を信じて楽しむ
・台本(戯曲)に書かれている事を１、本読み　２、荒立ち　３、立ち稽古　４、通し稽古　を通して知覚し、本質を捉え、創造して、人前で演じる

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力を高める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

４．成績評価の方法及び基準

努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロだしチョンマ」
・前期はコント 適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人の前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読める事
・舞台なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」とコント台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　５つの目標４つの約束　『階段』
2	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い １ 大きな声・明るい声 ２ 鼻濁音・無声化
3	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い ３ 距離感 ４ TIPを使う
4	語り③「ベロ出しチョンマ」を使い ５ 創造の世界で遊ぶ
5	舞台 本読み①　台本を読み分析して知覚するキャスティング
6	舞台 本読み②　TIPを使って科白を言う
7	舞台　荒立ち①　目線を考える
8	舞台　荒立ち②　呼吸を考える
9	舞台　立ち①　相手の動きを知覚する
10	舞台　立ち②　相手の科白を知覚する
11	舞台　立ち③　音を入れてみる
12	舞台　立ち④　明りを入れてみる
13	舞台　通し①　前期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　前期発表会の為に創造的な舞台作り
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　前期発表会の為に本質を表現する

授業計画	
	［後期］ 「ベロ出しチョンマ」と戯曲を使い舞台表現をする
1	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い　目線を考える
2	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い　呼吸を考える
3	舞台 本読み①　本質を捉えて　キャスティングをする
4	舞台 本読み②　目線と呼吸を考えて
5	舞台 本読み③　間を考えて
6	舞台　荒立ち①　距離感を考えて
7	舞台　荒立ち②　相手を知覚する
8	舞台　立ち①　受信力を高めて表現する
9	舞台　立ち②　発信力を高めて表現する
10	舞台　立ち③　Tempと間を考えて表現する
11	舞台　立ち④　音を入れてみる
12	舞台　立ち⑤　明かりを入れてみる
13	舞台　通し①　後期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　後期発表会の為に創造的に創る
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　後期発表会の為に本質を表現する

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[火3] Cクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5443C0	科目コード	GE5443Cd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

２．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料をコピーして配布する。課題曲の楽譜は、その都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	定番アニソンの歌唱
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［火3］Dクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5443D0	科目コード	GE5443Dd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する応用力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優、役者の基礎から応用までを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるように、基礎からふり返る。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り
4	舞台演技の基礎・発声
5	舞台の演技の実践
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	台本の読み方
8	外画のスタジオ実習①セリフ合わせ
9	外画のスタジオ実習②マイクワーク
10	外画のスタジオ実習③録音とレビュー
11	ナレーションのスタジオ実習①原稿の読み込み
12	ナレーションのスタジオ実習②発生と滑舌
13	ナレーションのスタジオ実習③録音とレビュー
14	前期の発表会の練習
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメの演技の考察
4	外画の演技の考察
5	ナレーションの演技の考察
6	ボイスオーバーの演技の考察
7	無声映画のスタジオ実習①セリフ合わせ
8	無声映画のスタジオ実習②マイクワーク
9	無声映画のスタジオ実習③録音とレビュー
10	外画のスタジオ実習④声の感情表現
11	外画のスタジオ実習⑤声の距離感
12	外画のスタジオ実習⑥キャラクターの捉え方
13	外画のスタジオ実習⑦総合
14	後期の発表会の練習
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［水3］Eクラス						
代表教員	水島　裕	授業コード	GE5443E0	科目コード	GE5443Ed	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「声優」がブームになっている昨今ですが、いま求められる声優像とは「個性」をしっかりと作品にぶつけられる演技者です。十人十色の声、個性がいつの間にか、平均的な読み方・演じ方でセリフを表現する若い人が増えているのではないでしょうか。自分の個性を大切にし、自分にしかできない表現力を育てていきます。

２．授業概要

発声や早口言葉など表現するための基礎はもちろんのこと、「スタジオ実習」「エチュード」「セリフ合わせ」など実践的な授業を多くします。「スタジオ実習」はアニメ＆洋画作品を使用し、実際の現場にいるかのような授業をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の声の方向性に近い声優を探し、「真似ぶ」楽しさを理解する。自分の声を録音して「自分の声の特性」を理解する。

４．成績評価の方法及び基準

固定観念にとらわれない感情表現がどれくらい出来るか。変化することを怖れずに出来るか。授業への参加姿勢。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「笑う朗読」「外郎売り」「アニメや洋画の台本」など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分の「色」を見つけて、他にないキャラクターを構築してほしい。「プロの声優になる！」という高い目標意識をもって履修してほしい。

授業計画	
1	自分の強みと弱みを探し、自己紹介ではなく「自己アピール」
2	早口言葉（テキスト使用）「外郎売り」を使った滑舌練習
3	声における距離感の把握
4	エチュード「どこ行くの？」で状況を創る・間の大切さ
5	エチュード「多人数仕掛け」人数が増え状況が変わる事への対応力
6	アニメを使ったスタジオ実習 ①マイクの使い方や台本の持ち方など
7	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
8	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
9	アニメを使ったスタジオ実習 ④役を替えて相手役の気持ちを知る
10	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ⑤前期発表会にむけて仕上げ

授業計画	
1	前期発表会の自己評価及び感想・「外郎売り」
2	「他己紹介」と「初めの一歩」の大人バージョン
3	アニメを使ったスタジオ実習 ①自分の声の特性を探す
4	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
5	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
6	アニメを使ったスタジオ実習 ④録音とプレビュー
7	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤自分たちの評価と録り直し
8	洋画を使ったスタジオ実習 ①アニメとの表現の違い
9	洋画を使ったスタジオ実習 ②外国人のセリフから感情をつかむ
10	洋画を使ったスタジオ実習 ③録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ⑤後期発表会にむけて仕上げ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[水3] Fクラス						
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5443F0	科目コード	GE5443Fd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

２．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることを、その五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。それ以外には特別な予習・復習は求めないものの、講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

４．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に出席状況などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴォーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介(自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階(西洋音楽の基礎知識) ・楽曲研究①(好きなアニソンアンケート)
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階(メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異) ・楽曲研究②(好きなアニソン歌手アンケート)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に) ・発声法の研究①(実技) ・楽曲研究③(アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション)
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション) 課題(決定した曲への取り組み。努力目標の設定)
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント) ・歌唱の録音①
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤(実技) ・発表曲の歌唱指導① ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導② 課題(練習曲の移動ドへの読み替え練習)
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替える) 課題(発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる)
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う) ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習④ ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑤
15	前期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・最終パフォーマンスチェック(クラス内実技) ・講義内容に関する感想発表、後期への要望、質疑応答など

授業計画	
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・クラスメイト紹介(互いに互いの特徴や長所・短所などを紹介し合い、コミュニケーション能力と分析能力を高める) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎① ・コード(和音)の概念 ・楽譜研究①(楽譜を読みとる→一つの課題曲を全員で歌ってみる)
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎② ・和声(ハーモニー)の仕組み ・楽譜研究②(一つの楽曲を一人づつ歌ってみる→個性の重要性を発見する)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(実技) ・楽譜研究③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(実技) ・発表曲の歌唱指導①
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施③ ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習⑦(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習⑧(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習⑨ ・パフォーマンス動画の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑩ ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［木3］Gクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5443GO	科目コード	GE5443Gd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	1年次に習得したことの確認
2	スタジオ・マナー等の確認
3	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
4	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
5	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
6	外画スタジオ実習①／立ち稽古
7	外画スタジオ実習②／マイクワーク
8	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
9	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古
10	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク
11	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー
12	前期発表会の練習①／本読み
13	前期発表会の練習②／役の振り分け
14	前期発表会の練習③／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ナレーション学習①／ゲーム等のＣＭや番組宣伝 個々の才能を分析し、個性に合ったナレーションの訓練
2	ナレーション学習②／ナレーション映像を分析し、タイムコードや内容に合わせた訓練
3	アニメアテレコ実習①／アニメーションの線画に合わせた訓練と立ち稽古
4	アニメアテレコ実習②／アニメーションの線画に合わせた訓練とアテレコ実習
5	外画演技実習①／画像を分析し作品の意図や役柄を摑み、立ち稽古で心理的・物理的な距離を調整する訓練
6	外画演技実習②／原音（外国語）と日本語訳の台詞の合わせ方や読解力を高める訓練
7	アニメアフレコ実習③／個々の表現力の幅を広げるための立ち稽古を交えた訓練
8	アニメアフレコ実習④／個性を磨き、役の幅を広げながらオーディションに向けての表現力を高める訓練
9	ボイスオーバー①／ドキュメンタリー映像を分析しながらナレーションとボイスオーバーの基礎を身につける訓練
10	ボイスオーバー②／登場人物の表情やＢＧＭに乗せて躍動感あふれるボイスオーバーの訓練
11	後期発表会の準備①／作品選びと配役
12	後期発表会の準備②／役柄に合わせ表現力を磨くための訓練
13	後期発表会の準備③／録音と編集の訓練
14	後期発表会の準備④／最終調整
15	後期発表会本番に向けての仕上げ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［木3］Hクラス						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5443HO	科目コード	GE5443Hd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

演劇の表現方法・現代演劇から2.5次元作品まで戯曲を用いて実践していく。

演劇の実技・実習を中心とする。
演技の基礎訓練から行う。また個人に根ざした演技訓練をワークショップなどを用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識・成果発表に至る成長、取り組み方を見て決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演劇戯曲・現在人気2.5次元作品台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。

台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する
意識を持って参加してください。

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術を身につけられるよう訓練を行う。 演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。
2	声の訓練（テキストを用いての声の技術の獲得） 行動についての理解 台本の分析
3	演技におけるリラクゼーション 演技基本訓練 感情解放（喜怒哀楽の表現）の方法を実習
4	演技基本訓練①（五感の訓練） 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈
5	演技基本訓練②（感情解放） 本読み、台本のキャラクター分析 ・キャスティングオーディション
6	演技基本訓練③（呼吸について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究１
7	演技基本訓練④（行為、行動について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究２
8	演技基本訓練⑤（喜怒哀楽の分析体現） ・行動の分析と関係性の掘り下げ１ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
9	演技基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱い） ・行動の分析と関係性の掘り下げ２ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
10	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・前半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・歌詞への理解、ダンスの実習
11	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・中盤） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・後半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・全体） ・衣装、小道具などの決定 ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
14	前期発表会に向けての通し稽古 衣装・小道具なども確認
15	前期発表会に向けての最終通し稽古

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 演技の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	声の訓練 演技基本訓練７（感情解放の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
2	声の訓練 演技基本訓練８（喜怒哀楽の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
3	演技基本訓練９（人物の距離感と関係性） グループに分かれてのシーン創作１（演出を自分たちで行う）
4	演技基本訓練１０（行動の演出分析） グループに分かれてのシーン創作２（演出を自分たちで行う）
5	演技基本訓練１１（シーンのテンポ） グループに分かれてのシーン創作３（演出を自分たちで行う）
6	演技基本訓練１２（シーンのテーマ分析と行動の成立） 後期台本による読み合わせ分析解読１
7	演技基本訓練１３（シーンにおける存在の仕方） 後期台本による読み合わせ分析解読２
8	後期発表シーン作り①（前半） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
9	後期発表シーン作り②（中盤） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
10	後期発表シーン作り③（後半） 自分たちの発信で創作する。 そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
11	後期発表へ向けての具体的創作１（音楽・効果音を使用しての創作）
12	後期発表へ向けての具体的創作２（歌・ダンス込みの創作）
13	後期発表への通し稽古１（シーンにおける成立の分析）
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認）
15	後期発表へ最終稽古

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［金3］Jクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5443J0	科目コード	GE5443Jd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

２．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	ＡＳアンサンブル実習 Ⅰ ［木3］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE544900	科目コード	GE5449	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの学年全体が一同に会する授業である。学年毎に自主的にプロジェクトを企画・運営していく、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。最終的な到達目標は、社会人としての基本的な行動様式を身につけ、イベント、放送現場、制作現場等で活躍できるスキルを身に付けることである。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく過程で、学外への訪問や活動も展開することもある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リサーチ、準備、練習、等々で自主的な予習や復習に相当する活動が必要になってくるので、履修者は自覚をもってそれらを励行すること。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が極めて重要なので、学習態度を重要視する。その上で、プロジェクト遂行の中での提案力・発言力・企画力・実行力、等の面での能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートを提出してもらい、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示、あるいはレジュメの配布を行う。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年毎の１クラスの設定とする。学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでいただきたい。

授業計画	
	［前期］　学生による自主的な企画立案に基づく授業の展開になるので、具体的な内容を詳細にわたって提示することは困難だが、１年目のモデルケースとして授業計画を記す。
1	前期ガイダンス
2	前期プロジェクト内容の検討
3	前期プロジェクトの策定
4	企画運営体制の構築
5	企画運営体制の決定
6	自主イベントの企画立案
7	自主イベントの運営会議
8	自主イベントの準備
9	「読み聞かせ実習」の取り組みについて
10	「読み聞かせ実習」の演習
11	前期成果発表の取り組みについて
12	前期成果発表の導入
13	前期成果発表の演習
14	前期成果発表の仕上げ
15	前期の総括

授業計画	
	［後期］後期成果発表を含むプロジェクトを、演習形式で展開する。
1	後期ガイダンス
2	後期プロジェクトの内容の検討
3	後期プロジェクトの策定
4	プロジェクト①の導入
5	プロジェクト①の演習
6	プロジェクト①の仕上げ
7	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の取り組みについて
8	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の導入
9	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の演習
10	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の仕上げ
11	後期成果発表の取り組みについて
12	後期成果発表の導入
13	後期成果発表の演習
14	後期成果発表の仕上げ
15	総括

科目名	ＡＳアンサンブル実習II ［金2］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE545000	科目コード	GE5450	期間	通年
担当教員	亀井　芳子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	「ＡＳアンサンブル実習I」 の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコース 2年生全体が集まる授業である。年間スケジュールにそって自主的にプロジェクトを企画・運営していく、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。最終的な到達目標は、１年次に習得した内容に加え、イベント、放送現場、制作現場等で細やかに配慮できる姿勢も身に付けたい。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。年間スケジュールにある２年生主体のイベントを中心に、実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

準備、練習等、自主的な予習復習に相当する活動が必要になってくるので、履修者は自覚をもってそれらを励行すること。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が重要なので、学習態度を重要視する。その上で、授業中での提案力・発言力・企画力・実行力、等の面での能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートを提出してもらい、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、教員より配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年毎の１クラスの設定とする。学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでほしい。

授業計画	
	《前期》基本、学生による自主的な企画立案に基づく授業の展開になるが、前期中に予定されている「オーケストラwithナレーション」の実習が多くなると見込まれる。
1	前期ガイダンス
2	前期プロジェクトの内容の検討
3	前期プロジェクトの策定
4	企画運営体制の構築
5	企画運営体制の決定
6	自主イベントの企画立案
7	自主イベントの運営会議と準備
8	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の概要説明
9	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の取り組みについて
10	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の導入
11	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の配役別演習
12	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の配役選定
13	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の演習
14	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の仕上げ
15	前期の総括

授業計画	
	《後期》後期成果発表を含むプロジェクトの演習、運営を中心に展開する。
1	後期ガイダンス
2	後期プロジェクトの内容の検討
3	後期プロジェクトの策定
4	プロジェクト②の導入
5	プロジェクト②の演習
6	プロジェクト②の仕上げ
7	プロジェクト③（例：フリートーク）の導入
8	プロジェクト③（例：フリートーク）の演習
9	プロジェクト③（例：フリートーク）の個別指導
10	プロジェクト④（例：自己PR）の演習
11	プロジェクト④（例：自己 PR）の個別指導
12	後期成果発表の導入
13	後期成果発表の演習
14	後期成果発表の仕上げ
15	後期の総括

科目名	ＡＳアンサンブル実習III　[月2]						
代表教員	山下　順子	授業コード	GE545100	科目コード	GE5451	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	「ＡＳアンサンブル実習II」 の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

将来の現場の仕事を想定して、人形の動きに合わせた声の表現の習得。そのために必要な人形操作の体験。
舞台表現としての劇づくりを通して演技の基本を身につける。すなわち心（感情）、頭（何をどのくらい考えているか）、身体に即した、体現する声の習得。「生きた言葉をしゃべる。セリフが相手役にかかること。会話のキャッチボール。シチュエーションの中でしゃべるということ。声の表現には対象と距離があるということ。相手役のリアクション、表情に影響を受けて自分の発する言葉は出てくるのだということ。」

２．授業概要

NHK教育テレビの人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」の原作者である末吉暁子氏の創作童話「アミアミ人形の冒険」を人形劇化し、履修の総仕上げとして発表上演する。本読み、人形操作、オーディションワークショップ、配役決定、シーン毎にリハーサル、小返し稽古、通し稽古、プロジェクター画像・SE/MEとのあわせ稽古、衣装・メイクあわせ、場当たり、ゲネプロ、上演発表、総括という進行。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：台本を繰り返し読む。読みながら演技のアイディアを想像する。セリフを覚える。なぜそのセリフを発するのか、どういう状況で発するのかを考え個人練習する。きっかけを覚える。グループ自主練習。
復習：授業で行った内容を個人練習、並びにグループ練習しておく。授業でうまくいかなかったところは必ず克服しておく。常に新たな発想をつけたしておく、これが次回授業の個人目標となる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内発表および上演での表現力）評価の50%。
授業への参加姿勢（熱意、授業態度）評価の50%。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「アミアミ人形の冒険」押川理佐脚本、山下順子脚本監修による台本。
「アミアミ人形の冒険」末吉暁子作による長編創作童話（偕成社発行）。昭和52年毎日小学生新聞「アミちゃんの冒険」と題して連載された作品の全面改稿版。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装着用のこと。
集団創作（劇づくり）を通して協働精神を養い、コミュニケーション能力の向上をはかり、集団劇の魅力やその効果、1人では体験できない効果を共同体験し、感受する意欲をもって授業に臨むこと。

授業計画	
	前期：劇全体の流れを、声を含めた身体全体の表現として習得。人形操作の習得。
1	ガイダンス、コミュニケーションワークショップ、本読み①（劇全体の流れを理解する）。
2	身体と声のワークショップ、本読み②（本読み①とキャスティングを変えて読む。いろんな役を声に出して読む。）
3	人形操作練習（自分が興味を持って生命を吹き込むことのできる人形を探す。実際に動かしてみる。人形の可動性をかんがみオリジナルな表現を想像する）。配役希望表提出。配役希望の課題のシーンのセリフを覚えてくる（次週までの課題）。
4	オーディションワークショップ（配役希望に従って課題のシーンを演じてみる。）
5	配役発表。本役で読み稽古。本役で立ち稽古①《会話を成立させる。相手役のセリフを聞ける状態づくり。》（シーン１，２）
6	立ち稽古②《セリフを覚えてリハーサル・場面を立ち上げる》（シーン３，４，５）
7	立ち稽古③《集団のシーン創作》（シーン６「猫の寄り合いのシーン」）
8	立ち稽古④《女性の対立のシーンづくり》（シーン７，８，９）
9	立ち稽古⑤《第2幕から第3幕へドラマチックな展開を作る。作品の主題の一つアミちゃんの自立について考える。》（シーン10，11，12）
10	立ち稽古⑥《第3幕「人形やしき」の世界観を共有し作る。日米平和友好人形使節について調べ学ぶ。》（シーン13，14，15）
11	立ち稽古⑦《劇のクライマックスとエピローグを作る》（シーン16，17，18，19）
12	立ち稽古⑧《あるまとまった長さでくぎった劇の流れの中で、自分の行動線や感情を把握する》（シーン1～６）
13	立ち稽古⑨《キャラクターへの考察を深める》（シーン７～12）。作曲①《セリフを感情にのせて歌にしてみる》。
14	立ち稽古⑩《「人形やしき」について考察を深める。「ビスクドール」「ジュモー」「ブルー」「スタイネル」について調べ学ぶ。》（シーン13～19）。作曲②《作曲した歌を楽譜におこす》。
15	あら通し《立ち上げたシーンをつなげてみる》。作曲③《作曲した歌に楽器を選んで演奏する》。

授業計画	
	後期：発表上演にむけて個人的にも劇全体もブラッシュアップをはかる。役を掘り下げ深めることによってでてくる声を発見し習得する。集団劇づくりの醍醐味（複数の人で作って積み重ねていく場面の空気感、雰囲気など）を共同体験する。
1	思い出し稽古（前期の復習）。履修学生全員が前期獲得していた劇の世界観を取り戻す。歌と演奏稽古。
2	小返し稽古・ブラッシュアップ①《役を掘り下げシーン内容を深める。第1幕「動き出した人形」アミちゃんが動き出すプロセスが場面に起きているか、インパクトが客に残るかどうか吟味。》（シーン1～3）
3	小返し稽古・ブラッシュアップ②《第2幕「のらねこのやみがらす」との出会い、生活、別れが場面に魅力的に立ち上がっているかどうか吟味。》（シーン4～10）
4	「横浜人形の家」見学。取材劇づくりの方法を取り入れる。人形の家（博物館）を訪れ、肌で感じ、空気感を身に刻む。各人が気に入った人形を見つけ、それを演じる基礎づくりをする。自分の演じる人形の歴史、生き様を想像も含めてレポートにする（次週までの課題）。
5	自己紹介の形で、人形になりきってレポートの発表。発表後、人形どうしの物語をいくつかのグループに分かれて即興劇にして発表。
6	第3幕「人形やしきへ」のシーンに学生の作った人形の芝居を組み込んで構成、稽古する。
7	第3幕「人形やしきへ」と第4幕「おばあさんの家」をつなげて稽古《劇が物語としてのクライマックスを経て終局に向かうか検討》。
8	前半（第1幕と第2幕）通し稽古（シーン１～10）。講評並びに抜き稽古①（うまくいかなかった場面を抜き出して稽古することで、学生が克服、習得できるように導く）。
9	後半（第3幕と第4幕）通し稽古（シーン11～19）。講評並びに抜き稽古②
10	通し稽古①（シーン１～19）。楽器演奏も歌も入れて全シーンをつなげてみる。履修学生各人ができているところと、そうでないところを確認し、課題として持ち帰る。予習し次回授業までに克服しておく。
11	止め通し稽古。1シーンずつ止めて、うまくいってないシーンの返し稽古をしながら確認し全シーンあたっていく。SE/ME・プロジェクターとのきっかけ合わせ稽古も同時進行。
12	通し稽古②（SE/ME・プロジェクターつき）
13	衣装・メイクあわせ。衣装つきで抜き稽古（特に稽古回数が必要な集団のシーンを中心に稽古）。
14	授業内最終通し稽古（衣装、小道具、SE/ME、プロジェクター、楽器演奏あり）。
15	上演後の総括・人形メンテナンス

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月4］Aクラス							
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5458A0	科目コード	GE5458Ad	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	2					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

1．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

2．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

4．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）
推薦図書として「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月5］Bクラス						
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5458B0	科目コード	GE5458Bd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

２．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）
推薦図書として「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[月4] Cクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5458C0	科目コード	GE5458Cd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現ができる声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現から生まれる言語表現を学ぶ
・論理的に考える事と感じる事で台本(戯曲)を読み取る力を習得する
・創造する事の楽しみを知って舞台上で表現する

2．授業概要

・表現は発信力ではあるが、その前提である受信力を学ぶ
・変わる事を信じて楽しむ
・台本(戯曲)に書かれている事を１、本読み　２、荒立ち　３、立ち稽古　４、通し稽古　を通して知覚し、本質を捉え、創造して、人前で演じる

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力を高める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

4．成績評価の方法及び基準

努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロだしチョンマ」
・前期はコント 適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人の前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読める事
・舞台なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」とコント台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　５つの目標４つの約束　『階段』
2	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い １ 大きな声・明るい声 ２ 鼻濁音・無声化
3	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い ３ 距離感 ４ TIPを使う
4	語り③「ベロ出しチョンマ」を使い ５ 創造の世界で遊ぶ
5	舞台 本読み①　台本を読み分析して知覚するキャスティング
6	舞台 本読み②　TIPを使って科白を言う
7	舞台　荒立ち①　目線を考える
8	舞台　荒立ち②　呼吸を考える
9	舞台　立ち①　相手の動きを知覚する
10	舞台　立ち②　相手の科白を知覚する
11	舞台　立ち③　音を入れてみる
12	舞台　立ち④　明りを入れてみる
13	舞台　通し①　前期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　前期発表会の為に創造的な舞台作り
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　前期発表会の為に本質を表現する

授業計画	
	［後期］ 「ベロ出しチョンマ」と戯曲を使い舞台表現をする
1	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い　目線を考える
2	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い　呼吸を考える
3	舞台 本読み①　本質を捉えて　キャスティングをする
4	舞台 本読み②　目線と呼吸を考えて
5	舞台 本読み③　間を考えて
6	舞台　荒立ち①　距離感を考えて
7	舞台　荒立ち②　相手を知覚する
8	舞台　立ち①　受信力を高めて表現する
9	舞台　立ち②　発信力を高めて表現する
10	舞台　立ち③　Tempと間を考えて表現する
11	舞台　立ち④　音を入れてみる
12	舞台　立ち⑤　明かりを入れてみる
13	舞台　通し①　後期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　後期発表会の為に創造的に創る
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　後期発表会の為に本質を表現する

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[月5] Dクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5458D0	科目コード	GE5458Dd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現ができる声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現から生まれる言語表現を学ぶ
・論理的に考える事と感じる事で台本(戯曲)を読み取る力を習得する
・創造する事の楽しみを知って舞台上で表現する

2．授業概要

・表現は発信力ではあるが、その前提である受信力を学ぶ
・変わる事を信じて楽しむ
・台本(戯曲)に書かれている事を１、本読み　２、荒立ち　３、立ち稽古　４、通し稽古　を通して知覚し、本質を捉え、創造して、人前で演じる

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力を高める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

4．成績評価の方法及び基準

努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロだしチョンマ」
・前期はコント 適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人の前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読める事
・舞台なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」とコント台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　５つの目標４つの約束　『階段』
2	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い １ 大きな声・明るい声 ２ 鼻濁音・無声化
3	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い ３ 距離感 ４ TIPを使う
4	語り③「ベロ出しチョンマ」を使い ５ 創造の世界で遊ぶ
5	舞台 本読み①　台本を読み分析して知覚するキャスティング
6	舞台 本読み②　TIPを使って科白を言う
7	舞台　荒立ち①　目線を考える
8	舞台　荒立ち②　呼吸を考える
9	舞台　立ち①　相手の動きを知覚する
10	舞台　立ち②　相手の科白を知覚する
11	舞台　立ち③　音を入れてみる
12	舞台　立ち④　明りを入れてみる
13	舞台　通し①　前期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　前期発表会の為に創造的な舞台作り
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　前期発表会の為に本質を表現する

授業計画	
	［後期］ 「ベロ出しチョンマ」と戯曲を使い舞台表現をする
1	語り①「ベロ出しチョンマ」を使い　目線を考える
2	語り②「ベロ出しチョンマ」を使い　呼吸を考える
3	舞台 本読み①　本質を捉えて　キャスティングをする
4	舞台 本読み②　目線と呼吸を考えて
5	舞台 本読み③　間を考えて
6	舞台　荒立ち①　距離感を考えて
7	舞台　荒立ち②　相手を知覚する
8	舞台　立ち①　受信力を高めて表現する
9	舞台　立ち②　発信力を高めて表現する
10	舞台　立ち③　Tempと間を考えて表現する
11	舞台　立ち④　音を入れてみる
12	舞台　立ち⑤　明かりを入れてみる
13	舞台　通し①　後期発表会の為に通してみる
14	舞台　通し②　後期発表会の為に創造的に創る
15	舞台　通し(ゲネプロ)③　後期発表会の為に本質を表現する

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［火4］Eクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5458E0	科目コード	GE5458Ed	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

2．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

4．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料をコピーして配布する。課題曲の楽譜は、その都度配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	定番アニソンの歌唱
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火5] Fクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5458F0	科目コード	GE5458Fd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

2．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

4．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料をコピーして配布する。課題曲の楽譜は、その都度配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	定番アニソンの歌唱
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火4] Gクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5458GO	科目コード	GE5458Gd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する応用力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優、役者の基礎から応用までを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるように、基礎からふり返る。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り
4	舞台演技の基礎・発声
5	舞台の演技の実践
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	台本の読み方
8	外画のスタジオ実習①セリフ合わせ
9	外画のスタジオ実習②マイクワーク
10	外画のスタジオ実習③録音とレビュー
11	ナレーションのスタジオ実習①原稿の読み込み
12	ナレーションのスタジオ実習②発生と滑舌
13	ナレーションのスタジオ実習③録音とレビュー
14	前期の発表会の練習
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメの演技の考察
4	外画の演技の考察
5	ナレーションの演技の考察
6	ボイスオーバーの演技の考察
7	無声映画のスタジオ実習①セリフ合わせ
8	無声映画のスタジオ実習②マイクワーク
9	無声映画のスタジオ実習③録音とレビュー
10	外画のスタジオ実習④声の感情表現
11	外画のスタジオ実習⑤声の距離感
12	外画のスタジオ実習⑥キャラクターの捉え方
13	外画のスタジオ実習⑦総合
14	後期の発表会の練習
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火5] Hクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5458H0	科目コード	GE5458Hd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する応用力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優、役者の基礎から応用までを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるように、基礎からふり返る。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り
4	舞台演技の基礎・発声
5	舞台の演技の実践
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	台本の読み方
8	外画のスタジオ実習①セリフ合わせ
9	外画のスタジオ実習②マイクワーク
10	外画のスタジオ実習③録音とレビュー
11	ナレーションのスタジオ実習①原稿の読み込み
12	ナレーションのスタジオ実習②発生と滑舌
13	ナレーションのスタジオ実習③録音とレビュー
14	前期の発表会の練習
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメの演技の考察
4	外画の演技の考察
5	ナレーションの演技の考察
6	ボイスオーバーの演技の考察
7	無声映画のスタジオ実習①セリフ合わせ
8	無声映画のスタジオ実習②マイクワーク
9	無声映画のスタジオ実習③録音とレビュー
10	外画のスタジオ実習④声の感情表現
11	外画のスタジオ実習⑤声の距離感
12	外画のスタジオ実習⑥キャラクターの捉え方
13	外画のスタジオ実習⑦総合
14	後期の発表会の練習
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水4］Jクラス							
代表教員	水島　裕	授業コード	GE5458J0	科目コード	GE5458Jd	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	2					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

1．主題・到達目標

「声優」がブームになっている昨今ですが、いま求められる声優像とは「個性」をしっかりと作品にぶつけられる演技者です。十人十色の声、個性がいつの間にか、平均的な読み方・演じ方でセリフを表現する若い人が増えているのではないでしょうか。自分の個性を大切にし、自分にしかできない表現力を育てていきます。

2．授業概要

発声や早口言葉など表現するための基礎はもちろんのこと、「スタジオ実習」「エチュード」「セリフ合わせ」など実践的な授業を多くします。「スタジオ実習」はアニメ＆洋画作品を使用し、実際の現場にいるかのような授業をします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の声の方向性に近い声優を探し、「真似ぶ」楽しさを理解する。自分の声を録音して「自分の声の特性」を理解する。

4．成績評価の方法及び基準

固定観念にとらわれない感情表現がどれくらい出来るか。変化することを怖れずに出来るか。授業への参加姿勢。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「笑う朗読」「外郎売り」「アニメや洋画の台本」など

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分の「色」を見つけて、他にないキャラクターを構築してほしい。「プロの声優になる！」という高い目標意識をもって履修してほしい。

授業計画	
1	自分の強みと弱みを探し、自己紹介ではなく「自己アピール」
2	早口言葉（テキスト使用）「外郎売り」を使った滑舌練習
3	声における距離感の把握
4	エチュード「どこ行くの？」で状況を創る・間の大切さ
5	エチュード「多人数仕掛け」人数が増え状況が変わる事への対応力
6	アニメを使ったスタジオ実習 ①マイクの使い方や台本の持ち方など
7	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
8	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
9	アニメを使ったスタジオ実習 ④役を替えて相手役の気持ちを知る
10	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ⑤前期発表会にむけて仕上げ

授業計画	
1	前期発表会の自己評価及び感想・「外郎売り」
2	「他己紹介」と「初めの一歩」の大人バージョン
3	アニメを使ったスタジオ実習 ①自分の声の特性を探す
4	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
5	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
6	アニメを使ったスタジオ実習 ④録音とプレビュー
7	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤自分たちの評価と録り直し
8	洋画を使ったスタジオ実習 ①アニメとの表現の違い
9	洋画を使ったスタジオ実習 ②外国人のセリフから感情をつかむ
10	洋画を使ったスタジオ実習 ③録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ⑤後期発表会にむけて仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水5］Kクラス							
代表教員	水島　裕	授業コード	GE5458K0	科目コード	GE5458Kd	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	2					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

1．主題・到達目標

「声優」がブームになっている昨今ですが、いま求められる声優像とは「個性」をしっかりと作品にぶつけられる演技者です。十人十色の声、個性がいつの間にか、平均的な読み方・演じ方でセリフを表現する若い人が増えているのではないでしょうか。自分の個性を大切にし、自分にしかできない表現力を育てていきます。

2．授業概要

発声や早口言葉など表現するための基礎はもちろんのこと、「スタジオ実習」「エチュード」「セリフ合わせ」など実践的な授業を多くします。「スタジオ実習」はアニメ＆洋画作品を使用し、実際の現場にいるかのような授業をします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の声の方向性に近い声優を探し、「真似ぶ」楽しさを理解する。自分の声を録音して「自分の声の特性」を理解する。

4．成績評価の方法及び基準

固定観念にとらわれない感情表現がどれくらい出来るか。変化することを怖れずに出来るか。授業への参加姿勢。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「笑う朗読」「外郎売り」「アニメや洋画の台本」など

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分の「色」を見つけて、他にないキャラクターを構築してほしい。「プロの声優になる！」という高い目標意識をもって履修してほしい。

授業計画	
1	自分の強みと弱みを探し、自己紹介ではなく「自己アピール」
2	早口言葉（テキスト使用）「外郎売り」を使った滑舌練習
3	声における距離感の把握
4	エチュード「どこ行くの？」で状況を創る・間の大切さ
5	エチュード「多人数仕掛け」人数が増え状況が変わる事への対応力
6	アニメを使ったスタジオ実習 ①マイクの使い方や台本の持ち方など
7	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
8	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
9	アニメを使ったスタジオ実習 ④役を替えて相手役の気持ちを知る
10	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった前期発表会の導入 ⑤前期発表会にむけて仕上げ

授業計画	
1	前期発表会の自己評価及び感想・「外郎売り」
2	「他己紹介」と「初めの一歩」の大人バージョン
3	アニメを使ったスタジオ実習 ①自分の声の特性を探す
4	アニメを使ったスタジオ実習 ②セリフを合わせてみる
5	アニメを使ったスタジオ実習 ③映像に合わせてみる
6	アニメを使ったスタジオ実習 ④録音とプレビュー
7	アニメを使ったスタジオ実習 ⑤自分たちの評価と録り直し
8	洋画を使ったスタジオ実習 ①アニメとの表現の違い
9	洋画を使ったスタジオ実習 ②外国人のセリフから感情をつかむ
10	洋画を使ったスタジオ実習 ③録音とプレビュー
11	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ①オーディション
12	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ②読み合わせ
13	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ③立ち稽古
14	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ④効果音も入れて練習
15	「笑う朗読」をつかった後期発表会の導入 ⑤後期発表会にむけて仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水4］Lクラス						
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5458LO	科目コード	GE5458Ld	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

2．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることを、その五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。それ以外には特別な予習・復習は求めないものの、講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

4．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に出席状況などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴォーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介(自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階(西洋音楽の基礎知識) ・楽曲研究①(好きなアニソンアンケート)
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階(メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異) ・楽曲研究②(好きなアニソン歌手アンケート)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に) ・発声法の研究①(実技) ・楽曲研究③(アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション)
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション) 課題(決定した曲への取り組み。努力目標の設定)
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント) ・歌唱の録音①
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤(実技) ・発表曲の歌唱指導① ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導② 課題(練習曲の移動ドへの読み替え練習)
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替える) 課題(発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる)
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う) ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習④ ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑤
15	前期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・最終パフォーマンスチェック(クラス内実技) ・講義内容に関する感想発表、後期への要望、質疑応答など

授業計画	
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・クラスメイト紹介(互いに互いの特徴や長所・短所などを紹介し合い、コミュニケーション能力と分析能力を高める) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎① ・コード(和音)の概念 ・楽譜研究①(楽譜を読みとる→一つの課題曲を全員で歌ってみる)
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎② ・和声(ハーモニー)の仕組み ・楽譜研究②(一つの楽曲を一人づつ歌ってみる→個性の重要性を発見する)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(実技) ・楽譜研究③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(実技) ・発表曲の歌唱指導①
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施③ ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習⑦(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習⑧(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習⑨ ・パフォーマンス動画の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑩ ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水5］Mクラス							
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5458MO	科目コード	GE5458Md	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	2					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

1．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

2．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることを、その五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。それ以外には特別な予習・復習は求めないものの、講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

4．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に出席状況などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴォーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介(自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階(西洋音楽の基礎知識) ・楽曲研究①(好きなアニソンアンケート)
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階(メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異) ・楽曲研究②(好きなアニソン歌手アンケート)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に) ・発声法の研究①(実技) ・楽曲研究③(アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション)
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション) 課題(決定した曲への取り組み。努力目標の設定)
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント) ・歌唱の録音①
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤(実技) ・発表曲の歌唱指導① ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導② 課題(練習曲の移動ドへの読み替え練習)
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替える) 課題(発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる)
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う) ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習④ ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑤
15	前期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・最終パフォーマンスチェック(クラス内実技) ・講義内容に関する感想発表、後期への要望、質疑応答など

授業計画	
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・クラスメイト紹介(互いに互いの特徴や長所・短所などを紹介し合い、コミュニケーション能力と分析能力を高める) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎① ・コード(和音)の概念 ・楽譜研究①(楽譜を読みとる→一つの課題曲を全員で歌ってみる)
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎② ・和声(ハーモニー)の仕組み ・楽譜研究②(一つの楽曲を一人づつ歌ってみる→個性の重要性を発見する)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(実技) ・楽譜研究③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(実技) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(実技) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(実技) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(実技) ・発表曲の歌唱指導①
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施③ ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習⑦(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習⑧(ソルフェージュ) ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・移動ドによる読み替えの実習⑨ ・パフォーマンス動画の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・移動ドによる読み替えの実習⑩ ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［木4］Nクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5458NO	科目コード	GE5458Nd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	1年次に習得したことの確認
2	スタジオ・マナー等の確認
3	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
4	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
5	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
6	外画スタジオ実習①／立ち稽古
7	外画スタジオ実習②／マイクワーク
8	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
9	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古
10	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク
11	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー
12	前期発表会の練習①／本読み
13	前期発表会の練習②／役の振り分け
14	前期発表会の練習③／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ナレーション学習①／ゲーム等のＣＭや番組宣伝 個々の才能を分析し、個性に合ったナレーションの訓練
2	ナレーション学習②／ナレーション映像を分析し、タイムコードや内容に合わせた訓練
3	アニメアテレコ実習①／アニメーションの線画に合わせた訓練と立ち稽古
4	アニメアテレコ実習②／アニメーションの線画に合わせた訓練とアテレコ実習
5	外画演技実習①／画像を分析し作品の意図や役柄を摑み、立ち稽古で心理的・物理的な距離を調整する訓練
6	外画演技実習②／原音（外国語）と日本語訳の台詞の合わせ方や読解力を高める訓練
7	アニメアフレコ実習③／個々の表現力の幅を広げるための立ち稽古を交えた訓練
8	アニメアフレコ実習④／個性を磨き、役の幅を広げながらオーディションに向けての表現力を高める訓練
9	ボイスオーバー①／ドキュメンタリー映像を分析しながらナレーションとボイスオーバーの基礎を身につける訓練
10	ボイスオーバー②／登場人物の表情やＢＧＭに乗せて躍動感あふれるボイスオーバーの訓練
11	後期発表会の準備①／作品選びと配役
12	後期発表会の準備②／役柄に合わせ表現力を磨くための訓練
13	後期発表会の準備③／録音と編集の訓練
14	後期発表会の準備④／最終調整
15	後期発表会本番に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［木5］Rクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5458R0	科目コード	GE5458Rd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	1年次に習得したことの確認
2	スタジオ・マナー等の確認
3	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
4	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
5	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
6	外画スタジオ実習①／立ち稽古
7	外画スタジオ実習②／マイクワーク
8	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
9	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古
10	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク
11	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー
12	前期発表会の練習①／本読み
13	前期発表会の練習②／役の振り分け
14	前期発表会の練習③／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ナレーション学習①／ゲーム等のＣＭや番組宣伝 個々の才能を分析し、個性に合ったナレーションの訓練
2	ナレーション学習②／ナレーション映像を分析し、タイムコードや内容に合わせた訓練
3	アニメアテレコ実習①／アニメーションの線画に合わせた訓練と立ち稽古
4	アニメアテレコ実習②／アニメーションの線画に合わせた訓練とアテレコ実習
5	外画演技実習①／画像を分析し作品の意図や役柄を摑み、立ち稽古で心理的・物理的な距離を調整する訓練
6	外画演技実習②／原音（外国語）と日本語訳の台詞の合わせ方や読解力を高める訓練
7	アニメアフレコ実習③／個々の表現力の幅を広げるための立ち稽古を交えた訓練
8	アニメアフレコ実習④／個性を磨き、役の幅を広げながらオーディションに向けての表現力を高める訓練
9	ボイスオーバー①／ドキュメンタリー映像を分析しながらナレーションとボイスオーバーの基礎を身につける訓練
10	ボイスオーバー②／登場人物の表情やＢＧＭに乗せて躍動感あふれるボイスオーバーの訓練
11	後期発表会の準備①／作品選びと配役
12	後期発表会の準備②／役柄に合わせ表現力を磨くための訓練
13	後期発表会の準備③／録音と編集の訓練
14	後期発表会の準備④／最終調整
15	後期発表会本番に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［木4］Sクラス						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5458SO	科目コード	GE5458Sd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

演劇の表現方法・現代演劇から2.5次元作品まで戯曲を用いて実践していく。

演劇の実技・実習を中心とする。
演技の基礎訓練から行う。また個人に根ざした演技訓練をワークショップなどを用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識・成果発表に至る成長、取り組み方を見て決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演劇戯曲・現在人気2.5次元作品台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。

台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する
意識を持って参加してください。

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術を身につけられるよう訓練を行う。 演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。
2	声の訓練（テキストを用いての声の技術の獲得） 行動についての理解 台本の分析
3	演技におけるリラクゼーション 演技基本訓練 感情解放（喜怒哀楽の表現）の方法を実習
4	演技基本訓練①（五感の訓練） 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈
5	演技基本訓練②（感情解放） 本読み、台本のキャラクター分析 ・キャスティングオーディション
6	演技基本訓練③（呼吸について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究１
7	演技基本訓練④（行為、行動について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究２
8	演技基本訓練⑤（喜怒哀楽の分析体現） ・行動の分析と関係性の掘り下げ１ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
9	演技基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱い） ・行動の分析と関係性の掘り下げ２ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
10	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・前半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・歌詞への理解、ダンスの実習
11	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・中盤） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・後半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・全体） ・衣装、小道具などの決定 ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
14	前期発表会に向けての通し稽古 衣装・小道具なども確認
15	前期発表会に向けての最終通し稽古

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 演技の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	声の訓練 演技基本訓練７（感情解放の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
2	声の訓練 演技基本訓練８（喜怒哀楽の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
3	演技基本訓練９（人物の距離感と関係性） グループに分かれてのシーン創作１（演出を自分たちで行う）
4	演技基本訓練１０（行動の演出分析） グループに分かれてのシーン創作２（演出を自分たちで行う）
5	演技基本訓練１１（シーンのテンポ） グループに分かれてのシーン創作３（演出を自分たちで行う）
6	演技基本訓練１２（シーンのテーマ分析と行動の成立） 後期台本による読み合わせ分析解読１
7	演技基本訓練１３（シーンにおける存在の仕方） 後期台本による読み合わせ分析解読２
8	後期発表シーン作り①（前半） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
9	後期発表シーン作り②（中盤） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
10	後期発表シーン作り③（後半） 自分たちの発信で創作する。 そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
11	後期発表へ向けての具体的創作１（音楽・効果音を使用しての創作）
12	後期発表へ向けての具体的創作２（歌・ダンス込みの創作）
13	後期発表への通し稽古１（シーンにおける成立の分析）
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認）
15	後期発表へ最終稽古

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［木5］Tクラス							
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5458TO	科目コード	GE5458Td	期間	通年	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	2					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

演劇の表現方法・現代演劇から2.5次元作品まで戯曲を用いて実践していく。

演劇の実技・実習を中心とする。
演技の基礎訓練から行う。また個人に根ざした演技訓練をワークショップなどを用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識・成果発表に至る成長、取り組み方を見て決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演劇戯曲・現在人気2.5次元作品台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。

台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する
意識を持って参加してください。

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術を身につけられるよう訓練を行う。 演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。
2	声の訓練（テキストを用いての声の技術の獲得） 行動についての理解 台本の分析
3	演技におけるリラクゼーション 演技基本訓練 感情解放（喜怒哀楽の表現）の方法を実習
4	演技基本訓練①（五感の訓練） 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈
5	演技基本訓練②（感情解放） 本読み、台本のキャラクター分析 ・キャスティングオーディション
6	演技基本訓練③（呼吸について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究１
7	演技基本訓練④（行為、行動について） シーン作り（演出を行いながら実践的な演技力を体得していく） ・動き（ミザンス）の理解と研究２
8	演技基本訓練⑤（喜怒哀楽の分析体現） ・行動の分析と関係性の掘り下げ１ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
9	演技基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱い） ・行動の分析と関係性の掘り下げ２ （演出を行いながら実践的な演技力を体得していく）
10	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・前半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・歌詞への理解、ダンスの実習
11	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・中盤） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・後半） ・キャラクター衣装、小道具についても考える ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	シーン作り・歌ダンスの練習（流れでの稽古・全体） ・衣装、小道具などの決定 ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
14	前期発表会に向けての通し稽古 衣装・小道具なども確認
15	前期発表会に向けての最終通し稽古

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 演技の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、演劇や2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	声の訓練 演技基本訓練７（感情解放の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
2	声の訓練 演技基本訓練８（喜怒哀楽の応用） エチュード・シアターゲームを用いた演劇訓練
3	演技基本訓練９（人物の距離感と関係性） グループに分かれてのシーン創作１（演出を自分たちで行う）
4	演技基本訓練１０（行動の演出分析） グループに分かれてのシーン創作２（演出を自分たちで行う）
5	演技基本訓練１１（シーンのテンポ） グループに分かれてのシーン創作３（演出を自分たちで行う）
6	演技基本訓練１２（シーンのテーマ分析と行動の成立） 後期台本による読み合わせ分析解読１
7	演技基本訓練１３（シーンにおける存在の仕方） 後期台本による読み合わせ分析解読２
8	後期発表シーン作り①（前半） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
9	後期発表シーン作り②（中盤） 自分たちの発信で創作する。（歌・ダンスあり） そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
10	後期発表シーン作り③（後半） 自分たちの発信で創作する。 そのシーン作りに対してのアドバイスと説明で演技を学ぶ
11	後期発表へ向けての具体的創作１（音楽・効果音を使用しての創作）
12	後期発表へ向けての具体的創作２（歌・ダンス込みの創作）
13	後期発表への通し稽古１（シーンにおける成立の分析）
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認）
15	後期発表へ最終稽古

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[金4] Uクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5458U0	科目コード	GE5458Ud	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

２．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[金5] Vクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5458V0	科目コード	GE5458Vd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

2．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

4．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	アニメソング総合演習１　［火3］Aクラス						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE5470A0	科目コード	GE5470	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースでは「アニメソング総合演習」を毎年履修できる。必修授業でないが、できるだけ１年次に初回の履修を設定することを推奨する。アニメソングは特定の音楽分野ではない。クラシック系、ポップス系、歌謡フォーク系等々、あらゆる分野の音楽がアニメで使用されればアニソンとなる。また、アニソンの始まりが子供の歌の分野との視点で見る時、日本独自の文化である童謡を学ぶことの重要性が感じられる。４年間を俯瞰した到達目標は、童謡学を原点としあらゆる分野の楽曲に対応できる実力を身につけ、独唱歌手として活躍できるスキルを身につけることに他ならない。１年次の到達目標はその基盤の形成となる。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日継続する自主練習が不可欠と考えられる。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業内において数回にわたり行う課題曲の個人歌唱を全体のレベルと比較、また個人の中での上達度も含め
それを歌唱評価とし、授業態度、出席率とあわせて総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「日本のうた101～プラス６曲」野ばら社刊
　その他については各指導教員から個別に指示される。
　必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	歌唱に際しての基本姿勢
3	概説：日本のうたの歴史
4	日本のわらべうたを歌おう１−１（導入編）
5	日本のわらべうたを歌おう１−２（応用編）
6	日本の唱歌を歌おう２−１（導入編）
7	日本の唱歌を歌おう２−２（応用編）
8	日本の童謡を歌おう３−１（導入編）
9	日本の童謡を歌おう３−２（応用編）
10	ポップス・アニソンを歌おう１（導入編）
11	ポップス・アニソンを歌おう２（応用編）
12	前期末成果発表公演の歌唱曲策定
13	前期末成果発表公演にむけての演習
14	前期末成果発表公演に向けての最終チェック
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	個別歌唱楽曲選定１
3	個別歌唱指導１
4	個別歌唱仕上げ１
5	成果発表ミニ演奏会１
6	個別歌唱楽曲選定２
7	個別歌唱指導２
8	個別歌唱仕上げ２
9	成果発表ミニ演奏会２
10	学年末成果発表出演オーディション
11	個別歌唱楽曲選定３
12	個別歌唱指導３
13	個別歌唱仕上げ３
14	成果発表ミニ演奏会３
15	学年末総括

科目名	アニメソング総合演習１　［火4］Bクラス						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE5470B0	科目コード	GE5470	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースでは「アニメソング総合演習」を毎年履修できる。必修授業でないが、できるだけ１年次に初回の履修を設定することを推奨する。アニメソングは特定の音楽分野ではない。クラシック系、ポップス系、歌謡フォーク系等々、あらゆる分野の音楽がアニメで使用されればアニソンとなる。また、アニソンの始まりが子供の歌の分野との視点で見る時、日本独自の文化である童謡を学ぶことの重要性が感じられる。４年間を俯瞰した到達目標は、童謡学を原点としあらゆる分野の楽曲に対応できる実力を身につけ、独唱歌手として活躍できるスキルを身につけることに他ならない。１年次の到達目標はその基盤の形成となる。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日継続する自主練習が不可欠と考えられる。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業内において数回にわたり行う課題曲の個人歌唱を全体のレベルと比較、また個人の中での上達度も含め
それを歌唱評価とし、授業態度、出席率とあわせて総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「日本のうた101～プラス６曲」野ばら社刊
　その他については各指導教員から個別に指示される。
　必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	歌唱に際しての基本姿勢
3	概説：日本のうたの歴史
4	日本のわらべうたを歌おう１−１（導入編）
5	日本のわらべうたを歌おう１−２（応用編）
6	日本の唱歌を歌おう２−１（導入編）
7	日本の唱歌を歌おう２−２（応用編）
8	日本の童謡を歌おう３−１（導入編）
9	日本の童謡を歌おう３−２（応用編）
10	ポップス・アニソンを歌おう１（導入編）
11	ポップス・アニソンを歌おう２（応用編）
12	前期末成果発表公演の歌唱曲策定
13	前期末成果発表公演にむけての演習
14	前期末成果発表公演に向けての最終チェック
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	個別歌唱楽曲選定１
3	個別歌唱指導１
4	個別歌唱仕上げ１
5	成果発表ミニ演奏会１
6	個別歌唱楽曲選定２
7	個別歌唱指導２
8	個別歌唱仕上げ２
9	成果発表ミニ演奏会２
10	学年末成果発表出演オーディション
11	個別歌唱楽曲選定３
12	個別歌唱指導３
13	個別歌唱仕上げ３
14	成果発表ミニ演奏会３
15	学年末総括

科目名	アニメソング総合演習２　［月2］Aクラス						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE5471A0	科目コード	GE5471	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

皆さんは「アニメソング」と聞いて、どんな曲をイメージするでしょうか?
世代や性別、趣味嗜好によっても様々に異なるアニメ作品や楽曲が思い浮かぶはずです。
現代におけるアニメソングは多種多様化し、歌い手にも様々なタイプが存在します。
アニメソング総合実習２ではあらゆる楽曲に対応できるよう、歌唱の基礎力と応用力を高めていきます。
テーマ別の課題を学びながら、自分に合ったジャンルや自分ならではの表現方法を探していきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業や発表会への参加姿勢などから総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。

参考文献
アニメ・ソング大百科Vol.1(株式会社ドレミ楽譜出版社)
アニメ・ソング大百科Vol.2(株式会社ドレミ楽譜出版社)
物まねハイトーンボイストレーニング（羽鳥亨/株式会社主婦の友社）
新装版楽典　理論と実習（株式会社音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を考慮した上で人数に応じてクラス配分を決定します。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス
2	歌唱の基本１（呼吸と発声）
3	歌唱の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	課題曲・アニメソング１（導入）
10	課題曲・アニメソング２（オーディション）
11	課題曲・アニメソング３（演習）
12	課題曲・アニメソング４（仕上げ）
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表に向けての最終チェック
15	前期末発表会

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	キャラクターとして歌おう（演習）
3	課題曲・外国のアニメ１（導入）
4	課題曲・外国のアニメ２（演習）
5	課題曲・外国のアニメ３（仕上げ）
6	課題曲・日本のアニメ１（導入）
7	課題曲・日本のアニメ２（演習）
8	課題曲・日本のアニメ３（仕上げ）
9	コンサート制作１（グループ分け）
10	コンサート制作２（プログラム作成・演習）
11	コンサート制作３（仕上げ）
12	後期末成果発表に向けての構成策定
13	後期成果発表に向けての演習
14	後期成果発表に向けての最終チェック
15	後期末発表会

科目名	アニメソング総合演習２　［火1］Bクラス						
代表教員	安士　百合野	授業コード	GE5471B0	科目コード	GE5471	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

皆さんは「アニメソング」と聞いて、どんな曲をイメージするでしょうか?
世代や性別、趣味嗜好によっても様々に異なるアニメ作品や楽曲が思い浮かぶはずです。
現代におけるアニメソングは多種多様化し、歌い手にも様々なタイプが存在します。
アニメソング総合実習２ではあらゆる楽曲に対応できるよう、歌唱の基礎力と応用力を高めていきます。
テーマ別の課題を学びながら、自分に合ったジャンルや自分ならではの表現方法を探していきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業や発表会への参加姿勢などから総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。

参考文献
アニメ・ソング大百科Vol.1(株式会社ドレミ楽譜出版社)
アニメ・ソング大百科Vol.2(株式会社ドレミ楽譜出版社)
物まねハイトーンボイストレーニング（羽鳥亨/株式会社主婦の友社）
新装版楽典　理論と実習（株式会社音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を考慮した上で人数に応じてクラス配分を決定します。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス
2	歌唱の基本１（呼吸と発声）
3	歌唱の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	課題曲・アニメソング１（導入）
10	課題曲・アニメソング２（オーディション）
11	課題曲・アニメソング３（演習）
12	課題曲・アニメソング４（仕上げ）
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表に向けての最終チェック
15	前期末発表会

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	キャラクターとして歌おう（演習）
3	課題曲・外国のアニメ１（導入）
4	課題曲・外国のアニメ２（演習）
5	課題曲・外国のアニメ３（仕上げ）
6	課題曲・日本のアニメ１（導入）
7	課題曲・日本のアニメ２（演習）
8	課題曲・日本のアニメ３（仕上げ）
9	コンサート制作１（グループ分け）
10	コンサート制作２（プログラム作成・演習）
11	コンサート制作３（仕上げ）
12	後期末成果発表に向けての構成策定
13	後期成果発表に向けての演習
14	後期成果発表に向けての最終チェック
15	後期末発表会

科目名	アニメソング総合演習２　［火2］Cクラス						
代表教員	安士　百合野	授業コード	GE5471C0	科目コード	GE5471	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

皆さんは「アニメソング」と聞いて、どんな曲をイメージするでしょうか?
世代や性別、趣味嗜好によっても様々に異なるアニメ作品や楽曲が思い浮かぶはずです。
現代におけるアニメソングは多種多様化し、歌い手にも様々なタイプが存在します。
アニメソング総合実習２ではあらゆる楽曲に対応できるよう、歌唱の基礎力と応用力を高めていきます。
テーマ別の課題を学びながら、自分に合ったジャンルや自分ならではの表現方法を探していきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業や発表会への参加姿勢などから総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。

参考文献
アニメ・ソング大百科Vol.1(株式会社ドレミ楽譜出版社)
アニメ・ソング大百科Vol.2(株式会社ドレミ楽譜出版社)
物まねハイトーンボイストレーニング（羽鳥亨/株式会社主婦の友社）
新装版楽典　理論と実習（株式会社音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を考慮した上で人数に応じてクラス配分を決定します。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス
2	歌唱の基本１（呼吸と発声）
3	歌唱の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	課題曲・アニメソング１（導入）
10	課題曲・アニメソング２（オーディション）
11	課題曲・アニメソング３（演習）
12	課題曲・アニメソング４（仕上げ）
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表に向けての最終チェック
15	前期末発表会

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	キャラクターとして歌おう(演習)
3	課題曲・外国のアニメ１（導入）
4	課題曲・外国のアニメ２（演習）
5	課題曲・外国のアニメ３（仕上げ）
6	課題曲・日本のアニメ１（導入）
7	課題曲・日本のアニメ２（演習）
8	課題曲・日本のアニメ３（仕上げ）
9	コンサート制作１（グループ分け）
10	コンサート制作２（プログラム作成・演習）
11	コンサート制作３（仕上げ）
12	後期末成果発表に向けての構成策定
13	後期成果発表に向けての演習
14	後期成果発表に向けての最終チェック
15	後期末発表会

科目名	アニメソング総合演習３　［火1］Aクラス						
代表教員	Salia	授業コード	GE5472AO	科目コード	GE5472	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメソング総合演習3では、1、2年で学んだ基礎となる発声やスキルを活かし、現代の多様化するアニメソングにも対応出来るようさらなるテクニックを身につけていきます。
授業の中では基礎力を持続しながら、リズム感の向上、それぞれの個性を生かした表現方法や歌唱方法を伸ばしていきます。
将来、声優、アニメソングアーティストとして、歌う事の喜び、表現する事の素晴らしさを学び、人に伝える力を身につけて行きましょう。

２．授業概要

授業ではテーマや課題曲に基ずいて全員で演習を行っていきます。
アニメソングアーティストとしてアップテンポの曲からバラードの曲まで幅広い曲調を歌いこなせるように指導していきます。
課題曲によっては個別歌唱指導も行っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業をより自分の中に習得するには予習復習することが大切です。
そして表現者として日々の生活の中で様々なことを感じ、経験することも大事ですので、意識して生活するのが望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への取り組み態度、発表会や試験などにおける実力を総合して評価していきます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用する課題曲などは、そのつど担当講師より配布されます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等考慮した上でアカデミックアドバイザーと相談してクラス配分を決定します。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス～年間を通しての目標到達の設定
2	歌唱するにあたっての基本姿勢と発声
3	歌唱するにあたってのリズムトレーニング①(基礎編)
4	歌唱するにあたってのリズムトレーニング②(応用編)
5	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポな曲（基礎編）
6	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポな曲（応用編）
7	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲（基礎編）
8	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲（応用編）
9	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう(基礎編)
10	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう(応用編)
11	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう①
12	前期成果発表会に向けて歌唱曲策定
13	前期成果発表会に向けての演習
14	前期成果発表会に向けての最終仕上げ
15	前期成果発表会

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス　～年間目標到達への再確認、調整
2	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポ(導入編)
3	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポ(応用編)
4	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲(導入編)
5	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲(応用編)
6	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう②
7	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(読み)
8	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(導入編)
9	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(応用編)
10	合唱曲を歌い学ぼう　～(導入編)
11	合唱曲を歌い学ぼう　～(応用編)
12	学年末成果発表出演オーディション
13	後期成果発表会に向けての歌唱曲策定
14	後期成果発表会に向けての歌唱曲の最終仕上げ
15	後期成果発表会

科目名	アニメソング総合演習３　［火2］Bクラス						
代表教員	Salia	授業コード	GE5472B0	科目コード	GE5472	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメソング総合演習3では、1、2年で学んだ基礎となる発声やスキルを活かし、現代の多様化するアニメソングにも対応出来るようさらなるテクニックを身につけていきます。
授業の中では基礎力を持続しながら、リズム感の向上、それぞれの個性を生かした表現方法や歌唱方法を伸ばしていきます。
将来、声優、アニメソングアーティストとして、歌う事の喜び、表現する事の素晴らしさを学び、人に伝える力を身につけて行きましょう。

２．授業概要

授業ではテーマや課題曲に基ずいて全員で演習を行っていきます。
アニメソングアーティストとしてアップテンポの曲からバラードの曲まで幅広い曲調を歌いこなせるように指導していきます。
課題曲によっては個別歌唱指導も行っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業をより自分の中に習得するには予習復習することが大切です。 そして表現者として日々の生活の中で様々なことを感じ、経験することも大事ですので、意識して生活するのが望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への取り組み態度、発表会や試験などにおける実力を総合して評価していきます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用する課題曲などは、そのつど担当講師より配布されます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等考慮した上でアカデミックアドバイザーと相談してクラス配分を決定します。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス　～年間を通しての目標到達の設定
2	歌唱するにあたっての基本姿勢と発声
3	歌唱するにあたってのリズムトレーニング①(基礎編)
4	歌唱するにあたってのリズムトレーニング②(応用編)
5	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポな曲（基礎編）
6	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポな曲（応用編）
7	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲（基礎編）
8	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲（応用編）
9	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう(基礎編)
10	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう(応用編)
11	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう①
12	前期成果発表会に向けて歌唱曲策定
13	前期成果発表会に向けての演習
14	前期成果発表会に向けての最終仕上げ
15	前期成果発表会

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス　～年間目標到達への再確認、調整
2	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポ(導入編)
3	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～アップテンポ(応用編)
4	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲(導入編)
5	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう　～バラード調の曲(応用編)
6	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう②
7	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(読み)
8	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(導入編)
9	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法　(応用編)
10	合唱曲を歌い学ぼう　～(導入編)
11	合唱曲を歌い学ぼう　～(応用編)
12	学年末成果発表出演オーディション
13	後期成果発表会に向けての歌唱曲策定
14	後期成果発表会に向けての歌唱曲の最終仕上げ
15	後期成果発表会

科目名	ＡＳダンス演習１　［月1］Aクラス						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE5479AO	科目コード	GE5479	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題
ストリートダンス

到達目標
ステージや舞台でのパフォーマンス力の一つとなるダンスの基礎の習得を目指す。授業では、身体の柔軟性と筋力アップ、リズムトレーニングなどを通して身体的表現力向上を目指す。通年授業を通してダンスの基礎的な技術を身につけていき、声優や歌手としての活動に繋がげていけるよう表現の基盤を作っていくことを目標とする。

２．授業概要

ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、HipHop基礎リズムトレーニング。年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて振付や振付制作、個別指導・グループワークも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での内容を毎回復習し反復練習するなど、自主的なトレーニングを習慣付けることが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%
授業への参加姿勢50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体を動かす授業なので体調管理に気をつけること。各自水分補給を心がけ、動きやすい服装、靴（スニーカー）で授業に臨むこと。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス及びダンス演習（基礎導入） （１）柔軟性
2	ダンス演習(基礎導入) （２）柔軟性とアイソレーション
3	ダンス演習(基礎) （３）コアの強化
4	ダンス演習(基礎) （４）リズム基礎（Down）
5	ダンス演習(基礎応用) （５）柔軟性とアイソレーションの意識
6	ダンス演習(基礎応用) （６）リズム感
7	ダンス演習(基礎応用) （７）リズム感（UP）
8	ダンス演習(基礎応用) （８）リズム基礎の強化
9	ダンス演習(基礎応用) （９）筋力アップと基本Step
10	ダンス演習(基礎応用) （１０）基本Stepとボディバランス
11	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１１）カウントの取り方
12	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１２）リズム感とボディコントロール
13	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１３）チームワーク
14	前期末成果発表 （１４）目線と表情
15	前期到達度の確認 （１５）表現力

授業計画	
	［後期］
1	ダンス演習(基礎) （１）16ビート
2	ダンス演習(基礎) （２）腹筋
3	ダンス演習(基礎応用) （３）リズム感（フロント）
4	ダンス演習(基礎応用) （４）リズム感（バック）
5	ダンス演習(基礎応用) （５）リズム感（フロント＆バック）
6	ダンス演習(基礎応用) （６）重心の意識
7	ダンス演習(基礎応用) （７）重心移動（クロスフロア）
8	ダンス演習(基礎応用) （８）手の動き
9	ダンス演習(基礎応用) （９）軸の意識
10	ダンス演習(基礎応用) （１０）コンビネーション
11	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１１）応用力
12	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１２）基礎リズム&stepコンビネーション
13	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１３）構成力
14	学年末成果発表 （１４）表現力
15	後期到達度の確認 （１５）総合力

科目名	ＡＳダンス演習１　[月2] Bクラス						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE5479BO	科目コード	GE5479	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題
ストリートダンス

到達目標
ステージや舞台でのパフォーマンス力の一つとなるダンスの基礎の習得を目指す。授業では、身体の柔軟性と筋力アップ、リズムトレーニングなどを通して身体的表現力向上を目指す。通年授業を通してダンスの基礎的な技術を身につけていき、声優や歌手としての活動に繋がげていけるよう表現の基盤を作っていくことを目標とする。

２．授業概要

ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、HipHop基礎リズムトレーニング。年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて振付や振付制作、個別指導・グループワークも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での内容を毎回復習し反復練習するなど、自主的なトレーニングを習慣付けることが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%
授業への参加姿勢50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体を動かす授業なので体調管理に気をつけること。各自水分補給を心がけ、動きやすい服装、靴（スニーカー）で授業に臨むこと。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス及びダンス演習（基礎導入） （１）柔軟性
2	ダンス演習(基礎導入) （２）柔軟性とアイソレーション
3	ダンス演習(基礎) （３）コアの強化
4	ダンス演習(基礎) （４）リズム基礎（Down）
5	ダンス演習(基礎応用) （５）柔軟性とアイソレーションの意識
6	ダンス演習(基礎応用) （６）リズム感
7	ダンス演習(基礎応用) （７）リズム感（UP）
8	ダンス演習(基礎応用) （８）リズム基礎の強化
9	ダンス演習(基礎応用) （９）筋力アップと基本Step
10	ダンス演習(基礎応用) （１０）基本Stepとボディバランス
11	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１１）カウントの取り方
12	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１２）リズム感とボディコントロール
13	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 （１３）チームワーク
14	前期末成果発表 （１４）目線と表情
15	前期到達度の確認 （１５）表現力

授業計画	
	［後期］
1	ダンス演習(基礎) （１）16ビート
2	ダンス演習(基礎) （２）腹筋
3	ダンス演習(基礎応用) （３）リズム感（フロント）
4	ダンス演習(基礎応用) （４）リズム感（バック）
5	ダンス演習(基礎応用) （５）リズム感（フロント＆バック）
6	ダンス演習(基礎応用) （６）重心の意識
7	ダンス演習(基礎応用) （７）重心移動（クロスフロア）
8	ダンス演習(基礎応用) （８）手の動き
9	ダンス演習(基礎応用) （９）軸の意識
10	ダンス演習(基礎応用) （１０）コンビネーション
11	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１１）応用力
12	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１２）基礎リズム&Stepコンビネーション
13	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク演習 （１３）構成力
14	学年末成果発表 （１４）表現力
15	後期到達度の確認 （１５）総合力

科目名	ＡＳダンス演習２　［月1］Aクラス						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GE5480A0	科目コード	GE5480	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンス・バレエの基本的な知識、ステップテクニックを習得し、コンビネーションでは振り覚えの鍛錬、そしてどんな振付が来ても怖気付くことなく自分らしく踊れるメンタルを目指す。

２．授業概要

ウォーミングアップ、ストレッチ、簡単なジャズダンス・バレエのテクニック、コンビネーションの実践。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンビネーションの復習、苦手な動きの克服。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、シューズはジャズダンスシューズを履く。タオルと水分補給できるものを持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	演習（ステップ）基本
3	演習（ステップ）応用
4	演習（ステップ）まとめ
5	演習（アムスライン）基本
6	演習（アムスライン）応用
7	演習（アムスライン）まとめ
8	演習（膝・つま先）基本
9	演習（膝・つま先）応用
10	演習（膝・つま先）まとめ
11	演習（リズム）基本
12	演習（リズム）応用
13	演習（リズム）まとめ
14	演習（アクセント）基本
15	演習（アクセント）応用／まとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定
2	演習（シアタージャズ初級）応用／まとめ
3	演習（ポップジャズ）基本
4	ジャズダンス演習(体幹強化)
5	演習（ポップジャズ）応用／まとめ
6	演習（テーマパークジャズ初級）応用／まとめ
7	演習（アニメソングダンス）基本
8	演習（アニメソングダンス）応用／まとめ
9	演習（テーマパークジャズ初中級）基本
10	演習（テーマパークジャズ初中級）応用／まとめ
11	ステージング、フォーメーション付き演習（基本）
12	ステージング、フォーメーション付き演習（応用）
13	ステージング、フォーメーション付き演習（仕上げ）
14	ステージング、フォーメーション付き演習（まとめ）
15	ステージング、フォーメーション付き演習（発表／統括）

科目名	ＡＳダンス演習２　[月1] Bクラス						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE5480B0	科目コード	GE5480	期間	通年
担当教員	古賀　明美						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの基礎と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズ、もしくは動きやすいシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーションの基礎
3	ウォームアップ、アイソレーションの応用
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップジャズターン
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップツイスト
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップコントラクション
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、ジャズウォーク
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、３ステップターン
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、バットマン
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、ターンコンビネーション
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、ジャンプ
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション８小節の振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション１６小節の振り付け
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション１６小節の表現
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション１６小節の魅せ方

授業計画	
	後期
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ魅せ方

科目名	ＡＳダンス演習３　[月1]						
代表教員	河内　知子	授業コード	GE548100	科目コード	GE5481	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ASダンス実習3では、二年次までに学習した内容を基盤として更なる発展を目標とする。声優や歌手になるために必用なリズム感、姿勢、表現する為の体作りを主軸とし、更に高度な表現を目指す。

２．授業概要

毎回の授業では、ストレッチ、体幹トレーニング、リズム練習をした後に設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必用に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

体調管理に十分注意すること。動きやすい靴、服装で望むこと。（靴は室内用やダンス用の靴を用意する）

授業計画	
	前期
1	前期ガイダンス
2	総合ダンス演習(基礎)
3	総合ダンス演習(応用)
4	総合ダンス演習(発展)
5	パフォーマンス実習(歌いながら踊る)導入
6	パフォーマンス実習(歌いながら踊る)リズムのとり方 基礎
7	パフォーマンス実習(歌いながら踊る)リズムのとり方 応用
8	パフォーマンス実習(歌いながら踊る)リズムのとり方 発展
9	パフォーマンス実習(心と体)導入
10	パフォーマンス実習(心と体)基礎
11	パフォーマンス実習(心と体)応用
12	パフォーマンス実習(心と体)発展
13	前期成果発表に向けて(事前に決まっている自分が発表する演目を一度発表してもらいます)
14	前期成果発表に向けて(グループディスカッション)
15	前期成果発表に向けて(模擬演習)

授業計画	
	後期
1	後期ガイダンス
2	実技試験に向けて(方針と題材決定)
3	実技試験に向けて(振り付け)前半
4	実技試験に向けて(振り付け)後半
5	振り付けについて(自分で振り付けを考えるということ)基礎
6	振り付けについて(自分で振り付けを考えるということ)応用
7	振り付けについて(自分で振り付けを考えるということ)発展
8	実技試験に向けて(中間発表)
9	実技試験に向けて(前奏部分考察)
10	実技試験に向けて(Aメロディー部分考察)
11	実技試験に向けて(Bメロディー部分考察)
12	実技試験に向けて(サビ部分考察)
13	実技試験に向けて(後奏部分考察)
14	実技試験に向けて(グループディスカッション)
15	実技試験に向けて(最終調整)

科目名	ナレーション基礎演習　［火3］Aクラス						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE5483AO	科目コード	GE5483	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な授業である。必修授業でないが、できるだけ１年次に履修することを推奨する。ある人格になりきって声の演技をするという吹き替えの前段階として、まずひとりで正確なアナウンスやナレーションができるという基盤を形成していく。自分の声の質やリズムを知りより良く改善させていくことが２年次以降の研鑽に向けての成長の基盤となる。

２．授業概要

設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。題材として、まずは歌舞伎十八番『ういろう売り』の暗誦からからスタートさせ、発声、滑舌の基礎を徹底的に身に付けて行く。それから、共通題材、個別題材と広げていき、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。スタジオ利用でプロフェッショナル表現を高める。バレエコースとのコラボ公演や期末成果発表も行う予定。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ういろう売りの復唱は表現者として毎日行い、確実に自分のものにすることが望ましい。毎回の授業で指摘されたことを基に復習することが成長の因となる。また、常日頃から自分にあった題材を探し予習することも必要である。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価する。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス
2	ナレーションの基本確認
3	ナレーション題材１ういろう売り
4	ナレーション題材１（導入編）再チャレンジ
5	ナレーション題材２（展開編）演習
6	ナレーション題材２（展開編）再チャレンジ
7	アナウンスの基本確認題材
8	アナウンス題材１（導入編）演習
9	アナウンス題材１（購入編）再チャレンジ
10	アナウンス題材２（導入編）演習
11	アナウンス題材２（購入編）再チャレンジ
12	前期末成果発表にむけての企画策定
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表の仕上げ
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	朗読の基本確認
3	朗読題材１（導入編）演習
4	朗読題材１（導入編）再チャレンジ
5	朗読題材１（展開編）演習
6	朗読題材２（展開編）再チャレンジ
7	ナレーション題材３（展開編）演習
8	ナレーション題材３（展開編）再チャレンジ
9	ナレーション題材４（展開編）演習
10	ナレーション題材４（展開編）再チャレンジ
11	学年末成果発表に向けての企画策定
12	学年末成果発表に向けての演習
13	学年末成果発表の仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ナレーション基礎演習 ［火4］Bクラス						
代表教員	金野　恵子	授業コード	GE5483B0	科目コード	GE5483	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な授業である。必修授業でないが、できるだけ１年次に履修することを推奨する。ある人格になりきって声の演技をするという吹き替えの前段階として、まずひとりで正確なアナウンスやナレーションができるという基盤を形成していく。自分の声の質やリズムを知りより良く改善させていくことが２年次以降の研鑽に向けての成長の基盤となる。

２．授業概要

設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。題材として、まずは歌舞伎十八番『ういろう売り』の暗誦からからスタートさせ、発声、滑舌の基礎を徹底的に身に付けて行く。それから、共通題材、個別題材と広げていき、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。スタジオ利用でプロフェッショナル表現を高める。バレエコースとのコラボ公演や期末成果発表も行う予定。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ういろう売りの復唱は表現者として毎日行い、確実に自分のものにすることが望ましい。毎回の授業で指摘されたことを基に復習することが成長の因となる。また、常日頃から自分にあった題材を探し予習することも必要である。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価する。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	[前期]
1	前期ガイダンス
2	ナレーションの基本確認
3	ナレーション題材１ういろう売り
4	ナレーション題材１（導入編）再チャレンジ
5	ナレーション題材２（展開編）演習
6	ナレーション題材２（展開編）再チャレンジ
7	アナウンスの基本確認題材
8	アナウンス題材１（導入編）演習
9	アナウンス題材１（購入編）再チャレンジ
10	アナウンス題材２（導入編）演習
11	アナウンス題材２（購入編）再チャレンジ
12	前期末成果発表にむけての企画策定
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表の仕上げ
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	朗読の基本確認
3	朗読題材１（導入編）演習
4	朗読題材１（導入編）再チャレンジ
5	朗読題材１（展開編）演習
6	朗読題材２（展開編）再チャレンジ
7	ナレーション題材３（展開編）演習
8	ナレーション題材３（展開編）再チャレンジ
9	ナレーション題材４（展開編）演習
10	ナレーション題材４（展開編）再チャレンジ
11	学年末成果発表に向けての企画策定
12	学年末成果発表に向けての演習
13	学年末成果発表の仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	弦楽合奏１～４　[金4-5]						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	GE582500	科目コード	GE5825d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

２．授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する
。
、

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（出席を含む）（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］弦楽合奏の基礎であるバロックの合奏を、スペシャリストの先生から学ぶ づぃイヴァルデイ　ヴァイオリン協奏曲 ヴィヴァルデイ　　２つのヴァイオリンの協奏曲 ヴィヴァルデイ　　４つのヴァイオリンの協奏曲 チャイコフスキー弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（前期授業説明） 作曲家について学ぶ
2	ヴィバルデイ：ヴァイオリン協奏曲　、4台の　ヴァイオリン為の協奏曲合奏
3	ヴィバルデイ：２台の　ヴァイオリンの為の協奏曲　合奏
4	パート分奏
5	パート分奏
6	チャイコフスキー’弦楽セレナーデ１・２楽章合奏
7	チャイコフスキー’弦楽セレナーデ１・２楽章分奏
8	チャイコフスキー’弦楽セレナーデ３・４楽章合奏
9	チャイコフスキー’弦楽セレナーデ３・４楽章パート分奏
10	合奏
11	合奏
12	全体の通し練習『アゴステイーニ先生指導」
13	全体の通し練習「アゴステイーニ先生指導」
14	リハーサル（全体の通し練習）「アゴステイーニ先生指導」
15	演奏会

授業計画	
	G.ホルスト：ブルックグリーン組曲　　作品１９０ O.レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア第３組曲　作品１７２ 吉松隆：アトム・ハーツ・クラブ組曲第１番　作品７０b 渡辺俊幸、山下康介のドラマ、アニメ音楽を弦楽合奏で演奏する。
1	ガイダンス（後期授業説明） 作曲家について学ぶ
2	ホルスト：ブルックグリーン組曲のボーイング確認 レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア第３組曲　ボーイング確認
3	吉松隆：アトム・ハーツ・クラブ組曲第１番　作品７０b リズム、音程、ボーイング確認
4	渡辺俊幸作曲　　大地の子、おひさま他の楽譜確認
5	山下康介作品のボーイングなど楽譜確認と譜読み
6	吉松隆：アトム・ハーツ・クラブ組曲、レスピーギのパート分奏
7	ホルスト：ブルックグリーン組曲パート分奏 渡辺、山下作品パート分奏
8	吉松作品、レスピーギ合奏（吉田行地指揮）
9	ホルスト：ブルックリン組曲合奏 吉松隆；アトム・ハーツ・クラブ組曲合奏
10	合奏（吉田行地指揮）
11	合奏（吉田行地指揮）
12	全体の通し練習（吉田行地指揮）
13	全体の通し練習（吉田行地指揮）
14	リハーサル（GP）
15	演奏会

科目名	リズミックトレーニングI （前） ［月4］						
代表教員	松山　修	授業コード	GE594100	科目コード	GE5941	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

リズムは音楽に欠くことのできない大切な要素の１つである。このクラスでは、１年を通してリズム全般について学ぶ。

2．授業概要

「リズミックトレーニングI」では基本的なリズム譜の読み方、書き方、そして聞き取り。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業でできなかったことは必ず復習。
課題は提出期限厳守。

4．成績評価の方法及び基準

授業内に実施する試験、平常点（課題提出）、授業への参加姿勢を総合的に評価して判定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。随時プリントを配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な理由がない限り、「リズミックトレーニングII」は「リズミックトレーニングI」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	学生のレベルを知る為の簡単な模擬試験
2	全、２分、４分、８分音符の読み、及び聞き取り①
3	全、２分、４分、８分音符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
4	８分音符の譜面のSwing読み及び聞き取り①
5	８分音符の譜面のSwing読み及び聞き取り① （CDからの様々なリズムの聞き取り）
6	Music Notationとタイ①
7	Music Notationとタイ②
8	１６分音符の読み、及び聞き取り①
9	１６分音符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
10	３連符の読み、及び聞き取り①
11	３連符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
12	１６分、３連符等、総合リズムを用いた曲の作曲
13	リズムの Duet曲の演奏
14	Final Project 発表会
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	リズミックトレーニングII （後） ［月4］						
代表教員	松山　修	授業コード	GE594200	科目コード	GE5942	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「リズミックトレーニングI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

リズムは音楽に欠くことのできない大切な要素の１つである。このクラスでは、１年を通してリズム全般について学ぶ。

2．授業概要

「リズミックトレーニングII」では変拍子、ポリリズム、リズムアンサンブルと世界の様々なリズムやグルーヴについても触れる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業でできなかったことは必ず復習。
課題は提出期限厳守。

4．成績評価の方法及び基準

授業内に実施する試験、平常点（課題提出）、授業への参加姿勢を総合的に評価して判定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。随時プリントを配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な理由がない限り、「リズミックトレーニングII」は「リズミックトレーニングI」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	１６分、３連符等、総合リズムの読み、及び聞き取り①
2	１６分、３連符等、総合リズムの読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
3	３拍子
4	６及び１２拍子
5	５拍子
6	７拍子
7	サンバやマンボ等の民族音楽のリズムについての学習及びリズムアンサンブル①（CDからの聞き取りも含む。）
8	サンバやマンボ等の民族音楽のリズムについての学習及びリズムアンサンブル②
9	２拍３連、４拍３連、５拍４連符
10	ダブル、ハーフをはじめとする、タイムモジュレーション①
11	ダブル、ハーフをはじめとする、タイムモジュレーション②
12	ポリリズム①
13	ポリリズム②
14	Final Project発表会
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スタジオ・アレンジング　（後）［木3］						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GE594500	科目コード	GE5945	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズのコンセプトを用いながらも、より幅広いジャンル、ストリングスを含む楽器編成に対応するアレンジを作ることができるようにする。またそのアレンジによるアンサンブルをより高い音楽性と共に仕上げることができるようにする。

２．授業概要

ジャズのコンセプトをベースにした、スタジオ・アレンジングの実践。音の最終責任をアレンジャーが負うという立場から、より結果が明確なスタジオ録音を実際に行う。ストリングス編曲法、指揮法もあわせて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アレンジャーが曲を仕上げるという立ち場は、演奏者に対して、十分すぎるぐらいの音楽に対する見識を要求されます。日頃から良い音楽（とくに映画音楽を推奨）を聴き、より洗練されたイメージを獲得することにより、現場で音にすることができるよう、努力できることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

ファイナル・プロジェクト＝９パート程度の編曲と演奏の録音ディレクション（評価の６０％）
学習態度（評価の３０％）
課題提出（評価の１０％）
筆記試験、レポートなし。
スコアを完全な形で期限までに提出できなかった場合は単位修得できません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

管弦楽法（オーケストレーション）に関する書籍全般

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音出し作業（録音）の時間的制約から、実際にスタジオで録音できるのは最大5名です。この5名は第9コマ目（12月）に提出された最終スコアの評価順で決定します。ただし、スケジュール通りに完成されたスコアが提出され、授業態度（録音日の出席は全員必須）が良ければ、録音メンバーに選ばれなくても単位評価を得ることはできます。
編曲作業は、授業時間以外に相当な量にのぼることを自覚しなければなりません。最後まで質の高いスコアを目指せる学生であることが条件です。
録音スケジュールが期末にまとめて入るので、発表される授業スケジュールにじゅうぶん注意して下さい。

授業計画	
	［半期］
1	科目の説明と導入 スタジオにおけるアレンジャーの役割
2	スタジオ録音に関する知識と全体書法
3	弦楽器法とジャズ・ポピュラーにおける書法
4	弦楽カルテットによる実際の音出し
5	スタジオ進行と仕切り方
6	楽曲・編成・メンバーの策定とアーティスト・マネジメント
7	ジャズ・ポップス系音楽の指揮法
8	スコア提出と確認・修正
9	最終スコア／パート譜のチェック
10	アレンジの音出し（リハーサル）と録音1
11	アレンジの音出し（リハーサル）と録音2
12	アレンジの音出し（リハーサル）と録音3
13	アレンジの音出し（リハーサル）と録音4
14	アレンジの音出し（リハーサル）と録音5
15	アレンジの音出し（リハーサル）と録音6 録音を終えての反省

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄﾞ･ｱﾚﾝｼﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ6 （前） ［木2］							
代表教員	松本　治	授業コード	GE594600	科目コード	GE5946	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ホーン・アレンジIII（６～８Ｂｒａｓｓ）」迄の講座で学んだ知識を基に、大編成（ビッグバンド）アンサンブルのアレンジに取り組む

２．授業概要

大編成に対応するヴォイシングの基礎を学び、有名作家の作品をアナライズすることで知識を生かす方法を身につける

３．授業時間外の学習（予習復習について）

5&5/7&5による小課題提出。8&5＋リズムセクションによるファイナル・プロジェクトの音出し

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
5&5/7&5による課題提出と、中間音出し（それぞれ評価の15%）
ファイナル・プロジェクトの課題提出と音出し（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

今までに学習したjazz harmonyやVoicinng法の復習をしてください、そして　多くのビッグバンド作品を聴いておきましょう。

授業計画	
	［半期］ メロディーの分解～各パートに割り振ることで行うことによる再構成、５＆５、７＆５、８＆５のライティング、ビッグバンド有名作品のアナライズ
1	メロディック・サブディヴィジョン
2	５＆５ライティング（説明）
3	５＆５ライティング（作成）
4	７＆５ライティング（説明）
5	７＆５ライティング（作成）
6	８＆５ライティング（説明）
7	８＆５ライティング（作成）
8	有名作家による作品のアナライズ
9	どのようにアレンジするのか、リズムを考える
10	どのようにアレンジするのか、構成を考える
11	スケッチを書くために必要なこと
12	スケッチの作成
13	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
14	スコアを書いてみよう
15	スコアのチェック

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1 （後） ［木2］Aクラス							
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE5947A0	科目コード	GE5947	期間	半期	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

1．主題・到達目標

音楽的な発想を他の演奏家に正確に伝えるためには各楽器の個性を掌握した上で、それぞれの楽器にとって判り易い譜面を作成できることが必要です。
この講座ではメディアム・アンサンブルに多用される楽器について理解を深めると同時に、各楽器に対応した記譜法を身につけます。

2．授業概要

正しい記譜を学ぶ。様々な楽譜の種類と役割を理解する。
リズム楽器（ドラムス、ベース、ギター、鍵盤楽器）、および金管楽器（トランペット、ドロンボーン）、木管楽器（アルト、テナー、バリトンの各サックス）の楽器法と記譜法。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目ごとに出題される課題。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度及び課題達成について、到達目標に対し80%以上修得が認められる場合をAとし、単位修得には60%以上が必要。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽家・音楽教育者にとって必要な知識を習得するための講座です。基本的に一回の授業でひとつの楽器について学んでいくので、欠席をするとその楽器についての知識を持たないまま先に進むことになります。まずは出席すること、そして課題提出を着実にこなしていくことが大切です。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／楽譜の決まりごと
2	正しい符割り
3	いろいろな楽譜（リードシート、スコア、パート譜、マスターリズム譜）
4	リズムセクションの楽器法と記譜法：ドラムス
5	リズムセクションの楽器法と記譜法：ベース
6	リズムセクションの楽器法と記譜法：ギター
7	リズムセクションの楽器法と記譜法：鍵盤楽器
8	金管楽器の楽器法と記譜法：トランペット
9	金管楽器の楽器法と記譜法：トロンボーン
10	木管楽器の楽器法と記譜法：アルトサックス
11	木管楽器の楽器法と記譜法：テナーサックス、バリトンサックス
12	トランスポーズ・ドリル１
13	トランスポーズ・ドリル２
14	トランスポーズ・ドリル３
15	まとめのテスト

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1 （前） ［火4］Bクラス							
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE5947B0	科目コード	GE5947	期間	半期	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

1．主題・到達目標

音楽的な発想を他の演奏家に正確に伝えるためには各楽器の個性を掌握した上で、それぞれの楽器にとって判り易い譜面を作成できることが必要です。

この講座ではメディアム・アンサンブルに多用される楽器について理解を深めると同時に、各楽器に対応した記譜法を身につけます。

2．授業概要

正しい記譜を学ぶ。様々な楽譜の種類と役割を理解する。
リズム楽器（ドラムス、ベース、ギター、鍵盤楽器）、および金管楽器（トランペット、ドロンボーン）、木管楽器（アルト、テナー、バリトンの各サックス）の楽器法と記譜法。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目ごとに出題される課題。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度及び課題達成について、到達目標に対し80%以上修得が認められる場合をAとし、単位修得には60%以上が必要。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽家・音楽教育者にとって必要な知識を習得するための講座です。基本的に一回の授業でひとつの楽器について学んでいくので、欠席をするとその楽器についての知識を持たないまま先に進むことになります。まずは出席すること、そして課題提出を着実にこなしていくことが大切です。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／楽譜の決まりごと
2	正しい符割り
3	いろいろな楽譜（リードシート、スコア、パート譜、マスターリズム譜）
4	リズムセクションの楽器法と記譜法：ドラムス
5	リズムセクションの楽器法と記譜法：ベース
6	リズムセクションの楽器法と記譜法：ギター
7	リズムセクションの楽器法と記譜法：鍵盤楽器
8	金管楽器の楽器法と記譜法：トランペット
9	金管楽器の楽器法と記譜法：トロンボーン
10	木管楽器の楽器法と記譜法：アルトサックス
11	木管楽器の楽器法と記譜法：テナーサックス、バリトンサックス
12	トランスポーズ・ドリル１
13	トランスポーズ・ドリル２
14	トランスポーズ・ドリル３
15	まとめのテスト

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スタイルスタディＡ　（前）　[木3]						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GE594800	科目コード	GE5948	期間	半期（偶数
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズ・ポピュラー(コンテンポラリー)系の編曲技術習得において、多種多様に存在するスタイルをどのように表現あるいはスコア・ライティングしていくかという問題は非常に重要である。これは1つには、ジャズが多種多様なリズムやスタイルを受け入れることの できるコンセプトを持っているからであり、コアなジャズから広がりを持つ音楽にその方向が向いたとき、顕著に顕れる課題となる。 そしていま1つは、インプロヴァイズ(即興)を主体とする音楽においては、その音楽表現が演奏者に任される部分が少なからず存在し、 アレンジを行う上で、アレンジャーが演奏者との関係を無視するわけにはいかない事情がある。アレンジャーは様々なスタイルにつ いて、楽器法・奏法を含めた表現を、具体的に記譜ないしは現場の指示として行っていかなければならないのである。

本講では、さまざまなスタイルについて、オーディオ・ビジュアルを多用し、あるいは実際の演奏者に講義に参加してもらうことで、学習者がより具体的に各スタイルを理解できるようにする。 履修者がさまざまなスタイルを自分の意図に沿って表現(記譜等)し、演奏者に伝達、現場で修正できることを第1の到達目標と する。その上で、より繊細かつ独自のスタイル(楽器の選択も含めればオーケストレーションの一部)を創造して、アレンジの重要な 一要素に価値を与えることができるようになることが最終到達目標である。

２．授業概要

スタイル・スタディAでは、とくにドラムとベースのパターンを主体としたスタイルについて主に学ぶ。各スタイル修得のために、オーディオ・ビジュアルによる基本リズムの学習を行う。学習したスタイルを書でリード・シートのテーマ部程度のアレンジを行い、その結果を音出しの形でフィードバックする。これ（ドラムとベース）以外に、各履修生が興味あるスタイルについてゼミ発表を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

数多あるスタイルの修得は、授業時間中だけの見聞ではとても済まない。講義で習った音楽の聴き方を踏まえたリスニングをすること、出された課題をこなす以外に、普段からさまざまなスタイルに興味を持つ姿勢が必要とされます。

４．成績評価の方法及び基準

授業第14回目に行うテスト40%、小課題としての簡単なアレンジとゼミ発表に対する評価40%。授業態度の評価20%を基本とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

大学用意の各種スタイルDVDとその譜面(学生に映像資料は配付されない)を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

手元に資料を与えられて満足してしまうと、スタイルの学習が不十分なままで終わってしまいます。そのスタイルを自分のものとして確実に身につけるためには、総ての楽器がどのように演奏されるのかを記憶し、詳細にイメージできる必要がある。少なくともその姿勢で臨まなければ、履修の意味はありません。
さまざまなスタイルに精通したドラム学生には学習効果が必ずしも高くない可能性があるので、履修の判断には気をつけて下さい。

授業計画	
	［半期］
1	スタイル学習の重要性と修得の仕方について
2	スイング～サンバの学習
3	スイング～サンバのアレンジ音出し
4	学生によるゼミ発表1
5	中南米系①
6	中南米系①のアレンジ音出し
7	学生によるゼミ発表2
8	中南米系②
9	中南米系②のアレンジ音出し
10	学生によるゼミ発表3
11	その他の国／無国籍
12	その他の国／無国籍のアレンジ音出し
13	学生によるゼミ発表4
14	テスト
15	まとめと復習

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズフレージング入門 （後） ［水4］						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE597700	科目コード	GE5977	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

あまりジャズに親しんだことのないレベルのプレイヤーに対してジャズにおけるフレージングの根本的な考え方、その可能性をなるべく平易に教授する。

２．授業概要

【授業の進め方】
予め学生にフレージングの譜面をテキストとして渡し、講師が音源（カラオケ）などを使って様々なフレージングを実際に弾いてみせる。考え方を教授した次の回の授業で、学生にも実際に演奏してもらう。また学生が作った実際の曲のソロ譜面をチェックし、添削する。
【基本授業内容】
（１）IIm7-V7-IM-VII７（逆循環進行）を素材として様々なアイディアでフレージングを練習する。
（２）（１）の考え方を使って実際の曲のソロを作る（作れなければアドリブソロはできないので）。これを学生への課題とする予定。
（３）より高度なフレージングのアイディアについて。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で説明したアイディアを使ってフレージングを考えるのが最も学生にとって効果的な復習である。それが次回の授業のセッションへの予習となる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
課題提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	授業の進み方についてのオリエンテーション。まずジャズのフレージングはどんな考え方で行われているか、どのような発想法があるのか、その概要、考え方の変遷、歴史的経緯などをいくつかの音源を視聴しながら大まかに解説。スケール（モード）的アプローチ、コード的アプローチの簡単な説明。その後、最も基本的なスケール的アプローチであるブルーノートペンタトニックスケールを使ったブルージーなフレージングを解説。
2	スケール的アプローチの第２回。メジャーペンタトニックを加えて幅を拡げる。ブルーススケールについて解説。
3	コード的アプローチを導入。IV-V-Iのトライアドでのフレージング練習。素材はIIm７-V７-IM-VII７（逆循環進行）。まず、コード進行のサウンドを知るためにアルペジオでフレージング。第３～７回までは基礎編。逆循環進行を使ってアイディアを解説。
4	コード的アプローチの初歩的なアイディア。トーナリティースケール（メジャースケール）のみ使ってサブドミナント、トニックのフレージングを弾き分ける練習。
5	ノンコードトーンも使ったサブドミナント、トニックのフレージングの練習。ダブルクロマチックアプローチなど経過音の使い方などについて解説。
6	ドミナントモーションのフレージング練習
7	総まとめとして、IIm7-V7-IM、IM-VI7-IIm7のフレージングなどを解説。いままでのすべてのアイディアを使って逆循環進行でのフレージング練習。ここまでの内容で、かなりモダンジャズ的なフレージングのアイディアは理解できる。
8	この回から応用編に入る。いままでのアイディアを使って実際の楽曲のフレージングを考える。まずは「Satin Doll」でのフレージング。
9	「Blues」でのフレージング。
10	「Softly As In A Morning Sunrise」でのフレージング。マイナーキー曲でのフレージングを考察。トニックマイナーやディミニッシュ系フレージング、IIm7(b5)-V7-Imのフレージングなどを解説。
11	「So What」でのフレージング。モード系楽曲でのフレージング解説。
12	フレージングの考え方総まとめ。頻出コードとそれに対するフレージングの考え方を説明。
13	実際の楽曲のソロを音源を譜面と照らし合わせて聴く。ソロ分析と解説。
14	フレージングのリズム的要因を考察。ポリリズムやシンコペーションの練習。
15	総まとめ演習として、実際の楽曲におけるソロを１コーラス時間内に書き、譜面を提出。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ハウトゥインプロヴァイズ （前） ［月2］						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE597900	科目コード	GE5979	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズのアドリブをやる時に必要な知識（知っておいた方が良い事）を学ぶ。

２．授業概要

インプロヴィゼイションするときに使う様々な道具、例えばコード、スケール、リズム、テンション、ペンタトニック、メロディックマイナー、アッパーストラクチャー等、それらの道具を使ってフレーズを作ったり、練習方法を考えたりする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業の度に次回やっておくべきホームワークを与える。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％・課題と授業への参加姿勢を重視）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回授業内で配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロジェクト発表の日にはアンサンブルをするので楽器を持参すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ベース・ライン
3	コード・トーンその１（トライアド、７th コード）
4	コード・トーンその２（テトラ・トニック）
5	アプローチ・ノート
6	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）
7	モードの解釈その１（メージャー・スケール）
8	モードの解釈その２（メロディックマイナー・スケール）
9	モードの解釈その３（ハーモニック・マイナー・スケール）
10	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）
11	コード進行に対するスケールの使用法 その１
12	コード進行に対するスケールの使用法 その２
13	ペンタ・トニック・スケール
14	アウトサイドのアドリブ
15	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ハウトゥコンポーズ （後） ［月2］						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE598000	科目コード	GE5980	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲って何？そもそも「曲」って…
そういう疑問から始めます。簡単な作曲法を使って、とにかくなんか書いてみませんか？
名曲は千の迷曲から生まれる by道下和彦

２．授業概要

作曲という言葉にはいろんな意味がこめられていますが、英語のComposeとはそもそも「…を構成する、組み立てる」という意味です。組み立てる方法はさまざまですが、最終的に形になればいいんです。
作曲法を使って書く。
他の曲を参考にして（コピーして）書く。
鉛筆を転がして（偶然性を頼りにして）書く。
等々いろんな取り組み方があると思います。
このクラスでは既にあるオーソドックスな作曲法から、ユニークなものまでいろんなアプローチを紹介し、そしてそれを使ってオリジナルを作ってみる、そんな事をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業の度に次の回にやっておくべきホームワークを出す。

４．成績評価の方法及び基準

平常点及び授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作曲に興味が有る人。
作品発表のときに楽器持参（１５回のうち３回のみ）
履修制限は特にありませんが、あまりにも多いときは履修できない人もいるかもしれません。

授業計画	
	［半期］
1	授業内容説明と一回目（作曲の面白さ）
2	形式を学ぶ その１（ブルース）
3	形式を学ぶ その２（AABA & ABAC）
4	楽曲の形式の分析
5	作品発表（楽器持参）
6	簡単な作曲法 その１
7	簡単な作曲法 その２
8	コード進行とメロディ
9	モチーフの使い方
10	作品発表（楽器持参）
11	リズムという概念
12	インアンドアウト
13	コンテンポラリーなサウンド
14	著名な作曲家の話
15	作品発表（楽器持参）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	インプロビゼーションテクニック　（後）［金2］						
代表教員	多田　誠司	授業コード	GE598800	科目コード	GE5988	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インプロビゼーションのアプローチについて様々な角度から考察する。

２．授業概要

実際に演奏を通して実戦で役立つノウハウを習得する。必要に応じてソロを書くなどの課題を提出させることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

次週の予定曲について自分なりに調べたり練習しておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
演奏技術（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリント等を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

熱意のある学生を求む。インプロビゼーションという性格上、ボーカルはスキャット等を学びたい者を希望する。

授業計画	
	［半期］
1	「ケン・バーンズ・ジャズ Vol.1」鑑賞 ジャズの起源、インプロビゼーションの誕生などについて学ぶ。
2	テーマとアドリブの関係１ Blues 様々なブルースを時系列ならびにスタイル別に鑑賞し、その違いについて学ぶ。
3	テーマとアドリブの関係２ Blues 様々なブルースを時系列ならびにスタイル別に鑑賞し、その違いについて学ぶ。
4	アドリブの基本1 Autumn Leaves 色々なアーティストのAutumn Leavesを鑑賞することで、そのスタイルの違い、インプロビゼーションの方法論などについて学ぶ。
5	アドリブの基本２ Autumn Leavesなど 実際にAutumn Leavesを演奏してみる。コードに対するアプローチの仕方など基本的な部分について今一度検証してみる。
6	アドリブの基本３ Autumn Leavesなど Autumn Leavesを色々なKeyや拍子で演奏してみる。
7	アドリブの応用１ All The Things You Areなど 転調の激しい曲について、ていねいにアドリブしていく。練習法などについて議論する。
8	アドリブの応用２ All The Things You Areなど 前週の結果を踏まえてさらに完成度の高いものにしていく。
9	アドリブの応用３ Joy Springなど さらに転調の激しい曲でアップテンポのものをいかに展開して行くかを学ぶ。
10	アドリブの応用４ Joy Springなど 前週の結果を踏まえて、さらに完成度を高めて行く。
11	芸術的なアドリブ1 デュオでの演奏を通してコミュニケーションについて学ぶ。リズム、ハーモニー、メロディについて自分が責任を持って表現できることを目指す。
12	芸術的なアドリブ2 前週の結果を踏まえてさらに完成度の高いものを求めて行く。
13	芸術的なアドリブ３ Body&Soulなど バラードの表現方法を学ぶ。メロディをいかに歌うか、テンポをいかに守りながら演奏できるかを目指す。
14	芸術的なアドリブ４ Body&Soulなど 前週の結果を踏まえて、さらに芸術性の高いバラード演奏を目指して行く。
15	インプロビゼーションについてのまとめ これまでの授業を踏まえて、学んだことを再確認する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	サーヴェイ・オブ・ジャズ１　（前）［月2］						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE598900	科目コード	GE5989	期間	半期
担当教員	原　朋直、布川　俊樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズに限らず全ての音楽スタイルにおいて、音楽家がクリエイティブな活動をする上で、過去にあった音楽を深く感じ、理解することは必要不可欠である。
現存する音楽の中で過去の音楽とつながりのないものは皆無であり、この授業を通してジャズを中心とする音楽の発展の過程を学び、今の音楽を理解する基礎を得ることを目的とする。

２．授業概要

ジャズを中心とする音楽および演奏について、現在に至るまでのその発展の歴史をCD/DVDまたは参考文献を通して学ぶ。
３人の教員がが担当し、ギター、ピアノ、金管楽器についてそれぞれ違った視点から授業を行い、さまざまな角度からジャズという音楽に触れる。　トピックの中心となる楽器／音楽的観点は各教員により異なるため、授業計画を参照のこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内で視聴できる音楽には限りがあるため、授業のトピックに関係する音楽を授業外でも積極的に視聴し、その内容をより深く理解することが必要である。

４．成績評価の方法及び基準

3人の教員がそれぞれの5回目の授業終了時にレポートまたは試験により成績評価し、その平均が最終成績となる。各ブロック（1回～5回、6回～10回、11回～15回）ごとで成績評価を受けることが必須。
担当教員の授業スケジュールは変更になる場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献が講師から指示される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽は全ていろいろなスタイルが影響しあいながら発展してきたことを深く認識し、幅広いスタイルの中で音楽を理解しようという強い姿勢を望む。
全てのブロックで十分な出席率を保つこと。

授業計画	
	［半期］
1	蟻正行義：１回目－５回目ピアノ ラグタイム
2	ストライドピアノ
3	ビバップ
4	ポストビバップ
5	現代のピアニスト
6	布川俊樹：６回目－１０回目 ジャズ黎明期からビバップ時代まで
7	モダンジャズギタリストの巨匠（1）
8	モダンジャズギターの発展（2）
9	ジャズロック～フュージョン
10	コンテンポラリージャズギタリスト
11	原朋直：１１回目－１５回目金管楽器 金管楽器とジャズについて
12	デキシーランドジャズの金管楽器奏者
13	ビッグバンドジャズの金管楽器奏者
14	ビバップの金管楽器奏者
15	現代のジャズ金管楽器奏

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	サーヴェイ・オブ・ジャズ２　（後）　[火4]						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE599000	科目コード	GE5990	期間	半期
担当教員	佐藤　達哉、多田　誠司、有田　純弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズに限らず全ての音楽スタイルにおいて、音楽家がクリエイティブな活動をする上で、過去にあった音楽を深く感じ、理解することは必要不可欠である。
現存する音楽の中で過去の音楽とつながりのないものは皆無であり、この授業を通してジャズを中心とする音楽の発展の過程を学び、今の音楽を理解する基礎を得ることを目的とする。

２．授業概要

ジャズを中心とする音楽を、現在に至るまでのその発展の歴史をCD/DVDまたは参考文献を通して学ぶ。
3人の担当教員が各5回の授業をそれぞれ違った視点から行い、さまざまな角度からジャズという音楽に触れる。
トピックの中心となる楽器／音楽的観点は各教員により異なるため、授業計画を参照のこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内で視聴できる音楽には限りがあるため、授業のトピックに関係する音楽を授業外でも積極的に視聴し、その内容をより深く理解することが必要である。

４．成績評価の方法及び基準

3人の教員がそれぞれの5回目の授業終了時にレポートまたは試験により成績評価し、その平均が最終成績となる。各ブロック（1回～5回、6回～10回、11回～15回）ごとで成績評価を受けることが必須。
担当教員の授業スケジュールは変更になる場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。
参考文献が講師から指示される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽は全ていろいろなスタイルが影響しあいながら発展してきたことを深く認識し、幅広いスタイルの中で音楽を理解しようという強い姿勢を望む。
全てのブロックで十分な出席率を保つこと。

授業計画	
	［半期］
1	多田誠司：1回目-5回目 サックス ビバップ期のサックス奏者達
2	ジャズメッセンジャーズのサックス奏者達Vol.1
3	ジャズメッセンジャーズのサックス奏者達Vol.2
4	マイルスバンドのサックス奏者達Vol.1
5	マイルスバンドのサックス奏者達Vol.2
6	佐藤達哉：6回目-10回目 サックス ジョン・コルトレーン
7	スタン・ゲッツ
8	マイケル・ブレッカー
9	ブランフォード・マルサリス
10	ウエイン・ショーター
11	有田純弘：11回目-15回目 アコースティックミュージック アパラチア音楽～アメリカン・ルーツ・ミュージックの原点
12	ブルーグラス・ミュージックの改革
13	ジャンゴ・ラインハルトのジプシージャズ
14	80年代のニュー・アコースティック・ムーヴメント
15	アメリカーナ音楽～現代のアコースティック・シーン事情

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽曲研究／和声学研究　[月3]						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GE613100	科目コード	GE6131	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・楽曲の基本的な形式（複合三部形式、フーガ形式、ソナタ形式など）や、和音（音楽分析基礎講座や和声学での学習）などの理論的側面についての理解を深める。
・その上で、実際の楽曲における「非理論的側面」に関する考察、研究を行うことにより、総合的に作曲家の意図を理解できるようになる。

2．授業概要

・和声学での学習内容と、実際の楽曲中に用いられている和音連結に見られる相違点について学ぶ。
（限定進行音、連続５度、連続８度、増音程などの禁則、和声学で用いられない和音や進行など）
・楽式などで説明される基本的な形式（ソナタ形式を中心とする）と、実際の楽曲中に見られる例外的な応用について、調性のあり方を中心に学ぶ。
・音楽分析基礎講座で学習した基本的な非和声音に加え、実際の楽曲中に用いられるより複雑な非和声音の使われ方とその解釈ついて学ぶ。
・以上の点をより理解するために、実際の楽曲を応用した和声課題を実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・楽曲は、授業で一度、一部分に接しただけでは到底全体を理解することはできない。
そのため同じ楽曲を繰り返し取り上げる場合もあるが、原則として図書館に資料がある作品を扱うので、楽譜を用意して全曲を聴いておくこと。
・授業内容を確認するため、必要な部分を中心に改めて聴き直すこと。その際、異なる演奏家のものを聴くことは、新たな発見をもたらすことある効果的な方法である。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
・授業への取り組み方、課題の実施状況などについて評価する。
・欠席、遅刻、私語、居眠り、その他授業態度に問題がある場合は、平常点において考慮する。

学年末試験（評価の50%）
・授業で学習した内容についての理解度、また扱った楽曲についての把握度などについて問う。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・モーツァルト：「交響曲第４０番ト短調K.550」のスコア。
・ドビュッシー：「牧神の午後への前奏曲」のスコア。（以上、出版社は特に問わない）
・その他　必要な教材があれば、その都度指示する。
・必要最低限の楽譜は必要に応じて配布、あるいは板書するが、いずれもごく一部分になるので、なるべく各自で準備すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「前提科目」は上記の通りだが、少なくとも「和声学Ⅲ」（属九、ドッペルドミナント等）まで履修した者（成績は問わない）、または履修しようと考えている者が望ましい。
・授業では、「和声学Ⅳ、Ⅴ」に関する内容についても含まれることは言うまでもないので、基本的な知識が必要である。
・しかし何よりもまず、楽曲に対する好奇心や興味を持って臨むことが最も重要である。
・３分の２以上の出席が無い学生（遅刻や早退は３回で欠席１回となる）は、試験を受けても単位認定は行わない。

授業計画	
	［前期］研究に関する基礎
1	旋律、和声と調の関係（1） 「運命」はハ短調で扉をたたくのか
2	旋律、和声と調の関係（2） 「グレート」な交響曲は単旋律で始まる~解説編
3	旋律、和声と調の関係（3） 「グレート」な交響曲は単旋律で始まる～実施編
4	旋律、和声と調の関係（4） 「展覧会の絵」は誰が観ているのか
5	旋律、和声と調の関係（5） 踊れない、終われない「マズルカ」
6	旋律、和声と調の関係（6） 「トリスタンとイゾルデ」恋の行方
7	長調と短調について（1） 「ト短調」の明と暗～短調なのか
8	長調と短調について（2） 「ト短調」の明と暗～長調なのか
9	生誕１００年＝バーンスタインによる、没後１００年＝ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」のアナリーゼについて考える（1）～和声について
10	生誕１００年＝バーンスタインによる、没後１００年＝ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」のアナリーゼについて考える（2）～調性について
11	借用和音（1） 「喜びの歌」どこで喜べるか～解説編
12	借用和音（2） 「喜びの歌」どこで喜べるか～実施編
13	禁則について（1） 導かれない「レクイエム」
14	禁則について（2） 対立か、融和か、「ウエストサイド物語」～対立編
15	禁則について（3） 対立か、融和か、「ウエストサイド物語」～融和編

授業計画	
	[後期]研究に関する応用
1	ソナタ形式の和声学的考察（1） 「易しいソナタ」は簡易なソナタか
2	ソナタ形式の和声学的考察（2） 「ワルトシュタイン」氏はどこへ行く
3	ソナタ形式の和声学的考察（3） 個性輝く「ホ短調」～メンデルスゾーンとブラームス
4	ソナタ形式の和声学的考察（4） 個性輝く「ホ短調」～チャイコフスキーとドヴォルザーク
5	ソナタ形式の和声学的考察（5） 「七年目の浮気」と「逢引」発端のハーモニー
6	ソナタ形式の和声学的考察（6） 「七年目の浮気」と「逢引」展開はロマンチックか
7	ソナタ形式の和声学的考察（7） 「七年目の浮気」と「逢引」元のさやへの収まり方
8	和声学と対位法（1） 「親方歌手」恋の手ほどき～役者は一度に現れない
9	和声学と対位法（2） 「親方歌手」恋の手ほどき～絡み合う物語
10	和声学と対位法（3） 「親方歌手」恋の手ほどき～物語がまとまる時
11	和声学と対位法（4） 「ジュピター」神の技
12	ソナタ形式総括（1） 「ローマの休日」の過ごし方～逃げ出す
13	ソナタ形式総括（2） 「ローマの休日」の過ごし方～巡る
14	ソナタ形式総括（3） 「ローマの休日」の過ごし方～目覚める
15	終止について 「冗談」で終われるか

科目名	パイプオルガン実習　（集）						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	GE663200	科目コード	GE6632	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

パイプオルガンは、電子オルガンのアイディアの基となった楽器であり、同じように複数の手鍵盤と足鍵盤を持ち、様々な音色を持っています。しかし、その発音原理は全く異なり、パイプオルガンは、管楽器（笛）の集合体です。本講座ではパイプオルガンの構造・歴史を学び、また演奏を通して、パイプオルガンという楽器を体験します。

2．授業概要

・オルガン奏法（レガート奏法、両足を用いるペダル奏法、アーティキレーションの付け方など）の実習。
・パイプオルガンの構造と、その歴史を学ぶ。
・オルガンのストップの種類と、その組み合わせ方（レジストレーション）を学ぶ。
・J.S.バッハがオルガンのために編曲したヴィヴァルディの「調和の霊感」を題材に、パイプオルガンでの編曲を体験する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業には必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い、及びレポート）（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

実習課題の楽譜は事前に配布する。
その他の資料は、授業内で配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

事前に配布する楽譜をよく練習してくること。また、講義期間中は、各自の積極的な参加姿勢を望む。

授業計画	
	［集中］
1	ガイダンス、体験
2	パイプオルガンの構造、歴史
3	レガート奏法の演習
4	ペダル奏法の演習
5	アーティキレーションの演習
6	ストップの種類
7	レジストレーションの実際、演習
8	前田ホールでの演奏
9	まとめ
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ギター奏法演習　［火4］						
代表教員	中根　康美	授業コード	GE664100	科目コード	GE6641	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初めてギターを手にする人のための講座です。
クラシックギターの基礎を学習し、メロディ、コードによる伴奏、簡単な独奏曲を弾けるようにします。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
グループレッスンにより、初歩からわかりやすく指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽器の修得には授業以外の練習が必要不可欠です。
出来れば１日１５分はギターに親しんでください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初めてギターを手にする学生を対象とします。
クラシックギター、足台、チューナーを各自用意すること。
アコースティック（フォーク）ギター、エレキギターでの受講は認めません。

授業計画	
	［前期］ ギターの持ち方から簡単な独奏曲と伴奏を学ぶ。
1	ガイダンス クラシックギターについて ギターの持ち方 調弦について
2	調弦のしかた 指番号と記号 ＣとＧ７のコード ハ長調のメロディ 「かっこう」「ちょうちょう」
3	CとG7のコード ハ長調のメロディ２
4	Ａm、Ｅのコード イ短調のメロディ
5	イ短調のメロディ Ａm-Ｄm-Ｅ７-Amのコード進行 「ボヘミアの歌」
6	Ｃ-Ｆ-Ｇ７-Ｃ、Ａm-Ｄm-Ｅ７-Ａmのコードを使ってメロディと伴奏１
7	Ｃ-Ｆ-Ｇ７-Ｃ、Ａm-Ｄm-Ｅ７-Ａmのコードを使ってメロディと伴奏2「Ｈａｐｐｙ　Ｂｉｒｔｈｄａｙ」
8	Ｃ-Ｆ-Ｇ７-Ｃ、Ａm-Ｄm-Ｅ７-Ａmのコードを使ってメロディと伴奏３
9	ト長調のメロディ G-C-Ｄ７-G、のコード進行 「バラのタンゴ」「波濤を越えて」
10	復習と応用１ 「帰省」「旅愁」
11	復習と応用2
12	復習と応用3
13	簡単な独奏曲を弾く。 カルリ「アンダンティーノ」
14	簡単な独奏曲を弾く2
15	前期のまとめ テスト

授業計画	
	［後期］ 前期で学んだことを応用し、色々な曲を弾いてみる。 クラシックギターの独奏曲を弾く。
1	後期の予定と説明 前期の復習
2	ホ短調のメロディ Em-Am-B7-Em、のコード進行
3	ホ短調のメロディ２ 「グリーンスリーブス」
4	復習と応用 Jポップを弾く。
5	復習と応用。 Jポップを弾く２
6	復習と応用。 Jポップを弾く３ dim（ディミニッシュ）コード アルペジオの練習
7	クラシックギターの独奏曲を弾く１ Jpopを弾く４
8	ククラシックギターの独奏曲を弾く2 ポピュラー、Jpopを弾く５
9	クラシックギターの独奏曲を弾く3 ポピュラー、Jpopを弾く６
10	クラシックギターの独奏曲を弾く4 ポピュラー、Jpopを弾く７
11	クリスマスソングを弾く1
12	クリスマスソングを弾く2
13	クリスマスソングを弾く３
14	発表会 テスト
15	発表会 テスト２

科目名	和楽器演習（箏）　[月5]						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE664400	科目コード	GE6644	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年学校教育現場や社会の様々な場で日本音楽が重視されて来ています。
本授業はそれに対応できることを目標とし、基本奏法から小中学生が演奏できる曲や、「さくら」「六段」などの教科書収載曲の演奏法を身につけます。さらには、楽器の扱いや、流派の相違など基礎的な知識を身につけ、古典や現代の箏曲の知見を深めることを目指しています。

２．授業概要

前期は基本奏法を中心に「さくら」や「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、後期は「六段」や「合奏曲」をしながら色々な奏法を身に付け、アンサンブルも楽しみたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む復習をする。希望者は楽器の購入も可能。楽器での奏法予習、復習が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の８０%）
学年末実技テスト（評価の２０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜：
プリントを配布します。
必要に応じて、楽譜を購入すること。
テキスト：
『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３ 箏をひいてみよう』現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は初回の授業で爪を購入すること。
〈１組 6,480円税込。各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本奏法１
3	基本奏法２
4	基本奏法３
5	基本奏法４
6	応用練習１
7	応用練習２
8	応用練習３
9	応用練習４
10	「六段」奏法説明
11	「六段」演奏練習１
12	「六段」演奏練習２
13	「簡単な合奏曲」練習１
14	「簡単な合奏曲」練習２
15	「簡単な合奏曲」練習３

授業計画	
	［後期］
1	「六段」復習１
2	「六段」復習２
3	「六段」復習３
4	「六段」復習４
5	「六段」復習５ 「合奏曲」奏法説明１
6	「合奏曲」奏法説明２
7	「合奏曲」奏法練習１
8	「合奏曲」奏法練習２
9	「合奏曲」奏法練習３
10	「合奏曲」奏法練習４
11	「合奏曲」合奏練習１
12	「合奏曲」合奏練習２
13	「合奏曲」合奏練習３
14	「合奏曲」合奏練習４
15	「合奏曲」合奏練習５

科目名	和楽器演習（三味線）　[火5]						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE664500	科目コード	GE6645	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）三味線の演奏法の学習。
（２）三味線奏法における五線譜・文化譜の学習。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽器を持っているものは演奏しての復習。
持っていないものは、楽譜をよむ復習。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題提出：CDを鑑賞してレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）

必ず購入すること。
授業時販売する。
レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は購入可能。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、楽器の扱い方、基本的な奏法
2	開放絃、楽譜の読み方
3	さくらさくら、荒城の月
4	運指
5	運指確認
6	運指とリズム
7	運指と音程
8	同音異絃
9	八分音符
10	繰り返し
11	ウラ拍
12	シンコペーション
13	付点音符
14	ハジキ奏法
15	ハジキ奏法確認

授業計画	
	［後期］
1	前期反復
2	スクイ奏法
3	スクイ奏法確認
4	メリーさんの羊
5	3拍子
6	ウチ
7	コキ
8	タイとスラー
9	応用練習
10	16分音符
11	付点八分音符
12	コカシ撥
13	特殊なスクイ
14	特殊なハジキ
15	特殊奏法

科目名	尺八奏法 （集） １，２限 Dクラス						
代表教員	山口 賢治	授業コード	GE6646DO	科目コード	GE6646	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

尺八の基本奏法を習得し、簡単な曲を演奏することを目標とする。
また、尺八の奏法を通じて他の管楽器への奏法や呼吸法の応用も検討する。

２．授業概要

尺八や、尺八を中心とする日本の音楽について知ってもらい、自分にとっての日本の音楽とは何かについて、考えてもらう機会をつくります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

今後の活動や勉強の中で尺八や尺八音楽について拘わることがあれば、講習で学んだことを活用してください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリント教材を用意する。参考文献については、授業の中で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は個人で用意してください。
練習用尺八は、現代邦楽研究所（C503）で￥6,000 円で販売しています。

授業計画	
	［集中］
1	（１）音の出し方 （２）尺八の構え方 （３）基本的な指運
2	（４）尺八の楽譜について （５）音程の作り方
3	（６）尺八特有の奏法や表現法 （７）小品の演奏
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	尺八奏法 （集） ３，４限 Eクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GE6646EO	科目コード	GE6646	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

尺八の基本奏法を習得し、簡単な曲を演奏することを目標とする。
また、尺八の奏法を通じて他の管楽器への奏法や呼吸法の応用も検討する。

２．授業概要

尺八や、尺八を中心とする日本の音楽について知ってもらい、自分にとっての日本の音楽とは何かについて、考えてもらう機会をつくります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

今後の活動や勉強の中で尺八や尺八音楽について拘わることがあれば、講習で学んだことを活用してください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリント教材を用意する。参考文献については、授業の中で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は個人で用意してください。
練習用尺八は、現代邦楽研究所（C503）で￥6,000 円で販売しています。

授業計画	
	［集中］
1	（１）音の出し方 （２）尺八の構え方 （３）基本的な指運
2	（４）尺八の楽譜について （５）音程の作り方
3	（６）尺八特有の奏法や表現法 （７）小品の演奏
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	篠笛奏法 （集） 1，2限 Fクラス						
代表教員	西川 浩平	授業コード	GE6647F0	科目コード	GE6647	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（GH・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

日本の祭囃子が聞こえてきたときに、笛の音がなぜか「ピーヒャララ」と聞こえ、郷愁をさそう響きであることに気がつく。フルートを聞くときには、決して「ピーヒャララ」とは聞こえてこない。我々の心の中に刻まれている日本の響きとは、どのような成り立ちを持つのであろうか。

雅楽、能楽、歌舞伎、祭りなど、日本に伝わる芸能の歴史に横笛は常に登場し、それぞれ独自の音楽が伝承されている。本講義では、実際に篠笛で音を出してもらいながら、日本音楽独特の表現の一端を体験し、それらを西洋音楽と比較しながら考えていく。実際に音を出してみることによって、はじめて納得できる部分があることを体験してもらいたい。

教職履修学生として、日本音楽のみならず、様々なジャンルの音楽に、積極的に触れてみる動機となればと考えている。

2．授業概要

篠笛のグループ・レッスンの形をとり、音を出しながら初歩の実技を進める。
三味線の弾き歌いなどとも合奏しながら、日本の音に親しむ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、講習後の復習、また日本音楽のみならず、広く他国の民族音楽にも興味を広げてもらうことを望む。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

配布するテキストを使用する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

篠笛クラスでは、楽器は個人持ちとする。プラスチック製の篠笛を個人でドミナントにて購入すること。七本調子「飛天」（￥1,800程度）

個人ですでに篠笛を持っている学生でも、七本調子（H-dur）（篠笛の頭の部分に漢数字で表示されている）の篠笛以外は、他の学生と調が揃わないので、プラスチックの篠笛を購入のこと。

授業計画	
	［集中］ 篠笛実技と講義
1	篠笛の持ち方、音の出し方 日本的に聞こえる奏法の秘密、解説と実技
2	音を伸ばす練習 唱歌（しょうが）の解説と実技
3	基礎練習、復習 三味線と共に合奏
4	総合練習 希望学生と講師による、簡単なデモンストレーション
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	篠笛奏法 （集） ３，４限 Gクラス						
代表教員	西川 浩平	授業コード	GE6647GO	科目コード	GE6647	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（GH・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本の祭囃子が聞こえてきたときに、笛の音がなぜか「ピーヒャララ」と聞こえ、郷愁をさそう響きであることに気がつく。フルートを聞くときには、決して「ピーヒャララ」とは聞こえてこない。我々の心の中に刻まれている日本の響きとは、どのような成り立ちを持つのであろうか。

雅楽、能楽、歌舞伎、祭りなど、日本に伝わる芸能の歴史に横笛は常に登場し、それぞれ独自の音楽が伝承されている。本講義では、実際に篠笛で音を出してもらいながら、日本音楽独特の表現の一端を体験し、それらを西洋音楽と比較しながら考えていく。実際に音を出してみることによって、はじめて納得できる部分があることを体験してもらいたい。

教職履修学生として、日本音楽のみならず、様々なジャンルの音楽に、積極的に触れてみる動機となればと考えている。

２．授業概要

篠笛のグループ・レッスンの形をとり、音を出しながら初歩の実技を進める。
三味線の弾き歌いなどとも合奏しながら、日本の音に親しむ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、講習後の復習、また日本音楽のみならず、広く他国の民族音楽にも興味を広げてもらうことを望む。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布するテキストを使用する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

篠笛クラスでは、楽器は個人持ちとする。プラスチック製の篠笛を個人でドミナントにて購入すること。七本調子「飛天」（￥1,800程度）

個人ですでに篠笛を持っている学生でも、七本調子（H-dur）（篠笛の頭の部分に漢数字で表示されている）の篠笛以外は、他の学生と調が揃わないので、プラスチックの篠笛を購入のこと。

授業計画	
	［集中］ 篠笛実技と講義
1	篠笛の持ち方、音の出し方 日本的に聞こえる奏法の秘密、解説と実技
2	音を伸ばす練習 唱歌（しょうが）の解説と実技
3	基礎練習、復習 三味線と共に合奏
4	総合練習 希望学生と講師による、簡単なデモンストレーション
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	箏奏法 （集） 1，2限　Hクラス						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE6648H0	科目コード	GE6648	期間	集中
担当教員	野澤　佐保子、現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

教育現場や、社会の様々な場面で対応出来る、箏に関する知識や演奏法を身に付ける。

2．授業概要

３日間で「さくら」「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、「六段の調」にもチャレンジします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む予習・復習をする。講習終了後も箏を弾く、聴く機会を設ける事が望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：C503室（現代邦楽研究所）にて販売中。
『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３ 箏をひいてみよう』現代邦楽研究所編（汐文社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は爪を購入すること。
〈１組6,480円税込、授業の初めに各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	箏に関する基礎知識 主に「さくら」を用いて基本奏法の説明・練習
2	基本奏法の復習と特殊奏法の練習 「さくら」「わらべ唄」「六段」など、学校でよく使われる曲の実践
3	前日までの曲の総まとめ
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	箏奏法 （集） 3，4限　Jクラス						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE6648J0	科目コード	GE6648	期間	集中
担当教員	野澤　佐保子、現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

教育現場や、社会の様々な場面で対応出来る、箏に関する知識や演奏法を身に付ける。

2．授業概要

３日間で「さくら」「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、「六段の調」にもチャレンジします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む予習・復習をする。講習終了後も箏を弾く、聴く機会を設ける事が望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：C503室（現代邦楽研究所）にて販売中。
『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３ 箏をひいてみよう』現代邦楽研究所編（汐文社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は爪を購入すること。
〈１組6,480円税込、授業の初めに各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	箏に関する基礎知識 主に「さくら」を用いて基本奏法の説明・練習
2	基本奏法の復習と特殊奏法の練習 「さくら」「わらべ唄」「六段」など、学校でよく使われる曲の実践
3	前日までの曲の総まとめ
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	三味線奏法　（集）１，２限　Kクラス						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE6650K0	科目コード	GE6650	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

三味線の扱い方や基本的な奏法をマスターした上で、演奏出来るようにする。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

購入したCDを聴いてのレポート（評価の30パーセント）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
購入したCDを聴いてのレポート（評価の30パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）

必ず購入すること。
授業時販売する。
レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修制限あり
貸出楽器あり

授業計画	
	［集中］
1	楽器の扱い方と基礎練習
2	基礎の復習
3	応用練習
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	三味線奏法　（集）３，４限　Lクラス						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE6650L0	科目コード	GE6650	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

三味線の扱い方や基本的な奏法をマスターした上で、演奏出来るようにする。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

購入したCDを聴いてのレポート（評価の30パーセント）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
購入したCDを聴いてのレポート（評価の30パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）

必ず購入すること。
授業時販売する。
レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修制限あり
貸出楽器あり

授業計画	
	［集中］
1	楽器の扱い方と基礎練習
2	基礎の復習
3	応用練習
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズ実習　（前）［木3］Pクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE6654P0	科目コード	GE6654	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

講義ではジャズの略史やスタイル、演奏システムなどに触れ、「音楽人」としての常識レベルの知識を身につける。
実演ではコードのしくみを学び、コードトーン→スケール→ブルースフレーズ→2・5・1フレーズによるアドリブに挑戦する。
リズムセクションはそれぞれの楽器の基本的なバッキング方法を学ぶ。
最終的にはブルースや2・5・1チェンジを基本とした曲で自由にアドリブができ、自主的にセッションを運営できるようにする。

２．授業概要

授業計画に沿って、アドリブやバッキングのメソッド，セッションの運営，ジャズアンサンブルのコツを学ぶ。なお、条件が整えば「ジャズコースライブ」に出演するので、後半はそれに向けての練習を中心に実習を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みやフレーズの暗記等の予習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実習の習熟度（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

少なくともジャズに強い関心と情熱を持っていることが条件となります。経験は問いません。
　１・２年生は、後期クラス
　３・４年生は、前期クラス
定員20名前後（履修希望者の楽器の偏りによって変化します）。履修希望者が20名を超える場合はポータルの「課題」によるレポートに選考を行います。ポータルのでの通知に気をつけてください。
なお、ボーカルパートも受け入れていますが、楽器主体の実習になるため、とくにボーカルの指導はありません。自主的に参加方法を工夫（できる楽器を持ってきて演奏する、フレーズをスキャットで歌ってみる、歌いたい曲を持ってくる etc）しないと、結局モチベーションが維持できなくなる例が多いです。

授業計画	
	［半期］
1	自己紹介 担当パートおよびセッティングの確認と打ち合わせ 「ジャズ」とは？　（略史、スタイルなどの講義）
2	コードネームのしくみ／コードバッキングの作り方
3	コードネームのしくみ／バッキングのつくりかた（基本）
4	バッキングの作り方（発展）　コードトーンを用いたアドリブ
5	コードトーン，スケール，ペンタトニックスケールを用いたアドリブを組み込んだセッションを完成させる
6	「ブルース」とは／ブルースのバッキング／コードトーンでブルースをアドリブしてみる。
7	ブルースフレーズを用いたアドリブ／ブルースフレーズとコードトーンをミックスしたアドリブ
8	「２・５・１」とは～コードやスケールを学ぶ
9	「２・５・１フレーズ」を学ぶ／コードトーンおよびスケールによるアドリブと組み合わせてソロをつくる
10	ブルース曲、２・５・１練習曲のアンサンブル部分の練習
11	上記曲にアドリブソロを組み込み、セッションを構成する
12	ビバップ・コード進行のブルース
13	セッションの進め方を学ぶ
14	自分たちでセッションを運営する
15	仕上げ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズ実習　（後）［木3］Qクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE6654QO	科目コード	GE6654	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

講義ではジャズの略史やスタイル、演奏システムなどに触れ、「音楽人」としての常識レベルの知識を身につける。
実演ではコードのしくみを学び、コードトーン→スケール→ブルースフレーズ→2・5・1フレーズによるアドリブに挑戦する。
リズムセクションはそれぞれの楽器の基本的なバッキング方法を学ぶ。
最終的にはブルースや2・5・1チェンジを基本とした曲で自由にアドリブができ、自主的にセッションを運営できるようにする。

２．授業概要

授業計画に沿って、アドリブやバッキングのメソッド，セッションの運営，ジャズアンサンブルのコツを学ぶ。なお、条件が整えば「ジャズコースライブ」に出演するので、後半はそれに向けての練習を中心に実習を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みやフレーズの暗記等の予習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実習の習熟度（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

少なくともジャズに強い関心と情熱を持っていることが条件となります。経験は問いません。
　１・２年生は、後期クラス
　３・４年生は、前期クラス
定員20名前後（履修希望者の楽器の偏りによって変化します）。履修希望者が20名を超える場合はポータルの「課題」によるレポートに選考を行います。ポータルのでの通知に気をつけてください。
なお、ボーカルパートも受け入れていますが、楽器主体の実習になるため、とくにボーカルの指導はありません。自主的に参加方法を工夫（できる楽器を持ってきて演奏する、フレーズをスキャットで歌ってみる、歌いたい曲を持ってくる etc）しないと、結局モチベーションが維持できなくなる例が多いです。

授業計画	
	［半期］
1	自己紹介 担当パートおよびセッティングの確認と打ち合わせ 「ジャズ」とは？　（略史、スタイルなどの講義）
2	コードネームのしくみ／コードバッキングの作り方
3	コードネームのしくみ／バッキングのつくりかた（基本）
4	バッキングの作り方（発展）　コードトーンを用いたアドリブ
5	コードトーン，スケール，ペンタトニックスケールを用いたアドリブを組み込んだセッションを完成させる
6	「ブルース」とは／ブルースのバッキング／コードトーンでブルースをアドリブしてみる。
7	ブルースフレーズを用いたアドリブ／ブルースフレーズとコードトーンをミックスしたアドリブ
8	「２・５・１」とは～コードやスケールを学ぶ
9	「２・５・１フレーズ」を学ぶ／コードトーンおよびスケールによるアドリブと組み合わせてソロをつくる
10	ブルース曲、２・５・１練習曲のアンサンブル部分の練習
11	上記曲にアドリブソロを組み込み、セッションを構成する
12	ビバップ・コード進行のブルース
13	セッションの進め方を学ぶ
14	自分たちでセッションを運営する
15	仕上げ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	コンピュータ楽譜浄書演習／記譜法概論　[月5]						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE665600	科目コード	GE6656	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

現在、様々な局面でコンピューターによるスコア制作が必要とされています。卒業後、もっとも需要のある仕事の一つと言っても良いでしょう。
また、手軽に伴奏譜を移調出来る様になる等プレイヤーにとっても身近に重宝されるスキルになりつつあります。この演習はFinale等のソフトを用い、コンピューターによる綺麗で見やすいスコアを制作出来るようになるのが目標です。

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

配布したプリントは授業後も熟読し、毎回の講義に持ってくること。
時間内に提出課題が終わらなかった場合、教室の開放時間などを利用して完成させること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主として担当教員が作成するテキストをもとに授業を進めます。その他必要な文献等については、授業の中でその都度紹介します。
（参考文献）
『Finale User’s Bible 2011/2012/2014』
五木 悠他 著
『フィナーレ2011実用全ガイド ～楽譜作成の
ヒントとテクニック・初心者から上級者まで』
スタイルノート楽譜制作部 著

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第一週のガイダンスに出席しなかった場合は履修不可。
遅刻は授業開始時より20分後までとし、それ以降の入室は原則として出席と認めません。
履修希望者が多数の場合、上の学年から順に受講することが出来ます。
基本的に専攻は問いませんが、ある程度読譜の出来る者、作曲コース、音楽・音響デザインコースの学生を優先します。
パソコンとFinale（浄書ソフト）を所有している者が望ましいですが、その限りではありません。
作曲コース以外の学生は「コンピュータ楽譜浄書演習基礎演習」「和声学I」「音楽分析基礎講座」及び「管弦楽概論」を履修済の者が望ましいです。
パソコンの使用にあたり、個々によって理解度の差があっても問題はありません。教員が一人一人個別に指導します。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	音符、発想記号の入力方法
3	変形図形、アーティキュレーションの入力方法
4	様々な編集方法とショートカット
5	各種イレギュラーな記号の入力
6	小節やパートのカスタマイズ
7	ピアノスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
8	ピアノスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
9	音部記号の変化
10	移調について
11	プレイバックやプラグインなどの付加機能
12	歌詞の入力
13	ボーカルスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
14	ボーカルスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
15	コードネームの入力

授業計画	
	［後期］
1	タブ譜の入力
2	ドラムスコアの入力
3	バンドスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
4	バンドスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
5	バランスの良いレイアウト
6	パート譜の作成
7	オーケストラスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
8	オーケストラスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
9	浄書困難とされるスコアの入力方法
10	MIDIデータを活用したスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
11	MIDIデータを活用したスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
12	スキャン画像を活用したスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
13	スキャン画像を活用したスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
14	楽譜浄書ソフトを使用した編曲 1確認と基礎的な入力方法
15	楽譜浄書ソフトを使用した編曲 2完成と効率的な編集方法

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　（集）金4-5						
代表教員	三原　善隆	授業コード	GE6668AO	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］
1	電子オルガンの概念（ヒストリー・３段鍵盤・音源構成・Feet等）
2	奏法（タッチ・ベース） 音色に伴う奏法（レガート奏法・ノンレガート奏法・ホリゾンタルタッチ等）
3	音色研究（音群・波形・バランス・定位等） 関連奏法
4	音色研究（音色Edit・エフェクトの概念等） 関連奏法
5	リズムプログラミング（リズムの理解・入力法・設定等） 関連奏法
6	楽器法まとめ（その他昨日研究等）
7	楽曲に対するオリジナル音色制作（レジストレーション・奏法）
8	作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　（集）金4-5						
代表教員	三原　善隆	授業コード	GE6668BO	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］
1	エレクトーンアレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル・）
2	エレクトーンアレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
3	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション１
4	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション２
5	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション３
6	エレクトーンアンサンブルアレンジ・コードプログレッション４
7	エレクトーンアンサンブルアレンジ・コードプログレッション５
8	作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ基礎演習　（前）［月3］Aクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE6672AO	科目コード	GE6672	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（SC・RP除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータによってコントロールする。
【到達目標】コンピュータを使ってシンセサイザーの音作りやプログラミング（打ち込み）を学ぶ。

２．授業概要

コンピュータ（Mac）を利用してMIDIデータのレコーディング及び、編集を行います。
その過程で、アレンジ（編曲）の基礎と楽器の基本的な役割を学んでいきます。
自分の専攻する以外の楽器や分野を知る事で、音楽や楽曲を多角的な視点で捉えられるようになります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

私たちが日頃から耳にする様々な「音」に対して、より注意深く耳を傾けて下さい。（音楽、自然音、効果音など）

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の４０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に板書、または資料配布します。
参考文献：『DTM打ち込みフレーズ制作技法』篠田元一監修（リットーミュージック）
DTMソフト（Logic Pro X関連）のリファレンスブック等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・機材の台数上、「履修希望学生多数の場合」は履修登録時に抽選で人数調整を行います。
・コンピュータやソフトの使い方に関しては初歩から教えますが、課題の資料として譜面（スコア）を取り扱うので、楽典レベルの読譜力は必要です。

授業計画	
	［半期］
1	演習内容の説明、DTMの概要について
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	ソフトウェア音源によるプログラミング１（録音）
4	ソフトウェア音源によるプログラミング２（編集）
5	ソフトウェア音源によるプログラミング３（ミックスダウン）
6	課題曲を使ったケーススタディ１（入力と編集）
7	課題曲を使ったケーススタディ２（音色作り）
8	課題曲を使ったケーススタディ３（エフェクトの基礎）
9	課題曲を使ったケーススタディ４（ミックスダウンとファイルフォーマットの基礎）
10	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
11	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
12	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
13	期末課題制作１
14	期末課題制作２
15	期末課題制作３（作品発表会）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ基礎演習　（後）［金3］Bクラス						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE6672B0	科目コード	GE6672	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（SC・RP除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータによってコントロールする。
【到達目標】コンピュータを使ってシンセサイザーの音作りやプログラミング（打ち込み）を学ぶ。

２．授業概要

コンピュータ（Mac）を利用してMIDIデータのレコーディング及び、編集を行います。
その過程で、アレンジ（編曲）の基礎と楽器の基本的な役割を学んでいきます。
自分の専攻する以外の楽器や分野を知る事で、音楽や楽曲を多角的な視点で捉えられるようになります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

私たちが日頃から耳にする様々な「音」に対して、より注意深く耳を傾けて下さい。（音楽、自然音、効果音など）

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の４０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に板書、または資料配布します。
参考文献：『DTM打ち込みフレーズ制作技法』篠田元一監修（リットーミュージック）
DTMソフト（Logic Pro X関連）のリファレンスブック等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・機材の台数上、「履修希望学生多数の場合」は履修登録時に抽選で人数調整を行います。
・コンピュータやソフトの使い方に関しては初歩から教えますが、課題の資料として譜面（スコア）を取り扱うので、楽典レベルの読譜力は必要です。

授業計画	
	［半期］
1	演習内容の説明、DTMの概要について
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	ソフトウェア音源によるプログラミング１（録音）
4	ソフトウェア音源によるプログラミング２（編集）
5	ソフトウェア音源によるプログラミング３（ミックスダウン）
6	課題曲を使ったケーススタディ１（入力と編集）
7	課題曲を使ったケーススタディ２（音色作り）
8	課題曲を使ったケーススタディ３（エフェクトの基礎）
9	課題曲を使ったケーススタディ４（ミックスダウンとファイルフォーマットの基礎）
10	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
11	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
12	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
13	期末課題制作１
14	期末課題制作２
15	期末課題制作３（作品発表会）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭプログラミング演習　［水5］						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE667300	科目コード	GE6673	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

シンセサイザーの音作りを通して「音」について考え、DTMにおける音楽の表現力を高める。

２．授業概要

シンセサイザーの音作りと、LOGICを使った打ち込み技術と音楽表現力の向上。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

身近にある音について常に興味を持つように心がける。
自分の音楽表現について考え、どのような表現をしたいか考える。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の20% ）
作品評価80%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者が多い場合は抽選とする。
初回の授業欠席者は原則として履修できない。
出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 音について考え、シンセサイザーの音作りを通して様々な音への可能性を探る。
1	音について考える
2	シンセサイザーの基礎
3	OSCについて
4	FILTERについて
5	EGとAMPについて
6	EGの他の機能への割当（OSC）
7	EGの他の機能への割当（FILTER１）
8	EGの他の機能への割当（FILTER２
9	EGを使った音色合成課題の実習１
10	EGを使った音色合成課題の実習２
11	LFOについて
12	LFOを使った音色合成課題の実習１
13	LFOを使った音色合成課題の実習２
14	自由課題の作成
15	作品提出と試聴

授業計画	
	［後期］ MIDIの基礎から、応用的な打ち込み技術を学ぶことで、技術の習得および学生それぞれの音楽表現に役立てられるようにする。
1	MIDIの流れや周辺機器について
2	リアルタイムレコーディング
3	ベロシティーやクオンタイズ等の基本的な機能について
4	コントローラーの活用１
5	コントローラーの活用２
6	ミキサーの活用
7	エフェクトの活用
8	課題の実習１
9	課題の実習と提出
10	自分の音楽表現として、どのようにDTMを活用するか考える。
11	作品制作１（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）
12	作品制作２（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）
13	作品制作３（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）
14	作品制作４（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）
15	作品提出

科目名	邦楽ワークショップ２～４　[水5]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE668500	科目コード	GE6685d	期間	通年
担当教員	吉原　佐知子、味府　美香、市川　香里						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	GH・GM：専門選択（各ｺｰｽ）全：専門選択（全ｺｰｽ共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

邦楽器もしくは日本の伝統音楽の方法論や要素を活用した音楽づくりワークショップを行う。様々な演習を通じて、知識と実践の両面から日本の伝統音楽やワークショップの手法を学ぶ。さらにワークショップとは何か、またその学校教育や社会教育における意味を知り、ワークショップ・リーダーとして必要な技術を身につける。

２．授業概要

箏、三味線、尺八などの邦楽器の初歩的な演奏技術を身に付け、主に邦楽器を使い、邦楽の音楽的な特徴をもとにした音楽づくりを行う。２年目以降の受講学生には自らワークショップリーダーとして計画立案からワークショップ実施までの機会を積極的に設ける。担当教員は複数教員により分担して行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

〈予習〉授業に関連のある邦楽作品を聴き、基本的な情報を得ると共に、作品に対する自分なりの見解をまとめる。
〈復習〉授業の振り返り、自分の専攻分野にフィードバックする。また、機会があればこの授業を得た経験を活かして学外でのワークショップ活動に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、課題、授業内での発表などで総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

邦楽ワークショップブログ
{http://blog.senzoku.ac.jp/hougaku/}
過去に行った授業や活動の記録を視聴、閲覧することができます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受動的な授業への参加ではなく、常に積極的に自分の音楽的な力を活かして講師と共に授業をつくっていく姿勢を求めます。邦楽器の演奏経験は不要。音楽づくりワークショップや日本の伝統音楽に興味関心があれば誰でも受講を歓迎します。特に教職免許取得検討者は受講することを勧めます。

授業計画	
	［前期］ 履修者の人数等により，授業内容変更の可能性あり。
1	授業概要説明。ワークショップ活動の意味と意義
2	身近なものを使って音楽づくり　入門
3	身近なものを使って音楽づくり　応用
4	打楽器による音楽づくり　入門
5	打楽器による音楽づくり　応用
6	打楽器による音楽づくり　まとめ
7	箏による音楽づくり　入門
8	箏による音楽づくり　応用
9	箏による音楽づくり　まとめ
10	三味線による音楽づくり　入門
11	三味線による音楽づくり　まとめ
12	尺八による音楽づくり　入門
13	尺八による音楽づくり　まとめ
14	箏、三味線、尺八による音楽づくり
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 履修者の人数等により，授業内容変更の可能性あり。
1	後期の授業についての概要説明
2	音楽づくりワークショップの歴史
3	ワークショップ計画の立て方、計画書の書き方について
4	ゲスト演奏家を招いての音楽づくりワークショップ
5	ゲスト作曲家を招いての音楽づくりワークショップ
6	ゲスト音楽教育研究家を招いての音楽づくりワークショップ
7	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ 入門
8	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ 応用
9	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ　まとめ
10	学生によるワークショップ実習1（複数年履修者）
11	学生によるワークショップ実習2（複数年履修者）
12	学生によるワークショップ実習3
13	学生によるワークショップ実習4
14	学生によるワークショップ実習5
15	後期のまとめ

科目名	コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎　（前）［金4］Pクラス						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE6688PO	科目コード	GE6688	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

浄書ソフトでの楽譜作成が一般的なものとなった現在、そのスキルは作編曲家にとってはもちろんのこと演奏家からのニーズも高まって来ている。この授業では楽譜浄書ソフトFinale（MacOS版）について初歩から学び、小編成アンサンブルのスコア・パート譜を出力できるまでのスキルの習得が目標である。

２．授業概要

Finaleの使い方について初歩からスタートする。五線の設定から始まり、単旋律の入力、和音の入力、複数パートの入力という具合に段階的に必要な知識を増やし、それに付随して必要となる記号やアーティキュレーション等の扱いも学ぶ。教員が説明をした後、実際にその作業を各自で行う演習の形態で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に習った操作方法のポイントやキーコマンド等を各自でメモを取り、次回の授業までに覚えて来ること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（80%）、課題提出（20%）

平常点は授業への参加状況と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
課題提出については提出された楽譜に対し、授業で取り上げた内容が実践できているかどうかで判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる内容については必要に応じてプリント等を配布する。自習用に書籍を購入したい場合は、OSやバージョンによって書籍が異なるので自身で選定ができない場合は教員に相談すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Finaleに関する知識は一切問わないが、本講座はPCの操作を一から学ぶ為の授業ではない為、MacOSの基本的な操作はすでに問題ない、もしくは簡単な説明のみで理解できる自信のある学生が望ましい。また、読譜のスキルは必須となる。PCの台数に限りがある為、履修希望人数が多い場合、履修制限を行う場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／Finaleの概要について
2	基本操作／五線の設定
3	音符と休符の入力方法
4	臨時記号／付点／連符／タイの入力方法
5	和音の入力方法とレイヤーの分け方
6	課題実施①　ここまでの内容を含んだ課題
7	アーティキュレーションと反復記号の入力方法
8	コードネームと歌詞の入力方法
9	アンサンブル楽譜の作成／移調楽器の扱いについて
10	レイアウトの調整方法／パート譜の作成方法
11	便利な機能／移調や楽曲構成の変更など
12	特殊な音符の入力方法
13	学年末課題実施 小編成サンサンブルのスコア作成
14	学年末課題実施 小編成サンサンブルのパート譜作成
15	学年末課題の仕上げと総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎　（後）　[金4] Qクラス						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE6688QO	科目コード	GE6688	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

浄書ソフトでの楽譜作成が一般的なものとなった現在、そのスキルは作編曲家にとってはもちろんのこと演奏家からのニーズも高まって来ている。この授業では楽譜浄書ソフトFinale（MacOS版）について初歩から学び、小編成アンサンブルのスコア・パート譜を出力できるまでのスキルの習得が目標である。

2．授業概要

Finaleの使い方について初歩からスタートする。五線の設定から始まり、単旋律の入力、和音の入力、複数パートの入力という具合に段階的に必要な知識を増やし、それに付随して必要となる記号やアーティキュレーション等の扱いも学ぶ。教員が説明をした後、実際にその作業を各自で行う演習の形態で授業を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に習った操作方法のポイントやキーコマンド等を各自でメモを取り、次回の授業までに覚えて来ること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（80%）、課題提出（20%）

平常点は授業への参加状況と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
課題提出については提出された楽譜に対し、授業で取り上げた内容が実践できているかどうかで判断する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる内容については必要に応じてプリント等を配布する。自習用に書籍を購入したい場合は、OSやバージョンによって書籍が異なるので自身で選定ができない場合は教員に相談すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Finaleに関する知識は一切問わないが、本講座はPCの操作を一から学ぶ為の授業ではない為、MacOSの基本的な操作はすでに問題ない、もしくは簡単な説明のみで理解できる自信のある学生が望ましい。また、読譜のスキルは必須となる。PCの台数に限りがある為、履修希望人数が多い場合、履修制限を行う場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／Finaleの概要について
2	基本操作／五線の設定
3	音符と休符の入力方法
4	臨時記号／付点／連符／タイの入力方法
5	和音の入力方法とレイヤーの分け方
6	課題実施①　ここまでの内容を含んだ課題
7	アーティキュレーションと反復記号の入力方法
8	コードネームと歌詞の入力方法
9	アンサンブル楽譜の作成／移調楽器の扱いについて
10	レイアウトの調整方法／パート譜の作成方法
11	便利な機能／移調や楽曲構成の変更など
12	特殊な音符の入力方法
13	学年末課題実施 小編成サンサンブルのスコア作成
14	学年末課題実施 小編成サンサンブルのパート譜作成
15	学年末課題の仕上げと総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論Ⅰ （前） ［木3］Aクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE6750A0	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ｉ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１） 様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２） 楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲0p.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2） 種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１） 概説
13	ソナタ形式（２） 提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論Ⅰ （前） ［木3］Bクラス						
代表教員	市川　景之	授業コード	GE6750B0	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ｉ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１） 様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２） 楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲0p.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2） 種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１） 概説
13	ソナタ形式（２） 提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論II （後） ［木3］Aクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE6751A0	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	ロマン派の和声について（１）　歌詞と和声の関わり Schumannの歌曲より
7	ロマン派の和声について（２） Mendelssohnの歌曲より
8	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
9	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式（３）　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派の作曲家の作品（ソナタ形式以外）
12	作曲家の表現方法―同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
13	楽曲分析と演奏についての考察（１） 古典派,ロマン派の管弦楽曲を中心に
14	楽曲分析と演奏についての考察（２） 近代の管弦楽曲を中心に
15	後期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論II （後） ［木3］Bクラス						
代表教員	市川　景之	授業コード	GE6751B0	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	ロマン派の和声について（１）　歌詞と和声の関わり Schumannの歌曲より
7	ロマン派の和声について（２） Mendelssohnの歌曲より
8	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
9	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式（３）　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派の作曲家の作品（ソナタ形式以外）
12	作曲家の表現方法―同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
13	楽曲分析と演奏についての考察（１） 古典派,ロマン派の管弦楽曲を中心に
14	楽曲分析と演奏についての考察（２） 近代の管弦楽曲を中心に
15	後期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	邦楽実習（謡曲） １～４　［金3］						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE675400	科目コード	GE6754d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

700年前室町時代に大成した総合芸術である『能』　。古典演劇とも言われる体現芸術である能における謡曲（声楽的側面）の基礎的歌唱法の技術と表現、あわせて仕舞（舞踊的側面）を学び、実際に一曲を通して稽古し、演じ、発表することにより日本固有の芸術である『能』に関する理解を深める。最終的には学生だけで能を演じる（囃子はプロに助演して頂きます）

２．授業概要

「能」という日本の伝統演劇の講義だけでなく体を通しての授業を展開する。実際に『能』を演じ、発表するため、実技が中心。腹筋を使って声を出す。体を使って型を知り、その上で能の演技、「間」とは何かなど、リズム理論など様々な角度から理解して行く内容。日本人としての感性を引き出して行く。
本年は高校の音楽の教科書にも取り上げられている平家物語に主題した能『敦盛』を取り上げ、実際に演じる所まで仕上げていく。
ここまで本格的に能について授業で学べるのは洗足学園音楽大学のみである。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものです。暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。
又一年の間に一回以上は能の公演を見に行き感想をレポート提出すること（公演のインフォメーションは授業にてします）

４．成績評価の方法及び基準

学期末および学年末実技試験、レポート（評価の５０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

観世流謡本その他〈初回の授業の際に指示する。〉

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻・私語は禁ずる。また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。
授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、なるべく坐りやすく、かつ動きやすい服装をすること。
授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
1	７００年前から続く古典演劇、能とは何か？歴史的側面、演劇的側面から学ぶ
2	例として数曲を取り上げ、総合芸術「能」への理解を深める。 能「敦盛」の映像を見る。構成を理解する。
3	実技実習…身体（声も）を通して能を知る。 発声・カマエ・ハコビ（実技） 「敦盛」の謡、型の実技実習
4	実技実習…基本の型の修得、発声（音質の違い） 「敦盛」の謡、型の実技実習 古典文学的側面から能「敦盛」の詞章を学ぶ
5	実技実習…型の連続性を学ぶ、能の発声から自分の声を知る 「敦盛」の謡、型の実技実習
6	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習
7	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習
8	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習・・・地謡を中心に
9	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 暗記度チェック
10	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 暗記度チェック
11	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 暗記度チェック 一曲を通す事を目標とする稽古。役と地謡をしっかり稽古する
12	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 暗記度チェック 一曲を通す事を目標とする稽古。役と地謡をしっかり稽古する
13	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 暗記度チェック 一曲を通す事を目標とする稽古。役と地謡をしっかり稽古する
14	実技実習 「敦盛」の謡、型の実技実習 役割を決めて一曲を通すことを目標とする
15	学期末ミニ発表会と反省会（チェック）

授業計画	
1	実技実習 「敦盛」上演に向けて具体的にそれぞれの役割を決定する。
2	実技実習 一曲を小段毎に分けながら、囃子（地拍子）と共に学ぶ。 各役に分かれて一曲を通して稽古する。・地謡を囃子と共に学ぶ。暗記を進める。
3	実技実習 一曲を小段毎に分けながら、囃子（地拍子）と共に学ぶ。 各役に分かれて一曲を通して稽古する。・地謡を囃子と共に学ぶ。暗記を進める。
4	実技実習 一曲を小段毎に分けながら、囃子（地拍子）と共に学ぶ。 各役に分かれて一曲を通して稽古する。・地謡を囃子と共に学ぶ。暗記を進める。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
5	実技実習 一曲を小段毎に分けながら、囃子（地拍子）と共に学ぶ。 各役に分かれて一曲を通して稽古する。・地謡を囃子と共に学ぶ。暗記を進める。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
6	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。ミスを無くす。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
7	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。細かい部分のミスも無くす。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
8	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。細かい部分のミスも無くす。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
9	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。細かい部分のミスも無くす。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
10	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。細かい部分のミスも無くす。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
11	実技実習 本番に向け何度も繰り返し稽古する。細かい部分のミスも無くす。戯曲への理解を深め、一曲を成り立たせる。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
12	実技実習 本番に向けての最終段階。細かい部分のミスも無くす。戯曲への理解を深め、一曲を成り立たせる。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。
13	下申合（リハーサル） 反省会
14	本申合 反省会
15	学年末発表会と一年間をふり返る。 実技を通して、声と体を使って稽古してきたこと、全員で演じた上で能をどのように捉えてきたか、そしてプロの舞台を鑑賞してのレポートを期日までに提出。

科目名	シンガーソングライター講座１～４　［水5］						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE676200	科目コード	GE6762d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業は、とにかく歌ものを作ることからプロデビューに適した作品の制作まで様々なシンガーソングライティングスキルの向上を目指します。
また制作だけではなくイベント運営、ディレクションなど作品を効果的に第三者へ伝える方法も勉強します。
演奏会実習からの移行科目につきその活動は多岐にわたり、授業時間外での学習に多くの時間を費やすことになります。
実習では全てのセクション（歌い手・作家・プレイヤー・スタッフ）が協同し、その経験を生かしてコンサートやメディアで自作曲を発表したり、更には音楽業界にアプローチすることが目標です。

２．授業概要

・既成曲の楽曲分析・歌ものの作曲法・楽曲の様々な発展（アレンジと演奏）・デモ音源制作の為のレクチャー
・各ユニットに分かれての楽曲制作実習・グループワーク・発表コンサートの企画と運営・履修生発案によるレクチャー、プロジェクト

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲課題の制作、リハーサルなどは主に授業時間外で行ってもらいます。
イベントスタッフのミーティングなど授業内で補いきれないものは補習を設けて行います。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
課題提出（評価の30%）
試験は行いません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

主として担当教員が作成するテキストをもとに授業を進めます。その他必要な文献等については、授業の中でその都度紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第一週のガイダンスに出席しなかった場合は履修不可。
出席登録されているにも関わらず「授業に参加していない」ことが発覚した場合には即不可判定。
履修希望生が多数の場合には人数制限を行います。
遅刻は授業開始時より10分後までとし、それ以降の入室は原則として出席と認めません。単年度評価ですが、引き続き次年度も履修することで4年間学ぶことが出来ます。課題提出はリードシートとデモ音源の形になります。したがって最低限ボイスレコーダー等の簡単な録音機器が必要となります。
プロ活動へのアウトプットとして作用するような内容になりますが、個々によって上達度の差があっても問題はありません。教員が一人一人個別に指導します。この授業ではコンスタントに音楽活動に参加することが求められています。また、積極的に意見交換を行い自発的に行動できる学生を望みます。個人的な仕事だけではなく企画、運営、雑務も活動に含みます。自分で歌わない人でも敏腕シンガーがこぞって集まってきますので依頼して歌ってもらいましょう。質問はこちらまで gsemiinfo@gmail.com

授業計画	
	授業計画はコンサート会場確保により前後することがあります。 また状況により講義内容がカスタマイズされることがあります。 毎回授業の終わりに希望者による楽曲発表があります。 有志によるコンサート等も企画されています。
1	ガイダンス
2	デモ曲制作レクチャー(楽曲分析、オリジナル曲への応用)
3	デモ曲制作レクチャー(コードワーク、メロディ)
4	デモ曲制作レクチャー(バッキング、ワンコーラス)
5	「春Sonic」オーディション
6	「春Sonic」本番
7	「春Sonic」反省会
8	「Summer Concert」準備（クレジット決定、各ユニットに別れてミーティング）
9	「Summer Concert」準備（ユニットに別れて楽曲基礎作成 ）
10	「Summer Concert」準備（ユニットに別れて楽曲作成完成）
11	「Summer Concert」オーディション
12	「Summer Concert」準備（アレンジ実習-クリシェなどの半音階進行-）
13	「Summer Concert」準備（アレンジ実習-アンサンブルの構築方法-）
14	「Summer Concert」本番
15	「Summer Concert」反省会、及び前期反省会

授業計画	
	［後期］
1	アレンジレクチャー（リハーモナイズ、抑揚）
2	演奏レクチャー（グルーヴ、サウンドメイク）
3	グループワーク(課題提示、グループ分け)
4	グループワーク(グループ学習プロット作り)
5	グループワーク(グループ学習資料完成)
6	グループワーク(プレゼンテーション前半グループ)
7	グループワーク(プレゼンテーション後半グループ)
8	「Xmas Concert」企画会議
9	「Xmas Concert」オーディション
10	「Xmas Concert」スタッフ説明クレジット決定
11	「Xmas Concert」スタッフワーク
12	「Xmas Concert」本番
13	「Xmas Concert」反省会
14	グレードアップレクチャー 転調について
15	講義の総括

科目名	現代邦楽作品研究１／現代作品研究１　［木4］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GE676900	科目コード	GE6769	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	GH、ほか全コース	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代邦楽作品について、おもな作曲家の作品を中心に理解を深める。現代邦楽コース学生にとっては、自らの教習、演奏活動において作品選びの参考となることを配慮する。

２．授業概要

作曲家ごとに、その主要作や作品誕生の背景をさぐる。音源、画像のあるものはできるだけ作品の鑑賞も行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特に指定はしないが、日常さまざまな音楽を聴き、現代邦楽作品についての関心を持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」平常点は授業への参加状況、課題の提出状況を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。ただし教室の定員に達した場合は、現代邦楽コースを優先とし、他の学生は上級生を優先とする。
出席を重視する。指定された課題の提出も怠らないこと。

授業計画	
	［前期］
1	はじめに　現代邦楽概説
2	日本音楽の流れと現代邦楽作品
3	新日本音楽について
4	宮城道雄1 初期作品と音楽界からの評価
5	宮城道雄2 楽器改良、童曲の創案
6	宮城道雄3 楽曲分析
7	宮城道雄4 音楽史的評価
8	中能島欣一1 戦前の作品
9	中能島欣一2 戦後の作品、古典編曲
10	杵屋正邦1 大編成合奏曲
11	杵屋正邦2 独奏曲、小編成曲
12	藤井凡大1 大編成曲、協奏曲
13	藤井凡大2 小編成曲、独奏曲
14	NHK邦楽育成会　その歴史と成果
15	伊福部昭

授業計画	
	［後期］
1	武満徹
2	三木稔1 初期作品と二十絃曲
3	三木稔2 後期作品、著作
4	長澤勝俊1 初期作品と日本音楽集団
5	長澤勝俊2 後期作品
6	沢井忠夫1 合奏曲
7	沢井忠夫2 独奏曲
8	山本邦山
9	牧野由多可
10	肥後一郎
11	小野衛
12	唯是震一
13	吉松隆
14	佐藤敏直
15	まとめ

科目名	現代邦楽作品研究２／現代作品研究２　［木4］							
代表教員	森重　行敏	授業コード	GE677000	科目コード	GE6770	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	GH、ほか全コース	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代邦楽作品について、おもな作曲家の作品を中心に理解を深める。現代邦楽コース学生にとっては、自らの教習、演奏活動において作品選びの参考となることを配慮する。

２．授業概要

作曲家ごとに、その主要作や作品誕生の背景をさぐる。音源、画像のあるものはできるだけ作品の鑑賞も行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特に指定はしないが、日常さまざまな音楽を聴き、現代邦楽作品についての関心を持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」平常点は授業への参加状況、課題の提出状況を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。ただし教室の定員に達した場合は、現代邦楽コースを優先とし、他の学生は上級生を優先とする。
出席を重視する。指定された課題の提出も怠らないこと。

授業計画	
	［前期］
1	はじめに　現代邦楽概説
2	日本音楽の流れと現代邦楽作品
3	新日本音楽について
4	宮城道雄1 初期作品と音楽界からの評価
5	宮城道雄2 楽器改良、童曲の創案
6	宮城道雄3 楽曲分析
7	宮城道雄4 音楽史的評価
8	中能島欣一1 戦前の作品
9	中能島欣一2 戦後の作品、古典編曲
10	杵屋正邦1 大編成合奏曲
11	杵屋正邦2 独奏曲、小編成曲
12	藤井凡大1 大編成曲、協奏曲
13	藤井凡大2 小編成曲、独奏曲
14	NHK邦楽育成会　その歴史と成果
15	伊福部昭

授業計画	
	［後期］
1	武満徹
2	三木稔1 初期作品と二十絃曲
3	三木稔2 後期作品、著作
4	長澤勝俊1 初期作品と日本音楽集団
5	長澤勝俊2 後期作品
6	沢井忠夫1 合奏曲
7	沢井忠夫2 独奏曲
8	山本邦山
9	牧野由多可
10	肥後一郎
11	小野衛
12	唯是震一
13	吉松隆
14	佐藤敏直
15	まとめ

科目名	ヴォイスアンサンブル１～４　［水2］（AS専用）						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE677100	科目コード	GE6771d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ASコース	科目分類	専門選択（ASコース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースでは「ポピュラー合唱」を毎年履修する事ができる。
この授業では、ポピュラー音楽における合唱（コーラス）を学ぶことを目的とする。
ヴォイスアンサンブル、つまり声によって創り出されるハーモニーの心地よさと響きのなかで、声にしか表現出来ない広がりと奥深さを体感し、ソロにはない魅力を知ってもらう。
ポピュラー音楽と言っても様々なジャンルがあるので、広く対応できる歌唱力の基礎を身につけることが大切であることは言うまでもなく、正しい発声、発音、腹式呼吸の重要性を確認しながら、多彩なスタイルの合唱、つまり斉唱、重唱、バックコーラスのスキルを身に付け、磨くことでポピュラー音楽の現場で通用するようになることを到達目標とする。
目標に到達することは容易ではないが、毎年異なる楽曲を取り上げていくので、続けて履修することで可能性を期待できる。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。
時にはグループに分かれて少人数で斉唱、重唱等を経験していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業で学習した内容を継続的に復習することが望ましい

４．成績評価の方法及び基準

全員演習、グループ演習による歌唱と、レポート、授業態度により総合的に判断する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース生のみ履修できる

授業計画	
	[前期]
1	履修調整及び前期ガイダンス，合唱においての心構え
2	題材１（にほんのうた）の斉唱
3	題材１の斉唱及び重唱
4	題材１の仕上げ＆題材２（にほんのうた）の斉唱
5	題材２の斉唱＆重唱
6	題材２の仕上げ＆題材３（バラード系アニソン）の斉唱
7	題材３の斉唱＆重唱
8	題材３の仕上げ＆題材４（バラード系アニソン）の斉唱
9	題材４の斉唱＆重唱
10	題材４の仕上げ＆題材５（ポップス系アニソン）の斉唱
11	題材５の斉唱＆重唱
12	題材５の仕上げ
13	前期末成果発表楽曲選定
14	前期末成果発表楽曲仕上げ
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	題材６（ポップス系アニソン)の斉唱
3	題材６の斉唱＆重唱
4	題材６の仕上げ＆題材７(ミュージカルナンバー）の斉唱
5	題材７の斉唱&重唱
6	題材７の仕上げ＆題材８(ミュージカルナンバー）の斉唱
7	題材８の斉唱＆重唱
8	題材８の仕上げと題材９(歌謡曲）の斉唱
9	題材９の斉唱＆重唱
10	題材９の仕上げ＆題材１０(クリスマスナンバー）の斉唱
11	題材１０の斉唱＆重唱
12	題材１０の仕上げ
13	学年末成果発表楽曲選定
14	学年末成果発表楽曲仕上げ
15	総括

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ ［水4］ ［木4］ ［金4］（コンテンポラリー）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7001C1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	アレッシオ　シルヴェストリン、安藤　洋子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では、多様な質をともなった身体的な緊張や空間における存在感と連関した調整技術を身につけるべく、ダンサーを多角的な動作へと導入する。動作中の気づきに対する感覚を鋭敏にすることにより、指定された振付に基づく即興へと応用していく。

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, it will occasionally be applied tasks of improvisation based on preset choreography.

２．授業概要

身体の様々な部分を中心として始まるバレエの語彙・モダンダンスのテクニックからの諸々の動きから構成される、バーを使用した、あるいは、使用しないウォームアップ、そして、最終的には、床を使用したウォームアップ。
躯幹の多様な螺旋状の動きに相当な注意を払うよう照準を合わせたウォームアップ。これは、芸術的なパフォーマンスへ向けて身体を物理的な側面から整え、改善していくことを意図している。
呈示された振付素材を覚え、身体的表現の可能性という観点から分析することが授業の中心となる。また、ダンサー相互のボディ・コンタクトのさまざまなアプローチの仕方を応用することにもよりながらそのような作業を進めていく。
授業は、世界的に認められている振付家ウィリアム・フォーサイスとフランクフルト・バレエによって開発された『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ 』に部分的に基づき、種々の「インプロヴィゼーショナル・モダリティ」を取り上げ考察していく。
参加者の身体的・知的能力に応じて上の素材を用い、必要があれば最終的には別の種類のダンス課題に変更することもあり得る。
下に参考としてリストしたカテゴリーは、この通りの順番にならないかもしれないし、ダンサーの習熟度に応じて変更される可能性もあ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ／コンテンポラリー／パフォーマンス、視覚芸術関連の鑑賞（舞台、DVD等）日々の復習と自習が大切である。20世紀に作られたクラシック音楽を聴くこと。下のリンク先のチャンネルにあるすべてのビデオを観ること。

William Forsythe Improvisation Technologies

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(コンテンポラリーダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦文献：
ルドルフ・フォン・ラバン『コロティックス，舞踊［動作］分析』
Rudolf Laban: CHOREUTICS

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタードその他の関節の動きが見えるような衣服。
薄すぎない靴下を素足に着用。入手可能なバレエ・シューズも持参してください。
頭を床に真直ぐ置けるように髪を適切にまとめる。
ジュエリーや腕時計は外すこと。

パフォーマンスのために、以下のものがあれば望ましい。
ストレッチ素材でできたフィットするズボン、色：黒
フィットしたＴシャツ、あるいは、レオタード、色：黒
靴下、色：黒

Leotards, or other clothes adherent to the body which allows you to see the movement of the joints. Bare feet are wearing socks which are not too thin. Please bring also ballet shoes as well.

授業計画	
1	ガイダンス LINES: POINT-POINT LINE
2	LINES: EXTRUSION
3	LINES: MATCHING
4	LINES: FOLDING
5	LINES: BRIDGING
6	APPROACHES - AVOIDANCE: ANGLE AND SURFACE
7	APPROACHES - AVOIDANCE: TORSION
8	APPROACHES - AVOIDANCE: VOLIUMES
9	APPROACHES - AVOIDANCE: BACK APPROACH
10	APPROACHES - AVOIDANCE: LOWER LIMBS
11	COMPLEX OPERATION: INCLINATION EXTENSION
12	COMPLEX OPERATION: TRANSPORTING
13	COMPLEX OPERATION: DROPPING CURVES
14	COMPLEX OPERATION: PARALLEL SHEAR
15	COMPLEX OPERATION: COMPLEX MOVEMENTS

授業計画	
1	WRITING: ROTATING INSCRIPTION
2	WRITING: UNIVERSAL WRITING
3	WRITING: ARC AND AXIS
4	WRITING: TRANSFORMATIVE OPERATION
5	WRITING: INSCRIPTIVE MODES
6	ISOMETRIES - ADDITION: DIFFERENT SCALES
7	ISOMETRIES - ADDITION: FLOOR PATTERN
8	ISOMETRIES - ADDITION: ANATOMICAL
9	ISOMETRIES - ADDITION: SOFT BODY PART
10	ISOMETRIES - ADDITION: CZ EXCERSISE
11	REORGANIZING: ROOM ORIENTATION
12	REORGANIZING: ASIGMENT TO A LINE
13	REORGANIZING: FRAGMENTATION
14	REORGANIZING: SPACIAL RECOVERY
15	REORGANIZING: COMPRESSION

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ　[水4]　[木4]　[金4]（ジャズ）						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7001J1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

身体構造の理解とダンステクニックの基礎と応用を学び、プロダンサーになるための表現力、リズム感を養うと共に、複雑な動きに対応できる体作りを行っていく。

2．授業概要

□ボディーワークを基礎としたエクササイズ。ダンステクニックを学ぶ。身体知覚、空間の知覚。設定されるコンビネーションやテーマでイメージと動きの連動、身体コントロール。□
必要に応じて個別指導も盛り込まれる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の内容を根気強く復習することが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布される。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

体調管理に十分留意すること、動きやすい服装、ジャズダンスシューズで臨むこと。（ジャズスニーカ不可）

授業計画	
1	ガイダンス及びジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（基礎）ボディワークを基礎としたエクササイズを理解する。
2	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）身体のコントロール、正しい使い方を学ぶ。
3	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）ボディワークで整えた身体で動きの質の変化を体感する。
4	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（基礎）基礎を理解し、肉体についても正しい認識を持つ。
5	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（応用）基礎ステップを正確に動けるように意識しながら実践する。
6	ジャズダンス演習　基本スッテプの習得（発展）演習してきた基礎やスッテプを振付の中でより深く学ぶ。
7	モダンダンス演習　（基礎）動きの基礎、バランス、体重移動を理解する。
8	モダンダンス演習（応用）基礎の動きを身につける。
9	モダンダンス演習（発展）振付の中で学んだ動きを使い表現する。
10	シアターダンス演習（基礎）シアターダンス特有のスッテプ、身体の使い方を理解する。
11	シアターダンス演習（応用）シアターダンステクニックを身につける。
12	シアターダンス演習（発展）振付の中でシアターダンスの動きを表現する。
13	コンテジャズ演習　（基礎）コンテンポラリージャズの基礎を理解する。
14	コンテジャズ演習（応用）コンテンポラリージャズ特有の動きを身につける。
15	コンテジャズ演習（発展）振付の中でコンテンポラリージャズを表現する。

授業計画	
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定。
2	ジャズダンス演習（姿勢肉体強化）前期の学びをもとにより深く理解する。
3	ジャズダンス演習（リズム強化）
4	ジャズダンス演習（体幹強化）
5	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）ボブフォッシーや有名な作品の振付を理解する。（基礎）
6	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）振付の世界観や動きを身につける。（応用）
7	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）振付を踊り表現する。（発展）
8	総合ダンス演習（群舞及びペア）
9	成果発表に向けて必要事項の検討、企画作成。
10	成果発表に向けての演習（振付）
11	成果発表に向けての演習（応用）
12	成果発表に向けての演習（発展）
13	成果発表に向けての仕上げ
14	成果発表
15	後期総括

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ ［水4］ ［木4］ ［金4］（ストリート）						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7001S1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスの基礎を固める（ヒップホップ／ロッキング／ポッピング／ワッキング／フロワームーブ、ブレイキン／ハウス／ジャズファンク）
ストリートダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現のかのせいを模索し身につける。

２．授業概要

年間を通して各回の課題を体得出来る様、ダンステクニックの習得及び実習を行う。
ストレッチ、ウォームアップ（ボディーワーク）、アイソレーション、ステップ、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習
筋力アップトレーニング、ストレッチ
芸術観賞、音楽鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ストリートダンスの基礎、応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内用スニーカーを使用
動きやすい服装
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲み物の用意
授業開始時刻には着替えを済ませ入室する様に
遅刻厳禁
身体を使う授業なので体調、自己管理に十分留意する事

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ ②アイソレーション基礎（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング基礎） 基礎を用いたコンビネーション１
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ２ ②アイソレーション基礎（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング展開） コンビネーション２
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①発展ステップ ②アイソレーション発展（コブラ／ブガルー） ③筋トレ（ブレーキング応用） コンビネーション３（フォーメーション）
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①応用ステップ ②アイソレーション発展（サイド／ムーンウォーク） ③筋トレ（ブレーキング発展） コンビネーション４、クリーンアップ（１曲目終了）
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング基礎 ②アイソレーション ③筋トレ（トップロック） コンビネーション１
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング展開 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ１） コンビネーション２
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング応用 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ２） コンビネーション３（フォーメーション）
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング発展 ②アイソレーション コンビネーション４（クリーンアップ） 衣装案
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス基礎 ②筋トレ（フロアームーブ①） ニューコンビネーション１ 衣装決定
10	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス展開 ②筋トレ（フロアームーブ②） コンビネーション２ 前期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス応用 ②筋トレ（フロアームーブ③） コンビネーション３ ドレスリハーサルスタート
12	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス発展 コンビネーション３ 前期末成績発表に向けての企画策定
13	前期末成績発表向けての演習
14	前期末成績発表に向けての総仕上げ
15	前期総括

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り導入編） コンビネーション
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り基礎編） コンビネーション
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り応用編） コンビネーション
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り発展編１） コンビネーション
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り発展編２） コンビネーション
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション導入編） コンビネーション
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション基礎編） コンビネーション
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション応用編） コンビネーション
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ストリートダンス演習（インプロバゼーション発展編） コンビネーション
10	前期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	前期末成績発表に向けての企画策定
12	学年末成績発表向けての演習
13	学年末成績発表に向けての総仕上げ
14	学年末制か発表模擬公演
15	後期総括

科目名	舞踊創作研究１−１［コンテンポラリーダンスクラス］							
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7011C1	科目コード	GE7011	期間	集中	
担当教員	ERIKA、井口　美穂							
授業形態	実技	配当学年	1					
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目								
教員免許状								

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−１［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7011J1	科目コード	GE7011	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−１［ストリートダンスクラス］						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7011S1	科目コード	GE7011	期間	集中
担当教員	井口　美穂						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−２［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7012J2	科目コード	GE7012	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−２［ストリートダンスクラス］						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7012S2	科目コード	GE7012	期間	集中
担当教員	井口　美穂						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−３［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7013J3	科目コード	GE7013	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース主催公演本番に向けてのまとめ

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE7390A0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

2．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題
《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Bクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GE7390B0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Cクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GE7390C0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

2．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Dクラス							
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GE7390D0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次	
担当教員	担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4					
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職					
前提科目	特になし							
教員免許状								

1．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

2．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GE7390E0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GE7390F0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習I						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE739100	科目コード	GE7391	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
教職課程で学んだことを、教育実習の実践を通して検証する。
【到達目標】
（１）学校及び教師の役割と職責を、実践を通しながら理解する。
（２）生徒理解を基本にした指導法等の改善のための研究を行う。
（３）自らの実践的指導を評価するための視点を体得するとともに、授業改善に向けた工夫、方法を明らかにする。
（４）教育実習を通して、教職に対する意欲を一層高めることができる。

2．授業概要

学校教育の場において、大学で学んだ知識や理論を活かし、実践的な知識・技能・姿勢を培う。本科目は、中学校１種と高等学校１種の両方の免許状取得に必要な科目である。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育実習I」は、１週間または２週間の教育実習を実践的に行うものであり、学習指導計画に基づく教材研究、生徒指導等の研究は不可欠である。十分な時間をとって準備を進めるとともに、日ごとの評価等、その日のうちに「教育実習日誌」等に整理すること。

4．成績評価の方法及び基準

①　実習校による成績評価
②　「教育実習日誌」の記載内容
③　「教育実習日誌」の提出状況　等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「教育実習日誌」
参考文献：「音楽科教育法」その他で紹介された文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

中学校教員免許取得希望者は、必ず「教育実習II」も併せて履修しなければならない。「履修要項」に定める「教育実習の参加要件」を満たしていること。
また、教育実習に関わるガイダンスには必ず出席すること。
（実施日はポータルで掲示します）

授業計画	
	［集中］ 1～2週間
1	教育実習（１週間または２週間）を行う。 （中学校の教員免許を取得するには「教育実習I」と「教育実習II」の両方を履修する必要がある。）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習II						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE739200	科目コード	GE7392	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
教職課程で学んだことを、教育実習の実践を通して検証する。
【到達目標】
（１）学校及び教師の役割と職責を、実践を通して理解する。
（２）生徒理解を基本にした指導法等の改善のための研究を行う。
（３）自らの実践的指導を評価するための視点を体得するとともに、授業改善に向けた工夫、方法を明らかにする。
（４）教育実習を通して、教職に対する意欲を一層高めることができる。

2．授業概要

学校教育の場において、大学で学んだ知識や理論を活かし、実践的な知識・技能・姿勢を培う。本科目は、高等学校１種免許状のみ、もしくは中学校１種と高等学校１種の両方の免許状取得に必要な科目である。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育実習II」は、２週間の教育実習を実践的に行うものであり、学習指導計画に基づく教材研究、生徒指導等の研究は不可欠である。十分な時間をとって準備を進めるとともに、日ごとの評価等、その日のうちに「教育実習日誌」等に整理すること。

4．成績評価の方法及び基準

①　実習校による成績評価
②　「教育実習日誌」の記載内容
③　「教育実習日誌」の提出状況　等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「教育実習日誌」
参考文献：「音楽科教育法」その他で紹介された文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「履修要項」に定める「教育実習の参加要件」を満たしていること。
また、教育実習に関わるガイダンスには必ず出席すること。
（実施日はポータルで掲示します）

授業計画	
	［集中］ ２週間
1	教育実習（２週間）を行う。 （中学校の教員免許を取得するには「教育実習I」も併せて履修する必要がある）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE7395A0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Bクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GE7395B0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

2．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Cクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GE7395C0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

2．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Dクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GE7395D0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

2．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GE7395E0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

2．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GE7395F0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

2．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定を合算する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）
なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：教師の服務及び社会的責任について
2	HR演習①：これまでの学修の振り返りについて。グループ討議。発表。
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義②：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義③：教科書の制作過程の理解と編集の指針
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習②：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	教職実践演習のまとめ 講義④：教師になるまでの自分の到達点と今後の研修課題の見きわめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ［水2.3］［木2.3］［金2.3］（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7401G1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	信田　洋子、小林　洋壱、沖田　貴士、林　萌美、安藤　江利、加藤　浩子、草間　華奈						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、作品に触れることによって、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
クラスレッスン：　基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。
作品の練習と舞台出演：　作品の解釈、踊りのスタイル、スペーシング、舞台マナーなどを学ぶ。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される。
重点目標を設定し、それらを複数教員同士で共有しながら授業を進める。
公演の為の作品のリハーサルも行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教員より指示する。

授業計画	
	［前期］
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢(表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール(表現の工夫）ポアントワーク 作品
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク 作品
6	クラスレッスン　正しいプリエ　（表現の工夫）ポアントワーク 作品
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク 作品
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク 作品
9	クラスレッスン　足の使い方　（表現の掘り下げ）　ポアントワーク 作品
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　　ポアントワーク 作品
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ(表現の工夫）ポアントワーク 作品
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク 作品
13	クラスレッスン　音楽と呼吸 ポアントワーク 作品
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク 作品
15	まとめ

授業計画	
	［後期］
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）　ポアントワーク
3	本公演配役オーディション ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）　ポアントワーク 作品
6	クラスレッスン　回転の強化(表現の工夫）ポアントワーク 作品
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）　ポアントワーク 作品
9	クラスレッスン　アレグロの強化　（表現の工夫）ポアントワーク 作品
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法） ポアントワーク 作品
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握(表現の工夫）ポアントワーク 作品
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク 作品
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク 作品
15	まとめ

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ　[水2]　[木2]　[金2]（牧クラス）						
代表教員	奥田　さやか	授業コード	GE7401M1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	鈴木　理奈、竹下　陽子、柿崎　俊也、樫村　理沙、中村　望、オトゴンニャム　ラグワスレン、中島　哲也						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。
様々なアンサンブルの音楽を体で受け、踊りで表現することを学び、舞台で実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ）　公演振付、リハーサル
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）　公演振付、リハーサル
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）　公演振付、リハーサル
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）　公演振付、リハーサル
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）　公演振付、リハーサル
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）　公演振付、リハーサル
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ）　公演振付、リハーサル
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）　公演振付、リハーサル
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）　公演振付、リハーサル
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）　公演振付、リハーサル
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）　公演振付、リハーサル
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）　公演振付、リハーサル

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）　公演振付、リハーサル
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいアンシェヌマンの理解）　公演振付、リハーサル
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）　公演振付、リハーサル
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）　公演振付、リハーサル
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）　公演振付、リハーサル
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）　公演振付、リハーサル
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）　公演振付、リハーサル
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）　公演振付、リハーサル
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）　公演振付、リハーサル
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）　公演振付、リハーサル
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）　公演振付、リハーサル
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）　公演振付、リハーサル
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）　公演振付、リハーサル

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ［水2.3］［木2.3］［金2.3］（谷クラス）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE7401T1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	齊藤　拓、日原　永美子、佐藤　麻利香、髙部　尚子、中武　啓吾、牧　華子、西崎　希、市橋　万樹						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスン・振り付け・リハーサルを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・振り付け・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑮　音楽性

授業計画	
	後期
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演オーディション③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１　［水2］（DC専用）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE740500	科目コード	GE7405	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月1]（グローバルクラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7405GO	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	牧　華子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月2]（グローバルクラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7405G1	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	牧　華子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月3]（グローバルクラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7405G2	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	黄　凱						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月3]（牧クラス）						
代表教員	鈴木　理奈	授業コード	GE7405MO	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいアンシェヌマンの理解）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　　総合力）

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月1]（谷クラス）						
代表教員	永橋　あゆみ	授業コード	GE7405TO	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	朝枝　めぐみ、井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１～４－１　［月3］（谷クラス）						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GE7405T1	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	大川　敦子、井口　美穂、安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月2]（谷クラス）						
代表教員	永橋　あゆみ	授業コード	GE7405T2	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	朝枝　めぐみ、井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－２　［火3］（DC専用）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE740600	科目コード	GE7406	期間	通年
担当教員	林　麻衣子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火1］（グローバルクラス）						
代表教員	木村　規予香	授業コード	GE7406G0	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	中村　望						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火2］（グローバルクラス）						
代表教員	木村　規予香	授業コード	GE7406G1	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火3］（グローバルクラス）							
代表教員	金田　あゆ子	授業コード	GE7406G2	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）アントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ③ ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火3］（グローバルクラス）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7406G3	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、若生　加世子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ　（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方　（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化　（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火3］（牧クラス）						
代表教員	吉岡　まな美	授業コード	GE7406MO	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、中村　望						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいプリエ）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩(正しい腕の使い方　ポールドブラ）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①(前期の復習)
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいアンシェヌマンの理解)
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭(応用力)
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　　総合力）

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火2］（谷クラス）						
代表教員	高岸　直樹	授業コード	GE7406TO	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	中村　望						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火3］（谷クラス）						
代表教員	植田　理恵子	授業コード	GE7406T1	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－１　［月3］ジャイロ（DC専用）						
代表教員	宮内　真理子	授業コード	GE741300	科目コード	GE7413	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・元プリンシパルバレエダンサーが考案し「ダンサーのためのヨガ」として生まれた「ジャイロキネシス」（GYROKINESIS®）を通じて、踊るための動きやすい身体作り（ 柔軟性を高める、間接の可動域を広げる、中心軸、コアの強化 ）をする。
・外側から見えるポジションやムーブメントを内側にある感覚（解剖学的、心理的イメージ等）からどう身体の動きに繋げていくかを課題に、トレーニング、怪我の予防のエクササイズに留まらず、豊かな身体表現に繋げて行く。

２．授業概要

ジャイロキネシスの振り付け（クラスフォーマット）でリズミカルな呼吸と共に背骨を全ての方向に動かし、神経系に効率良く働きかける。その際に起こる感覚、イメージ、エネルギーの方向性、重力をどう感じ使うか等を確認し、ダンス、バレエの動きに繋げていく。各回の課題を、年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常に出来る呼吸法、丹田（下腹部の中心部＝身体を引き上げる際に最も必要な箇所）に働きかけるエクササイズ、授業で習った動きの復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は適時コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、タイツ着用の場合は足裏に穴があり素足になれるもの。

授業計画	
1	ガイダンス、フォーマット１、流れ、リズム､呼吸を重視
2	フォーマット１　基本の背骨の動き、骨盤の構造、骨盤と頭蓋骨のバランスの良い位置
3	フォーマット１　腕、肩との繋がり
4	フォーマット１　脚との繋がり､エネルギーの方向性
5	フォーマット１　ハムストリングのストレッチ､強化
6	フォーマット１　フロアワーク（キャットバック、股関節､膝、踵との繋がり）
7	フォーマット１　フロアワーク（仙骨の動き）
8	フォーマット１　フロアワーク（背筋）
9	フォーマット１　フロアワーク（腹筋）
10	フォーマット１　エアロビックシリーズ、中心軸、引き上げ､バネ感
11	フォーマット１　セルフマッサージ、固有受容感覚、重心のかけ方
12	フォーマット１　呼吸と目のエクササイズ、明確な方向性のある動き
13	フォーマット１　シバリング&ニーディング（エネルギーの凝縮、流す）アラインメント
14	フォーマット１　神経系を一気に起こすエクササイズ
15	フォーマット全体をなるべく流し、前期１５回での変化を確認、ディスカッション

授業計画	
1	フォーマット２　セルフマッサージ（固有受容感覚について）流れ、呼吸、詩的な表現
2	フォーマット２　背骨、骨盤、腕、脚、全体の動きのコンビネーションと動きの方向性
3	フォーマット２　のび、あくび”をするようなクオリティ＝動きの膨らみ、のびやかさ
4	フォーマット２　背骨を波打たせるウエーブ→動きに余韻をもたせる
5	フォーマット２　重力、流れに身をまかせる動き方
6	フォーマット２　フロワワーク（キャットバック＋手首ストレッチ）
7	フォーマット２　フロアワーク　胸、肩、腕の繋がり、仙骨からの動き
8	フォーマット２　フロアワーク（ウェーブの背骨の動きと脚のコントラスト）
9	フォーマット２　フロアワーク（背筋）
10	フォーマット２　フロアワーク（腹筋）呼吸法の確認
11	フォーマット２　スタンディングウェーブシリーズ（立位での踵、膝、座骨の繋がり）
12	フォーマット２　股関節、膝、つま先の関係
13	フォーマット２ 関節の構造、テコの原理→アラベスク、アラセゴンド、ドゥバン等確認
14	フォーマット２　中から自然に感じられる引き上げ、ターンアウト
15	フォーマット２　全体をなるべく流し、後期での変化を確認ディスカッション

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（安達悦子クラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7413G1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	樫村　理沙						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7413G2	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（草間華奈クラス）						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE7413G3	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（奥田さやかクラス）						
代表教員	奥田　さやか	授業コード	GE7413M1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	柿崎　俊也						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスンを通してより高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード（巻スカート・フィットする短パンのみ着用可）、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からTシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性は、Tシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ（ポニーテール等禁止）、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいアンシェヌマンの理解）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（齊藤拓クラス）						
代表教員	齊藤　拓	授業コード	GE7413T1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（佐藤麻利香クラス）						
代表教員	佐藤　麻利香	授業コード	GE7413T2	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	日原　永美子、林　萌美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習 １－２ ［火4］コンテンポラリー（DC専用）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE741400	科目コード	GE7414	期間	通年
担当教員	安藤　洋子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスへ創造的にアプローチし、そこに自分なりの芸術的自己表現を見いだすよう促していく。
なお、技術的・分析的なアプローチとも深く連関する身体の表現性と密接に関連付けながら動きの研究を進めていく。
ダンスの実践、さらに、他の芸術領域への関連をも視野に入れた創造的な形式化についてのより包括的観点を身につけることをめざす。

The dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self-expression.
Still, the movement research will become tightly connected to a kind of body-expressivity deeply related to a technical and analytical approach,
aiming for the participants to develop a more comprehensive view of the creative formalization in dance practice also in relation to the other artistic disciplines.

２．授業概要

この授業の構成はコンテンポラリーダンスのシラバスに準ずる。自己表現を遂行する能力に熟達するという目的のもと、授業は時折、振付の新作を創造していくプロセスに従ったリハーサルに似たものになる。このため、クラスを幾つかのグループに分けて作品を準備していくことが必要になる。下に参考としてリストしたカテゴリーは、この通りの順番にならないかもしれないし、ダンサーの習熟度に応じて変更される可能性もある。

The outline of the course engages the same structure as explained in the Contemporary Dance Syllabus.
With the purpose of reaching proficiency in the performative capacities of self-expression of the participants,
the structure of the class will occasionally become similar to a rehearsal following the creative process for a new choreographic work.
This will require the organization of the work during the class in divided separate groups as well.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ／コンテンポラリー／パフォーマンス、視覚芸術関連の鑑賞（舞台、DVD等）日々の復習と自習が大切である。20世紀に作られたクラシック音楽を聴くこと。下のリンク先のチャンネルにあるすべてのビデオを観ること。
William Forsythe Improvisation Technologies

https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(コンテンポラリーダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦文献：
ルドルフ・フォン・ラバン『コロティックス，舞踊［動作］分析』
Rudolf Laban: CHOREUTICS

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタードその他の関節の動きが見えるような衣服。
薄すぎない靴下を素足に着用。入手可能なバレエ・シューズも持参してください。
頭を床に真直ぐ置けるように髪を適切にまとめる。
ジュエリーや腕時計は外すこと。

パフォーマンスのために、以下のものがあれば望ましい。
ストレッチ素材でできたフィットするズボン、色：黒
フィットしたＴシャツ、あるいは、レオタード、色：黒
靴下、色：黒

Leotards, or other clothes adherent to the body which allows you to see the movement of the joints. Bare feet are wearing socks which are not too thin. Please bring also ballet shoes as well.

授業計画	
1	ガイダンス LINES: POINT-POINT LINE
2	LINES: EXTRUSION
3	LINES: MATCHING
4	LINES: FOLDING
5	LINES: BRIDGING
6	APPROACHES - AVOIDANCE: ANGLE AND SURFACE
7	APPROACHES - AVOIDANCE: TORSION
8	APPROACHES - AVOIDANCE: VOLIUMES
9	APPROACHES - AVOIDANCE: BACK APPROACH
10	APPROACHES - AVOIDANCE: LOWER LIMBS
11	COMPLEX OPERATION: INCLINATION EXTENSION
12	COMPLEX OPERATION: TRANSPORTING
13	COMPLEX OPERATION: DROPPING CURVES
14	COMPLEX OPERATION: PARALLEL SHEAR
15	COMPLEX OPERATION: COMPLEX MOVEMENTS

授業計画	
1	WRITING: ROTATING INSCRIPTION
2	WRITING: UNIVERSAL WRITING
3	WRITING: ARC AND AXIS
4	WRITING: TRANSFORMATIVE OPERATION
5	WRITING: INSCRIPTIVE MODES
6	ISOMETRIES - ADDITION: DIFFERENT SCALES
7	ISOMETRIES - ADDITION: FLOOR PATTERN
8	ISOMETRIES - ADDITION: ANATOMICAL
9	ISOMETRIES - ADDITION: SOFT BODY PART
10	ISOMETRIES - ADDITION: CZ EXCERSISE
11	REORGANIZING: ROOM ORIENTATION
12	REORGANIZING: ASIGMENT TO A LINE
13	REORGANIZING: FRAGMENTATION
14	REORGANIZING: SPACIAL RECOVERY
15	REORGANIZING: COMPRESSION

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（信田洋子クラス）						
代表教員	信田　洋子	授業コード	GE7414G1	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、中村　望						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7414G2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（加藤浩子クラス）						
代表教員	加藤　浩子	授業コード	GE7414G3	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（竹下陽子クラス）						
代表教員	竹下　陽子	授業コード	GE7414M2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、林　萌美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいプリエ）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［前期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいアンシェヌマンの理解)
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭(応用力)
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（高部尚子クラス）						
代表教員	高部　尚子	授業コード	GE7414T1	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（三木雄馬クラス）						
代表教員	三木　雄馬	授業コード	GE7414T2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	日原　永美子、安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（安達悦子クラス）							
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7415G1	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7415G2	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、西崎　希						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（沖田貴士クラス）						
代表教員	沖田　貴士	授業コード	GE7415G3	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（鈴木理奈クラス）						
代表教員	鈴木　理奈	授業コード	GE7415M3	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスンを通してより高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード（巻スカート・フィットする短パンのみ着用可）、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からTシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性は、Tシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ（ポニーテール等禁止）、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（前期の復習）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいアンシェヌマンの理解）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（佐藤麻利香クラス）						
代表教員	佐藤　麻利香	授業コード	GE7415T1	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（日原永美子クラス）						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GE7415T2	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　[月3]　(ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ)						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7416G4	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの動きを基礎とし、新しい動きや身体の使い方の発見、そこから身体表現としての可能性を感じ、体験していく。
様々な振付家の要求する身体表現に対応出来るようになることを最終目標とする。

２．授業概要

通常のバレエレッスンを応用したバーレッスン、センターレッスンを行う。
センターレッスンでは、様々なコンテンポラリーの振付家により使われるテクニックを紹介し、実際に動いて体験していくことで習得していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	骨盤、胸郭、頭部の動き
2	骨盤、胸郭、頭部の動き
3	骨盤、胸郭、頭部の動き
4	クラシックバレエテクニックを基礎とした動きの拡張
5	クラシックバレエテクニックを基礎とした動きの拡張
6	クラシックバレエテクニックを基礎とした動きの拡張
7	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
8	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
9	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
10	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
11	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
12	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
13	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
14	前期まとめ
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
2	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
3	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎
4	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
5	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
6	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
7	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
8	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
9	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
10	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
11	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
12	下肢、体幹、上肢の動きと全身のコーディネーション、フロアテクニック基礎、コンテンポラリー作品への対応
13	まとめ
14	まとめ
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　[月3]　(ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ)						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416G5	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、安藤　洋子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	LINES クラスレッスン 表現法
2	LINES クラスレッスン 表現の工夫
3	LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	LINES クラスレッスン表現法
2	LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン　表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　[月4]　(ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ)						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416G6	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、安藤　江利、安藤　洋子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	LINES クラスレッスン　表現法
2	LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン 表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン 表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン 表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン 表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン 表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	LINES クラスレッスン 表現法
2	LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	LINES クラスレッスン 表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン 表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン 表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン　表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン 表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン 表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン 表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　[月4]（ジャイロ）						
代表教員	宮内　真理子	授業コード	GE7416J0	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・元プリンシパルバレエダンサーが考案し「ダンサーのためのヨガ」として生まれた「ジャイロキネシス」（GYROKINESIS®）を通じて、踊るための動きやすい身体作り（ 柔軟性を高める、間接の可動域を広げる、中心軸、コアの強化 ）をする。
・外側から見えるポジションやムーブメントを内側にある感覚（解剖学的、心理的イメージ等）からどう身体の動きに繋げていくかを課題に、トレーニング、怪我の予防のエクササイズに留まらず、豊かな身体表現に繋げて行く。

２．授業概要

ジャイロキネシスの振り付け（クラスフォーマット）でリズミカルな呼吸と共に背骨を全ての方向に動かし、神経系に効率良く働きかける。その際に起こる感覚、イメージ、エネルギーの方向性、重力をどう感じ使うか等を確認し、ダンス、バレエの動きに繋げていく。各回の課題を、年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常に出来る呼吸法、丹田（下腹部の中心部＝身体を引き上げる際に最も必要な箇所）に働きかけるエクササイズ、授業で習った動きの復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は適時コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、タイツ着用の場合は足裏に穴があり素足になれるもの。

授業計画	
1	ガイダンス、フォーマット１、流れ、リズム､呼吸を重視
2	フォーマット１　基本の背骨の動き、骨盤の構造、骨盤と頭蓋骨のバランスの良い位置
3	フォーマット１　腕、肩との繋がり
4	フォーマット１　脚との繋がり､エネルギーの方向性
5	フォーマット１　ハムストリングのストレッチ､強化
6	フォーマット１　フロアワーク（キャットバック、股関節､膝、踵との繋がり）
7	フォーマット１　フロアワーク（仙骨の動き）
8	フォーマット１　フロアワーク（背筋）
9	フォーマット１　フロアワーク（腹筋）
10	フォーマット１　エアロビックシリーズ、中心軸、引き上げ､バネ感
11	フォーマット１　セルフマッサージ、固有受容感覚、重心のかけ方
12	フォーマット１　呼吸と目のエクササイズ、明確な方向性のある動き
13	フォーマット１　シバリング&ニーディング（エネルギーの凝縮、流す）アラインメント
14	フォーマット１　神経系を一気に起こすエクササイズ
15	フォーマット全体をなるべく流し、前期１５回での変化を確認、ディスカッション

授業計画	
1	フォーマット２　セルフマッサージ（固有受容感覚について）流れ、呼吸、詩的な表現
2	フォーマット２　背骨、骨盤、腕、脚、全体の動きのコンビネーションと動きの方向性
3	フォーマット２　のび、あくび”をするようなクオリティ＝動きの膨らみ、のびやかさ
4	フォーマット２　背骨を波打たせるウエーブ→動きに余韻をもたせる
5	フォーマット２　重力、流れに身をまかせる動き方
6	フォーマット２　フロワワーク（キャットバック＋手首ストレッチ）
7	フォーマット２　フロアワーク　胸、肩、腕の繋がり、仙骨からの動き
8	フォーマット２　フロアワーク（ウェーブの背骨の動きと脚のコントラスト）
9	フォーマット２　フロアワーク（背筋）
10	フォーマット２　フロアワーク（腹筋）呼吸法の確認
11	フォーマット２　スタンディングウェーブシリーズ（立位での踵、膝、座骨の繋がり）
12	フォーマット２　股関節、膝、つま先の関係
13	フォーマット２ 関節の構造、テコの原理→アラベスク、アラセゴンド、ドゥバン等確認
14	フォーマット２　中から自然に感じられる引き上げ、ターンアウト
15	フォーマット２　全体をなるべく流し、後期での変化を確認ディスカッション

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　[月5]（コンテンポラリー/牧クラス）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416M4	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、安藤　江利、安藤　洋子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	LINES クラスレッスン 表現法
2	LINES クラスレッスン 表現の工夫
3	LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	LINES クラスレッスン表現法
2	LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	WRITING クラスレッスン表現法
8	WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現法
11	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	REORGANOZING クラスレッスン　表現法
14	REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月3］（コンテンポラリー/谷クラス）						
代表教員	大岩　ピレス　淑子	授業コード	GE7416T4	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マーサグラハムテクニックとリリーステクニックを中心にした、コンテンポラリーダンステクニックの理解を深め、応用のムーヴメント・コンビネーションを実習する。身体の成り立ちやメカニズムを再確認した上で、デュオ実習において誰かと踊る体験を積み、振付作品を表現する力を養う。

２．授業概要

前期は身体の緊張（グラハムテクニック）と弛緩(リリーステクニック）を基本に、コンビネーションを通して身体の使い方を再確認し、表現力をつける。後期は、デュオ実習において、体重の支え合いや相手を聴く力を養い、デュオ・コンビネーションで、誰かと踊ることに慣れ、コンタクトインプロヴィゼーションにつなげていく。また怪我の原因、予防の知識を学び、怪我との付き合い方、各個人の身体的傾向の理解をうながし、ヨガにおける緊張と弛緩を体感する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った事柄の復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
(テクニックの理解度、ムーヴメントへの関心度と習得度、授業の参加態度、自己表現力等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

解剖学テキストブック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく体のラインが見える服装、基本的に裸足。必要に応じて、フロアワークのしやすい袖付きのシャツやスウェットパンツなどを使用。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス Graham technique ① 胸椎の意識 コンビネーション実習 1
2	Graham technique ② コントラクションとリリース コンビネーション実習 2
3	Graham technique ③ スパイラル コンビネーション実習 3
4	Graham technique ④ 歩き方 コンビネーション実習 4
5	Graham technique ⑤ 動きのアクセント コンビネーション実習 5
6	Release① 頭蓋骨の重さ コンビネーション実習 6
7	Release② 身体を骨として捉えること コンビネーション実習 7
8	Release③ 脊髄のコントロール (Head-Tail connection) コンビネーション実習 8
9	Release④ 重力との付き合いかた コンビネーション実習 9
10	Release⑤ 呼吸の役割 コンビネーション実習　10
11	Graham/Release technique 緊張と弛緩 コンビネーション実習　11
12	Graham/Release technique 身体の使い分け コンビネーション実習　12
13	Graham/Release technique モードスイッチ コンビネーション実習　13
14	Graham/Release technique 動きの多様性 コンビネーション実習　14
15	Graham/Release technique コンビネーション・ショウイング

授業計画	
	［後期］
1	ヨガ Weight Sharing ① 誰かの体重を感じる デュオ実習①
2	ヨガ Weight Sharing ② 誰かの体重を支える デュオ実習②
3	ヨガ Weight Sharing ③ 誰かの体重と重力 デュオ実習③
4	ヨガ Weight Sharing ④ 全体重をあずける デュオ実習④
5	ヨガ Contact Improvisation ① 基礎 デュオ実習⑤
6	ヨガ Contact Improvisation ② 応用 デュオ実習⑥
7	ヨガ Contact Improvisation ③ ラウンドロビン デュオ実習⑦
8	ヨガ Contact Improvisation ④ ラウンドロビン デュオ・ショウイング
9	怪我の原因について ヨガ
10	怪我における心身の関係 ヨガ
11	常に聴く態度 ヨガ ソロ即興演習① ボディパーツ
12	ヨガ ソロ即興演習② ボディパーツと空間
13	ヨガ ソロ即興演習③ ボディパーツと時間
14	ヨガ ソロ即興演習④ 音楽性
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月4］（コンテンポラリー/谷クラス）							
代表教員	大岩　ピレス　淑子	授業コード	GE7416T5	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マーサグラハムテクニックとリリーステクニックを中心にした、コンテンポラリーダンステクニックに触れ、体感し、マスターする。身体の成り立ちやメカニズムを学び、学生各自が内観し洞察する機会を作る。

２．授業概要

身体の緊張（グラハムテクニック）と弛緩（リリーステクニック）を主題に、筋肉的ムーヴメントと骨格的ムーヴメントの違いを理解し、さまざまなスタイルを踊る上で身体の使い方を使い分けられるよう、研究をする。解剖学や動作学を参考にしながら、各関節機能から身体全体のつながりを視覚的に理解し、内観する。さらに怪我の原因、予防の知識を学び、怪我との付き合い方、各個人の身体的傾向の理解をうながし、ヨガにおける緊張と弛緩を体感する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った事柄の復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（テクニックの理解度、ムーヴメントへの関心度と習得度、授業の参加態度、自己表現力等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

解剖学テキストブック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく体のラインが見える服装、基本的に裸足。必要に応じて、フロアワークのしやすい袖付きのシャツやスウェットパンツなどを使用。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 筋肉的ムーヴメントと骨格的ムーヴメント（muscular vs. skeletal） Release①　頭蓋骨の重さ
2	Release②　身体を骨として捉えること
3	Release③　脊髄のコントロール（Head-Tail connection）
4	Release④　重力との付き合いかた
5	Weight Sharing ①　誰かの体重を感じる
6	Weight Sharing ②　誰かの体重を支える
7	Weight Sharing ③　誰かの体重と重力
8	Graham technique ①　胸椎の意識
9	Graham technique ②　コントラクション
10	Graham technique ③　コントラクションとリリース
11	Graham technique ④　上半身の緊張感
12	Graham technique ⑤　スパイラル
13	Graham technique ⑥　動きのアクセント
14	Graham technique ⑦　歩き方
15	Graham technique ⑧　トリプレット

授業計画	
	［後期］
1	クラス発表準備　①　エクササイズ振付
2	クラス発表準備　②　エクササイズ復習
3	クラス発表準備　③　コンビネーション振付
4	クラス発表準備　④　コンビネーション復習
5	クラス発表準備　⑤　フォーメーション振付
6	クラス発表準備　⑥　フォーメーション復習
7	クラス発表準備　⑦　アカンパニストとの合わせ
8	クラス発表準備　⑧　通し稽古
9	怪我の原因について ヨガ
10	怪我における心身の関係 ヨガ
11	常に聴く態度 ヨガ ソロ即興演習①　ボディパーツ
12	ヨガ ソロ即興演習②　ボディパーツと空間
13	ヨガ ソロ即興演習③　ボディパーツと時間
14	ヨガ ソロ即興演習④
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火2］　（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）							
代表教員	アレクサンドル　ミシューチン	授業コード	GE7417G5	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンス（民族舞踊）をクラシックバレエの動きや演劇に近づけて解釈し、踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのキャラクターダンスのクラスレッスンのシラバスに基づき、トレーニング・各民族舞踊のスタイル・表現力の発展・音楽性などを学ぶ。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習　舞台鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ（５㎝　ヒール）を着用。
男性はTシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、ジャズシューズを着用。

他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期] 【バー】
1	Demi Plie
2	Grand Plie
3	Battement Tendu
4	Battement Tendu Jete
5	Rond de Jambe a terre
6	Battement Fondu
7	Changement de Pied
8	Balansoire
9	Flic Flac
10	スペインのタップ　表現法
11	スペインのタップ　表現の工夫
12	ハンガリーのアダージオ　表現法
13	ハンガリーのアダージオ　表現の工夫
14	Grand Battement Jete
15	まとめ

授業計画	
	[後期] 【センター】
1	ハンガリーのダンス
2	ポーランドのダンス　表現法
3	ポーランドのダンス　表現の工夫
4	タタールのダンス
5	イタリアのダンス 表現法
6	イタリアのダンス 表現の工夫
7	ロシアのダンス　表現法
8	ロシアのダンス 表現の工夫
9	オリエンタルのダンス 表現法
10	オリエンタルのダンス 表現の工夫
11	ジプシーダンス　表現法
12	ジプシーダンス 表現の工夫
13	スペインのダンス 表現法
14	スペインのダンス 表現の工夫
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　[火3]　(ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ)							
代表教員	アレクサンドル　ミシューチン	授業コード	GE7417G6	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンス（民族舞踊）をクラシックバレエの動きや演劇に近づけて解釈し、踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのキャラクターダンスのクラスレッスンのシラバスに基づき、トレーニング・各民族舞踊のスタイル・表現力の発展・音楽性などを学ぶ。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習　舞台鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ（５cm　ヒール）を着用。
男性はTシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、ジャズシューズを着用。

他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期] 【バー】
1	Grand Plie　脚のツイスト
2	Battment Tendu　軸足の動きを加えて
3	Battment Tendu Jete　軸足の動きを加えて
4	Rond de jambe a terre　軸足の動きを加えて
5	Pas Tortille Réleve　体のねじれ
6	Battment Fondu　上半身を90度まで動かす
7	De Tourne　曲がる a. Soutenu en Tournant Demi Plie　前屈 b. Pirouette en Dedans と en Dehors　前後のピルエット
8	Passe　90度
9	Battment Devloppe　ビートの取り方
10	扇子
11	タップ　音どりのアクセント なか
12	Grand Battement Jeté と Rond de Tombe スタービートと展開
13	Révoltade 転回
14	Cabriole 45度
15	まとめ

授業計画	
	[後期] 【センター】
1	ポーランドのダンス　クラコビャック上級　表現法
2	ポーランドのダンス　クラコビャック上級　表現の工夫
3	ポーランドのダンス　マズルカ上級　表現法
4	ポーランドのダンス　マズルカ上級 表現の工夫
5	ハンガリーのダンス　チャルダッシュ 表現法
6	ハンガリーのダンス　チャルダッシュ 表現の工夫
7	イタリアのダンス　タランテラ上級 表現法
8	イタリアのダンス タランテラ 上級 表現の工夫
9	オリエンタルのダンス 表現法
10	オリエンタルのダンス 表現の工夫
11	スペインのダンス 表現法
12	スペインのダンス 表現の工夫
13	ロシアのダンス 表現法
14	ロシアのダンス 表現の工夫
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火4］（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）							
代表教員	アレクサンドル　ミシューチン	授業コード	GE7417G7	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンス（民族舞踊）をクラシックバレエの動きや演劇に近づけて解釈し、踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのキャラクターダンスのクラスレッスンのシラバスに基づき、トレーニング・各民族舞踊のスタイル・表現力の発展・音楽性などを学ぶ。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習　舞台鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ（５cm　ヒール）を着用。
男性はTシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、ジャズシューズを着用。

他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期] 【バー】
1	脚のポジション a.　クラシックバレエと同じポジション　５つ b.　パラレルのポジション　５つ c.　自由なポジション　５つ d.　うち脚のポジション　１番・２番
2	脚のポジションから次のポジションまでの移動の仕方 a.　Battement Tendu b.　Battemen Tendu Jete c.　ツイスト　フィート
3	手のポジション a.　クラシックバレエと同じ１番と３番ポジション。 b.　クラシックバレエと同じ２番ポジションと、手のひらが上向きのクラシックバレエと同じ２番ポジション c.　腰（ウエスト） d.　胸の前で重ねる
4	Preparation a.　ポールドブラ b.　ポールドブラを脚の動きと一緒に組み合わせる
5	Plie Demi plié & grand plié　のすべてのポジション
6	６．　Battement tendu　すべての方向 a.　バトマンタンジュからフレックスの移動 b.　バトマンタンジュからフレックスプリエの移動
7	Battement tendu jete a.　クラシックバレエの５番ポジションから床を蹴り上げる動き b.　クラシックバレエの５番ポジションから床を蹴り上げる動きを２連続 c.　pique つま先と踵
8	Rond de jambe a terre a.　つま先の止まる位置が横または後ろ b.　Rond de Pied c.　踵の止まる位置が横または後ろ
9	Pas Tortille a.　シングル b.　ダブル
10	Battment Fondu　４５度膝を回転させる a.　A Terre b.　Releve
11	上体を倒す動き a.　パラレルポジションの１番・４番のA Terre Releve　または　Releve Plie b.　脚を９０度上げた状態での上体の動きで、 軸足がA TerreまたはReleve
12	Passe a.　紐の動きの練習で、軸足が動かないのとReleve b.　紐の動きの練習で、軸足をGlissadeするのを踵をあまり上げないのとReleve
13	Battement Developpe a.　Battement Developpeを行う時の軸足が動かないのと、踵を上げる動き
14	Flic Flac a.　クラシックバレエの５番ポジションですべての方向 b.　パラレルポジションですべての方向
15	まとめ

授業計画	
	[後期] 【センター】
1	ロシアのタップ（ヒールビート）
2	スペインのタップ（Zapateado）
3	立て膝へのポーズ a. パラレルポジション１番から b. １ステップしてからのポーズ
4	Grand Battement Jete a. Tombe b. １度床を叩く（シングル） c. ２度床を叩く（ダブル）
5	De Tourne ３ステップで
6	ポーランドのダンス　クラコビャック
7	ポーランドのダンス　マズルカ
8	ハンガリーのダンス　表現法
9	ハンガリーのダンス　表現の工夫
10	イタリアのダンス　タランテラ　表現法
11	イタリアのダンス　タランテラ　表現の工夫
12	スペインのダンス 表現法
13	スペインのダンス　表現の工夫
14	ロシアのダンス 表現法
15	ロシアのダンス 表現の工夫

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　[火4]（キャラクターダンス/牧クラス）							
代表教員	イルギス　ガリムーリン	授業コード	GE7417M5	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンス特有の動きを理解し、踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのプログラムに基づいた、様々なキャラクターダンスのスタイル・表現力・音楽性などを学ぶ。
バー・レッスンとセンター・レッスン(様々なキャラクターダンスのエチュード)により構成される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習　舞台鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズを着用。
男性はTシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、ジャズシューズを着用。

他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	・手．脚．頭のポジション ・バーレッスン Plié Battement Tendu①
2	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battement Tendu② Battemen Tendu Jete①
3	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battement Tendu③ Battemen Tendu Jete②
4	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battemen Tendu Jete③ ヒールを使っての動き(ロシア)
5	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ヒールを使っての動き(スペイン)
6	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Flic-Flac
7	・前回の復習と応用 ・バーレッスン パセを用いた動き(ハンガリー・ロシア)
8	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Pas Tortillé
9	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Rond de jambe u rond de pied par terre
10	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battment Fondu
11	・前回の復習と応用 ・バーレッスン 足の動き ヒールを打つ(ガルベッツ) 足を踏みかえる(シュトーパル)
12	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Grand battement développée
13	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Grand battement jeté
14	バーレッスン総復習
15	まとめ

授業計画	
	［後期］
1	・バーレッスン ・センターレッスン Port de bras(ハンガリー)
2	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ロシアのダンス
3	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ロシアのダンス
4	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ハンガリーのダンス
5	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ハンガリーのダンス
6	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ポーランドのダンス(マズルカ)
7	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ポーランドのダンス(クラコビャック)
8	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン イタリアのダンス
9	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン イタリアのダンス
10	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン スペインのダンス
11	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン スペインのダンス
12	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン 東洋の踊り
13	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン 東洋の踊り
14	センターレッスン総復習
15	１年間のまとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　[火3]　（キャラクターダンス/谷クラス）						
代表教員	星野　絢香	授業コード	GE7417T6	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	牧　華子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前年次で学んだキャラクターダンスの基本ステップ、技術、表現等を発展させて、応用的に学び身に付けていく。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のカリキュラムに基づいて授業を進めていく。
ロシア舞踊、スペイン舞踊、ポーランド舞踊、イタリア舞踊、ハンガリー舞踊などの各国のスタイルを学んでいく中で、踊りに必要となってくる表現力・音楽性・舞踊性などを高めていく。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。
各回に設定した内容を、レッスン・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習。
バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞。

４．成績評価の方法及び基準

平常点 100%
(キャラクターダンスでの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装 ：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ(5cmヒール)を着用。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、ジャズシューズを着用。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、
授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス キャラクターダンスでの脚のポジション，手のポジション ［バー・レッスン］ plie（ロシア）、battement tendu
2	［バー・レッスン］ battement tendu jete、rond de jambe par terre ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ、お辞儀）
3	［バー・レッスン］ 中くらいのbattement、fondu ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、ヨーロチカ、ベリョーボチカ）
4	［バー・レッスン］ pas tortille、passe ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （複雑なクリュチ）
5	［バー・レッスン］ battement developpe,grand battement（ロシア） ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、バランセ、基本のステップ）
6	［バー・レッスン］ plie(スペイン) ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （ゴルベッツ、ド・ザ・ド、クリュチ）
7	［バー・レッスン］ flic flac ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （カブリオールを伴うステップ、アレグロの部分での動き）
8	［バー・レッスン］ zapateado ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のポールドブラ、歩き方）
9	［バー・レッスン］ plie（東洋） ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、パ・ドゥ・ブーレ）
10	［バー・レッスン］ ジプシーの動き ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （サパテアード、ランベルセ）
11	［バー・レッスン］ grand battement（スペイン） ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （基本のステップ）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ド・ザ・ド、ポドスコック、スカチョク）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ペアで踊るタランテラ）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （腕と顔の位置、パ・ドゥ・ブーレ、パ・クリュ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （バランセ、パ・ガラ）

授業計画	
	［後期］
1	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （ゴルベッツ、クリュチ）
2	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （腕と顔の位置）
3	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （基本のステップ）
4	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ）
5	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （タップを伴う歩き方、アレグロの部分の動き）
6	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （ド・ザ・ド、ペアでの回転）
7	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （パートナーの片手を持った回転）
8	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ド・ザ・ド、ゴルベッツ）
9	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ペアで行うパ・クリュ、クラコビャックの基本ステップ）
10	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ セギディリア（スペイン舞踊）
11	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ホタ（スペイン舞踊）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ クラコビャック（ポーランド舞踊）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ カルメン（スペイン舞踊）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ チャルダッシュ （ ライモンダより ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ナポリの踊り（ 白鳥の湖より ）

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火4］（キャラクターダンス/谷クラス）						
代表教員	星野　絢香	授業コード	GE7417T7	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエと異なる手脚のポジション、身体や顔の方向性、キャラクターダンス特有のステップなどを学び、様々な様式がある各国の踊りを習得していく。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のカリキュラムに基づいて授業を進めていく。
ロシア舞踊、スペイン舞踊、ポーランド舞踊、イタリア舞踊、ハンガリー舞踊などの各国のスタイルを学んでいく中で、踊りに必要となってくる表現力・音楽性・舞踊性などを高めていく。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。
各回に設定した内容を、レッスン・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習。
バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞。

４．成績評価の方法及び基準

平常点 100%
(キャラクターダンスでの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装 ：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ(5cmヒール)を着用。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、ジャズシューズを着用。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、
授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス キャラクターダンスでの脚のポジション，手のポジション ［バー・レッスン］ plie（ロシア）、battement tendu
2	［バー・レッスン］ battement tendu jete、rond de jambe par terre ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ、お辞儀）
3	［バー・レッスン］ 中くらいのbattement、fondu ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、ヨーロチカ、ベリョーボチカ）
4	［バー・レッスン］ pas tortille、passe ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （複雑なクリュチ）
5	［バー・レッスン］ battement developpe,grand battement（ロシア） ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、バランセ、基本のステップ）
6	［バー・レッスン］ plie(スペイン) ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （ゴルベッツ、ド・ザ・ド、クリュチ）
7	［バー・レッスン］ flic flac ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （カブリオールを伴うステップ、アレグロの部分での動き）
8	［バー・レッスン］ zapateado ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のポールドブラ、歩き方）
9	［バー・レッスン］ plie（東洋） ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、パ・ドゥ・ブーレ）
10	［バー・レッスン］ ジプシーの動き ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （サパテアード、ランベルセ）
11	［バー・レッスン］ grand battement（スペイン） ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （基本のステップ）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ド・ザ・ド、ポドスコック、スカチョク）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ペアで踊るタランテラ）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （腕と顔の位置、パ・ドゥ・ブーレ、パ・クリュ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （バランセ、パ・ガラ）

授業計画	
	［後期］
1	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （ゴルベッツ、クリュチ）
2	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （腕と顔の位置）
3	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （基本のステップ）
4	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ）
5	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （タップを伴う歩き方、アレグロの部分の動き）
6	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （ド・ザ・ド、ペアでの回転）
7	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （パートナーの片手を持った回転）
8	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ド・ザ・ド、ゴルベッツ）
9	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ペアで行うパ・クリュ、クラコビャックの基本ステップ）
10	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ セギディリア（スペイン舞踊）
11	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ホタ（スペイン舞踊）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ クラコビャック（ポーランド舞踊）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ カルメン（スペイン舞踊）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ チャルダッシュ （ ライモンダより ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ナポリの踊り（ 白鳥の湖より ）

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［月5］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7511A0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の ７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［火5］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7511B0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の ７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［水5］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GE7511C0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［木5］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7511D0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［金5］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7511E0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［月5］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7511F0	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［火5］Gクラス							
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7511GO	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の ７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - １ （前） ［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7511SO	科目コード	GE7511	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の ７０%）
平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［月5］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7512A0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［火5］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7512B0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［水5］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GE7512C0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［木5］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7512D0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［金5］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7512E0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［月5］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7512F0	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［火5］Gクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7512GO	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ１ - ２ （後） ［木5］Sクラス							
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7512SO	科目コード	GE7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートする感覚を磨く。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を積む。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［月4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7513A0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［火5］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7513B0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［水5］Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7513C0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［木5］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7513D0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［金5］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7513E0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［月4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7513F0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［金4］Gクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7513G0	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - １ （前） ［金5］Sクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7513SO	科目コード	GE7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	各パートのフレーズ確認
3	音色、音量バランス確認
4	ターム１：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム2楽曲の構成譜の統一
7	足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム２：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに向けた最終チェック
14	ターム３：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［月4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7514A0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［火5］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7514B0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［水5］Cクラス							
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7514C0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［木5］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7514D0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［金5］Eクラス							
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7514E0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［月4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7514F0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［金4］Gクラス							
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7514GO	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バンド・ワークショップ２ - ２ （後） ［金5］Sクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7514S0	科目コード	GE7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	ターム4楽曲の構成、パート確認
2	足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	各パートの音量、音色バランスチェック
4	ターム４：レコーディング・セッション参照
5	
6	ターム5楽曲の構成譜の統一
7	各パートのフレーズ確認
8	クリックを使用したリズムトレーニング
9	ターム５：レコーディング・セッション参照
10	
11	ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	ターム６：レコーディング・セッション参照
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）　[月5] Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7515A0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）［火4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7515B0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[水5] Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7515C0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[木4] Dクラス						
代表教員	JAH - RAH	授業コード	GE7515D0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[金4] Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7515E0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）　[月4] Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7515F0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[火4] Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7515GO	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）　[木4] Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7515H0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[金4] Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7515J0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[火4] Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7515K0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[木4] Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7515L0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１ - １／２ - １　（前）　[木5] Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7515S0	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）　[金5] Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7515WO	科目コード	GE7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	ターム１楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム１：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム2楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム２：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム3楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	アンサンブル実習８
13	レコーディングに備えた最終チェック
14	
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［月5］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7516A0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7516B0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［水5］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7516C0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）　[木4] Dクラス						
代表教員	JAH － RAH	授業コード	GE7516D0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金4］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7516E0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）　[月4] Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7516F0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7516GO	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）　[木4] Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7516H0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金4］Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7516J0	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7516KO	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）　[木4] Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7516LO	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7516SO	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金5］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7516WO	科目コード	GE7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	ターム４楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	ターム４：レコーディング・セッション参照
4	
5	ターム5楽曲の構成、アレンジ確認
6	クリックを使用したリズムトレーニング
7	バンド全体のダイナミクスコントロール
8	ターム５：レコーディング・セッション参照
9	
10	ターム6楽曲のオリジナルアレンジ
11	同期データを用いた演奏トレーニング
12	レコーディングに備えた最終チェック
13	ターム６：レコーディング・セッション参照
14	
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １ （前） [月5-6] Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7519A0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １ （前） [火5-6] Bクラス							
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7519B0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １ （前） [水5-6] Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GE7519C0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １　（前）［木5-6］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7519D0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １　（前）［金5-6］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7519E0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １　（前）　[月5-6] Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7519F0	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １ （前） [火5-6] Gクラス							
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7519GO	科目コード	GE7519	期間	半期	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	1					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - １　（前）［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7519SO	科目コード	GE7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）　[月5-6] Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7520A0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［火5-6］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7520B0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - ２ （後） ［水5-6］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GE7520C0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［木5-6］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7520D0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［金5-6］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7520E0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）　[月5-6] Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7520F0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - ２ （後） ［火5-6］Gクラス							
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7520G0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション１ - ２ （後） ［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7520S0	科目コード	GE7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） [月3-4] Aクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7521A0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １　（前）［火5-6］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7521B0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） [水5-6] Cクラス							
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7521C0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） [木5-6] Dクラス							
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7521D0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） ［金5-6］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7521E0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） [月3-4] Fクラス							
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7521F0	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） ［金3-4］Gクラス							
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7521GO	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - １ （前） [金5-6] Sクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7521SO	科目コード	GE7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ - １
1	
2	
3	
4	ターム１：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム２：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム３：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） [月3-4] Aクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7522A0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０%）
平常点（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） [火5-6] Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7522B0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） [水5-6] Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GE7522C0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） ［木5-6］Dクラス							
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7522D0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） ［金5-6］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7522E0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） [月3-4] Fクラス							
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7522F0	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） ［金3-4］Gクラス							
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7522GO	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	レコーディング・セッション２ - ２ （後） [金5-6] Sクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7522SO	科目コード	GE7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	
2	
3	
4	ターム４：レコーディング・セッション
5	レコーディングマナーの確認
6	
7	
8	
9	ターム５：レコーディング・セッション
10	クリックの調整と、ヘッドホンバランスの調整
11	
12	
13	
14	ターム６：レコーディング・セッション
15	少ないテイクで仕上げる工夫

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［月5-6］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7523A0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［火3-4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7523B0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［水5-6］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7523C0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［木3-4］Dクラス						
代表教員	JAH - RAH	授業コード	GE7523D0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［金3-4］Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7523E0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［月3-4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7523F0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［火3-4］Gクラス							
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7523G0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［木3-4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7523H0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［金3-4］Jクラス							
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7523J0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［火3-4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7523K0	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［木3-4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7523LO	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［木5-6］Sクラス							
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7523SO	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 1／2 - 1 （前） ［金5-6］Wクラス							
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7523WO	科目コード	GE7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	
2	
3	ターム１：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム２：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム３：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［月5-6］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7524A0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［火3-4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7524B0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［水5-6］Cクラス							
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7524C0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

2．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

4．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［木3-4］Dクラス						
代表教員	JAH - RAH	授業コード	GE7524D0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［金3-4］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GE7524E0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［月3-4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7524F0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［火3-4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GE7524GO	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［木3-4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GE7524H0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［金3-4］Jクラス							
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7524J0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［火3-4］Kクラス							
代表教員	田中　一郎	授業コード	GE7524K0	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［木3-4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7524LO	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［木5-6］Sクラス							
代表教員	前野　知常	授業コード	GE7524SO	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1 - 2／2 - 2 （後） ［金5-6］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7524WO	科目コード	GE7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ - ２
1	
2	
3	ターム４：レコーディング・セッション
4	レコーディングマナーの確認、セッティングのスピードアップ
5	
6	
7	
8	ターム５：レコーディング・セッション
9	ダイナミクスコントロールによる表現力アップ
10	
11	
12	
13	ターム６：レコーディング・セッション
14	ビート感の統一、グルーヴの意識
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	インストゥルメンツ研究　[木4]						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE756500	科目コード	GE7565	期間	通年
担当教員	斉藤　光浩						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロック＆ポップスで多く使用される楽器に実際に触れ、その歴史／種類／構造／奏法を理解する。

２．授業概要

それぞれの楽器の担当講師が、実際に音を出しながらレクチャーする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の専門パート以外の楽器にも、常に興味を持ち観察すること

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の６０％）
平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度用意する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講師のスケジュールにより、順番、内容が変更になる可能性あり

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、楽器の分類
2	ギター１：歴史、種類
3	ギター２：構造
4	ギター３：奏法、チューニング
5	ギター４：歴史的名演
6	E. ベース１：歴史、種類
7	E. ベース２：構造
8	E. ベース3：奏法
9	E. ベース4：歴史的名演
10	ドラム１：歴史、種類、構造
11	ドラム2：奏法、リズム
12	ドラム3：同期のテクニック
13	ドラム4：グルーヴ、歴史的名演
14	A. ギター１：歴史、種類、構造
15	A. ギター２：奏法、歴史的名演

授業計画	
	［後期］
1	パーカッション１：歴史、種類、構造
2	パーカッション２：奏法、セッション
3	キーボード１：ピアノ属
4	キーボード２：アナログ・シンセサイザー
5	キーボード３：オルガン
6	キーボード４：デジタル・シンセサイザー
7	コンピューター１：ハードウェア、ソフトウェアの歴史
8	コンピューター２：サンプリング・テクノロジー
9	A. ベース：コントラ・バス
10	エスニック１：バンジョー
11	エスニック２：様々な民族楽器
12	エフェクター
13	マイクロフォン
14	ヴォーカル
15	コーラス

科目名	マスタークラス・セッション１～４　（集）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE757500	科目コード	GE7575d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロの仕事現場に接することで、到達すべきレベル、仕事への取り組み方、スケール感、緊張感等を実体感する。

２．授業概要

企画内容により異なるが、R&P講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ただ単に見学するのではなく、自分に取ってどの部分が有益であるかを、常に探す姿勢でいること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてその都度用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース、講師のスケジュールにより、回数は変動する場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする①
2	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする②
3	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする③
4	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする④
5	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする⑤
6	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする⑥
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2 （前） ［水2］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE7587B0	科目コード	GE7587	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

原曲を分析し１ホーン４リズムのバンドアレンジを組み立てるまでのノウハウを修得する。とくにキックの作り方、アレンジャーズ・コーラスの作り方、アレンジ全体の構成の仕方を重点的に学び、ひとつの作品に仕上げスコアで表現できるようにする。

２．授業概要

講義、および課題の音出しを通じてアレンジングの訓練を行う。ファイナル・プロジェクトではアレンジ→リハーサル→音出しのプロセスを体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題とファイナル・プロジェクト作品の制作

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト
他にスコアシートやパート譜用の五線紙の購入が必要となります（授業内で案内します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	アレンジとは何か（なぜアレンジの勉強が必要か） ソングフォームの分析、アレンジメント・フォーム
2	アレンジャーズコーラスとは メロディーの分析（ハーモニック・アンティシペーション）
3	ドラムス，ベースのノーテーションの復習
4	ギター，鍵盤楽器のノーテーションの復習
5	リズムセクションのノーテーションの復習 キック（きめ）とは
6	リズムセクションによるキックの作り方
7	課題の作成
8	キックの課題の音出し（実習）
9	楽器法・記譜法の復習（とくに管楽器の移調）
10	スコアシート，パート譜の書き方
11	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
12	アレンジャーズ・コーラスについての考察（どうすればアレンジャーズ・コーラスになるのか）
13	アレンジャーずコーラスの作成
14	ファイナルプロジェクト準備（構成を考える）
15	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2 （前） ［火3］Cクラス							
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE7587C0	科目コード	GE7587	期間	半期	
担当教員								
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。					
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

原曲を分析し１ホーン４リズムのバンドアレンジを組み立てるまでのノウハウを修得する。とくにキックの作り方、アレンジャーズ・コーラスの作り方、アレンジ全体の構成の仕方を重点的に学び、ひとつの作品に仕上げスコアで表現できるようにする。

２．授業概要

講義、および課題の音出しを通じてアレンジングの訓練を行う。ファイナル・プロジェクトではアレンジ→リハーサル→音出しのプロセスを体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題とファイナル・プロジェクト作品の制作

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト
他にスコアシートやパート譜用の五線紙の購入が必要となります（授業内で案内します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	アレンジとは何か（なぜアレンジの勉強が必要か） ソングフォームの分析、アレンジメント・フォーム
2	アレンジャーズコーラスとは メロディーの分析（ハーモニック・アンティシペーション）
3	ドラムス，ベースのノーテーションの復習
4	ギター，鍵盤楽器のノーテーションの復習
5	リズムセクションのノーテーションの復習 キック（きめ）とは
6	リズムセクションによるキックの作り方（キックの課題）
7	キックの課題の音出し（実習）
8	キックの課題の音出し（実習）
9	楽器法・記譜法の復習（とくに管楽器の移調）
10	スコアシート，パート譜の書き方
11	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
12	アレンジャーズ・コーラスについての考察（どうすればアレンジャーズ・コーラスになるのか）
13	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問
14	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問
15	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3 （後） ［月3］Aクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE7588A0	科目コード	GE7588	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

管楽器による4声（５管編成）までのボイシングの基礎（クローズボイシング、オープンボイシング、アプローチリハモナイゼーション，スプレッドボイシング）を修得する。

２．授業概要

4声アレンジで用いる様々なボイシングテクニックを学び、スコアで正しくコントロールできるようにする。15回の授業が終了した後「ファイナルプロジェクト」を実施する。「ファイナルプロジェクト」では自分の書いた5管＋リズムセクションの作品を実際にアンサンブルを編成して音を出し、当授業で学んだことが全て修得できているかをチェックする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題と「ファイナルプロジェクト」作品の制作、音出しメンバーのブッキング→リハーサル

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座で学ぶことは音楽家として活動する際に最低限身につけておくべき知識であり、その後の学習を進めるために不可欠な基礎となります。必ず修得しましょう。なお、一回一回の授業内容がかなりのボリュームになるので、できるだけ欠席をせず課題のひとつひとつをこなしてゆくことが大切です。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／「ユニゾン」
2	「2パート・ソリ」
3	「２パート・ソリ」音出し
4	「４ウェイ・クローズ」
5	「４ウェイ・クローズ」音出し
6	「アプローチ・リハモナイゼーション」
7	「アプローチ・リハモナイゼーション」実践
8	「オープン・ボイシング」
9	「オープン・ボイシング」実践
10	クローズとオープンの使い分け
11	「３パート・ソリ」（クローズ、オープン）
12	「スプレッド・ボイシング」
13	「スプレッド・ボイシング」 ファイナルプロジェクト準備：スコア～パート譜の要件
14	ファイナルプロジェクトが完成するまで、を実演
15	ファイナルプロジェクト、作業進捗のチェックと質問

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3 （後） ［火3］Cクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE7588C0	科目コード	GE7588	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

管楽器による4声（５管編成）までのボイシングの基礎（クローズボイシング、オープンボイシング、アプローチリハモナイゼーション，スプレッドボイシング）を修得する。

2．授業概要

4声アレンジで用いる様々なボイシングテクニックを学び、スコアで正しくコントロールできるようにする。15回の授業が終了した後「ファイナルプロジェクト」を実施する。「ファイナルプロジェクト」では自分の書いた5管＋リズムセクションの作品を実際にアンサンブルを編成して音を出し、当授業で学んだことが全て修得できているかをチェックする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題と「ファイナルプロジェクト」作品の制作、音出しメンバーのブッキング→リハーサル

4．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座で学ぶことは音楽家として活動する際に最低限身につけておくべき知識であり、その後の学習を進めるために不可欠な基礎となります。必ず修得しましょう。なお、一回一回の授業内容がかなりのボリュームになるので、できるだけ欠席をせず課題のひとつひとつをこなしてゆくことが大切です。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／「ユニゾン」
2	「2パート・ソリ」
3	「２パート・ソリ」音出し
4	「４ウェイ・クローズ」
5	「４ウェイ・クローズ」音出し
6	「アプローチ・リハモナイゼーション」
7	「アプローチ・リハモナイゼーション」実践
8	「オープン・ボイシング」
9	「オープン・ボイシング」実践
10	クローズとオープンの使い分け
11	「３パート・ソリ」（クローズ、オープン）
12	「スプレッド・ボイシング」
13	「スプレッド・ボイシング」 ファイナルプロジェクト準備：スコア～パート譜の要件
14	ファイナルプロジェクトが完成するまで、を実演
15	ファイナルプロジェクト、作業進捗のチェックと質問

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［集中］						
代表教員	佐々木　久美	授業コード	GE7593A0	科目コード	GE7593	期間	通年
担当教員							
授業形態	グループレッスン	配当学年	1				
対象コース	Rock&Pops	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［集中］						
代表教員	佐々木　久美	授業コード	GE7593B0	科目コード	GE7593	期間	通年
担当教員							
授業形態	グループレッスン	配当学年	1				
対象コース	Rock&Pops	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ　（後）［水4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7613A0	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。
コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7613B0	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。
コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　（前）［水4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7614A0	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ⅰ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習（１）
3	記譜練習（２）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習（３）
11	アレンジ演習（４）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習（５）
15	アレンジ演習（６）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　（前）　［水4］Bクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7614B0	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ⅰ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０%）
授業への参加姿勢（評価の４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習（１）
3	記譜練習（２）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習（３）
11	アレンジ演習（４）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習（５）
15	アレンジ演習（６）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ　（後）［金3］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE761500	科目コード	GE7615	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジⅠ、アレンジⅡ、で学習、習得したスキルを持って、いますぐレコーディングスタジオへ持って行っても通用するアレンジができ、譜面にできる能力を身につける。

２．授業概要

様々な音楽に触れさせ、アレンジに触れさせ、グローバルな視野を持って活躍できるアーティスト、アレンジャーを目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
　授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アレンジⅠ、Ⅱで習得したアレンジ、記譜能力が必要。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜演習（１）
3	記譜演習（２）
4	アレンジ演習（１）
5	アレンジ演習（２）
6	リズムアレンジの復習
7	ストリングスアレンジの復習
8	ブラスアレンジの復習
9	アレンジ研究
10	アレンジ演習（３）
11	アレンジ演習（４）
12	アレンジ演習（５）
13	アレンジ演習（６）
14	アレンジ演習（７）
15	アレンジ演習（８）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ　（前）　[金3]						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE761600	科目コード	GE7616	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	R&P	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジⅢでは課題を出して基本的な実践をしました。それを元にさらなるオリジナリティーを発掘し、プロの仕事として完成させる。

２．授業概要

様々な音楽に触れさせ、アレンジに触れさせ、グローバルな視野を持って活躍できるアーティスト、アレンジャーを目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を３回の授業のうちに完成させる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０%）、　平常点（評価の６０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アレンジⅠ、Ⅱ、Ⅲの合格単位修得。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜演習（１）
3	記譜演習（２）
4	記譜演習（３）
5	アレンジ演習（１）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（１）
8	アレンジ演習（２）
9	アレンジ演習（２）
10	アレンジ演習（２）
11	アレンジ演習（３）
12	アレンジ演習（３）
13	アレンジ演習（３）
14	まとめ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ｉ　（前）　[金3] Aクラス						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE7617A0	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉ををを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ｉ　（前）　[金3] Bクラス						
代表教員	松藤　英男	授業コード	GE7617B0	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉ををを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ⅱ （後） ［金3］Aクラス						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE7618A0	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅰ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	オリジナル作品は、各自の完成に応じて常時添削。授業内の他にもG-mail添付提出利用でのメール添削やレッスンでもアドバイス致します。
1	ガイダンス（各自の作詞作曲に取り組む姿勢や熱意を確認する） 各自の作品発表と添削／ディスカッション
2	イメージトレーニング（メロディーによる心象描写） →インストロメンタルや写真などによる、インスピレーションによる作詞の演習
3	イメージトレーニングの作詞に作曲をする →自分の書いた作詞をみながら、あるいはそのイメージにあった曲づくり。
4	コード進行から発想する作曲法 →テンションコードなども交えた、1曲の完成した形のコード進行に、メロディーを載せる。
5	コード進行から発想する作曲法 →出来上がったメロディーを、譜面にまとめ、リズムを考え、楽器でデモ音源を作る。
6	推薦アーティスト研究
7	各自の自作曲あるいは推薦曲の鑑賞とディスカッション
8	テーマを決めた曲作り →人に感謝する、季節を表す、人を愛する…と歌のテーマは様々。そこから、クラスでディスカッションの上一つテーマを決めて、それぞれが作詞ないし作曲のスケッチを始める。
9	テーマを決めた曲作り →作詞から始めた人はそれにメロディーを、作曲から始めた人はそれに作詞を載せる。譜面に書く。（デモ音源を作る。）
10	オリジナリティーとは？ →テーマが同じいろいろなアーティストの同名異曲を聞き比べ、アーティストの個性や感性を探る
11	作詞と作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手をそれぞれ分担して、プロ作家の仕事を体験する。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲を分担する。パートナーを見つけ、曲作りのテーマを話し合う。決まったら、制作開始。
13	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →コラボレーションした作品を、デモ音源の形にしてみる。その中で、手直しをしていく。
14	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。
15	作品鑑賞会

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ⅱ （後） ［金3］Bクラス						
代表教員	松藤　英男	授業コード	GE7618B0	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ｉ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・作詞作曲初心者向けに授業時間内にメロディの発想、詞の発想を行ない
　譜面にメロディを記し他者に伝えることを主なる目的とする。
・自身のオリジナル楽曲を作成しイベントなどで発表できるようになることも、さらなる目的である。

２．授業概要

・隔週で作曲と作詞を交互に行なう。
・基本はCメジャー（ハ長調）でメロディを記譜する。（できるだけ1オクターブで発想する）
・全員のメロディを使い講師が楽曲をまとめ、その曲に対して作詞を行なう。
・決められた課題で詞を発想する。
・授業の最後にキーワードに従って一人づつが連想する言葉を記録する。
（作詞用データベース作り）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。

４．成績評価の方法及び基準

・期末に自身で発想した楽曲を提出させた成果、講義等における授業への取組み、
授業参加態度等を総合的に評価して行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・講師のオリジナル楽曲・音源。生徒全員で発想した作詞用データベース。

生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞／作曲Ｉ　（前）の単位習得済みの学生　！

授業計画	
	・作曲課題、コード進行から発想した楽曲を記譜する。 ・作詞課題、上記で書いた曲に詞をつける。 全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。
1	カノン進行作曲課題
2	カノン進行作詞課題 （前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
3	王道進行コード作曲課題
4	王道進行作詞課題 （前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
5	reggaeコード作曲課題
6	reggaeコード作詞課題 （（前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
7	PM進行作曲課題
8	PM進行作詞課題 （前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
9	TK進行作曲課題
10	TK進行作詞課題 （前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
11	GHコード作曲課題
12	GHコード作詞課題 （前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
13	OKコード作曲課題
14	OKコード作詞課題（ 前授業で書いた曲に詞をつける。全員のメロディをコラージュした曲に詞をつける。）
15	後期まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ⅲ　（前）　[木3]						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE761900	科目コード	GE7619	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅱ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
　楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
　人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
　自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
　自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
　楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
　作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	授業外でもオリジナル作品は、各自の完成に応じて、Gmail添付などで常時添削します。 ［半期］
1	イメージトレーニグ →テーマのインストロメンタルを聞いたり写真を見て、インスピレーションによる言葉並べ
2	イメージトレーニング →前回の言葉並べのスケッチを、作詞にまとめる
3	イメージトレーニング →作詞を見ながら、メロディーラインを考える
4	イメージトレーニング →思いついたメロディーの構成をまとめて、作詞を載せて完成させる
5	各自作品発表と添削／ディスカッション
6	視点を変えた作品創作方法を考える（作詞の世界観、作曲のリズムなど） →変わった思考や着眼点の曲を持ち寄り探る
7	作詞作曲と編曲のイメージトレーニング →作詞作曲の作業から、いかに編曲のイメージを固めるかのサゼッションと実際のレコーディングされたバンドでの音源を聞きながら、ディスカッション。同じ曲をいくつかの別バージョンでアレンジされているものを聞き比べる。
8	コード進行からイメージする曲作り →テーマのコード進行から、思いついたメロディーラインを譜面に書く
9	コード進行からイメージする曲作り →前回できたメロディーに作詞を載せる
10	各自作品発表と添削／ディスカッション
11	オリジナリティーとは？ →同名異曲を聞き比べたり、いろいろな角度で、アーティストの感性を知る。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手の分担を決める。チームで話し合って曲のイメージをまとめ、形にする。
13	作詞作曲のコラボレーション →形になった作詞、作曲の構成など詰めて完成させる。歌の人は覚えて、楽器の演奏、DTMなどでデモ音源を作る。
14	各自作品発表と添削／ディスカッション
15	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽曲分析　（後）［木3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE762000	科目コード	GE7620	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅲ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々なジャンルのアーティストやミュージシャンをゲストに呼び、いろいろな楽曲に親しみ、より深く理解していく。
自分の感性にインスピアするものに出会うように、より多くの音楽を受け入れていく。

２．授業概要

毎回、違うジャンルのアーティストやミュージシャンをゲストに呼び、それぞれのジャンルの音楽性や楽曲の持ち味などの話を聞く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で興味を持った楽曲を通じて、それを追求し、自分の音楽性を高める努力をする。

４．成績評価の方法及び基準

オリジナル作品評価（５０%）
レポート提出（５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定なし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 様々なジャンルのアーティストやミュジシャンを呼ぶ。 授業内容は、ゲストのスケジュールにより順不同。 毎回、感じた事や参考になった事、学んだ事などをレポートで提出。
1	オールドポップス
2	ロックンロール
3	ブルース
4	フォーク　　カントリー
5	JAZZ
6	ソウルミュージック
7	シンガーソングライター
8	ハードロック
9	ファンク　パンク
10	AOR
11	ダンスミュージック
12	ヘビーメタル
13	J-POPS
14	HIP HOP
15	ラテン

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バーチャル・プロダクション （前） ［火5］Aクラス						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GE7621A0	科目コード	GE7621	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ミュージック・ビジネス」を単位習得済の学生または、履修中の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ロック＆ポップスコースのイベント、及びROPSレーベルの企画、制作を通じて、イベント・プロデュース、映像／音源制作プロデュースの手法を身につける。

2．授業概要

コースのイベントスケジュールに合わせ、チーム毎に企画、制作を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に新しいアイデアを持ち、進化型のプロデュースを心がけるように。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度、貢献度(評価の100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ミュージック・ビジネス」の単位取得者及び履修者。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～業界分析
2	Second Season企画
3	3/4企画
4	プリ・プロ／ポス・プロ研究１
5	プリ・プロ／ポス・プロ研究２
6	The Debut!!企画
7	Last Spurt企画
8	イベント統括１
9	ROPS企画
10	Natsuon Street企画
11	イベント総括２
12	ROPS制作
13	Next Generation企画
14	イベント総括３
15	後期制作企画

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バーチャル・プロダクション （後） ［火5］Bクラス						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GE7621B0	科目コード	GE7621	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ミュージック・ビジネス」を単位習得済の学生または、履修中の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ロック＆ポップスコースのイベント、及びROPSレーベルの企画、制作を通じて、イベント・プロデュース、映像／音源制作プロデュースの手法を身につける。

2．授業概要

コースのイベントスケジュールに合わせ、チーム毎に企画、制作を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に新しいアイデアを持ち、進化型のプロデュースを心がけるように。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度、貢献度(評価の100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ミュージック・ビジネス」の単位取得者及び履修者。

授業計画	
	［半期］
1	Next Generation制作１
2	Next Generation制作２
3	イベント総括１
4	Song Writers企画
5	プロモーション研究
6	Song Writers制作
7	映像作品研究１
8	映像作品研究２
9	イベント総括２
10	FUYUON企画
11	FUYUON制作１
12	FUYUON制作２
13	FUYUON総括
14	HARVEST企画
15	卒業イベント企画

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7622AO	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１
14	課題制作２
15	課題製作３・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Bクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7622B0	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１
14	課題制作２
15	課題製作３・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Cクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7622CO	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１
14	課題制作２
15	課題製作３・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）［金2］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7623AO	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1
14	課題制作2
15	課題制作3・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）［金2］Bクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7623B0	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1
14	課題制作2
15	課題制作3・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）　[金2] Cクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7623C0	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1
14	課題制作2
15	課題制作3・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	キャリアデザイン講座１　（前）　[月2]						
代表教員	キャリアデザイン講座	授業コード	GE770400	科目コード	GE7704	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・自己理解の促進と、社会への興味喚起を通じ、その接点を考えていく。
・音楽業界を中心に、様々な産業や経済、業界、企業の仕組みについて理解を深め、社会に対する興味・関心を高める。
・音大生として、社会に求められる能力やスキル、資質などに気づき、それらを自ら学べるようになる。
・一般的な職種や仕事、働き方についての知識を得ることで、在学中から卒業後へのキャリアデザインを試みる。
・グループワークやディスカッションなどの共同作業をとおして、仲間とのより良いコミュニケーションのあり方を習得する。

２．授業概要

人生を考える（キャリアデザインをする）際、まず知るべきは「自分」です。その後に「社会」を知り、繋ぎ合わせていきます。
この授業では、キャリア理論を使い「自分を知る」ということから始め、多くの学生が「人間力」「社会人基礎力」を知るために活用する基礎力測定テスト「ＰＲＯＧ」も実施します。さらには、そこから一歩を踏み出し、「社会を知る」を進めていきます。

キャリア理論や測定テスト以外にも、実際の社会から多くのゲストをお呼びし、学校の外に広がる現状を学習・想像しながら、「自分と社会」を繋ぎ合わせて行きます。ゲストをお呼びしない際も、身近な事例を取り上げ、たとえば音楽ビジネスがどのような仕組みや、人々で成り立ち、お金の流れなど、学内からでは気づきにくい側面を理解をしていくことで、卒業後のキャリアを考え、社会人として活躍するためには自分がどのように行動したらよいか、を考えていきます。

日々の授業ではグループワークやディスカッションを取り入れ、仲間と一緒に考えたり意見交換をしたりする中で、お互いを尊重し思いや

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業に沿って、その都度指示します。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への出欠席、参加姿勢（興味・関心、態度・意欲）６０％
・提出課題（授業理解、文章内容）２０％
・振り返りシートの内容　２０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業の都度、配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 授業の目的について
2	チームビルデイング グループワークを通じて自己理解を深めよう
3	自らを知る（１） 自分にとってのモチベーションとは？
4	自分を知る（２） コミュニケーションスタイルについて
5	ゲストセッション（１） 卒業（モデルケース）の経験を通じて
6	自分を知る（３） コミュニケーションスタイルの認識
7	社会を知る（１） 営業職や販売職について
8	社会を知る（２） 専門・技術職や、事務職（一般・経理・労務）について。
9	ゲストセッション（２） 音楽業界について
10	社会を知る（３） 音楽業界の仕組みについて
11	社会を知る（４） メディア業界（放送・映画）について
12	プランニング（１） FPについて考える
13	プランニング（２） 労働法規や労働トラブル、雇用形態と納税・給与の仕組み
14	プランニング（３） 未来へのモチベーションを高めよう
15	レビュー 総合振り返り

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	キャリアデザイン講座２　（後）　[月2]						
代表教員	キャリアデザイン講座	授業コード	GE770500	科目コード	GE7705	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・　社会を生きる上で大切なコミュニケーションに関して、体感ワークを通して実践的に学ぶ。
・　就職活動やオーディションをはじめ、社会で求められる「相手に伝わる」文章の書き方を習得する。
・　自己理解、他者理解を深め、社会で求められる力を知ることで、より自信を持って学生生活に打ち込めるようになる。

２．授業概要

社会で求められる力を知っていますか。自分が持っている力を知っていますか。そして、それを伝えられますか。
誰しもが、社会で通用する「らしさ」の種を持っています。そしてそれは、ひとりひとり違います。
それがどんな「らしさ」なのかを知り、これまでの経験が将来にどうつながるのかを知ることで、自信を持って「今」に取り組めるようになり、「将来」に向かう力も湧いてきます。
授業では、今後社会を生きる上で大切になる「コミュニケーション力」を養うことをベースに、自己理解、相互理解を深めながら、「協働」経験を重ねていきます。それにより、学生生活や、大学卒業後、自信を持って歩む力をつけることを目指します。そのため、グループワークが中心となります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを、日常生活で活かしてください。

４．成績評価の方法及び基準

・　授業への参加姿勢（評価60%）
・　課題提出（評価20%）
・　振り返りシートの内容（評価20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。
基本的にはありませんが、履修希望者が多い場合は、初回の授業参加者からの抽選とさせて頂きます。

授業計画	
	［半期］
1	コミュニケーションとはなにかを知る コミュニケーションについて
2	コミュニケーションスタイルの違いを知る（１） 自分と他人について理解する
3	コミュニケーションスタイルの違いを知る（２） 自分と他人との関係を作る
4	コミュニケーションに必要なスキルを学ぶ（１） 聴く力を学ぶ
5	コミュニケーションに必要なスキルを学ぶ（２） 聴く力を活かす
6	コミュニケーションに必要なスキルを学ぶ（３） 受け入れることからかかわりが変わる
7	コミュニケーションに必要なスキルを学ぶ（４） 自己共感と他者共感を学ぶ
8	社会と自分をつなげる（１） 選択することを学ぶ
9	社会と自分を繋げる（２） 生きる責任について学ぶ
10	相手に伝わる自己表現を学ぶ（１） 自分を伝える言葉を探す
11	相手に伝わる自己表現を学ぶ（２） 自分を文章で伝える
12	相手に伝わるプレゼンテーションを学ぶ 相手と場に働きかける
13	グループワーク（１） かかわりを通して成長する
14	グループワーク（２） 対話を通してつながりを創り出す
15	まとめ 学んだこと～これからに向けて

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710A0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水1］Bクラス						
代表教員	マーティン　宏美	授業コード	GE7710B0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水2］Cクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710C0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水2］Dクラス						
代表教員	マーティン　宏美	授業コード	GE7710D0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水4］Eクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7710E0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水4］Fクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710F0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水5］Gクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710G0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［金3］Hクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7710H0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ （前） ［金3］Jクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710J0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711A0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水1］Bクラス						
代表教員	マーティン　宏美	授業コード	GE7711B0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水2］Cクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711CO	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水2］Dクラス						
代表教員	マーティン　宏美	授業コード	GE7711D0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水4］Eクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7711E0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水4］Fクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711F0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［水5］Gクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711GO	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［金3］Hクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7711HO	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II （後） ［金3］Jクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711J0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語２－Ｉ （前） ［水5］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE771200	科目コード	GE7712	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌(Jazz＆Pops)とスピーキング・アクティビティーを通して「使える英語」を実践的に学び、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる力を身につけられることである。

２．授業概要

英語によるプレゼンテーションや歌を通して、スピーキング力とリスニング力を高める。
(1) JazzやPopsを使って、音声変化のルールを学び、リスニング・スピーキング力の向上を目指す。歌詞の背景を探りながら、英語らしい発音で歌う-SMILE、 ALL OF ME、 WHEN YOU WISH UPON A STAR、 IF、 BECAUSEなど。
(2) プレゼンは<リサーチ → 準備 → 練習 →発表>を行い、プレゼンテーション・スキルのコツを学ぶ。
（３）プロジェクトはテーマに従って、シナリオを書き、発表し合う－Tour Project、Favorite Music Project など。
（４）覚えておくと必ず使えるフレーズを映画やTVドラマ、コマーシャルから実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、授業外に準備と練習。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

プレゼンとプロジェクト（評価の５０％）
試験（評価の２０％）
宿題（評価の１０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト名：　Viva! San Francisco　Video Approach to Survival English
著者: Hiroto Ohyagi, Timothy Kiggell
出版社：Macmillan Languagehouse
定価：2000円

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

英語が苦手な学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。
いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合がある。
1	シラバスの記載事項について確認する。 Guidance & Introduction
2	Short speech、UNIT 1-リスニング
3	プレゼン①-リサーチ、UNIT 1-スピーキング
4	プレゼン①-準備、UNIT 2-リスニング
5	プレゼン①-練習、UNIT 2-スピーキング
6	プレゼン①-発表、 プレゼン②-リサーチ、UNIT 3-リスニング
7	プレゼン②-準備、UNIT 3-スピーキング
8	プレゼン②-練習、UNIT 4-リスニング
9	プレゼン②-発表、プレゼン③-リサーチ、UNIT 4-スピーキング
10	プレゼン③-準備、UNIT 5-リスニング
11	プレゼン③-練習、UNIT 5-スピーキング
12	プレゼン③-発表、UNIT 6-リスニング
13	プロジェクト発表①-準備・練習、UNIT 6-スピーキング
14	プロジェクト発表②-練習と発表
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語２－II （後） ［水5］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE771300	科目コード	GE7713	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語２－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌(Jazz＆Pops)とスピーキング・アクティビティーを通して「使える英語」を実践的に学び、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる力を身につけられることである。

２．授業概要

英語によるプレゼンテーションや歌を通して、スピーキング力とリスニング力を高める。
（1）JazzやPopsを使って、音声変化のルールを学び、リスニング・スピーキング力の向上を目指す。歌詞の背景を探りながら、英語らしい発音で歌う-EVERY BREATH YOU TAKE、WHAT A WONDERFUL WORLD、A SONG FOR YOU、THAT'S WHAT FRIENDS ARE FOR、クリスマスソング、など。
（2）プレゼンは＜リサーチ → 準備 → 練習 →発表＞を行い、プレゼンテーション・スキルのコツを学ぶ。
（３）プロジェクトはテーマに従って、シナリオを書き、発表し合う－Tour Project、Favorite Music Project など。
（４）覚えておくと必ず使えるフレーズを映画やTVドラマ、コマーシャルから実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、授業外に準備と練習。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

プレゼンとプロジェクト（評価の５０％）
試験（評価の２０％）
宿題（評価の１０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト名：　Viva! San Francisco　Video Approach to Survival English
著者: Hiroto Ohyagi, Timothy Kiggell
出版社：Macmillan Languagehouse
定価：2000円

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

英語が苦手な学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。
いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合がある。
1	Guidance & Introduction、Review UNIT 1-3
2	Short speech、Review UNIT 4-6
3	プレゼン④-リサーチ、UNIT 7 -リスニング
4	プレゼン④-準備、UNIT 7-スピーキング
5	プレゼン④-練習、 UNIT 8-リスニング
6	プレゼン④-発表、 プレゼン⑤-リサーチ、UNIT 8-スピーキング
7	プレゼン⑤-準備、UNIT 9-リスニング
8	プレゼン⑤-練習、UNIT 9-スピーキング
9	プレゼン⑤-発表、プレゼン⑥-リサーチ、UNIT 10-リスニング
10	プレゼン⑥-準備、UNIT 10-スピーキング
11	プレゼン⑥-練習、歌（クリスマスソング)- リスニング、UNIT 11-リスニング
12	プレゼン⑥-発表、歌（クリスマスソング)-歌詞と発音指導、UNIT 11-スピーキング
13	プロジェクト発表①-準備・練習、UNIT 12-リスニング
14	プロジェクト発表②-練習と発表、UNIT 12-スピーキング
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－Ｉ（前）［水1］Aクラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7714A0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－Ｉ （前） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7714B0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－Ｉ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE7714C0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7715A0	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「独語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1-I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7715BO	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「独語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1−I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5〜6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE7715CO	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「独語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1−I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5〜6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語２－Ｉ （前） ［水5］						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE771600	科目コード	GE7716	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「独語1-I、II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツで生まれたさまざまな音楽を学ぶには、程度の差はあっても、ドイツ語の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルと共にドイツ語も学べば、ドイツやヨーロッパの音楽に対する思いも一層深まるのではないでしょうか。「独語１」で学んだ内容を確かなものにしながら、総合的なドイツ語の運用能力を高めていきましょう。

２．授業概要

「独語１」で学んだ内容を復習しながら短い文章や会話文に慣れていくなかで、一通りの初級文法の理解と定着を図ることを目標とします。ドイツ語文化圏事情についても、内容を理解しやすいように補助教材や映像資料なども活用していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の学習事項や単語の定着を図るため、簡易な復習課題を適宜指示します。また、その定着度について小テストで確認します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験：評価の５０％
平常点（課題提出、授業内の小テスト）：評価の２５％
授業への参加姿勢：評価の２５％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）
収録語数５～６万語程度の独和辞典

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件：
１．原則として「独語１」の単位を修得した学生
２．辞書（独和辞典）を必ず持参する
３．30分以上の遅刻は欠席とみなし、また遅刻は3回で1回の欠席とみなす。
４．全体の1／3以上欠席したものには原則として期末試験の受験を認めない

初回授業の際に、「独語１」の内容確認テスト（テキスト・辞書等持ち込み可）を行う。履修人数が多数の際には、このテストの結果によって履修制限を行う場合もある。

授業計画	
	［半期］2-I
1	ガイダンスおよび確認テスト
2	動詞の現在人称変化（規則・不規則変化）／語順／ja・neinの使い方
3	会話：自己紹介／読み物 Guten Tag
4	名詞（定冠詞・不定冠詞）の性と格／名詞の複数形／人称代名詞
5	会話：美術館で／読み物： Cool Japan
6	命令形／非人称のes／時刻の表現
7	会話：ヴィーン／読み物：Wien
8	定冠詞類／不定冠詞類／人称代名詞の3格と4格
9	会話：買い物／読み物：Porträt meiner Familie
10	前置詞／疑問代名詞
11	会話：バーゼルで／読み物：Basel
12	助動詞／従属の接続詞と副文／分離動詞と非分離動詞
13	会話：コンサートに行きたい／読み物：Ryota geht ins Konzert
14	前期の復習
15	前期試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	独語２ - II （後） ［水5］						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE771700	科目コード	GE7717	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「独語2-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツで生まれたさまざまな音楽を学ぶには、程度の差はあっても、ドイツ語の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルと共にドイツ語も学べば、ドイツやヨーロッパの音楽に対する思いも一層深まるのではないでしょうか。「独語１」や「独語２－I」で学んだ内容を確かなものにしながら、総合的なドイツ語の運用能力を高めていきましょう。

２．授業概要

「独語１」で学んだ内容を復習しながら短い文章や会話文に慣れていくなかで、一通りの初級文法の理解と定着を図ることを目標とします。ドイツ語文化圏事情についても、内容を理解しやすいように補助教材や映像資料なども活用していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の学習事項や単語の定着を図るため、簡易な復習課題を適宜指示します。また、その定着度について小テストで確認します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験：評価の５０％
平常点（課題提出、授業内の小テスト）：評価の２５％
授業への参加姿勢：評価の２５％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）
収録語数５～６万語程度の独和辞典

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件：
１．原則として「独語2-I」の単位を修得した学生
２．辞書（独和辞典）を必ず持参する
３．30分以上の遅刻は欠席とみなし、また遅刻は3回で1回の欠席とみなす。
４．全体の1／3以上欠席したものには原則として期末試験の受験を認めない

授業計画	
	［半期］2-I
1	ガイダンスおよび前期復習
2	形容詞の格語尾変化
3	形容詞・副詞の比較級
4	会話：レストランで食事／読み物：Atomkraft? Nein Danke!
5	動詞の３基本形
6	現在完了形
7	会話：週末の外出／読み物：Die Wartburg bei Eisenach
8	過去人称変化
9	再帰代名詞と再帰動詞
10	会話：ヴァイマルで／読み物：Weimar
11	zu不定詞
12	関係代名詞
13	会話：冬休みに／読み物：Kölnisch Wasser
14	後期の復習
15	後期試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－Ｉ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7718A0	科目コード	GE7718	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全部	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	前期は、フランス語の音に慣れ、簡単な挨拶や自己紹介を中心とするやさしい会話表現の習得を目標とし、初歩的な基礎文法を学びます。（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　Lecon0　アルファベ、挨拶
2	Lecon0　数字0~10、曜日、名詞の性と数
3	Lecon1　Voici,Voila, C’est, 不定冠詞と定冠詞
4	Lecon1　主語人称代名詞、-er動詞、数字11~20、疑問文(1)
5	Lecon2　形容詞(1), 動詞etre, 所有・指示形容詞
6	Lecon2　数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
7	Lecon3　動詞avoir, il y a
8	Lecon3　疑問文(2)、形容詞(2)
9	Lecon0~3の復習
10	Lecon4　場所・方向の表現、否定文、動詞aller
11	Lecon4　命令文、モノの位置
12	Lecon5　動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
13	Lecon5　動詞faire、天候表現と季節
14	Lecon4~5の復習
15	前期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－Ｉ （前） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7718B0	科目コード	GE7718	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	前期は、フランス語の音に慣れ、簡単な挨拶や自己紹介を中心とするやさしい会話表現の習得を目標とし、初歩的な基礎文法を学びます。（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　Lecon0　アルファベ、挨拶、
2	Lecon0　数字0~10、曜日、名詞の性と数
3	Lecon1　Voici,Voila, C’est, 不定冠詞と定冠詞
4	Lecon1　主語人称代名詞、-er動詞、数字11~20、疑問文(1)
5	Lecon2　形容詞(1), 動詞etre, 所有・指示形容詞
6	Lecon2　数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
7	Lecon3　動詞avoir, il y a
8	Lecon3　疑問文(2)、形容詞(2)
9	Lecon0~3の復習
10	Lecon4　場所・方向の表現、否定文、動詞aller
11	Lecon4　命令文、モノの位置
12	Lecon5　動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
13	Lecon5　動詞faire、天候表現と季節
14	Lecon4~5の復習
15	前期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－Ｉ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	スポーレ　マーシャ	授業コード	GE7718C0	科目コード	GE7718	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全部	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	前期は、フランス語の音に慣れ、簡単な挨拶や自己紹介を中心とするやさしい会話表現の習得を目標とし、初歩的な基礎文法を学びます。（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　Lecon0　アルファベ、挨拶
2	Lecon0　数字0~10、曜日、名詞の性と数
3	Lecon1　Voici,Voila, C’est, 不定冠詞と定冠詞
4	Lecon1　主語人称代名詞、-er動詞、数字11~20、疑問文(1)
5	Lecon2　形容詞(1), 動詞etre, 所有・指示形容詞
6	Lecon2　数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
7	Lecon3　動詞avoir, il y a
8	Lecon3　疑問文(2)、形容詞(2)
9	Lecon0~3の復習
10	Lecon4　場所・方向の表現、否定文、動詞aller
11	Lecon4　命令文、モノの位置
12	Lecon5　動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
13	Lecon5　動詞faire、天候表現と季節
14	Lecon4~5の復習
15	前期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7719AO	科目コード	GE7719	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「仏語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、発音指導に重点を置き、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	後期は、前期に学習した内容をさらに発展させ、より内容豊かな口語表現力と文法事項を学びます。　（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　前期の復習
2	Lecon6　疑問詞のある疑問文、時刻表現
3	Lecon6　月名、レストランで予約をする
4	Lecon7　比較級、色の形容詞
5	Lecon7　洋服を買う、目的語人称代名詞
6	Lecon8　代名動詞、最上級
7	Lecon8　非人称構文、地下鉄に乗る
8	Lecon6～8の復習
9	Lecon9　複合過去(1)
10	Lecon9　-ir動詞、レストランで注文する
11	Lecon10　複合過去(2)
12	Lecon10　近い未来
13	Lecon10　近い過去
14	Lecon9~10の復習
15	後期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7719B0	科目コード	GE7719	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「仏語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、発音指導に重点を置き、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	後期は、前期に学習した内容をさらに発展させ、より内容豊かな口語表現力と文法事項を学びます。 （以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　前期の復習
2	Lecon6　疑問詞のある疑問文、時刻表現
3	Lecon6　月名、レストランで予約をする
4	Lecon7　比較級、色の形容詞
5	Lecon7　洋服を買う、目的語人称代名詞
6	Lecon8　代名動詞、最上級
7	Lecon8　非人称構文、地下鉄に乗る
8	Lecon6~8の復習
9	Lecon9　複合過去（1）
10	Lecon9　-ir動詞、レストランで注文する
11	Lecon10　複合過去（2）
12	Lecon10　近い未来
13	Lecon10　近い過去
14	Lecon9~10の復習
15	後期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	スポーレ　マーシャ	授業コード	GE7719C0	科目コード	GE7719	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、国内フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、発音指導に重点を置き、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語-Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	後期は、前期に学習した内容をさらに発展させ、より内容豊かな口語表現力と文法事項を学びます。　（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　前期の復習
2	Lecon6　疑問詞のある疑問文、時刻表現
3	Lecon6　月名、レストランで予約をする
4	Lecon7　比較級、色の形容詞
5	Lecon7　洋服を買う、目的語人称代名詞
6	Lecon8　代名動詞、最上級
7	Lecon8　非人称構文、地下鉄に乗る
8	Lecon6～8の復習
9	Lecon9　複合過去(1)
10	Lecon9　-ir動詞、レストランで注文する
11	Lecon10　複合過去(2)
12	Lecon10　近い未来
13	Lecon10　近い過去
14	Lecon9~10の復習
15	後期試験およびまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語２－Ｉ （前） ［水5］						
代表教員	スポーレ　マーシャ	授業コード	GE772000	科目コード	GE7720	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「仏語１」で習った基本的な文法を復習しながら、過去形、未来形、条件法を視野に入れたさらに複雑な表現を学びます。
実際の場面で使われる会話表現のトレーニングを通し、フランス語によるコミュニケーション能力と文法の基礎的運用能力を培うことを目標とします。
また、フランス歌曲やフレンチ・ポップス、童謡など、フランスの音楽に触れることで、フランス語により親しみを持てるようになりましょう。

２．授業概要

基本的には教科書に沿って進めていき、基礎文法をしっかりと身につけてゆきます。
その応用編として、学期後半ではさまざまな詩（とくに音楽のついたもの）、つまりフランス歌曲の詞など、いろいろな文章を読む機会も作ります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

外国語をマスターするには、繰り返し学習することが極めて大切です。したがって、授業の後は必ず復習し、課題をおこない、次の授業に備えて、わからない所は辞書を引いて予め調べ、質問ができるようにしておいてください。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」
なお、成績評価は相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：「Rythmes & Communication」（朝日出版、2017）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として「仏語１」の単位を修得した学生であること（未修得者は応相談）。
既習事項の復習にも時間を割く予定なので、「仏語１」で学んだ内容をある程度忘れてしまっていても、やる気さえあれば受講は可能です。

授業計画	
	［半期］ 前期は前年度に学習した内容を基礎に学習を進め、後半ではフランスの音楽に触れる機会を作ります。
1	ガイダンス　ー年次の復習
2	etre動詞・avoir動詞の現在形、名詞と冠詞、形容詞
3	-er動詞の現在形、否定文と疑問文など
4	動詞aller, venir, faire
5	これまでの復習
6	-ir動詞、疑問形容詞、所有形容詞
7	命令形、動詞vouloir, pouvoir
8	動詞prendreなど、さまざまな疑問詞
9	フランス歌曲の詩を読む（１）、文法の復習
10	フランス歌曲の詩を読む（２）、文法の復習
11	フランス歌曲の詩を読む（３）、文法の復習
12	フランス歌曲の詩を読む（４）、文法の復習
13	フランス歌曲の詩を読む（５）、文法の復習
14	フランス歌曲の詩を読む（６）、文法の復習
15	前期の総合復習

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	仏語２－II （後） ［水5］						
代表教員	スポーレ　マーシャ	授業コード	GE772100	科目コード	GE7721	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「仏語１」で習った基本的な文法を復習しながら、過去形、未来形、条件法を視野に入れたさらに複雑な表現を学びます。
実際の場面で使われる会話表現のトレーニングを通し、フランス語によるコミュニケーション能力と文法の基礎的運用能力を培うことを目標とします。
また、フランス歌曲やフレンチ・ポップス、童謡など、フランスの音楽に触れることで、フランス語により親しみを持てるようになりましょう。

２．授業概要

基本的には教科書に沿って進めていき、基礎文法をしっかりと身につけてゆきます。
その応用編として、学期後半ではさまざまな詩（とくに音楽のついたもの）、つまりフランス歌曲の詞など、いろいろな文章を読む機会も作ります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

外国語をマスターするには、繰り返し学習することが極めて大切です。したがって、授業の後は必ず復習し、課題をおこない、次の授業に備えて、わからない所は辞書を引いて予め調べ、質問ができるようにしておいてください。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」
なお、成績評価は相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：「Rythmes & Communication」（朝日出版、2017）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として「仏語１」の単位を修得した学生であること（未修得者は応相談）。
既習事項の復習にも時間を割く予定なので、「仏語１」で学んだ内容をある程度忘れてしまっていても、やる気さえあれば受講は可能です。

授業計画	
	［半期］ 前期は前年度に学習した内容を基礎に学習を進め、後半ではフランスの音楽に触れる機会を作ります。
1	ガイダンス　前期の復習
2	代名動詞、比較級、最上級
3	複合過去形、関係代名詞que
4	受動態、目的語人称代名詞、関係代名詞qui
5	これまでの復習
6	半過去形
7	単純未来形
8	条件法
9	フランス歌曲の詩を読む（１）、文法の復習
10	フランス歌曲の詩を読む（２）、文法の復習
11	フランス歌曲の詩を読む（３）、文法の復習
12	フランス歌曲の詩を読む（４）、文法の復習
13	フランス歌曲の詩を読む（５）、文法の復習
14	フランス歌曲の詩を読む（６）、文法の復習
15	前期の総合復習

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－Ｉ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7722A0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	1. Pronti....? Via! : アルファベット、名詞
2	1. Pronti...? Via! : 形容詞、冠詞
3	1. Pronti...? Via! : 主語人称代名詞、動詞
4	1. Pronti...? Via! : まとめ
5	2. Piacere! : essere
6	2. Piacere! : 再帰動詞 chiamarsi
7	2. Piacere! : まとめ
8	2. Piacere! : 自己紹介
9	3. La famiglia : avere
10	3. La famiglia : 所有形容詞、数詞1~30
11	3. La famiglia : 前置詞と定冠詞の結合
12	3. La famiglia : まとめ
13	4. La posta : 不規則動詞 uscire
14	4. La posta : 不規則動詞 andare / venire
15	4. La posta : 指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語)

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－Ｉ （前） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7722B0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	1. Pronti....? Via! : アルファベット、名詞
2	1. Pronti...? Via! : 形容詞、冠詞
3	1. Pronti...? Via! : 主語人称代名詞、動詞
4	1. Pronti...? Via! : まとめ
5	2. Piacere! : essere
6	2. Piacere! : 再帰動詞 chiamarsi
7	2. Piacere! : まとめ
8	2. Piacere! : 自己紹介
9	3. La famiglia : avere
10	3. La famiglia : 所有形容詞、数詞1~30
11	3. La famiglia : 前置詞と定冠詞の結合
12	3. La famiglia : まとめ
13	4. La posta : 不規則動詞 uscire
14	4. La posta : 不規則動詞 andare / venire
15	4. La posta : 指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語)

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－Ｉ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7722C0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	1. Pronti....? Via! : アルファベット、名詞
2	1. Pronti...? Via! : 形容詞、冠詞
3	1. Pronti...? Via! : 主語人称代名詞、動詞
4	1. Pronti...? Via! : まとめ
5	2. Piacere! : essere
6	2. Piacere! : 再帰動詞 chiamarsi
7	2. Piacere! : まとめ
8	2. Piacere! : 自己紹介
9	3. La famiglia : avere
10	3. La famiglia : 所有形容詞、数詞1~30
11	3. La famiglia : 前置詞と定冠詞の結合
12	3. La famiglia : まとめ
13	4. La posta : 不規則動詞 uscire
14	4. La posta : 不規則動詞 andare / venire
15	4. La posta : 指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語)

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－Ｉ （前） ［水5］Dクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7722D0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	1. Pronti....? Via! : アルファベット、名詞
2	1. Pronti...? Via! : 形容詞、冠詞
3	1. Pronti...? Via! : 主語人称代名詞、動詞
4	1. Pronti...? Via! : まとめ
5	2. Piacere! : essere
6	2. Piacere! : 再帰動詞 chiamarsi
7	2. Piacere! : まとめ
8	2. Piacere! : 自己紹介
9	3. La famiglia : avere
10	3. La famiglia : 所有形容詞、数詞1~30
11	3. La famiglia : 前置詞と定冠詞の結合
12	3. La famiglia : まとめ
13	4. La posta : 不規則動詞 uscire
14	4. La posta : 不規則動詞 andare / venire
15	4. La posta : 指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語)

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7723AO	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「伊語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！−イタリア語問題集−』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	前期の総復習 5. Al telefono：疑問詞
2	5. Al telefono：不規則動詞 stare
3	5. Al telefono：時間・月の言い方
4	5. Al telefono：まとめ
5	5 Al telefono: 疑問詞　不規則動詞stare　時間・月の言い方 まとめ
6	6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere
7	6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere
8	6. Permesso?：不規則動詞 まとめ
9	6 Permesso?:まとめ
10	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞
11	7. Non mi sento bene：曜日の言い方
12	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 まとめ
13	7 Non mi sento bene:まとめ
14	辞書を使ってみよう
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7723B0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「伊語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！−イタリア語問題集−』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	前期の総復習 5. Al telefono：疑問詞
2	5. Al telefono：不規則動詞 stare
3	5. Al telefono：時間・月の言い方
4	5. Al telefono：まとめ
5	5 Al telefono: 疑問詞　不規則動詞stare　時間・月の言い方 まとめ
6	6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere
7	6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere
8	6. Permesso?：不規則動詞　まとめ
9	6 Permesso?:まとめ
10	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞
11	7. Non mi sento bene：曜日の言い方
12	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 まとめ
13	7 Non mi sento bene:まとめ
14	辞書を使ってみよう
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7723C0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「伊語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！−イタリア語問題集−』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	前期の総復習 5. Al telefono：疑問詞
2	5. Al telefono：不規則動詞 stare
3	5. Al telefono：時間・月の言い方
4	5. Al telefono：まとめ
5	5 Al telefono: 疑問詞　不規則動詞stare　時間・月の言い方 まとめ
6	6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere
7	6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere
8	6. Permesso?：不規則動詞　まとめ
9	6 Permesso?:まとめ
10	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞
11	7. Non mi sento bene：曜日の言い方
12	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 まとめ
13	7 Non mi sento bene:まとめ
14	辞書を使ってみよう
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語１－II （後） ［水5］Dクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7723D0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「伊語１−I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フィオーレ先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！−イタリア語問題集−』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	前期の総復習 5. Al telefono：疑問詞
2	5. Al telefono：不規則動詞 stare
3	5. Al telefono：時間・月の言い方
4	5. Al telefono：まとめ
5	5 Al telefono: 疑問詞　不規則動詞stare　時間・月の言い方 まとめ
6	6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere
7	6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere
8	6. Permesso?：不規則動詞　まとめ
9	6 Permesso?:まとめ
10	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞
11	7. Non mi sento bene：曜日の言い方
12	7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 まとめ
13	7 Non mi sento bene:まとめ
14	辞書を使ってみよう
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語２－Ｉ （前） ［水5］						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE772400	科目コード	GE7724	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初級イタリア語の文法をさらに発展させ、会話だけでなく、歌曲等の歌詞を読む力をつける。

２．授業概要

イタリア語文法を進めながら、進度に沿った会話を練習するとともに、辞書を使ってイタリア語の歌曲の歌詞を理解したり、イタリア語で書かれた物語に触れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習を重点的に行いましょう。練習問題集（Facciamo esercizi）を積極的に進めましょう。

４．成績評価の方法及び基準

授業に臨む姿勢５０％、学期末試験の結果５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は2冊：
『Ho capito!』菅野ヴェロニカ著（白水社）（￥2200+税）
『Facciamo esercizi ! 練習しましょう！-イタリア語問題集一』岡田由美子著（白水社）（￥950+税）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「伊語１-I」および「伊語１-II」の単位を修得した学生が望ましい。

授業計画	
	［半期］2-I
1	初級文法の総復習：動詞の活用、目的語代名詞
2	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形
3	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形
4	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形
5	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形
6	辞書を使ってみよう
7	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞
8	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞
9	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞
10	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞
11	辞書を使ってみよう
12	10 Mi e' piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞
13	10 Mi e` piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞
14	10 Mi e' piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	伊語２ - II （後） ［水5］						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE772500	科目コード	GE7725	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「伊語２-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初級イタリア語の文法をさらに発展させ、会話だけでなく、歌曲等の歌詞を読む力をつける。

２．授業概要

イタリア語文法を進めながら、進度に沿った会話を練習するとともに、辞書を使ってイタリア語の歌曲の歌詞を理解したり、イタリア語で書かれた物語に触れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習を重点的に行いましょう。練習問題集（Facciamo esercizi）を積極的に進めましょう。

４．成績評価の方法及び基準

授業に臨む姿勢５０％、学期末試験の結果５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は2冊：
『Ho capito!』菅野ヴェロニカ著（白水社）（￥2200+税）
『Facciamo esercizi ! 練習しましょう！ -イタリア語問題集ー』岡田由美子著（白水社）（￥950+税）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「伊語１-I」および「伊語１-II」の単位を修得した学生が望ましい。

授業計画	
	［半期］ 辞書を使って、イタリア語をさらに理解しましょう。
1	前期の総復習
2	11 Il lavoro:未来形　前未来
3	11 Il lavoro:未来形　前未来
4	11 Il lavoro:未来形　前未来
5	辞書を使ってみよう
6	12 Al grande magazzino:条件法
7	12 Al grande magazzino:条件法
8	12 Al grande magazzino:条件法
9	辞書を使ってみよう
10	13 Lo sport:半過去　非人称の文
11	13 Lo sport:半過去　非人称の文
12	14 Devi studiare!:stare+ジェルンディオ 命令形
13	14 Devi studiare!:stare+ジェルンディオ　命令形
14	15 Dante Alighieri:遠過去　最上級・比較級
15	映画をイタリア語で観よう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	プロエンジニアスタジオセッション１～４　（集）						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GJ124600	科目コード	GJ1246d	期間	集中
担当教員	渡辺　俊幸						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	総合音楽コース学生の履修については、音楽・音響デザインコース責任教員の承認が必要。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、セミナーあるいはワークショップの形式で実施される集中講義となっている。
植松伸夫氏、伊藤賢治氏、田中公平氏、他（順不同）の各氏の講演が予定されているが、集中講座のため実施内容の詳細については４月以降に発表される。この講座を通してプロの仕事や感覚に直に触れ、見聞を広めることがこの講座の目的である。

２．授業概要

セミナーあるいはワークショップの各回は各氏独自のテーマ設定により進められる。
授業計画はその一例である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各セッションに参加するにあたり、各氏のプロフィールなどを調べ、事前に適切な質問事項を準備することをお勧めする。
また、各セクションで得た内容を文字データとしてアーカイブすると良い。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
レポート課題（評価の70%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

ネット時代のクリエイターやミュージシャンが得する権利や著作権の本
杉本善徳（著）

新時代ミュージックビジネス最終講義 新しい地図を手に、音楽とテクノロジーの蜜月時代を生きる!
山口 哲（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修登録後、実施日については別途アナウンスされるが、各回は事前の登録制となっており、その方法については４月に音デの電子掲示板などで行うので注意すること。
その他、レポート課題あり。

授業計画	
	［前期］ サウンド制作全般について、様々な視点から講義を行う。
1	植松伸夫のミュージック・プロダクション
2	伊藤賢治のミュージックプロダクション
3	田中公平のミュージックプロダクション
4	ゲストのミュージックプロダクション
5	植松伸夫のサウンドプロダクション
6	伊藤賢治のサウンドプロダクション
7	田中公平のサウンドプロダクション
8	ゲスト講師のサウンドプロダクション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］ 各講師の音楽バックボーンから、現在に至るまでの音楽の広がりについて、様々な切り口で講義する。
1	植松伸夫のクロニクル・オブ・ミュージック
2	伊藤賢治のサウンドメイキング
3	田中公平のクロニクル・オブ・ミュージック
4	ゲストのクロニクル・オブ・ミュージック
5	植松伸夫のサウンドメイキング
6	伊藤賢治のサウンドメイキング
7	田中公平のサウンドメイキング
8	ゲスト講師のサウンドメイキング
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	リズムパフォーマンス ［金5］						
代表教員	高谷　あゆみ	授業コード	GJ149400	科目コード	GJ1494	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

基本的なダンスの動きを学び、ミュージカルなど様々なジャンルの音楽を使用し、楽しくダンスをする授業。
コミュニケーションを積極的にとり、自分たちでパフォーマンスを考え、文化祭での発表を目指します。
Let's Dance！！

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
ウォームアップ（40分）、さまざまなジャンルの音楽でのダンスの振り付け（50分）

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日のストレッチ、ウォーキング、呼吸法の復習

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
振付のテスト（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生が多い場合は、初回授業で選考する場合があります。
服装は運動しやすい服装
シューズはダンスシューズ（ジャズ・バレエ）。最初は運動靴でも可。
休み時間中に着替えをすませておくこと。他にタオル、飲み物、筆記用具を持参すること。
学園祭に出演する予定です。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
2	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
3	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
4	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
5	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
6	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
7	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
8	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
9	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
10	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
11	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
12	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
13	エウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
14	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付
15	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付

授業計画	
	［後期］
1	学園祭のパフォーマンス準備
2	学園祭のパフォーマンス準備
3	学園祭のパフォーマンス準備
4	学園祭のパフォーマンス準備
5	学園祭のパフォーマンス準備
6	学園祭のパフォーマンス準備
7	学園祭のパフォーマンス準備
8	学園祭のパフォーマンス準備
9	学園祭のパフォーマンス準備
10	学園祭のパフォーマンス準備
11	学年末テストのための振付
12	学年末テストのための振付
13	学年末テストのための振付
14	クラス試演会(ダンス・ピアノ)
15	クラス試演会(ダンス・ピアノ)

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］入門１，２限　Aクラス						
代表教員	風真　弘子	授業コード	GJ7727A0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を学ぶ。

正しい姿勢でステップを踏むことから、
リズム感やビートのとり方、基本ステップを身につける。

音楽に合わせて易しいコンビネーションが踊れるように進めます。

２．授業概要

①　ウォーミングアップ／ストレッチから軽い筋トレ、クロスフロアー

②　タップダンスでの身体の使い方や、ステップの踏み方

③　タップの基本ステップ～コンビネーション

④　音楽に合わせて自分の足でリズムを刻む楽しさを感じつつ、ダンスとしての表現やムーブメントを学んで頂きます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に入門・初級。
タップダンスが全く初めての方と、
新１年生はこちらのクラスをお勧めします。

なるべくタップシューズをご用意下さい。
新規に購入する場合の質問があれば、ご連絡下さい。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	ダンスの基礎練習
2	タップの基本的なステップを習得し、振付けを覚える
3	タップの基本的なステップを習得し、振付けを覚える
4	成果発表 ／グループごとに発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］中級３，４限　Bクラス						
代表教員	風真　弘子	授業コード	GJ7727B0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を確認したうえで、
基本ステップ～テクニカルステップを練習し、
様々なリズムの取り方やコンビネーションを学ぶ。

リズムタップからブロードウェイスタイルタップ、アカペラ・・・。
タップダンスの巾を広げ、
舞台での多様なシーンに対応出来る表現力や可能性を知る。

２．授業概要

①　ウォーミングアップ／ストレッチから軽い筋トレ、クロスフロアー

②　タップダンスでの正しい姿勢、足の使い方などの基礎の確認

③　タップの基本ステップ～テクニカルステップ・スローステップからファストステップまで
　　履修者に合わせてそれぞれがスキルアップ出来るよう進めます

④　音楽に合わせて、またはアカペラでタップを踊ります

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢　及び　タップダンスのスキル

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

タップの基本ステップをほぼ習得していることが望ましいです。

タップシューズをご用意下さい。

受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	ダンスの基礎練習
2	タップの基本的なステップからテクニカルステップを習得し、振付けを覚える
3	タップの基本的なステップからテクニカルステップを習得し、振付けを覚える
4	成果発表 ／グループごとに発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［バトミントン］１，２限　Cクラス						
代表教員	加藤　義人	授業コード	GJ7727C0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

健康の保持増進、ストレス解消、コミュニケーション法の一環として、スポーツを活用することができる。若年期には、様々なスポーツを体験し、楽しみながら継続的にできる運動を見出し、生涯スポーツとしてその方法を学ぶことが大切である。ここでは、バドミントンを通じ、基本的な運動方法を体得し、「健康」や「体力」への理解を深めることを目的とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歩行時間の確保や階段の上り下りの機会を増加するなど、日常的に全身運動を実践するように心がけることが望ましい。
また、自身の健康のあり方を認識し、規則正しい生活習慣を確立することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と技能、他の受講者との関わり方を総合的に評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。（出席を重視する）
運動用の服装及び体育館専用シューズを着用のこと。
（その他で必要なドリンクやタオルは持ち込み可）
携帯電話の使用不可、腕時計やピアス等も授業前には外しておくこと。
遊び感覚の受講はせず、運動の内容を理解し積極的に身体を動かすこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	授業ガイダンスと簡易運動
2	バドミントンの基本的な知識構築と基本練習
3	各ショットの打ち方の理解と試合戦術について
4	個人戦
5	ダブルスの試合方法の理解と簡易ゲーム
6	ダブルスの戦術学習
7	ダブルス戦
8	まとめ・実技テスト
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［バトミントン］３，４限　Dクラス						
代表教員	加藤　義人	授業コード	GJ7727D0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

健康の保持増進、ストレス解消、コミュニケーション法の一環として、スポーツを活用することができる。若年期には、様々なスポーツを体験し、楽しみながら継続的にできる運動を見出し、生涯スポーツとしてその方法を学ぶことが大切である。ここでは、バドミントンを通じ、基本的な運動方法を体得し、「健康」や「体力」への理解を深めることを目的とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歩行時間の確保や階段の上り下りの機会を増加するなど、日常的に全身運動を実践するように心がけることが望ましい。
また、自身の健康のあり方を認識し、規則正しい生活習慣を確立することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と技能、他の受講者との関わり方を総合的に評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。（出席を重視する）
運動用の服装及び体育館専用シューズを着用のこと。
（その他で必要なドリンクやタオルは持ち込み可）
携帯電話の使用不可、腕時計やピアス等も授業前には外しておくこと。
遊び感覚の受講はせず、運動の内容を理解し積極的に身体を動かすこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	授業ガイダンスと簡易運動
2	バドミントンの基本的な知識構築と基本練習
3	各ショットの打ち方の理解と試合戦術について
4	個人戦
5	ダブルスの試合方法の理解と簡易ゲーム
6	ダブルスの戦術学習
7	ダブルス戦
8	まとめ・実技テスト
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ミュージカルダンス］１，２限　Eクラス						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GJ7727E0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスに必要な柔軟性、筋力、リズム感を養い、ダンスを通して表現力と創造性の幅を広げる。

２．授業概要

ストレッチ&筋力トレーニング＆ダンス基礎
JAZZの振付け

構成、振付けのアレンジから発表

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。
運動用の服装およびシューズを着用のこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	ダンスの基礎練習
2	振付けを覚える
3	グループごとに個性を決めて作りこむ。
4	成果発表 作品としてグループごとに発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ミュージカルダンス］３，４限　Fクラス						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GJ7727F0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスに必要な柔軟性、筋力、リズム感を養い、ダンスを通して表現力と創造性の幅を広げる。

２．授業概要

ストレッチ&筋力トレーニング＆ダンス基礎
JAZZの振付け

構成、振付けのアレンジから発表

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。　４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。
運動用の服装およびシューズを着用のこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	ダンスの基礎練習
2	振付けを覚える
3	グループごとに個性を決めて作りこむ。
4	成果発表 作品としてグループごとに発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ジャズダンス］入門１，２限　Ｌクラス						
代表教員	林　七重	授業コード	GJ7727L0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎体力と柔軟な肉体とバランス感覚を養いリズム感覚を養い表現力と創造の幅を広げる。

２．授業概要

ダンス初級クラス
★授業テーマ　ダンスにおける肉体の正しい使い方と動きの流れと身体の軸を知る。

授業計画　：
●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ストレッチ。ステップ、コンビネーション、
●身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方
●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。
●音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ
●コミュニケーションと心の考え方。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、靴で臨むこと。（持っていればダンス用の靴や室内用の靴を用意する）

授業計画	
	［集中］
1	ダンス演習（基礎）
2	ダンス演習（応用）
3	ダンスの基礎ムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（基礎）
4	ダンスの基礎ムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（応用）
5	成果発表に向けての演習（基礎）
6	成果発表に向けての演習（応用）
7	成果発表に向けての演習（発展）
8	成果発表／グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ジャズダンス］中級３，４限　Ｍクラス						
代表教員	林　七重	授業コード	GJ7727MO	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

振付を理解し、表現力と創造の幅を広げる。
身体構造の理解とダンスの基礎と応用を学び、
動きの初動、連動、ダイナミズム、体重移動を修得すると共に、
複雑な動きに対応できる柔軟性と強い身体を作る。

２．授業概要

ダンス中級（経験者対象）
★授業テーマ：筋肉の正しい使い方と動きの流れとダイナミックな体重移動。そしてダンスに対しての考え方。

授業計画　：
●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ステップ、コンビネーション、
●自然な身体のあり方とエネルギーの質の変化。
●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。
●ダンステクニックを学ぶ意義、考え方。
●イメージと動きの連動、身体のコントロール。
●コミュニケーションと心の考え方。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体ラインが見える動きやすい服装。ジューズを着用すること。（ダンス用の靴やバレエシューズを用意する）
ダンスを学ぶ意味を考え、真剣に取り組み、修得する事で、よりダンスに対しての高い意識を持ってほしい。

授業計画	
	［集中］
1	ダンス演習（基礎） ●骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ
2	ダンス演習（応用） ●コントラクション、リリース、スパイラルの動き
3	ダンス演習（発展） ●身体各部位の重さ、床との接触面への気づきを高める
4	ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える
5	ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える
6	成果発表に向けての演習（応用） ●空間や他者との関係性の中で動きを展開する
7	成果発表に向けての演習（発展） ●フレーズと呼吸の関係を磨く
8	成果発表／グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［フラメンコ］１，２限　Ｎクラス						
代表教員	アントニオ　アロンソ	授業コード	GJ7727NO	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とセビジャーナスの踊りについて、それらの踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。フラメンコ入門として、セビジャーナスのリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、アバニコ(扇子)の使い方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。 授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、女性はくるぶしくらいまでの長さのスカート、靴で臨むこと。(持っていれば舞台用の靴やバレエのキャラクターシューズ、室内用の靴を用意する)　アバニコ(洋式の扇子)を持っていれば持参する事。

授業計画	
	［集中］
1	フラメンコの基礎① 正しい立ち方、上半身（腕、手のひら）の技法～サパテアード（足の打ち方）
2	フラメンコ振付① セビジャーナス 第1番・第2番のパソ（足の動き）
3	フラメンコの基礎② 上半身の使い方、サパテアード（足の打ち方）と腕の動きのコンビネーション。アバニコ（扇子）の使い方
4	フラメンコ振付② セビジャーナス 第1番・第2番のパソ（足の動き）とブラソ（腕の動き）のコンビネーション
5	フラメンコの基礎③ 復習とまとめ
6	フラメンコ振付③ セビジャーナス 第3番・第4番のパソ（足の動き）とブラソ（腕の動き）のコンビネーション
7	セビジャーナス全曲の振付確認と成果発表に向けての練習
8	セビジャーナス全曲の成果発表とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［フラメンコ］３，４限　Ｒクラス						
代表教員	アントニオ　アロンソ	授業コード	GJ7727R0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とセビジャーナスの踊りについて、それらの踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。フラメンコ入門として、セビジャーナスのリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、アバニコ(扇子)の使い方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。 授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、女性はくるぶしくらいまでの長さのスカート、靴で臨むこと。(持っていれば舞台用の靴やバレエのキャラクターシューズ、室内用の靴を用意する)　アバニコ(洋式の扇子)を持っていれば持参する事。

授業計画	
	［集中］
1	フラメンコの基礎① 正しい立ち方、上半身（腕、手のひら）の技法～サパテアード（足の打ち方）
2	フラメンコ振付① セビジャーナス 第1番・第2番のパソ（足の動き）
3	フラメンコの基礎② 上半身の使い方、サパテアード（足の打ち方）と腕の動きのコンビネーション。アバニコ（扇子）の使い方
4	フラメンコ振付② セビジャーナス 第1番・第2番のパソ（足の動き）とブラソ（腕の動き）のコンビネーション
5	フラメンコの基礎③ 復習とまとめ
6	フラメンコ振付③ セビジャーナス 第3番・第4番のパソ（足の動き）とブラソ（腕の動き）のコンビネーション
7	セビジャーナス全曲の振付確認と成果発表に向けての練習
8	セビジャーナス全曲の成果発表とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	映像と音楽　［水2］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GK010100	科目コード	GK0101	期間	通年
担当教員	冨永　憲治						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像が持つ訴求力の強さは今更言うまでもありませんが、今なぜ映像の時代なのでしょう。現代社会はあらゆる情報を要求します。報道は即時性と同時に目で確かめてこその真実性と現実感を、スポーツや映画は感動とよろこびを提供しようと、メディアはますますその活動領域を広げるのです。

とはいえ、映像が目で確かめられるからといって真実の全てを語っているわけではありません。そこにあるのは限られたフレームにおさめられた空間であり、誇張も虚構も、見る者を惑わすための作為すらありという“映像”の世界なのです。

一口に映像といっても多種多様です。映像のもつ表現力、可能性と限界というような文化論的意味に対し、音楽はどういう立場をとっているのでしょうか。多くの場合、音楽は重要な役割を果たしているとが分かります。この講座では、映像と音楽の関係を様々な作品を通して、両者の関係について自分の意見を述べられるようにすることが目的です。

２．授業概要

映像と音楽を、映画監督と作曲家という別々な視点から講義を行います。映画音楽の歴史や映像史に触れながら、その時代における特徴や手法を分析します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内では全編を観ることが難しいので、講義で話題になった作品を、授業内容に即した視点で改めて鑑賞して欲しいと思います。その際、気が付いたことや感じたことを記録してください。後期レポート課題の取り組みにおいて有益なデータとなります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の７０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）
夏休み課題「パラパラマンガ」は、加算点とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは必要な場合にはその都度配布します。

参考文献
映像史―Image Media Wars
千葉 伸夫（著）

映画映像史―ムーヴィング・イメージの軌跡
出口 丈人（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

注意事項：映像と音楽の効果を確認するために、ホラーやサスペンス、殺陣などの暴力シーンが含まれることがあります。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［前期］ 映像の出発と同時に音楽との関係も始まりますが、現代のような関係はまだ築かれていません。映像の幕開けから、その関係はどのような発展を遂げたのか探っていきます。
1	音と映像に関するあれこれ（ガイダンス）
2	映像とは？生活に密着した映像。メディア論的考察
3	無声時代の音楽？ そもそも映像に音楽必要？
4	映像の変遷と発展。映像史１
5	映像と音楽の実験からディズニー映画へ
6	映像の変遷と発展。映像史２
7	映像と音楽のシンクロ　とその発展
8	映像の変遷と発展。映像史３
9	映画音楽の幕開け、トーキー時代の音楽
10	映像の手法とその効果１
11	初期ハリウッド映画音楽を牽引した「マックス・スタイナーとアルフレッド・ニューマン」
12	映像の手法とその効果２
13	芸術を目指した初期ヨーロッパの映画音楽「プロコフィエフ」「モーリス・ジョベール」
14	映像の手法とその効果3
15	なぜバロック音楽なのか・・・「剱岳」

授業計画	
	［後期］ テクノロジーの発展が映像制作、音楽制作双方に大きな影響を与えますが、後期は映像と音楽の新しい感覚を探っていきます。
1	映像の意味。映像心理学的考察 ～「行く？帰る？」～
2	イタリア映画は音楽優位?音楽と演技が強く結びついた「エンニオ・モリコーネ」の音楽から～
3	カメラマンの仕事（宮川一夫の世界）
4	映画音楽の巨匠「ジェリー・ゴールドスミス」の音楽
5	映像製作の実際
6	ミュージシャンが映画音楽監督を担当する意味は？
7	映像のイメージ（ノーマン・マクラーレンの作品から）
8	80年代のハリウッド映画にオーケストラを復活、牽引した「ジョン・ウィリアムズ」の音楽
9	映像製作におけるダビング作業
10	過去ー未来を集約する音楽の力 （Le concert 、のだめカンタービレ他）
11	イメージを人に伝える
12	現代音楽作曲家「マイケルナイマン」「フィリップ・グラス」の音楽と映像の関係
13	映像の未来
14	オーケストラサウンドを拡張させた「ハンス・ジマー・ファミリー」
15	総括

科目名	音楽と宗教 （前） ［月5］Pクラス						
代表教員	藤原　一弘	授業コード	GK0161P0	科目コード	GK0161	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
今年度は音楽、小説、映画、アニメを題材にキリスト教の諸問題を扱います。
まず「タイム・ループ」を中心に据えた作品に盛り込まれたテーマを探ってみます。「タイム・ループ」は数多くのアニメーションで扱われていますが、授業ではアニメーション『四畳半神話大系』と映画『恋はデジャブ』を題材にして、これらの作品において「タイム・ループ」によって何を表現しようとしているのか、どんな効果があるのか、また「認識」の問題を取り上げます。
また、カズオ・イシグロ著『わたしを離さないで』（小説＆映画）、スタニスワフ・レム著『ソラリス』（小説&映画『惑星ソラリス』）、アンドレイ・タルコフスキー監督『ノスタルジア』、ジャン＝ポール・サルトル著『出口なし』を扱い、これらの作品が呈示する様々な問題、音楽、歌詞を扱います。

到達目標：
音楽、映画、小説、アニメーションという様々なジャンルを通してキリスト教の様々な問題を理解する。

２．授業概要

取り扱う作品を鑑賞し、ここで扱われている諸問題の発見、扱い方を受講生とともに考える。
映画、アニメーション作品の場合、そこで取り扱われている音楽、歌詞が作品中で果たす役割を考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う小説・戯曲に関しては、授業前にあらかじめ必ず自分で読んでおくこと。
授業後は、音楽、映画、小説、アニメーションなど繰り返し視聴、鑑賞する。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業での発言、随時行う小レポート（評価の50%）
学期末の筆記試験ないしレポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アニメ『四畳半神話大系』DVD or Blu-ray
ハロルド・ライミス監督『恋はデジャブ』DVD or Blu-ray
カズオ・イシグロ著『わたしを離さないで』、ハヤカワepi文庫 2008
マーク・ロマネク監督『わたしを離さないで』、DVD or Blu-ray
スタニスワフ・レム著『ソラリス』、ハヤカワ文庫SF 2015
アンドレイ・タルコフスキー監督『惑星ソラリス』、DVD or Blu-ray
ジャン＝ポール・サルトル著『出口なし』、サルトル全集第8巻 1952

必要な場合はプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で扱う映画、小説、アニメーション、音楽を、授業以外の時間に自分で繰り返し鑑賞するための十分な時間が取れること、授業内でこれらの作品に対する意見、感想を積極的に発信できることが条件です。

授業計画	
	毎回、指定した作品を題材に講義、ディスカッションを進める。
1	ガイダンス
2	『四畳半神話大系』1導入
3	『四畳半神話大系』2発展
4	『恋はデジャブ』1導入
5	『恋はデジャブ』2発展
6	『わたしを離さないで』1導入
7	『わたしを離さないで』2発展
8	『わたしを離さないで』3まとめ
9	『ソラリス』1導入
10	『ソラリス』2発展
11	『ノスタルジア』1導入
12	『ノスタルジア』2発展
13	『出口なし』1導入
14	『出口なし』2発展
15	まとめおよび試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽と宗教 （後） ［月5］Qクラス						
代表教員	藤原　一弘	授業コード	GK0161Q0	科目コード	GK0161	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
今年度は音楽、小説、映画、アニメを題材にキリスト教の諸問題を扱います。
まず「タイム・ループ」を中心に据えた作品に盛り込まれたテーマを探ってみます。「タイム・ループ」は数多くのアニメーションで扱われていますが、授業ではアニメーション『四畳半神話大系』と映画『恋はデジャブ』を題材にして、これらの作品において「タイム・ループ」によって何を表現しようとしているのか、どんな効果があるのか、また「認識」の問題を取り上げます。
また、カズオ・イシグロ著『わたしを離さないで』（小説＆映画）、スタニスワフ・レム著『ソラリス』（小説&映画『惑星ソラリス』）、アンドレイ・タルコフスキー監督『ノスタルジア』、ジャン＝ポール・サルトル著『出口なし』を扱い、これらの作品が呈示する様々な問題、音楽、歌詞を扱います。

到達目標：
音楽、映画、小説、アニメーションという様々なジャンルを通してキリスト教の様々な問題を理解する。

２．授業概要

取り扱う作品を鑑賞し、ここで扱われている諸問題の発見、扱い方を受講生とともに考える。
映画、アニメーション作品の場合、そこで取り扱われている音楽、歌詞が作品中で果たす役割を考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う小説・戯曲に関しては、授業前にあらかじめ必ず自分で読んでおくこと。
授業後は、音楽、映画、小説、アニメーションなど繰り返し視聴、鑑賞する。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業での発言、随時行う小レポート（評価の50%）
学期末の筆記試験ないしレポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アニメ『四畳半神話大系』DVD or Blu-ray
ハロルド・ライミス監督『恋はデジャブ』DVD or Blu-ray
カズオ・イシグロ著『わたしを離さないで』、ハヤカワepi文庫 2008
マーク・ロマネク監督『わたしを離さないで』、DVD or Blu-ray
スタニスワフ・レム著『ソラリス』、ハヤカワ文庫SF 2015
アンドレイ・タルコフスキー監督『惑星ソラリス』、DVD or Blu-ray
ジャン＝ポール・サルトル著『出口なし』、サルトル全集第8巻 1952

必要な場合はプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で扱う映画、小説、アニメーション、音楽を、授業以外の時間に自分で繰り返し鑑賞するための十分な時間が取れること、授業内でこれらの作品に対する意見、感想を積極的に発信できることが条件です。

授業計画	
	毎回、指定した作品を題材に講義、ディスカッションを進める。
1	ガイダンス
2	『四畳半神話大系』1導入
3	『四畳半神話大系』2発展
4	『恋はデジャブ』1導入
5	『恋はデジャブ』2発展
6	『わたしを離さないで』1導入
7	『わたしを離さないで』2発展
8	『わたしを離さないで』3まとめ
9	『ソラリス』1導入
10	『ソラリス』2発展
11	『ノスタルジア』1導入
12	『ノスタルジア』2発展
13	『出口なし』1導入
14	『出口なし』2発展
15	まとめおよび試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽器学 （前） ［水2］Pクラス						
代表教員	小日向　英俊	授業コード	GK0162P0	科目コード	GK0162	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

世界の多様な「楽器」を知り、音楽と人間の関係を考察する。さまざまな「楽器」について、自ら資料を探して体系的に考察が行えるようになる。

2．授業概要

「楽器」とは何か、楽器学とは何かなど、基本事項を「導入」段階で学び、地球の各地域に存在する代表的「楽器」について「各論」で学ぶ。また、後半には、様々な視点から「楽器」を考え、音楽と人間の関係へも目を向ける。
講義では、多くのビデオを参照する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ホームワークプリントの配布・回収を通じて、座学の基本的学習習慣を身につける。30分程度のビデオや音源を課題とし、これに対する回答を求める（所要時間：約1時間）。

4．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

具体的評価基準については、以下のURLに記載していますので、参照してください。

1.　洗足学園音楽大学2018年度講義「楽器学」（小日向英俊担当）学年末レポート評価ルーブリック

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を作り出す楽器の裏にある「製作技術」「職人」「環境」などにも関心を持ち、楽器を通して世界の音楽への興味を持つ学生。出席重視、授業中の飲食、私語禁止。出席に関する不正を行った者は、単位を認定しない。2/3以上の出席回数のない者は、単位認定評価対象とはしないため、学年末レポートを提出しても採点対象とはしない。

各クラス最大人数を50名とし、事前にランダム抽選により履修者を決定する。抽選に漏れた場合は、同内容の後期の履修を検討すること。

授業計画	
	[半期] 用語「楽器」、「楽器学」など基礎的事項を学び、各地域の代表的楽器について学ぶ。
1	導入：オリエンテーション
2	導入：楽器学について
3	西欧の楽器
4	西アジアの楽器
5	南アジアの楽器
6	東南アジアの楽器
7	東アジアの楽器
8	アフリカの楽器
9	ラテンアメリカの楽器
10	オセアニアの楽器
11	北アジアの楽器
12	楽器コレクション
13	電鳴楽器
14	文化の中の楽器
15	楽器の考古学

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽器学 （後） ［水2］Qクラス						
代表教員	小日向　英俊	授業コード	GK0162Q0	科目コード	GK0162	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

世界の多様な「楽器」を知り、音楽と人間の関係を考察する。さまざまな「楽器」について、自ら資料を探して体系的に考察が行えるようになる。

2．授業概要

「楽器」とは何か、楽器学とは何かなど、基本事項を「導入」段階で学び、地球の各地域に存在する代表的「楽器」について「各論」で学ぶ。また、後半には、様々な視点から「楽器」を考え、音楽と人間の関係へも目を向ける。
講義では、多くのビデオを参照する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ホームワークプリントの配布・回収を通じて、座学の基本的学習習慣を身につける。30分程度のビデオや音源を課題とし、これに対する回答を求める（所要時間：約1時間）。

4．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

具体的評価基準については、以下のURLに記載していますので、参照してください。

1.　洗足学園音楽大学2018年度講義「楽器学」（小日向英俊担当）学年末レポート評価ルーブリック

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を作り出す楽器の裏にある「製作技術」「職人」「環境」などにも関心を持ち、楽器を通して世界の音楽への興味を持つ学生。出席重視、授業中の飲食、私語禁止。出席に関する不正を行った者は、単位を認定しない。2/3以上の出席回数のない者は、単位認定評価対象とはしないため、学年末レポートを提出しても採点対象とはしない。

各クラス最大人数を50名とし、事前にランダム抽選により履修者を決定する。抽選に漏れた場合は、同内容の後期の履修を検討すること。

授業計画	
	[半期] 用語「楽器」、「楽器学」など基礎的事項を学び、各地域の代表的楽器について学ぶ。
1	導入：オリエンテーション
2	導入：楽器学について
3	西欧の楽器
4	西アジアの楽器
5	南アジアの楽器
6	東南アジアの楽器
7	東アジアの楽器
8	アフリカの楽器
9	ラテンアメリカの楽器
10	オセアニアの楽器
11	北アジアの楽器
12	楽器コレクション
13	電鳴楽器
14	文化の中の楽器
15	楽器の考古学

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	発達心理学 ［火5］						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK034400	科目コード	GK0344	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

２．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりに次週扱うテーマを提示するので、テーマに関する文献等を読み、情報収集をすると尚望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

前期レポート(40点)、学年末レポート(40点)、授業時の小レポート(20点)の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。(S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点) 評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーション：心理学と、発達心理学について
2	発達心理学：生命の誕生から死まで
3	発達心理学：胎児期と胎児の危機
4	発達心理学：乳児期と乳児の危機
5	発達心理学：乳児期の特徴
6	認知心理学：見る・見えるの心理
7	認知心理学：見る・見えるの心理２
8	認知心理学：幼児期の発達
9	発達心理学：児童期の発達その１
10	発達心理学：記憶
11	認知心理学：認知症の実態と要因１
12	認知心理学：認知症の実態と要因２
13	臨床心理学：自己とストレスマネジメント
14	臨床心理学：自己とストレスマネジメント２
15	自己理解：怒りの対処

授業計画	
	［後期］
1	オリエンテーション：前期のおさらいと後期の流れ
2	発達心理学：幼児期の特徴
3	発達心理学：発達障害とは
4	発達心理学：発達障害への支援
5	発達心理学：発達障害への支援
6	発達心理学：青年期前期・後期の特徴
7	発達心理学：成人期の特徴と危機
8	発達心理学：老年期の特徴と危機
9	社会心理学：人を惹きつける心理学
10	社会心理学：人と交わる心理学
11	臨床心理学：人格とは
12	臨床心理学：精神疾患とは
13	臨床心理学：カウンセリングのこころ
14	臨床心理学：心理療法
15	発達心理学と臨床心理学

科目名	管弦楽概論　［月3］Aクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0571A0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	CO:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。

また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著□音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	小テスト（弦楽器）
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	小テスト（木管楽器）
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	小テスト（金管楽器）
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	小テスト（打楽器、編入楽器）
14	管弦楽のスコアの書き方１
15	管弦楽のスコアの書き方２

科目名	管弦楽概論　[月3] Bクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0571B0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

2．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。

また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著□音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	小テスト（弦楽器）
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	小テスト（木管楽器）
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	小テスト（金管楽器）
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	小テスト（打楽器、編入楽器）
14	管弦楽のスコアの書き方１
15	管弦楽のスコアの書き方２

科目名	管弦楽概論　[月3] Cクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0571C0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

2．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。

また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著□音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	小テスト（弦楽器）
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	小テスト（木管楽器）
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	小テスト（金管楽器）
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	小テスト（打楽器、編入楽器）
14	管弦楽のスコアの書き方１
15	管弦楽のスコアの書き方２

科目名	音楽史 ［火2］クラシック（佐藤昌弘先生）クラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK0572A0	科目コード	GK0572	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　《ボレロ》《魔王》《運命》などのクラシック音楽の名曲はどのようにして生まれたのだろう? 「 箏」「尺八」などの和楽器はいつごろに今のような形になったのだろう? など、おもに西洋音楽(クラシック)と日本の伝統音楽を対象として、各時代でさまざまな音楽がどのように作られ、発展してきたか、その歴史とそれぞれの音楽作品の魅力について総合的に学びます。
【到達目標】
　①専攻を問わず、音楽を志す者にとって必要とされる、音楽史についての基礎知識と基本的な理解力を身につけます。
　②加えて、教職課程履修者にとっては、教科書にとりあげられている音楽史に関わるさまざまなことがらを確実に理解できるための幅広い教養を身につけます。

2．授業概要

「グレゴリオ聖歌からビートルズにいたるまで」の音楽史を、担当教員、もしくはゲストの講師、演奏家による講義と生演奏で、次の3点をポイントとして授業を行います。
　(1) さまざまな時代、さまざまな国の音楽を広く紹介します。
　(2) それぞれの時代、それぞれの国の代表的音楽作品がどのように生まれ、どのように作られたかを分析します。
　(3) それぞれの音楽が生まれた時代の「社会」「文化」「他の芸術」との関連性を考えます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

●曲の自主的鑑賞
　各回の授業でとりあげられた音楽作品を、各自あらためて鑑賞し、楽譜があればそれを追いつつ聴くことを強くすすめます。さらにはそれらに関連したさまざまな曲を、関心を広げて自主的に聴くとよいでしょう。そこからいろいろな発見が期待されます。
●時代の前後を確認しながらの予習と復習
　また、各時代の音楽が「前の時代からどのように変化し」「後の時代にどのように進化したか」その前後関係をチェックすることも大事

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度（評価の50%）と学年末のレポート提出、筆記試験（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
毎回、授業資料(プログラムまたはレジュメ)を配付しますので、履修者は各自これらをファイリングして下さい。
【参考文献】
①『新　西洋音楽史　上,中,下』D.J.クラウド、C.D.パリスカ著　戸口幸策、津上英輔、寺西基之訳(音楽之友社、2001年)
②『西洋音楽史』岡田暁生著(中公新書、2005年)
▸参考文献について
①もっとも権威があり広く読まれている西洋音楽史の書籍です。ただし3巻にもわたり、それぞれの巻が大変厚く高価ですので、購入は絶対ではありません。本学図書館に常備してありますので、それを利用されるのもよいでしょう。
②詳しい年代はあえて明記しないという異色の西洋音楽史ですが、読み物として非常に面白く、時代の流れがとてもよくわかります。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●全履修生へ
　スマートフォンの操作と私語は慎みましょう。
●教職を目指す履修生
　この授業は必修教科科目です。音楽史の知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。
●履修希望者が教室の収容定員を上回った場合、教職課程履修者の履修希望者を優先し、ポピュラークラスへ履修者を移すことがある。

授業計画	
	［前期］日本音楽史と西洋音楽の源流から古典派まで
1	ガイダンス 「ピアノで聴く　時代の響きの移り変わり」
2	概要説明 「西洋音楽と日本音楽の歴史をざっとたどってみよう」
3	西洋音楽の原点 「グレゴリオ聖歌」
4	日本音楽の原点 「雅楽」
5	ポリフォニーが織りなす調和の美 「中世とルネサンスの声楽曲」
6	仏教音楽 黛敏郎の《涅槃交響曲》
7	チェンバロやリュートが奏でる典雅な響き 「ルネサンスとバロックの器楽」
8	琵琶の音楽 武満徹の《ノヴェンバー・ステップス》
9	音楽がドラマになった 「バロック・オペラ」
10	これはオペラやミュージカルの祖先か?! 「能楽」
11	バッハからクラシック音楽は始まった 「J. S. Bachの音楽」
12	近世日本の舞台音楽を学ぼう
13	交響曲の父ハイドンと神童モーツァルト
14	近世日本の室内音楽を学ぼう
15	どのように運命の扉は叩かれたか? 「ベートーヴェンの音楽」

授業計画	
	［後期］西洋音楽のロマン派から現代、ポピュラー音楽まで
1	インド音楽の悠久なる響き
2	ロマン派① 「シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲」
3	ロマン派② 「ショパン、シューマン、リスト、ブラームスのピアノ曲」
4	ロマン派③ 「ヴェルディ、ビゼー、プッチーニのオペラ」
5	ロマン派④ 「ベルリオーズの幻想交響曲とワーグナーの楽劇」
6	後期ロマン派 「マーラー、リヒャルト・シュトラウス、シベリウスの音楽」
7	民族主義① 「ロシアの音楽～ムソルグスキーの《展覧会の絵》を中心に」
8	近代①フランス 「ドビュッシー、ラヴェルの音楽は本当に印象派か?」
9	民族主義② 「北欧、東欧、南欧～スメタナの《モルダウ》を中心に」
10	近代②ロシア 「ストラヴィンスキーの《春の祭典》を中心に」
11	新ウィーン楽派の音楽 「12音技法って何だ?」
12	現代 「ケージの《4分33秒》ははたして音楽か?」
13	ジャズ・ポピュラー 「エリントンからビートルズまで」
14	現代最高のエンタテイメント 「ミュージカル」
15	西洋音楽史のまとめ

科目名	音楽史 ［火2］ポピュラー（香取良彦先生）クラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK0572B0	科目コード	GK0572	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	前提科目については特にないが、他の授業に音楽史の各論的な科目が多く開講されているので、それらを並行して、あるいは次年度以降に履修することが望ましい。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

広範にわたる音楽、そして音楽が関わる分野についてその歴史の概要をたどる。それによって自分の得意とする分野だけに偏向し過ぎることなく、複眼的視点と知識を獲得すること。

２．授業概要

情報として学習する狭い意味での史実だけでなく、実演を通じて音楽の実像を知るため、テーマに応じてその分野のプロフェッショナルの実演家と講師を招聘して授業を展開する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）
各回に配布されるレジュメを通読し、時代性、地域性、音楽性等について概要を把握しておくこと。
（復習）
授業をきっかけとして、自分なりに周辺事項を含め、興味ある部分を調べて知識をさらに深めること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験(評価の50%)、授業への参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（参考）『はじめての音楽史』片桐功、久保田慶一他著(音楽之友社) ※授業の代わりになるようなことはありません。
内容が多岐にわたるため、各回レジュメおよび必要に応じて資料をポータルを通して配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業途中の入退出は迷惑となるので、遅刻・早退はしないこと。

・規定範囲内の遅刻・早退はそれぞれ出席1/2としてカウント
・無断早退については欠席扱い
・学生証の不備は出席にカウントされない場合がある

授業中の私語、スマートフォンの操作が厳禁であることはいうまでもないが、授業の妨げとなるような場合は、状況に応じて退室等の措置をとることもある。

・授業中スマートフォンを出していた場合は理由の如何に関わらず「授業への参加態度」の評価を1回ごとに減ずる。

この授業は教職必修科目でもあり、教職課程を履修予定の受講生は、自分自身がいずれ指導するであろうことを想定して真摯に受講して欲

授業計画	
	[前期]各回の順番は入れ替わる場合がある（偏向の場合は事前に通知）
1	音楽史の学び方
2	ヨーロッパ：中世～バロック
3	ヨーロッパ：ロマン派～民族主義
4	ヨーロッパ：近代～現代
5	タンゴ
6	ダンス
7	歌謡曲とフォークソング、ニューミュージック
8	ロック：ブルースの発展型としてのロック主流
9	ロック：プログレ
10	ロック：日本のロックとJ-POP
11	ジャズ：ニューオリンズ～スイング
12	ジャズ：ビバップ～モダン
13	ジャズ：エレクトリック～現代
14	バレエ
15	日本の伝統的な音楽

授業計画	
	[後期]各回の順番は入れ替わる場合がある（偏向の場合は事前に通知）
1	アニメソング
2	電子音楽・音響作品
3	音響技術
4	ギター
5	シンセサイザー
6	映画音楽
7	電子オルガン
8	ブラジル
9	キューバとサルサ
10	中東音楽の影響を受けた欧米打楽器
11	ソウル／R&B
12	ミュージカル：概論・音楽
13	ミュージカル：演出
14	ミュージカル：舞台創造
15	総括

科目名	ジャズの歴史１　（前）［水4］Ａクラス						
代表教員	中川　ヨウ	授業コード	GKO611A0	科目コード	GKO611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史を知り、ジャズへの理解を深める。
ジャズ史を理解すると、ポピュラー音楽史のルーツを学ぶことができます。

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、音源と講義の三位一体で立体的に体感しましょう。
あたかもその時代にタイムトラベルしたような感覚で体験し、学習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は常に社会と連動して変化・発展していくので、アメリカの歴史を簡単に見てきてくださると、学びやすいと思います。
また、履修生の皆さんには、復習として、授業で登場したミュージシャンの演奏を自宅でもさらに聴いてきてくださることをお勧めしています。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（ノート持ち込みで行いますので、講義を日頃から受講し理解していくことが大事です)に、講義への参加姿勢を加味して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要なプリントを配布します。

完売間近かなのですが、
　中川ヨウ　著の書籍　『ジャズに生きた女たち』　（平凡社新書）が入手できると役立ちます。

参考のみ(購入できません)
DVD「ケン・バーンズJAZZ」　ケン・バーンズ監督

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズ史を学ぶにあたって 貴重な映像を見ていきますので、講義中は静粛にお願いします。
また筆記用具を持参し、ノートをとりしましょう。

受講希望者が多いため、今年度からクラスが２つ設けられることになりました。
内容は同じですので、時間的に都合の良い方のクラスを受講してください。

授業計画	
	［半期］ ジャズの起源を深く学び、第2次世界大戦までの変遷を学びます。「拡張するジャズのシステム」を知り、その歴史を知ることが、今の学生さんの音楽創造に役立つことを望みます。
1	「拡張するジャズのシステム」～ジャズの定義。ジャズの歴史を学ぶ意義。21世紀の「グローカルな音楽」の現状。
2	ジャズ発祥以前のアメリカ～奴隷制度とブルーズの誕生。ラグタイム。そして、教会音楽としてのブラック・スピリチュアル。
3	なぜ、ジャズはニューオーリンズで生まれたのか。
4	初期のジャズの傾向と発展。(DVD)
5	ルイ・アームストロング (tp, vo)の音楽を時系列で聴き、その素晴らしさを楽しみましょう(CD) 。
6	南部からシカゴへと北上するジャズ。(DVD) 都市に進出したことで、ジャズはどう変わったのでしょうか。
7	デューク・エリントンの魅力。(DVDと CD)
8	ハーレム・ルネッサンスから、世界大恐慌(1929年) 。それが音楽界やジャズに与えた影響を学びます。
9	スウィング時代来る。全米を魅了する、数々のビッグバンド。新しいメディア、ラジオとの関わりをみましょう。
10	"キング・オブ・スウィング"と呼ばれたベニー・グッドマン(cl)の生涯を通して、ビッグバンドの潮流と衰退を理解しましょう。
11	ビッグバンド出身の偉大なシンガーたち：ビリー・ホリデイ、エラ・フィッツジェラルド、フランク・シナトラなどの歌を味わいます。
12	カウント・ベイシー楽団の音楽を楽しみ、スウィングの時代を復讐します。
13	第2次世界大戦と、スウィングの音楽が果たした役割。そして戦後の衰退。戦時中にNYで起こった、ビバップの息吹き。
14	第二次世界大戦と、ビ・バップの誕生 ビバップがどうして第二次大戦中にNYで起こったのか、考察します。
15	ビバップを見直す。そして、前期の復習。 よく分からなかった点があったら、質問を受けつけます。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズの歴史１　（前）［木5］Ｂクラス						
代表教員	中川　ヨウ	授業コード	GK0611B0	科目コード	GK0611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史を知り、ジャズへの理解を深める。
ジャズ史を理解すると、ポピュラー音楽史のルーツを学ぶことができます。

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、　ジャズの歴史を映像、音源と講義の三位一体で立体的に体感しましょう。
あたかもその時代にタイムトラベルしたような感覚で体験し、学習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は常に社会と連動して変化・発展していくので、アメリカの歴史を簡単に見てきてくださると、学びやすいと思います。
また、履修生の皆さんには、復習として、授業で登場したミュージシャンの演奏を自宅でもさらに聴いてきてくださることをお勧めしています。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（ノート持ち込みで行いますので、講義を日頃から受講し理解していくことが大事です)に、講義への参加姿勢を加味して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要なプリントを配布します。

完売間近かなのですが、
　中川ヨウ　著の書籍　『ジャズに生きた女たち』　（平凡社新書）が入手できると役立ちます。

参考のみ(購入できません)
DVD「ケン・バーンズJAZZ」　ケン・バーンズ監督

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズ史を学ぶにあたって、貴重な映像を見ていきますので、講義中は静粛にお願いします。
また筆記用具を持参し、ノートをとりしましょう。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［半期］ ジャズの起源を深く学び、第2次世界大戦までの変遷を学びます。「拡張するジャズのシステム」を知り、その歴史を知ることが、今の学生さんの音楽創造に役立つことを望みます。
1	「拡張するジャズのシステム」～ジャズの定義。ジャズの歴史を学ぶ意義。21世紀の「グローカルな音楽」の現状。
2	ジャズ発祥以前のアメリカ～奴隷制度とブルーズの誕生。ラグタイム。そして、教会音楽としてのブラック・スピリチュアル。
3	なぜ、ジャズはニューオーリンズで生まれたのか。
4	初期のジャズの傾向と発展。(DVD)
5	ルイ・アームストロング (tp, vo)の音楽を時系列で聴き、その素晴らしさを楽しみましょう(CD) 。
6	南部からシカゴへと北上するジャズ。(DVD) 都市に進出したことで、ジャズはどう変わったのでしょうか。
7	デューク・エリントンの魅力。(DVDと CD)
8	ハーレム・ルネッサンスから、世界大恐慌(1929年) 。それが音楽界やジャズに与えた影響を学びます。
9	スウィング時代来る。全米を魅了する、数々のビッグバンド。新しいメディア、ラジオとの関わりをみましょう。
10	"キング・オブ・スウィング"と呼ばれたベニー・グッドマン(cl)の生涯を通して、ビッグバンドの潮流と衰退を理解しましょう。
11	ビッグバンド出身の偉大なシンガーたち：ビリー・ホリデイ、エラ・フィッツジェラルド、フランク・シナトラなどの歌を味わいます。
12	カウント・ベイシー楽団の音楽を楽しみ、スウィングの時代を復讐します。
13	第2次世界大戦と、スウィングの音楽が果たした役割。そして戦後の衰退。戦時中にNYで起こった、ビバップの息吹き。
14	第二次世界大戦と、ビ・バップの誕生 ビバップがどうして第二次大戦中にNYで起こったのか、考察します。
15	ビバップを見直す。そして、前期の復習。 よく分からなかった点があったら、質問を受けつけます。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズの歴史２　（後）［水4］Ａクラス						
代表教員	中川　ヨウ	授業コード	GK0612A0	科目コード	GK0612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史を知り、ジャズへの理解を深める。
ジャズ史を理解すると、ポピュラー音楽史のルーツと、その発展形態の多くを学ぶことができます。

２．授業概要

　ジャズの歴史を映像、音源と講義の三位一体で立体的に体感しましょう。
あたかもその時代にタイムトラベルしたような感覚で体験し、学習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は常に社会と連動して変化・発展していくので、アメリカの歴史を簡単に見てきてくださると、学びやすいと思います。
また、履修生の皆さんには、復習として、授業で登場したミュージシャンの演奏を自宅でもさらに聴いてきてくださることをお勧めしています。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（ノート持ち込みで行いますので、講義を日頃から受講し理解していくことが大事です)に、講義への参加姿勢を加味して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要なプリントを配布します。

完売間近かなのですが、
　中川ヨウ　著の書籍　『ジャズに生きた女たち』　（平凡社新書）が入手できると役立ちます。

参考のみ(購入できません)
DVD「ケン・バーンズJAZZ」　ケン・バーンズ監督

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズ史を学ぶにあたって 貴重な映像を見ていきますので、講義中は静粛にお願いします。
また筆記用具を持参し、メモをとりしましょう。

受講希望者が多いため、今年度からクラスが２つ設けられることになりました。
内容は同じですので、時間的に都合の良い方のクラスを受講してください。

授業計画	
	［半期］ ビバップ以降、「聴く音楽」となったジャズの歴史を見ていきます。なかでも、エレクトリック楽器の使用、「グローバル化する音楽」、「グローカルな音楽」への拡張を学び、21世紀の近未来の音楽を考察します。
1	ジャズの起源からスウィング時代、ビバップの発生までを復習。また、最新のジャズを聴き、今の時代に「ジャズ史」を学ぶ意義を再確認します。
2	ビ・バップがもたらした、ジャズの大変化を検証。チャーリー・パーカー、セロニアス・モンクらの映像を見る。
3	″ウエスト・コースト″(西海岸)でも流行りだしたジャズは、爽やかな印象を人々に与えました。その音楽を聴きます。
4	″ハード・バップ″と、その牽引者であったアート・ブレイキー(ds)の映像を見、考察します。その熱さを感じ、ジャズの魅力を味わいましょう。
5	”ジャズの帝王”マイルス・デイヴィスのドキュメンタリー映画を見て、時代とともに進化したマイルスの音楽と人生を学びましょう。
6	マイルス・デイヴィスの録音音源を、時系列に沿って聴いていきます。履修生には、どういう印象をもったかを感じてもらい、言語化（言葉にする）練習もしましょう。
7	ジョン・コルトレーン(ts)の音楽を、マイルス・グループ在籍時から逝去まで、時系列を追って聴きます。そのスピリットを感じましょう。
8	フリー・ジャズを、オーネット・コールマン(as)を中心に聴きます。その影響を受けた、他の演奏家も聴いていきます。
9	公民権運動とジャズの相関。アフリカン・アメリカン、若者、女性がパワーをやっと持つに至った60年代後半。その時代にジャズが果たした役割、ロックやソウルとの相関も考察しましょう。
10	マイルスがエレクトリック楽器を使い始め、ジャズもまた変化を迎えます。フュージョンと呼ばれたジャンルの、代表的なものを聴きます。
11	フュージョンが勢いをなくすと同時に、４ビートのジャズが若者たちの間から復活します。さらに多種多様になるジャズ。ジャンル、国境といった境界線が薄くなっていく音楽状況を学びます。
12	アシッド・ジャズ～クラブ・ジャズと演奏する場所での変化。また、ヒップホップとの結びつきを聴き、考察しましょう。
13	「グローバル化」にとどまらず、そこにアイデンティティを強く加味した、21世紀型「グローカルな音楽」の台頭を聴きます。
14	近未来を感じさせるジャズの傾向、新たな楽器やアプリ、またポップスにおける変化と傾向を、最新作を聴きながらお話しします。
15	後期の復習。質疑応答。21世紀の今後の音楽、あなたが作りたい音楽について話し合えるといいと思っています。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズの歴史２　（後）［木5］Bクラス						
代表教員	中川　ヨウ	授業コード	GK0612B0	科目コード	GK0612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史を知り、ジャズへの理解を深める。
ジャズ史を理解すると、ポピュラー音楽史のルーツと、その発展形態の多くを学ぶことができます。

２．授業概要

　ジャズの歴史を映像、音源と講義の三位一体で立体的に体感しましょう。
あたかもその時代にタイムトラベルしたような感覚で体験し、学習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は常に社会と連動して変化・発展していくので、アメリカの歴史を簡単に見てきてくださると、学びやすいと思います。
また、履修生の皆さんには、復習として、授業で登場したミュージシャンの演奏を自宅でもさらに聴いてきてくださることをお勧めしています。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（ノート持ち込みで行いますので、講義を日頃から受講し理解していくことが大事です)に、講義への参加姿勢を加味して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時、必要なプリントを配布します。

完売間近かなのですが、
　中川ヨウ　著の書籍　『ジャズに生きた女たち』　（平凡社新書）が入手できると役立ちます。

参考のみ(購入できません)
DVD「ケン・バーンズJAZZ」　ケン・バーンズ監督

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　ジャズ史を学ぶにあたって、貴重な映像を見ていきますので、講義中は静粛にお願いします。
また筆記用具を持参し、ノートをとりしましょう。

授業計画	
	［半期］ ビバップ以降、「聴く音楽」となったジャズの歴史を見ていきます。なかでも、エレクトリック楽器の使用、「グローバル化する音楽」、「グローカルな音楽」への拡張を学び、21世紀の近未来の音楽を考察します。
1	ジャズの起源からスウィング時代、ビバップの発生までを復習。また、最新のジャズを聴き、今の時代に「ジャズ史」を学ぶ意義を再確認します。
2	ビ・バップがもたらした、ジャズの大変化を検証。チャーリー・パーカー、セロニアス・モンクらの映像を見る。
3	″ウエスト・コースト″(西海岸)でも流行りだしたジャズは、爽やかな印象を人々に与えました。その音楽を聴きます。
4	″ハード・バップ″と、その牽引者であったアート・ブレイキー(ds)の映像を見、考察します。その熱さを感じ、ジャズの魅力を味わいましょう。
5	”ジャズの帝王”マイルス・デイヴィスのドキュメンタリー映画を見て、時代とともに進化したマイルスの音楽と人生を学びましょう。
6	マイルス・デイヴィスの録音音源を、時系列に沿って聴いていきます。履修生には、どういう印象をもったかを感じてもらい、言語化（言葉にする）練習もしましょう。
7	ジョン・コルトレーン(ts)の音楽を、マイルス・グループ在籍時から逝去まで、時系列を追って聴きます。そのスピリットを感じましょう。
8	フリー・ジャズを、オーネット・コールマン(as)を中心に聴きます。その影響を受けた、他の演奏家も聴いていきます。
9	公民権運動とジャズの相関。アフリカン・アメリカン、若者、女性がパワーをやっと持つに至った60年代後半。その時代にジャズが果たした役割、ロックやソウルとの相関も考察しましょう。
10	マイルスがエレクトリック楽器を使い始め、ジャズもまた変化を迎えます。フュージョンと呼ばれたジャンルの、代表的なものを聴きます。
11	フュージョンが勢いをなくすと同時に、４ビートのジャズが若者たちの間から復活します。さらに多種多様になるジャズ。ジャンル、国境といった境界線が薄くなっていく音楽状況を学びます。
12	アシッド・ジャズ～クラブ・ジャズと演奏する場所での変化。また、ヒップホップとの結びつきを聴き、考察しましょう。
13	「グローバル化」にとどまらず、そこにアイデンティティを強く加味した、21世紀型「グローカルな音楽」の台頭を聴きます。
14	近未来を感じさせるジャズの傾向、新たな楽器やアプリ、またポップスにおける変化と傾向を、最新作を聴きながらお話しします。
15	後期の復習。質疑応答。21世紀の今後の音楽、あなたが作りたい音楽について話し合えるといいと思っています。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ピアノ演奏史 ［木4］Aクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	GK0615A0	科目コード	GK0615	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の７０％）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
・３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代、リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ソロモン、カーゾン
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	コルトー、フランソワ、カサドシュ

科目名	ピアノ演奏史 ［木5］Bクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	GK0615B0	科目コード	GK0615	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の７０％）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
・３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代、リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ソロモン、カーゾン
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	コルトー、フランソワ、カサドシュ

科目名	幼児音楽指導法（含リトミック）　［火5］Aクラス						
代表教員	曲尾　雅子	授業コード	GK0628A0	科目コード	GK0628	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幼児期における効果的な音楽指導法。

２．授業概要

音楽に必要と思われるリズム感や音感が、子供たちに自然と身につく方法を実践を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：日頃から幼児教育に興味を持ち、関連書籍や楽譜を見たり、機会があれば幼児を観察したり積極的に関わるように心掛ける。
復習：ひとつの曲（唄）の中に何を目的とした課題が含まれているかをより明確にするため、授業で使用したプリントを基に各個人のオリジナルな授業計画内容を作成する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点：授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題：授業計画案と実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・パンドゥレスパー著（ドレミ出版）等
参考文献は適宜紹介する。
他、授業内でプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に積極的かつ意欲的に取り組む事を望む。
実践中心の授業なので遅刻をしないように。

授業計画	
	[前期]
1	前期授業内容の説明
2	幼児と音楽教育
3	手遊び唄の指導
4	童謡の指導
5	ボディ・パーカッション
6	ボディ・パーカッションとその応用編
7	リズムについて
8	拍子について
9	楽器(すず、カスタネット）を使用した教材作成
10	楽器（タンバリン、トライアングル）を使用した教材作成
11	道具（ボール、なわとび等）を使用した教材作成
12	道具（フラフープ）を使用した教材作成
13	グループごとによる模擬レッスンへの話し合い、企画書作成
14	グループごとによる模擬レッスン実践と応用
15	前期試験とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期授業内容の説明
2	３～５歳児の発達とその違い
3	幼児期の成長発達に応じた教材の研究と実習
4	読譜とソルフェージュ、その効用
5	ピアノ導入とその指導について
6	ピアノ導入とその指導、リトミックとのかかわりについて
7	ダルクローズ教育に関する講座ＤＶＤ
8	ミュージックベルを使用した音感教育～音程
9	ミュージックベルを使用した音感教育～和声
10	リトミックのピアノ伴奏とは
11	コードネームを使用した即興伴奏付け
12	既成の物語にリズムや音楽をつけてみよう
13	オリジナル教材作成とは
14	模擬レッスン形式での実践
15	後期試験とまとめ

科目名	幼児音楽指導法（含リトミック）　［金5］Bクラス						
代表教員	大澤　美紀	授業コード	GK0628B0	科目コード	GK0628	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幼児期における効果的な音楽指導法。

２．授業概要

音楽に必要と思われるリズム感や音感が、子供たちに自然と身につく方法を実践を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：日頃から幼児教育に興味を持ち、関連書籍や楽譜を見たり、機会があれば幼児を観察したり積極的に関わるように心掛ける。
復習：ひとつの曲（唄）の中に何を目的とした課題が含まれているかをより明確にするため、授業で使用したプリントを基に各個人のオリジナルな授業計画内容を作成する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点：授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題：授業計画案と実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・パンドゥレスパー著（ドレミ出版）等
参考文献は適宜紹介する。
他、授業内でプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に積極的かつ意欲的に取り組む事を望む。
実践中心の授業なので遅刻をしないように。

授業計画	
	［前期］
1	前期授業内容の説明
2	幼児と音楽教育
3	手遊び唄と童謡の指導（1）
4	手遊び唄と童謡の指導（2）
5	ボディ・パーカッション（1）
6	ボディ・パーカッション（2）
7	リズムと拍子（1）
8	リズムと拍子（2）
9	楽器を使用した教材作成
10	道具を使用した教材作成
11	模擬レッスンの計画と準備・練習（1）
12	模擬レッスンの計画と準備・練習（2）
13	グループごとによる模擬レッスン（1）
14	グループごとによる模擬レッスン（2）
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期授業内容の説明
2	３～５歳児の発達とその違い
3	幼児期の成長発達に応じた教材の研究と実習
4	読譜とソルフェージュ、その効用
5	ピアノ導入とその指導について（1）
6	ピアノ導入とその指導について（2）
7	ダルクローズ教育に関する講座ＤＶＤ（1）
8	ダルクローズ教育に関する講座ＤＶＤ（2）
9	リトミックのピアノ伴奏と即興演奏の実習（1）
10	リトミックのピアノ伴奏と即興演奏の実習（2）
11	実技試験の計画と準備・練習（1）
12	実技試験の計画と準備・練習（2）
13	模擬レッスン形式での実技試験（1）
14	模擬レッスン形式での実技試験（2）
15	総まとめ

科目名	管弦楽史 （前） ［水2］Aクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0635A0	科目コード	GK0635	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽史における管弦楽曲の歴史を交響曲を中心に学ぶ。交響曲の形式や各作曲家の様式的特徴を理解し、それについて説明することができるようになることが主要目標である。

２．授業概要

西洋音楽史における主要な交響曲やそれに関連した音楽作品を概観する。視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では、交響曲や管弦楽曲を作曲した作曲家のうち、ごく一部の作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができません。授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
小テストの内容は、その日の授業を聴いていれば答えられる簡単なもの。
・期末レポートは30点満点。期末レポートは必ず提出しなければならない。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは95点以上、Ａは85～94点、Ｂは70～84点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、欠格条件もあります（履修条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・授業開始時間の５分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	導入：交響曲の誕生～ハイドンとモーツァルトの交響曲
2	ベートーヴェンの交響曲　その１：第3番、第5番、第6番を中心に
3	ベートーヴェンの交響曲　その２：第7番、第9番を中心に
4	19世紀前半の交響曲　その１（シューベルト）
5	19世紀前半の交響曲　その２（メンデルスゾーン、シューマン）
6	19世紀前半の交響曲　その３（ベルリオーズ）
7	交響詩（リスト、R.シュトラウス）
8	ワーグナー（楽劇と交響曲）
9	ブラームスとブルックナーの交響曲
10	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その１（ドヴォルザーク、チャイコフスキーほか）
11	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その２（サン＝サーンスほか）
12	マーラーの交響曲　その１　：第1番、第4番、第6番を中心に
13	マーラーの交響曲　その２：第8番を中心に
14	マーラーの交響曲　その３：《大地の歌》と第9番を中心に
15	20世紀の交響曲（ショスタコーヴィチ他）＆まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	管弦楽史 （前） ［金5］Bクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0635B0	科目コード	GK0635	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽史における管弦楽曲の歴史を交響曲を中心に学ぶ。交響曲の形式や各作曲家の様式的特徴を理解し、それについて説明することができるようになることが主要目標である。

２．授業概要

西洋音楽史における主要な交響曲やそれに関連した音楽作品を概観する。視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では、交響曲や管弦楽曲を作曲した作曲家のうち、ごく一部の作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができません。授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
小テストの内容は、その日の授業を聴いていれば答えられる簡単なもの。
・期末レポートは30点満点。期末レポートは必ず提出しなければならない。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは95点以上、Ａは85～94点、Ｂは70～84点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、欠格条件もあります（履修条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・授業開始時間の５分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	導入：交響曲の誕生～ハイドンとモーツァルトの交響曲
2	ベートーヴェンの交響曲　その１：第3番、第5番、第6番を中心に
3	ベートーヴェンの交響曲　その２：第7番、第9番を中心に
4	19世紀前半の交響曲　その１（シューベルト）
5	19世紀前半の交響曲　その２（メンデルスゾーン、シューマン）
6	19世紀前半の交響曲　その３（ベルリオーズ）
7	交響詩（リスト、R.シュトラウス）
8	ワーグナー（楽劇と交響曲）
9	ブラームスとブルックナーの交響曲
10	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その１（ドヴォルザーク、チャイコフスキーほか）
11	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その２（サン＝サーンスほか）
12	マーラーの交響曲　その１　：第1番、第4番、第6番を中心に
13	マーラーの交響曲　その２：第8番を中心に
14	マーラーの交響曲　その３：《大地の歌》と第9番を中心に
15	20世紀の交響曲（ショスタコーヴィチ他）＆まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	オペラ史 （後） ［火2］						
代表教員	青島　広志	授業コード	GK063600	科目コード	GK0636	期間	半期
担当教員	松浦　真沙						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4世紀以上に渡って西洋の娯楽の中心となって来たオペラの歴史を半期のみでたどります。声楽コース学生のみならず、将来舞台芸術とかかわる可能性のある学生（ピアノ、オーケストラを含む）には絶対に欠かせない知識です。

２．授業概要

各時代ごとの作品の傾向・特徴を示し、実演や音・映像資料でその上演に触れます。また実際のオペラ上演の方法・手順についても知識を与えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

限られた授業時間内ではオペラ全曲を鑑賞することは不可能です。またその中心となる歌唱部も全員が歌うことは不可能です。そのため声楽や合唱の授業に積極的に参加し、校外の公演には可能な限り足を運んでほしいものです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、「魔笛」・「道化師」のビデオ鑑賞およびそのレポート（感想文）の各々50%ずつ

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：オペラへご招待！（学研：青島広志・水野英子共著）
参考文献：フィガロの結婚・魔笛（モーツァルト）、椿姫・リゴレット（ヴェルディ）、タンホイザー（ヴァーグナー）、ばらの騎士（R.シュトラウス）の各ヴォーカル・スコアおよび各声種別のオペラ・アリア集

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に声を出すことを嫌わないこと。黒板の板書を筆記できること（撮影ではなく）。
受講生が多い場合は、人数を制限する場合があります。

授業計画	
	［半期］
1	有名なオペラを通した全般的な考察（モーツァルト「フィガロの結婚」、ヴェルディ「椿姫」、プッチーニ「蝶々夫人」）
2	オペラの概要、その発生（モンテヴェルディ「オルフェオ」「ポッペアの戴冠」、オラトリオを含む）
3	ナポリ派（スカルラッティ、ヘンデルを含む）とオペラ改革（グルック）
4	古典派（モーツァルト「後宮への逃走」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」概説）
5	古典派（モーツァルト「魔笛」、ベートーヴェン）
6	ロマン派初期（ロッシーニ、ウェーバー）
7	ベルカント・オペラ（ベッリーニ、ドニゼッティ）
8	ロマン派中期（ヴェルディその1）
9	ロマン派中期（ヴェルディその2、ヴァーグナー）
10	国民楽派（チャイコフスキー、ビゼー、ドヴォルザークを含む）
11	ヴェリズモ（現実主義）とプッチーニ
12	R.シュトラウスと20世紀（ドビュッシーを含む）
13	20世紀と日本（ベルク、山田耕筰、團伊玖磨を含む）
14	上演の実際
15	上演の体験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽美学 （後） ［火5］						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK063700	科目コード	GK0637	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義と演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未知の音楽に出会ったときに、自分の考えをもってそれを受け止め、また自分の言葉でその音楽を語っていけるようになることをめざします。

２．授業概要

スロニムスキー編『音楽悪口事典ーベートーヴェン以降の名曲悪評集』を素材として、19世紀以降の音楽の聴かれかたの歴史をたどっていきます。こんにちでは「名曲」とされる作品も、初演やそれに近い時代には、容赦ない酷評をしばしば受けていました。まずは、批評家たちの毒舌ぶりを楽しんで読んでください。毒舌といっても、その作品や作曲家の本質をとらえたすばらしい批評がたくさんあります。

授業では、そのような批評を読んだあと、おもに図書館が所蔵する映像で、その作曲家の作品の演奏やリハーサル風景、伝記的なドキュメンタリーなどをみていきます。それをみて、ほぼ毎回、みなさんにコメントを書いてもらいます。これはその作曲家や作品についていいところを見つけるための練習です。すばらしい映像がそろっていて、なるべく休まないで出席すれば確実に力がつきます。安心して受講してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストで批評の対象になっているのは、19世紀以降のよく知られた作品です。授業時間中にそのすべての作品を扱うことは時間的に不可能なので、なるべく図書館の資料やYoutubeの映像などを利用して、その作曲家の作品に触れる機会を作ってください。また、いい聴き手になるために、という観点からも、現在大学で受けている実技のレッスンや合奏の実習などの機会を大事にしてください。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業で書いてもらうコメントを1回あたり７点満点として評価します。
それにあたっては、自分の言葉でよく考えられているか、その映像のどんな点に着眼しているか、を重視し、その作曲家や作品についての知識が少なくても、対象に真摯に向きあっていることが明らかであれば、高く評価します。
その点数を合計して、原則として絶対評価により以下の評点を与えます。
90点以上＝S、80-89点＝A、70-79点＝B、60-69点＝C、59点以下＝D

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ニコラス・スロニムスキー編『名曲悪口事典ーベートーヴェン以降の名曲悪評集』（音楽之友社）
プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

古典派以降の西洋音楽史をすでに履修していることが望ましいところです。未修であれば、「古典派の音楽史」「ロマン派、近・現代の音楽史」をいずれかのクラスで履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～ベートーヴェンの交響曲に対する批評
2	ベルリオーズ《幻想交響曲》をめぐって
3	ショパンの演奏をめぐって
4	リストに対する批評
5	ヴァーグナーに対する批評
6	ブラームスに対する批評
7	チャイコフスキーに対する批評
8	ムソルグスキーに対する批評
9	ビゼーに対する批評
10	マーラーに対する批評
11	ドビュッシーに対する批評
12	ラヴェルに対する批評
13	シェーンベルクに対する批評
14	ストラヴィンスキーに対する批評
15	バルトークに対する批評

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	現代音楽 （前） ［火4］Pクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0638P0	科目コード	GK0638	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽における個人と社会の関わりを念頭におきながら、20世紀の作曲家たちとその活動した時代について、広い視野からとらえていきます。

２．授業概要

アレックス・ロス『20世紀を語る音楽１・２』をもとに、20世紀の音楽文化の諸相について考察します。なお、本書は日本の20世紀音楽に関する記述がきわめて少ないため、これを補う回を設けます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間前または後に『20世紀を語る音楽I/II』の該当ページに目を通すようにしてください。
テキストに挙げられた楽曲を、空いている時間になるべくたくさん聴いてください。

４．成績評価の方法及び基準

中間試験・学期末試験を合計80点満点、レポートを20点、計100点満点として、絶対評価により以下のように評点を与えます。
S=90点以上、A=80-89点、B=70-79点、C=60-69点、D=59点以下

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ロス『20世紀を語る音楽１・２』(みすず書房)
プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

とくにクラシック音楽を専攻する学生は19世紀までの音楽史を、またジャズやロック、伝統音楽等の学生は、専攻する分野の音楽史を十分に学んでください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスーー洗足学園校歌から学ぶ日本近代音楽史
2	ファウスト博士----シェーンベルク、ドビュッシー、そして無調
3	大地の踊り----《祭典》、民衆、ル・ジャズ
4	見えない人間----アイヴズからエリントンまでのアメリカの作曲家たち
5	恐怖の芸術----スターリン時代のロシアの音楽
6	零時ーー第２次大戦と音楽家たち
7	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(1)　過激な再構成
8	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(2)沈黙
9	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(3)作曲家にとっての自由
10	ストラヴィンスキーの変節
11	ザイオン公園----メシアン、リゲティ、60年代の音楽
12	ベートーヴェンは間違っていた----バップ、ロック、 そしてミニマリストたち
13	沈める寺ーー世紀の終わりの音楽
14	日本の伝統と未来の音楽----武満徹を中心に
15	まとめ---21世紀を語る音楽へ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	現代音楽　（後）［火4］Qクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0638Q0	科目コード	GK0638	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽における個人と社会の関わりを念頭におきながら、20世紀の作曲家たちとその活動した時代について、広い視野からとらえていきます。

２．授業概要

アレックス・ロス『20世紀を語る音楽１・２』をもとに、20世紀の音楽文化の諸相について考察します。なお、本書は日本の20世紀音楽に関する記述がきわめて少ないため、これを補う回を設けます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間前または後に『20世紀を語る音楽I/II』の該当ページに目を通すようにしてください。
テキストに挙げられた楽曲を、空いている時間になるべくたくさん聴いてください。

４．成績評価の方法及び基準

中間試験・学期末試験を合計80点満点、レポートを20点、計100点満点として、絶対評価により以下のように評点を与えます。
S=90点以上、A=80-89点、B=70-79点、C=60-69点、D=59点以下

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ロス『20世紀を語る音楽１・２』(みすず書房)
プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

とくにクラシック音楽を専攻する学生は19世紀までの音楽史を、またジャズやロック、伝統音楽等の学生は、専攻する分野の音楽史を十分に学んでください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス----洗足学園校歌から学ぶ日本近代音楽史
2	ファウスト博士----シェーンベルク、ドビュッシー、そして無調
3	大地の踊り----《祭典》、民衆、ル・ジャズ
4	見えない人間----アイヴズからエリントンまでのアメリカの作曲家たち
5	恐怖の芸術----スターリン時代のロシアの音楽
6	零時----第２次大戦と音楽家たち
7	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(1)過激な再構成
8	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(2)沈黙
9	すばらしい新世界----冷戦と50年代の音楽(3)作曲家にとっての自由
10	ストラヴィンスキーの変節
11	ザイオン公園----メシアン、リゲティ、60年代の音楽
12	ベートーヴェンは間違っていた----バップ、ロック、 そしてミニマリストたち
13	沈める寺ーー世紀の終わりの音楽
14	日本の伝統と未来の音楽----武満徹を中心に
15	まとめ---21世紀を語る音楽へ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	諸民族の音楽 （前） ［月4］Aクラス						
代表教員	浦本　裕子	授業コード	GKO639AO	科目コード	GKO639	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽を聴いてみて欲しい（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）。図書館にも多くの資料があるので、活用して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50～60%）
平常点として授業内ミニテスト・レポート（50~40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植・塚田 編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植・植村（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて欲しい。
授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	西ヨーロッパの音楽
6	東ヨーロッパの音楽
7	西アジアの音楽①イスラム教と音楽
8	西アジアの音楽②トルコ、イラン、アラブ
9	南アジアの音楽（インド古典音楽を中心に）
10	東南アジアの音楽①インドネシア
11	東南アジアの音楽②タイ、その他
12	東アジアの音楽（中国・モンゴル・韓国・アイヌ）
13	アフリカの音楽
14	アメリカ大陸とオセアニアの音楽
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	諸民族の音楽　（前）［火2］Bクラス						
代表教員	浦本　裕子	授業コード	GK0639B0	科目コード	GK0639	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽を、背景にある社会や宗教・文化などともあわせて学び、音楽文化の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽を聴いてみて欲しい（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）。図書館にも多くの資料があるので、活用して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50～60%）
平常点として授業内ミニテスト・レポート（50～40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植・塚田 編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植・植村（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて欲しい。
授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	西ヨーロッパの音楽
6	東ヨーロッパの音楽
7	西アジアの音楽①イスラム教と音楽
8	西アジアの音楽②トルコ、イラン、アラブ
9	南アジアの音楽（インド古典を中心に）
10	東南アジアの音楽①インドネシア
11	東南アジアの音楽②タイ、その他
12	東アジアの音楽
13	アフリカの音楽
14	アメリカ大陸とオセアニアの音楽
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統芸能と音楽 ［木3］Aクラス						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GK0640A0	科目コード	GK0640	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	日本の伝統芸能と音楽 ［月5］Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK0640B0	科目コード	GK0640	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Aクラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0711A0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Bクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0711B0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0711C0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Dクラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0711D0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Eクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0711E0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Fクラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0711F0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Gクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0711G0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Hクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0711H0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュI （前） ［金3］Aクラス（JZ専用）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0711J1	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー－１
2	単旋律 メジャーキー-2
3	単旋律 メジャーキー-3
4	旋律／ルートモーション-1
5	旋律／ルートモーション-2
6	旋律／ルートモーション-3
7	リズム-1
8	リズム-2
9	リズム-3
10	音程-1
11	音程-2
12	音程-3
13	アプローチノートを含む曲-1
14	アプローチノートを含む曲-2
15	アプローチノートを含む曲-3

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［金4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0711J2	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ-E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
　曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
　ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
　使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
　授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
1	簡単な単旋律
2	リズミックな単旋律
3	単旋律　短調と長調
4	コード進行を聴いてルートの動きを感じる
5	旋律とルート進行を聴音する
6	コードタイプの聴音
7	簡単なコード進行を聴音
8	メロディックリズムを聴きとる
9	簡単なメロディーを聴き取り、コードトーンを聴き分ける
10	音程-（３、６度）
11	音程-（４、５度）
12	音程-(2,7度)
13	音程-（歌ってみる）
14	アプローチノートを含むメロディーの聴音
15	アプローチノートの特定

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［金1］ （MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0711K0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

授業計画	
	［後期］II
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Lクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0711L0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Mクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0711MO	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Nクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0711N0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Rクラス						
代表教員	森　佳子	授業コード	GK0711R0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木4］Aクラス（RP専用）						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK0711R1	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

2．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

4．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	４分、８分音符の聞き取り
3	16ビートの聞き取り
4	付点音符の聞き取り
5	シンコペーションの聞き取り
6	アウフタクトの聞き取り
7	8ビートバウンスの捉え方
8	ハーフタイムシャッフルの捉え方
9	ポリリスムの理解
10	ドラムの聞き取り、採譜（8ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜（16ビート）
12	ドラムの聞き取り、採譜（バウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木4］Bクラス（RP専用）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK0711R2	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

2．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

4．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	４分、８分音符の聞き取り
3	16ビートの聞き取り
4	付点音符の聞き取り
5	シンコペーションの聞き取り
6	アウフタクトの聞き取り
7	8ビートバウンスの捉え方
8	ハーフタイムシャッフルの捉え方
9	ポリリスムの理解
10	ドラムの聞き取り、採譜（8ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜（16ビート）
12	ドラムの聞き取り、採譜（バウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Sクラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0711S0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木1］Tクラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0711T0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （後） ［木2］Uクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0711U0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけて発展を目指します。

様々なジャンルの音楽や、耳にした事のある曲なども取り入れ、今までに培ってきた基礎的な力を実際の音楽に繋げていく事を目指します。リズム打ち、クレ読み、新曲視唱、移調などから読譜力に、さらに瞬発力がつくように取り組みます。

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （後） ［木2］Vクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0711V0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。

読譜、音程、リズム等、基礎力をしっかり固めつつ、バランス良くソルフェージュ能力の底上げを図ります。いろいろな課題に取り組むことで自身のソルフェージュ能力を客観的に把握し、問題点の克服につなげることを目指します。

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木4］Aクラス（AS専用）						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GK0711WO	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは音楽の全体像を把握するために欠くことのできない能力である。
耳から音楽を把握する能力を養い、リズムを正確に捉えることができること、音程を正確に捉えて歌うことができることを目標とする。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、リズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、音部記号、拍子記号、小節線の書き方から始まり、Cmajorを中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、簡単なシンコペーションまで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌う、あるいは打つだけではなく、体で感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を学期を通して実施する。
1	音楽のビート感じる練習（ガイダンス）
2	ビートを感じながら特定のリズムを叩く練習
3	ビートを感じながらシンコペーションを含んだリズムを叩く練習
4	休符を意識する練習
5	特定のアクセントの位置を叩く練習
6	基本ビートを打ちながら、特定のリズムを叩く練習
7	基本ビートを打ちながら、16分音符が含まれた特定のリズムを叩く練習
8	基本ビートに乗りながら（自由なリズム）フィルインを入れる練習
9	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（導入）
10	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（8分音符まで）
11	1小節のリズムを楽譜にした後、音程を聞き取ろう（導入）
12	1小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（導入）
13	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（8分音符中心）
14	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（16分音符を含む）
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［金3］Bクラス（AS専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0711X0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは音楽の全体像を把握するために欠くことのできない能力である。
耳から音楽を把握する能力を養い、リズムを正確に捉えることができること、音程を正確に捉えて歌うことができることを目標とする。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、リズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、音部記号、拍子記号、小節線の書き方から始まり、Cmajorを中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、簡単なシンコペーションまで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌う、あるいは打つだけではなく、体で感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を学期を通して実施する。
1	音楽のビート感じる練習（ガイダンス）
2	ビートを感じながら特定のリズムを叩く練習
3	ビートを感じながらシンコペーションを含んだリズムを叩く練習
4	休符を意識する練習
5	特定のアクセントの位置を叩く練習
6	基本ビートを打ちながら、特定のリズムを叩く練習
7	基本ビートを打ちながら、16分音符が含まれた特定のリズムを叩く練習
8	基本ビートに乗りながら（自由なリズム）フィルインを入れる練習
9	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（導入）
10	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（8分音符まで）
11	1小節のリズムを楽譜にした後、音程を聞き取ろう（導入）
12	1小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（導入）
13	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（8分音符中心）
14	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（16分音符を含む）
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュI （前） ［木3］ （DC専用）						
代表教員	白仁 “KOTETSU” 賢哉	授業コード	GK0711Y0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

授業計画	
	［後期］II
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［金3］ （BL専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0711Z0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

授業計画	
	[後期] II
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Aクラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0712A0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Bクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0712B0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0712C0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Dクラス							
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0712D0	科目コード	GK0712	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	1					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生							
教員免許状								

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Eクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0712E0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Fクラス							
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0712F0	科目コード	GK0712	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	1					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生							
教員免許状								

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Gクラス							
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0712GO	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Hクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0712H0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］Aクラス（JZ専用）							
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0712J1	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュ１（JZ専用）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー-1
2	単旋律 マイナーキー-2
3	単旋律 マイナーキー-3
4	モード（スケール）-1
5	モード（スケール）-2
6	モード（スケール）-3
7	モード（メロディー）-1
8	モード（メロディー）-2
9	モード（メロディー）-3
10	ルートの聴音-1
11	ルートの聴音-2
12	ルートの聴音-3
13	転調のある曲-1
14	転調のある曲-1
15	転調のある曲-1

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［金4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0712J2	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュ１（JZ専用）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの機能を聴き分ける-1（トニック）
2	コードの機能を聴き分ける-2（サブドミナント）
3	コードの機能を聴き分ける-3（ドミナント）
4	簡単なコード進行を演奏してみる
5	指定された調性でコード進行を弾いてみる
6	メロディを指定された調性で弾いてみる
7	Secondary Dominant-1（ドミナントとの聴き分け）
8	Secondary Dominant-2（解決する先を答える）
9	Secondary Dominant-3（曲を聴いてセカンダリードミナントを特定する）
10	Sub V-1（ドミナント、セカンダリードミナントとの違いを聴き分ける）
11	Sub V-2（どこに解決するかを答える）
12	Sub V-3（曲を聴いてsub５を特定する）
13	転調のある曲-1（転調が起こったかどうかを聴き分ける）
14	転調のある曲-2（転調している場所の特定）
15	転調のある曲-3（メロディーとコード進行を聴音）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［金1］ （MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0712K0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Lクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0712L0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Mクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0712MO	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Nクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0712N0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Rクラス						
代表教員	森　佳子	授業コード	GK0712R0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Aクラス（RP専用）						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK0712R1	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュＩ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただ口ずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュＩ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	８ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
4	１６ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
5	バウンスビートのスケール聞き取り
6	ペンタトニックの聞き取り
7	チャーチモードのメロディー
8	ブルーノート
9	ノンダイアトニックノートの聞き取り
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと分析
11	コード進行とメロディーの関係
12	コーラスラインのヒント
13	楽曲構成とメロディー
14	メロディー譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Bクラス（RP専用）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK0712R2	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュＩ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただ口ずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュＩ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	８ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
4	１６ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
5	バウンスビートのスケール聞き取り
6	ペンタトニックの聞き取り
7	チャーチモードのメロディー
8	ブルーノート
9	ノンダイアトニックノートの聞き取り
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと分析
11	コード進行とメロディーの関係
12	コーラスラインのヒント
13	楽曲構成とメロディー
14	メロディー譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Sクラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0712S0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Tクラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0712T0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （前） ［木2］Uクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0712U0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけて発展を目指します。

様々なジャンルの音楽や、耳にした事のある曲なども取り入れ、今までに培ってきた基礎的な力を実際の音楽に繋げていく事を目指します。リズム打ち、クレ読み、新曲視唱、移調などから読譜力に、さらに瞬発力がつくように取り組みます。

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （前） ［木2］Vクラス							
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0712V0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。

読譜、音程、リズム等、基礎力をしっかり固めつつ、バランス良くソルフェージュ能力の底上げを図ります。いろいろな課題に取り組むことで自身のソルフェージュ能力を客観的に把握し、問題点の克服につなげることを目指します。

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Aクラス（AS専用）						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GK0712WO	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解し演奏する力、リズム・ビートを正確に感じる力を育成するための音楽基礎教育である。それにより、音楽の全体像を理解し表現力を養うことを第一義とする。具体的には、読譜、リズム打ち、視唱などの継続的な訓練を行う。
ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表の読譜、視唱を中心に学習する。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、Cmajor中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、シンコペーションに加えAminorまた#♭１つづつの各調、6拍子まで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽基礎能力を高めるためには毎日の訓練を行う。予習・復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、実際に接しているアニソン・ポップス作品などを使って、読譜、視唱、リズムの訓練を行うこと。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］高音部譜表、リズム読み、視唱、聴音を学期を通してくまなく実施する。
1	ガイダンス 読譜（CとG）、リズム読み・打ち（8分音符・4分音符・2分音符など）を中心に行う
2	読譜（CとD・B、GとF・A）視唱（順次進行）を中心に行う
3	リズム・メロディ聴音（8分音符・4分音符・2分音符・順次進行・および短調を含む課題）を中心に行う
4	リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符など）、視唱（2度3度の練習）を中心に行う
5	読譜（CとD・B、GとF・A）、リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符・付点およびシンコペーション）を中心に行う
6	リズム・メロディ聴音（各音価・付点・シンコペーション・2度3度・臨時記号を含む）を中心に行う
7	読譜（CとD・B、GとF・A、速いテンポで）、視唱（Cmajor・4分の4拍子・4小節の課題、臨時記号を含む）を中心に行う
8	リズム読み・打ち（各音価・シンコペーションを含む）、視唱（C major・4分の3拍子・4小節の課題。3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
9	リズム・メロディ聴音（Cmajor・Aminor・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節の課題。臨時記号、3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
10	読譜（CとE、GとB）、リズム読み・打ち（各音価・シンコペーション、8分の6拍子を含む）を中心に行う
11	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・C major・Aminor・4分の4拍子・4小節の課題）を中心に行う
12	リズム・メロディ聴音（各音価・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節・#♭1個づつの調号を含む課題）を中心に行う
13	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・Cmajor・Aminor・8分の6拍子を含む・4小節の課題）を中心に行う
14	メロディー聴音、視唱とリズム読みの総括
15	聴音試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］Bクラス（AS専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0712X0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解し演奏する力、リズム・ビートを正確に感じる力を育成するための音楽基礎教育である。それにより、音楽の全体像を理解し表現力を養うことを第一義とする。具体的には、読譜、リズム打ち、視唱などの継続的な訓練を行う。
ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表の読譜、視唱を中心に学習する。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、Cmajor中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、シンコペーションに加えAminorまた#♭１つずつの各調、6拍子まで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽基礎能力を高めるためには毎日の訓練を行う。予習・復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、実際に接しているアニソン・ポップス作品などを使って、読譜、視唱、リズムの訓練を行うこと。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］高音部譜表、リズム読み、視唱、聴音を学期を通してくまなく実施する。
1	ガイダンス 読譜（CとG）、リズム読み・打ち（8分音符・4分音符・2分音符など）を中心に行う
2	読譜（CとD・B、GとF・A）視唱（順次進行）を中心に行う
3	リズム・メロディ聴音（8分音符・4分音符・2分音符・順次進行・および短調を含む課題）を中心に行う
4	リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符など）、視唱（2度3度の練習）を中心に行う
5	読譜（CとD・B、GとF・A）、リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符・付点およびシンコペーション）を中心に行う
6	リズム・メロディ聴音（各音価・付点・シンコペーション・2度3度・臨時記号を含む）を中心に行う
7	読譜（CとD・B、GとF・A、速いテンポで）、視唱（Cmajor・4分の4拍子・4小節の課題、臨時記号を含む）を中心に行う
8	リズム読み・打ち（各音価・シンコペーションを含む）、視唱（C major・4分の3拍子・4小節の課題。3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
9	リズム・メロディ聴音（Cmajor・Aminor・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節の課題。臨時記号、3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
10	読譜（CとE、GとB）、リズム読み・打ち（各音価・シンコペーション、8分の6拍子を含む）を中心に行う
11	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・C major・Aminor・4分の4拍子・4小節の課題）を中心に行う
12	リズム・メロディ聴音（各音価・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節・#♭1個ずつの調号を含む課題）を中心に行う
13	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・Cmajor・Aminor・8分の6拍子を含む・4小節の課題）を中心に行う
14	メロディー聴音、視唱とリズム読みの総括
15	聴音試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［木3］ （DC専用）						
代表教員	白仁 “KOTETSU” 賢哉	授業コード	GK0712Y0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］ （BL専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0712Z0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］秋本クラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0713A0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

楽譜の全体的な理解と表現能力を習得し、更にそれらの能力を演奏に結びつけることを目指します。西洋音楽に大切な多声を聴き取る訓練を中心に、聴音はできる限り個人的にアドバイスを行い、無理なく聴音の力をつけてゆきます。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］大原クラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0713B0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

一声、二声のリズム打ちや、室内楽作品の視唱・視奏など、グループワークも取り入れながらソルフェージュ能力の向上を目指すアクティブなクラスです。聴音では、幅広い音域や様々な音色を聴くことで、聴覚の発達に役立てます。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （後） ［木2］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0713C0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュができる、できないより、多くの作品に接し、そこから学ぶ経験を重要視します。課題や実作品による旋律、和声、また音色の聴き取りや視唱だけでなく、それらの分析や演奏などについても考えます。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］神坂クラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0713D0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

ソルフェージュ全般の基礎力アップをめざすとともに、和声聴音に重点を置いた授業を行います。個別にアドバイスし、各々の弱点克服につながる手助けをします。視唱では伴奏付視唱を中心に、メロディーに伴うハーモニーの美しさを味わい、和声感を養います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］白澤クラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0713E0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。

ソロや重唱等での様々な視唱を中心に行い、「歌う」「ハモる」「相手を聴く」体感から、音感、和声感の認識を高め、正しく聴き取る力を磨きます。それぞれの苦手を共に解明しながら、一歩前進を目指します。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0713F0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【S】【A】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

初見演奏も取り入れます。そのため、読譜のために必要な簡単な形式分析の方法や、和声の中での音の聴き方（和音の種類は何か、演奏時自分が担当している音が和音のどの音にあたるのか）なども学習します。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］松下クラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0713G0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【S】【A】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

これまで学習してきた単旋律、二声、和声の聴音だけではなく、三声などの多声聴音にも取り組みます。また実際のオーケストラ作品などを用いて、作品様式を学習すると共に、ピアノ以外の音もしっかりと聞き取れるように授業を行います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］宮澤クラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0713H0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。

リズム感を養うリズム練習を中心に、視唱やアンサンブル等で「聴きとれる耳」「表現力」の基礎をしっかり身につけます。苦手を克服、更に良さをのばせるようできるだけ個別アドヴァイスします。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］森クラス						
代表教員	森　佳子	授業コード	GK0713K0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【S】【A】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

教材として名曲を多く取り上げ、多段譜への習熟を高めていきます。CDを用いての聴き取りも取り入れ、音読、視唱、指揮を通じて読譜力や表現力を養い、曲の構成やそれに付随する転調、和声などの考察も行います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］柳川クラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0713MO	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【S】【A】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

新曲視唱を多く取り上げます。また弾き歌いやピアノ伴奏の初見も合わせて実施します。ト音記号・ヘ音記号やその他さまざまな音部譜表を用いた課題も行う予定でいるため、クレ読みにもつながる授業を行います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］和田クラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0713NO	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

基礎訓練を重視し、様々な調性の旋律を通じて、より精度の高い音程感の育成を目指します。随時、各々の苦手分野を見極めながら、初見力、音楽の表現を磨く為のソルフェージュ能力強化を目指します。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］秋本クラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0714A0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【Ｂ】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

楽譜の全体的な理解と表現能力を習得し、更にそれらの能力を演奏に結びつけることを目指します。西洋音楽に大切な多声を聴き取る訓練を中心に、聴音はできる限り個人的にアドバイスを行い、無理なく聴音の力をつけてゆきます。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］大原クラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0714B0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
一声、二声のリズム打ちや、室内楽作品の視唱・視奏など、グループワークも取り入れながらソルフェージュ能力の向上を目指すアクティブなクラスです。聴音では、幅広い音域や様々な音色を聴くことで、聴覚の発達に役立てます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （前） ［木2］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0714C0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュができる、できないより、多くの作品に接し、そこから学ぶ経験を重要視します。課題や実作品による旋律、和声、また音色の聴き取りや視唱だけでなく、それらの分析や演奏などについても考えます。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］神坂クラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0714D0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。

ソルフェージュ全般の基礎力アップをめざすとともに、和声聴音に重点を置いた授業を行います。個別にアドバイスし、各々の弱点克服につながる手助けをします。視唱では伴奏付視唱を中心に、メロディーに伴うハーモニーの美しさを味わい、和声感を養います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］白澤クラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0714E0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）
視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
ソロや重唱等での様々な視唱を中心に行い、「歌う」「ハモる」「相手を聴く」体感から、音感、和声感の認識を高め、正しく聴き取る力を磨きます。それぞれの苦手を共に解明しながら、一歩前進を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0714F0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

初見演奏も取り入れます。そのため、読譜のために必要な簡単な形式分析の方法や、和声の中での音の聴き方（和音の種類は何か、演奏時自分が担当している音が和音のどの音にあたるのか）なども学習します。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］松下クラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0714GO	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
これまで学習してきた単旋律、二声、和声の聴音だけではなく、三声などの多声聴音にも取り組みます。また実際のオーケストラ作品などを用いて、作品様式を学習すると共に、ピアノ以外の音もしっかりと聞き取れるように授業を行います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］宮澤クラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0714K0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。

リズム感を養うリズム練習を中心に、視唱やアンサンブル等で「聴きとれる耳」「表現力」の基礎をしっかり身につけます。苦手を克服、更に良さをのばせるようできるだけ個別アドヴァイスします。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］森クラス						
代表教員	森　佳子	授業コード	GK0714L0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。

教材として名曲を多く取り上げ、多段譜への習熟を高めていきます。CDを用いての聴き取りも取り入れ、音読、視唱、指揮を通じて読譜力や表現力を養い、曲の構成やそれに付随する転調、和声などの考察も行います。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］柳川クラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0714MO	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
新曲視唱を多く取り上げます。また弾き歌いやピアノ伴奏の初見も合わせて実施します。ト音記号・ヘ音記号やその他さまざまな音部譜表を用いた課題も行う予定でいるため、クレ読みにもつながる授業を行います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］和田クラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0714N0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュⅢ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。
音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。
ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
基礎訓練を重視し、様々な調性の旋律を通じて、より精度の高い音程感の育成を目指します。随時、各々の苦手分野を見極めながら、初見力、音楽の表現を磨く為のソルフェージュ能力強化を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［月6］						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK080000	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業は音楽を学修するうえで必要最低限の知識を得るために開講されている。クラシカルな音楽作品だけではなく、様々なジャンルの音楽を扱いながら、いわゆる「楽典」に相当する内容を修得することを主題とする。

また、楽譜から作曲家の真意を読みとって音楽表現に役立てられる総合的な知識への発展を目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って解説するとともに、練習問題を実施しながら理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

本学はオンラインスクールにおいて「楽典解説」および「楽典オンライン試験」を公開しているが、これを併用して理解を深めることが修得への早道である。

なお、毎週課題を提示し、次週の授業冒頭で解答を示すとともに解説する。また、月１度の割合で授業内定期試験を実施する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０%）
授業内定期試験（評価の３０%）
学期末試験（評価の４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献:
『楽典』　石桁真礼生著（音楽之友社）
『楽典―音楽家を志す人のための』　菊地有恒著（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者が「音楽分析基礎講座」などの音楽理論系授業を履修する場合に、本授業の履修が必要となる。

なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽の三要素
2	譜表、音名
3	音符と休符、リズム
4	小節と拍子　授業内定期試験
5	音程１（高音部譜表、単音程を中心）
6	音程２（大譜表、複音程を含む）
7	音階（長音階と短音階）
8	音階（教会旋法）　授業内定期試験
9	和音の種類（コードネームを含む）
10	和音の度数
11	和音の所属
12	調、調号、五度圏　授業内定期試験
13	調判定の基礎　基本的な楽語
14	調判定の応用　さまざまな楽語
15	音楽理論のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［水3］ （AS専用）						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK0800A0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名、譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［水3］ （BL専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0800B0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

BLコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名と譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験実施と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［水3］ （DC専用）						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GK0800C0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名と譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験実施と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［月5］ （MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0800D0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。リズム、音階、調性、ハーモニーなど、楽譜上に記されている全ての事柄を理解し、作曲家の思いを演奏に活かせるようにすることが最終目標である。クラシック音楽のみならず、ミュージカルナンバーはじめ様々なジャンルの楽曲を例にとり上げ、実際に即したかたちで理解させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、音楽理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎週課題を提示し、次週の授業時間の冒頭で解答及び解説を行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
定期試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび西洋音楽の歴史的な流れについて
2	音の三要素、音楽の三要素について
3	音名、リズムについて ＃１
4	音名、リズムについて ＃２
5	音程について ＃１
6	音程について ＃２
7	調号と主音について
8	音階について ＃１
9	音階について ＃２
10	音階について ＃３
11	和音の種類・機能について（コードネーム含む）＃１
12	和音の種類・機能について（コードネーム含む）＃２
13	和音の種類・機能について（コードネーム含む）＃３
14	楽譜に記されている全ての事柄について。
15	音楽理論全般のまとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽理論入門 （前） ［月5］ （RP専用）						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK0800E0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。リズム、音階、調性、ハーモニーなど、楽譜上に記されている全ての事柄を理解し、作曲家の思いを演奏に活かせるようにすることが最終目標である。クラシック音楽のみならず、ポップスなど様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実際に即した形で理解させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、音楽理論実習を行う。数回に１度、理解度を確認する試験を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎週課題を提示し、次週の授業時間の冒頭で解答及び解説を行う。間違えた箇所については自身でよく復習をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
定期試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、プリント等を配布する。
参考文献：『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者および未受験者については、必須科目。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび西洋音楽の歴史的な流れについて
2	音の三要素、音楽の三要素について
3	リズムについて
4	音名について
5	音程について　（単音程）
6	音程について　（複音程）
7	調号と主音について
8	音階について（長音階）
9	音階について（短音階）
10	音階について（特徴的な音階と使用頻度の高い音階）
11	和音の種類について
12	和音の種類について（コードネームを用いた表記方法）
13	和音の機能について
14	楽譜に記されている全ての事柄について
15	音楽理論全般のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Aクラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0811A0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0811B0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Cクラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0811C0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Dクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0811D0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Eクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0811E0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Fクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0811F0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Gクラス						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0811G0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Hクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0811H0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （前） ［木1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0811J0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Kクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0811K0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Mクラス						
代表教員	二宮　玲子	授業コード	GK0811M0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Nクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0811N0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Rクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0811R0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Sクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0811S0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Tクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0811T0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Uクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0811U0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I （後） ［月2］Vクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0811V0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］秋本クラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0812A0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

和声法は音楽言語の文法です。和声の配置と連結の実習を通して和声法を習得することは、様々な楽曲を分析する為の大きな力となります。授業は解説のあとマンツーマンで行い、個人のレベルにあわせて学習をカスタマイズします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］大江クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0812B0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

課題の個人的な指導を行いながら、課題や楽曲中の和声の聴き取りを行い（聴音が不得手でも大丈夫です）、響きを捉える耳の感覚を訓練していきます。分析においても、旋律と和音の響きの色合いを耳から捉えて演奏や作曲に役立つよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］神坂クラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0812C0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

授業ではなるべく多くの時間を課題実習にあてます。理論の説明をするほかは一人ずつ課題を弾きながらわかりやすく丁寧に添削指導していきます。書く→聴くを繰り返すことで読譜力を養い、楽曲分析に生かせることを目標とします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］川崎クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0812D0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

課題は個別に添削していきます。さらに、選りすぐった名演奏家たちの素晴らしい演奏の録音を聴きながら、楽曲の仕組みや和声の分析を行い、演奏者として曲を解釈する際や、作曲する場合に役立つよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0812F0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

授業の各回では、学習する和音の基本的な連結や定型の習得を目的とした課題に反復して取り組むことを重視します。また最終的に、この授業の中で学んだ和声を分析に活用させることを目指し、分析ではロマン派初期までの作曲家の楽曲を中心に扱います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］小林弘人クラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0812G0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

四声体和声の基本的な配置、連結を習得するため、課題の反復練習と添削を中心に行います。ソプラノ課題では旋律の伴奏付けへの応用を視野に入れ、実際の作品との関連を意識できるよう古典からロマン派作品の分析を実施し和声学の応用範囲を広げてゆきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］清水クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0812J0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

様々な作品の分析も同時に行い、作曲家がハーモニーやメロディーを通して何を語ろうとしているのかを考えていきます。課題の添削については従来の個別指導のほか、本学が提供している和声学の E-Learning 教材も活用し、新時代の授業形態を目指します。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （後） ［木1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0812K0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学の学習を継続していく力を身につけるために、反復学習を通して基礎をしっかりと固めていくことを目指します。また分析の面からも、学習した和声の配置や連結の実際を確認し、楽曲の理解へとつなげていきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］二宮クラス						
代表教員	二宮　玲子	授業コード	GK0812L0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

親しみやすい楽曲の実例を挙げて、和声学を楽しく学びます。一人一人の質問に、わかりやすく応え、丁寧に指導してゆきます。分析では、簡単なピアノ曲や声楽曲を中心に扱います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0812M0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

基礎をわかりやすく説明します。ひとりひとりの状況を把握し、アドヴァイス、またはみんなで問題を共有し解決します。

分析では、よく採り上げられているオーケストラ曲や室内楽を中心に扱い、和声学の実用性を実感し、演奏、作曲にいかせる事を目標とします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学II （前） ［月1］松本クラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0812N0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）

『和声学課題集Ⅱ』

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

一人ずつ課題を添削し指導するとともに、課題や既成のコラールを歌うことなどによって和音の響きや声部の進行に対する感覚を鋭くするようにしていきます。また、様々な曲の和声を分析し、それを演奏や作曲に生かせるよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］秋本クラス						
代表教員	秋本　康子	授業コード	GK0813A0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

和声法は音楽言語の文法です。和声の配置と連結の実習を通して和声法を習得することは、様々な楽曲を分析する為の大きな力となります。授業は解説のあとマンツーマンで行い、個人のレベルにあわせて学習をカスタマイズします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］大江クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0813B0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

課題の個人的な指導を行いながら、課題や楽曲中の和声の聴き取りを行い（聴音が不得手でも大丈夫です）、響きを捉える耳の感覚を訓練していきます。分析においても、旋律と和音の響きの色合いを耳から捉えて演奏や作曲に役立つよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］神坂クラス						
代表教員	神坂　真理子	授業コード	GK0813C0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

授業ではなるべく多くの時間を課題実習にあてます。理論の説明をするほかは一人ずつ課題を弾きながらわかりやすく丁寧に添削指導していきます。書く→聴くを繰り返すことで読譜力を養い、楽曲分析に生かせることを目標とします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］川崎クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0813D0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

課題は個別に添削していきます。さらに、選りすぐった名演奏家たちの素晴らしい演奏の録音を聴きながら、楽曲の仕組みや和声の分析を行い、演奏者として曲を解釈する際や、作曲する場合に役立つよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0813F0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

授業の各回では、学習する和音の基本的な連結や定型の習得を目的とした課題に反復して取り組むことを重視します。また最終的に、この授業の中で学んだ和声を分析に活用させることを目指し、分析ではロマン派初期までの作曲家の楽曲を中心に扱います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］小林弘人クラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0813G0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）

和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

四声体和声の基本的な配置、連結を習得するため、課題の反復練習と添削を中心に行います。ソプラノ課題では旋律の伴奏付けへの応用を視野に入れ、実際の作品との関連を意識できるよう古典からロマン派作品の分析を実施し和声学の応用範囲を広げてゆきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］清水クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0813J0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

様々な作品の分析も同時に行い、作曲家がハーモニーやメロディーを通して何を語ろうとしているのかを考えていきます。課題の添削については従来の個別指導のほか、本学が提供している和声学の E-Learning 教材も活用し、新時代の授業形態を目指します。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］二宮クラス						
代表教員	二宮　玲子	授業コード	GK0813L0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。

親しみやすい楽曲の実例を挙げて、和声学を楽しく学びます。一人一人の質問に、わかりやすく応え、丁寧に指導してゆきます。

分析では、簡単なピアノ曲や声楽曲を中心に扱います。　遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0813M0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）

基礎をわかりやすく説明します。ひとりひとりの状況を把握し、アドヴァイス、またはみんなで問題を共有し解決します。

分析では、よく採り上げられているオーケストラ曲や室内楽を中心に扱い、和声学の実用性を実感し、演奏、作曲にいかせる事を目標とします。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （後） ［月1］松本クラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0813N0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。

一人ずつ課題を添削し指導するとともに、課題や既成のコラールを歌うことなどによって和音の響きや声部の進行に対する感覚を鋭くするようにしていきます。また、様々な曲の和声を分析し、それを演奏や作曲に生かせるよう指導していきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学III （前） ［木2］小林直哉クラス						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0813R0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」または「和声学II（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施し和声連結の習得を目指します。実施した課題は１人ひとり添削していきます。

これまでの和声よりも内容が少しずつ難しくなっていきますが、理解出来るまで分かりやすく丁寧に指導し、また様々な楽曲の分析を行います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV （前） ［月1］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0814A0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ： 【B】【C】（基礎クラス）

これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。

「和声の勉強」と思うと気が重くなるかもしれません。しかし「作品を知る」ための手助けとなり、楽しみや喜びに結び付くものにもなるのです。知っている曲、知っておくべき曲の分析と共に一歩一歩進めて行きます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV （前） ［月1］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0814B0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。

扱う和音が増えますが、その分和声のもつ色彩を選べるよう、一緒に考えていきます。

また分析では、主科で扱っているものをできるだけ用いるようにし、和声学と演奏が結びつくようこころがけます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV （前） ［月1］松浦クラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0814C0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。

課題はだんだんハイレベルなものになっていきますが、その分面白くもなってきます。丁寧に解説し、一緒に考え、皆さんが楽しみながら力をつけていけるようにしたいと思います。分析では、和声学を演奏にどう生かすかをテーマに考えていきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV （前） ［月1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0814D0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ： 【B】【C】（基礎クラス）

これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。

「和声」が好きでも嫌いでも、得意でも苦手でも、音楽にとって大変重要な部分であることは間違いのないことです。たとえゆっくりでも、少しでも「和声」を理解できるよう、多くの人が知っている曲の分析とともに学びます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV （後） ［木2］小林直哉クラス						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0814R0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施し和声連結の習得を目指します。実施した課題は１人ひとり添削していきます。

これまでの和声よりも内容が少しずつ難しくなっていきますが、理解出来るまで分かりやすく丁寧に指導し、また様々な楽曲の分析を行います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学Ⅴ （後） ［月1］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0815A0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅳ」または「和声学Ⅳ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて教員が指示する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：　【Ｂ】【Ｃ】（基礎クラス）

これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。

「和声の勉強」と思うと気が重くなるかもしれません。しかし「作品を知る」ための手助けとなり、楽しみや喜びに結び付くものにもなるのです。知っている曲、知っておくべき曲の分析と共に一歩一歩進めて行きます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学Ⅴ （後） ［月1］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0815B0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅳ」または「和声学Ⅳ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて教員が指示する。

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。

扱う和音が増えますが、その分和声のもつ色彩を選べるよう、一緒に考えていきます。また分析では、主科で扱っているものをできるだけ用いるようにし、和声学と演奏が結びつくようこころがけます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学Ⅴ （後） ［月1］松浦クラス							
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0815C0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅳ」または「和声学Ⅳ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて教員が指示する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）

これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。

課題はだんだんハイレベルなものになっていきますが、その分面白くもなってきます。丁寧に解説し、一緒に考え、皆さんが楽しみながら力をつけていけるようにしたいと思います。分析では、和声学を演奏にどう生かすかをテーマに考えていきます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学Ⅴ （後） ［月1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0815D0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅳ」または「和声学Ⅳ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて教員が指示する。

参考文献：

『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：　【Ｂ】【Ｃ】（基礎クラス）

これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。

「和声」が好きでも嫌いでも、得意でも苦手でも、音楽にとって大変重要な部分であることは間違いのないことです。たとえゆっくりでも、少しでも「和声」を理解できるよう、多くの人が知っている曲の分析とともに学びます。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学Ⅴ （前） ［木3］小林直哉クラス							
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0815E0	科目コード	GK0815	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	3					
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	「和声学Ⅳ」または「和声学Ⅳ（認定）」の単位修得済の学生							
教員免許状								

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて教員が指示する。

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施して和声連結の習得やを目指します。構成音の転位（非和声音）は難しい内容ですが、学生１人ひとりが理解し満足感が得られるよう、実施した課題を添削します。また授業内容を元に様々な楽曲の分析を行います。

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学IV（認定）　（前）　[水2]						
代表教員	照屋　正樹	授業コード	GK082200	科目コード	GK0822	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	前の年度の後期に「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは主として転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

2．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から19世紀における作品の和声分析を通じて、カデンツをはじめとした音楽語法を研究する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の30%）
学期末試験（評価の70%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退3回を欠席1回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	半期
1	ガイダンス、和声学IIIの確認
2	Ⅱ7、Ⅳ7以外の副七の和音
3	近親転調　バス課題の概要
4	近親転調　転入での連結法
5	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
6	近親転調　バス課題の実施法
7	近親転調　バス課題の実施
8	近親転調　バス課題のまとめ
9	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
10	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
11	近親転調　ソプラノ課題の実施法
12	近親転調　ソプラノ課題の実施
13	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
14	借用和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学V（認定）　（後）［水2］						
代表教員	照屋　正樹	授業コード	GK082300	科目コード	GK0823	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	同じ年度の前期に「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅴでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

2．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。

また、主に古典派から19世紀における作品の和声分析を通じて、カデンツをはじめとした音楽語法を研究する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の30%）
学期末試験（評価の70%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退3回を欠席1回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	半期
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	配置変化について
3	配置変化を伴う休符のある課題
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0851A0	科目コード	GK0851	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0851B0	科目コード	GK0851	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0852A0	科目コード	GK0852	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J.S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0852B0	科目コード	GK0852	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J.S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水2］Cクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GK0852C0	科目コード	GK0852	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

2．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聞けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聞いておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の60%）
平常点（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の10%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聞いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。

授業計画	
	〔半期〕
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J. S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J. S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK0853A0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

２．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0853B0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においては、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけての時代を古典派音楽の時代と呼んでいる。古典派の代表的作曲家といえば、誰もがハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを挙げるところからわかるように、この時代の音楽は今日の演奏会のレパートリーの大半を占め、私たちにとって非常に親しいものになっている。本講座は、私たちにとって身近なこの古典派音楽を、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観し、古典派音楽がどのような様式的特徴をもつのかを、楽譜やCD等を活用して歴史の流れの中で捉えることを目標とする。

２．授業概要

古典派の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心に時代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0853C0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0853D0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においては、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけての時代を古典派音楽の時代と呼んでいる。古典派の代表的作曲家といえば、誰もがハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを挙げるところからわかるように、この時代の音楽は今日の演奏会のレパートリーの大半を占め、私たちにとって非常に親しいものになっている。本講座は、私たちにとって身近なこの古典派音楽を、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観し、古典派音楽がどのような様式的特徴をもつのかを、楽譜やCD等を活用して歴史の流れの中で捉えることを目標とする。

２．授業概要

古典派の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心に、ジャンルごとに時代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・前古典派の音楽
2	ハイドンの交響曲
3	モーツァルトの交響曲
4	ベートーヴェンの交響曲
5	モーツァルトのピアノ協奏曲
6	ベートーヴェンのピアノ協奏曲
7	ハイドンとモーツァルトの弦楽四重奏曲
8	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲
9	古典派のピアノ・ソナタ
10	モーツアルトに至るまでのオペラ
11	モーツァルトのオペラ
12	ハイドンのオラトリオ
13	古典派の宗教音楽
14	古典派の歌曲
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK0854A0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0854B0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においてロマン派時代と呼ばれる１９世紀から、２１世紀の現代までの音楽の歴史を、政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観する。とくにロマン派の音楽は、今日の演奏会のレパートリーの大半を占めるほど私たちの周りにあふれている。このように私たちが慣れ親しんでいる音楽を歴史の流れの中に置いた時、どのような様式的特徴が見えてくるか、またその後音楽はどのように発展して今日に至ったのか、こうした問題を中心に１９世紀以降の音楽の歴史を、楽譜やCD等を活用して知性と感性をとおして探求することを目標とする。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、年代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0854C0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0854D0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においてロマン派時代と呼ばれる１９世紀から、２１世紀の現代までの音楽の歴史を、政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観する。とくにロマン派の音楽は、今日の演奏会のレパートリーの大半を占めるほど私たちの周りにあふれている。このように私たちが慣れ親しんでいる音楽を歴史の流れの中に置いた時、どのような様式的特徴が見えてくるか、またその後音楽はどのように発展して今日に至ったのか、こうした問題を中心に１９世紀以降の音楽の歴史を、楽譜やCD等を活用して知性と感性をとおして探求することを目標とする。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、ジャンルごとに年代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・ロマン派のドイツ・リート
2	ロマン派のピアノ音楽
3	ロマン派のイタリア・オペラ（ロッシーニ～ヴェルディ）
4	ロマン派のイタリア・オペラ（ヴェルディ～プッチーニ）とフランス・オペラ
5	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴェーバー～ヴァーグナー）
6	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴァーグナー）
7	ロマン派の標題交響曲
8	ロマン派の交響詩
9	ロマン派の民族主義音楽
10	ドイツ・ロマン派の交響曲
11	マーラーの交響曲
12	ストラヴィンスキーの音楽
13	近代フランスの音楽
14	シェーンベルクの音楽
15	現代の音楽　・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	管弦楽法　[木3]						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK111100	科目コード	GK1111	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	・作曲コース前提科目 「管弦楽概論」の単位修得済の学生 ・音楽・音響デザインコース前提科目 「和声学III」または「和声学III(認定)」、および「管弦楽概論」の単位修得済の学生 ・音楽・音響デザインコース「和声学III」の成績が「C」の者は不可。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラスコアにある情報を整理し、書かれている音楽を頭の中で想像し、鳴らすことができる、という能力は指揮者や作曲家にとって必須のものです。作曲家はさらに自分の中に涌き出た音像を確実にスコアリングする能力が求められます。この授業では上記の2つを到達目標として進めていきます。

２．授業概要

オーケストラスコアを読みながら実際の音（CD等の音源）を聴き、①直ちに聴こえてくる音符、②よく耳を傾けるとかすかに聴こえてくる音符、③聴こえることは殆んどないけれどもその場面の音像を構築するのに寄与している音符、の3種類を意識する感覚を身につけていきます。また、この作業で知りえた技法を既成のピアノ曲、室内楽曲をオーケストレーションすることで確認し、それを履修者全員に対してプレゼンし、全員で議論します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で用いる楽曲については、あらかじめ繰り返しスコアをよく読み、よく聴く。
　この授業では手書きによるスコアリングを重視するのでそれに必要なアイテム（Bまたは２Bの鉛筆、格子付きのアクリル定規等）を揃え、また自宅での作業環境（最低でもB３サイズの五線紙を広げられる机）を整えてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０%）授業における発表や討議などへの参加姿勢、課題の実施状況など。
課題提出（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意していただくスコアについてはその都度授業内で指示します。

管弦楽法について、下記のうちのどれか１冊を購入しておくとスコアリングの作業を進める際に便利です。

W.ピストン著　戸田邦雄　訳　「管弦楽法」　音楽之友社
新総合音楽講座 8　「管弦楽法概論」　　ヤマハ音楽振興会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「前提科目」を参照してください。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器、木管楽器およびホルン等を中心に学習し、それらによる小管弦楽編曲を実施する。
1	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析① G.Bizet　「アルルの女　第1組曲」より「前奏曲」「メヌエット」オーケストレーション分析
2	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析② G.Bizet　「アルルの女　第1組曲」より「アダージエット」「カリヨン」オーケストレーション分析
3	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析③ G.Bizet　「アルルの女　第2組曲」より「パストラール」「間奏曲」「メヌエット」オーケストレーション分析
4	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① ベートーヴェンピアノソナタ7番第3楽章前半Aの弦楽オーケストラ編曲
5	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② ベートーヴェンピアノソナタ7番第3楽章中間部の弦楽オーケストラ編曲
6	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習③ ベートーヴェンピアノソナタ15番第3楽章再現部の弦楽オーケストラ編曲
7	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習④ ベートーヴェンピアノソナタ15番第3楽章の弦楽オーケストラ編曲完成。
8	第4回～7回までに編曲したスコアの検討、講評会
9	木管楽器・ホルンを含んだオーケストラスコアの分析① モーツァルト「交響曲第25番」第1・2楽章
10	木管楽器・ホルンを含んだオーケストラスコアの分析②モーツァルト「交響曲第25番」第3・4楽章
11	木管楽器・ホルン・トランペットを含んだオーケストラスコアの分析③ ヴァーグナー「ジークフリート牧歌」
12	木管楽器・ホルン・トランペットを含んだオーケストラスコアの分析④ プロコフィエフ　交響曲第1番
13	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。ピアノ譜に楽器選択のアイデアを記入。
14	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習 ② メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。コンデンススコアの完成。
15	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習③ メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。オーケストラ用五線紙にスコアリング。

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器等を加え、2～3管編成による管弦楽編曲を実施する。
1	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析① シューベルト　交響曲8番「未完成」第1楽章
2	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析② シューベルト　交響曲8番「未完成」第2楽章
3	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析③ チャイコフスキー　交響曲第5番第1楽章
4	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析④ チャイコフスキー　交響曲第5番第2楽章
5	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析⑤ チャイコフスキー　交響曲第5番第3，第4楽章
6	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。ピアノ譜に楽器選択のプランを記入。
7	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。オーケストラ用五線紙にスコアリング。
8	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。スコアリングの完成を目指す。
9	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析① ラヴェル　「古風なメヌエット」ピアノソロ版との比較①
10	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析② R.シュトラウス「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
11	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析③ バルトーク「オーケストラのための協奏曲」第１、2楽章
12	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析④ バルトーク「オーケストラのための協奏曲」第3~5楽章
13	第9回~12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① 各自選んだ曲を3管編成で編曲及び添削。
14	第9回~12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② 各自選んだ曲を3管編成で編曲。スコアリング完成。
15	課題提出・総括

科目名	楽曲分析研究２　［火4］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK113700	科目コード	GK1137	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	2				
対象コース		科目分類					
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽の歴史において15世紀前半から400年以上続いてきた長調・短調による作曲様式が19世紀後半になると様々な作曲家がいろいろな試行錯誤をし、独自の音組織を持った作曲様式が次々と誕生します。この授業では長調・短調の枠では説明しきれない作品について様々な角度から分析をできるスキルを会得することを目標とします。

２．授業概要

スコアを見ながら音源を聴き、音組織・形式・編成・楽器法など様々な角度から作曲者の意図を解明していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品について、授業後も繰り返しスコアを読みながら何度も聴き、覚えるようにする、という形での復習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に提出を課すリポートで授業に対する到達度・理解度を判定します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

スコアについてはその都度指示します。また、入手困難と思われるスコアについてはこちらで用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作曲コースの学生。他コースからの履修や聴講を希望する場合、和声学Ⅰ～Ⅳまでを履修済みの者

授業計画	
1	印象主義の音楽１ ドビュッシーのピアノ作品について
2	印象主義の音楽２ ドビュッシー　交響詩「海」第1楽章
3	印象主義の音楽３ ドビュッシー　交響詩「海」第2楽章
4	印象主義の音楽４ ドビュッシー　交響詩「海」第３楽章
5	表現主義の音楽１ R. シュトラウスの交響詩について
6	表現主義の音楽２ R. シュトラウスのオペラについて
7	表現主義の音楽３ シェーンベルク「浄夜」
8	無調の音楽1 シェーンベルク弦楽四重奏第2番
9	無調の音楽2 シェーンベルク「ピエロ・リュネール」
10	12音技法による音楽１ シェーンベルク「ピアノ組曲」op25
11	12音技法による音楽２ ヴェーベルン「3つの歌曲」　op18 ヴェーベルン弦楽四重奏曲　op28
12	12音技法による音楽３ ベルク「ヴァイオリン協奏曲」第1楽章
13	12音技法による音楽５ ベルク「ヴァイオリン協奏曲」第2楽章
14	原始主義の音楽１ ストラヴィンスキー「春の祭典」第1部
15	原始主義の音楽２ ストラヴィンスキー「春の祭典」第2部

授業計画	
1	バルトークの作曲技法１ ピアノ作品について
2	バルトークの作曲技法２ 2台のピアノと打楽器のためのソナタ
3	バルトークの作曲技法３ 弦楽四重奏曲第4番
4	バルトークの作曲技法４ 弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽
5	メシアンの作曲技法１ ～M.T.L.について～ 「主の降誕」より『羊飼い』
6	メシアンの作曲技法２ ～中世の作曲技法の応用～ 「世の終わりのための四重奏曲」より1曲目
7	メシアンの作曲技法３ ～付加された音価・不可逆のリズム～ 「世の終わりのための四重奏曲」より３，４，５曲目
8	第2次大戦後の音楽１ J.ケージの鍵盤作品
9	第2次大戦後の音楽２ シュトックハウゼンのピアノ作品
10	第2次大戦後の音楽３ シュトックハウゼン「グルッペン」
11	第2次大戦後の音楽４ リゲティ「アトモスフェール」
12	第2次大戦後の音楽５ スティーブ・ライヒの器楽作品
13	邦人作曲家の系譜1 大正期・昭和初期の作品
14	邦人作曲家の系譜２ 第2次大戦後の作品
15	邦人作曲家の系譜３ オイルショック以降の音楽

科目名	アドバンスト・ハーモニー　［木3］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	GK121800	科目コード	GK1218	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズハーモニーⅡ-２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズハーモニーⅠ・Ⅱで学んだ知識をより発展させた様々なスタイルのハーモニーのテクニックやその進行、リハーモナイゼーション・テクニックなどについて学び、それを作曲・編曲に応用出来るようにさせる。

２．授業概要

授業計画に沿って様々なテクニックを学んでいきながら、一時代を築き上げたプロデューサーのクインシー・ジョーンズやデイビッド・フォスター等の特徴のあるサウンドとハーモニー進行についての分析なども行っていく。コードネームを中心としたハーモニーについては、最高度なテクニックまでを含めた一通りの知識を得られる内容になっている。担当教員独自のストリングスやオーケストラのハーモニーやライティング技術についても解説する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

習った事を次の週までに完全に自分のものにするように、繰り返し復習する事。

４．成績評価の方法及び基準

前期におけるテスト40%、後期に提出する課題５０％ 、平常点10%。授業への参加姿勢が良好である事を単位取得の条件とする。課題提出を必須とし、テストの成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズハーモニーⅠ・Ⅱで学んだ事をよく復習し、全てのコードの構成音、特にテンションノートについて即答出来るようにしておく。

授業計画	
	［前期］
1	クローズ＆オープン・ヴォイシング・テクニック テンション・ノートやコード・スケール等についての復習
2	分数コードや２の和音など８０年代以降に生まれた新しい響きの和音について（デイビッド・フォスター等の使用例と共に解説）
3	デイビッド・フォスター等の作品の和声進行や転調の分析
4	デイビッド・フォスター等の作品のヴォイシングの分析
5	４度ハーモニーとクラスターについて解説
6	アッパー・ストラクチャー・トライアードの解説
7	ここまでの復習とテクニックを使用した作品の解説など。（担当教員が作曲した映画音楽などのスコアを使用。）
8	ハイブリッド・コードについての解説
9	ハイブリッド・コードの使用例の解説（クインシー・ジョーンズやデイブ・グルーシン等の作品を使用）
10	リハーモナイゼーション・テクニックについて
11	リハーモナイゼーション・テクニックの使用例について
12	コンビネーション・ディミニッシュ・スケールとリディアン・スケールについて（映画音楽などでの応用法）
13	モーダル・ハーモニーについて（ハービー・ハンコックやマイルス・デイビスの使用例の解説）
14	テストとまとめ
15	後期に提出する課題について解説。映画やドラマにおいての監督との打ち合わせ、録音の進め方、予算と楽器編成の関係、著作権のことなど、作曲家がプロとして活動していく上での実際的な事について解説。

授業計画	
	［後期］
1	ストリングス・ライティング基礎編（各弦楽器の特性の解説、基礎的な書法）
2	ストリングス・ライティング応用編（担当教員のスコアを提示しながら実際的な様々な書法を解説）
3	オーケストラ・ライティング① （映画やアニメ作品のためのオーケストレーション技法）
4	オーケストラ・ライティング② （担当教員の「利家とまつ」等の作品の解説）
5	オーケストラ・ライティング③ （担当教員の「ローマ帝国」等の作品の解説）
6	ポップスにおけるシークエンスパターンの作り方や和声進行について解説。
7	映画音楽における録音時に気をつけるべきこと等の解説、また様々な音楽的疑問について質問を受け付ける時間とする。オーケストレーションなどについてもさらに詳細に語る。
8	ジョン・ウィリアムズの研究①（「スター・ウォーズ」等の作品分析
9	ジョン・ウィリアムズの研究②（「ジョーズ」におけるポリコードの例、「ダース・ベイダーのテーマ」等の作品分析）
10	ジェリー・ゴールドスミスの研究①（録音現場での実際の映像ををDVD映像で見ながら、特殊楽器の使用法等を解説）
11	ジェリー・ゴールドスミスの研究②（「スター・トレック」等の作品解説。）
12	パット・メセニーの研究①作品を分析しながらモーダルインターチェンジコードの使用法について解説。
13	パット・メセニーの研究②「オーケストリオン」のドキュメンタリー映像を見ながら、音楽家として常に前人未踏の境地を追求する生き方について解説。コードプログレッションについても引き続き解説。
14	ポップスにおけるモーダルインターチェンジコードの効果的な使用例について「解説。後期の提出課題（学生の作品）の中から優秀な作品を聞き、評論する。
15	前期と後期の復習、まとめ。様々な質問も受け付ける。

科目名	コンテンポラリー・ハーモニー ［木5］						
代表教員	宮木　朝子	授業コード	GK121900	科目コード	GK1219	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コンテンポラリーな音楽表現において必要な音楽技法について学ぶ。
1.ハーモニーという概念の拡大と逸脱を含む 「響きの可能性の探求」
２.教会旋法から調性確立、無調を経て、その融合など「旋律の可能性の追求」
３.民族音楽、舞踊からもヒントをえたポリリズムなどの「リズム・ストラクチャーの応用」
４.それらすべてに関係する楽器法、奏法と音色の関係、音響合成など「新たな音色の探求」
以上4つの観点から、実際の映画音楽とそれらに影響を与えている近現代の音楽を分析する。
そのことによって、現在求められている高度な音楽制作に必要な多様な音楽語法を身につけることを目標とする。

２．授業概要

映画音楽、舞台音楽他、コンテンポラリーな音楽制作に応用できる現代音楽的技法の解説。ジョン・ウィリアムズなど現代の映画音楽にも影響を与えたフランス近現代から現代音楽にいたるまでの楽曲を具体的に分析。その影響による映画音楽や先端的なポップス、エレクトロニカの楽曲と対比させつつ解説、分析、実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回ごとに前後のつながりがあるので、前回のプリントを一読して復習をしてくることが望ましい。
授業内に視聴した作品例について、時間の関係で一部の紹介にとどまった場合は、自主的に授業後全体を視聴し、プリントの論点を復習することが望ましい。授業末最終課題提出に向けて、　各回ごとに解説された技法を用いた自主的な試作を重ねることを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：授業内でレジュメ・プリントを配布
参考文献：
『20世紀の和声法』ヴィンセント・パーシケッティ（音楽之友社）
『音楽分析ーギリシャ旋法から現代音楽まで』ジャック・シャイエ（音楽之友社）
『大作曲家の和声』ディーター・デ・ラ・モッテ（シンフォニア）
『バルトークの作曲技法』エルネ・レンドヴァイ（全音楽譜出版社）
『ブーレーズ音楽論ー徒弟の覚書』ピエール・ブーレーズ（晶文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

鑑賞と解説、具体的な分析が中心となります。耳慣れない音楽も含まれますが、知識や技術よりも熱意と好奇心を歓迎しますので積極的に受講してください。

授業計画	
	［前期］ 　西洋クラシック音楽の技法を、和声の発展の歴史と物語を語るモチーフの伝統から分析。後期ロマン派からフランス近現代、ドイツ表現主義音楽まで扱う。
1	ガイダンス
2	ジョン・ウィリアムズの映画音楽書法とその源流 『スター・ウォーズ』における “ライトモチーフ”的書法 １）機能和声の拡大、詩への和声づけと転調の天才、シューマンの歌曲
3	２）機能和声からの逸脱による謎の響きトリスタン和音、ライトモチーフによる魅惑の無限旋律、ワーグナーの楽劇
4	２）機能和声からの逸脱による謎の響きトリスタン和音、ライトモチーフによる魅惑の無限旋律、ワーグナーの楽劇
5	後期ロマン派 シューマン、ワーグナーの和声法ー実習
6	『ジョーズ』に影響を与えた、ストラビンスキーのバレエ音楽『春の祭典』-1 ー“複調”（二つ以上の異なる調が同時的にあらわれること）の効果
7	『ジョーズ』に影響を与えたリズムストラクチャー、ストラビンスキーのバレエ音楽-2 ー変拍子・リズムポリフォニーについて／課題の実施
8	フランス近現代 響きの可能性の追求、旋法の復興と調性の拡大-1 ドビュッシーの革新的な響きの手法
9	フランス近現代 響きの可能性の追求、旋法の復興と調性の拡大-2 調性積み重ねによる複和音 ／ 累加和音（五度、四度の積み重ね）
10	フランス近現代 響きの可能性の追求、旋法の復興と調性の拡大-3 ドビュッシー、ラヴェル、フォーレの作品より
11	フランス近現代 響きの可能性の追求、旋法の復興と調性の拡大-4 メロディーの可能性を開く-1）ドビュッシー楽曲分析
12	フランス近現代 響きの可能性の追求、旋法の復興と調性の拡大-5 メロディーの可能性を開く-２）ラヴェル『夜のガスパール』他分析
13	ドイツとオーストリアの表現主義音楽-フランス印象派との対比 無調による内面的な世界観-シェーンベルク、ベルク他
14	ヨーロッパ映画におけるミュージック・コンクレート、環境音、民俗楽器などの融合による例
15	テストとまとめ

授業計画	
	［後期］ 戦後の現代音楽の中でも、響きやリズムの可能性を広げその後の映画音楽にも影響を与えた技法を分析。後半はタイプの異なる映画音楽を鑑賞、分析。コンテンポラリーなモード、ハーモニーの技法からの影響をみる。
1	ガイダンス（前期の復習と後期の解説）
2	響きの可能性の追求-6 調性概念の発展 アルバン・ベルク、アレクサンドル・スクリャービンなど
3	響きの可能性の追求-7 現代音楽の音響的使用例 『未知との遭遇』『宇宙戦争』におけるトーン・クラスター、マイクロポリフォニーなどの書法と現代音楽 -リゲティ 『アトモスフェール』ペンデレツキ『広島の犠牲者への哀歌』
4	クラスターの使用-2 60年代前衛以後、 モードによるクラスター、”聖なるミニマリズム” 他 バルトーク、アルヴォ・ペルトなど
5	ミニマル・ミュージック スティーブ・ライヒの場合-1 アコースティック楽器を用いたカノン風のプロセスによる作品『eight lines』の分析
6	ミニマル・ミュージック スティーブ・ライヒの場合-2 カウンター・ポイントシリーズ、『city life』分析 モードと構造の分析
7	マイケル・ナイマンの映画音楽語法-1 ケルト民謡からの影響の分析／映画『ピアノ・レッスン』音楽分析
8	マイケル・ナイマンの映画音楽語法-2 ヘンリー・パーセルの語法との関係 映画『コックと泥棒、妻とその愛人』音楽分析
9	ビョークの音楽-1 -旋法（モード）の使用、古典形式からの応用 アルバム『ポスト』『ホモジェニック』『ヴェスパタイン』より楽曲分析
10	ビョークの音楽-2 -ストリングス、オーケストラ、音響的手法、デジタルノイズビートによる、民謡風のメロディー、モード 映画『ダンサー・イン・ザ・ダーク』音楽分析
11	レディオヘッド『Hail to the thief』メロディーとコードの分析 メシアンの和声語法との関連など
12	坂本龍一の書法 映画音楽を中心に-1 民族旋法とフランス近現代書法など
13	坂本龍一の書法 映画音楽を中心に-2 現代音楽的書法、実験的音響との関連
14	模擬課題実践と解説
15	テストとまとめ

科目名	ポピュラーミュージック・ハーモニーI （前） ［木5］							
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GK123700	科目コード	GK1237	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ポピュラー音楽の作編曲において、ハーモニーをコントロールする技術の重要性は非常に大きい。コードを組み立てる際に頻繁に使われる手法を理解することによって、引き出しを多くし、状況に応じてスタイルを使い分け、自己の作品で実践できるようになることがこの講座の目標である。

２．授業概要

取り上げる楽曲は、クラシック、ジャズ／フュージョン、プログレ、洋楽、ロック、J-POP、サウンドトラックまで多岐にわたるが、その都度必要な知識を補完しながら進む形態をとる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

配布するテキストを整理し、ポイントをまとめておくことが望ましい。また、コードの知識が必須になるので、不安な場合にはあらかじめ予習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

・試験（評価の50%）
・通常の課題（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要な資料はその都度データもしくは紙で配布。楽譜も書くこともあり、サーバーを経由したデータのやりとりも行う。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テンション、モード、ペダル、USTやポリコードなどの理論が出てくるので、中程度以上（ダイアトニックコード）の知識を持っていることが前提。初心者レベルの知識では単位はほぼ取得できない。初回に簡単なテストを行う場合もある。

授業計画	
1	ガイダンスとサーバーの設定　※人数によって選抜試験を行う場合もあります
2	ブルース進行とその発展型 - ブルースペンタトニック
3	ダイアトニックと準固有和音モードを切り替えながらコード進行を作る
4	洋楽の超定番 - いわゆる「4コード」とその応用
5	J-POPの定番進行と特有の進行 - マイナーコードへのセカンダリードミナントほか
6	アニソンを分析する - 「あんハピ♫」OP&ED
7	U2からアニメ「宝石の国」まで、あらゆる場面で無自覚のうちに使われる超定番手法 - 「アルペジオのペダル」
8	課題と実習 I
9	クリシェとブロックコードによるコードリフ - 60'sアメリカン・ポップス、映画音楽、Carpenters、Doobie Brothers、TOTO、Stardust Revueを例に
10	平行移動でクールなコード進行を作る　- トライアド、maj9、m9、フュージョンコード、II-V
11	転調のテクニック　古典的な転調、すり替えによる転調、モードチェンジを含む曲作り、突然転調など
12	非機能和声的アプローチ - 無機的な情景を表現する　ホールトーン、sus4、ホルストのペダル、E/C、F#/C（ペトルーシュカ）
13	ケルト系インストや歌ものの役に立つモード書法
14	J-POPバラードの最高峰 - 冨田恵一氏によるMisia「Everything」と中島美嘉「Stars」のリハーモナイズ分析
15	試験実施・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ポピュラーミュージック・ハーモニーII （後） ［木5］							
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK123800	科目コード	GK1238	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ポピュラーミュージック・ハーモニーⅠ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

　この講座の目的は、自己の作・編曲に役立てられるように、ポップスを中心としたハーモニーの構造を体系的に整理することにある。感覚的な要素が強く、分析上さほど意味がないものであっても、表現上の引き出しとして定着させるためには理論的解釈が必要であり、それぞれの特徴的なハーモニーを知り、研究することにより最終的には自己の作品に応用できるようになることが目標である。

２．授業概要

J-popの変遷や音楽的特徴のルーツも同時に把握できるように年代順に楽曲を取り上げていく。その都度必要な知識も補完しながら進み、課題実施や小テストを行うことで理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で取り上げた楽曲とそのポイント箇所については自身でも授業後に音を鳴らしながら再確認しておくこと。また、授業で得た知識を使い実際に楽曲を制作してみることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、学年末課題（評価の30%）、レポート（評価の20%）

平常点は、理解度の確認のために内容の区切り毎に小テストを実施し、その点数と授業への参加状況とで総合的に評価する。
学年末課題は授業で取り上げた内容を理解し、自身の作品に取り込めているかどうかを判断する。
レポートは自身で特徴的な楽曲を見つけ、理論的な解釈ができているかどうかを判断する。
学年末課題・レポートの更に具体的な内容については第12回の授業中に提示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　授業に必要なテキストはその都度プリント等を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コードの知識が必須になる為、理解度に不安のある学生は予め基礎的なコード理論については予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画	
	［半期］ ポピュラーミュージック・ハーモニーIIでは主にJ-popの楽曲を題材とする。
1	J-POPの変遷について／小テストの実施
2	1970年代～80年代の楽曲を中心とした分析① 「松任谷由実」他
3	1970年代～80年代の楽曲を中心とした分析② 「サザンオールスターズ」他
4	1990年代の楽曲を中心とした分析① 「CHAGE & ASKA」、「槇原敬之」他
5	1990年代の楽曲を中心とした分析② 「DREAMS COME TRUE」他 小テストの実施とその解説
6	1990年代の楽曲を中心とした分析③ 「小室哲哉プロデュース作品」他
7	1990年代の楽曲を中心とした分析④ 「Mr.Children」、「山崎まさよし」他□
8	1990年代の楽曲を中心とした分析⑤ 「SPEED」、「PUFFY」他"
9	1990年代の楽曲を中心とした分析⑥ 「宇多田ヒカル」、「aiko」他
10	小テストの実施とその解説
11	2000年代の楽曲を中心とした分析 「MISIA」他
12	2000年代～2010年代の楽曲を中心とした分析 「ジャニーズ、AKBグループ等のアイドル用楽曲」他
13	2010年代の楽曲を中心とした分析 「中田ヤスタカプロデュース作品」他
14	近年のJ-POPの傾向とその分析
15	学期末課題の実施と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アニメーション・ミュージック研究　（後）［月5］						
代表教員	山下　康介	授業コード	GK125500	科目コード	GK1255	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメーション音楽の歴史と、その特徴などを研究し、作編曲の観点からその在り方を探る。

２．授業概要

あらゆるジャンルのアニメーションの視聴、および劇判音楽の鑑賞など。
アニメにおける劇判音楽の可能性を考える。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特になし

４．成績評価の方法及び基準

出席率による評価７０％
提出課題等の取り組みによる評価２０％
授業内での姿勢による評価１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期]アニメーションの歴史、およびその音楽について研究する。
1	アニメーション製作の歴史について（概論）
2	アニメーション作品における、映像と音楽のシンクロ率と、その表現手法
3	劇伴音楽がもたらす効果の実験
4	作品鑑賞&解説 『天使のたまご』
5	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「1960~1970年代」
6	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「1980~2000年代」
7	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「2010~現在」
8	作品鑑賞&解説 『イエローサブマリン』
9	日本における、アニメ劇伴音楽の制作過程について
10	ディズニー作品の劇伴音楽について
11	作品鑑賞&解説 『君の名は』（前半）
12	作品鑑賞&解説 『君の名は』（後半）
13	アニメーション音楽の、今後の可能性の考察
14	研究成果のまとめ
15	研究成果の発表と統括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ピアノ音楽講座Ⅰ／ピアノ音楽講座　[金3]						
代表教員	那須田　務	授業コード	GK144100	科目コード	GK1441	期間	通年
担当教員	諫山　隆美						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期 ピアノ曲概論～６０人の作曲家の作品
大学でのレッスンで取り組むピアノ曲には限りがあります。広くピアノ曲に触れることによって様々な作品を知り、興味を持ち、接する機会を増大させ、ピアノ曲の網羅的知識を得ることを目標とします。
後期 ピアノの歴史
ピアノが音楽史に登場したのはおよそ１７００年頃です。その後、現代の形になるまでに、構造や打鍵機構（ハンマー・アクション）など様々な変化を通ってきました。現在のピアノはその最終的な形ですが、近年は古楽器演奏の隆盛に伴い、発展の過程に存在した様々なピアノも、それ本来の意義と価値が認められています。モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパンが弾いたピアノはどのようなものなのか。ピアノの歴史や楽器の構造、響きの特徴を知ることは、必ずや演奏や鑑賞に役立つことでしょう。

２．授業概要

前期 各回作曲家毎にピアノ曲を分類し、曲目リストとともに作品を紹介します。抜粋してCDで曲を確認しながら、個別作品の特徴や作風、作品の重要性や演奏の難易度、作曲家による作風の変化、必要な場合は楽譜の種類、作品番号などの知識にも触れていきます。学期末試験は行わず、指定内容のレポート作成を予定しています。
後期 誕生から現在までのピアノの発展のプロセスを、ピアノ音楽史上重要な作曲家の作品と関連づけながら学びます。写真やアクション・モデル、それらの楽器で演奏したＣＤなどを用いますが、実際に音や響きを耳で確かめ、感じ、考え、話し合うことによって、より深い理解が得られると考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業ごとに、次回の予習や復習の内容について伝えます。

４．成績評価の方法及び基準

前期：学期末レポート製作（評価の７０%）
　　授業への参加姿勢（評価の３０%）
後期：学期末試験を実施します。評価の割合は、授業参加の姿勢（評価の60%）、筆記試験（評価の40%）とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期：必要に応じてご紹介します。
後期：毎回ポータルでプリントを送付し、必要に応じて参考文献を紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期：学ぼうとする意志の強い学生を望みます。
後期：諫山先生と同様です。学習意欲をもった学生を歓迎します。

授業計画	
	［前期］担当教員:諫山　隆美
1	音楽の父大バッハの作品
2	バロックの作曲家とハイドンの作品
3	古典派の２大作曲家の作品
4	初期ロマン派の作曲家の作品
5	ロマン派のピアノ作曲家の作品
6	ロマン派フランスの作曲家の作品
7	ロマン派ドイツ・東欧・北欧の作曲家の作品
8	ロマン派ロシアの作曲家の作品
9	ロマン派から近代フランスの作曲家の作品
10	ロマン派から近代ロシアの作曲家（編曲家）の作品
11	ロマン派から近代スペイン・フランスの作曲家の作品
12	近代北米・南米の作曲家の作品
13	近代ドイツ・オーストリア・東欧の作曲家の作品
14	近代・現代ロシアの作曲家の作品
15	20世紀の作曲家の作品

授業計画	
	［後期］担当教員:那須田　務 授業概要参照
1	チェンバロやクラヴィコード、ピアノの前身とされる楽器について
2	クリストフォリによるピアノの発明
3	ドイツへの伝播～ジルバーマンとバッハ。
4	シュタインによるウィーン式アクションの完成
5	モーツァルトとピアノ
6	イギリス式アクションの完成
7	ハイドンとピアノ
8	ベートーヴェンとピアノ
9	１９世紀前半のイギリス・フランスのメーカー
10	１９世紀前半のドイツ・オーストリーの作曲家とピアノ
11	１９世紀前半のドイツ・オーストリーの作曲家とピアノその２
12	ショパンとリストとピアノ
13	１９世紀後半から２０世紀前半のピアノ
14	１９世紀後半から２０世紀前半のピアノ　その２
15	授業のまとめ

科目名	ピアノ音楽鑑賞研究　[火3]						
代表教員	諫山　隆美	授業コード	GK149100	科目コード	GK1491	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ピアノ音楽を鑑賞し、ピアノ作品やピアニストなどに対する興味を引き出し、基礎的な知識や理解を増強させることを目的とします。
また音楽を聴くばかりではなく、毎授業内でレポートを書いて意見をまとめることにより、より自主的な音楽鑑賞を身につけること、さらに自己のレッスンや演奏にも応用していく能力をつけることを、学習到達目標とします。

2．授業概要

各回のテーマに沿って、DVDやCD等を実際に鑑賞し、作品・演奏に応じた鑑賞の要点の解説や問題点を説明していきます。学生はそこから得たものを毎回授業内にレポートにまとめ、提出します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日頃、学内外でのコンサートで音楽鑑賞をする他、授業で学んだテーマ（作曲家、作品、演奏家など）について、関連のCD、DVD等を利用して鑑賞し、復習することを推奨します。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内のレポート他）（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、オリジナルテキスト（プリント）を配布します。回によっては譜例も含まれますので、参考楽譜の持参は基本的に不要です。他必要があれば、授業内で紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽鑑賞に興味・意欲を持ち、学ぼうとする意志が強い学生に限ります。
学期末試験は行わず、授業内でレポートを書くことが多いことも考慮して履修して下さい。授業の出席のみならず、学内学外のコンサートやコンクール等を日常的に聴くことが望まれます。
履修を迷う者は、第１回目の授業に参加して、授業の取り組み方の具体的な説明を受けてから履修を決定すること。
●受講希望者が多い場合は、下記の条件で優先またはレポート等での選抜をする場合があります。（昨年度は選抜がありました。）
1. 過去に同授業を履修したことのない者。
2. 学年の高い者。（4年生を最優先とする）

授業計画	
	［前期］
1	デモンストレーション
2	ガイダンス／音楽鑑賞の方法と情報収集／ アンケート
3	作曲家年表と時代分類
4	バロックの鍵盤楽器曲を聴く～J.S.バッハの作品
5	知っておきたい70人のピアニスト① ～ベートーヴェン／ピアノ協奏曲を演奏するピアニスト
6	協奏曲を聴く①（学内演奏会予定曲目１曲目） ～協奏曲のスタイルを知る
7	日本国内のピアノコンクール
8	ロマンのピアノ曲を聴く① ショパンのピアノ曲
9	協奏曲を聴く②（学内演奏会予定曲目２曲目） ～作品の構造を知る
10	大ピアニストの演奏① ～グレン・グールドの演奏を聴く
11	クラシックのピアノ曲を聴く ～ ベートーヴェンのピアノ曲
12	協奏曲を聴く③（学内演奏会予定曲目３曲目） ～様々な演奏を比べてみる
13	知っておきたい70人のピアニスト② ～ショパン以降の作曲家の作品を集めて
14	ロマンのピアノ曲を聴く③ シューマンのピアノ曲
15	非和声音～和声分析のための

授業計画	
	［後期］
1	和声分析の試み
2	世界のピアニスト情報① ～アジアのピアニストから
3	ピアノを弾く姿勢を考える
4	近現代のピアノ曲を聴く① ロシアのピアノ作品
5	国際コンクールを知る～ショパンコンクール
6	コンクール審査疑似体験① ～ショパンコンクール１次予選
7	コンクール審査疑似体験② ～ショパンコンクール２次予選
8	コンクール審査疑似体験③ ～ショパンコンクールを振り返って
9	レッスンを見る
10	大ピアニストの演奏② ～ウラディミール・ホロヴィッツグの演奏を聴く
11	ロマンのピアノ曲を聴く③ リストのピアノ曲
12	知っておきたい70人のピアニスト③ ～ドイツ・オーストリアの作曲家の作品を集めて
13	近現代のピアノ曲を聴く②フランスのピアノ作品
14	世界のピアニスト情報② ～ロシアのピアニストから
15	現代音楽入門

科目名	ジャズソルフェージュⅠ - １ （前） ［金3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2065A0	科目コード	GK2065	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

　音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
　ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー-１
2	単旋律 メジャーキー-2
3	単旋律 メジャーキー-3
4	旋律／ルートモーション-1
5	旋律／ルートモーション-2
6	旋律／ルートモーション-3
7	リズム-1
8	リズム-2
9	リズム-3
10	音程-1
11	音程-2
12	音程-3
13	アプローチノートを含む曲-1
14	アプローチノートを含む曲-2
15	アプローチノートを含む曲-3

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュⅠ - １ （前） ［金4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2065B0	科目コード	GK2065	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	簡単な単旋律
2	リズミックな単旋律
3	単旋律 短調と長調
4	コード進行を聴いてルートの動きを感じる
5	旋律とルート進行を聴音する
6	コードタイプの聴音
7	簡単なコード進行を聴音
8	メロディックリズムを聴きとる
9	簡単なメロディーを聴き取り、コードトーンを聴き分ける
10	音程-（３、６度）
11	音程-（４、５度）
12	音程-(2,7度)
13	音程-（歌ってみる）
14	アプローチノートを含むメロディーの聴音
15	アプローチノートの特定

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－２　（後）［金3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2066A0	科目コード	GK2066	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュⅠ−２」は「ジャズソルフェージュⅠ−１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー-1
2	単旋律 マイナーキー-2
3	単旋律 マイナーキー-3
4	モード（スケール）-1
5	モード（スケール）-2
6	モード（スケール）-3
7	モード（メロディー）-1
8	モード（メロディー）-2
9	モード（メロディー）-3
10	ルートの聴音-1
11	ルートの聴音-2
12	ルートの聴音-3
13	転調のある曲-1
14	転調のある曲-1
15	転調のある曲-1

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－２　（後）［金4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2066B0	科目コード	GK2066	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュⅠ−２」は「ジャズソルフェージュⅠ−１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの機能を聴き分ける-1（トニック）
2	コードの機能を聴き分ける-2（サブドミナント）
3	コードの機能を聴き分ける-3（ドミナント）
4	簡単なコード進行を演奏してみる
5	指定された調性でコード進行を弾いてみる
6	メロディを指定された調性で弾いてみる
7	Secondary Dominant-1（ドミナントとの聴き分け）
8	Secondary Dominant-2（解決する先を答える）
9	Secondary Dominant-3（曲を聴いてセカンダリードミナントを特定する）
10	Sub V-1（ドミナント、セカンダリードミナントとの違いを聴き分ける）
11	Sub V-2（どこに解決するかを答える）
12	Sub V-3（曲を聴いてsub５を特定する）
13	転調のある曲-1（転調が起こったかどうかを聴き分ける）
14	転調のある曲-2（転調している場所の特定）
15	転調のある曲-3（メロディーとコード進行を聴音）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュII - １ （前） ［月3］Aクラス							
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2067A0	科目コード	GK2067	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII−１」は「ジャズソルフェージュI−２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	音程－１
2	音程-2
3	音程-3
4	コードタイプ－１
5	コードタイプ-2
6	コードタイプ-3
7	ルート・3rd-1
8	ルート・3rd-2
9	ルート・3rd-3
10	II-V-1
11	II-V-2
12	II-V-3
13	旋律・コード-1
14	旋律・コード-2
15	旋律・コード-3

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュII - 1 （前） [月4] Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2067B0	科目コード	GK2067	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII-１」は「ジャズソルフェージュI-２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	長音程
2	短音程
3	増…減音程
4	コードタイプ-１　トライアド
5	コードタイプ-2セヴンスを含む
6	コードタイプ-3様々なテンションを含む
7	ルートとM3rdを歌う
8	ルートとm3rdを歌う
9	ルート・3rd-7thを歌う
10	指定された調性でII-Vを弾く
11	II-V（セカンダリードミナントをふくむ）
12	II-V（全ての調性で演奏する）
13	簡単な旋律とコード進行の聴音
14	旋律・コード（セカンダリードミナントを含む）聴音
15	転調のある旋律・コード進行の聴音

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュII - 2 （後） ［月3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2068A0	科目コード	GK2068	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII−2」は「ジャズソルフェージュII−1」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

2．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
授業内での課題（評価の５０%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの機能-1
2	コードの機能-2
3	コードの機能-3
4	I-VI-II-V-1
5	I-VI-II-V-2
6	I-VI-II-V-3
7	Secondary Dominant-1
8	Secondary Dominant-2
9	Secondary Dominant-3
10	Sub V-1
11	Sub V-2
12	Sub V-3
13	転調のある曲-1
14	転調のある曲-2
15	転調のある曲-3

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズソルフェージュII - 2 （後） ［月4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2068B0	科目コード	GK2068	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII−2」は「ジャズソルフェージュII−1」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

2．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー
2	コード進行 マイナーキー
3	メロディーとコード進行 マイナーキー
4	モード（チャーチモード名を答える）
5	モード（チャーチモードを弾いてみる）
6	モード（チャーチモード以外のスケール）
7	モード（簡単なメロディーを聴いてモードを感じる
8	モード（少し複雑なメロディーからスケールを特定する）
9	コード進行を聴いて、指定された場所のコードスケールを答える
10	モードで作られた曲を聴いてスケール名を答える
11	指定されたスケールを指定された調性で弾いいてみる
12	指定されたスケールを１２調で弾いてみる
13	モードの変化を感じる
14	テンションを含むコードを聴いてスケールを判断する
15	ハイブリッドコードを聴いてスケール判断する

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音声学　［木5］						
代表教員	竹田　数章	授業コード	GK248000	科目コード	GK2480	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声に関わる解剖と生理、喉頭調節、共鳴、発声の基礎の呼吸、姿勢、声の疾患、声の疾患の予防法、音の入力系である聴覚などについて述べる。聴覚の疾患と聴覚の保護についてもふれる予定である。
声楽に必要な解剖、生理をはじめ、音と声に関する科学的アプローチをし、医学的見地から声の衛生についても講義する。演奏に関わる人体の解剖・生理・心理的側面を理解してもらうことが目標である。将来声楽指導をしていく上でも役立つ内容としたい。

２．授業概要

主に
１．呼吸や音声に関わる解剖と生理
２．声の疾患と予防
３．演奏に重要な聴覚系についての解剖と生理
４．演奏に関わる心理的・身体的側面
などについて講義し、時にAtem-Tonus-Ton呼吸法のエクササイズを実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

医学的な事項も授業中話をするので、発声や聴覚に関する解剖用語、生理学用語も予習、復習するとよい。言葉の科学等、音声生理の本などを読むと理解しやすい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：
『ヴォイス・ケア・ブック』　G.ディビス、A.ヤーン著、竹田数章監訳（音楽之友社）
参考文献：
『プリマドンナの声帯』米山文明著（朝日新聞社）
『マリアの呼吸法』ビデオ全２巻米山文明監修（音楽之友社）
『声と日本人』米山文明著（平凡社）
『声がよくなる本』　米山文明著（主婦と生活社）
『音のなんでも小事典』日本音響学会編（講談社）
『声の呼吸法』米山文明著（平凡社）
『新ことばの科学入門』G.J.Borden著（医学書院）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

発声、呼吸のメカニズム、機能形態などに関心があり、呼吸・姿勢と演奏との関連、音の聞こえ方と音楽との関係、人間の身体や精神と音楽とのかかわりなどに興味を持つ学生に受講してもらいたい。

授業計画	
	［前期］ 　聴覚、発声にかかわる呼吸、呼吸法のエクササイズ、発声のメカニズム、声の疾患、声の衛生予防など。（講義の順番は前後することがあります）
1	音の入力系と出力系
2	音の原理 聴覚について 聴覚の解剖
3	音の大脳生理 言語中枢 音楽中枢 相対音感 絶対音感
4	ハイパーソニックエフェクト マガーク効果など
5	リズム、テンポについて 人体とのかかわり 文化との関係
6	聴覚の疾患と予防 音響外傷 作曲家と聴覚障害
7	音の出力系 発声にかかわる解剖生理
8	呼吸の解剖生理
9	呼吸機能測定 呼吸と発声とのかかわり 呼吸法のエクササイズ
10	喉頭調節 喉頭の解剖生理 声帯運動
11	喉頭原音について
12	声の疾患について
13	声の衛生予防
14	共鳴と構音器官の解剖と生理
15	咽頭 口腔 鼻腔などの声道、共鳴器官の役割

授業計画	
	［後期］ 声に関わる諸々の事がら。音声分析、音響物理、言語と声、声域、声種、演奏心理、アガリについて、声と呼吸法のトレーニング、世界各地の発声など。（講義の順番は前後することがあります）
1	母音の生成 フォルマントについて
2	子音について 滑舌の訓練 五十音順について
3	コンピューターによる音響分析
4	構音 日本語と外国語の歌曲について 開音節 閉音節など 韻について
5	話声位 声域 声区
6	声種の決定について
7	声変わり 変声期と加齢による変化
8	邦楽での発声、能楽
9	ビブラートとノンビブラート 世界各地の発声
10	声と呼吸と心理
11	演奏中のあがりについて
12	音と人間の関わり 体の共鳴 音カメラ
13	歌唱における呼吸のエクササイズ 体のストレッチなど芸能医学について
14	聴覚のまとめ
15	発声のまとめ

科目名	音楽教育研究Ⅰ ［月3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK270300	科目コード	GK2703	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】音楽教育を専門的に学ぶにあたり、その前提、基礎となる知識、技能を修得する。
【到達目標】2年次以降に履修する「音楽教育研究Ⅱ」「音楽教育研究Ⅲ」で音楽教育の歴史や手法を学んでいくための基礎力と、「音楽教育研究Ⅳ」で卒業論文を執筆するための基盤を培う。

2．授業概要

学校教育の音楽科授業でとりあげられる様々な音楽に対し、その歴史、様式、語法を研究し、発表することから始め、さらにはそれらを指導するための手法の研究に発展させて、音楽教育という分野に求められる基礎力をつける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

履修期間中、各回の授業内容に関する予習、復習のサイクルの継続は不可欠である。とりわけこの授業ではグループ、ならびに個人で、教材作り、研究発表、模擬授業を演習するので、その準備は入念に進められたい。またそれらの演習は学生間で相互評価を行うので、それを今後の研鑽に役立てるよう各自で工夫されたい。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内の演習、前期末と学年末の試験の以上3点を基に、総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメと譜例を随時配付するので、それらファイリングして管理使用すること。あわせて関連する参考文献も授業内で随時紹介していく。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コース1年次の要となる授業である。その自覚を十分もって受講に臨まれたい。

授業計画	
	グループによる研究発表、教材作り(18~19世紀音楽の様式、語法の研究を中心に)
1	ガイダンス~音楽を学ぶこと、教えること、伝えることとは何か?
2	西洋音楽とポピュラー音楽の歴史を俯瞰する
3	クラシック音楽の基礎 (1)ポリフォニーとホモフォニー
4	クラシック音楽の基礎 (2バッハのフーガ
5	クラシック音楽の基礎 (3)ソナタと交響曲
6	クラシック音楽の基礎 (4)音楽におけるロマンティシズム
7	バッハの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
8	ベルリオーズの幻想交響曲についての教材作成
9	ショパンの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
10	ビゼーのオペラ《カルメン》についての教材作成
11	リストの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
12	チャイコフスキーのバレエ音楽《くるみ割り人形》についての教材作成
13	ワーグナーの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
14	ブラームスの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
15	前期総括

授業計画	
	個人による教材作り、研究発表(20世紀音楽の様式・語法の研究を中心に)
1	ドビュッシーの音楽と生涯に関するグループによる研究発表
2	ラヴェルのバレエ音楽《ボレロ》を基にオーケストラを概観する
3	バルトークの《ミクロコスモス》から近代の音楽語法を学ぶ (1)旋法・複調
4	バルトークの《ミクロコスモス》から近代の音楽語法を学ぶ (2)リズム・黄金分割
5	コード進行法の基礎
6	ピアノ伴奏付けの実際
7	時代と風土を横断した様々な音楽についての研究発表
8	歌唱指導演習 (1)唱歌
9	歌唱指導演習 (2)イタリア古典歌曲
10	歌唱指導演習 (3)ポピュラー
11	ラフマニノフの音楽と生涯についての研究
12	ガーシュインの音楽と生涯についての研究
13	武満徹の音楽と生涯についての研究
14	ビートルズの音楽と足跡についての研究
15	後期総括

科目名	音楽教育研究II ［火4］						
代表教員	牛頭　真也	授業コード	GK270400	科目コード	GK2704	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	講義および演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「音楽教育研究Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

［主題］音楽教育とは何か―その現代と歴史を知る
［到達目標］音楽教育に関わる基本的な内容について、講義により得た知識･知見に基づき、受講生各自の研究テーマを追求する力を養う。

２．授業概要

次年度以降の「音楽教育演習Ⅲ」および「卒業研究」の礎となる科目であり、「音楽教育演習Ｉ」での学びを踏まえ、音楽教育の基本的な内容・課題について、現代と歴史の幅広い視野から、実習を交えつつ理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各時の授業の配付資料等をファイルし、必ず復習しておくこと。受講生の発表の際には、教員と綿密に連絡を準備すること。その他、平素、さまざまな音楽教育の場面に常に関心を持ち、また自分にとっての音楽とは何かを振り返り、周囲の人々の音楽の楽しみ方にも注意を向けておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の30%）　受講態度（評価の35%）　実習・発表を含む授業への参加姿勢（評価の35%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『中等科音楽教育法』（音楽之友社）
その他は資料を作成し、配布する。
参考文献はテーマに応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コースの学生にとって要ともいえる授業科目であり、平素から受講生自身の研究の関心を少しずつ焦点化していくよう心がけて欲しい。

授業計画	
	［前期］現代の音楽教育
1	導入：「音楽教育」とは
2	(1)音楽の原点1－音を聴く・探す・記録する
3	(1)音楽の原点2―音楽を協働する
4	(2)特色ある音楽教育法1―カール･オルフ
5	(2)特色ある音楽教育法2―カール・オルフ(続)
6	(2)特色ある音楽教育法3―コダーイ･ゾルターン
7	(2)特色ある音楽教育法4－コダーイ・ゾルターン(続)
8	(2)特色ある音楽教育法5－エミール・ジャック＝ダルクローズ
9	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育1－アメリカ
10	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育2―イギリス
11	(4)日本の音楽教育の現代的課題1―学習指導要領
12	(4)日本の音楽教育の現代的課題2―伝統音楽
13	(4)日本の音楽教育の現代的課題3―伝統音楽(続)
14	(4)日本の音楽教育の現代的課題4―生涯学習と地域
15	総括

授業計画	
	［後期］音楽教育の歴史
1	(1)西洋の音楽教育1―音楽教育の起源
2	(1)西洋の音楽教育2―古代ギリシャの音楽教育
3	(1)西洋の音楽教育3―プラトンとアリストテレス
4	(1)西洋の音楽教育4―古代ローマの音楽教育
5	(1)西洋の音楽教育5―中世の音楽教育
6	(1)西洋の音楽教育6―ネウマ譜と階名唱法
7	(1)西洋の音楽教育7―教育自然主義と音楽教育
8	(1)西洋の音楽教育8―まとめ
9	(2)日本の音楽教育1―古代・中世
10	(2)日本の音楽教育2―近世
11	(2)日本の音楽教育3―伊沢修二の功績
12	(2)日本の音楽教育4―文部省唱歌
13	(2)日本の音楽教育5―童謡と軍歌
14	(2)日本の音楽教育6―学習指導要領の変遷
15	総括

科目名	アートマネジメント研究１　［水5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK274500	科目コード	GK2745	期間	通年
担当教員	横山　仁一、小山　文加						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

芸術を媒介に人と社会を結び広めていくアートマネジメントについて、音楽に特化した領域を研究、実践することが主題である。そしてこの授業での学びから、音楽を通じて文化を普及し社会貢献することのノウハウを音楽教育の分野に反映させることが到達目標である。

２．授業概要

アートマネジメントの歴史と基礎知識を、音楽分野におけるトピックを中心に学び、後期では公演、イヴェントを企画立案、制作運営するための基本的な知識と能力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講前には、各回のテーマについて書物やインターネットで予備知識を得ておき(予習)、受講後は授業の学習内容をノートにまとめること(復習)。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢や課題の実施成果と、各期末での筆記試験、またはむレポート提出をあわせて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメは授業内で随時配付し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	【前期】アートマネジメント学の歴史と基礎知識(音楽分野のトピックを中心に) 担当:小山文加
1	ガイダンス
2	アートマネジメントの背景
3	音楽と市場
4	鑑賞活動の動向
5	クラシック音楽とマネジメントの現場
6	音楽家とパトロネージ
7	ホールの変遷
8	音楽団体と支援
9	文化政策
10	音楽祭とまちづくり
11	企業メセナの発展
12	多様化するコンサート
13	アウトリーチ・ワークショップ
14	これからのアートマネジメント
15	総括

授業計画	
	【後期】舞台芸術の歴史と公演の企画制作の実際 担当:横山仁一
1	公演を企画制作するとは?
2	欧米の舞台芸術の歴史
3	日本の舞台芸術の歴史
4	著作権の基礎知識
5	音響の基礎知識
6	照明の基礎知識
7	ステージマネージャー、舞台監督の役割
8	ホール設備、舞台についての基礎知識
9	印刷物作成の基本(1)チラシ、ポスター、チケット
10	印刷物作成の基礎(2)プログラム
11	企画書、予算書の書き方
12	広報と宣伝
13	演奏会企画立案のシュミレーション
14	演奏会制作運営のシュミレーション
15	総括

科目名	アートマネジメント研究２　［水5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK274600	科目コード	GK2746	期間	
担当教員	横山　仁一、小山　文加						
授業形態		配当学年	2				
対象コース		科目分類					
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

芸術を媒介に人と社会を結び広めていくアートマネジメントについて、音楽に特化した領域を研究、実践することが主題である。そしてこの授業での学びから、音楽を通じて文化を普及し社会貢献することのノウハウを音楽教育の分野に反映させることが到達目標である。

２．授業概要

アートマネジメントの歴史と基礎知識を、音楽分野におけるトピックを中心に学び、後期では公演、イヴェントを企画立案、制作運営するための基本的な知識と能力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講前には、各回のテーマについて書物やインターネットで予備知識を得ておき(予習)、受講後は授業の学習内容をノートにまとめること(復習)。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢や課題の実施成果と、各期末での筆記試験、またはむレポート提出をあわせて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメは授業内で随時配付し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】アートマネジメント学の歴史と基礎知識(音楽分野のトピックを中心に) 担当:小山文加
1	ガイダンス
2	アートマネジメントの背景
3	音楽と市場
4	鑑賞活動の動向
5	クラシック音楽とマネジメントの現場
6	音楽家とパトロネージ
7	ホールの変遷
8	音楽団体と支援
9	文化政策
10	音楽祭とまちづくり
11	企業メセナの発展
12	多様化するコンサート
13	アウトリーチ・ワークショップ
14	これからのアートマネジメント
15	総括

授業計画	
	【後期】舞台芸術の歴史と公演の企画制作の実際 担当:横山仁一
1	公演を企画制作するとは?
2	欧米の舞台芸術の歴史
3	日本の舞台芸術の歴史
4	著作権の基礎知識
5	音響の基礎知識
6	照明の基礎知識
7	ステージマネージャー、舞台監督の役割
8	ホール設備、舞台についての基礎知識
9	印刷物作成の基礎(1)チラシ、ポスター、チケット
10	印刷物作成の基礎(2)プログラム
11	企画書、予算書の書き方
12	広報と宣伝
13	演奏会企画立案のシュミレーション
14	演奏会制作運営のシュミレーション
15	総括

科目名	ワールドミュージック概論１　（半期）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK362100	科目コード	GK3621	期間	半期
担当教員	小日向　英俊、有田　純弘、今田　央、山下　Topo　洋平						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

一般に「クラシック音楽」とよばれる西洋音楽をはじめ、インド、ラテン、南米、アパラチアなどの音楽の旋法やリズムの基礎理論を知識と感覚の両方から修得していく。

到達目標
・それぞれの音楽のスタイルでの簡単な作曲、即興ができる。

２．授業概要

5人の教員がそれぞれの専門領域の音楽について担当する。授業計画を参照のこと。
なお、授業回については交替する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で取り上げた曲を何度も聴き、響きやリズム、作曲語法を感覚的に捉えられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

各教員の出す課題またはレポートによる得点を総合し評価する。
平常点：評価の50%
課題、レポート：評価の50%
（平常点は授業への参加姿勢）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布

参考文献
ボールマン，フィリップ・V．2006.ワールドミュージック-世界音楽入門．東京.
デーヴァ，B．C.1994．インド音楽序説．大阪.
『フラメンコの歴史』浜田滋朗（晶文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	西洋音楽（クラシック） 1 モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーといった古典派、ロマン派の音楽の作曲法、とくにハーモニーや旋律の構造などを分析しながら、作曲家の表現したいことがどのように音に反映されているのかを探っていく。 （担当：大江千佳子）
2	西洋音楽（クラシック） 2 ルネサンス～バロック期の音楽における多声音楽を考察する。ルネサンス期の多声の声楽曲において、歌詞の内容をどのように音で表現しているのか、また、その後のJ.S.バッハの多声音楽にルネサンス期の音楽が与えた影響とバッハの音楽表現の多様性に注目していく。 （担当：大江千佳子）
3	西洋音楽（クラシック） 3 ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク、ストラヴィンスキー、メシアンといった近・現代の作曲家の音楽の旋律、和音、リズムを中心に各作曲家の特徴的な表現方法を考察する。 （担当：大江千佳子）
4	インド音楽1 インド音楽の旋律法（ラーガ）の基礎を、北インドの音階、旋法の観点から学び、様々な楽器や声で表現を試みることで、「インド的」音楽観を考察する。 （担当：小日向英俊）
5	インド音楽2 インド音楽のリズム法（ターラ）の基礎を、北インドの体系に基づき学び、様々な演奏を聴取することで、強弱拍とはまったく異なるリズムの考え方に耳を開く。 （担当：小日向英俊）
6	インド音楽3 ラーガとターラに基礎を置く即興演奏の方法を理解する。実際に音を出しながら、北インド音楽の即興形式を学ぶ。また、南インドの理論についても学び、視野を広げる。 （担当：小日向英俊）
7	アパラチア音楽1 米国東南部へ伝承されたオールドタイムと呼ばれるフィドル音楽を中心に、その和声や旋律の特色について考察する。 （担当：有田純弘）
8	アパラチア音楽2 ブルーグラス・スタイルにおける、ケルト音楽やブルーズなど多様な音楽から受けた影響を検証し、その特色を探る。 （担当：有田純弘）
9	アパラチア音楽3 ジャズやロックなど、現代のポピュラー音楽におけるアパラチア音楽の影響の位置付けについて考察する。 （担当：有田純弘）
10	フラメンコ 1 フラメンコがスペイン南部で発祥した経緯、時代背景の解説を経てフラメンコの基本的音楽構造を考察する。核となる旋法である「ミの旋法」とフラメンコの各種の形式（パロ）が持つメロディー、及びリズムを紹介し、実際にさわりを演奏してみることによってフラメンコへの理解を深める。 （担当：今田央）
11	フラメンコ 2 フラメンコの三つ要素であるカンテ（歌）、バイレ（踊り）、トーケ（ギター）がをそれぞれどのようにフラメンコ音楽を表現していくかを解説し（例えばカンテであれば歌詞の内容、発声等）、実際の演奏においてどう絡み合って音楽が構成されていくかを考察する。 （担当：今田央）
12	フラメンコ 3 フラメンコギターの特殊奏法を紹介する。それらがフラメンコ音楽でどのように使われるか、また他ジャンルの音楽にどのように使われているかを探っていく。 （担当：今田央）
13	南米音楽 1 アンデス地域土着のリズム、音階、アンサンブルの構造を研究する。 （担当：山下Topo洋平）
14	南米音楽 2 アンデス土着のリズムが現代的な音楽としてどう発展していくのかを研究し、その可能性を探っていく。 （担当：山下Topo洋平）
15	南米音楽 3 南米スペイン語圏に存在する伝統的なリズムに注目し、各国、各地域の音楽的特徴を研究する。 （担当：山下Topo洋平）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ワールドミュージック演奏論１　（半期）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK362500	科目コード	GK3625	期間	半期
担当教員	岡田　龍之介、小日向　英俊、有田　純弘、今田　央、逆瀬川　健二、山下　Topo　洋平						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ワールドミュージック概論と同様、様々な音楽の基礎理論を学習しながら聴感覚やリズム感を訓練していく。

到達目標
・即興能力を向上させ種々のリズムを生かした即興ができる。
・アンサンブルにおいて必要なさまざまな感覚を磨き、どのような状況でも自分なりの音楽表現ができる。

２．授業概要

複数の教員がそれぞれの専門領域の音楽について担当する。授業計画を参照のこと。
なお、授業回については交替する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で学んだ音階やリズム、ハーモニーを反復練習し、自分の感覚に取り込んでいくこと。

４．成績評価の方法及び基準

各教員の出す課題またはレポートによる得点を総合し評価する。
平常点：評価の50%
課題、レポート：評価の50%
（平常点は授業への参加姿勢）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布

参考文献
ボールマン，フィリップ・V．2006.ワールドミュージック-世界音楽入門．東京.
デーヴァ，B．C.1994．インド音楽序説．大阪.
『フラメンコの歴史』浜田滋朗（晶文社）
『フラメンコ・ギター教本』瀬田彰・編著（現代ギター社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ワールドミュージック概論を履修済みであることが望ましい。

授業計画	
1	西洋音楽（クラシック音楽）１　―旋律と和音について― 古典派、ロマン派の作曲家の歌曲、二重奏曲を中心に、惹きつける旋律とはどのようなものなのか、また背景の和音の響きが醸し出すイメージなどについて、実際に音を出しながら考察していく 初見視奏およびアンサンブルの基礎練習も行う。 （担当：大江千佳子）
2	西洋音楽（クラシック音楽）２　―リズムについて― 近・現代の作曲家の作品をリズムの観点から考察する。また、それらを実際に演奏し、アンサンブルに役立つようさまざまなリズムの感覚を修得していく。 （担当：大江千佳子）
3	西洋音楽（クラシック音楽）３　―バロック期の音楽― 16世紀から18世紀にかけての重要な鍵盤楽器の一つであるチェンバロは、撥弦楽器である。このチェンバロの面白さ、独自性を体験してもらう。ピアノとの違いを発音機構その他に関してピアノと比較しながら学び、実際に二つの楽器を弾き比べ、タッチ、拍節感、アーティキュレーションなどの違いを実感していく。また古い時代の音楽を演奏する際に考慮するべき様々な事柄を習得する。
4	西洋音楽（クラシック音楽）４　―バロック期の音楽― チェンバロは伴奏楽器としてもバロック時代を通じて重要な存在であった。通奏低音と呼ばれる独特な伴奏様式が用いられたが、楽譜に記された左手のパートと、その上(下)に付された数字による略記号をもとに右手で和音を即興的に補う形を取った。ジャズのコード進行にも似たこの独自の伴奏システムの基礎を学び、単純な例でこれを実際に弾いてみる。 （担当：岡田龍之介）
5	カントリー音楽1 アパラチアの伝承曲におけるペンタトニック・スケールや2ビート・リズムについて考察する。 （担当：有田純弘）
6	カントリー音楽２ ブルーグラス・スタイルのアンサンブルにおける、典型的なフレーズ・パターンを検証し、実際に演奏してみる。 （担当：有田純弘）
7	フラメンコ１ フラメンコ音楽の基本的旋法である「ミの旋法」と各種形式のリズムを解説する。 フラメンコギターのいくつかの特殊奏法を習得する。 （担当：今田央）
8	フラメンコ２ 前回習得した旋法、リズム、特殊奏法を用い簡単なフラメンコギターソロを習得する。 また「ミの旋法」による簡単なアドリブの実践。 （担当：今田央）
9	南米音楽１ アンデスの伝統的リズム「ワイニョ」を実際に演奏することでグルーヴを体感する。 （担当：山下Topo洋平）
10	南米音楽２ 南米特有のポリリズム、八分の六拍子と四分の三拍子の複合リズムについて考察し、演奏する。 （担当：山下Topo洋平）
11	インド音楽1 北インドの代表的器楽音楽を旋法（ラーガ）の側面から理解した上で、様々な表現テクニックに着目する。また自ら、楽器を用いて、インド音楽の演奏を試みる。 （担当：小日向英俊）
12	インド音楽2 北インドの代表的声楽を旋法（ラーガ）の側面から理解した上で、様々な表現を理解する。また自ら歌い、インド的な即興音楽の演奏を試みる。 （担当：小日向英俊）
13	インド音楽３ 北インド古典音楽のリズム理論「ターラ」について次の３項目を中心に理解を深め、様々なリズムの感覚をつかんでいく。 1. ターラにおけるリズムについて 2. 様々なリズムの構成について 3. ラヤ（＝スピード）の概念について
14	インド音楽４ 即興演奏におけるルールと表現方法を修得する。 １．合奏における形式と展開について ２．メロディーとリズムの共通した表現について ３．ソロパートにおいてリズムを展開していく方法
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英会話講座１　［水5］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755AO	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、英会話実習を行う。
Learn new words and common spoken phrases. Learn to enjoy basic conversation in the English language.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring English』Tim Harris/Allan Rowe 著
『English First Hand』Marc Helgesen/Steven Brown 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions. Exploring English 1, chapter 1, Introducing yourself, greeting people Free conversation
2	English Firsthand Unit 1, Have you two met? At a Party Free conversation English Songs
3	Exploring English 1, chapter 1, asking about and identifying people and objects. Free conversation
4	English Firsthand, Unit 1, Getting to know you, personal information. Free conversation English Songs
5	Exploring English 1, chapter 1, indicating location Free conversation
6	English Firsthand, Unit 1, Who am I, Who are you? Free conversation English Songs
7	Exploring English 1, chapter 2, Colors, clothes, Asking where others are from. Free conversation
8	English Firsthand, Unit 2, I feel great! I am sorry to hear that. Free conversation English Songs
9	Exploring English 1, chapter 2, Numbers, time, Describing, people, giving compliments, Asking the time. Free conversation Musical scene in English.
10	English Firsthand, Unit 2, You feel this way when... Feelings Free conversation English Songs Musical scene in English.
11	Exploring English 1, chapter 3, Furniture, Emergencies, Commands, Reporting an emergency Free conversation Musical scene in English.
12	English Firsthand, Unit 2, Tell me about a time... Take care and write. Free conversation English Songs Musical scene in English.
13	Exploring English 1, chapter 3, locations, Asking about locations, Asking about prices. Free conversation Musical scene in English.
14	English Firsthand, Unit 3, Where are you going? Where would you like to go? Free conversation English Songs Musical scene in English.
15	Free conversation 発表

授業計画	
	［後期］
1	Exploring English 1, chapter 3, shopping, Asking about prices. Free conversation
2	English Firsthand, Unit 3, Our town, Vacations Free conversation English Songs
3	Exploring English 1, chapter 4, At the Dentist's office. People and countries. Free conversation
4	English Firsthand, Unit 4, Talking about interests, That was fantastic! Free conversation English Songs
5	Exploring English 1, chapter 4, occupations, Talking about people, describing things. Free conversation
6	English Firsthand, Unit 4, The best and the worst, Expressing Opinions Free conversation English Songs
7	Exploring English 1, chapter 4, ordering fast food, asking and giving information, reading a bus schedule. Free conversation
8	English Firsthand, Unit 5, I'm really sorry, What happened? Free conversation English Songs
9	Exploring English 1, mini test. chapter 5, Morning routines, describing actions. Free conversation
10	English Firsthand, Unit 4, The best concert Free conversation English Songs Musical scene in English.
11	Exploring English 1, chapter 5, Leisure activities, describing actions. Free conversation Musical scene in English.
12	English Firsthand, Unit 5, You want to borrow what? My best lie. Free conversation English Songs Musical scene in English.
13	Exploring English 1, chapter 5, Colors, clothes, describing people's dress. Free conversation Musical scene in English.
14	English Firsthand, Unit 5, A terrible day! Free conversation English Songs
15	Free conversation 発表

科目名	英会話講座１　［木5］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755BO	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、英会話実習を行う。Learn new words and common spoken phrases. Learn to enjoy basic conversation in the English language.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring English』Tim Harris/Allan Rowe 著
『English First Hand』Marc Helgesen/Steven Brown 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions. Exploring English 1, chapter 1, Introducing yourself, greeting people Free conversation
2	English Firsthand Unit 1, Have you two met? At a Party Free conversation English Songs
3	Exploring English 1, chapter 1, asking about and identifying people and objects. Free conversation
4	English Firsthand, Unit 1, Getting to know you, personal information. Free conversation English Songs
5	Exploring English 1, chapter 1, indicating location Free conversation
6	English Firsthand, Unit 1, Who am I, Who are you? Free conversation English Songs
7	Exploring English 1, chapter 2, Colors, clothes, Asking where others are from. Free conversation
8	English Firsthand, Unit 2, I feel great! I am sorry to hear that. Free conversation English Songs
9	Exploring English 1, chapter 2, Numbers, time, Describing, people, giving compliments, Asking the time. Free conversation Musical scene in English.
10	English Firsthand, Unit 2, You feel this way when... Feelings Free conversation English Songs Musical scene in English.
11	Exploring English 1, chapter 3, Furniture, Emergencies, Commands, Reporting an emergency Free conversation Musical scene in English.
12	English Firsthand, Unit 2, Tell me about a time... Take care and write. Free conversation English Songs Musical scene in English.
13	Exploring English 1, chapter 3, locations, Asking about locations, Asking about prices. Free conversation Musical scene in English.
14	English Firsthand, Unit 3, Where are you going? Where would you like to go? Free conversation English Songs Musical scene in English.
15	Free conversation 発表

授業計画	
	［後期］
1	Exploring English 1, chapter 3, shopping, Asking about prices. Free conversation
2	English Firsthand, Unit 3, Our town, Vacations Free conversation English Songs
3	Exploring English 1, chapter 4, At the Dentist's office. People and countries. Free conversation
4	English Firsthand, Unit 4, Talking about interests, That was fantastic! Free conversation English Songs
5	Exploring English 1, chapter 4, occupations, Talking about people, describing things. Free conversation
6	English Firsthand, Unit 4, The best and the worst, Expressing Opinions Free conversation English Songs
7	Exploring English 1, chapter 4, ordering fast food, asking and giving information, reading a bus schedule. Free conversation
8	English Firsthand, Unit 5, I'm really sorry, What happened? Free conversation English Songs
9	Exploring English 1, mini test. chapter 5, Morning routines, describing actions. Free conversation
10	English Firsthand, Unit 4, The best concert Free conversation English Songs Musical scene in English.
11	Exploring English 1, chapter 5, Leisure activities, describing actions. Free conversation Musical scene in English.
12	English Firsthand, Unit 5, You want to borrow what? My best lie. Free conversation English Songs Musical scene in English.
13	Exploring English 1, chapter 5, Colors, clothes, describing people's dress. Free conversation Musical scene in English.
14	English Firsthand, Unit 5, A terrible day! Free conversation English Songs
15	Free conversation 発表

科目名	英会話講座１　［月1］（BL専用）						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755CO	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未来にニューヨークの研修旅行、外国人ゲストティチャーのよるワークショップに留学・参加する機会を想定した、ダンサーを目指す学生の一般教育としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につける。英語の発音の訓練。ダンスに関する専門用語をマスターし、きれいな発音で話せることを目的とする。

２．授業概要

日常英会話のリスニングとスピーキイング、英語発音訓練をしながらジャズダンスレッスンと即興インプロヴィゼション。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、英会話
Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、単語話
先生が配るプリント

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として欠席率が３分の１を越えた場合、単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	Class Introduction, 自己紹介、ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
2	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 1： レッスンは受けられるかを確認する、 単語話Chapter 1： Body Parts ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter２：スタジオに登録する 単語話Chapter ２：Muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ３： レッスンプランを選ぶ・支払う 単語話Chapter ３： Bones ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE英会話Chapter４：どのレッスンを受ければいいかを聞く 単語話Chapter４：Warm Ups ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 5：スタジオの設備と場所について聞く 単語話Chapter 5：Breathing ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 6：ダンサー同士の会話 単語話Chapter ６：Training the core muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
13	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表

授業計画	
	［後期］
1	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
2	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements　　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
10	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 14：Back movements 単語話Chapter 14：Hand and arm movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、試験の準備
13	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、試験の準備
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験

科目名	英会話講座２　［火1］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK375600	科目コード	GK3756	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、英会話実習を行う。Learn that English is more than something you study in a classroom. It is a very useful tool for communication for people all around the world.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Watch Movies and TV in English. Speak with your friends in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring EnglishII』Tim Harris/Allan Rowe 著
『English First Hand』Marc Helgesen/Steven Brown 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions Free conversation Exploring English 2, Chapter 1, Daily Routines
2	Free conversation English Firsthand, chapter 6, World cultures English songs
3	Free conversation Exploring English 2, Chapter 1, At the Park, Meeting People
4	Free conversation English Firsthand, chapter 6, Traveling English songs
5	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Ordering in a Restaurant Food and Drinks
6	Free conversation English Firsthand, chapter 6, My culture English songs
7	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Friends, clothes
8	Free conversation English Firsthand, chapter 7, Do you remember when? English songs
9	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Ordering in a restaurant
10	Free conversation English Firsthand, chapter 7, My Memories English songs
11	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Clothes shopping, Musical scene in English
12	Free conversation English Firsthand, chapter 7, Your History, A special time English songs Musical scene in English
13	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Public transportation Musical scene in English
14	Free conversation English Firsthand, chapter 8, Making Plans English songs Musical scene in English
15	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Invitations, Giving directions and explanations Musical scene in English

授業計画	
	［後期］
1	Free conversation English Firsthand, chapter 8, English songs
2	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4, Where to buy things, locations
3	Free conversation English Firsthand, chapter 9, Problems. What Should I do? English songs
4	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4, Occupations, Borrowing
5	Free conversation English Firsthand, chapter 9, What would you do if... English songs
6	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 1-4, mini test
7	Free conversation English Firsthand, chapter 10, Tell me a Story English songs
8	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 5, Weather, House work, Your street,
9	Free conversation English Firsthand, chapter 10, Once Upon a Time English songs
10	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 5, Musical scene in English
11	Free conversation English Firsthand, chapter 11, In My Opinion English songs Musical scene in English
12	Free conversation Exploring English 2, Chapter 6, Leisure Activities, Travel Musical scene in English
13	Free conversation English Firsthand, chapter 12, Looking Ahead English songs Musical scene in English
14	Free conversation Exploring English 2, Chapter 6, Parties, The Beach, Your Hometown Musical scene in English
15	Free conversation 発表

科目名	英会話講座２　［月2］（BL専用）							
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3756AO	科目コード	GK3756	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未来にニューヨークの研修旅行、外国人ゲストティチャーのよるワークショップに留学・参加する機会を想定した、ダンサーを目指す学生の一般教育としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につける。英語の発音の訓練。ダンスに関する専門用語をマスターし、きれいな発音で話せることを目的とする。

２．授業概要

日常英会話のリスニングとスピーキイング、英語発音訓練をしながらジャズダンスレッスン,英語の歌とせりふと即興インプロヴィゼション。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、英会話
Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、単語話
先生が配るプリント

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として欠席率が３分の１を越えた場合、単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	Class Introduction, 自己紹介、ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
2	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 15： 単語話Chapter15： ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 15： 単語話Chapter15：の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
4	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 16：Traveling movements 単語話Chapter １６：Antonyms ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 16：Traveling movements 単語話Chapter １６：Antonyms　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １７：けが 単語話Chapter １７ to use prepositions ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １７：けが 単語話Chapter １７ to use prepositions　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １８ ：スタジオの不都合を伝える 単語話Chapter １８：Your position amongst others ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １８ ：スタジオの不都合を伝える 単語話Chapter １８：Your position amongst others　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １９：先生からのお知らせ 単語話Chapter １９：Center floor ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １９：先生からのお知らせ 単語話Chapter １９：Center floor　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
12	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２０：先生に質問する 単語話Chapter ２０：How to use come and go ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
13	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふ
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表

授業計画	
	［後期］
1	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２１：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter ２１：Transferring body weight ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
2	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２１：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter ２１：Transferring body weight　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
3	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ 単語話Chapter ２２：Partners and props ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２２：SNSやブログのコメント 単語話Chapter ２２：Partners and props　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２３：ダンスの進路について相談する 単語話Chapter 23：Attraction and repulsion ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２３：ダンスの進路について相談する 単語話Chapter 23：Attraction and repulsion　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２４：舞台1~5 単語話Chapter 24：Different expressions for slide ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２４：舞台1~5 単語話Chapter 24：Different expressions for slide　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE Chapter ２５：舞台６～１０ 単語話Chapter 25：Different expressions for “shake” and “swing” ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE Chapter ２５：舞台６～１０　の続き 単語話Chapter 25：Different expressions for “shake” and “swing” ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE Chapter ２６：事前に予約内容を電話で確認する1~3 単語話Chapter ２６：Difference between “hear” and “listen” 単語話Chapter ２７：Positions and directions on stage ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
12	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、試験の準備
13	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、試験の準備
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験

科目名	ミュージカル概論　[火2]						
代表教員	ダイアナ　ボール　石山	授業コード	GK375700	科目コード	GK3757	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパで誕生したオペラ、オペレッタ、レビュー。それらがアメリカへ伝播し、新しいエンターテイメントとして生まれてきたミュージカル。時代とともに変遷する音楽芸術の歴史的な流れを学びながら、アメリカ・イギリス・日本の代表的なミュージカル作品を取り上げ、その時代背景やストーリー・音楽を研究･考察する。

２．授業概要

授業計画に沿って、ミュージカルの作品研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

できるだけ沢山の舞台（幅広いジャンル）を、批判精神を持って観劇、研究してください。 Learn as much about Musical Theater on Broadway in New York, the Westend in London and in Japan.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業へ参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Improv～A Handbook for The Actor』Greg Atkins 著
『Invitation to the Theatre』George Kernodle 著
『Making Musicals』Tom Jones 著
『A History Of The Musical』John Kenrick 著
『浅利慶太の四季-著述集（１）～（４）』浅利慶太著
『舞台美術入門』高田一郎著
『一冊でわかるミュージカル作品ガイド１００選』瀬川昌久著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、ミュージカルのはじまり。１８５０～１９００産業革命の影響。 "The Black Crook"
2	1900～1910 ミュージカルの元、 Operetta, Variety, Vaudeville, burlesque, Minstrel Shows.
3	1910～1920's Ziegfield Follies. "Showboat" DVD鑑賞。 好きなミュージカルリポート発表。
4	1920's ～ Film, Vaudeville スター誕生。 "Showboat" DVD鑑賞。 好きなミュージカルリポート発表。
5	Easter Parade" DVD鑑賞, Judy Garland, Fred Astaire 主演。 好きなミュージカルリポート発表。
6	1930's～作曲者：Irving Berlin, Gershwin, Leonard Bernstein, Cole Porter "On The Town" DVD鑑賞、Gene Kelly, Frank Sinatra 主演。好きなミュージカルリポート発表。
7	Take me Out to the Ball Game DVD鑑賞、Gene Kelly主演。 ミュージカル映画の影響。 好きなミュージカルリポート発表。
8	1940's Roger's asnd Hammersteinチーム、ブックミュージカルの誕生 "Oklahoma" DVD鑑賞。 好きなミュージカルリポート発表。
9	Oklahoma DVD鑑賞。 好きなミュージカルリポート発表。
10	Band Wagon DVD鑑賞。 好きなミュージカルリポート発表。
11	1940's ミュージカル映画の影響 "Singing In The Rain" DVD鑑賞。
12	1950's～ "Broadway's Golden Age" Roger's and Hammerstein の成功が続く。"The King & I", "South Pacific", "Carousel", "Sound Of Music."
13	1950年代の有名な作品。
14	Westside Story 天才作曲者Leonard Bernstein. この作品でミュージカルが大きく変わります。観客は、ミュージカル作品から社会的メッセージも受け取られるようになります。
15	Westside Story DVD鑑賞 演出、振付 Jerome Robbins プロデュサー Harold Prince 作詞 Stephen Sondheim

授業計画	
	［後期］
1	1960's "End of the Golden Era" 社会的な影響。 "We Shall Overcome" 公民権運動の影響。 Vietnam War ベトナム戦争の影響。 Rock and Roll ロックンロールの影響。
2	Fiddler on the Roof DVD鑑賞。 観客に社会的メッセージを投げかけ、考えさせる作品。
3	Fiddler on the Roof DVD鑑賞。
4	初めてのロックミュージカル"HAIR"若い人の反抗時代（反戦運動、学生運動）。 "HAIR" DVD鑑賞。
5	Cabaret Bob Fosse "フォッシー･スタイル"の登場。
6	1970's Rock Opera "Jesus Christ Superstar" 作曲 Andrew Lloyd Webber
7	Jesus Christ Superstar DVD鑑賞。
8	A Chorus Line DVD鑑賞。 プロデュサーJoseph Papp 演出、振付 Michael Bennett
9	1980's～ The British Invasion, "CATS" Andrew Lloyd Webber "Les Miserables"
10	Sondheim Vs. Webber "Into The Woods" Stephen Sondheim
11	1990's～ "The Phantom Of The Opera" DVD鑑賞。 作曲者Andrew Lloyd Webber
12	映画"Chicago", "Dream Girls"
13	2000～ "Rent" DVD鑑賞。 新しい作品。
14	日本の作品、劇団四季、東宝、ホリプロなど。 概論復習。
15	What is next? 概論復習。

科目名	演技論１　（前）　[水3]						
代表教員	兵藤　公美	授業コード	GK377300	科目コード	GK3773	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

俳優の演技は実技だけでなく、理論や思想も重要である。上演を前提とした本番のための稽古では、とにかく目の前にある課題をこなすことで精一杯になってしまうが、この授業では、そもそも「演技をする」というのはどういうことなのか？「よい演技」とはどういう状態をさすのか？を、時間をかけて共に検証していきたい。
３年次になって、この２年間の経験から、演技について深く学びたいと思った者が、自分で自分の演技について検証し、考えられるようになることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技とは何かを考えるための方法論を学び、実際の戯曲を使ってその方法論をどう使うかを実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の都度、次週までの課題を課す。（その日の授業内容によって、テーマに沿った観察や演技プランの研究、戯曲の読み込みなど）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０％）
レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
ステラ・アドラー『魂の演技レッスン22』
イヨネスコ『授業』ほか
その他、使用テキストは授業の際に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演技論２」は「演技論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：授業内容の説明に加えて、各受講学生が抱えている演技に対する問題点を明らかにし、この授業の取り組み目標を各人が持つ。
2	演技におけるリラックス１：くつろぐという意味ではなく、俳優の魅力を最大限に発揮するためのリラックス状態はどのようなものなのか、スタニスラフスキー・システムを用いて解説、体験する。
3	演技におけるリラックス２：前回学んだことを、実際に場面を演じる中で実践する。
4	オリジナリティのある演技プランの研究１：役を演じる指針となる役の「課題」を個人の体験からつかむ方法を学ぶ。
5	オリジナリティのある演技プランの研究２：各人が設定した「課題」に沿って、実際に「行動」する。
6	オリジナリティのある演技プランの研究３：「行動」から生まれる役の「感情」をつかむ。
7	オリジナリティのある演技プランの研究４：役の人間が見えているはずのもの（実際の景色、記憶など）を具体的に「視覚化」することによって、演技の強度を増す方法を学ぶ。
8	アクションとリアクション：第２回−第７回で学んだことを使って、実際に相手役と演技し、演技プランとその場で起こることへのリアクションの両立を目指す。
9	演技のリアリティ：非現実的な設定や自分から遠い役柄を演じる時に、観客の共感を得る演技をする方法を検証する。 使用テキスト：「授業」イヨネスコ
10	集団創作の作法：演技は１人でできる範囲は限られている。集団で創作する時に必要な作法を学ぶ。
11	実習１：第２回−第１０回で学んだことを、実際の舞台作品の戯曲を使って実践する。 使用テキスト：「授業」イヨネスコ
12	実習２：第２回−第１０回で学んだことを、実際の舞台作品の戯曲を使って実践する。
13	実習３：第２回−第１０回で学んだことを、実際の舞台作品の戯曲を使って実践する。
14	実習４：第２回−第１０回で学んだことを、実際の舞台作品の戯曲を使って実践する。
15	成果発表

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演技論１　（前）［木2］（AS専用）						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GK3773AO	科目コード	GK3773	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際のプロの現場で通用する人間性と専門技術（総合演技、表現、演出）を具体的に着実に習得することを目標とする。
人間性においては、声優業界、アニメ業界、また総合して芸能活動を続けてゆくため、人に愛される人間になるということを学ぶ。
専門技術は声の作り方、出し方などの基本的な事柄から役づくり身体の表現方法、知っておくべき演劇の歴史、舞台作品、映画作品などから知識と教養の習得を交え、実践において通用する自分の演出方法などを身につけてゆく。

２．授業概要

人間性において：いかにして自分がこの世界で活動してきたか、仕事を獲得してきたのか、経験談とともに、現代の芸能界での歩み方、身の振る舞い方を習得させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の都度、次週までの課題を課す。さまざまな分野に関心を配り幅広い知識を身につける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０%）試験・レポート（３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演技論２」は「演技論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：授業内容（総合演技、表現、演出）の説明、受講学生が抱えている表現者（俳優・声優・歌手・ナレータほか）としての問題点、知り得たい内容を明らかにして学生各人にとって成果ある授業を行えるようコミニュケーションをとる。
2	プロの現場（2.5次元舞台、演劇舞台、ミュージカル、歌手のステージ、声優、映像現場など）で必要とされる様々な事柄について理解を深める。俳優、声優、歌手、ナレーターなどオールジャンルに共通する実践的な解説を行う。
3	プロの現場で通用する表現者としての具体的な様々なスキルについて講義を行う。世の中の人気作品（学生たちの支持する作品など含め）についても検証する。
4	演出、監督的な視点からプレイヤーに必要とされる能力、技術、人間力について解説する。表現者である俳優業、声優業、歌手、ナレーターに共通する演技力（表現力）の重要性の解説。
5	表現者（俳優・声優・歌手・ナレータなど）に必要な具体的な「理論と実践」について解説をし体験をする。理解をして実践する必要性、実践から理論を理解する必要性を学ぶ。
6	表現者としての具体的な技術を理解し体得する「理論と実践①」。台本シナリオの解読理解の方法。役作りの方法についての解説。実践に必要な声、肉体表現の技術の習得。2.5次元舞台シナリオ、声優シナリオ、一般台本などを用いて行う。
7	表現者としての具体的な技術を理解し体得する「理論と実践②」。台本シナリオの解読理解の方法。役作りの方法についての解説。実践に必要な声、肉体表現の技術の習得。 キャラクター表現について。
8	表現者としての具体的な技術を理解し体得する「理論と実践③」。 発声、発音、アーテュキレーションの重要性。
9	表現者としての具体的な技術を理解し体得する「理論と実践④」。 呼吸領域の理解を深め、実践につなげる。
10	実践的なシナリオを用いて表現力の強化。実習①。第２回～９回の講義で学んだことを実践テキストを使い実践する。演技・演出的視点から検証。能力検証。
11	実践的なシナリオを用いて表現力の強化。実習②。第２回～１０回の講義で学んだことを実践テキストを使い実践する。 声優演技について。
12	実践的なシナリオを用いて表現力の強化。実習③。第２回～１１回の講義で学んだことを実践テキストを使い実践する。 滑舌、音に対する感性を開く。
13	実践的なシナリオを用いて表現力の強化。実習④。第２回～１２回の講義で学んだことを実践テキストを使い実践する。 パフォーマンスとはいかなるものかを身につける。。
14	実践的なシナリオを用いて表現力の強化。実習⑤。第２回～１３回の講義で学んだことを実践テキストを使い実践する。 作品の分析力を磨く。
15	成果発表、まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演技論２　（後）　[水3]						
代表教員	大倉　マヤ	授業コード	GK377400	科目コード	GK3774	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「演技論１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演じる俳優の感覚と身体に特化して、自分自身をどのように操縦するか、
その為の方法と考え方を理解して実践、演技術を身につける。
また、俳優が準備するべきこと、演出家とのコミュニケーションの取り方、俳優の仕事とはなにか、演技とはなにか、語れる言葉をみつける、等、自立した俳優の感性を育成。

２．授業概要

テキストを使用して、相手とのコミュニケーション、すなわち情報の伝達、意思の疎通のエクササイズから始め、
自分（演じる役）の目的や欲望を分析し、自分自身が実感を持ってセリフを発し、実感を持った行動起こすためのトレーニング。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活を俳優としての視点で観察。日常におけるさまざまなできごとや状況に鈍感にならないよう、自分が感じたこと、
疑問に思ったことを検証、言語化していく。
視野を広く、感覚のアンテナを敏感にしておく。
舞台芸術に偏らず、絵画、映画、文学、など鑑賞する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各個人を指導する為、積極性、高い向上心が求められます。
「演技論２」は「演技論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	演技について講義、質疑応答
2	自分の感覚とは 以下日本の戯曲の抜粋を使用
3	演技における相手を見る、聴くということとは
4	相手の意図と自分の意図とは
5	身体が勝手に動くとは
6	役の人物の分析の仕方
7	イメージをすることの重要さとは 以下ミュージカルの台本を使用
8	空間把握、演技者が作らなければいけないリズム、呼吸とは
9	感情を作り出すとは
10	セットや小道具と演技をするとは
11	相手とのコンタクトの取り方
12	シーンを立ち上げるとは
13	台本の読み取り方
14	キャラクター表現とは
15	演じる楽しさ、自由とは

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演技論２　（後）［木2］（AS専用）							
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GK3774A0	科目コード	GK3774	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際のプロの現場で通用する人間性と専門技術（総合演技、表現、演出）を具体的に着実に習得することを目標とする。
人間性においては、声優業界、アニメ業界、また総合して芸能活動を続けてゆくため、人に愛される人間になるということを学ぶ。
専門技術は、演技論１で学んだ基本的な事柄を応用し、自分にあった演出・演技方法をさらに発展させ身に付けてゆく。

２．授業概要

人間性において：いかにして自分がこの世界で活動してきたか、仕事を獲得してきたのか、経験談とともに、現代の芸能界での歩み方、身の振る舞い方を習得させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の都度、次週までの課題を課す。さまざまな分野に関心を配り幅広い知識を身につける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０%）試験・レポート（３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演技論２」は、「演技論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	演技・声優・歌手・ナレーターを志す者としての前期を経ての各人の感想、質疑応答。今後の自身の目標を明確にする。
2	自己プロデュース能力向上のための理解を深める。プロの現場で通用する自分自身を獲得するための知識などを習得する。
3	表現者（演技・声優・歌手・ナレーターなど）に必要な具体的なスキルの獲得を実践する。
4	テキストを使用し実際に演出講義を行う① 作りあげる視点から表現者として必要な事柄を学ぶ。
5	テキストを使用し実際に演出講義を行う②　　キャラクター造形の仕方の体得。
6	テキストを使用し実際に演出講義を行う③ 声を扱うことについての技術力の理解を深める。
7	テキストを使用し実際に演出講義を行う④ 表現をすることについての理解を深める、幅を広げる。
8	実際の戯曲や作品を使用しながら具体的な演出講義を施し、実践的な表現方法の応用編を行う。
9	実際の戯曲や作品を使用しながら具体的な演出講義を施し、実践的なキャラクター作りをしてゆく。
10	実際の戯曲や作品を使用しながら具体的な演出講義を施し、現代の求められる演技の幅について習得する。
11	実際の戯曲や作品を使用しながら具体的な演出講義を施し、実践的な結果を出せるよう今までに学んできた応用編を行う。
12	自主的な演目選出から創作作業などを行いながら、役作り、プラン作りを個人そして仲間と行いながら学ぶ。
13	自主的な演目選出から創作作業などを行いながら、役作り、プラン作りを個人そして仲間と行いながら学ぶ。　個人プランニングの見直し。
14	自主的な演目選出から創作作業などを行いながら、役作り、プラン作りを個人そして仲間と行いながら学ぶ。　成果発表に向けた練習。
15	総括・成果発表

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演出論１　（前）　[月2]						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GK377500	科目コード	GK3775	期間	半期
担当教員	倉迫　康史、篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演出とはどんな仕事なのかを知る。前期は演出家の視点について知ることで、俳優としての演出眼を養う。後期は実際の演出法を学び、演出を実践する。

２．授業概要

授業計画に沿って、前期は演出家は「俳優の演技のどこを見ているのか」「俳優の演技に何を要求しているのか」を解説、実際に演技を行い、検証していく。後期は演出のメソッドを具体的に学び、実際に戯曲の１シーンを演出していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で紹介する演出理論書の購読
授業で出す演技的な課題が次回の講義に直結する

４．成績評価の方法及び基準

試験・レポート（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	なぜ俳優に演出を学ぶ必要があるかの解説。俳優の演出力を養うことの重要性を知る
2	演出家とはどういう存在なのか。演出家の歴史とその存在意義を講義。
3	俳優の演出力「みること」の解説①。「みる」とはどういう行為なのか。観ると視るの違いなど
4	俳優の演出力「みること」の解説②。「みる」行為を実践し、検証する。
5	俳優の演出力「たつこと」の解説①。舞台に「たつ」、舞台上で「たつ」とはどういう行為なのか。立つと発つの違いなど。
6	俳優の演出力「たつこと」の解説②。「たつ」行為を実践し、検証する。
7	俳優の演出力「さわること」の解説①。触ることと障ることの違いについて。体にさわる、物にさわる、心にさわることの重要性について
8	俳優の演出力「さわること」の解説②。「さわる」行為を実践し、検証する。
9	俳優の演出力「かたること」の解説①。語ることと騙ることの違いについて。かたるために必要なこととはの解説
10	俳優の演出力「かたること」の解説②。「かたる行為」を実践し、検証する。
11	俳優の演出力「かたること」の解説③。引き続き「かたる行為」を実践し、検証する。
12	「みる」の応用編として「自己の客観性」についての講義と実践。
13	「たつ」の応用編として「他者との協働」についての講義と実践。
14	「さわる」の応用編として「異なる価値観への対応」についての講義と実践。
15	「語る」の応用編として「虚構を組み立てること」についての講義と実践。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演出論１　（前）［金2］（AS専用）							
代表教員	山下　順子	授業コード	GK3775AO	科目コード	GK3775	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

豊かで優れた表現者(声優・俳優・歌手・ナレーター等）になるために、プロの現場で表現を磨き続けることができる人材になるために、演技、演出の基礎と基本を、様々な戯曲にふれることで習得する。様々な角度からアプローチすることで自らの演出方針を出せる人間性と専門技術を磨く。つまり自分で自分を演出し、プロデュースしていくこと、そのために必要な技術や知識の習得、各人が魅力的な表現者になることを目標とする。声優・俳優・歌手・ナレーターとして、習得した技術や知識を実践に結びつけることができる表現者を目指す。

２．授業概要

古今東西の戯曲を読む。解釈し、表現者としての読解力をつける。誤読も含めて楽しく読み込む想像力を養う。本読みや輪読で、演じてみる。人物の気持ちになって、戯曲・物語の世界観の中で生きる。演じ手と聞き手（観客・演出の立場）のスタンスを両方経験する。そのうえで戯曲のシーン全体の解釈を議論する。クラスの演出方針を話し合って出す。履修学生の中からでてきた演出プランで演出した作品づくりをする。リハーサルと成果発表。講評と総括。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習は授業の内容を自分の言葉で置き換え習得できているかどうか確認する。疑問点は次回授業で質問する。予習は授業の都度、次週までの課題を課すので、自ら意欲と興味をもって取り組むこと、その中で次週授業での個人目標を見つけられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（授業内成果発表、個人の意見の発表等、予習の成果と人前での表現者としてのモチベーションの持ち方と表現力の習得具合）（評価の７０％）。試験・レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜コピーして配布する。
岸田國士、井上ひさし、別役実、ウィリアム・シェイクスピア、ヴィクトル・ユーゴー、アントン・チェーホフ、ヘンリック・イプセン、ピーター・シェーファー等の戯曲を予定。日本の現代劇作家の作品や、アニメへのつながりを考慮の上、日本児童文学作品にも触れる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス。授業の目的を履修学生全員が理解できるように解説する。演劇ワークショップで使われるシアターゲームを使ってコミュニケーションを図る。「他己紹介」を使って自己と他者の再発見。「演技とは何か？」「演出とは何か？」について現段階での理解を共有する。第1回めの授業を踏まえたうえで次週までの課題、「演技とは何か？」「演出とは何か？」について下調べをしてくる。
2	「演技とは何か？」「演出とは何か？」の発表と意見交換。
3	演技の理論についての講義。概論の提示。質疑応答。
4	演出の理論についての講義。概論の提示。質疑応答。
5	戯曲の輪読と検証①古典（シェイクスピア等の戯曲より抜粋）
6	戯曲の輪読と検証②近代（イプセン、チェーホフ、岸田國士等の戯曲より抜粋）
7	戯曲の輪読と検証③現代（日本の劇作家の戯曲より抜粋予定）
8	長編創作童話「アミアミ人形の冒険」の朗読。小説の朗読とドラマリーディング（近年上演の多い、戯曲を複数の出演者で読むパフォーマンス）の違いの検証。
9	現代戯曲「アミアミ人形の冒険」の本読み。一人一役を通して読むことで、役の貫通コードを探る。演技論の実践への結びつけを図る。
10	現代戯曲「アミアミ人形の冒険」シーンごとの検証。脚本家の意図とシーンを上演に向けて立ち上げる過程で何が表現される必要があるか、何を表現できると面白くなるかの検討。演出論の実践への結びつけを図る。
11	履修学生によるシーンごとの演出プラン（キャスティングも含む）の発表。グループ作業のためのメンバー調整。
12	履修学生各自の演出プランでグループ作業、リハーサル。
13	演出プランに従って音響SE（Sound Effect)/ME(Music Effect)をつけてリハーサル。
14	成果発表。講評。意見交換。自己評価並びに他者の作品作りについての評価ができるようになることを目指す。
15	「演出論１」の振り返りと総括。「演技とは何か？」「演出とは何か？」についての各自の見解や知識の広がり、向上が見られるか検証する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演出論２　（後）　[月2]						
代表教員	倉迫　康史	授業コード	GK377600	科目コード	GK3776	期間	半期
担当教員	篠原　真、横山　仁一						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「演出論１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演出とはどんな仕事なのかを知る。前期は演出家の視点について知ることで、俳優としての演出眼を養う。後期は実際の演出法を学び、演出を実践する。

２．授業概要

授業計画に沿って、前期は演出家は「俳優の演技のどこを見ているのか」「俳優の演技に何を要求しているのか」を解説、実際に演技を行い、検証していく。後期は演出のメソッドを具体的に学び、実際に戯曲の１シーンを演出していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で紹介する演出理論書の購読
授業で出す演技的な課題が次回の講義に直結する

４．成績評価の方法及び基準

試験・レポート（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	インプロメソッドを使った演技／空間演出法① ・インプロとはなにか？起源・歴史・その必要性・導入エクササイズ
2	インプロメソッドを使った演技／空間演出法② ・インプロメソッド体験で理解する演技のメカニズム①
3	インプロメソッドを使った演技／空間演出法③ ・インプロメソッド体験で理解する演技のメカニズム②
4	インプロメソッドを使った演技／空間演出法④ ・空間演出への応用
5	インプロメソッドを使った演技／空間演出法⑤ ・総括
6	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法① ・ディバイジングとはなにか？その起源・歴史・実用例紹介・基礎創作①
7	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法② ・基礎創作②
8	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法③ ・ストーリーボードを使った創作①劇構造を理解する
9	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法④ ・ストーリーボードを使った創作②対象と表現手法を理解する
10	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法⑤ ・テーマ素材からの再構築創作①導入、準備
11	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法⑥ ・テーマ素材からの再構築創作①創作、発表
12	戯曲のワンシーンを実際に演出する① ・導入、準備
13	戯曲のワンシーンを実際に演出する② ・演出作業①
14	戯曲のワンシーンを実際に演出する③ ・演出作業②
15	戯曲のワンシーンを実際に演出する④ ・発表、総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演出論２　（後）［金2］（AS専用）							
代表教員	山下　順子	授業コード	GK3776A0	科目コード	GK3776	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

優れた表現者として屹立するために、グローバルな視野の中で自らとその所属する集団、プロダクション等のポジションを正確にとらえることができる思考回路を開く。世界の座標軸の中の自らのポジションをとらえる判断力をつける。そのことが、自ら演技し、自らを演出していくうえで強い力となる。他人の演出を受ける立場になっても、冷静な判断・批評ができるようになる。

２．授業概要

「演出論１」の復習ともう1段階上の広げた知識や専門技術の習得。そのうえで自ら演出する作品を選ぶ。試行錯誤、他者との議論を交えて作品を決定。演出し、演出されるモデルケースを複数経験する。体験のプロセスの中で自らの技術の向上や思考の幅を広げ、知識の獲得、他者との共有財産を発見していく。最終的に自分のポジションをどのように評価するか、きちんと総括し、将来に繋げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習は授業の内容を自分の言葉で置き換え習得できているかどうか確認する。疑問点は次回授業で質問する。予習は授業の都度、次週までの課題を課すので、自ら意欲と興味をもって取り組むこと、その中で次週授業での個人目標を見つけられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（授業内成果発表、個人の意見の発表等、予習の成果と人前での表現者としてのモチベーションの持ち方と表現力の習得具合）（評価の７０％）。試験・レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は、「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、「演出論2」の目標の説明。より高度で魅力的な表現に近づくために、声のワークショップを行う。声の魅力のいろいろに迫る。マイクロフォンを使用しない声の幅と魅力を感じる。マイクなしで声の表現はどのような広がりがあるのかを理解する。
2	同じ原作の違う演出作品（翻案作品）に触れる。「ロミオとジュリエット」と「West Side Story」、ブレヒト作「セチュアンの善人」と「ハザマとスミチャン」、「かもめ」とミュージカル「Fame」等の提示と検証、意見交換。映像でわかりやすいのは「美女と野獣」、「シンデレラ」アニメ版と実写版の演出の違いを検証。漫画からアニメ化された作品を調べてくるのが次週までの課題。
3	原作が小説や童話でアニメ化、ミュージカル化された作品。「あゝ無情」と「レ・ミゼラブル」、宮沢賢治作「グスコーブドリの伝記」「銀河鉄道の夜」等の提示と検証。漫画からアニメ化された作品の発表と共有。
4	「ロミオとジュリエット」と「West Side Story」の本読み。演じる時の違いは何か、検証。聞き手、見る側にとってその違いはどのように感じるのかを検証。次に同じセリフを演出を変えてしゃべってみる、どのような変化が聞き手に生まれるのか？を体験する。
5	キャラクターづくりのワークショップ。演技の技術の幅を広げる。演技と演出の結びつきを試行する。
6	聞く耳を育てる音のワークショップ。演技と演出の結びつきを深める、すなわち演技とは一方的な表現ではなく常に、客にどう見えているか・どう聞こえているか（演出の視点）という冷静かつ客観的な判断をしてふりかえることができなければならないことを実感する。
7	ラジオドラマの台本を読む①。17世紀フランスの劇作家、モリエールの喜劇作品「守銭奴」。
8	ラジオドラマの台本を読む②。1866年ドストエフスキー作「罪と罰」。
9	演技論と演出論の復習と、実践を経て理解が進んだ点を各自検証、発表、意見交換。
10	自ら演出する作品の題材・テーマと演出プランの発表。
11	グループでリハーサル。本日の成果発表。表現しようとしていることが、うまく表現できているか、行った側と、見ていた側とで検証。
12	作品の質を上げるための作り直し。別のグループの作品を演じ、演出する。発表。自分たちの演じ方、演出と違う点、どこが評価できるか、それによってうすれてしまった点はあるのか。それを踏まえて演出プランの練り直し、修正。
13	音・衣装・小道具等を付けたリハーサル。より高度な表現を目指す。
14	成果発表。エヴァリエーション（再評価）。目標（作品作りの主題にどの程度到達したか）・芸術性・グループ（組織）づくりの3点において検証。
15	総括。目標を履修学生各自がどのくらい習得できているかの検証。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	戯曲論　［木2］						
代表教員	倉迫　康史	授業コード	GK377700	科目コード	GK3777	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	MS・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカルでもストレートプレイでも俳優に戯曲（台本、シナリオ）を「読む力」は必須である。オーディションでも「読む力」が試されることが多い。戯曲を「読む」には、書かれてあることを調べる力、書かれていないことを想像する力の双方が必要である。戯曲を分析し、読解するのに必要な俳優の作業と思考法を、実際に課題戯曲を読みこみながら解説、年度の終わりでは課題戯曲の上演も行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、前期はヨーロッパの代表的な戯曲や劇作家の解説を、後期は日本の現代戯曲の中から課題戯曲を選んで上演に必要な作業を行っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる戯曲は必ず事前に読んでくること。黙読だけでなく音読も行うこと。
紹介した劇作家の他の戯曲も読み、戯曲への理解を深めること。
後期は課題戯曲の上演に向けての自主稽古を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
レポート（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

俳優として戯曲への理解を重要と考える者

授業計画	
	［前期］
1	戯曲とは何か。その歴史的な成立過程を講義
2	戯曲の要素。戯曲を成り立たせている要素とは何かを分析し、戯曲読解の手がかりを知る
3	ギリシア悲劇を読む①。現存する最古の戯曲であるギリシア悲劇とは何かの講義
4	ギリシア悲劇を読む②。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を題材に戯曲を分析する（戯曲の成立過程、時代背景）
5	ギリシア悲劇を読む③。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を題材に戯曲を分析する（戯曲の世界観、登場人物の特徴、台詞の様式）
6	ギリシア悲劇を読む④。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を音読する。戯曲分析を踏まえて実際に台詞を声に出して読んでみる。要求される俳優の台詞術とは何かを知る
7	シェイクスピアを読む①。最も有名な劇作家であるシェイクスピアの生涯について解説
8	シェイクスピアを読む②。シェイクスピア作品の特徴、時期による傾向の変化について解説
9	シェイクスピアを読む③。受講生の人数・男女比などからシェイクスピア作品を一つ選び、シーンごとに音読しながら解説を加えていく
10	シェイクスピアを読む④。前回の続きを行い、シェイクスピア作品に要求される台詞術や思考法について解説
11	チェーホフを読む①。近代演劇の祖であるチェーホフの生涯について解説
12	チェーホフを読む②。チェーホフの戯曲を演出したスタニスラフスキーについて解説。チェーホフ戯曲とスタニスラフスキーの考案した演技術（スタニスラフスキーシステム）との関係性について
13	チェーホフを読む③。チェーホフの最も有名な戯曲の一つであり、日本での上演も多い『三人姉妹』をシーンごとに音読しながら解説
14	チェーホフを読む④。前回に続いて『三人姉妹』を音読しながら解説
15	シェイクスピア、チェーホフ以外のヨーロッパの著名な劇作家とその代表作を紹介。その中から一つを選んで戯曲分析を行うことを前期のレポートの課題とする

授業計画	
	［後期］
1	日本の戯曲の歴史を概観する。
2	日本の現代戯曲の多様性について講義
3	80年代演劇の戯曲的傾向について講義。小劇場ブームにおける戯曲の役割とは
4	90年代演劇の戯曲的傾向について講義。現代口語演劇における戯曲の役割とは
5	日本の現代戯曲を読む①。２０００年以降に登場した戯曲から受講生の人数・性別に合わせて課題戯曲を決め、戯曲の分析を行う。
6	日本の現代戯曲を読む②。２０００年以降に登場した戯曲から受講生の人数・性別に合わせて課題戯曲を決め、戯曲の分析を行う。
7	日本の現代戯曲を読む③。２０００年以降に登場した戯曲から受講生の人数・性別に合わせて課題戯曲を決め、戯曲の分析を行う。
8	日本の現代戯曲を読む④。２０００年以降に登場した戯曲から受講生の人数・性別に合わせて課題戯曲を決め、戯曲の分析を行う。
9	日本の現代戯曲を上演する①。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
10	日本の現代戯曲を上演する②。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
11	日本の現代戯曲を上演する③。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
12	日本の現代戯曲を上演する④。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
13	日本の現代戯曲を上演する⑤。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
14	日本の現代戯曲を上演する⑥。課題戯曲を上演するにあたって、戯曲をどう具現化していくのかの立ち稽古を行う
15	課題戯曲の上演を発表会形式にて実際に行う。

科目名	ワークショップリーダー養成講座１　（前）［火2］						
代表教員	田野　邦彦	授業コード	GK377800	科目コード	GK3778	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、公共ホールや教育現場でミュージカルや演劇のワークショップのニーズが高まっている。日常を超えた想像力や他者とのコミュニケーション力の育成にそれらのワークショップが有効であると、認知され始めたからである。しかし、実際にワークショップを行うにあたって、ワークショップの講師＝ワークショップリーダーに必要なスキルや知識とは何かを習得しないまま行っても、クライアントや参加者に十分な満足を与えることはできない。そこで、ワークショップリーダーに必要なリテラシーやスキル、ワークショッププログラムの作成や進行について教える。

２．授業概要

授業計画に沿って、ワークショップとは何かについての分析、実際にワークショップをやるにあたっての理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ワークショッププログラムの企画をたてる。実践後に報告書をまとめる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
プログラムの完成度（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。
『演劇ワークショップのつくりかた―現場からの実践ガイド―』こまばアゴラ劇場オリジナルのワークショップを創る研究会　編
発行　有限会社アゴラ企画
他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ワークショップリーダー養成講座２」は「ワークショップリーダー養成講座１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ワークショップとはなにか？① その起源、現代社会における必要性
2	ワークショップとはなにか？② アート・マネージメントの最新動向
3	ワークショップ・プログラムを作成する① ワークショプの成立構造、構成方法、留意点 ▼課題対象：ミュージカルをやりたい高校生（経験者・初心者含む）時間：60分1コマ タイトル：企画主旨：クライアント：某音大（ミュージカルの楽しさを知ってもらいたい）人数：10-20
4	ワークショップ企画プレゼン①
5	ワークショップ企画プレゼン②
6	ワークショップ企画プレゼン③
7	ワークショップ企画プレゼン④
8	デモワークショップ①とフィードバック
9	デモワークショップ②とフィードバック
10	デモワークショップ③とフィードバック
11	デモワークショップ④とフィードバック
12	ワークショップ進行例体験（アイスブレイク編①）
13	ワークショップ進行例体験（アイスブレイク編②）
14	ワークショップ進行例体験（エクササイズ編①）
15	ワークショップ進行例体験（エクササイズ編②）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ワークショップリーダー養成講座２　（後）［火2］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GK377900	科目コード	GK3779	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ワークショップリーダー養成講座１」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、公共ホールや教育現場でミュージカルや演劇のワークショップのニーズが高まっている。日常を超えた想像力や他者とのコミュニケーション力の育成にそれらのワークショップが有効であると、認知され始めたからである。しかし、実際にワークショップを行うにあたって、ワークショップの講師＝ワークショップリーダーに必要なスキルや知識とは何かを習得しないまま行っても、クライアントや参加者に十分な満足を与えることはできない。そこで、ワークショップリーダーに必要なリテラシーやスキル、ワークショッププログラムの作成や進行について教える。

２．授業概要

授業計画に沿って、ワークショップとは何かについての分析、実際にワークショップをやるにあたっての理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ワークショッププログラムの企画をたてる。実践後に報告書をまとめる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
授業への参加姿勢（評価の３０%）
プログラムの完成度（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。
『演劇ワークショップのつくりかた―現場からの実践ガイド―』
こまばアゴラ劇場オリジナルのワークショップを創る研究会 編
発行 有限会社アゴラ企画
他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ワークショップリーダー養成講座２」は「ワークショップリーダー養成講座１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	教育現場におけるワークショップの事例研究+ワークショップ実習先の検討①
2	教育現場におけるワークショップの事例研究+ワークショップ実習先検討②
3	ワークショップ実習のプランニング①
4	ワークショップ実習のプランニング②
5	ワークショップ実習先の下見、打合せ
6	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り①
7	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り②
8	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り③
9	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）①
10	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）②
11	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）③
12	ワークショップ実習本番①
13	ワークショップ実習本番②
14	ワークショップ実習の振り返り、フィードバック
15	ワークショップ論まとめ、活動総括。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	オーディション実習　（集）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK378100	科目コード	GK3781	期間	集中
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

既存のミュージカルカンパニーやタレント・モデル・声優事務所などのさまざまなオーディションに対応・即応出来る学生の育成を第一義とする。また、外部講師（様々な業界関係者）をゲストとして迎え、対外的なアピール力を養う。

２．授業概要

オーディションの情報入手方法、プロフィール写真の撮り方、書類の書き方、面接における自己アピール、心構え、衣装、所作、話し方などのトレーニングを行う。学生一人ひとりの魅力を最大限発揮出来るよう、毎回テーマを決めて（歌・ダンス・演技など）パフォーマンスを行い、教員含めた全員でディスカッションを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の感想文（400字程度）を毎回提出すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で受講すること。場合によっては、指定することもある。（レオタード、スーツ、ドレスなど）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（オーディションを受けるための準備について）
2	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃１
3	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃２
4	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃３
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃１
2	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃２
3	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション＃３
4	さまざまなオーディションに対しての準備、当日の心構え、反省点などを総括する。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スタッフワーク概論　（後）　[月5]						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK378700	科目コード	GK3787	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ミュージカルは、総合舞台芸術である。スポットライトを浴びるキャスト以外のスタッフ(音楽監督、音響、舞台監督、照明、美術、衣装、メイク、制作など)の仕事内容について、それぞれの専門家(ゲスト講師)に解説していただき、理解を深めることを目標とする。
また、舞台独自の用語や習慣について、日本とアメリカ・イギリスとの違いも含めて解説する。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義を行う。ただし、外部講師のスケジュールにより内容が変更される可能性あり。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習、復習を必ず行うこと。また、それぞれが観劇した公演についても、作品や俳優以外のスタッフワークに関心を持ち、視野を広げること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(50%)
レポート提出、試験(50%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ スタッフワーク（音楽監督、音響、舞台監督、照明、美術、衣装、メイク、制作など）の仕事内容や役割について、深く理解し、視野を広げるための授業である。
1	音楽監督の仕事について。また、演奏形態やその役割について。＃1
2	音楽監督の仕事について。また、演奏形態やその役割について。＃2
3	音響の仕事について。また、その役割や専門用語について。＃1
4	音響の仕事について。また、その役割や専門用語について。＃2
5	舞台監督の仕事について。また、その役割や舞台用語について。＃1
6	舞台監督の仕事について。また、その役割や舞台用語について。＃2
7	照明の仕事について。また、その役割や照明用語について。＃1
8	照明の仕事について。また、その役割や照明用語について。＃2
9	舞台美術の仕事について。また、その役割や美術用語について。＃1
10	舞台美術の仕事について。また、その役割や美術用語について。＃2
11	舞台衣装の仕事について。また、その役割や衣装用語について。＃1
12	舞台衣装の仕事について。また、その役割や衣装用語について。＃2
13	メイクの仕事について。また、その役割やメイク用語について。
14	制作の仕事について。また、その役割や制作でよく使われる用語について。
15	スタッフワークの仕事全般についての総括。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	応用キーボードソルフェージュ ［月3］						
代表教員	門倉　聡	授業コード	GK515200	科目コード	GK5152	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽を表現する上で必要な全般的な知識、楽典をクラシック音楽との接点から学びそれを実践できるようにすることが目標。

2．授業概要

講義及び実習
前期は基本的なメロディ、リズム、ハーモニーの学習。後期はそれを実際に演奏するために必要な即興性を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

理論を演奏に結びつけるため、十分な復習が必要。

4．成績評価の方法及び基準

講義での理解度（50%）
試験（50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料はクラス内で配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典に関する十分な知識があること。

授業計画	
	[前期]
1	POP MUSIC/導入
2	POP MUSIC/応用
3	Melody/基礎
4	Melody/ソルフェージュ
5	Melody/応用
6	Rhythm/概要
7	Rhythm/概要のまとめ
8	Rhythm/実践
9	Rhythm/グループ実践
10	Rhythm/ソルフェージュ
11	Harmony/概要
12	Harmony/コードネーム
13	Harmony/実践
14	Harmony/ソルフェージュ
15	Harmony/まとめ

授業計画	
	[後期]
1	Arrangement/概要
2	Arrangement/実践
3	Arrangement/グループ実践
4	Arrangement/応用
5	Arrangement/まとめ
6	Ad lib/概要
7	Ad lib/実践
8	Ad lib/グループ実践
9	Ad lib/応用
10	Ad lib/まとめ
11	Playing/概要
12	Playing/奏法
13	Playing/実践
14	Playing/グループ実践
15	Playing/まとめ

科目名	コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ　[水4]						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	GK515300	科目コード	GK5153	期間	通年
担当教員	クリストファー　ハーディ、石井　喜久子、大倉　マヤ、新井　鴎子、安達　悦子、西巻　正史、長井　芽乃						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	ＰＦ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コミュニケーション能力とは、演奏家として音を通じて聴衆とコミュニケーションする能力と、社会に出てから、音楽を通じて自らの個性、魅力を十分に発揮する能力、この二つの意味を持ちます。
年間の授業を通じて、様々な角度からコミュニケーションについて考え体験する機会を持ち、学生一人ひとりが他の誰とも違う個性を十分に発揮できることを目的とします。
セルフマネージメントとは、自分のセールスポイントを見極め、気付かなかった自分の魅力を発見し、「最も自然な、自分と社会との関わり方」を見極めることです。
このクラスでは、年30回を様々なジャンルの専門家が担当します。

２．授業概要

アートマネージメント（西巻正史）　：　自身の表現を確立するうえで、自身の欲求のみならず、社会の状況、歴史を知ることもとても重要なことです。音楽史などとはまったく異なる視点から、それらを見直し、ピアノをこれまで勉強してきたアドバンテージと補うべきことを整理し、これからの「音楽のある生活」、「音楽と共に生きる人生」への足掛かりにしていただきたいと思っています。

コンサート構成法（新井鴎子）　：　音楽ファンのニーズが多様化している昨今、演奏家は自己をどのようにしてプレゼンテーションしていくかが問われています。いかにして自分の特色を出すか、自分のセールスポイントは何なのかを見きわめ、一般を惹きつける効果的なメッセージを発信していくことが大切です。リサイタルのプログラムの構成法、チラシのキャッチコピーの作り方、演奏前のトークの台本の書き方などを実践的に指導します。

ボディ・マッピングとコアコン（長井芽乃）　：私達の脳内にはボディ・マップ(身体地図)が描かれています。正確な身体地図を知り、効

３．授業時間外の学習（予習復習について）

それぞれの授業内容により、資料研究、練習など、様々な形で授業時間外学習が必要になります。
クラス内で与えられた課題を十分に身につけてください。

４．成績評価の方法及び基準

レポート５０％
平常点５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

[アートマネージメント][ラテン・パーカッション・アンサンブル][コミュニケーション・ゲーム、MC]の授業についてはプリント等を授業内で配布
[コンサート構成法]教科書を購入のこと：クラシック・コンサートの台本集
新井鴎子著「おはなしクラシック」第３巻　（アルテスパブリッシング出版）
[ボディ・マッピングとコアコン]コンディショニングツール：ストレッチポール「ひめトレ®」を各自購入のこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則100%の出席が条件となります。
クラス内で実習が多く行われるため、定員は35名とします。
履修者が多い場合は、授業初日にテストを実施します。
このテストに準備はいりません。筆記用具のみ持参してください。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーション(小嶋) （履修者が多い場合はテストを実施）
2	リズムソルフェージュ１（石井）／拍子・リズムの基本
3	リズムソルフェージュ２（石井）／音符と休符
4	リズムソルフェージュ３（石井）／様々なリズムの考察とアンサンブル
5	ラテンパーカッション・アンサンブル（ハーディ）1.聞くことを重視して
6	ラテンパーカッション・アンサンブル（ハーディ）2.テンポ、リズム
7	まとめ（小嶋）
8	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）1瞬発力をつけるゲーム
9	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）2発想力を鍛えるゲーム
10	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）3身体を使った表現
11	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）4言葉を使った表現
12	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）5グループ制作
13	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　3.腕をマッピング
14	アートマネージメント（西巻）1／「発表会」と「コンサート」人は何を求めてコンサートに来るのか。
15	アートマネジメント２（西巻）／「演奏」と「対話」：「表現」をめぐって

授業計画	
	［後期］
1	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　1. ボディ・マッピング概論
2	後期研究課題説明（小嶋）
3	コンサート構成法（新井）1. 概念と現状報告
4	コンサート構成法（新井）2. 目的別コンサートの分析
5	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　2. コアコンで動きの軸（体幹）トレーニング
6	舞台マナー（安達）１／立つ姿勢、歩く姿勢
7	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　3. 腕をマッピング
8	舞台マナー（安達）／歩く、お辞儀、その他
9	ラテンパーカッション・アンサンブル（ハーディ）　3. 演奏表現
10	ラテンパーカッション・アンサンブル（ハーディ）　4. アンサンブルの可能性
11	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　4. 身体のリセット法
12	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）5グループ制作
13	ボディ・マッピングとコアコン（長井）　5脚をマッピング
14	コミュニケーション・ゲーム、MC（大倉）6朗読
15	まとめ・レポート準備（小嶋）

科目名	身体向上メソッド ［金4］						
代表教員	長井　芽乃	授業コード	GK515400	科目コード	GK5154	期間	通年
担当教員	恩田　明香						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

■ボディ・マッピング：カラダの構造や意識のポイントをシンプルな方法で体感し、筋感覚を養うことで様々な状況下においても演奏できる身体作りを目指す。日常生活の動きに始まり、演奏や練習後のケアの方法、「脱力」や「カラダで表現する」など、不可能であった悩みを体現化できるよう効率的に学習する。□
■ 御木本メソッド：手の構造や脳のはたらきには大きな個人差があることを出発点とし、独自のトレーニングによりピアノを弾くために必要な手指や腕の機能を改善させる。自然で合理的なテクニックを身につけて、美しく多彩な音色による表現力の向上を目指す。

２．授業概要

脳科学に基づいたボディ・マッピングではピアニストにとって必要な実践で活かせるカラダの情報をわかりやすく学ぶ。□
御木本メソッドではテクニックの基礎を学びながら、トレーニングを通じてそれぞれの手の特徴や問題点を可視化して改善に導き、弾きやすくなるための具体的な方法を探る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回行う簡単ワークを日常でも継続復習する。実際の演奏での変化や気づきを共有しあう。（ボディ・マッピング）□
授業で行うトレーニングや配布プリントの課題を日常でも継続復習する。（御木本メソッド）

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

[ボディ・マッピング]教科書：書籍「演奏者のための はじめてのボディ・マッピング」（ナガイカヤノ著）ヤマハミュージックメディア刊を使用。（学内ドミナントで購入可能。各社電子書籍の使用も可とするが、各自準備のこと。）　その他必要に応じてプリントを配布。
参考文献：ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと（トーマス・マーク：春秋社）、だれでも知っておきたい「からだ」のこと（DVDブック；バーバラ・コナブル：春秋社）
[御木本メソッド]トレーニングボード、御木本メソッド エクササイズ集、必要に応じてプリントを配布。参考文献：「正しいピアノ奏法」御木本澄子著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

[ボディ・マッピング]毎回数名ずつ実際にピアノ演奏体験をする。激しい運動はしないが、身体の動きが観察しやすく動きやすい服装で出席する。窮屈なスカートやジーンズを着用の場合は着替えを持参すること。教科書として書籍「演奏者のための はじめてのボディ・マッピング」（ナガイカヤノ著）ヤマハミュージックメディア刊を使用するため、事前に準備すること（学内ドミナントで購入可能）
[御木本メソッド]トレーニングのデータ計測を適宜行なう。必要に応じてピアノを使用し、トレーニングで改善した部分を実際の打鍵につなげる。「トレーニングボード」を各自用意すること。（学内ドミナントで購入可能）
授業の性質上定員25名で行う。

授業計画	
	［前期］
1	[ボディマッピング]ボディマッピングのトレーニング法　（ボディ・マップとは、演奏傷害の予防・脱力への近道）
2	[御木本メソッド]御木本メソッドの概要（御木本メソッドとは・落下で弾くために必要なこと・自分の手の特徴を知る・トレーニングボードの作成）
3	[ボディマッピング]身体上の6つのバランスポイント　（良い/悪い姿勢）
4	[御木本メソッド]腕、手首の柔軟性を養うためのトレーニング
5	[ボディマッピング]できるカラダはリセットから（ねころがりワーク、身体ケアの方法）
6	[御木本メソッド]指が弱い人のトレーニング
7	[ボディマッピング]腕の構造と働き①　腕の構造
8	[御木本メソッド]親指に問題がある人のトレーニング
9	[ボディマッピング]脚の構造と働き①　脚の構造
10	[ボディマッピング]動きの中枢＜体幹＆コア＞　（カラダのささえ）
11	[御木本メソッド]指の独立性を高めるトレーニング
12	[ボディマッピング]呼吸の構造と働き　（腕と呼吸の関係）
13	[御木本メソッド]スピードを速くするトレーニング
14	[ボディマッピング]腕の構造と働き②　　手指の働き
15	[御木本メソッド]豊かな音量を得るためのトレーニング

授業計画	
	［後期］
1	[ボディマッピング]ピアノ演奏にも影響を与える発音・発声・顎関節
2	[御木本メソッド]指の独立性のために１（軽く速く弾く）
3	[ボディマッピング]脚の構造と働き②　足部全体と足指
4	[御木本メソッド]指の独立性のために ２ （f で弾く）
5	[ボディマッピング]身体動作伝達方法としての「ことば」を考える
6	[御木本メソッド]pp、スタッカートの弾き方
7	[ボディマッピング]日常動作「立つ・座る・歩く」を確認する
8	[御木本メソッド]スケール、アルペジオの弾き方
9	[ボディマッピング]日常生活の留意点（食事や睡眠はパワーの源、練習時間の効率化）
10	[御木本メソッド]重音、オクターブ、和音の弾き方
11	[ボディマッピング]実践と応用（身心のバランスは音楽表現の基本）
12	[御木本メソッド]トレモロ、跳躍の弾き方
13	[御木本メソッド]レガート、歌う旋律の弾き方
14	[ボディマッピング]ボディ・マッピングまとめ
15	[御木本メソッド]御木本メソッド まとめ

科目名	サウンドエンジニアリング基礎理論　[月3]						
代表教員	富　正和	授業コード	GK538500	科目コード	GK5385	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

『サウンドエンジニアリングに必要な知識、理論の基礎』を学びます。
音響機器の構造と配置、接続を理解する。
到達目標
・PAプランニングにおいては音響システム機器の選定と配置への理解。
・録音プランニングにおいては仮設録音システムプランと機器と配置、高機能スタジオ設備の理解。

2．授業概要

電気(Electric)と音響(Acoustic)。
サウンドエンジニアに必要な知識は広範囲に渡りますが、二つに大きく分けて解説します。
・A＝空間に放たれた音響"Acoustic"のことを指しているのか？
・E＝ミキサーや音響機器の内部で扱われる"Electric"のことを指しているのか？

"『音速』という知識を手にしてそれをどう使うのか？"
"すぐには役に立たないが、困った時に"KeyWordが思いつくこと"。
知識が実際の音響作業や創作に、少しづつ繋がる手助けになるような、授業の概要とします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・機器メーカーの仕様や仕組みを、インターネットなどで検索する事によって興味を高める。
・録音、PA、作編曲作業で疑問に思ったことを、確認する。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内の小テスト及びレポート、課題提出、）（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に資料等、各自検索閲覧することがあるので、パソコン・タブレット端末などがあるとより理解につながります。

参考文献
『サウンドレコーディング技術概論』 日本音楽スタジオ協会
『音の感性を育てる 聴能形成の理論と実際』 音楽之友社

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽・音響デザインコース、技術系学生は極力１年次に履修すること。
作編曲系の学生も、仮設録音・音響の理解に繋がるよう解説します。
総合音楽コースの学生については、特に音楽・音響デザインコース責任教員に認定された者についてのみ履修を認める。

なお、授業の機材準備に率先して協力して頂けると、より理解が深まります。

授業計画	
	［前期］
1	1:ガイダンス 『五感とは？音を何で聞いている？』口 五感、耳の構造、音楽と音の三要素、音速
2	2:『聞こえる音と聞こえない音』 可聴帯域、音量、等ラウドネス曲線、音を目で見る
3	3:『なぜそう聞こえるのか？』 波形、倍音、エンベロープ、ADSR、直接・間接音、残響
4	4:『Micと友達になるには』 役目・電磁型静電型・指向性・WS・近接効果・感度
5	5:『音の入口』 マイクとダイレクトボックス。 機構・ファンタム電源とスイッチ、スタンドとネジ
6	6:『音響で扱う電気を知る』 Mic&Line&Sp Level 信号線と伝送。ケーブル・レベル。電車の電気はどこから？
7	7:『平衡と不平衡・MonoとStereo』 BalanceとUnBalance・MonoとStereo・A/D D/A
8	8:『AMラジオもマルチチャンネルも2つの耳で聞く』 MonoとStereoの定義 音量差・時間差・周波数差
9	9:『音の出口』口 スピーカーとヘッドフォン、位相、インピーダンス
10	10:『音響図面の基本』 大切なのは枠を作れること 結線図・配置図・香盤表、楽器・機材の略名
11	11:『舞台・演奏場所 配置の基本』 長さの単位、下手と上手(SL SR)
12	12:『サウンドエンジニアリングの源・電源』 交流、直流、極性、アース。
13	13:『Mixing Consoleから学ぶ』 HA(ヘッドアンプ)とFader(フェーダー)
14	13:『Mixing Consoleから学ぶ』 混ぜること・分けること ミキサーのBlock図から、内部の接続を理解
15	15:『前期のまとめ』

授業計画	
	［後期］
1	16:『Mixing Consoleから学ぶ』 『EQとは等化器』イコライザーを理解する パラメトリックEQ・グラフィックEQ・Filter、シリーズ接続
2	17:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・リバーブ』Reverbプロセッシング センド&リータン接続
3	18:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・ディレイ』Delayプロセッシング インサート接続、タイムアライメント
4	19:『Mixing Consoleから学ぶ』 3大プロセッシング機器と各種接続方法 空間系・レベル系・周波数系
5	20:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・ダイナミクス』 コンプレッサ・ゲートのプロセッシング、インサート接続
6	21:『DAWとDigital Audio基本』 "その音源何分か？"ファイル容量・サンプルレート ファイルに名前をつける意味
7	22:『DAWとDigitalミキサーを比べて I』 エディットウインドウ・ミックスウインドウ、レイヤー
8	23:『Mixing Consoleから学ぶ』 『Solo色々』モニターとしての検聴ソロ回路 カットソロ、レコーディングソロ。
9	24:『Mixing Consoleから学ぶ』 音を目で見る、Peakメーター・VUメーター
10	25:『現在の伝送形態と分岐』 アナログ・デジタル、方向性、MADI DANTE
11	26:『演奏者の為のモニターシステム』 フォールドバックモニター(演奏者別) キューボックス(楽器個別)
12	27:『パワーアンプ』 インピーダンス、アッテネーター、コネクタ
13	28:『DigitalミキサーとDAWを比べて II』 パッチ、レイヤー、Sends On fader
14	29:『後期のまとめ』
15	30:『通年のまとめ』 音響プランニングの留意点

科目名	サウンドエンジニアリング応用理論　[木2]						
代表教員	伊藤　圭一	授業コード	GK538600	科目コード	GK5386	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「サウンドエンジニアリング基礎理論」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

「音楽」を構成する「音」を科学的に捉えることで、芸術的に音楽を表現する手法を習得する。
プロフェッショナル・クオリティーのレコーディング・スタジオ（ブラックホール地下スタジオ）にて、プロが作る音楽を体感し、その録音手法を学ぶ。

2．授業概要

良質な音や音楽に触れる機会を作り、感性を磨くと共に、録音技術や機材に関する知識を、随時アドバイスしていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

耳を鍛え、音を聴く能力、音楽を感じる心を育てる。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢、実習への関わり方など）
音を実際に体感することが最重要ですから、出席を重視する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

実際に、プロが現場で使った素材を用いて講義と実習をすることで、即戦力のアップトゥデートな知識とノウハウを習得する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽・音響デザインコース、技術系学生は極力２年次に履修すること。

授業計画	
	［前期］ 音楽を作る上で最も大切な、音に対する観念を学ぶ。
1	心に響く音楽、心地良いサウンドとは
2	「音楽」を作るための「音」を知る
3	「音楽」の三要素、「音」の三要素
4	音の正体、空気振動を読む
5	自然界の音、人工的な音
6	物理的な音と、心理的効果をもたらす音
7	音と音楽に対する脳の反応
8	録音により、音楽は時空を超える
9	録音は、空気振動と電気信号の変換
10	マイクの役割と耳との違い
11	モニタリング
12	レコーディングの基本概念
13	ミキシングの基本概念
14	システムレベル、歪みと音圧コントロール
15	前期まとめ　（音をイメージする）

授業計画	
	［後期］ 実際の音作りのテクニックを学ぶ。
1	エフェクタの基本概要
2	エフェクタの概要１　（イコライザ、フィルタ）
3	エフェクタの概要２　（コンプレッサー、リミッター）
4	エフェクタの概要3　（ディレイ、リバーブ）
5	レコーディングの応用
6	ミキシングの応用
7	ライブとレコーディング
8	サラウンド・レコーディング
9	サラウンド・ミキシング
10	メディアとフォーマット
11	芸術・文化を支えるのはテクノロジー
12	求められる技術と人材
13	サウンド・プロデュースとは
14	これからの音楽業界＆音楽産業
15	まとめ（過去、現在、未来）

科目名	映画音楽作曲技法 ［木4］						
代表教員	栗山　和樹	授業コード	GK538700	科目コード	GK5387	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ポストプロダクションにおける映画音楽製作の位置づけとプロセスの理解、及び映画における「音楽」の役割を考察し、映画音楽の理論的考察力の向上を目標とします。

２．授業概要

前期では「スポッティング（映像のどこから、どこまで、どのような音楽をどのように付けるかを決める作業）」に焦点をあて、音楽分類、分析研究、模擬セッションを通じて学習します。
後期では作曲者側の位置に立って、分析研究、模擬実作、空間表現を学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の大半は実作など宿題がありますので、必ず実習して、授業へお持ち下さい。

４．成績評価の方法及び基準

平常の宿題提出（評価の30%）と期末作品提出（評価の30%）により評価します。
遅刻、欠席など厳しくチェックします。（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で資料を配布します。
参考資料：　『On the Track : A Guide to Contemporary Film Scoring』 Fred Karlin (Author)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」と「ベーシックハーモニー」の単位修得済であることが望ましい。
※カリキュラム年度2014年度以降の学生は「ベーシックハーモニー」ではなく「ジャズハーモニーⅠ-1・Ⅰ-2」

授業計画	
	［前期］
1	映画音楽の種類とポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス
2	ポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス（１）
3	ポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス（２） スポッティング（１） 映画音楽の５w1h
4	スポッティング（２） 映画音楽の５w1h
5	スポッティング（３） 映画音楽の５w1h
6	分析のための劇場用アメリカ映画の視聴（１）
7	分析のための劇場用アメリカ映画の視聴（２）
8	劇場用アメリカ映画の分析（１） 「音楽の目的」に焦点をおいて
9	劇場用アメリカ映画の分析（２） 「音楽の目的」に焦点をおいて 「音楽の開始、終止」に焦点をおいて
10	模擬スポッティング・ミーティング（１） 短編劇場用作品（学習用）をスポッティングする。 脚本の理解力を高める。
11	模擬スポッティング・ミーティング（２） 持ち寄った素材により、短編劇場用作品（学習用）に音楽をつける。
12	模擬スポッティング・ミーティング（３） ２つの模擬完成作品を比較分析してスポッティングの問題点を考察する
13	模擬スポッティング・ミーティング（４） 前々回、音楽をつけて完成した短編劇場用作品（学習用）を改善する。 音楽編集の問題と改善。
14	作品提出と上映会、クラス・ディスカッション
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	劇場用アメリカ映画のスコア分析（１） Ｍ１ 和声分析とモーション、遠隔調転調について
2	劇場用アメリカ映画のスコア分析（２） Ｍ５ 和声リズムとシステム
3	劇場用アメリカ映画のスコア分析（３） モーダルなシステム
4	劇場用アメリカ映画のスコア分析（４） 模作による作曲学習
5	劇場用アメリカ映画のスコア分析（５） 模作による作曲学習、発表と討論
6	模擬作曲 ケース・スタディ（１）転調 与えられたシーンに実作する
7	模擬作曲 ケース・スタディ（２）時間経過と心情変化 与えられたシーンに実作する
8	模擬作曲 ケース・スタディ（３）開始点と終止点 与えられたシーンに実作する
9	模擬作曲 ケース・スタディ（４）Open EndingとClose Ending 与えられたシーンに実作する
10	模擬作曲 ケース・スタディ (5) Close score アンダー・ダイアログの注意点
11	模擬作曲 ケース・スタディ（６）Close score rich carpet
12	模擬作曲 ケース・スタディ (7) Open score 「響き」の考察
13	サラウンドの考察
14	作品提出と上映会、クラス・ディスカッション
15	後期まとめ

科目名	スタジオエレクトロニクス ［水4］						
代表教員	深田　晃	授業コード	GK539000	科目コード	GK5390	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC・RP・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽が録音・再生という手段によって流通する過程において、スタジオは音楽制作の基幹となる制作スペースである。また、録音はパフォーマンスの単なる記録ではなく音楽そのものを思考し形にしていく創造的行為である。本講座は音楽制作のベースとなるスタジオ機能やスタジオ運用に欠かせない技術的な知識を取得するとともに、音楽とその表現に必要な“耳”の能力を高め、アーティストとして音に対する正確な判断力と表現力を身につけさせることを目的とする。
到達目標は「音」や「音楽」を適切に把握できる能力を身につける事とする。

２．授業概要

現代の音楽制作においてエレクトロニクスはスタジオワークにおける基礎技術である。本授業は音楽の創造を目的としたスタジオワークに必要な技術の習得であり電気、電子技術の習得を主眼をおいたものではない。しかし電気、電子技術、および音響工学の基本はスタジオワークの基礎であり、基礎的な項目については学ばなければならない。テキストとしては日本音楽スタジオ協会の「スタジオレコーディング技術概論」をベーシックな教科書として授業を進めていく。
また、表現能力の開発は音の分析を通じて音楽の要素を理解することが非常に重要でありクリティカルリスニングを通して音を分析する能力の開発を行う。そして、最新の音素材を用いてそれらがどのように構築され音楽になっていくかの過程を体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業を確実に理解するためには　授業の予習・復習が必須である。理解度を確認するため、授業時に不定期にテストを行う場合がある。また、次回の授業への予習のための宿題の提出も求める。自ら学ぼうとする積極的な学生の履修を求める。

４．成績評価の方法及び基準

成績評価は第１に授業に出席している事が条件になる。遅刻、欠席の多い場合は単位は取得できない。
その上で各項目の理解度を確認するテストと研究成果に基づいた論文の評価により決める。

近年、授業出席の機械を利用した不正な出席を行う学生が多く見受けられる。不正と判断した場合は単位は取得させない。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

主に使用するテキストは　「スタジオレコーディング技術概論」日本音楽スタジオ協会発行

授業中使用するテキストとしては下記等
The Art of Recording / William Moylan(Focal Press)
Critical Listening Skills for Audio Professionals / F.Alton Everest(Course Technology)
5.1 Surround Sound Up and Running / Tomlinson Holman(Focal Press)
Spatial Audio / Francis Rumsey(Focal Press)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作曲・録音専攻を問わず、作品を映画やTV、CDなどのメディア上で発表したりその制作を行うことを目的とするものを求める。
受講学生数が一定数を上回った場合はスタジオを用いて音を正確に聞くという授業の特性から、受講を制限する事がある。
出席に不正があると判断した場合は履修を取り消す。
授業の履修生が多すぎるとスタジオでの適切な授業が望めない。従って履修は３、4年生のみとしたい。

授業計画	
	［前期］ スタジオワークに必要な音響の基礎、楽器についての知識の習得、そしてと音響機器について学習する。
1	イントロダクション 音響の基礎（聴覚器官、音の性質）
2	楽器の音響的性質　（波形、倍音、スペクトラム、音律）
3	弦楽器　（楽器の構造、音の特徴）
4	木管楽器・金管楽器（構造、音色）
5	打楽器（種類、特徴、音色）
6	ピアノ−１（構造、音質的特徴、発音原理）
7	ピアノ－２（内部構造、調律）
8	音声信号の諸特性 （周波数特性、歪み、ダイナミックレンジ、SN）
9	音響物理の基礎 （音の物理、分類）
10	電気音響の基礎 （電気の基礎、オーディオ回路、デジタル技術）
11	音響機器１ （スタジオシステム、室内音響）
12	音響機器２ （マイクロフォン）
13	音響機器３ （ミキシングコンソール）
14	音響機器４ （エフェクター）
15	音響機器５ （モニタースピーカー）

授業計画	
	［後期］ 前期の基礎的な技術を経て、様々な録音技術、DAW、次世代音響技術、映像との関係などを学ぶ。
1	録音技術１ （ペアマイク収音、ステレオ録音の基礎）
2	録音技術２ （ステレオ録音ーマイクポジション）
3	録音技術３ （マルチトラックレコーディング）
4	録音技術４ （ミックスダウン）
5	録音技術５ （ライブレコーディング）
6	ProTools-1 （ベーシック）
7	ProTools-2 （その他のDAW）
8	次世代音響技術１ （サラウンドの基礎）
9	次世代音響技術２ （サラウンドの制作手法）
10	環境音、サウンドスケープ
11	映像と音響
12	音響分析
13	録音制作事例１　ポップスの事例
14	録音制作事例２　クラシックの事例
15	音声ファイルフォーマット、ラウドネス

科目名	音響空間エレクトロニクス１～４　［木4］						
代表教員	宮木　朝子	授業コード	GK539100	科目コード	GK5391d	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響や映像を中心に、それらが再生される「空間」を研究。サウンドスケープやサウンドデザインについての実践を元に、音楽と環境のかかわり、音と知覚・感覚の問題なども考察する。現代アート・デザインにおける音楽の在り方についても共に考える場にしたい。

２．授業概要

１．ミュージックコンクレート（録音された現実音を素材に加工・編集を行う電子音響音楽）の成り立ちを映画の制作技法との関連から研究。その再生方法である立体音響、サウンドプロジェクションを実践。アクースモニウム（スピーカーオーケストラ）による音響空間の演奏実習、外部イヴェントへの参加。
昨年度まで：大阪芸術大学ドームシアターにてアクースモニウムフェスティヴァル参加/インターカレッジ出品/Contemporary Computer Music Concert公募作入選など。
２．フィールドレコーディングとサウンドスケープを関連させ、知覚・感覚について考察。
３．現代アートの分野におけるサウンドインスタレーションの研究と実践。
4.マルチチャンネル作品、サラウンド音響作品についての研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

短い音響作品の制作課題の準備などが必要な場合があります。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業内で配付。
参考文献：
『世界の調律』R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』井出祐昭（yamaha）
『映画にとって音とはなにか』ミシェル・シオン（勁草書房）
『フラッター・エコー 音の中に生きる』デイビッド・トゥープ著(DU BOOKS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

環境音、サウンドスケープ、サウンドデザイン、立体音響などに関心があれば知識や学年は問いません。機材の準備の必要もありません。課題制作・発表は段階に応じて任意に行うので、講義への参加のみでも受け入れます。また、履修者の人数により、履修制限を行うことがあります。

授業計画	
	［前期］ フィールドレコーディング実習とそれに基づいたサウンドスケープ・コンポジションのグループ制作、発表。ミュージック・コンクレート（アクースマティック）とアクースモニウムについて学び、演奏実習と現実音の録音実習、制作に向けてのコンセプト作成。
1	ガイダンス
2	サウンドスケープとは
3	サウンドデザインとは
4	サウンドスケープ・コンポジション
5	フィールドレコーディング実習（バイノーラル録音など）
6	サウンドスケープ・コンポジション作品制作 1 （グループ制作）
7	サウンドスケープ・コンポジション作品制作 2 -中間報告と講評
8	グループ制作発表と講評
9	ミュージック・コンクレートと現代のアクースマティック芸術について
10	立体音響空間演奏システム＝アクースモニウムについて
11	アクースモニウム演奏実習１作品分析と演奏法
12	アクースモニウム演奏実習　２ー解釈と演奏の実際
13	現実音のスタジオ録音実習
14	録音素材の分類、コンセプト考案
15	アクースモニウム演奏試験スタジオコンサートと解説

授業計画	
	［後期］ 前期に録音した現実音の素材と各自考案した作品コンセプトに基づき、アクースマティック作品を制作。コンサート形式で発表。後半はサウンドアート、サウンドインスタレーション、映像との関係を学び、音響空間についての企画を考案、音素材と共にプレゼンテーションする。
1	前期の復習とガイダンス アクースマティック作品制作ワークショップ 1-素材の選択
2	アクースマティック作品制作ワークショップ ２ー素材の加工
3	アクースマティック作品制作ワークショップ ３ー空間の作り方
4	アクースマティック作品制作ワークショップ4-曲の構成方法
5	制作作品スタジオコンサートと講評
6	音楽と映像・オーディオヴィジュアル、ヴィデオ・アートについて
7	サウンドアートについて
8	サウンドインスタレーションについて
9	サウンドスペースコンポーザーの仕事について
10	サウンドアート、立体音響空間イヴェント、インスタレーション、身体表現との関係など実際の作品の鑑賞と分析。企画のアイディアのための基礎知識を学ぶ。
11	各自企画書を作成し、電子音響を用いた企画案と音響サンプルによるプレゼンテーションのための準備作業を行う。ワークショップ 1
12	ワークショップ ２-企画の方向性について
13	ワークショップ 3-企画のプレゼンの仕方
14	企画案プレゼンテーション1-議論
15	企画案プレゼンテーション2-全体のまとめ

科目名	ＡＳコンテンツ制作Ａ Ⅰ ［月2］Aクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5474A0	科目コード	GK5474	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

C402（録音スタジオ）のシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程において、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習としてラジオドラマの制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。（参考文献を参照）また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（C402の概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ソフトの機能とセットアップ
8	ソフトの録音機能を知ろう
9	ソフトを使用した簡単な編集方法
10	ソフトの音が どこでも聴けるように出力
11	ボイスサンプルを作ろう１ （各自録音素材を選定）
12	ボイスサンプルを作ろう２ （各自のレコーディング前半）
13	ボイスサンプルを作ろう３ （各自のレコーディング後半）
14	ボイスサンプルを作ろう４ （リカバリー）
15	各自のサンプルをサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	ボイスサンプルの編集（ピックアップ）
2	ボイスサンプルの編集（レベル補正）
3	ボイスサンプルの編集（フェード処理）
4	ボイスサンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	ラジオドラマ・ライブ（音響の基礎）
12	ラジオドラマ・ライブ（効果音を入れよう）
13	ラジオドラマ・ライブ（リハーサル）
14	ラジオドラマライブ（発表会）
15	総括

科目名	ＡＳコンテンツ制作Ａ Ⅰ ［月3］Bクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5474B0	科目コード	GK5474	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

C402（録音スタジオ）のシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程において、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習としてラジオドラマの制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。（参考文献を参照）また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（C402の概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ProTools の機能とセットアップ
8	ProTools の録音機能を知ろう
9	ProTools 簡単な編集方法
10	ProTools どこでも聴けるように出力
11	ボイスサンプルを作ろう１ （各自録音素材を選定）
12	ボイスサンプルを作ろう２ （各自のレコーディング前半）
13	ボイスサンプルを作ろう３ （各自のレコーディング後半）
14	ボイスサンプルを作ろう４ （リカバリー）
15	各自のサンプルをサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	ボイスサンプルの編集（ピックアップ）
2	ボイスサンプルの編集（レベル補正）
3	ボイスサンプルの編集（フェード処理）
4	ボイスサンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	ラジオドラマ・ライブ（音響の基礎）
12	ラジオドラマ・ライブ（効果音を入れよう）
13	ラジオドラマ・ライブ（リハーサル）
14	ラジオドラマライブ（発表会）
15	総括

科目名	ＡＳコンテンツ制作ＡII ［水1］						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK547500	科目コード	GK5475	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的なシステムの考え方について学び、簡単なコンテンツは各自制作できるようになることが目標である。
各自でコンテンツの制作が出来るようになる事により、活動領域を広げ、自らのパフォーマンスを客観的に見つめるチャンスを得る。

２．授業概要

コンテンツ制作を行う上でのパソコンの設定方法から始まり、録音、編集方法、簡易的な曲作りなどを学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行ったことを各自反復し、実際に再現し、不明点はその都度質問をして毎度の授業に繋げていくこと。
実際に手を動かす事によりどんどん覚えていけるので、メモ帳を持参し、復習出来る環境づくりも心がける事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料はその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

パソコンを持参出来る者を対象とする。
Macが好ましい(Windowsの場合は履修時に確認しに来る事)。購入する者は初回の授業で説明をするので、分からない場合は先に購入せず相談にくること。

授業計画	
	［前期］
1	前期授業ガイダンス
2	コンテンツ制作に必要なパソコンの基礎知識
3	各自のパソコンの設定
4	まずは録音してみよう１（パソコンのみを使用した録音方法）
5	まずは録音してみよう２（収録素材の基本的な編集方法）
6	まずは録音してみよう３（収録素材の書き出し方法）
7	より良い環境を構築するために必要なこと
8	前期コンテンツ制作１（マイクについて）
9	前期コンテンツ制作２（自分に合ったマイクの設定方法）
10	前期コンテンツ制作３（素材の整理）
11	前期コンテンツ制作４（自分の性質に合った編集方法）
12	前期コンテンツ制作５（Pluginを使用した素材の加工）
13	前期コンテンツ制作6（色々なパターンを想定した書き出し方法）
14	前期コンテンツ発表
15	前期授業のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期授業ガイダンス
2	簡単な曲を作ってみよう１（ループ素材について）
3	簡単な曲を作ってみよう２（曲の構成について）
4	簡単な曲を作ってみよう３（Mixについて）
5	簡単な曲を作ってみよう4（Masteringについて）
6	共同制作を行う為に必要な知識
7	色々な録音をしてみよう（電子楽器）
8	色々な録音をしてみよう（歌録り）
9	色々な録音をしてみよう（生楽器）
10	後期コンテンツ制作１（収録）
11	後期コンテンツ制作２（編集）
12	後期コンテンツ制作３（まとめ）
13	後期コンテンツ発表
14	制作コンテンツの活かし方
15	後期授業のまとめ

科目名	コンテンツ制作１　［月2］Aクラス（AS専用）						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5485A0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

C402（録音スタジオ）のシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程において、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習としてラジオドラマの制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。（参考文献を参照）また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（C402の概要）
2	スタジオの機材について
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ProTools の機能とセットアップ
8	ProTools の録音機能を知ろう
9	ProTools 簡単な編集方法
10	ProTools どこでも聴けるように出力
11	ボイスサンプルを作ろう１ （各自録音素材を選定）
12	ボイスサンプルを作ろう２ （各自のレコーディング前半）
13	ボイスサンプルを作ろう３ （各自のレコーディング後半）
14	ボイスサンプルを作ろう４ （リカバリー）
15	各自のサンプルをサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	ボイスサンプルの編集（ピックアップ）
2	ボイスサンプルの編集（レベル補正）
3	ボイスサンプルの編集（フェード処理）
4	ボイスサンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	ラジオドラマ・ライブ（音響の基礎）
12	ラジオドラマ・ライブ（効果音を入れよう）
13	ラジオドラマ・ライブ（リハーサル）
14	ラジオドラマライブ（発表会）
15	総括

科目名	コンテンツ制作１　[月3] Bクラス（AS専用）						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5485B0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

C402（録音スタジオ）のシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程において、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習としてラジオドラマの制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。（参考文献を参照）また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（C402の概要）
2	スタジオの機材について
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ProTools の機能とセットアップ
8	ProTools の録音機能を知ろう
9	ProTools 簡単な編集方法
10	ProTools どこでも聴けるように出力
11	ボイスサンプルを作ろう１ （各自録音素材を選定）
12	ボイスサンプルを作ろう２ （各自のレコーディング前半）
13	ボイスサンプルを作ろう３ （各自のレコーディング後半）
14	ボイスサンプルを作ろう４ （リカバリー）
15	各自のサンプルをサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	ボイスサンプルの編集（ピックアップ）
2	ボイスサンプルの編集（レベル補正）
3	ボイスサンプルの編集（フェード処理）
4	ボイスサンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	ラジオドラマ・ライブ（音響の基礎）
12	ラジオドラマ・ライブ（効果音を入れよう）
13	ラジオドラマ・ライブ（リハーサル）
14	ラジオドラマライブ（発表会）
15	総括

科目名	コンテンツ制作１　［月2］Cクラス（DC専用）						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GK5485C0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータを用いて編集し、自身のパフォーマンスに適合したコンテンツを制作する。
【到達目標】パフォーマンスのための音源を自ら制作出来るスキルを身につける。

２．授業概要

前期はPCソフトウェアを利用して基本的な音声ファイルの編集、加工方法を習得する。
後期はリズムトラックの構築やリミックスを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日頃から自分の好きな音楽やビートを注意深く耳を傾け、その特徴について言葉で表現できるようにまとめておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(波形編集技術、授業内課題、授業態度等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

＜参考文献＞
『Audacityではじめる音声編集（I・O BOOKS）』夢前/黎（工学社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータやソフトの取り扱いに関しては初歩から教えますが、データを個人で保管するためのUSBフラッシュメモリと、音をモニターするためのイヤフォン又はヘッドフォンを持参してください。

授業計画	
1	演習内容についてのガイダンス
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	基本操作１（楽曲、素材の読み込み）
4	基本操作２（音量、バランスの調節）
5	トラック編集１（素材の切り貼り）
6	トラック編集２（素材の逆再生、ピッチ加工）
7	トラック編集３（ループ素材の制作）
8	トラック編集４（センターキャンセル、インスト音源の作成）
9	トラック編集５（用途別ファイルの書き出し）
10	エフェクト1 （イコライザーの概要）
11	エフェクト2 （コンプレッサー、フィルターの概要）
12	エフェクト3 （リバーブ、コーラスの概要）
13	前期課題制作１（楽曲構成、長さ調整）
14	前期課題制作２（ミックスダウン、エフェクト）
15	前期課題制作３（仕上げ、課題提出）

授業計画	
1	前期課題制作３（仕上げ、課題提出）
2	素材制作２（リズムの読み方）
3	素材制作３（リズム素材を用いたトラックの作成）
4	素材制作４（効果音の録音）
5	素材制作５（効果音編集、加工）
6	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
7	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
8	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
9	課題曲を使ったケーススタディ１（基本的な編集）
10	課題曲を使ったケーススタディ２（拡張的な編集を含む）
11	後期課題制作１（リミックスの構想）
12	後期課題制作２（素材、ライブラリの収集）
13	後期課題制作３（素材の制作、編集）
14	後期課題制作４（ミックスダウン）
15	後期課題制作５（仕上げ、作品発表会）

科目名	ﾁｯｸ･ｺﾘｱとﾊｰﾋﾞｰ･ﾊﾝｺｯｸの研究/ｼﾞｬｽﾞ作品研究2 （前） ［木4］							
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK592200	科目コード	GK5922	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	4					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

　チック・コリアとハービー・ハンコックはジャズ界を代表するピアニスト／キーボーディスト、作曲家であるという共通点を持っている。同時代に生まれ現在に至るまで、ともに時代を牽引する多くの音楽を創出しながらも、その音楽性は共通なものばかりではない。その２人の音楽を分析することは、鍵盤楽器奏者だけでなく様々な音楽家に有用な情報を提供することだろう。彼らの作品・演奏から、最も現代的なジャズのアプローチ方法を身につけ、自分の音楽においで実践できるようにすることが目標。この科目を受講した前と後で、自分の曲作りや演奏に変化がもたらせるようにすることが重要。

２．授業概要

チック・コリアとハービー・ハンコックが活躍した時代背景も含めて考察するため、時代ごとに区切って視聴・分析しつつ、彼らのリーダー作ばかりではなく、プレイヤーとしての演奏にも注目する。「自分自身の音楽を豊かにするためのアイデアの修得」を常に念頭に置きながら、楽曲に対する多角的な分析からアドリブ・フレーズの分析を行っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ゼミの発表の準備には相応の時間を要します。図書館において関連資料の閲覧を必要に応じて行うこと。視聴覚資料は講義中にすべてを聴くにはほど遠いので、日頃から興味を持って資料を視聴すること。

４．成績評価の方法及び基準

ファイナル（小論文）30%、ゼミ発表の総合評価30%、授業への参加姿勢（授業への積極的な参加態度）40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（文献、ディスコグラフィなど資料はその都度配布）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

このクラスは約半分をゼミ形式で行います。楽曲やソロの分析の発表に十分責任を持つこと。
クラスへの参加、内容理解のためには、ジャズハーモニーII-2／ジャズハーモニー4、アドバンスト・モーダルハーモニー／ハーモニー5、ハイブリッド・コード／ハーモニー／ハーモニー6、の内容に習熟していることが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	分析・研究とは何か、授業計画の説明
2	～1965の時代背景の理解と視聴・分析①
3	～1965の時代背景の理解と視聴・分析②
4	1966～1980の時代背景の理解と視聴・分析①
5	1966～1980の時代背景の理解と視聴・分析②
6	1981～現代の時代背景の理解と視聴・分析①
7	1981～現代の時代背景の理解と視聴・分析②
8	エレクトリック・ピアノと奏法、分析
9	アナログ・シンセサイザーと奏法、分析
10	デジタル・テクノロジーと奏法、分析
11	楽曲・ソロ分析ゼミ①
12	楽曲・ソロ分析ゼミ②
13	ファイナル（小論文）発表①
14	ファイナル（小論文）発表②
15	ファイナル（小論文）発表③

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	マイルス・デイビスの研究／ジャズ作品研究１　（前）［金3］						
代表教員	原　朋直	授業コード	GK593000	科目コード	GK5930	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・マイルス・デイビスの作品（楽曲・アルバム等）を分析しそれを掘り下げ、音楽芸術における"コンセプト"について学ぶ。
・マイルス・デイビスがバンド・アンサンブルを通して作り上げた協働芸術というものについて研究する。
・自分自身の音楽について考察し、クリエイティブで自由な創作活動とはどんなものか考えてみる。
・以上のことを中心とした意見交換をする。

２．授業概要

マイルス・デイビスの音源や映像の資料などを素材にした楽曲やアルバムの分析・研究を行い、Jazzにおける音楽の創り方やアンサンブルの考え方などについて学ぶ。
そこから更に、自分の音楽について深く考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

マイルス・デイビスの音楽（CDやDVDなど）を出来るだけ沢山聴いて下さい。
セッションやバンドなどで、授業で学んだことを積極的に実践してみて、出来れば報告して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の５０％）
平常点および授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～ジャズとマイルス・デイビス～
2	「Birth of the Cool」「Dig」
3	１９５４年
4	第一期クインテット、マラソン・セッション
5	「Miles Ahead」
6	「Ascenseur Pour L'Echafaud」「Milestones」
7	「１９５８Miles」「Porgy and Bess」「スケッチ・オブ・スペイン」
8	「Kind of Blue」「Someday My Prince Will Come」「Night at the Blackhawk」
9	DVD 鑑賞「Sound of Miles Davis」
10	１９６３年「E.S.P」「Miles Smiles」「Sorcerer」「Nefertiti」
11	DVD 鑑賞「Miles Electric」
12	「Miles in the Sky」「キリマンジャロの娘」「In a Silent Way」
13	「Bitches Brew」Fillmore「Live-Evil」
14	「On The Corner」１９８０年以降
15	DVD 鑑賞「Miles in Paris」、まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ･ｺｰﾄﾞ/ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ5　（前）　[火3]						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK593500	科目コード	GK5935	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

　Hybrid Chord（Poly-chord）に代表される、分数（またはon～）表記された響きの意味を認識できるようになること、そして自ら組み立てられるようになること。さらにそれらのハーモニーを作編曲、即興演奏・伴奏に実践的に活かせるようになること。

２．授業概要

「on」標記のハーモニーは転回形、Upper Structured Triadなどが、その代表的な部分であるが、習慣的にあまり用いられない組み合わせのHybrid Chordについても、その響きの認識が自力でできるような能力を養う。Hybrid Chordの考え方はハーモニーのみならず作編曲、フレージングや伴奏にも顕れることがらなので、その実践的な用法についても学ぶ。習慣的に用いられるものについては、通常のコード同様、瞬時にその意味を理解する訓練を行う。Chord ScaleからPoly-modeへの橋渡しについても言及する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　Hybrid chordが“使える”ようになるためには、授業で行ったトピックについて、日頃からアンサンブルや個人練習のなかで“使って”いくことが不可欠です。そのような実践の部分は授業時間外に養っていくしかありません。そのことをよく自覚して臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

　平常点（テスト７０％ ＋ 課題３０％ 成績は平常点のみで行う）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、テストの成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

科目内容理解の前提としてハーモニーII-2程度、特にコード・スケールについて習熟していることが重要です。
　Hybrid chordは、まずその響きに興味を持つことが肝要です。ジャズが持つ即興性と複雑なハーモニーを共存させるためには、瞬間的な響きの理解と発想が生まれるような訓練が必要で、そこに強い意志を持っていることが望まれます。

授業計画	
	［半期］
1	Hybrid Chordの概要とハーモニー聴音
2	分数（またはon～）表記
3	Major Triad＋単音ボトム
4	Major Triad 以外＋単音ボトム
5	ボトムがコードのときの考え方
6	Upper Structured Triads (UST) とは
7	スケールごとのUST ①
8	スケールごとのUST ②
9	USTの連結
10	Hybrid ChordによるVoicingのColoring
11	Hybrid Chordを用いたMulti-Voicingテクニック
12	Hybrid ChordのChord Scale
13	Octave以上のScaleとPoly-mode
14	テスト・まとめ
15	まとめと解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ﾓｰﾀﾞﾙ･ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ6　（後）　[火3]						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK593600	科目コード	GK5936	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

1. さまざまな音階についてその響きを知り、聴き取ったり演奏ができるようにする。
2. モードの音楽を理解し、ポリ・モードを含む創作能力を身につける。
3. モーダルな解釈を身につけ、演奏に反映できるようにする。

２．授業概要

　モードに関する説明は概そ以下の３つの部分に分けられる――音階としての定義、モードという音楽、モーダルな解釈。これを授業計画に沿って進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から"音階"という側面から音楽にアプローチする基本練習などを取り入れる。　かなりの数に上る課題をこなす自覚が必要。また、演奏に結びつけて実践する姿勢が必要。

４．成績評価の方法及び基準

　平常点（テスト６０％ ＋ 課題４０％ 成績は平常点のみで行う）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、テストの成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布する自作資料・課題集を使います。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

科目の内容を理解するためには、ジャズ・ハーモニーII-1／ジャズハーモニー3で学習するコード・スケール、ことにチャーチ・モードに習熟している必要があります。

授業計画	
	［半期］
1	モードの復習
2	Church Modeによる作曲～ペダル・ポイント
3	Church Modeによる作曲～コード進行
4	Modal Harmonyの Performance ①
5	Lydian b7 Group Scaleによる作曲
6	Harmonic minor Group Scaleによる作曲
7	Modal Blues
8	Modal HarmonyのPerformance ②
9	Chordと Modeによる現代的解釈と演奏法
10	非機能的なコード進行による作曲
11	Bi-ModesとBlues
12	Poly-Modes
13	Traditional ChromaticismとContemporary Jazz Chromaticism
14	テスト・解説
15	本講のまとめと解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	最新ジャズ事情Ⅰ （前） ［水3］						
代表教員	中川　ヨウ	授業コード	GK597600	科目コード	GK5976	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズ（と音楽全般）の最前線で何が起こっているかを知り、考察します。
また、ジャズの最新作をそのミュージシャンの意見とともに聴きましょう。（中川ヨウがインタヴューしたものです）
そしてその知識を、知識としてしまっておくのではなく、履修者自身の創作に役立てるようにしたいと思います。
音楽と社会との関係性を理解し、近未来の音楽がどう発展していくのかをイメージし、学生さん自身が作っていきたい音楽像をもてるようにするのが目的です。

２．授業概要

中川ヨウの音楽評論家としての情報収集の速さを活かし、最新のを聴き、そのミュージシャンの考えを考察し、またジャズ・シーンの流れを見ていきます。最先端のジャズの動向、また新しいアプリや楽器の情報をシェアします。　来日公演、最新作など、折々の話題にそって講義を進めていきますので、シラバスの内容はその変更がありますことをご了承ください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題にそった曲を自身で選曲し、教室で短いコメントができるよう予習していただきます。　また、ある音楽に対して、聴くだけでなく、意見を発表できるよう予習してきていただく場合もあります。
1人の音楽家を講義で取り上げた場合は、気になる楽曲を更に自宅でも聴いてみましょう。

４．成績評価の方法及び基準

複数の課題レポート、発表で評価します。そこに講義への参加姿勢を加味して、成績評価とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なものは、随時、プリントとして配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最も新しく興味深い内容の講義をお届けするために、内容がまま変更されることがありますが、ご了承ください。

授業計画	
	［半期］　　最先端のジャズ状況を知り、自分自身の音楽観を拡大しましょう。
1	２１世紀の音楽の現状を考察します。"グローバル"な音楽から、"グローカル"(グローバル+ローカル)な音楽へと移行している、現在の音楽状況をみます。
2	近年、ドラムが大きく変化しています!。 どう変化しているのか、マーク・ジュリアナ、ケンドリック・スコット、アントニオ・サンンチェス、クリス・デイヴらの最新作を聴き、変化するタイムについて学びます。
3	セロニアス・モンクが生誕100年を祝った2017年。さまざまなトリビュート・アルバムが発表されました。挟間美帆、石若駿クリーン・アップ・トリオ、モンケストラ、WONKなどのモンク解釈を聴き、モンクの残した偉大な影響を感じましょう。
4	マイルス・デイヴィス研究：映画化され再び話題のマイルスの音楽と人生をたどり、時系列に沿って彼の音楽の変化を聴きます。そして履修生自身の音楽活動に役立つ知識、変化の有様を学びましょう。
5	学生発表⑴：「自分が最も好きなジャズ・アルバム」を発表してもらいます。その中から、１曲クラスに紹介し、皆で聴きます、
6	学生発表⑵：「自分が最も好きなジャズ・アルバム」を発表してもらいます。その中から、１曲クラスに紹介し、皆で聴きます、
7	履修生さん自身がデビューするためには、具体的に何をすべきかを、話し合います。そして第一歩を踏み出す(小さな)アクションを起こしていただきます。
8	ルーミー、アクターブルなどの新たなキーボードほか、最近創られた楽器を紹介します。そして、そういった楽器開発も履修者にも可能であること、どんな楽器、新たなメディアで音楽を作り、聴きたいかを考察します。
9	最新作特集：　最新のアルバムのなかからリマーカブルなものを聴き(特にピアノ、ヴォーカルほか）、履修生にも意見を交わしていただきます。
10	履修生が「デビュー・アルバムを製作する」という仮定に立って、内容を考えていただきます。最新のジャズ事情をどう考慮していくのか、自身で考えていただきます。クラスで発表しながら進めます。
11	全員が発表と考察ができるよう、「自分自身のデビュー・アルバムを作るなら」という仮定に立って、企画を立てていただきます。その第２回目です。期末課題としても提出していただくので、企画書の書き方も学びます。
12	最新作特集：　最新アルバムのなかから、管楽器に特化してリマーカブルなものを聴きます。履修生が制作側にいたら、どう製作したか、意見を交わしていただきます。
13	「夏」をイメージして作曲されたジャズを選び、履修生に発表していただきます。第１回。
14	「夏」をイメージして作曲されたジャズを選曲、発表、第2回。自分自身の作曲を発表できる学生さんがいたら、大歓迎します。プレゼンの仕方も教えます。
15	シラバスを書いている１月の時点で、パット・メセニーが夏にオーケストラ・アルバムをリリースすることが分かっています。音源の公開が間に合えば、ぜひその新作を聴き、オーケストラと共演するようになったわけを解説したいです。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽器と演奏論　[月2]						
代表教員	森　威功	授業コード	GK614500	科目コード	GK6145	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

発音原理や形態から楽器を分類し、それぞれの楽器の演奏家を学内外から招き、演奏を通して歴史や機能、魅力を語って頂く。いろいろな楽器を見て分類するだけでなく、生の演奏を聴く体験を通して楽器をより理解する事を目標とする。

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の楽器について書物やインターネットで予備知識を得てくる事。

4．成績評価の方法及び基準

レポート（詳細は授業の中で提示する）
授業への取り組み

5．授業で使用するテキスト・参考文献

当日配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	はじめに 担当：森　威功
2	Flute（木管楽器） 講師：斎藤 和志
3	Oboe（木管楽器） 講師：辻 功
4	Clarinet（木管楽器） 講師：伊藤 寛隆
5	Fagott（木管楽器） 講師：石井 淳
6	Saxophone（木管楽器） 講師：貝沼 拓実
7	Horn（金管楽器） 講師：磯部 保彦
8	Trumpet（金管楽器） 講師：原 朋直
9	Trombone（金管楽器） 講師：松本 治
10	Euphonium（金管楽器） 講師：深石 宗太郎
11	Tuba（金管楽器） 講師：橋本 晋哉
12	Celesta（鍵盤楽器） 講師：小林 裕子
13	Recorder（木管楽器） 講師：柿原 順子
14	Harp（弦楽器） 講師：山崎 祐介
15	Vn / Va / Vc （弦楽器） 講師：荒 庸子

授業計画	
	［後期］
1	Guitar（弦楽器） 講師：原 善伸
2	Cembalo（鍵盤楽器） 講師：岡田 龍之介
3	Piano（鍵盤楽器） 講師：北島 公彦
4	Electric Guitar & Bass（弦楽器） 講師：斉藤 光浩
5	Pipe Organ（鍵盤楽器） 講師：荻野 由美子 （前田ホール）
6	三味線（弦楽器） 講師：野澤 徹也
7	箏（弦楽器） 講師：石垣 清美 （C604）
8	笛（木管楽器） 講師：西川 浩平
9	和太鼓（打楽器） 講師：尾崎 太一
10	打楽器 講師：石井喜久子
11	Synthesizer（電子楽器） 講師：前田 康徳
12	Marimba（打楽器） 講師：神谷 百子
13	Electric Organ（鍵盤楽器） 講師：赤塚 博美
14	Improvisation（即興演奏） 講師：大類 朋美
15	まとめ 担当：森 威功

科目名	音楽分析総合講座　[月5]						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK616100	科目コード	GK6161	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる者にとって必要不可欠な音楽の要素や事項を理解し、演奏や研究の手助けとなるよう知識を深める。
また、演奏で表現するだけではなく、自らの言葉で作品の説明ができるように身につける。

２．授業概要

楽曲を演奏する際、分析力が必要になります。しかし、楽曲の分析法を知らなければ自分自身で作品の研究をすることができません。この授業ではバロック時代・古典派から始まり、現代に至るまでの様々な作品（ピアノ曲、オーケストラ曲、歌曲など）を取り上げ、実際に分析をしながら、作曲家がどのように曲を作っているのか、そして演奏する際は何を意識するべきなのか、学習します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献をよく読んでおくこと。
色々な音楽に興味を持つことが望ましい。交響曲など演奏時間の長い曲は授業内で全曲聴くことができないため、必ず授業後に各自で聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%、レポート50%
平常点は授業内での発表について評価します。レポートについては後期の授業内で説明します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に配布します。
参考文献については、授業内で文献、書籍を推薦します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽曲分析に興味を持ち、ある程度の和声や理論の知識を身につけた上で履修することが望ましい。
授業の欠席が3分の1を超える者については、レポート提出資格を与えない。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	前期（形式について）
1	序論
2	ソナタ形式①：バロック時代（様式について）
3	ソナタ形式②：バロック時代（バッハを中心に）
4	ソナタ形式③：古典派（ベートーヴェン前期）
5	ソナタ形式④：古典派（ベートーヴェン後期）
6	ソナタ形式⑤：ロマン派（様式について）
7	ソナタ形式⑥：ロマン派（ブラームス）
8	ソナタ形式⑦：ロマン派（フランク）
9	ソナタ形式⑧：近現代（ドビュッシー）
10	ソナタ形式⑨：近現代（ウェーベルン、ブーレーズ）
11	フーガ①：バッハを中心に
12	フーガ②：ラヴェル、ショスタコーヴィチなど
13	オーケストラ①：バロック時代
14	オーケストラ②：古典派・交響曲
15	オーケストラ③：ロマン派・交響曲

授業計画	
	後期（様式について）
1	シューマン①：子供の情景（前）
2	シューマン②：子供の情景（後）
3	協奏曲①：バロック時代・ロマン派
4	協奏曲②：ロマン派・近現代
5	歌曲①：イタリア古典など
6	歌曲②：シューマン中心に
7	歌曲③：R. シュトラウス、日本歌曲
8	オーケストレーション①：くるみ割り人形（前）
9	オーケストレーション②：くるみ割り人形（後）
10	オーケストレーション③：ドビュッシー、ラヴェル
11	オーケストレーション④：ワーグナー
12	日本の作曲家①：矢代秋雄、三善晃
13	日本の作曲家②：武満徹、黛敏郎ほか
14	日本の作曲家③：自作を中心に
15	レポート提出・まとめ

科目名	音楽鑑賞論　［金4］						
代表教員	那須田　務	授業コード	GK626100	科目コード	GK6261	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な時代とジャンルの楽曲についての講義（作曲家について、民族や地域の歴史を含む時代背景、作品の成立の経緯や楽曲形式、鑑賞のポイント、演奏者による解釈の違いなど）を通して、音楽作品からより多くの音楽美を受け取るノウハウを学びます。取り上げる音楽は基本的にクラシックですが、どのコースの学生にとっても、これらの知識は必ずや自身の音楽の世界を豊かにしてくれることでしょう。なお、取り上げる曲は変更することもありますが、その際にはあらかじめ授業でお伝えします。

２．授業概要

詳細は授業計画を参照ください。写真・映像・ＣＤ・インターネット等様々なメディアを使って授業します。なお、取り上げる曲目は変更する場合があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習や復習については授業の際にその都度指示しますが、あらかじめプリントを配信しますので、それをよく読んで来てください。

４．成績評価の方法及び基準

試験もしくはレポートです。
平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
レポート（評価の１０％）
学年末の試験もしくはレポート（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に教科書は用いません。毎回、授業ごとにプリントをポータルに配信します。また、必要に応じて参考文献を指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を愛する、学習意欲を持った人を望みます。出席を重視します。なお、当講座は毎年、受講希望者が多いため、人数制限をする場合があります。また、なるべく履修は一度にしてください。

授業計画	
	［前期］ 中世から初期ロマン派まで
1	ガイダンス～「音楽作品の楽しみ方について」「音楽鑑賞法の意義」などについてお話しをし、簡単な曲当てクイズをします。
2	中世・ルネサンス期の音楽その１～ヨーロッパの中世の音楽を様々なＣＤで聴き比べ、鑑賞する際のポイントを紹介します。また、ルネサンス期の舞曲やチェンバロ音楽などを取り上げ、鑑賞のポイントを概説した上で、複数の演奏を聴き比べ、それぞれの解釈や狙いについて考えます。
3	ルネサンス期の音楽その２～声楽編です。ここではルネサンス期の声楽曲、モテト、ミサ曲などの宗教曲やフランスのシャンソン、ダウラントのリュート歌曲などを扱います。
4	ヴィヴァルディ《四季》を取り上げ、リトルネッロ形式やソネット詩と音楽等楽曲解説をした後に、様々な演奏を聴き比べて解釈の違いを考察します。
5	バッハの鍵盤音楽その１～バッハの生涯、鍵盤音楽について概説し、その鍵盤音楽《インヴェンションとシンフォニア》と《イタリア協奏曲》を取り上げ、チェンバロの仕組みや楽曲解説や鑑賞のポイントなどをお話します。
6	バッハその２～ブランデンブルク協奏曲などバッハの管弦楽作品を取り上げます。
7	バッハその３～バッハの宗教曲を取り上げ、楽曲の構造、歌詞と音楽の関係、修辞学的な解釈などを通して作品の魅力を学びます。
8	ヘンデルのオペラその１～バロック期のイタリア・オペラやヘンデルのオペラについて概説した後に、ヘンデルのオペラを一つ取り上げ、鑑賞のポイントを見ていきます。
9	ヘンデルのオペラその２～第8回の続き。
10	ハイドンの弦楽四重奏曲＆交響曲～ハイドンについて概説した後に、具体的な作品を取り上げて、古典派のソナタ形式や変奏曲について学びます。
11	古典派の交響曲と協奏曲～モーツァルトの交響曲とピアノ協奏曲を通して古典派の音楽のスタイルとモーツァルト独自の特徴などについて学びます。
12	モーツァルトのオペラ１～《コジ・ファン・トゥッテ》を取り上げ、音楽と劇の合一、演奏と演出の問題などを考察します。
13	モーツァルトのオペラ２～12回の続き。
14	モーツァルトのオペラその３
15	ベートーヴェンの交響曲第9番《合唱》を成立史や楽曲分析など様々な点から考察し、鑑賞に役立てます。

授業計画	
	［後期］ ロマン派から20世紀初頭まで。
1	シューベルトの《未完成》～シューベルトの生涯と音楽の特徴やシェリングの解釈学による分析についてお話した上で、交響曲ロ短調《未完成》 D.759を聴きます。
2	ドイツ歌曲の魅力～シューベルトやシューマンなどの歌曲を取り上げ、ドイツ・リートにおける詩（歌詞）と音楽の関わりを見ていきます。
3	ショパンのピアノ曲～ショパンの人と音楽、なかでもポロネーズとマズルカについて概説し、その魅力や鑑賞のポイントを紹介します。
4	ブラームスの交響曲～ブラームスの交響曲を一つ取り上げ、作品の成立事情や楽曲分析等を通して作品の魅力に迫ります。
5	ロマン派の標題音楽の代表的な作品である、ベルリオーズの《幻想交響曲》を取り上げ、自伝的な要素や固定楽想などの楽曲分析、初演時の演奏の新旧の楽器などを概説し、同曲の革新性について考察します。
6	国民楽派の音楽～その１　19世紀国民楽派のチェコ編。スメタナの交響詩《わが祖国》の標題音楽的な解釈や歌劇《売られた花嫁》におけるチェコの民族音楽について学び、鑑賞に役立てます。
7	国民楽派の音楽～その２　チェコ編の続き。ドヴォルザークの作品。交響曲第8番または交響曲第9番《新世界》、チェロ協奏曲のいずれかを取り上げ、成立過程、民族音楽的特徴などを概説。楽曲の魅力について考えます。
8	ブルックナーの交響曲～後期ロマン派のシンフォニスト、ブルックナーの人とその音楽の特質をお話した上で、交響曲第4番変ホ長調を複数の演奏で聴き比べ、異稿の問題について考えます。
9	マーラーの交響曲～後期ロマン派のシンフォニストをもう一人。歌曲と管弦楽の要素を併せ持ったマーラーの交響曲について概説し、鑑賞のポイントを学びます。
10	チャイコフスキーのバレエ音楽。三大バレエ《白鳥の湖》《くるみ割り人形》《眠れる森の美女》のうちのどれかを取り上げ、作曲経緯、作品の概説、音楽の特徴などを概説します。
11	ラフマニノフの《パガニーニの主題によるラプソディ》の成立背景や魅力を概説し、作曲家が曲に込めたメッセージを読み解きます。
12	スペイン音楽とフラメンコ～スペイン音楽の歴史を概観し、フラメンコなどスペイン独自の音楽の特徴を踏まえつつ、アルベニス、グラナドス、ファリャらの音楽を鑑賞します。
13	ドビュッシー《月の光》～印象派の音楽家といわれるドビュッシーは本当に印象派なのでしょうか。《ベルガマスク組曲》の《月の光》を題材に、ベル・エポックの時代背景や象徴派の詩人との関わり、ドビュッシーの音楽観や作曲技法を通してその音楽の魅力を探ります。
14	ピアソラ？タンゴ？～アルゼンチンの作曲家ピアソラは、タンゴというジャンルを超えた曲を残しました。タンゴの歴史を概観した上でピアソラの生涯とその音楽の独自性についてお話し、彼自身による演奏を鑑賞します。
15	授業のまとめ。

科目名	日本音楽史 （後） ［金2］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GK626700	科目コード	GK6267	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本音楽の歴史についての基礎的な知識は、どんな分野の音楽活動を目指すものにとっても必要である。また、アジア文化の一面としての日本文化を知ることにより、音楽における多文化の共存とは何かを考える重要な機会ともなる。

２．授業概要

ビデオ、音源を活用して、体験を重視したものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特別な予習よりも、授業でふれた分野について、各自が積極的に鑑賞、体験を深めるを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢と課題の内容評価は半々を基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は授業で紹介する。適宜プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前提条件は特にないが、日本音楽に関心を持っていること。定員超過の場合は、相談の上、受講を制限することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、日本音楽の概観
2	古代の芸能
3	雅楽1　舞楽
4	雅楽2　管絃
5	雅楽3　その他、国風歌舞など
6	仏教音楽
7	能楽1　能
8	能楽2　狂言
9	近世邦楽1　劇音楽
10	近世邦楽2　室内楽
11	近世邦楽3　三味線音楽
12	近世邦楽4　箏曲
13	洋楽との出会い
14	近代の日本音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	東洋音楽史 （後） ［月4］						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK627000	科目コード	GK6270	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業の主題は、アジアの音楽の歴史です。アジア各地には様々な音楽文化があり、長い歴史と伝統を持っています。この授業ではそれらを概観し、地域ごとの特色や歴史的・文化的背景を理解することを目標とします。

２．授業概要

毎回、講義とともに実際の音源を鑑賞していきます。また、授業中にミニレポートを作成して提出してもらいます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：毎回のテーマに関する基本的な専門用語などを事前に調べておく。
復習：講義後に配布資料で内容を振り返り、関心を持った対象の音源を聴く。
具体的な方法については講義内で説明します。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加度（評価の70%、毎回のミニレポート含む）
学期末レポート（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜プリントを配布します。
参考文献:
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生編（音楽之友社１９９６）
『日本の音楽・アジアの音楽』全７巻・別巻２ 岩波講座（岩波書店１９８９）
その他、授業中に適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回のミニレポート（感想文程度）と学期末のレポートを課す予定。

授業計画	
	［半期］
1	はじめに（授業ガイダンス）
2	西アジア：イラン・トルコ・アラブ
3	南アジア：インド
4	南アジア：インド以外
5	東南アジア：インドネシア
6	東南アジア：タイ、フィリピン他
7	オセアニア
8	中央アジア５ヶ国
9	北アジア：モンゴル他
10	東アジア：中国
11	東アジア：韓国（正楽）
12	東アジア：韓国（民俗音楽）
13	東アジア：韓国（フュージョン音楽・K-POP）
14	東アジア：日本
15	総括として

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職論　（前）［月1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7311A0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通じ、教師を志願する皆さんが教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図ること。
　第二に、職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を、教師を志願する皆さんに与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言すること。　を主題とする。
【到達目標】
・教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通して、教職についての理解を深め、将来教職に就くことについての動機付けを図ることができる。
・職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を通して、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。
・激しく変化する現代社会にあって、教育職の望ましい在り方等について、各種教育法規を踏まえて説明することができる。

2．授業概要

　授業計画に沿って、授業を進める。
・講義を中心に、課題についての小論文作成等も行う
・新聞記事（教育時事等）を読み合う際はグループワークを行う

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

　菱村幸彦『改訂版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）を基本テキストとして授業を進める。
　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１日分の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは、本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス及び事前アンケート（教職の意義と教師の役割、教師の一日や年間の仕事から）
2	授業をする／教科書を使う
3	補助教材を使う／成績をつける
4	指導要録への記入と管理
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止
6	いじめが起きたときへの対応
7	髪型･服装を規制する／学級を担任する
8	学校事故への対応
9	職員会議に出席する／勤務時間を決める
10	学校を休む／出張に出かける
11	信用を落とさない／守秘義務
12	職務命令に従う／職務専念の義務
13	教員の兼業・兼職／教員の研修／組合活動（職員団体）
14	望ましい教職の在り方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職論　（前）［月1］Bクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7311B0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通じ、教師を志願する皆さんが教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図ること。
　第二に、職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を、教師を志願する皆さんに与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言すること。　を主題とする。
【到達目標】
・教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通して、教職についての理解を深め、将来教職に就くことについての動機付けを図ることができる。
・職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を通して、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。
・激しく変化する現代社会にあって、教育職の望ましい在り方等について、各種教育法規を踏まえて説明することができる。

２．授業概要

　授業計画に沿って、授業を進める。
・講義を中心に、課題についての小論文作成等も行う
・新聞記事（教育時事等）を読み合う際はグループワークを行う

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　菱村幸彦『改訂版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）を基本テキストとして授業を進める。
　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１日分の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは、本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス及び事前アンケート（教職の意義と教師の役割、教師の一日や年間の仕事から）
2	授業をする／教科書を使う
3	補助教材を使う／成績をつける
4	指導要録への記入と管理
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止
6	いじめが起きたときへの対応
7	髪型･服装を規制する／学級を担任する
8	学校事故への対応
9	職員会議に出席する／勤務時間を決める
10	学校を休む／出張に出かける
11	信用を落とさない／守秘義務
12	職務命令に従う／職務専念の義務
13	教員の兼業・兼職／教員の研修／組合活動（職員団体）
14	望ましい教職の在り方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職論　（前）［月1］Cクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7311C0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通じ、教師を志願する皆さんが教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図ること。
　第二に、職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を、教師を志願する皆さんに与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言すること。　を主題とする。
【到達目標】
・教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通して、教職についての理解を深め、将来教職に就くことについての動機付けを図ることができる。
・職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を通して、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。
・激しく変化する現代社会にあって、教育職の望ましい在り方等について、各種教育法規を踏まえて説明することができる。

２．授業概要

　授業計画に沿って、授業を進める。
・講義を中心に、課題についての小論文作成等も行う
・新聞記事（教育時事等）を読み合う際はグループワークを行う

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　菱村幸彦『改訂版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）を基本テキストとして授業を進める。
　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１日分の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは、本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス及び事前アンケート（教職の意義と教師の役割、教師の一日や年間の仕事から）
2	授業をする／教科書を使う
3	補助教材を使う／成績をつける
4	指導要録への記入と管理
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止
6	いじめが起きたときへの対応
7	髪型･服装を規制する／学級を担任する
8	学校事故への対応
9	職員会議に出席する／勤務時間を決める
10	学校を休む／出張に出かける
11	信用を落とさない／守秘義務
12	職務命令に従う／職務専念の義務
13	教員の兼業・兼職／教員の研修／組合活動（職員団体）
14	望ましい教職の在り方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職論　（前）［月1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7311D0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通じ、教師を志願する皆さんが教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図ること。
　第二に、職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を、教師を志願する皆さんに与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言すること。　を主題とする。
【到達目標】
・教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通して、教職についての理解を深め、将来教職に就くことについての動機付けを図ることができる。
・職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を通して、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。
・激しく変化する現代社会にあって、教育職の望ましい在り方等について、各種教育法規を踏まえて説明することができる。

２．授業概要

　授業計画に沿って、授業を進める。
・講義を中心に、課題についての小論文作成等も行う
・新聞記事（教育時事等）を読み合う際はグループワークを行う

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

　菱村幸彦『改訂版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）を基本テキストとして授業を進める。
　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１日分の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは、本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス及び事前アンケート（教職の意義と教師の役割、教師の一日や年間の仕事から）
2	授業をする／教科書を使う
3	補助教材を使う／成績をつける
4	指導要録への記入と管理
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止
6	いじめが起きたときへの対応
7	髪型･服装を規制する／学級を担任する
8	学校事故への対応
9	職員会議に出席する／勤務時間を決める
10	学校を休む／出張に出かける
11	信用を落とさない／守秘義務
12	職務命令に従う／職務専念の義務
13	教員の兼業・兼職／教員の研修／組合活動（職員団体）
14	望ましい教職の在り方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職論　（前）［月1］Eクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7311E0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通じ、教師を志願する皆さんが教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図ること。
　第二に、職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を、教師を志願する皆さんに与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言すること。　を主題とする。
【到達目標】
・教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の習得を通して、教職についての理解を深め、将来教職に就くことについての動機付けを図ることができる。
・職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を通して、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。
・激しく変化する現代社会にあって、教育職の望ましい在り方等について、各種教育法規を踏まえて説明することができる。

2．授業概要

　授業計画に沿って、授業を進める。
・講義を中心に、課題についての小論文作成等も行う
・新聞記事（教育時事等）を読み合う際はグループワークを行う

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

　菱村幸彦『改訂版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）を基本テキストとして授業を進める。
　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１日分の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは、本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス及び事前アンケート（教職の意義と教師の役割、教師の一日や年間の仕事から）
2	授業をする／教科書を使う
3	補助教材を使う／成績をつける
4	指導要録への記入と管理
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止
6	いじめが起きたときへの対応
7	髪型･服装を規制する／学級を担任する
8	学校事故への対応
9	職員会議に出席する／勤務時間を決める
10	学校を休む／出張に出かける
11	信用を落とさない／守秘義務
12	職務命令に従う／職務専念の義務
13	教員の兼業・兼職／教員の研修／組合活動（職員団体）
14	望ましい教職の在り方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育原理　（後）［月1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7320A0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
人間としての可能性を引き出そうとする「教育」の基本的な原理と実際、課題を明らかにし、教育の全体像を原理的に探ることを主題とする。このため、教育基本法や学校教育法等の改訂、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、教育学の動向を見据えながら、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことをねらいとする。
【到達目標】
・教育すなわち人間形成の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、基本的な説明ができる。
・教育改革が進行する中で、現代の教育課題を明確にするとともに教育の在り方について自分の意見を明確に持つことができる。

２．授業概要

・教育の本質と理論、教育の組織と歴史や思想、教育課程の開発と改善、授業の方法と原理、授業の技術と評価などに関する内容、更に生徒指導の意義、教育の運営・管理、学校制度と教育行政、望まれる教師の姿などについて幅広く学ぶ。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決を図るための手立てや工夫などについて考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）を基本テキストとしてして授業を進める。
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／人間への問いと教育への問い
2	学ぶことと教えること
3	近代学校の性格
4	近代以前の日本の学校／日本の「近代化」と学校教育
5	心と体を育てる計画／学力とは何か
6	道徳性の発達と教育／教育における言葉と文化
7	学習することの意味／学校教育の可能性
8	教育評価とは何か／修了の認定と入学試験
9	授業を作る／学ぶことは変わること／学校をつくる
10	教師とは／教師の力量とは／授業をつくる教師
11	青年期とは／現代の青年と社会参加／青年期の課題と教育
12	社会教育と生涯学習／地球市民として生きるために
13	教育への権利と「子どもの権利条約」／特別支援教育について
14	よりよい教育を求めて／社会の変化と教育政策の動向
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育原理　（後）［月1］Bクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7320B0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
人間としての可能性を引き出そうとする「教育」の基本的な原理と実際、課題を明らかにし、教育の全体像を原理的に探ることを主題とする。このため、教育基本法や学校教育法等の改訂、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、教育学の動向を見据えながら、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことをねらいとする。
【到達目標】
・教育すなわち人間形成の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、基本的な説明ができる。
・教育改革が進行する中で、現代の教育課題を明確にするとともに教育の在り方について自分の意見を明確に持つことができる。

２．授業概要

・教育の本質と理論、教育の組織と歴史や思想、教育課程の開発と改善、授業の方法と原理、授業の技術と評価などに関する内容、更に生徒指導の意義、教育の運営・管理、学校制度と教育行政、望まれる教師の姿などについて幅広く学ぶ。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決を図るための手立てや工夫などについて考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）を基本テキストとしてして授業を進める。
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／人間への問いと教育への問い
2	学ぶことと教えること
3	近代学校の性格
4	近代以前の日本の学校／日本の「近代化」と学校教育
5	心と体を育てる計画／学力とは何か
6	道徳性の発達と教育／教育における言葉と文化
7	学習することの意味／学校教育の可能性
8	教育評価とは何か／修了の認定と入学試験
9	授業を作る／学ぶことは変わること／学校をつくる
10	教師とは／教師の力量とは／授業をつくる教師
11	青年期とは／現代の青年と社会参加／青年期の課題と教育
12	社会教育と生涯学習／地球市民として生きるために
13	教育への権利と「子どもの権利条約」／特別支援教育について
14	よりよい教育を求めて／社会の変化と教育政策の動向
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育原理　（後）［月1］Cクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7320C0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
人間としての可能性を引き出そうとする「教育」の基本的な原理と実際、課題を明らかにし、教育の全体像を原理的に探ることを主題とする。このため、教育基本法や学校教育法等の改訂、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、教育学の動向を見据えながら、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことをねらいとする。
【到達目標】
・教育すなわち人間形成の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、基本的な説明ができる。
・教育改革が進行する中で、現代の教育課題を明確にするとともに教育の在り方について自分の意見を明確に持つことができる。

２．授業概要

・教育の本質と理論、教育の組織と歴史や思想、教育課程の開発と改善、授業の方法と原理、授業の技術と評価などに関する内容、更に生徒指導の意義、教育の運営・管理、学校制度と教育行政、望まれる教師の姿などについて幅広く学ぶ。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決を図るための手立てや工夫などについて考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）を基本テキストとしてして授業を進める。
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／人間への問いと教育への問い
2	学ぶことと教えること
3	近代学校の性格
4	近代以前の日本の学校／日本の「近代化」と学校教育
5	心と体を育てる計画／学力とは何か
6	道徳性の発達と教育／教育における言葉と文化
7	学習することの意味／学校教育の可能性
8	教育評価とは何か／修了の認定と入学試験
9	授業を作る／学ぶことは変わること／学校をつくる
10	教師とは／教師の力量とは／授業をつくる教師
11	青年期とは／現代の青年と社会参加／青年期の課題と教育
12	社会教育と生涯学習／地球市民として生きるために
13	教育への権利と「子どもの権利条約」／特別支援教育について
14	よりよい教育を求めて／社会の変化と教育政策の動向
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育原理　（後）［月1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7320D0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
人間としての可能性を引き出そうとする「教育」の基本的な原理と実際、課題を明らかにし、教育の全体像を原理的に探ることを主題とする。このため、教育基本法や学校教育法等の改訂、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、教育学の動向を見据えながら、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことをねらいとする。
【到達目標】
・教育すなわち人間形成の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、基本的な説明ができる。
・教育改革が進行する中で、現代の教育課題を明確にするとともに教育の在り方について自分の意見を明確に持つことができる。

２．授業概要

・教育の本質と理論、教育の組織と歴史や思想、教育課程の開発と改善、授業の方法と原理、授業の技術と評価などに関する内容、更に生徒指導の意義、教育の運営・管理、学校制度と教育行政、望まれる教師の姿などについて幅広く学ぶ。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決を図るための手立てや工夫などについて考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）を基本テキストとしてして授業を進める。
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／人間への問いと教育への問い
2	学ぶことと教えること
3	近代学校の性格
4	近代以前の日本の学校／日本の「近代化」と学校教育
5	心と体を育てる計画／学力とは何か
6	道徳性の発達と教育／教育における言葉と文化
7	学習することの意味／学校教育の可能性
8	教育評価とは何か／修了の認定と入学試験
9	授業を作る／学ぶことは変わること／学校をつくる
10	教師とは／教師の力量とは／授業をつくる教師
11	青年期とは／現代の青年と社会参加／青年期の課題と教育
12	社会教育と生涯学習／地球市民として生きるために
13	教育への権利と「子どもの権利条約」／特別支援教育について
14	よりよい教育を求めて／社会の変化と教育政策の動向
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育原理　（後）［月1］Eクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7320E0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
人間としての可能性を引き出そうとする「教育」の基本的な原理と実際、課題を明らかにし、教育の全体像を原理的に探ることを主題とする。このため、教育基本法や学校教育法等の改訂、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、教育学の動向を見据えながら、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことをねらいとする。
【到達目標】
・教育すなわち人間形成の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、基本的な説明ができる。
・教育改革が進行する中で、現代の教育課題を明確にするとともに教育の在り方について自分の意見を明確に持つことができる。

２．授業概要

・教育の本質と理論、教育の組織と歴史や思想、教育課程の開発と改善、授業の方法と原理、授業の技術と評価などに関する内容、更に生徒指導の意義、教育の運営・管理、学校制度と教育行政、望まれる教師の姿などについて幅広く学ぶ。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決を図るための手立てや工夫などについて考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）を基本テキストとしてして授業を進める。
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④授業初回から2回連続、無断欠席したものは本科目の履修意思がないものと見做します。
⑤公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／人間への問いと教育への問い
2	学ぶことと教えること
3	近代学校の性格
4	近代以前の日本の学校／日本の「近代化」と学校教育
5	心と体を育てる計画／学力とは何か
6	道徳性の発達と教育／教育における言葉と文化
7	学習することの意味／学校教育の可能性
8	教育評価とは何か／修了の認定と入学試験
9	授業を作る／学ぶことは変わること／学校をつくる
10	教師とは／教師の力量とは／授業をつくる教師
11	青年期とは／現代の青年と社会参加／青年期の課題と教育
12	社会教育と生涯学習／地球市民として生きるために
13	教育への権利と「子どもの権利条約」／特別支援教育について
14	よりよい教育を求めて／社会の変化と教育政策の動向
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育心理学 （前） ［月2］Aクラス						
代表教員	尾曽　亮彦	授業コード	GK7330A0	科目コード	GK7330	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本授業では生徒理解のために有効となる心理学の諸理論-主に発達および学習の諸理論について学ぶ。これらは現場で生徒の心の問題や学習上の問題を解決する際に有益な視点をもたらしてくれる。

発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題や問題行動を関連付けながら考察したい。理論をただ覚えるだけでなく、それらを現場の問題とリンクさせることで、理論のより深い理解をめざし、また現場の問題を多角的に把握する視点を習得することを目標としたい。講義を聞くだけでなく受講生自らが授業で取り上げる問題について積極的に考察する力をつけることを目指す。

2．授業概要

前半では生徒理解のための理論を学ぶ。発達の基礎理論やその他心理学理論を取り上げる。
後半では、生徒の学習活動を支援するために学習に関する基礎理論を学ぶ。
授業では実践的な知識を習得するためにディスカッションや自己理解・他者理解のための諸活動を取り入れていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業外の学習としては
①毎回授業で使用する配布プリントについての予習・復習
②与えられたテーマについての小レポート作成などである。
詳細は授業時に説明する。

4．成績評価の方法及び基準

成績については、学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内容をまとめた配布プリントを使用する。

参考文献は以下の通り。
・藤澤伸介編　探求！教育心理学の世界　新曜社　2017
・向田久美子　新訂 発達心理学概論　放送大学教育振興会　2017
・越智啓太編　心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで　創元社　2016
その他、授業内で紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職に就く就かないに関わらず、教育の現状に関心を持ち、
自ら調べ学習を行うなど積極的に学習してほしい。
また授業内ではディスカッションやグループワークを行うので
積極的に参加してください。
全授業15回の内11回出席したもののみ、学年末試験の受験資格を認める。
遅刻3回で欠席1回として扱う。
10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
公欠については学務部の証明書をもってこれを認める。

授業計画	
	［半期］ 　まず子ども理解に役立てるために、乳幼児期から児童期・青年期の各時期における運動発達・言語発達・社会性の発達を取り上げその基礎的な理論を学ぶ。続いて学習のプロセスについて欲求、動機づけ、条件づけ、記憶といった観点から理解し、子どもの学習活動を円滑に行うために何が必要か学ぶ。発達についてはさらに発達障害等を取り上げ、その現状や子どもたちへの対応など現場で児童生徒と関わる際の実践的知識を修得したい。
1	ガイダンス　教育心理学を学ぶことの意義 生徒理解・学習支援のために
2	発達を規定するものは何か ～遺伝か環境か。「氏より育ち」？ 外的及び内的要因の相互作用について学ぶ
3	様々な発達理論①エリクソンの理論により「発達」、「発達段階」、「発達課題」といったキーワードを習得する
4	様々な発達理論② 　ピアジェの認知発達理論 コールバーグの道徳性の発達理論
5	様々な発達理論③ フロイトの発達論と精神分析学的視点
6	様々な発達理論④ ヴィゴツキーの発達の最近接領域、ボウルビィのアタッチメント理論
7	発達理論から思春期の子どもを考える① ～思春期の育ちの困難さや問題行動の意味
8	発達理論から思春期の子どもを考える② ～グループディスカッション
9	パーソナリティの理解のために ～人格理論、心理テスト
10	学びに関する諸理論①動機づけ ～生徒の学習意欲を高めるための条件とは何か 学びに関する諸理論②学習と記憶 ～学びのプロセスと記憶について理解する
11	学びに関する諸理論③教育評価 ～学習に対する評価にはどのような方法があるか 学びに関する諸理論④教授過程と学習過程 ～教えることと学ぶことはどのように関連するのか
12	心理療法とカウンセリング
13	学校現場の問題を考える① 発達障害と臨床的援助、不適応行動とその理解、学習集団の理解と集団作り
14	学校現場の問題を考える② 受講者の経験から問題を抽出しこれまでに学んだ心理学理論から検討する。レポートを作成する。
15	まとめ ～授業で学んだ事柄に関するまとめ・考察を行う

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育心理学 （後） ［月2］Bクラス						
代表教員	尾曽　亮彦	授業コード	GK7330B0	科目コード	GK7330	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では生徒理解のために有効となる心理学の諸理論-主に発達および学習の諸理論について学ぶ。これらは現場で生徒の心の問題や学習上の問題を解決する際に有益な視点をもたらしてくれる。
発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題や問題行動を関連付けながら考察したい。理論をただ覚えるだけでなく、それらを現場の問題とリンクさせることで、理論のより深い理解をめざし、また現場の問題を多角的に把握する視点を習得することを目標としたい。講義を聞くだけでなく受講生自らが授業で取り上げる問題について積極的に考察する力をつけることを目指す。

２．授業概要

前半では生徒理解のための理論を学ぶ。発達の基礎理論やその他心理学理論を取り上げる。
後半では、生徒の学習活動を支援するために学習に関する基礎理論を学ぶ。
授業では実践的な知識を習得するためにディスカッションや自己理解・他者理解のための諸活動を取り入れていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業外の学習としては
①毎回授業で使用する配布プリントについての予習・復習
②与えられたテーマについての小レポート作成などである。
詳細は授業時に説明する。

４．成績評価の方法及び基準

①成績については、学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。
②全授業15回の内11回出席したもののみ、学年末試験の受験資格を認める。
③遅刻3回で欠席1回として扱う。
④10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
⑤公欠については学務部の証明書をもってこれを認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内容をまとめた配布プリントを使用する。

参考文献は以下の通り。
・藤澤伸介編　探求！教育心理学の世界　新曜社　2017
・向田久美子　新訂 発達心理学概論　放送大学教育振興会　2017
・越智啓太編　心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで　創元社　2016
その他、授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職に就く就かないに関わらず、教育の現状に関心を持ち、
自ら調べ学習を行うなど積極的に学習してほしい。
また授業内ではディスカッションやグループワークを行うので
積極的に参加してください。

授業計画	
	まず子ども理解に役立てるために、乳幼児期から児童期・青年期の各時期における運動発達・言語発達・社会性の発達を取り上げその基礎的な理論を学ぶ。続いて学習のプロセスについて欲求、動機づけ、条件づけ、記憶といった観点から理解し、子どもの学習活動を円滑に行うために何が必要か学ぶ。発達についてはさらに発達障害等を取り上げ、その現状や子どもたちへの対応など現場で児童生徒と関わる際の実践的知識を修得したい。 発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題行動や課題を関連付けながら考察す
1	ガイダンス　教育心理学を学ぶことの意義 生徒理解・学習支援のために
2	発達を規定するものは何か ～遺伝か環境か。「氏より育ち」？ 外的及び内的要因の相互作用について学ぶ
3	様々な発達理論①エリクソンの理論により「発達」、「発達段階」、「発達課題」といったキーワードを習得する
4	様々な発達理論② ピアジェの認知発達理論 コールバーグの道徳性の発達理論
5	様々な発達理論③ フロイトの発達論と精神分析学的視点
6	様々な発達理論④ ヴィゴツキーの発達の最近接領域、ボウルビィのアタッチメント理論
7	発達理論から思春期の子どもを考える① ～思春期の育ちの困難さや問題行動の意味
8	発達理論から思春期の子どもを考える② ～グループディスカッション
9	パーソナリティの理解のために ～人格理論、心理テスト
10	学びに関する諸理論①　動機づけ ～生徒の学習意欲を高めるための条件とは何か 学びに関する諸理論②　学習と記憶 ～学びのプロセスと記憶について理解する
11	学びに関する諸理論③　教育評価 ～学習に対する評価にはどのような方法があるか 学びに関する諸理論④　教授過程と学習過程 ～教えることと学ぶことはどのように関連するのか
12	心理療法とカウンセリング
13	学校現場の問題を考える① 発達障害と臨床的援助、不適応行動とその理解、学習集団の理解と集団作り
14	学校現場の問題を考える② 受講者の経験から問題を抽出しこれまでに学んだ心理学理論から検討する。レポートを作成する。
15	まとめ ～授業で学んだ事柄に関するまとめ・考察を行う

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（前）［木1］Aクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7341A0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）現在進められている我が国の様々な教育制度改革について正確に把握する。
（２）事例研究を通して、学校の状況や学校教育の諸課題について理解を深める。

２．授業概要

平成32年度(平成30年度から先行実施)から新学習指導要領が小学校で本格実施になります。(中学校は平成33年度から全面実施)
本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めます。また、学習指導要領の変遷を理解し、新学習指導要領の要点を把握します。
授業では、具体的な事例を通して理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の準備として、事前学習を課すことがある。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

中学校学習指導要領解説音楽を持参すること
毎回テキストとしてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員をめざそうとするもの

全授業の(15回)の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
遅刻3回で1回の欠席として扱う。
公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション -学校教育の現状を俯瞰するー
2	我が国の学校教育制度① ーその歩みを理解するー
3	我が国の学校教育制度② ー改革の動向を理解するー
4	学習指導要領とその変遷
5	教育課程と学校教育
6	教育行政のしくみと学校
7	学校経営と教師・生徒・保護者 ー現状と課題を理解するー
8	学年・学級の経営 ー担任の業務と実際ー
9	生徒指導の意義の課題 ー生徒理解とその現実からー
10	学校と地域の連携ーチーム学校とはー
11	教員養成と研修制度（１） --教職に就くまでの勉強編ー
12	教員養成と研修制度（２） ー教職に就いてからの勉強編ー
13	新学習指導要領の要点を理解する（１） ー学校改革に求められていることー
14	新学習指導要領の要点を理解する（２） ー事例研究を通してー
15	学校教育の今日的課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（前）［木1］Bクラス						
代表教員	高橋　基之	授業コード	GK7341B0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）現在進められている我が国の様々な教育制度改革について正確に把握する。
（２）事例研究を通して、学校の状況や学校教育の諸課題について理解を深める。

２．授業概要

平成32年度(平成30年度から先行実施)から新学習指導要領が小学校で本格実施になります。(中学校は平成33年度から全面実施)
本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めます。また、学習指導要領の変遷を理解し、新学習指導要領の要点を把握します。
授業では、具体的な事例を通して理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の準備として、事前学習を課すことがある。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

中学校学習指導要領解説音楽を持参すること
毎回テキストとしてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員をめざそうとするもの

全授業の(15回)の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
遅刻3回で1回の欠席として扱う。
公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション -学校教育の現状を俯瞰するー
2	我が国の学校教育制度① ーその歩みを理解するー
3	我が国の学校教育制度② ー改革の動向を理解するー
4	学習指導要領とその変遷
5	教育課程と学校教育
6	教育行政のしくみと学校
7	学校経営と教師・生徒・保護者 ー現状と課題を理解するー
8	学年・学級の経営 ー担任の業務と実際ー
9	生徒指導の意義の課題 ー生徒理解とその現実からー
10	学校と地域の連携ーチーム学校とはー
11	教員養成と研修制度（１） --教職に就くまでの勉強編ー
12	教員養成と研修制度（２） ー教職に就いてからの勉強編ー
13	新学習指導要領の要点を理解する（１） ー学校改革に求められていることー
14	新学習指導要領の要点を理解する（２） ー事例研究を通してー
15	学校教育の今日的課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（後）［木1］Cクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7341C0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）現在進められている我が国の様々な教育制度改革について正確に把握する。
（２）事例研究を通して、学校の状況や学校教育の諸課題について理解を深める。

２．授業概要

平成32年度(平成30年度から先行実施)から新学習指導要領が小学校で本格実施になります。(中学校は平成33年度から全面実施)
本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めます。また、学習指導要領の変遷を理解し、新学習指導要領の要点を把握します。
授業では、具体的な事例を通して理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の準備として、事前学習を課すことがある。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）
全授業の(15回)の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
遅刻3回で1回の欠席として扱う。
公欠については、学務部の証明書を持って認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

中学校学習指導要領解説音楽を持参すること
毎回テキストとしてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員をめざそうとするもの

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション -学校教育の現状を俯瞰するー
2	我が国の学校教育制度① ーその歩みを理解するー
3	我が国の学校教育制度② ー改革の動向を理解するー
4	学習指導要領とその変遷
5	教育課程と学校教育
6	教育行政のしくみと学校
7	学校経営と教師・生徒・保護者 ー現状と課題を理解するー
8	学年・学級の経営 ー担任の業務と実際ー
9	生徒指導の意義の課題 ー生徒理解とその現実からー
10	学校と地域の連携ーチーム学校とはー
11	教員養成と研修制度（１） --教職に就くまでの勉強編ー
12	教員養成と研修制度（２） ー教職に就いてからの勉強編ー
13	新学習指導要領の要点を理解する（１） ー学校改革に求められていることー
14	新学習指導要領の要点を理解する（２） ー事例研究を通してー
15	学校教育の今日的課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（後）［木1］Dクラス						
代表教員	高橋　基之	授業コード	GK7341D0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）現在進められている我が国の様々な教育制度改革について正確に把握する。
（２）事例研究を通して、学校の状況や学校教育の諸課題について理解を深める。

２．授業概要

平成32年度(平成30年度から先行実施)から新学習指導要領が小学校で本格実施になります。(中学校は平成33年度から全面実施)
本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めます。また、学習指導要領の変遷を理解し、新学習指導要領の要点を把握します。
授業では、具体的な事例を通して理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の準備として、事前学習を課すことがある。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

中学校学習指導要領解説音楽を持参すること
毎回テキストとしてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員をめざそうとするもの

全授業の(15回)の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
遅刻3回で1回の欠席として扱う。
公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション -学校教育の現状を俯瞰するー
2	我が国の学校教育制度① ーその歩みを理解するー
3	我が国の学校教育制度② ー改革の動向を理解するー
4	学習指導要領とその変遷
5	教育課程と学校教育
6	教育行政のしくみと学校
7	学校経営と教師・生徒・保護者 ー現状と課題を理解するー
8	学年・学級の経営 ー担任の業務と実際ー
9	生徒指導の意義の課題 ー生徒理解とその現実からー
10	学校と地域の連携ーチーム学校とはー
11	教員養成と研修制度（１） --教職に就くまでの勉強編ー
12	教員養成と研修制度（２） ー教職に就いてからの勉強編ー
13	新学習指導要領の要点を理解する（１） ー学校改革に求められていることー
14	新学習指導要領の要点を理解する（２） ー事例研究を通してー
15	学校教育の今日的課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（前）［月2］Aクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7350A0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【学習到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
・次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
・教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・基本テキストとして、『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２０年９月』（文部科学省）を使用する。
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・１０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等） ・学校教育と教育課程の在り方
2	・教育課程に関する法令について
3	・学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	・学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	・学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	・教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	・教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	・教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	・教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫
10	・教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	・教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	・教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	・教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	・教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（前）［月2］Bクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7350B0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【学習到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

・　学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。
・　全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・　１０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
・　遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・　公欠については、学務部の証明書をもって認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・　基本テキストとして、『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２０年９月』（文部科学省）を使用する。
・　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・　意欲をもって授業に取り組むこと。
・　遅刻や欠席をしないように努力すること。
・　随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等） ・学校教育と教育課程の在り方
2	・教育課程に関する法令について
3	・学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	・学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	・学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	・教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	・教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	・教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	・教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫
10	・教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	・教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	・教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	・教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	・教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	・講義のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（後）［月2］Cクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7350C0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【学習到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
・次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
・教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・基本テキストとして、『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２０年９月』（文部科学省）を使用する。
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・１０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等） ・学校教育と教育課程の在り方
2	・教育課程に関する法令について
3	・学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	・学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	・学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	・教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	・教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	・教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	・教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫
10	・教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	・教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	・教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	・教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	・教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	・講義のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（後）　[月2] Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7350D0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【学習到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

2．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

・　学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。
・　全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・　１０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
・　遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・　公欠については、学務部の証明書をもって認める。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・　基本テキストとして、『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２０年９月』（文部科学省）を使用する。
・　必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・　意欲をもって授業に取り組むこと。
・　遅刻や欠席をしないように努力すること。
・　随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等） ・学校教育と教育課程の在り方
2	・教育課程に関する法令について
3	・学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	・学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	・学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	・教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	・教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	・教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	・教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫
10	・教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	・教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	・教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	・教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	・教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	・講義のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法 （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GK7360A0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容を学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

2．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

4．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 –道徳編–』（平成20年9月） 日本文教出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点） ・教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	・学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	・中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	・道徳教育（心の教育）の役割について
5	・道徳科の役割と年間指導計画について
6	・道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	・道徳科における教材の役割と活用について
8	・道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法
9	・道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	・道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	・師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	・模擬授業に向けた学習指導案作成
13	・模擬授業の実践
14	・改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法 （前） ［水1］Bクラス						
代表教員	石川　勉	授業コード	GK7360B0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容を学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 –道徳編–』（平成20年9月） 日本文教出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・１０分以上の遅刻は欠席扱いとします
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点） ・教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	・学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	・中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	・道徳教育（心の教育）の役割について
5	・道徳科の役割と年間指導計画について
6	・道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	・道徳科における教材の役割と活用について
8	・道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法
9	・道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	・道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	・師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	・模擬授業に向けた学習指導案作成
13	・模擬授業の実践
14	・改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法 （前） ［水1］Cクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7360C0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容を学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 –道徳編–』（平成20年9月） 日本文教出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点） ・教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	・学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	・中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	・道徳教育（心の教育）の役割について
5	・道徳科の役割と年間指導計画について
6	・道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	・道徳科における教材の役割と活用について
8	・道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法
9	・道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	・道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	・師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	・模擬授業に向けた学習指導案作成
13	・模擬授業の実践
14	・改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法 （前） ［水1］Dクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7360D0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容を学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 –道徳編–』（平成20年9月） 日本文教出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点） ・教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	・学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	・中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	・道徳教育（心の教育）の役割について
5	・道徳科の役割と年間指導計画について
6	・道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	・道徳科における教材の役割と活用について
8	・道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法
9	・道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	・道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	・師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	・模擬授業に向けた学習指導案作成
13	・模擬授業の実践
14	・改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法 （前） ［水1］Eクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7360E0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容を学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。

【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

2．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

4．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 -道徳編-』（平成20年9月） 日本文教出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	・ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点） ・教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	・学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	・中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	・道徳教育（心の教育）の役割について
5	・道徳科の役割と年間指導計画について
6	・道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	・道徳科における教材の役割と活用について
8	・道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法
9	・道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	・道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	・師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	・模擬授業に向けた学習指導案作成
13	・模擬授業の実践
14	・改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	・講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7361A0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「音楽科教育法Ⅲ・Ⅳ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7361B0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

２．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「音楽科教育法Ⅲ・Ⅳ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Cクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7361C0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「音楽科教育法Ⅲ・Ⅳ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Dクラス						
代表教員	秋元　みさ子	授業コード	GK7361D0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

２．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ」及び「音楽科教育法Ⅲ・Ⅳ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Eクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7361EO	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

２．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・ⅣⅤ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法Ⅰ （前） ［火2］Fクラス							
代表教員	和田　崇	授業コード	GK7361F0	科目コード	GK7361	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	2					
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 Ⅰ
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

２．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」の基礎にあたる。「Ⅰ」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法Ⅰ・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・ⅣⅤ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の理解ー現行及び次期学習指導要領ー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7362AO	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Bクラス							
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7362B0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Cクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7362C0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Dクラス						
代表教員	秋元　みさ子	授業コード	GK7362DO	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Eクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7362EO	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GK7362F0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

2．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽Ⅰ
音楽科学習指導案例集（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7363AO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 Ⅰ
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金1］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7363B0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説　音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金1］Cクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7363C0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金1］Dクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7363DO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GK7363EO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説　音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料　中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽　I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Fクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7363F0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 Ⅰ
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Gクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7363GO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説　音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料　中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽　I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Hクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7363HO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 Ⅰ
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Jクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7363JO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 I
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Kクラス						
代表教員	西田　豊	授業コード	GK7363KO	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、そして改善、向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽
文部科学省検定済教科書：高等学校音楽 Ⅰ
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7364A0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7364B0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Cクラス							
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7364C0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Dクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7364DO	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GK7364E0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Fクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7364F0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Gクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7364GO	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Hクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7364HO	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Jクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7364J0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Kクラス						
代表教員	西田　豊	授業コード	GK7364KO	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。
それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

2．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 I・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中か高）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢
模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 I・II・III」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。（判明した際は購入する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Aクラス						
代表教員	並木　正	授業コード	GK7366A0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Bクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7366B0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法　演習
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Cクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7366C0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、出席状況、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Dクラス						
代表教員	並木　正	授業コード	GK7366DO	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Eクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7366EO	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法　演習
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Fクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7366F0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　特別活動の理論と実践
【到達目標】
　「学習指導要領」に示された特別活動の目標及び学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の目標・内容・指導法を説明できるとともに、学級活動（ホームルーム）の学習指導案を作成し、作成した指導案に基づいて授業が展開できるようになることを目標とします。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論的な背景や実際の指導の際の留意点を説明する授業とグループワークによる指導内容に関する協議、模擬授業等の実践的な活動を組み合わせて行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説　特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主に『中学校学習指導要領解説（平成20年2月）特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
参考として『高等学校学習指導要領解説（平成21年12月）特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
他の参考文献等については、ガイダンス及び授業内で随時紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとします。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　受講上の注意事項　座席の指定 特別活動の概要（特別活動の教育課程上の位置づけ）
2	「学習指導要領」の変遷と特別活動
3	特別活動の目標と基本的正確　　他の教科との違い
4	学級活動の内容と指導計画　指導計画の意味
5	学級活動［ホームルーム］(1)の内容と指導法
6	学級活動［ホームルーム］(2)(3)の内容と指導法　演習
7	学級活動［ホームルーム］の指導の説明　指導案作成
8	生徒会活動の内容と年間指導計画
9	生徒会活動の指導　演習
10	学校行事の内容と学校行事の実施計画
11	学校行事の指導　演習
12	特別活動と生徒指導
13	特別活動の評価と指導要録
14	特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連
15	講座のまとめとしての試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（前）［火2］Aクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7371A0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

資格科目であることを鑑み、評価は厳格に行う。学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（前）［火2］Bクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7371B0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

資格科目であることを鑑み、評価は厳格に行う。学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（後）［火2］Cクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7371C0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

資格科目であることを鑑み、評価は厳格に行う。学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（後）［火2］Dクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7371D0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

資格科目であることを鑑み、評価は厳格に行う。学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	生徒指導の研究（進路指導を含む）　（前）［木1］Aクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7381A0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

2．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

4．成績評価の方法及び基準

(1)　期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
(2)　平常点
Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
①　「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
②　「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年１１月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
①「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
② 授業時に配布する資料
③ 中学校学習指導要領及び解説
④ 高等学校学習指導要領及び解説

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
①　欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
②　授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
③　机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

【出席に関する注意事項】
※　期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
　　なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
　　①　９：００を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
　　②　遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
　　③　公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引につ

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１） 教職について，生徒指導と進路指導の意義，生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２） 生徒指導の意義，教育課程上の生徒指導の位置付け，各教科等の生徒指導，集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１） 生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２） 教育相談の意義，学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談，教育相談の進め方，教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制，基本的な生活習慣の確立，校内規律に関する指導の基本，個別の課題を抱える児童生徒への指導，少年非行
6	生徒指導の進め方（１） いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２） 東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３） インターネット・携帯電話にかかわる課題，校内外の連携，専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４） 命の教育と自殺防止，児童虐待，自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５） 不登校，中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６） 生徒指導に関する法制度等，校則，懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１） キャリア教育とは何か，「基礎的・汎用的能力」，キャリア教育の意義，ガイダンス，進路指導における教育相談，家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２） 進路指導の定義と体験活動，教育課程における進路指導の位置付け，教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領，進路指導の在り方と留意事項（１），自己評価の意義，ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３） 進路指導の在り方と留意事項（２），キャリア・カウンセリングの実際，カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導　まとめと問題意識の啓発，定期試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	生徒指導の研究（進路指導を含む）　（前）［木1］Bクラス						
代表教員	田神　仁	授業コード	GK7381B0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
　生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
　具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

　「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

(1)　期末試験
　授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
(2)　平常点
　Ａ　講議やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
　Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２４年２月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
①　欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
②　授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
③　机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

※　期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
　　なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
　　①　９：００を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
　　②　遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
　　③　公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１） 教職について，生徒指導と進路指導の意義，生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２） 生徒指導の意義，教育課程上の生徒指導の位置付け，各教科等の生徒指導，集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１） 生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２） 教育相談の意義，学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談，教育相談の進め方，教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制，基本的な生活習慣の確立，校内規律に関する指導の基本，個別の課題を抱える児童生徒への指導，少年非行
6	生徒指導の進め方（１） いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２） 東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３） インターネット・携帯電話にかかわる課題，校内外の連携，専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４） 命の教育と自殺防止，児童虐待，自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５） 不登校，中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６） 生徒指導に関する法制度等，校則，懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１） キャリア教育とは何か，「基礎的・汎用的能力」，キャリア教育の意義，ガイダンス，進路指導における教育相談，家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２） 進路指導の定義と体験活動，教育課程における進路指導の位置付け，教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領，進路指導の在り方と留意事項（１），自己評価の意義，ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３） 進路指導の在り方と留意事項（２），キャリア・カウンセリングの実際，カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導　まとめと問題意識の啓発，定期試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	生徒指導の研究（進路指導を含む）　（後）［木1］Cクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7381C0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
　生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
　具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

　「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

(1)　期末試験
　授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
　(2)　平常点
　Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
　Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
①　「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
②　「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年１１月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
①「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
② 授業時に配布する資料
③ 中学校学習指導要領及び解説
④ 高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
①　欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
②　授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
③　机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

【出席に関する注意事項】
※　期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
　　なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
　　①　９：００を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
　　②　遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
　　③　公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引につ

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１） 教職について，生徒指導と進路指導の意義，生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２） 生徒指導の意義，教育課程上の生徒指導の位置付け，各教科等の生徒指導，集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１） 生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２） 教育相談の意義，学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談，教育相談の進め方，教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制，基本的な生活習慣の確立，校内規律に関する指導の基本，個別の課題を抱える児童生徒への指導，少年非行
6	生徒指導の進め方（１） いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２） 東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３） インターネット・携帯電話にかかわる課題，校内外の連携，専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４） 命の教育と自殺防止，児童虐待，自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５） 不登校，中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６） 生徒指導に関する法制度等，校則，懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１） キャリア教育とは何か，「基礎的・汎用的能力」，キャリア教育の意義，ガイダンス，進路指導における教育相談，家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２） 進路指導の定義と体験活動，教育課程における進路指導の位置付け，教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領，進路指導の在り方と留意事項（１），自己評価の意義，ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３） 進路指導の在り方と留意事項（２），キャリア・カウンセリングの実際，カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導　まとめと問題意識の啓発，定期試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	生徒指導の研究（進路指導を含む）　（後）［木1］Dクラス						
代表教員	田神　仁	授業コード	GK7381D0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

(1)　期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
(2)　平常点
Ａ　講議やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２４年２月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
①　欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
②　授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
③　机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

※　期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
①　９：００を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
②　遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
③　公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１） 教職について，生徒指導と進路指導の意義，生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２） 生徒指導の意義，教育課程上の生徒指導の位置付け，各教科等の生徒指導，集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１） 生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２） 教育相談の意義，学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談，教育相談の進め方，教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制，基本的な生活習慣の確立，校内規律に関する指導の基本，個別の課題を抱える児童生徒への指導，少年非行
6	生徒指導の進め方（１） いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２） 東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３） インターネット・携帯電話にかかわる課題，校内外の連携，専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４） 命の教育と自殺防止，児童虐待，自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５） 不登校，中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６） 生徒指導に関する法制度等，校則，懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１） キャリア教育とは何か，「基礎的・汎用的能力」，キャリア教育の意義，ガイダンス，進路指導における教育相談，家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２） 進路指導の定義と体験活動，教育課程における進路指導の位置付け，教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領，進路指導の在り方と留意事項（１），自己評価の意義，ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３） 進路指導の在り方と留意事項（２），キャリア・カウンセリングの実際，カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導　まとめと問題意識の啓発，定期試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Aクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GK7385A0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
学校における教育相談の意義や理論を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質、教育的課題等を適切に捉えて、深い生徒理解に基づく教育相談を実践できる基礎的能力を身に付ける。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）や出席状況等、試験を総合的に判断して評価する。
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』　（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 教育相談の意義とその役割
2	生徒指導と教育相談
3	児童期・青年期の心理の発達の特徴
4	生徒指導の現状と課題①　発達障害とその対応
5	生徒指導の現状と課題②　いじめ問題とその対応
6	生徒指導の現状と課題③　問題行動とその対応
7	生徒指導の現状と課題④　児童虐待とその対応
8	生徒指導の現状と課題⑤　不登校問題とその対応
9	学校における教育相談体制、カウンセラーとの連携等
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法　演習①
12	教育相談の進め方③　災害等生徒の心のケア　演習②
13	教育相談の進め方④　保護者への対応　演習③
14	教育相談の進め方⑤　進路相談（キャリアカウンセリング）　演習④
15	教育相談の現状と諸課題　講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Bクラス						
代表教員	石川　勉	授業コード	GK7385B0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
学校における教育相談の意義や理論を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質、教育的課題等を適切に捉えて、深い生徒理解に基づく教育相談を実践できる基礎的能力を身に付ける。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』　（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 教育相談の意義とその役割
2	生徒指導と教育相談
3	児童期・青年期の心理の発達の特徴
4	生徒指導の現状と課題①　発達障害とその対応
5	生徒指導の現状と課題②　いじめ問題とその対応
6	生徒指導の現状と課題③　問題行動とその対応
7	生徒指導の現状と課題④　児童虐待とその対応
8	生徒指導の現状と課題⑤　不登校問題とその対応
9	学校における教育相談体制、カウンセラーとの連携等
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法　演習①
12	教育相談の進め方③　災害等生徒の心のケア　演習②
13	教育相談の進め方④　保護者への対応　演習③
14	教育相談の進め方⑤　進路相談（キャリアカウンセリング）　演習④
15	教育相談の現状と諸課題　講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Cクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7385C0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
学校における教育相談の意義や理論を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質、教育的課題等を適切に捉えて、深い生徒理解に基づく教育相談を実践できる基礎的能力を身に付ける。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』　（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・１０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 教育相談の意義とその役割
2	生徒指導と教育相談
3	児童期・青年期の心理の発達の特徴
4	生徒指導の現状と課題①　発達障害とその対応
5	生徒指導の現状と課題②　いじめ問題とその対応
6	生徒指導の現状と課題③　問題行動とその対応
7	生徒指導の現状と課題④　児童虐待とその対応
8	生徒指導の現状と課題⑤　不登校問題とその対応
9	学校における教育相談体制、カウンセラーとの連携等
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法　演習①
12	教育相談の進め方③　災害等生徒の心のケア　演習②
13	教育相談の進め方④　保護者への対応　演習③
14	教育相談の進め方⑤　進路相談（キャリアカウンセリング）　演習④
15	教育相談の現状と諸課題　講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Dクラス						
代表教員	中村　一哉	授業コード	GK7385D0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
学校における教育相談の意義や理論を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質、教育的課題等を適切に捉えて、深い生徒理解に基づく教育相談を実践できる基礎的能力を身に付ける。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）や出席状況等、試験を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』　（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・10分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 教育相談の意義とその役割
2	生徒指導と教育相談
3	児童期・青年期の心理の発達の特徴
4	生徒指導の現状と課題①　発達障害とその対応
5	生徒指導の現状と課題②　いじめ問題とその対応
6	生徒指導の現状と課題③　問題行動とその対応
7	生徒指導の現状と課題④　児童虐待とその対応
8	生徒指導の現状と課題⑤　不登校問題とその対応
9	学校における教育相談体制、カウンセラーとの連携等
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法　演習①
12	教育相談の進め方③　災害等生徒の心のケア　演習②
13	教育相談の進め方④　保護者への対応　演習③
14	教育相談の進め方⑤　進路相談（キャリアカウンセリング）　演習④
15	教育相談の現状と諸課題　講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Eクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7385E0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
学校における教育相談の意義や理論を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質、教育的課題等を適切に捉えて、深い生徒理解に基づく教育相談を実践できる基礎的能力を身に付ける。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』　（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・１０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 教育相談の意義とその役割
2	生徒指導と教育相談
3	児童期・青年期の心理の発達の特徴
4	生徒指導の現状と課題①　発達障害とその対応
5	生徒指導の現状と課題②　いじめ問題とその対応
6	生徒指導の現状と課題③　問題行動とその対応
7	生徒指導の現状と課題④　児童虐待とその対応
8	生徒指導の現状と課題⑤　不登校問題とその対応
9	学校における教育相談体制、カウンセラーとの連携等
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法　演習①
12	教育相談の進め方③　災害等生徒の心のケア　演習②
13	教育相談の進め方④　保護者への対応　演習③
14	教育相談の進め方⑤　進路相談（キャリアカウンセリング）　演習④
15	教育相談の現状と諸課題　講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヒストリー　[木3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK756000	科目コード	GK7560	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP・SC・EO・JZ・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックとポップスの歴史を辿り、偉大なアーティスト、プレイヤー達のアイデアに触れる。

２．授業概要

映像資料と音資料を用い、時代背景を織り交ぜながら解説する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

興味を持った楽曲、アーティストの作品を積極的に聞く習慣をつけることが必要。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（評価の70%）
平常点（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ロックンロール誕生前夜
2	ロックンロールの隆盛と衰退
3	ブリティッシュ・インヴェイジョン
4	ビートルズ初期
5	ビートルズ中期
6	ビートルズ後期
7	アンサー・オブ・USA（WHITE）
8	アンサー・オブ・USA（BLACK）
9	サマー・オブ・ラヴ
10	エンド・オブ・サマー
11	ブリティッシュ・ハードロック
12	シンガー・ソング・ライター
13	ニュー・ソウル
14	ファンクとレゲェ
15	プログレッシブ・ロック

授業計画	
	［後期］
1	グラム・ロック
2	キッス＆クイーン
3	７０年代ハードロック
4	アメリカン・ロック
5	AOR
6	パンク・ロック
7	ニュー・ウェイヴ
8	MTV(UK)
9	MTV(USA)
10	８０年代ハードロック
11	チャリティー・ムーヴメント
12	LIVE AID
13	オルタナティヴ
14	ヒップ・ホップ
15	ローリング・ストーンズ

科目名	ミュージック・ビジネス　[火4]						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GK756600	科目コード	GK7566	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽・エンタテインメント業界をビジネスの視点から考察していく。
一口に音楽業界と言っても、その職種は様々で、立場も音楽への関わり方も大きく異なる。本講座を通じて商業音楽の仕組みとその中で自分に何ができるかを理解する。

2．授業概要

各種音楽業界の分野から講師を招き、「現場」を理解する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

随時レポートを次の授業までに書き、提出する。

4．成績評価の方法及び基準

期末レポート（評価の50%）
授業への積極参加（含随時レポート）（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布。音源・映像資料をケース・スタディとして視聴。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pコース２年生以上。

授業計画	
	［前期］
1	エンターテイメントビジネス～ガイダンス
2	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～１～ 邦楽アーティスト発掘
3	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～２～ 洋楽レーベルの仕組み
4	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～３～ プロデュース/A&R
5	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～４～ 楽曲制作
6	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～５～ CD原盤制作
7	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～６～ DVD原盤制作/プロモーションビデオ
8	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～７～ 宣伝施策
9	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～８～ 広告宣伝
10	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～９～ タイアップ～CM、映画、テレビ
11	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～１０～ 営業施策
12	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～１～ アーティスト発掘
13	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～２～ ライブ
14	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～３～ マーチャンダイジング
15	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～４～ ファンクラブ

授業計画	
	［後期］
1	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～１～ プロモーターの仕組み
2	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～２～ チケットビジネス
3	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～３～ コンサート制作（演出・音響・照明・舞台）
4	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～４～ イベントビジネス
5	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～５～ ライブハウス～会館～
6	権利ビジネス～既得権～１～ 音楽出版社
7	権利ビジネス～既得権～２～ 著作権
8	アイティー（IT）ビジネス～１～ 音楽配信
9	アイティー（IT）ビジネス～２～ ゲーム音楽
10	インディーズビジネス インディペンデントレーベルの仕組み
11	マスコミの仕組み～１～ 電波媒体
12	マスコミの仕組み～２～ 紙媒体
13	マスコミの仕組み～２～ インターネット媒体
14	マスコミの仕組み～３～ 広告代理店
15	総括 エンターテイメントビジネスの未来

科目名	ジャズハーモニーⅠ - １／ジャズハーモニー１　（前）［水2］Aクラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK7581A0	科目コード	GK7581	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・EO・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による基本的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容をじゅうぶん理解するために、メロディとコードが書かれたリードシートをピアノでゆっくり弾ける程度のスキルがあることが望ましい。
・ロック＆ポップスの学生はアカデミックプロデューサーの推薦があること。

授業計画	
	［半期］Ｉ－１
1	ハーモニーの勉強のしかた
2	コード・ネーム、調と音階、音程の復習
3	Diatonic Harmony -- Major Scale上のコード
4	Dominant motionとIIVVの機能
5	その他のDiatonic Chordの機能
6	II V MotionとCadence（終止形）
7	Deceptive resolution
8	Tensionの表記
9	コード・タイプに固有なTensionとその選択
10	Tension voicing
11	Secondary dominants
12	Extended dominants
13	Related IIm7
14	JHI－１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーⅠ - １／ジャズハーモニー１　（前）［水4］Bクラス							
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7581B0	科目コード	GK7581	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・EO・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による基本的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容をじゅうぶん理解するために、メロディとコードが書かれたリードシートをピアノでゆっくり弾ける程度のスキルがあることが望ましい。
・ロック＆ポップスの学生はアカデミックプロデューサーの推薦があること。

授業計画	
	［半期］Ｉ－１
1	ハーモニーの勉強のしかた
2	コード・ネーム、調と音階、音程の復習
3	Diatonic Harmony -- Major Scale上のコード
4	Dominant motionとIIVVの機能
5	その他のDiatonic Chordの機能
6	II V MotionとCadence（終止形）
7	Deceptive resolution
8	Tensionの表記
9	コード・タイプに固有なTensionとその選択
10	Tension voicing
11	Secondary dominants
12	Extended dominants
13	Related IIm7
14	JHI－１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーⅠ - １／ジャズハーモニー１　（前）［月5］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7581C0	科目コード	GK7581	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・EO・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による基本的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容をじゅうぶん理解するために、メロディとコードが書かれたリードシートをピアノでゆっくり弾ける程度のスキルがあることが望ましい。
・ロック＆ポップスの学生はアカデミックプロデューサーの推薦があること。

授業計画	
	［半期］Ｉ－１
1	ハーモニーの勉強のしかた
2	コード・ネーム、調と音階、音程の復習
3	Diatonic Harmony -- Major Scale上のコード
4	Dominant motionとIIVVの機能
5	その他のDiatonic Chordの機能
6	II V MotionとCadence（終止形）
7	Deceptive resolution
8	Tensionの表記
9	コード・タイプに固有なTensionとその選択
10	Tension voicing
11	Secondary dominants
12	Extended dominants
13	Related IIm7
14	JHI－１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーⅠ－２／ジャズハーモニー２　（後）［水2］Aクラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK7582A0	科目コード	GK7582	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・EO・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による発展的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、「ジャズハーモニーⅠ－１/ジャズハーモニー１」について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］Ｉ－２
1	Substitute dominants （sub Ｖ７）
2	Substitute Secondary／Extended dominants
3	Diatonic Harmony -- Minor Scale上のコード
4	Diatonic Chordの機能 （Minor）
5	Secondary dominant[camma] 平行長調との関係
6	Modal InterchangeとMinor keyからの借用
7	純粋なMajor、Minor scale以外からのコード
8	Voicingの基礎
9	Chordの連結とGuide tone
10	Voicingの演習
11	Cliche
12	BlBlue noteとBlues phrase
13	Blues Harmony
14	JHI－２のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーⅠ－２／ジャズハーモニー２　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7582B0	科目コード	GK7582	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・EO・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による発展的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲参考資料として「参考曲集」（I-1で使ったものを使う場合がありますのでクラス担当教員の指示にしたがってください。（PDFで配布の場合あり。学務で冊子を購入の場合eキューブ1階証明書自動発行機にて申請書ボタンよりテキスト購入申込書(参考曲集600円)を購入後学務部にて曲集と引き換えます）。これ以外に授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-1／ジャズハーモニー2について習熟していることが必要です。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］Ｉ－２
1	Substitute dominants （sub Ｖ７）
2	Substitute Secondary／Extended dominants
3	Diatonic Harmony -- Minor Scale上のコード
4	Diatonic Chordの機能 （Minor）
5	Secondary dominant[camma] 平行長調との関係
6	Modal InterchangeとMinor keyからの借用
7	純粋なMajor、Minor scale以外からのコード
8	Voicingの基礎
9	Chordの連結とGuide tone
10	Voicingの演習
11	Cliche
12	BlBlue noteとBlues phrase
13	Blues Harmony
14	JHI－２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーⅠ－２／ジャズハーモニー２　（後）［月5］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7582C0	科目コード	GK7582	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・E0・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

もっとも基礎的なハーモニーについて響きを仕組みの側面から理解し、機能的な連結による発展的な響きを認識できるようになること、即興演奏や曲作りに役立てられるようにすることを目標とする。

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲参考資料として「参考曲集」（I-1で使ったものを使う場合がありますのでクラス担当教員の指示にしたがってください。（PDFで配布の場合あり。学務で冊子を購入の場合eキューブ1階証明書自動発行機にて申請書ボタンよりテキスト購入申込書(参考曲集600円)を購入後学務部にて曲集と引き換えます）。これ以外に授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-1／ジャズハーモニー2について習熟していることが必要です。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］Ｉ－２
1	Substitute dominants （sub Ｖ７）
2	Substitute Secondary／Extended dominants
3	Diatonic Harmony -- Minor Scale上のコード
4	Diatonic Chordの機能 （Minor）
5	Secondary dominant[camma] 平行長調との関係
6	Modal InterchangeとMinor keyからの借用
7	純粋なMajor、Minor scale以外からのコード
8	Voicingの基礎
9	Chordの連結とGuide tone
10	Voicingの演習
11	Cliche
12	BlBlue noteとBlues phrase
13	Blues Harmony
14	JHI－２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII - １／ジャズハーモニー３ （前） ［水3］Aクラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK7583AO	科目コード	GK7583	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI−１/ジャズハーモニー１」・「ジャズハーモニーI−２/ジャズハーモニー２」から進展したハーモニーを理解し、コード・スケールを実践的に役立てて、メロディ（アドリブ）・ラインが作れるようになること。学習したハーモニー構造を認識できるようになること。

２．授業概要

ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、「ジャズハーモニーI−１/ジャズハーモニー１」・「ジャズハーモニーI−２/ジャズハーモニー２」について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］II-１
1	Chord Scales～Church mode
2	Lydian ♭7 (Melodic minor)のリプレースメント
3	その他のスケール
4	Chord Scaleの作り方
5	Chord Typeに固有のScale
6	Chord Scaleの選択、Avoid note
7	Diatonic Functioning Chord Scales
8	Non-diatonic chordのChord Scale
9	Melody Analysis～装飾音
10	Melody Analysis～Approach note
11	Dimimished Chords～Passing Diminished
12	Dimimished Chords～Auxiliary Diminished
13	循環コード
14	JHII-１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーII - １／ジャズハーモニー３　（前）［木2］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7583B0	科目コード	GK7583	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI-１・I-２」から進展したハーモニーを理解し、コード・スケールを実践的に役立てて、メロディ（アドリブ）・ラインが作れるようになること。学習したハーモニー構造を認識できるようになること。

２．授業概要

ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー2について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［前期］II－１
1	Chord Scales～Church mode
2	Lydian ♭７(Melodic minor)のリプレースメント
3	その他のスケール
4	Chord Scaleの作り方
5	Chord Typeに固有のScale
6	Chord Scaleの選択、Avoid note
7	Diatonic Functioning Chord Scales
8	Non-diatonic chordのChord Scale
9	Melody Analysis～装飾音
10	Melody Analysis～Approach note
11	Dimimished Chords～Passing Diminished
12	Dimimished Chords～Auxiliary Diminished
13	循環コード
14	JHII－１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーII - １／ジャズハーモニー３　（前）［火4］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7583C0	科目コード	GK7583	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・SC・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI-１・I-２」から進展したハーモニーを理解し、コード・スケールを実践的に役立てて、メロディ（アドリブ）・ラインが作れるようになること。学習したハーモニー構造を認識できるようになること。

２．授業概要

ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー2について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［前期］II－１
1	Chord Scales～Church mode
2	Lydian ♭７(Melodic minor)のリプレースメント
3	その他のスケール
4	Chord Scaleの作り方
5	Chord Typeに固有のScale
6	Chord Scaleの選択、Avoid note
7	Diatonic Functioning Chord Scales
8	Non-diatonic chordのChord Scale
9	Melody Analysis～装飾音
10	Melody Analysis～Approach note
11	Dimimished Chords～Passing Diminished
12	Dimimished Chords～Auxiliary Diminished
13	循環コード
14	JHII－１のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーII - ２／ジャズハーモニー４　（後）［水3］Aクラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GK7584A0	科目コード	GK7584	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・EO・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI-１/ジャズハーモニー１」・「ジャズハーモニーI-２/ジャズハーモニー２」・「ジャズハーモニーII-1/ジャズハーモニー３」から進展したハーモニー構造について理解し、モードの基礎も含めた認識ができるようにすること。またその認識を元に自らの演奏や作編曲に役立てられるようにすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、「ジャズハーモニーI-１/ジャズハーモニー１」・「ジャズハーモニーI-２/ジャズハーモニー２」・「ジャズハーモニーII-1/ジャズハーモニー３」について習熟していることが必要です。
・web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

授業計画	
	［半期］II-2
1	Modulation～Dominant chord
2	Modulation～Pivot chordとTransitional modulation
3	Modulation～構造的なmodulation
4	Modulation～平行調・同主調と近親関係調
5	Dominant 7 th Chord Motion～復習
6	Dominant 7 th Chord Motion～拡張されたDeceptive resolution
7	Dominant 7 th Chords Without Dominant function
8	Contiguous Dominants and related IIm7 ChordsとMulti Tonic System
9	Pedal Point and Ostinato
10	Modal Harmony～Modeの音楽とは
11	Modal Harmony～Church mode
12	Modal Harmony～Modal Bluesと現代的解釈
13	非機能的なコードの連結
14	JHII-２のまとめ
15	試験解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズハーモニーII - ２／ジャズハーモニー４　（後）［木2］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7584B0	科目コード	GK7584	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・EO・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーII−２」から進展したハーモニー構造について理解し、モードの基礎も含めた認識ができるようにすること。またその認識を元に自らの演奏や作編曲に役立てられるようにすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲参考資料として「参考曲集」を使う場合がありますのでクラス担当教員の指示にしたがってください。（ジャズハーモニーI-1，2で使われるものと同じ。PDFで配布の場合あり。学務で冊子を購入の場合eキューブ1階証明書自動発行機にて申請書ボタンよりテキスト購入申込書(参考曲集600円)を購入後学務部にて曲集と引き換えます）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー3について習熟していることが必要です。
・web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］II-2
1	Modulation～Dominant chord
2	Modulation～Pivot chordとTransitional modulation
3	Modulation～構造的なmodulation
4	Modulation～平行調・同主調と近親関係調
5	Dominant ７ th Chord Motion～復習
6	Dominant ７ th Chord Motion～拡張されたDeceptive resolution
7	Dominant ７ th Chords Without Dominant function
8	Contiguous Dominants and related IIm７ ChordsとMulti Tonic System
9	Pedal Point and Ostinato
10	Modal Harmony～Modeの音楽とは
11	Modal Harmony～Church mode
12	Modal Harmony～Modal Bluesと現代的解釈
13	非機能的なコードの連結
14	JHII-２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII - ２／ジャズハーモニー４　（後）［火4］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7584C0	科目コード	GK7584	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・EO・RP・EO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーII-２」から進展したハーモニー構造について理解し、モードの基礎も含めた認識ができるようにすること。またその認識を元に自らの演奏や作編曲に役立てられるようにすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われたトピックは、日頃からピアノなどでその響きを繰り返し奏でることで身についていきます。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を自覚することで、響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となることを自覚して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０%）、平常点（課題提出）（評価の２０%）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲参考資料として「参考曲集」を使う場合がありますのでクラス担当教員の指示にしたがってください。（ジャズハーモニーI-1，2で使われるものと同じ。PDFで配布の場合あり。学務で冊子を購入の場合eキューブ1階証明書自動発行機にて申請書ボタンよりテキスト購入申込書(参考曲集600円)を購入後学務部にて曲集と引き換えます）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー3について習熟していることが必要です。
・web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］II-2
1	Modulation～Dominant chord
2	Modulation～Pivot chordとTransitional modulation
3	Modulation～構造的なmodulation
4	Modulation～平行調・同主調と近親関係調
5	Dominant 7 th Chord Motion～復習
6	Dominant 7 th Chord Motion～拡張されたDeceptive resolution
7	Dominant 7 th Chords Without Dominant function
8	Contiguous Dominants and related IIm7 ChordsとMulti Tonic System
9	Pedal Point and Ostinato
10	Modal Harmony～Modeの音楽とは
11	Modal Harmony～Church mode
12	Modal Harmony～Modal Bluesと現代的解釈
13	非機能的なコードの連結
14	JHII-２のまとめ
15	試験解説

科目名	Ｒ＆Ｐ・ベーシックス （前） ［火3］							
代表教員	前野　知常	授業コード	GK760800	科目コード	GK7608	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージシャンとして最低限知っておくべき事柄を学ぶ。

２．授業概要

授業内容は音楽理論だけに留まらず、音楽業界の構造、音響・コンピューターの知識、ステージパフォーマンス等、多岐にわたる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

知識は実践して初めて身につくものなので、授業で得た知識を日々の行動の中で確認するように。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の70%）
平常点（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pコースの学生は１年次に履修する事
　カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・セオリー」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、レベルチェックテスト
2	機材取り扱いのルール
3	記譜のルール
4	構成譜の書き方
5	レコーディング・マナー
6	レコーディング試聴会１
7	音楽に関わる仕事１（レコーディング）
8	音楽に関わる仕事２（コンサート）
9	音楽業界分析
10	音の構造・性質
11	デジタルとアナログ
12	コンピューターと音楽の関わり
13	ステージ・パフォーマンス
14	レコーディング試聴会２
15	試験及び総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・セオリー　（後）　[火3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK760900	科目コード	GK7609	期間	後期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&Pベーシックス」を履修中または単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードを中心とした、基礎的な音楽理論を学ぶ

２．授業概要

メロディーからどのようにコード進行を作って行くか、あるいはコード進行からどのようにメロディーを作って行くかの、というロックやポップスに必要な基礎知識とテクニック

３．授業時間外の学習（予習復習について）

バンドワークショップや自身の音楽活動で出逢う楽曲に当てはめて考えてみる事

４．成績評価の方法及び基準

期末試験：６０％
平常点（ミニテスト含む）：４０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来る限り１年次に履修する事
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ベーシックス」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	音程
2	スケール
3	コードの仕組み
4	ダイアトニック・コード
5	コードの機能
6	コード・プログレッション
7	ノン・ダイアトニック・コード
8	調関係
9	アヴェイラブル・ノート・スケール
10	テンション
11	オルタード・コード
12	分数コード
13	ブルース・スタイル
14	モード
15	試験及び総括

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　（前）［木4］Aクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7610A0	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	４分、８分音符の聞き取り
3	16ビートの聞き取り
4	付点音符の聞き取り
5	シンコペーションの聞き取り
6	アウフタクトの聞き取り
7	8ビートバウンスの捉え方
8	ハーフタイムシャッフルの捉え方
9	ポリリスムの理解
10	ドラムの聞き取り、採譜（8ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜（16ビート）
12	ドラムの聞き取り、採譜（バウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　（前）［木4］Bクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7610B0	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	４分、８分音符の聞き取り
3	16ビートの聞き取り
4	付点音符の聞き取り
5	シンコペーションの聞き取り
6	アウフタクトの聞き取り
7	8ビートバウンスの捉え方
8	ハーフタイムシャッフルの捉え方
9	ポリリスムの理解
10	ドラムの聞き取り、採譜（8ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜（16ビート）
12	ドラムの聞き取り、採譜（バウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ （後） ［木4］Aクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7611AO	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただ口ずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&PソルフェージュⅠを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	８ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
4	１６ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
5	バウンスビートのスケール聞き取り
6	ペンタトニックの聞き取り
7	チャーチモードのメロディー
8	ブルーノート
9	ノンダイアトニックノートの聞き取り
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと分析
11	コード進行とメロディーの関係
12	コーラスラインのヒント
13	楽曲構成とメロディー
14	メロディー譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ （後） ［木4］Bクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7611B0	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただ口ずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&PソルフェージュⅠを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	８ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
4	１６ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
5	バウンスビートのスケール聞き取り
6	ペンタトニックの聞き取り
7	チャーチモードのメロディー
8	ブルーノート
9	ノンダイアトニックノートの聞き取り
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと分析
11	コード進行とメロディーの関係
12	コーラスラインのヒント
13	楽曲構成とメロディー
14	メロディー譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ （前） ［火3］Aクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7612A0	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ （前） ［火3］Bクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7612B0	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	芸術史 ［火5］						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK770000	科目コード	GK7700	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうこと学ぶ本講義が、音楽を志す学生皆さんの豊かな表現力への探求として、ひとつのアプローチとなることを目指す。

２．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学んでもらいたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえていくこと。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート試験（必須）、授業内小テストあるいは小レポート（各学期2回予定）、授業への参加姿勢(各授業後のリアクションペーパー)によって総合的な評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。そのほか、授業時に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自が自身の表現の糧になるように美術に関心を持ち、授業で取り上げる作品と向きあうこと。

授業計画	
	［前期］ 前期は、先史時代から中世美術までを扱う。
1	ガイダンス・先史美術
2	エーゲ文明の美術
3	ギリシア美術Ⅰ（幾何学様式とアルカイック）
4	ギリシア美術Ⅱ（クラシック）
5	ギリシア美術III（ヘレニスム）
6	エトルリア美術・ローマ美術Ⅰ（建築）
7	ローマ美術Ⅱ（彫刻）
8	ローマ美術III（絵画）
9	初期キリスト教美術
10	ビザンティン美術
11	初期中世美術
12	ロマネスク美術I（建築・彫刻）
13	ロマネスク美術II（絵画）
14	ゴシック美術Ⅰ（建築・彫刻）
15	ゴシック美術Ⅱ（絵画）

授業計画	
	［後期］ 後期は、ルネサンスから近代、２０世紀に至るまでの美術史の流れを概説する。
1	ルネサンス美術Ⅰ（プロト・ルネサンス）
2	ルネサンス美術Ⅱ（初期ルネサンス）
3	ルネサンス美術ⅠⅠⅠ（盛期ルネサンス）
4	北方ルネサンス美術
5	マニエリスム美術
6	バロック美術Ⅰ（イタリア、スペイン、フランス）
7	バロック美術ⅠⅠ（オランダ）
8	ロココ美術
9	近代美術Ⅰ（新古典主義とロマン主義）
10	近代美術ⅠⅠ（写実主義・印象派Ⅰ）
11	近代美術Ⅲ（印象派ⅠⅠ・後期印象派・新印象派）
12	近代美術Ⅳ（象徴主義と世紀末美術）
13	２０世紀の美術Ⅰ（フォービスムと表現主義）
14	２０世紀の美術Ⅱ（未来派・キュビスム・抽象主義）
15	２０世紀の美術Ⅲ（ダダイスムとシュルレアリスム、現代美術へ）

科目名	法学（日本国憲法）　（前）［水1］P1クラス						
代表教員	伊東　明子	授業コード	GK7702P1	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法）　（前）［水1］P2クラス						
代表教員	大久保　悠貴	授業コード	GK7702P2	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q1クラス						
代表教員	伊東　明子	授業コード	GK7702Q1	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q2クラス						
代表教員	大久保　悠貴	授業コード	GK7702Q2	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q3クラス						
代表教員	田上　雄大	授業コード	GK7702Q3	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	社会福祉論 （前） ［木1］Pクラス						
代表教員	高橋　幸裕	授業コード	GK7706P0	科目コード	GK7706	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

（主題）
　福祉と言っても様々な領域に分かれています。生活保護、児童福祉、身体障害者福祉、高齢者福祉、母子福祉、知的障害福祉等といったものがあります。また福祉は我々の生活に密接した制度であり、なくてはならないものです。福祉は我々がより豊かな社会に生きるために必要な制度であることを知るだけでなく、実際にそれを必要とする人たちのためにどのように活用してようにしていくのかが大切です。福祉制度を知ることで社会問題に対するかかわり方に発見があるかもしれません。
（到達目標）
　本講義は福祉制度の概要を説明しながら、制度の持つ特徴や意味を考えていくことができるようになってもらうことを目標とします。同時に本講義で説明したことは自分の言葉で説明できるようになることを目指します。もちろん、様々な方法で地域や福祉施設等でのボランティア（福祉活動）を行いたいと考える学生はこの講義を履修することでより多くの視野が得られると思われるので、積極的に受講してもらいたいと思います。

2．授業概要

　この科目は講義形式で行います。講義では、社会福祉が歩んできた歴史だけでなく、その中で作り上げられてきた社会福祉の考え方（原理、理念、思想）、様々な制度（生活保護、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、知的障害者福祉等）や法体系のあり方、社会福祉専門職に関する制度や福祉職従事者による援助をするための技術を学ぶだけでなく、海外（北欧、アジア等）の社会福祉に関する制度や考え方等について説明します。併せて社会福祉に関連する時事問題についても解説できるようにしていきたいと考えます。尚、テキストに記載されている法令等が改正されていたりすることもありますので、その場合は現行の制度に即して資料を配布したりしながら講義を行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

興味関心を持った社会福祉に関する本を読んでみるだけでなく、新聞の記事やニュース、インターネットで関連することを調べたりしてみてください。講義後は、その日に学んだ内容を振り返ったりしてください。

4．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の100%）を行います。定期試験を受験するにあたっては、出席状況が大学の定める基準に達していることが条件となります。試験方法は論述形式で行います。問題数は1問～2問を予定しています。暗記を必要とする内容については出題しません。自分の言葉で解答が論理的に説明できているかを評価します。詳細は第1回目の講義の際に説明をしますので、履修を考えている方は必ず出席してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（テキスト）
基礎からの社会福祉編集委員会編「シリーズ・基礎からの社会福祉①社会福祉概論[第2版]」ミネルヴァ書房、2009年
（レジュメ）
講義内容の要点をまとめたレジュメや関連する資料を配布します。
（参考文献）
必要に応じて適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①この科目を履修するにあたっての条件は特にありません。
②講義は一方的なものにならないようにするため、受講者に質問をしたり、意見を聞いたりすることをしたいと思います。講義内容については福祉について初めて学ぶ受講生であることを念頭に置いていますので、質問に対して間違ったりしても問題ありません。自分の考えを発表する、疑問に感じたことを考えるということをしてもらいたいと考えています。従って、分からないことをそのままにしないということが大切ですので講義に対して積極的に参加してもらうことを希望します。
③講義中に内容が分からなかったりした場合や疑問がある場合は、その場で質問をするか、講義前後にしていただければと思います。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション：講義の進め方、成績評価の方法、その他講義を行うにあたっての諸注意について説明を行う。
2	私たちのくらしと社会福祉：身近にある生活問題について社会福祉の視点から問題解決をするために考える。
3	社会福祉サービス・制度の枠組み、日本と海外における社会福祉制度：社会福祉サービスと制度の枠組みについて学ぶ。日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（日本とイギリス）
4	社会福祉のあゆみ：日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（アメリカ）
5	社会福祉の思想：社会福祉の原理・理念について学ぶ。人権、思想、新しい福祉の理念を中心に説明する。
6	社会福祉の仕組み：社会福祉の法や制度の意義と体系とはどのようなものなのかを知る。
7	社会福祉の行財政、社会福祉専門職とその使命：社会福祉行財政の仕組みを理解する。また社会福祉には専門職が養成されている。どのような役割があるのかを考える。
8	社会福祉専門職の専門性と倫理：社会福祉専門職の専門性とはどのようなものなのか。専門性を規定する倫理とは一体どのようなものなのかを学ぶ。
9	社会福祉の援助と専門技術：社会福祉援助の意義を考える。また社会福祉援助の価値と原理についても学ぶ。
10	社会福祉援助技術の内容、社会福祉の実践期間・施設・社会資源：社会福祉専門職は問題を抱えている人たちにどう関わるのか。求めるニーズごとに整備された機関・施設・社会資源とは何か。
11	社会福祉の実践期間・施設・社会資源②、世界の社会福祉の動向①：第10回の講義の続きから開設する。世界の社会福祉の動向について解説する。
12	世界の社会福祉の動向②：ここでは第11回の講義で取り上げたイギリスを振り返りつつ、アメリカの社会福祉に関する動向について解説する。
13	世界の社会福祉の動向③：北欧について取り上げる。スウェーデン、デンマーク、ノルウェーについて紹介する。どんな違いがあるのかを考える。
14	世界の社会福祉の動向④：アジアの社会福祉の発展と動向を押さえつつ、フィリピン、韓国の社会福祉に関する動向について解説する。東アジアの国でどのような違いがあるのかを考える。
15	これからの社会福祉：本講義のまとめとして、社会福祉の現状と社会福祉政策について考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	社会福祉論　（後）［木1］Qクラス							
代表教員	高橋　幸裕	授業コード	GK7706Q0	科目コード	GK7706	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

（主題）
　福祉と言っても様々な領域に分かれています。生活保護、児童福祉、身体障害者福祉、高齢者福祉、母子福祉、知的障害福祉等といったものがあります。また福祉は我々の生活に密接した制度であり、なくてはならないものです。福祉は我々がより豊かな社会に生きるために必要な制度であることを知るだけでなく、実際にそれを必要とする人たちのためにどのように活用してようにしていくのかが大切です。福祉制度を知ることで社会問題に対するかかわり方に発見があるかもしれません。
（到達目標）
　本講義は福祉制度の概要を説明しながら、制度の持つ特徴や意味を考えていくことができるようになってもらうことを目標とします。同時に本講義で説明したことは自分の言葉で説明できるようになることを目指します。もちろん、様々な方法で地域や福祉施設等でのボランティア（福祉活動）を行いたいと考える学生はこの講義を履修することでより多くの視野が得られると思われるので、積極的に受講してもらいたいと思います。

2．授業概要

　この科目は講義形式で行います。講義では、社会福祉が歩んできた歴史だけでなく、その中で作り上げられてきた社会福祉の考え方（原理、理念、思想）、様々な制度（生活保護、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、知的障害者福祉等）や法体系のあり方、社会福祉専門職に関する制度や福祉職従事者による援助をするための技術を学ぶだけでなく、海外（北欧、アジア等）の社会福祉に関する制度や考え方等について説明します。併せて社会福祉に関連する時事問題についても解説できるようにしていきたいと考えます。尚、テキストに記載されている法令等が改正されていたりすることもありますので、その場合は現行の制度に即して資料を配布したりしながら講義を行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

興味関心を持った社会福祉に関する本を読んでみるだけでなく、新聞の記事やニュース、インターネットで関連することを調べたりしてみてください。講義後は、その日に学んだ内容を振り返ったりしてください。

4．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の100%）を行います。定期試験を受験するにあたっては、出席状況が大学の定める基準に達していることが条件となります。試験方法は論述形式で行います。問題数は1問～2問を予定しています。暗記を必要とする内容については出題しません。自分の言葉で解答が論理的に説明できているかを評価します。詳細は第1回目の講義の際に説明をしますので、履修を考えている方は必ず出席してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（テキスト）
基礎からの社会福祉編集委員会編「シリーズ・基礎からの社会福祉①社会福祉概論[第2版]」ミネルヴァ書房、2009年
（レジュメ）
講義内容の要点をまとめたレジュメや関連する資料を配布します。
（参考文献）
必要に応じて適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①この科目を履修するにあたっての条件は特にありません。
②講義は一方的なものにならないようにするため、受講者に質問をしたり、意見を聞いたりすることをしたいと思います。講義内容については福祉について初めて学ぶ受講生であることを念頭に置いていますので、質問に対して間違ったりしても問題ありません。自分の考えを発表する、疑問に感じたことを考えるということをしてもらいたいと考えています。従って、分からないことをそのままにしないということが大切ですので講義に対して積極的に参加してもらうことを希望します。
③講義中に内容が分からなかったりした場合や疑問がある場合は、その場で質問をするか、講義前後にしていただければと思います。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション：講義の進め方、成績評価の方法、その他講義を行うにあたっての諸注意について説明を行う。
2	私たちのくらしと社会福祉：身近にある生活問題について社会福祉の視点から問題解決をするために考える。
3	社会福祉サービス・制度の枠組み、日本と海外における社会福祉制度：社会福祉サービスと制度の枠組みについて学ぶ。日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（日本とイギリス）
4	社会福祉のあゆみ：日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（アメリカ）
5	社会福祉の思想：社会福祉の原理・理念について学ぶ。人権、思想、新しい福祉の理念を中心に説明する。
6	社会福祉の仕組み：社会福祉の法や制度の意義と体系とはどのようなものなのかを知る。
7	社会福祉の行財政、社会福祉専門職とその使命：社会福祉行財政の仕組みを理解する。また社会福祉には専門職が養成されている。どのような役割があるのかを考える。
8	社会福祉専門職の専門性と倫理：社会福祉専門職の専門性とはどのようなものなのか。専門性を規定する倫理とは一体どのようなものなのかを学ぶ。
9	社会福祉の援助と専門技術：社会福祉援助の意義を考える。また社会福祉援助の価値と原理についても学ぶ。
10	社会福祉援助技術の内容、社会福祉の実践期間・施設・社会資源：社会福祉専門職は問題を抱えている人たちにどう関わるのか。求めるニーズごとに整備された機関・施設・社会資源とは何か。
11	社会福祉の実践期間・施設・社会資源②、世界の社会福祉の動向①：第10回の講義の続きから開設する。世界の社会福祉の動向について解説する。
12	世界の社会福祉の動向②：ここでは第11回の講義で取り上げたイギリスを振り返りつつ、アメリカの社会福祉に関する動向について解説する。
13	世界の社会福祉の動向③：北欧について取り上げる。スウェーデン、デンマーク、ノルウェーについて紹介する。どんな違いがあるのかを考える。
14	世界の社会福祉の動向④：アジアの社会福祉の発展と動向を押さえつつ、フィリピン、韓国の社会福祉に関する動向について解説する。東アジアの国でどのような違いがあるのかを考える。
15	これからの社会福祉：本講義のまとめとして、社会福祉の現状と社会福祉政策について考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（前）［金3］P1クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707P1	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

2．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに

3．授業時間外の学習（予習復習について）

プリント課題を毎回配布、回収します。検定試験前にはプリントの復習や実問題を繰り返し取り組むことが必要です。
ビジネスマナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントも必要です。学んだ内容を行動できたかどうかをチェックするプリントも使用します。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
課題提出：評価20%
学期末試験：評価30%（検定受験者はその結果も考慮する）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定集中講義２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（いずれも2018年度版）※秘書検定受験希望者

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ（必要とされる資質①） 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー～第一印象アップトレーニング～
3	必要な能力　求められる人柄と身だしなみ（必要とされる資質②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～一歩リードできる自己紹介～
4	組織における役割と仕事内容（職務知識） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対①基本～
5	社会人として身に付けたいコミュニケーション（マナー接遇①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対②応用～
6	間違いやすい敬語・接遇用語（マナー・接遇②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しいおじぎの仕方～
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送り（マナー・接遇③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しい立ち居振る舞い～
8	お祝いやお悔みのマナー（マナー・接遇④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～好印象のあいさつとは～
9	贈答のマナー（マナー・接遇⑤） 実践すぐに使えるビジネスマナー～接遇用語を使う～
10	会議の知識（技能①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～名刺交換～
11	ビジネスメールやビジネス文書の名称・形式（技能②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～報告・説明をする～
12	ビジネス文書の取り扱い（技能③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～状況に応じた来客対応～
13	情報収集・資料管理（技能④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング①～
14	日程管理・オフィス管理（技能⑤） すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング②～
15	試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（後）［金2］Q1クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707Q1	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

２．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに

３．授業時間外の学習（予習復習について）

プリント課題を毎回配布、回収します。検定試験前にはプリントの復習や実問題を繰り返し取り組むことが必要です。
ビジネスマナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントも必要です。学んだ内容を行動できたかどうかをチェックするプリントも使用します。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
課題提出：評価20%
学期末試験：評価30%（検定受験者はその結果も考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定集中講義２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（いずれも2018年度版）※秘書検定受験希望者

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ（必要とされる資質①） 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー～第一印象アップトレーニング～
3	必要な能力　求められる人柄と身だしなみ（必要とされる資質②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～一歩リードできる自己紹介～
4	組織における役割と仕事内容（職務知識） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対①基本～
5	社会人として身に付けたいコミュニケーション（マナー接遇①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対②応用～
6	間違いやすい敬語・接遇用語（マナー・接遇②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しいおじぎの仕方～
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送り（マナー・接遇③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しい立ち居振る舞い～
8	お祝いやお悔みのマナー（マナー・接遇④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～好印象のあいさつとは～
9	贈答のマナー（マナー・接遇⑤） 実践すぐに使えるビジネスマナー～接遇用語を使う～
10	会議の知識（技能①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～名刺交換～
11	ビジネスメールやビジネス文書の名称・形式（技能②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～報告・説明をする～
12	ビジネス文書の取り扱い（技能③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～状況に応じた来客対応～
13	情報収集・資料管理（技能④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング①～
14	日程管理・オフィス管理（技能⑤） すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング②～
15	試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（後）［金3］Q2クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707Q2	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

２．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに

３．授業時間外の学習（予習復習について）

プリント課題を毎回配布、回収します。検定試験前にはプリントの復習や実問題を繰り返し取り組むことが必要です。
ビジネスマナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントも必要です。学んだ内容を行動できたかどうかをチェックするプリントも使用します。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
課題提出：評価20%
学期末試験：評価30%（検定受験者はその結果も考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定集中講義２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（いずれも2018年度版）※秘書検定受験希望者

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ（必要とされる資質①） 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー～第一印象アップトレーニング～
3	必要な能力　求められる人柄と身だしなみ（必要とされる資質②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～一歩リードできる自己紹介～
4	組織における役割と仕事内容（職務知識） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対①基本～
5	社会人として身に付けたいコミュニケーション（マナー接遇①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～電話応対②応用～
6	間違いやすい敬語・接遇用語（マナー・接遇②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しいおじぎの仕方～
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送り（マナー・接遇③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～美しい立ち居振る舞い～
8	お祝いやお悔みのマナー（マナー・接遇④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～好印象のあいさつとは～
9	贈答のマナー（マナー・接遇⑤） 実践すぐに使えるビジネスマナー～接遇用語を使う～
10	会議の知識（技能①） 実践すぐに使えるビジネスマナー～名刺交換～
11	ビジネスメールやビジネス文書の名称・形式（技能②） 実践すぐに使えるビジネスマナー～報告・説明をする～
12	ビジネス文書の取り扱い（技能③） 実践すぐに使えるビジネスマナー～状況に応じた来客対応～
13	情報収集・資料管理（技能④） 実践すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング①～
14	日程管理・オフィス管理（技能⑤） すぐに使えるビジネスマナー～総合ロールプレイング②～
15	試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音響学１　[金5]						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK770800	科目コード	GK7708	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音に関する基本的性質や法則を理解し、作曲・演奏・鑑賞の助けとする。同時に、実生活においても役に立つ基礎知識を身につける。音楽を学ぶ学生にとって必要な音に関する基礎的内容を理解することを目標とする。

２．授業概要

音の世界は実に幅が広い。音源となる楽器の性質、音の伝搬、音の知覚、聴覚の仕組み、楽器の仕組み、電気音響変換器、オーディオなど、実に多様である。これらをできるだけ分かりやすく解説する。授業に当たっては、基本的な講義に加え、聴覚に関するデモンストレーションや、ヘッドホンの試聴を通しての電気音響変換器に関する体験学習なども行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

４．成績評価の方法及び基準

中間試験（評価の40%）
学期末試験（評価の40%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の出席と中間試験、学期末試験の成績の平均が90点以上の学生にSの評価を与える

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［前期］ 音響学の基礎となる音の物理的特性と聴覚の特性について学習する。
1	ガイダンス：音の世界の鳥瞰
2	音とは何か
3	音の物理的性質
4	デシベル（１）
5	デシベル（２）
6	音圧・音圧レベル
7	周波数と波長
8	正弦波と純音
9	音を見る
10	聴覚（１）
11	聴覚（２）
12	マスキング
13	ヘッドホンの種類と特性
14	前半のまとめ
15	前半の内容確認（テスト）とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　前期の基礎知識をもとに、電気音響変換器（マイクロホン、スピーカ）の特性と楽器の音響学的特性を学習する。また、音声やデジタルオーディオについて学習する。
1	後半の概要
2	電気音響変換器（１）
3	電気音響変換器（２）
4	共鳴
5	オーディオの歴史
6	デジタルオーディオ（１）
7	デジタルオーディオ（２）
8	デジタルオーディオ（３）
9	楽器の仕組み
10	電気・電子楽器
11	空間音響
12	エフェクタ
13	音響の将来
14	後半のまとめ
15	期末テストと全体的なまとめ

科目名	情報機器の操作　（前）［月4］P1クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P1	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（前）［火2］P2クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P2	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

２．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（前）［火3］P3クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P3	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（前）［水2］P4クラス						
代表教員	林　洋子	授業コード	GK7709P4	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（前）［金2］P5クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P5	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

２．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（後）［月4］Q1クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q1	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（後）［火3］Q3クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q3	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（後）［水2］Q5クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q5	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（後）［金2］Q6クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q6	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作　（後）［金3］Q7クラス						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK7709Q7	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、代表的なソフトウェア（Microsoft Office：Word、Excel、PowerPoint）の基本操作や、使用頻度の高い編集機能を習得し、業務に必要なデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・簡単な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・簡単なプレゼンテーション資料の作成を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低、Lesson6（パートC）まで進めること。
　但し、1レッスンの所要時間に幅があるため、各自の都合に応じて適宜区切りながら、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合は、プリントを参考に、次回授業までに追いついておくこと。
・授業内で扱う課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、機能の復習を行うこと。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回とも、当該データを各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時にポータル画面を見ながらの操作は、厳しいと思われる。
　なお、各回の配信分すべてを、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集（書式設定）
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と簡単な演算機能
11	Excel基本機能：関数と応用的な演算機能
12	Excel編集機能①：書式設定
13	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
14	Excel編集機能③：グラフ作成
15	Microsoft PowerPoint基本機能

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（前）［水1］P1クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726P1	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（前）［水1］P2クラス						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	GK7726P2	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
　本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

　本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
　また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
　本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（前）［水1］P3クラス						
代表教員	高尾　尚平	授業コード	GK7726P3	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（前）［水2］P4クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726P4	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（後）［水1］Q1クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726Q1	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（後）［水1］Q2クラス						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	GK7726Q2	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
　本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

　本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
　また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
　本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（後）［水1］Q3クラス						
代表教員	高尾　尚平	授業コード	GK7726Q3	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
　本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

　本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

　日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
　また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
　本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育　（後）［水2］Q4クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726Q4	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学 ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7728AO	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
授業内評価点（授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

前期

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［前期］ 　前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	前期末試験の返却と後期講義内容の説明 ・テストの返却と解説 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	経済学 ［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7728B0	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

前期

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［前期］ 前期ではミクロ経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対して需要と供給、弾力性の理解から、これらが変化する要因とその影響・効果を学習します。
1	経済学とは:人々の意思決定
2	需要と供給の関係について知ろう
3	価格上限規制とは何か？
4	価格下限規制とは何か？
5	需要の（価格）弾力性を知ろう
6	供給の（価格）弾力性を知ろう
7	需要と供給による政策を考えよう：税金
8	弾力性と税金の関係を考えよう
9	市場の効率性を考えよう(1)：消費者余剰
10	市場の効率性を考えよう(2)：生産者余剰
11	効率性への対応の必要性について：死荷重
12	税と効率・公平について考えよう
13	外部性について知ろう
14	外部性に対する公共政策の考え方
15	財の種類について：公共財と共有資源

授業計画	
	［後期］ 後期ではマクロ経済学の基礎知識を定着させ、所得の成長、物価の変化、失業率を用いて、経済活動の観察による統計等のデータと経済学の理論を合致させることを学習する。
1	前期の復習とマクロ経済学について：需要と供給による効率性の確認
2	国民所得とその決定を理解しよう
3	実質GDPと名目GDPとは何か？
4	生計費を測定するには？:消費者物価指数
5	生産と成長をどのように把握・理解するのか？
6	失業の存在と影響を知ろう
7	貯蓄、投資と金融システムについて知ろう
8	貨幣について：貨幣システムとは？
9	貨幣需給とインフレーションの関係を知ろう
10	総需要曲線とは何か？
11	総供給曲線とは何か？
12	総需要曲線がシフトする時を考えよう
13	総供給曲線のシフトする時を考えよう
14	外国との取引の存在：開放マクロ経済学について考えよう
15	購買力平価について知ろう

科目名	著作権法 （前） ［金1］P1クラス						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	GK7729P1	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	著作権法 （前） ［金1］P2クラス						
代表教員	齋藤　崇	授業コード	GK7729P2	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。著作権には、複製権、公衆送信権、翻案権等のさまざまな権利があります。
6	著作者人格権（１） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（２） 著作者人格権には、公表権、氏名表示権、同一性保持権という権利があります。さらに、名誉声望保持権という権利や、著作者の死後でもその人格的利益が保護されたりします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	著作権法 （後） ［金1］Q1クラス						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	GK7729Q1	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	著作権法 （後） ［金1］Q2クラス						
代表教員	齋藤　崇	授業コード	GK7729Q2	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。著作権には、複製権、公衆送信権、翻案権等のさまざまな権利があります。
6	著作者人格権 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（２） 著作者人格権には、公表権、氏名表示権、同一性保持権という権利があります。さらに、名誉声望保持権という権利や、著作者の死後でもその人格的利益が保護されたりします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジェンダー　[金5]						
代表教員	大森　美佐	授業コード	GK773000	科目コード	GK7730	期間	通年
担当教員	青木　由香						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＜前期＞
【主題】
・ジェンダー論
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄を、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。
＜後期＞
【主題】
・人生の中年期から高齢期において直面する諸課題について、「ジェンダー」の視角を用いて読み解く。
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。

2．授業概要

＜前期＞
ジェンダーとは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉です。生物学的な意味での性別とは区別されます。洋服の選び方、身体の動かし方、進路の選び方、仕事の選び方、仕事の仕方、自分の人生をどう生きるか。私たちは生活のあらゆる場面で、自分の性別や他者の性別を意識せざるをえません。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方について理解していきます。恋愛や結婚、教育や仕事、育児や家族など、私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法を学ぶとともに、②日常に溢れる「当たり前」を問い直す力を身につけることを目指します。

＜後期＞

3．授業時間外の学習（予習復習について）

＜前期＞
・教材での学習：テキストと講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍を積極的に読むことで、各トピックについての理解が深まります。
・生活のなかでの学習：身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

4．成績評価の方法及び基準

＜前期＞
・授業への参加度（40%）、試験（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回コメントシートを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

＜後期＞
・授業への参加度（40%）、定期試験の得点（60%）で評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

＜前期＞
（参考図書）
その他、各トピックに関連する参考文献は、毎回の講義のなかで紹介します。

＜後期＞
テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜前期＞
出席を重視します。教室では、クラスのみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

＜後期＞
授業への参加度を重視します。授業中、グループ・ディスカッションの機会を設けます。日常生活の諸現象を、これまでとは違った「ジェンダー」の視点で考えてみませんか。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス＆イントロダクション： 私たちは＜分類＞するー「ジェンダー」の定義
2	性差と性役割：「男らしさ」「女らしさ」を考える
3	容姿とジェンダー：服飾・美容整形・ダイエット
4	教育とジェンダー：学校教育におけるジェンダー差
5	就労とジェンダー①：性別職務分離と男女経済格差
6	就労とジェンダー②：職場におけるジェンダー
7	就労とジェンダー③：グローバル化する性別役割分業　世界では誰が家事を担っているのか？
8	恋愛と性行動①：同性愛と異性愛
9	恋愛と性行動②：データから読む日本の恋愛の状況、DVD鑑賞
10	ドメスティック・バイオレンス
11	結婚・パートナーシップ
12	夫婦関係の諸相
13	生殖・子育てとジェンダー
14	講義の統括と試験
15	試験解説と「ジェンダー社会で生きるということ」についてのグループ・ディスカッション

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス＆イントロダクション：「ジェンダー」を学ぶことの意味
2	メディアとジェンダー①：「女らしさ」「男らしさ」はどのように描かれているのか
3	メディアとジェンダー②：テレビドラマにみる「女らしさ」「男らしさ」
4	「少子化」「高齢化」とジェンダー：データで読み解く日本の「いま」、そして「未来」
5	ケアとジェンダー①：誰がケアを担っているのか（家族介護の諸相）
6	ケアとジェンダー②：誰がケアを担っているのか（無償労働とケアワーク）
7	ケアとジェンダー③：「ケアすること」をめぐる困難（家族介護）
8	ケアとジェンダー④：「ケアされること」をめぐる困難（高齢者介護）
9	ライフコースとジェンダー①：男性のライフコース
10	ライフコースとジェンダー②：女性のライフコース
11	ライフコースとジェンダー③：「生きづらさ」を考える
12	政策とジェンダー①：現代日本の家族政策・福祉政策の現状
13	政策とジェンダー②：「貧困問題」の諸相
14	政策とジェンダー③：「働くこと」をめぐる課題
15	到達度の確認

科目名	読解力養成講座１　（前）［火3］Ａクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7731A0	科目コード	GK7731	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座2」（後期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：「あたりまえ」にだまされない
3	批判的読書法②：「わかる」とはどういうことか
4	批判的読書法③：「わかる」ことの先へ
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　新聞
8	評論を読む②　雑誌記事
9	評論を読む③　音楽について
10	論文を読む①　基礎編
11	論文を読む②　応用編
12	文を読む：詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　まとめ方
14	プレゼンテーションと批評②　質疑
15	まとめ・評価

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	読解力養成講座１　（前）［火4］Bクラス							
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7731B0	科目コード	GK7731	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座2」（後期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：「あたりまえ」にだまされない
3	批判的読書法②：「わかる」とはどういうことか
4	批判的読書法③：「わかる」ことの先へ
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　新聞
8	評論を読む②　雑誌記事
9	評論を読む③　音楽について
10	論文を読む①　基礎編
11	論文を読む②　応用編
12	文を読む：詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　まとめ方
14	プレゼンテーションと批評②　質疑
15	まとめ・評価

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	読解力養成講座２　（後）［火3］Ａクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7732A0	科目コード	GK7732	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。前期とは異なるテキストを用いて、異なる角度からアプローチします。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座1」（前期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：論証
3	批判的読書法②：根拠とは
4	批判的読書法③：要約
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　基礎
8	評論を読む②要約
9	評論を読む③　展開
10	論文を読む①　基礎
11	論文を読む②　展開
12	文を読む：詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　方法
14	プレゼンテーションと批評②　実践
15	まとめ・評価

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	読解力養成講座２　（後）［火4］Bクラス							
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7732B0	科目コード	GK7732	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。前期とは異なるテキストを用いて、異なる角度からアプローチします。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座1」（前期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：論証
3	批判的読書法②：根拠とは
4	批判的読書法③：要約
5	古典①
6	古典②
7	評論を読む①
8	評論を読む②
9	評論を読む③
10	評論を読む④
11	論文を読む
12	文を読む：詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①
14	プレゼンテーションと批評②
15	まとめ・評価

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	文章力養成講座１　（前）　[月5] Aクラス						
代表教員	山口　壽郎	授業コード	GK7733A0	科目コード	GK7733	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えるということを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点（提出物を含む、発表等　60%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：　これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法､勉強法についての説明を行う
2	自己分析しよう 漢字の読み書き①
3	自己分析文作成 漢字の読み書き②
4	自己PRしよう 漢字の読み書き③
5	他人を紹介しよう 漢字の読み書き④
6	敬語の使い方 漢字の読み書き⑤
7	新聞を読む 漢字の読み書き⑥
8	コラムの要約 漢字の読み書き⑦
9	グループ活動 文章の内容把握と読み（表現法）①
10	グループ活動 紙芝居による表現法
11	グループ活動 絵本（絵のみ）に文章作成
12	発表 絵本の聞き比べ
13	文章の内容把握と読み（表現法）②
14	レポートの書き方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	文章力養成講座１　（前）［水5］Bクラス						
代表教員	山口　壽郎	授業コード	GK7733B0	科目コード	GK7733	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えるということを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点（提出物を含む、発表等　60%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：　これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法､勉強法についての説明を行う
2	自己分析しよう 漢字の読み書き①
3	自己分析文作成 漢字の読み書き②
4	自己PRしよう 漢字の読み書き③
5	他人を紹介しよう 漢字の読み書き④
6	敬語の使い方 漢字の読み書き⑤
7	新聞を読む 漢字の読み書き⑥
8	コラムの要約 漢字の読み書き⑦
9	グループ活動 文章の内容把握と読み（表現法）①
10	グループ活動 紙芝居による表現法
11	グループ活動 絵本（絵のみ）に文章作成
12	発表 絵本の聞き比べ
13	文章の内容把握と読み（表現法）②
14	レポートの書き方
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	文章力養成講座２　（後）［月5］Aクラス						
代表教員	山口　壽郎	授業コード	GK7734A0	科目コード	GK7734	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えるこというを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点(提出物を含む、発表など　60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス:これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法、勉強法についての説明を行う。
2	ノートの取り方：良いノートと悪いノート
3	音楽鑑賞と批評
4	プレゼンテーションの方法①：グループ学習　コース紹介
5	プレゼンテーションの方法②：グループ学習　資料作成、発表
6	プレゼンテーション：演奏する媒体や演奏法
7	プレゼンテーション：評価について
8	社会人としてのコミュニケーション①グループ学習
9	社会人としてのコミュニケーション②グループ学習
10	履歴書の書き方と実践
11	プレゼンテーション実践①
12	プレゼンテーション実践②
13	プレゼンテーション実践③
14	プレゼンテーション実践④
15	まとめ：よりよい大学生活にするために

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	文章力養成講座２　（後）［水5］Bクラス						
代表教員	山口　壽郎	授業コード	GK7734B0	科目コード	GK7734	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えることというを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点(提出物を含む、発表など　60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法、勉強法についての説明を行う。
2	ノートの取り方：良いノートと悪いノート
3	音楽鑑賞と批評
4	プレゼンテーションの方法①：グループ学習　コース紹介
5	プレゼンテーションの方法②：グループ学習　資料作成、発表
6	プレゼンテーション：演奏する媒体や演奏法
7	プレゼンテーション：評価について
8	社会人としてのコミュニケーション①グループ学習
9	社会人としてのコミュニケーション②グループ学習
10	履歴書の書き方と実践
11	プレゼンテーション実践①
12	プレゼンテーション実践②
13	プレゼンテーション実践③
14	プレゼンテーション実践④
15	まとめ：よりよい大学生活にするために

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	分析力養成講座１　（前）［木3］Aクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7735A0	科目コード	GK7735	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

私たちは、現代社会を知性的に生きるために、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要になります。本講座では、①新聞活用の基礎的なスキルの習得②物事を多面的に捉える力と文章力の鍛練をめざします。

２．授業概要

授業では、毎回数社の新聞記事を読み、考察したことを文章にまとめ文章力を養います。
前期は新聞という情報メディアの活用方法を学びます。予備知識は不要です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行います。準備として、新聞記事に目を通し、重要と思う記事を要約しておくことが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０%）、発表（４０%）、レポートなどの提出（４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、情報メディア・リテラシー
2	現代社会とステレオタイプ
3	情報メディアとその活用
4	新聞をどう読むか① ー読み方の基礎を学ぶー
5	新聞をどう読むか② ー応用編・新聞はこう読むー
6	新聞活用術①ー各紙面の活用法ー
7	新聞活用術②ー総合面を活用するー
8	新聞活用法③ー社会面を活用するー
9	新聞活用術④ー社説を読み比べるー
10	新聞活用術⑤ー社説を読み比べるー
11	プレゼンテーション① ー専門の魅力を伝えるー
12	プレゼンテーション② ー専門の魅力を伝えるー
13	思考法の基礎① ー現代史の視点で新聞記事を読み解くー
14	思考法の基礎② ー現代史の視点で新聞記事を読み解くー
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	分析力養成講座１　（前）［木4］Bクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7735B0	科目コード	GK7735	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

私たちは、現代社会を知性的に生きるために、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要になります。本講座では、①新聞活用の基礎的なスキルの習得②物事を多面的に捉える力と文章力の鍛練をめざします。

２．授業概要

授業では、毎回数社の新聞記事を読み、考察したことを文章にまとめ文章力を養います。
前期は新聞という情報メディアの活用方法を学びます。予備知識は不要です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行います。準備として、新聞記事に目を通し、重要と思う記事を要約しておくことが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０%）、発表（４０%）、レポートなどの提出（４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、情報メディア・リテラシー
2	現代社会とステレオタイプ
3	情報メディアとその活用
4	新聞をどう読むか① ー読み方の基礎を学ぶー
5	新聞をどう読むか② ー応用編・新聞はこう読むー
6	新聞活用術①ー各紙面の活用法ー
7	新聞活用術②ー総合面を活用するー
8	新聞活用法③ー社会面を活用するー
9	新聞活用術④ー社説を読み比べるー
10	新聞活用術⑤ー社説を読み比べるー
11	プレゼンテーション① ー専門の魅力を伝えるー
12	プレゼンテーション② ー専門の魅力を伝えるー
13	思考法の基礎① ー現代史の視点で新聞記事を読み解くー
14	思考法の基礎② ー現代史の視点で新聞記事を読み解くー
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	分析力養成講座２　（後）［木3］Aクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7736A0	科目コード	GK7736	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

私たちは、現代社会を知性的に生きるために、、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要になります。
本講座では、①新聞を活用する上で基礎的なスキルの習得②物事を多面的に捉え、文章化する鍛練を行います。

２．授業概要

授業では、新聞を活用して、物事を多面的に捉え思考するための学び方を習得します。また、新聞記事を読み、考察したことを文章にまとめ文章力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では発表を行います。その準備として、新聞記事に目を通すこと、また、記事の内容を要約する場合もあります。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０%）、発表（４０%）、レポートなどの提出（２０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスー現代の社会と情報ー
2	現代社会とステレオタイプ
3	新聞の読み方①ー読み方の基礎ー
4	新聞の読み方②ー応用編・新聞はこう読もうー
5	新聞活用術①ー各紙面の活用法ー
6	新聞活用術②ー総合面を活用するー
7	新聞活用術③ー社会面を活用するー
8	新聞活用術④ー国際面を読むー
9	新聞活用術⑤ー夕刊と海外の記事ー
10	プレゼンテーション① ー専門の魅力を発信するー
11	プレゼンテーション② ー専門の魅力を発信するー
12	現代史の視点で記事を読み解く①
13	現代史の視点で記事を読み解く②
14	１年の記事を俯瞰する
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	分析力養成講座２　（後）［木4］Bクラス						
代表教員	原田　晴夫	授業コード	GK7736B0	科目コード	GK7736	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

私たちは、現代社会を知性的に生きるために、、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要になります。
本講座では、①新聞を活用する上で基礎的なスキルの習得②物事を多面的に捉え、文章化する鍛練を行います。

２．授業概要

授業では、新聞を活用して、物事を多面的に捉え思考するための学び方を習得します。また、新聞記事を読み、考察したことを文章にまとめ文章力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では発表を行います。その準備として、新聞記事に目を通すこと、また、記事の内容を要約する場合もあります。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０%）、発表（４０%）、レポートなどの提出（２０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスー現代の社会と情報ー
2	現代社会とステレオタイプ
3	新聞の読み方①ー読み方の基礎ー
4	新聞の読み方②ー応用編・新聞はこう読もうー
5	新聞活用術①ー各紙面の活用法ー
6	新聞活用術②ー総合面を活用するー
7	新聞活用術③ー社会面を活用するー
8	新聞活用術④ー国際面を読むー
9	新聞活用術⑤ー夕刊と海外の記事ー
10	プレゼンテーション① ー専門の魅力を発信するー
11	プレゼンテーション② ー専門の魅力を発信するー
12	現代史の視点で記事を読み解く①
13	現代史の視点で記事を読み解く②
14	１年の記事を俯瞰する
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	外国文学 （後） ［金5］						
代表教員	遠藤　紀明	授業コード	GK773700	科目コード	GK7737	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：文学的レトリックとしての歌曲
「歌」における「詞」すなわち「詩」を「読む」力をつけることを到達目標とする。

２．授業概要

シューベルト、シューマンおよびマーラーを中心に、ロマン派の作曲家たちによって付曲された詩と音楽をとりあげる。レトリック（修辞法）という側面から言葉による表現と音楽との関係について考えるとともに、近代市民社会の成立から現代へと至る過程で芸術を取り巻く状況がどう変化しているのかを考えていきたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当該の時代（フランス革命から第一次世界大戦に至る主に19世紀のヨーロッパ史）について世界史、特にヨーロッパの歴史を予習しておくこと。「歴史資料」をポータルで配付する予定。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験またはレポート（評価の５０％）
平常点（毎回の小感想文に対する評価）（評価の５０％）
以上を合計して評価する。
詳細は初回の授業時に説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト（レジュメと対訳）や参考資料は、ポータルを利用してPDFファイルを配付する。
参考文献は授業中に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テキストはすべて対訳を用いるので、外国語はできなくても問題ない。それよりも、歌、文学、歴史のいずれかに、そしてかならず「人間」に興味を持つことを条件とする。まずは休まないこと、そして、積極的に「読み」「聴いて」ほしい。

授業計画	
	［半期］ シューベルト、シューマンおよびマーラーによって付曲された作品を中心に、　ドイツ・リートを読む。
1	授業概要ならびに成績判定に関する説明 リートの定義と歴史
2	啓蒙主義と初期リート
3	シューベルト 初期歌曲から『糸を紡ぐグレートヒェン』へ
4	ゲーテとシューベルト1（シュトゥルム・ウント・ドラングの詩）
5	ゲーテとシューベルト2（古典期の詩）
6	シューベルトの後期歌曲
7	リュッケルトとシューマン
8	アイヒェンドルフとシューマン
9	ハイネとシューマン1（Op.24 他）
10	ハイネとシューマン2（『詩人の恋』）
11	メーリケとヴォルフ
12	『子供の魔法の角笛』とマーラー1　（『若き日の歌』）
13	『子供の魔法の角笛』とマーラー2（『子供の魔法の角笛』）
14	『子供の魔法の角笛』とマーラー3　（角笛交響曲）
15	20世紀　詩と音楽の変容

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	西洋文化史　（前）［火2］Pクラス						
代表教員	長谷川　美子	授業コード	GK7738P0	科目コード	GK7738	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパの音楽をより深く理解するためには、「音楽」と同時に、「ヨーロッパ」について知ること、その気候・風土、政治的・社会的状況とともに、その精神文化についても理解することが必要である。ヨーロッパ文化に親しみ、その成り立ちと、多様な展開について理解を深めることを目標とする。ヨーロッパ文化の基層をなすギリシア神話・キリスト教についても、基礎的な知識を身につけるようにする。

２．授業概要

多彩なヨーロッパ文化の歴史を、美術を中心に取り上げながら、古代ギリシア・ローマ・中世・ルネサンス・バロックに至るまで時代を追って概観する。授業ではスライド等を使用し、文学史、思想史、宗教史、社会史等の諸問題についても、音楽に関係の深いテーマを取り上げることになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

連続した講義内容なので、毎回の復習が大切である。配布したプリントや資料は次回の授業でも使用するので、必ず既習内容を見直しておくこと。プリント類は、授業で使用した後もきちんと管理し、随時見直し、調べて加筆するなどして学習に役立ててほしい。図書館にある『世界美術大全集』や、ＤＶＤ、授業中に紹介した参考文献を、適宜、参照し、理解を深めてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（試験の一部をレポートとする）（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢など）（評価の２０％）
授業内の小テスト及び小レポート（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。
参考文献については、授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヨーロッパについて広く知的好奇心を持ち、これまでに展開された様々な文化に親しんでほしい。配布したプリントは継続使用することが多いので、必要なものは忘れずに持参すること。遅刻、授業中の私語、スマホ・携帯電話の使用を厳禁する。
2/ 3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない（欠格条件）。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、古代ギリシア
2	古代ギリシア
3	古代ローマ
4	古代ローマ
5	初期キリスト教
6	ビザンティン
7	初期中世
8	紀元1000年頃のヨーロッパ
9	ロマネスク
10	ゴシック
11	ゴシック～初期ルネサンス
12	初期ルネサンス～盛期ルネサンス
13	盛期ルネサンス
14	北方ルネサンス
15	マニエリスム～バロック、試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	西洋文化史 （後） ［火2］Qクラス						
代表教員	長谷川　美子	授業コード	GK7738QO	科目コード	GK7738	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパの音楽をより深く理解するためには、「音楽」と同時に、「ヨーロッパ」について知ること、その気候・風土、政治的・社会的状況とともに、その精神文化についても理解することが必要である。ヨーロッパ文化に親しみ、その成り立ちと、多様な展開について理解を深めることを目標とする。ヨーロッパ文化の基層をなすギリシア神話・キリスト教についても、基礎的な知識を身につけるようにする。

２．授業概要

多彩なヨーロッパ文化の歴史を、美術を中心に取り上げながら、古代ギリシア・ローマ・中世・ルネサンス・バロックに至るまで時代を追って概観する。授業ではスライド等を使用し、文学史、思想史、宗教史、社会史等の諸問題についても、音楽に関係の深いテーマを取り上げることになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

連続した講義内容なので、毎回の復習が大切である。配布したプリントや資料は次回の授業でも使用するので、必ず既習内容を見直しておくこと。プリント類は、授業で使用した後もきちんと管理し、随時見直し、調べて加筆するなどして学習に役立ててほしい。図書館にある『世界美術大全集』や、ＤＶＤ、授業中に紹介した参考文献を、適宜、参照し、理解を深めてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（試験の一部をレポートとする）（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢など）（評価の２０％）
授業内の小テスト及び小レポート（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。
参考文献については、授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヨーロッパについて広く知的好奇心を持ち、これまでに展開された様々な文化に親しんでほしい。配布したプリントは継続使用することが多いので、必要なものは忘れずに持参すること。遅刻、授業中の私語、スマホ・携帯電話の使用を厳禁する。
2/ 3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない（欠格条件）。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、古代ギリシア
2	古代ギリシア
3	古代ローマ
4	古代ローマ
5	初期キリスト教
6	ビザンティン
7	初期中世
8	紀元1000年頃のヨーロッパ
9	ロマネスク
10	ゴシック
11	ゴシック～初期ルネサンス
12	初期ルネサンス～盛期ルネサンス
13	盛期ルネサンス
14	北方ルネサンス
15	マニエリスム～バロック、試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	テクノロジーと芸術　（前）［月5］Pクラス						
代表教員	森　威功	授業コード	GK7740P0	科目コード	GK7740	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座ではDAWソフトウェアを用いたDTM（デスクトップミュージック）に限らず、より広い視点でコンピュータ音楽を含む「電子音響音楽」の変遷を概観し、テクノロジーを用いた新しい音楽表現の可能性を探る。

２．授業概要

授業は作品鑑賞を交え講義中心で行う。必要に応じて、コンピュータ音楽言語やその他の音響合成・音響処理プログラムの技術的解説とデモンストレーションを行う予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業で配布するプリントの内容をよく理解すること。
また、授業内で紹介するソフトウェアは無料提供されているものが多いので、ぜひ音響合成や自動作曲にチャレンジしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
レポート提出（評価の３０%）
平常点（評価の２０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads著（東京電機大学出版）
『Maxの教科書』ノイマンピアノ著（リットーミュージック）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ音楽を含む電子音響音楽に興味があり、積極的で学習意欲のある者。
意見交換や作品発表は大いに歓迎するが、他の学生への迷惑になる私語、遅刻は厳禁とする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	電子楽器の歴史1-テルミンやオンド・マルトノなど
3	電子楽器の歴史2-シンセサイザーの歴史
4	アナログ電子音響音楽1-ミュージックコンクレートと電子音楽
5	アナログ電子音響音楽2-テープ音楽とシンセサイザー
6	リスニングレポート1-電子音楽作品
7	デジタルオーディオの基礎理論
8	音合成・音響処理プログラミング1-加算合成
9	音合成・音響処理プログラミング2-変調合成
10	インタラクティブ音楽システム
11	アルゴリズム作曲
12	リスニングレポート2-ライブエレクトロニクス作品
13	映画におけるサウンドデザイン
14	サウンドアート
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	テクノロジーと芸術　（後）［月5］Qクラス						
代表教員	森　威功	授業コード	GK7740Q0	科目コード	GK7740	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座ではDAWソフトウェアを用いたDTM（デスクトップミュージック）に限らず、より広い視点でコンピュータ音楽を含む「電子音響音楽」の変遷を概観し、テクノロジーを用いた新しい音楽表現の可能性を探る。

２．授業概要

授業は作品鑑賞を交え講義中心で行う。必要に応じて、コンピュータ音楽言語やその他の音響合成・音響処理プログラムの技術的解説とデモンストレーションを行う予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業で配布するプリントの内容をよく理解すること。
また、授業内で紹介するソフトウェアは無料提供されているものが多いので、ぜひ音響合成や自動作曲にチャレンジしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０%）
レポート提出（評価の３０%）
平常点（評価の２０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads著（東京電機大学出版）
『Maxの教科書』ノイマンピアノ著（リットーミュージック）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ音楽を含む電子音響音楽に興味があり、積極的で学習意欲のある者。
意見交換や作品発表は大いに歓迎するが、他の学生への迷惑になる私語、遅刻は厳禁とする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	電子楽器の歴史1-テルミンやオンド・マルトノなど
3	電子楽器の歴史2-シンセサイザーの歴史
4	アナログ電子音響音楽1-ミュージックコンクレートと電子音楽
5	アナログ電子音響音楽2-テープ音楽とシンセサイザー
6	リスニングレポート1-電子音楽作品
7	デジタルオーディオの基礎理論
8	音合成・音響処理プログラミング1-加算合成
9	音合成・音響処理プログラミング2-変調合成
10	インタラクティブ音楽システム
11	アルゴリズム作曲
12	リスニングレポート2-ライブエレクトロニクス作品
13	映画におけるサウンドデザイン
14	サウンドアート
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	芸術と社会　（前）［水2］Pクラス						
代表教員	姫田　大	授業コード	GK7741P0	科目コード	GK7741	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目的は、音楽と社会の関係を考えることにある。音楽は社会と関わりながら生み出され、伝えられ、広がって行く。身近な例や実際の演奏を出来る限り活用しつつ音楽と社会の関係を研究する。

２．授業概要

音楽と社会の関係を考えるために、歴史的構築、個人の役割、社会的維持の３つの項目を立て、それぞれの具体例とそれらの相互関係に焦点を合わせて、問題の所在を理解する。

また、楽器という観点から音楽と社会を考え、移動という観点から明治以降の様々な問題を扱い、最後に音楽そのものが変化することを、文化の移動と触変、接触と言う観点から扱う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、3回の授業に1回づつ、レポートを作成し発表することが必要。また、場合によって授業内で演奏が必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

出席日数が2/3以上の受講生に対して、学期末試験および授業中実施のレポート内容を考慮し、総合的に成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しない。授業中にプリントを配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻は授業開始３０分後までとし、それ以降の入室は原則として認めない。また、遅刻３回を欠席1回とカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	概論　歴史的構築、個人の創作と経験、社会的維持
2	社会的維持　伝承の仕掛け１　口頭性と書記性、「能」の伝承と「楽譜」について
3	社会的維持伝承の仕掛け２　世界に見る伝承の仕掛けとソルフェージュ
4	社会的維持伝播の仕掛け１　産業、印刷、演奏会場、放送、録音と録画、フェスティバルとコンクール
5	社会的維持伝播の仕掛け２　オーケストラ、職業音楽家とアマチュアの果たす役割
6	音楽教育と社会的維持　産業と学校、助成・保護と検閲・妨害
7	社会的維持と少数者の関係　維持されない音楽　バスク民族を例に
8	社会的存在としての楽器１　楽器製作　木管楽器の故郷・仏クーテゥー・ビュッセイ村
9	社会的存在としての楽器２　楽器分類　ミュゼット（形式と仏民族楽器）
10	社会的存在としての楽器3　楽器と音楽家の地位、楽器の改良と改悪
11	音楽の地理的移動１　異文化の摂取と自文化の輸出
12	音楽の地理的移動２　明治以降の日本　西洋音楽の受容と歌謡曲
13	音楽の地理的移動3　「軍楽隊」トルコからフランスへ　「雅楽」中国から日本、朝鮮、ベトナムへ
14	音楽の変化と社会㊀城道雄「春の海」にみる音楽の移動と触変
15	まとめ 質疑応答

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	芸術と社会　（後）［水2］Qクラス						
代表教員	姫田　大	授業コード	GK7741Q0	科目コード	GK7741	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目的は、音楽と社会の関係を考えることにある。音楽は社会と関わりながら生み出され、伝えられ、広がって行く。身近な例や実際の演奏を出来る限り活用しつつ音楽と社会の関係を研究する。

２．授業概要

音楽と社会の関係を考えるために、歴史的構築、個人の役割、社会的維持の３つの項目を立て、それぞれの具体例とそれらの相互関係に焦点を合わせて、問題の所在を理解する。

また、楽器という観点から音楽と社会を考え、移動という観点から明治以降の様々な問題を扱い、最後に音楽そのものが変化することを、文化の移動と触変、接触と言う観点から扱う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、3回の授業に1回づつ、レポートを作成し発表することが必要。また、場合によって授業内で演奏が必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

出席日数が2/3以上の受講生に対して、学期末試験および授業中実施のレポート内容を考慮し、総合的に成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しない。授業中にプリントを配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻は授業開始３０分後までとし、それ以降の入室は原則として認めない。また、遅刻３回を欠席1回とカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	概論　歴史的構築、個人の創作と経験、社会的維持
2	社会的維持　伝承の仕掛け１　口頭性と書記性、「能」の伝承と「楽譜」について
3	社会的維持伝承の仕掛け２　世界に見る伝承の仕掛けとソルフェージュ
4	社会的維持伝播の仕掛け１　産業、印刷、演奏会場、放送、録音と録画、フェスティバルとコンクール
5	社会的維持伝播の仕掛け２　オーケストラ、職業音楽家とアマチュアの果たす役割
6	音楽教育と社会的維持　産業と学校、助成・保護と検閲・妨害
7	社会的維持と少数者の関係　維持されない音楽　バスク民族を例に
8	社会的存在としての楽器１　楽器製作　木管楽器の故郷・仏クーテゥー・ビュッセイ村
9	社会的存在としての楽器２　楽器分類　ミュゼット（形式と仏民族楽器）
10	社会的存在としての楽器3　楽器と音楽家の地位、楽器の改良と改悪
11	音楽の地理的移動１　異文化の摂取と自文化の輸出
12	音楽の地理的移動２　明治以降の日本　西洋音楽の受容と歌謡曲
13	音楽の地理的移動3　「軍楽隊」トルコからフランスへ　「雅楽」中国から日本、朝鮮、ベトナムへ
14	音楽の変化と社会㊀城道雄「春の海」にみる音楽の移動と触変
15	まとめ 質疑応答

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音響工学芸術論 （前） ［火1］クラシック系						
代表教員	富　正和	授業コード	GK774200	科目コード	GK7742	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マイクロフォンを使った録音の基礎を学ぶ。
I.マイクアレンジ(音源とマイクの距離・角度・高さ)の大切さを認識し、より良い録音に繋がる一歩とする。
II.音響機器全般の操作を学び、基礎的な録音技術の習得をする。(マイクの扱い方・ミキサー・録音編集ソフトの扱い・他)

『マイク一本でもミキシング』『鏡のように客観的に楽器の音を聞く』『考えて音を録れる』

・クラシック系学生は、日々の楽器練習録音の質向上、マイクの知識が演奏会音響使用時良い演奏に繋がる。
・音楽音響デザインコース及び、ポピュラー音楽系学生は、映像作品などの音声収録技術の向上。
・演劇ミュージカルなどでの再生表現の向上。

2．授業概要

マイク1本での基礎的な録音から始めます。『マイク一本でもミキシング』

初めて音響機器を操作する人や、演奏を目指す受講者でも、録音技術の理解と実践につながるよう、録音対象を以下の3つとします。
・声の録音(ストレートトーク、ナレーション、影アナウンス、MCなどの話声)
・サウンドステッカーの録音(楽器演奏による開演ベル、ファンファーレ、映像作品や公共の場における喚起音)
・効果音の録音(演劇やミュージカル、映像作品における、目的を持った効果音)

マイクの正しい扱い方、マイクを通して『鏡のように楽器の音を客観的に聞く』。マイクを手に持って音を収音する経験。(スタンドももちろん使います)
柔軟で幅広い収音方法の習得し、録音～再生～編集作業や音声ファイル(録音物)の扱いを学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・参考文献等により、あらかじめ基本的な機材について調べておくこと。
・授業録音したファイルを持ち帰り、自分のシステムで試聴すること。また、その特徴を書き記すことを推奨します。

4．成績評価の方法及び基準

参加姿勢 50%
レポート 25%
授業中に実施した音源の提出 25%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

レコーディング/ミキシングの全知識［改訂版］
杉山 勇司（著）

サウンドレコーディング技術概論

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音に関する基本的な機材はスタジオ機材を使いますが、各自パソコンを所有していることが望ましい。

授業計画	
	［半期］ クラシック系の学生（電子楽器経験無い学生向け）
1	スタジオの使用方法オリエンテーション ・マイクとスタンド、ケーブルの扱い ・マイクを恐れずに、自信を持って扱うには、その簡単な仕組み知ること
2	マイクを通して音を聞く ・マイクを手に持って、いろんな位置で音を聞いてみる ・録音の仕方の前に、録音した音の聞き方
3	計画→録音→再生→編集→出力の流れを学ぶ ・いきなり録音は始められない。生の音の状況と準備、想定
4	I. 声の録音(マイクとスタンドの扱いに慣れる) ・ナレーション、影アナウンスなどのストレートトーク録音
5	I. 声の録音(ミキサーと録音機の扱いに慣れる) ・録音している時に聞く音と、事後に再生して聞く音の違い
6	I. 声の録音のまとめと試聴 ・人の声の強弱、高低、遠近について、歌を含め声を録るのが一番難しいと認識する
7	II. サウンドステッカーの録音(前後のトリム) ・開演ベル ・自分の持ち楽器を、『鏡のようにマイクを通して聞くこと』で、自らの楽器の音色について考察できることを認識する
8	II. サウンドステッカーの録音 ・大きな音の楽器を録音してみる、ファンファーレ、鐘等 ・演奏のダイナミクスと、録音物のダイナミクス
9	II. サウンドステッカーの録音 ・小さな音の楽器を収音してみる、親指ピアノ ・普段聞こえない音が聞こえるのは？
10	II. サウンドステッカーの録音のまとめと試聴
11	録音と編集の関係を考察する ・音を切ったり貼ったりして、操作する上で大切なのは、元の音がきちんと録音されていること。
12	録音機と編集ソフトの復習 ・DAW編集ソフトへの音の取り込みと編集
13	録音機と編集ソフトの復習 ・DAW編集ソフトからの書き出し、実際の使用方法
14	演奏会や本格的な録音のために、演奏家が知っておくといいこと ・『鏡のように客観的に自分の楽器の音を知る』
15	2つの録音のまとめと編集への考察 ・一つの記録録音は、公開するものでなくとも、その後の演奏に必ず有益に繋がることがある ・音響エンジニアとどのように、コミュニケーションをとれば、より良い演奏活動に繋がるのか

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音響工学芸術論 （後） ［火1］コンテンポラリー系						
代表教員	富　正和	授業コード	GK7742A0	科目コード	GK7742	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マイクロフォンを使った録音の基礎を学ぶ。
I.マイクアレンジ(音源とマイクの距離・角度・高さ)の大切さを認識し、より良い録音に繋がる一歩とする。
II.音響機器全般の操作を学び、基礎的な録音技術の習得をする。(マイクの扱い方・ミキサー・録音編集ソフトの扱い・他)

『マイク一本でもミキシング』『鏡のように客観的に楽器の音を聞く』『考えて音を録れる』

・クラシック系学生は、日々の楽器練習録音の質向上、マイクの知識が演奏会音響使用時良い演奏に繋がる。
・音楽音響デザインコース及び、ポピュラー音楽系学生は、映像作品などの音声収録技術の向上。
・演劇ミュージカルなどでの再生表現の向上。

2．授業概要

マイク1本での基礎的な録音から始めます。『マイク一本でもミキシング』

初めて音響機器を操作する人や、演奏を目指す受講者でも、録音技術の理解と実践につながるよう、録音対象を以下の3つとします。
・声の録音(ストレートトーク、ナレーション、影アナウンス、MCなどの話声)
・サウンドステッカーの録音(楽器演奏による開演ベル、ファンファーレ、映像作品や公共の場における喚起音)
・効果音の録音(演劇やミュージカル、映像作品における、目的を持った効果音)

マイクの正しい扱い方、マイクを通して『鏡のように楽器の音を客観的に聞く』。マイクを手に持って音を収音する経験。(スタンドももちろん使います)
柔軟で幅広い収音方法の習得し、録音～再生～編集作業や音声ファイル(録音物)の扱いを学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・参考文献等により、あらかじめ基本的な機材について調べておくこと。
・授業録音したファイルを持ち帰り、自分のシステムで試聴すること。また、その特徴を書き記すことを推奨します。

4．成績評価の方法及び基準

参加姿勢 50%
レポート 25%
授業中に実施した音源の提出 25%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

レコーディング/ミキシングの全知識［改訂版］
杉山 勇司（著）

サウンドレコーディング技術概論

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音に関する基本的な機材はスタジオ機材を使いますが、各自パソコンを所有していることが望ましい。

授業計画	
	［半期］ ブラックホールの学生系向け
1	スタジオの使用方法オリエンテーション ・マイクとスタンド、ケーブルの扱い ・録音の仕方の前に、録音した音の聞き方
2	マイクを通して音を聞く ・生の音源の状況、録音レベル、録音機の準備、ダイナミックマイクとコンデンサーマイクの使い分け ・マイクを手に持って、いろんな位置で音を聞いてみる
3	計画→録音→再生→編集→出力の流れを学ぶ ・一貫してどのような音を録り、伝えたいのかをよく考える ・3つの録音のアイデアについてディスカッション
4	I. 声の録音(無編集で録るには？) ・ナレーション、影アナウンスなどのストレートトーク ・遠くからのセリフなど、マイクアレンジの大切さを学ぶ
5	I. 声の録音(無編集で録るには？) ・様々の音の中で、『声』が難しいのは、そこに意味やインフォメーションが含まれているから。 ・ボイスクレジット、キューの出し方、音量フェーダーの操作
6	I. 声の録音のまとめと試聴 ・人の声の強弱、高低、遠近について、声を録るのが一番難しい ・音は経験によるところが大きい
7	II. サウンドステッカーの録音(前後の編集・テイクの管理) ・開演ベル ・注意喚起音はどのように表現すればいいか？
8	II. サウンドステッカーの録音(ボイスクレジット・ファイル名の管理) ・ファンファーレ、鐘 ・音程や音階を持った録音時に気をつけること
9	II. サウンドステッカーの録音(マイクを追加してみる) ・弱音の楽器を収音してみる。 ・音の心理効果について、意味が伝わる音作り
10	II. サウンドステッカーの録音のまとめと試聴 ・数小節で、イメージや意味を伝えるために、どのような音作りが必要か？ ・音のアイデア、収音技術のアイデア、両方のバランスを備える
11	III. 効果音の録音(編集) ・ex鳥の羽ばたき、焚き火 ・現実にある音の再現、足音など人間の所作音
12	III. 効果音の録音(加工) ・ex心臓の音を作ってみよう ・現実と創作の違い、内面と外面の音の扱いから、どのように収音するべきか
13	III. 効果音の録音(多重録音) ・ex継続する音を録ってみよう。空調、吹きやまぬ風 ・縮めることは簡単だが、伸ばすことは少し困難
14	III. 効果音の録音のまとめと試聴 ・環境音であっても、どのように扱うか ・カクテルパーティー効果をうまく使う
15	3つの録音のまとめと考察 ・目的の音に辿り着くには、探すより作る方が早い ・日々の楽器の収音や録音に活かすには、一本一本の丁寧な収音録音技術が支えになる

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	プロデュース論／プロデュース学 （前） ［火1］コンテンポラリー系							
代表教員	徳永　宏	授業コード	GK774300	科目コード	GK7743	期間	半期	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	1					
対象コース	全	科目分類	教養					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

主にコンサート音響（SR)についての基礎知識とテクニックを学習する。
音を出すための一連の流れを把握することにより、簡易的な音響セットであれば１人でも対応できるようにすることが目標である。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートして、マイク、ミキサー、アンプなどの調整方法を順を追って学習する。
後半では実際の演奏に対して実習を実施する予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献等で予め予備知識を得ておくと良い。
実習した内容は各自まとめて書き記しておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%
授業内課題20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要なテキストはその都度配布する。

＜参考文献＞
PA入門［改訂版］基礎が身に付くPAの教科書
小瀬 高夫（著），須藤 浩（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］ ブラックホールの学生系向け
1	ガイダンス
2	ケーブルの取り扱い方
3	各種スタンド立調整について
4	ミキサーの構造①～マイクプリアンプ～
5	マイクの種類とその特性
6	ラインレベル機器の処理について（D.Iなど）
7	ミキサーの構造②～イコライザーの役割～
8	ミキサーの構造③～パンポットとAUX～
9	グラフィックイコライザーとパワーアンプの役割
10	スピーカーチューニング実習
11	代表的なエフェクターの使用方法
12	モニタースピーカーの設置と調整方法（２台）
13	モニタースピーカーの設置と調整方法（複数台）
14	音響実習（バンド）
15	まとめと総評

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	プロデュース論／プロデュース学 （後） ［火1］ クラッシク系						
代表教員	徳永　宏	授業コード	GK7743A0	科目コード	GK7743	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主にコンサート音響（SR)についての基礎知識とテクニックを学習する。
音を出すための一連の流れを把握することにより、簡易的な音響セットであれば１人でも対応できるようにすることが目標である。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートして、マイク、ミキサー、アンプなどの調整方法を順を追って学習する。
後半では実際の演奏に対して実習を実施する予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献等で予め予備知識を得ておくと良い。
実習した内容は各自まとめて書き記しておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%
授業内課題20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要なテキストはその都度配布する。

＜参考文献＞
PA入門［改訂版］基礎が身に付くPAの教科書
小瀬 高夫（著），須藤 浩（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］ クラシック系の学生（電子楽器経験無い学生向け）
1	ガイダンスと音響概論
2	ケーブルの種類とケーブルの巻き方
3	各種スタンド立て方とマイクホルダーの調整
4	ミキサーの構造①～マイクプリアンプ～
5	マイクの種類とその特性
6	ラインレベル機器の処理について（アンバランス）
7	ミキサーの構造②～イコライザーの役割～
8	ミキサーの構造③～パンポットとAUX～
9	グラフィックイコライザーとパワーアンプの役割
10	スピーカーチューニング実習
11	モニタースピーカーの設置と調整方法
12	代表的なエフェクターの使用方法
13	音響実習①（弾き語り）
14	音響実習②（アンサンブル系）
15	まとめと総評

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	舞踊史１　（前）［火1］						
代表教員	市瀬　陽子	授業コード	GK774500	科目コード	GK7745	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエ成立へと至るヨーロッパの舞踊史。
舞踊史を概観するとともに、その歴史を音楽やオペラ、文学、美術などとの関連において理解する。
舞踊の社会的な位置づけにも関心を持ち、西欧との比較・関連という形で日本の舞踊文化にも目を向ける。
バレエ、オペラ、ミュージカル、声楽、器楽、音楽学など、様々な専攻の学生が交流できる場としたい。

２．授業概要

視聴覚資料を用いた講義が中心になるが、歴史的な資料の解読や、ダンスの復元を試みる機会も設ける。
「踊って弾いて学ぶ舞踊史」として、バレエ専攻の学生には資料に即したダンスを体験してもらい、
音楽専攻の学生には舞曲を演奏する機会を作りたい。
実際の授業は、履修者の状況に合わせて対応することになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題については、授業において必要なことを指示する。
舞曲の名称や歴史を理解するために、音楽事典（『ニューグローヴ世界音楽大事典』など）を参照することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

全授業回数の２／３以上の出席を必要とする。
実習参加（50%）
レポート（50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト　『バレエとダンスの歴史』（鈴木晶編、平凡社、2012年）
参考書　オックスフォード／バレエ、ダンス事典（鈴木晶監訳、平凡社、2010年）
　　ニューグローヴ世界音楽大事典

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教養科目なので、専攻に関わらず積極的な履修を期待します

授業計画	
	［半期］ 15世紀から19世紀までの西欧舞踊史。世界史を概観しつつ、音楽、文学、美術など文化全般に視野を広げ、相互の関連を把握できるようにしていく。
1	ガイダンス
2	15世紀：ブルゴーニュとイタリア
3	レオナルド・ダ・ヴィンチの時代
4	16世紀：イタリアとフランス
5	天正時代の日本と西欧
6	17世紀：フランスの宮廷バレエ
7	17世紀：ヴェルサイユ宮殿の舞踏会
8	17世紀：オペラとバレエ
9	18世紀：バレエとオペラの展開
10	マリー=アントワネットの時代
11	19世紀：舞踏会、オペラ、バレエ
12	ワルツの時代と開国の日本（鹿鳴館）
13	19世紀：ロマン主義とバレエ
14	19世紀：ロシアのバレエ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	舞踊史２　（後）　[火1]						
代表教員	市瀬　陽子	授業コード	GK774600	科目コード	GK7746	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

20世紀からのバレエとダンスの展開を追うとともに、上演を支える環境（人材育成など）も視野に入れ、舞踊の歴史と文化に対する理解をさらに深めたい。
歴史を顧みることを通して、現代を捉え直し、未来に向けて問題意識を高めて解決を探り、あるいは新しい創造の可能性を追求する。自身の活動の方向性について考え、レポートにまとめる。

２．授業概要

「舞踊史１」と同様、視聴覚資料を用いた講義が中心になる。
20世紀以降のバレエ作品を取り上げるとともに、バレエやオペラなどの上演を可能にする環境（実演家やスタッフの人材育成、オーディエンスやスポンサーなど）がいかに形成されてきたかといった課題にも目を向けていく。
さらに、コンテンポラリーダンス、民族的な舞踊との関連などについても順次取りあげる予定。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で紹介する作品やカンパニーについて、興味があれば作品全編を観賞したり、実際の舞台を見に行ったり、ワークショップに参加したりなど、自ら動き、体験することをお勧めしたい。

４．成績評価の方法及び基準

成績はレポートにより評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト　『バレエとダンスの歴史』　鈴木晶編、平凡社、2012年
参考書は授業において随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「舞踊史１」既修であることが望ましい。
全授業回数の２／３以上の出席が必要です。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	20世紀：映像と表現
3	20世紀：バレエ・リュス
4	20世紀：アメリカのバレエ
5	20世紀：日本におけるバレエとダンス
6	バレエとオペラ：指導・教育と人材育成
7	バレエとオペラ：衣装と舞台美術、照明
8	20世紀から21世紀へ：モダンバレエ、モダンダンス
9	20世紀から21世紀へ：コンテンポラリーダンス
10	20世紀から21世紀へ：メディアとダンス
11	20世紀から21世紀へ：日本の学校教育とダンス
12	民族舞踊とパフォーマンス：スパニッシュダンス
13	民族舞踊とパフォーマンス：アイリッシュダンス
14	民族舞踊とパフォーマンス：日本の伝統芸能
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	運動生理学　（前）［火1］						
代表教員	吉沢　剛	授業コード	GK774900	科目コード	GK7749	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

運動時の筋・関節・神経・呼吸・循環などの生理学的な機能や働き、構造的変化について理解する。

２．授業概要

運動時に身体にどのようなことが生じているのか、その現象や仕組みについて学ぶ。運動による生理学的変化を筋・関節・神経・呼吸・循環などに分けて学習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業の内容に関して、参考文献などを読んでおくこと。不定期に小テスト（確認テスト）を行うので復習しておくこと（小テスト実施日は授業内で提示する）。

４．成績評価の方法及び基準

小テスト30%、試験70%
第15回目の授業時間中に試験を実施（試験の解説も同時間内に実施）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜資料を配布
【参考文献】
入門運動生理学　第4版（勝田　茂編著）杏林書院 2015
運動生理学の基礎と発展　改訂版（春日規克, 竹倉宏明編著）フリースペース 2006
運動生理学の基礎と応用　健康科学へのアプローチ（長澤純一, 杉浦雄策, 古川覚他著）ナップ 2016

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	半期
1	オリエンテーション 運動生理学概論
2	運動と骨格筋①筋の種類と構造・収縮様式について
3	運動と骨格筋②ATPとエネルギー供給機構について
4	運動と骨格筋②筋繊維の種類と筋疲労の要因・筋損傷について
5	運動と関節
6	運動と神経
7	運動と呼吸
8	運動と循環
9	運動と体温
10	運動と栄養
11	運動とホルモン
12	年齢による身体の変化
13	運動処方
14	トレーニングの方法と効果
15	試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	解剖学 （前） ［火4］						
代表教員	杉本　亮子	授業コード	GK775100	科目コード	GK7751	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンサー、指導者として「踊る体の関節や筋肉の機能」を学ぶこと

２．授業概要

全身の「骨、関節、骨格、筋肉」の構造、機能について、資料や骨の標本をもとに理解を深めていく

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で描く絵を参考に、実際の実技のレッスン中に考えながら動くこと

４．成績評価の方法及び基準

平常点３０％と授業内で行う３回のテスト７０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリントを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業で得た知識を実技の授業で試してみながら理解を深めてください

授業計画	
	[半期]
1	骨、関節、骨格、筋肉の構造と機能
2	体幹の構造と関節の動き
3	体幹の筋肉、呼吸
4	体幹テスト
5	下肢：股関節の構造と関節の動き
6	下肢：股関節の筋肉について
7	下肢：膝の構造と関節の動き、筋肉
8	下肢：足関節の構造と関節の動き、筋肉
9	下肢：足指の構造と関節の動き
10	下肢：足の筋肉について
11	下肢テスト
12	上肢：肩（肩甲骨と鎖骨）について
13	上肢：肩関節の構造と関節の動き、筋肉
14	上肢：肘関節の構造と関節の動き、筋肉
15	上肢テスト・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	動作学 （後） ［火4］						
代表教員	杉本　亮子	授業コード	GK775200	科目コード	GK7752	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

解剖学で得た知識を、実習を通してさらに理解を深め、姿勢改善や動作改善を試みること

２．授業概要

グループワークでのヴァリエーション及び演奏動作の解析と自分のからだの形態計測

３．授業時間外の学習（予習復習について）

解剖学で得た知識を忘れないようにノートと資料を復習をする

４．成績評価の方法及び基準

平常点20%とヴァリエーション解析、形態計測のレポート提出80%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

解剖学のノートと資料、および配布資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

少人数でのグループワークを通して、自分のからだの姿勢や動かし方の改善について考えてください

授業計画	
	［半期］
1	姿勢と重さのバランス：概要
2	実習：上肢の移動と体幹の呼応について
3	姿勢と重さのバランス：足のスタンスと重心の移動
4	実習：weight shift と travering
5	実習：ヴァリエーション及び演奏動作解析１
6	実習：ヴァリエーション及び演奏動作解析２
7	実習：ヴァリエーション及び演奏動作解析３
8	実習：ヴァリエーション及び演奏動作解析４
9	姿勢チェックと形態計測概論
10	形態計測実習：太さと長さ
11	形態計測実習：姿勢観察１
12	形態計測実習：姿勢観察２
13	形態計測実習：姿勢観察３
14	形態計測実習：姿勢観察４
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	芸術史Ⅰ （前） ［火5］						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK775300	科目コード	GK7753	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうこと学ぶ本講義が、音楽を志す学生皆さんの豊かな表現力への探求として、ひとつのアプローチとなることを目指す。

２．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学んでもらいたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえていくこと。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

４．成績評価の方法及び基準

前期末レポート試験（必須）、授業内小テストあるいは小レポート（各学期2回予定）、授業への参加姿勢(各授業後のリアクションペーパー)によって総合的な評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。そのほか、授業時に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自が自身の表現の糧になるように美術に関心を持ち、授業で取り上げる作品と向きあうこと。

必須ではないが、後期の芸術史Ⅱを引き続き受講することを望む。

授業計画	
	［半期］ 前期は、先史時代から中世美術までを扱う。
1	ガイダンス・先史美術
2	エーゲ文明の美術
3	ギリシア美術Ⅰ（幾何学様式とアルカイック）
4	ギリシア美術Ⅱ（クラシック）
5	ギリシア美術III（ヘレニスム）
6	エトルリア美術・ローマ美術Ⅰ（建築）
7	ローマ美術Ⅱ（彫刻）
8	ローマ美術III（絵画）
9	初期キリスト教美術
10	ビザンティン美術
11	初期中世美術
12	ロマネスク美術I（建築・彫刻）
13	ロマネスク美術II（絵画）
14	ゴシック美術Ⅰ（建築・彫刻）
15	ゴシック美術Ⅱ（絵画）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	芸術史II （後） ［火5］						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK775400	科目コード	GK7754	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「芸術史I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうこと学ぶ本講義が、音楽を志す学生皆さんの豊かな表現力への探求として、ひとつのアプローチとなることを目指す。

2．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学んでもらいたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえていくこと。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

4．成績評価の方法及び基準

学期末レポート試験（必須）、授業内小テストあるいは小レポート（各学期2回予定）、授業への参加姿勢(各授業後のリアクションペーパー)によって総合的な評価を行う。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。そのほか、授業時に適宜紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「芸術史I」の単位を修得済の学生に限る　。

授業計画	
	［半期］ 後期は、ルネサンスから近代、２０世紀に至るまでの美術史の流れを概説する。
1	ルネサンス美術I（プロト・ルネサンス）
2	ルネサンス美術II（初期ルネサンス）
3	ルネサンス美術III（盛期ルネサンス）
4	北方ルネサンス
5	マニエリスム美術
6	バロック美術I（イタリア、スペイン、フランス）
7	バロック美術II（オランダ）
8	ロココ美術
9	近代美術Ｉ（新古典主義とロマン主義）
10	近代美術II（写実主義・印象派I）
11	近代美術Ⅲ（印象派II・後期印象派・新印象派）
12	近代美術Ⅳ（象徴主義と世紀末美術）
13	２０世紀の美術I（フォービスムと表現主義）
14	２０世紀の美術Ⅱ（未来派・キュビスム、構成主義と抽象主義）
15	２０世紀の美術Ⅲ（ダダイスムとシュルレアリスム、現代美術へ）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音響学I （前） ［金5］						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK775500	科目コード	GK7755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音に関する基本的性質や法則を理解し、作曲・演奏・鑑賞の助けとする。同時に、実生活においても役に立つ基礎知識を身につける。音楽を学ぶ学生にとって必要な音に関する基礎的内容を理解することを目標とする。

2．授業概要

音の世界は実に幅が広い。まず、この講義では、楽器等の発音原理、電気音響変換器などを理解するために必要な、音の物理的特性をできるだけ分かりやすく解説する。また、音に対する人間の聴覚の特性について学習させる。授業に当たっては、基本的な講義に加え、聴覚に関するデモンストレーションや、ヘッドホンの試聴を通しての電気音響変換器に関する体験学習なども行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の80%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の出席と試験の成績が90点以上の学生にSの評価を与える

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 音響学の基礎となる音の物理的特性と聴覚の特性について学習する。
1	ガイダンス：音の世界の鳥瞰
2	音とは何か
3	音の物理的性質
4	デシベル（１）
5	デシベル（２）
6	音圧・音圧レベル
7	周波数と波長
8	正弦波と純音
9	音を見る
10	聴覚（１）
11	聴覚（２）
12	マスキング
13	ヘッドホンの種類と特性
14	前半のまとめ
15	前半の内容確認（テスト）とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音響学II （後） ［金5］						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK775600	科目コード	GK7756	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「音響学I」の単位修済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音に関する基本的性質や法則を理解し、作曲・演奏・鑑賞の助けとする。同時に、実生活においても役に立つ基礎知識を身につける。音楽を学ぶ学生にとって必要な音に関する基礎的内容を理解することを目標とする。

2．授業概要

この講義では、前期の基礎知識を基に、楽器の仕組み、電気音響変換器、ディジタルオーディオなど、実際の音の応用についてできるだけ分かりやすく解説する。授業に当たっては、可能な限り体験を通した学習をこころがける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の80%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の出席と試験が90点以上の学生にSの評価を与える

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 前期の基礎知識をもとに、電気音響変換器（マイクロホン、スピーカ）の特性と楽器の音響学的特性を学習する。また、音声やデジタルオーディオについて学習する。
1	後半の概要
2	電気音響変換器（１）
3	電気音響変換器（２）
4	共鳴
5	オーディオの歴史
6	デジタルオーディオ（１）
7	デジタルオーディオ（２）
8	デジタルオーディオ（３）
9	楽器の仕組み
10	電気・電子楽器
11	空間音響
12	エフェクタ
13	音響の将来
14	まとめ
15	期末テストと全体的なまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学I （前） ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7757A0	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。また、高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 　前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学I （前） ［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7757B0	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

前期

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［半期］ 前期ではミクロ経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対して需要と供給、弾力性の理解から、これらが変化する要因とその影響・効果を学習します。
1	経済学とは:人々の意思決定
2	需要と供給の関係について知ろう
3	価格上限規制とは何か？
4	価格下限規制とは何か？
5	需要の（価格）弾力性を知ろう
6	供給の（価格）弾力性を知ろう
7	需要と供給による政策を考えよう：税金
8	弾力性と税金の関係を考えよう
9	市場の効率性を考えよう(1)：消費者余剰
10	市場の効率性を考えよう(2)：生産者余剰
11	効率性への対応の必要性について：死荷重
12	税と効率・公平について考えよう
13	外部性について知ろう
14	外部性に対する公共政策の考え方
15	財の種類について：公共財と共有資源

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学II （後） ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7758AO	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	講義内容・履修上の注意等の説明 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学II （後） ［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7758B0	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［半期］ 後期ではマクロ経済学の基礎知識を定着させ、所得の成長、物価の変化、失業率を用いて、経済活動の観察による統計等のデータと経済学の理論を合致させることを学習する。
1	前期の復習とマクロ経済学について：需要と供給による効率性の確認
2	国民所得とその決定を理解しよう
3	「実質GDPと名目GDPとは何か？
4	生計費を測定するには？:消費者物価指数
5	生産と成長をどのように把握・理解するのか？
6	失業の存在と影響を知ろう
7	貯蓄、投資と金融システムについて知ろう
8	貨幣について：貨幣システムとは？
9	貨幣需給とインフレーションの関係を知ろう
10	総需要曲線とは何か？
11	総供給曲線とは何か？
12	総需要曲線がシフトする時を考えよう
13	総供給曲線のシフトする時を考えよう
14	外国との取引の存在：開放マクロ経済学について考えよう
15	購買力平価について知ろう

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジェンダーI （前） ［金5］						
代表教員	大森　美佐	授業コード	GK775900	科目コード	GK7759	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・ジェンダー論
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄を、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。

2．授業概要

ジェンダーとは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉です。生物学的な意味での性別とは区別されます。洋服の選び方、身体の動かし方、進路の選び方、仕事の選び方、仕事の仕方、自分の人生をどう生きるか。私たちは生活のあらゆる場面で、自分の性別や他者の性別を意識せざるをえません。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方について理解していきます。恋愛や結婚、教育や仕事、育児や家族など、私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法を学ぶとともに、②日常に溢れる「当たり前」を問い直す力を身につけることを目指します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・教材での学習：テキストと講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍を積極的に読むことで、各トピックについての理解が深まります。
・生活のなかでの学習：身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加度（40%）、試験（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回コメントシートを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（参考図書）
その他、各トピックに関連する参考文献は、毎回の講義のなかで紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席を重視します。教室では、クラスのみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

授業計画	
	[半期]
1	ガイダンス＆イントロダクション： 私たちは＜分類＞するー「ジェンダー」の定義
2	性差と性役割：「男らしさ」「女らしさ」を考える
3	容姿とジェンダー：服飾・美容整形・ダイエット
4	教育とジェンダー：学校教育におけるジェンダー差
5	就労とジェンダー①：性別職務分離と男女経済格差
6	就労とジェンダー②：職場におけるジェンダー
7	就労とジェンダー③：グローバル化する性別役割分業　世界では誰が家事を担っているのか？
8	恋愛と性行動①：同性愛と異性愛
9	恋愛と性行動②：データから読む日本の恋愛の状況、DVD鑑賞
10	ドメスティック・バイオレンス
11	結婚・パートナーシップ
12	夫婦関係の諸相
13	生殖・子育てとジェンダー
14	講義の統括と試験
15	試験解説と「ジェンダー社会で生きるということ」についてのグループ・ディスカッション

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジェンダーII （後） ［金5］						
代表教員	青木　由香	授業コード	GK776000	科目コード	GK7760	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「ジェンダーI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・人生の中年期から高齢期において直面する諸課題について、「ジェンダー」の視角を用いて読み解く。
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄について、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。
・ジェンダーの視点から、自分たちにとってより良い「社会」を構想する。

2．授業概要

「ジェンダー」とは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉で、生物学的な意味での性別とは区別されています。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
　本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方について理解していきます。とくに人生の中年期から高齢期において直面する諸課題、具体的には「働くこと」や「ケアすること」を中心に私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法をマスターするとともに、②少子化・高齢化が進む現代日本の諸課題を「ジェンダー」という視点から読み解くための知識を身につけていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍を積極的に読むことで、各トピックについての理解を深めることができます。
・身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加度（40%）、定期試験の得点（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回レスポンス・カードを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業への参加度を重視します。授業中、グループ・ディスカッションの機会を設けます。日常生活の諸現象を、これまでとは違った「ジェンダー」の視点で考えてみませんか。

授業計画	
	[半期]
1	ガイダンス＆イントロダクション：「ジェンダー」を学ぶことの意味
2	メディアとジェンダー①：「女らしさ」「男らしさ」はどのように描かれているのか
3	メディアとジェンダー②：テレビドラマにみる「女らしさ」「男らしさ」
4	「少子化」「高齢化」とジェンダー：データで読み解く日本の「いま」、そして「未来」
5	ケアとジェンダー①：誰がケアを担っているのか（家族介護の諸相）
6	ケアとジェンダー②：誰がケアを担っているのか（無償労働とケアワーク）
7	ケアとジェンダー③：「ケアすること」をめぐる困難（家族介護）
8	ケアとジェンダー④：「ケアされること」をめぐる困難（高齢者介護）
9	ライフコースとジェンダー①：男性のライフコース
10	ライフコースとジェンダー②：女性のライフコース
11	ライフコースとジェンダー③：「生きづらさ」を考える
12	政策とジェンダー①：現代日本の家族政策・福祉政策の現状
13	政策とジェンダー②：「貧困問題」の諸相
14	政策とジェンダー③：「働くこと」をめぐる課題
15	到達度の確認

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	心理学I （前） ［火5］						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK776100	科目コード	GK7761	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

２．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりに次週扱うテーマを提示するので、テーマに関する文献等を読み、情報収集をすると尚望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

前期末レポート（８０点）、授業時の小レポート（２0点）の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。(S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点） 評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション：心理学と、発達心理学について
2	発達心理学：生命の誕生から死まで
3	発達心理学：胎児期と胎児の危機
4	発達心理学：新生児期の特徴
5	発達心理学：乳児期の特徴
6	認知心理学：見る・見えるの心理
7	認知心理学：見る：見えるの心理２
8	発達心理学：幼児期の発達
9	発達心理学：児童期の発達
10	発達心理学：記憶
11	認知心理学：認知症の実態と要因１
12	認知心理学：認知症の実態と要因２
13	臨床心理学：自己とストレスマネジメント
14	臨床心理学：自己とストレスマネジメント２
15	自己理解：怒りの対処

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	心理学II （後） ［火5］						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK776200	科目コード	GK7762	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「心理学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

２．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりに次週扱うテーマを提示するので、テーマに関する文献等を読み、情報収集をすると尚望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

後期末レポート（８０点）、授業時の小レポート（２０点）の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。(S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点) 評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション：前期のおさらいと後期の流れ
2	発達心理学：幼児期の特徴
3	発達心理学：発達障害とは
4	発達心理学：発達障害への支援
5	発達心理学：発達障害への支援
6	発達心理学：青年期前期・後期の特徴
7	発達心理学：成人期の特徴と危機
8	発達心理学：老年期の特徴と危機
9	社会心理学：人を惹きつける心理学
10	社会心理学：人と交わる心理学
11	臨床心理学：人格とは
12	臨床心理学：精神疾患とは
13	臨床心理学：カウンセリングのこころ
14	臨床心理学：心理療法
15	発達心理学と臨床心理学

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	栄養学 （後） ［火1］						
代表教員	岸　昌代	授業コード	GK776300	科目コード	GK7763	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ダンサーとして、本番でのパフォーマンスを高めていくためには、ふだんの食事・栄養からコンディショニングが必要となります。そこで、本授業では、自らの食生活を振り返りながら、栄養学の基礎を学びます。また、指導者としても活用できる栄養学の知識を身につけていくことを目標とします。

2．授業概要

配布資料をもとに進めます。
（1）食事の意味・目的　（2）食事のととのえ方　（3）各栄養素の働き　（4）障害予防　（5）舞台前・舞台中の食生活

3．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】自分自身の食生活を振り返ってみることや、食事・栄養に関することに興味を持ち、情報収集することをおすすめします。
【復習】授業で学んだことを実際のレッスンや食生活で実践してみてください。

4．成績評価の方法及び基準

授業内で行う3回の確認テスト70%、平常点30%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で必要に応じて資料を配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で学んだことを実生活で活用し、自分に合ったコンディショニングの方法を身につけていってください。

授業計画	
	〔半期〕
1	ダンサーにとっての食事の意味・目的
2	身体組成、エネルギー必要量
3	食事の基本（1）食事づくりをするとき
4	食事の基本（2）中食・外食を利用するとき
5	1～4回の確認テスト・まとめ
6	糖質・たんぱく質の働き
7	ビタミン・ミネラルの働き、貧血予防
8	女性アスリートの三主徴
9	ウエイトコントロール
10	6～9回の確認テスト・まとめ
11	水分補給
12	舞台前・舞台中の食生活
13	旅公演のときの食生活
14	行事食
15	11～14回の確認テスト・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	演奏会実習　[火3]						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HE175100	科目コード	HE1751	期間	通年
担当教員	古田　賢司、曲尾　雅子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間の各演奏会における企画と演奏

２．授業概要

各演奏会のプログラミング、演奏準備その他制作にかかわる諸事の実習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自実技の練習

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
参加姿勢（４０%）
演奏評価（１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント１　　プロフィール等の自己アピールを学ぶ
1	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント１ プロフィール等の自己アピールを学ぶ
2	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント2 演奏会の企画書等の作成を学ぶ
3	年間のコンサートへ向けての計画
4	デビューコンサートへ向けてのプログラミング
5	デビューコンサートへ向けての合わせ、練習
6	デビューコンサートへ向けての合わせ、練習
7	デビューコンサートへ向けての合わせ、練習
8	コンチェルトのタベへ向けてのプログラミング
9	コンチェルトのタベへ向けての合わせ、練習
10	コンチェルトのタベへ向けての合わせ、練習
11	コンチェルトのタベへ向けての合わせ、練習／研修旅行についての準備
12	研修旅行先についての文化、歴史を研究
13	研修旅行についての計画
14	コンチェルトのタベに向けての準備、練習
15	コンチェルトのタベに向けての準備、練習

授業計画	
1	研修旅行についての説明会
2	クリスマスコンサートに向けての企画、準備
3	クリスマスコンサートに向けてのプログラミング
4	コンチェルトの夕べに向けての準備、練習
5	コンチェルトの夕べに向けての準備、練習
6	コンチェルトの夕べに向けての準備、練習
7	修了演奏会についてのプログラミング
8	クリスマスコンサートに向けての準備、練習
9	クリスマスコンサートに向けての準備、練習
10	クリスマスコンサートに向けての準備、練習
11	ファイナルコンサートに向けてのプログラミング
12	ファイナルコンサートに向けての準備、練習
13	ファイナルコンサートに向けての準備、練習
14	ファイナルコンサートに向けての準備、練習
15	ファイナルコンサートに向けての準備、練習

科目名	専攻科特殊研究 1						
代表教員	担当教員	授業コード	HE176000	科目コード	HE1760	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、必要な単位を認定する。

2．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

受講科目の基準による。

4．成績評価の方法及び基準

受講科目の基準による。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

講座の担当教員による。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	専攻科特殊研究２						
代表教員	担当教員	授業コード	HE177000	科目コード	HE1770	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、必要な単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講科目の基準による。

４．成績評価の方法及び基準

受講科目の基準による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講座の担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	専攻科特殊研究３						
代表教員	担当教員	授業コード	HE178000	科目コード	HE1780	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、必要な単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講科目の基準による。

４．成績評価の方法及び基準

受講科目の基準による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講座の担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	専攻科特殊研究４						
代表教員	担当教員	授業コード	HE179000	科目コード	HE1790	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、必要な単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講科目の基準による。

４．成績評価の方法及び基準

受講科目の基準による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講座の担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	専攻科特殊研究５						
代表教員	担当教員	授業コード	HE179100	科目コード	HE1791	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、必要な単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講科目の基準による。

４．成績評価の方法及び基準

受講科目の基準による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講座の担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	コンチェルト ［水4］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	HE181300	科目コード	HE1813	期間	通年
担当教員	川本　統脩						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

協奏曲、オペラ等を２台から３台の電子オルガンが担当するオーケストレーションされた演奏にソリストとして出演する。指揮者の下、色彩豊かなオーケストラの音響の中でソロ演奏するという体験をする。

２．授業概要

指揮者、電子オルガンとのアンサンブルを練習計画に沿って行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読み並びに楽曲の研究を行う。
演奏会本番に向けての演奏力の向上のため、十分な練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０%）
演奏会への出演（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各専門分野による楽曲
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・演奏の発表を目的とした講座のため、電子オルガンとの合わせの都合により、授業時間以外にも臨時練習が必要になる。
　このため授業時間を振り替えるような処置を講ずることもある。
・履修人数によって演奏時間の規定を設けるので厳守すること。

授業計画	
	［前期］ 後期に行われる演奏会の選曲並びに、その楽曲についての研究を進める。
1	演奏候補曲の検討　専門楽器のコンチェルトの楽曲を研究
2	演奏候補曲の検討　オーケストラスコアを読む
3	演奏候補曲の決定
4	課題曲の分析　時代背景、様式から
5	課題曲を学ぶ　形式、和声から
6	譜読み並びに演奏曲の分析。
7	奏法を中心に学ぶ
8	表現法、音色を中心に学ぶ
9	表現の掘り下げ
10	スコアリーディングにより、オーケストラパートの研究
11	指揮の見方を学ぶ
12	曲全体を通して演奏　確認
13	譜読み並びに演奏曲の分析。解釈したものを表現するために研究をする。
14	電子オルガンアンサンブルとの合わせ（打ち合わせ）編成などについて研究する。
15	電子オルガンアンサンブルとの合わせ（打ち合わせ）電子オルガンによるデモンストレーション

授業計画	
	［後期］ 演奏会本番に向けて、演奏の仕上げを行い、指揮者、電子オルガン奏者とのアンサンブルを中心に進めていく。
1	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。木管楽器の楽器研究
2	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。金管楽器の楽器研究
3	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。弦楽器の楽器研究
4	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析、オーケストレーション研究
5	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。
6	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。各楽器のバランスを研究
7	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。指揮者との合わせ
8	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。演奏表現の工夫
9	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。表現の掘り下げ
10	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。仕上げの演奏
11	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）打楽器との合わせ
12	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。打楽器のパートから、音楽の流れを理解
13	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。演奏会プログラム確認、演奏
14	専攻科演奏会　仕上げの演奏　電子オルガンとの合わせ
15	専攻科演奏会　演奏会形式での発表　まとめ

科目名	アンサンブル （後） ［金3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	HE182100	科目コード	HK1821	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽及び声楽で、多種の楽器または声種の組み合せによる合奏を実習し、演奏会で発表する。多方面からアンサンブルにおける演奏表現の可能性を追求し、年度末の演奏会ではその成果発表として、担当教員の書き下ろしによる新作を初演する。

２．授業概要

既成曲による合奏の試演による基礎練習を経て、新作の合奏に本格的に取り組む。新作は毎回、書き進んだ分が渡され、それを逐次音にしていく。成果発表としての演奏会は2月末ないしは3月初めに開催される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習楽曲の、各自のパートの譜読み（予習）と個人練習または分奏練習（復習）。

４．成績評価の方法及び基準

授業、演奏会への参加姿勢、及び演奏会出演での成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

合奏実習をする楽曲、新曲の楽譜は授業内で配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

個人練習、合奏実習には積極的な姿勢で参加し、演奏会成功に向けてメンバー間で協力しあい、相互のアンサンブルのスキルアップに努めること。

授業計画	
	半期（後期15回） 　授業計画にそって合奏実習を進める。
1	ガイダンス
2	既成曲による合奏実習 (1)精確な譜読みと音出し
3	既成曲による合奏実習 (2)全体の響きのバランスをとることに主眼に
4	既成曲による合奏実習 (3)適切な奏法と表現に留意して
5	演奏会に向けての新作の合奏実習 (1)正確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての新作の合奏実習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての新作の合奏実習 (3)楽曲の構造を理解する
8	演奏会に向けての新作の合奏実習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての新作の合奏実習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての新作の合奏実習 (6)適切な奏法と表現に留意して
11	演奏会に向けての新作の合奏実習 (7)合奏の基本について見直す
12	演奏会に向けての新作の合奏実習 (8)楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
13	演奏会に向けての新作の合奏実習 (9)訴求力の高い合奏を目指す
14	演奏会に向けての新作の合奏実習 (10)本番を意識して合奏を仕上げる
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	修了研究						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HE207000	科目コード	HE2070	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する

2．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する

4．成績評価の方法及び基準

実技試験　100%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究に沿って準備する

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する

授業計画	
1	各自の楽器演習
2	各自の楽器演習
3	各自の楽器演習
4	各自の楽器演習
5	各自の楽器演習
6	各自の楽器演習
7	各自の楽器演習
8	各自の楽器演習
9	各自の楽器演習
10	各自の楽器演習
11	各自の楽器演習
12	各自の楽器演習
13	各自の楽器演習
14	各自の楽器演習
15	各自の楽器演習

授業計画	
1	各自の楽器演習
2	各自の楽器演習
3	各自の楽器演習
4	各自の楽器演習
5	各自の楽器演習
6	各自の楽器演習
7	各自の楽器演習
8	各自の楽器演習
9	各自の楽器演習
10	各自の楽器演習
11	各自の楽器演習
12	各自の楽器演習
13	各自の楽器演習
14	各自の楽器演習
15	各自の楽器演習

科目名	海外研修						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HJ171100	科目コード	HJ1711	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

海外研修に参加することで、日本と異なる文化を理解する。
現地での交流により、国際的なコミュニケーション能力を高める。

２．授業概要

プレゼンテーション資料の作成・発表によって、プレゼンテーション能力を高める。
チーム作業を通じて、コミュニケーション能力を高める。
チーム作業を通じて、チーム運営の方法を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

渡航先について、歴史、文化等学習すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢＝５０％
総合的な学習態度＝５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その他、必要に応じてレジュメを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス
2	アイスブレーキング
3	研修先についての学習1（地理・歴史）
4	研修先についての学習2（文化全般）
5	研修先についての学習3（音楽）
6	研修先についての学習4（音楽）
7	現地レッスンプログラム研究1（テーマ設定）
8	現地レッスンプログラム研究2（楽曲の背景等の研究）
9	現地演奏会プログラム研究3（資料作成）
10	中間報告
11	現地レッスンプログラム作成4（資料の修正）
12	現地レッスンプログラム研究5（に向けての準備）
13	現地体験レッスン
14	現地体験レッスン
15	最終発表

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	邦楽サウンド論　[土3]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	HK171000	科目コード	HK1710	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期レポート提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	日本音楽史総論　森重行敏
2	邦楽理論　総論　森重行敏
3	邦楽理論　楽譜論　森重行敏
4	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
5	古代の音楽　澤田篤子
6	邦楽理論4　絃楽器論導入　森重行敏
7	三味線の音楽　野澤徹也
8	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
10	箏の音楽　野澤佐保子
11	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	歌舞伎の音楽　西川浩平
14	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
15	鑑賞講座「和のいろは」

授業計画	
	［後期］
1	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
2	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
3	尺八の音楽　青木彰時
4	日本の民謡　柿崎竹美
5	アジアの音楽3　モンゴル インド　森重行敏
6	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
7	現代音楽と邦楽器　山口賢治
8	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
9	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
10	和太鼓の魅力　山部泰嗣
11	鑑賞講座「冬の音楽祭　邦楽コンサート」
12	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
13	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
14	邦楽と未来　松尾祐孝
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	ピアノ演奏史 ［木4］Aクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	HK1714A0	科目コード	HK1714	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の７０％）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
・３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代、リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ソロモン、カーゾン
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	コルトー、フランソワ、カサドシュ

科目名	ピアノ演奏史 ［木5］Bクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	HK1714B0	科目コード	HK1714	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の７０％）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
・３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代、リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ソロモン、カーゾン
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	コルトー、フランソワ、カサドシュ

科目名	オペラ史 （後） ［火2］						
代表教員	青島　広志	授業コード	HK171500	科目コード	HK1715	期間	半期
担当教員	松浦　真沙						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4世紀以上に渡って西洋の娯楽の中心となって来たオペラの歴史を半期のみでたどります。声楽コース学生のみならず、将来舞台芸術とかかわる可能性のある学生（ピアノ、オーケストラを含む）には絶対に欠かせない知識です。

２．授業概要

各時代ごとの作品の傾向・特徴を示し、実演や音・映像資料でその上演に触れます。また実際のオペラ上演の方法・手順についても知識を与えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

限られた授業時間内ではオペラ全曲を鑑賞することは不可能です。またその中心となる歌唱部も全員が歌うことは不可能です。そのため声楽や合唱の授業に積極的に参加し、校外の公演には可能な限り足を運んでほしいものです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、「魔笛」・「道化師」のビデオ鑑賞およびそのレポート（感想文）の各々50%ずつ

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：オペラへご招待！（学研：青島広志・水野英子共著）
参考文献：フィガロの結婚・魔笛（モーツァルト）、椿姫・リゴレット（ヴェルディ）、タンホイザー（ヴァーグナー）、ばらの騎士（R.シュトラウス）の各ヴォーカル・スコアおよび各声種別のオペラ・アリア集

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に声を出すことを嫌わないこと。黒板の板書を筆記できること（撮影ではなく）。
受講生が多い場合は、人数を制限する場合があります。

授業計画	
	［半期］
1	有名なオペラを通した全般的な考察（モーツァルト「フィガロの結婚」、ヴェルディ「椿姫」、プッチーニ「蝶々夫人」）
2	オペラの概要、その発生（モンテヴェルディ「オルフェオ」「ポッペアの戴冠」、オラトリオを含む）
3	ナポリ派（スカルラッティ、ヘンデルを含む）とオペラ改革（グルック）
4	古典派（モーツァルト「後宮への逃走」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」概説）
5	古典派（モーツァルト「魔笛」、ベートーヴェン）
6	ロマン派初期（ロッシーニ、ウェーバー）
7	ベルカント・オペラ（ベッリーニ、ドニゼッティ）
8	ロマン派中期（ヴェルディその1）
9	ロマン派中期（ヴェルディその2、ヴァーグナー）
10	国民楽派（チャイコフスキー、ビゼー、ドヴォルザークを含む）
11	ヴェリズモ（現実主義）とプッチーニ
12	R.シュトラウスと20世紀（ドビュッシーを含む）
13	20世紀と日本（ベルク、山田耕筰、團伊玖磨を含む）
14	上演の実際
15	上演の体験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統芸能と音楽 ［木3］Aクラス							
代表教員	森重　行敏	授業コード	HK1716AO	科目コード	HK1716	期間	通年	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	1					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	日本の伝統芸能と音楽　[月5] Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK1716B0	科目コード	HK1716	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

2．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の50％）
学期末レポート（評価の50％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	諸民族の音楽　（前）［月4］Aクラス						
代表教員	浦本　裕子	授業コード	HK1717A0	科目コード	HK1717	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽を聴いてみて欲しい（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）。図書館にも多くの資料があるので、活用して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50～60%）
平常点として授業内ミニテスト・レポート（50~40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植・塚田 編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植・植村（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて欲しい。
授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	西ヨーロッパの音楽
6	東ヨーロッパの音楽
7	西アジアの音楽①イスラム教と音楽
8	西アジアの音楽②トルコ、イラン、アラブ
9	南アジアの音楽（インド古典音楽を中心に）
10	東南アジアの音楽①インドネシア
11	東南アジアの音楽②タイ、その他
12	東アジアの音楽（中国・モンゴル・韓国・アイヌ）
13	アフリカの音楽
14	アメリカ大陸とオセアニアの音楽
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	諸民族の音楽　（前）［火2］Bクラス						
代表教員	浦本　裕子	授業コード	HK1717B0	科目コード	HK1717	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽を聴いてみて欲しい（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）。図書館にも多くの資料があるので、活用して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50～60%）
平常点として授業内ミニテスト・レポート（50~40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植・塚田 編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植・植村（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて欲しい。
授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	西ヨーロッパの音楽
6	東ヨーロッパの音楽
7	西アジアの音楽①イスラム教と音楽
8	西アジアの音楽②トルコ、イラン、アラブ
9	南アジアの音楽（インド古典音楽を中心に）
10	東南アジアの音楽①インドネシア
11	東南アジアの音楽②タイ、その他
12	東アジアの音楽（中国・モンゴル・韓国・アイヌ）
13	アフリカの音楽
14	アメリカ大陸とオセアニアの音楽
15	試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史　（前）［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1718A0	科目コード	HK1718	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1718B0	科目コード	HK1718	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1719A0	科目コード	HK1719	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０%）
平常点（評価の３０%）
授業への参加姿勢（評価の１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J.S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1719B0	科目コード	HK1719	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J.S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	バロックの音楽史 （後） ［水2］Cクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	HK1719C0	科目コード	HK1719	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

2．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聞けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聞いておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の60%）
平常点（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の10%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聞いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。

授業計画	
	〔半期〕
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H. シュッツの宗教音楽
7	J. S. バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J. S. バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	HK1721A0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	HK1721B0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においては、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけての時代を古典派音楽の時代と呼んでいる。古典派の代表的作曲家といえば、誰もがハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを挙げるところからわかるように、この時代の音楽は今日の演奏会のレパートリーの大半を占め、私たちにとって非常に親しいものになっている。本講座は、私たちにとって身近なこの古典派音楽を、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観し、古典派音楽がどのような様式的特徴をもつのかを、楽譜やCD等を活用して歴史の流れの中で捉えることを目標とする。

２．授業概要

古典派の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心に時代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	HK1721C0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 （前） ［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1721D0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においては、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけての時代を古典派音楽の時代と呼んでいる。古典派の代表的作曲家といえば、誰もがハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを挙げるところからわかるように、この時代の音楽は今日の演奏会のレパートリーの大半を占め、私たちにとって非常に親しいものになっている。本講座は、私たちにとって身近なこの古典派音楽を、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観し、古典派音楽がどのような様式的特徴をもつのかを、楽譜やCD等を活用して歴史の流れの中で捉えることを目標とする。

２．授業概要

古典派の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心に,、ジャンルごとに時代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・前古典派の音楽
2	ハイドンの交響曲
3	モーツァルトの交響曲
4	ベートーヴェンの交響曲
5	モーツァルトのピアノ協奏曲
6	ベートーヴェンのピアノ協奏曲
7	ハイドンとモーツァルトの弦楽四重奏曲
8	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲
9	古典派のピアノ・ソナタ
10	モーツアルトに至るまでのオペラ
11	モーツァルトのオペラ
12	ハイドンのオラトリオ
13	古典派の宗教音楽
14	古典派の歌曲
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	HK1722A0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	HK1722B0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においてロマン派時代と呼ばれる１９世紀から、２１世紀の現代までの音楽の歴史を、政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観する。とくにロマン派の音楽は、今日の演奏会のレパートリーの大半を占めるほど私たちの周りにあふれている。このように私たちが慣れ親しんでいる音楽を歴史の流れの中に置いた時、どのような様式的特徴が見えてくるか、またその後音楽はどのように発展して今日に至ったのか、こうした問題を中心に１９世紀以降の音楽の歴史を、楽譜やCD等を活用して知性と感性をとおして探求することを目標とする。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、年代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	HK1722C0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 （後） ［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1722D0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においてロマン派時代と呼ばれる１９世紀から、２１世紀の現代までの音楽の歴史を、政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観する。とくにロマン派の音楽は、今日の演奏会のレパートリーの大半を占めるほど私たちの周りにあふれている。このように私たちが慣れ親しんでいる音楽を歴史の流れの中に置いた時、どのような様式的特徴が見えてくるか、またその後音楽はどのように発展して今日に至ったのか、こうした問題を中心に１９世紀以降の音楽の歴史を、楽譜やCD等を活用して知性と感性をとおして探求することを目標とする。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、ジャンルごとに年代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・ロマン派のドイツ・リート
2	ロマン派のピアノ音楽
3	ロマン派のイタリア・オペラ（ロッシーニ～ヴェルディ）
4	ロマン派のイタリア・オペラ（ヴェルディ～プッチーニ）とフランス・オペラ
5	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴェーバー～ヴァーグナー）
6	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴァーグナー）
7	ロマン派の標題交響曲
8	ロマン派の交響詩
9	ロマン派の民族主義音楽
10	ドイツ・ロマン派の交響曲
11	マーラーの交響曲
12	ストラヴィンスキーの音楽
13	近代フランスの音楽
14	シェーンベルクの音楽
15	現代の音楽　・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本音楽史 （後） ［金2］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	HK172300	科目コード	HK1723	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

日本音楽の歴史についての基礎的な知識は、どんな分野の音楽活動を目指すものにとっても必要である。また、アジア文化の一面としての日本文化を知ることにより、音楽における多文化の共存とは何かを考える重要な機会ともなる。

2．授業概要

ビデオ、音源を活用して、体験を重視したものとする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

特別な予習よりも、授業でふれた分野について、各自が積極的に鑑賞、体験を深めるを推奨する。

4．成績評価の方法及び基準

期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢と課題の内容評価は半々を基準とする。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は授業で紹介する。適宜プリントを配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前提条件は特にないが、日本音楽に関心を持っていること。定員超過の場合は、相談の上、受講を制限することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、日本音楽の概観
2	古代の芸能
3	雅楽1　舞楽
4	雅楽2　管絃
5	雅楽3　その他、国風歌舞など
6	仏教音楽
7	能楽1　能
8	能楽2　狂言
9	近世邦楽1　劇音楽
10	近世邦楽2　室内楽
11	近世邦楽3　三味線音楽
12	近世邦楽4　箏曲
13	洋楽との出会い
14	近代の日本音楽
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	東洋音楽史 （後） ［月4］						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK172400	科目コード	HK1724	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業の主題は、アジアの音楽の歴史です。アジア各地には様々な音楽文化があり、長い歴史と伝統を持っています。この授業ではそれらを概観し、地域ごとの特色や歴史的・文化的背景を理解することを目標とします。

２．授業概要

毎回、講義とともに実際の音源を鑑賞していきます。また、授業中にミニレポートを作成して提出してもらいます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：毎回のテーマに関する基本的な専門用語などを事前に調べておく。
復習：講義後に配布資料で内容を振り返り、関心を持った対象の音源を聴く。
具体的な方法については講義内で説明します。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加度（評価の70%、毎回のミニレポート含む）
学期末レポート（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜プリントを配布します。
参考文献:
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生編（音楽之友社１９９６）
『日本の音楽・アジアの音楽』全７巻・別巻２ 岩波講座（岩波書店１９８９）
その他、授業中に適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回のミニレポート（感想文程度）と学期末のレポートを課す予定。

授業計画	
	［半期］
1	はじめに（授業ガイダンス）
2	西アジア：イラン・トルコ・アラブ
3	南アジア：インド
4	南アジア：インド以外
5	東南アジア：インドネシア
6	東南アジア：タイ、フィリピン他
7	オセアニア
8	中央アジア５ヶ国
9	北アジア：モンゴル他
10	東アジア：中国
11	東アジア：韓国（正楽）
12	東アジア：韓国（民俗音楽）
13	東アジア：韓国（フュージョン音楽・K-POP）
14	東アジア：日本
15	総括として

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽史 ［火2］クラシック（佐藤昌弘先生）クラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	HK1730A0	科目コード	HK1730	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
　《ボレロ》《魔王》《運命》などのクラシック音楽の名曲はどのようにして生まれたのだろう? 「 箏」「尺八」などの和楽器はいつごろに今のような形になったのだろう? など、おもに西洋音楽(クラシック)と日本の伝統音楽を対象として、各時代でさまざまな音楽がどのように作られ、発展してきたか、その歴史とそれぞれの音楽作品の魅力について総合的に学びます。
【到達目標】
　①専攻を問わず、音楽を志す者にとって必要とされる、音楽史についての基礎知識と基本的な理解力を身につけます。
　②加えて、教職課程履修者にとっては、教科書にとりあげられている音楽史に関わるさまざまなことがらを確実に理解できるための幅広い教養を身につけます。

2．授業概要

「グレゴリオ聖歌からビートルズにいたるまで」の音楽史を、担当教員、もしくはゲストの講師、演奏家による講義と生演奏で、次の3点をポイントとして授業を行います。
　(1) さまざまな時代、さまざまな国の音楽を広く紹介します。
　(2) それぞれの時代、それぞれの国の代表的音楽作品がどのように生まれ、どのように作られたかを分析します。
　(3) それぞれの音楽が生まれた時代の「社会」「文化」「他の芸術」との関連性を考えます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

●曲の自主的鑑賞
　各回の授業でとりあげられた音楽作品を、各自あらためて鑑賞し、楽譜があればそれを追いつつ聴くことを強くすすめます。さらにはそれらに関連したさまざまな曲を、関心を広げて自主的に聴くとよいでしょう。そこからいろいろな発見が期待されます。
●時代の前後を確認しながらの予習と復習
　また、各時代の音楽が「前の時代からどのように変化し」「後の時代にどのように進化したか」その前後関係をチェックすることも大事

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度（評価の50%）と学年末のレポート提出と筆記試験（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
毎回、授業資料(プログラムまたはレジュメ)を配付しますので、履修者は各自これらをファイリングして下さい。
【参考文献】
①『新　西洋音楽史　上,中,下』D.J.クラウド、C.D.パリスカ著　戸口幸策、津上英輔、寺西基之訳(音楽之友社、2001年)
②『西洋音楽史』岡田暁生著(中公新書、2005年)
▸参考文献について
①もっとも権威があり広く読まれている西洋音楽史の書籍です。ただし3巻にもわたり、それぞれの巻が大変厚く高価ですので、購入は絶対ではありません。本学図書館に常備してありますので、それを利用されるのもよいでしょう。
②詳しい年代はあえて明記しないという異色の西洋音楽史ですが、読み物として非常に面白く、時代の流れがとてもよくわかります。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●全履修生へ
　スマートフォンの操作と私語は慎みましょう。
●教職を目指す履修生
　この授業は必修教科科目です。音楽史の知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。
●履修希望者が教室の収容定員を上回った場合、教職課程履修者の履修希望者を優先し、ポピュラークラスへ履修者を移すことがある。

授業計画	
	［前期］日本音楽史と西洋音楽の源流から古典派まで
1	ガイダンス 「ピアノで聴く　時代の響きの移り変わり」
2	概要説明 「西洋音楽と日本音楽の歴史をざっとたどってみよう」
3	西洋音楽の原点 「グレゴリア聖歌」
4	日本の音楽の原点 「雅楽」
5	ポリフォニーが織りなす調和の美 「中世とルネサンスの声楽曲」
6	仏教音楽 黛敏郎の《涅槃交響曲》
7	チェンバロやリュートが奏でる典雅な響き 「ルネサンスとバロックの器楽」
8	琵琶の音楽 武満徹の《ノヴェンバー・ステップス》
9	音楽がドラマになった 「バロック・オペラ」
10	これはオペラやミュージカルの祖先か?! 「能楽」
11	バッハからクラシック音楽は始まった 「J. S. Bachの音楽」
12	近世日本の舞台音楽を学ぼう
13	交響曲の父ハイドンと神童モーツァルト
14	近世日本の室内音楽を学ぼう
15	どのように運命の扉は叩かれたか? 「ベートーヴェンの音楽」

授業計画	
	［後期］西洋音楽のロマン派から現代、ポピュラー音楽まで
1	インド音楽の悠久なる響き
2	ロマン派① 「シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲」
3	ロマン派② 「ショパン、シューマン、リスト、ブラームスのピアノ曲」
4	ロマン派③ 「ヴェルディ、ビゼー、プッチーニのオペラ」
5	ロマン派④ 「ベルリオーズの幻想交響曲とワーグナーの楽劇」
6	後期ロマン派 「マーラー、リヒャルト・シュトラウス、シベリウスの音楽」
7	民族主義① 「ロシアの音楽～ムソルグスキーの《展覧会の絵》を中心に」
8	近代①フランス 「ドビュッシー、ラヴェルの音楽は本当に印象派か?」
9	民族主義② 「北欧、東欧、南欧～スメタナの《モルダウ》を中心に」
10	近代②ロシア 「ストラヴィンスキーの《春の祭典》を中心に」
11	新ウィーン楽派の音楽 「12音技法って何だ?」
12	現代 「ケージの《4分33秒》ははたして音楽か?」
13	ジャズ・ポピュラー 「エリントンからビートルズまで」
14	現代最高のエンタテイメント 「ミュージカル」
15	西洋音楽史のまとめ

科目名	音楽史 ［火2］ポピュラー（香取良彦先生）クラス							
代表教員	香取　良彦	授業コード	HK1730B0	科目コード	HK1730	期間	通年	
担当教員								
授業形態	講義	配当学年	1					
対象コース	CO・PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	共通選択					
前提科目	前提科目については特にないが、他の授業に音楽史の各論的な科目が多く開講されているので、それらを並行して、あるいは次年度以降に履修することが望ましい。							
教員免許状								

１．主題・到達目標

広範にわたる音楽、そして音楽が関わる分野についてその歴史の概要をたどる。それによって自分の得意とする分野だけに偏向し過ぎることなく、複眼的視点と知識を獲得すること。

２．授業概要

情報として学習する狭い意味での史実だけでなく、実演を通じて音楽の実像を知るため、テーマに応じてその分野のプロフェッショナルの実演家と講師を招聘して授業を展開する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）
各回に配布されるレジュメを通読し、時代性、地域性、音楽性等について概要を把握しておくこと。
（復習）
授業をきっかけとして、自分なりに周辺事項を含め、興味ある部分を調べて知識をさらに深めること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験(評価の50%)、授業への参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（参考）『はじめての音楽史』片桐功、久保田慶一他著(音楽之友社) ※授業の代わりになるようなことはありません。
内容が多岐にわたるため、各回レジュメおよび必要に応じて資料をポータルを通して配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業途中の入退出は迷惑となるので、遅刻・早退はしないこと。

・規定範囲内の遅刻・早退はそれぞれ出席1/2としてカウント
・無断早退については欠席扱い
・学生証の不備は出席にカウントされない場合がある

授業中の私語、スマートフォンの操作が厳禁であることはいうまでもないが、授業の妨げとなるような場合は、状況に応じて退室等の措置をとることもある。

・授業中スマートフォンを出していた場合は理由の如何に関わらず「授業への参加態度」の評価を1回ごとに減ずる。

この授業は教職必修科目でもあり、教職課程を履修予定の受講生は、自分自身がいずれ指導するであろうことを想定して真摯に受講して欲

授業計画	
	[前期]各回の順番は入れ替わる場合がある（偏向の場合は事前に通知）
1	音楽史の学び方
2	ヨーロッパ：中世～バロック
3	ヨーロッパ：ロマン派～民族主義
4	ヨーロッパ：近代～現代
5	タンゴ
6	ダンス
7	歌謡曲とフォークソング、ニューミュージック
8	ロック：ブルースの発展型としてのロック主流
9	ロック：プログレ
10	ロック：日本のロックとJ-POP
11	ジャズ：ニューオリンズ～スイング
12	ジャズ：ビバップ～モダン
13	ジャズ：エレクトリック～現代
14	バレエ
15	日本の伝統的な音楽

授業計画	
	[後期]各回の順番は入れ替わる場合がある（偏向の場合は事前に通知）
1	アニメソング
2	電子音楽・音響作品
3	音響技術
4	ギター
5	シンセサイザー
6	映画音楽
7	電子オルガン
8	ブラジル
9	キューバとサルサ
10	中東音楽の影響を受けた欧米打楽器
11	ソウル／R&B
12	ミュージカル：概論・音楽
13	ミュージカル：演出
14	ミュージカル：舞台創造
15	総括

科目名	実用音楽講座　（前）［月4］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HK173100	科目コード	HK1731	期間	半期
担当教員	川本　統脩、古田　賢司、松下　倫士						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分にとって身近な楽曲、例えばレッスンで学んでいる楽曲や、室内楽等でアンサンブルしている曲を、
自分の演奏解釈で指揮をして、問題点を発見し、指揮に対する関心を持つことを目的とする。（川本　統脩）
ロマン派の作品を中心とした楽曲分析、そして今後の演奏活動や教育活動で必要となる編曲法についても学習する（松下　倫士）
教育現場でも必要とされる管楽器の合奏（吹奏楽）などを題材にし、様々な角度から調和と美しいハーモニーを得る手法、表現のためのアプローチを研究する。（古田　賢司）

２．授業概要

指揮、楽曲研究等を通じて自己の楽譜に対する意識を深めると同時に、将来指導者として立つ場合に多方面から楽譜に対してアプローチすることを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特に指定は無いが、必要に応じて対応すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期]
1	楽曲からイメージを感じる創造力について
2	音楽的呼吸法と腕の運動の関連について
3	テンポや強弱の変化に対する対応について
4	質感の表し方について
5	互いの指揮ぶりについて講評し合い、今後の問題点を総括する
6	子供の情景（シューマン）の楽曲分析
7	ソナタ形式の発展について（ブラームス、フランクのヴァイオリンソナタを中心に）
8	ロマン派歌曲作品の分析
9	対位法概論
10	対位法・編曲の実施
11	合奏指導の手法~楽曲構成の分析
12	合奏指導の手法~教育現場での指導
13	合奏指導の手法~総括
14	指導の実践~吹奏楽のレパートリーを用いて
15	指導の実践~管弦楽曲、合唱曲を用いて

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ 【仮登録】 （前） ［金2］						
代表教員	未定	授業コード	WGE082601	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ 【仮登録】 （後） ［金2］						
代表教員	未定	授業コード	WGE082602	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲法・編曲法II 【仮登録】（後） [金2]						
代表教員	未定	授業コード	WGE082702	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０%）
学期末提出作品（評価の３０%）
学期末試験（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献については、各クラスの担当教員から説明を受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	作曲実習２　歌曲（ピアノ伴奏の書法）
12	二重奏について
13	作曲実習３　二重奏（器楽の書法）
14	作曲実習４　二重奏（ピアノの書法）
15	これまで学習した形式による作曲

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽分析基礎講座［仮登録/シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	WGE083101	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』 を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	対位法 【仮登録】［金3］						
代表教員	未定	授業コード	WGE084603	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。
対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。
本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
学期末試験（５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
「対位法」（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
「二声対位法」（池内友次郎著／音楽之友社）
「厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による」（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	キーボードハーモニー［仮登録/シラバス用］							
代表教員	秋本　康子	授業コード	WGE086303	科目コード	GE0863	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（ＥＯ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上で行われ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴きわける」ことが重要な意義を持つ。授業は鍵盤を使いながら和音感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、伴奏付け、初見視奏能力を身につけることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見視奏などを実習する。また、楽曲に和音数字を付したり、変奏曲の作成、伴奏譜の作成などの筆記作業によって音楽を分析する能力を身につける。上級クラスは、実際にバロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業のはじめに、前回授業の内容に関する小テストを行うので復習しておくこと。実践能力を身につけるために、筆記のみでなく実施した課題を必ずピアノで演奏すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。第１５回目の授業時間中に試験を実施し、その後試験の解説と復習を行う。平常点は、毎回の授業の理解度の確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
『鍵盤による数字付き和声』　　R.O.モリス　（音楽之友社）
『鍵盤和声の練習』　　バラム・ジョンソン　（音楽之友社）
『通奏低音奏法』　　ヘルマン・ケラー　（全音楽譜出版社）　他
授業中に適宜資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェルニー３０番」程度の演奏能力が必要。
２０分以上の遅刻は欠席とみなし、２／３以上の出席がない場合は学年末試験を受けることができない。
初回の授業でクラス分け試験を行うので、掲示された教室へ集合すること。（履修希望者は必ず出席すること。試験を受けないと履修できない）

授業計画	
	[前期] カデンツ奏と三和音基本形の通奏低音奏法の実習
1	クラス分け試験
2	カデンツ奏の実習①（カデンツⅠ） 移調奏①（単旋律）
3	カデンツ奏の実習②　（カデンツⅡ） 移調奏②（簡単な二声）
4	カデンツ奏の実習③（カデンツⅢ） 移調奏③（やや複雑な二声）
5	数字付き低音奏法①（Ⅰ度、Ⅳ度、Ⅴ度基本形C:） 移調奏④（簡単な三声）
6	数字付き低音奏法②（Ⅱ度、Ⅵ度を含む基本形C:） 移調奏⑤（やや複雑な三声）
7	数字付き低音奏法③（Ⅲ度、Ⅶ度を含む基本形C:） 移調奏⑥（C:の四声） コードネーム①（概説）
8	数字付き低音奏法④（借用和音を含む基本形C:） 移調奏⑦（各種の調の四声） コードネーム②（コードネームの構造）
9	数字付き低音奏法⑤（基本形C:a） 移調奏⑧（C:a:のピアノ曲） コードネーム③（コードネームの書き方）
10	数字付き低音奏法⑥（基本形G:e:） 移調奏⑨（G:e:のピアノ曲） コードネーム④（長調のスケール上の三和音）
11	数字付き低音奏法⑦（基本形F:d:） 移調奏⑩（F:d:のピアノ曲） コードネーム⑤（短調のスケール上の三和音）
12	数字付き低音奏法⑧（基本形D:h:） 移調奏⑪（D:h:のピアノ曲） コードネーム⑥（長調のスケール上の四和音）
13	数字付き低音奏法⑨（基本形B:g:） 移調奏⑫（B:g:のピアノ曲） コードネーム⑦（短調のスケール上の四和音）
14	数字付き低音奏法⑩（各種の調） 移調奏⑬（各種の調のピアノ曲） コードネーム⑧（掛留音について）
15	試験とまとめ

授業計画	
	[後期] 三和音第一・第二転回形を含む通奏低音奏法の実習 上級クラスは、属七の和音を中心とした七の和音、非和声音の入った課題の実習
1	前期の復習①（三和音基本形通奏低音奏法）
2	前期の復習②（コードネームと和音記号）
3	数字付き低音奏法①（主要三和音第一転回形C:） 伴奏付け①（コードネーム付き[長三和音]）
4	数字付き低音奏法②（副三和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け②（コードネーム付き[長三和音、属七和音]）
5	数字付き低音奏法③（借用和音を含む第一転回形C:） 伴奏付け③（コードネーム付き[短三和音]）
6	数字付き低音奏法④（第一転回形c:） 伴奏付け④（コードネーム付き[減三和音、増三和音を含む]）
7	数字付き低音奏法⑤（借用和音を含む第一転回形c:） 伴奏付け⑤（コードネーム付きバス音指示課題）
8	字付き低音奏法⑥（主要三和音第二転回形C:） 伴奏付け⑥（コードネーム付き[掛留音]）
9	数字付き低音奏法⑦（第二転回形c:a:） 伴奏付け⑦（和音記号付き[長調]）
10	数字付き低音奏法⑧（第二転回形G:e:） 伴奏付け⑧（和音記号付き[短調]）
11	数字付き低音奏法⑨（第二転回形F:d:） 伴奏付け⑨（コードネーム無し[長調]）
12	数字付き低音奏法⑩（第二転回形D:h:） 伴奏付け⑩（コードネーム無し[短調]）
13	数字付き低音奏法⑪（第二転回形B:g:） 伴奏付け⑪（変奏について）
14	試験に向けた復習と実践（各種の調）
15	試験とまとめ

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（前） ［火1］						
代表教員	谷川　明	授業コード	WGE088101	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	谷川　マユコ						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（後） ［火1］						
代表教員	谷川　明	授業コード	WGE088102	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	谷川　マユコ						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（前） ［火3］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	WGE088103	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	小松　祥子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（後） ［火3］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	WGE088104	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	小松　祥子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スコアリーディング［仮登録/シラバス用］						
代表教員	森　佳子	授業コード	WGE089503	科目コード	GE0895	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「スコアリーディング」は本来、ソルフェージュの頂点にある科目であり、読譜力と演奏力の双方がそれぞれ影響しあって、的確な音楽表現を行うことが要求される。ここではその第一段階として、スコアに慣れる、スコアに親しむということをコンセプトとし、様々なスコアに接し、スコアを通して作品を読み取っていくことで、幅広い視野と聴覚、表現力を養う。その手段として、ほぼ毎回宿題を課し、スコアをピアノで弾くということを軸に、実習を進める。

２．授業概要

スコアについての知識を身につけ、視唱やピアノソロ、連弾などを通して、ハ音記号や移調楽器を含むスコアに慣れていく。スコアでの様々な要素を捉え、積極的に読む力を培うことを目指し、指揮を行う。オーケストラスコアをコンデンススコアに書き換え、細部にも注目する。鑑賞を通じて、様々な音色に耳を傾け、それぞれの役割や曲の構成なども考察し、作品を読んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ほぼ毎回、授業で弾くための課題が宿題として与えられる。
スコアに慣れる為、自分なりに真摯に課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点　７０%、　学期末試験　３０%
平常点は、毎回の授業への参加姿勢及び課題への取り組み姿勢を評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

リムスキー・コルサコフ『スペイン奇想曲』（全音楽譜出版社）
ブラームス『交響曲第３番』（音楽之友社）
※その他、必要に応じて指示またはプリントを配布する。
〈入門書として〉『スコアリーディング スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修には　「チェルニー30番」程度の演奏能力があることが望ましい。
初回にクラス分け試験を行うので、必ず出席すること。
スコアを読むことに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢が履修者に望まれる。

授業計画	
	［前期］ クレ読み、及び移調楽譜読み、小編成スコアやパートごとに分かれての弾奏など
1	クラス分け試験、及びガイダンス
2	スコアについての基礎知識
3	アルト譜表に慣れる
4	弦楽合奏を中心に弾奏
5	A管に慣れる
6	スペイン奇想曲Ⅰ　弾奏及び指揮
7	モーツアルト Cl.五重奏曲　第1主題部
8	モーツアルト Cl.五重奏曲　第２主題部
9	F管に慣れる
10	スペイン奇想曲Ⅱ
11	複数の移調楽譜に慣れる
12	チャイコフスキー 交響曲第５番Ⅱ
13	スペイン奇想曲Ⅳ　前半の書き換え
14	スペイン奇想曲Ⅳ　後半の考察
15	小試験　スコアでの弾奏

授業計画	
	［後期］ オーケストラスコアの弾奏、指揮、及び鑑賞など
1	スペイン奇想曲Ｖ　主題の考察
2	スペイン奇想曲Ｖ　前半の弾奏
3	スペイン奇想曲Ｖ　後半の弾奏
4	チャイコフスキー 弦楽セレナーデⅠ
5	ベートーヴェン 交響曲第６番Ⅰ
6	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　前半の弾奏及び指揮
7	ペール・ギュント組曲第１番Ⅰ　後半の書き換え
8	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第１主題部
9	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　第２主題部
10	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　展開部
11	ブラームス 交響曲第３番Ⅰ　再現部
12	ブラームス 交響曲第3番Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
13	その他のロマン派の作品
14	２０世紀の作品の読譜
15	試験と総括

科目名	器楽曲伴奏法I - 1 [仮登録/シラバス用]						
代表教員	山本　佳世子	授業コード	WGE137601	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法I-１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

2．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２［仮登録/シラバス用］						
代表教員	平沢　由美子	授業コード	WGE137702	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ−１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ−１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学び、発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ−ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ−１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
3	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
4	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
5	ソロ楽器（フルート、クラリネット、ヴァイオリン）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
7	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
8	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
9	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
10	ソロ楽器（クラリネット、ヴァイオリン、フルート）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する）
12	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける①
13	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）の奏法や表現能力の特質を知り伴奏を付ける②
14	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける①
15	ソロ楽器（ヴァイオリン、フルート、クラリネット）ソナタ等を課題に、高度な音楽的理解が必要な曲に伴奏を付ける②

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－１／歌曲伴奏法Ⅰ［仮登録/シラバス用］						
代表教員	押川　涼子	授業コード	WGE138201	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを
再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業　（イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
3	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
4	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
5	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
6	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
7	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
8	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
9	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、日本歌曲）
10	ピアノパートのみの授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
11	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
12	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
13	声楽の先生との合わせによる授業 （イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ－２／歌曲伴奏法Ⅱ［仮登録/シラバス用］						
代表教員	吉武　雅子	授業コード	WGE138302	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法Ⅰ−１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法Ⅰ−１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	二重奏I／二重奏［仮登録/シラバス用］						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	WGE140103	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。特に一つの楽器で行う連弾は、その特性により、相手をよく聴く耳が養え、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力がつきます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏曲はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われること（作曲者のこと、国や時代のこと、楽譜に書かれている分からない楽語など）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲⊡ベルテイーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品⊡モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品⊡シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品⊡フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 /　ロマン / 近現代 の３つのカテゴリーから各組のレヴェルに合った選曲をし、計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは連弾から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員３名によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、実演を交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点、など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら選曲していく。
6	各組、初めに取り組む曲を決め、ローテーションに従っての演習。必ずしも年代順の必要はなく、やりやすいものを選ぶことを勧める。作曲者や曲の成り立ち等を調べ、発表できるように準備する。
7	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎週少しずつ進めていく組や、小品を毎回仕上げていく組等、それぞれの組に合うやり方で進める。
8	1曲目が終わった組は、別のカテゴリーから２曲目を選ぶようにする。時代のスタイルの違いを如何に表現するかを、弾き手と聴き手の両方の立場に立ちながら学習していく。
9	２曲目の演習。曲によっては、プリモとセコンドを交換し、音色、曲のキャラクター等、より表現しやすい方を選択することも勧める。
10	３曲目にも入り、前期中に全てのカテゴリーを学習するよう促していく。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれの組の課題に取り組んで行く。
12	各組のテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	試演会のリハーサル
15	３クラス合同の試演会

授業計画	
	［後期］ 　各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 　前期に３つすべてのカテゴリーの連弾曲を学習した組は、２台４手も可能とし同様に３つのカテゴリーから選曲し、計画を立てる。 　学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかったカテゴリーがある組や、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込む組、新たに２台４手を始める組等、それぞれの目標に従って進める。
3	基本的には、いずれの組もすべてのカテゴリーをバランスよく学習できるように進めていく。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかをチェックしながら、各組の個性を生かせる方向もアドヴァイスしていく。
5	連弾と２台ピアノの弾き手の意識の違い等、演習を通して学習していく。
6	２台ピアノの曲はより多くの練習量を必要とすることを認識するよう促していく。 アンサンブルにコンペティションに参加する組は仕上げに入る。
7	各組が本当に取り組みたいのは何か、連弾或いは２台ピアノ、どのような曲、等々、２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、考えさせながらアドヴァイスを行っていく。
8	各組が具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識をもって臨めば良いアンサンブルになることを学習していく。
9	各組それぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各組の個性を生かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加の組には、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	試演会のリハーサル
15	３クラス合同の試演会

科目名	初見視奏I［仮登録/シラバス用］						
代表教員	石田　多紀乃	授業コード	WGE141601	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	初見視奏II［仮登録/シラバス用］						
代表教員	竹原　暁子	授業コード	WGE141702	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０%）
授業への参加姿勢（評価の５０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
4	第一印象から錯覚する楽譜のトリック
5	楽語の意味を理解し表現力に繋げる
6	曲の様式、意味を考える
7	全体像をつかむ①
8	全体像をつかむ②
9	まとめと小テスト（予定）
10	黙読して、心の中で演奏
11	アンサンブル(連弾・２台ピアノなど)
12	アンサンブル
13	アンサンブル
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４［仮登録/シラバス用］［木4］						
代表教員	小林　裕子	授業コード	WGE149503	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員	山内　のり子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシック ・ オーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ： 〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ： 「エグモント」、ブラームス ： 「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ： バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシック・オーケストラ演奏会見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験①以下5回にわたり指揮者の指導に従いアンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等適宜加味される
11	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験②
12	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験③
13	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験④
14	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験⑤
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　【仮登録】						
代表教員	三原　善隆	授業コード	WGE666800	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］Aクラス
1	電子オルガンの概念（ヒストリー・３段鍵盤・音源構成・Feet等）
2	奏法（タッチ・ベース） 音色に伴う奏法（レガート奏法・ノンレガート奏法・ホリゾンタルタッチ等）
3	音色研究（音群・波形・バランス・定位等） 関連奏法
4	音色研究（音色Edit・エフェクトの概念等） 関連奏法
5	リズムプログラミング（リズムの理解・入力法・設定等） 関連奏法
6	楽器法まとめ（その他昨日研究等）
7	楽曲に対するオリジナル音色制作（レジストレーション・奏法）
8	作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［集中］Bクラス
1	エレクトーンアレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル・）
2	エレクトーンアレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
3	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション１
4	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション２
5	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション３
6	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション４
7	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション５
8	作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論I［仮登録/シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	WGE675001	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ｉ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１） 様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２） 楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲0p.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2） 種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１） 概説
13	ソナタ形式（２） 提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　0p.2-1　第１楽章 0p.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論II［仮登録/シラバス用］							
代表教員	大江　千佳子	授業コード	WGE675002	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	ロマン派の和声について（１）　歌詞と和声の関わり Schumannの歌曲より
7	ロマン派の和声について（２） Mendelssohnの歌曲より
8	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
9	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式（３）　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派の作曲家の作品（ソナタ形式以外）
12	作曲家の表現方法―同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
13	楽曲分析と演奏についての考察（１） 古典派,ロマン派の管弦楽曲を中心に
14	楽曲分析と演奏についての考察（２） 近代の管弦楽曲を中心に
15	後期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［仮登録/シラバス用］							
代表教員	佐々木　久美	授業コード	WGE759300	科目コード	GE7593	期間	通年	
担当教員								
授業形態	グループレッスン	配当学年	1					
対象コース	Rock&Pops	科目分類	専門選択（各コース）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ　【仮登録】（後）［水4］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	WGE761302	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員	明石　昌夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。
コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　【仮登録】（前）［水4］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	WGE761401	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員	明石　昌夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ⅰ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習（１）
3	記譜練習（２）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習（１）
7	アレンジ演習（２）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習（３）
11	アレンジ演習（４）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習（５）
15	アレンジ演習（６）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ｉ　【仮登録】（前）［金3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	WGE761701	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員	松藤　英男						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉ををを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作詞／作曲Ⅱ 【仮登録】（後） ［金3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	WGE761802	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員	松藤　英男						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ｉ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	オリジナル作品は、各自の完成に応じて常時添削。授業内の他にもG-mail添付提出利用でのメール添削やレッスンでもアドバイス致します。
1	ガイダンス（各自の作詞作曲に取り組む姿勢や熱意を確認する） 各自の作品発表と添削／ディスカッション
2	イメージトレーニング（メロディーによる心象描写） →インストロメンタルや写真などによる、インスピレーションによる作詞の演習
3	イメージトレーニングの作詞に作曲をする →自分の書いた作詞をみながら、あるいはそのイメージにあった曲づくり。
4	コード進行から発想する作曲法 →テンションコードなども交えた、1曲の完成した形のコード進行に、メロディーを載せる。
5	コード進行から発想する作曲法 →出来上がったメロディーを、譜面にまとめ、リズムを考え、楽器でデモ音源を作る。
6	推薦アーティスト研究
7	各自の自作曲あるいは推薦曲の鑑賞とディスカッション
8	テーマを決めた曲作り →人に感謝する、季節を表す、人を愛する…と歌のテーマは様々。そこから、クラスでディスカッションの上一つテーマを決めて、それぞれが作詞ないし作曲のスケッチを始める。
9	テーマを決めた曲作り →作詞から始めた人はそれにメロディーを、作曲から始めた人はそれに作詞を載せる。譜面に書く。（デモ音源を作る。）
10	オリジナリティーとは？ →テーマが同じいろいろなアーティストの同名異曲を聞き比べ、アーティストの個性や感性を探る
11	作詞と作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手をそれぞれ分担して、プロ作家の仕事を体験する。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲を分担する。パートナーを見つけ、曲作りのテーマを話し合う。決まったら、制作開始。
13	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →コラボレーションした作品を、デモ音源の形にしてみる。その中で、手直しをしていく。
14	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。
15	作品鑑賞会

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習１　【仮登録】（前）［金2］						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	WGE762201	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員	葉山　たけし、川村　ケン						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１
14	課題制作２
15	課題製作３・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ実習２　【仮登録】（後）［金2］						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	WGE762302	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員	葉山　たけし、川村　ケン						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1
14	課題制作2
15	課題制作3・課題提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ【仮登録】（前）［水1］						
代表教員	永井　崇	授業コード	WGE771011	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	マーティン　宏美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ【仮登録】１年生クラス（前）［水2］						
代表教員	永井　崇	授業コード	WGE771021	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	マーティン　宏美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ【仮登録】（前）［水4］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771031	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－Ｉ【仮登録】（前）［金3］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771041	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整(クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II 【仮登録】（後） ［水1］						
代表教員	永井　崇	授業コード	WGE771112	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	マーティン　宏美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II 【仮登録】１年生クラス（後） ［水2］						
代表教員	永井　崇	授業コード	WGE771122	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	マーティン　宏美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II 【仮登録】（後） ［水4］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771132	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	英語１－II 【仮登録】（後） ［金3］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771142	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	管弦楽概論［仮登録/シラバス用］							
代表教員	清水　昭夫	授業コード	WGK057103	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	CO:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。

また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著□音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	小テスト（弦楽器）
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	小テスト（木管楽器）
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	小テスト（金管楽器）
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	小テスト（打楽器、編入楽器）
14	管弦楽のスコアの書き方１
15	管弦楽のスコアの書き方２

科目名	ソルフェージュⅠ【仮登録】（前）［木1］						
代表教員	未定	授業コード	WGK071101	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅠでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ソルフェージュII 【仮登録】（前） [木2]						
代表教員	未定	授業コード	WGK071201	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。

聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	和声学I 【仮登録】（後） ［月2］						
代表教員	未定	授業コード	WGK081102	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。

また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）

学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。

参考文献：

『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）

『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	古典派の音楽史 【仮登録】（前） ［木3］						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	WGK085301	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においては、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけての時代を古典派音楽の時代と呼んでいる。古典派の代表的作曲家といえば、誰もがハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを挙げるところからわかるように、この時代の音楽は今日の演奏会のレパートリーの大半を占め、私たちにとって非常に親しいものになっている。本講座は、私たちにとって身近なこの古典派音楽を、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観し、古典派音楽がどのような様式的特徴をもつのかを、楽譜やCD等を活用して歴史の流れの中で捉えることを目標とする。

２．授業概要

古典派の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心に、ジャンルごとに時代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・前古典派の音楽
2	ハイドンの交響曲
3	モーツァルトの交響曲
4	ベートーヴェンの交響曲
5	モーツァルトのピアノ協奏曲
6	ベートーヴェンのピアノ協奏曲
7	ハイドンとモーツァルトの弦楽四重奏曲
8	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲
9	古典派のピアノ・ソナタ
10	モーツァルトに至るまでのオペラ
11	モーツァルトのオペラ
12	ハイドンのオラトリオ
13	古典派の宗教音楽
14	古典派の歌曲
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 【仮登録】（後） [木3]						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	WGK085402	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパ音楽の歴史においてロマン派時代と呼ばれる１９世紀から、２１世紀の現代までの音楽の歴史を、政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら概観する。とくにロマン派の音楽は、今日の演奏会のレパートリーの大半を占めるほど私たちの周りにあふれている。このように私たちが慣れ親しんでいる音楽を歴史の流れの中に置いた時、どのような様式的特徴が見えてくるか、またその後音楽はどのように発展して今日に至ったのか、こうした問題を中心に１９世紀以降の音楽の歴史を、楽譜やCD等を活用して知性と感性をとおして探求することを目標とする。

２．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、ジャンルごとに年代を追って講義する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は人数制限をすることがある。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス・ロマン派のドイツ・リート
2	ロマン派のピアノ音楽
3	ロマン派のイタリア・オペラ（ロッシーニ～ヴェルディ）
4	ロマン派のイタリア・オペラ（ヴェルディ～プッチーニ）とフランス・オペラ
5	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴェーバー～ヴァーグナー）
6	ロマン派のドイツ・オペラ（ヴァーグナー）
7	ロマン派の標題交響曲
8	ロマン派の交響詩
9	ロマン派の民族主義音楽
10	ドイツ・ロマン派の交響曲
11	マーラーの交響曲
12	ストラヴィンスキーの音楽
13	近代フランスの音楽
14	シェーンベルクの音楽
15	現代の音楽　・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　【仮登録】（前）［木4］						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK761001	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	４分、８分音符の聞き取り
3	16ビートの聞き取り
4	付点音符の聞き取り
5	シンコペーションの聞き取り
6	アウフタクトの聞き取り
7	8ビートバウンスの捉え方
8	ハーフタイムシャッフルの捉え方
9	ポリリスムの理解
10	ドラムの聞き取り、採譜（8ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜（16ビート）
12	ドラムの聞き取り、採譜（バウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ 【仮登録】（後） ［木4］						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK761102	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただ口ずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&PソルフェージュⅠを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	８ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
4	１６ビートのメジャー、マイナースケールの聞き取り
5	バウンスビートのスケール聞き取り
6	ペンタトニックの聞き取り
7	チャーチモードのメロディー
8	ブルーノート
9	ノンダイアトニックノートの聞き取り
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと分析
11	コード進行とメロディーの関係
12	コーラスラインのヒント
13	楽曲構成とメロディー
14	メロディー譜の作成
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ 【仮登録】（前） [火3]						
代表教員	高橋　利光	授業コード	WGK761201	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員	西平　彰						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

試験×出席率

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法） 【仮登録】（前） ［水1］						
代表教員	伊東　明子	授業コード	WGK770201	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員	荒邦　啓介						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	法学（日本国憲法） 【仮登録】（後） ［水1］						
代表教員	伊東　明子	授業コード	WGK770202	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員	田上　雄大、大久保　悠貴						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０%）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育 【仮登録】（前） [水1]						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	WGK772601	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員	田中　良、担当教員						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保健体育 【仮登録】（後） ［水1］						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	WGK772602	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員	田中　良、担当教員						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学 【仮登録】［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK772803	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
授業内評価点（授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

前期

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［前期］ 　前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	前期末試験の返却と後期講義内容の説明 ・テストの返却と解説 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	著作権法 【仮登録】 （前） ［金1］						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	WGK772901	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員	齋藤　崇						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

２．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

４．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	著作権法 【仮登録】（後） ［金1］						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	WGK772902	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員	齋藤　崇						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学I 【仮登録】（前） ［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK775701	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。また、高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 　前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	経済学II 【仮登録】（後） ［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK775802	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	講義内容・履修上の注意等の説明 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	応用演奏会実習１－１～４－４ 応用演奏会実習[シラバス用]							
代表教員	複数指導教員	授業コード	XGE066100	科目コード	GE0661d	期間	随時	
担当教員								
授業形態	自主企画・自主制作	配当学年						
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

応用演奏会実習は演奏・パフォーマスのための音楽力を身に付け、演奏会・発表会を開催するために必要とされる総合的なスキルを修得することを目的としている。その学習過程において直面する課題を解決していくことで、自らの「成長する力」と他者との「協働する力」とをそれぞれの学びのサイクルにおいて、人間としての「生きる力」を修得することができるものである。また、その学習過程において、社会実践・社会貢献の様々な体験がなされる科目でもある。

２．授業概要

A. 「演奏会実習」の経験を基にして学生が自主企画、自主制作の演奏活動を行う場合。
履修方法：①演奏会実施前にSENZOKUポータルから「履修届及び成績記入用紙」（以下「履修届」という）・「演奏会実施報告」をダウンロードする。②演奏会実施後２週間以内に「履修届」「演奏会実施報告」「演奏会のチラシ・プログラム・録音物」、「レポート」を学務部に提出する。「レポート」は、Ａ４サイズ・横書き、学籍番号・コース・楽器・氏名を必ず記入すること。「レポート」は単位認定を受けようとする者全員が提出のこと。共同執筆は認めない。③長期休暇期間中に演奏会を実施した場合は、休暇明け速やかに届出を提出すること。④演奏会実施状況の記録や資料等を基に演奏会実習運営会議で審査し、単位授与に相応しいと判定された場合、１演奏会につき１単位を単位認定する。
＊ただし、次の場合は「応用演奏会実習」には該当しない。a. 主科、副科の発表会b. ストリート・パフォーマンス
B. 依頼されて他のゼミの演奏会実習の企画・演奏等に参加し、支援する場合。（例：編曲、PA、曲目解説、不足楽器の応援演奏、等）履修方法：①他ゼミから参加を依頼された場合は、SENZOKUポータルから「履修届及び認定用紙」（以下「履修届」）をダウンロードし、必

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らの専門分野だけでなく、幅広く内外の演奏会に出演者、スタッフ、聴衆として主体的に参加すること。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会終了後に提出する実施報告書・レポート・その他提出物（演奏会のチラシ・プログラム・活動記録・録音物等）を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・次の場合は「応用演奏会実習」には該当しない。
　a 主科、副科の発表会
　b ストリート・パフォーマンス
・「A」、「B」、「C」合わせて、各学年最大4単位まで修得可能。
・「応用演奏会実習」で取得した単位は、卒業要件単位数に含まれる。
・「応用演奏会実習」は、履修登録の上限単位数に含まれる。
・単位認定に必要な書類（「履修届」「演奏会実施報告書」「演奏会のチラシ・プログラム・録音物」「レポート」等）は演奏会終了後2週間以内に提出すること。
2018年度前期末までに単位認定を希望する場合、最終提出締切日は2018年7月31日（火）。2018年度学年末までに単位認定を希望する場合、最終提出締切日は2019年1月31日（木）。
※対象とする演奏会の実施時期：2018年4月1日（日）～2019年1月31日（木）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	授業概要参照
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	室内楽研究２～４　［シラバス用］（電子オルガン）						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XGE3401E0	科目コード	GE3402d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜履修形態＞
●電子オルガンと他の器楽の３～１０重奏。
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	表現の工夫
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
3	読譜の確認
4	形式から音楽を研究
5	ハーモニーの研究。
6	バランス、強弱の研究。
7	表現の工夫
8	表現の掘り下げ
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	仕上げの演奏
11	仕上げの演奏を聞き、演奏をより良くするために対策を考える
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサー出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄

科目名	室内楽研究２～４　［シラバス用］（ピアノ）						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGE3401PF	科目コード	GE3402d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。
この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。
室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉
●ピアノと他の器楽　３～１０重奏
●二台もしくは三台ピアノによる６手以上（ピアノ２台４手は二重奏の編成であるが、全体で３グループに限り履修可。２０１８年度は既に選出済）
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。 年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。 各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかみながら、こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランスの研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかみながら、こまかな縦の線を意識。
4	音楽の全体像をつかむ。 難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランスの研究。
6	バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、新たなアイディアを持つ。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 欠点の修正、ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（打）						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XGE3401PI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い楽曲を研究し、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

また、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、また、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合わせの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。

試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演し、上位グループがみなとみらいホールでのコンサートに選出される。

出席不良のグループは試験に出られない場合がある。

学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉

●打楽器　３～１０重奏

●打楽器とその他の楽器　３～１０重奏

※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。

（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。

（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。

（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。

（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。こまかな縦の線を意識。
12	音楽の全体像をつかむ。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー
6	バランス
7	強弱の研究
8	表情をつかみ、それを表現する努力
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正。
11	新たなアイディアを持つ。 ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（弦）						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XGE3401SI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SI・GT・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉
●弦楽器　３～１０重奏
●弦楽器とその他の楽器　３～１０重奏
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生はそれぞれにグループを編成して申込む。
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（管）						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XGE3401WI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献・楽曲・これまでの試験演奏曲目などはポータルにて掲示する予定。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉
管楽器　●木管　３～１０重奏（同族楽器を含む）
　　●金管　３～１０重奏（同族楽器を含む）
　　●管とその他の楽器３～１０重奏
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	ヴァイオリンとピアノによるデュオ（ソナタ）２～４［シラバス用］						
代表教員	市野　あゆみ	授業コード	XGE341500	科目コード	GE3415d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF・SI（VN）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

デュオのレパートリーは、例えば「ヴァイオリンとチェロによるデュオ」等と同様、室内楽分野の最小編成で、3重奏以上、最大はオーケストラに至るまでのアンサンブルの基本になる編成です。ヴァイオリンとピアノの為のソナタであるにも関わらず「ヴァイオリンソナタ」と呼ばれているのは、ピアノは必ず一緒であることを前提とした略称に過ぎず、モーツァルトやベートーヴェン、ブラームス他の作曲家は、自筆譜に「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」と記しています。2重奏ソナタのレパートリーは、ピアニストにとって伴奏ではなく、全体の音楽を創る上で重要な役割を担っています。ソナタの作品を通して、お互いの楽器の奏法の難しさ、音色、様々な違いを知ること、そして、全く性質の違う楽器が、時には個別の主張をし、或いは、楽器の違いを超えた響きの調和を求めることにより、楽器を演奏する可能性が広がります。音楽表現を深めていく為には、各々の奏者の技術が大切な要素で、ソロ作品の演奏にも共通しています。学生の希望に沿って、ソロ作品のレッスン受講も可能です。

２．授業概要

室内楽の最小編成である2重奏曲（ソナタ）を題材に、演奏表現の可能性を学ぶ。
ヴァイオリンとピアノの両者それぞれに音楽的な意思を持ってもらい、一緒に音楽を創る喜びや難しさを、同時レッスンや個人レッスンを通して経験してもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された課題曲の練習
　　レッスン時にはいつも全楽章を準備しておくこと
復習　レッスンで受けた内容に対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

レッスンへの参加姿勢、及び、演奏内容。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題になる曲が決定次第、準備する楽譜（出版社）を指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●ヴァイオリンとピアノによるソナタ（2重奏）
①授業履修希望者は、ヴァイオリン、ピアノそれぞれに個別のオーディションを受ける。
・オーディションの曲目
ヴァイオリン：ソロの自由曲（８分～15分）1曲（曲の途中までででも構わない）、或いは、短い曲を数曲。無伴奏曲も可。ピアノとのソナタは除く。技巧的な要素を含まないような選曲は避けること。協奏曲等、ピアノを必要とする選曲の場合は、各自でピアノ奏者を用意する。
ピアノ：ソロの自由曲（8分～15分）
1曲（曲の途中までででも構わない）、或いは、短い曲を数曲。エチュード等も可。技巧的な要素を含まないような選曲は避けること。※オーディションの際、各楽器とも必ずしも暗譜である必要はなく、そのことは選考の基準にはならない。
②オーディションで選抜された中から、組み合わせ（約8組）と履修曲目を担当教員が決定する。
③お互いに一緒に履修を希望するパートナーがいる場合、又、希望曲目がある場合、オーディション申し込み時に記入することができる。詳細は学務部に問い合わせること。※授業は聴講可。詳細は学務部で確認すること。

授業計画	
	［前期］
1	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン①
2	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン②
3	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン③
4	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン④
5	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑤
6	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑥
7	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑦
8	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑧
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑨
2	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑩
3	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑪
4	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑫
5	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑬
6	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑭
7	ヴァイオリンとピアノの同時レッスン 及び楽器別個人レッスン⑮
8	ゲネプロ、演奏会
9	ゲネプロ、演奏会
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）						
代表教員	滝口　亮介	授業コード	XGE739000	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

　本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
　総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：目前に迫る教育実習への心構え
2	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識・技能　　模擬授業①
3	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・指導計画（学習指導案の作成）　　模擬授業②
4	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技術　　模擬授業③
5	教育実習生に求められる資質・能力：生徒への接触の姿勢　　模擬授業④
6	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　　模擬授業⑤
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意　　模擬授業⑥
8	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　　模擬授業⑦
9	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　　模擬授業⑧
10	教育実習生に求められる資質・能力：教育実習生としての勤務態度　　模擬授業⑨
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

洗足学園音楽大学

音楽学部
音楽専攻科
2018年度シラバス
（演奏会実習）

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
演奏会実習1～4[水3]明石ゼミ	明石　昌夫 ・・・・・・・・	1
演奏会実習1～4[水3]秋山ゼミ	秋山　徹 ・・・・・・・・	4
演奏会実習1～4[金3]新井ゼミ	新井　秀昇 ・・・・・・・・	7
演奏会実習1～4[水3]大石ゼミ	大石　将紀 ・・・・・・・・	10
演奏会実習1～4[水3]大城ゼミ	大城　正司 ・・・・・・・・	13
演奏会実習1～4[水3]花柳ゼミ	花柳　珂穂月 ・・・・・・・・	16
演奏会実習1～4[水3]星野ゼミ	星野　均 ・・・・・・・・	19
演奏会実習1～4[金3]橋本ゼミ	橋本　晋哉 ・・・・・・・・	22
演奏会実習1～4[水3]秦ゼミ	秦　江里奈 ・・・・・・・・	25
演奏会実習1～4[金3]井出ゼミ	井出　博子 ・・・・・・・・	28
演奏会実習1～4[水3]門倉ゼミ	門倉　美香 ・・・・・・・・	31
演奏会実習1～4[金3]川本ゼミ	川本　統脩 ・・・・・・・・	34
演奏会実習1～4[水3]北島ゼミ	北島　公彦 ・・・・・・・・	37
演奏会実習1～4[水3]くりゼミ	クリストファー　ハーディ ・・・・・・・・	40
演奏会実習1～4[水3]宮田ゼミ	宮田　公一 ・・・・・・・・	43
演奏会実習1～4[水3]斉藤ゼミ	斉藤　光浩 ・・・・・・・・	46
演奏会実習1～4[水3]坂井ゼミ	坂井　紀雄 ・・・・・・・・	49
演奏会実習1～4[水3]境ゼミ	境　信博 ・・・・・・・・	52
演奏会実習1～4[水3]田中ゼミ	田中　良一 ・・・・・・・・	55
演奏会実習1～4[水3]谷川ゼミ	谷川　明 ・・・・・・・・	58
演奏会実習1～4[金3]谷川マユコ ゼミ	谷川　マユコ ・・・・・・・・	61
演奏会実習1～4[水3]上田ゼミ	上田　恭子 ・・・・・・・・	64
演奏会実習1～4[金3]上薗ゼミ	上薗　未佳 ・・・・・・・・	67
演奏会実習1～4[水3]渡部ゼミ	渡部　亨 ・・・・・・・・	70

科目名	演奏会実習１～４　［水3］明石ゼミ						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE0111A1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ありません						

ゼミテーマ

「インターネットを利用した、アーティスト・プロデュースのゼミ」

１．主題・到達目標

ミュージシャン及びヴォーカリストを含めたアーティストは、成功するためには、その技量だけでなく、戦略的なプロデュースを考える事が大変重要になってきます。
このゼミでは、ライヴのステージ、インターネットでの展開などを通じて、戦略的なアーティストプロデュースに沿った、効果的な実演とは何かについて学びます。
特に昨今は、インターネットでの展開が、非常に重要になっているので、大きく時間を割いて、研究します。

２．授業概要

アーティストプロデュースに関する基礎を研究し、授業内での実習を通して、このゼミにふさわしいパフォーマンスを開拓します。
また、R&Pコース内で行われるイベントの映像を通して、プロデュースの実際の問題点などを、議論していきます。
インターネットに関しては、YouTube、ニコ動、ツイキャスの利用法、ホームページの作り方、ツイッター、インスタグラムなどでの拡散、新たな音楽サイトの構築などを研究していこうと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各アーティストの戦略を考慮して、それに則した曲を決め、予習・復習（リハーサル）をして下さい。
特に演奏会に向けては入念なリハーサルが必要になると思われます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みの姿勢（参加状況）、演奏会の出来映えなどを考慮しますが、特に演奏会のスタッフワークに携わった人を高評価にします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が準備します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ロックまたはポップスのヴォーカルまたは楽器の実演を希望する学部生及びそれに付随するスタッフワークを希望する学部生を対象とします。
出席に関しては、演奏会当日の出席を、特に重要視します。

授業計画	
	［前期］
1	アーティストプロデュースの基本的な考え方
2	インターネットがなかった時代と、その後の違いついての講義
3	1990年代までの、音楽業界の仕組みの講義
4	PRと宣伝の違い、フリーミアム、シェアリングエコノミーに関する講義
5	アルヴィン・トフラーの、「第三の波」を基にした講義
6	SecondSeason(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
7	SecondSeason(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
8	ThreeQuarter(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
9	ThreeQuarter(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
10	学内演奏会
11	LastSpurt(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
12	LastSpurt(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
13	SNS、ホームページ、ブログ、アフィリエイトに関する講義
14	インターネット上においての、アーティストのPR全般に関する講義
15	前期のまとめ

	［後期］
1	
2	NextGeneration(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
3	NextGeneration(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
4	メロディーとコード、サウンドに関して、時代に伴う変化について考察し、今後の方向性を考える。
5	歌詞及び発声に関して、時代に伴う変化について考察し、今後の方向性を考える。
6	学内演奏会
7	シンガー、バンド、作詞作編曲、ミュージシャン、エンジニアなど、音楽関連の仕事について、それぞれの今後の時代の展開に対する方法を考える。
8	全国流通、事務所所属、インディーズデビュー、メジャーデビュー、各段階の説明と、対処の仕方。
9	これからの、音楽業界、音楽活動のあり方と、将来の展望
10	過去から現在に至る、技術の進歩と音楽の変化についての考察。
11	人工知能、ディープラーニングと、音楽との関連性について。
12	30年後には到達するかもしれない、シンギュラリティの時代において、人間が、音楽に対してできること。
13	ブロックチェーンと、仮想通貨についての講義。
14	ミュージシャンの税務、およびプロダクションなどを起業するノウハウの講義。
15	1年間のまとめ。

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］秋山ゼミ						
代表教員	秋山　徹	授業コード	GE0111A2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

子供が好きな人、集まれ！！子供たちに夢と喜びを与えるゼミ「ハッピー＆ドリームコンサート」

１．主題・到達目標

このゼミは、幼稚園や保育園などに行き、子供たちに夢と喜びを与える楽しいコンサートを創り上げるゼミです。
あなたが音楽の道を志すきっかけとなった感動や感激を、今度は、あなた自身の音楽で子供たちに与えてあげましょう。あなたの「個性」を発揮し、「今」を見据え、斬新かつ前代未聞、驚天動地、抱腹絶倒…。
あなたしか出来ない自由なステージ制作と実践的な活動を通じ、あなたの音楽技能や音楽表現力を高める事が目標です。毎年数多くの外部実習を通じ、沢山の子供たちと楽しいひとときを過ごして来ました。
今年度も子供たちの笑顔のために、皆で楽しく活動しましょう。
★ 2017年度 外部実習活動実績
7月：川崎市童謡施設コンサート / 8月：保育園コンサート、こども文化センターコンサート（高津区こどもの音楽文化体験事業）、児童療育施設コンサート / 9月 ：幼稚園コンサート / 11月：保育園コンサート、FUYUON子ども向けコンサート / 12月：保育園クリスマスコンサート、子育て支援施設クリスマスコンサート、こども文化センタークリスマスコンサート（高津区こどもの音楽文化体験事業）/ 2月：児童館コンサート、児童養護施設コンサート(地方) / 3月こども文化センターコンサート（高津区こどもの音楽文化体験事業）全21公

２．授業概要

■STEP 1.
「実習計画案作成ならびに作品研究」
実習作品を決め、実習計画案を作成して、作品制作演習を行います。
作品制作演習過程では、進行の状況に合わせ適切な指導も随時行います。
■STEP 2.
「作品制作発表」
個人やグループによるコンサート形式の作品制作発表を実施して、皆で意見交換を行います。
■STEP 3.
「コンサートによる外部実習」
幼稚園、保育園、小学校などで乳幼児や児童を対象としたコンサートを実施して、実践的実習を行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品の演習や研究に取り組んでください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、作品研究発表ならびに外部実習（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実習作品の楽譜を用意してください。
参考文献については適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	※各実習先の依頼時期に応じて、変更等も行いながら下記の計画を進めます。 ［前期］
1	ガイダンス
2	前期実習計画案作成、全体合奏
3	前期実習作品制作演習（乳幼児対象）
4	前期実習作品制作演習（児童対象）
5	前期実習作品制作発表（乳幼児対象）
6	前期実習作品制作発表（児童向け）
7	前期外部実習（幼稚園）ゲネラルプローベ
8	前期外部実習（幼稚園）
9	前期外部実習（幼稚園）事後研究
10	前期外部実習（保育園）ゲネラルプローベ
11	前期外部実習（保育園）
12	前期外部実習（保育園）事後研究
13	前期外部実習（小学校）ゲネラルプローベ
14	前期外部実習（小学校）
15	前期外部実習（小学校）事後研究

	※各実習先の依頼時期に応じて、変更等も行いながら下記の計画を進めます。 ［後期］
1	後期実習計画案作成、全体合奏
2	後期実習作品制作演習（乳幼児対象）
3	後期実習作品制作演習（児童対象）
4	後期実習作品制作発表（乳幼児対象）
5	後期実習作品制作発表（児童対象）
6	後期外部実習（幼稚園）ゲネラルプローベ
7	後期外部実習（幼稚園）
8	後期外部実習（幼稚園）事後研究
9	後期外部実習（保育園）ゲネラルプローベ
10	後期外部実習（保育園）
11	後期外部実習（保育園）事後研究
12	後期外部実習（小学校）ゲネラルプローベ
13	後期外部実習（小学校）
14	後期外部実習（小学校）事後研究
15	総括

当ゼミの趣旨
演奏会で“社会貢献” する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］新井ゼミ						
代表教員	新井　秀昇	授業コード	GE0111A3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

自分達の音楽を追求し発表する

１．主題・到達目標

コンサート開催に際して
・各々のやりたい事・好きな事を改めて見つめそれをいかに表現するか
・集まった音楽家たちで出来得る最大限の面白い表現は何か
・各履修者の専攻や趣向により集まる多種多様な音楽をいかに音楽的に構成しより楽しめるものにするか
これらを突き詰め実践する。その過程でより幅広い感性、音楽力、プロデュース能力、積極性、協調性などを磨く。
（また、様々なワークを通して、自分が今後の人生でどのように音楽を楽しみ、どのように音楽と付き合っていけるのかをより幅広い視野を持って考えていくきっかけにしてほしい。）

２．授業概要

・前後期各1回ずつの自主制作コンサートを行い、それに向けて音楽面・アートアマネージメント面の両面で様々なワークに取り組む。当ゼミで行うコンサートは依頼公演や特定の客層を意識したタイプのものではなく、純粋な自己の表現や履修者同士で突き詰めた音楽を発表するもので、それらを聴衆にいかに受け入れてもらうかを考察し実践する。

・演奏家のみならず様々な分野で音楽に関わるゲストを数回招き、音楽表現やコンサート制作のヒントにする。

・表現の可能性を広げるため、鑑賞や、多彩なコースを有する本学の特徴を活かして立候補学生による各分野の音楽に関するプレゼンテーション、集まった履修者で出来得るセッション等も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサートにおける演目の準備（演目考察、楽譜等用意、練習）、制作活動（企画考察、広報、印刷物作成、他各調整）等

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（発案・ディスカッションやプレゼンテーションへの参加など）：30%、
コンサート制作に対する積極性：35%、コンサートでの発表内容：35%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に、適宜資料を配布する（楽譜、チラシ例、プログラム例等）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「自身の表現活動のために最大限の努力が出来る」、「仲間との協調ができる」、「報告・連絡・相談が出来る」以上3点を満たす人

授業計画	
1	ガイダンス／自主制作公演についての講義
2	コンサート企画 （考察／ディスカッション：音楽面）
3	ゲストによる講義・履修者とのディスカッション
4	コンサート企画（前回を踏まえ考察／ディスカッション：音楽面・マネジメント面）
5	係決め／広報に関するディスカッション／演目演習
6	鑑賞とその音楽にまつわる講義／演目演習
7	プログラミング概案策定／プログラムノートに関するレクチャー
8	セッション／演目演習
9	ゲストによる講義・履修者とのディスカッション
10	プログラミング確定／配布プログラム準備／演目演習
11	立候補学生によるプレゼンテーション／演目演習
12	セッション／演目演習
13	コンサート前最終打ち合わせ／演目演習
14	前期コンサート
15	前期まとめ

1	コンサート企画 （考察／ディスカッション：音楽面）
2	ゲストによる講義・履修者とのディスカッション
3	コンサート企画（前回を踏まえ考察／ディスカッション：音楽面・マネジメント面）
4	係決め／広報に関するディスカッション／演目演習
5	セッション／演目演習
6	鑑賞とその音楽にまつわる講義／演目演習
7	プログラミング概案策定／プログラムノートに関するレクチャー
8	立候補学生によるプレゼンテーション／演目演習
9	ゲストによる講義・履修者とのディスカッション
10	プログラミング確定／配布プログラム準備／演目演習
11	広報に関するディスカッション／演目演習
12	演目演習
13	コンサート前最終打ち合わせ／演目演習
14	後期コンサート
15	年間まとめ

※「演目演習」では実際にコンサートで発表する楽曲のレッスンやその曲を使用した講義、履修者間での披露／意見交換等、都度各回に適した学習を行う。

当ゼミの趣旨

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］大石ゼミ						
代表教員	大石　将紀	授業コード	GE0111C1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

現代の音楽表現研究

１．主題・到達目標

現代音楽、また現代における様々な音楽表現の方法を研究します。
現代の音楽表現に幅広く触れ、知識と経験を広げコンサートで発表します。常に新しいものへの好奇心を持ち続ける演奏家を目指します。

２．授業概要

【現代音楽への導入】
現代音楽の基礎知識、現代音楽史、現代音楽作曲家について学びます。

【演奏系専攻の学生】
現代音楽作品の演奏方法、特殊奏法など現代音楽界で第一線で活躍している演奏家をゲスト講師として迎え学びます。ゲスト講師の活動に触れ刺激を受けます。
ソロ作品、室内楽作品を演奏実習、コンサートリハーサルを通して勉強し、ゼミコンサートで演奏します。

【作曲系専攻の学生】
作曲家のゲスト講師を迎え、作品、活動に触れ刺激を受けます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習する曲の譜読み、個人練習は授業時間外で各々行ってもらいます。
学外で行われる任意の現代音楽の演奏会２公演に行き、レポートを提出してもらいます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(参加状況）、取り組み、レポート、教員、他の学生との協働性等も評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が用意するもの、受講学生が用意するもの、図書館等から借りるもの等を使います。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽専攻生、声楽専攻生、洋楽器から邦楽器まで幅広く募集します。
作曲専攻生、音楽・音響デザイン専攻生は、楽器やヴォーカル、またはコンピューターなどを使って演奏、パフォーマンスができる事を必要とします。

授業計画	
	［前期］
1	受講生の顔合わせ、年間の授業計画説明
2	履修生によるプレゼンテーション　第1回
3	履修生によるプレゼンテーション　第２回
4	履修生によるプレゼンテーション　第３回
5	現代音楽の基礎知識、現代音楽史
6	実験音楽、シアターピース入門
7	実験音楽、シアターピース実習
8	ゲスト講師による楽器、作品、現代奏法のレクチャー
9	前期コンサート　プログラム会議
10	サウンド・ペインティング（１）入門
11	サウンドペインティング　（２）　教本第１巻
12	前期コンサートリハーサル
13	前期コンサート　全体リハーサル
14	前期コンサート
15	前期授業を終えてのディスカッション

	［後期］
1	後期の授業計画説明、後期コンサートの打ち合わせ
2	ゲスト講師による楽器、作品、現代奏法のレクチャー
3	ソロ、室内楽、電子音楽作品等のレパートリー研究
4	ソロ、室内楽、電子音楽作品等の現代作品演奏実習 または作曲系学生と演奏系学生の新曲創作コラボレーション
5	学外コンサート、後期コンサートプログラム会議
6	サウンド・ペインティング（3）　教本第１巻復習
7	サウンド・ペインティング（4）　教本第２巻
8	学外コンサート　リハーサル
9	学外コンサート　全体リハーサル
10	学外コンサート
11	後期コンサートリハーサル
12	後期コンサートリハーサル
13	後期コンサート　全体リハーサル
14	後期コンサート
15	後期授業を終えてのディスカッション

*各回の授業内容は、進度により変更することがある。
{サウンドペインティング参考映像,https://www.youtube.com/watch?v=ptuS_Ryn2S4}

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］大城ゼミ						
代表教員	大城　正司	授業コード	GE0111C2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ソリストへの真剣な努力、自分への音楽を聴衆に問いかける」

１．主題・到達目標

魅力的なソリストとしてステージに立つことを最大の目標とする。
自分達の力で演奏会を作り上げ、アートマネージメントスキルを習得する。

２．授業概要

ソリストとして活躍するゲスト講師の演奏と講義や、名演奏家の映像や録音の分析を通じ、ソリストとしての素養を学び、前・後期末にはソロ演奏会を企画し、自身がステージに立つ。
幾つかのグループに分かれて、それぞれが協力し自分達の手で演奏会を企画、運営する。また、裏方の経験を通じて演奏会開催に必要な作業を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会の企画準備、各々の独奏曲の練習。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演奏会への取り組み方（評価の70%）
演奏会での演奏内容（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

なし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソリストとしての真剣な勉強をしたい器楽専攻者。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	前期演奏会企画
3	前期演奏会企画
4	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
5	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
6	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽生について考察する。
7	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
8	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
9	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
10	前期演奏会準備
11	前期演奏会準備
12	前期ソロ・コンサート
13	前期ソロ・コンサート
14	前期ソロ・コンサート
15	前期ソロ・コンサート

	［後期］
1	前期演奏会反省会
2	後期演奏会企画
3	後期演奏会企画
4	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
5	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
6	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽生について考察する。
7	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
8	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
9	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。
10	後期演奏会準備
11	後期演奏会　準備
12	後期ソロ・コンサート
13	後期ソロ・コンサート
14	後期ソロ・コンサート
15	後期ソロコンサート

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］花柳ゼミ						
代表教員	花柳　珂穂月	授業コード	GE0111H1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「憧れの日本舞踊」

１．主題・到達目標

音楽を表現するのに、『ただ突っ立って演奏しても、観客の心には響きません！』年間を通して日本舞踊を学ぶ過程で、舞台での心構え、所作、表現力等、舞台人に必要なスキルの向上を目指します。

２．授業概要

古典日本舞踊の基礎（着付け、基本所作、小道具の使い方、簡単な演目の習得。学生各自の希望を考慮した演目の決定、おけい古。最終発表会。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を習得している事を前提に進むので、
しっかり復習すること。
曖昧な箇所を自分なりに把握すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（参加状況含む）（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

浴衣一式、舞踊用の扇（学校で購入できます。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻は一切関係ありません。日本舞踊に触れる機会を提供することが主たる目的ですので、目に留まったら、まず体験して下さい。一年やり抜いたその先には、今までと違う自分が待っているはずです。

授業計画	
	［前期］
1	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　基礎） ・小曲の練習1
2	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　定着） ・小曲の練習2
3	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　応用） ・小曲の練習3
4	・小曲の練習4 ・小道具（扇）の使い方　基礎 ・発表会演目を決める話し合い （候補を出す 1 ）
5	・小曲の練習 5 ・小道具（扇）の使い方　基礎復習 ・発表会演目を決める話し合い （候補を出す 曲を聞く）
6	・小曲の練習6 ・小道具（扇）の使い方　応用 ・発表会演目を決める話し合い （曲目決定）
7	・小曲の練習　応用 ・小道具（扇）の使い方　応用復習 ・発表会演目を決める話し合い （グループ分け）
8	・小曲の練習　定着 ・小道具（扇）の使い方　定着 ・発表会演目を決める話し合い （グループ決定）
9	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習　1 演奏者選出(候補)
10	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習　2 演奏者選出(決定)
11	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 3 演奏内容打ち合わせ
12	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 4
13	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 5 （グループごとに小道具指導）
14	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 6 （グループごとに小道具指導） チラシ製作者選出
15	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 まとめ チラシ製作者決定

	［後期］
1	・一曲めの演目を各グループで練習　確認 ・チラシの作成 ・発表会役割分担(案) ・本番用小道具作成(案)
2	・各自二曲目の演目をグループで練習 1 ・チラシの作成(印刷) ・発表会役割分担(決定) ・本番用小道具作成
3	・各自二曲目の演目をグループで練習 2 ・タイムスケジュールの作成(案)
4	・各自二曲目の演目をグループで練習　3 ・タイムスケジュールの作成 確認
5	・各自二曲目の演目をグループで練習 4 ・発表会役割分担(案) ・本番用進行表作成(案)
6	・各自二曲目の演目をグループで練習 5 ・発表会役割分担(決定) ・本番用進行表作成(決定)
7	・演目ごとの各グループで練習　復習 ・プログラム製作者選出
8	・演目ごとの各グループで練習　定着 ・プログラム内容決定 確認
9	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ　1) 小曲の復習 プログラムの製本
10	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ　2) 小曲の復習　定着 本番用衣裳の打ち合わせ
11	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ、確認) 小曲の復習　確認 本番用衣裳の作成　合わせ
12	演目ごとの各グループで練習　仕上げ 小曲の復習　仕上げ 本番用衣裳の作成　確認
13	リハーサル
14	発表会
15	反省会 (DVD鑑賞、次年度への目標)

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力”　を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］星野ゼミ						
代表教員	星野　均	授業コード	GE0111H4	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「明日のプロフェッショナルを目指して」

１．主題・到達目標

　このゼミでは、合奏を主体として演奏会実習を行います。個人レッスンで日々研鑽を積んでいる演奏技術を生かし、様々な形態でのアンサンブルを経験します。 少人数から中規模の編成のアンサンブルを通して、自分以外の奏者の音を聴き分け、タイミングやダイナミックス、ニュアンス、音程など多岐に渡る部分を瞬時に判断し、高度な協調性を主体にした演奏を出来る得る、演奏家としての資質を高める事が目的です。基本的には古典から現代までのオリジナル作品を中心としていますが、依頼を受けての演奏会では対象に応じて編曲されたものも取り上げます。好きな曲を編曲して演奏してみたい学生はチャレンジしてみるのも良いでしょう。互いに協力して、質の高い内容の演奏会を目指します。
　また、演奏会の企画、運営を経験することができるのもこのゼミの特徴です。会場の確保、やりたい曲と方向性や対象をふまえた上でのプログラミング、また集客に向けた広報活動、当日までのスケジューリング、そして本番の裏方など、卒業後に様々な場面で必要とされるマネージメントスキルを身につける事ももう一つの目的としています。ゼミの仲間と共に協力して、演奏会を成功させるスキルを身につけて行きましょう。

２．授業概要

木管楽器(ホルンを含む),及びピアノを加えた大編成室内楽、更にクラリネット合奏を行います。
アンサンブルにより演奏能力、コミュニケーション能力の向上を計りながら、演奏会を目指します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会曲目の練習、研究に取り組んで下さい。また、演奏会前には臨時練習も行います。

４．成績評価の方法及び基準

演奏能力(評価の40%)、授業態度(評価の20%)、演奏会に向けての参加姿勢(評価の40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

あらゆる時代の室内楽作品全般,及び弦楽合奏、オーケストラなどの楽曲を編曲して演奏します（委嘱作品含む）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

木管楽器全般、ホルン、ピアノ、声楽、作曲、音響デザイン、指揮をしてみたい人(学生全般)

授業計画	
基本的には年2回から、4回の演奏会を行います。外部からの依頼があった場合、学生の意欲に応じて決定します。	
	［前期］ 新年度が始まり、お互いのコミュニケーションの向上。その上で演奏会に向けての準備、練習を行います。
1	ガイダンス
2	編成及び選曲
3	編成及び選曲
4	編成及び選曲
5	試奏
6	試奏
7	試奏
8	演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
9	演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
10	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
11	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
12	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
13	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
14	本番
15	反省会（次回演奏会へ向けての対策及び対応）

	［後期］ 前期に準ずる 演奏会場は基本的に大学内で行いますが、外部での演奏会も視野に入れ柔軟に考えていきます。
1	ガイダンス
2	編成及び選曲
3	編成及び選曲
4	編成及び選曲
5	試奏
6	試奏
7	試奏
8	演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
9	演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
10	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
11	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
12	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
13	練習及びチラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
14	本番
15	反省会（次回演奏会へ向けての対策及び対応）

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］橋本ゼミ						
代表教員	橋本　晋哉	授業コード	GE0111H5	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WB・PI・CO（その他のコース要相談）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ブラスアンサンブルを極めよう」（金管楽器の近未来）

１．主題・到達目標

様々な編成のブラスアンサンブルの歴史を学び、これからのブラスアンサンブルのありかた、行方を探求します。
ブラスアンサンブルにおいて必要なテクニック、そのチームワークをどのように維持するかについて学び、実践します。
更に、様々な演奏の機会に当たって、自分たちでどのように企画を立て、事務的な準備を行い、適切な広報を通じて演奏会を実現するか、ブラスアンサンブル特有の事情も踏まえて、そのノウハウについて学びます。

２．授業概要

・基礎能力の向上のため、毎回の授業の始めには、個人の演奏技術やアンサンブルに必要な基礎トレーニングを行います。
・内容は履修生のレベルを考慮して選択し、全体の向上を図ります。
・小編成から大編成に至るブラスアンサンブルの歴史の重要なレパートリーを演奏、作品分析する事で体感し、演奏スタイルについて知識及び感覚として身に付けます。
・金管楽器に興味ある作曲家の学生を集め、それぞれの金管楽器についてレクチャーの機会を設け、作品の制作を積極的にアシストして、レパートリーの拡大に努めます。
・前期・後期1回ずつのコンサートを学生主導で企画、実施します。この2回のコンサートを通じて、演奏技術の向上だけでなく、アートマネージメントスキルの修得も目的とします。また、希望者があれば学園祭での幼児向け演奏会の実施も企画します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業初日に渡す、伊達博一「演奏者の基本マナー」に則って、授業への準備をしてもらいます。
「自分のパートはあらかじめ練習しておく」「練習に遅刻や欠席をしない」「練習の準備や後片付けは全員で行う」「演奏上の提案や指摘には注意深く耳を傾ける」「主張だけでなく妥協も必要である」「演奏中に足で拍子を取らない」「自分の楽器やパートの難しさを他言しない」
アートマネージメントについて、日本クラシック音楽事業協会「クラシック・コンサート制作の基礎知識」の該当箇所を事前に読んでもら

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みの姿勢（参加状況）（評価の75%）、演奏会の出来映えなど（評価の25%）を考慮して、成績を評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜に関しては、担当教員が準備するもの・学生が持ち寄ったものを使います。テキストは日本クラシック音楽事業協会「クラシック・コンサート制作の基礎知識」を部分的に使用します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

金　管：金管楽器を専攻している学部生、大学院生、専攻科生。
打楽器：若干名（学部生、大学院生、専攻科生を対象）。
作　曲：若干名（学部生、大学院生、専攻科生を対象）、その他の専攻生も履修可能です（事前に相談ください）。

授業計画	
前期・後期それぞれに一回ずつ、演奏発表の機会を設けます。後期は外部での演奏を予定しています。 それら演奏会の企画、準備、練習を通じてブラスアンサンブル、アートマネージメントスキルについて学びます。	
1	受講メンバーの自己紹介、「演奏者の基本マナー」、金管楽器の基礎テクニック
2	金管合奏の歴史1（中世からロマン派）、アートマネージメントの基本1（演奏会の目的）
3	金管合奏の歴史2（近代から現代）、前期研究曲目の選定
4	演奏メンバー割り振り、研究曲目の解説と実習
5	前期研究曲目の選定、学内演奏会での役割分担
6	アートマネージメントの基本2（準備の概要）、楽曲リハーサル
7	基本レパートリー学習1（ルネサンスからバロック）、楽曲リハーサル
8	アートマネージメントの基本3（広報の基本）、楽曲リハーサル
9	基本レパートリー学習2（古典派）、楽曲リハーサル
10	アートマネージメントの基本4（舞台の進行）、楽曲リハーサル
11	基本レパートリー学習3（ロマン派）、楽曲リハーサル
12	アートマネージメントの基本5 （再確認とまとめ）、楽曲リハーサル
13	基本レパートリー学習4（近代）、楽曲リハーサル
14	学内演奏会リハーサル(GP)
15	学内演奏会

1	前期の反省と後期の計画、後期研究曲目の選定
2	演奏メンバー割り振り、学外演奏会での役割分担
3	アートマネージメント応用1（よい企画とは）、楽曲リハーサル
4	楽器紹介デモンストレーション実習1（トランペット）、楽曲リハーサル
5	アートマネージメント応用2（予算策定、著作権について）、楽曲リハーサル
6	楽器紹介デモンストレーション実習2（ホルン）、楽曲リハーサル
7	アートマネージメント応用3（様々な広報）、楽曲リハーサル
8	楽器紹介デモンストレーション実習3（トロンボーン）、楽曲リハーサル
9	アートマネージメント応用4（様々なマナーについて）、楽曲リハーサル
10	楽器紹介デモンストレーション実習4（ユーフォニアム、チューバ）、楽曲リハーサル
11	楽曲リハーサル、演奏会準備予備日
12	楽曲リハーサル、演奏会準備予備日
13	学外演奏会リハーサル(GP)
14	学外演奏会
15	反省会、今後の展望

当ゼミの趣旨

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］秦ゼミ						
代表教員	秦　江里奈	授業コード	GE0111H6	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習,研究	配当学年	1				
対象コース	全(BL・AS・DCを除く)	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

生涯、音楽と共に生きていくための自己開発

１．主題・到達目標

①脳科学的視点から見る演奏について　②演奏においての理想の身体の使い方　③本番時のメンタル強化　④表現について
自分のことは意外に目に見えません。ましてや自分の脳部位、自分の骨や関節、心の中など、見て確認することは不可能であり、認識すら定かではありません。
本番に対しての意識は卒業後「過程が重要」から「結果が重要」に移行し、そこでギャランティーも発生するなら立派なプロの演奏家となるわけです。たった１回の演奏の結果でさえ、その後に影響を及ぼす事態にもなりかねません。大変厳しい道で路頭に迷わないために,音を出すことへの責任感や人とのつながりの重要性などを今新たに考えてみましょう。また、「演奏会」というひとつのイベントをあらゆる角度から追及し、ひとりだけで成り立っているのではないことを認識し、一から作り上げるその工程と達成感を体験しましょう。
「音楽と共に生きる」とは、どんな角度ややり方でもよいので、とにかく演奏を続けてもらいたいという全教員の願いからのメッセージでもあります。

２．授業概要

年に２回の「秦ゼミカンタービレ」の演奏会出演。（参考：２０１７年度は９月前田ホール、1月シルバーマウンテン）
ツクイサンシャイン高津、川崎高津老人福祉・交流センター、昭和大学病院、関東医療少年院等（未定）での慰問コンサート、保育園、学童保育、小学校などのアウトリーチとイベントコンサート等。
授業ではこれらの演奏会準備の打ち合わせ、プロフィール写真撮影とチラシ作りの工程、及び練習、試演の他、各コースの試験曲での試演会(シルバーマウンテンにて（未定））、授業目標の主題①②③④の研究の他、年に５回の各界で活躍するゲスト講師による特別授業。
（参考：２０１７年度はシエナ・ウインドオーケストラのTb郡恭一郎、NHK交響楽団のVa飛澤浩人、ジュビロ磐田コーチの元Jリーガーの小林稔、俳優の岸田真弥,東京大学人文社会系研究科の佐野夕香）
各自のコース以外の学生との交流の機会の提供（特にアンサンブル、伴奏者（pf)とのゼミ内編成を可能にする）
学生のニーズによりコンクールやオーディションへの試演会及びレッスンと意見交換

３．授業時間外の学習（予習復習について）

通常の自己練習。外部コンサートでのアンサンブルでの各チームのあわせ。

４．成績評価の方法及び基準

提出物締切厳守と最低限のモラル及び担当教員が学生に対しての信頼度（評価の３５％）
慰問コンサートへの貢献度（評価の３５％）
平常点(積極的な発言)と各コンサートでの演奏評価（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

基本的には各自で用意。慰問コンサートに関しては編成により担当教員が用意。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

②演奏時の脱力③演奏時のメンタル④表現力、の主題目標達成の実感については各試演会、各コンサート終了後担当教員と個別に話しあう

授業計画	
秦ゼミコンサート、慰問及びイベントコンサート、ゲスト講師等、日程未定のため１年を通しての概要は次のようになります	
	ゲスト講師２回、　慰問コンサート２回　、試演会 、研究①と②
1	授業概要説明と各学生の自己紹介
2	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせ ①脳科学的視点による演奏法の研究
3	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせ ①脳科学的視点による演奏法の研究
4	ゲスト講師第１回目
5	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせ ①脳科学的視点による演奏法の研究
6	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせと練習 ①身体の使い方、脱力の研究
7	ゲスト講師２回目
8	慰問コンサート、アンサンブルチーム試演会とレッスン ②身体の使い方、ナンバ術の講義
9	前期「秦ゼミカンタービレ」の打ち合わせとアンサンブルレッスン
10	前期「秦ゼミカンタービレ」の打ち合わせとアンサンブルレッスン
11	プロフィール写真撮影等
12	ピアノコース試験曲試演会
13	ピアノコース試験曲試演会
14	ピアノコース試験曲試演会
15	教職ピアノ履修生の模擬試験と前期秦ゼミカンタービレの打ち合わせと練習

	秦ゼミカンタービレ（前期、後期）、　慰問コンサート２回、小学校イベントコンサート、ゲスト講師３回、研究③と④、試演会
1	WIコース、PIコース,SIコース、MEコース他試験曲試演会
2	WIコース、PIコース,SIコース、MEコース他試験曲試演会
3	秦ゼミカンタービレ、慰問コンサート、イベントコンサート練習
4	秦ゼミカンタービレ、慰問コンサート、イベントコンサート練習
5	秦ゼミカンタービレ全体練習
6	半年を振り返って
7	ゲスト講師３回目
8	③本番での実力発揮へのメンタル強化の研究
9	ゲスト講師４回目（④の研究）
10	③メンタル研究　イベントコンサートの打ち合わせと練習
11	ゲスト５回目（④の研究）
12	秦ゼミカンタービレ（後期）打ち合わせとチラシ、プログラム作成
13	秦ゼミカンタービレ（後期）打ち合わせとチラシ、プログラム作成 練習とアドバイス
14	秦ゼミカンタービレ（後期）打ち合わせとチラシ、プログラム作成 練習とアドバイス
15	教職ピアノ履修者模擬試験、秦ゼミカンタービレの準備とリハ　１年を振り返って

日程は変更する場合があります

当ゼミの趣旨

“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［金3］井出ゼミ						
代表教員	井出　博子	授業コード	GE0111J2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「メーキング・フィルムミュージック　スタジオミュージシャンをめざせ！」

１．主題・到達目標

音楽や映画、また、それに関わる人々との交流を通して、「自らの人生の選択」の方法を学んでいく。芸術家としての役割とは何なのかを考え、自分の生き方を見つけ出して欲しい。
映画における音楽の重要性は言うまでもありませんが、日本の音楽家が世界に出て、もっともっと映画音楽にたずさわっていって欲しいと思っています。これまでにこのゼミは、「かもめ食堂」や「めがね」で知られる荻上直子監督作品で、ベルリン映画祭受賞の「バーバー吉野」と、「恋は五七五！」、東京大学合同プロジェクト作品「ブルーシンフォニー」（東京国際映画祭ノミネート）などの音楽レコーディング、「トイレット」の音楽企画に参加してきました。またテレビ番組「南極大陸」のレコーディングにもたずさわりました。
これからもこのゼミから、映画音楽のリーダー的存在として多くの卒業生が育っていくことを期待します。

２．授業概要

映画音楽はどのようにつくられていくのかを、映画分析、演奏、他校学生との議論、現役プロデューサーによる講義、そしてスタジオ見学等を通して、幅広く学んでいく。
今年は新たな器楽専攻の学生を募集したい。作曲コース、音楽・音響デザインコースの学生には、アメリカの大学生（映画学科）とのコラボを期待したい。
また、希望者があれば音楽ソフトの使い方等も指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作曲にたずさわる学生は、提出期限までに制作完了するための時間を授業時間外で各自設定、演奏にたずさわる学生は、コンサートのための演奏練習時間を授業時間外に各グループで設定し、コンサートに備える。

４．成績評価の方法及び基準

提出物・演奏：（評価の50%）
授業への参加姿勢（参加状況／時間厳守）：（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で提示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

なし

授業計画	
〈本年度のプロジェクト〉 ＊1. 荻上直子監督（ベルリン映画祭受賞・文科大臣賞受賞）未公開練習用フィルムの音楽付け 2. アメリカの学生フィルムの音楽付け このプロジェクトは、学生（作曲コースに限らず希望者は可）が作曲し、器楽の学生が映像に合わせて演奏するというスタイルでおこなう	
	［前期］
1	都立桜ヶ丘公園桜祭コンサートの準備
2	都立桜ヶ丘公園桜祭コンサートの準備
3	武蔵野日赤病院コンサートの準備
4	武蔵野日赤病院コンサートの準備
5	武蔵野日赤病院コンサートの準備
6	武蔵野日赤病院コンサートの準備
7	映画音楽研究(1)
8	映画音楽研究(2)
9	映画音楽研究(3)
10	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備
11	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備
12	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備
13	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備
14	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備
15	映画音楽クリティーク

	［後期］
1	キャンドルナイト リハーサル
2	映画音楽研究(4)
3	映画音楽研究(5)
4	映画音楽研究(6)
5	WTUC Christmas Concert準備
6	WTUC Christmas Concert準備
7	WTUC Christmas Concert準備
8	WTUC Christmas Concert準備
9	WTUC Christmas Concert準備
10	WTUC Christmas Concert準備
11	WTUC Christmas Concert準備
12	WTUC Christmas Concert準備
13	映画鑑賞及びクリティーク
14	映画鑑賞及びクリティーク
15	学内コンサート

当ゼミの趣旨
様々な“メディア” での音楽制作を研究・体験する 演奏会で“社会貢献” する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］門倉ゼミ						
代表教員	門倉　美香	授業コード	GE0111K2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	山田　州子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「コミュニケーション能力を高めよう！」

１．主題・到達目標

主題：あなただからこそ、出来る事が必ずあります。コミュニケーション力を高め、仲間達に自分の意見をしっかり伝えられるようになりましょう。
目標：一人一人、得意な事は異なります。自己分析力を高め、自分の得意な事を見つけましょう。

２．授業概要

振り付け、アレンジ、楽器演奏など、お互いアイディアを出し合い、アートマネージメントスキルの習得を目指したポップスコーラスメインの自主コンサート開催を、企画から行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習、イベント依頼用臨時練習、希望者によるホームページ更新

４．成績評価の方法及び基準

1、平常点（評価の80%）、予習（評価の20%）、平常点は授業への参加姿勢、授業態度で総合的に判断する。
2、前期一回、後期一回のコンサートには、必ず参加をしているか。また、学外でのイベント出演に、積極的に参加しているかも、判断の基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

イベント依頼時点で決定

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

仲間を大切にし、団体行動が出来、音楽を楽しむ事が大好きで、元気がある人

授業計画	
前期コンサート/後期コンサートに向けて活動 ※尚、TV、CM、アーティストコンサート、イベント出演の際は、スケジュール変更を行う場合があります。	
	2016年度、「Y!mobile」CM撮影、「寅さんサミット」出演。 前田ホールにてゼミ主催コンサート、DVD撮影。 2017年度、地域推進コンサート、昭和大学豊洲病院コンサート、自由が丘女神祭りコンサート、NHKイベント、「嵐」ドームツアー映像出演、高津市民音楽祭出演、年二回ゼミコンサート開催。
1	ガイダンス
2	各担当決め
3	パート決め
4	ゼミプレゼンテーション用動画撮影に向けて曲決め
5	全体合唱、音取り
6	パート別練習
7	全体合唱練習
8	動画撮影リハーサル
9	動画撮影
10	前期自主コンサートに向けてグループ分け
11	グループ練習
12	グループ振り付け
13	公開リハーサル
14	グループ練習 全体合唱練習
15	コンサート開催

1	前期コンサートの反省、改善すべき点の検討
2	後期コンサートの話し合い
3	グループ決め
4	グループ内パート決め
5	グループ練習
6	グループ振り付け
7	グループ合唱練習
8	グループ公開リハーサル
9	全体合唱、プログラム決め
10	全体合唱練習
11	全体合唱振り付け
12	全体合唱練習
13	全体合唱公開リハーサル
14	通しリハーサル
15	コンサート開催

当ゼミの趣旨
様々な“メディア” での音楽制作を研究・体験する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［金3］川本ゼミ						
代表教員	川本　統脩	授業コード	GE0111K3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	このゼミを受講した経験のある学生に限る。						

ゼミテーマ

「指揮したい者、指揮に興味のある者、集まれ！」（Director's Ensemble）

１．主題・到達目標

音楽指導者を志し、指揮に興味を持つ者が集い「指揮って何」を考える。
吹奏楽や管弦楽などの演奏会を企画し、発表までのプロセスを共有し、マネージメント能力を養う。

２．授業概要

ピアノで学んだ「指揮法教程」の練習題を、小さなアンサンブルに編曲し直に奏者の呼吸を感じながら、指揮の運動と音楽的な呼吸法について研究する。他にも吹奏楽や管弦楽の名曲から指揮法的課題を見つけ、アンサンブルを通して実践的な対応を研究する。
プロデュースに興味のある学生とゼミ長を中心に演奏会の企画を練り、指揮者の人選やバランスのとれた演目を決めて準備を主導する。また曲目解説を書きチラシ・プログラムを作成して演奏会制作の実際を体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会の発表曲が決まったら、時間外に合奏のための練習場を確保し、各々練習計画をたて準備に入る。
指揮をする者は楽曲をよく理解し、曲をどのように表現したいかを明確にしてくること。運営を担当するものはゼミ長やチームリーダーと協議し、授業や練習が円滑に進められるよう、進行の構想を練り準備する。

４．成績評価の方法及び基準

成績は平常点と演奏会を見て評価する。平常点は実習を通した技能の習得力を見る。また他人の指揮を見て良い点・悪い点を指摘し、判断の元になる意見を端的に述べることも評価の対象とする。
演表会の企画から実施まで役割分担に応じた積極的な行動を期待し、リーダーシップが取れることを高く評価する。事前の準備や練習の運営能力などを踏まえ、成果としての演奏会の発表をみて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

改訂新版『指揮法教程』齋藤秀雄著（音楽之友社）を主教材として使用する。
参考文献：『はじめての指揮法』斉田好雄著（音楽之友社）、完本『指揮法入門』高橋正光著（音楽之友社）
ホルスト「吹奏楽のための第一組曲」「吹奏楽のための第2組曲」、民謡組曲ヴォーン・ウィリアムズ「イギリス民謡組曲」ベートーベン「交響曲第1番」「交響曲第5番」またJ.シュトラウス「美しく碧きドナウ」等、適宜実演する楽曲のスコアを用意すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

互いの演奏を通して指揮の手応えを感じるためにも、表現力のある演奏コースの学生の履修が望ましい。
演奏会を具体化するアートマネージメントは経験から得られるノウハウが多く、先輩から継承している。受講回数の多いリーダーシップのある上級生にゼミ長をお願いしていることを承知してほしい。
また演奏会のメンバー集めは各人が学内で培った友情と信頼関係で成り立っている。普段から快く賛助出演してくれる人間関係を築いておいて欲しい。

授業計画	
前期は主に指揮法教程や簡単な曲を少編成にアレンジし指揮することを中心に行う。 後期は演奏会のコンセプトを決め、選曲について協議する。 チラシやプログラム作成にも比重が置かれるが、アンサンブルを指揮することで表現力を磨き、普遍的なテクニックの抽出を試みる。	
	［前期］
1	練習題No.1と2を使って指揮法の基本を理解する。 主に間接運動を使い呼吸（ブレス）を指揮に反映する練習を行う。
2	練習題No.1と2を使って指揮法の基本を理解する。 主に間接運動を使い呼吸（ブレス）を指揮に反映する練習を行う。
3	練習題No.1と2を使って指揮法の基本を理解する。 主に間接運動を使い呼吸（ブレス）を指揮に反映する練習を行う。
4	練習題No.2から4までを教材にし間接運動を主にするが跳ね上げや引っ掛けなどの直接運動も取り入れた練習を行う。
5	練習題No.2から4までを教材にし間接運動を主にするが跳ね上げや引っ掛けなどの直接運動も取り入れた練習を行う。
6	練習題No.2から4までを教材にし間接運動を主にするが跳ね上げや引っ掛けなどの直接運動も取り入れた練習を行う。
7	練習題No.7を練習すると同時に、混合拍子の図形の描き方を学ぶ。
8	練習題No.7を練習すると同時に、混合拍子の図形の描き方を学ぶ。
9	練習題No.7を練習すると同時に、混合拍子の図形の描き方を学ぶ。
10	練習題No.7を練習すると同時に、混合拍子の図形の描き方を学ぶ。
11	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて練習を行う。発表会での役割分担を決め、曲目解説を準備しプログラムの作成と情宣活動を行う。
12	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて練習を行う。発表会での役割分担を決め、曲目解説を準備しプログラムの作成と情宣活動を行う。
13	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて練習を行う。発表会での役割分担を決め、曲目解説を準備しプログラムの作成と情宣活動を行う。
14	本番の開場を予約し、GPをして会場練習を行う。
15	企画した演奏会を成果発表として行う。

	［後期］
1	練習題No.5を原曲と比較研究し、少人数のアンサンブルに編曲して交替で指揮実習する。既習者は演奏曲を決めメンバー集めをし、楽譜の手配や練習計画を作る。
2	練習題No.5を原曲と比較研究し、少人数のアンサンブルに編曲して交替で指揮実習する。既習者は演奏曲を決めメンバー集めをし、楽譜の手配や練習計画を作る。
3	練習題No.8を原曲と比較研究し、少人数のアンサンブルに編曲して交替で指揮実習する。既習者は演奏曲を決めメンバー集めをし、楽譜の手配や練習計画を作る。
4	練習題No.8を原曲と比較研究し、少人数のアンサンブルに編曲して交替で指揮実習する。既習者は演奏曲を決めメンバー集めをし、楽譜の手配や練習計画を作る。
5	練習題No.8を原曲と比較研究し、少人数のアンサンブルに編曲して交替で指揮実習する。既習者は演奏曲を決めメンバー集めをし、楽譜の手配や練習計画を作る。
6	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて、グループごとの練習を通して、各自リハーサルテクニックを身につける。チラシを作成する。
7	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて、グループごとの練習を通して、各自リハーサルテクニックを身につける。チラシを作成する。
8	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて、グループごとの練習を通して、各自リハーサルテクニックを身につける。チラシを作成する。
9	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて、グループごとの練習を通して、各自リハーサルテクニックを身につける。チラシを作成する。
10	演奏する練習題とアンサンブル曲を決めて、グループごとの練習を通して、各自リハーサルテクニックを身につける。チラシを作成する。
11	担当曲の練習とプログラムの作成と情宣活動を行う。
12	担当曲の練習とプログラムの作成と情宣活動を行う。
13	担当曲の練習とプログラムの作成と情宣活動を行う。
14	本番の開場を予約し、GPとして会場練習を行う。
15	企画した演奏会を成果発表として行う。

当ゼミの趣旨

このゼミでは音楽の指導者や指揮者を志す学生を育てる場として活動してきた。この体験が音楽表現や指揮技術の習得だけに終わらず、将来何かを創り上げる原動力になることを願っている。演奏会では多くの学友に賛助出演してもらい負担をかけることになるので、ゼミ生全員がDirectorとしての意識を持ち、周りの才能ある人々を活かすマネージメントをして欲しい。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］北島ゼミ						
代表教員	北島　公彦	授業コード	GE0111K4	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「目指せ、プロ・コンサーティスト！」

１．主題・到達目標

★ソリストに必要な音楽性・人間性を探求
１７年目を迎える伝統ある本ゼミは、演奏の質という点でも高い水準を維持している。演奏それ自体の＜質の向上＞を目標とした、プロフェッショナルなプレーヤーに憧れを抱く人々の集まり、を目指している。
日本の音大中でも、メジャーな存在に成長してきた本学であるが、優秀なソリストを多く輩出してきた、とは言い難い。現在、全ての楽器に於いて演奏力は向上し、難易度の高い曲をクリアー出来るのは、当たり前の水準になっている。問題は、そこに如何に自分の個性を注入できるか、である。
本ゼミでは、演奏に対するアドヴァイスは当然のこと、諸君のソロ・プレーヤーとしての個性を発揮できる「場」としたい。

２．授業概要

★学内外コンサートでの成果発表
◎前期・後期に、それぞれ Silver mountain 等学内のホールで、複数回の学内コンサートを行う。ソリストとしての技量・舞台マナー、そしてオーラを身に纏う為の訓練の「場」とする。コンサート後には、かつて筆者がドイツ留学時代体験したような、お互いの演奏会をディスカッションする時間を設ける。
また、ソロ演奏とは別に、学内外での室内楽を中心とするコンサートは、本ゼミの恒例行事でもある。
◎上記演奏会を開くにあたっては、経済面や外部との交渉も含んだ、総合的なステージ・マネージング等の実務も同時に体験する。
◎演奏技量の充実
たとえ複数の人間で行うアンサンブル演奏であっても、その土台は一人一人の演奏力である。
また希望者には、時間の許す限り、授業時間内で一人当たり１５分程度のトーク・コンサートとアドヴァイス・レッスンを行う。
◎授業内での担当教員からの講話は重要である。教員自身の経験から得た社会学や欧州留学体験等の話は、将来、音楽と共に生きようとす

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・日々の知識と技術の研鑽＝いつでも要請があれば、パッと何かしら演奏できる技量とレパートリーを身に付けて欲しい

４．成績評価の方法及び基準

ゼミ活動への貢献度(評価の30%)と演奏力（評価の30%）、そして参加姿勢（参加状況）（評価の40%）を加味した総合点。
出席率が極度に低い場合は失格となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

なし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

対象は、全ての器楽専攻生と声楽専攻生。筆者はピアニストであるが、ピアノ・コース生はもちろん、弦管打、声楽の学生さんで 「我こそは！」 と演奏力に自信の有る者、そして演奏力を身に付けたい者の履修を望む！ （履修制限あり、50名前後）
2017年度は、独奏者としての演奏力を磨くための全10回の Silver mountain での「ソリストへの道」学内コンサートが実施された。そして、恒例の「室内楽の喜び」シリーズとしては、全４夜に渡る室内楽コンサートがカワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」、銀座YAMAHAコンサートサロン、更にシルバーマウンテン2Ｆでも2夜、有料の室内楽コンサートが開催された。
さらに、2014年度初開催されたゼミ出身の卒業生を交えた、Special GALA Concert は好評を博し、次回の開催も検討されている。
また、相手側の強い要望によって行われる横浜市立本宿小学校では、11年間に渡り本ゼミ公演による全学年対象、２公演の「音楽鑑賞会」が開かれているが、本年度も大いに喜ばれた。

授業計画	
	［前期］
1	授業計画と講座の主題へのプレ・トーク
2	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
3	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
4	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
5	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
6	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
7	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
8	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
9	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
10	具体的演奏計画の作成とミニ・トークを伴うソロ・コンサート
11	学内外でのコンサート
12	学内外でのコンサート
13	学内外でのコンサート
14	学内外でのコンサート
15	学内外でのコンサート

	［後期］
1	後期のコンサート計画作成と授業内でのミニ・トーク・コンサート
2	後期のコンサート計画作成と授業内でのミニ・トーク・コンサート
3	後期のコンサート計画作成と授業内でのミニ・トーク・コンサート
4	後期のコンサート計画作成と授業内でのミニ・トーク・コンサート
5	後期のコンサート計画作成と授業内でのミニ・トーク・コンサート
6	学内外での演奏活動
7	学内外での演奏活動
8	学内外での演奏活動
9	学内外での演奏活動
10	学内外での演奏活動
11	学内外での演奏活動
12	学内外での演奏活動
13	学内外での演奏活動
14	学内外での演奏活動
15	年度をふりかえって

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］くりゼミ						
代表教員	クリストファー　ハーディ	授業コード	GE0111K9	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「さわる、なでる、激しく叩く！」～Let's Play ！ 手で叩く世界の民族打楽器～

１．主題・到達目標

自分の「手」で世界を奏でる。ラテン、西アフリカ、中東、南米、手で叩く世界の民族打楽器の演奏法を取得します。打楽器の原点を学び、コンサートで実践して、自分のグルーヴを磨く、コミュニケーション＆アンサンブル能力をアップさせます！

２．授業概要

各民族打楽器の演習とアートマネージメントスキルの修得を目指した年2 回のコンサートの企画制作をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサートの企画準備、各個人の練習とグループ練習

４．成績評価の方法及び基準

授業態度(評価の３０%)と授業への参加姿勢（(評価の７０%）（参加状況）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

なし。※授業は日本語で行います。ご安心ください。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

打楽器コース、ロック＆ポップスコースのパーカッションとドラム専攻生の全学年

授業計画	
	［前期］
1	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
2	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
3	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
4	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
5	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
6	西アフリカのジェンベ、ジュンジュン
7	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
8	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
9	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
10	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
11	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
12	ラテンパーカッション（コンガ、ボンゴなど）
13	コンサート
14	コンサート
15	コンサート

	［後期］
1	中近東のダラブッカ、タール、レック
2	中近東のダラブッカ、タール、レック
3	中近東のダラブッカ、タール、レック
4	中近東のダラブッカ、タール、レック
5	中近東のダラブッカ、タール、レック
6	中近東のダラブッカ、タール、レック
7	中近東のダラブッカ、タール、レック
8	ブラジリアン パーカッション
9	ブラジリアン パーカッション
10	ブラジリアン パーカッション
11	アイリッシュ パーカッション
12	アイリッシュ パーカッション
13	コンサート
14	コンサート
15	コンサート

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］宮田ゼミ						
代表教員	宮田　公一	授業コード	GE0111M1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

舞台芸術スタッフ実践　～アートマネジメントの視点から、実際のスタッフワークまで～

１．主題・到達目標

スタッフもまた芸術家であり、アートはアーティストだけでは完成しない。

一つの芸術表現には照明、音響、舞台美術、制作など多くのスタッフが関わることで、素晴らしい芸術表現が生まれます。それはダンスやミュージカル、演劇だけでなく、声楽や器楽のコンサートにおいても同様です。素晴らしい表現者は、スタッフと適切な関係を作り自身の表現を最大限活かせる環境を構築し、また社会と自分の表現活動の関係を捉え、社会に受け入れられる形での表現をしています。

このゼミでは、スタッフを実際に経験することでアートマネジメント・スタッフワークの意義を捉え、自身の表現の幅を広げることを目標としています。
・プロのスタッフの話を聞いて実際の現場を知る
・自分たちで実践することで、表現とスタッフワーク・社会がどのように結びついているかを捉える
これらを通して、自身の表現活動をより豊かにしていきましょう。

２．授業概要

今ゼミでは「プロの話を聞き、実際のスタッフワークを知る」「スタッフワークを経験することで、スタッフの意義を捉える」「企画立案を通して、芸術と社会がどのような結びつきを持っているかを捉える」ということを講義並びに実践を通して学んでいきます。

１．アートマネジメント、スタッフワークの知識を獲得する
２．表現活動の現場を知る（劇場見学）
３．公演の企画、プランニング
４．スタッフワーク実践

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品の演習や研究に取り組んでください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、作品研究発表ならびに外部実習（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考資料については適宜配布します。

購入の必要はありませんが、参考文献は以下になります。
「舞台技術の共通基礎―公演に携わるすべての人々に」劇場等演出空間運用基準協議会（著）
「アーツ・マネジメント概論（三訂版）」水曜社　監修・編：小林 真理、片山 泰輔

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

成果発表として学園祭等でスタッフワークを実践するため、そこへの出席ができるよう各自予定調整を必要とする。
（前期1回後期1回、それぞれ数日を予定）

授業計画	
下記のコンテンツを実施予定です。依頼先により内容が前後します。	
	前期は、実際に活躍しているプロの話を聞き、スタッフワークの現場を知ることをメインとします。 また演奏会などに参加し、実際のスタッフワークがどのように行われるかを経験します。
1	ガイダンス
2	スタッフワーク概論（主にテクニカルスタッフについて）
3	プロの話を聞こう①（舞台監督）
4	プロの話を聞こう②（劇場見学、学内ホール）
5	プロの話を聞こう③（舞台照明）
6	プロの話を聞こう④（コンサート照明）
7	プロの話を聞こう⑤（ミュージカル照明）
8	プロの話を聞こう⑥（ダンス照明）
9	プロの話を聞こう⑦（演劇照明）
10	プロの話を聞こう⑧（照明の操作、機材の取り扱い方）
11	スタッフワーク実践前期①（概要把握）
12	スタッフワーク実践前期②（担当決め、ヒアリング、プランニング準備）
13	スタッフワーク実践前期③（プランニング）
14	スタッフワーク実践前期④（実際の演奏会に参加）
15	総括、後期に向けての課題整理

	後期は、実際に自分たちで公演の企画をします。 その過程の中でスタッフワークを経験していきます。
1	後期実習計画作成・全体プラン
2	プロの話を聞こう⑨（演出、アートマネジメント）
3	プロの話を聞こう⑩（舞台美術）
4	プロの話を聞こう⑪（劇場見学、学外ホール）
5	公演の企画立案①（ブレインストーミング）
6	公演の企画立案②（企画書の作成、ブッキング）
7	オペレーション体験①（照明）
8	オペレーション体験②（舞台監督、舞台美術）
9	スタッフワーク実践後期①（具体的な計画作成）
10	スタッフワーク実践後期②（プランニング）
11	スタッフワーク実践後期③（設営）
12	スタッフワーク実践後期④（リハーサル）
13	本番実践（本番の実施、運営、バラシ）
14	本番振り返り、フィードバック
15	総括

当ゼミの趣旨
スタッフワークを経験することで、表現活動におけるスタッフワークの意義を知る。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］斉藤ゼミ						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE0111S1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「レコーディング・プロデュース・ゼミ」

１．主題・到達目標

レコーディングの企画から制作までのプロセスを理解し実践、プレイヤー／エンジニアの立場だけでなく、ディレクションまで含めた、総合的なプロデューサーとしてのスキルを学ぶ

２．授業概要

前期8回、後期7回のレコーディングに向けて、企画→リハーサル→レコーディング（リズム・レコーディング／ダビング）というサイクルで進める

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングのための個人練習

４．成績評価の方法及び基準

プロジェクトへの参加姿勢50%、作品の完成度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオワーク経験者を優先するため、２年生以降の履修が望ましい。１つのプロジェクトを責任もって遂行する能力を問われるポジション（プロデューサー）を追求するゼミであるため、リーダーシップ、積極性を第一に求める。履修希望者数により人数制限を行う場合あり。

授業計画	
	前後期とも以上のプロセスを6～12チームで行う。 ［前期］ 前期企画会議→各グループ毎にリハーサル→レコーディング（リズム）→ダビング→ミックス
1	ガイダンス、前期企画会議およびスケジューリング
2	グループ１ レコーディング（リズム/グループ1オリジナル曲A）＆他のグループ・リハーサル
3	グループ２ レコーディング（リズム/グループ2オリジナル曲B）＆他のグループ・リハーサル
4	グループ３ レコーディング（リズム/グループ3オリジナル曲C）＆他のグループ・リハーサル
5	グループ１・２ /オリジナル曲ABダビング＆他のグループ・リハーサル
6	グループ２・３ オリジナル曲BCダビング＆他のグループ・リハーサル
7	グループ４ レコーディング（リズム/グループ4オリジナル曲D）＆他のグループ・リハーサル
8	グループ５ レコーディング（リズム/グループ5オリジナル曲E）＆他のグループ・リハーサル
9	グループ６ レコーディング（リズム/グループ6オリジナル曲F）＆他のグループ・リハーサル
10	グループ３・４ /オリジナル曲CDダビング＆他のグループ・リハーサル
11	グループ４・５/オリジナル曲DE ダビング＆他のグループ・リハーサル
12	グループ7 レコーディング（リズム/グループ7オリジナル曲G）＆他のグループ・リハーサル
13	グループ8 レコーディング（リズム/グループ8オリジナル曲H）＆他のグループ・リハーサル
14	グループ5・６ /オリジナル曲EFダビング＆他のグループ・リハーサル
15	グループ６・７/オリジナル曲FG ダビング＆他のグループ・リハーサル

	［後期］ 後期企画会議→各グループ毎にリハーサル→レコーディング（リズム）→ダビング→ミックス
1	後期企画会議&グループ７・８ /オリジナル曲GHダビング＆他のグループ・リハーサル
2	グループ９ レコーディング（リズム/グループ9オリジナル曲I）＆他のグループ・リハーサル
3	グループ１０ レコーディング（リズム/グループ10オリジナル曲J）＆他のグループ・リハーサル
4	グループ１１ レコーディング（リズム/グループ11オリジナル曲K）＆他のグループ・リハーサル
5	グループ８・９ /オリジナル曲HIダビング＆他のグループ・リハーサル　ダビング＆リハーサル
6	グループ９・10/オリジナル曲IJ ダビング＆他のグループ・リハーサル　ダビング＆リハーサル
7	グループ１２ レコーディング（リズム/グループ12オリジナル曲L）＆他のグループ・リハーサル
8	グループ１３ レコーディング（リズム/グループ13オリジナル曲M）＆他のグループ・リハーサル
9	グループ１４ レコーディング（リズム/グループ14オリジナル曲N）＆他のグループ・リハーサル
10	グループ10・11/オリジナル曲JK ダビング＆他のグループ・リハーサル
11	グループ11・12/オリジナル曲KL ダビング＆他のグループ・リハーサル
12	グループ１５ レコーディング（リズム/グループ15オリジナル曲O）＆他のグループ・リハーサル
13	グループ12・13 /オリジナル曲LMダビング＆他のグループ・リハーサル
14	グループ13・14/オリジナル曲MN ダビング＆他のグループ・リハーサル
15	グループ14・15/オリジナル曲NO ダビング＆他のグループ・リハーサル
レコーディングスタジオ・スケジュールを優先するため、年度ごとにスケジュールは変わります。	

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］坂井ゼミ						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE0111S2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	JAH - RAH						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全(BL・AS・DC履修対象外)	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ライブ・プロデュース・ゼミ」

１．主題・到達目標

集客力のある魅力的なライブイベントの実践・研究。

２．授業概要

テーマ性のあるイベントを企画し、それぞれの役割を通じて「協働する」を研究。と共に、多岐コースのコラボレーションを実現する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Liveコンサート計画、準備、前回の反省等

４．成績評価の方法及び基準

スタッフ、又は出演者として積極的に参加し、研究したかを評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ライブパフォーマンスに意欲的で音楽性の高い志を持つ学生を求む。

授業計画	
	［前期］ Liveコンサート 2回～3回（学内、学外含む） 企画、準備、演出等
1	ガイダンス
2	ガイダンス
3	企画、打ち合わせ
4	企画
5	準備、打ち合わせ
6	準備
7	演出、打ち合わせ
8	ライブ本番
9	企画、打ち合わせ
10	企画
11	準備、打ち合わせ
12	準備
13	演出、打ち合わせ
14	ライブ本番
15	総括

	［後期］ Liveコンサート 2回～3回（学内、学外含む） 企画、準備、演出等
1	ガイダンス
2	ガイダンス
3	企画、打ち合わせ
4	企画
5	準備、打ち合わせ
6	準備
7	演出、打ち合わせ
8	ライブ本番
9	企画、打ち合わせ
10	企画
11	準備、打ち合わせ
12	準備
13	演出、打ち合わせ
14	ライブ本番
15	総括

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］境ゼミ						
代表教員	境　信博	授業コード	GE0111S4	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「みんなでオペラを作って楽しもう！」

１．主題・到達目標

・オペラを1曲丸ごと勉強することで、舞台の裏表の仕事も体験し、多くの人の協力によって舞台が出来上がり、公演が成り立つことを理解する。
・外の舞台に立つときに役立つ舞台上の決まり事や、ルールも学ぶ。
・日本語の訳詩で勉強するので、それぞれのシーンや人間像、心情などの表現を、ダイレクトに感じ勉強していく。

２．授業概要

歌とピアノ専攻生は、一年間を通して1つのオペラを、音楽稽古、立ち稽古、本番と仕上げていく。楽器専攻の学生は、オペラ以外にも木管5重奏、金管10重奏、他のアンサンブルも学習しながら、オペラ全曲も学ぶ。
年に数回、コレペティトール、室内楽等、指揮の久世先生の指導のもと、器楽アンサンブルの演奏会をする。

・2015年度公演　プッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」、メノッティ作曲「アマールと夜の訪問者」
・2016年度の公演曲目はシュトラウス作曲
2017年度は履修生のバランスで演目を初回時に決定する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・譜読みは各自やって来ること。
・夏休みや本公演前（後期実技試験後）臨時練習が入る可能性がある。
・前もってスケジュールが出るので、欠席しないよう、スケジュール、体調管理をきちっとする。
・どうしても休まなくてはならない場合は、必ず連絡をすること。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢（参加状況、通常授業及び臨時練習）
・コンサートへの参加
・アンサンブル,演技、等に対する意識の高さ。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・オペラヴォーカルスコアーは、日本語上演の為、ゼミ制作のスコアーを、各自で購入。
・オーケストラは、パート譜を配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・遅刻、欠席をしない、やむを得ない場合は、ゼミ長、インペクに必ず連絡できる人。
・全員で作り上げていくことに、努力、協力できる人。

授業計画	
	前期
1	役割決め（インペク、各係） 演目決め
2	歌：配役決め試唱会 ピアノ：担当箇所決め、試唱会伴奏 器楽：室内楽コンサートの曲決
3	基本演技稽古 稽古伴奏 室内楽弦楽器楽譜作り
4	音楽稽古 音楽稽古伴奏 室内楽管楽器楽譜作り
5	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽弦楽器分奏
6	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Fl分奏
7	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Cl分奏
8	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Hr分奏
9	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 Wリード分奏
10	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 4重奏分奏～合奏
11	立ち稽古への準備演技の基礎 演技基礎の伴奏 5重奏分奏～合奏
12	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 室内楽弦楽器分奏～合奏
13	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 管楽器分奏～合奏
14	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 室内楽合奏
15	暗譜テスト 暗譜テスト 通し練習

	［後期］
1	基礎演技～立ち稽古 立ち稽古伴奏 室内楽コンサートの為の曲決め
2	立ち稽古 立ち稽古伴奏 弦楽器分奏
3	立ち稽古 立ち稽古伴奏 管楽器分奏
4	立ち稽古 立ち稽古伴奏 アンサンブル合わせ
5	ダンス振り付け ダンスのシーンの伴奏 アンサンブル分奏
6	立ち稽古 立ち稽古伴奏 アンサンブル分奏～合奏
7	立ち稽古 立ち稽古伴奏 室内楽コンサート（予定）
8	立ち稽古 立ち稽古伴奏 オペラ弦楽器分奏
9	立ち稽古 立ち稽古伴奏 管楽器分奏
10	ダンス振り付け ダンスシーンの伴奏 弦楽器合奏
11	通し稽古 通し稽古伴奏 管楽器合奏
12	通し稽古 通し稽古伴奏 オペラ合奏
13	オペラハイライト公演
14	本公演に向けてのダメ出し 及び通し稽古
15	通し稽古 オペラ本公演
各週の内容は、授業の進み具合のより、変更される場合があります。	

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く 卒業後の活動に役立つよう、舞台などの裏のことも学ぶ。

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］田中ゼミ						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE0111T1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

子供と園児に笑顔と喜び音楽の楽しさを伝える
　　「子供と楽しむ・アンサンブル・コンサート」

１．主題・到達目標

「音大に行こう」「キラキラ！ハッピー！コンサート」をタイトルに幼児から小学生を対象とした演奏会を企画し開催します。
そして小学生、幼児に音楽を通して喜びや感動を与える演奏会を作っていきます。
子供達には聴くだけでなく演奏に参加できる音楽会プログラムを行っています。
みんなのアイデアでいろいろな新しい演奏会を形にしていきます。
その演奏会を通じて演奏技術はもちろん表現力からコンサートの企画、制作、演出と実践的に学び高める事を目標にします。

２．授業概要

演奏会のテーマを決め楽器構成を考え曲目を決める。
曲の練習と作品研究をしたり相互に意見交換します。
リハーサルを通じ子供達が参加出来る曲や方法等を考える。
演奏会本番に向け最終準備そして本番。

保育園では演奏に涙する園児もいます。小学生は曲だけではなく作曲家にまで関心を持ちます。
音楽で演奏で子供達の世界を広げてあげましょう。

大学に小学生を招いた演奏会、保育園への訪問演奏会、小学校や特別支援学校でのイベント出演、プラネタリウムでの星空をバックに演奏等を行っていきます。また昨年度は近隣小学校の学童クラブから大学に子供達を招き１００名近い参加者となりました。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品を研究、演習して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）、実習作品発表（評価の50%）を総合的に評価し判定します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。
ソロやいろいろな形のアンサンブルを作って行きたいので専攻にこだわらずに参加してください。
またアレンジをしたい学生も歓迎です。
弦楽、木管、金管、打楽器、ピアノ、声楽等いろいろなコースの学生が集まっています。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	演奏会計画案作成
3	作品研究とアレンジ
4	作品研究とアレンジ
5	作品研究とアレンジ
6	作品研究とアレンジ
7	作品研究とアレンジ
8	作品研究とアレンジ
9	作品研究とアレンジ
10	作品研究とアレンジ
11	作品研究とアレンジ
12	作品研究とアレンジ
13	作品研究とアレンジ
14	演奏会リハーサル
15	演奏会本番

	［後期］
1	演奏会計画案作成
2	作品研究と演習、アレンジ
3	作品研究と演習、アレンジ
4	作品研究と演習
5	作品研究と演習
6	作品研究と演習
7	外部演奏会
8	作品研究と演習
9	作品研究と演習
10	作品研究と演習
11	作品研究と演習
12	作品研究と演習
13	作品研究と演習
14	演奏会リハーサル
15	外部演奏会

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］谷川ゼミ						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0111T2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	雨谷　善之						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「歌い手と伴奏ピアニストのために！！2018’」～オペラ ソロ、アンサンブル・舞台演奏表現法～

１．主題・到達目標

日本では各地域により合唱団の普及と共にアマチュアオペラ団体、市民オペラ団体が増えており、それに対応できる歌い手や音楽スタッフ不足という現実があります。声楽の学生はもちろんの事、そのオペラの内容に触れそれぞれの声を生かし歌う事以外（言葉に対する意識や感情表現、ピアノをはじめ他楽器とのアンサンブル）の芝居を含めた経験をしなければ成りたちません。とくに各オペラ団体の研修所などで、勉強したり舞台に立ったりする時のためにも、学生時代からその現場での必要なことをこのゼミで準備期間として学んで欲しいと思います。ピアノの学生にはピアノソロ以外に、演奏会での伴奏ピアニスト、オペラ公演準備のためのピアニスト、Maestro Collaboratore(コルペティートル)としてまず一番大事なのは、歌い手との呼吸の合わせ方、音楽的構成力、歌い手以上にその音楽スタイルや言葉を理解していなければならないこと、アンサンブルピアニストとしての役割を果たしていること、またオーケストラの代用であることなど、オペラ音楽や伴奏法に関して、ある程度の知識が必要となってきます。学内で伴奏をする際にも、最小限のことは理解して演奏してもらいたいと思います。このゼミでは歌い手をはじめ、演奏会や公演準備などの伴奏ピアニスト、音楽スタッフがその現場で「どのような立場で、何を理解し、何が必要で、何をしてなければならないか」という基本的な事を実践の中で学び学生達に伝えてゆきたいと考えています。
また、演奏会にはたくさんの種類があります。劇場や大ホールで行う大きなものからサロンコンサートのような小さなものまで。場所に応

２．授業概要

演奏会の予定、曲目、スタッフなどを決め、オペラ作曲家の歌曲、モーツァルトのオペラをはじめイタリアオペラからアリア、アンサンブルを取り上げ演習形式で授業を進め、数回の演奏会の開催を予定しています。これまでに横浜市桂台ケアプラザ、横浜市磯子地域センター、ヒルデモアたまプラーザ、クロスハート横浜にて定期的にコンサートを開催。そして前期、後期ともシルバーマウンテンで学内での演奏会を行いました。2017年度は8月に4年生を中心として川崎市高津区役所にて「溝の口コミュニティコンサート」に出演させていただきました。また、担当教員出演のオペラ【オテッロ】【トスカ】公演に合唱で参加した年もありました。今後はいろいろなスタイルでの演奏会を企画して学生に演奏させる回数を増やしていく予定です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内でできることは限られていますので、授業であたっているときは当たり前のことですが譜読みから合わせ等、必ず終わらせておいてください。また、とりあげる曲の自分での内容等の学習も合わせて終わらせておいてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点・授業への参加姿勢（評価の50%）、年間を通して行われる演奏会等の貢献度（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

オペラを演奏する場合（アリア、アンサンブルとも）国内出版社のアリア集などを使用せず、必ずピアノヴォーカルスコアから抜き出すように心がけてください。とくにこの授業ではイタリアオペラに限りドレミ出版のアリア集は使用しないようにしてください。
例）Mozart⇒Bärenreiter版
Rossini、Bellini、Donizetti、Verdi、Puccinなど⇒Ricordi版
Mascaqni,Giordano,Ciléa,Leoncavalloなど⇒Sonzogno版
版権の関係で例外もありますので詳しくは担当教員に相談してください。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則的に声楽、ピアノ専攻の学生対象で授業を進めていきますが、他の楽器学生、音楽教育の学生で歌う事やピアノ伴奏、演奏とそれぞれが独自の音楽パフォーマンスを学びたい学生も歓迎します。このゼミへのご質問やご要望、ご連絡はメールでもお答えします。
taniamazemi@gmail.com

授業計画	
	昨年同様、9月にシルバーマウンテンで前期終了演奏会の予定。 履修者の人数にもよりますが、授業内でのコンサート、研究会なども今年から行うことになりました。 ［前期］
1	顔合わせによる試聴会、曲決め
2	前期レッスンスケジュール決定 レッスン開始
3	各演奏会に向けてのレッスン
4	各演奏会に向けてのレッスン
5	各演奏会に向けてのレッスン
6	各演奏会に向けてのレッスン
7	各演奏会に向けてのレッスン
8	演奏会形式の試演会及び研究会
9	前期終了演奏会に向けてのレッスン
10	前期終了演奏会に向けてのレッスン
11	前期終了演奏会に向けてのレッスン
12	前期終了演奏会に向けてのレッスン
13	前期終了演奏会に向けてのレッスン
14	前期終了演奏会に向けてのレッスン
15	前期終了演奏会のGP

	後期には授業外でヒルデモアたまプラーザⅢ、横浜市桂台ケアプラザ、横浜市磯子地域センターなどの施設での演奏会を行うことになっています。2017年度はゼミ「オータムコンサート」として11月に行いました。また一年間の締めくくりとして3月に「ゼミファイナルコンサート2017」を3月4日㈰にシルバーマウンテンで行うことになっています。 ［後期］
1	後期の曲決めと演奏会企画決め
2	各演奏会に向けてのレッスン
3	各演奏会に向けてのレッスン
4	各演奏会に向けてのレッスン
5	各演奏会に向けてのレッスン
6	各演奏会に向けてのレッスン
7	各演奏会に向けてのレッスン
8	演奏会形式の試演会及び研究会
9	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
10	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
11	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
12	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
13	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
14	ゼミファイナルコンサートに向けてのレッスン
15	ゼミファイナルコンサート2018のGP

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］谷川マユコ ゼミ						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE0111T3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

絵本ライブ（お話と音楽の世界）

１．主題・到達目標

絵本や詩の朗読に音楽を付けて発表する。お話の世界をより臨場感溢れる作品に仕上がるように、作曲の方法或いは既成の音楽の扱い方、効果音の入れ方を学び、音楽の効果を最大限引き出す。
子ども向けから高齢者向けまで様々なシチュエーションに対応できるプログラミングのノウハウを学び、各々の学生が企画・構成ができるようにする。

２．授業概要

絵本に音楽を入れるにあたり、作曲の知識は勿論のこと様々な楽器の扱いを学修した上で、お話にどのような音楽が入ったら臨場感が出てくるか想像させ、創造する。加えてお話との音のタイミング、朗読の仕方、音楽楽曲を加えてプログラム全体をどう仕上げるか、指導する。通年で２回以上の絵本ライブコンサートを開催する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

学生自身の楽器等の練習。絵本のリサーチ。公演場所のリサーチ。担当した事項を確実に仕上げるための準備

４．成績評価の方法及び基準

出席60%　授業への参加態度30%　本番10%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

絵本（お話）に興味がある者。既成に囚われず想像する力がある者。人との和を大切にできる者。

授業計画	
前期・後期に１回以上の公演を行うことが望ましいが、前期は基本的な要素を学修することが多いため、公演せずに後期に数回行う可能性がある。ただし、ゼミ生全員の形式でなく選抜メンバーによるコンサートはその限りではない。	
	作曲の方法・既成楽曲の扱い方・楽器の知識・絵本等の選定の仕方・音の組み込み方・画像の作成・プログラミング等の学修
1	ガイダンス
2	ワークショップ１作曲リズム中心
3	ワークショップ２作曲メロディ中心
4	ワークショップ１楽器民族楽器・各種楽器
5	ワークショップ２楽器 取り扱い方
6	絵本・詩等の紹介
7	絵本・詩の分析や選定
8	プログラム作り
9	絵本ライブコンサートに向けての準備・担当決め
10	絵本ライブコンサートに向けての準備・画像処理等
11	絵本ライブコンサートに向けての準備・楽器の選定
12	絵本ライブコンサートに向けての準備・作曲等
13	読みの確認及びリハーサル
14	リハーサル 場当たり・演目ごとの確認
15	リハーサル 始め一終わりまで タイムテーブル

	主に絵本ライブ公演の企画・準備・本番へ向けて
1	ガイダンス
2	公演先の選定・諸々
3	絵本等お話の紹介・選定・グループ担当わけ
4	プログラム作り 会場確認
5	絵本ライブコンサートに向けての準備　台本・画像作り
6	絵本ライブコンサートに向けての準備作品内担当分け
7	絵本ライブコンサートに向けての準備　作曲
8	絵本ライブコンサートに向けての準備　各演目確認
9	中間発表
10	絵本ライブコンサートに向けての準備　各演目確認
11	絵本ライブコンサートに向けての準備　演目調整
12	リハーサル　場当たり・演目確認
13	リハーサル 始め一終わりまで　タイムテーブル
14	絵本ライブ公演
15	まとめ

当ゼミの趣旨
音楽を「演奏」という形式だけではなく、絵本・語り・或いは絵画的なものの文化の力を借りながら、より立体的に音表現をする。

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］上田ゼミ						
代表教員	上田　恭子	授業コード	GE0111U1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全コース	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「さあ演奏会を開催しましょう」（ノウハウ教えます）

１．主題・到達目標

様々なコースの学生によるアンサンブル実習や、パフォーマンスで音楽の融合の可能性を追求。
卒業後に自分の学んできた知識をいかに社会に環元していくか考察。
企画を立案する上でのポイント・書類の書き方を指導
演奏会や、イベントを円滑に開催する方法を学ぶ。

２．授業概要

企画立案。授業時間内のアンサンブル実習。企画書の書き方添削指導。演奏会開催に向けて実践的指導(交渉方法、選曲、チラシや、プログラムの作成添削等)。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アンサンブル実習の前に楽譜探しや手配、個人練習・製本等確実に行ってきて下さい。
提出物は期限内に必ず提出の事。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会でのアンサンブルの完成度（評価の60%）
平常点（評価の40%）（企画書・授業への参加姿勢・参加状況）により評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大変アットホームなゼミです。
様々な専攻の方々で演奏会を企画し、開催したいと思います。
様々な楽器とのアンサンブルを体験する事により個人の技術も高められます。
様々な楽器、様々なジャンルのコースの方々を大歓迎します。
演奏会を開催する方法や、プログラム原稿の書き方等具体的に解りやすく指導します。演奏会の回数は多いですが少人数グループ毎の開催の為負担は少ないです。様々な企画を立てたいと思います。
又皆さんの卒業後もサポートするゼミです。

授業計画	
	音楽を社会に環元する為のコンサート（聴衆に聴く喜びと温かい気持ちを与える） ＊年間を通じて仏蘭西舎すいぎょくでのティータイムコンサート ［前期］ ①企画書を作成し新規演奏場所開拓交渉の上、演奏会開催 ②今までに演奏会を開催した所での演奏会開催
1	ガイダンス
2	自己紹介アピール演奏と、年間のスケジュールについて
3	企画書の作り方について指導と、課題
4	企画書提出と、添削 前期演奏会について決定
5	第一回アンサンブル演習と、仏蘭西舎すいぎょくオーディション
6	演奏会グループ分けと、企画会議 仏蘭西舎すいぎょくの演奏会練習
7	演奏会練習 新規演奏場所開拓班は企画書提出
8	仏蘭西舎すいぎょくでの演奏会の反省会、演奏会練習
9	演奏会練習 新規演奏場所開拓班は企画書発送
10	演奏会練習
11	演奏会最終打ち合わせと、確認作業
12	リハーサルと、チラシ、プログラムの提出 新規演奏場所開拓班会議
13	演奏会最終練習と、司会原稿のチェック チラシ、プログラムの校正と印刷
14	グランドホーム・カペナウムゲネプロ
15	わんぱくでの音の翼コンサートゲネプロ

	自分の技術と芸術性を向上させる為のコンサート ［後期］ 2017年度演奏会例 9月3日
1	夏休み中の演奏会の反省会 後期の企画について 演奏会グループ分け ラ・メゾン・ド・ソレイユでの演奏会練習
2	各グループでの企画会議と、企画書作成 ラ・メゾン・ド・ソレイユゲネプロ
3	仏蘭西舎すいぎょくオーディション 夢見ヶ崎小学校での演奏会のゲネプロ
4	ラ・メゾン・ド・ソレイユ反省会 仏蘭西舎すいぎょく演奏会練習と、その他のグループは楽曲探し
5	仏蘭西舎すいぎょくゲネプロと、演奏会練習
6	仏蘭西舎すいぎょく反省会と、最終企画会議
7	演奏会練習
8	演奏会練習
9	演奏会練習
10	金沢小学校ゲネプロと、チラシ、プログラム、司会原稿の提出と添削
11	金沢小学校音遊びコンサートの反省会と、加賀ガーデンハイツクリスマスコンサートゲネプロ
12	グランドホーム・カペナウムでの音の翼コンサートゲネプロと、チラシ、プログラムの校正 演奏会練習
13	EIコンサート、木内鳩の家コンサートの企画について クリスマスコンサート最終確認
14	加賀ガーデンハイツ、グランドホーム・カペナウムでのクリスマスコンサートの反省会 演奏会練習
15	クリスマスコンサートの反省会 EIコンサートのプログラム原稿提出とチラシ提出 ２月の演奏会の最終打ち合わせ （木内鳩の家幼稚園音の翼コンサート・仏蘭西舎すいぎょくランチコース付きメルシーコンサート）

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］上薗ゼミ						
代表教員	上薗　未佳	授業コード	GE0111U2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

バロック・アンサンブルで社会貢献！

１．主題・到達目標

このゼミは、バロック音楽が好き、バロック音楽を深く学んでみたい！という学生の皆さんでアンサンブルを組み、コンサートを企画、運営し、社会貢献へとつなげていくことを目的としています。
現在、国内外において、作曲家が生きた時代の楽器、いわゆるピリオド楽器（または古楽器）によるアンサンブルやオーケストラは一般的になって久しいですが、皆さんが演奏しているモダン楽器によるバッハやヴィヴァルディなどのバロック音楽の演奏会も同様に大変盛んに行われており、そのニーズは高い現状にあります。
そのために、バロック音楽の演奏技術や解釈を学びながらアンサンブル力を身につけ、同時に自分たちが住んでいる地域を含めて、音楽を必要としている現場を自らが開拓し、演奏するだけではなく、演奏を聴く方々やその場がどのようになったら社会貢献へとつながるのか、皆でディスカッションしながら、各コンサートの青写真を探求し、企画、運営をしていきます。
そこでは、演奏者、MCの担当者、スタッフ、皆が自己ベストを尽くして成長し、協働し、具現していく喜びを体験します。そして、聴いてくださる方々に癒しと元気と希望を抱いていただく場を生み出すことを目指してゆきましょう！

２．授業概要

1.　プロフェッショナルへの道
　・バロック音楽を、アンサンブルを通して学ぶ。
　・履修生の希望によって、古楽器のスペシャリスト（バロック・ヴァイオリン、バロック・チェロ、バロック・フルート、バロック・オーボエ、バロック・ファゴット等）、また、バロック声楽、バロックダンサーなどをゲストにお招きし、レクチャーを受け、実際に体験し、自らの演奏に生かす。
2.　プロデュース力を付け、社会貢献する道
　・コンサートを開催できる場所を開拓し、交渉、企画、運営を行う。
　・前期にシルバーマウンテンでの学内演奏会と、履修生の開拓状況によって学外演奏会も行う。
　　後期には学外演奏会を開催（2017年度　チャリティーコンサートを松本記念音楽迎賓館にて開催。）
　　年度によって、冬の音楽祭の「バロックとその周辺の音楽」に出演。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みは済ませて授業に臨む。アンサンブルチームでの合わせは積極的に行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%（授業への参加姿勢と意欲。）
コンサートでの演奏の内容、または、コンサートの企画および運営力50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

バロック音楽を演奏したい器楽コース、声楽コースの学生の履修を希望。
学内学外でのコンサートの企画・運営に意欲のある学生の履修を希望。
ピアノ専攻の学生は、チェンバロを演奏する。

授業計画	
授業計画はあくまでも目安です。変更されることがあります。	
	まずは、学内演奏会を目標とする。バロック音楽の知識、演奏法などを座学、実技を通して学びながら自らの可能性を開き、アンサンブル力を高める。同時にコンサートの企画、運営に向かっていく。
1	ガイダンス。メンバーの自己紹介。
2	前期コンサートの青写真に迫る
3	アンサンブルチームを決定し、前期のスケジュールを作成
4	バロック音楽について①ー演習
5	バロック音楽について②ー演習
6	古楽器スペシャリストを招いて1
7	コンサートに向けて協働する①チラシ作成
8	コンサートに向けて協働する②コンサートの構成
9	コンサートに向けて協働する③プログラム作成
10	コンサートに向けての準備、アンサンブル①の練習。
11	コンサートに向けての準備、アンサンブル①の可能性の追求
12	コンサートに向けての準備、アンサンブル②の練習。
13	コンサートに向けての準備、アンサンブル②の可能性の追求。
14	コンサートに向けての仕上げの準備、練習。
15	コンサートに向けてのリハーサル

	後期は、学外演奏会を目標とする。前期の授業、およびコンサートをトータルな視点で振り返り、ブラッシュアップさせて本番に臨んでいく。
1	前期のコンサートの反省会（総評、良かった点、改善点）
2	後期コンサートの青写真に迫る
3	古楽器スペシャリストを招いて2
4	コンサートに向けて協働する①チラシ作成
5	コンサートに向けて協働する②コンサートの構成
6	コンサートに向けて協働する③プログラム作成
7	コンサートに向けての準備、アンサンブル③の練習。
8	コンサートに向けての準備、アンサンブル③の可能性の追求
9	コンサートに向けての仕上げの準備、練習。
10	コンサートに向けてのリハーサル
11	コンサートに向けての準備、アンサンブル④の練習。
12	コンサートに向けての準備、アンサンブル④の可能性の追求
13	コンサートに向けての仕上げの準備、練習。
14	コンサートに向けてのリハーサル
15	学外演奏会が終了している場合は、その反省会。

当ゼミの趣旨
演奏会で”社会貢献”する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］渡部ゼミ						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE0111W1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ・MS・BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

川崎フロンターレ 応援ゼミ
2017J1優勝まで演奏会実習ゼミとして絶え間無く応援演奏を実施し続けて来ました。

１．主題・到達目標

◎独奏・室内アンサンブル・ポップスバンドで、音楽と社会のつながりを実践演奏会で学び、研究する。
演奏例
①J1初優勝したJ1川崎フロンターレとのコラボレーション演奏（等々力競技場内「エンタの広場」「オープニングファンファーレ」「ファン感謝祭」「新体制発表会演奏」等イベント）を通じて、音楽から社会・市民への発信を行う。
②高津区市民館との共同プロジェクト「プラザ橘サマーコンサート」演奏会
プログラム：プロコフィエフ「ピーターと狼」、サン - サーンス「動物の謝肉祭」、プーランク「ぞうのババール」、ラヴェル「ボレロ」など音楽物語と映像を用いた音楽を協働で作り上げる。
③特別養護老人ホーム「ビオラ川崎・サンデーコンサート」ホーム１Fロビーでグランドピアノと慰労コンサート開催。
④夏・秋の2回「永福町商店街」との提携コンサート、
⑤川崎市立小学校での音楽教室　等

２．授業概要

「演奏会」毎に演奏会場や聴衆の要望を調査し、演奏内容から編成・プログラムを決定し、準備を行う。必要であれば演奏会場に出向き、クライアント（依頼主側）との打ち合わせを行い、異種専門の様々な音楽を理解し共同作業で演奏会を作り上げる。
其々の演奏能力を磨き、本番を実践体験する。
チラシ・プログラム・配布物作成に参加し、宣伝や内容の説明にも工夫を凝らす。
演奏会はできるだけ土曜、日曜祝日、夏休みなど学事日程において学内授業、演奏会日程とバッティングしないよう調整する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

社会貢献の可能性を高める演奏曲目の調査、編曲、練習を行う。

４．成績評価の方法及び基準

演奏内容（相互協力も）（評価の50%）
演奏事前準備と授業参加状況（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

様々なCD・DVD、文献、楽曲スコア、前年度までの使用楽譜など。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ（ソロ、連弾）・弦楽器(Vn,Va,Vc,Cb,Hp)・打楽器・木管（Fl,Ob,Cl,Fg,Sx)・金管（Hr,Tp、Tb,Tuba)などすべての専攻楽器ソロ・室内アンサンブルを行う。音楽家として社会に出る前にまずゼミ活動で社会からの評価を受けることが大事です。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期演奏会予定提示）
2	演奏会①計画作成と練習
3	練習
4	演奏会①川崎フロンターレ試合会場での演奏
5	演奏会②計画作成と練習
6	練習
7	演奏会②阿佐ヶ谷駅ジェイコムプラザ・ライブ演奏
8	演奏会③計画作成と練習
9	練習
10	練習
11	演奏会③特別養護老人施設ビオラ川崎ホールコンサート
12	演奏会④計画作成と練習
13	練習
14	演奏会④高津区プラザ橘ファミリーコンサート演奏
15	前期反省会

	［後期］
1	ガイダンス（後期演奏会予定提示）
2	演奏会①計画作成と練習
3	練習
4	演奏会①川崎フロンターレ試合会場での演奏
5	演奏会②計画作成と練習
6	練習
7	演奏会②永福町商店会オータムフェスタライブ演奏
8	演奏会③計画作成と練習
9	練習
10	練習
11	演奏会③特別養護老人施設ビオラ川崎ホールコンサート
12	演奏会④計画作成と練習
13	同上
14	演奏会④阿佐ヶ谷駅ジェイコムプラザ・ライブ演奏
15	反省会

川崎フロンターレJ1試合応援演奏を等々力陸上競技場で行う

当ゼミの趣旨

自身の磨いた技術を用い、演奏会で“社会貢献” する。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	○

洗足学園音楽大学

音楽学部
音楽専攻科
2018年度シラバス
（レッスン）

科目授業名	授業代表教員氏名		ページ数
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]A1クラス	松山　修	・・・・・・・・	1
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水3]A2クラス	松山　修	・・・・・・・・	4
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[金2]A3クラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	7
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]B1クラス	原　朋直	・・・・・・・・	10
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火3]B4クラス	原　朋直	・・・・・・・・	13
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]C1クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	16
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火4]C2クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	19
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火3]C3クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	22
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]C4クラス	川嶋　哲郎	・・・・・・・・	25
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月4]D1クラス	谷口　英治	・・・・・・・・	28
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水3]E1クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	31
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[木3]E2クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	34
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火2]E4クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	37
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月4]F1クラス	布川　俊樹	・・・・・・・・	40
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[木4]F2クラス	布川　俊樹	・・・・・・・・	43
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]J1クラス	松本　治	・・・・・・・・	46
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]K1クラス	瀬田　創太	・・・・・・・・	49
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[木2]K2クラス	片倉　真由子	・・・・・・・・	52
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水3]L1クラス	岡田　治郎	・・・・・・・・	55
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火4]P1クラス	香取　良彦	・・・・・・・・	58
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火3]Q1クラス	CHAKA	・・・・・・・・	61
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[金3]S1クラス	多田　誠司	・・・・・・・・	64
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]W1クラス	白仁“KOTETSU”賢哉	・・・・・・・・	67
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]A1クラス	松山　修	・・・・・・・・	70
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水3]A2クラス	松山　修	・・・・・・・・	73
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[金2]A3クラス	蟻正　行義	・・・・・・・・	76
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]B1クラス	原　朋直	・・・・・・・・	79
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火3]B4クラス	原　朋直	・・・・・・・・	82
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]C1クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	85
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火4]C2クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	88
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火3]C3クラス	道下　和彦	・・・・・・・・	91
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]C4クラス	川嶋　哲郎	・・・・・・・・	94
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月4]D1クラス	谷口　英治	・・・・・・・・	97
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水3]E1クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	100
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[木3]E2クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	103
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火2]E4クラス	佐藤　達哉	・・・・・・・・	106
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月4]F1クラス	布川　俊樹	・・・・・・・・	109
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[木4]F2クラス	布川　俊樹	・・・・・・・・	112

アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]J1クラス	松本　治	・・・・・・・・	115
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]K1クラス	瀬田　創太	・・・・・・・・	118
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[木2]K2クラス	片倉　真由子	・・・・・・・・	121
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水3]L1クラス	岡田　治郎	・・・・・・・・	124
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火4]P1クラス	香取　良彦	・・・・・・・・	127
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火3]Q1クラス	CHAKA	・・・・・・・・	130
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[金3]S1クラス	多田　誠司	・・・・・・・・	133
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]W1クラス	白仁"KOTETSU"賢哉	・・・・・・・・	136
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2(後)[月3]打楽器	古川　玄一郎	・・・・・・・・	139
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2(後)[月2]バレエ	日原　永美子	・・・・・・・・	142
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1(前)[月3]打楽	担当教員	・・・・・・・・	145
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1(前)[月2]バレ	日原　永美子	・・・・・・・・	148
特別アンサンブル／ラボ2・4・6・8【仮登録】(後)	原　朋直	・・・・・・・・	151
アンサンブル／ラボ1-2～4-2【仮登録】(後)	原　朋直	・・・・・・・・	154
教職ピアノ実習1-I【仮登録】(前)	金井　公美子	・・・・・・・・	157
教職ピアノ実習6【仮登録】(後)	金井　公美子	・・・・・・・・	160
アンサンブル／ラボ1−1～4−2[シラバス用]	原　朋直	・・・・・・・・	163
教職ピアノ実習1-I[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	166
教職ピアノ実習1-II[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	169
教職ピアノ実習2[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	172
教職ピアノ実習3[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	175
教職ピアノ実習4[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	178
教職ピアノ実習5[シラバス用]	金井　公美子	・・・・・・・・	181
作曲理論研究Ⅲ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	184
作曲理論研究Ⅳ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	187
作曲技法研究Ⅰ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	190
作曲技法研究Ⅱ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	193
作曲技法研究Ⅲ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	196
作曲技法研究Ⅳ[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	199
作曲理論研究Ⅰ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	・・・・・・・・	202
作曲理論研究Ⅱ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	・・・・・・・・	205
作曲理論研究Ⅲ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	・・・・・・・・	208
作曲理論研究Ⅳ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	・・・・・・・・	211
創作技法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	渡辺　俊幸	・・・・・・・・	214
創作技法共同研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	渡辺　俊幸	・・・・・・・・	217
アドバンスト・サポート・レッスン1～4[シラバス用]	渡辺　俊幸	・・・・・・・・	220
管楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	佛坂　咲千生	・・・・・・・・	223
弦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	荒　庸子	・・・・・・・・	226
打楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	神谷　百子	・・・・・・・・	229

音楽実技実習1～4[シラバス用]CO	清水　昭夫	・・・・・・・・	232
音楽実技実習2～4[シラバス用]ME	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	235
ピアノ実技1～4[シラバス用]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	238
音楽実技1～4[シラバス用]	清水　昭夫	・・・・・・・・	241
チェンバロ実習1・2[シラバス用]	岡田　龍之介	・・・・・・・・	244
ピアノ実技[シラバス用]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	247
総合音楽専門研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	大江　千佳子	・・・・・・・・	250
ヴィオラ実習1－1～4－2[シラバス用]	古川原　裕仁	・・・・・・・・	253
ギター奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	原　善伸	・・・・・・・・	256
邦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用](箏)	石垣　清美	・・・・・・・・	259
ワールドミュージック専門研究Ⅰ-A～Ⅳ-A[シラバス用]	大江　千佳子	・・・・・・・・	262
ワールドミュージック専門研究Ⅰ-B～Ⅳ-C[シラバス用]	大江　千佳子	・・・・・・・・	265
ヴォイストレーニング1～4[シラバス用]	篠原　真	・・・・・・・・	268
作曲基礎研究1～4[シラバス用]	浦壁　信二	・・・・・・・・	271
指導法研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	江崎　昌子	・・・・・・・・	274
指導法研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	江崎　昌子	・・・・・・・・	277
ピアノ奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	280
ポピュラーミュージック研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	283
ポピュラーミュージック研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	・・・・・・・・	286
アンサンブル奏法研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	清水　将仁	・・・・・・・・	289
アンサンブル奏法研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	清水　将仁	・・・・・・・・	292
ピアノ奏法特殊研究1～4[シラバス用]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	295
ジャズ奏法研究Ⅰ－1～Ⅳ－2[シラバス用]	蟻正　行義	・・・・・・・・	298
ジャズ奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用](2018入学生以降)	蟻正　行義	・・・・・・・・	301
ゲネラルバス実技1～4[シラバス用]	荻野　由美子	・・・・・・・・	304
オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	荻野　由美子	・・・・・・・・	307
電子オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	赤塚　博美	・・・・・・・・	310
声楽研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	313
声楽実習／声楽実習Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	塩田　美奈子	・・・・・・・・	316
ピアノ実習／ピアノ実習Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	小嶋　貴文	・・・・・・・・	319
ヴォイスアーティスト技法研究1～4[シラバス用]	江原　陽子	・・・・・・・・	322
ジャズ特別奏法研究1～4－2[シラバス用]	蟻正　行義	・・・・・・・・	325
音楽実技実習Ⅰ～Ⅲ[シラバス用]	佐藤　昌弘	・・・・・・・・	328
R＆P演奏技法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	前野　知常	・・・・・・・・	331
副科実技(R&P)1～4－2[シラバス用]	前野　知常	・・・・・・・・	334
専門研究A[シラバス用]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	337
専門研究B-1[シラバス用]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	340
専門研究B-2[シラバス用]	柳澤　涼子	・・・・・・・・	343

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］A1クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2011A1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水3］A2クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2011A2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［金2］A3クラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE2011A3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］B1クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2011B1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火3］B4クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2011B4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］C1クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火4］C2クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火3］C3クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］C4クラス						
代表教員	川嶋　哲郎	授業コード	GE2011C4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月4］D1クラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE2011D1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水3］E1クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2011E1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［木3］E2クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2011E2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火2］E4クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2011E4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月4］F1クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2011F1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［木4］F2クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2011F2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］J1クラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE2011J1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］K1クラス						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE2011K1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［木2］K2クラス						
代表教員	片倉　真由子	授業コード	GE2011K2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水3］L1クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2011L1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火4］P1クラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GE2011P1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火3］Q1クラス						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE2011Q1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［金3］S1クラス						
代表教員	多田　誠司	授業コード	GE2011S1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］W1クラス						
代表教員	白仁 “KOTETSU” 賢哉	授業コード	GE2011W1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月3］A1クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2085A1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水3］A2クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2085A2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［金2］A3クラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE2085A3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月3］B1クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2085B1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火3］B4クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2085B4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月3］C1クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火4］C2クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火3］C3クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月3］C4クラス						
代表教員	川嶋　哲郎	授業コード	GE2085C4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月4］D1クラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE2085D1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水3］E1クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2085E1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［木3］E2クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2085E2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火2］E4クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2085E4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［月4］F1クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2085F1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［木4］F2クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2085F2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水4］J1クラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE2085J1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水4］K1クラス						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE2085K1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［木2］K2クラス						
代表教員	片倉　真由子	授業コード	GE2085K2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水3］L1クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2085L1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火4］P1クラス						
代表教員	香取　良彦	授業コード	GE2085P1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［火3］Q1クラス						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE2085Q1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［金3］S1クラス						
代表教員	多田　誠司	授業コード	GE2085S1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - １～４ - １　（前）［水4］W1クラス						
代表教員	白仁 “KOTETSU” 賢哉	授業コード	GE2085W1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2 （後） ［月3］打楽器						
代表教員	古川　玄一郎	授業コード	GJ097100	科目コード	GJ0971d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く）（PF一部除	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器という表現媒体を介し、一切の芸術活動の要諦となり得る《イマジネーション(想像)のその先にクリエイション(創造)を見出すこと》を目標とする。

２．授業概要

民族楽器を含む各種打楽器の奏法・リズム・音色研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作品・楽器に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に無し。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１年後期から４年後期までの履修科目
（２）全ての科目において再履修は不可。
（３）副科実技は器楽と声楽に分かれていて、いずれか一つしか履修できない。
（４）「副科実技-器楽」は打楽器以外の楽器の場合は「個人レッスン」、打楽器の場合は「グループレッスン」となる。また、コースにより履修できる楽器に制限があるので注意すること。
（５）履修人数の制限により、第一希望のレッスンを履修できない場合がある。
（６）履修登録手続について
半期ごとにSENZOKUポータルからの履修希望申請が必要。
・後期に履修を希望する場合は６月上旬、次年度前期に履修を希望する場合は１２月上旬頃に、登録手続についてSENZOKUポータルからの連絡を確認すること。・履修しようとする期の前の期に副科実技を履修している学生については、半期１５回のレッスン回数の２／３以上の出席を満たさない場合、また期の中途での履修取消があった場合についても、次期「副科実技」は履修することはできない。
（７）出席状況が芳しくない場合は、履修登録を取消す場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	小太鼓・シンバル・大太鼓
3	ジャンベ、アフリカンベル他
4	講義（ジョン・ケージと打楽器）
5	コンガ他
6	カホン
7	講義（フルクサスと打楽器）
8	マリンバ1
9	マリンバ2
10	講義（音色について）
11	アンクルン
12	特殊打楽器
13	講義（特殊奏法について）
14	アゴゴ、カイシャ、パンデイロ、スルド他
15	和太鼓

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2 （後） ［月2］バレエ						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GJ0971A0	科目コード	GJ0971d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く）（PF一部除	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

バレエの名手でもあったルイ14世の時代、音楽・オペラ・バレエは密接な関係があった。バレエの基礎を学ぶことにより、身体で音楽を感じ自由に表現できることを目指し、音楽的な身体表現技術を向上させることを目標とする。

2．授業概要

バレエダンサーにとっては身体が表現するための楽器であり、楽器である身体を作り美しい動きを身につける為にバレエレッスンがある。この基本レッスンを通して、美しい姿勢・立ち居振る舞い・音楽的な動き（リズム・メロディ）・呼吸法・エレガンス等が身につくように指導する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を身体に通して動くことができるかどうか、積み重ねの効果を体感して欲しいので、授業で学習した基本を少しずつ続けること。
バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）。

4．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

必ず稽古着を着用し、バレエシューズを使用すること。他にタオル・飲み物などを用意し、髪が長い場合は首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教師より指示する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽とバレエ
2	ストレッチ　バーレッスン　正しい姿勢、足のポジション
3	ストレッチ　バーレッスン　En dehors、Plie
4	ストレッチ　バーレッスン　Tendu、Degage
5	ストレッチ　バーレッスン　Rond de jambe a terre, Rond de jambe en l'air
6	ストレッチ　バーレッスン　Fondu、Frappe
7	ストレッチ　バーレッスン　Développé Grand battement
8	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Port de bras、Adage
9	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Tendu
10	ストレッチ　バー＆センターレッスン　　Valse、Petits sauts
11	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　　回転
12	ストレッチ　バー＆センターレッスン　Grands sauts
13	ストレッチ　バー＆センターレッスン　音楽的な動き、呼吸法
14	ストレッチ　バー＆センターレッスン　表現力
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1 （前） ［月3］ 打楽器							
代表教員	担当教員	授業コード	GJ097200	科目コード	GJ0972d	期間	半期	
担当教員								
授業形態	実技	配当学年						
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く） （PF一部除	科目分類	専門選択（全コース共通）					
前提科目	特になし							
教員免許状								

１．主題・到達目標

打楽器という表現媒体を介し、一切の芸術活動の要諦となり得る《イマジネーション(想像)のその先にクリエイション(創造)を見出すこと》を目標とする。

２．授業概要

民族楽器を含む各種打楽器の奏法・リズム・音色研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作品・楽器に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に無し。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１） １年後期から４年後期までの履修科目
（２） 全ての科目において再履修は不可。
（３） 副科実技は器楽と声楽に分かれていて、いずれか一つしか履修できない。
（４） 「副科実技-器楽」は打楽器以外の楽器の場合は「個人レッスン」、打楽器の場合は「グループレッスン」となる。また、コースにより履修できる楽器に制限があるので注意すること。
（５） 履修人数の制限により、第一希望のレッスンを履修できない場合がある。
（６） 履修登録手続について
半期ごとにSENZOKUポータルからの履修希望申請が必要。
・後期に履修を希望する場合は６月上旬、次年度前期に履修を希望する場合は１２月上旬頃に、登録手続についてSENZOKUポータルからの連絡を確認すること。・履修しようとする期の前の期に副科実技を履修している学生については、半期１５回のレッスン回数の２／３以上の出席を満たさない場合、また期の中途での履修取消があった場合についても、次期「副科実技」は履修することはできない。
（７） 出席状況が芳しくない場合は、履修登録を取消す場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	小太鼓・シンバル・大太鼓
3	ジャンベ、アフリカンベル他
4	講義（ジョン・ケージと打楽器）
5	コンガ他
6	カホン
7	講義（フルクサスと打楽器）
8	マリンバ1
9	マリンバ2
10	講義（音色について）
11	アンクルン
12	特殊打楽器
13	講義（特殊奏法について）
14	アゴゴ、カイシャ、パンデイロ、スルド他
15	和太鼓

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1 （前） ［月2］ バレエ						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GJ0972A0	科目コード	GJ0972d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く） （PF一部除	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

バレエの名手でもあったルイ14世の時代、音楽・オペラ・バレエは密接な関係があった。バレエの基礎を学ぶことにより、身体で音楽を感じ自由に表現できることを目指し、音楽的な身体表現技術を向上させることを目標とする。

2．授業概要

バレエダンサーにとっては身体が表現するための楽器であり、楽器である身体を作り美しい動きを身につける為にバレエレッスンがある。この基本レッスンを通して、美しい姿勢・立ち居振る舞い・音楽的な動き（リズム・メロディ）・呼吸法・エレガンス等が身につくように指導する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を身体に通して動くことができるかどうか、積み重ねの効果を体感して欲しいので、授業で学習した基本を少しずつ続けること。
バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）。

4．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

必ず稽古着を着用し、バレエシューズを使用すること。他にタオル・飲み物などを用意し、髪が長い場合は首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教師より指示する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽とバレエ
2	ストレッチ　バーレッスン　正しい姿勢、足のポジション
3	ストレッチ　バーレッスン　En dehors、Plie
4	ストレッチ　バーレッスン　Tendu、Degage
5	ストレッチ　バーレッスン　Rond de jambe a terre, Rond de jambe en l'air
6	ストレッチ　バーレッスン　Fondu、Frappe
7	ストレッチ　バーレッスン　Développé Grand battement
8	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Port de bras、Adage
9	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Tendu
10	ストレッチ　バー＆センターレッスン　　Valse、Petits sauts
11	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　　回転
12	ストレッチ　バー＆センターレッスン　Grands sauts
13	ストレッチ　バー＆センターレッスン　音楽的な動き、呼吸法
14	ストレッチ　バー＆センターレッスン　表現力
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別アンサンブル／ラボ２・４・６・８ 【仮登録】（後）						
代表教員	原　朋直	授業コード	WGE201200	科目コード	GE2012d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１ - ２～４ - ２ 【仮登録】（後）						
代表教員	原　朋直	授業コード	WGE208600	科目コード	GE2086d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習１－Ｉ【仮登録】（前）						
代表教員	金井　公美子	授業コード	WGJ094000	科目コード	GJ0940	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取り組みか②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-Ⅰ／1-ⅠⅠ」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	（半期）
1	オリエンテーション－教育実習と教職ピアノ実習との関連
2	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の確認 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の表現の工夫 と《春の小川》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《春の小川》の表現の工夫 と《茶つみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《茶つみ》の表現の工夫と《うみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《うみ》の表現の工夫と《主人は冷たい土の中に》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《主人は冷たい土の中に》の表現の工夫と「こきりこ節」の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《こきりこ節》の表現の工夫と《Belive》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《Belive》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《ふるさと》
10	グループでの伴奏演習《春の小川》《茶つみ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《うみ》《主人は冷たい土の中に》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《こきりこ節》《Belive》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習６ 【仮登録】（後）						
代表教員	金井　公美子	授業コード	WGL094602	科目コード	GL0946	期間	半期(個別
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択(全コース)				
前提科目	「教職ピアノ実習5」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教職課程の最終段階である教育実習において支障なく研究授業を遂行するために、教育実習の事前準備を目的とする。

２．授業概要

◆本授業は、教育実習前の集中レッスンとする。「教職ピアノ実習５」まではグループ授業として行われていたが、教育実習校、学生によりその課題は様々であるため、個人レッスンとして行う。
◆教員採用試験でピアノ実技がある場合には、その課題曲をレッスンすることも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）実習校での事前打ち合わせの際、実習で取り扱う楽曲について情報を集め、教科書を中心に準備を行っておくこと。
（復習）各回の授業で指摘された課題に関しては、次回までにクリアーしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験は行わない。授業への参加姿勢で判定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教育実習で使用される教科書等。
教員採用試験における課題曲等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

(1)　教育実習に参加を予定する4年生（ピアノコース・音楽教育コース・ジャズコースのピアノの学生を除く）のみ。
(2)　「教職ピアノ実習5」の単位を修得済みであること。
(3)　担当教員は教職センターの指定する指導教員一覧表より選ぶこと。
(4)　教育実習に参加する学生の中から希望者のみが受講できるものであることから、別途履修費用を徴収する。履修費用については提示などに注意すること。
(5)　教職ピアノ実習テキスト『My Heartful Songs』『My　Lyrical Songs』を復習しておくこと。

授業計画	
	［半期］
1	共通教材の伴奏法の確立（「教職ピアノ実習1-Ⅰ～5」の復習」）
2	共通教材の伴奏法の応用
3	共通教材を用いた歌唱指導法及び伴奏法
4	合唱教材の伴奏法の確立（「教職ピアノ実習4.5」の復習」）
5	合唱教材の伴奏法の応用
6	合唱教材を用いた歌唱指導法及び伴奏法
7	教育実習を想定した歌唱伴奏法
8	教育実習校対応曲の準備
9	教員採用試験課題曲の準備
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル／ラボ１−１～４−２　［シラバス用］						
代表教員	原　朋直	授業コード	XGE208500	科目コード	GEelabd	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ)・	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習１－Ｉ［シラバス用］							
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094000	科目コード	GJ0940	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取り組みか②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-Ⅰ／1-ⅠⅠ」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション－教育実習と教職ピアノ実習との関連
2	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の確認 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の表現の工夫 と《春の小川》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《春の小川》の表現の工夫と《茶つみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《茶つみ》の表現の工夫と《うみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《うみ》の表現の工夫と《主人は冷たい土の中に》演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《主人は冷たい土の中に》の表現の工夫と《こきりこ節》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《こきりこ節》の表現の工夫と《Belive》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《Belive》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《ふるさと》
10	グループでの伴奏演習《春の小川》《茶つみ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《うみ》《主人は冷たい土の中に》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《こきりこ節》《Belive》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習１－II ［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094100	科目コード	GJ0941	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習1-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-I／1-II」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 前期の振り返り 個人指導
2	グループ・個人指導 共通課題《おぼろ月夜》の演習と表現の工夫 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《おぼろ月夜》の仕上げと《こいのぼり》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《こいのぼり》の表現の工夫 と《もみじ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《もみじ》の表現の工夫 と《相馬盆歌》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《相馬盆歌》の表現の工夫 と《世界に一つだけの花》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《世界に一つだけの花》の表現の工夫 と《冬景色》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《冬景色》の表現の工夫 と《大切なもの》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《大切なもの》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《おぼろ月夜》
10	グループでの伴奏演習《こいのぼり》《もみじ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《相馬盆歌》《世界に一つだけの花》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《冬景色》《大切なもの》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習２　［シラバス用］							
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094200	科目コード	GJ0942	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	2				
対象コース	全（PF・JZコースのピアノ除く）	科目分類					
前提科目	「教職ピアノ実習1-II」の単位修得済の学生(MEはそれに準ずる単位修得済みであること)						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】前年度習得したことを踏まえた、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟。弾き歌いやコード伴奏等の技術力も身につける。

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（1）「教職ピアノ実習１-II」の成績に基づき「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（2）２年次終了までに、「教職ピアノ実習２．３」の単位を修得していない場合は、３年次前期に「教職ピアノ実習４」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（3）『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』以外の曲も実技担当教員と相談の上、勉強しておくこと。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 教育実習と教職ピアノ実習との関連 グループ・個人指導 共通課題《さくらさくら》の演習と スケール・カデンツの練習方法について
2	グループ・個人指導 共通課題《さくらさくら》の表現の工夫 と《花》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
3	グループ・個人指導 共通課題《花》の表現の工夫 と《夏の思い出》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《夏の思い出》の表現の工夫 と《赤とんぼ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《赤とんぼ》の表現の工夫 と《こげよマイケル》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《こげよマイケル》の表現の工夫 と《荒城の月》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《荒城の月》の表現の工夫 と《見上げてごらん夜の星を》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《見上げてごらん夜の星を》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《さくらさくら》
9	グループでの伴奏演習《花》《夏の思い出》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
10	グループでの伴奏演習《赤とんぼ》《こげよマイケル》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《荒城の月》《見上げてごらん夜の星を》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習の内容と方法
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習３　［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094300	科目コード	GJ0943	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	2				
対象コース	全（PF・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習2」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）２年次終了までに、「教職ピアノ実習２．３」の単位を修得していない場合は、３年次前期に「教職ピアノ実習４」を履修できない。
尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 前期の振り返り 個人指導
2	グループ・個人指導 共通課題《早春賦》の演習 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《早春賦》の表現の工夫と《浜辺の歌》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《浜辺の歌》の表現の工夫と《花の街》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《花の街》の表現の工夫と《帰れソレント》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《帰れソレント》の表現の工夫と《心の瞳》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《心の瞳》の表現の工夫と《アメージング・グレイス》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《アメージング・グレイス》の表現の工夫と《少年時代》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《少年時代》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《早春賦》
10	グループでの伴奏演習《浜辺の歌》《花の街》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《帰れソレント》《心の瞳》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの伴奏演習《アメージング・グレイス》《少年時代》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケールカデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習４　［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094400	科目コード	GJ0944	期間	
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類					
前提科目	「教職ピアノ実習3」の単位修得済の学生(PF・JZコースのピアノはそれに準ずる単位習得済みであること）						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】教育実習において求められる、実践的なピアノ伴奏技能の習得
【到達目標】教育実習校種の教科書掲載曲に習熟し、歌唱指導がスムーズに行えるようになる

２．授業概要

本授業は,これまで積み重ねてきた教職ピアノ実習のまとめとして位置づけている。（PFとJZコースのピアノを除く）
原則として決定している実習校の校種に応じて教材を決定し、習熟を図り、またグループによる伴奏演習も実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①共通教材(全7曲）②My lyrical Songsの実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習･My lyrical Song』」と『教職ピアノ実習・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（２）クラス分けに関しては別途指示する。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　教育実習と教職ピアノ実習との関連グループ・個人指導　合唱曲集の練習方法について
2	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《カリブ夢の旅》の伴奏演習と歌唱指導
3	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Let's Serch For Tomorrow》　の伴奏演習と歌唱指導
4	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《明日という日が》　の伴奏演習と歌唱指導
5	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《青春の1ページ》　の伴奏演習と歌唱指導
6	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Santa Lucia》　の伴奏演習と歌唱指導
7	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《'O sole mio》　の伴奏演習と歌唱指導
8	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Caro mio ben》　の伴奏演習と歌唱指導
9	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《野ばら》2曲　の伴奏演習と歌唱指導
10	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《上を向いて歩こう》　の伴奏演習と歌唱指導
11	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲 伴奏と歌唱のバランス 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　　効果的な伴奏１
12	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲 歌唱指導 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　効果的な伴奏2
13	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲　発表と評価 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　発表と評価
14	個人・グループ演習まとめ 選択曲の確認
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職ピアノ実習５　［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094500	科目コード	GJ0945	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習4」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】教育実習において求められる、実践的なピアノ伴奏技能の習得
【到達目標】教育実習校種の教科書掲載曲に習熟し、歌唱指導がスムーズに行えるようになる

２．授業概要

本授業は、教育実習に必要な技術力強化の最終段階として位置づけている。原則として決定している実習校の校種に応じて教材を決定し、習熟を図り、またグループによる伴奏演習も実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①共通教材(全7曲）②My lyrical Songsの実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習･My lyrical Songs』と『教職ピアノ実習・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（２）クラス分けに関しては別途指示する。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　前期の振り返り 個人指導
2	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《心の中にきらめいて》の伴奏演習と歌唱指導
3	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《時の旅人》の伴奏演習と歌唱指導
4	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《旅立ちの日に》の伴奏演習と歌唱指導
5	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《名付けられた葉》の伴奏演習と歌唱指導
6	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《大地讃頌》の伴奏演習と歌唱指導
7	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《この道》の伴奏演習と歌唱指導
8	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Ich liebe dich》の伴奏演習と歌唱指導
9	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Im wunderschönen Monat Mai》の伴奏演習と歌唱指導
10	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Lascia ch'io pianga》の伴奏演習と歌唱指導
11	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Auf Flügeln des Gesanges》の伴奏演習と歌唱指導
12	グループでの伴奏及び指導演習 基礎楽曲step1,2を用いて
13	個人指導及びグループ演習 発展楽曲step3を用いて
14	個人指導及びグループ演習 まとめ
15	半期のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	作曲理論研究Ⅲ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040300	科目コード	GL0403d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲理論研究では和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体、そして実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲理論研究Ⅲは、前期に４～６名の奏者による室内楽曲、後期に弦楽合奏や室内オーケストラを中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
6	書法研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
7	書法研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
8	書法研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（４～６名の奏者による室内楽など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
2	楽曲研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
3	楽曲研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
5	書法研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
6	書法研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
7	書法研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
8	書法研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
14	楽譜の作成－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040400	科目コード	GL0404d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲理論研究では和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体、そして実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲理論研究Ⅳは、前期に古典派から１９世紀の管弦楽曲、後期に２０世紀以降の楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
3	楽曲研究－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
7	書法研究－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
15	楽譜の作成－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
3	楽曲研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
5	書法研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
6	書法研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
7	書法研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
8	書法研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（２０世紀以降の楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（２０世紀以降の楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（２０世紀以降の楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅰ　[シラバス用]						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040500	科目コード	GL0405d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅰは、前期にピアノ曲、後期に弦楽器を含む二重奏曲を中心として研究する。

2．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）

学年末提出作品（評価の８０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（ピアノ曲など）
3	楽曲研究－基礎（ピアノ曲など）
4	楽曲研究－応用（ピアノ曲など）
5	楽曲研究－まとめ（ピアノ曲など）
6	書法研究－導入（ピアノ曲など）
7	書法研究－基礎（ピアノ曲など）
8	書法研究－応用（ピアノ曲など）
9	書法研究－まとめ（ピアノ曲など）
10	構成とスケッチ－導入（ピアノ曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（ピアノ曲など）
12	構成とスケッチ－応用（ピアノ曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（ピアノ曲など）
14	楽譜の作成－基礎（ピアノ曲など）
15	楽譜の作成－応用（ピアノ曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
2	楽曲研究－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
3	楽曲研究－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
5	書法研究－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
6	書法研究－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
7	書法研究－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
8	書法研究－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
14	楽譜の作成－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040600	科目コード	GL0406d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅱは、前期に管楽器を含む二重奏曲および歌曲、後期に３～４名の奏者による室内楽および合唱曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）

学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
3	楽曲研究－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
4	楽曲研究－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
5	楽曲研究－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
6	書法研究－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
7	書法研究－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
8	書法研究－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
9	書法研究－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
10	構成とスケッチ－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
12	構成とスケッチ－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
14	楽譜の作成－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
15	楽譜の作成－応用（管楽器を含む二重奏曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（室内楽や合唱など）
2	楽曲研究－基礎（室内楽や合唱など）
3	楽曲研究－応用（室内楽や合唱など）
4	楽曲研究－まとめ（室内楽や合唱など）
5	書法研究－導入（室内楽や合唱など）
6	書法研究－基礎（室内楽や合唱など）
7	書法研究－応用（室内楽や合唱など）
8	書法研究－まとめ（室内楽や合唱など）
9	構成とスケッチ－導入（室内楽や合唱など）
10	構成とスケッチ－基礎（室内楽や合唱など）
11	構成とスケッチ－応用（室内楽や合唱など）
12	構成とスケッチ－まとめ（室内楽や合唱など）
13	楽譜の作成－基礎（室内楽や合唱など）
14	楽譜の作成－応用（室内楽や合唱など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅲ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040700	科目コード	GL0407d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅲは、前期に４～６名の奏者による室内楽曲、後期に弦楽合奏や室内オーケストラを中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）

学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
6	書法研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
7	書法研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
8	書法研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（４～６名の奏者による室内楽など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
2	楽曲研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
3	楽曲研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
5	書法研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
6	書法研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
7	書法研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
8	書法研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
14	楽譜の作成－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040800	科目コード	GL0408d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅳは、前期に古典派から１９世紀の管弦楽曲、後期に２０世紀以降の楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）

学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
3	楽曲研究－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
7	書法研究－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
15	楽譜の作成－応用（１９世紀までの管弦楽曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
3	楽曲研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
5	書法研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
6	書法研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
7	書法研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
8	書法研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（２０世紀以降の楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（２０世紀以降の楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（２０世紀以降の楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅰ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041600	科目コード	GL0416d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅰは、和声法における三和音、属七の和音、Ⅱ７の和音、属九の和音、準固有和音、ナポリのⅡ、Ⅳの付加音の理解を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声学課題集Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	三和音　基本形　基礎
3	三和音　基本形　応用
4	三和音　基本形　まとめ
5	三和音　第１転回形　基礎
6	三和音　第１転回形　応用
7	三和音　第１転回形　まとめ
8	三和音　第２転回形　基礎
9	三和音　第２転回形　応用
10	三和音　第２転回形　まとめ
11	三和音　ソプラノ課題　基礎
12	三和音　ソプラノ課題　応用
13	属七の和音　基本形　基礎
14	属七の和音　基本形　応用
15	属七の和音　基本形　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	Ⅱ７の和音　基礎
2	Ⅱ７の和音　応用
3	Ⅱ７の和音　ソプラノ課題
4	Ⅱ７の和音　まとめ
5	属九の和音　基本形と転回形
6	属九の和音　根音省略形（長調）
7	属九の和音　根音省略形（短調）
8	属九の和音　まとめ
9	和音の変化　準固有和音　基礎
10	和音の変化　準固有和音　応用
11	和音の変化　ナポリのⅡ　基礎
12	和音の変化　ナポリのⅡ　応用
13	和音の変化　Ⅳの付加音　基礎
14	和音の変化　Ⅳの付加音　応用
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅱ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041700	科目コード	GL0417d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、和声法におけるドッペルドミナント、副七の和音、近親転調、調設定の原理、借用和音、配置変化の理解を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
3	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
4	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
5	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
6	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
7	ドッペルドミナントのまとめ
8	副七の和音１　Ⅳ７、Ｉ７、Ⅵ７
9	副七の和音２　ドリアのⅣ
10	近親転調　バス課題の概要
11	近親転調　転入での連結法
12	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
13	近親転調　バス課題の実施法
14	近親転調　バス課題の実施
15	近親転調　バス課題のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
2	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
3	近親転調　ソプラノ課題の実施法
4	近親転調　ソプラノ課題の実施
5	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
6	調設定の原理　基礎
7	調設定の原理　応用
8	調設定の原理　まとめ
9	借用和音　基礎
10	借用和音　応用
11	借用和音　まとめ
12	配置変化　基礎
13	配置変化　応用
14	配置変化　まとめ
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅲ　［シラバス用］（2017入学生以降）							
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041800	科目コード	GL0418d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅲは、和声法における非和声音、反復進行、偶成和音、保続音を理解し、内声における主題再現を含む課題などの様式を修得することを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	非和声音を含む課題　基礎
3	非和声音を含む課題　刺繍音を中心に
4	非和声音を含む課題　経過音を中心に
5	非和声音を含む課題　倚音を中心に
6	非和声音を含む課題　掛留音を中心に
7	非和声音を含む課題　応用
8	非和声音を含む課題　まとめ
9	非和声音、転調を含む課題　基礎
10	非和声音、転調を含む課題　刺繍音を中心に
11	非和声音、転調を含む課題　経過音を中心に
12	非和声音、転調を含む課題　倚音を中心に
13	非和声音、転調を含む課題　掛留音を中心に
14	非和声音、転調を含む課題　応用
15	非和声音、転調を含む課題　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	内声における主題再現を含む課題　基礎
2	内声における主題再現を含む課題　応用
3	内声における主題再現を含む課題　まとめ
4	和音の補遺　三和音
5	和音の補遺　七の和音
6	反復進行を含む課題　基礎
7	反復進行を含む課題　応用
8	反復進行を含む課題　まとめ
9	偶成和音を含む課題　基礎
10	偶成和音を含む課題　応用
11	偶成和音を含む課題　まとめ
12	保続音を含む課題　基礎
13	保続音を含む課題　応用
14	保続音を含む課題　まとめ
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅳ ［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041900	科目コード	GL0419d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅳは、和声法における種々の課題様式を深く研究し、さらにはコラールやフーガの書法の修得、そして特定の作曲家の和声様式による課題の修得を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　基礎
3	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　応用
4	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　まとめ
5	階梯導入をもつバス課題　基礎
6	階梯導入をもつバス課題　応用
7	階梯導入をもつバス課題　まとめ
8	数字付き低音とフランスの和声　基礎
9	数字付き低音とフランスの和声　応用
10	数字付き低音とフランスの和声　まとめ
11	高度な和声課題の実施、研究
12	コラールの書法　導入
13	コラールの書法　基礎
14	コラールの書法　応用
15	コラールの書法　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	フーガの楽曲研究　導入
2	フーガの楽曲研究　基礎
3	フーガの書法研究　導入
4	フーガの書法研究　基礎
5	フーガの書法研究　応用
6	フーガの書法研究　まとめ
7	J.S.バッハの様式による課題　基礎
8	J.S.バッハの様式による課題　応用
9	W.A.モーツァルトの様式による課題　基礎
10	W.A.モーツァルトの様式による課題　応用
11	C.ドビュッシーの様式による課題　基礎
12	C.ドビュッシーの様式による課題　応用
13	M.ラヴェルの様式による課題　基礎
14	M.ラヴェルの様式による課題　応用
15	１年間の総括

科目名	創作技法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL050100	科目コード	GL0501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響デザインコースの専門研究（個人レッスン）の主目的は、（旧来の意味にとどまらない）現代社会的な意味におけるメディアコンテンツ制作全般の中で、自分の指向に合わせて研鑽を積むことにある。

最終的な到達目標は、メディアコンテンツ制作現場においてプロとして活動できるスキルを身に付けることに他ならない。当コース卒業生の実社会での活躍を見れば、具体的に理解出来るであろう。

２．授業概要

作曲基礎理論・実践的作曲・映画放送系オーケストレーション・DTM制作・バンド系楽曲制作・ヴォーカル系楽曲制作・芸術的電子音楽制作・ミキシング・録音等、広範な分野から担当教員を選択することになる。年間を通じて、学生各自のスキルと指向性を充分に考慮して、専門研究は進められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員により、個別に指示される。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に実施する実技試験（プレゼンテーション）の採点による。採点に際しては、履修姿勢や平常努力も必然的に考慮されるが、専門研究を積極的に履修することは至極当然のことであり、評価は実技試験の素点を重視したものとなる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員及び学生により、個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、２～４年生は前年度末に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	［前期］本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	担当学生の志向を確認する。毎レッスンに作品を持参することを義務付ける。作曲家を目指す際の日々の過ごし方や毎日するべき音楽家としての基礎的練習について語る。
2	担当する学生の作品を様々な角度から批評をし、同時にレッスンで勉強していくべき課題（ハーモニー、対位法、オーケストレーション等）についてのレベル判定をする。
3	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題基礎編を学ぶ。（ダイアトニックコード等）
4	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題中級編を学ぶ。（ドミナントモーション等）
5	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題上級編（代理コード等）を学ぶ。
6	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題応用編（ここまでに学んだ技法の応用例）を学ぶ。
7	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題プロフェッショナル編（プロの作品を分析）を学ぶ。
8	学生の作品を批評すると共に対位法の基礎（２声の対位法）を学ぶ。
9	学生の作品を批評すると共に２声の対位法の実例を分析。
10	学生の作品を批評すると共にポップスにおける対位法の実例を学ぶ。
11	学生の作品を批評すると共に映画音楽における対位法の実例を学ぶ。
12	学生の作品を批評すると共にオーケストラ作品における対位法の実例を学ぶ。
13	学生の作品を批評すると共にポップスにおけるリズムセクションを分析。
14	学生の作品を批評すると共にヒップホップ系音楽のリズムセクションを分析。
15	学生の作品を批評すると共に映画音楽におけるリズムトラックについて学ぶ。

授業計画	
	［後期］本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング①を学ぶ。　（金管楽器それぞれの音域や特性について）
2	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング②を学ぶ。（　ポップスにおけるライティング）
3	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング③を学ぶ。（ジャズ・スモール・アンサンブルにおけるライティング）
4	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング④を学ぶ。　（ジャズ、ラージ・アンサンブルにおけるライティング）
5	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング⑤を学ぶ。　（映画音楽におけるライティング）
6	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング①を学ぶ。　（弦楽器それぞれの音域や特性について）
7	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング②を学ぶ。（ポップスにおけるライティング）
8	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング③を学ぶ。　（ジャズ系の音楽におけるライティング）
9	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング④を学ぶ。　（映画音楽におけるライティング）
10	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング⑤を学ぶ。　（弦楽四重奏の書き方）
11	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション①を学ぶ。　（木管楽器それぞれの音域と特性について）
12	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション②を学ぶ。　（ポップス系の歌もののためのオーケストラ編曲について）
13	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション③を学ぶ。　（叙情的作品のための書法）
14	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション④を学ぶ。　（冒険物、アドベンチャー的ムードの映画音楽的作品のための書法）
15	プレゼンテーションに提出する作品に対して最終的なアドバイスを与え、前期、後期で学んだことのまとめを行う。

科目名	創作技法共同研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL050500	科目コード	GL0505d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音響の基本から、16chアナログミキサー、小型デジタルミキサーの操作を学び、アコースティック編成のミキシングが出来るようにします。
リバーブなどエフェクターの基本知識を学びます。

２．授業概要

音響機材の扱い方や結線が個人で出来るようにします。ミキシングは2ch程度（A.G.Vo)から始まり、ミキシングチャンネルを増やして行きます。スタンド式パッシブスピーカーでのミキシングから、2Wayのバイアンプスピーカーでのミキシングを行う事により、サブウファーの意味を学びます。コンサートではとても重要なアーティストに対するモニターミキシング基礎知識とそのミキシングも学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスン終了後に学んだ事を、後日教室にて再度結線や機材を触る事が出来るのでより熟知する事が出来ます。音響用語に関してはインターネットでも検索する事が望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に共通実地試験を実施する。
各
サウンドチェック（所作）
ミキシング技術
芸術点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスンでの課題曲のアーティスト情報、歌詞、トラックシートなど。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、２～４年生は前年度末に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	【前期】 スタンドやケーブルの扱い方など音響機器の基礎を実践的学び、4ch程度のミキシングに対応できるようにする。
1	ガイダンス
2	マイク、マイクスタンドの扱い方。マイクケーブルの巻き方
3	マルチケーブルの巻き方、スタンド式スピーカーの立て方
4	コンソール、アンプ、スピーカーの結線の説明
5	コンソール、アンプ、スピーカーの結線を実習
6	Mixer Mackie 16ch,YAMAHA 01Vの使い方説明
7	2ch 音源　AG,Vocalのミキシング
8	2ch 音源　AG,Vocalのミキシング + Rev SPX2000の説明
9	モニタースピーカーの説明、使用目的など
10	2ch 音源（AG,Vocal）によるモニターミキシング
11	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal
12	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal + 歌詞の書き込み方
13	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal　完成。
14	生ピアノに対する、マイクアレンジ　PAの操作及び説明
15	生ピアノに対する、マイクアレンジ　PAの操作 -ミュージシャンによる-

授業計画	
	後期
1	2 Way Speakerの機材説明、結線方法。
2	2 Way Speakerの機材説明、結線を全員に行ってもらう
3	2 Way Speakerのチューニングの仕方。音源の選び方
4	Stand式フルレンジスピーカーにてドラムミックス
5	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラムのミックス
6	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラム、ベースのミックス
7	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラム、ベース、ギターのミックス
8	生ドラム 、ギターアンプのマイクアレンジ実習
9	デジタルコンソール YAMAHA O1Vによるミキシング -Bass,Sax,AG,Vocal-
10	デジタルコンソール YAMAHA O1Vによるミキシング -ドラム音源 -
11	VocalとAG or Pianoのミキシング説明
12	VocalとAG or Pianoのミキシング実習 - ミュージシャン -
13	年度末試験の説明
14	年度末試験ミキシング練習
15	年度末試験ミキシング練習と総評

科目名	アドバンスト・サポート・レッスン１～４　［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL054100	科目コード	GL0541d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的に創作技法研究Ⅰ～Ⅳに準ずるが、さらに高度なスキルを身につけるために研鑽を積むことにある。

２．授業概要

基本的に創作技法研究Ⅰ～Ⅳに準ずる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員により、個別に指示される。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に実施する実技試験（プレゼンテーション）の採点による。採点に際しては、履修姿勢や平常努力も必然的に考慮されるが、専門研究を積極的に履修することは至極当然のことであり、評価は実技試験の素点を重視したものとなる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員により、個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	[前期]本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	ガイダンス
2	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングの基礎の解説。
3	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためのクロマティックアプローチなど和声について学ぶ。
4	学生の作品を批評すると共にサックスソリについて学ぶ。
5	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためにサド・ジョーンズのスコアを分析。
6	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためにギル・エバンスのスコアを分析。
7	学生の作品を批評すると共にJ-Pop系の作品のストリングスを分析。
8	学生の作品を批評すると共にジャズ系作品のストリングスライティングを学ぶ。
9	学生の作品を批評すると共にアニメ系劇伴のストリングスライティングについて解説。
10	学生の作品を批評すると共にテレビドラマ系劇伴のためのストリングスライティングについて解説。
11	学生の作品を批評すると共にストリングス・オーケストラにおける様々な書法を学ぶ。
12	学生の作品を批評すると共に打ち込みと生演奏の融合について解説。
13	学生の作品を批評すると共に商業音楽における最先端のリズムセクションのあり方について解説。
14	学生の作品を批評すると共にサンプリング音源や異フェクトの効果的な使用による劇伴系の音楽の解説と分析。
15	学生の作品を批評すると共に前期に学んだ事のまとめ。

授業計画	
	[後期]本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための小編成のオーケストレーションを学ぶ。
2	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための中編成のオーケストレーションを学ぶ。
3	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための大編成のオーケストレーションを学ぶ。
4	学生の作品を批評すると共に映画音楽のためのSEも含めた様々な音源ソフトの使用法を学ぶ。
5	学生の作品を批評すると共に映画音楽のためのオーケストレーションの復習とまとめ。
6	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法①を学ぶ。　（映像に音楽をシンクロさせる方法）
7	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法②を学ぶ。　（リディアンモードによる作曲技法）
8	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法③を学ぶ。　（コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールによる作曲技法）
9	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法③を学ぶ。　（ポリコードの使用法）
10	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法④を学ぶ。　（ハイブリッドコードによる作曲技法）
11	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法⑤を学ぶ。　（前回に続いてより高度なハイブリッドコードによる作曲技法）
12	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ジョン・ウィリアムズの作品を分析
13	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を分析
14	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ブライアン・タイラーの作品を分析
15	プレゼンテーションに提出する作品に対して最終的なアドバイスを与え、前期、後期で学んだことのまとめを行う。

科目名	管楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］							
代表教員	佛坂　咲千生	授業コード	XGL060100	科目コード	GL0601d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

演奏家として、各自の楽器の演奏技術を高め、また様々な楽曲を経験し、表現能力を深める。
教育者をめざし、各自の楽器の演習から、情操教育としての音楽のあり方を深く考える。

2．授業概要

１、２年次は、基礎テクニックを中心に訓練する。楽曲は古典からロマン派、印象派までを中心に取り組む。
３、４年次は、高度なテクニックにチャレンジしたい。楽曲は、近現代へ広げる。特に卒業試験は、古典派から近現代に至る幅広い時代の作品から選択し、四年間の集大成として、取り組まねばならない。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎練習・エチュード・作品の譜読み
各時代の音楽を聴く

4．成績評価の方法及び基準

前期実技試験（30%）伴奏なしでエチュード等で基礎力を見る。
学年末実技試験（70%）伴奏付きで技術力と供に各時代の音楽性を見る。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各楽器の担当教員により異なる。
学生は、必ずオーケストラ・スコア、ピアノ・スコアを用意すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	それぞれの学生に適した年間の学習計画を立てる。
2	学生の程度に適したエチュードの選定。
3	1年生/ 基礎的なエチュードのレッスン開始。 2・3・4年生/ 基礎的なエチュードのレッスン開始。
4	1年生/ エチュードのレッスン＋長調のスケール練習を開始。 2・3・4 年生/ 基礎的なエチュードの進行状況の確認。
5	1年生/ エチュードのレッスン＋長調のスケール練習の暗譜度を確認。 2・3・4 年生/ 基礎的なエチュードに加え音楽的なエチュードを開始。
6	1年生/ エチュードのレッスン＋短調のスケール練習を開始。 2・3・4年生/ 基礎的なエチュードと音楽的なエチュードの進行状況を確認。
7	1年生/ エチュードのレッスン＋短調のスケールの暗記度を確認。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋それぞれの学生に適した楽曲選定。
8	1年生/ エチュードのレッスン＋それぞれの学生の適した練習曲の選定。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の譜読み状況の確認。
9	1年生/ エチュードのレッスン＋練習曲の譜読み状況の確認。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の音楽的解釈を深める。
10	1年生/ エチュードのレッスン＋練習曲に音楽的要素を加える。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の音楽的完成度を高める。
11	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題について、それぞれの学生の状況を見て対策を考える。
12	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題についての作品分析を行う。
13	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題攻略の為の練習方法を考える。
14	1・2・3・4年生/ 前期実技試験課題の完成度を目指す。
15	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の本番を想定しての試演を行う。

授業計画	
	［後期］
1	前期実技試験の結果を踏まえ、後期実技試験に向けてのレッスン計画を確認。
2	1年生/ 基礎的なエチュードの復習と新に音楽的なエチュードの選定。 2・3・4年生/ それぞれの学生に応じた難度の高いエチュードの選定。
3	1年生/ 基礎的なエチュード＋音楽的なエチュードのレッスン開始。 2・3・4年生/ 難度の高いエチュードのレッスン開始。
4	1年生/ 基礎的なエチュード＋音楽的なエチュードの進行状況を確認。 2・3・4年生/ 難度の高いエチュードの進行状況を確認。
5	1・2・3年生/ エチュード＋新規楽曲の選定。 4年生/エチュード＋ 卒業演奏に向け楽曲の選定。
6	1・2・3年生/ エチュード＋新規楽曲の作品分析。 4年生/ エチュード＋卒業演奏に向けての楽曲作品分析。
7	1・2・3年生/　エチュード＋楽曲の譜読み状況の確認。 4年生/ エチュード＋卒業演奏に向けての譜読み状況の確認。
8	1・2・3・4年生/ 作品のスコアを読みながら分析を行う。
9	1・2・3・4年生/ 伴奏ピアノを付けての演奏と作品分析を開始。
10	1・2・3・4年生/ 作品の技術的、音楽的な演奏の状況を確認。
11	1・2・3・4年生/ 演奏の完成度を高める為、演奏を録音し客観的に観察し修正が必要な部分を把握する。
12	1・2・3・4年生/　修正が必要な部分を改善する。
13	1・2・3・4年生/　修正が必要な部分の改善状況の確認と作品全体の流れを合わせる。
14	1・2・3・4年生/　後期実技試験、卒業演奏、に向け作品全体の仕上げを行い完成度を高める。
15	1・2・3・4年生/　後期実技試験、卒業演奏、の本番を想定して試演を行う。

科目名	弦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	荒　庸子	授業コード	XGL070100	科目コード	GL0701d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、各楽器の奏法から音楽表現に至るまで、学生一人ひとりのレベルに合わせた授業を行う。プロフェッショナルな担当教員による、ソリスト・オーケストラ団員・室内楽奏者又は教育者などそれぞれの目標を見据えた、より実現性のあるレッスンを行う。

２．授業概要

４年間という短い期間の中で、学生一人ひとりの技術能力や演奏表現などを見据えて、１・２年では特に奏法の確立、３・４年ではより高度な奏法の修得と音楽表現への理解、その深さを学び、４年次の卒業試験ではその集大成として演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された練習曲、課題曲の練習
復習　レッスンで受けたアドバイスに対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

前期試験（評価の３０%）
後期試験（評価の７０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生のレベル・課題に合わせたテキストを、教員との話し合いの中で決める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間３０回のレッスンは、１回１回の積み重ねによって成り立っているので、必ずレッスンを受ける事を望む。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、レッスンの日程など
2	前期の練習曲、課題曲の選定
3	練習曲に於ける基礎力の向上
4	課題曲に於ける基礎力の向上
5	練習曲、課題曲に於ける基礎力の向上
6	前期試験曲の選定
7	前期試験曲のレッスン
8	前回レッスンでの課題
9	前期試験曲のレッスン
10	前回レッスンでの課題
11	練習曲を含めた試験曲への課題
12	前期試験課題曲レッスン
13	前回レッスンでの課題
14	前期試験課題曲のレッスン
15	前期最終レッスンとしての総合的な課題

授業計画	
	［後期］
1	後期試験を踏まえた課題について
2	後期の練習曲と課題曲の選定
3	練習曲に於ける基礎力の向上
4	課題曲に於ける基礎力の向上
5	練習曲、課題曲に於ける基礎力の向上
6	後期試験曲の選定
7	後期試験曲のレッスン
8	前回レッスンでの課題
9	後期試験曲のレッスン
10	前回レッスンでの課題
11	練習曲を含めた試験曲への課題
12	後期試験曲レッスン
13	前回レッスンでの課題
14	後期試験曲のレッスン
15	後期最終レッスンとしての総合的な課題

科目名	打楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	神谷　百子	授業コード	XGL080100	科目コード	GL0801d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

打楽器を用いる音楽形態はソロ演奏、管弦楽、吹奏楽、軽音楽、室内楽、民族音楽など多種多様であり、それぞれで演奏形態や用いる打楽器が異なる。ここでは多種にわたる様々な打楽器の基本奏法の技術理解及び演奏技術向上を核とし様々な形態の音楽でそれを応用する事、また、音楽に応じた表現力をつけることを目標とする。

2．授業概要

実技担当教員が異なる為、上記の目標に従い各担当教員が適宜レッスンを行なう。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各レッスンでの楽曲の演奏練習はもちろんの事、楽曲に対する理論的研究等をしておくことが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

前・後期実技試験の総合評価

5．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員が異なる為、特に指定しない。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	１・２年生/基礎的内容１ SD：基礎打ち、MA：スケール等、今後様々な楽曲に取り組んでいくにあたって、まず必要な基礎力を習得する ３・４年生/前年度からの継続的課題、基礎の確認
3	１・２年生/基礎的内容２ SD：基礎打ち、MA：スケール等の完成度を高める。 ３・４年生/新しい楽曲に取り組む。読譜と楽曲の分析
4	１・２年生/基礎的内容３ SD：基礎打ち、MA：スケール等の習得から、実際の楽曲の中でそれらがどのように使用、反映されているかを実践練習する。 ３・４年生/取り組む楽曲の中に現れるリズム、ビート、メロディー、ハーモニーなどの要素の確認
5	１・２年生/基礎的内容４ SD：練習曲集等、MA：練習曲集等、これまでのレッスンで習得した基礎課題を実際の楽曲の中で演奏してみる ３・４年生/楽曲の演奏にあたっての表現力の強化
6	１・２年生/基礎的内容５ SD：練習曲集等、ＭＡ：練習曲集等を練習する中で音色の幅を広げる。また、ダイナミクスについて考察する。 ３・４年生/楽曲に応じた音色についての研究と考察
7	１・２年生/基礎的内容６ SD：練習曲集等、ＭＡ：練習曲集等、取り組んできた課題楽曲の演奏完成度を高める ３・４年生/取り組んできた楽曲の演奏完成度を高める。
8	１・２年生/基礎的独奏曲に取り組む。正しく読譜することに焦点をおく。 ３・４年生/非専攻分野（ＳＤ→ＭＡ、ＭＡ→ＳＤ）の課題に取り組み、自身の演奏の幅を広げる
9	１・２年生/基礎的独奏曲２ ３・４年生/非専攻分野（ＳＤ→ＭＡ、ＭＡ→ＳＤ）の課題に取り組み、リズム、ビート、メロディーの歌い方、フレーズの作り方、ハーモニーの感じ方などを研究する。
10	１・２年生/楽曲の表現力についての研究と考察 ３・４年生/取り組んでいる楽曲の演奏の音楽的完成度を高める
11	前期試験への楽曲の選考および決定、基本的な楽曲分析
12	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習１ 細部にわたる楽譜の確認
13	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習２ 音色について意識しながら楽曲の習得を目指す
14	１・２、３，４年生/前期試験への課題練習３ 表現についての最終研究と考察
15	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習４ 楽曲の現時点での完成を目指す

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス
2	前期で学習した事柄の復習と確認
3	新規レパートリーへの課題 楽曲の読譜と細部にわたる確認を行う
4	新規レパートリーに必要な音、音色を深く研究、考察する
5	新規レパートリーに必要な表現の考察、楽曲演奏の現時点での完成を目指す
6	特殊楽譜・現代奏法の考察
7	特殊楽譜・現代奏法の楽曲内での実践
8	現代邦人作品に取り組む
9	取り組んでいる邦人作品の作曲家についての研究と考察。 その作曲家の他の作品を聴く、スコアを読むことで、実際に自分が演奏する作品に取り組む方法の選択肢を広げる
10	後期試験への楽曲の選考および決定、基本的な楽曲分析
11	後期試験への課題１ これまで学習してきたことを反映させた練習に取り組む
12	後期試験への課題２ 演奏の完成度を高めることへの研究と考察
13	後期試験への課題３ 楽曲を演奏する上での構成の確認
14	後期試験への課題４ 取り組んでいる楽曲の演奏の現時点での完成を目指す
15	今年度学習内容の総合演習

科目名	音楽実技実習１～４　［シラバス用］CO						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL114600	科目コード	GL1146d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。
副科実技として２０分のレッスンが用意されているコースが多いが、作曲コースの学生は一層深い学修が必要であるため、本講座において３０分の実技指導を受けることができる。
より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。
なお、４年間での履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

２．授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調）　基礎
6	スケールの奏法（短調）　基礎
7	練習曲１　基礎的な奏法
8	練習曲１　表現方法
9	練習曲１　表現の工夫
10	練習曲１　演奏の仕上げ
11	課題曲１　基礎的な奏法
12	課題曲１　表現方法
13	課題曲１　表現の工夫
14	課題曲１　演奏の仕上げ
15	前期の試験と総括

授業計画	
	［後期］ 前期からの学修を継続し、新たな練習曲、課題曲を選択して取り組む。
1	ガイダンス（後期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	スケールの奏法（長調）　応用
3	スケールの奏法（短調）　応用
4	練習曲２　基礎的な奏法
5	練習曲２　表現方法
6	練習曲２　表現の工夫
7	練習曲２　演奏の仕上げ
8	課題曲２　基礎的な奏法
9	課題曲２　表現方法
10	課題曲２　表現の工夫
11	課題曲２　演奏の仕上げ
12	自由曲１　表現方法
13	自由曲１　表現の工夫
14	自由曲１　演奏の仕上げ
15	後期の試験と総括

科目名	音楽実技実習２～４　［シラバス用］ME						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XGL114700	科目コード	GL1147d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽、ピアノなど、任意の一楽器について、通年のレッスンを行う。将来、教育現場に立ったときに様々な形で活かせるよう、各学生の技能、目標に応じたレッスンにより、演奏実習の基礎と応用を学ぶ。なお、作曲・編曲系は対象外とする。

２．授業概要

授業計画にそってレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、実習進度に合わせ、実技曲演奏の予習、復習としての練習を欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に実技試験をして、平常の受講姿勢と合わせて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員より随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アドバイジングを活用し、本人の指向に適合した演奏専攻を選択のこと。

授業計画	
	選択した演奏専攻の基礎を学ぶ。
1	前期ガイダンス（教材、実習曲の決定等）
2	演習曲①レッスン～精確な譜読み
3	演習曲①レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲①レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲①レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
6	演習曲①レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲①レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて前期中間チェック
9	演習曲②レッスン～精確な譜読み
10	演習曲②レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲②レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲②レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
13	演習曲②レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲②レッスン～音色を意識して仕上げ
15	模擬実技試験、前期総括

授業計画	
	選択した演奏専攻の応用を学ぶ。
1	後期ガイダンス(教材、実習曲の決定等)
2	演習曲③レッスン～精確な譜読み
3	演習曲③レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲③レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲③レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
6	演習曲③レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲③レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて後期中間チェック
9	演習曲④レッスン～精確な譜読み
10	演習曲④レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲④レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲④レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
13	演習曲④レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲④レッスン～音色を意識して仕上げ
15	実技試験、後期総括

科目名	ピアノ実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XGL115100	科目コード	GL1151d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガン専攻学生がピアノの作品に数多く触れることにより教養を高め和声感、多様な表現法を学び、各自の専門が幅広くより豊かになることを目標とします。

２．授業概要

個々の計画、目標に沿って、授業を進めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実技科目であるため、毎回の授業成果をあげる為に充分な予習、復習を必要とする

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点により総合的に判定します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なります。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ピアノ実技１」「ピアノ実技２」「ピアノ実技３」「ピアノ実技４」は「教職ピアノ」と同時に履修することが出来ます。

授業計画	
	［前期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	年間の計画に従って個々の教材を決める
2	ピアノの発音構造の研究
3	電子オルガンとの表現方法の違いを研究
4	ピアノに特化して指の練習方法を指導
5	エチュードの選定及び練習方法の指導
6	研究作品の決定
7	作品研究／分析及び演奏研究
8	作曲家研究
9	作品に求められる音色の表現法研究
10	電子オルガンとの表現法の違いを研究
11	暗譜等により進度の深い音楽表現指導
12	成果発表
13	新しい研究課題決定
14	自己練習の方法を指導
15	前期の学習内容のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期の研究作品を決定
2	作品研究／分析及び演奏研究
3	作曲家研究
4	時代背景及び文化史の研究
5	スタイルの違いによる奏法の比較研究
6	効率的な練習法の指導
7	ピアノ演奏に特化した身体の使い方の研究
8	成果発表
9	新しい研究作品の決定
10	作品研究／分析及び演奏研究
11	作曲家研究
12	時代背景及び文化史の研究
13	実技試験準備
14	年間の学習内容まとめ
15	ピアノ奏法の電子オルガンへの応用研究

科目名	音楽実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL115600	科目コード	GL1156d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。
より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。
なお、４年間での履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

２．授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調）　基礎
6	スケールの奏法（短調）　基礎
7	練習曲１　基礎的な奏法
8	練習曲１　表現方法
9	練習曲１　表現の工夫
10	練習曲１　演奏の仕上げ
11	課題曲１　基礎的な奏法
12	課題曲１　表現方法
13	課題曲１　表現の工夫
14	課題曲１　演奏の仕上げ
15	前期の試験と総括

授業計画	
	［後期］ 前期からの学修を継続し、新たな練習曲、課題曲を選択して取り組む。
1	ガイダンス（後期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	スケールの奏法（長調）　応用
3	スケールの奏法（短調）　応用
4	練習曲２　基礎的な奏法
5	練習曲２　表現方法
6	練習曲２　表現の工夫
7	練習曲２　演奏の仕上げ
8	課題曲２　基礎的な奏法
9	課題曲２　表現方法
10	課題曲２　表現の工夫
11	課題曲２　演奏の仕上げ
12	自由曲１　表現方法
13	自由曲１　表現の工夫
14	自由曲１　演奏の仕上げ
15	後期の試験と総括

科目名	チェンバロ実習１・２　［シラバス用］						
代表教員	岡田　龍之介	授業コード	XGL147100	科目コード	GL1471d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チェンバロ独特の表現法、発想法を学ぶことにより、１７、８世紀のチェンバロ音楽をより深く理解し、生き生きと再現できることを目標とする。

２．授業概要

実技担当教員により異なります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

練習時間の割振表に従って、各自2時間ずつチェンバロを使った個人練習の時間を設けるので、それに従ってレッスン曲をさらってほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の１００%）（平常点も、参加姿勢もすべてこれに反映すると考えて）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ハープシコード・メソッド』
マリア・ボクソール（日本ショット社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェンバロ実習１」の履修希望者はオーディションを実施するので、必ず受験すること。

授業計画	
	［前期］ 　個人個人の技量や進度に応じてレッスンを行うため、各回の曲目やレッスン内容を一律には示せないが、前期までにテキストの課題を終えることを目標に授業を進める。
1	チェンバロ及びチェンバロ音楽について
2	基本となるタッチ、アーティキュレーションの指導
3	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１）
4	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（２）
5	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（３）
6	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（４）
7	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（５）
8	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（６）
9	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（７）
10	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（８）
11	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（９）
12	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１０）
13	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１１）
14	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１２）
15	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１３）

授業計画	
	［後期］ 後期は前期以上に個々人の特性に応じたレッスンを行う。課題曲などは個人別に相談して決める。
1	各個人の希望、技量に応じた後期課題曲の選定
2	課題曲に関する奏法指導（１）
3	課題曲に関する奏法指導（２）
4	課題曲に関する奏法指導（３）
5	課題曲に関する奏法指導（４）
6	課題曲に関する奏法指導（５）
7	課題曲に関する奏法指導（６）
8	課題曲に関する奏法指導（７）
9	課題曲に関する奏法指導（８）
10	課題曲に関する奏法指導（９）
11	課題曲に関する奏法指導（１０）
12	課題曲に関する奏法指導（１１）
13	課題曲に関する奏法指導（１２）
14	課題曲に関する奏法指導（１３）
15	課題曲に関する奏法指導（１４）とチェンバロ奏法の総括

科目名	ピアノ実技 ［シラバス用］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XGL243900	科目コード	GL2439d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽を専門に学ぶ上で、総合的な音楽能力を高めることを目標とします。

２．授業概要

研究目的にそって個人レッスン形式で演習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実技科目であるため、毎回の授業成果をあげる為に充分な予習・復習を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
平常点（レッスン内での上達度）（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	ガイダンス（個人別到達目標と課題、目標進度などについて）
2	高音部譜表に関する譜読みのトレーニング及びピアノ奏法基礎
3	低音部譜表に関する読譜トレーニング及びピアノ奏法基礎
4	大譜表に関する読譜トレーニング及び奏法基礎
5	ピアノ奏法トレーニングのためのエチュードの選定
6	エチュードを用いた練習法の指導
7	ピアノ曲の選定
8	作品研究／分析、演奏研究など
9	譜読みのチェック及び奏法指導
10	声楽的な表現とピアノでの表現の関係について研究
11	暗譜等により、進度を深めた指導。
12	成果発表
13	声楽伴奏譜を研究課題として選定
14	作品の和声分析及びメロディーとの関係を研究
15	研究成果のまとめと、今後の学習方法を指導

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	総合音楽専門研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL280100	科目コード	GL2801d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

各個人の選択している専門の項参照

2．授業概要

各個人の選択している専門の項参照

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ＣＤやＤＶＤなどでいろいろな演奏家の演奏に触れること。
その他、各個人の選択している専門の項参照

4．成績評価の方法及び基準

各個人の選択している専門の項参照

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各個人の選択している専門の項参照

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ 総合音楽コースの専門実技はさまざまであり、詳細は各人の専門実技の項を参照のこと。 ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。また担当教員により内容は異なる。
1	総合音楽専門研究実技（１） ガイダンス
2	総合音楽専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　～ スケール、アルペジオ（長調）～
3	総合音楽専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ~スケール、アルペジオ（短調）~
4	総合音楽専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ~さまざまな奏法~
5	総合音楽専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ~特殊な奏法~
6	総合音楽専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に~速度の速いパッセージ~
7	総合音楽専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に~単純拍子, 複合拍子の練習曲~
8	総合音楽専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に~混合拍子の練習曲~
9	総合音楽専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ~変拍子の練習曲~
10	総合音楽専門研究実技（１０） ピアノ伴奏とのアンサンブルの研究など
11	総合音楽専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
12	総合音楽専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に~音色の研究～
13	総合音楽専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に~フレージングの研究～
14	総合音楽専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　~ニュアンスの研究～
15	総合音楽専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	総合音楽専門研究実技（１） ガイダンス
2	総合音楽専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	総合音楽専門研究実技（３） 古典的な作品 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
4	総合音楽専門研究実技（４） 古典的な作品 ～音色の研究～
5	総合音楽専門研究実技（５） 古典的な作品 ～フレージングの研究～
6	総合音楽専門研究実技（６） 古典的な作品 ～ニュアンスの研究～
7	総合音楽専門研究実技（７） ロマン派、近代、現代の作品の研究 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
8	総合音楽専門研究実技（８） ロマン派、近代、現代の作品 ～音色の研究～
9	総合音楽専門研究実技（９） ロマン派、近代、現代の作品 ～リズムの研究～
10	総合音楽専門研究実技（１０） ロマン派、近代、現代の作品 ～フレージングの研究～
11	総合音楽専門研究実技（１１） ロマン派、近代、現代の作品 ～ニュアンスの研究～
12	総合音楽専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
13	総合音楽専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　～音色の研究～
14	総合音楽専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ～フレージングの研究～
15	総合音楽専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に～ニュアンスの研究～

科目名	ヴィオラ実習１－１～４－２　［シラバス用］							
代表教員	古川原　裕仁	授業コード	XGL332100	科目コード	GL3321d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI（VN）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラ・室内楽に於いて中声部を担当するヴィオラを学ぶ事により、ヴァイオリン奏法と音楽への理解をより深いものとする。

２．授業概要

１・２年生では主にヴィオラ演奏技術の研究に重点をおき、３・４年生ではさらにオーケストラ・室内楽等でのヴィオラ演奏においての役割、奏法、表現を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された課題曲の練習
復習　レッスンで受けたアドバイスに対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

学生のレベルに合わせて教員が選択する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴィオラ専攻以外の弦楽器コースヴァイオリン専攻学生を対象とする。
楽器（ヴィオラ）は、希望者には大学側から貸与がある。

授業計画	
	［前期］
1	ヴィオラ譜（アルト記号）の読み方 教材の配布（基礎メソード＜エチュード、もしくはバッハソナタでも可＞と課題曲＜1曲目＞）
2	ヴィオラとヴァイオリンの奏法の相違点と共通点 発音の仕方の実践
3	基礎メソード＜1曲目＞確認・課題曲＜1曲目＞配布
4	基礎メソード＜1曲目＞定着・課題曲＜1曲目＞確認
5	基礎メソード＜2曲目＞確認・課題曲＜1曲目＞表現の工夫 オーケストラにおけるヴィオラの役割と奏法を学ぶ
6	基礎メソード＜2曲目＞定着・課題曲＜2曲目＞仕上げの演奏 室内楽におけるヴィオラの役割と奏法を学ぶ
7	基礎メソード＜3曲目＞確認・課題曲＜2曲目＞確認
8	基礎メソード＜3曲目＞定着・課題曲＜2曲目＞表現の工夫
9	基礎メソード＜4曲目＞確認・課題曲＜2曲目＞仕上げの演奏
10	基礎メソード＜4曲目＞定着・課題曲＜3曲目＞確認
11	基礎メソード＜5曲目＞確認・課題曲＜3曲目＞表現の工夫
12	基礎メソード＜5曲目＞定着・課題曲＜3曲目＞仕上げの演奏
13	基礎メソード＜6曲目＞確認・課題曲＜4曲目＞確認
14	基礎メソード＜6曲目＞定着・課題曲＜4曲目＞表現の工夫
15	課題曲＜4曲目＞仕上げとまとめの演奏 ヴィオラ奏法の構築確認

授業計画	
	［後期］
1	課題曲＜１曲目＞ 後期はバッハ・ソナタ6曲と課題曲での奏法研究に加え、希望者に対しては、 ・オーケストラオーディションで良く使用される曲目と箇所 ・オーケストラオーディション合格に向けての傾向と対策を指導する。
2	バッハ及び課題曲＜1曲目＞ 時代背景・様式を中心に
3	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 形式、和声を中心に
4	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
5	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
6	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 時代背景・様式を中心に ヴィオラの楽器としての歴史を学ぶ
7	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 形式、和声を中心に ヴィオラの楽曲の歴史を学ぶ
8	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
9	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
10	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 時代背景・様式を中心に ヴィオラの室内楽での役割を考える（作曲家別に）
11	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 形式、和声を中心に ヴィオラのオーケストラでの役割を考える
12	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
13	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
14	バッハ及び課題曲＜4曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
15	バッハ及び課題曲＜4曲目＞の仕上げとまとめ ヴィオラ奏法の構築（完成）

科目名	ギター奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	原　善伸	授業コード	XGL344100	科目コード	GL3441d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GT	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

演奏者として、時代的にも地域的にも幅広いクラシックギターのレパートリーを演奏するための知識と能力を身につける。
教育者として、学習者に上記の知識と能力を的確に伝える技術を学ぶ。

2．授業概要

基礎練習、練習曲、課題曲を柱にレッスンを行なう。
学年末実技試験に向け実践的な指導を行なう。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎練習、練習曲、課題曲を各自研究実践すること。

4．成績評価の方法及び基準

学年末実技試験(100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

技術教本：プジョール技術教本、カルレバロ技術教本、パンピングナイロン

練習曲：　カルカッシ25の練習曲、ソル20の練習曲、ブローウエル20の練習曲、
コスト25の練習曲、レニアーニ36のカプリース、ヴィラ＝ロボス12の練習曲

演奏曲：バッハ/4つのリュート組曲、ソル/ソナタ、変奏曲、幻想曲、タレガ/前奏曲、舞曲、幻想曲
ポンセ、トロバ、トゥリーナ、タンスマン、テデスコなどのギター曲

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギター演奏法および指導法への情熱と意欲を持っていること。

授業計画	
	［前期］ 基本的な技術の確認と達成をもとに練習曲や古典曲を研究し演奏法を学ぶ。
1	ガイダンス:前期レッスンの概要と指導法
2	プジョールによる基礎練習の方法と実践
3	カルレバロによる基礎練習法
4	パンピングナイロンの実践
5	カルカッシ25の練習曲の研究と実習
6	ソル20の練習曲の研究と実習
7	コスト25の練習曲の研究と実習
8	ブローウェル20の練習曲の研究と実習
9	レニアーニ36のカプリースの研究と実習
10	ヴィラ＝ロボス12の練習曲の研究と実習
11	バッハのリュートのための作品についての研究
12	バッハ/リュート組曲の成り立ちと演奏法
13	バッハ/ヴァイオリンのための作品の演奏法研究
14	バッハ/チェロのための作品と演奏法研究
15	前期のまとめと発表会

授業計画	
	［後期］ 引続き古典曲の研究実践を行い、ロマン派や近現代の作品の研究と演奏法を学ぶ。 学年末実技試験に向け演奏曲目を選定し音楽的表現を追求する。
1	ガイダンス：後期レッスンの概要と学年末実技試験への取り組み方
2	ソルの作品と演奏法研究
3	ジュリアーニの作品と演奏法研究
4	コストとメルツの作品と演奏法研究
5	レゴンディとアルカスの作品と演奏法研究
6	タレガの作品と演奏法研究
7	ポンセの作品と演奏法研究
8	トローバとトゥリーナの作品と演奏法研究
9	テデスコとタンスマンの作品と演奏法研究
10	ヴィラ＝ロボスの作品と演奏法研究
11	ディアンスとブローウェルの作品と演奏法研究
12	武満徹のギター作品の作品と演奏法研究
13	学年末実技試験の曲目選定
14	学年末実技試験演奏実習
15	学年末実技試験の反省と次年度に向けた課題

科目名	邦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］（箏）							
代表教員	石垣　清美	授業コード	XGL3501K0	科目コード	GL3501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GH	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎をしっかり学んで、自分の音楽を発表できるところまで習得してもらいたい。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。楽譜の奥までしっかり読み取り、音楽作りを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・予習
譜読を行う。五線譜の場合、楽譜への奏法譜の作成。CD等の音源がある場合には参考として聴いておく。
・復習
レッスンで指摘された課題について、次回の練習までに克服するよう練習や研究を行う。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	現代作品
3	現代作品
4	現代作品
5	現代作品
6	現代作品
7	夏の音楽祭演奏曲
8	夏の音楽祭演奏曲
9	夏の音楽祭演奏曲
10	夏の音楽祭演奏曲
11	夏の音楽祭演奏曲
12	夏の音楽祭演奏曲
13	古典作品
14	古典作品
15	古典作品

授業計画	
	［後期］
1	定期演奏会演奏曲
2	定期演奏会演奏曲
3	定期演奏会演奏曲
4	定期演奏会演奏曲
5	定期演奏会演奏曲
6	定期演奏会演奏曲
7	定期演奏会演奏曲
8	冬の音楽祭演奏曲
9	冬の音楽祭演奏曲
10	冬の音楽祭演奏曲
11	冬の音楽祭演奏曲
12	学年末実技試験曲
13	学年末実技試験曲
14	学年末実技試験曲
15	学年末実技試験曲

科目名	ワールドミュージック専門研究Ⅰ-Ａ～Ⅳ-Ａ　［シラバス用］							
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL360100	科目コード	GL3601d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各自の専攻する楽器、音楽を探求し、演奏技術および表現力の向上を図る。
到達目標
・伝統的なスタイルによる演奏が確実にできるようになる。
・新しい表現方法も探り、どのような場にもふさわしい音楽を提供できるようになる。

２．授業概要

ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、ここに記載されたレッスン内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・教員から与えられた課題を練習する。（練習時間については担当教員の指示を仰ぐこと）
・ＣＤやＤＶＤなどでいろいろな演奏家の演奏に触れること。

４．成績評価の方法及び基準

実技試験　９０％
平常点　　１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　～ スケール～
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ~アルペジオ~
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ~さまざまな奏法~
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ~特殊な奏法~
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に~速度の速いパッセージ~
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に~単純拍子, 複合拍子の練習~
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に~混合拍子、変拍子の練習~
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ~様々なリズムの研究~
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 他の楽器とのアンサンブルの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に~音色の研究～
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に~フレージングの研究～
14	ワールドミュージック専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　~ニュアンスの研究～
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 古典的な作品 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 古典的な作品 ～音色の研究～
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 古典的な作品 ～フレージングの研究～
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 古典的な作品 ～ニュアンスの研究～
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 近代、現代の作品の研究 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 近代、現代の作品 ～音色の研究～
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 近代、現代の作品 ～リズムの研究～
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 近代、現代の作品 ～フレージングの研究～
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 近代、現代の作品 ～ニュアンスの研究～
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　～音色の研究～
14	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ～フレージングの研究～
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に～ニュアンスの研究～

科目名	ワールドミュージック専門研究Ⅰ-Ｂ～Ⅳ-Ｃ　［シラバス用］							
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL360500	科目コード	GL3605d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各自の専攻する楽器、音楽を探求し、演奏技術および表現力の向上を図る。
到達目標
・伝統的なスタイルによる演奏が確実にできるようになる。
・新しい表現方法も探り、どのような場にもふさわしい音楽を提供できるようになる。

２．授業概要

担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。各人の専攻の該当のコースの項を参照のこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

該当のコースの項を参照のこと。

４．成績評価の方法及び基準

該当のコースの項を参照のこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示する。
また、該当のコースの項を参照のこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、詳細は各人の専門実技の項を参照のこと。 ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。また担当教員により内容は異なる。
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　～ スケール～
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ~アルペジオ~
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ~さまざまな奏法~
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ~特殊な奏法~
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に~速度の速いパッセージ~
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に~単純拍子, 複合拍子の練習~
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に~混合拍子、変拍子の練習~
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ~様々なリズムの練習~
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 他の楽器とのアンサンブルの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に~音色の研究～
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に~フレージングの研究～
14	ワールドミュージック専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　~ニュアンスの研究～
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 古典的な作品 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 古典的な作品 ～音色の研究～
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 古典的な作品 ～フレージングの研究～
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 古典的な作品 ～ニュアンスの研究～
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 近代、現代の作品の研究 ～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 近代、現代の作品 ～音色の研究～
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 近代、現代の作品 ～リズムの研究～
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 近代、現代の作品 ～フレージングの研究～
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 近代、現代の作品 ～ニュアンスの研究～
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　～作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認～
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　～音色の研究～
14	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ～フレージングの研究～
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に～ニュアンスの研究～

科目名	ヴォイストレーニング１～４　［シラバス用］						
代表教員	篠原　真	授業コード	XGL375100	科目コード	GL3751d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌唱の基礎となるヴォーカルテクニックを習得することを目標とする。ブレスの正しい使い方、声域・声量の幅を広げること、身体を使い喉に負担をかけず歌うことに重点をおいてレッスンする。特にベルティング唱法については、それぞれ個人差はあるが、正しくマスターできるように指導する。

２．授業概要

それぞれの学生の能力に合わせた授業計画に沿って、歌唱技法の習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題に対する予備知識を習得しておくこと。（歌詞の意味、歌われる場面、作品の内容、時代背景など）
最終的にはレッスンで学んだ曲は暗譜する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

イタリア歌曲集、ミュージカル曲など。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 学生一人ひとりの歌唱能力に合わせた個人レッスン。発声法、呼吸法を学ぶ。使用楽曲は、ミュージカル曲やイタリア歌曲など。
1	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃1
2	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃2
3	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃3
4	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃4
5	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃5
6	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃6
7	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃7
8	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃8
9	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃9
10	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃10
11	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃11
12	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃12
13	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃13
14	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃14
15	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃15

授業計画	
	［後期］前期と同じ。
1	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃1
2	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃2
3	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃3
4	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃4
5	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃5
6	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃6
7	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃7
8	発声、イタリア歌曲、ミュージカル曲の歌唱実習＃8
9	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃1
10	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃2
11	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃3
12	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃4
13	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃5
14	発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃6
15	1年間の総括及び、発声、ミュージカル試験曲の歌唱実習＃7

科目名	作曲基礎研究１～４　［シラバス用］						
代表教員	浦壁　信二	授業コード	XGL420100	科目コード	GL4201d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(P-Com)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲（音楽の創作）の基礎を学び実践する。自由な創作および作曲理論を身につける。

２．授業概要

作曲技法の習得、及び理論実習、楽曲研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に実習による修練であるため、各自の自習による予習・復習が重要であることは言うまでもない。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しない

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生であること。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が上記、授業概要の内容を満遍なく実施する。例として（1週目）学生の作曲作品への指導→（2週目）修正に対する指導→（3週目）新たな課題の提案と指導／あるいは、（1週目）和声法の講義と指導→（2週目）和声課題の実施に対する指導→（3週目）修正に対する指導と新たな課題提示／などを常に繰り返して指導を行っていくことが挙げられる。これは該当学生の志向や進度の状況により異なることが明らかであるため以下の授業計画はあくまでも
1	作曲基礎研究（1）作曲作品の構想計画
2	作曲基礎研究（2）創作の成果に対する指導
3	作曲基礎研究（3）創作指導に対する成果の検証
4	作曲基礎研究（4）作曲理論の指導
5	作曲基礎研究（5）作曲理論指導成果への考察
6	作曲基礎研究（6）作曲理論の新たな課題に対する指導
7	作曲基礎研究（7）前回の指導成果に対する考察
8	作曲基礎研究（8）新たな創作作品への指導
9	作曲基礎研究（9）前回の指導成果に対する考察と新たな指導
10	作曲基礎研究（10）前回の成果に対する考察、次回創作への計画
11	作曲基礎研究（11）新創作作品に対する指導
12	作曲基礎研究（12）前回の指導成果に対する考察、書式・記譜法の指示など
13	作曲基礎研究（13）書式指導成果に対する考察や演奏家との練習
14	作曲基礎研究（14）演奏の検証と書式の変更等の指導
15	作曲基礎研究（15）前期の総括

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずる。
1	作曲基礎研究（1）　後期の創作計画の修正等
2	作曲基礎研究（2）　作曲理論課題実施
3	作曲基礎研究（3）　作曲理論課題に対する指導
4	作曲基礎研究（4）　前回の指導に対する成果への考察
5	作曲基礎研究（5）　学生の創作作品への指導
6	作曲基礎研究（6）　前回の指導成果への考察
7	作曲基礎研究（7）　学生の創作内容に鑑み選出した作品の分析
8	作曲基礎研究（8）　前回分析指導からの成果発表
9	作曲基礎研究（9）　前回成果発表に対する指導、新たな創作作品の計画
10	作曲基礎研究（10）　新作への指導
11	作曲基礎研究（11）　指導成果への考察と新たな課題指示
12	作曲基礎研究（12）　課題創作への指導
13	作曲基礎研究（13）　楽器法の研究
14	作曲基礎研究（14）　前回課題への指導
15	作曲基礎研究（15）　後期の総括

科目名	指導法研究１－Ｉ～２－Ｉ　［シラバス用］						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	XGL420500	科目コード	GL4205d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(ピアノ指導者養成クラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導者養成クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、中高教員、音楽教室指導者、レスナー等に要求されるさまざまなシチュエーションでの対応力を持ち、教育の場で若者の自由な創造力をのびのびと引き出せる人材を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の５つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ピアノ指導法/ コミュニケーション・スタディ

●電子オルガン実技

●リードシート伴奏法/弾き歌い/即興演奏

●ピアノ初級作品研究/レパートリー

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	[半期]
1	第二専攻実技レッスン（1） ガイダンス
2	第二専攻実技レッスン（2） 指導法課題曲選択
3	第二専攻実技レッスン（3） 課題曲分析　様式を中心に
4	第二専攻実技レッスン（4） 課題曲分析　　和声を中心に
5	第二専攻実技レッスン（5） 基本的な奏法
6	第二専攻実技レッスン（6） 表現法の研究
7	第二専攻実技レッスン（7） 表現法の工夫
8	第二専攻実技レッスン（8） 具体的な練習方法の研究
9	第二専攻実技レッスン（9） 練習方法確認
10	第二専攻実技レッスン（10） レッスン形式における実践的な指導法
11	第二専攻実技レッスン（11） レッスン形式指導法の反省
12	第二専攻実技レッスン（12） 指導者クラス発表会に向けての準備
13	第二専攻実技レッスン（13） 指導者クラス発表会での発表
14	第二専攻実技レッスン（14） レポート作成
15	第二専攻実技レッスン（15） まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	指導法研究１－Ⅱ～２－Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	XGL420600	科目コード	GL4206d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(ピアノ指導者養成クラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導者養成クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、中高教員、音楽教室指導者、レスナー等に要求されるさまざまなシチュエーションでの対応力を持ち、教育の場で若者の自由な創造力をのびのびと引き出せる人材を育成。

２．授業概要

「第2専攻実技レッスン」として、以下の５つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ピアノ指導法/ コミュニケーション・スタディ

●電子オルガン実技

●リードシート伴奏法/弾き歌い/即興演奏

●ピアノ初級作品研究/レパートリー

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	[半期]
1	第2専攻実技レッスン（1）
2	第2専攻実技レッスン（2）
3	第2専攻実技レッスン（3）
4	第2専攻実技レッスン（4）
5	第2専攻実技レッスン（5）
6	第2専攻実技レッスン（6）
7	第2専攻実技レッスン（7）
8	第2専攻実技レッスン（8）
9	第2専攻実技レッスン（9）
10	第2専攻実技レッスン（10）
11	第2専攻実技レッスン（11）
12	第2専攻実技レッスン（12）
13	第2専攻実技レッスン（13）
14	第2専攻実技レッスン（14）
15	第2専攻実技レッスン（15）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ピアノ奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］							
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XGL421600	科目コード	GL4216d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学に入るまでのピアノとの関わりは、誰一人として同じ人はいないと思います。
そして将来においても同じ事が言えます。それぞれが自分のテクニック、感性、知識をいつも見つめ、いろいろな曲に取りくんで努力、工夫、緊張、喜び、そして教わる事（伝承）を学んでください。自分を高めていく為に担当教員と相談しながら４年間を計画的に過ごして下さい。成果は実技試験の他、学内外の演奏会でも発表する機会が用意されています。

2．授業概要

在学生は１月～２月、新入生は4月に担当教員と相談の上、教育実習、介護等体験、各種オーディション、コンクール等の計画、又それぞれの学習進度によって一年間の計画をたてて希望する試験受験期間を決めて提出し、それに伴って個々に授業計画をたてる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。
一日3～4時間が目安となる。

4．成績評価の方法及び基準

曲目の難易度、音楽性、テクニック、確実性、努力状況を実技試験時に絶対評価として採点します。審査はピアノコース担当講師全員が固定せずに交代で当たります。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

それぞれの学生が全く違う進度で進んでいますので、その都度担当教員との相談で決めていきます。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

希望者は、二年次終了時のオーディションにより選抜され、それぞれ ＜指導者養成クラス＞ ＜アドヴァンスト・ポピュラー・スタディー･クラス＞ ＜アンサンブル・スタディ･クラス＞ へ進むことができます。これらのクラスでの勉強を希望する者は、オーディション参加にあたり卒業時までに履修すべき専門選択科目があるので、それぞれのシラバスを熟読して下さい。

授業計画	
	［前期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。なお、各回の授業計画に一例を挙げるが、履修者の志向、進度によりこれらは全く異なる場合が起こりうることは言うまでもない。
1	個々の年間の計画により教材を決定する
2	研究作品の指導／分析、演奏研究など
3	奏法指導、練習方法指導
4	研究課題の奏法応用研究
5	暗譜等により音楽的進度を深めた指導
6	成果発表
7	新しい研究作品の指導／分析、演奏研究など
8	前回の作品と比較研究
9	作品のスタイルの違いによる奏法比較研究
10	暗譜等により音楽的進度を深めた指導
11	成果発表
12	以前と異なる作品の研究と指導
13	新しい作品研究及び前期実技試験準備
14	前回研究課題の奏法応用研究
15	課題の仕上げ

授業計画	
	［後期］
1	後期の研究課題の計画考察
2	前期指導内容の振り返り及び発展
3	研究作品の指導／分析、演奏研究など
4	奏法指導・練習方法指導
5	研究課題の奏法応用研究
6	暗譜等により音楽的進度を深めた指導
7	成果発表
8	新しい研究作品の指導／分析、演奏研究など
9	前回の作品との比較研究
10	作品のスタイルの違いによる奏法の比較
11	作曲家研究、時代背景研究
12	暗譜等により音楽的進度を深めた指導
13	後期実技試験準備
14	後期研究内容のまとめ
15	2月試験のための仕上げ

科目名	ポピュラーミュージック研究１－Ｉ～2－Ｉ　［シラバス用］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XGL422600	科目コード	GL4226d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(アドバンスト・ポピュラー・スタ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラス」
クラシックピアノ演奏力を軸に、「クラシックの品位」「ジャズのセンス」「ポップスのポピュラリティ」を備えたピアニストの育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」 として、以下の２つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ポピュラースタイル・ピアノレッスン

●ジャズスタイル・ピアノレッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基礎知識を学ぶ・入門編
3	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基礎知識を学ぶ・応用編
4	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基本的奏法を学ぶ・入門編
5	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基本的奏法を学ぶ・応用編
6	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの音色感を学ぶ・入門編
7	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの音色感を学ぶ・応用編
8	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの機能感を学ぶ・入門編
9	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの機能感を学ぶ・応用編
10	編曲やアドリブを学ぶ・入門編
11	編曲やアドリブを学ぶ・初級編
12	編曲やアドリブを学ぶ・中級編
13	成果発表演奏会に向けての準備・選曲など
14	成果発表会に向けての準備・編曲や作曲など
15	成果発表会に向けての準備・合わせ練習など

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ポピュラーミュージック研究１－Ⅱ～2－Ⅱ ［シラバス用］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XGL422700	科目コード	GL4227d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(アドバンスト・ポピュラー・スタ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラス」
クラシックピアノ演奏力を軸に、「クラシックの品位」「ジャズのセンス」「ポップスのポピュラリティ」を備えたピアニストの育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」 として、以下の２つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ポピュラースタイル・ピアノレッスン

●ジャズスタイル・ピアノレッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	編曲やアドリブを学ぶ・上級編
3	編曲やアドリブを学ぶ・応用編
4	歌や他楽器とのコラボレーションを想定しての編曲を学ぶ
5	歌や他楽器とのコラボレーションを想定してのアドリブ等を学ぶ
6	自作曲に取り組む・入門編
7	自作曲に取り組む・応用編
8	自作曲に取り組む・発展編
9	自作品の発表（レッスン内にて）
10	成果発表会に向けての準備・選曲や編成決め
11	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲
12	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲の発展
13	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲した作品の楽譜作り
14	成果発表会に向けての準備・歌や他楽器との合わせ
15	成果発表会に向けての準備・発表作品の総仕上げ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル奏法研究１－Ｉ～２－Ｉ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL427300	科目コード	GL4273d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF（アンサンブル・スタディ・クラ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アンサンブル・スタディ・クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、他楽器に関する深い知識を有し、音楽的に高度なコミュニケーションができる、伴奏者、室内楽の専門家等を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の３つの専門から、各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●器楽伴奏法/器楽アンサンブル

●声楽伴奏法

●バレエ・ダンス伴奏法

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために、予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次学年末のオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、担当教官と面談。 半期のスケジュール、曲目等を決定する。
2	課題曲１の譜読みと確認。
3	課題曲１の安定した演奏と楽曲分析。
4	課題曲１の表現の工夫。
5	課題曲１の仕上げの演奏。
6	課題曲２の譜読みと確認。
7	課題曲２の安定した演奏と楽曲分析。
8	課題曲２の表現の工夫。
9	課題曲２の仕上げの演奏。
10	課題曲３の譜読みと確認。
11	課題曲３の安定した演奏と楽曲分析。
12	課題曲３の表現の工夫。
13	課題曲３の仕上げの演奏。
14	課題曲１～３のステージを意識した演奏についての研究。
15	課題曲１～３のまとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル奏法研究１－Ⅱ～２－Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL427400	科目コード	GL4274d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF（アンサンブル・スタディ・クラ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アンサンブル・スタディ・クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、他楽器に関する深い知識を有し、音楽的に高度なコミュニケーションができる、伴奏者、室内楽の専門家等を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の３つの専門から、各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●器楽伴奏法/器楽アンサンブル

●声楽伴奏法

●バレエ・ダンス伴奏法

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために、予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次学年末のオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、担当教官と面談。 半期のスケジュール、曲目等を決定する。
2	課題曲１の譜読みと確認。
3	課題曲１の安定した演奏と楽曲分析。
4	課題曲１の表現の工夫。
5	課題曲１の仕上げの演奏。
6	課題曲２の譜読みと確認。
7	課題曲２の安定した演奏と楽曲分析。
8	課題曲２の表現の工夫。
9	課題曲２の仕上げの演奏。
10	課題曲３の譜読みと確認。
11	課題曲３の安定した演奏と楽曲分析。
12	課題曲３の表現の工夫。
13	課題曲３の仕上げの演奏。
14	課題曲１～３のステージを意識した演奏についての研究。
15	課題曲１～３のまとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ピアノ奏法特殊研究１～４　［シラバス用］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XGL427700	科目コード	GL4277d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ピアノ・プロフェッショナル・パ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幅広いレパートリーを持ち試験や演奏会、オーディション、コンクールなど様々な機会に向けて計画的に学習が行えるための取り組みを行う。そのための計画→実行→評価→改善のサイクルを繰り返し行いながら自己の音楽性、演奏技術を向上させる。

２．授業概要

指導教員（主担当）とPPP運営教員チームが適宜ミーティングを行い学生の意向（学習計画）に応じて指導計画を立てる。この授業では計画に基づきその都度状況にあわせて該当学生が必要な学習を行えるようレッスン形式で指導を行うものとする。適宜PDCAサイクルを繰り返し新たな計画を立て、レパートリーの拡充、演奏技術の向上、幅広い音楽性の体得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

実技試験（100%）。試験内容は別途ピアノ・コースで定め、曲目、演奏時間等発表する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノコースのピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラス（PPP）のみ
PPP所属学生は積極的に学内外の演奏会、オーディション、コンクール等への参加が望まれる。それにより主題・到達目標の達成への努力をすることも期待したい。

授業計画	
	授業概要のとおりPPP運営教員チームと主担当との協議により計画して授業を進める。個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	個々の計画により教材を決定する
2	作品研究／分析及び演奏研究
3	作曲家研究
4	作品の時代背景及び文化史の研究
5	音楽表現と奏法について研究
6	暗譜等により進度の深い音楽表現指導
7	複数の教員による学生の成長の考察
8	成果発表
9	作品研究／分析及び演奏研究
10	作曲家研究
11	作品の時代背景及び文化史研究
12	前回の研究課題と比較研究
13	暗譜等により進度の深い音楽表現指導
14	複数の教員による学生の成長の考察
15	実技試験

授業計画	
	後期も前期と同様。
1	前期の振り返りと後期の教材の決定
2	作品研究／分析及び演奏家研究
3	作曲家研究
4	作品の時代背景及び文化史の研究
5	音楽表現と奏法についてより高度な研究
6	暗譜等により進度の深い音楽表現指導
7	複数の教員による学生の成長の考察
8	コンクール、演奏会等に向けてのレパートリー研究
9	レパートリーの構成に向けて、複数の作品を研究
10	初見、読譜、暗譜等のスピードアップに関わる研究
11	コンチェルトに向けて、スコアリーディング実習
12	より高度な楽曲分析の学習
13	後期実技試験準備
14	複数の教員による学生の成長の考察
15	実技試験

科目名	ジャズ奏法研究Ⅰ－1～Ⅳ－2 ［シラバス用］						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL428500	科目コード	GL4285d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

各楽器（歌唱）の学習を通して、総合的な見地から演奏者としての必要な演奏能力や表現力を高めること。

2．授業概要

学生各人の到達度に照らし、楽器の技術、即興演奏、ハーモニーとリズム、アンサンブルの手法等を総合的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスンで出された課題を習得する努力をすることに加え、レッスンの内容や担当教員のアドバイスを参考にして、自分に適した練習法を自ら模索することで演奏は向上する。そのため、できる限りの時間と努力を授業時間以外に費やすことは必須である。

4．成績評価の方法及び基準

I-1からIV-1については、学期末実技試験とレーティング試験（オーディション）結果の合算が成績となります。
配分は実技試験が80%、レーティング試験（オーディション）結果が20%です。
実技試験成績は複数の教員が各自採点したものの平均です。
また、レーティング試験（オーディション）はレーティングの項目（詳細は別途お知らせします）が一つでも向上した場合は１００点、向上がなかった場合は０点とします。レーティングが最高点に達した場合はレーティング試験を受けることなく100点を与えます。
これにより、奏法研究では毎学期行われるレーティング試験（オーディション）を受けることを必須とします。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（必要に応じて、適時指示する）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

I-1からIV-1までは毎学期レーティング試験（オーディション）を受けること。

自分が掲げる目標と、今現在の自分の状態の差を良く知り、少しづつでもそのギャップを克服するための努力を惜しまないよう心がけること。
学期末実技試験の遅刻・欠席については、単位を与えられない場合があるので特に注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	目標の設定と現在の基礎能力の確認
2	現在の技術を前提としたレッスンプランの策定
3	初期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
4	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス1
5	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス2
6	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス3
7	中期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
8	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス1
9	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス2
10	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス3
11	最終ステップ（実技試験曲目）の確認と練習方法
12	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス1
13	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス2
14	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス3
15	当初の目標に対する検証と今後の展望

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズ奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］(2018入学生以降)							
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL429100	科目コード	GL4291d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各楽器（歌唱）の学習を通して、総合的な見地から演奏者としての必要な演奏能力や表現力を高めること。

２．授業概要

学生各人の到達度に照らし、楽器の技術、即興演奏、ハーモニーとリズム、アンサンブルの手法等を総合的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスンで出された課題を習得する努力をすることに加え、レッスンの内容や担当教員のアドバイスを参考にして、自分に適した練習法を自ら模索することで演奏は向上する。そのため、できる限りの時間と努力を授業時間以外に費やすことは必須である。

４．成績評価の方法及び基準

I-1からIV-1については、学期末実技試験とレーティング試験（オーディション）結果の合算が成績となります。
配分は実技試験が80%、レーティング試験（オーディション）結果が20%です。
実技試験成績は複数の教員が各自採点したものの平均です。
また、レーティング試験（オーディション）はレーティングの項目（詳細は別途お知らせします）が一つでも向上した場合は１００点、向上がなかった場合は０点とします。レーティングが最高点に達した場合はレーティング試験を受けることなく100点を与えます。
これにより、奏法研究では毎学期行われるレーティング試験（オーディション）を受けることを必須とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（必要に応じて、適時指示する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

I-1からIV-1までは毎学期レーティング試験（オーディション）を受けること。

自分が掲げる目標と、今現在の自分の状態の差を良く知り、少しづつでもそのギャップを克服するための努力を惜しまないよう心がけること。
学期末実技試験の遅刻・欠席については、単位を与えられない場合があるので特に注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	目標の設定と現在の基礎能力の確認
2	現在の技術を前提としたレッスンプランの策定
3	初期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
4	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス1
5	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス2
6	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス3
7	中期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
8	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス1
9	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス2
10	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス3
11	最終ステップ（実技試験曲目）の確認と練習方法
12	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス1
13	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス2
14	最終ステップ（実技試験曲目）のパフォーマンス3
15	当初の目標に対する検証と今後の展望

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ゲネラルバス実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	XGL430100	科目コード	GL4301d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ゲネラルバス（通奏低音）とは、バロック時代に確立された伴奏法であり、実用的和声です。数字付き低音とも呼ばれ、鍵盤楽器演奏者は記された低音を左手で弾き、付加された数字に従いながら右手で即興的に和音を補っていくというもの。この実習では、その歴史・概念を学び、通奏低音の実際を体得していく。

２．授業概要

通奏低音の基礎の練習と、楽曲の演奏研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業には必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の９０％）
練習での目標達成度合いや授業内での演習姿勢などの平常点（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト『ヘンデルの数字付き低音課題に基づく一通奏低音奏法』デヴィッド・レッドベター著　多田逸郎訳（全音楽譜出版社）
『鍵盤による数字付き和声』R.O.モリス著　今井円治訳（音楽之友社）
参考文献　『通奏低音奏法』ヘルマン・ケラー著　野村満男訳（全音楽譜出版社）『正しいピアノ奏法』下巻C.P.E.バッハ著　東川清一訳（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が３分の２以下の場合、単位取得資格を失います。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本の練習(1)左手の弾き方
3	基本の練習(2)基本形３の和音
4	基本の練習(3)第１転回形６の和音
5	基本の練習(4)第２転回形４６の和音
6	基本の練習(5)７の和音基本形
7	基本の練習(6)７の和音第１転回形５６の和音
8	基本の練習(7)７の和音第２転回形３４の和音
9	基本の練習(8)７の和音第３転回形２の和音
10	基本の練習(8)係留の弾き方
11	イタリアバロックの楽曲(1)様式、左手の弾き方
12	イタリアバロックの楽曲(2)右手の和音を考える
13	イタリアバロックの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
14	イタリアバロックの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
15	イタリアバロックの楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(1)様式、左手の弾き方
2	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(2)右手の和音を考える
3	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
4	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
5	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(5)仕上げとまとめ
6	J.S.バッハの楽曲(1)様式、左手の弾き方
7	J.S.バッハの楽曲(2)右手の和音を考える
8	J.S.バッハの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
9	J.S.バッハの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
10	J.S.バッハの楽曲(5)仕上げとまとめ
11	試験曲(1)様式、左手の弾き方
12	試験曲(2)右手の和音を考える
13	試験曲(3) 数字を見て弾けるようにする
14	試験曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
15	試験とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	XGL431600	科目コード	GL4316d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎的なテクニックを練習し、多種多様なオルガン作品の演奏を通して、様式感を持ったオルガン奏法を習得する。

２．授業概要

１年次：J.S.バッハに至るバロック時代の作品と、初期J.S.バッハ作品の奏法研究
　　レジストレーションの基本
２年次：大規模な後期J.S.バッハの作品の奏法研究
　　レジストレーションの実践
３年次：ロマン派または近・現代の作品の奏法研究
４年次：自由レパートリー作品の奏法研究

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の９０％）
練習での目標達成度合いや授業内での演習姿勢などの平常点（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは、担当教員が各学生に適した課題を選ぶ。
参考文献：『オルガン音楽のふるさと』（NHK出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が３分の２以下の場合、実技試験受験資格を失います。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	北ドイツ楽派の楽曲(1)時代背景、様式を中心に
3	北ドイツ楽派の楽曲(2)形式、和声を中心に
4	北ドイツ楽派の楽曲 (3)奏法を中心に
5	北ドイツ楽派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
6	北ドイツ楽派の楽曲(5)表現法の掘り下げ
7	北ドイツ楽派の楽曲(6)仕上げとまとめ
8	J.S.バッハのコラール作品 (1)時代背景、様式を中心に
9	J.S.バッハのコラール作品 (2)形式、和声を中心に
10	J.S.バッハのコラール作品(3)奏法を中心に
11	J.S.バッハのコラール作品(4)レジストレーション、表現法を中心に
12	J.S.バッハのコラール作品(5)表現の掘り下げ
13	J.S.バッハのコラール作品(6)仕上げとまとめ
14	演奏会形式での発表
15	まとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	［後期］
1	J.S.バッハの自由作品(1)時代背景、様式を中心に
2	J.S.バッハの自由作品（２） 形式、和声を中心に
3	J.S.バッハの自由作品(3)奏法を中心に
4	J.S.バッハの自由作品(4)レジストレーション、表現法を中心に
5	J.S.バッハの自由作品(5)仕上げとまとめ
6	ロマン派の楽曲(1) 時代背景、様式を中心に
7	ロマン派の楽曲（２） 形式、和声を中心に
8	ロマン派楽曲(3)奏法を中心に
9	ロマン派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
10	ロマン派の楽曲(5)仕上げとまとめ
11	試験曲(1)時代背景、様式を中心に
12	試験曲（２） 形式、和声を中心に
13	試験曲(3)奏法を中心に
14	試験曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
15	試験曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	電子オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XGL435600	科目コード	GL4356d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各学生の技能、目標に応じたレッスン形式により、電子オルガンにおける多岐な音楽スタイルにわたった演奏法、作・編曲法をソロ演奏を通して研究し、かつ実技試験に向けての準備と強化を行う。

２．授業概要

一年次：クラシックとポピュラーの基礎演奏研究
二年次：クラシックまたはポピュラーの編曲並びに演奏研究
三年次：自作曲と自由レパートリーの演奏研究
四年次：卒業試験に向けてのレパートリーの演奏研究

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスンで与えられる課題、または目標に向かってさらい、日々の練習の地道な蓄積、１回１回のレッスンの確かな積み重ねにより、技能を着実に高めていけるよう努力してほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なります。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が７５％未満の場合には実技試験受験資格を失います。

授業計画	
	［前期］1，2年生は、前期試験のための準備、基本的な奏法、音色作りを学び、レヴェルアップを図る。
1	年間ガイダンス
2	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１）課題曲の選曲
3	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（２）課題曲の楽曲分析（形式の分析）
4	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（３）課題曲の譜読み並びに楽曲分析（和音の分析）
5	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（４）課題曲の譜読み、アレンジの方法。
6	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（５）課題曲の譜読み、アレンジのチェック並びに音色作り
7	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（６）課題曲の仕上げ
8	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（７）課題曲新曲、形式の分析。試験曲の譜読み
9	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（８）課題曲新曲、試験曲の譜読み並びに和音の分析。
10	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（９）課題曲新曲、試験曲の譜読み並びに音色作り。
11	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１０）演奏曲の解釈など。
12	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１１）試験曲の演奏の解釈並びに奏法。
13	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１２）試験曲の仕上げ。演奏解釈と奏法。
14	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１３）試験前の準備
15	Ⅰ Ⅱ：前期実技試験曲仕上げ並びに暗譜のチェック Ⅲ Ⅳ：前期最終チェック

授業計画	
	［後期］譜面をそのまま演奏することに加えて、アレンジ、作曲などにも取り組む。個々にレヴェルアップを目指す。
1	前期の総括と後期の展望
2	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１）レパートリーの楽曲分析。
3	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（２）レパートリーの演奏法と音色分析。
4	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（３）レパートリーの演奏解釈並びに音色チェック。
5	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（４）試験曲の選曲
6	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（５）試験曲の楽曲分析（形式の分析）
7	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（６）試験曲の楽曲分析（和音の分析）
8	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（７）試験曲の譜読み並びにアレンジの方法。
9	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（８）試験曲の譜読み並びにアレンジのチェック。
10	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（９）試験曲の譜読み、アレンジチェック並びに音色作り。
11	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１０）試験曲の演奏解釈。
12	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１１）試験曲の演奏法解釈並びに音色に合った演奏法。
13	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１２）試験曲の演奏法解釈並びに表現テクニック。
14	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１３）試験曲の演奏解釈並びに表現テクニック
15	試験曲の暗譜など仕上げ。

科目名	声楽研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	XGL451600	科目コード	GL4516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽の専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得し、
将来は豊かな音楽性を確立して、国内外において活躍出来る声楽家を目指し、ソリスト、オペラ歌手、教会音楽の歌手または教育者などそれぞれの目標を見据えた、より実現性のあるレッスンを行う。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習中心の歌唱研修を行う。
4年間という短い期間の中で一人一人の技術能力や演奏表現などを考え、１・２年では特に発声の確立を、3年ではより高度な歌唱法の習得と、音楽表現の習得。4年次では、その全てを卒業試験で発揮できるよう指導していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、１年次より４年次までの目標を立て、研究目的に沿い、担当教員のアドバイスを受け、
発声の基礎、テクニック、表現、歌詞の意味、内容、表現法を研究し、次回のレッスンまでに準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生のレベルや課題に合わせたテキストを、担当教員の指導により決めて各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件、クラス分けは特になし。
前期・学年末の試験や演奏会などでピアノ伴奏者が必要となる為、各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。
年間30回のレッスンは、1回づつの積み重ねにより成り立っているので、必ずレッスンを受けること。

授業計画	
	前期 レッスンの状況により内容を変更する可能性がある
1	ガイダンス 前期の研究課題を決定
2	発声練習における声のトレーニング
3	課題曲における基礎力の向上
4	練習曲における基礎力の更なる向上
5	課題曲における基礎力の更なる向上
6	練習曲を含めた選択曲の発音練習
7	課題曲における、歌唱技術を学ぶ。
8	課題曲における、表現法を学ぶ。
9	前期試験における候補曲の選出
10	前期試験の曲目の選択
11	前期試験選択曲目のレッスン
12	前回レッスンの課題演習
13	練習曲を含めた前期試験曲の課題演習
14	前回レッスンの課題演習
15	前期のまとめとして総合的な課題演習

授業計画	
	［後期］ レッスンの状況により内容を変更する可能性がある
1	後期の研究課題の決定
2	練習曲における基礎力の向上
3	課題曲における基礎力の向上
4	発声練習における、声のトレーニング
5	練習曲における基礎力の向上
6	課題曲における、歌唱技術学ぶ。
7	課題曲における、表現法を学ぶ。
8	学年末試験における候補曲の選出
9	選択曲の歌唱演習
10	学年末試験の曲の絞り込み
11	選択曲の発音練習
12	練習曲を含めた課題曲の演習
13	選択曲の歌唱技術を学ぶ。
14	選択曲の表現法を学ぶ。
15	学年末試験曲における総合的な課題の演習

科目名	声楽実習／声楽実習Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	XGL464100	科目コード	GL4641d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌うことは、音楽の基本です。教員を志す学生にとって職業に就いた時に、もっとも必要とされる分野です。
声楽を専門的に学ぶことにより、正しい発声を身に付け、また表現力を養い、社会で活躍出来る人材となることを目指します。

２．授業概要

声楽に関する個人レッスンを行う
個人レッスンのため、学生一人ひとりの能力・研究目的に応じ、学生毎にテーマを設定する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、年間を通して研究目標、研究課題を決定し、担当教員のアドバイスを受け、
発声の基礎、歌詞の朗読、発音練習、意味、内容を調べ、歌唱法、表現法を次回のレッスンの為に準備すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の１００％）
※出席数が不足の場合、受験資格を失います。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員による。
参考文献については、レッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	前期 レッスンの進行により内容を変更することがある。
1	ガイダンス 前期の研究課題を決定する
2	母音唱法などによる発声訓練
3	練習曲における基礎力の向上を図る
4	母音唱法などによる発声訓練
5	練習曲における基礎力の向上
6	課題曲による基礎力の向上
7	練習曲、課題教における基礎力の向上
8	自由曲における、基礎力の向上と歌唱練習
9	自由曲における歌唱訓練と表現力の向上
10	母音唱法などによる発声訓練
11	練習曲における基礎力の向上
12	課題曲における基礎力の向上
13	練習曲、課題曲による基礎力の向上
14	自由曲における、基礎力、歌唱力の向上
15	自由曲における歌唱訓練と、表現力向上

授業計画	
	［後期］ レッスンの進行により内容を変える可能性がある。
1	後期の研究課題の設定
2	母音唱法などによる発声訓練
3	練習曲による発声訓練
4	母音唱法などによる発声訓練
5	練習曲による基礎欲の向上
6	課題曲による基礎力の向上
7	学年末試験の候補曲目選出
8	課題曲の発音訓練
9	課題曲による基礎力の向上
10	試験曲の絞り込み
11	試験曲における基礎力の向上
12	試験曲における歌唱力の向上
13	試験曲による表現力の向上
14	試験曲の総合的演習
15	練習曲、課題曲の演習及びまとめ

科目名	ピアノ実習／ピアノ実習Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XGL466100	科目コード	GL4661d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修（Ⅰ）専門選択（各コース）（ＩＩ～ＩＶ）				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

教育現場に立った時、楽曲を理論としてのみでなく、実際に自分で弾いて勉強し、演奏を通して深く理解出来れば、より充実した教育内容の一助になります。演奏表現の向上・達成が当科目の学習の目標です。
「ピアノ実習」では、学習に最も必要とされているものが試験曲に選ばれています。（実技試験情報内のグレード表を参照のこと）

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の進度により教材への予習、復習は必要

4．成績評価の方法及び基準

実技試験の達成度により評価

5．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なりますが、曲目等内容は、グレード表（実技試験情報を参照のこと）を基準に進められます。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コース
「ピアノ実習」専門必修
●試験の方法：試験課題曲の演奏
試験曲以外にも色々な曲を弾いて実力をつけてください。
普段の練習、積み重ねが大事です。

授業計画	
	［前期］ グレード表を基に学習計画を立てます。 個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	年間の計画により教材を決定する。
2	正しい姿勢、身体の使い方等の説明
3	教材の選定
4	読譜の確認、練習方法の指導
5	作品研究／分析及び演奏研究
6	作曲家研究
7	暗譜等により進度を深めた指導
8	成果発表
9	身体の構造の理解
10	無理のない指、腕の使い方研究
11	新しい教材の作品研究
12	表現と呼吸について
13	練習方法の確認
14	暗譜等により進度を深めた研究
15	試験に向けて仕上げ

授業計画	
	［後期］ 前期の成果を踏まえて新しい学習計画を練ります。
1	後期の学習計画及び教材決定
2	作品研究／分析及び演奏研究
3	作曲家研究
4	練習方法の確認
5	効果的なエチュードの使い方指導
6	暗譜等により進度を深めた研究
7	成果発表
8	新しい教材の選定
9	作品研究／分析及び演奏研究
10	分析方法のさらなる研究／和声楽導入
11	作曲家研究
12	身体の使い方再確認
13	暗譜等により進度を深めた研究
14	年間のまとめと学年末試験準備
15	試験に向けて仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト技法研究１～４　［シラバス用］							
代表教員	江原　陽子	授業コード	XGL545300	科目コード	GL5453d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの個別指導の核となる、ヴォイストレーニングを中心とした実技指導を行う。学生個々の個性と適性を考慮しながら、担当教員がきめ細かな指導をしていく。声による演技とアニソン歌唱のいずれにしても、その実力の基盤となるのは“声”そのものである。その“声”の基盤を継続的に鍛えていく場となる。専門選択授業ではあるが、できるだけ４年間にわたり連続して履修する事が望しい。最終的な到達目標は、現場で通用するプロの声優やアニソン歌手として、活躍できる技術を身に付けることである。

２．授業概要

声優系、もしくは歌唱系の指導教員を選択した上で、発声・発音を主体とした個別指導を受ける。年間を通じて、学生個々の個性と適性、更には指向性を充分に考慮しながら、専門研究の基盤を築いて行く。また、半期に一度、各クラスの指導の様子を見学できる期間を設定して、相互啓発も促進していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員より個別に提示される。いずれにしても、毎日の自主的な「発声」や「発音」といった基礎練習や復習は必要である。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が極めて重要なので、学習態度を重要視する。
　期末実力評価試験と　総合的学習態度をあわせて評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎年実施される意向調査を経て、学生個々の個性・適性・指向性に相応しい担当教員のクラスに配当される。貴重な個別指導の場ということを深く認識して、真摯に受講することが求められる。

授業計画	
	学生個々の個性・適性・指向性を考慮した個別指導であるため、具体的な内容を詳細にわたって提示することは困難だが、標準的なモデルケースとしての授業計画を記しておく。標準的な１年目の主目的は、発声や発音の基礎を固めることにある。
1	前期ガイダンス～前期の到達目標の設定
2	声を出すための基本姿勢の習得
3	基本となる身体づくりについて
4	発声の基礎への導入
5	発声の基礎の習得
6	発声の基礎の自主練習法へのアプローチ
7	発声の基礎の自主練習法の確立
8	発声の基礎を活用した応用演習
9	発音の基礎の習得状況の確認
10	発音の基礎への導入
11	発音の基礎の習得
12	発音の基礎の自主練習法へのアプローチ
13	発音の基礎の自主練習法の確立
14	発音の基礎を活用した応用演習
15	発音の基礎の習得状況の確認

授業計画	
1	夏期休業期間中の自主練習の成果の確認
2	後期ガイダンス～後期の到達目標の設定
3	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１へのアプローチ
4	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１のブラッシュアップ
5	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１の仕上げ
6	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２へのアプローチ
7	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２のブラッシュアップ
8	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２の仕上げ
9	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３へのアプローチ
10	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３のブラッシュアップ
11	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３の仕上げ
12	最終総合課題（台詞・歌唱曲）へのアプローチ
13	最終総合課題（台詞・歌唱曲）へのブラッシュアップ
14	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３の仕上げ
15	総括及び実力評価試験

科目名	ジャズ特別奏法研究１～４－２　［シラバス用］							
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL596100	科目コード	GL5961d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主科楽器であるなしに関わらず、また通常科目の枠組みにとらわれず、学生が自ら音楽的目標を設定して取り組む自由科目。履修によって学生自身の音楽性が、設定された目標に関し、履修開始時点より高い位置に到達すること。

２．授業概要

副科レッスンと並列の形で履修する（同時履修は不可）、自由形式のレッスンまたはグループ・レッスン。学生が自らジャズコース教員および学務部による調査で何を教わりたいかを伝え、コース代表の了承が得られることを前提に内容は自由に設定できる。基本は週２０分の個人レッスンであるが、学生２人で４０分、３人で６０分……といったグループ・レッスンも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学生の、内容に対するモチベーションが大変重要で、不慣れな課題設定に対しても、それを克服するだけの努力が授業時間外にできることが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

当初設定した目標が達成されたかを、各教員が最終回に試験する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

とくになし。履修生が積極的に素材を準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・この科目は、希望する教員に内容の承認およびスケジュールの確認が得られなければ履修できません。
・原則として出席が１０回未満の場合は、続く半期に連続して履修することはできない。

授業計画	
	［半期］ 個々人の目標や技量に応じてレッスンを行う。課題曲などは各人の希望や技量・進度を見極めながら、随時打ち合わせて決める。
1	ガイダンス（個人別到達目標と課題曲、目標進度などについて）
2	実技指導（1）
3	実技指導（2）
4	実技指導（3）
5	実技指導（4）
6	実技指導（5）
7	実技指導（6）
8	実技指導（7）
9	実技指導（8）
10	実技指導（9）
11	実技指導（10）
12	実技指導（11）
13	実技指導（12）
14	実技指導（13）
15	実技試験・まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽実技実習Ⅰ～Ⅲ ［シラバス用］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XGL618100	科目コード	GL6181d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽教育コースのいわば第二実技として、声楽とピアノ以外の任意の一楽器について、通年のレッスンを行う。将来、教育現場に立ったときに様々な形で活かせるよう、各学生の技能、目標に応じたレッスンにより、演奏実習の基礎と応用を学ぶ。なお、作曲・編曲系は対象外とする。

２．授業概要

授業計画に沿ってレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の進度に合わせ、実習曲演奏の復習、予習は必須。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に実技試験をして、平常の受講姿勢とあわせて総合的に評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アドバイジングを活用し、本人の指向に適合した演奏専攻を選択のこと。

授業計画	
	選択した専攻演奏の基礎を学ぶ。
1	前期ガイダンス（教材、実習曲の決定等）
2	演習曲①レッスン～精確な譜読み
3	演習曲①レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲①レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲①レッスン～奏法をブラッシュアップ
6	演習曲①レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲①レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて前期中間チェック
9	演習曲②レッスン～精確な譜読み
10	演習曲②レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲②レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲②レッスン～奏法をブラッシュアップ
13	演習曲②レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲②レッスン～音色を意識して仕上げ
15	模擬実技試験、前期総括

授業計画	
	選択した専攻演奏の応用を学ぶ
1	後期ガイダンス（教材、実習曲の決定等）
2	演習曲③レッスン～精確な譜読み
3	演習曲③レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲③レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲③レッスン～奏法をブラッシュアップ
6	演習曲③レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲③レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて後期中間チェック
9	演習曲④レッスン～精確な譜読み
10	演習曲④レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲④レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲④レッスン～奏法をブラッシュアップ
13	演習曲④レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲④レッスン～音色を意識して仕上げ
15	実技試験、後期総括

科目名	Ｒ＆Ｐ演奏技法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	前野　知常	授業コード	XGL750100	科目コード	GL7501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

個々の演奏能力を、個性・指向性に合わせて育成する一方、積極的に様々な音楽制作に関わることで、広く音楽全体をとらえる能力を伸張する。

２．授業概要

基本的には１対１のレッスン方式であるが、必要に応じてグループレッスンも取り入れていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に目的意識を持ち、自ら課題をみつける努力をすること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリント配付

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

何よりも大切なのは「積極性」。先生が教えてくれるのを待つのではなく、先生から技術・知識を「獲得」する意識を常に持つように。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	楽器の基礎知識
3	基礎トレーニング
4	リズムトレーニング
5	ソロ奏法研究（8ビート）
6	ソロ奏法研究（16ビート）
7	ソロ奏法研究（バウンス）
8	ソロ奏法研究（シンコペーション、アウフタクト）
9	音色研究（楽器のチューニング、音色作り）
10	音色研究（エフェクト）
11	アンサンブル奏法研究（音量バランス）
12	アンサンブル奏法研究（音域バランス）
13	アンサンブル奏法研究（音色バランス）
14	アンサンブル奏法研究（エフェクトバランス）
15	最終チェック

授業計画	
	［後期］
1	前期総括クリニック
2	ブルーススタイル
3	シャッフル
4	ハーフタイムシャッフル
5	ロックスタイル
6	ラテンスタイル
7	ブラックミュージックスタイル
8	変拍子スタイル
9	ポリリズム
10	グルーヴの理解
11	オリジナルアレンジ（リズム）
12	オリジナルアレンジ（フレーズ）
13	ステージ技法研究（ステージアクション）
14	ステージ技法研究（立ち位置、ライティングの意識）
15	最終チェック

科目名	副科実技（R&P）１～４－２　［シラバス用］						
代表教員	前野　知常	授業コード	XGL760100	科目コード	GL7601d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幅広い知識、技術を得る事を目標とする。そのために、主科と同じくオンデマンド形式を採り、ターム毎にレッスンの希望調査と配当を行う。

２．授業概要

個人レッスン方式の他、グループでのセッション、レコーディング等、ターム毎に企画を提示する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当講師の指示に従うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の授業態度、参加姿勢、及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当各講師がそれぞれ用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分に今必要な知識、技術、経験が何であるかをよく考え、積極性を持って履修する事。
また、共通科目である他コースの「副科実技」と同時には履修できない。
（１）履修登録手続について
半期ごとにSENZOKUポータルからの履修希望申請が必要。
・後期に履修を希望する場合は６月上旬、次年度前期に履修を希望する場合は１２月上旬頃に、登録手続について SENZOKUポータルからの連絡を確認すること。
・履修しようとする期の前の期に副科実技を履修している学生については、半期１５回のレッスン回数の２／３以上の出席を満たさない場合、また期の中途での履修取消があった場合についても、次期「副科実技」は履修することはできない。
（２）出席状況が芳しくない場合は、履修登録を取消す場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	パートの知識
2	基本奏法
3	基礎トレーニング方法
4	リズムトレーニング方法
5	音色の研究
6	メンテナンス方法
7	アンサンブルの注意点
8	レコーディングのヒント
9	パートアレンジの基礎
10	新しいスタイルへのチャレンジ
11	コンピュータを利用した新しい方法論
12	バンドマネージメント
13	音楽業界の知識
14	ライブパフォーマンスのヒント
15	作詞・作曲のヒント

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	専門研究Ａ　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL301600	科目コード	HL3016	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）

授業計画	
	［後期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）

科目名	専門研究Ｂ－１　［シラバス用］							
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL302800	科目コード	HL3028	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）

授業計画	
	［後期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）

科目名	専門研究Ｂ－２　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL302900	科目コード	HL3029	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）

授業計画	
	［後期］
1	専門研究実技（１）
2	専門研究実技（２）
3	専門研究実技（３）
4	専門研究実技（４）
5	専門研究実技（５）
6	専門研究実技（６）
7	専門研究実技（７）
8	専門研究実技（８）
9	専門研究実技（９）
10	専門研究実技（１０）
11	専門研究実技（１１）
12	専門研究実技（１２）
13	専門研究実技（１３）
14	専門研究実技（１４）
15	専門研究実技（１５）